熊谷市遺跡調査会埋蔵文化財報告書

諏訪木遺跡

2001

埼玉県熊谷市遺跡調査会

熊谷市遺跡調査会埋蔵文化財報告書

諏訪木遺跡（すわのきいせき）

2001

埼玉県熊谷市遺跡調査会

河川跡Ｃ地点出土三彩陶器小壺

河川跡Ｃ・Ｆ地点出土斎串・人形・馬形

序　文

私たちの郷土、熊谷市には、私たちの祖先が営々と築いてきた、文化の証である埋蔵文化財をはじめとする貴重な文化財が豊かに保存・伝承されてきております。こうした文化財は、地域の歴史・文化を今日に伝えるばかりでなく、地域の個性の一部とも言うべきものであり、今日における熊谷市の発展やその過程を雄弁に物語っていると申せましょう。ともすると、私たちは安全で快適な生活の実現に性急なあまり、私たちを育んできた地域の文化遺産のありがたさを見失いがちですが、私たちは、地域全体でこうした文化遺産を継承し、次世代へと伝え、さらに豊かな熊谷市の形成のための礎としていかなければならないと考えているところでございます。

さて、諏訪木遺跡は熊谷市大字上之に所在する縄文時代から江戸時代の遺跡であります。熊谷市内の中小企業を集めたミニ工業団地造成事業に先立つ試掘調査より以前に遺物の散布によりその遺跡の存在は知られるところでありました。そしてこの度この遺跡の範囲内にミニ工業団地造成工事にともない工場及び道路建設の計画がもちあがりました。そこで、熊谷市教育委員会は開発業者側と遺跡の保護と保存の方法につき慎重に協議を重ねてまいりましたが、どうしても破壊を受ける部分に関しては記録保存の措置もやむを得ないとの結論に達し、急遽熊谷市遺跡調査会を設立し発掘調査を実施いたしたところでございます。

今回報告いたします諏訪木遺跡の発掘調査では多くの遺構・遺物が発見されておりますが、特に古墳時代から平安時代にわたる河川跡における祭祀跡、平安時代における掘立柱建物跡を中心とした地方豪族の館跡ともいえる集落跡は県内でも有数の調査例となるものです。

本書は、平成５年１月から平成７年６月に実施された発掘調査の成果をまとめたものでございます。

本書を、埋蔵文化財保護に関する資料として、また学術研究の基礎資料、あるいは学校教育や社会教育の参考資料として広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行にいたるまでご指導、ご協力をいただきました協同組合熊谷異業種交流会、並びに地元関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成13年３月

熊谷市遺跡調査会

会　長　飯　塚　誠一郎

例　言

1　本書は、埼玉県熊谷市大字上之2901番地他に所在する諏訪木遺跡（埼玉県遺跡番号59―019）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、ミニ工業団地建設に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷市遺跡調査会が実施した。

3　本事業の組織は、Ⅰ章のとおりである。

4　発掘調査期間は、平成５年１月11日～平成７年６月30日である。
整理・報告書作成期間は、平成７年11月６日～平成13年３月31日である（但し、平成10年４月１日～平成12年３月31日は休止）。

5　発掘調査の担当は、熊谷市教育委員会金子正之・権田宣行（現熊谷市高齢福祉課）・吉野　健、熊谷市立図書館寺社下　博（現社会教育課）が、整理報告書作成事業は、吉野が担当した。

6　本書の執筆は、Ⅰを金子が、他を吉野が担当し、浅野の補助を得た。

7　写真撮影は、発掘調査を金子・権田・吉野・寺社下が、遺物を吉野が主に行い補助を得た。

8　出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。

9　本書の作成にあたり、下記の方々及び機関等からご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表します。
（敬称略）
田中広明、橋本博文、春山成子、堀田啓一、宮崎重雄、森田　悌、吉川國男、大里郡市文化財担当者会、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課

凡　例

1　本文中、遺構の表記記号は、次のとおりである。

SA……柵列、SB……掘立柱建物跡、SD……溝跡、SE……井戸跡、SJ……住居跡、SK……土坑、P……ピット、SX……竪穴遺構

2　各遺構の番号は、整理作業の段階で変更した。ただし、一部は発掘調査時に付したものを用いた。遺構番号のうち、竪穴住居跡・掘立柱建物跡については、調査区全体での通し番号で呼称し、それ以外のものについては、調査区ごと及び地区ごと（Ⅳ区について）に呼称した。

3　土層断面図中の表記記号は、次のとおりである。

S……川原石、P……土器、B……骨、F……鉄製品

4　遺構挿図の縮尺は、次のとおりである。

遺構全測図……1/200・1/300・1/400・1/1000、住居跡・河川跡遺物分布図……1/60、住居跡・井戸跡……1/60、住居跡カマド……1/30、掘立柱建物跡……1/80、竪穴遺構……1/60・1/80、土坑……1/60・1/100、ピット……1/40・1/60・1/100、土坑墓……1/20・1/40・1/60、火葬跡……1/40、溝跡……1/60・1/80・1/100・1/120・1/160・1/200・1/300・1/400、溝跡土層断面……1/20・1/40・1/50・1/60・1/80、河川跡……1/40・1/100・1/150・1/160・1/200・1/400、河川跡土層断面……1/40・1/60・1/80・1/100・1/120、その他、遺跡位置図、周辺地形図、河川跡中の網代・堰跡・杭列等は、その都度、スケール脇に縮尺率を示した。

5　遺構土層断面図及びエレベーション図のポイントの標高は、その都度、ポイント脇に示した。また、原則として、同一図版・同一遺構の標高はAポイントに表記した。

6　遺物実測図の縮尺は、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶器・砥石・鉄製品は1/4、瓦は1/5、縄文土器拓影図・弥生土器拓影図・石器（石斧・石錘）は1/3、石鏃・土製品・玉類・耳環・その他特殊遺物は1/2、古銭拓影図は1/2とし、木製品はその都度スケール及び縮尺率を示した。

7　遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にできる限り残存率で示した。また、断面表現は、須恵器については還元焔焼成のものは黒塗り、酸化焔焼成のものは白抜き、灰釉陶器は 、緑釉陶器は 、それ以外の土師器、陶磁器、瓦等の遺物はすべて白抜きで示した。

スクリーントーン指示は、灰釉陶器の釉薬は 、赤彩は 、黒色処理は で示し、その他についてはその都度示した。また、墨書・火だすき・油煙は黒塗りで示した。

一方、木製品については、断面に木取りの方向を極力示した。また、炭化した部分は 、漆塗布部分は のスクリーントーンで示した。

8　遺物観察表の凡例は、次のとおりである。

法量の単位は、cm、gである。また、推定値は括弧付けで示した。

胎土は、土器に含まれる含有鉱物を以下の記号で示した。A……白色粒子、B……黒色粒子、C……赤色粒子、D……褐色粒子、E……赤褐色粒子、F……白色針状物質、G……長石、H……石英、I……雲母、J……黒雲母、K……角閃石、L……片岩、M……砂粒、N……礫、O……シャモット、P……密、Q……粗い。

色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修1997年版）に照らし最も近似した色相を示した。

焼成は、次のように区分した。A……良好、B……やや良好、C……普通、D……やや不良、E……不良

目　次

口　絵
序　文
例　言
凡　例
目　次
Ⅰ　発掘調査の概要……1
1　調査に至る経過……1
2　発掘調査・報告書作成の経過……2
3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織…3
Ⅱ　遺跡の立地と環境……5
Ⅲ　遺跡の概要……11
1　調査区の設定……11
2　検出された遺構と遺物……11
Ⅳ　Ⅰ区の調査……17
1　Ⅰ区の概観……17
2　遺構と遺物……19
(1)　住居跡……19
(2)　掘立柱建物跡……28
(3)　土坑・ピット……35
(4)　井戸跡……45
(5)　溝跡……46
(6)　河川跡……56
(7)　グリッド出土遺物……82
Ⅴ　Ⅱ区の調査……89
1　Ⅱ区の概観……89
2　遺構と遺物……89
(1)　住居跡……89
(2)　溝跡……89
(3)　河川跡……93
Ⅵ　Ⅲ区の調査……97
1　Ⅲ区の概観……97
2　遺構と遺物……97
(1)　土坑……97
(2)　溝跡……97
(3)　河川跡……101
Ⅶ　Ⅳ区の調査……103
1　Ⅳ区の概観……103
2　遺構と遺物……109
(1)　住居跡……109
(2)　掘立柱建物跡……128
(3)　ピット・土坑……155
(4)　竪穴遺構……167
(5)　井戸跡……167
(6)　土坑墓……177
(7)　火葬跡……180
(8)　溝跡……182
(9)　河川跡……226
(10)　グリッド出土遺物……335
Ⅷ　Ⅴ区の調査……339
1　Ⅴ区の概観……339
2　遺構と遺物……339
(1)　竪穴遺構……339
(2)　土坑……340
(3)　溝跡……340
Ⅸ　Ⅵ区の調査……349
1　Ⅵ区の概観……349
2　遺構と遺物……349
(1)　溝跡……349
Ⅹ　Ⅶ区の調査……353
1　Ⅶ区の概観……353
2　遺構と遺物……353

(1) 掘立柱建物跡 ……353
(2) 土坑・ピット ……355
(3) 井戸跡 ……355
(4) 土坑墓 ……355
(5) 溝跡 ……359
(6) 河川跡 ……362
Ⅺ Ⅷ区の調査 ……371
1 Ⅷ区の概観 ……371
2 遺構と遺物 ……371
(1) 土坑 ……371
Ⅻ 調査のまとめ ……373

挿図目次

第1図 埼玉県の地形……5
第2図 周辺遺跡分布図……7
第3図 諏訪木遺跡位置図……12
第4図 諏訪木遺跡全測図(1)
第2面古墳時代中期以前……13
第5図 諏訪木遺跡全測図(2)
第2面古墳時代中期以前……14
第6図 諏訪木遺跡全測図(3)
第1面古墳時代後期以降……15
第7図 諏訪木遺跡全測図(4)
第1面古墳時代後期以降……16
第8図 Ⅰ区全側図（第一面）……18
第9図 第17号住居跡……19
第10図 第18号住居跡……20
第11図 第19号住居跡……21
第12図 第19号住居跡遺物分布図……22
第13図 第17•18号住居跡出土遺物 ……23
第14図 第18号住居跡遺物分布図……24
第15図 第18・19号住居跡出土遺物……25
第16図 第20号住居跡……26
第17図 第21号住居跡……27
第18図 第20・21号住居跡出土遺物……28
第19図 第21号掘立柱建物跡……29
第20図 第22号掘立柱建物跡……30
第21図 第23号掘立柱建物跡……31
第22図 第24号掘立柱建物跡……33
第23図 第21・23・24号掘立柱建物跡
出土遺物……34
第24図 Ⅰ区土坑(1)……35
第25図 Ⅰ区土坑(2)……36
第26図 Ⅰ区土坑(3)……37
第27図 Ⅰ区土坑(4)……38
第28図 Ⅰ区土坑(5)……39
第29図 Ⅰ区土坑群……40
第30図 Ⅰ区土坑出土遺物(1)……42
第31図 Ⅰ区土坑出土遺物(2)……43
第32図 Ⅰ区ピット出土遺物……45
第33図 Ⅰ区第1号井戸跡……45
第34図 Ⅰ区溝跡(1)……49
第35図 Ⅰ区溝跡(2)……50
第36図 Ⅰ区溝跡(3)……51
第37図 Ⅰ区溝跡(4)……52
第38図 Ⅰ区溝跡出土遺物(1)……53
第39図 Ⅰ区溝跡出土遺物(2)……54
第40図 Ⅰ区溝跡出土遺物(3)……55
第41図 河川跡Ｆ地点……57
第42図 河川跡Ｆ地点出土土器(1)墨書土器…59
第43図 河川跡Ｆ地点出土土器(2)墨書土器…60
第44図 河川跡Ｆ地点出土土器(3)墨書土器…61
第45図 河川跡Ｆ地点出土土器(4)墨書土器…62
第46図 河川跡Ｆ地点出土土器(5)墨書土器…63
第47図 河川跡Ｆ地点出土土器(6)墨書土器…64

第48図　河川跡Ｆ地点出土土器(7)……67
第49図　河川跡Ｆ地点出土土器(8)……68
第50図　河川跡Ｆ地点出土土器(9)……69
第51図　河川跡Ｆ地点出土土器(10)……70
第52図　河川跡Ｆ地点出土土器(11)……71
第53図　河川跡Ｆ地点出土土器(12)……72
第54図　河川跡Ｆ地点出土土器(13)……73
第55図　河川跡Ｆ地点出土土器(14)……74
第56図　河川跡Ｆ地点出土瓦……77
第57図　河川跡Ｆ地点出土土錘……78
第58図　河川跡Ｆ地点出土打製石斧……78
第59図　河川跡Ｆ地点出土紡錘車……78
第60図　河川跡Ｆ地点出土砥石……79
第61図　河川跡Ｆ地点出土棗玉……79
第62図　河川跡Ｆ地点出土金属製品……79
第63図　河川跡Ｆ地点出土木製品(1)……80
第64図　河川跡Ｆ地点出土木製品(2)……81
第65図　河川跡Ｆ地点出土馬頭骨……81
第66図　Ｉ区グリッド出土遺物(1)……83
第67図　Ｉ区グリッド出土遺物(2)……84
第68図　Ｉ区グリッド出土遺物(3)……85
第69図　Ｉ区グリッド出土遺物(4)……86
第70図　第22号住居跡……90
第71図　第22号住居跡出土遺物……91
第72図　II区第１・２号溝跡……92
第73図　II区第３号溝跡……93
第74図　II区出土遺物……94
第75図　河川跡Ｈ・Ｉ・Ｊ地点……95
第76図　河川跡Ｋ地点……96
第77図　III区第１・２号土坑……98
第78図　III区第１～４号溝跡……99
第79図　III区第５～７号溝跡……100
第80図　III区第６・７号溝跡出土遺物……101
第81図　河川跡Ｅ地点……102
第82図　河川跡Ｅ地点出土遺物……102
第83図　IV区全側図(1)第１区画・以南地区…104
第84図　IV区全側図(2)……105
第85図　IV区全側図(3)……106
第86図　IV区全側図(4)第２区画……107
第87図　IV区全側図(5)第３区画……108
第88図　第１号住居跡……109
第89図　第２号住居跡……110
第90図　第３号住居跡……111
第91図　第３号住居跡遺物分布図……111
第92図　第４号住居跡……112
第93図　第５号住居跡……113
第94図　第１～３号住居跡出土遺物……114
第95図　第３～５号住居跡出土遺物……115
第96図　第６号住居跡……116
第97図　第７号住居跡……117
第98図　第８号住居跡……118
第99図　第８号住居跡遺物分布図……118
第100図　第９号住居跡……119
第101図　第10号住居跡……120
第102図　第11号住居跡……121
第103図　第12号住居跡……122
第104図　第13・14号住居跡……123
第105図　第15号住居跡……124
第106図　第16号住居跡……126
第107図　第６～13・15・16号住居跡
出土遺物……127
第108図　第１号掘立柱建物跡……128
第109図　第２号掘立柱建物跡……129
第110図　第３号掘立柱建物跡……129
第111図　第４号掘立柱建物跡……131
第112図　第５号掘立柱建物跡……132
第113図　第６号掘立柱建物跡……133
第114図　第７号掘立柱建物跡……134
第115図　第８号掘立柱建物跡……136
第116図　第８号掘立柱建物跡土層断面図…137
第117図　第９号掘立柱建物跡……139
第118図　第９号掘立柱建物跡土層断面図…140

第119図　第10号掘立柱建物跡……141
第120図　第11号掘立柱建物跡……142
第121図　第12・29号掘立柱建物跡……143
第122図　第13号掘立柱建物跡……144
第123図　第14号掘立柱建物跡……144
第124図　第15号掘立柱建物跡……145
第125図　第16号掘立柱建物跡……146
第126図　第17号掘立柱建物跡……147
第127図　第18号掘立柱建物跡……148
第128図　第19号掘立柱建物跡……149
第129図　第３・４・８・９・19号
掘立柱建物跡出土遺物……150
第130図　第20号掘立柱建物跡……152
第131図　第27号掘立柱建物跡……152
第132図　第28号掘立柱建物跡……153
第133図　第30号掘立柱建物跡……154
第134図　第31号掘立柱建物跡……154
第135図　Ⅳ区縄文土器出土グリッド遺物…155
第136図　Ⅳ区縄文土器出土グリッド・
ピット……156
第137図　Ⅳ区古墳時代ピット群……157
第138図　Ⅳ区土坑(1)……158
第139図　Ⅳ区土坑(2)……159
第140図　Ⅳ区土坑(3)……160
第141図　Ⅳ区土坑(4)……161
第142図　Ⅳ区土坑(5)……162
第143図　Ⅳ区土坑出土遺物(1)……165
第144図　Ⅳ区土坑出土遺物(2)……166
第145図　Ⅳ区ピット出土遺物……166
第146図　Ⅳ区第１～３号竪穴遺構……168
第147図　Ⅳ区第４号竪穴遺構……169
第148図　Ⅳ区竪穴遺構出土遺物……170
第149図　Ⅳ区第１～６号井戸跡……172
第150図　Ⅳ区第２・３・５号井戸跡
出土遺物……173
第151図　Ⅳ区第９号井戸跡、出土遺物……174
第152図　Ⅳ区第10～19号井戸跡……176
第153図　Ⅳ区第１・２・３号土坑墓……178
第154図　Ⅳ区第４・５号土坑墓、
第５号土坑墓出土遺物……179
第155図　Ⅳ区第１～３号火葬跡……181
第156図　Ⅳ区第１～６号区画溝、
第41・42号溝跡土層断面図……183
第157図　Ⅳ区第１・３・４号区画溝
出土遺物……184
第158図　Ⅳ区第７～９号区画溝
土層断面図……186
第159図　Ⅳ区第７号区画溝出土遺物(1)……188
第160図　Ⅳ区第７号区画溝出土遺物(2)……189
第161図　Ⅳ区第７・８・９号区画溝
出土遺物……190
第162図　Ⅳ区第７号区画溝
遺物集中箇所遺物分布図……192
第163図　Ⅳ区第７号区画溝
遺物集中箇所出土遺物……193
第164図　Ⅳ区第10～13号区画溝
土層断面図……194
第165図　Ⅳ区第12号区画溝出土遺物……195
第166図　Ⅳ区第１・２号溝跡……196
第167図　Ⅳ区第３号溝跡……197
第168図　Ⅳ区第４・５号溝跡……199
第169図　Ⅳ区第６号溝跡……200
第170図　Ⅳ区第８号溝跡……201
第171図　Ⅳ区第９号溝跡……201
第172図　Ⅳ区第10～14号溝跡……203
第173図　Ⅳ区第15～17号溝跡……204
第174図　Ⅳ区第18号溝跡……205
第175図　９区M～０-26～30グリッド遺構
集中箇所……207
第176図　９区M～０-26～30グリッド遺構
集中箇所土層断面図……208

第177図　Ⅳ区第４・５・６・19・24号溝跡
出土遺物……209
第178図　Ⅳ区第28～31号溝跡……211
第179図　Ⅳ区第32～34号溝跡……212
第180図　Ⅳ区第35号溝跡……213
第181図　Ⅳ区第36～40号溝跡……214
第182図　Ⅳ区第36・37号溝跡出土遺物……216
第183図　Ⅳ区第37・38号溝跡出土遺物……217
第184図　Ⅳ区第38～40号溝跡出土遺物……218
第185図　Ⅳ区第43号溝跡……220
第186図　Ⅳ区第44～48号溝跡……221
第187図　Ⅳ区第49・50号溝跡……222
第188図　Ⅳ区第48・50号溝跡出土遺物……223
第189図　Ⅳ区第51～54号溝跡……224
第190図　河川跡Ａ地点、出土遺物(1)……227
第191図　河川跡Ａ地点出土遺物(2)……228
第192図　河川跡Ｂ地点……229
第193図　河川跡Ｂ地点出土土器(1)……230
第194図　河川跡Ｂ地点出土土器(2)……231
第195図　河川跡Ｂ地点出土土器(3)……232
第196図　河川跡Ｂ地点出土土器(4)……233
第197図　河川跡Ｂ地点出土木製品(1)……236
第198図　河川跡Ｂ地点出土木製品(2)……237
第199図　河川跡Ｂ地点出土木製品(3)……238
第200図　河川跡Ｂ地点出土木製品(4)……239
第201図　河川跡Ｂ地点出土木製品(5)……240
第202図　河川跡Ｂ地点出土獣骨……242
第203図　河川跡Ｂ地点出土遺物……243
第204図　河川跡Ｃ地点……244
第205図　河川跡Ｃ地点土層断面図……245
第206図　河川跡Ｃ地点第１杭列出土状況…246
第207図　河川跡Ｃ地点第２祭祀箇所
川原石及び遺物分布図……247
第208図　河川跡Ｃ地点第１祭祀箇所
遺物分布図、杭列出土状況……248
第209図　河川跡Ｃ地点第２杭列出土状況…249
第210図　河川跡Ｃ地点第１網代出土状況…250
第211図　河川跡Ｃ地点第２網代出土状況…251
第212図　河川跡Ｃ地点第１堰出土状況……252
第213図　河川跡Ｃ地点第１堰土層断面図…253
第214図　河川跡Ｃ地点第２堰網代
出土状況……254
第215図　河川跡Ｃ地点第２堰出土状況……255
第216図　河川跡Ｃ地点出土縄文土器……257
第217図　河川跡Ｃ地点出土土器(1)……258
第218図　河川跡Ｃ地点出土土器(2)……259
第219図　河川跡Ｃ地点出土土器(3)……260
第220図　河川跡Ｃ地点出土土器(4)……261
第221図　河川跡Ｃ地点出土土器(5)……262
第222図　河川跡Ｃ地点出土土器(6)……263
第223図　河川跡Ｃ地点出土土器(7)……264
第224図　河川跡Ｃ地点出土土器(8)……265
第225図　河川跡Ｃ地点出土土器(9)……266
第226図　河川跡Ｃ地点出土土器(10)……267
第227図　河川跡Ｃ地点出土土器(11)……268
第228図　河川跡Ｃ地点出土土器(12)……269
第229図　河川跡Ｃ地点出土土器(13)……270
第230図　河川跡Ｃ地点出土土器(14)……271
第231図　河川跡Ｃ地点出土土器(15)……272
第232図　河川跡Ｃ地点出土土器(16)……273
第233図　河川跡Ｃ地点出土土器(17)……274
第234図　河川跡Ｃ地点出土土器(18)……275
第235図　河川跡Ｃ地点出土土器(19)……276
第236図　河川跡Ｃ地点出土土器(20)……277
第237図　河川跡Ｃ地点出土土器(21)……278
第238図　河川跡Ｃ地点出土土器(22)……279
第239図　河川跡Ｃ地点出土土器(23)……280
第240図　河川跡Ｃ地点出土
ミニチュア土器・瓦……281
第241図　河川跡Ｃ地点出土臼玉(1)……293
第242図　河川跡Ｃ地点出土臼玉(2)……294
第243図　河川跡Ｃ地点出土滑石製模造品…297

第244図　河川跡Ｃ地点出土勾玉……297
第245図　河川跡Ｃ地点出土丸玉……298
第246図　河川跡Ｃ地点出土小玉……298
第247図　河川跡Ｃ地点出土切子玉……298
第248図　河川跡Ｃ地点出土管玉……298
第249図　河川跡Ｃ地点出土土製玉……298
第250図　河川跡Ｃ地点出土鉄製品……301
第251図　河川跡Ｃ地点出土銅製品……301
第252図　河川跡Ｃ地点出土銙帯具……302
第253図　河川跡Ｃ地点出土耳環……302
第254図　河川跡Ｃ地点出土骨角器……302
第255図　河川跡Ｃ地点出土紡錘車……303
第256図　河川跡Ｃ地点出土砥石……304
第257図　河川跡Ｃ地点出土土錘(1)……305
第258図　河川跡Ｃ地点出土土錘(2)……306
第259図　河川跡Ｃ地点出土木製品(1)……309
第260図　河川跡Ｃ地点出土木製品(2)……310
第261図　河川跡Ｃ地点出土木製品(3)……311
第262図　河川跡Ｃ地点出土木製品(4)……312
第263図　河川跡Ｃ地点出土木製品(5)……313
第264図　河川跡Ｃ地点出土木製品(6)……314
第265図　河川跡Ｃ地点出土木製品(7)……315
第266図　河川跡Ｃ地点出土木製品(8)……316
第267図　河川跡Ｃ地点出土木製品(9)……317
第268図　河川跡Ｃ地点出土木製品(10)……318
第269図　河川跡Ｃ地点出土木製品(11)……319
第270図　河川跡Ｃ地点出土木製品(12)……320
第271図　河川跡Ｃ地点出土石鏃・
　　石器剝片……326
第272図　河川跡Ｃ地点出土打製石斧(1)……327
第273図　河川跡Ｃ地点出土打製石斧(2)……328
第274図　河川跡Ｃ地点出土打製石斧(3)……329
第275図　河川跡Ｃ地点出土石錘……330
第276図　河川跡Ｃ地点出土磨製石鏃……330
第277図　河川跡Ｃ地点出土馬頭骨……331
第278図　河川跡Ｄ地点・Ⅳ区第７号溝跡…332
第279図　河川跡Ｄ地点出土遺物……333
第280図　Ⅳ区グリッド出土遺物(1)……334
第281図　Ⅳ区グリッド出土遺物(2)……335
第282図　Ⅳ区グリッド出土遺物(3)……336
第283図　Ⅴ区第１～５号竪穴遺構……341
第284図　Ⅴ区第１～５号土坑……342
第285図　Ⅴ区第１～16号溝跡……345
第286図　Ⅴ区第１～16号溝跡
　　土層断面図(1)……346
第287図　Ⅴ区第１～16号溝跡
　　土層断面図(2)……347
第288図　Ⅴ区竪穴遺構・溝跡出土遺物……348
第289図　Ⅵ区第１・２号溝跡……350
第290図　Ⅵ区第３・４号溝跡……351
第291図　第25号掘立柱建物跡……354
第292図　第26号掘立柱建物跡……354
第293図　Ⅶ区第１～３号土坑……356
第294図　Ⅶ区ピット列……357
第295図　Ⅶ区第１号井戸跡……357
第296図　Ⅶ区第１～５号土坑墓……358
第297図　Ⅶ区第６号土坑墓……359
第298図　Ⅶ区第３・５・６号
　　土坑墓出土土器……359
第299図　Ⅶ区第１・３号溝跡……360
第300図　Ⅶ区第２号溝跡……361
第301図　河川跡Ｇ地点……363
第302図　河川跡Ｇ地点Ａトレンチ網代
　　出土状況……364
第303図　河川跡Ｇ地点Ｂトレンチ……365
第304図　河川跡Ｇ地点Ｃトレンチ……366
第305図　河川跡Ｇ地点Ｃトレンチ堰
　　出土状況……368
第306図　河川跡Ｇ地点出土遺物……369
第307図　Ⅷ区第１～４号土坑……372
第308図　８世紀末～９世紀初頭の
　　諏訪木遺跡……377

第309図　9世紀前半の諏訪木遺跡……377
第310図　9世紀後半の諏訪木遺跡……379
第311図　9世紀末～10世紀前半の
　諏訪木遺跡……379
第312図　10世紀後半の諏訪木遺跡……380
第313図　河川跡流路図……382
第314図　北関東西部の須恵器
　徳利形平底壺……388
第315図　斎串形式分類図……391

表目次

第1表　第17～21号住居跡出土遺物観察表…24
第2表　第21・23・24号掘立柱建物跡
　出土遺物観察表……34
第3表　Ⅰ区土坑一覧表……40
第4表　Ⅰ区土坑出土遺物観察表……44
第5表　Ⅰ区ピット出土遺物観察表……45
第6表　Ⅰ区溝跡出土遺物観察表……55
第7表　河川跡F地点出土土器
　（墨書土器）観察表……65
第8表　河川跡F地点出土土器観察表……74
第9表　河川跡F地点出土瓦観察表……77
第10表　河川跡F地点出土土錘観察表……78
第11表　河川跡F地点出土紡錘車観察表……78
第12表　河川跡F地点出土砥石観察表……79
第13表　河川跡F地点出土金属製品観察表…79
第14表　河川跡F地点出土木製品観察表……82
第15表　Ⅰ区グリッド出土遺物観察表……87
第16表　第22号住居跡出土遺物観察表……90
第17表　Ⅱ区出土遺物観察表……94
第18表　Ⅲ区土坑一覧表……97
第19表　Ⅲ区溝跡出土遺物観察表 ……101
第20表　河川跡E地点出土遺物観察表 ……102
第21表　第1～5号住居跡
　出土遺物観察表 ……115
第22表　第6～13・15・16号住居跡
　出土遺物観察表 ……125
第23表　第3・4・8・9・19号
　掘立柱建物跡出土遺物観察表 ……151
第24表　Ⅳ区土坑一覧表 ……163
第25表　Ⅳ区土坑出土遺物観察表 ……166
第26表　Ⅳ区ピット出土遺物観察表 ……166
第27表　Ⅳ区竪穴遺構出土遺物観察表 ……170
第28表　Ⅳ区第2・3・5号井戸跡
　出土遺物観察表 ……173
第29表　Ⅳ区第9号井戸跡
　出土遺物観察表 ……175
第30表　Ⅳ区第5号土坑墓
　出土遺物観察表 ……180
第31表　Ⅳ区第1・3・4号区画溝
　出土遺物観察表 ……185
第32表　Ⅳ区第7～9号区画溝
　出土遺物観察表 ……191
第33表　Ⅳ区第7号区画溝遺物
　集中箇所出土遺物観察表 ……193
第34表　Ⅳ区第12号区画溝
　出土遺物観察表 ……195
第35表　Ⅳ区第4～6・19・24号溝跡
　出土遺物観察表 ……210
第36表　Ⅳ区第36～40号溝跡
　出土遺物観察表 ……219
第37表　Ⅳ区第48・50号溝跡
　出土遺物観察表 ……223
第38表　河川跡A地点出土遺物観察表 ……228

第39表　河川跡Ｂ地点出土土器観察表 ……234
第40表　河川跡Ｂ地点出土木製品観察表 …241
第41表　河川跡Ｂ地点出土遺物観察表 ……243
第42表　河川跡Ｃ地点出土土器観察表 ……282
第43表　河川跡Ｃ地点出土臼玉観察表 ……295
第44表　河川跡Ｃ地点出土滑石製模造品
　　観察表 ……299
第45表　河川跡Ｃ地点出土勾玉観察表 ……299
第46表　河川跡Ｃ地点出土丸玉観察表 ……299
第47表　河川跡Ｃ地点出土小玉観察表 ……300
第48表　河川跡Ｃ地点出土切子玉観察表 …300
第49表　河川跡Ｃ地点出土管玉観察表 ……300
第50表　河川跡Ｃ地点出土土製玉観察表 …300
第51表　河川跡Ｃ地点出土鉄製品観察表 …302
第52表　河川跡Ｃ地点出土銅製品観察表 …302
第53表　河川跡Ｃ地点出土銙帯具観察表 …302
第54表　河川跡Ｃ地点出土耳環観察表 ……302
第55表　河川跡Ｃ地点出土骨角器観察表 …302
第56表　河川跡Ｃ地点出土紡錘車観察表 …303
第57表　河川跡Ｃ地点出土砥石観察表 ……304
第58表　河川跡Ｃ地点出土土錘観察表 ……307
第59表　河川跡Ｃ地点出土木製品観察表 …321
第60表　河川跡Ｃ地点出土石鏃・石器剝片
　　観察表 ……326
第61表　河川跡Ｃ地点出土打製石斧
　　観察表 ……329
第62表　河川跡Ｃ地点出土石錘観察表 ……331
第63表　河川跡Ｃ地点出土磨製石鏃
　　観察表 ……331
第64表　河川跡Ｄ地点出土遺物観察表 ……333
第65表　Ⅳ区グリッド出土弥生時代遺物
　　観察表 ……337
第66表　Ⅳ区グリッド出土遺物観察表 ……337
第67表　Ｖ区土坑一覧表 ……340
第68表　Ｖ区竪穴遺構・溝跡出土遺物
　　観察表 ……348
第69表　Ⅶ区土坑一覧表 ……355
第70表　Ⅶ区第３・５・６号土坑墓
　　出土土器観察表 ……359
第71表　河川跡Ｇ地点出土遺物観察表 ……370
第72表　Ⅷ区土坑一覧表 ……371

図版目次

図版１　諏訪木遺跡全景
図版２　Ⅰ区全景
　　Ⅳ区河川跡Ｃ地点以西全景
図版３　Ⅲ区、Ⅳ区河川跡Ｃ地点以東、Ⅶ区全景
　　Ⅴ区全景
図版４　第１号住居跡
　　第１号住居跡遺物出土状況
　　第２号住居跡
　　第２号住居跡カマド
　　第３・４号住居跡
　　第４号住居跡カマド
　　第５号住居跡
　　第６号住居跡
図版５　第７号住居跡
　　第８号住居跡
　　第８号住居跡カマド
　　第９号住居跡
　　第10号住居跡
　　第11号住居跡
　　第12号住居跡
　　第13・14号住居跡
図版６　第15号住居跡

第16号住居跡、Ⅳ区第73号土坑
第16号住居跡遺物出土状況
第17号住居跡
第17号住居跡遺物出土状況
第18号住居跡
第19号住居跡
第19号住居跡遺物出土状況
図版 7　第20号住居跡
第21号住居跡
第21号住居跡遺物出土状況
第22号住居跡
第 1 号掘立柱建物跡
第 2 号掘立柱建物跡
第 3 ・20号掘立柱建物跡
第 4 ・ 5 号掘立柱建物跡
図版 8　第 4 号掘立柱建物跡ピット 3 遺物出土状況
第 6 号掘立柱建物跡
第 7 号掘立柱建物跡
第 8 ・ 9 号掘立柱建物跡
第10・30号掘立柱建物跡
第11号掘立柱建物跡
第12・29号掘立柱建物跡
第14・27号掘立柱建物跡
図版 9　第15号掘立柱建物跡
第16号掘立柱建物跡
第17号掘立柱建物跡
第18号掘立柱建物跡
第19号掘立柱建物跡
第21号掘立柱建物跡
第22号掘立柱建物跡
第23号掘立柱建物跡
図版10　第24号掘立柱建物跡
第24号掘立柱建物跡ピット 2
第25号掘立柱建物跡
第26号掘立柱建物跡
第 1 号柵列
Ⅰ区第 8 号土坑
Ⅰ区第14号土坑
Ⅰ区第15号土坑
図版11　Ⅰ区第16号土坑
Ⅰ区第20号土坑
Ⅰ区第22号土坑
Ⅰ区第24号土坑
Ⅰ区第25・26号土坑
Ⅰ区第29号土坑、第56号ピット
Ⅰ区第30号土坑遺物出土状況
Ⅰ区第30号土坑、第68・69号ピット
図版12　Ⅰ区第34号土坑
Ⅰ区第41号土坑
Ⅰ区第41号土坑遺物出土状況
Ⅰ区第42号土坑
Ⅰ区第48号土坑
Ⅰ区第50号土坑
Ⅰ区第51号土坑
Ⅰ区第60号土坑
図版13　Ⅰ区第63号土坑
Ⅰ区第64号土坑遺物出土状況
Ⅰ区第 1 号土坑群
Ⅰ区第 2 号土坑群
Ⅲ区第 1 号土坑
Ⅲ区第 2 号土坑
Ⅳ区第 9 号土坑
Ⅳ区第31号土坑
図版14　Ⅳ区第35・36号土坑
Ⅳ区第50・51号土坑
Ⅳ区第54号土坑
Ⅳ区第60号土坑
Ⅳ区第70号土坑
Ⅳ区第72号土坑
Ⅳ区第73号土坑
Ⅳ区第75号土坑

図版15　IV区第80・81号土坑
IV区第89号土坑
V区第1号土坑
V区第2号土坑
V区第3号土坑
V区第4号土坑
VII区第1号土坑
VII区第2号土坑
図版16　VII区第3号土坑
VIII区第1号土坑
VIII区第2・3号土坑
VIII区第4号土坑
VII区ピット列
IV区第1号竪穴遺構
IV区第2号竪穴遺構
IV区第3号竪穴遺構
図版17　IV区第4号竪穴遺構
V区第1号竪穴遺構
V区第2号竪穴遺構
V区第3・4号竪穴遺構
V区第5号竪穴遺構
V区第5号竪穴遺構遺物出土状況
I区第1号井戸跡
IV区第1号井戸跡
図版18　IV区第2号井戸跡
IV区第3・4・5号井戸跡
IV区第6号井戸跡
IV区第9号井戸跡
IV区第10号井戸跡
IV区第11号井戸跡
IV区第12号井戸跡
IV区第13号井戸跡
図版19　IV区第14号井戸跡
IV区第15号井戸跡
IV区第16号井戸跡
IV区第17号井戸跡
IV区第18号井戸跡
IV区第19号井戸跡
IV区第1号土坑墓
IV区第1号土坑墓木材出土状況
図版20　IV区第2号土坑墓
IV区第3号土坑墓
IV区第4号土坑墓
IV区第5号土坑墓
VII区第1・2号土坑墓
VII区第3号土坑墓
VII区第3号土坑墓遺物出土状況
VII区第4号土坑墓
図版21　VII区第4号土坑墓歯出土状況
VII区第5号土坑墓
VII区第5号土坑墓遺物出土状況
VII区第6号土坑墓
VII区第6号土坑墓遺物・棺材出土状況
IV区第1号火葬跡
IV区第2号火葬跡
IV区第3号火葬跡
図版22　I区第1・4号溝跡
I区第2号溝跡
I区第3号溝跡
I区第6・7号溝跡
I区第8号溝跡
I区第12号溝跡
図版23　I区第14号溝跡
I区第15～18号溝跡
II区第1・2号溝跡
III区第1・2号溝跡
III区第3号溝跡
III区第4号溝跡
図版24　III区第5～7号溝跡
IV区第4号区画溝遺物出土状況
IV区第7号区画溝遺物集中箇所
IV区第7～9号区画溝

IV区第10～12号区画溝
IV区第１号溝跡
IV区第６号溝跡
図版25　IV区第15号溝跡
IV区第19～27号溝跡
IV区第35号溝跡
IV区第43号溝跡
IV区第44～46号溝跡
IV区第47・48号溝跡
IV区第49号溝跡
IV区第50号溝跡
図版26　IV区第53・54号溝跡
Ｖ区第１～16号溝跡
Ｖ区第１号溝跡遺物出土状況
VI区第１号溝跡
VI区第２号溝跡
VII区第１号溝跡
VII区第２号溝跡
図版27　VII区第３号溝跡、第１号井戸跡
河川跡Ａ地点
河川跡Ｂ地点
河川跡Ｂ地点遺物出土状況
図版28　河川跡Ｂ地点遺物出土状況
河川跡Ｃ地点（中央部分）
河川跡Ｃ地点第１祭祀箇所杭列出土状況
河川跡Ｃ地点第２祭祀箇所
図版29　河川跡Ｃ地点第１網代出土状況
河川跡Ｃ地点第１堰網代出土状況
河川跡Ｃ地点第１堰出土状況
河川跡Ｃ地点第２堰網代出土状況
河川跡Ｃ地点第２堰網代
河川跡Ｃ地点第２堰出土状況
河川跡Ｃ地点遺物出土状況
図版30　河川跡Ｃ地点遺物出土状況
図版31　河川跡Ｃ地点遺物出土状況
図版32　河川跡Ｃ地点遺物出土状況
図版33　河川跡Ｃ地点遺物出土状況
図版34　河川跡Ｄ地点
河川跡Ｆ地点
河川跡Ｆ地点遺物出土状況
図版35　河川跡Ｆ地点遺物出土状況
河川跡Ｇ地点Ｃトレンチ堰網代出土状況
河川跡Ｇ地点Ｃトレンチ堰出土状況
Ｉ区グリッド遺物出土状況
IV区グリッド遺物出土状況
図版36　河川跡Ｂ地点出土土器
図版37　河川跡Ｂ・Ｃ地点出土土器
図版38　河川跡Ｃ地点出土土器
図版39　河川跡Ｃ地点出土土器
図版40　河川跡Ｃ地点出土土器
図版41　III区６号溝跡、IV区５号溝跡、河川跡Ｃ地点出土土器
図版42　河川跡Ｂ・Ｃ地点出土土器
図版43　第９・13・16号住居跡、河川跡Ｃ・Ｇ地点出土土器
図版44　河川跡Ｄ・Ｆ地点出土土器
図版45　河川跡Ｆ地点出土土器
図版46　河川跡Ｆ地点出土土器
図版47　河川跡Ｆ地点出土土器
図版48　河川跡Ｆ地点出土土器
図版49　Ｉ区第62号土坑、河川跡Ｂ・Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版50　河川跡Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版51　河川跡Ｂ・Ｃ地点出土土器
図版52　河川跡Ｃ地点出土土器
図版53　河川跡Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版54　河川跡Ｆ地点出土土器
図版55　河川跡Ｆ地点出土土器
図版56　河川跡Ｆ地点出土土器
図版57　河川跡Ｆ地点出土土器

図版58　河川跡Ｆ地点出土土器
図版59　河川跡Ｆ地点出土土器
図版60　河川跡Ｃ・Ｄ・Ｆ地点出土土器
図版61　第２・４・７・16・17・19・21号住居跡、河川跡Ｃ地点出土土器
図版62　第４・19号掘立柱建物跡、Ⅰ区第22・30・34号土坑・第２号土坑群・グリッド出土土器
図版63　Ⅰ区グリッド、Ⅳ区第９号井戸跡・第59号土坑・第１・３号区画溝出土土器
図版64　第２・４号住居跡、Ⅳ区第４・７号区画溝・第37号溝跡・グリッド出土土器
図版65　第15・17・18号住居跡、第８号掘立柱建物跡、Ⅰ区第15・18・23・30号土坑出土土器
図版66　Ⅰ区第41号土坑・第７・８・13号溝跡・グリッド、Ⅳ区第７号区画溝・第37号溝跡出土土器
図版67　Ⅳ区第38号溝跡・第５号土坑墓・グリッド、Ⅶ区第３・５・６号土坑墓出土土器
図版68　河川跡Ｃ地点出土土器
図版69　河川跡Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版70　河川跡Ｆ地点出土土器
図版71　Ⅳ区第12号区画溝・第38号溝跡、河川跡Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版72　河川跡Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版73　第18号住居跡、Ⅰ区第16号土坑・第13号溝跡・グリッド、Ⅳ区グリッド、河川跡Ｂ地点出土土器
図版74　河川跡Ｂ・Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版75　河川跡Ｃ地点出土土器
図版76　河川跡Ｃ地点出土土器
図版77　河川跡Ｃ地点出土土器
図版78　河川跡Ｂ・Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版79　河川跡Ｃ地点出土土器
図版80　河川跡Ｃ・Ｇ地点出土土器
図版81　河川跡Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版82　河川跡Ｂ・Ｃ地点出土土器
図版83　第18・22号住居跡、河川跡Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版84　Ⅳ区第48号溝跡、河川跡Ｂ・Ｃ地点出土土器
図版85　河川跡Ｃ地点出土土器
図版86　河川跡Ｃ地点出土土器
図版87　河川跡Ｃ地点出土土器
図版88　第１・３・８・18・19・22号住居跡、河川跡Ｃ地点出土土器
図版89　第22号住居跡、Ⅰ区第16号土坑・グリッド、Ⅳ区第19号溝跡・グリッド出土土器
図版90　第４号掘立柱建物跡、河川跡Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版91　河川跡Ｃ・Ｆ地点出土土器
図版92　Ⅰ区第８号溝跡・グリッド、Ⅳ区第４号区画溝・第６号溝跡、河川跡Ｆ地点出土土器
図版93　河川跡Ｃ地点出土土器・墨書土器
図版94　河川跡Ｃ・Ｆ地点出土墨書土器
図版95　河川跡Ｆ地点出土墨書土器
図版96　第４・８号住居跡、第８・９号掘立柱建物跡、Ⅳ区第７号区画溝・第36号溝跡、河川跡Ｃ地点出土灰釉陶器
図版97　Ⅰ区第６・８号溝跡、Ⅳ区第53号ピット・グリッド、Ⅶ区第６号土坑墓、河川跡Ｃ・Ｆ地点出土灰釉陶器
図版98　第４号住居跡・Ⅳ区第７号区画溝遺物集中箇所・河川跡Ｆ地点出土緑釉陶器、河川跡Ｃ地点出土三彩陶器、Ⅰ区第１号溝跡・グリッド・Ⅱ区５トレンチ・Ⅳ区第54号土坑出土陶器
図版99　Ⅳ区第54号土坑・河川跡Ａ地点出土陶磁器、Ⅳ区グリッド・河川跡Ｃ地点出土ミニチュア土器

図版100 河川跡C地点出土縄文土器
図版101 IV区グリッド出土縄文土器、IV区グリッド・河川跡B地点出土弥生土器、IV区第7号区画溝出土瓦
図版102 I区グリッド、河川跡C地点出土瓦
図版103 河川跡C地点出土土錘
図版104 河川跡C地点出土土錘
図版105 河川跡C・F地点出土紡錘車、第22号住居跡・河川跡C・E地点出土砥石、河川跡C地点出土滑石製模造品、河川跡B地点出土臼玉
図版106 河川跡C地点出土臼玉
図版107 河川跡C・F地点出土玉類
図版108 III区第6号溝跡・河川跡C地点出土管玉、河川跡C・F地点出土鉄製品
図版109 I区グリッド・IV区第3号竪穴遺構・河川跡C地点出土鉄製品、IV区第54号土坑・河川跡B・C・F地点出土銅製品、河川跡C地点出土耳環、河川跡C・F地点出土銙帯具、河川跡F地点出土古銭、河川跡C地点出土骨角器
図版110 I区第6号溝跡・グリッド・河川跡C地点出土石鏃、IV区第3号区画溝・河川跡B・C地点出土磨製石鏃、河川跡F地点出土打製石斧
図版111 河川跡C地点出土打製石斧
図版112 IV区グリッド・河川跡C地点出土打製石斧、河川跡C地点出土石錘
図版113 河川跡B・C地点出土木製品
図版114 河川跡B・C地点出土木製品
図版115 河川跡B・C地点出土木製品
図版116 IV区第46号土坑、河川跡B・C・F地点出土木製品
図版117 河川跡B・C・G地点出土木製品
図版118 河川跡C・F地点出土木製品
図版119 河川跡B・C・F地点出土木製品
図版120 河川跡B・C・F地点出土木製品、河川跡B地点出土馬頭蓋骨

Ⅰ　発掘調査の概要

1　調査に至る経過

平成４年２月10日付けで、協同組合熊谷異業種交流会理事長よりミニ工業団地建設事業地内の埋蔵文化財の所在に関する照会が出された．事業地内には、周知の埋蔵文化財が所在する旨を回答し、熊谷市教育委員会は、平成４年４月21日から６月18日にかけて、遺跡の範囲確認調査を実施した結果、縄文時代から平安時代の集落跡が広範囲に分布することが確認された。

この結果を踏まえて平成４年８月18日付け熊教社発第505号で、熊谷市教育委員会教育長から協同組合熊谷異業種交流会理事長あて次のように通知した。

ミニ工業団地建設事業地内には、諏訪木遺跡が所在する。当該地は現状保存するか、または埋蔵文化財に影響を及ぼさない方法での開発が望ましい。やむを得ず埋蔵文化財に影響を及ぼす場合は、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること、なお、発掘調査の実施については教育委員会と協議すること。

その後、保存について協議を重ねたが、工事計画の変更は不可能であると判断されたため、記録保存の措置を講ずることとなった。文化財保護法第57条の２の規定に基づく発掘の届出は熊谷異業種交流会理事長より平成４年12月25日付けで提出された。熊谷市教育委員会は、発掘調査を早急に実施するべく、熊谷市遺跡調査会を平成４年12月25日に設立し、平成４年度から平成７年度にかけて、発掘調査は熊谷市遺跡調査会により実施された。

発掘調査に関わる熊谷市遺跡調査会の届出及び文化庁及び埼玉県教育委員会からの通知は以下のとおりである。

平成４年度

平成４年12月25日付け熊遺調発第２号

平成５年６月24日付け委保第５の318号

平成５年度

平成５年４月１日付け熊遺調発第２号

平成５年12月８日付け委保第５の1779号

平成６年度

平成６年４月１日付け熊遺調発第２号

平成６年７月25日付け教文第２―69号

平成７年度

平成７年４月３日付け熊遺調発第１号

平成７年５月12日付け教文第２―35号

2　発掘調査・報告書作成の経過

(1)　発掘調査

諏訪木遺跡の発掘調査は、平成５年１月11日から平成７年６月30日にかけて行われた。調査面積は、遺跡面積約446,000㎡のうちミニ工業団地建設工事によって破壊をうける約28,000㎡であった。

平成４年度はIV区の西側を調査し、平成５年度はIV区の中央部及びVI区・VIII区、平成６年度はIV区の東側及びＩ区・VII区、平成７年度はII区・III区・Ｖ区を調査した。

それぞれの区で重機による表土剝ぎを行い、作業員による遺構確認作業・遺構掘削作業を行い、遺構・遺物の実測、写真撮影を行った。空中写真は、平成６年１月にIV区西側部分を、平成７年６月に調査区のIV区西側を除いた部分を撮影した。平成５年１月12日から第１次の遺構確認面まで重機による表土剝ぎを行い、その後遺構確認ための精査を行い、順次遺構の調査に着手した。

途中、大雨による河川の増水によって調査区への水の進入が幾度となくあり水没したり、河川より低いレベルでの調査であったことから湧水に悩まされ、調査は非常に困難を極めたが、平成７年６月30日には現地における調査のすべてを終了した。

(2)　整理・報告書作成作業

本書の整理作業は、平成７年11月から10年３月及び12年４月から13年３月にかけて実施した。

平成７年度は、遺物の洗浄・注記を実施した。平成８年度は、遺物の洗浄・注記作業を引き続き実施した。10月から土器の接合・復元作業を行い、12月から遺物の分類を行い、実測作業を開始した。遺構の図面整理も実施した。

平成９年度は、遺物の接合・復元・分類・実測を行い、遺構の図面整理を実施した。

平成12年度は、土器等の遺物の実測・トレース・拓本を採り、図版組を行い、遺構のトレース・図版組を行った。遺構の写真整理・遺物写真撮影をして、写真図版の割付をした。そして、原稿執筆を行い、業者の選定を行い、本報告書の刊行をした。

3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者　　熊谷市遺跡調査会

(1)　発掘調査

平成4年度

会長　井上善治郎（熊谷市文化財保護審議委員会議委員長）
理事　石橋　桂一（熊谷市文化財保護審議委員）
大野　百樹（熊谷市文化財保護審議委員会議副委員長）
渡辺洵一郎（熊谷市文化財保護審議委員）
根岸　幸臣（熊谷商工会議所専務）
坂口　光生（熊谷市経済部長）
大久保道夫（熊谷市教育委員会教育次長）
監事　田倉　米造（熊谷市文化財保護審議委員）
野辺　良雄（熊谷市教育委員会総務課長）
事務局長　坂巻　　篤（熊谷市教育委員会社会教育課長）
事務局次長　翠田　晴夫（熊谷市教育委員会社会教育課長補佐）
事務局員　森田　　弘（熊谷市経済部商工課長補佐）
平井　　隆（熊谷市経済部商工課兼社会教育課主査）
金子　正之（熊谷市教育委員会社会教育課係長）
寺社下　博（熊谷市立図書館主任）
権田　宣行（熊谷市教育委員会社会教育課主事）
吉野　　健（熊谷市教育委員会社会教育課主事）
佐藤　清丸（協同組合熊谷異業種交流会）
成田　民子（協同組合熊谷異業種交流会）

平成5年度

会長　井上善治郎（熊谷市文化財保護審議委員会議委員長）
理事　石橋　桂一（熊谷市文化財保護審議委員）
大野　百樹（熊谷市文化財保護審議委員会議副委員長）
渡辺洵一郎（熊谷市文化財保護審議委員）
根岸　幸臣（熊谷商工会議所専務）
坂口　光生（熊谷市経済部長）
大久保道夫（熊谷市教育委員会教育次長）
監事　田倉　米造（熊谷市文化財保護審議委員）
野辺　良雄（熊谷市教育委員会総務課長）
事務局長　坂巻　　篤（熊谷市教育委員会社会教育課長）
事務局次長　翠田　晴夫（熊谷市教育委員会社会教育課長補佐）
事務局員　森田　　弘（熊谷市経済部商工課長補佐）
平井　　隆（熊谷市経済部商工課兼社会教育課主査）
金子　正之（熊谷市教育委員会社会教育課係長）
寺社下　博（熊谷市立図書館主任）
権田　宣行（熊谷市教育委員会社会教育課主事）
吉野　　健（熊谷市教育委員会社会教育課主事）
佐藤　清丸（協同組合熊谷異業種交流会）
成田　民子（協同組合熊谷異業種交流会）

平成6年度

会長　井上善治郎（熊谷市文化財保護審議委員会議委員長　H6.12.24まで）
岡嶋　一夫（熊谷市教育委員会教育長　H6.12.25から）
理事　石橋　桂一（熊谷市文化財保護審議委員）
大野　百樹（熊谷市文化財保護審議委員会議副委員長）
渡辺洵一郎（熊谷市文化財保護審議委員）
大石　敦郎（熊谷商工会議所専務理事）
島田　和男（熊谷市経済部長）
田島　三雄（熊谷市教育委員会教育次長）
監事　田倉　米造（熊谷市文化財保護審議委員）
野辺　良雄（熊谷市教育委員会総務課長）
事務局長　坂巻　　篤（熊谷市教育委員会社会教育課長）
事務局次長　翠田　晴夫（熊谷市教育委員会社会教育課長補佐）
事務局員　森田　武男（熊谷市経済部商工課長）
森田　　弘（熊谷市経済部商工課長補佐）
金子　正之（熊谷市教育委員会社会教育課係長）
権田　宣行（熊谷市教育委員会社会教育課主事）
吉野　　健（熊谷市教育委員会社会教育課主事）
佐藤　清丸（協同組合熊谷異業種交流会）
成田　民子（協同組合熊谷異業種交流会）

(2)　発掘調査・整理事業

平成7年度

会長　岡嶋　一夫（熊谷市教育委員会教育長）
理事　石橋　桂一（熊谷市文化財保護審議委員）
井上善治郎（熊谷市文化財保護審議委員会議委員長）
大野　百樹（熊谷市文化財保護審議委員会議副委員長）
渡辺洵一郎（熊谷市文化財保護審議委員）
大石　敦郎（熊谷商工会議所専務理事）

島田　和男（熊谷市経済部長）
監事　田倉　米造（熊谷市文化財保護審議委員）
田島　三雄（熊谷市教育委員会教育次長）
事務局長　大島　常雄（熊谷市教育委員会社会教育課長）
事務局次長　翠田　晴夫（熊谷市教育委員会社会教育課長補佐）
事務局員　森田　武男（熊谷市経済部商工課長）
金子　正之（熊谷市教育委員会社会教育課係長）
権田　宣行（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
渡辺　操（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
吉野　健（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
藤野　勝也（協同組合熊谷異業種交流会）
成田　民子（協同組合熊谷異業種交流会）

(3)　整理事業

平成８年度

会長　岡嶋　一夫（熊谷市教育委員会教育長）
理事　石橋　桂一（熊谷市文化財保護審議委員）
井上善治郎（熊谷市文化財保護審議委員会議委員長）
大野　百樹（熊谷市文化財保護審議委員会議副委員長）
渡辺洵一郎（熊谷市文化財保護審議委員）
大石　敦郎（熊谷商工会議所専務理事）
小川　一郎（熊谷市経済部長）
監事　田倉　米造（熊谷市文化財保護審議委員）
田島　三雄（熊谷市教育委員会教育次長）
事務局長　大島　常雄（熊谷市教育委員会社会教育課長）
事務局次長　翠田　晴夫（熊谷市教育委員会社会教育課長補佐）
事務局員　森田　武男（熊谷市経済部次長兼商工課長）
金子　正之（熊谷市教育委員会社会教育課係長）
権田　宣行（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
渡辺　操（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
吉野　健（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
藤野　勝也（協同組合熊谷異業種交流会）
成田　民子（協同組合熊谷異業種交流会）

平成９年度

会長　岡嶋　一夫（熊谷市教育委員会教育長）
理事　石橋　桂一（熊谷市文化財保護審議委員）
井上善治郎（熊谷市文化財保護審議委員会議委員長）
大野　百樹（熊谷市文化財保護審議委員会議副委員長）
渡辺洵一郎（熊谷市文化財保護審議委員）
大石　敦郎（熊谷商工会議所専務理事）
小川　一郎（熊谷市経済部長）
監事　田倉　米造（熊谷市文化財保護審議委員）
田島　三雄（熊谷市教育委員会教育次長）
事務局長　大島　常雄（熊谷市教育委員会社会教育課長）
事務局次長　鈴木　敏昭（熊谷市教育委員会社会教育課副参事）
事務局員　山川　幸男（熊谷市経済部次長兼商工課長）
翠田　晴夫（熊谷市教育委員会社会教育課長補佐）
金子　正之（熊谷市教育委員会社会教育課係長）
権田　宣行（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
渡辺　操（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
吉野　健（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
藤野　勝也（協同組合熊谷異業種交流会）
成田　民子（協同組合熊谷異業種交流会）

平成12年度

会長　飯塚誠一郎（熊谷市教育委員会教育長）
理事　石橋　桂一（熊谷市文化財保護審議会委員）
大野　百樹（熊谷市文化財保護審議会委員）
渡辺洵一郎（熊谷市文化財保護審議会委員）
奥　勲（熊谷商工会議所専務理事）
森田　武男（熊谷市経済部長）
監事　田倉　米造（熊谷市文化財保護審議会委員）
野辺　良雄（熊谷市教育委員会教育次長）
事務局長　浜島　義雄（熊谷市教育委員会社会教育課長）
事務局次長　浅野　晴樹（熊谷市教育委員会社会教育課副参事）
事務局員　原口　茂一（熊谷市経済部商工課長）
北　俊明（熊谷市教育委員会社会教育課長補佐）
金子　正之（熊谷市教育委員会社会教育課主幹兼係長）
寺社下　博（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
吉野　健（熊谷市教育委員会社会教育課主任）
松田　哲（熊谷市教育委員会社会教育課主事）
馬場　員夫（協同組合熊谷異業種交流会）
成田　民子（協同組合熊谷異業種交流会）

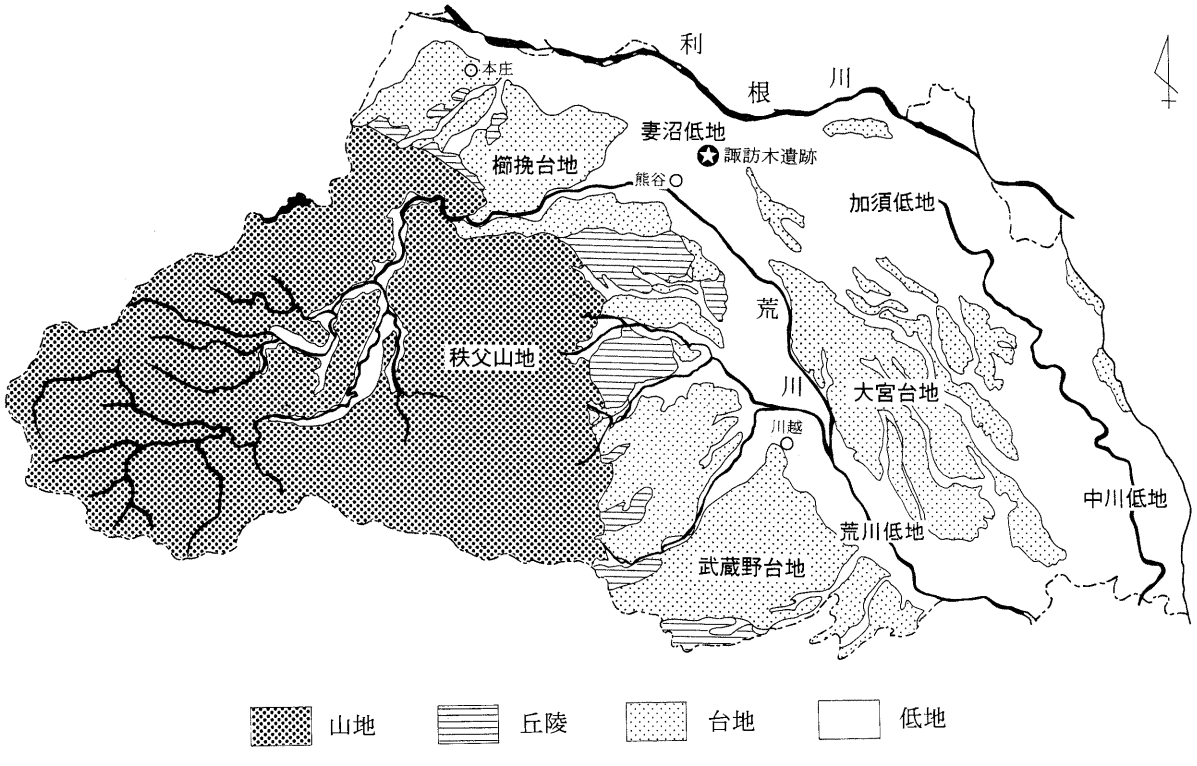
II　遺跡の立地と環境

諏訪木遺跡は、熊谷市大字上之2910番地他に所在し、JR高崎線熊谷駅の北東約2.0km、荒川から北へ約3.0km、利根川から南へ約6.0kmに位置する。

諏訪木遺跡の所在する上之地区は、熊谷市の中央部付近東にあたり、櫛挽台地の北端及びその北と北東に展開する妻沼低地にある。櫛挽台地は、寄居町末野付近を扇頂に荒川の両岸に広がる洪積扇状地である荒川扇状地の荒川左岸側の一帯が、浸食されてできたものである。そして、本遺跡が立地する妻沼低地は、利根川及びその支流により形成された沖積地であり、熊谷市の大半を覆っている沖積扇状地の新荒川扇状地（熊谷扇状地）と自然堤防が広がる地区に分けられる。本遺跡は、その新荒川扇状地の縁辺部上、標高23.6m前後に立地し水田となっていた。現地表から遺構確認面まではおおよそ１mの厚さをもっていた。

次に、本遺跡を中心に主に妻沼低地における歴史的環境の一端を簡単に見ていきたいと思う。

まず、旧石器時代から縄文時代であるが、この時期の遺跡の発見例はきわめて少ない状況である。旧石器時代で知られているのは、平安時代の住居跡の覆土中から出土した櫛挽台地上の籠原裏遺跡（地図中未掲載）の黒曜石製の尖頭器が唯一の例である。縄文時代になると、櫛挽台地上さらには妻沼低地上にも発見例が少々増える。妻沼低地上の寺東遺跡（地図中未掲載）では前期関山式土器が、櫛挽台地上の三ヶ尻遺跡内の林遺跡（地図中未掲載）でも前期黒浜式期の集落が発見されている。そして、同じく三ヶ尻遺跡内の天王遺跡（地図中未掲載）では中期から後期の集落が発見されており、妻沼低地には石田遺跡（地図中未掲載）も存在する。後期に至っては、前述の寺東遺跡で称名寺式期の埋甕を伴う土坑



第１図　埼玉県の地形

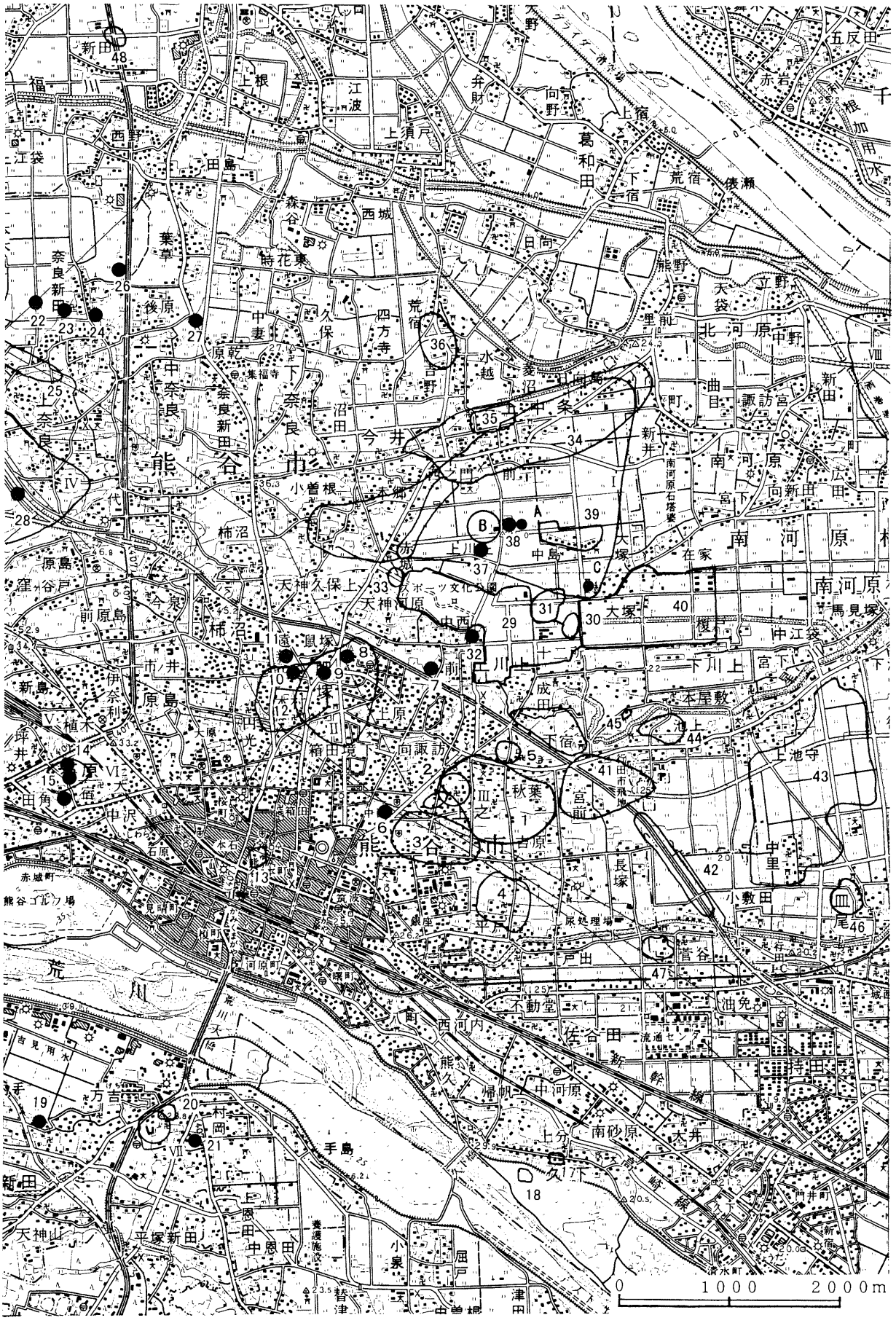
等が発見されており、豊富な土器群が検出された入川遺跡や深町遺跡（いずれも地図中未掲載）も知られる。また、深谷市の自然堤防上でも発掘調査された中期後葉から後期の遺跡が存在する。このことから、熊谷市だけに限らず深谷市においても妻沼低地の自然堤防上に生活の場を展開していったことが窺える。

一方、縄文時代晩期から弥生時代前半にかけての熊谷市内の発見例はほとんどないが、本遺跡の近辺の北島遺跡で最近発掘調査により縄文時代晩期末から弥生時代中期の土器・石器が出土し、新たな知見となった。また、縄文時代晩期の深谷市の妻沼低地では、前時期の遺跡を継承した位置に再び集落が営まれたようである。

次に熊谷市内において本格的展開の知られる遺跡は、現段階では弥生時代中期まで待つことになる。須和田式期の再葬墓が16基（うち3基は県埋蔵文化財調査事業団平成2年度調査）発見された横間栗遺跡（地図中未掲載）、同じく須和田式期の壺が発見されている三ヶ尻遺跡内の上古遺跡（地図中未掲載）が知られる。再葬墓群や土器を伴う土坑が検出されている遺跡は、深谷市上敷免遺跡・明戸東遺跡、妻沼町飯塚遺跡・飯塚南遺跡（いずれも地図中未掲載）が知られる。上敷免遺跡では包含層から県内初の前期遠賀川式土器が出土している。本遺跡の南西に隣接する前中西遺跡では、再葬墓と方形周溝墓の2タイプの葬送形態が近接して発見されていて、特異な様相を示している。また、北島遺跡・平戸遺跡・行田市小敷田遺跡も同時期の遺跡として挙げられ、北島遺跡でも再葬墓や土坑墓群が、小敷田遺跡では関東地方で最も古い段階の須和田式期の方形周溝墓が検出されている。同時期の集落や住居跡が検出されている遺跡としては、池上遺跡・関下遺跡（地図中未掲載）・飯塚南遺跡が存在し、特に池上遺跡は環濠集落として知られている。そして池上遺跡や小敷田遺跡のような中核的な集落の周辺部に、天神遺跡・平戸遺跡・北島遺跡のような小規模な遺跡が形成されている。後期には妻沼低地の各地に遺跡が見られ始める。明戸東遺跡・妻沼町弥藤吾新田遺跡・中条条里遺跡内の東沢遺跡・行田市池守遺跡が存在する。明戸東遺跡・東沢遺跡・池守遺跡では吉ヶ谷式土器が、弥藤吾新田遺跡では南関東系の弥生町式土器が出土している。これら弥生時代の遺跡を概観すると、すでにこの時期には低地を利用した積極的な水田経営が行われていたと推測される。

第2図掲載遺跡一覧表

1諏訪木遺跡　2藤之宮遺跡　3前中西遺跡　4平戸遺跡　5成田氏館跡　6箱田氏館跡
7河上氏館跡　8八幡上遺跡　9出口上遺跡　10出口下遺跡　11肥塚中島遺跡　12肥塚館跡
13熊谷氏館跡　14天神前遺跡　15兵部裏屋敷跡　16御蔵場跡　17市田氏館跡　18久下氏館跡
19万吉西浦遺跡　20村岡館跡　21北西原遺跡　22中耕地遺跡　23西通遺跡　24東通遺跡
25土用ヶ谷戸遺跡　26横塚山古墳　27奈良東耕地遺跡　28下河原上遺跡　29北島遺跡
30天神東遺跡　31田谷遺跡　32上川上東遺跡　33天神遺跡　34中条遺跡　35中条氏館跡
36光屋敷遺跡　37女塚遺跡　38鎧塚遺跡　39中島遺跡　40中条条里遺跡　41池上遺跡
42小敷田遺跡　43池守遺跡　44古宮遺跡　45上河原遺跡　46星宮皿尾遺跡　47持田藤の宮遺跡
48弥藤吾新田遺跡
Ⅰ中条古墳群　A鎧塚古墳　B女塚1～6号墳　C大塚古墳　II肥塚古墳群　III上之古墳群
IV玉井古墳群　V坪井古墳群　VI石原古墳群　VII村岡古墳群　VIII酒巻古墳群



第2図　周辺遺跡分布図

古墳時代に入ると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は台地ばかりでなく低地帯の自然堤防上にも営まれるようになり、次第に遺跡数も増加傾向にある。前期では、妻沼低地に大きく遺跡が展開している。池上遺跡・池守遺跡・小敷田遺跡・東沢遺跡・天神遺跡・北島遺跡・天神東遺跡・中条遺跡内の雷電塚遺跡・行田市星宮皿尾遺跡・弥藤吾新田遺跡・中耕地遺跡・横間栗遺跡・根絡遺跡・別府条里遺跡・一本木前遺跡・深谷市本郷前東遺跡・新田裏遺跡・明戸東遺跡・清水上遺跡（後半8遺跡は地図中に未掲載）等がある。北島遺跡では住居跡が21軒、横間栗遺跡では住居跡が3軒、根絡遺跡では住居跡が13軒検出されており、北島遺跡、根絡遺跡さらには弥藤吾新田遺跡等は比較的大規模な集落と推定されている。小敷田遺跡では畿内や東海地方等の外来系の土器が多数出土しており、東沢遺跡とあわせて河川跡から鋤・鍬をはじめとした多量の木製農具を出土した遺跡として知られている。また、北島遺跡からも当該期の木製農具が出土している。また、雷電塚遺跡では脚部に穿孔のある高坏・器台・S字状口縁台付甕等が、剣形等の滑石製模造品と伴に出土している。墓域の存在としては、小敷田遺跡・上敷免遺跡・深谷市東川端遺跡（後者2遺跡地図中未掲載）等で方形周溝墓群検出されており、各々17基・9基・5基である。特に東川端遺跡第2号方形周溝墓からはパレススタイルの大型壺が出土している。

中期の様相は、他の時期と比べて不明な点が多いが、集落が大規模に展開していくのは中期後半以降となるようである。北島遺跡・中条遺跡内の権現山遺跡・同遺跡内の常光院東遺跡等で遺構・遺物が検出されている。北島遺跡では住居跡から須恵器の甕を模倣した土師器小型壺が、権現山遺跡では出現期の竈をもつ住居跡が検出され、把手付大型甑等が出土している。また、集落内の祭祀は東川端遺跡に確認されており、遺物が集中分布している谷にむかう斜面部で剣形の滑石製模造品が検出されている。また、古墳に目を転じてみると、数こそ少ないが、妻沼低地の福川の自然堤防上に横塚山古墳が存在する。これは、B種横刷毛の埴輪をもつ前方後円墳（後円部は一部欠損）である。

そして、後期になると遺跡は爆発的な増加をみる。台地ばかりでなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようである。集落は、古墳時代後期から奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが市内では目立つようになる。櫛挽台地上及び新荒川扇状地上では、樋の上遺跡（地図中未掲載）で古墳時代後期から平安時代の住居跡が90軒以上検出され、このうち古墳時代後期のものは14軒以上を数える。また同遺跡内の上辻・下辻遺跡でも後期から平安時代の住居跡が50軒以上検出された。三ヶ尻遺跡内の天王遺跡や三尻中学校遺跡（地図中未掲載）でも後期の集落が検出されている。一方妻沼低地の自然堤防上では、本遺跡の他、北島遺跡・中島遺跡・光屋敷遺跡・池守遺跡・行田市持田藤の宮遺跡・一本木前遺跡・東川端遺跡・深谷市新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡・深谷市城北遺跡・飯塚南遺跡等が存在する。北島遺跡では6世紀後半以降集落の規模が拡大し、広範囲に展開した状況が確認されている。また、多量の黒色土器が出土しているほか、いわゆる「比企型」の坏等も搬入されている。中島遺跡・光屋敷遺跡・中条遺跡内の常光院東遺跡等は、いずれも遺跡自体の規模が拡大し奈良・平安時代へと長期にわたって集落が継続する特徴を示している。現在調査中の一本木前遺跡でも後期を中心に奈良・平安時代の住居跡が190軒以上検出されており、当該期の祭祀跡も発見され、折り重なるように土師器坏等が出土し、それと伴に臼玉も出土している。

一方、古墳を見てみると群を形成して築造されているのがわかる。櫛挽台地上の別府古墳群・在家古

墳群・籠原裏古墳群・三ヶ尻古墳群・深谷市木の本古墳群、新荒川扇状地上の玉井古墳群・広瀬古墳群・坪井古墳群・石原古墳群・肥塚古墳群、荒川右岸の段丘堆積層上の村岡古墳群、妻沼低地上の深谷市上増田古墳群・中条古墳群・上之古墳群・行田市酒巻古墳群等が分布する（地図中未掲載も含む）。これらは概ね6世紀から7世紀ないしは8世紀初頭にかけて形成された古墳群である。本遺跡の北西端に分布する上之古墳群には墳丘の残る古墳が存在し、また土地区画整理事業に伴う試掘調査により多量の円筒埴輪が出土する箇所が確認されており、さらなる古墳の存在の可能性を示している。本遺跡の北西に分布する肥塚古墳群では川原石乱石積と角閃石安山岩切組積の2種類の胴張型横穴式石室をもつ古墳が確認されており、前者は荒川水系の石材、後者は利根川水系の石材と判断され非常に興味深い様相を呈している。さらに北には鎧塚古墳・女塚1～6号墳・権現山古墳・大塚古墳等からなる中条古墳群が存在する。鎧塚古墳は全長43.8mの帆立貝式前方後円墳で、須恵器高坏型器台等（県指定文化財）を伴う墓前祭祀跡2ヶ所が確認されている。女塚1号墳もやはり全長46.0mの帆立貝式前方後円墳で二重周溝をもち、盾持ち武人埴輪等の人物埴輪が出土した。築造年代は、前者は5世紀末～6世紀初頭、後者は5世紀末に比定されている。大塚古墳は大型の胴張型横穴式石室をもち、側壁に角閃石安山岩、奥壁・天井石に緑泥片岩を使用しており、7世紀前半に比定されている。また東京国立博物館に所蔵されている武人埴輪・馬形埴輪はこの中条古墳群の鹿那祇東古墳からの出土と伝えられている。利根川の右岸に分布する酒巻古墳群の酒巻14号墳では、馬に旗を立てる道具である蛇行状鉄器をつけた馬形埴輪等が出土しており、渡来系の要素が多くみられる。そして、櫛挽台地上の籠原裏古墳群（地図中未掲載）は川原石乱石積の胴張型横穴式石室を有する古墳群であるが、7世紀末の築造と考えられる八角形の墳形をもつ古墳の存在が知られており、終末期の古墳の様相さらには幡羅郡の郡寺的な機能を有するとも考えられている8世紀初頭創建の西別府廃寺（地図中未掲載）という初期寺院との関係においても見逃すことのできない発見である。また、広瀬古墳群中の宮塚古墳（地図中未掲載）は、上円下方墳という特異な墳形を今に残し熊谷市唯一の国指定史跡として知られている。ただし、墳形に関しては疑問を投げかける余地がある。

古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは、増減はするものの奈良・平安時代へと継続されていく。奈良時代には、この地域も律令制体制に組み込まれていき、低湿地一帯では中条条里・小敷田条里・南河原条里等条里制に関わる遺構の痕跡をとどめている。このころの中心的集落遺跡は北島遺跡にみられる。300軒以上もの住居跡が検出されている大規模集落である。7世紀から9世紀を中心に12世紀さらには中世にまで及ぶ集落であり、大規模な掘立柱建物跡・道路状遺構・河川跡等様々な遺構と遺物が検出されている。周辺に前述の条里制地域をひかえ地域の中核となる典型的律令制集落である。また、本遺跡も北島遺跡と同様に掘立柱建物跡をともなう集落を形成しており、この地域の中でも拠点的な施設があった中心的集落であったと考えられる。一方小規模であるが、天神遺跡・中島遺跡・常光院東遺跡・光屋敷遺跡等の遺跡を挙げることができる。さらには7世紀末から8世紀初頭頃の稲の貸付けを記した「出挙」木簡を出土した小敷田遺跡、整然と配された9世紀代の掘立柱建物跡群が検出された池上遺跡も存在する。当該期の遺跡である本遺跡は古墳時代後期から平安時代にかけての祭祀が行われた河川跡が確認された。祭祀関連の遺物としては、馬頭骨、管玉・切子玉・勾玉等の玉類、耳環、銅鋺、滑石製の臼玉さらには斎串・人形等が土師器・須恵器・農具等の木製品と伴に出土してお

り、村（地域）の祭祀である民間祭祀から律令体制下の祭祀すなわち国家祭祀へと祭祀形態が変化していったことが確認された例として注目される。また平安時代の溝に区画された集落跡や大型の掘立柱建物跡、多数の灰釉陶器・緑釉陶器などが検出されるなど特殊な様相を示す遺跡である。また、別府条里遺跡が広がる東別府地区の一本木前遺跡の11世紀初頭の住居跡から瑞花鴛鴦八稜鏡が出土し、県内初の住居跡出土例として注目されている。この八稜鏡に関して言えば、北島遺跡の溝跡からも出土例がある。

平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになる。中条氏館跡・成田氏館跡・箱田氏館跡・河上氏館跡・肥塚館跡・熊谷氏館跡・兵部裏屋敷跡・市田氏館跡・久下氏館跡・村岡館跡・皿尾城（星宮皿尾遺跡）等であるが、いずれの居館も実態の判明するものはほとんどない。その中で遺構の残りの良いものの中に、中条氏館跡（県指定史跡）がある。中条家長の居館で常光院及びその周辺が当てられており、常光院の境内に土塁の一部と堀を良く残している。この他中条氏関連の遺跡としては、光屋敷遺跡・常光院東遺跡・権現山遺跡等があり、これらは主に中世前半の館跡と考えられる。光屋敷遺跡は、中条氏の祖・中条常光の館跡と伝えられている。発掘調査によって中世の井戸・堀跡・火葬墓等が検出され館跡の存在は確認されたが、出土遺物から室町時代までは遡らせることはできても常光の12世紀前半とは時間的隔たりが大きく、室町時代の館跡が存在したというところまでの確証にとどまっている。また、権現山遺跡は墓地機能をもつ遺跡であるが、元文三年(1738)の常光院由来書に愛童を葬ったという記述があり、その塚は稚子塚と呼ばれ権現山遺跡内にその名を残している。いずれにせよ、中世に関しては資料がまだまだ不足している状態で、今後の資料の蓄積に期待されるところである。

III　遺跡の概要

1　調査区の設定

調査区は、便宜上衣川及び農業用水路によって８区に区分した。Ｉ区は、衣川の北側北西隅の区画である。II区も衣川北側のほぼ中央のトレンチを６本あけて調査した区画である。III区は衣川北側北東隅の小さな三角形の区画である。IV区以降は、衣川南側に位置する。IV区は東西に流れる衣川と農業用水路に挟まれた最も大きな区画である。Ｖ・VI・VII区はIV区の用水路を挟んだ南側に位置し、西からＶ、VI、VII区である。VIII区は用水路を挟んでVI・VII区の南側に位置する区画である。本報告書では、この区画にしたがって記述する。

発掘調査の方法は、１辺５ｍのグリッドを用いて行い、調査予定地域全体を網羅できるように、１辺100ｍの大区を設定し、北東隅を１区として西へ２区・３区・４区・５区とし、また東へ戻り６区・７区・８区……と５区きざみで南へと区を設定し、20区まで設定した。そしてさらに１区北東端を０とし、南へは区を問わず１・２・３……とし、西へは区を境に区切りＡ・Ｂ・Ｃ……Ｔとし、例えば１区Ａラインは北から南へ１区Ａ－０・Ａ－１・Ａ－２……と呼称した。Ｂライン以東もＡラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。グリッド名は、東西のアルファベットは区ごとにＡからＴまでだが、南北のアラビア数字は通しの数字で呼称した。

2　検出された遺構と遺物

今回の発掘調査で検出された遺構は、縄文時代の竪穴遺構５基、弥生時代中期から江戸時代にかけての河川跡、縄文・弥生～古墳時代の溝跡40条、平安時代の住居跡22軒、掘立柱建物跡31棟、同期に属すると考えられる柵列１列、井戸跡14基、区画溝を含める溝跡72条、土坑墓７基、竪穴遺構４基、土坑154基、中世の土坑墓４基、火葬跡３基、井戸跡２基、江戸時代の区画溝を含む溝跡７条、土坑７基などであった。このほか時期不明の溝跡５条、土坑14基、ピット多数が検出された。出土した遺物は、縄文時代後・晩期土器、弥生時代中期土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦、土製品、鉄製品、銅製品、石製品、木製品、古銭などコンテナ約390箱分の出土量であった。

縄文時代の遺物については、IV区において上層の古墳～平安時代の遺構調査によって出土した箇所を拡張した部分のグリッド遺物と、Ｖ区の溝跡及び竪穴遺構、河川跡Ｃ地点の遺物である。

弥生時代の遺物については、IV区のグリッド遺物、Ｖ区の溝跡、河川跡Ｂ・Ｃ地点の遺物である。

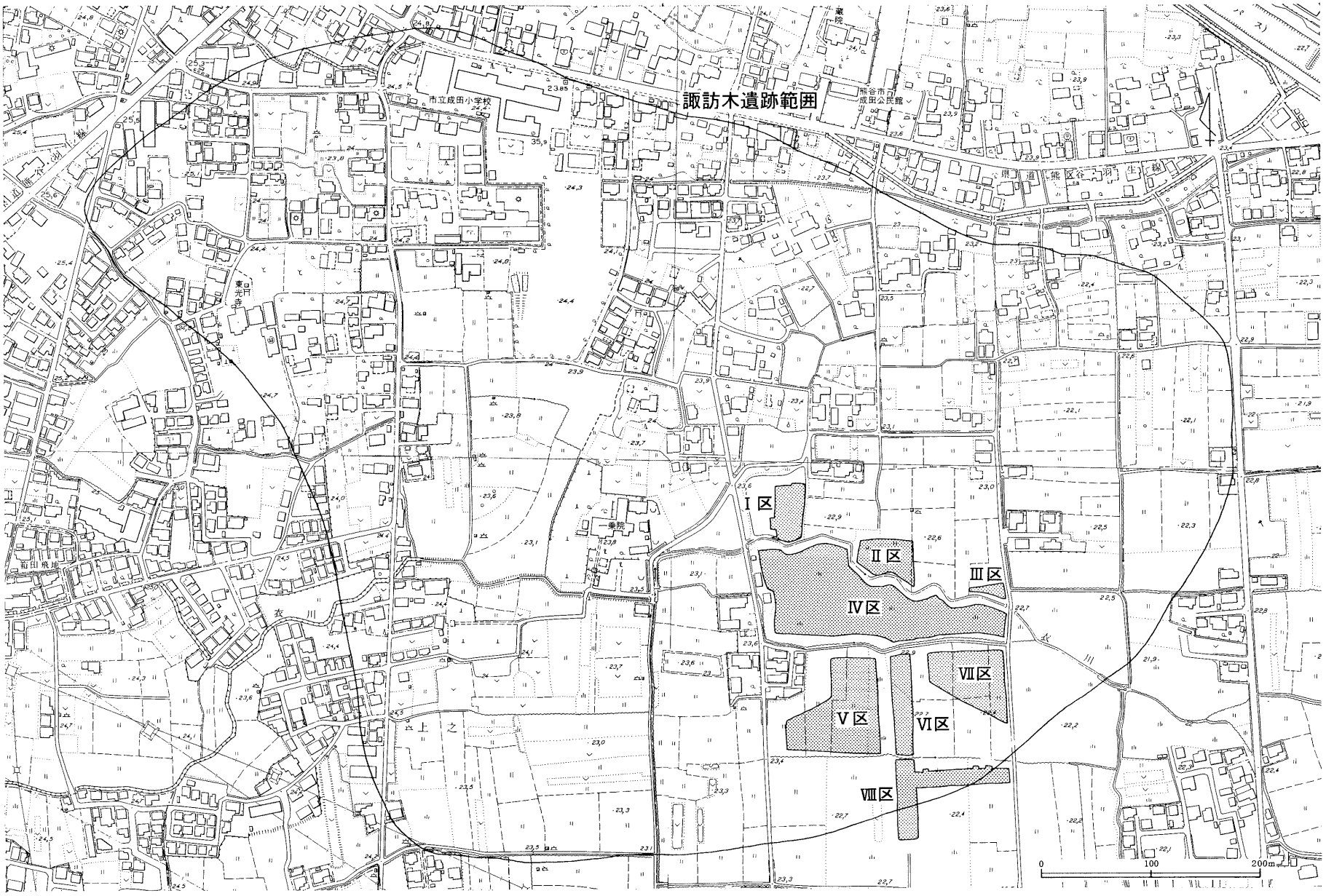
古墳時代後期の遺物は、河川跡から大量に出土しているが、当該期の集落は調査区内には確認されていない。

平安時代初頭から形成され始めた集落は、一定のまとまりをもった空間につくられていった。溝によって区画された空間に掘立柱建物跡を中心にした集落が営まれ、竪穴住居跡はその周囲もしくは少し離れた場所につくられており、区画された空間は時期差をもって変遷することが判明した。

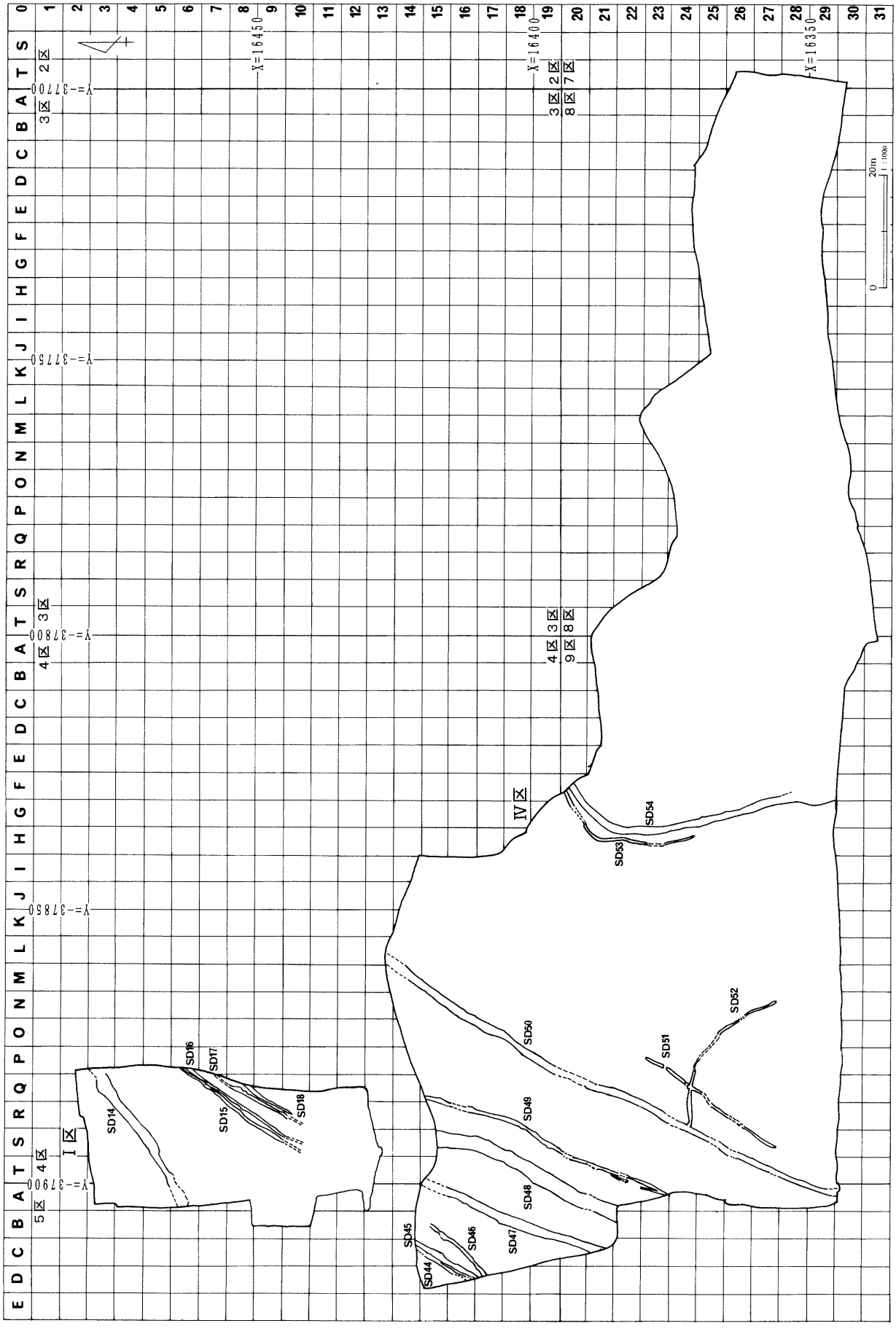
中世の遺構は、土坑墓、火葬跡が検出された。

江戸時代の遺構は、区画溝、土坑などが検出されている。

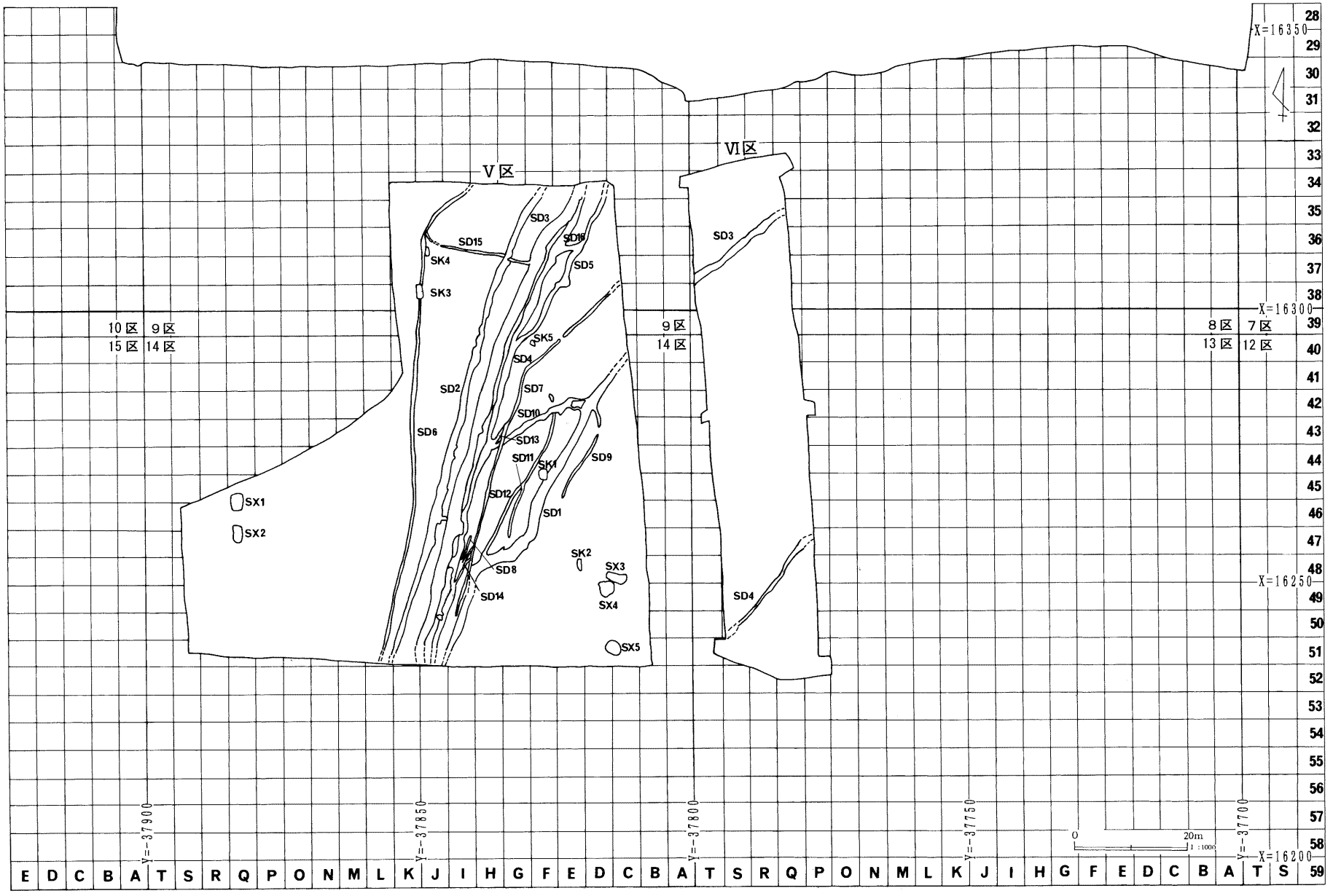
以下地区ごとに、詳細な遺構・遺物の説明を行いたい。



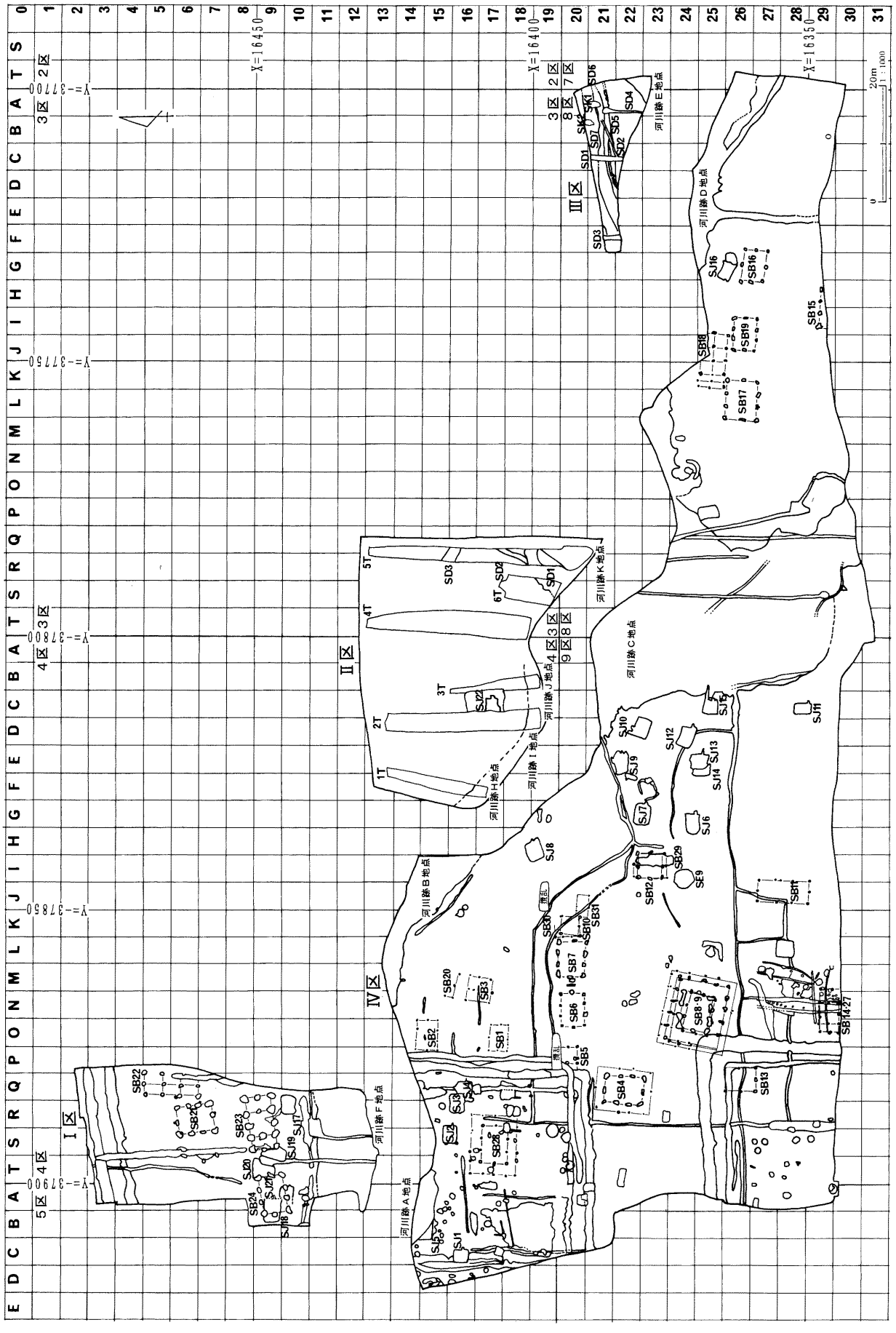
第３図　諏訪木遺跡位置図



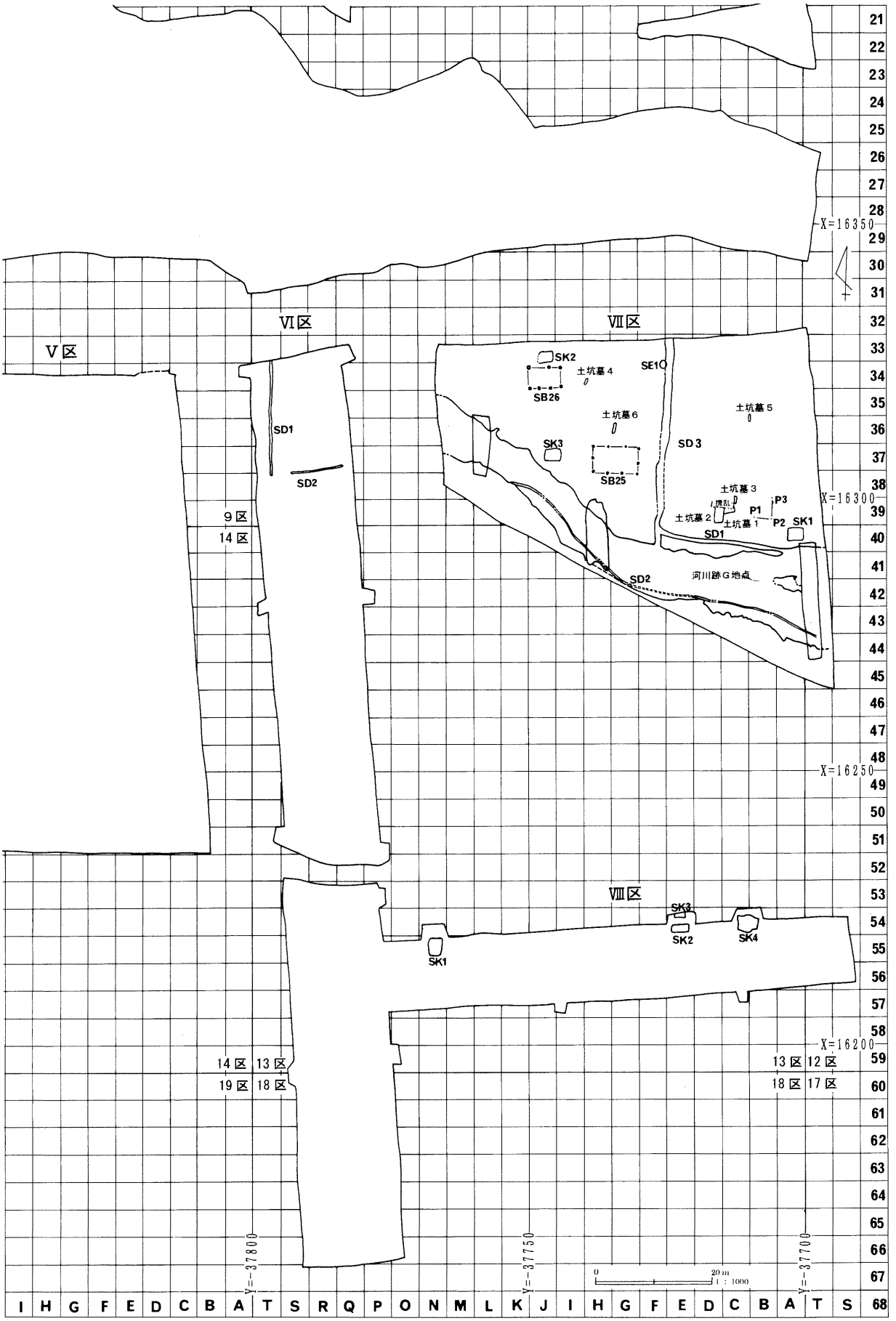
第４図　諏訪木遺跡全測図(1)第２面古墳時代中期以前



第5図　諏訪木遺跡全測図(2)第2面古墳時代中期以前



第６図　諏訪木遺跡全測図(3)第１面古墳時代後期以降



第7図　諏訪木遺跡全測図(4)第1面古墳時代後期以降

IV　Ⅰ区の調査

1　Ⅰ区の概観

調査区は、調査区域のほぼ中央を東西に流れる衣川北側の細長い方形状の区画であった。調査対象面積は、1,200㎡であった。

遺構確認面での標高は、22.6～22.9mであった。調査区全体の自然地形は、ほぼ平坦であった。

部分的に現水田耕作のためにつくられた暗渠排水によって溝状の攪乱を受けていた。この暗渠排水敷設溝を土層観察畦に利用して調査を進めた。

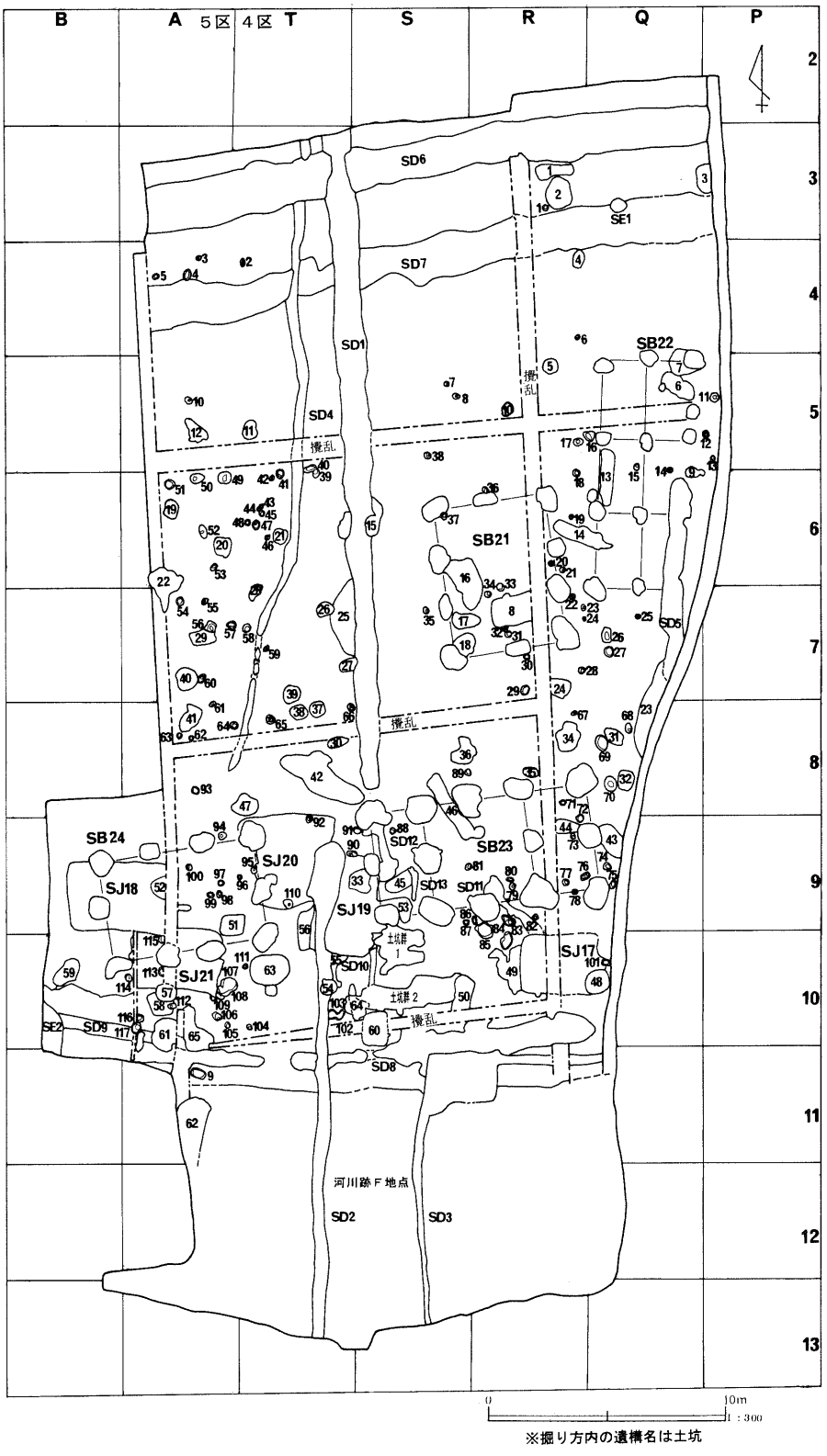
確認された遺構は、竪穴住居跡５軒（第17～21号住居跡）、掘立柱建物跡４棟（第21～24号掘立柱建物跡）、土坑65基、土坑群２箇所、井戸跡２基、溝跡18条（内５条は下層の溝）、ピット117基、河川跡１箇所であった。遺構の総体としての分布は、調査区の南に集中して検出され、竪穴住居跡５軒と掘立柱建物跡２棟（第23・24号掘立柱建物跡）は、重複ないしは近接して確認された。また、第２号井戸跡もこれらの生活関連遺構とともに検出された。北に並行して走る第６・７号溝跡に近づくにしたがって遺構が希薄になる傾向が認められた。

竪穴住居跡は先述のとおり調査区南部に集中して検出され、第18･21号住居跡が互いに重複しあって、第19・20号住居跡が隣接して、第17号住居跡が単独で確認された。９世紀の前半から10世紀の中頃にかけてで、第20、17、18、19・21号住居跡の順と考えられる。第21号住居跡の須恵器皿は他遺構からの混入品と考えられる。掘立柱建物跡は、第21・23・24号掘立柱建物跡がほぼ主軸を同じくして３棟Ｌ字形に近接して並んで検出された。このうち、第23号掘立柱建物跡は２間×４間の大型のものであった。概ね９世紀末から10世紀前半のものと考えられる。第23号掘立柱建物跡Ｐ５出土の土製勾玉は、混入品と考えられる。

上層の溝跡は、ほぼ南北に走るものと東西に走るものに大別できる。江戸期と考えられる第１号溝跡を除いて概ね８世紀代から10世紀代のものである。北に並行して走る第６・７号溝跡は、この地区を区画する溝と推定され、９世紀前半ものと考えられる。また、河川跡Ｆ地点に並行して走る第８号溝跡も第６・７号溝跡と同時期であると考えられることから、これらの溝に囲まれた地区内に竪穴住居跡を中心とする集落が築かれたと推定できる。

なお、第６号溝跡に平瓦片、第８号溝跡に土師質の瓦片が出土している。一方、下層の溝跡４条（14～18号溝）は、東に傾きをもって東北一南西方向に走っていた。遺物が出土した溝はほとんどなく、出土した溝の土器から判断すると古墳時代中期～後期と考えられる。

河川跡は、調査区南端に一部ではあるが検出された。８世紀から11世紀まで幅広く遺物が出土しているが、上部では10世紀後半から11世紀代の遺物を出土する第２・３号溝跡が存在することから、この時期には、河川としての機能を失っていたと考えられる。遺物には、墨書のある土師器・須恵器坏等を含む土器の他、瓦片、木製品、古銭などが出土した。



※掘り方内の遺構名は土坑

第8図　Ⅰ区全側図（第一面）

2　遺構と遺物

(1)　住居跡

第17号住居跡（第９・13図、第１表）

４区Ｒ―10グリッドを中心に位置する。住居跡の中央付近に南北に攪乱溝が入っていた。また、Ⅰ区第101号ピットに切られていた。

東西方向が主軸方向で3.6m、南北方向が2.5mの長方形のプランを呈し、面積はおよそ９㎡を測る。主軸方向はＮ―89°―Ｅを指す。

床までの深さは15cm前後と浅い。床はほぼ平坦であった。東壁よりの土層に灰層や焼土が含まれることから、この付近にカマドがあった可能性があるが、明確なカマド跡を確認するに至らなかった。

北西コーナーに小ピットと壁溝が確認されたが、小ピットの性格は分からなかった。

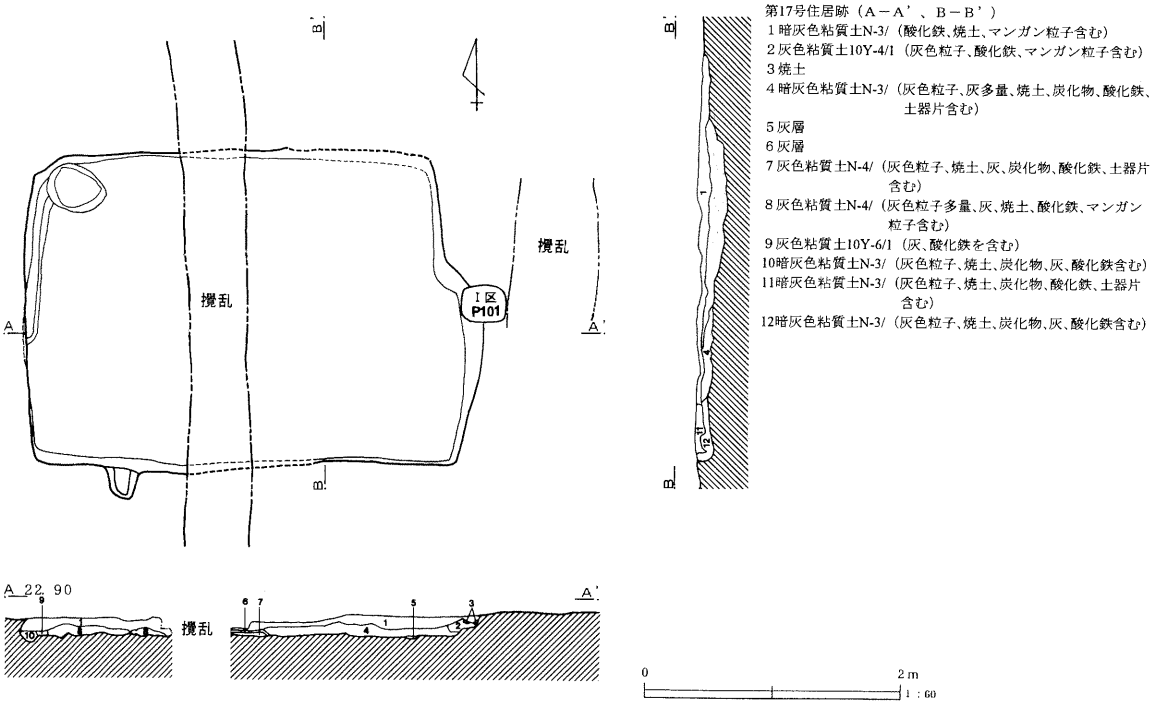
出土遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・椀・皿・甕、緑釉陶器陰刻花文稜椀などが検出でき、出土量は多かった。

第18号住居跡（第10・13・14・15図、第１表）

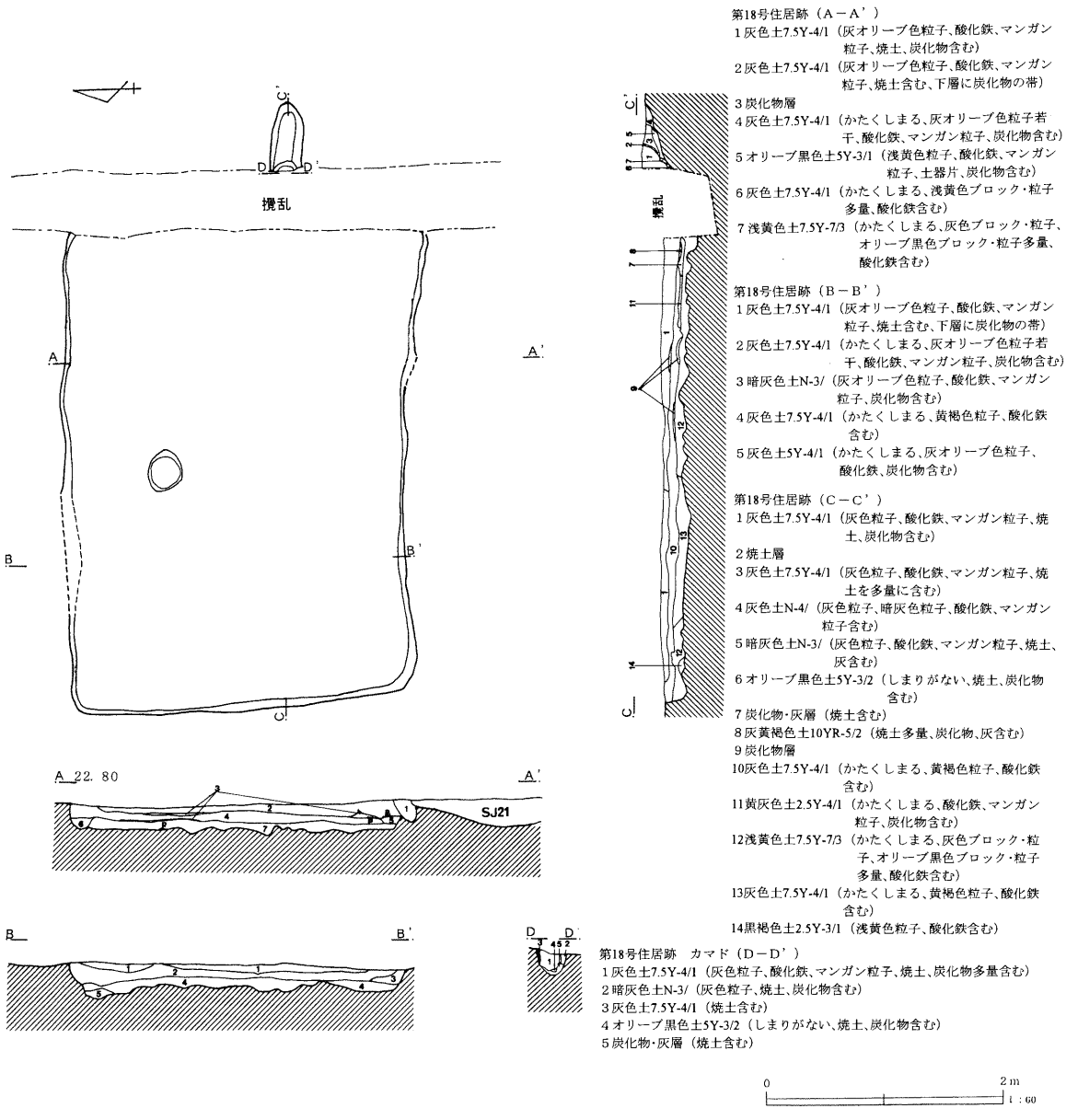
５区Ｂ―９グリッドに位置する。第24号掘立柱建物跡と重複しており、新旧関係は明確でなかった。

平面形は主軸方向が推定で4.3m前後、東西方向がおよそ3.0mで長方形を呈し、面積はおよそ12.9㎡を測る。主軸方向はＮ―89°―Ｅを指す。

床までの深さは20～30cmほどである。床面は貼り床が施されており、ほぼ平坦であった。床面を除去した下は、起伏のある形状であった。土層から類推すると壁溝があったと思われる。柱穴、貯蔵穴は確



第９図　第17号住居跡



第10図　第18号住居跡

認できなかった。

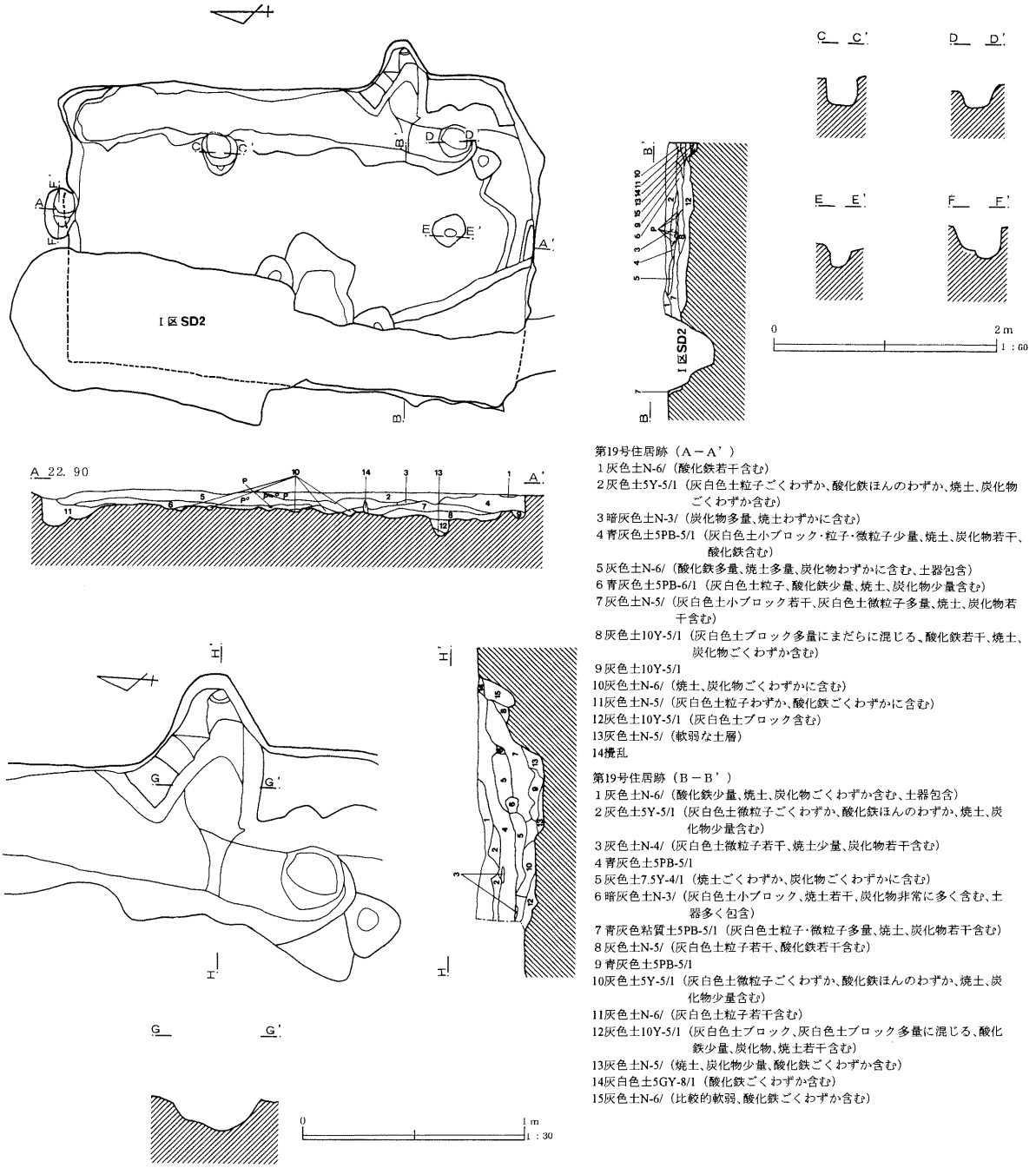
カマドの大半は攪乱により破壊され、確認できたのは煙道部がわずかに60cm残ったのみである。

出土遺物は、須恵器椀・皿、土師器甕、須恵器大甕などが検出されており、この遺跡の住居跡としては、比較的多量な出土である。

第19号住居跡（第11・12・15図、第１表）

４区Ｔ—10グリッドを中心に位置する。第23号掘立柱建物跡、Ｉ区第２号溝跡と重複しており、掘立柱建物跡が一番古く、次いで第２号溝跡、本遺構となる。

平面形は南北方向が長軸で4.35m、東西方向が短軸で2.8mの長方形を呈し、面積は12.2㎡を測る。主軸方向はＮ—90°—Ｅを測る。

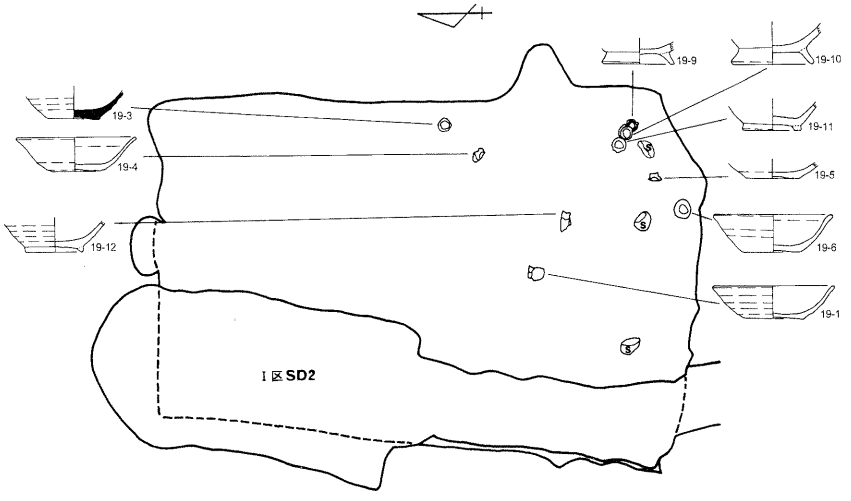


第19号住居跡（A－A'）
1灰色土N-6/（酸化鉄若干含む）
2灰色土5Y-5/1（灰白色土粒子ごくわずか、酸化鉄ほんのわずか、焼土、炭化物ごくわずか含む）
3暗灰色土N-3/（炭化物多量、焼土わずかに含む）
4青灰色土5PB-5/1（灰白色土小ブロック・粒子・微粒子少量、焼土、炭化物若干、酸化鉄含む）
5灰色土N-6/（酸化鉄多量、焼土多量、炭化物わずかに含む、土器包含）
6青灰色土5PB-6/1（灰白色土粒子、酸化鉄少量、焼土、炭化物少量含む）
7灰色土N-5/（灰白色土小ブロック若干、灰白色土微粒子多量、焼土、炭化物若干含む）
8灰色土10Y-5/1（灰白色土ブロック多量にまだらに混じる、酸化鉄若干、焼土、炭化物ごくわずか含む）
9灰色土10Y-5/1
10灰色土N-6/（焼土、炭化物ごくわずかに含む）
11灰色土N-5/（灰白色土粒子わずか、酸化鉄ごくわずかに含む）
12灰色土10Y-5/1（灰白色土ブロック含む）
13灰色土N-5/（軟弱な土層）
14攪乱

第19号住居跡（B－B'）
1灰色土N-6/（酸化鉄少量、焼土、炭化物ごくわずか含む、土器包含）
2灰色土5Y-5/1（灰白色土微粒子ごくわずか、酸化鉄ほんのわずか、焼土、炭化物少量含む）
3灰色土N-4/（灰白色土微粒子若干、焼土少量、炭化物若干含む）
4青灰色土5PB-5/1
5灰色土7.5Y-4/1（焼土ごくわずか、炭化物ごくわずかに含む）
6暗灰色土N-3/（灰白色土小ブロック、焼土若干、炭化物非常に多く含む、土器多く包含）
7青灰色粘質土5PB-5/1（灰白色土粒子・微粒子多量、焼土、炭化物若干含む）
8灰色土N-5/（灰白色土粒子若干、酸化鉄若干含む）
9青灰色土5PB-5/1
10灰色土5Y-5/1（灰白色土微粒子ごくわずか、酸化鉄ほんのわずか、焼土、炭化物少量含む）
11灰色土N-6/（灰白色土粒子若干含む）
12灰色土10Y-5/1（灰白色土ブロック、灰白色土ブロック多量に混じる、酸化鉄少量、炭化物、焼土若干含む）
13灰色土N-5/（焼土、炭化物少量、酸化鉄ごくわずか含む）
14灰白色土5GY-8/1（酸化鉄ごくわずか含む）
15灰色土N-6/（比較的軟弱、酸化鉄ごくわずか含む）

第19号住居跡　カマド（H－H'）
1灰色土5Y-4/1（灰白色土微粒子若干、酸化鉄ごくわずか、灰、炭化物、焼土若干含む）
2オリーブ黒色土5Y-3/1（灰色土粒子少量、灰白色土微粒子少量、焼土、炭化物少量含む）
3炭化物
4灰色土（灰白色土粒子・微粒子少量、焼土、炭化物少量含む）
5青灰色土5PB-5/1（灰白色土粒子若干、焼土多量、炭化物ごくわずか、酸化鉄少量含む）
6焼土
7黄灰色土2.5Y-5/1（焼土多量、炭化物ごくわずか含む）
8灰白色土7.5Y-7/1（酸化鉄ごくわずか含む）
9灰色土N-6/（灰白色土粒子含む）
10灰白色土7.5Y-8/2（灰色土混じる）
11灰色土10Y-5/1（灰白色ブロック含む）
12灰色土7.5Y-5/1（灰白色土粒子若干含む）
13黄灰色土2.5Y-5/1（酸化鉄少量、焼土含む）
14灰白色土N-6/（炭化物、酸化鉄若干含む）
15灰色土5Y-6/1と灰白色土7.5Y-7/2混合層（酸化鉄少量含む）

第11図　第19号住居跡



第12図　第19号住居跡遺物分布図

床は起伏が激しく、凹凸が著しい。深さは20cm前後であった。北壁には壁溝が確認された。柱穴と思われるピットが東壁よりから２つ確認された。規模は径30cm前後、深さ25cm前後であった。

カマドは東壁の南よりに確認された。長さ１m、幅0.5m、煙道部は削平されて確認できなかった。袖は住居内に造られていたと思われるが、明確に認識できなかった。

出土遺物は、カマド周辺から須恵器坏・椀・瓶・甕、土師器甕、灰釉陶器椀などが検出され、比較的出土量が多かった。

第20号住居跡（第16・18図、第１表）

４区Ｔ－９グリッドに位置する。第24号掘立柱建物跡、Ｉ区第２号溝跡と重複し、両遺構より本遺構の方が古い。また、Ｉ区第92・110号ピットに切られていた。

平面形は４m×3.5mの長方形を呈し、推定面積は14m²であった。東壁よりの第２号溝跡と重複する付近に焼土の分布が見られ、東壁にカマドが設置されていたと推測される。床面に多数のピットが検出されたが、柱穴とは断定できない。その他壁溝、貯蔵穴などは確認できなかった。

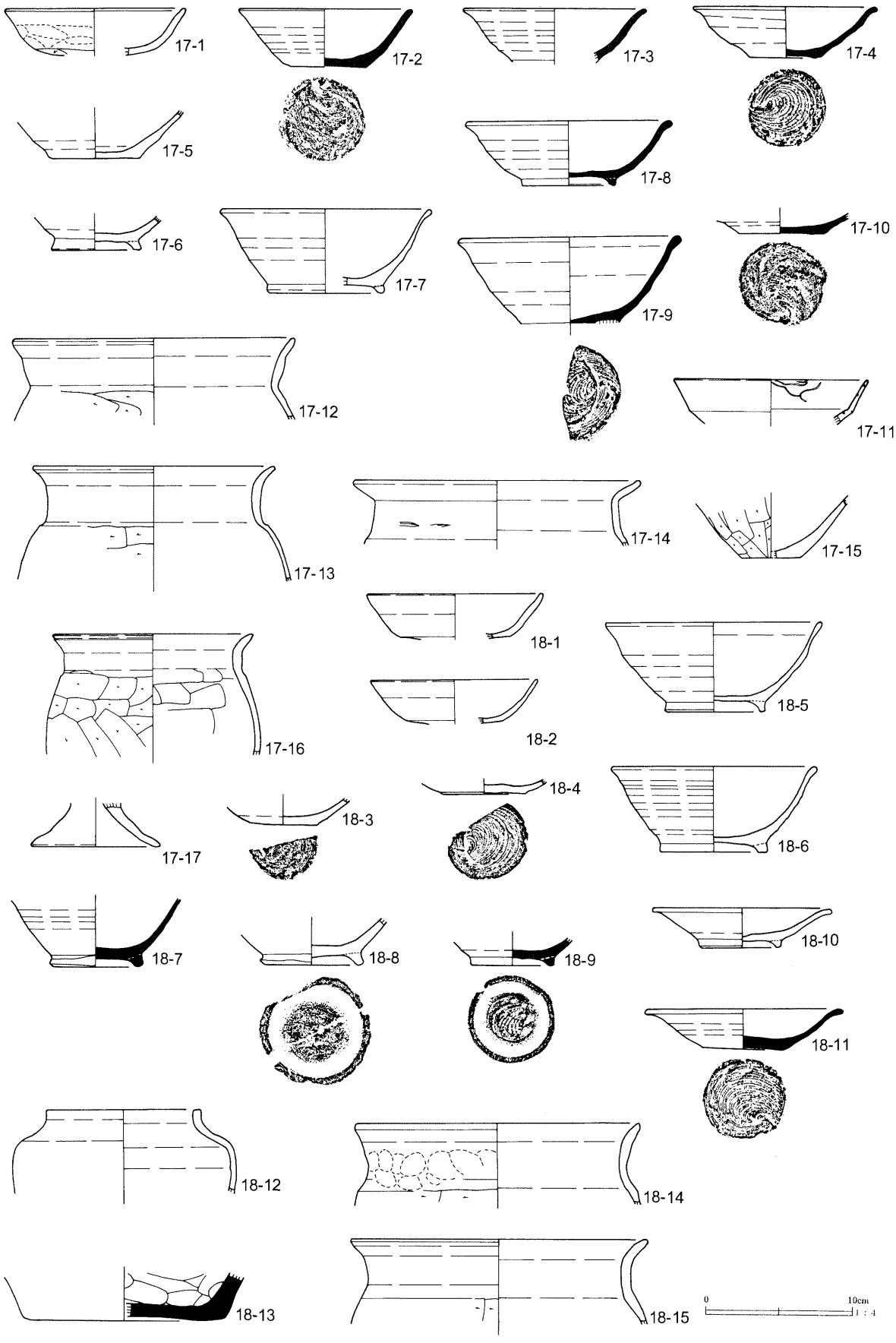
出土遺物は、土師器甕・台付甕、須恵器蓋・坏・皿・甕、緑釉陶器稜椀などが検出できた。

第21号住居跡（第17・18図、第１表）

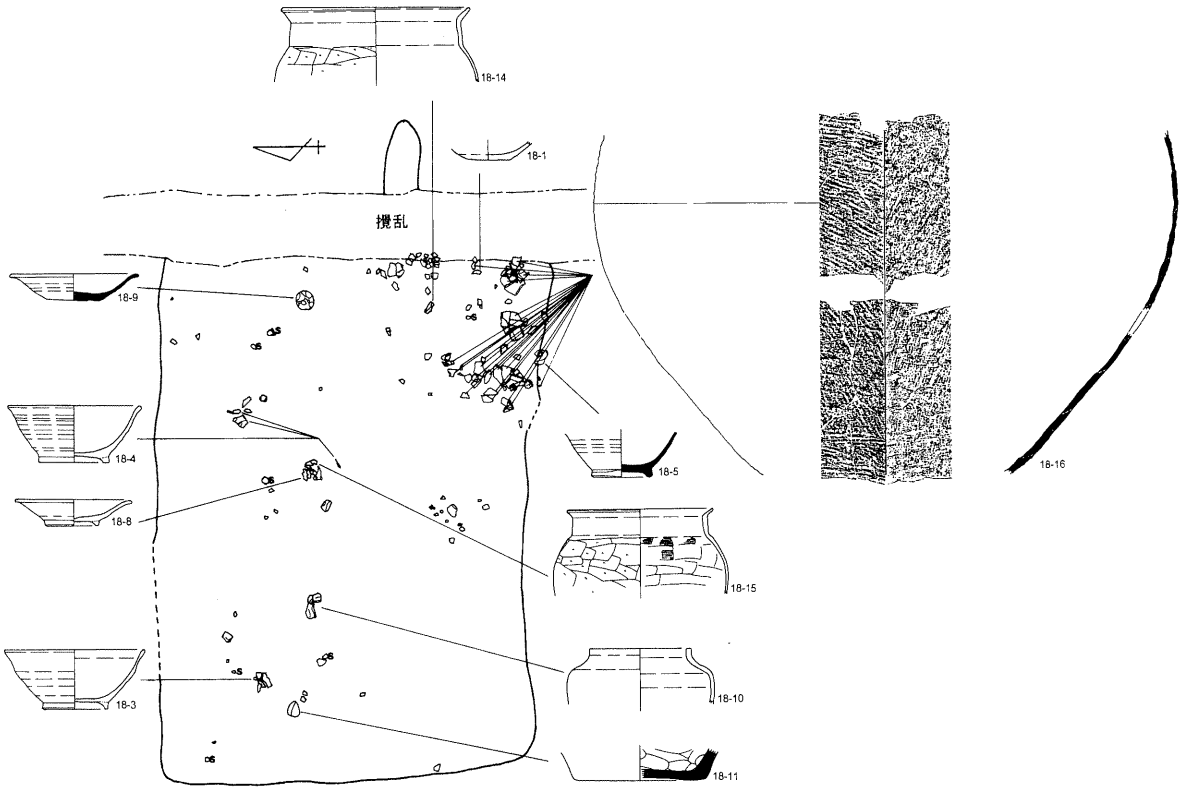
５区Ａ－10グリッドに位置する。第18号住居跡、第24掘立柱建物跡と重複し、第18号住居跡が一番古く、次いで掘立柱建物跡、そして本遺構となる。また、Ｉ区第57号土坑に切られていた。遺構の中央部及び西端部を攪乱溝により切られていた。

平面形は2.65m×4.10mの長方形を呈し、面積は10.86m²を測る。主軸方位はＮ－92°－Ｅを示す。カマドは東壁に位置しており、50cm×50cmの規模であった。カマドの煙道部分は削平され、把握できなかった。北壁、南壁に壁溝が確認されている。

出土遺物は、須恵器坏・皿・甕、土師器甕が検出された。ただし、須恵器皿は混入品と考えられる。



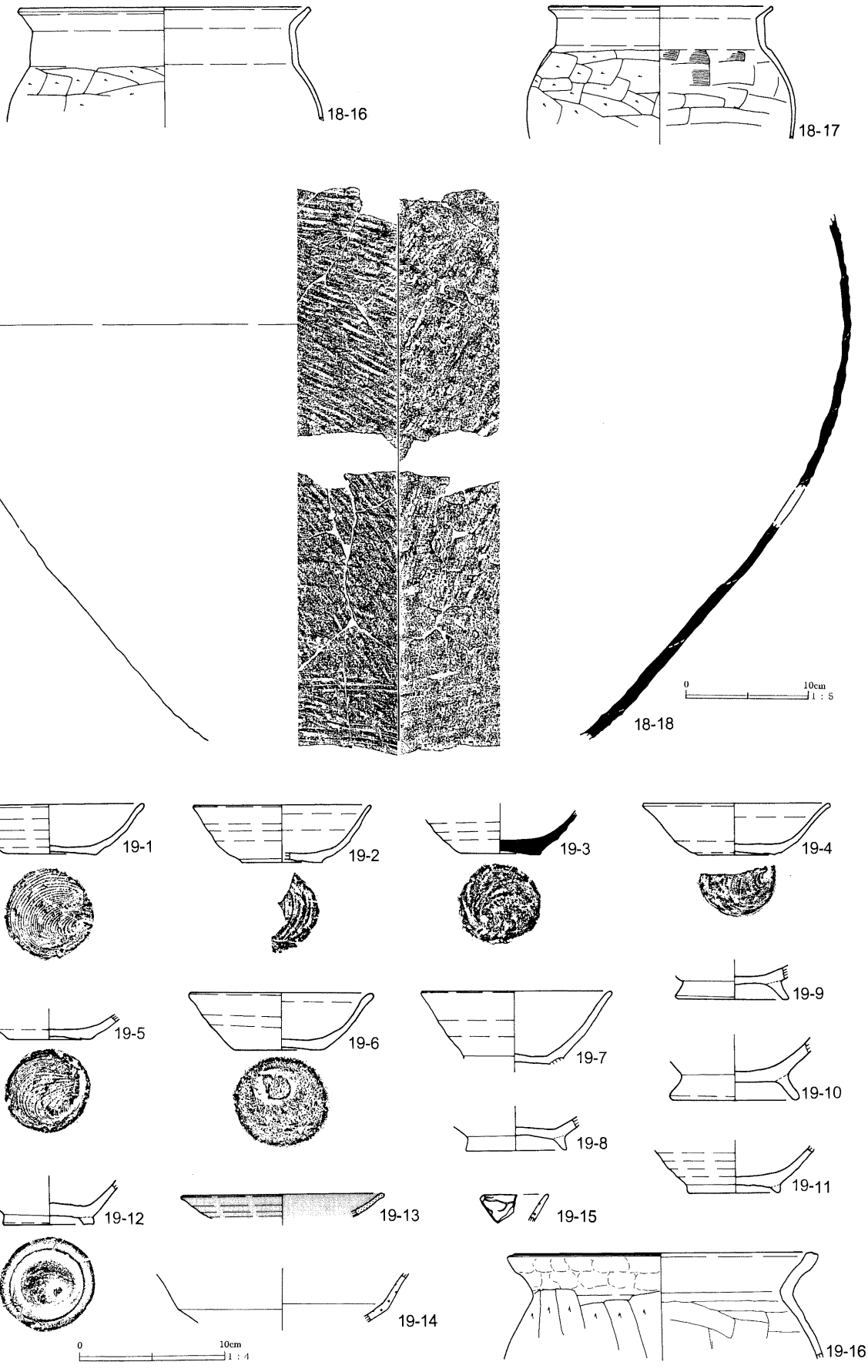
第13図　第17・18号住居跡出土遺物



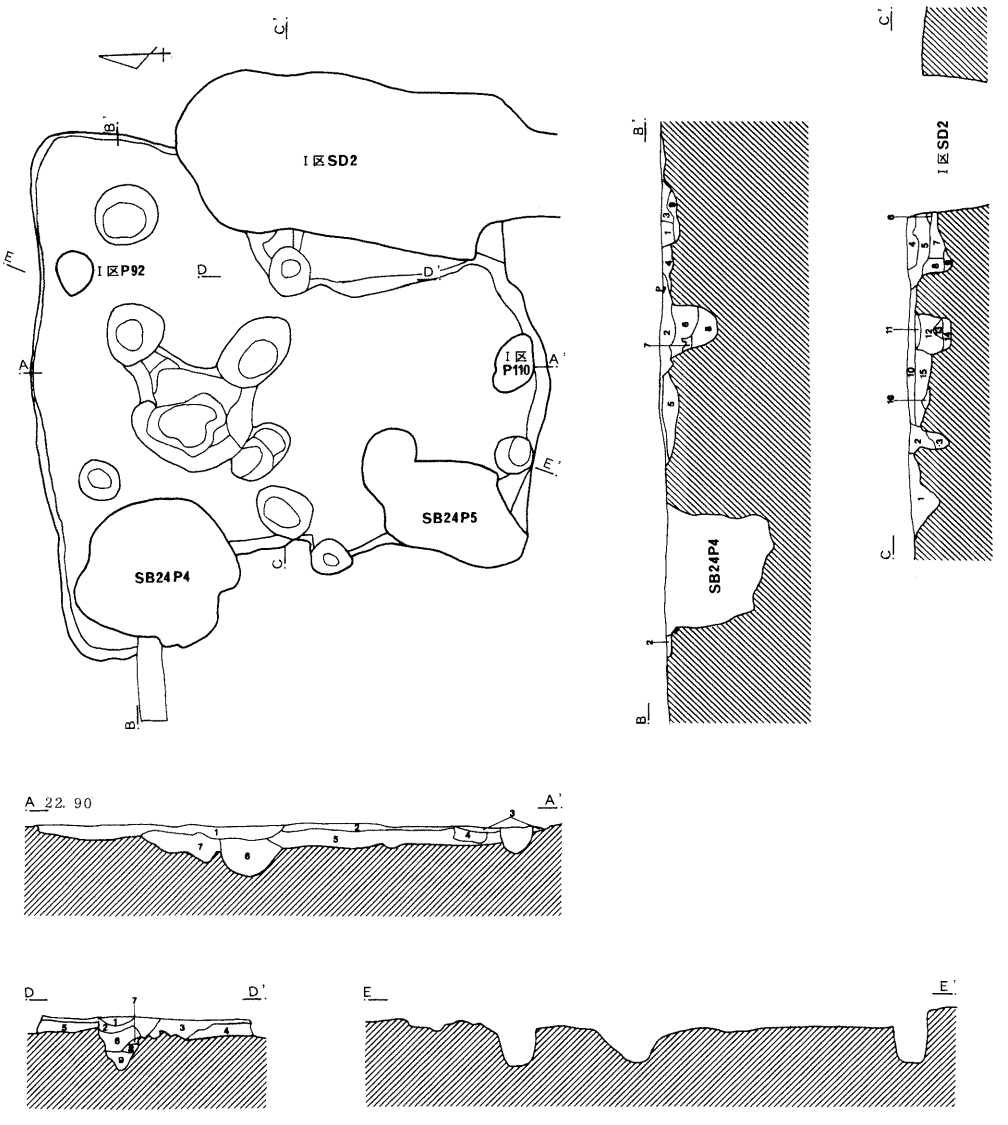
第14図　第18号住居跡遺物分布図

第１表　第17～21号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
17-1	土師器坏	(12.5)	—	—	ABDM	にぶい橙色、灰褐色	D	30%	
17-2	土師器坏	(12.0)	4.0	5.4	CDGL	外面：褐灰色　内面：黄灰色	D	60%	末野産。
17-3	土師器坏	(12.6)	—	—	AEN	暗青灰色	A	口縁部25%	末野産。
17-4	土師器坏	12.6	3.5	5.0	ABGLN	灰色	A	65%	末野産。
17-5	土師器坏	—	—	6.2	BCE	浅黄橙色	E	底部100%～体部下半	
17-6	土師器坏	—	—	6.2	AC	にぶい赤褐色、褐灰色	C	底部100%	
17-7	須恵器椀	(14.6)	5.8	(8.2)	AE	外面：灰色、橙色　内面：にぶい赤褐色	E	35%	末野産。
17-8	須恵器椀	(14.0)	4.5	(6.5)	ABLN	灰色	A	15%	末野産。
17-9	須恵器椀	(15.2)	—	—	ABGLN	灰色	C	45%	末野産。
17-10	須恵器皿	—	—	6.0	ABGLN	灰色	A	底部100%	末野産。
17-11	緑釉陶器稜椀	(13.6)	—	—	ABP	淡緑色	A	口縁部10%	
17-12	土師器甕	(19.6)	—	—	ACJ	外面：橙色、にぶい橙色　内面：浅黄橙色、橙色	C	口縁部15%	
17-13	土師器甕	(16.8)	—	—	ABCJ	外面：橙色、にぶい橙色　内面：橙色、灰赤色	D	口縁部25%	
17-14	土師器甕	(20.0)	—	—	AEJ	外面：にぶい橙色　内面：橙色	A	口縁部15%	
17-15	土師器甕	—	—	(4.0)	AEGJ	外面：褐灰色、にぶい橙色　内面：橙色	A	底部30%	
17-16	土師器台付甕	(14.0)	—	—	BCJ	外面：橙色　内面：明赤褐色	A	口縁部25%～胴上半部	
17-17	土師器台付甕	—	—	(9.0)	ABDJ	明赤褐色	A	脚台部20%	
18-1	土師器坏	(12.4)	—	—	ABH	にぶい褐色	D	20%	
18-2	土師器坏	(11.7)	—	—	BD	にぶい黄橙色	E	20%	
18-3	須恵器坏	—	—	4.6	AE	黒褐色	D	底部50%	
18-4	須恵器坏	—	—	(5.8)	ABEGHL	にぶい橙色	D	底部70%	末野産。
18-5	須恵器椀	(15.0)	6.2	7.0	AELN	にぶい橙色、にぶい黄橙色	D	50%	末野産。
18-6	須恵器椀	(14.0)	6.0	(7.5)	ABEHN	外面：灰白色、黄灰色　内面：灰白色	D	40%	
18-7	須恵器椀	—	—	6.2	ABILN	外面：黄灰色、灰色　内面：黄灰色	E	40%　(底部100%)	末野産。
18-8	須恵器椀	—	—	7.0	ABEH	外面：明黄褐色、灰白色　内面：灰色	E	底部100%	
18-9	須恵器椀	—	—	5.8		外面：灰色　内面：灰白色	D	底部100%	
18-10	須恵器皿	12.5	2.7	5.5	ABDML	にぶい黄橙色	E	90%	末野産。
18-11	須恵器皿	13.2	2.7	5.6	ABGH	灰色	A	95%	末野産。
18-12	須恵器短頸壺	(10.8)	—	—	ACGILN	外面：にぶい赤褐色　内面：明赤褐色	E	口縁部50%～胴上半部	
18-13	須恵器壺	—	—	(14.0)	AHN	外面：青灰色　内面：褐灰色	A	底部25%	
18-14	土師器甕	(19.8)	—	—	ABCHJ	外面：黒褐色　内面：橙色	C	口縁部25%	
18-15	土師器甕	(20.6)	—	—	ABEJ	橙色	A	口縁部15%	
18-16	土師器甕	(20.0)	—	—	AEIMN	外面：橙色、暗灰色　内面：橙色、暗赤灰色	B	口縁部20%～胴上半部	
18-17	土師器甕	(15.2)	—	—	AEIM	明赤褐色、暗赤灰色、赤灰色	A	口縁部25%～胴上半部	



第15図　第18・19号住居跡出土遺物



第20号住居跡（A－A'）
1灰色土N-4/1（灰色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄、焼土、炭化物多量含む）
2灰色土10Y-4/1（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
3暗灰色土7.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土多量含む）
4暗灰色土N-3/（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
5灰色土7.5Y-6/1（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
6灰色土N-4/（灰色ブロック・粒子、暗灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
7灰色土N-6/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

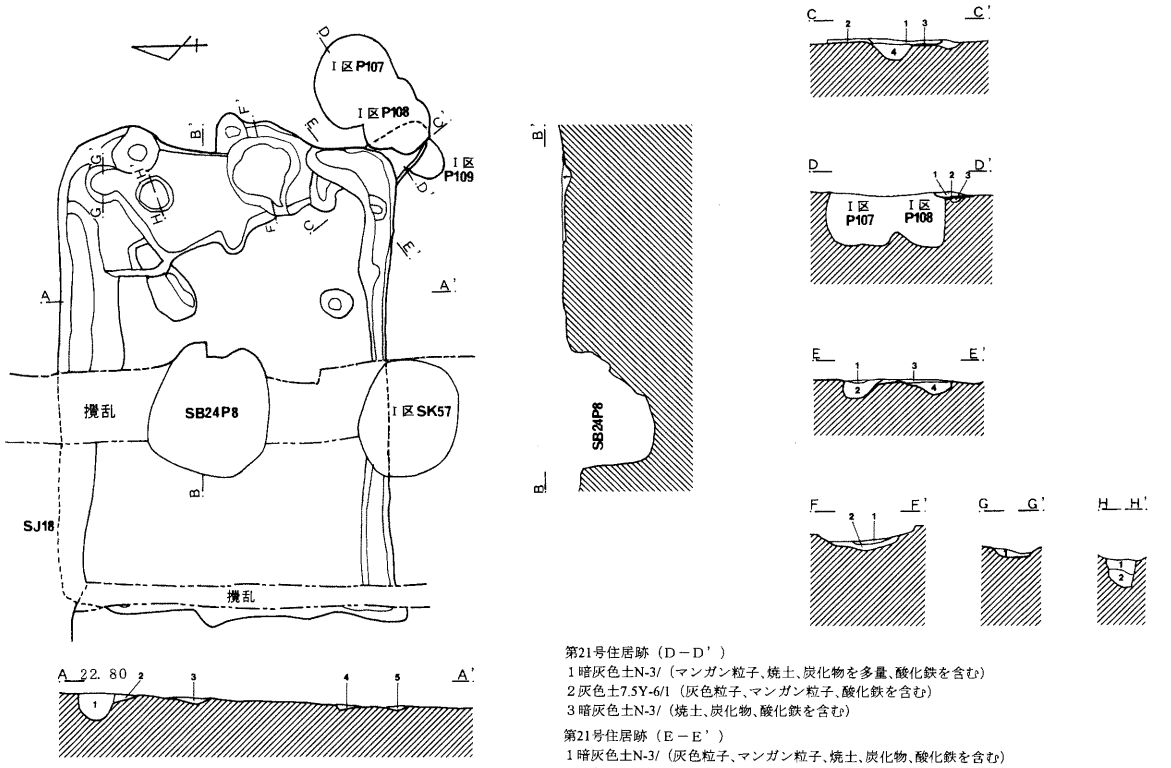
第20号住居跡（B－B'）
1暗灰色土N-3/（灰色粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
2灰色土N-4/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）
3灰色土N-4/（灰色粒子、暗灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4灰色土10Y-5/1（灰色ブロック・粒子、暗灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
5灰色土10Y-5/1（灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
6灰色土7.5Y-4/1（灰色ブロック・粒子多量、暗灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
7オリーブ黒色土7.5Y-3/1（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
8暗灰色土N-3/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
9灰色土7.5Y-4/1（灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第20号住居跡（C－C'）
1灰色土N-4/（灰色粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
2灰色土N-4/（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
3灰色土7.5Y-6/1（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）
5暗灰色土N-3/（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、灰多量、焼土、炭化物含む）
6灰・炭化物層（マンガン粒子、焼土含む）
7暗灰色土N-3/（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土多量、灰多量、炭化物含む）
8オリーブ黒色土5Y-3/1（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
9灰層（灰色粒子、酸化鉄、焼土、炭化物多量含む）
10灰色土10Y-4/1（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
11オリーブ黒色土7.5Y-3/1（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物多量含む）
12灰色土10Y-4/1（暗灰色粒子、灰オリーブ色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
13オリーブ黒色土7.5Y-3/1（灰オリーブ色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
14灰色土5Y-4/1（オリーブ黒色粒子、灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
15灰色土7.5Y-6/1（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
16暗青灰色土5PB-3/1（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）

第20号住居跡（D－D'）
1オリーブ黒色土5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）
2暗灰色土N-3/（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、灰多量、焼土、炭化物含む）
3灰色土7.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む、上層・下層に炭化物の帯）
4灰色土N-4/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
5灰色土5Y-4/1（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む、下層に炭化物の帯）
6オリーブ黒色土5Y-3/1（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
7灰色土N-4/（灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
8暗灰色土N-3/（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物、灰含む）
9灰層（灰色粒子、酸化鉄、焼土、炭化物多量含む）

0　2m
1：60

第16図　第20号住居跡



第21号住居跡（A－A'）
1暗灰色土N-3/（灰色粒子、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
2灰色土N-4/（灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄を含む）
3灰色土N-4/（灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄を含む）
4暗灰色土N-3/（灰色粒子、マンガン粒子、炭化物、酸化鉄を含む）
5暗灰色土N-3/（灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄を含む）

第21号住居跡（B－B'）
1灰色土N-4/（灰色粒子、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）

第21号住居跡（C－C'）
1暗灰色土N-3/（マンガン粒子、焼土、炭化物を多量、酸化鉄を含む）
2灰色土7.5Y-6/1（灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄を含む）
3暗紫灰色土5P-2/1（熱を受けて焼土化、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
4暗灰色土N-3/（灰色粒子、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）

第21号住居跡（D－D'）
1暗灰色土N-3/（マンガン粒子、焼土、炭化物を多量、酸化鉄を含む）
2灰色土7.5Y-6/1（灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄を含む）
3暗灰色土N-3/（焼土、炭化物、酸化鉄を含む）

第21号住居跡（E－E'）
1暗灰色土N-3/（灰色粒子、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
2灰色土N-4/（灰色粒子、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
3暗紫灰色土5P-2/1（熱を受けて焼土化、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
4暗灰色土N-3/（灰色粒子、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）

第21号住居跡（F－F'）
1暗灰色土N-3/（灰色粒子、灰、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
2暗灰色土N-3/（灰色粒子、焼土、炭化物、マンガン粒子、酸化鉄を含む）

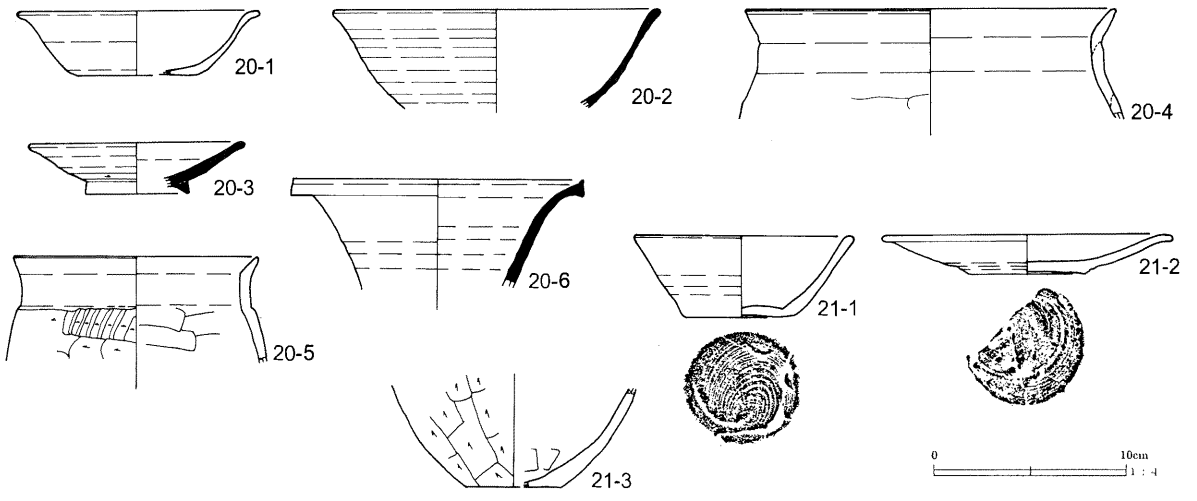
第21号住居跡（G－G'）
1灰色土10Y-5/1（灰色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄を含む）

第21号住居跡（H－H'）
1暗灰色粘質土N-3/（灰を多量、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
2灰色粘質土N-4/（明褐色がかる、炭化物、酸化鉄多量、土器片含む）

第17図　第21号住居跡

第1表(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
18-18	土師器甕	—	—	—	ABGL	褐灰色	A	胴中央部～下半部	末野産。
19-1	須恵器坏	(12.8)	3.4	6.4	AEHJN	褐灰色	D	口縁部20%	
19-2	須恵器坏	(12.2)	3.9	(5.5)	ABHIN	外面：灰白色　内面：明黄褐色	E	30%	
19-3	須恵器坏	—	—	5.5	ABGN	灰白色、灰色	A	底部100%	
19-4	須恵器坏	12.6	3.5	5.2	AE	外面：にぶい褐色　内面：黒褐色	E	35%	
19-5	須恵器坏	—	—	5.6	ABDL	にぶい黄橙色	D	底部100%	末野産。
19-6	須恵器坏	12.5	3.9	6.0	ABHN	外面：橙色　内面：灰白色	D	100%	
19-7	須恵器椀	(13.2)	—	—	BCMN	にぶい黄橙色、褐灰色	E	20%(口縁部15%)	末野産。
19-8	須恵器椀	—	—	6.9	BC	外面：褐灰色　内面：橙色	E	底部100%	
19-9	須恵器椀	—	—	7.6	ACHJ	橙色	E	底部100%	
19-10	須恵器椀	—	—	8.4	ACHJ	にぶい橙色	D	底部100%	
19-11	須恵器椀	—	—	(6.0)	ADH	灰黄色	E	底部70%	末野産。
19-12	須恵器椀	—	—	6.2	ACHJ	外面：灰白色　内面：褐灰色	E	底部100%	
19-13	灰釉陶器皿	(14.0)	—	—	BP	灰色	A	口縁部10%以下	
19-14	緑釉陶器稜椀	—	—	—	BP	淡緑色	A	体部破片	
19-15	緑釉陶器椀	—	—	—	BP	淡緑色	A	口縁部破片	
19-16	土師器甕	21.3	—	—	BN	外面：にぶい橙色　内面：にぶい褐色	E	口縁部60%	
20-1	須恵器坏	(12.9)	3.4	(6.2)	ABG	黄灰色	C	15%	内面に油煙付着。
20-2	須恵器椀	(17.5)	—	—	BF	灰白色	D	20%	南比企産。
20-3	須恵器皿	(11.5)	2.7	(5.5)	ABF	灰色	A	20%	南比企産。
20-4	土師器甕	(19.6)	—	—	ACHM	外面：にぶい橙色　内面：橙色	A	口縁部25%	
20-5	土師器台付甕	(13.0)	—	—	ACHJM	外面：褐灰色　内面：橙色	D	口縁部20%	
20-6	須恵器壺	(15.4)	—	—	A	暗灰色	A	口縁部20%	



第18図　第20・21号住居跡出土遺物

第１表(3)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
21-1	須恵器坏	(11.6)	4.3	6.0	ABEHI	外面：にぶい褐色　内面：橙色	E	60%	
21-2	須恵器皿	(15.8)	2.1	6.0	AEGN	外面：にぶい黄橙色　内面：にぶい褐色	E	口縁部～底部70%	
21-3	土師器甕	—	—	(5.0)	ABHJ	橙色	D	底部25%～胴下半	外面煤ける。

(2)　掘立柱建物跡

第21号掘立柱建物跡（第19・23図、第２表）

４区Ｒ－６グリッド、４区Ｒ－７グリッドを中心に位置する。Ｉ区第16号土坑と重複関係にあった。東寄りに攪乱があり北東隅の柱穴が一部破壊されている。

２間×３間の建物で、梁行4.9m、桁行6.3m、面積はおよそ30.87㎡を測る。柱間は梁行で2.1m、2.6mであった。Ｎ－７°－Ｗを指す。

柱穴は基本的に方形の掘り方で、大きなもので長径133cm×短径80cm×深さ73cm、小さなもので長径86cm×短径80cm×深さ53cmほどであった。柱痕は、非常に良く残っており、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ６、Ｐ７、Ｐ８の５柱穴では、柱が完全に朽ちないで残っていた。Ｐ２の柱痕は、残存の径が23cm、他の柱痕も10数cm前後を測る。

出土遺物は、須恵器蓋・坏、土師器甕、灰釉陶器破片などが出土した。

第22号掘立柱建物跡（第20図）

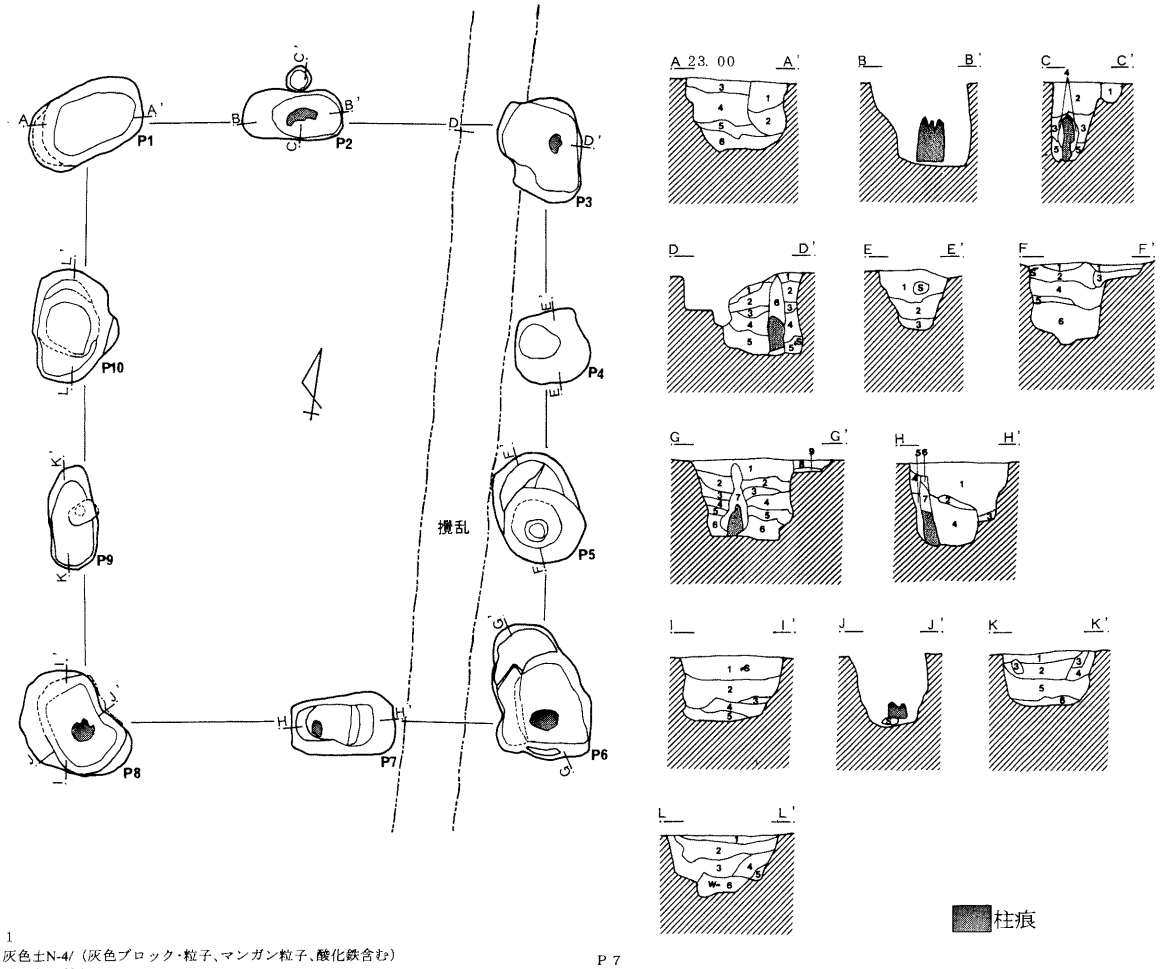
４区Ｑ－５、Ｑ－６グリッドを中心に位置する。Ｉ区第５号溝跡によって東南の２柱穴が切られ確認できなかった。

２間×３間の建物で、梁行3.7m、桁行9.9m、面積はおよそ36.63㎡を測る。柱間は梁行1.8m、桁行3.3m前後であった。

棟筋には、柱筋を揃え、Ｐ５、Ｐ８が確認できた。屋内に作られた棟持ち柱か、床束と考えられるが、他の柱穴と規模が共通することから、棟持ち柱と考えられる。

柱穴は径53cm～80cmで、基本的には方形に掘られたと思われるが、調査時点では楕円形を呈するものが多かった。

建物方向はほぼ真北を指す南北棟であった。

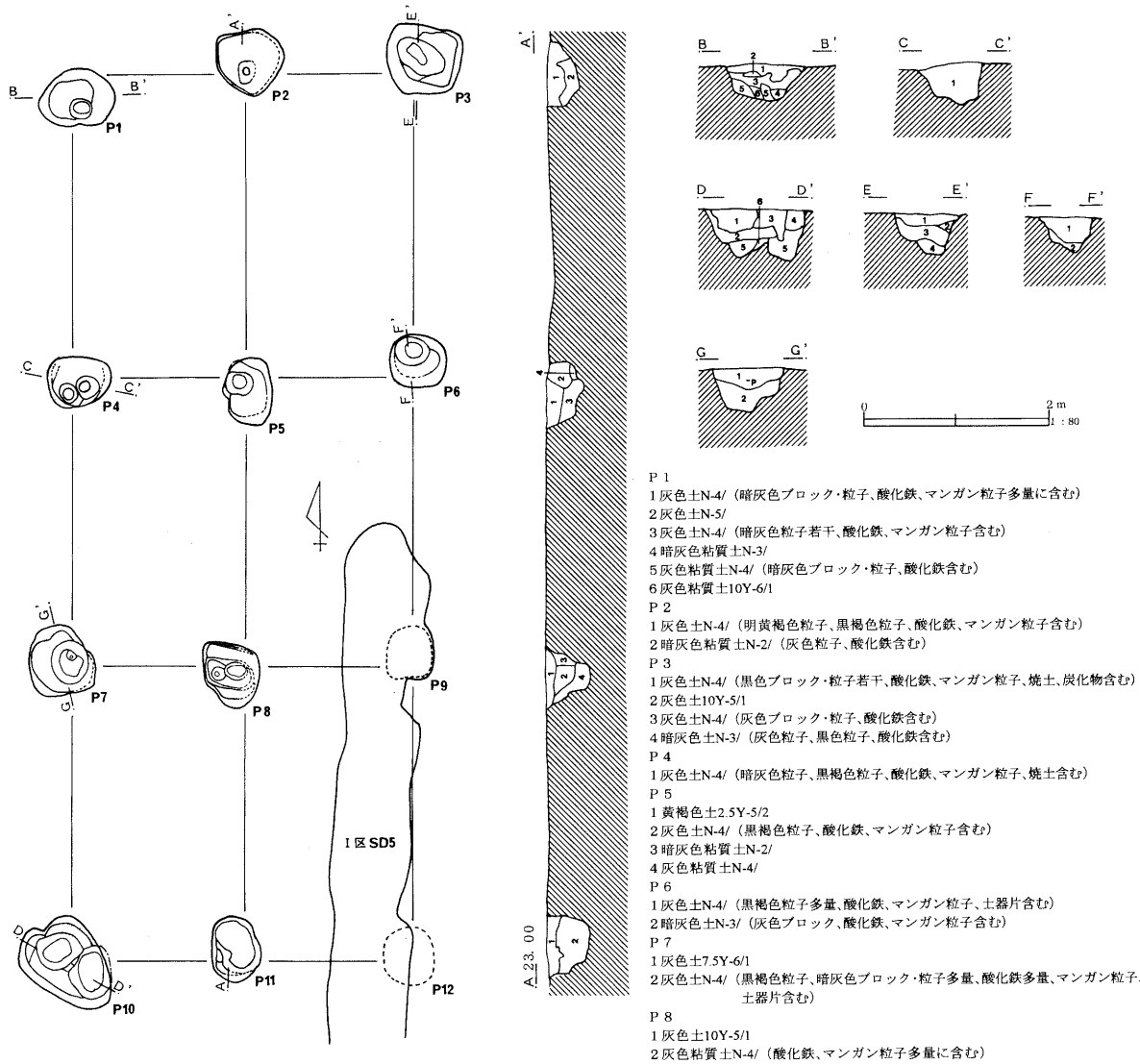


P 1
1 灰色土N-4/（灰色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
2 暗灰色粘質土N-3/
3 灰色土N-4/（灰色粒子若干、マンガン粒子多量、酸化鉄、焼土、炭化物含む）
4 暗灰色土N-3/（灰色ブロック・粒子、黒色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄、焼土若干含む）
5 黒色粘質土N-2/
6 灰色土N-4/（灰色粒子、暗灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
P 2
1 灰色土N-5/（暗灰色粒子、灰色粒子若干、マンガン粒子、酸化鉄含む）
2 灰色土N-4/（黒褐色ブロック・粒子、灰色ブロック、マンガン粒子、酸化鉄含む）
3 暗灰色粘質土N-3/（灰色ブロック・粒子、黒色粒子、酸化鉄含む）
4 灰色粘土N-4/
5 暗灰色粘土N-3/（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
P 3
1 灰色土N-5/（暗灰色粒子若干、マンガン粒子、酸化鉄含む）
2 灰色土N-4/（暗灰色粒子若干、マンガン粒子、酸化鉄含む）
3 灰色土10Y-4/1（灰色粒子、黒色粒子、酸化鉄、土器片含む）
4 灰色粘質土10Y-5/1
5 暗灰色粘土N-3/（黒色粒子、灰色粒子若干、酸化鉄含む）
6 柱痕の攪乱
P 4
1 灰色土N-4/（暗灰色ブロック・粒子、灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄、焼土若干、土器片含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（灰色ブロック若干、酸化鉄、焼土、炭化物含む）
3 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1
P 5
1 灰色土10Y-5/1
2 灰色土N-5/（暗灰色ブロック・粒子、黒褐色ブロック・粒子、マンガン粒子多量、酸化鉄、焼土、炭化物含む）
3 暗灰色土N-3/（灰色ブロック・粒子、黒色粒子、酸化鉄、焼土若干含む）
4 黒色粘質土N-2/
5 暗灰色粘質土N-3/（黒色ブロック・粒子、灰色粒子、酸化鉄多量、焼土含む）
6 灰色土N-4/（黒褐色粒子、灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
P 6
1 灰色土N-4/（黒褐色ブロック・粒子、灰白色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子、マンガン粒子多量、酸化鉄、焼土、炭化物含む）
2 暗灰色土N-3/（黒色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄、焼土、炭化物含む）
3 灰色土N-4/（灰色ブロック・粒子多量、マンガン粒子、酸化鉄含む）
4 暗灰色土N-3/（灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
5 灰色粘質土N-4/
6 暗灰色粘土N-3/
7 灰色土N-4/（灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
8 灰色土N-4/（黒色土粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
9 暗灰色土N-3/（灰色土粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）

P 7
1 灰色土N-4/（紫黒ブロック・粒子多量、灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄、焼土、炭化物、土器片含む）
2 灰色土N-5/（黒褐色粒子、灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
3 黒褐色粘質土10YR-3/1
4 暗灰色土N-3/（酸化鉄、炭化物含む）
5 灰色土N-5/（黒褐色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
6 暗青灰色土5PB-3/1
7 暗灰色土N-3/（酸化鉄多量に含み褐色を呈する）
P 8
1 灰色土N-4/（灰オリーブ色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
2 暗灰色土N-3/（灰色ブロック・粒子多量、マンガン粒子、酸化鉄、炭化物含む）
3 明褐色土7.5YR-5/8
4 暗灰色粘土N-3/
5 灰色粘土N-4/
P 9
1 灰色土N-4/
2 暗灰色土N-3/（灰色ブロック・粒子多量、マンガン粒子、酸化鉄、炭化物若干含む）
3 黒色土2.5Y-2/1
4 灰オリーブ色土7.5YR-6/2
5 暗灰色土N-3/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
6 暗灰色粘質土N-3/
7 明褐色粘質土7.5YR-5/8
P 10
1 灰色土N-5/（灰色ブロック・粒子、灰色粒子、マンガン粒子多量、酸化鉄含む）
2 灰色土N-4/（灰色粒子、暗灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
3 暗灰色土N-3/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物含む）
4 灰色土N-4/（灰色ブロック・粒子多量、暗灰色粒子、酸化鉄含む）
5 オリーブ黒色土7.5Y-3/1
6 黒色粘質土N-2/

0　2m
1：80

第19図　第21号掘立柱建物跡



P10
1灰色土7.5Y-5/1（黒褐色粒子、酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
2灰色土N-4/（暗灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3灰色土10Y-5/1（黒褐色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4灰色土N-4/（灰色粒子、黒褐色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
5暗灰色土N-3/（黒色ブロック・粒子、灰色粒子、酸化鉄含む）
6灰色土N-5/

P1
1灰色土N-4/（暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子多量に含む）
2灰色土N-5/
3灰色土N-4/（暗灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4暗灰色粘質土N-3/
5灰色粘質土N-4/（暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
6灰色粘質土10Y-6/1

P2
1灰色土N-4/（明黄褐色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2暗灰色粘質土N-2/（灰色粒子、酸化鉄含む）

P3
1灰色土N-4/（黒色ブロック・粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
2灰色土10Y-5/1
3灰色土N-4/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
4暗灰色土N-3/（灰色粒子、黒色粒子、酸化鉄含む）

P4
1灰色土N-4/（暗灰色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）

P5
1黄褐色土2.5Y-5/2
2灰色土N-4/（黒褐色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3暗灰色粘質土N-2/
4灰色粘質土N-4/

P6
1灰色土N-4/（黒褐色粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子、土器片含む）
2暗灰色土N-3/（灰色ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

P7
1灰色土7.5Y-6/1
2灰色土N-4/（黒褐色粒子、暗灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄多量、マンガン粒子、土器片含む）

P8
1灰色土10Y-5/1
2灰色粘質土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子多量に含む）
3灰色粘質土5Y-4/1
4灰色粘質土N-4/（暗灰色粒子、酸化鉄若干含む）

P11
1灰色土10Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子多量に含む）
2灰色粘質土N-4/（暗灰色ブロック・粒子、オリーブ灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第20図　第22号掘立柱建物跡

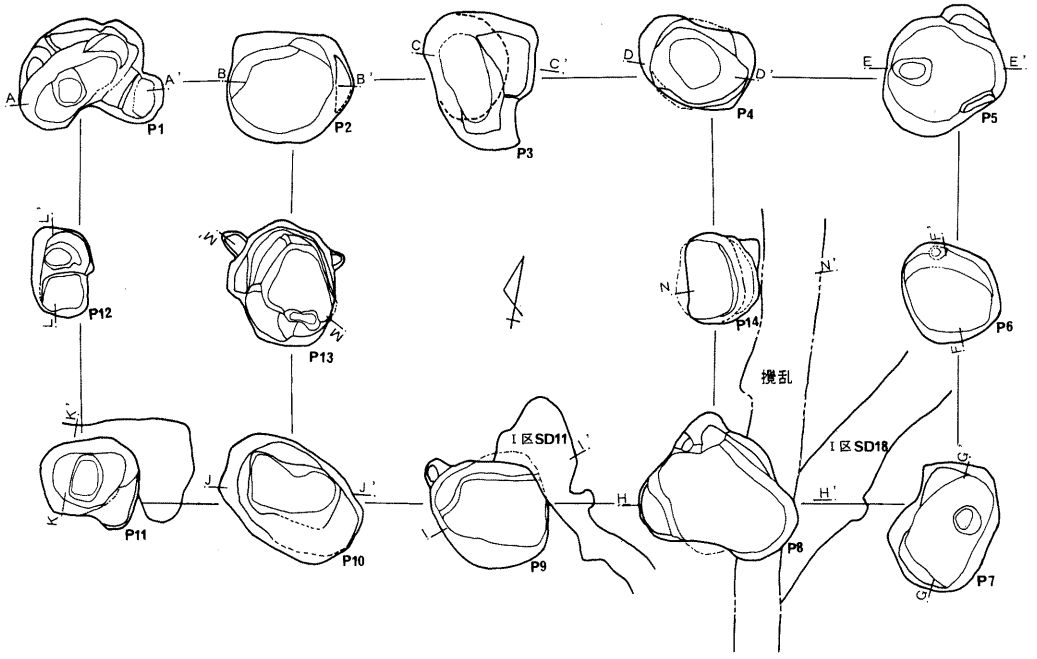
出土遺物は、土師器坏・甕、須恵器蓋・坏・甕などの破片が検出できたが図示可能な遺物ではなかった。

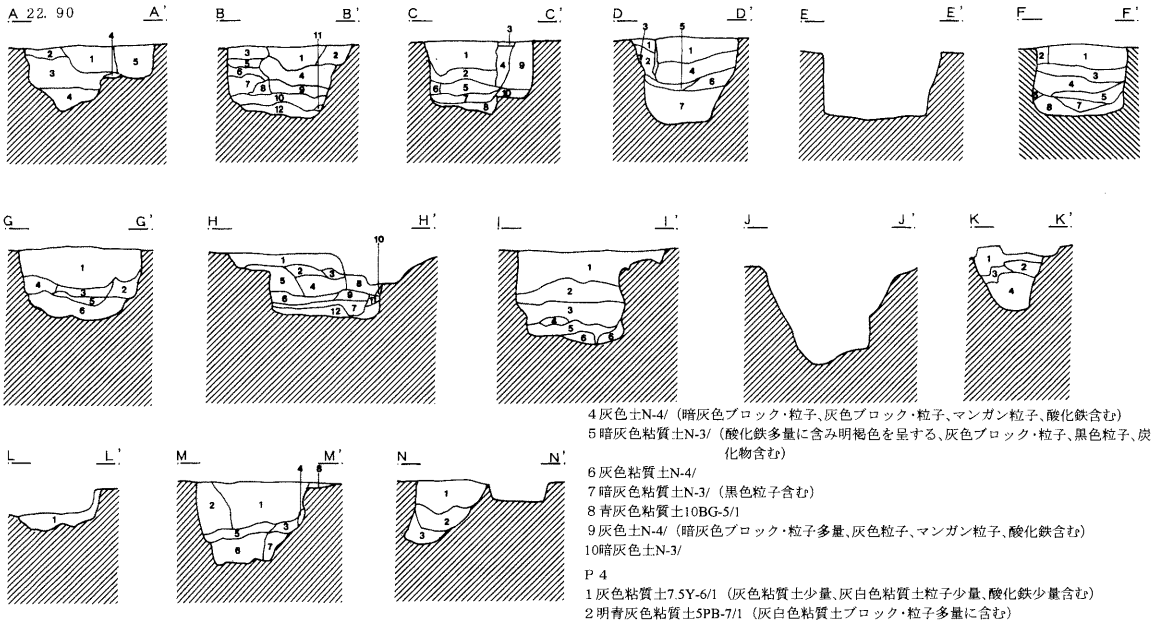
第23号掘立柱建物跡（第21・23図、第２表）

４区Ｒ－６、Ｓ－６グリッドを中心に位置する。西側で第19号住居跡と重複する。新旧関係は、本遺構の方が古い。

２間×４間の建物で、梁行4.6m、桁行9.4m、面積はおよそ24.85㎡を測る。柱間は梁行2.3m、桁行2.1m～2.6mであった。建物の方向はＮ－81°－Ｅを指す。

棟筋には、柱筋を揃え、Ｐ13、Ｐ14が確認できたが、中央には柱穴を確認できなかった。柱穴の規模





P 1
1 褐灰色土10YR-5/1
2 褐灰色土10YR-4/1
3 黄灰色土2.5Y-5/1（灰オリーブブロック、黒褐色ブロック、マンガン粒子、酸化鉄含む）
4 灰色土5Y-5/1
5 黄灰色土2.5Y-5/1（灰オリーブブロック・小ブロック、黒褐色ブロック・小ブロック、マンガン粒子、酸化鉄含む）

P 2
1 黒褐色土2.5Y-3/1
2 灰色土10Y-5/1
3 灰色土5Y-5/1（灰色ブロック・粒子、オリーブ黒色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
4 灰色土N-5/（暗灰色粒子、黒色粒子、灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
5 黄灰色土2.5Y-4/1（黒褐色ブロック・粒子、灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
6 灰色土5Y-4/1
7 黄灰色土2.5Y-4/1（黒褐色粒子若干、マンガン粒子、酸化鉄含む）
8 オリーブ褐色土2.5Y-4/4
9 灰色土5Y-5/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、オリーブ黒色ブロック・粒子含む）
10灰色粘質土N-4/
11暗灰色粘質土N-3/
12灰色粘質土N-5/

P 3
1 灰色土N-5/（灰色粒子、暗灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄、炭化物若干含む）
2 灰色土N-4/（暗灰色ブロック・粒子、灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
3 暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子、酸化鉄含む）
4 灰色土N-4/（暗灰色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
5 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、灰色ブロック・粒子、黒色粒子、炭化物含む）
6 灰色粘質土N-4/
7 暗灰色粘質土N-3/（黒色粒子含む）
8 青灰色粘質土10BG-5/1
9 灰色土N-4/（暗灰色ブロック・粒子多量、灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
10暗灰色土N-3/

P 4
1 灰色粘質土7.5Y-6/1（灰色粘質土少量、灰白色粘質土粒子少量、酸化鉄少量含む）
2 明青灰色粘質土5PB-7/1（灰白色粘質土ブロック・粒子多量に含む）
3 灰色粘質土N-5/
4 灰色粘質土10Y-5/1
5 褐灰色粘質土10YR-4/1
6 灰色粘質土7.5Y-6/1（灰白色粘質土多量に混じる、黒褐色粘質土ブロック・粒子少量含む）
7 灰色粘質土N-4/

P 6
1 灰白色土10Y-5/1
2 黄灰色土2.5Y-4/1
3 黄灰色土2.5Y-6/1
4 灰色土5Y-5/1
5 灰色土N-6/
6 明オリーブ灰色土2.5GY-7/1
7 灰色粘土10Y-6/1
8 灰オリーブ粘土5Y-6/2

P 7
1 灰色土5Y-5/1（黒褐色ブロック、灰色ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 灰色土10Y-5/1（粘性ある、黒褐色ブロック、マンガン粒子、酸化鉄含む）
3 黄灰色土2.5Y-5/1
4 灰色土5Y-5/1（黒褐色ブロック、灰色ブロック、マンガン粒子、酸化鉄含む）
5 灰色粘土7.5Y-5/1
6 青灰色粘土5B-5/1

0　2 m
1 : 80

第21図　第23号掘立柱建物跡

第23号掘立柱建物跡
P 8
1 黄灰色土2.5Y-6/1
2 黄灰色土2.5Y-5/1
3 灰色土5Y-5/1
4 褐灰色粘質土10YR-5/1
5 灰色粘質土7.5Y-6/1
6 灰色粘質土10Y-6/1
7 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1
8 灰色土7.5Y-5/1
9 灰オリーブ土5Y-6/2
10 褐灰色土10YR-4/1
11 灰色土10Y-6/1
12 明青灰色粘土5BG-7/1
P 9
1 黄灰色土2.5Y-6/1
2 灰黄色土2.5Y-7/2
3 灰色粘質土10Y-6/1
4 明緑灰粘質土10GY-7/1
5 黄灰色粘質土2.5Y-5/1
6 オリーブ灰色粘質土5GY-6/1
P 11
1 灰色土5Y-5/1（灰白色ブロック、褐灰色ブロック、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄含む）
2 灰色土7.5Y-5/1
3 暗灰黄土2.5Y-5/2（にぶい黄色ブロック、黒褐色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
4 灰色粘土7.5Y-6/1
P 12
1 灰色土5Y-7/2（黒褐色ブロック、黄灰色ブロック、マンガン粒子、酸化鉄含む）
P 13
1 灰色土N-5/（暗灰色粒子、灰白色粒子、マンガン粒子、酸化鉄、焼土含む）
2 灰色土10Y-5/1
3 灰色粘質土N-4/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、暗灰色ブロック・粒子、黄褐色ブロック・粒子含む）
4 灰色土N-6/（暗灰色粒子、灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
5 明褐色土7.5YR-5/2
6 灰色粘質土N-4/（暗灰色粒子、酸化鉄若干、土器片含む）
7 暗灰色粘質土N-3/（灰色ブロック・粒子、緑灰色ブロック、酸化鉄含む）
8 灰色土N-6/（暗灰色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
P 14
1 灰色土10Y-6/1
2 黄灰色土2.5Y-5/1
3 灰色粘質土7.5Y-4/1（暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）

が側柱と大差がないことから、棟持ち柱と考えられる。

柱穴の掘り方は基本的に方形を呈すると思われ、大きなもので長径160cm×短径106cm×深さ106cm、小さなもので長径93cm×短径73cm×深さ46cmを測る。

建物方向はほぼ真北を指す南北棟であった。

出土遺物は、須恵器坏・甕、土師器甕・台付甕などの他、土師器壺・土製勾玉が検出できたがこれは混入品と考えられる。

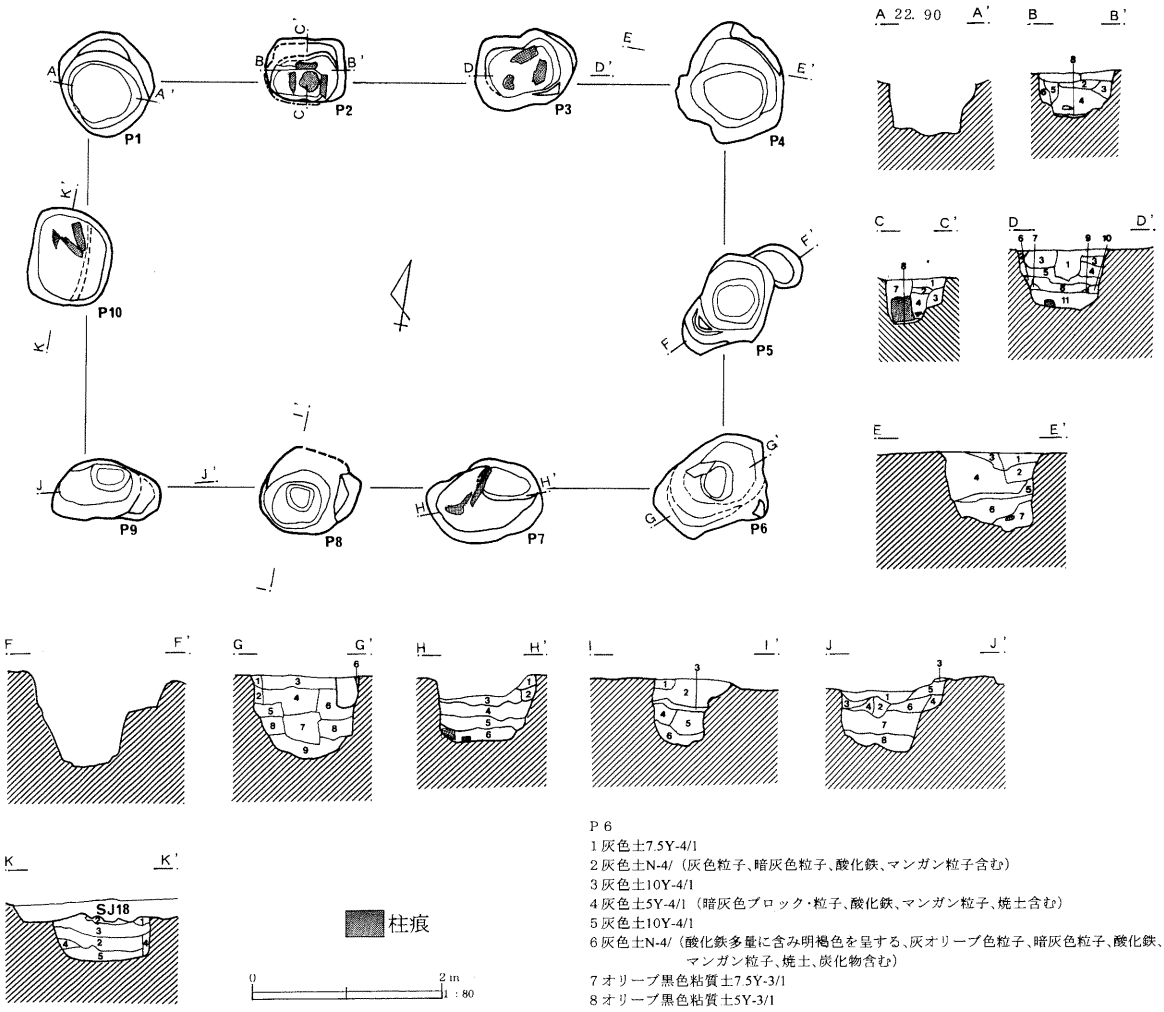
第24号掘立柱建物跡（第22・23図、第２表）

４区Ｔ－９グリッド、５区Ａ－９グリッドにまたがり位置する。第18号住居跡、第20号住居跡と重複しており、第18号住居跡に次いで本遺構が古い。

２間×３間の建物で梁行4.5m、桁行6.5m、面積29.25㎡を測る。柱間は梁行1.9m～2.3m、桁行1.9m～2.3mであった。建物の方向はＮ－80°－Ｅを指す。

柱穴の掘り方は方形を基本とし、大きなもので長径126cm×短径86cm×深さ90cm、小さなもので長径85cm×短径72cm×深さ46cmを測る。柱痕は残りの良いものが幾つかあった。なかでもＰ２、Ｐ３、Ｐ７、Ｐ10の四つの柱穴については、柱材が完全に朽ちないで残っていた。Ｐ２の柱痕は径20cmを測った。

出土遺物は、須恵器蓋・坏などが検出できた。須恵器坏には墨書の見られるものがあった。



P 2
1 暗灰黄色土2.5Y-4/2
2 緑灰色粘質土10GY-5/1
3 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（青灰色ブロック・粒子、灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
4 暗青灰色粘質土5B-3/1
5 青灰色粘質土10BG-5/1（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
6 暗灰色粘質土N-3/（青灰色ブロック・粒子、黒色ブロック、酸化鉄含む）
7 灰色粘質土10Y-4/1（柱痕による攪乱土、炭化物、焼土、酸化鉄含む）
8 青灰色粘質土10BG-5/1（オリーブ黒色粒子、酸化鉄含む）

P 3
1 灰色土N-4/（灰色粒子、暗灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
2 オリーブ黒色土7.5Y-3/1
3 灰色土N-5/（灰色ブロック・粒子、暗灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
4 暗灰色土N-3/
5 灰色土N-4/（灰色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
6 オリーブ黒色土5Y-3/1
7 灰色粘質土N-4/（灰色粒子、酸化鉄含む）
8 黄褐色土2.5Y-5/6
9 灰色土7.5Y-4/1
10 青灰色粘質土5B-6/1
11 灰色粘質土N-4/（暗灰色ブロック・粒子若干、酸化鉄、炭化物含む）

P 4
1 暗灰色土N-3/
2 オリーブ黒色土7.5Y-3/1
3 灰色土7.5Y-4/1
4 灰色土N-4/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
5 灰色粘質土N-4/（灰オリーブ色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄含む）
6 暗灰色粘質土N-3/（黒色ブロック粒子、灰色粒子、、酸化鉄含む）
7 黒色粘質土N-2/（灰色粒子若干、酸化鉄、木片含む）

P 6
1 灰色土7.5Y-4/1
2 灰色土N-4/（灰色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 灰色土10Y-4/1
4 灰色土5Y-4/1（暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）
5 灰色土10Y-4/1
6 灰色土N-4/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、灰オリーブ色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
7 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1
8 オリーブ黒色粘質土5Y-3/1
9 暗灰色粘質土N-3/

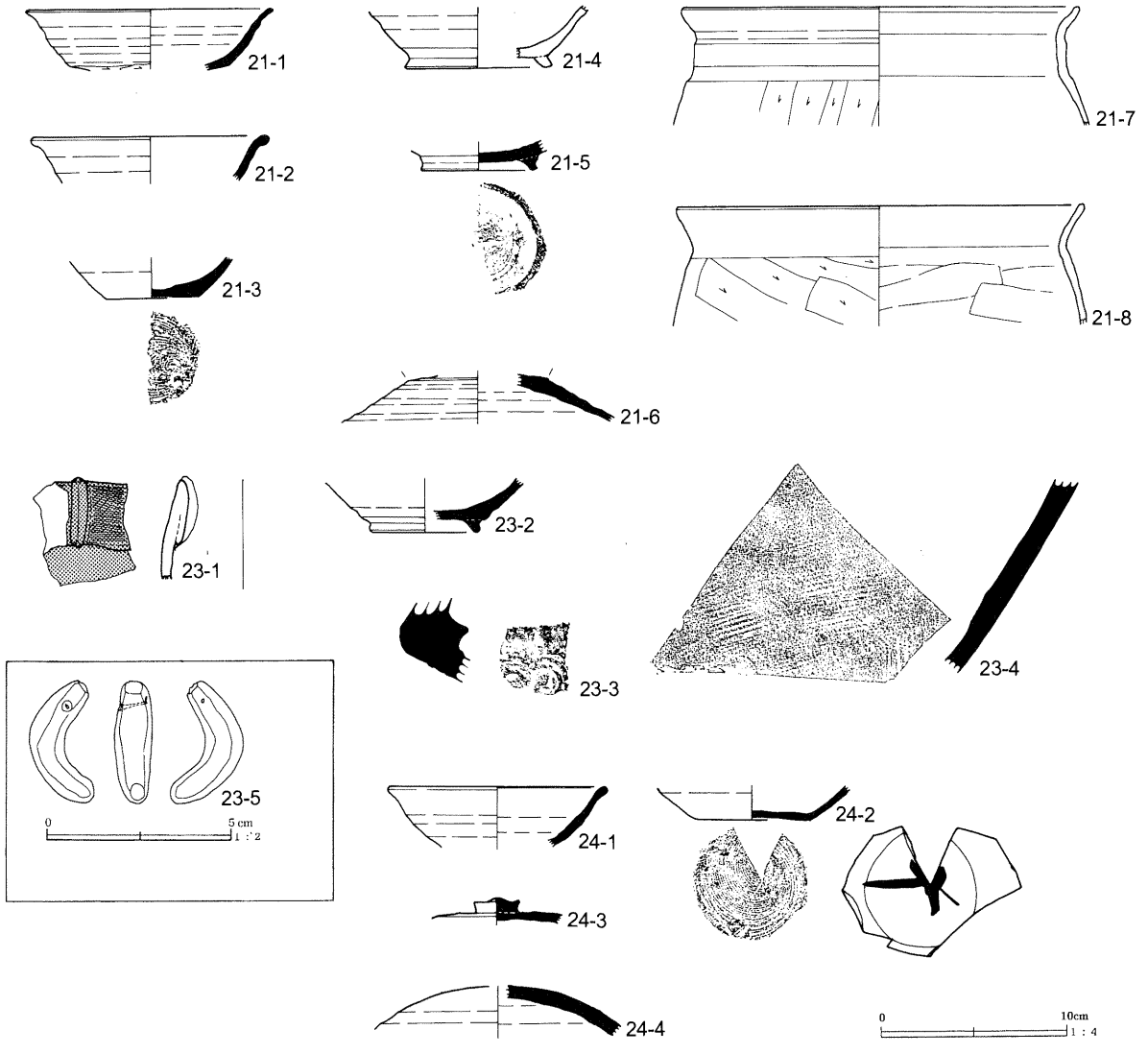
P 7
1 灰色土N-5/
2 暗灰色土N-3/
3 灰色土N-4/
4 黄褐色土10YR-5/6
5 灰色粘質土N-4/（暗灰色粒子多量、青灰色粒子、酸化鉄含む）
6 暗灰色粘質土N-3/

P 8
1 暗灰色土N-3/
2 灰色土N-4/（灰色粒子、暗灰色粒子、黒色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 灰色土7.5Y-5/1（かたくしまる、酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、青灰色粒子、オリーブ黄色ブロック・粒子、マンガン粒子含む）
4 灰色粘質土N-4/（オリーブ灰色ブロック・粒子多量、暗灰色粒子、酸化鉄含む）
5 暗オリーブ灰色粘質土2.5GY-3/1
6 暗灰色粘質土N-3/（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物若干含む）

P 9
1 灰色土5Y-4/1
2 黒褐色土2.5Y-3/1
3 灰色土10Y-5/1
4 黄褐色土2.5Y-5/4
5 灰色土N-5/（暗灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
6 灰色土7.5Y-5/1
7 灰色粘質土N-4/（黒色ブロック・粒子、灰色粒子、酸化鉄含む）
8 暗灰色粘質土N-3/

P10
1 灰色土7.5Y-5/1
2 灰色土N-4/
3 灰色粘質土N-5/（灰オリーブ色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄含む）
4 青灰色粘質土5B-5/1（暗灰色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
5 灰色粘質土N-5/（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む、木片含む））

第22図　第24号掘立柱建物跡



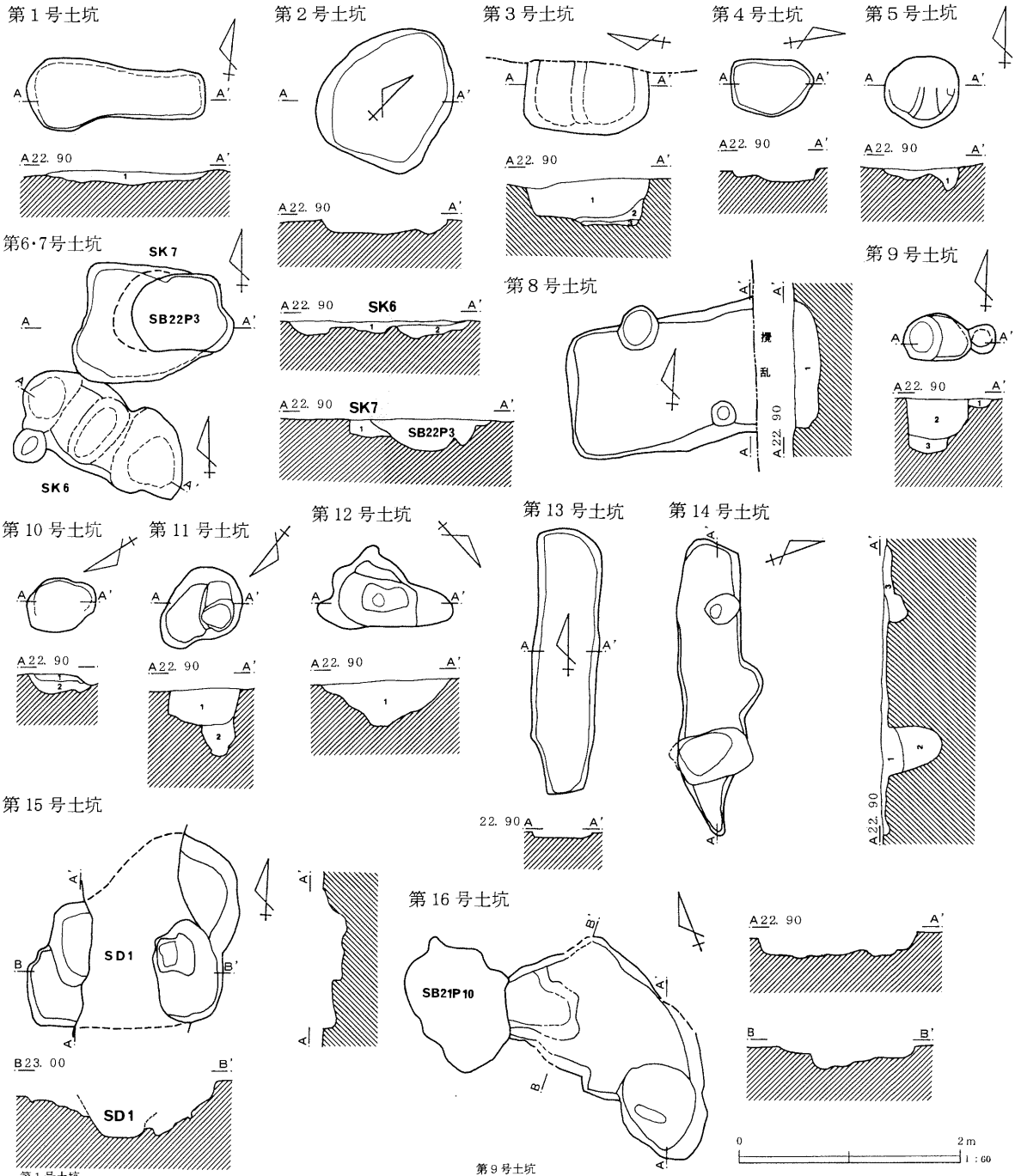
第23図　第21・23・24号掘立柱建物跡出土遺物

第２表　第21・23・24号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
21-1	須恵器坏	(13.2)	—	—	AB	灰色	C	口縁部20%	P5
21-2	須恵器椀	—	—	—	ABG	緑灰色	C	口縁部10%	P1
21-3	須恵器坏	—	—	5.0	AEN	灰色	A	底部50%	P1
21-4	須恵器椀	—	—	(8.0)	AB	外面：明黄褐色　内面：灰黄褐色	C	底部20%	P7
21-5	須恵器椀	—	—	(6.4)	AB	灰色	A	底部50%	P6
21-6	須恵器蓋	—	—	—	F	灰色	A	甲部15%	南比企産。P6
21-7	土師器甕	(21.6)	—	—	BE	浅黄橙色	A	口縁部10%	P6
21-8	土師器甕	(22.2)	—	—	ABE	橙色	C	口縁部～胴上半部破片	P6
23-1	土師器壺	—	—	—	AI	明赤褐色	C	口縁部10%以下	内外面に赤彩。P10
23-2	須恵器椀	—	—	(6.0)	ABGN	外面：灰白色　内面：赤灰色	C	底部35%	P3
23-3	須恵器甕	—	—	—	AG	灰色	A	頸部10%以下	P3
23-4	須恵器甕	—	—	—	A	外面：灰色　内面：褐灰色	A	胴部30%	P6
23-5	勾玉	長さ3.4	幅1.0	重さ4.6	—	—	—	完形	P5
24-1	須恵器坏	(12.0)	—	—	ABFG	緑灰色	C	口縁部10%以下	南比企産。P3
24-2	須恵器坏	—	—	6.3	AB	灰色	A	底部85%	墨書「木」。P1
24-3	須恵器蓋	—	—	—	AFN	灰色	A	つまみ100%	転用硯用途。南比企産。P1
24-4	須恵器蓋	—	—	—	F	オリーブ灰色	A	25%	南比企産。P9

(3)　土坑・ピット

土坑は総数にして65基検出された。以下、一覧表にして掲載する（第24～32図、第３～５表）。

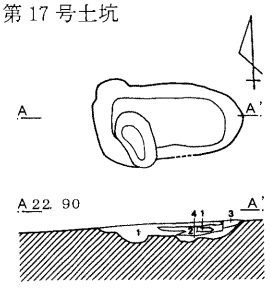


第１号土坑
１灰色土N-4/（暗灰色土ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第３号土坑
１灰色土N-5/（黒褐色土ブロック・粒子多量、酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
２黒色土2.5Y-2/1（灰色土粒子、酸化鉄含む）
３灰色土N-5/（黒色土ブロック・粒子、酸化鉄多量に含む）
第５号土坑
１灰色土10Y-5/1（酸化鉄含む）
第６号土坑
１灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子多量に含む）
２灰色土N-4/（黒褐色土ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物、マンガン粒子含む）
第７号土坑
１灰色土N-4/（黒色土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
第８号土坑
１暗灰色土N-3/（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）

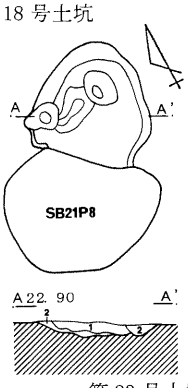
第９号土坑
１灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子、焼土若干含む）
２暗灰色土N-3/（黒褐色粒子、灰オリーブ色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
３暗灰色粘質土N-3/（黒褐色土粒子若干、酸化鉄含む）
第10号土坑
1'灰色土5Y-6/1（酸化鉄少量含む、土器含む）
２灰色土N-6/（酸化鉄若干含む）
第11号土坑
１灰色土N-5/（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物焼土含む）
２灰色粘質土7.5Y-6/1（黄灰色粘土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第12号土坑
１褐灰色土10YR-5/1（灰色土小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
第14号土坑
１灰色土7.5Y-4/1（オリーブ黄色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
２灰色粘質土N-4/（オリーブ黄色土粒子、黒褐色粒子、灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
３灰色土N-4/（黒褐色土粒子、明黄褐色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第24図　I区土坑(1)

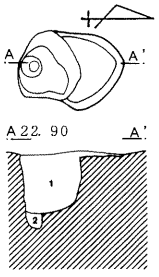
第17号土坑



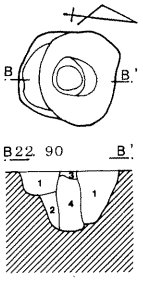
第18号土坑



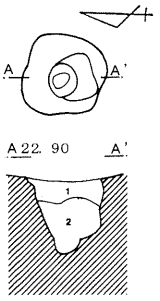
第19号土坑



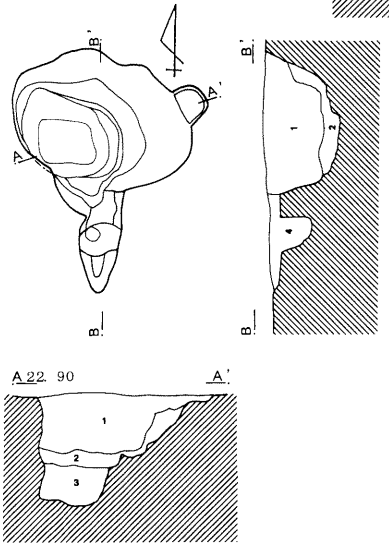
第20号土坑



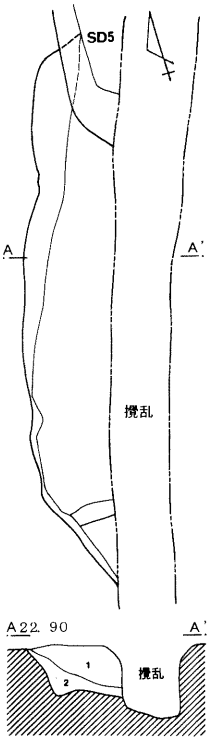
第21号土坑



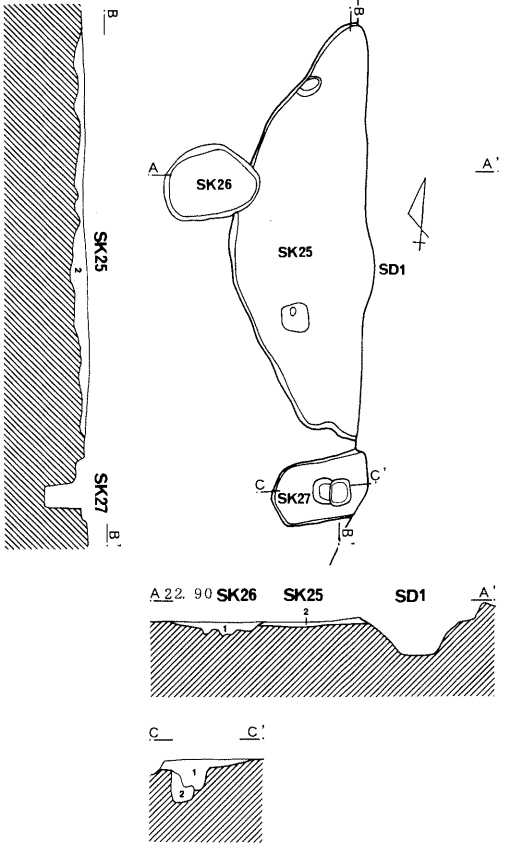
第22号土坑



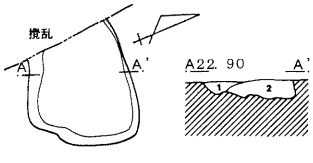
第23号土坑



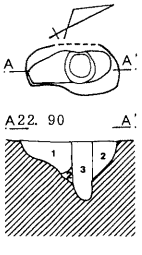
第25・26・27号土坑



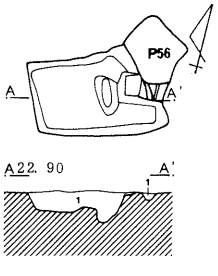
第24号土坑



第28号土坑



第29号土坑



第17号土坑
1 灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
2 炭化物層（灰色粒子、焼土ブロック・粒子含む）
3 灰色土10Y-5/1（焼土多量、酸化鉄、炭化物含む）
4 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（灰色土ブロック・粒子、焼土多量、炭化物含む）

第18号土坑
1 灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
2 暗灰色土N-3/（灰色土ブロック・粒子、酸化鉄、焼土、炭化物多量、土器含む）

第19号土坑
1 黄灰色土2.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 黄灰色土2.5Y-4/1（粘性ある、灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第20号土坑
1 黄灰色土2.5Y-4/1（灰白色土ブロック多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 褐灰色土10YR-4/1（灰白色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 黄灰色土2.5Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
4 褐灰色土7.5YR-4/1（灰白色土ブロック少量、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第21号土坑
1 灰色土5Y-5/1（褐灰色土ブロック、酸化鉄含む）
2 黄灰色土2.5Y-4/1（灰黄色土小ブロック、酸化鉄、炭化物含む）

第22号土坑
1 褐灰色土7.5YR-4/1（灰黄色土小ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
2 黄灰色土2.5Y-5/1（かたくしまる、灰白色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 灰色粘土10Y-6/1（黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4 褐灰色土10YR-5/1（灰黄色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）

第23号土坑
1 灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物、土器片含む）
2 暗灰色土5PB-4/1（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第24号土坑
1 黄灰色土2.5Y-4/1（黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子多量に含む）
2 灰色土7.5Y-5/1（黄灰色土ブロック、黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第25・26号土坑
1 灰色土5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 赤灰色土2.5YR-4/1（灰色土ブロック、酸化鉄含む）

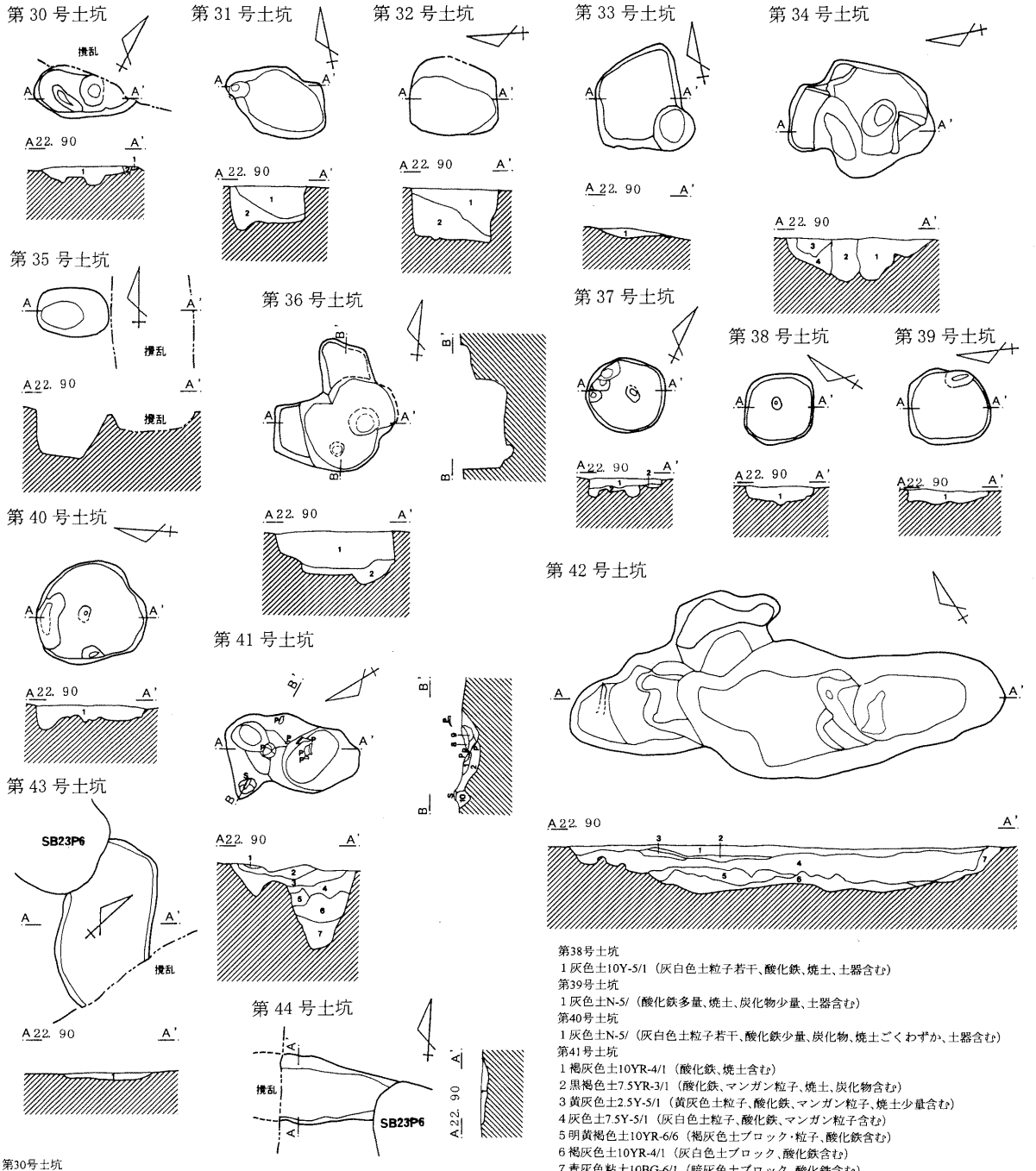
第27号土坑
1 黄灰色土2.5Y-5/1（灰色土小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
2 褐灰色土5YR-4/1（酸化鉄、炭化物、マンガン粒子含む）

第28号土坑
1 黄灰色土2.5Y-5/1（灰色土ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 褐灰色土10YR-5/1（灰色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 灰色土5Y-5/1（酸化鉄多量、マンガン粒子、炭化物少量含む）

第29号土坑
1 褐灰色土10YR-4/1（灰白色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

0 2m
1 : 60

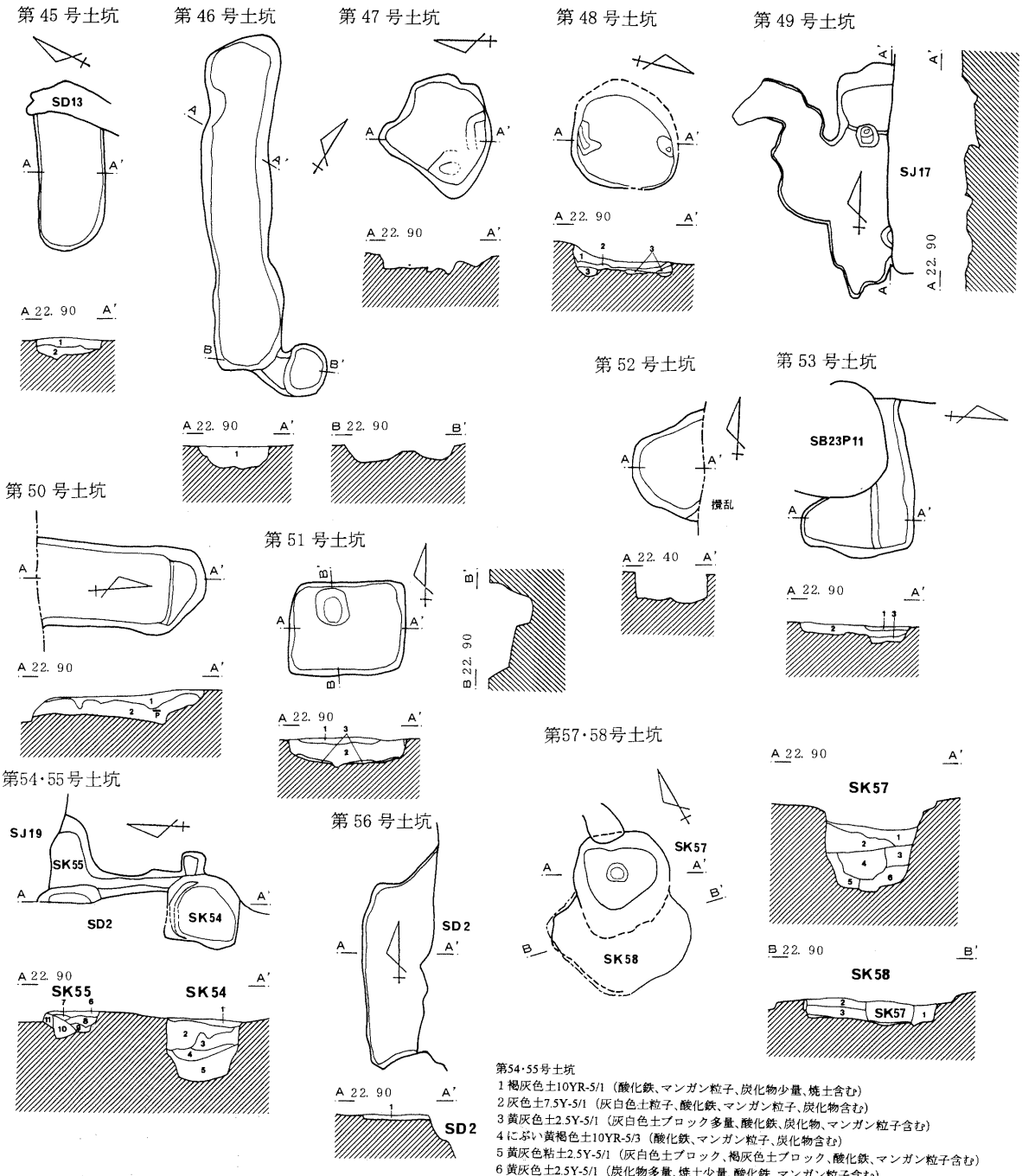
第25図　Ⅰ区土坑(2)



第30号土坑
1 暗青灰色土5PB-3/1（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物、土器片含む）
2 攪乱
第31号土坑
1 灰白色土5Y-7/2（黄灰色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 灰色土5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
第32号土坑
1 灰色土5Y-5/1（褐灰色土ブロック、灰白色土ブロック多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 黄灰色土2.5Y-5/1（灰白色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第33号土坑
1 灰色土10Y-6/1（褐灰色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第34号土坑
1 灰色土7.5Y-5/1（黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 灰色土5Y-5/1（明オリーブ灰色土ブロック、黒褐色小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 黒褐色土2.5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
4 黄灰色土2.5Y-4/1（灰色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第36号土坑
1 灰色土N-4/（暗灰色土ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
2 灰オリーブ色土7.5Y-6/2（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、暗灰色粒子、灰色土ブロック含む）
第37号土坑
1 黄灰色土2.5Y-4/1（灰白色土若干混じる、酸化鉄少量、焼土、炭化物若干、土器含む）
2 灰色土N-6/（酸化鉄少量含む）

第38号土坑
1 灰色土10Y-5/1（灰白色土粒子若干、酸化鉄、焼土、土器含む）
第39号土坑
1 灰色土N-5/（酸化鉄多量、焼土、炭化物少量、土器含む）
第40号土坑
1 灰色土N-5/（灰白色土粒子若干、酸化鉄少量、炭化物、焼土ごくわずか、土器含む）
第41号土坑
1 褐灰色土10YR-4/1（酸化鉄、焼土含む）
2 黒褐色土7.5YR-3/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
3 黄灰色土2.5Y-5/1（黄灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土少量含む）
4 灰色土7.5Y-5/1（灰白色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
5 明黄褐色土10YR-6/6（褐灰色土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
6 褐灰色土10YR-4/1（灰白色土ブロック、酸化鉄含む）
7 青灰色粘土10BG-6/1（暗灰色土ブロック、酸化鉄含む）
8 黒褐色土10YR-3/1（さらさらしている、酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）
9 灰色土5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）
10灰色土7.5Y-5/1（褐灰色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第42号土坑
1 灰色土5Y-4/1（灰白色土微粒子少量、焼土、炭化物少量、土器含む）
2 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（灰多量、焼土、炭化物少量、土器含む）
3 黄灰色土2.5Y-4/1（焼土、炭化物わずかに含む）
4 灰色土7.5Y-5/1（灰白色土粒子・微粒子少量、酸化鉄少量、炭化物ごくわずか含む）
5 灰色土5Y-5/1（灰白色土多量に混じる、酸化鉄、焼土多量、炭化物若干含む）
6 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄少量含む）
7 灰白色土7.5Y-7/2と灰色土N-6/の混合層
第43号土坑
1 灰色土5Y-5/1（暗灰色土ブロック・粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
第44号土坑
1 灰色土N-4/（暗灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第26図　I区土坑(3)



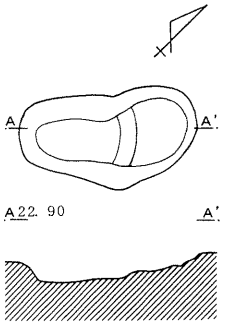
第45号土坑
1灰色土10Y-5/1（黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2灰白色土5Y-7/2（黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第46号土坑
1灰色土N-5/（暗青灰色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第48号土坑
1灰色土N-5/（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
2炭化物層（灰色土粒子、灰白色土粒子若干、焼土、灰含む）
3灰色土10Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
4炭化物層（灰色土粒子、酸化鉄、焼土含む）
第50号土坑
1黄灰色土2.5Y-4/1（焼土、炭化物多量に含む）
2黄灰色土2.5Y-5/1（灰黄色土ブロック、黒褐色土ブロック、酸化鉄、炭化物含む）
第51号土坑
1灰色土7.5Y-6/1（炭化物多量、焼土、酸化鉄含む）
2灰色土N-5/（炭化物多量、酸化鉄、焼土含む）
3炭化物層
第53号土坑
1黄灰色土2.5Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2灰色土5Y-5/1（黒色土ブロック、灰白色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）
3灰色土7.5Y-6/1（黄灰色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第54・55号土坑
1褐灰色土10YR-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物少量、焼土含む）
2灰色土7.5Y-5/1（灰白色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
3黄灰色土2.5Y-5/1（灰白色土ブロック多量、酸化鉄、炭化物、マンガン粒子含む）
4にぶい黄褐色土10YR-5/3（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
5黄灰色粘土2.5Y-5/1（灰白色土ブロック、褐灰色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
6黄灰色土2.5Y-5/1（炭化物多量、焼土少量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
7褐灰色土10YR-4/1（焼土多量、炭化物含む）
8灰オリーブ土5Y-6/2（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
9黄灰色土2.5Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物少量含む）
10黒色土10YR-2/1（灰白色土粒子、炭化物、焼土含む）
11褐灰色土10YR-4/1（灰白色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
第56号土坑
1灰色土7.5Y-6/1（酸化鉄多量に含む）
第57号土坑
1暗灰色粘質土N-3/（灰色土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
2灰色粘質土7.5Y-6/1（暗灰色土粒子若干、酸化鉄含む）
3オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（灰色土ブロック・粒子、灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
4灰色粘質土7.5Y-4/1（青灰色土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
5オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（青灰色土粒子、酸化鉄含む）
6黒色粘質土7.5Y-2/1（青灰色土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
第58号土坑
1暗青灰色土5PB-3/1（灰色土粒子、酸化鉄多量に含む）
2灰色土7.5Y-4/1（炭化物、酸化鉄含む）
3オリーブ黒色土7.5Y-3/2（灰色土粒子、酸化鉄、炭化物、焼土含む）

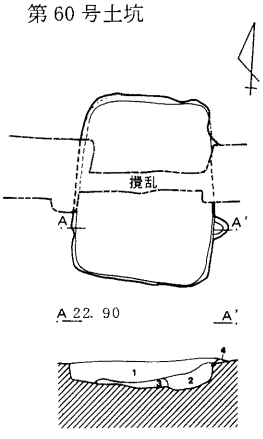
0　2m
1：60

第27図　Ⅰ区土坑(4)

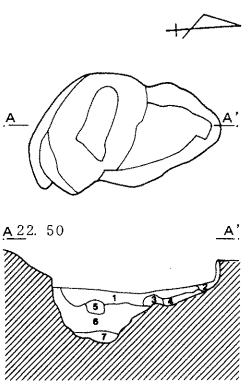
第59号土坑



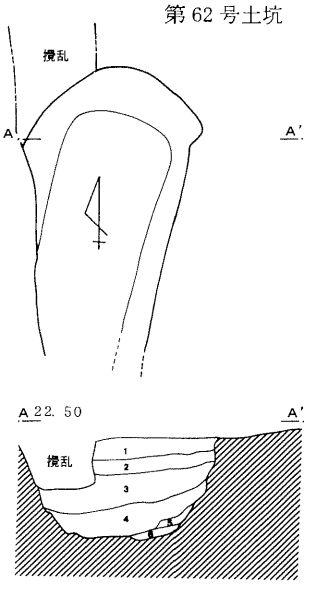
第60号土坑



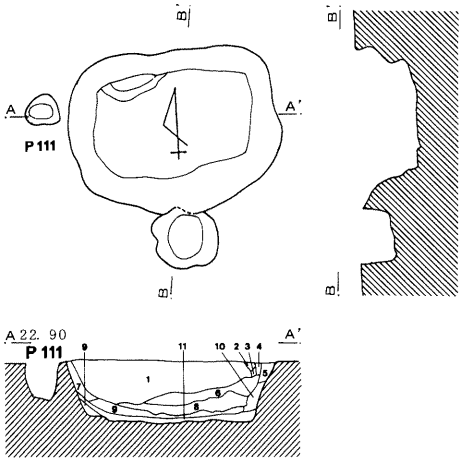
第61号土坑



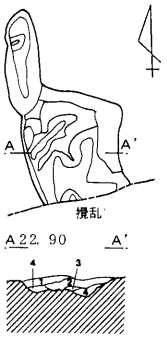
第62号土坑



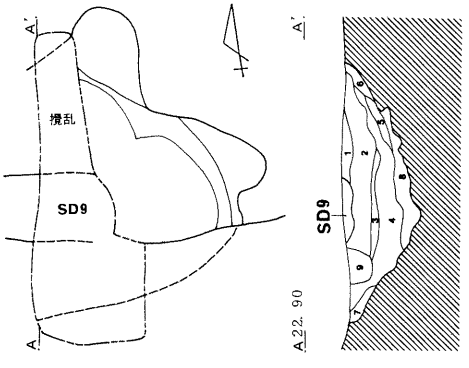
第63号土坑



第64号土坑



第65号土坑



第60号土坑
1 灰色粘質土7.5Y-6/1（かたくしまる、酸化鉄少量、焼土若干、炭化物非常に多く含む）
2 青灰色粘質土5PB-5/1（炭化物、焼土含む）
3 灰色粘質土5Y-5/1（炭化物、焼土多量に含む）
4 灰白色粘質土N-7/（酸化鉄若干含む）

第61号土坑
1 灰色粘質土10Y-4/1（酸化鉄、炭化物含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄、焼土若干含む）
3 青灰色粘質土10BG-6/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する）
4 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
5 緑灰色粘質土7.5GY-5/1（酸化鉄、炭化物含む）
6 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
7 青灰色粘質土10BG-5/1（暗灰色粒子含む）

第62号土坑
1 灰色粘質土N-4/（青灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-5/1（緑灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
3 暗青灰色粘質土N-3/（緑灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
4 オリーブ黒色粘土7.5Y-3/1（緑灰色粘質土ブロック・粒子多量、炭化物、細砂含む）
5 暗緑灰色粘土10GY-4/1（オリーブ黒色粘土ブロック・粒子、細砂含む）
6 暗青灰色粘土5BG-4/1（黒色粘土ブロック・粒子、オリーブ黒色粘土ブロック・粒子、細砂含む）

第63号土坑
1 黄灰色土2.5Y-4/1（灰黄色土小ブロック、酸化鉄、炭化物、焼土少量、マンガン粒子含む）
2 褐灰色土10YR-4/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物、焼土含む）
3 灰色粘質土5Y-6/1（マンガン粒子、焼土、炭化物少量含む）
4 炭化物・焼土層
5 黄灰色土2.5Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物、焼土含む）
6 灰色土7.5Y-5/1（焼土、炭化物多量に含む）
7 灰色土5Y-5/1（炭化物、焼土含む）
8 灰黄色土2.5Y-6/2（炭化物、焼土含む）
9 炭化物・焼土層
10 褐灰色土7.5YR-4/1（炭化物、焼土含む）
11 褐灰色土7.5YR-5/1（酸化鉄、炭化物、焼土含む）

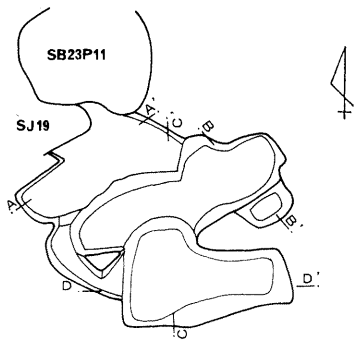
第64号土坑
1 灰色土5Y-5/1（灰白色土粒子若干、焼土、炭化物少量含む、土器含む）
2 灰色土N-4/（灰白色土粒子少量、焼土、炭化物多量に含む）
3 灰白色土7.5Y-7/2（灰色土ごくわずか混じる）
4 オリーブ黒色土5Y-3/1（焼土、炭化物若干含む）

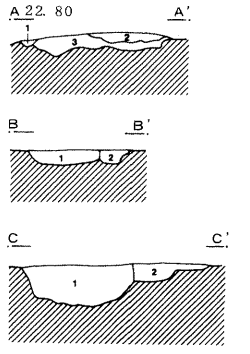
第65号土坑
1 灰色土N-4/（小礫、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
2 暗灰色土N-3/（灰色土粒子、酸化鉄、炭化物、土器含む）
3 灰色土7.5Y-4/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、明褐色土粒子含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（明褐色土ブロック・粒子、酸化鉄多量、炭化物含む）
5 オリーブ黒色粘質土10Y-3/1（酸化鉄、炭化物、焼土、土器含む）
6 暗灰色粘質土N-3/（灰色土粒子多量、酸化鉄、炭化物、焼土含む）
7 灰色土N-4/（酸化鉄多量、マンガン粒子、炭化物含む）
8 灰色粘質土5Y-4/1（青灰色土ブロック・粒子多量、灰色土ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物含む）
9 攪乱

0　2m
1：60

第28図　I区土坑(5)

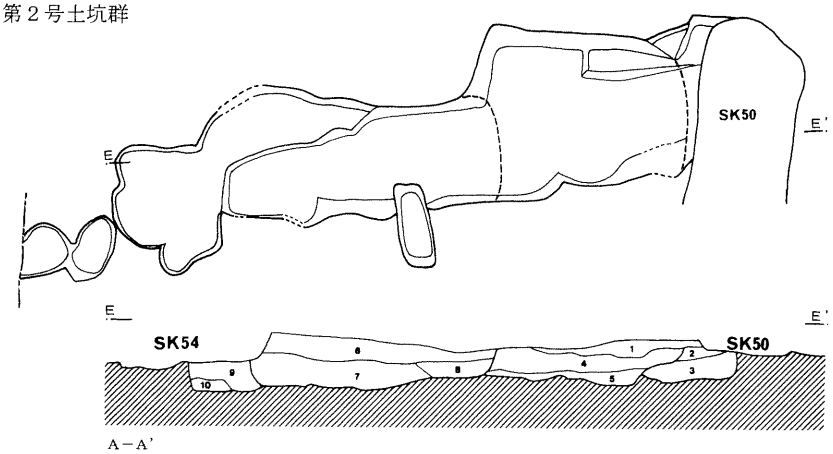
第１号土坑群

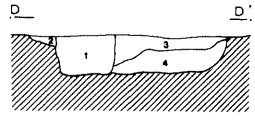




4S9 4R9
4S10 4R10

第２号土坑群





A－A'
1 灰色土5Y-5/1（灰白色土小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 黄灰色土2.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
3 灰色土7.5Y-6/1（黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

B－B'
1 灰色土7.5Y-5/1（黒褐色土小ブロック、灰白色土小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 黒褐色土10YR-3/1（灰白色土小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

C－C'、D－D'
1 灰色土5Y-6/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 灰色土7.5Y-6/1（黒褐色土ブロック・小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 黄灰色土2.5Y-6/1（黒褐色土ブロック・小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4 灰色土5Y-6/1（黒褐色土ブロック・小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

E－E'
1 灰色土5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 褐灰色土10YR-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 黄灰色土2.5Y-4/1（砂混じる、灰白色土ブロック、黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4 黄灰色土2.5Y-5/1（砂質、酸化鉄、マンガン粒子含む）
5 褐灰色土10YR-4/1（灰白色土ブロック、黒褐色土ブロック、砂、酸化鉄、マンガン粒子含む）
6 灰色土5Y-5/1（黒褐色土ブロック、オリーブ灰色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物、焼土含む）
7 灰色土10Y-5/1（酸化鉄多くかたくしまる、マンガン粒子含む）
8 黄灰色土2.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子多量に含む）
9 黄灰色土2.5Y-4/1（砂混じる、酸化鉄、マンガン粒子含む）
10 灰色土5Y-5/1（灰白色土ブロック、黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

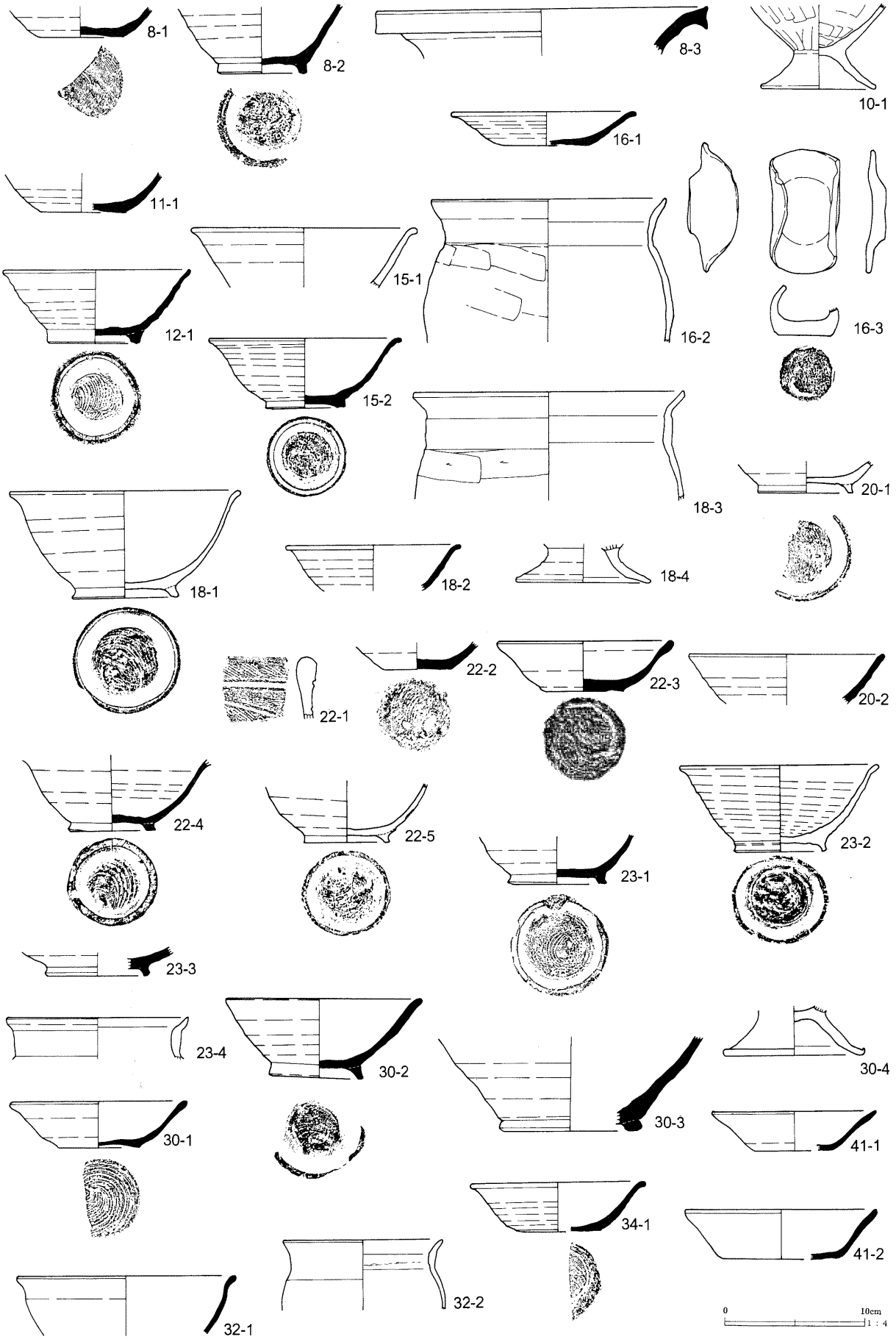
0 2m
1：60

第29図　Ⅰ区土坑群

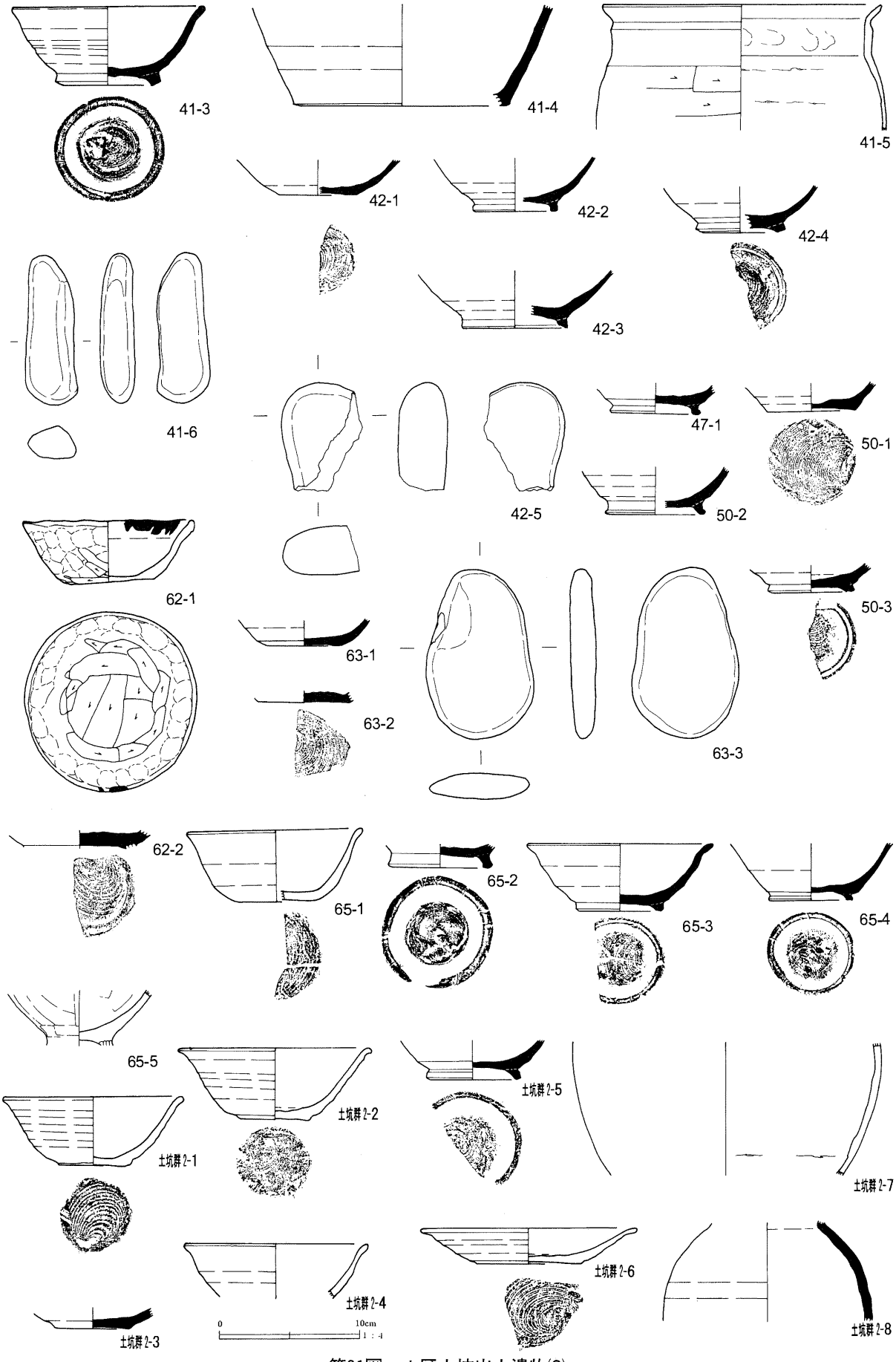
第３表　Ⅰ区土坑一覧表

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ	出土遺物	時期	重複関係	備考
1	4区 R3	楕円形	164 × 440 × 10				
2	4区 R3	円　形	124 × 110 × 12				
3	4区 Q3	長方形	114 × 64 × 44				
4	4区 R4	楕円形	76 × 50 × 12			SD7	
5	4区 R5	円　形	68 × 50 × 22				

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ	出土遺物	時期	重複関係	備考
6	4区 Q5	楕円形	170 × 65 × 14	須恵器坏、土師器甕	9 世紀末	SK7・SB22	ピット 1 つあり
7	4区 Q5	長方形	138 × 78 × 30	土師器坏	9 世紀	SK6	
8	4区 R7	長方形	234 × 120 × 24	須恵器坏・椀・甕、土師器坏・甕	9 世紀末～10世紀初	P32	
9	4区 P・Q6	楕円形	84 × 16 × 50				ピット 1 つあり
10	4区 R5	楕円形	62 × 30 × 18	土師器台付甕	8 世紀末～ 9 世紀初		
11	5区 A5	楕円形	86 × 44 × 62	須恵器坏	10世紀		
12	5区 A5	不整形	124 × 38 × 42	須恵器椀	9 世紀後半		
13	4区 Q5・6	長方形	246 × 40 × 6				
14	4区 R・Q6	不整形	268 × 14 × 54	須恵器坏・椀・甕、土師器台坏甕	10世紀初		
15	4区 T・S6	不整形	230 × 60 × 20	須恵器坏・椀、土師器甕・坏	9 世紀末～10世紀初	SD1	
16	4区 R・S8	不整形	224 × 82 × 24	須恵器坏・椀・甕、土師器甕、耳皿	9 世紀後半	SB21	
17	4区 R・S8	楕円形	118 × 56 × 14	須恵器坏・椀、土師器坏・甕	9 世紀後半		
18	4区 R・S8	不整形	96 × 90 × 12	須恵器坏・椀、土師器甕・台付甕	10世紀前半	SB21	
19	5区 A6	長方形	82 × 50 × 58				
20	5区 A6	正方形	86 × 64 × 48	須恵器坏・椀	9 世紀		
21	5区 A6	正方形	72 × 60 × 58	須恵器椀・壺、土師器坏	10世紀初		
22	5区 A6・7	不整形	194 × 30 × 62	須恵器坏・椀、土師器甕、縄文土器	9 世紀後半		ピット 2 つあり
23	4区 Q7	長方形	400 × 60 × 58	須恵器坏・椀、土師器・甕	9 世紀末	SD5	
24	4区 R7	正方形	94 × 70 × 16				
25	4区 T7	楕円形	330 × 42 × 14	平瓦		SK26	
26	4区 T7	楕円形	74 × 44 × 10			SK25	
27	4区 T7	長方形	76 × 50 × 34			SD1	
28	5区 A7	長方形	74 × 32 × 46				
29	5区 A7	不整形	132 × 60 × 24			P56	
30	4区 T8	楕円形	90 × 32 × 18	須恵器坏・椀・壺、土師器台付甕	10世紀		
31	4区 Q8	長方形	100 × 60 × 40			P69	
32	4区 Q8	長方形	80 × 60 × 46	須恵器坏・椀・台付甕、土師器甕	9 世紀後半		
33	4区 S9	正方形	106 × 74 × 10	須恵器坏、土師器坏	9 世紀後半	SB23	
34	4区 R8	楕円形	134 × 62 × 40	土師器坏・甕、須恵器坏	9 世紀後半		
35	4区 R8	楕円形	66 × 46 × 42	須恵器坏、土師器甕	平安		
36	4区 R・S8	不整形	118 × 52 × 48	須恵器坏・椀、土師器坏・甕	9 世紀末		
37	4区 T8	円　形	72 × 58 × 18				
38	4区 T8	正方形	66 × 48 × 18				
39	4区 T7・8	正方形	76 × 66 × 14				
40	5区 A7	円　形	100 × 62 × 22			P60	
41	5区 A8	長方形	120 × 60 × 14	須恵器坏・椀・甕、土師器甕、転用紡錘車	9 世紀末		
42	4区 T・S8	楕円形	394 × 70 × 44	須恵器坏・椀・甕、土師器坏・甕	9 世紀末		ピット 1 つあり
43	4区 Q・R9	不整形	160 × 84 × 6			SB23	
44	4区 R8・9	不整形	108 × 46 × 8			SB23	
45	4区 S9	長方形	158 × 62 × 20	須恵器坏、土師器坏	9 世紀後半	SD13	
46	4区 R・S8、R9	楕円形	306 × 50 × 20			SB23	ピット 1 つあり
47	4区 T8	楕円形	104 × 74 × 18	須恵器椀・甕、土師器甕	9 世紀末～10世紀初		
48	4区 Q10	円　形	100 × 94 × 20	須恵器坏	11世紀?	SJ17	
49	4区 R10	不整形	210 × 58 × 16			SJ17	
50	4区 R・S10	長方形	154 × 78 × 30	須恵器坏・椀	9 世紀後半	土抗群2	
51	4区 T9　5区 A9	長方形	106 × 84 × 28	須恵器坏・椀・甕、土師器坏・甕	9 世紀後半～10世紀初		
52	4区 T9　5区 A10	楕円形	102 × 52 × 28	須恵器坏、土師器甕		SJ18	
53	4区 S9	不整形	142 × 46 × 16	須恵器坏	9 世紀後半～10世紀初	SJ19・SB23	
54	4区 T10	正方形	64 × 62 × 58			SK55・SD2・SD10	
55	4区 T10	不整形	100 × 18 × 24			SK54・SD2・SD10	
56	4区 T9・10	長方形	190 × 50 × 4			SD2	
57	5区 A10	楕円形	100 × 80 × 60			SJ21・SK58	
58	5区 A10	不整形	104 × 48 × 20	須恵器坏、土師器甕	9 世紀後半	SK57・P112	
59	5区 B10	楕円形	140 × 60 × 18	須恵器坏・椀・瓶・甕、土師器甕	9 世紀末～10世紀前半		
60	4区 S10	長方形	148 × 110 × 24	須恵器坏	9 世紀末	土抗群2・SK64	
61	5区 A10	楕円形	150 × 72 × 40	須恵器坏・椀	11世紀	SD9	
62	5区 A11	長方形	242 × 90 × 80	須恵器椀、土師器坏	9 世紀後半		
63	4区 T10	長方形	168 × 112 × 48	須恵器坏・椀、土師器坏・甕	8 世紀末～ 9 世紀前半		ピット 1 つあり
64	4区 S10	不整形	158 × 74 × 14			SK60・土抗群2	
65	5区 A10	不整形	250 × 82 × 62				



第30図　Ⅰ区土坑出土遺物(1)

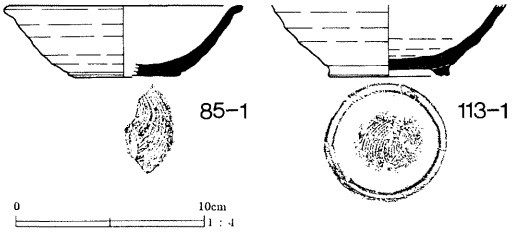


第31図　Ⅰ区土坑出土遺物(2)

第4表　Ⅰ区土坑出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
8-1	須恵器甕	(23.6)	—	—	A	外面：暗青灰色　内面：灰色	A	口縁部10%以下	
8-2	須恵器坏	—	—	(6.0)	B	灰白色	C	底部60%	
8-3	須恵器椀	—	—	(6.4)	ABE	灰色	C	底部80%	
10-1	土師器台付甕	—	—	8.2	J	外面：にぶい黄褐色　内面：にぶい橙色	B	脚台部70%	
11-1	須恵器坏	—	—	(6.0)	ABG	オリーブ灰色	C	底部25%	
12-1	須恵器椀	13.4	5.3	6.2	AB	灰白色	D	75%	
15-1	須恵器坏	(16.2)	—	—	ABEL	にぶい褐色	C	口縁部25%	末野産。
15-2	須恵器椀	13.8	5.0	4.7	AGL	灰色	A	80%	末野産。
16-1	須恵器坏	(12.8)	2.3	(6.0)	AB	灰色	C	45%	
16-2	土師器台付甕	(17.0)	—	—	ABE	にぶい橙色	C	口縁部25%	
16-3	須恵器耳皿	9.1	3.6	3.6	ABE	灰褐色	D	口縁部65%	
18-1	須恵器椀	16.5	7.7	7.4	ABDLM	外面：浅黄色　内面：灰黄色	E	95%	末野産。
18-2	須恵器坏	(12.6)	—	—	AB	灰色	D	口縁部10%	
18-3	土師器甕	(19.4)	—	—	AEG	橙色	C	口縁部25%	
18-4	土師器台付甕	—	—	(9.4)	ABEIL	明赤褐色	C	脚部45%	
20-1	須恵器坏	(14.0)	—	—	AB	暗緑灰色	C	口縁部15%	
20-2	須恵器椀	—	—	(6.8)	AB	外面：にぶい黄橙色　内面：褐色	C	底部60%	
22-1	縄文土器深鉢	—	—	—	—	明赤褐色	—	口縁部破片	
22-2	須恵器坏	—	—	5.0	AB	灰白色	D	底部100%	
22-3	須恵器坏	(12.5)	3.6	5.6	ABEL	灰色	D	65%	末野産。
22-4	須恵器椀	—	—	6.2	ABGLM	灰色	A	40%	末野産。
22-5	須恵器坏	—	—	6.2	ADGHM	外面：灰黄褐色　内面：にぶい黄橙色	E	40%	末野産。
23-1	須恵器椀	—	—	7.1	A	灰色	A	底部100%	
23-2	須恵器椀	14.2	6.2	6.4	ABEGH	浅黄色、にぶい黄色	E	70%	
23-3	須恵器椀	—	—	(7.5)	BP	灰白色	A	底部15%	
23-4	土師器甕	(13.0)	—	—	CGI	明赤褐色	C	口縁部10%以下	
30-1	須恵器坏	(12.8)	3.3	5.8	AB	灰色	C	40%	
30-2	須恵器椀	14.0	5.7	6.5	ABEGL	灰色	B	90%	末野産。
30-3	須恵器壺	—	—	(10.2)	AB	灰色	A	底部30%	
30-4	土師器台付甕	—	—	(10.0)	AI	橙色	A	脚台部40%	
32-1	須恵器坏	(15.8)	—	—	AE	灰色	D	口縁部15%	
32-2	土師器台付甕	(11.4)	—	—	ABE	橙色	C	口縁部45%	
34-1	須恵器坏	(12.6)	3.5	(6.2)	B	灰色	C	40%	
41-1	須恵器坏	(11.6)	—	—	DE	橙色	E	口縁部10%	
41-2	須恵器坏	(13.6)	—	—	AE	にぶい黄橙色	E	口縁部40%	
41-3	須恵器椀	13.5	5.6	6.2	ABDGL	灰色	B	70%	末野産。
41-4	須恵器甕	—	—	(15.4)	ABF	灰白色	A	底部10%	南比企産。
41-5	土師器甕	(19.8)	—	—	AB	橙色	C	口縁部10%	
41-6	磨石	長さ10.8	幅3.8	厚さ2.4	—	—	—	完形	重さ143ｇ
42-1	須恵器坏	—	—	(5.5)	ABG	褐灰色	A	底部45%	
42-2	須恵器椀	—	—	(6.0)	AE	灰色	A	底部30%	
42-3	須恵器椀	—	—	(7.4)	AB	灰色	C	底部35%	
42-4	須恵器椀	—	—	(6.2)	AB	灰色	C	底部45%	
42-5	磨石	長さ(7.8)	幅(5.7)	厚さ3.5	—	—	—	欠損	重さ235ｇ
47-1	須恵器椀	—	—	6.4	ABC	灰色	A	底部100%	
50-1	須恵器坏	—	—	6.2	AEP	灰黄褐色	A	底部100%	
50-2	須恵器椀	—	—	(7.0)	ABL	明オリーブ灰色	C	底部35%	末野産。
50-3	須恵器椀	—	—	(6.0)	A	オリーブ灰色	C	底部45%	
62-1	土師器坏	12.2	4.3	6.0	ABJ	外面：黒色　内面：灰白色	A	100%	タール付着。
62-2	須恵器椀	—	—	(8.0)	B	灰白色	A	底部70%	高台部脱落。
63-1	須恵器坏	—	—	(5.2)	D	外面：灰黄褐色　内面：灰オリーブ色	D	底部45%	
63-2	須恵器坏	—	—	(6.4)	A	灰色	C	底部35%	
63-3	磨石	長さ(12.2)	幅(7.7)	厚さ(1.9)	—	—	—	一部欠損	重さ260ｇ
65-1	須恵器椀	(12.4)	5.1	6.0	E	外面：淡黄色　内面：灰色	E	40%	
65-2	須恵器椀	—	—	7.4	E	にぶい橙色	D	底部100%	
65-3	須恵器椀	(12.6)	4.8	6.2	AB	灰白色	C	40%	
65-4	須恵器椀	—	—	5.8	ABN	灰色	A	底部100%	
65-5	土師器甕	—	—	—	ABC	浅黄橙色	C	10%以下	
土坑群2-1	須恵器坏	12.8	4.9	5.2	ABEHM	外面：明赤褐色　内面：黒色	D	100%	
土坑群2-2	須恵器坏	13.8	5.2	5.0	AB	灰白色	D	95%	内外面煤付着。

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
土坑群2-3	須恵器坏	—	—	(5.4)	AEL	黄灰色、にぶい橙色	C	底部80%	末野産。
土坑群2-4	須恵器坏	(13.0)	—	—	AEL	橙色	C	口縁部20%	末野産。
土坑群2-5	須恵器椀	—	—	(6.8)	D	灰白色	D	底部60%	
土坑群2-6	須恵器皿	(15.4)	2.5	(7.6)	AE	灰白色	D	30%	
土坑群2-7	土師器甕	—	—	—	ABEJ	外面：橙色　内面：明赤褐色	C	胴部破片	
土坑群2-8	須恵器壺	—	—	—	AB	灰色	A	胴部15%	



第32図　I区ピット出土遺物

第5表　I区ピット出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
85-1	須恵器坏	(12.6)	3.8	(5.8)	AE	灰褐色	C	20%	
113-1	須恵器椀	—	—	6.4	ABN	灰色	C	底部100%	

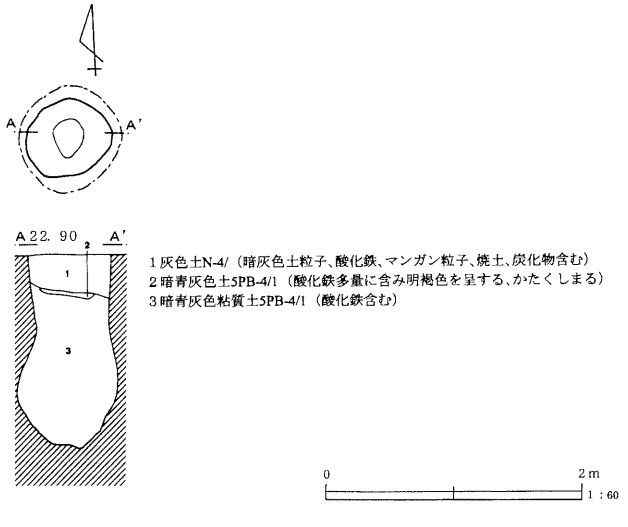
(4)　井戸跡

第1号井戸跡（第33図）

4区Q－3グリッドに位置する。第7号溝跡と重複関係にあり、溝を切っていた。

平面は0.65m×0.6mの楕円形で、確認面からの深さは1.52mを測る。壁面は、確認面から0.7m辺りからオーバー・ハングしており、0.8mと幅広となっている。底面は舟底状となっている。

出土遺物は、検出できなかった。



第33図　I区第1号井戸跡

(5) 溝跡

第１～13号溝跡は上層の一面目の溝跡で、第14～18号溝跡は、下層の二面目の調査に際して確認されたものである。以下、詳細を記述する。

第１号溝跡（第34・38図、第６表）

４区Ｔ－３グリッドから４区Ｓ－８グリッドにかけて位置する。第６・７号溝跡、第15・25号土坑などと重複する。本溝跡が第６号溝跡、土坑などを切っている。残存長は28.3m、幅1.2m、底部は平坦で幅0.5mを測る。断面形は箱薬研状を呈する。

出土遺物は、陶器擂鉢・椀・皿・天目茶椀、焙烙、蓋状製品、挽物椀の他、須恵器坏・瓶・甕、土師器甕などが検出された。

第２号溝跡（第34・38図、第６表）

４区Ｔ－９グリッドから４区Ｔ－13グリッドにかけて位置する。第19・20号住居跡、第８号溝跡などと重複する。第20号住居跡、第８号住居跡を切り、第19号住居跡に切られていた。また、溝の南部分は、河川跡Ｆ地点の上に作られていた。

北側は土坑状の施設で始まっており、南は調査区外となる。残存長22m、幅0.45m、底の形状は舟底状で深さ25cmを測る。北の土坑状の遺構は径1.3m×2.5mの長方形を呈し、深さ１mを測る。水溜めのような施設と思われる。

出土遺物は、須恵器坏・甕・壺、土師器甕、瓦片などが検出された。

第３号溝跡（第34・38図、第６表）

４区Ｑ－11グリッドから西に延び、Ｓ－11グリッドで直角に南に方向を変えるが、このコーナー部分は2.2m×3.1mの土坑状となっている。南下する溝は４区Ｓ－13グリッドで調査区域外となる。第８号溝跡、河川跡Ｆ地点と重複関係にあり、それぞれを切っていた。

残存長は19mであった。幅0.3m、深さ0.1mと規模の小さな溝跡である。

出土遺物は、須恵器坏・椀・甕、土師器甕・台付甕、灰釉陶器破片などが検出された。

第４号溝跡（第35・38図、第６表）

４区Ｔ－３グリッドから５区Ａ－８グリッドまで延びている。第６・７号溝跡と重複関係にあり、第７号溝を切り、第６号溝に切られている。

溝はほぼ南北方向であるが、僅かに蛇行しながら延びている。北は調査区域外となっており、溝の正確な規模は分からない。残存長は25.7m、幅0.3m、深さ0.1mから0.3mを測る。断面形は舟底状となっている。

出土遺物は、検出できなかった。

第５号溝跡（第35・38図、第６表）

４区Ｑ－６グリッドとＱ－８グリッドにまたがり位置する。第22号掘立柱建物跡、第23号土坑と重複関係にあり、各々を切っていた。

南北溝で北側は次第に浅くなり消滅し、南は調査区域外になる。残存長は8.9m、幅0.8mから1.0m、深さ0.35mを測る。断面の形状は舟底状となっている。

出土遺物は、須恵器坏・椀、土師器甕、桃の種子などが検出された。

第6号溝跡（第35・38図、第6表）

5区A－3グリッドから4区P－2グリッドに延びる東西溝である。第1・4号溝跡と重複関係にあり、第4号溝跡を切り、第1号溝跡に切られていた。

溝の両端は調査区域外なっており、残存長は24m、幅1.6m、深さは確認面から0.4mを測る。底部は平坦で1m近くある個所もあり、断面形は浅い箱薬研状を呈する。

出土遺物は、須恵器坏・甕、灰釉陶器皿、丸瓦、平瓦などが検出された。

第7号溝跡（第35・38・39図、第6表）

第6号溝跡の2mほど南に並行して位置する。第1・4号溝跡、第1号井戸跡と重複関係にあり、各々の遺構に切られていた。溝の両端は調査区域外となっている。

残存長は2.44m、幅1.8m前後、深さ0.15mと幅広で浅い溝である。底は平坦であった。出土遺物は、須恵器坏・椀・甕、土師器甕・台付甕、灰釉陶器椀・瓶破片などが検出され、須恵器椀には墨書のものも見られた。また、第6号溝跡とは、並行することや出土遺物の時期から、同時期で関連性がある可能性がある。

第8号溝跡（第36・39図、第6表）

5区A－11グリッドから4区R－10グリッドまで延びる東西溝である。両端は発掘調査区域外となっている。第2・3・9号溝跡、第2号井戸跡、第61・65号土坑と重複する。本遺構が一番古く、他の遺構は本遺構を切っていた。

他の遺構との重複が著しいため、形状も把握しにくい。残存長は推定24m、幅は不規則で1.2mと幅広のところもあれば、0.5mと狭いところもある。深さも同様で幅広のところで0.35m、幅の狭いところで0.1mと浅い。

出土遺物は、比較的多く検出され、須恵器坏・椀・皿・甕、土師器坏・甕・台付甕、灰釉陶器椀・稜椀・瓶、瓦塔片などが検出された。須恵器坏の中に「日」ないしは渦巻き文様と思われる墨書が見られた。

第9号溝跡（第36図）

5区B－10グリッドに位置する東西溝である。第8号溝に重なる位置にあり、本遺構の方が新しい。また、第61号土坑に切られていた。

残存長は5m、幅0.5m、深さ0.08mを測る。

出土遺物は、わずかに須恵器坏破片が検出されただけで、図示可能な遺物ではなかった。

第10号溝跡（第36図）

4区T－10グリッドに位置する。第19号住居跡、第2号土坑群に切られていた。

残存長2.5m、幅0.2m、深さ0.1mと小規模な溝跡である。

出土遺物は検出されなかった。

第11号溝跡（第36図）

4区R－9グリッドに位置する。第23号掘立柱建物跡の柱穴と重複する。新旧関係は把握できなかった。

溝の残存長は3m、幅0.35m、深さ0.2mを測る。平面形状も膨らみをもったり、細くなったり一定で

ない。出土遺物も検出できなく、時期、性格とも不明である。

第12号溝跡（第36図）

4区S－4グリッド位置する。第23号掘立柱建物跡と重複しており、本遺構が切られていた。

溝の残存長は2.5mほどと極めて短い。幅0.2mから0.5m、深さ0.1mから0.25mと一定でない。

出土遺物は、わずかに須恵器坏の細片が検出できただけで、時期、性格とも不明である。

第13号溝跡（第36・40図、第6表）

4区S－9グリッドに位置する。第45号土坑と重複関係にあり、土坑を切っていた。

長さ1.5m、幅0.3m、深さ0.15mを測る極めて小さな溝跡である。底部の形状は舟底状である。

出土遺物は、須恵器椀・皿が検出された。

第14号溝跡（第37図）

4区P－3グリッドから5区A－6グリッドに所在する。第1号溝跡と重複関係にあり、本遺構を切っていた。

残存長は28mで両端とも調査区域外となっており、詳細な規模は不明である。上幅は広く1.5mから2.0m、底部は平坦で0.5mから0.6mを測り、断面形は箱薬研状を呈している。

出土遺物は、検出されなかった。

第15号溝跡（第37・40図、第6表）

4区P－6グリッドからS－10グリッドに延びている。第23号掘立柱建物跡の柱穴に切られていた。

北側は調査区域外となり、南は次第に浅くなり消滅する。南に0.6mに並行して第16号溝跡があり、さらに南に4mに第17号溝跡、南5mに第18号溝跡が並行して所在する。本遺構の残存長は24.5m、上幅0.4m、深さ0.1mを測る。断面形状は舟底状を呈している。

出土遺物は、土師器壺・甕が検出された。

第16号溝跡（第37図）

4区Q－7グリッドからS－10グリッドに延びている。第15号溝跡に並行している。

残存長は24.5m、北側は調査区域外なり、南は次第に浅くなり消滅する。幅は0.35m、深さは0.15mを測る。第15号溝跡とは同時期か比較的近い時期であろう。出土遺物は、検出されなかった。

第17号溝跡（第37図）

4区Q－7グリッドからR－10グリッドに位置する。第18号溝跡の北側に位置しR－10グリッドで重複しており、本遺構が切っていた。

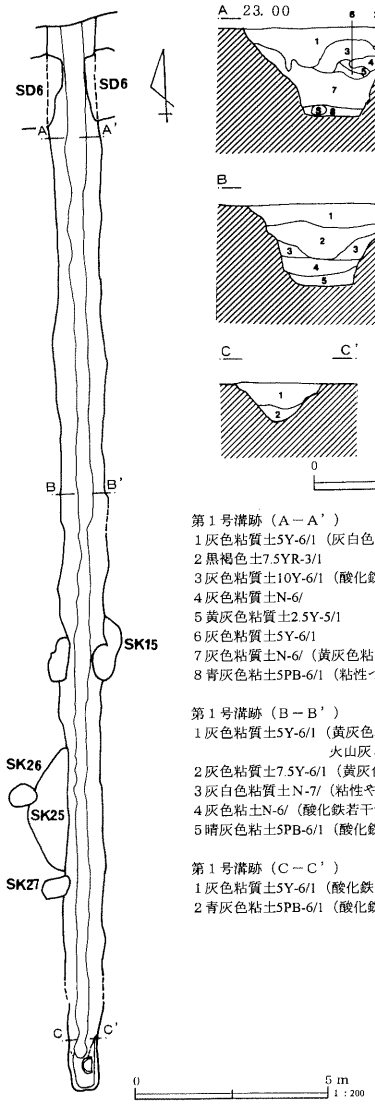
残存長は15m、北側は調査区域外、南は次第に浅くなり消滅する。上幅は0.5mから0.6mで、深さ0.35mを測る。底は幅0.2mほどの平坦な形状となっている。出土遺物は、検出されなかった。

第18号溝跡（第37図）

4区Q－8グリッドからR－10グリッドに位置する。第17号溝跡と重複する。

残存長は10m、北側は調査区域外、南は次第に浅くなり消滅する。上幅は0.5m前後、深さ0.3mを測る。出土遺物は、検出されなかった。

第１号溝跡

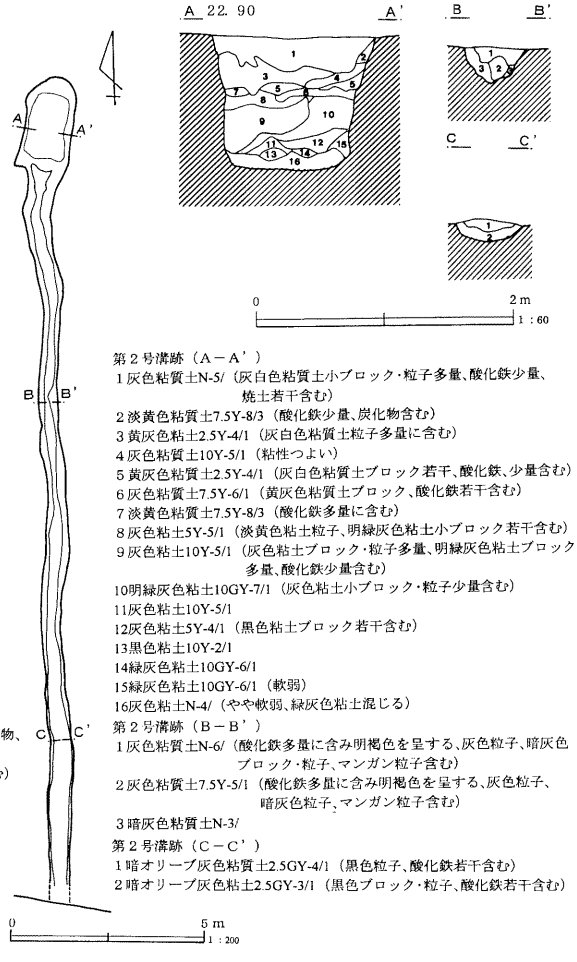


第１号溝跡（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土5Y-6/1（灰白色粘質土若干混じる、酸化鉄少量含む）
２黒褐色土7.5YR-3/1
３灰色粘質土10Y-6/1（酸化鉄ごくわずか含む）
４灰色粘質土N-6/
５黄灰色粘質土2.5Y-5/1
６灰色粘質土5Y-6/1
７灰色粘質土N-6/（黄灰色粘質土混じる、酸化鉄ごくわずか含む）
８青灰色粘土5PB-6/1（粘性つよい、酸化鉄ごくわずか含む）

第１号溝跡（Ｂ－Ｂ’）
１灰色粘質土5Y-6/1（黄灰色粘質土ブロック、酸化鉄少量、焼土、炭化物、火山灰ごくわずか含む）
２灰色粘質土7.5Y-6/1（黄灰色粘質土粒子若干、酸化鉄少量、焼土含む）
３灰白色粘質土N-7/（粘性ややつよい、酸化鉄少量含む）
４灰色粘土N-6/（酸化鉄若干含む）
５晴灰色粘土5PB-6/1（酸化鉄若干含む）

第１号溝跡（Ｃ－Ｃ’）
１灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄多量に含む）
２青灰色粘土5PB-6/1（酸化鉄少量、炭化物ごくわずか含む）

第２号溝跡

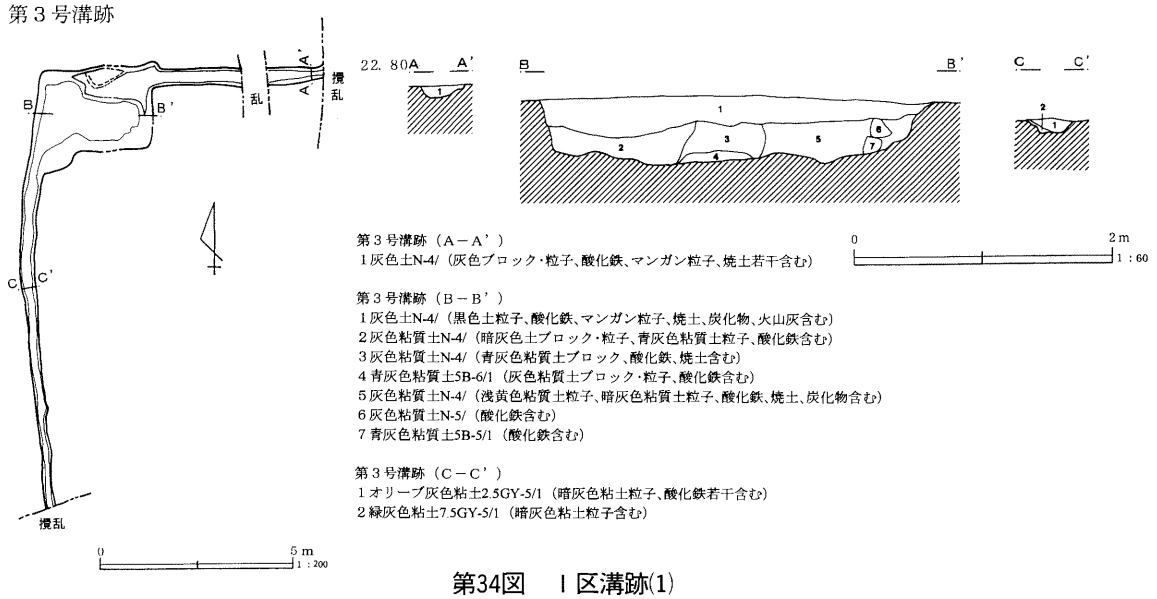


第２号溝跡（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土N-5/（灰白色粘質土小ブロック・粒子多量、酸化鉄少量、焼土若干含む）
２淡黄色粘質土7.5Y-8/3（酸化鉄少量、炭化物含む）
３黄灰色粘土2.5Y-4/1（灰白色粘質土粒子多量に含む）
４灰色粘質土10Y-5/1（粘性つよい）
５黄灰色粘質土2.5Y-4/1（灰白色粘質土ブロック若干、酸化鉄、少量含む）
６灰色粘質土7.5Y-6/1（黄灰色粘質土ブロック、酸化鉄若干含む）
７淡黄色粘質土7.5Y-8/3（酸化鉄多量に含む）
８灰色粘土5Y-5/1（淡黄色粘土粒子、明緑灰色粘土小ブロック若干含む）
９灰色粘土10Y-5/1（灰色粘土ブロック・粒子多量、明緑灰色粘土ブロック多量、酸化鉄少量含む）
10明緑灰色粘土10GY-7/1（灰色粘土小ブロック・粒子少量含む）
11灰色粘土10Y-5/1
12灰色粘土5Y-4/1（黒色粘土ブロック若干含む）
13黒色粘土10Y-2/1
14緑灰色粘土10GY-6/1
15緑灰色粘土10GY-6/1（軟弱）
16灰色粘土N-4/（やや軟弱、緑灰色粘土混じる）

第２号溝跡（Ｂ－Ｂ’）
１灰色粘質土N-6/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、灰色粒子、暗灰色ブロック・粒子、マンガン粒子含む）
２灰色粘質土7.5Y-5/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、灰色粒子、暗灰色粒子、マンガン粒子含む）
３暗灰色粘質土N-3/

第２号溝跡（Ｃ－Ｃ’）
１暗オリーブ灰色粘質土2.5GY-4/1（黒色粒子、酸化鉄若干含む）
２暗オリーブ灰色粘土2.5GY-3/1（黒色ブロック・粒子、酸化鉄若干含む）

第３号溝跡



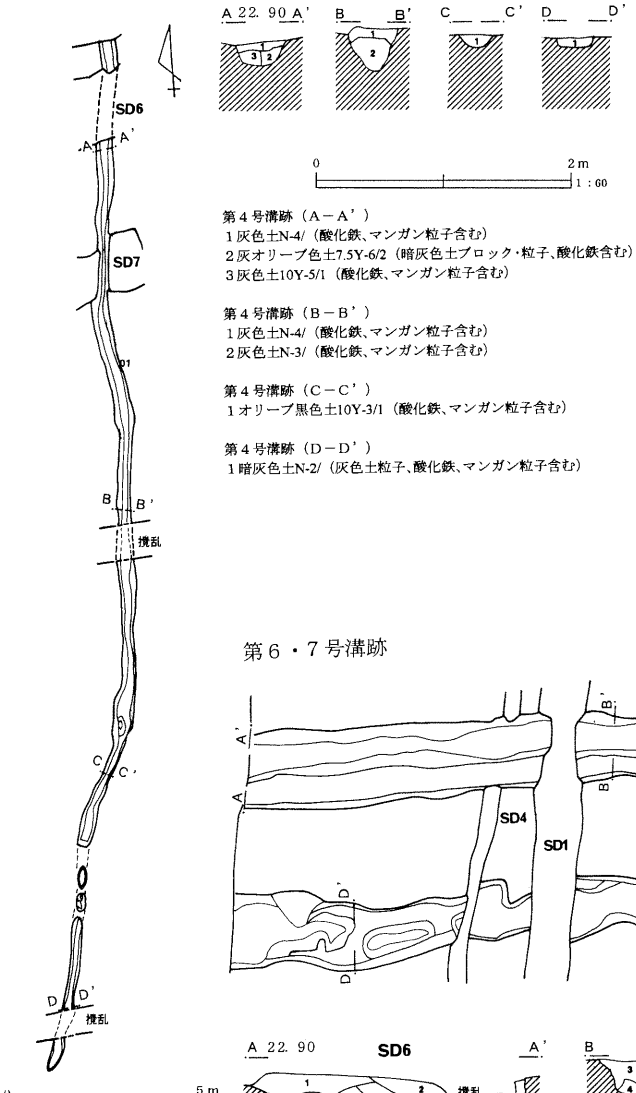
第３号溝跡（Ａ－Ａ’）
１灰色土N-4/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土若干含む）

第３号溝跡（Ｂ－Ｂ’）
１灰色土N-4/（黒色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物、火山灰含む）
２灰色粘質土N-4/（暗灰色土ブロック・粒子、青灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
３灰色粘質土N-4/（青灰色粘質土ブロック、酸化鉄、焼土含む）
４青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
５灰色粘質土N-4/（浅黄色粘質土粒子、暗灰色粘質土粒子、酸化鉄、焼土、炭化物含む）
６灰色粘質土N-5/（酸化鉄含む）
７青灰色粘質土5B-5/1（酸化鉄含む）

第３号溝跡（Ｃ－Ｃ’）
１オリーブ灰色粘土2.5GY-5/1（暗灰色粘土粒子、酸化鉄若干含む）
２緑灰色粘土7.5GY-5/1（暗灰色粘土粒子含む）

第34図　Ⅰ区溝跡(1)

第４号溝跡



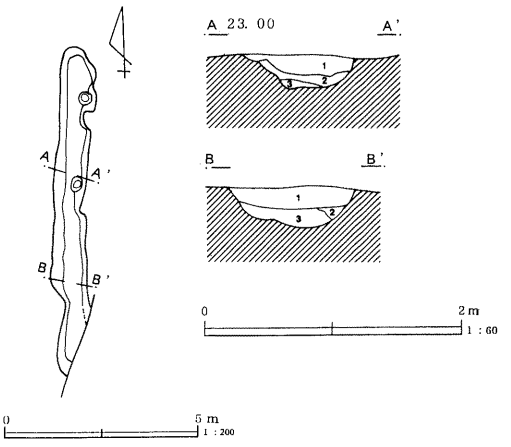
第４号溝跡（Ａ－Ａ’）
１灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
２灰オリーブ色土7.5Y-6/2（暗灰色土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
３灰色土10Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）

第４号溝跡（Ｂ－Ｂ’）
１灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
２灰色土N-3/（酸化鉄、マンガン粒子含む）

第４号溝跡（Ｃ－Ｃ’）
１オリーブ黒色土10Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）

第４号溝跡（Ｄ－Ｄ’）
１暗灰色土N-2/（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

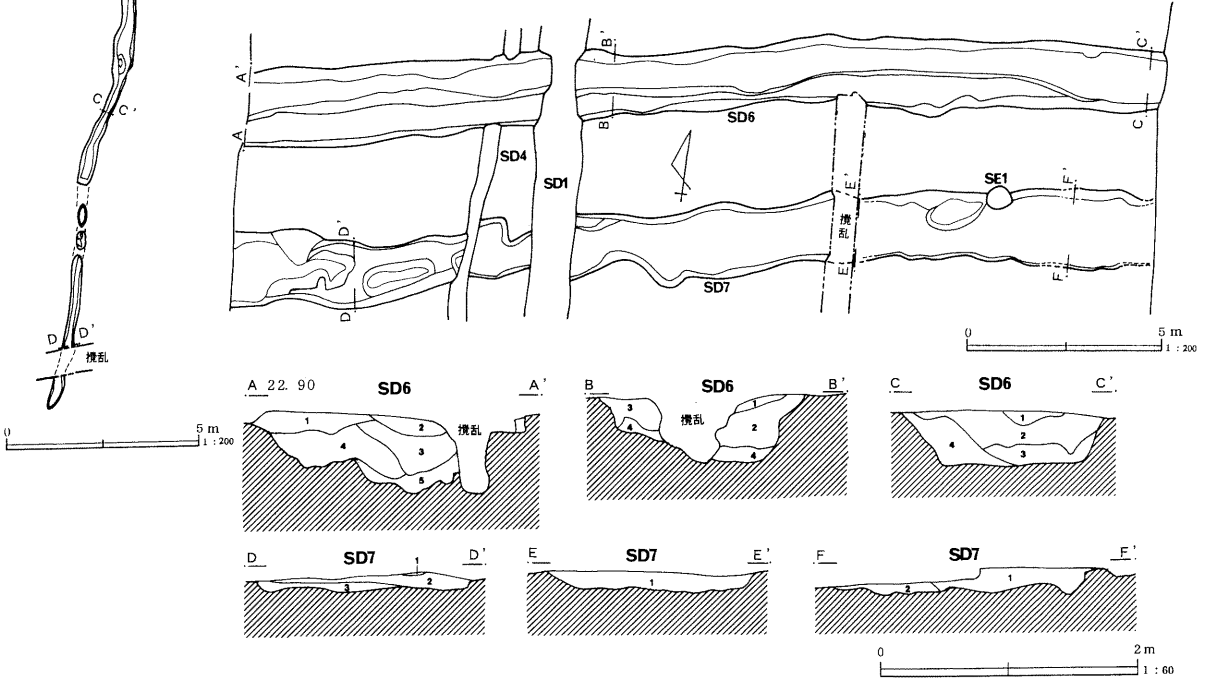
第５号溝跡



第５号溝跡（Ａ－Ａ’）
１灰色土10Y-5/1（黒褐色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子多量、炭化物、土器片含む）
２黒褐色土10YR-3/1（明黄褐色土粒子、灰色土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
３灰色土N-4/（黒褐色土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

第５号溝跡（Ｂ－Ｂ’）
１灰色土10Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子若干、焼土、炭化物、土器含む）
２オリーブ黒色土10Y-3/2（灰色粒子、酸化鉄含む）
３灰色土7.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、土器片含む）

第６・７号溝跡



第６号溝跡（Ａ－Ａ’）
１灰色土5Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
２オリーブ黒色土7.5Y-3/1（灰オリーブ色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
３灰色土7.5Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）
４灰色土N-4/（暗灰色土ブロック・粒子、灰オリーブ色土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
５灰色粘質土N-4/（黄褐色土粒子多量、酸化鉄含む）

第６号溝跡（Ｂ－Ｂ’）
１オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
２灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物若干含む）
３灰色土7.5Y-4/1（灰オリーブ色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
４灰色粘質土N-4/（灰オリーブ色土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

第６号溝跡（Ｃ－Ｃ’）
１オリーブ黒色土7.5Y-4/1（灰オリーブ色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土含む）
２灰色土5Y-4/1（灰オリーブ色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
３灰色粘質土N-4/（灰オリーブ色土ブロック・粒子、暗灰色土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
４灰色土N-5/（灰オリーブ色土ブロック・粒子、暗灰色土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）

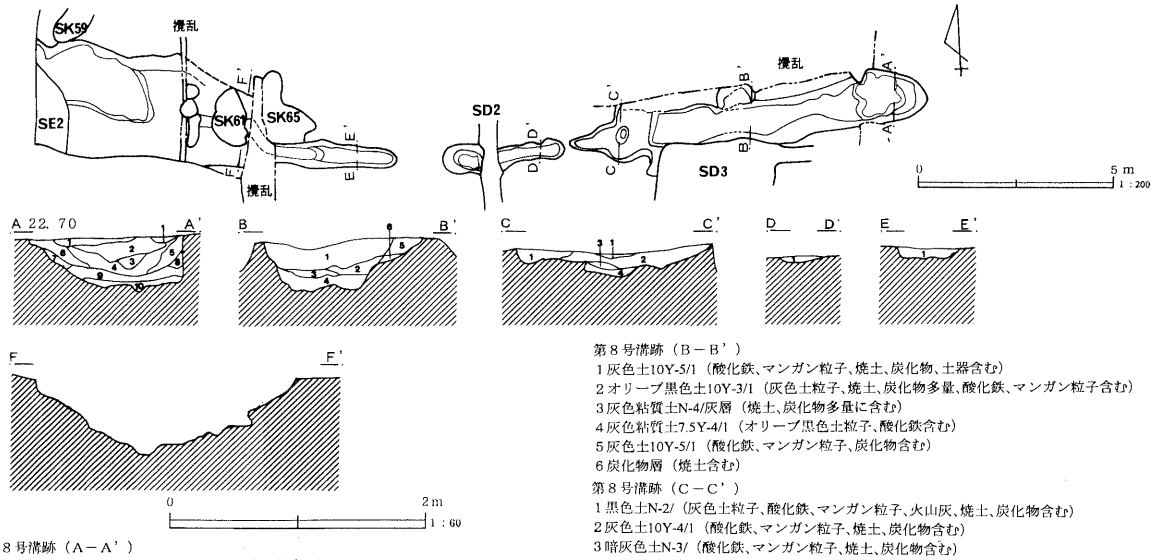
第７号溝跡（Ｄ－Ｄ’）
１炭化物
２灰色土10Y-5/1（灰白色土ブロック、酸化鉄多量に含む）
３灰色土7.5Y-5/1（灰白色土ブロック・粒子、酸化鉄少量含む）

第７号溝跡（Ｅ－Ｅ’）
１灰色土10Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）

第７号溝跡（Ｆ－Ｆ’）
１暗灰色土N-3/（黄褐色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子多量に含む）
２灰色土N-4/（暗灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第35図　Ⅰ区溝跡(2)

第８号溝跡



第８号溝跡（Ａ－Ａ’）
１灰色土10Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
２灰オリーブ色土7.5Y-6/2（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
３灰色土10Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
４暗灰色土N-3/（灰色土粒子、灰、焼土、炭化物、酸化鉄、マンガン粒子含む）
５暗灰色灰層N-3/（灰色土粒子、焼土、炭化物、酸化鉄、マンガン粒子含む）
６灰色土10Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
７暗灰色灰層N-3/（灰色土粒子、焼土、炭化物、マンガン粒子、土器含む）
８灰色土7.5Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
９オリーブ黒色土7.5Y-3/1（褐色土粒子、酸化鉄、焼土、炭化物、灰含む）
10暗灰色粘質土N-3/（灰色土粒子、酸化鉄、炭化物、焼土含む）

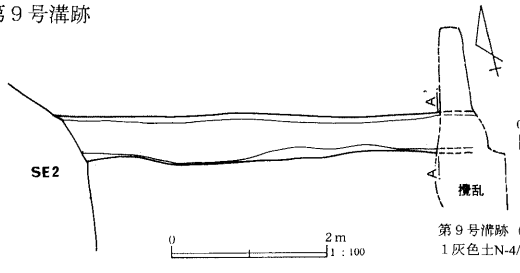
第８号溝跡（Ｂ－Ｂ’）
１灰色土10Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物、土器含む）
２オリーブ黒色土10Y-3/1（灰色土粒子、焼土、炭化物多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
３灰色粘質土N-4/灰層（焼土、炭化物多量に含む）
４灰色粘質土7.5Y-4/1（オリーブ黒色土粒子、酸化鉄含む）
５灰色土10Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
６炭化物層（焼土含む）

第８号溝跡（Ｃ－Ｃ’）
１黒色土N-2/（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、火山灰、焼土、炭化物含む）
２灰色土10Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
３暗灰色土N-3/（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
４オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、灰色粒子、マンガン粒子、炭化物含む）

第８号溝跡（Ｄ－Ｄ’）
１暗灰色土N-3/（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）

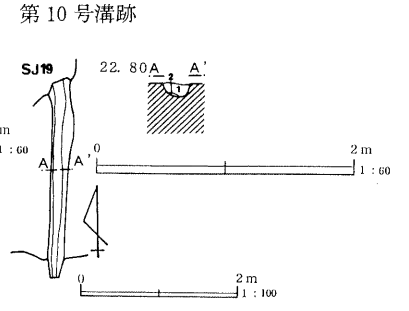
第８号溝跡（Ｅ－Ｅ’）
１灰色土N-4/（焼土、炭化物多量、酸化鉄含む）

第９号溝跡



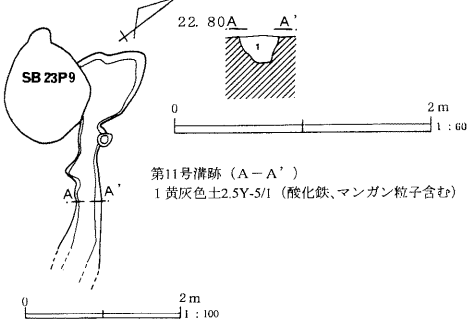
第９号溝跡（Ａ－Ａ’）
１灰色土N-4/（黒色土粒子、酸化鉄、焼土、火山灰含む）

第10号溝跡



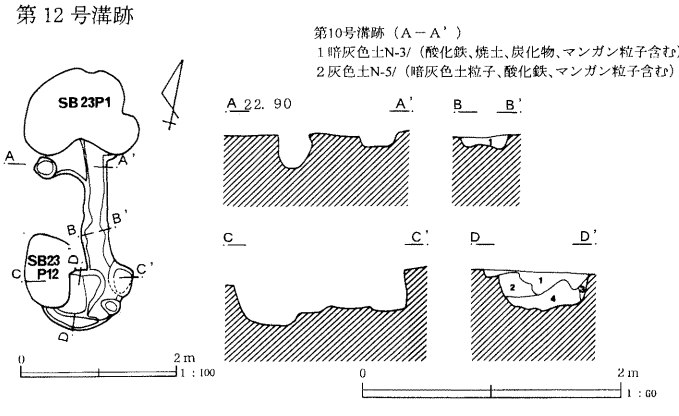
第10号溝跡（Ａ－Ａ’）
１暗灰色土N-3/（酸化鉄、焼土、炭化物、マンガン粒子含む）
２灰色土N-5/（暗灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第11号溝跡



第11号溝跡（Ａ－Ａ’）
１黄灰色土2.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）

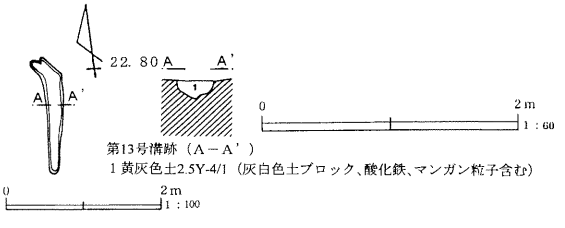
第12号溝跡



第12号溝跡（Ｂ－Ｂ’）
１黄灰色土2.5Y-5/1（灰白色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第12号溝跡（Ｄ－Ｄ’）
１黄灰色土2.5Y-4/1（灰白色土ブロック、黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
２灰色土5Y-5/1（灰白色土ブロック、黒褐色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
３黄灰色土2.5Y-5/1（灰白色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
４灰白色土5Y-7/2（黄灰色土ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

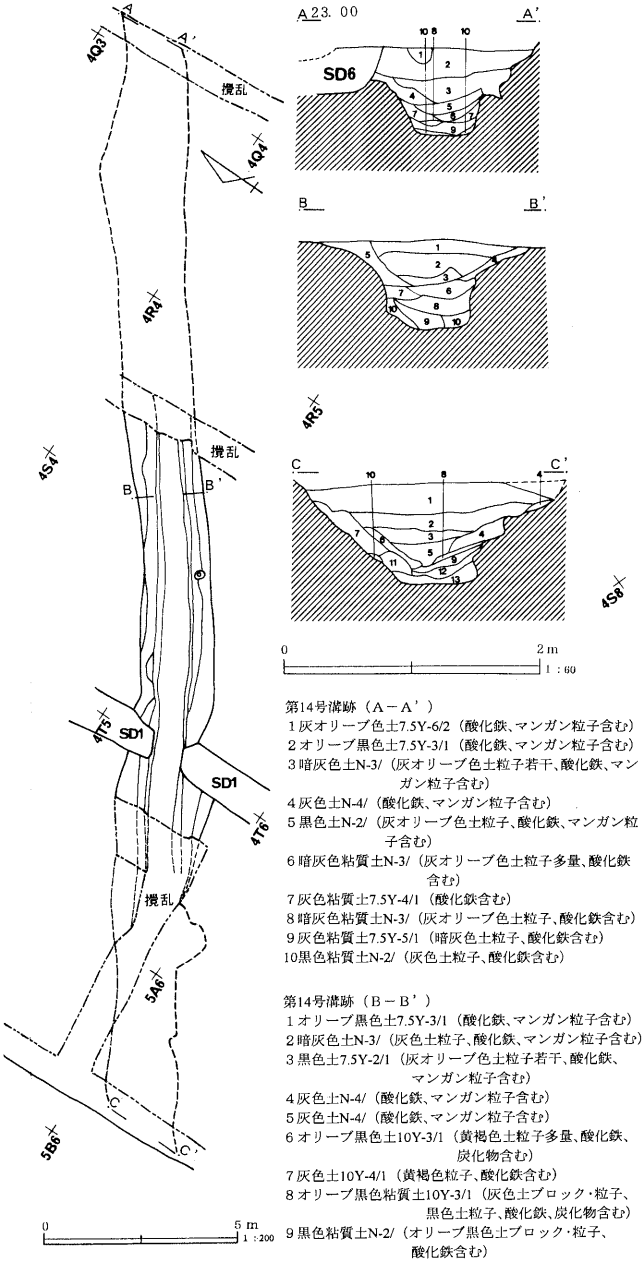
第13号溝跡



第13号溝跡（Ａ－Ａ’）
１黄灰色土2.5Y-4/1（灰白色ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第36図　Ⅰ区溝跡(3)

第 14 号溝跡

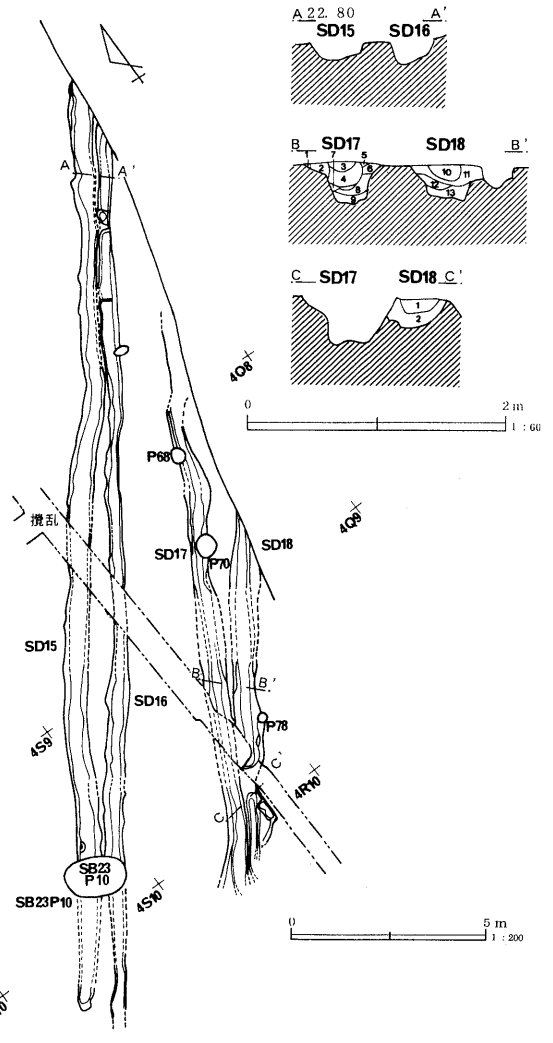


第14号溝跡（A－A'）
1 灰オリーブ色土7.5Y-6/2（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 暗灰色土N-3/（灰オリーブ色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4 灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
5 黒色土N-2/（灰オリーブ色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
6 暗灰色粘質土N-3/（灰オリーブ色土粒子多量、酸化鉄含む）
7 灰色粘質土7.5Y-4/1（酸化鉄含む）
8 暗灰色粘質土N-3/（灰オリーブ色土粒子、酸化鉄含む）
9 灰色粘質土7.5Y-5/1（暗灰色土粒子、酸化鉄含む）
10黒色粘質土N-2/（灰色土粒子、酸化鉄含む）

第14号溝跡（B－B'）
1 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 暗灰色土N-3/（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 黒色土7.5Y-2/1（灰オリーブ色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4 灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
5 灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
6 オリーブ黒色土10Y-3/1（黄褐色土粒子多量、酸化鉄、炭化物含む）
7 灰色土10Y-4/1（黄褐色粒子、酸化鉄含む）
8 オリーブ黒色粘質土10Y-3/1（灰色土ブロック・粒子、黒色土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
9 黒色粘質土N-2/（オリーブ黒色土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
10灰色粘質土N-5/（黒色土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）

第14号溝跡（C－C'）
1 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 暗灰色土N-3/（灰色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 黒色土N-2/（浅黄色土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
4 暗灰色土N-3/（灰色土ブロック粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
5 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（オリーブ黄色土粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
6 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（灰オリーブ色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
7 灰色土N-4/（灰色土ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
8 オリーブ黒色土7.5Y-3/2（暗灰色土粒子、オリーブ黄色粒子、酸化鉄含む）
9 黒色粘質土N-2/（灰色土粒子、酸化鉄含む）
10オリーブ黒色土ブロック10Y-3/1（灰色土粒子、酸化鉄含む）
11灰オリーブ色土5Y-4/2（暗灰色土粒子、酸化鉄多量に含む）
12灰色粘質土7.5Y-4/1（酸化鉄多量に含み明褐色がかる、黒色粘質土ブロック・粒子含む）
13灰色粘質土N-4/（黒色粘質土粒子、酸化鉄含む）

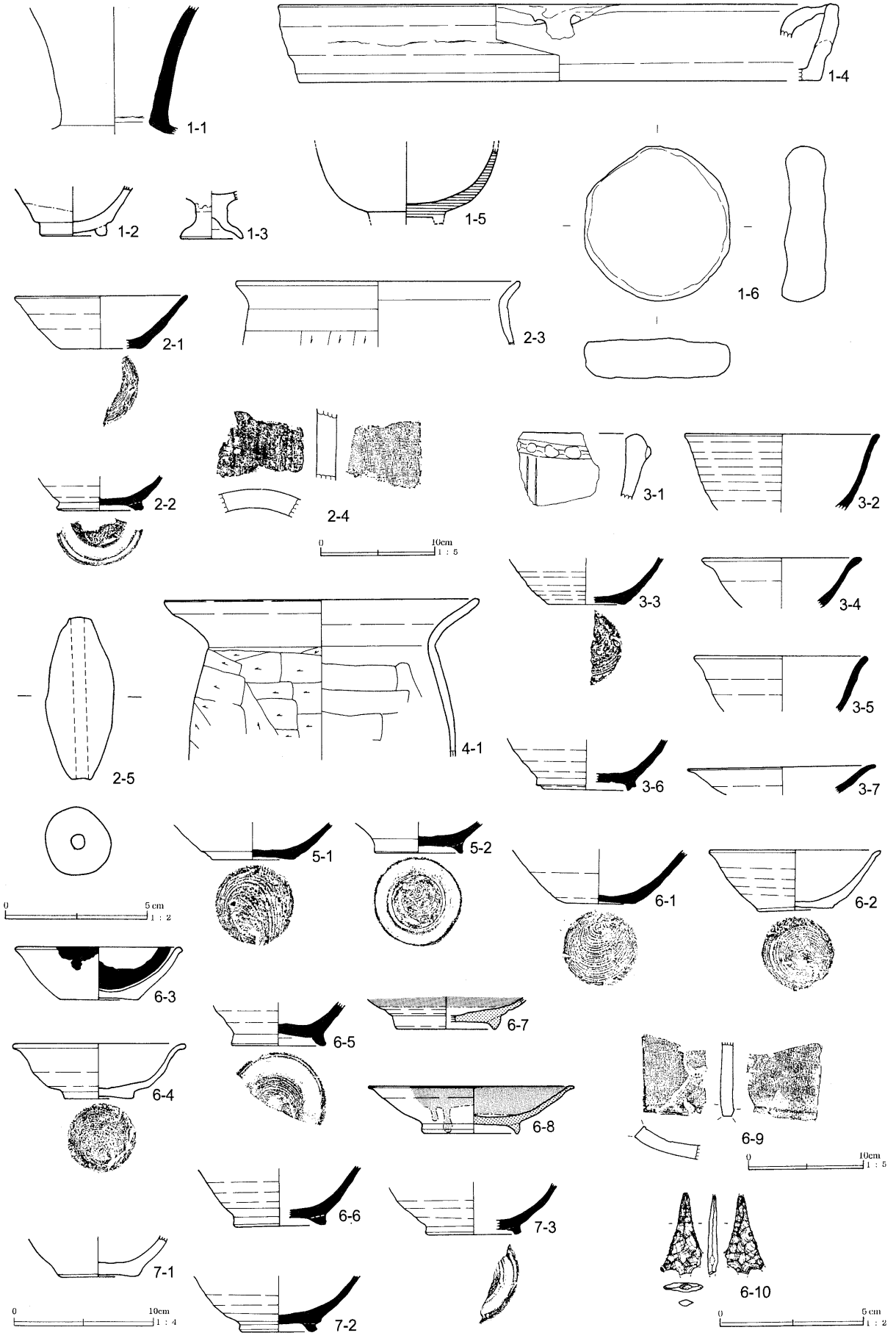
第 15～18 号溝跡



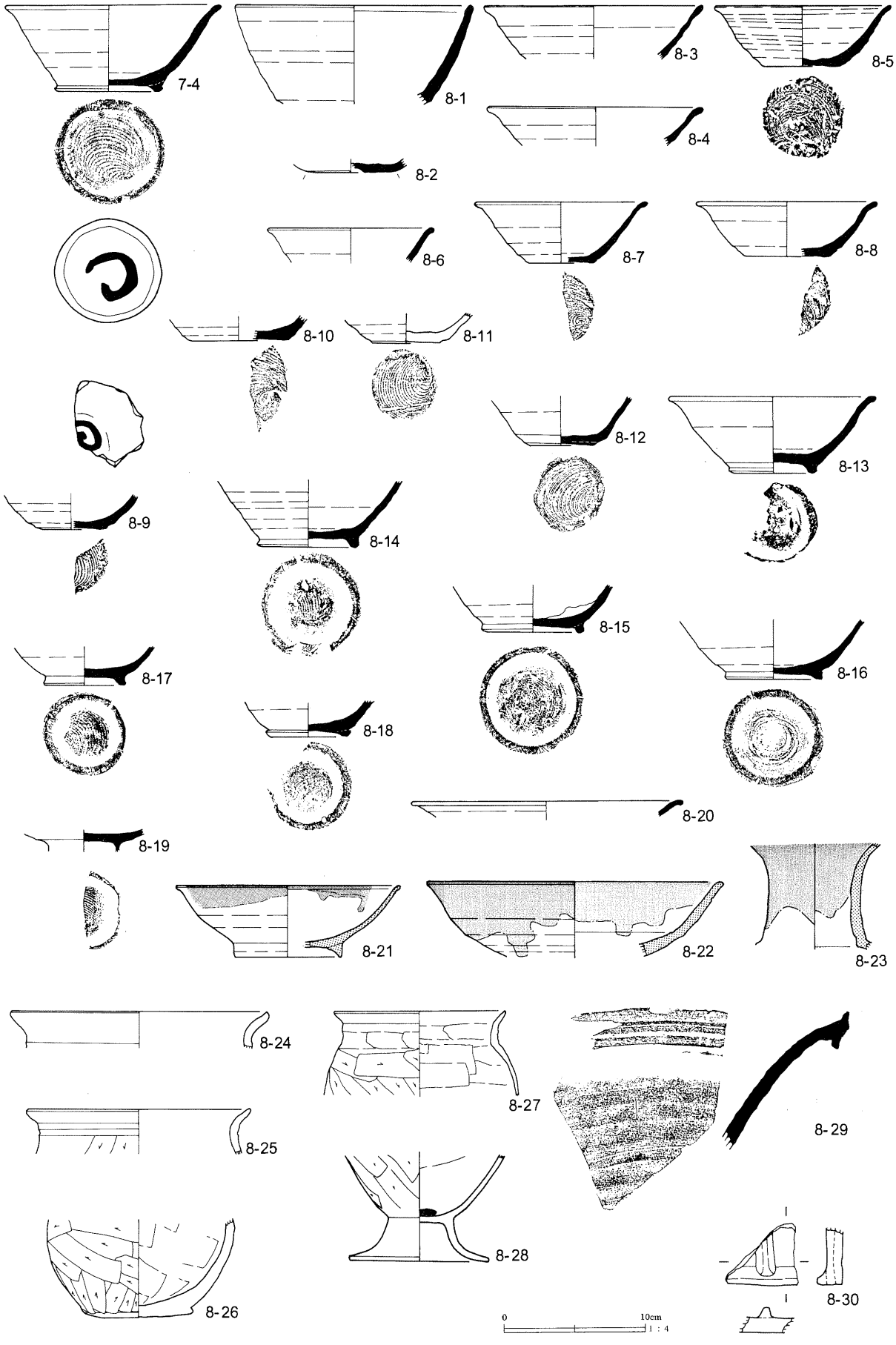
第17･18号溝跡（B－B'）
1 黄灰色土2.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 灰色土5Y-4/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 黒褐色土2.5Y-3/1（灰白色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4 黄灰色土2.5Y-4/1（酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
5 褐灰色土10YR-4/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
6 黄灰色土2.5Y-5/1（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
7 褐灰色土10YR-4/1（灰色土粒子少量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
8 黒褐色土10YR-3/1（灰色土ブロック・小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
9 褐灰色土10YR-4/1（灰色土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
10灰色土10YR-4/1（灰白色土小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
11黒褐色土10YR-3/1（灰白色土小ブロック少量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
12褐灰色土10YR-4/1（灰色土ブロック多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
13黒褐色土10YR-3/1（灰白色土小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）

第17･18号溝跡（C－C'）
1 灰色土5Y-5/1（酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
2 黒褐色土2.5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）

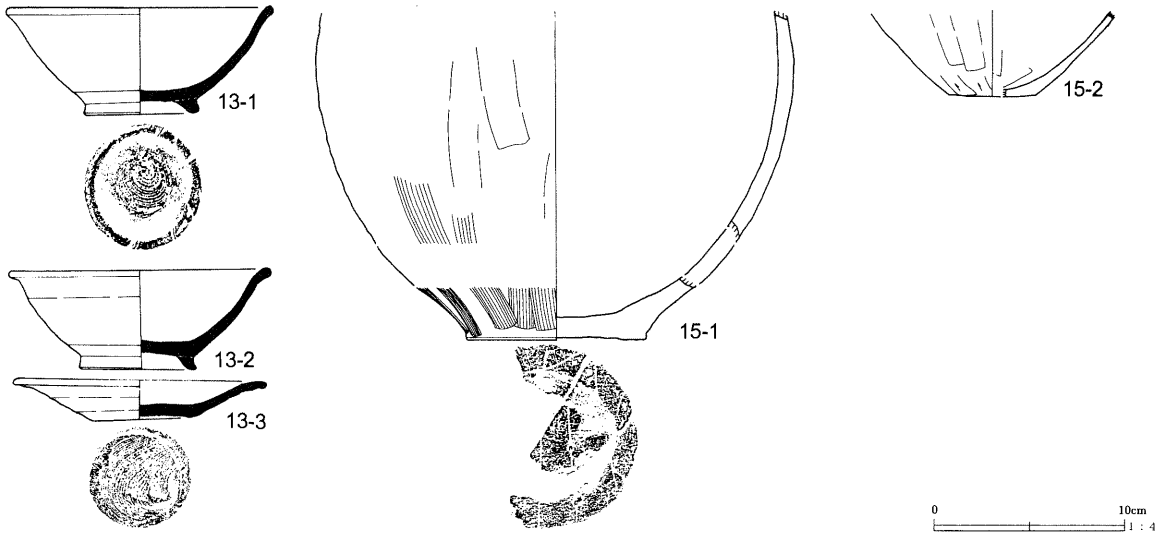
第37図　Ⅰ区溝跡(4)



第38図　I区溝跡出土遺物(1)



第39図　Ⅰ区溝跡出土遺物(2)



第40図　Ⅰ区溝跡出土遺物(3)

第6表　Ⅰ区溝跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1-1	須恵器長頸瓶	—	—	—	AB	オリーブ灰色	A	頸部100%	
1-2	陶器天目茶碗	—	—	4.8	灰白色	—	—	底部100%	瀬戸・美濃。
1-3	陶器灯明台	—	—	4.5	—	—	A	脚部100%	
1-4	焙烙	(40.2)	(37.4)	5.6	AE	灰色	C	口縁部15%	
1-5	挽物高台椀	(13.2)	—	(5.6)	—	—	—	体部	
1-6	蓋	長さ11.3	幅10.5	厚さ2.8	AB	赤褐色	D	100%	
2-1	須恵器坏	(12.4)	3.8	(5.8)	AG	緑灰色	A	口縁部25%　底部35%	
2-2	須恵器椀	—	—	(6.2)	AB	灰色	C	底部45%	
2-3	土師器甕	(20.4)	—	—	ABE	橙色	A	口縁部25%	
2-4	丸瓦	—	—	—	AB	灰色	C	10%	
2-5	土錘	長さ5.8	幅2.5	—	—	—	—	完形	重さ33.5g
3-1	縄文土器深鉢	—	—	—	—	—	—	10%以下	
3-2	須恵器坏	(14.0)	—	—	AB	オリーブ灰色	C	口縁部10%	
3-3	須恵器坏	—	—	(3.3)	AB	灰色	A	底部45%	
3-4	須恵器坏	(11.4)	—	—	ABD	オリーブ灰色	D	口縁部10%	
3-5	須恵器坏	(12.4)	—	—	A	暗緑灰色	C	口縁部20%	
3-6	須恵器椀	—	—	(7.2)	AB	暗青灰色	C	底部45%	
3-7	須恵器皿	(13.4)	—	—	AB	灰色	C	口縁部30%	
4-1	土師器甕	(22.8)	—	—	AEHJKM	淡赤褐色	A	口縁部25%	
5-1	須恵器坏	—	—	6.0	ABD	明オリーブ灰色	D	底部100%	
5-2	須恵器椀	6.3	—	—	AB	灰色	A	底部100%	
6-1	須恵器坏	—	—	5.2	AB	灰色	C	底部100%	
6-2	須恵器坏	12.4	5.4	4.3	AE	にぶい橙色	C	95%	外面に煤付着。
6-3	須恵器坏	12.0	3.8	5.4	AB	明オリーブ灰色	C	95%	内外面に著しい油煙状の付着物。
6-4	須恵器坏	(12.4)	4.0	4.8	AB	橙色	E	口縁部30%　底部100%	
6-5	須恵器椀	—	—	6.8	BD	灰白色	E	底部60%	
6-6	須恵器椀	—	—	(6.6)	AE	灰白色	C	底部45%	
6-7	灰釉陶器皿	—	—	(7.2)	AM	灰白色	A	底部破片（70%）	浜北産。
6-8	灰釉陶器皿	(14.8)	3.4	(6.7)	AM	灰白色	A	底部100%　口縁部10%	浜北産。
6-9	平瓦	—	—	—	AB	灰色	A	狭端部側	
6-10	石鏃	長さ2.9	幅1.4	厚さ0.4	—	—	—	先端基部及び茎部欠損	風化。重さ1.1g
7-1	土師質土器坏	—	—	5.6	ADE	灰色	D	底部100%	
7-2	須恵器椀	—	—	5.6	ADE	灰色	D	底部100%	
7-3	須恵器椀	—	—	6.8	AB	灰色	A	底部40%	

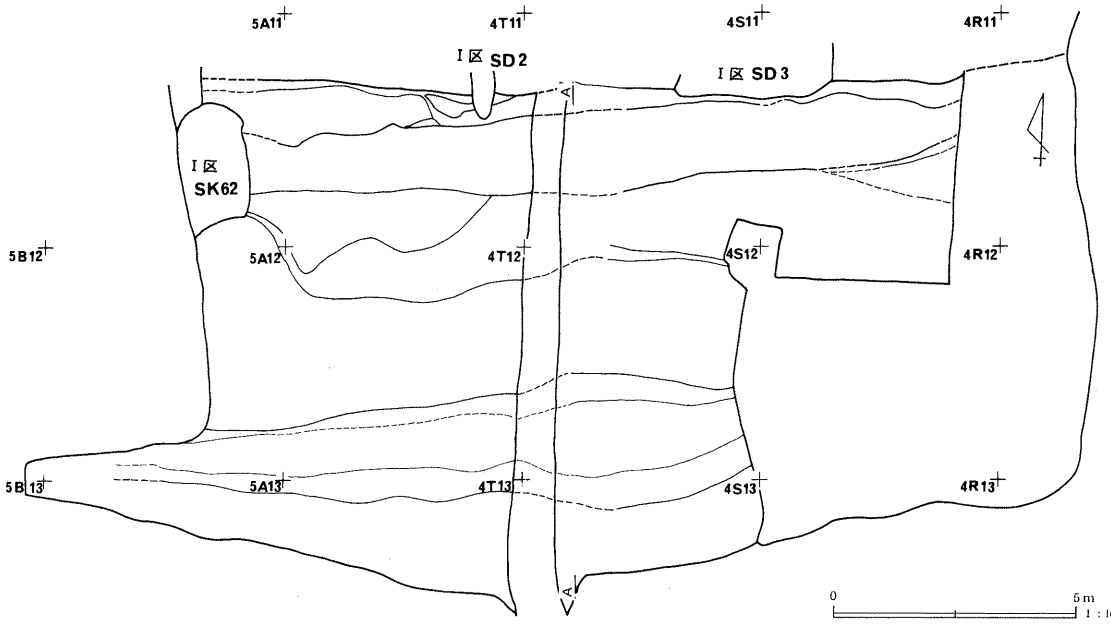
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
7-4	須恵器椀	(15.4)	6.7	7.6	AB	灰色	C	口縁部30% 底部100%	底部外面に墨書。
8-1	須恵器椀	(17.0)	—	—	AEN	灰白色	C	口縁部15%	
8-2	土師器坏	—	—	(6.2)	AB	黒褐色	D	底部45%	
8-3	須恵器坏	(15.6)	—	—	AB	灰色	A	口縁部20%	
8-4	須恵器坏	(15.4)	—	—	ABE				
8-5	須恵器坏	12.4	4.3	5.4	AMN	灰色	A	70%	
8-6	須恵器坏	(11.8)	—	—	AG	灰色	A	口縁部10%以下	
8-7	須恵器坏	(12.2)	4.4	(5.0)	ABHN	灰白色	C	15%	
8-8	須恵器坏	(12.8)	3.9	(5.8)	ABE	灰色	C	25%	
8-9	須恵器坏	—	—	(5.0)	AG	外面：灰白色　内面：灰色	C	底部35%	墨書「日」?
8-10	須恵器坏	—	—	(7.0)	AN	灰色	A	底部35%	
8-11	須恵器坏	—	—	4.8	ABE	灰白色	A	底部100%	
8-12	須恵器坏	—	—	5.2	ACG	灰色	C	底部100%	粘土積み重ね痕あり。
8-13	須恵器椀	(14.6)	5.5	6.2	ADG	灰白色	C	45%	
8-14	須恵器椀	—	—	7.2	ABN	灰白色	C	底部100%	
8-15	須恵器椀	—	—	7.3	AB	灰白色	A	底部100%	
8-16	須恵器椀	—	—	6.8	ABGN	灰色	A	底部100%	
8-17	須恵器椀	—	—	5.8	AEN	灰色	C	底部100%	
8-18	須恵器椀	—	—	6.0	ABN	灰色	A	底部75%	
8-19	須恵器高台付皿	—	—	—	E	灰色	A	底部50%	
8-20	須恵器皿	(19.4)	—	—	AG	灰色	A	口縁部10%以下	
8-21	灰釉陶器椀	(16.1)	5.15	(7.8)	AB	灰白色	A	30%	東濃産。
8-22	灰釉陶器稜椀	(14.8)	—	—	ABP	外面：灰白色　内面：灰白色、灰色	A	口縁部20%	
8-23	灰釉陶器長頸瓶	—	—	—	B	灰白色	A	頸部50%	東濃産。
8-24	土師器甕	(18.4)	—	—	EL	外面：にぶい黄橙色　内面：橙色	C	口縁部10%	末野産。
8-25	土師器甕	(16.0)	—	—	AE	にぶい黄橙色	C	口縁部25%	
8-26	土師器甕	—	—	7.6	ABEI	外面：にぶい橙色　内面：にぶい黄橙色	C	40%	
8-27	土師器台付甕	(12.0)	—	—	AB	橙色	C	口縁部40%	
8-28	土師器台付甕	—	—	(10.2)	AB	にぶい黄橙色、にぶい橙色	C	脚台部65%～胴部下半	外面に煤付着。
8-29	須恵器甕	—	—	—	ABG	灰色	A	口縁部10%以下	
8-30	瓦塔	—	—	—	BE	灰白色	C	初層破片	
13-1	須恵器椀	14.0	5.7	6.0	AB	灰色	C	口縁部60%、底部100%	
13-2	須恵器椀	13.8	5.3	6.2	AB	オリーブ灰色	C	100%	
13-3	須恵器皿	13.4	2.1	5.2	AB	灰色	C	80%	
15-1	土師器甕	—	—	(9.4)	BEHL	浅黄色	C	底部60%	
15-2	土師器甕	—	—	4.5	ABEI	橙色	C	底部55%	

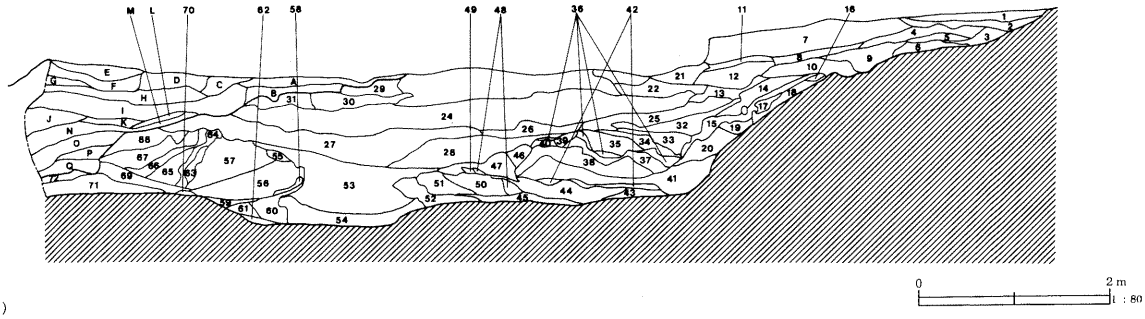
(6)　河川跡

河川跡Ｆ地点（第41～65図、第７～14表）

４区Ｐ～Ｑ、５区Ａ・Ｂ―11～13グリッドに位置していた。調査区をほぼ東西に横断し、上部にＩ区第２・３号溝、北西隅はＩ区第62号土坑によって切られていた。東西と南は調査区域外であった。河川跡Ａ地点の対岸にあたる。

規模は、検出面での最大幅10.8m、長さ23.3m、深さは最深で約２mであった。やや南寄りの底に東西に溝状の掘り込みがあった。覆土は、上層が灰色及び暗灰色の粘質土、中間層がオリーブ黒色の粘質土及びシルト、下層がオリーブ黒色及び暗緑灰色の粘質土及び砂質土が主に堆積し、全体的に腐食し泥炭化した多量の植物繊維が含まれていた。また、検出部南端付近の中間及び下層が氾濫による層位の不整合が認められた。土層観察から、周辺部からの堆積、一時的な氾濫による堆積土の攪拌がありながら次第に湿地化して埋没していったものと考えられる。また、南端を掘り直していることから少なくとも





（A－A'）

A黒褐色粘質土2.5Y-3/1（しまりない、腐食植物多量に含む）
B黒色粘質土5Y-2/1（腐食植物、炭化物含む）
C黒色粘質土2.5Y-2/1（しまりない、腐食植物多量に含む）
D黒褐色粘質土2.5Y-3/1（しまりない、腐食植物多量に含む）
E暗オリーブ灰色粘質土2.5GY-4/1（しまりない、腐食植物に含む）
F黒色粘質土5Y-2/1（しまりない、腐食植物多量に含む）
Gオリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（しまりない、腐食植物多量に含む）
Hオリーブ黒色シルト10Y-3/1（細砂、腐食植物含む）
I暗オリーブ灰色粘砂土2.5GY-3/1（腐食植物、木片、小礫、炭化物含む）
J暗青灰色粘砂土5B-3/1（オリーブ黒色ブロック、腐食植物、土器片含む）
K暗青灰色砂10BG-4/1（オリーブ黒色多量、腐食植物含む）
L暗青灰色砂5BG-4/1（腐食植物含む）
M暗青灰色砂10BG-4/1（腐食植物含む）
N暗青灰色砂10BG-3/1（暗オリーブ灰色粒子、腐食植物、小礫、土器片含む）
O暗青灰色砂5B-3/1（オリーブ黒色粒子、腐食植物、土器片含む）
P暗オリーブ灰色砂2.5GY-3/1
Q暗青灰色砂5B-3/1（オリーブ黒色粒子、腐食植物、土器片含む）
1暗灰色土N-3/（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物含む）
2明褐色土7.5YR-5/8（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、かたくしまる、焼土、炭化物、土器片含む）
3暗灰色粘質土N-3/（灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄若干、炭化物含む）
4灰色土N-4/（灰色粒子、酸化鉄、焼土、炭化物、土器片含む）
5灰色粘質土10Y-5/1（灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
6灰色粘質土10Y-4/1（灰色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
7灰色粘質土N-4/（灰色粒子多量、灰色ブロック、酸化鉄、炭化物、焼土含む）
8暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子多量、焼土、炭化物、土器片含む）
9暗灰色粘質土N-3/（緑灰色粒子、灰色粒子、酸化鉄、炭化物、土器片含む）
10灰色粘質土7.5Y-4/1（緑灰色ブロック・粒子多量、オリーブ黒色粒子、焼土、酸化鉄若干含む）
11灰色粘質土7.5Y-4/1（緑灰色粒子、オリーブ黒色粒子、炭化物、酸化鉄若干含む）
12暗緑灰色粘質土10GY-4/1（灰色粒子、緑灰色粒子、酸化鉄、焼土若干含む）
13灰色粘質土10Y-5/1（緑灰色粒子若干含む）
14灰色シルト10Y-5/1（細砂、酸化鉄、腐食植物若干含む）
15暗灰色粘質土N-3/（緑灰色ブロック・粒子若干含む）
16灰色粘質土N-5/（酸化鉄若干含む）
17暗緑灰色粘質土10GY-4/1（黒色粒子若干含む）
18青灰色粘質土10BG-5/1（黒色粒子、灰色粒子若干、酸化鉄含む）
19灰色粘質土N-5/（青灰色粒子若干含む）
20青灰色粘質土10BG-5/1（細砂含む）
21オリーブ黒色土5Y-3/1（黒色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子、酸化鉄、火山灰含む）
22灰色粘質土10Y-5/1（緑灰色ブロック・粒子多量、青灰色ブロック・粒子含む）
23灰色シルト10Y-4/1（緑灰色粒子若干、腐食植物含む）
24暗オリーブ灰色粘質土2.5GY-3/1
25オリーブ黒色粘質土10Y-3/2（炭化物若干、腐食植物含む）
26オリーブ黒色シルト7.5Y-3/1（炭化物若干含む）
27暗オリーブ灰色粘質土2.5GY-3/1（炭化物若干含む）
28オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（灰色ブロック若干、細砂含む）
29オリーブ黒色シルト7.5Y-2/1（緑灰色粒子、炭化物、腐食植物、土器片含む）
30灰色粘質土5Y-4/1（緑灰色粒子、細砂、炭化物、腐食植物含む）
31オリーブ黒色シルト5Y-3/1（暗青灰色粒子、灰色粒子、腐食植物多量に含む）
32暗オリーブ灰色シルト2.5GY-3/1（細砂、腐食植物若干含む）
33オリーブ黒色シルト7.5Y-3/1（細砂、腐食植物若干含む）
34黒色シルト5Y-2/1（細砂、腐食植物多量に含む）
35オリーブ黒色シルト7.5Y-3/1（暗青灰色細砂、炭化物、腐食植物含む）
36オリーブ黒色シルト5Y-2/2（細砂、焼土、炭化物、腐食植物多量に含む）
37オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（暗緑灰色粒子若干、腐食植物若干含む）
38暗青灰色粘質土10BG-4/1（灰色粒子若干含む）
39暗オリーブ灰色粘質土2.5GY-4/1（灰色粒子、暗青灰色粒子含む）
40灰色粘質土N-4/（暗青灰色粒子若干含む）
41暗青灰色シルト5B-4/1（オリーブ黒色ブロック・粒子多量、土器片含む）
42暗緑灰色粘砂土5G-4/1
43暗青灰色シルト5B-4/1（オリーブ黒色粒子を下層に含む）
44暗青灰色シルト5B-4/1（オリーブ黒色粒子若干含む）
45暗青灰色シルト10BG-4/1（オリーブ黒色ブロック・粒子含む）
46オリーブ黒色シルト5Y-3/1（炭化物若干含む）
47オリーブ黒色シルト10Y-3/1（オリーブ灰色粒子、炭化物若干含む）
48暗青灰色粘砂土5BG-4/1
49オリーブ黒色土ブロック10Y-3/1（細砂、焼土、炭化物、腐食植物多量に含む）
50暗青灰色粘質土5BG-4/1（オリーブ黒色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子多量に含む）
51オリーブ黒色シルト5Y-3/1（灰色ブロック・粒子、暗青灰色ブロック・粒子多量に含む）
52暗青灰色シルト5B-4/1（オリーブ黒色粒子若干含む）
53オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（暗青灰色粒子若干、腐食植物若干含む、炭化物含む）
54オリーブ黒色粘質土5Y-3/1（暗青灰色ブロック・粒子、黒色粒子、灰色粒子、細砂、炭化物含む）
55オリーブ黒色粘質土7.5Y-2/2
56暗青灰色粘質土10BG-4/1（オリーブ黒色粒子若干、細砂含む）
57暗青灰色粘質土5BG-4/1（灰色粒子若干含む）

第41図　河川跡Ｆ地点

58暗緑灰色粘砂土5G-4/1（オリーブ黒色粒子若干、土器片含む）
59暗緑灰色粘砂土10G-4/1
60暗青灰色粘質土10BG-4/1（オリーブ黒色粒子若干含む）
61暗青灰色シルト5BG-4/1
62オリーブ黒色粘質土10Y-3/1（暗青灰色ブロック・粒子含む）
63灰色粘質土10Y-4/1（炭化物若干含む）
64暗灰色粘質土N-3/（炭化物若干含む）
65暗オリーブ灰色シルト2.5GY-4/1（灰色粒子、暗灰色粒子含む）
66暗灰色粘質土N-3/（暗オリーブ灰色粒子、灰色ブロック・粒子含む）
67灰色粘質土10Y-4/1（暗灰色粒子若干、細砂、腐食植物含む）
68暗緑灰色粘質土5G-4/1（灰色ブロック・粒子、炭化物、腐食植物含む）
69暗緑灰色粘質土10G-4/1（細砂含む）
70暗緑灰色シルト10G-4/1
71暗青灰色シルト5BG-4/1（オリーブ黒色粒子若干含む）
72灰色粘質土5Y-4/1（青灰色ブロック・粒子、暗青灰色ブロック・粒子、炭化物、腐食植物含む）

1回の改修掘削が行われたと判断できる。

出土遺物は、8世紀初頭から11世紀代までの幅広い遺物が検出された。出土遺物のうち土器については、土師器坏・暗文付きの坏・椀・高坏・甕・台付甕・瓶、須恵器蓋・坏・椀・皿・鉄鉢形土器・甕・瓶・擂鉢、灰釉陶器椀・皿、緑釉陶器椀が出土した。土師器・須恵器を問わず、坏が圧倒的量であった。また、墨書のあったものが多数あり、「木」、「へ」、「門」、「月」、「寺」、「文」、「大」、「官」、「山」、「刀(一文字の一部か)」、「日」、「巳」、「山」、「三」、「西」、「寸」、「舎」、「真」、「田」、「丈」、「宮」、「長」、「酒」、「當成」、「上公」、「寺師」、「□前」、「□郷□殿」、などの字の他、渦巻き文が見られた。なかでも「木」が最も多く50点（第42図1～13・21～25、第43図26～43、第44図44～57）を数えた。また、第46図80の「山」の墨書土器には、この「山」の墨書きの前に「乃」という刻書があった。

土師器暗文坏の中には、双耳坏（第48図134）も出土した。また、内面にミガキを施し黒色処理をした酸化焔焼成の須恵器椀（第52図223・224）も見られた。

施釉陶器については、10世紀前半の東濃産の灰釉陶器が大部分であった。また、第47図105・第53図241のように墨書のものも見られた。緑釉陶器は9世紀後半の猿投産の陰刻花文稜椀が出土した。

また、少ないながら瓦片が出土し、凸面調整については大部分がナデ調整であった（第56図1～7）が、縄叩きのもの（第56図8）も見られた。

玉類では、琥珀製の棗玉（第61図1）が半欠損であるが出土した。

石器は、両側縁中央部に抉り込みを入れた撥形の打製石斧（第58図1）が1点出土した。

石製品では、紡錘車（第59図1）の他、砥石（第60図1～3）が出土した。

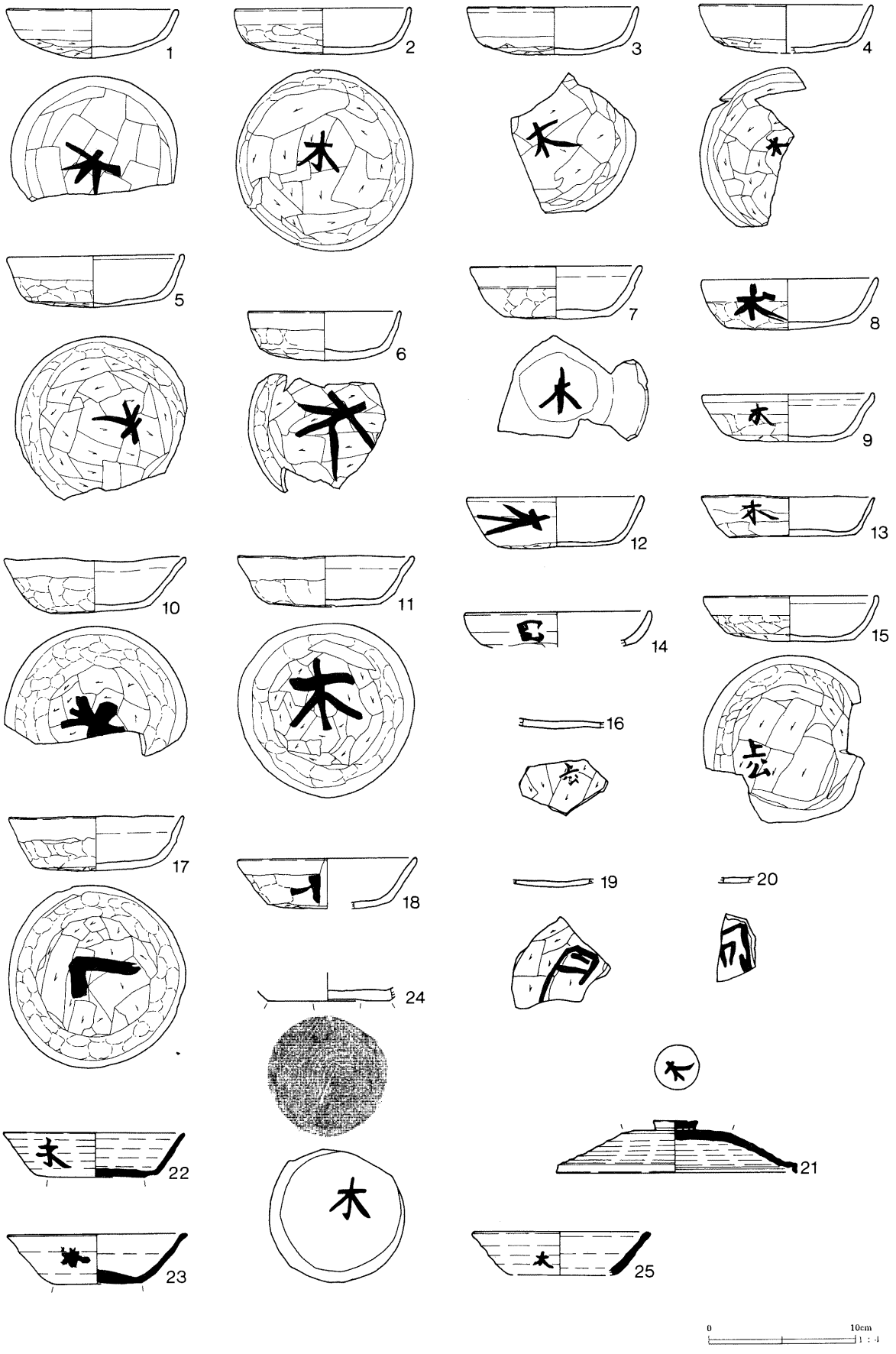
土製品は、土錘（第57図1～6）の他、須恵器底部片転用紡錘車（第59図2～4）が出土した。

金属製品については、釘・鎌・紡錘車などの鉄製品の他、銅製の銙帯具（巡方）（第62図1）、皇朝十二銭の1つである長年大宝が2枚（第62図2・3）出土している。釘には、朱塗りのもの（第62図4・5）もみられた。銙帯具・長年大宝の出土はともに特殊な様相を示している。これらは、北側の掘立柱建物跡群との関連も想起される。

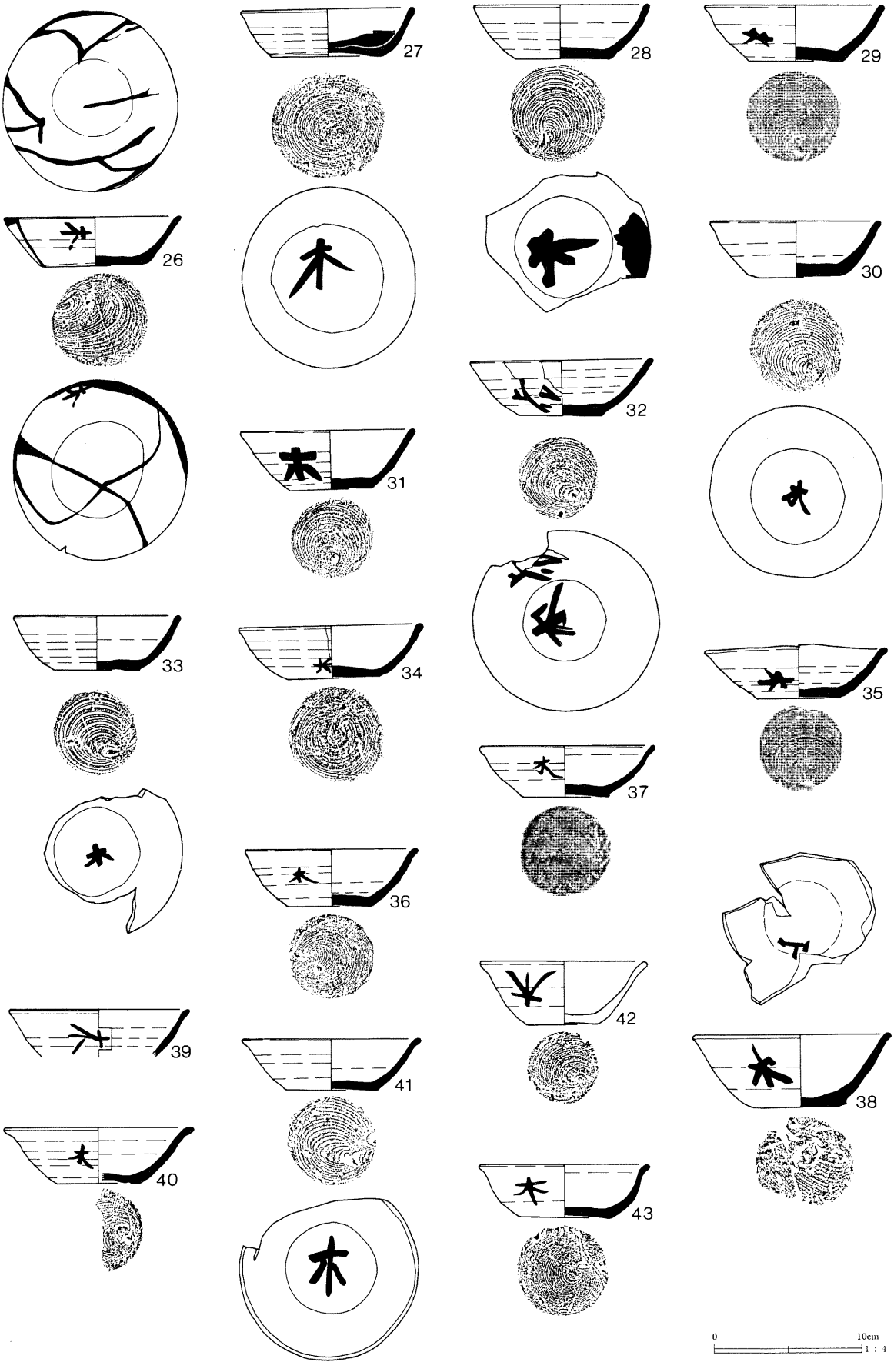
木製品については、いくつかの種類のものが出土しており、おおまかに分類すると、服飾具・食膳具・祭祀具・雑具・建材・用途不明品に分けられる。服飾具は横櫛（第63図1～3）、食膳具は曲物（第63図4～6）、祭祀具は斎串（第63図7・8）・人形や馬形と考えられる形代（第63図9・10）が、雑具では発火具が臼・杵セット（第63図12・13）で出土した。

また、祭祀具との関わりも考えられる雌馬の頭蓋（下顎）（第65図1）の出土もあった。

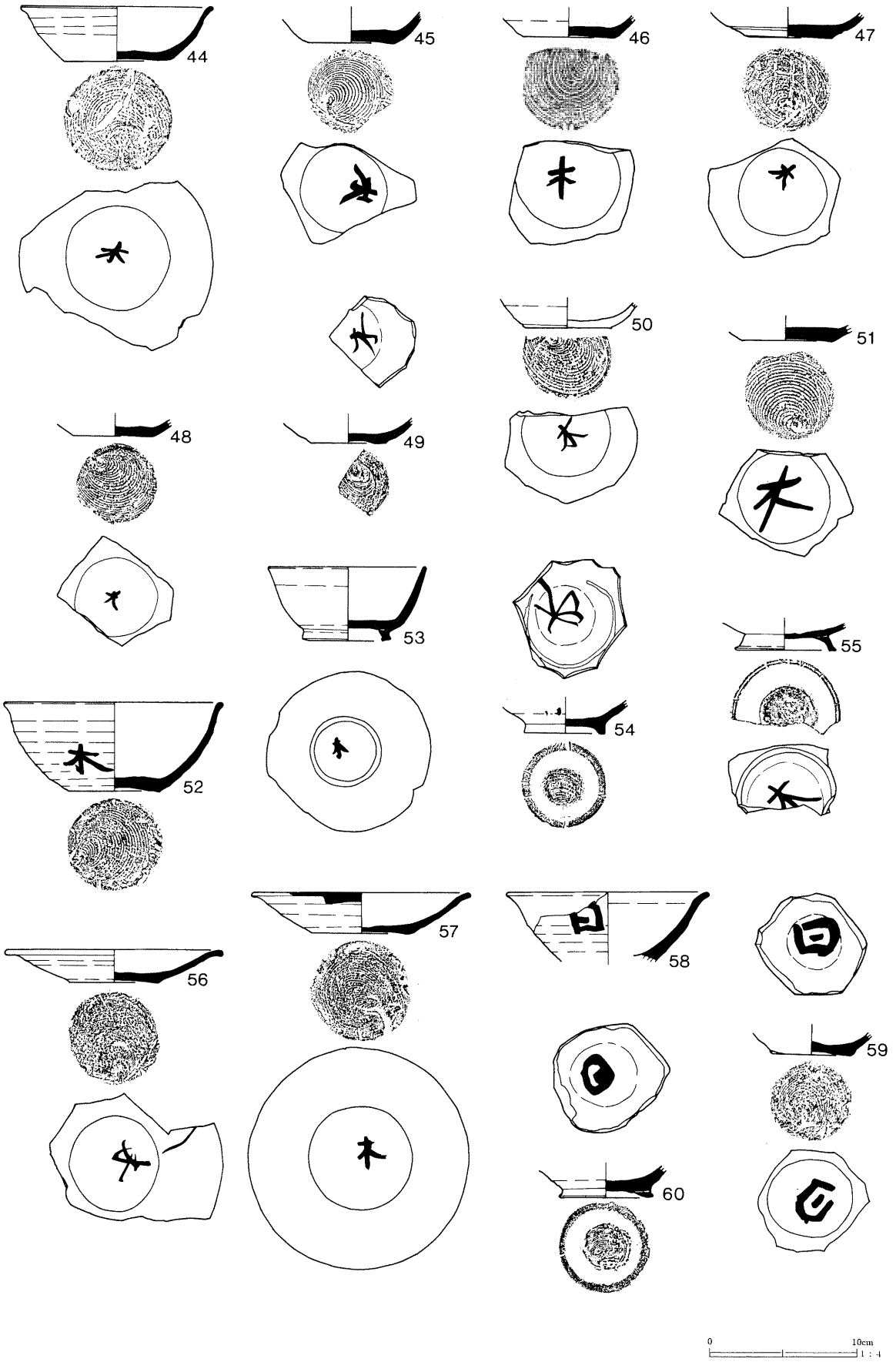
遺物出土状況は、平面的には、4区T—13及び5区A—13グリッド付近、及び4区R・S—11グリッドを中心に出土し、前者の出土状況については、ほぼ完形に近い土師器坏・須恵器坏などの土器がいくつかのグループでまとまって出土した。



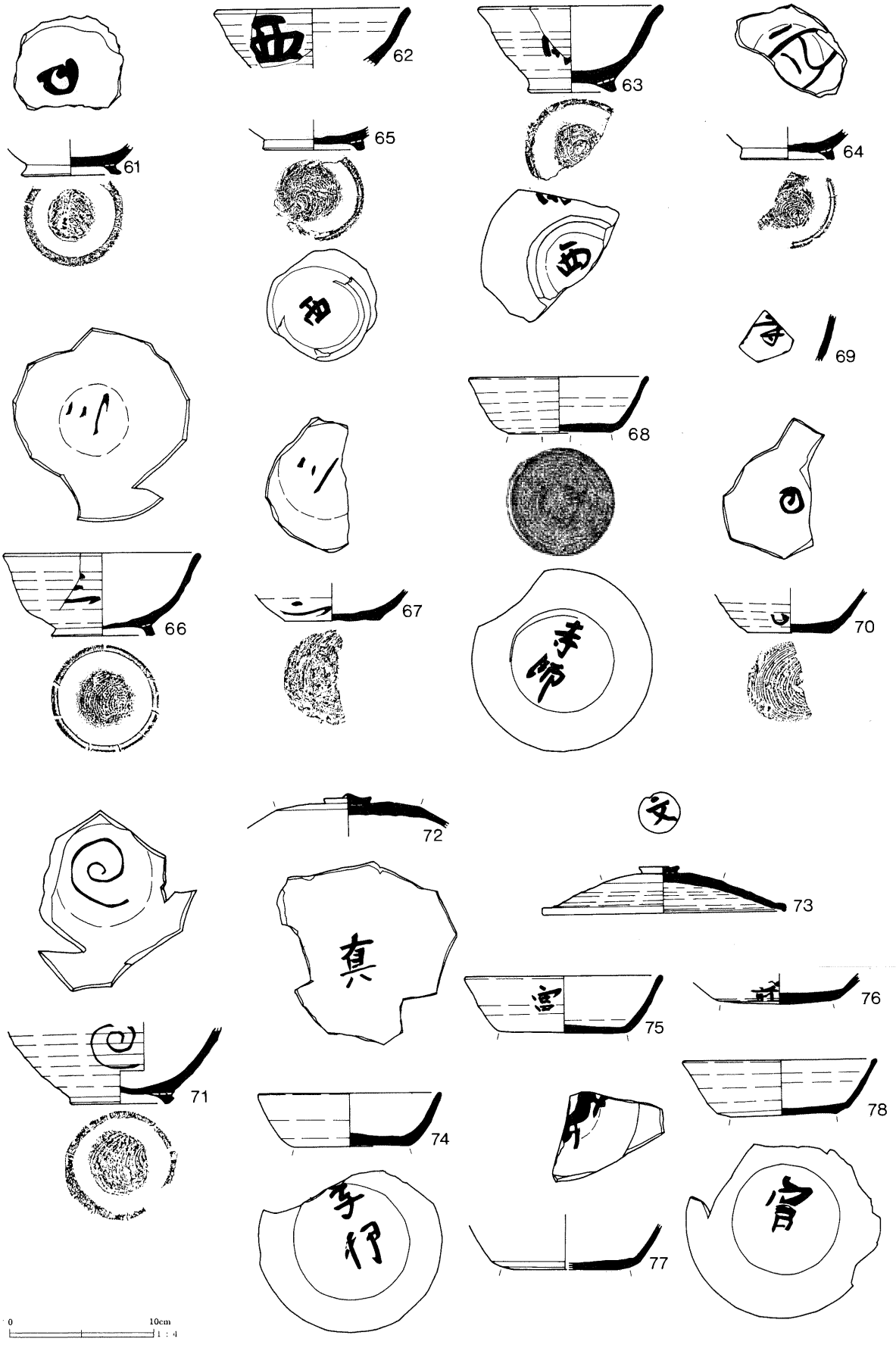
第42図　河川跡Ｆ地点出土土器(1)墨書土器



第43図　河川跡Ｆ地点出土土器(2)墨書土器

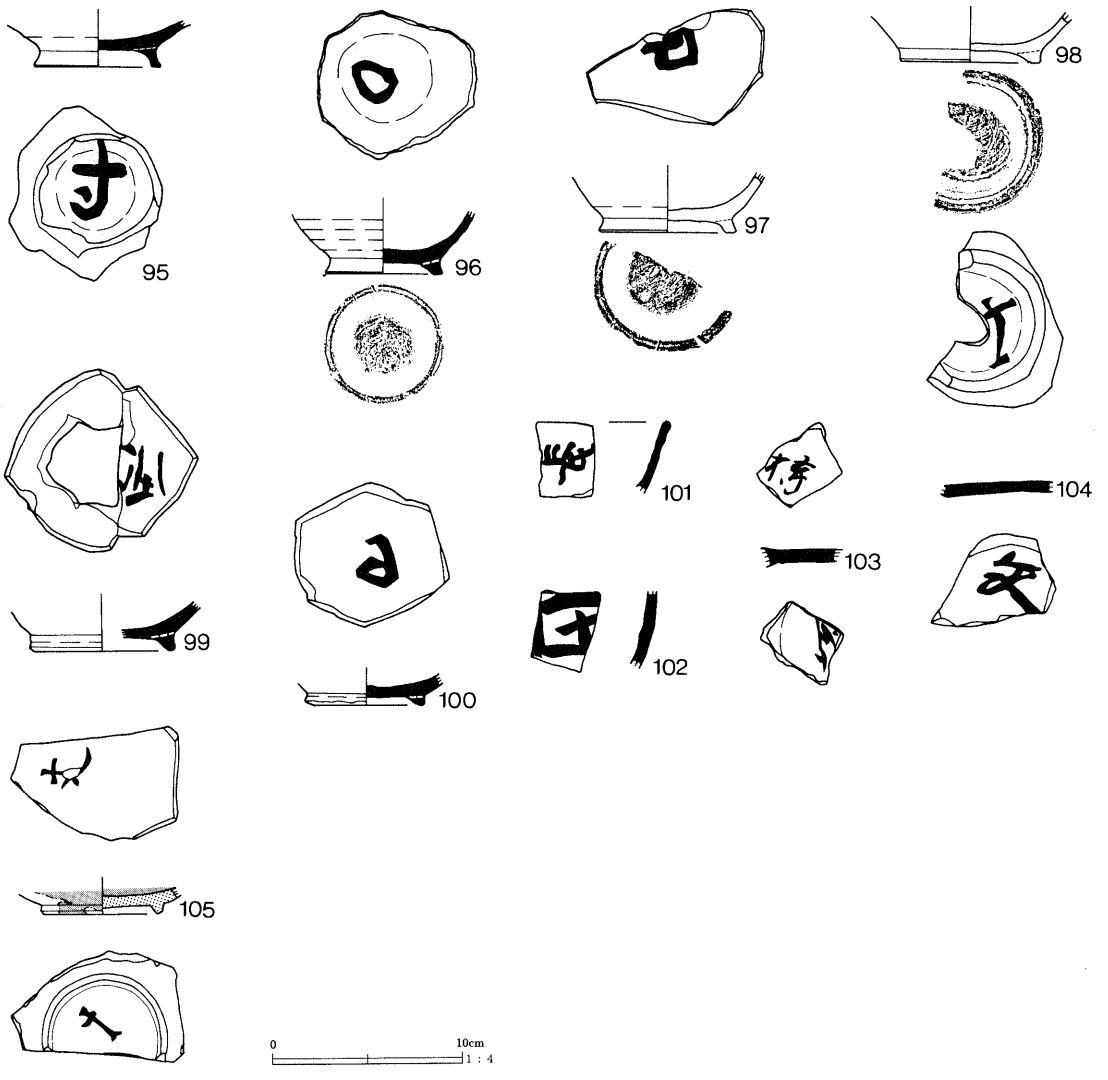


第44図　河川跡Ｆ地点出土土器(3)墨書土器



第45図　河川跡Ｆ地点出土土器⑷墨書土器

第46図　河川跡Ｆ地点出土土器(5)墨書土器

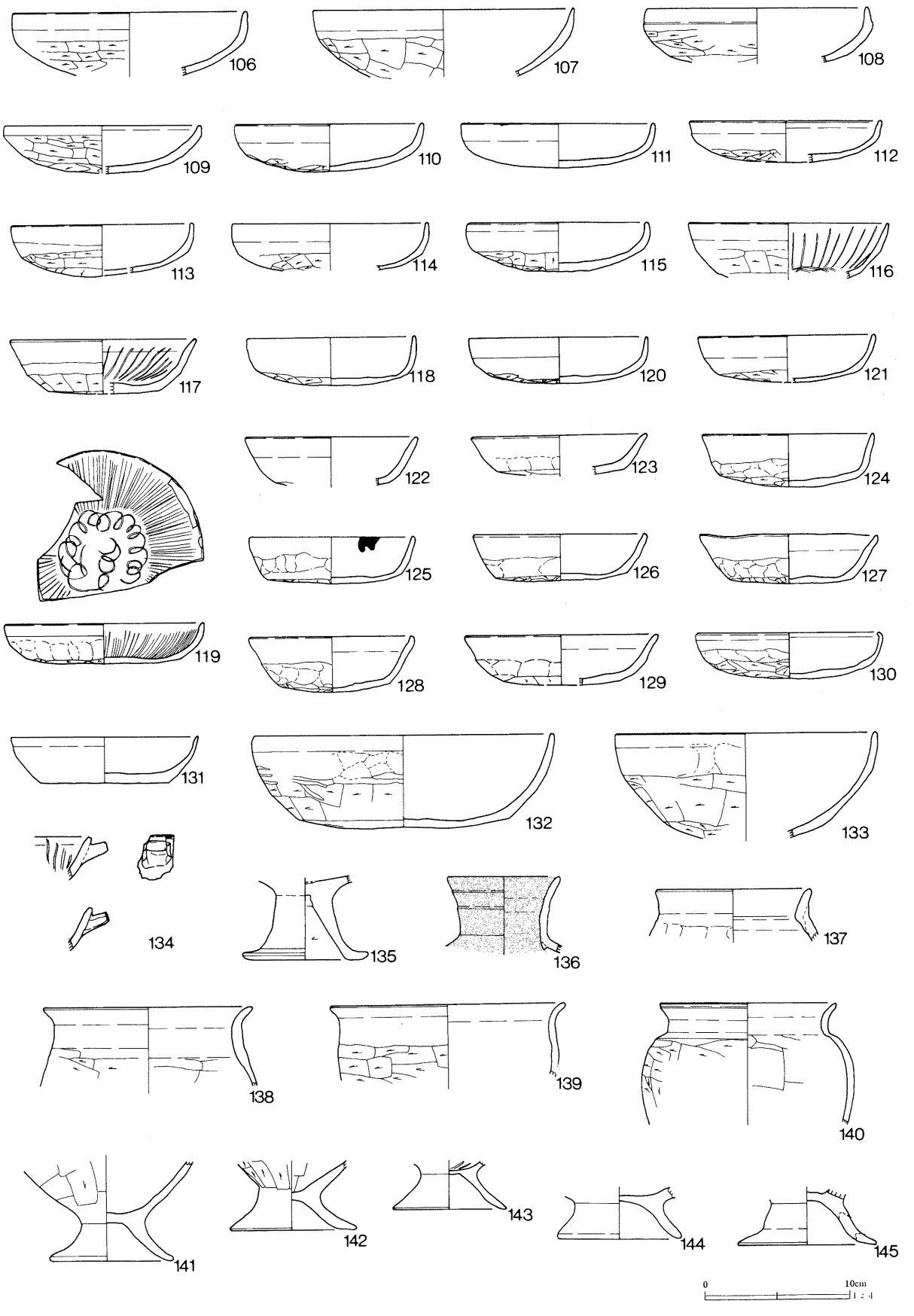


第47図　河川跡Ｆ地点出土土器⑹墨書土器

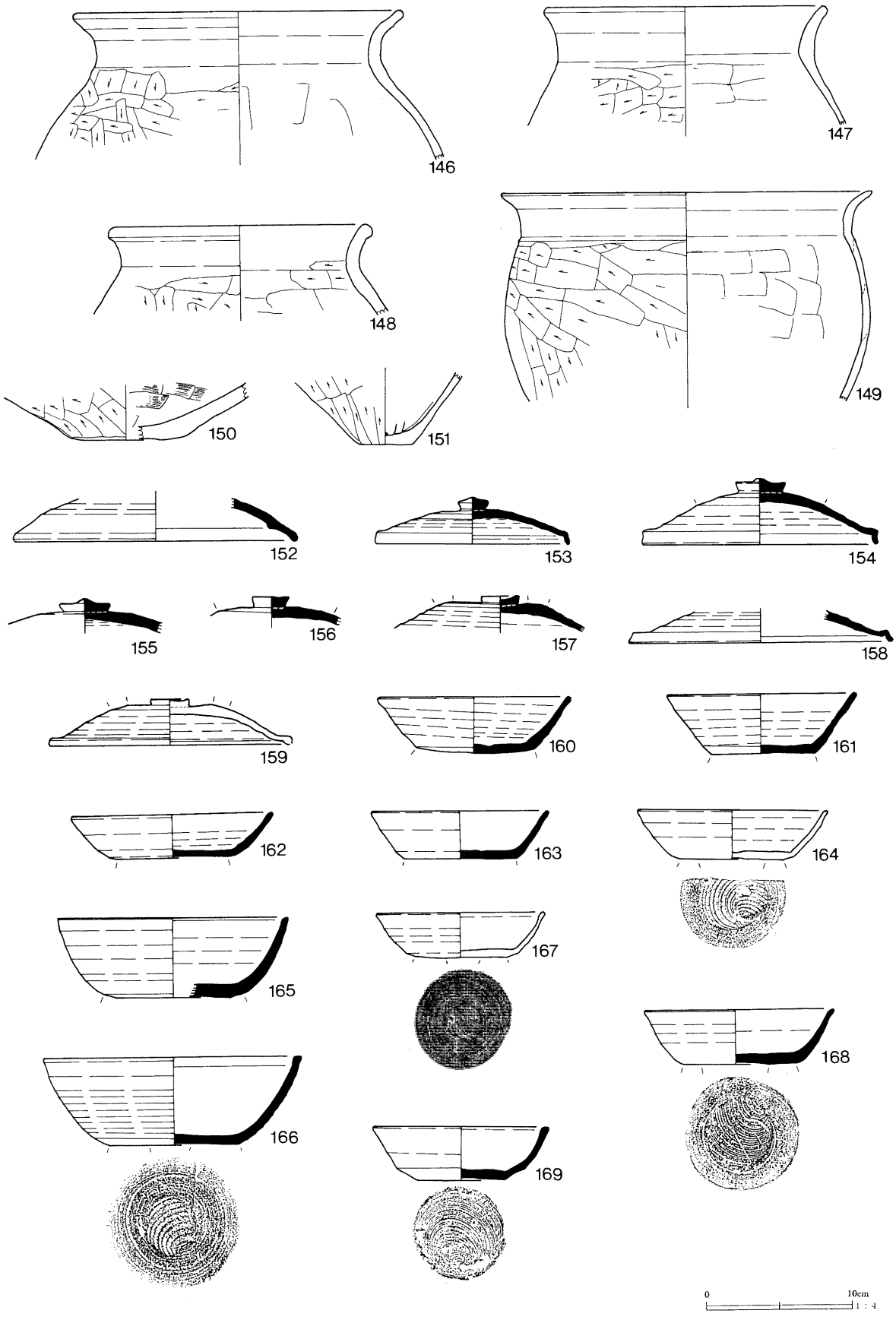
第７表　河川跡Ｆ地点出土土器（墨書土器）観察表

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	土師器坏	4区 S13	(11.7)	3.5	—	ABEH	橙色	A	60%	「木」。
2	土師器坏		12.0	3.2	9.0	ABEJ	にぶい橙色	C	95%	「木」。
3	土師器坏		(11.8)	3.4	(9.0)	ADM	にぶい赤褐色	A	30%	「木」。
4	土師器坏		(11.8)	3.4	—	ABEI	にぶい褐色	A	40%	「木」。
5	土師器坏		(12.0)	3.5	9.0	ABEJ	灰褐色、にぶい褐色	A	60%	「木」。
6	土師器坏		(10.5)	3.4	(9.0)	ABEI	にぶい褐色	A	30%	「木」。
7	土師器坏	4区 S13	(11.8)	3.6	7.3	ABEI	にぶい黄褐色、灰黄褐色	A	20%	「木」。
8	土師器坏	4区 TS13	(12.2)	3.5	8.5	ABEI	橙色	A	60%	「木」。
9	土師器坏	4区 S13　5区 A12	11.8	3.3	(6.8)	BEI	にぶい橙色、にぶい褐色	A	60%	「木」。
10	土師器坏	4区 T13	12.6	3.5	7.2	BEI	灰黄褐色、褐灰色	A	60%	「木」。
11	土師器坏		12.0	3.5	7.8	BE	にぶい褐色、にぶい橙色	A	98%	「木」。
12	土師器坏	4区 S13	12.2	3.4	8.5	ABEI	にぶい橙色、にぶい赤褐色	A	80%	「木」。
13	土師器坏		12.0	2.8	8.6	ABJ	にぶい橙色、にぶい赤褐色	A	100%	「木」。
14	土師器坏		(12.7)	—	—	ABEI	にぶい褐色	A	口縁部20%	「門」。
15	土師器坏	4区 T13	(12.0)	3.2	9.0	ABEI	にぶい赤褐色、褐灰色	A	80%	「上公」。
16	土師器坏		—	—	—	AJ	にぶい黄褐色	A	底部破片	「上公」。
17	土師器坏		12.0	3.7	8.0	ABEI	にぶい褐色、にぶい橙色	A	100%	「へ」。
18	土師器坏	5区 A12	(12.4)	3.5	(8.5)	AD	灰褐色、灰黄褐色	A	40%	？
19	土師器坏		—	—	—	ABJ	外面：褐色　内面：灰黄褐色	A	底部破片	「月」？
20	須恵器坏	4区 R11	—	—	—	AEI	にぶい褐色	A	底部破片	？
21	須恵器蓋	4区 T13	16.6	3.5	—	ABFGLN	灰色	A	70%	「木」。
22	須恵器坏	4区 T12	12.5	3.1	7.0	AFGN	灰色	A	98%	「木」？ 。南比企産。
23	須恵器坏		(12.4)	3.4	(6.0)	ABEF	暗青灰色	A	45%	「木」。
24	須恵器坏		—	—	(8.5)	ABEJ	灰黄褐色	B	底部100%	「木」。
25	須恵器坏		(12.0)	3.0	(7.0)	ABF	灰色	A	口縁部10%	「木」。南比企産。
26	須恵器坏		12.0	3.2	7.0	AFN	黄灰色	A	99%	「木」。南比企産。
27	須恵器坏		11.8	3.2	7.8	ABDL	灰色	B	100%	「木」。末野産。
28	須恵器坏		(12.0)	3.6	6.5	ABEF	にぶい赤褐色	A	50%	「木」。南比企産。
29	須恵器坏		12.2	3.8	6.3	ABF	灰色	A	100%	「木」。南比企産。
30	須恵器坏		11.6	3.8	5.8	ABFN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	100%	「木」。南比企産。
31	須恵器坏		12.0	4.1	5.7	AEFN	赤褐色、青灰色	A	100%	「木」。南比企産。
32	須恵器坏		12.6	3.8	5.8	ABEF	にぶい赤橙色	A	80%	「上公」、「木」。南比企産。
33	須恵器坏	4区 T13 5区 A12	(11.4)	3.8	5.9	ABFN	暗灰色	A	40%	「木」。南比企産。
34	須恵器坏		12.6	3.6	6.2	ABEF	外面：灰色　内面：青灰色	A	60%	「木」。南比企産。
35	須恵器坏		12.2	3.6	6.8	ABFM	灰色	A	90%	「木」。南比企産。
36	須恵器坏		12.0	4.0	5.8	ABFN	灰色	A	100%	「木」。南比企産。
37	須恵器坏		(12.0)	3.5	5.8	AB	外面：灰色　内面：青灰色	A	60%	「木」。
38	須恵器坏		(13.4)	5.0	6.2	ABGH	灰色	A	40%	「木」、「山」。末野産。
39	須恵器坏	4区 S12	(12.4)	—	—	ABFN	灰色	A	口縁部45%	「木」。
40	須恵器坏		13.0	3.8	5.8	ABLN	灰色	C	40%	「本」。末野産。
41	須恵器坏		12.2	3.5	6.2	ABDH	にぶい黄色	A	70%	「木」。南比企産。
42	須恵器坏		11.7	4.3	5.0	ABHN	にぶい橙色	D	85%	「木」。
43	須恵器坏		11.6	3.6	6.2	ABFN	灰色	A	100%	「木」。南比企産。
44	須恵器坏		13.2	3.7	7.2	ABL	外面：青灰色　内面：灰色	A	70%	「木」。末野産。
45	須恵器坏		—	—	5.8	ABFI	灰色	A	底部90%	「木」。南比企産。
46	須恵器坏		—	—	6.0	ABF	灰白色	C	底部70%	「木」。南比企産。
47	須恵器坏	5区 A12	—	—	5.8	AJL	灰色	A	底部100%	「木」。末野産。
48	須恵器坏	5区 B13	—	—	5.6	AFG	暗青灰色	A	底部80%	「木」。南比企産。
49	須恵器坏	4区 T13	—	—	(5.2)	ABD	灰色	A	底部30%	「木」。末野産。
50	須恵器坏	4区 S12	—	—	(6.0)	ABEG	灰褐色	A	底部60%	「木」。
51	須恵器坏		—	—	6.0	ABEF	灰色	B	底部100%	「木」。南比企産。
52	須恵器椀	5区 A13	(15.0)	6.1	6.2	ABEFGN	灰色	A	70%	「木」。南比企産。
53	須恵器椀		10.8	5.0	6.0	ABFNG	灰色	A	90%	「木」。南比企産。

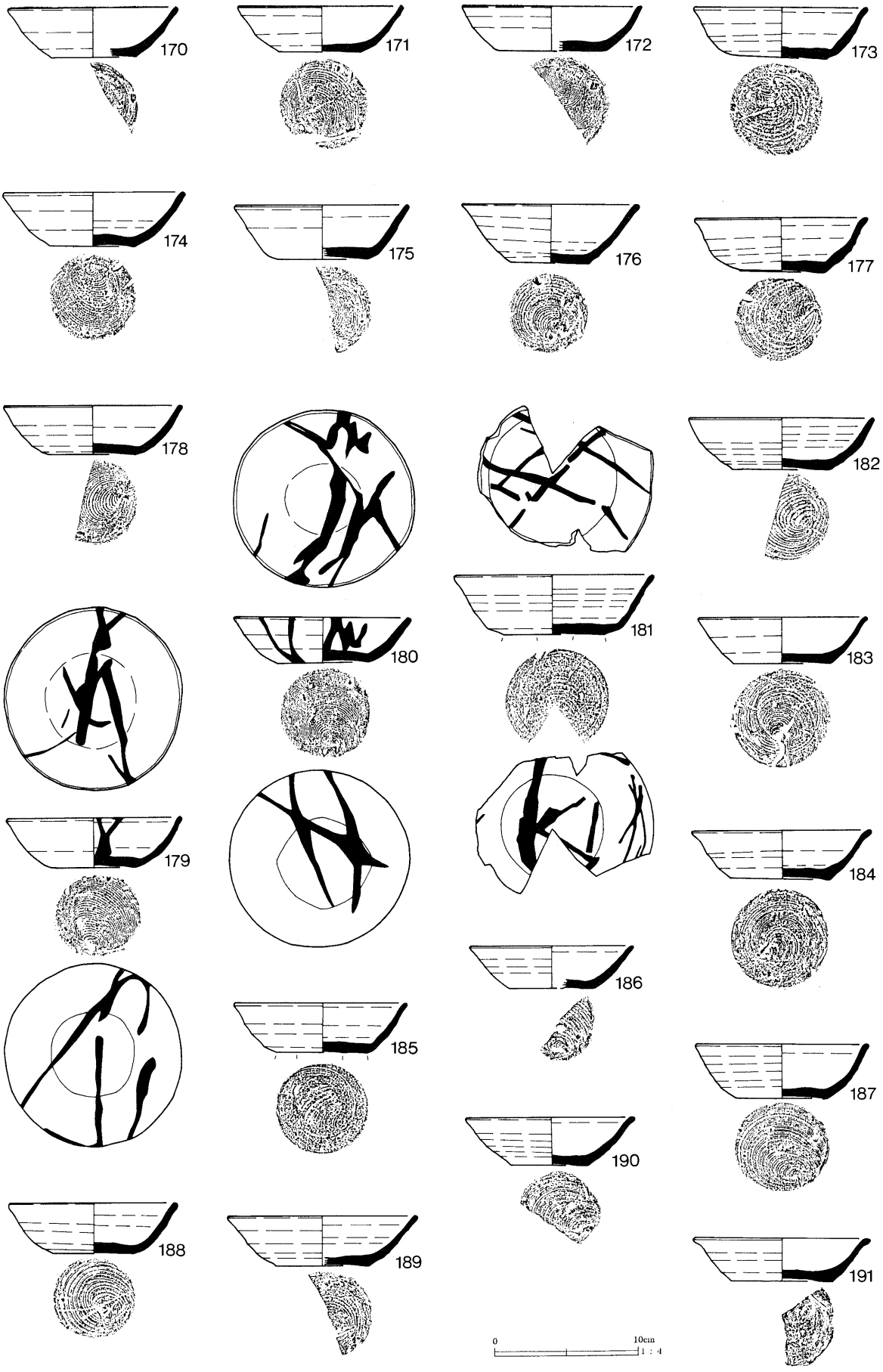
番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
54	須恵器椀		—	—	5.6	ABN	灰色	A	底部100%	「木」。
55	須恵器椀		—	—	(6.8)	ABEN	外面：灰色　内面：灰白色	A	底部60%	「木」。末野産。
56	須恵器皿		(15.0)	2.2	6.2	ABLN	青灰色、暗青灰色	A	50%	「木」。末野産。
57	須恵器坏		15.0	2.8	6.8	ABEGL	外面：灰色　内面：灰黄色	A	100%	「木」。
58	須恵器椀	4区 T12	(13.7)	—	—	ABI	にぶい黄褐色	B	20%	「日」。
59	須恵器坏		—	—	5.5	ABD	灰オリーブ色	A	底部100%	「日」。
60	須恵器椀	4区 T13	—	—	6.4	ABEGL	暗青灰色	A	底部100%	「日」？。末野産。
61	須恵器椀	4区 T12	—	—	7.0	ABE	にぶい黄褐色	C	底部90%	「日」？
62	須恵器坏		(13.5)	—	—	ABG	灰色	A	口縁部10%	「西」。
63	須恵器椀		(12.6)	6.0	(6.2)	ABGLN	灰色	A	30%	「西」。末野産。
64	須恵器椀	5区 B13	—	—	(6.5)	ABGL	暗青灰色	A	底部60%	「西」？
65	須恵器椀		—	—	(7.0)	ABGHN	灰色	B	底部90%	「西」。
66	須恵器椀		(13.4)	5.8	7.4	ABGLN	灰色	A	70%	「三」。末野産。
67	須恵器坏		—	—	6.6	ABIL	灰色	B	底部60%	「三」。南比企産。
68	須恵器坏		12.5	3.8	7.2	BEF	灰色	A	80%	「寺師」。南比企産。
69	須恵器坏	4区 S13	—	—	—	AB	灰色	A	体部破片	「寺」。
70	須恵器坏		—	—	5.8	ABGLN	灰白色	B	底部60%	渦巻き文。末野産。
71	須恵器椀	4区 T13	—	—	—	ABHN	灰白色	A	30%	渦巻き文。末野産。
72	須恵器蓋		—	—	—	ABDH	灰色	C	60%	「真」。
73	須恵器蓋	4区 T13　5区 A12	16.4	3.2	—	ABGH	灰色、オリーブ黒色	B	65%	「文」。
74	須恵器坏		12.6	3.7	8.2	ABF	灰色	A	80%	「寺師」？。南比企産。
75	須恵器坏		13.8	4.0	9.0	ABFGN	明オリーブ灰色	A	70%	「宮」。南比企産。
76	須恵器坏		—	—	7.5	ABFGN	灰色	A	底部100%	「□前」。南比企産。
77	須恵器坏		—	—	(9.0)	ABN	灰色	A	底部25%	？
78	須恵器坏		13.4	3.8	7.2	ABFGH	灰色	A	60%	「宮または官」。南比企産。
79	須恵器坏	4区 T13	—	—	8.5	ABFG	灰白色	A	底部70%	？。南比企産。
80	須恵器坏		12.8	3.4	7.8	ABDFN	灰色、灰黄褐色	A	80%	「山」、刻書「乃」、「〆」。
81	須恵器坏		12.0	3.4	7.4	AEFHN	青灰色	A	100%	「門」。南比企産。
82	須恵器坏		—	—	6.8	ABFGN	灰色	A	底部100%	「刀」または「□刀」。南比企産。
83	須恵器椀	4区 S13	(16.3)	6.5	7.6	ABEFL	灰色	A	70%	「當成」（外2・内1）、底部「酒」南比企産。
84	須恵器坏	5区 A12	(12.0)	3.6	(7.0)	ABFG	灰色	A	口縁部20%	？。南比企産。
85	須恵器坏		11.7	3.3	6.0	BFN	暗青灰色	A	100%	「大」？。南比企産。
86	須恵器坏		12.3	3.7	6.0	AFGN	灰色	A	100%	「有」。南比企産。
87	須恵器坏		(13.4)	3.7	(7.0)	ABDGL	青灰色	A	口縁部15%	？。末野産。
88	須恵器坏		(13.2)	4.0	(6.5)	ABEGIN	にぶい褐色	A	30%	？
89	須恵器坏		—	—	6.0	ABEF	にぶい褐色	A	底部60%	？
90	須恵器坏	5区 B13	—	—	(5.9)	ADG	灰色	A	底部破片	「束」？
91	須恵器坏		—	—	(6.6)	ABFN	灰色	A	底部20%	「上公」。南比企産。
92	須恵器坏		—	—	4.8	ABJN	灰黄色	A	底部100%	？
93	須恵器坏		—	—	5.2	AB	灰色	A	底部100%	？
94	須恵器椀	5区 A13	—	—	(8.1)	ADG	灰色	A	底部50%	？
95	須恵器椀	4区 T13	—	—	(6.8)	ABLN	灰色	A	底部80%	「寸」。末野産。
96	須恵器椀		—	—	6.2	GHN	灰色	B	底部100%	
97	須恵器椀		—	—	(7.2)	ABN	黄灰色	B	底部50%	？
98	須恵器椀		—	—	(7.4)	ABDN	にぶい黄橙色	B	底部60%	？
99	須恵器椀		—	—	7.2	ABLN	灰色	A	底部50%	「舎」？
100	須恵器坏		—	—	6.0	ABLN	灰色	A	底部100%	「已」。
101	須恵器坏	5区 A13	—	—	—	AEFGJ	灰色	A	口縁部破片	「長」。南比企産。
102	須恵器瓶		—	—	—	BN	灰色	A	胴部破片	「田」。
103	須恵器坏	4区 T13	—	—	—	ABD	黄灰色	A	底部破片	「持」？
104	須恵器坏	4区 T13	—	—	—	ABFG	灰色	A	底部破片	「文」。南比企産。
105	灰釉陶器皿		—	—	6.4	ABP	黄灰色	A	底部60%	「丈」。東濃産。



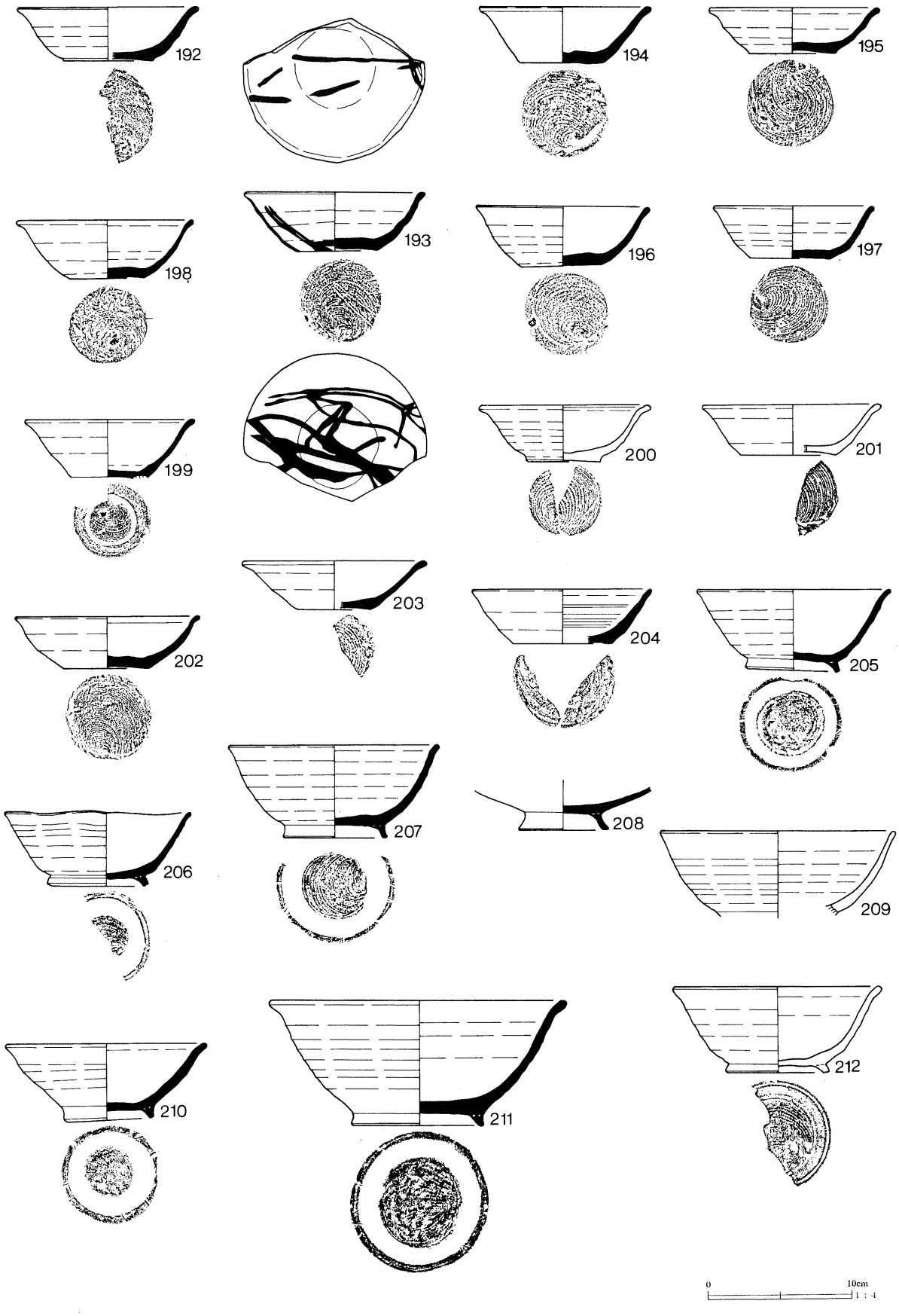
第48図　河川跡F地点出土土器(7)



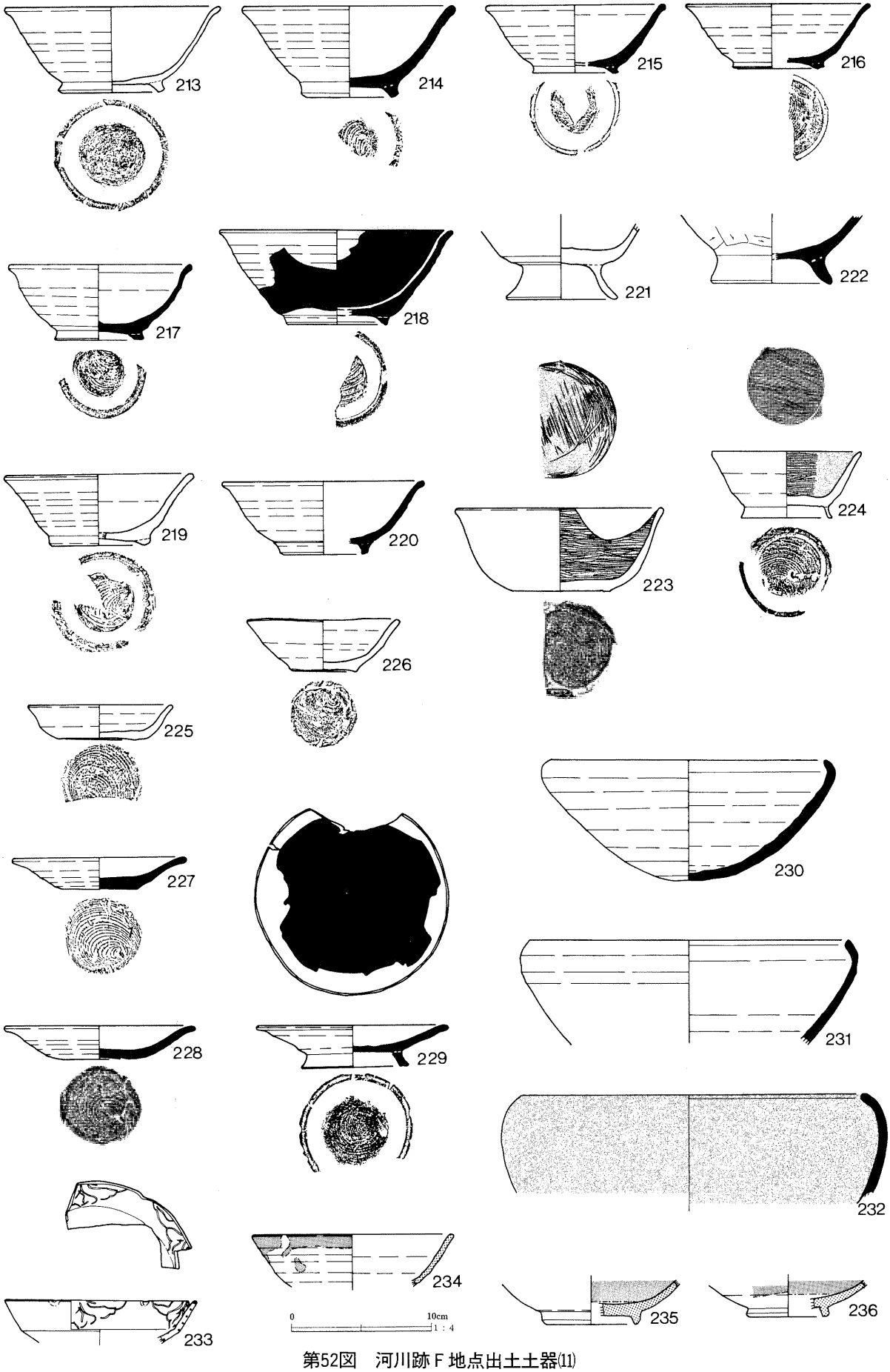
第49図　河川跡Ｆ地点出土土器(8)



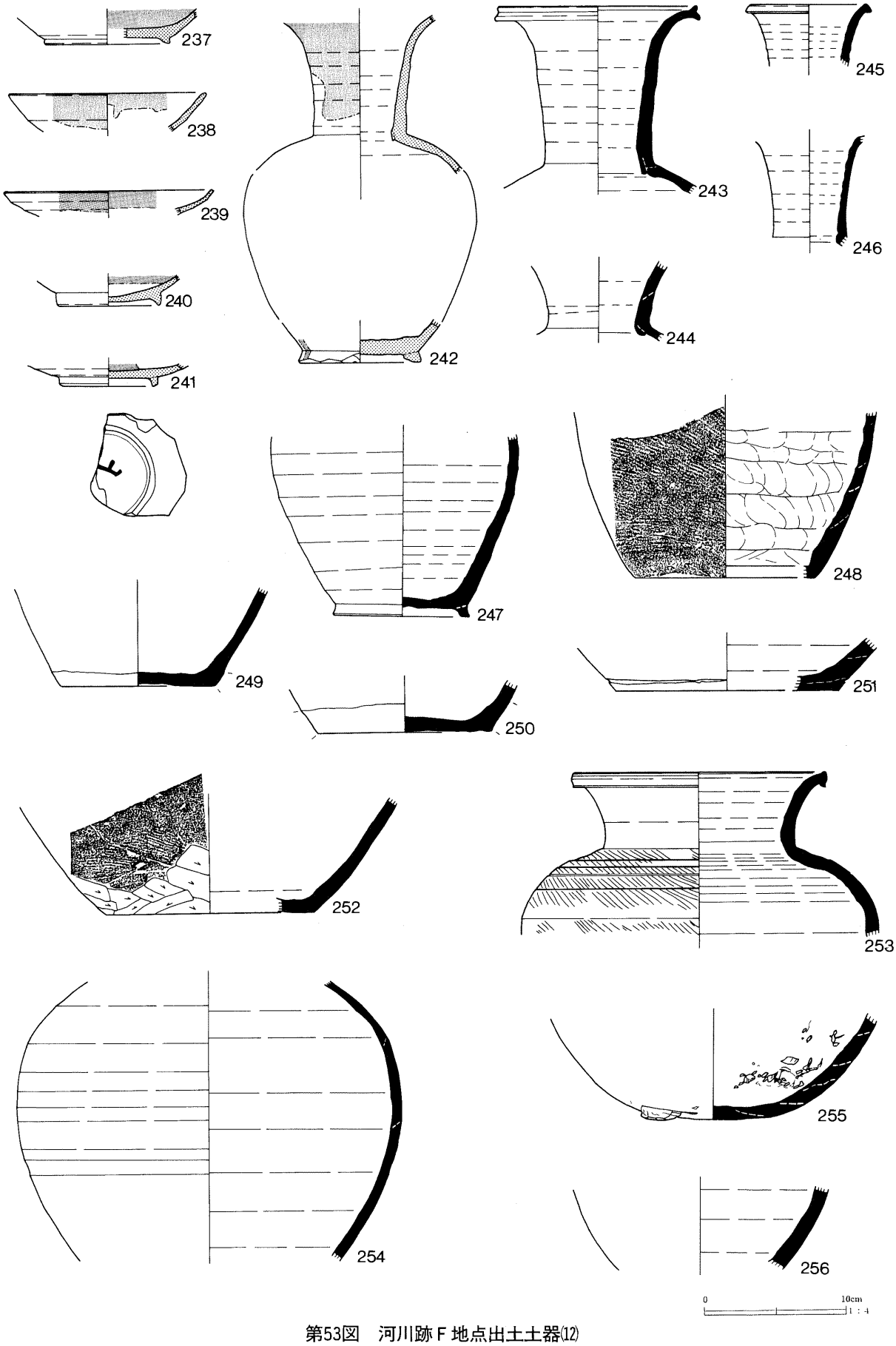
第50図　河川跡F地点出土土器(9)



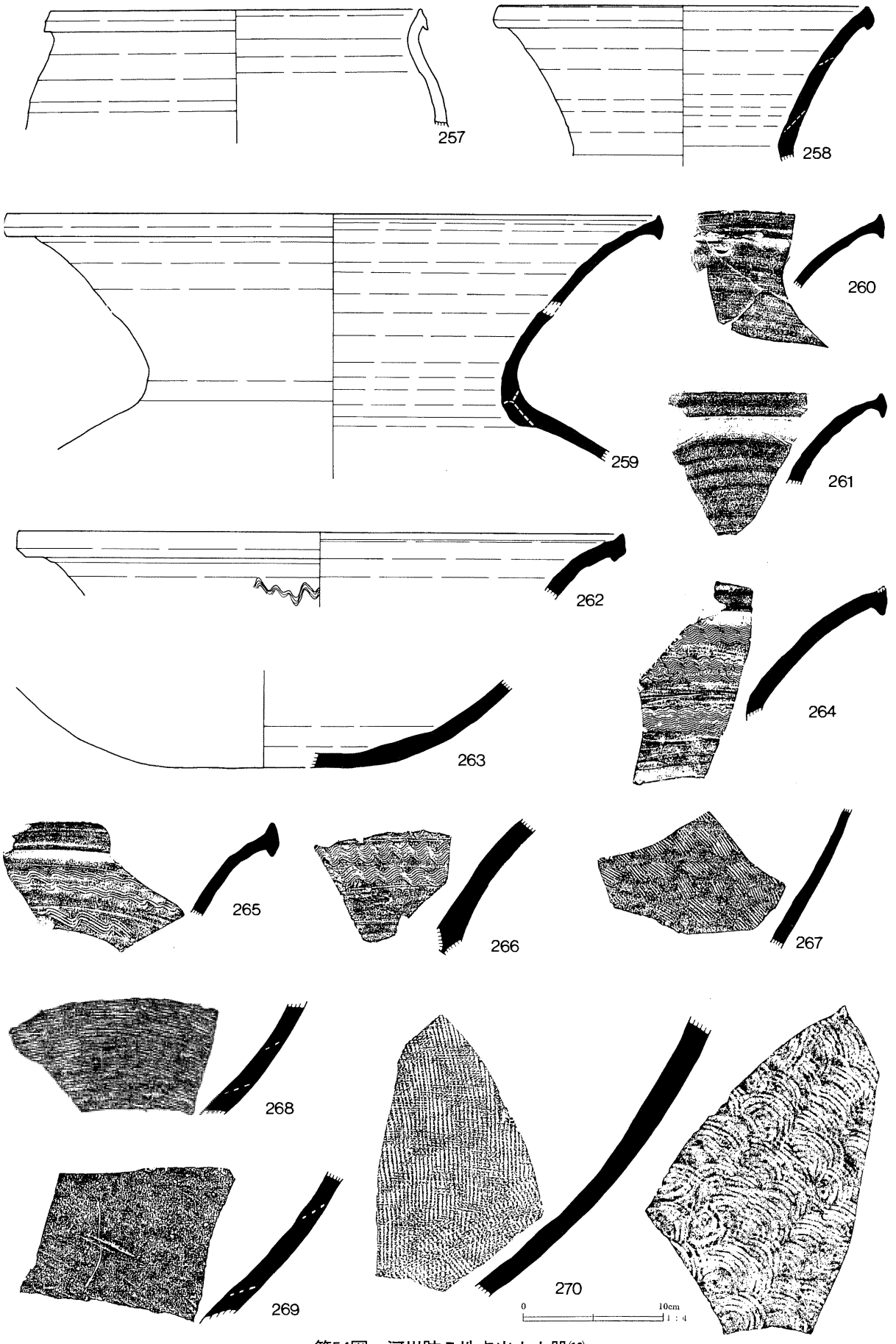
第51図　河川跡Ｆ地点出土土器(10)



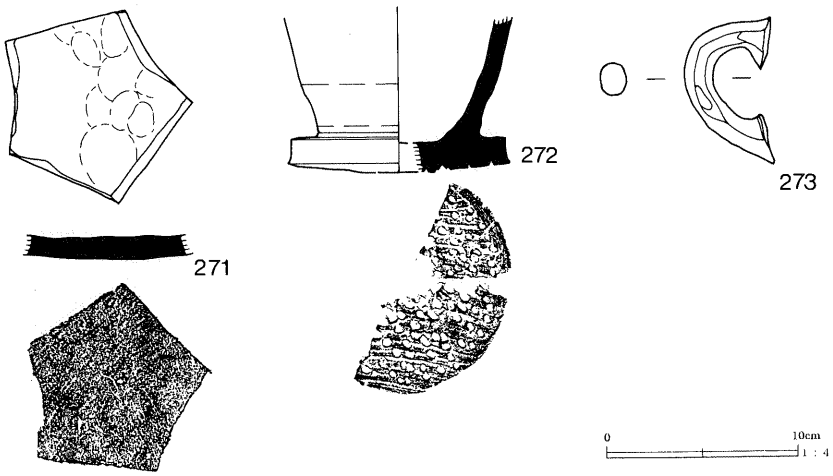
第52図　河川跡F地点出土土器(11)



第53図　河川跡Ｆ地点出土土器(12)



第54図　河川跡Ｆ地点出土土器(13)



第55図　河川跡Ｆ地点出土土器(14)

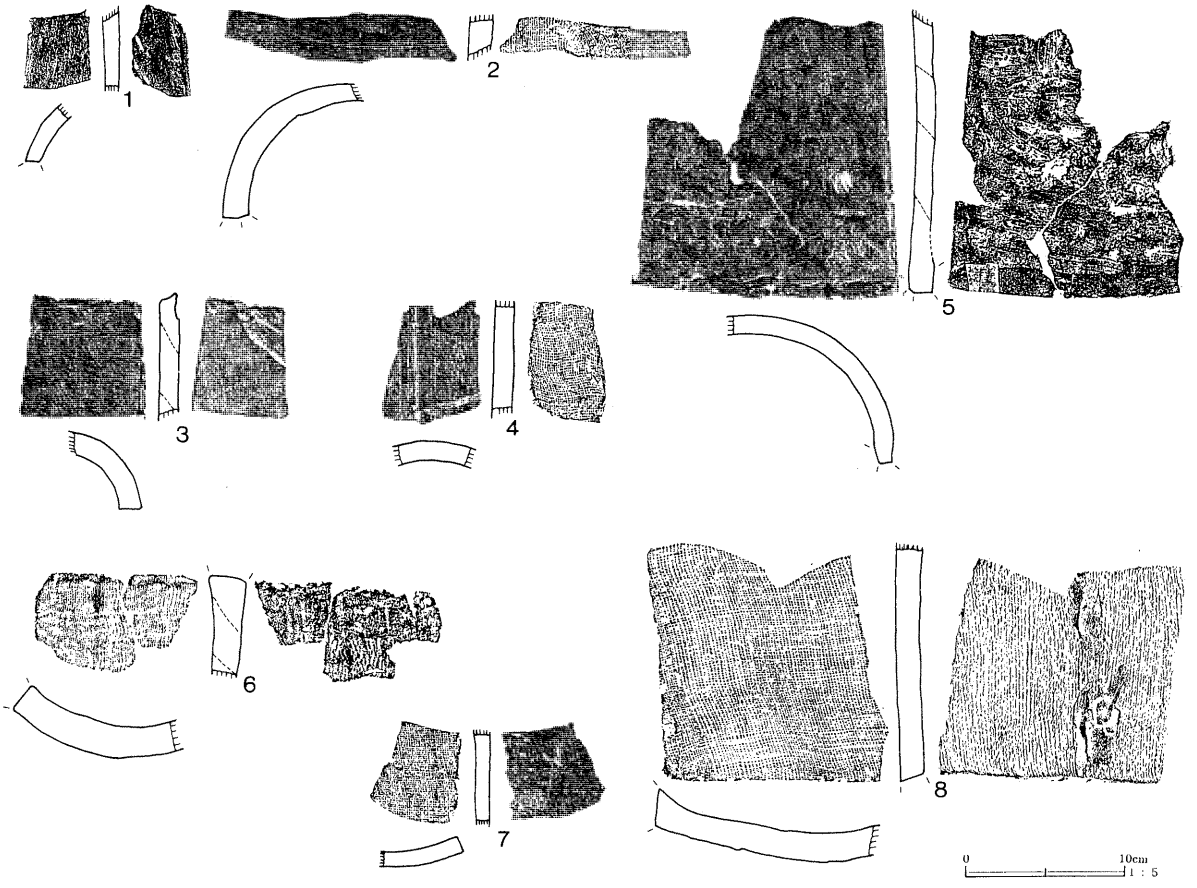
第８表　河川跡Ｆ地点出土土器観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
106	土師器坏	(16.5)	—	—	ABJ	にぶい黄褐色	B	口縁部20%	
107	土師器坏	(18.4)	—	—	ABI	外面：黒褐色　内面：にぶい黄褐色	B	20%	
108	土師器坏	(15.4)	—	—	ABHI	灰黄褐色	A	口縁部20%	
109	土師器坏	(13.7)	3.4	—	ABH	にぶい褐色	A	25%	
110	土師器坏	(13.2)	3.3	—	ABEJ	灰黄褐色	A	40%	
111	土師器坏	(13.5)	3.2	—	ABDHI	にぶい黄褐色	B	50%	
112	土師器坏	(13.2)	3.0	—	ABEI	黒色	A	40%	
113	土師器坏	12.7	3.6	—	ABHI	外面：褐色　内面：にぶい黄褐色	A	90%	
114	土師器坏	(13.8)	—	—	ABEHI	にぶい褐色	A	25%	
115	土師器坏	(12.5)	3.5	—	ABEHJ	赤褐色	A	40%	
116	土師器坏	(14.0)	—	—	ABEI	明赤褐色	A	口縁部20%	放射状・らせん状暗文。
117	土師器坏	(13.0)	3.8	(7.8)	ABI	橙色	A	40%	放射状暗文。
118	土師器坏	(14.0)	2.8	(7.5)	ABEIH	にぶい赤褐色	A	60%	
119	土師器坏	11.8	3.4	—	ABE	橙色	D	90%	放射状・らせん状暗文。
120	土師器坏	12.5	3.2	—	ABEJ	外面：明褐色　内面：にぶい橙色	B	60%	
121	土師器坏	(12.4)	3.4	(9.8)	ABJ	外面：明赤褐色、橙色　内面：褐色	A	40%	
122	土師器坏	(12.0)	—	(8.0)	ABJ	外面：明褐色　内面：にぶい橙色	A	30%	
123	土師器坏	(13.5)	3.5	—	AB	にぶい褐色	B	40%	
124	土師器坏	12.0	3.8	—	ABHJ	外面：褐色　内面：明黄褐色	A	90%	
125	土師器坏	11.5	3.3	9.5	ABEJ	外面：赤褐色　内面：にぶい橙色	A	100%	
126	土師器坏	12.0	3.3	9.2	ABHJ	にぶい黄褐色	A	100%	
127	土師器坏	12.2	3.5	8.4	AJ	にぶい橙色、にぶい赤褐色	A	70%	
128	土師器坏	11.4	4.0	8.0	BE	にぶい褐色	A	100%	外面に煤付着。
129	土師器坏	(12.2)	—	(9.0)	ABEI	にぶい黄褐色	A	40%	
130	土師器坏	12.6	3.3	—	ABEHI	外面：橙色　内面：にぶい褐色	A	96%	
131	土師器坏	(13.0)	3.2	(9.0)	ABEI	外面：にぶい赤褐色　内面：黒褐色	A	30%	内面黒色処理。
132	土師器鉢	(21.0)	6.5	15.0	ABI	黄褐色	A	60%	
133	土師器鉢	(18.4)	—	—	AB	外面：にぶい褐色　内面：橙色	A	30%	
134	土師器双耳坏	—	—	—	AJ	にぶい黄褐色	A	把手部破片	放射状暗文。
135	土師器高坏	—	—	6.0	ABDI	明赤褐色	—	100%破片	
136	土師器壺	8.0	—	—	ABI	外面：褐色　内面：暗褐色	A	口縁部25%	内外面黒色処理。
137	土師器壺	(10.8)	—	—	ABD	外面：黒褐色　内面：灰色	A	口縁部20%	
138	土師器台坏甕	(14.4)	—	—	ABJ	赤褐色	A	口縁部25%	外面に煤付着。
139	土師器台坏甕	(16.4)	—	—	ABDJ	橙色	B	口縁部25%	
140	土師器台付甕	(12.3)	—	—	ABI	外面：にぶい黄褐色　内面：黒褐色	A	口縁部50%	
141	土師器台坏甕	—	—	(8.5)	ABEI	赤褐色	B	脚台部80%	
142	土師器台坏甕	—	—	8.8	ABEI	外面：灰黄褐色　内面：黄橙色	D	脚台部50%	
143	土師器台付甕	—	—	(8.0)	ABJ	外面：灰白色　内面：褐灰色	A	脚台部50%	
144	土師器台坏甕	—	—	(8.6)	ABI	外面：にぶい褐色　内面：灰白色	A	脚台部50%	

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
145	土師器台付甕	—	—	(9.5)	ABI	外面：橙色　内面：褐灰色	A	脚台部80%	
146	土師器甕	(22.4)	—	—	ABDI	外面：明赤褐色　内面：褐灰色	A	口縁部30%	
147	土師器甕	(19.4)	—	—	ABEM	灰黄色	A	口縁部20%	
148	土師器壺	(17.5)	—	—	ABEI	灰褐色	A	口縁部50%	
149	土師器甕	(25.8)	—	—	ABEI	外面：明赤褐色　内面：赤褐色	A	口縁部25%	
150	土師器壺	—	—	(8.0)	ABDGH	外面：黄褐色　内面：にぶい褐色	A	底部20%	
151	土師器甕	—	—	3.8	ABEL	外面：明赤褐色　内面：褐色	A	胴下半破片	
152	須恵器蓋	(19.6)	—	—	ABHJ	灰色	B	口縁部20%	
153	須恵器蓋	(13.5)	3.2	—	ABFN	外面：青灰色　内面：灰色	A	30%	南比企産。
154	須恵器蓋	(16.2)	4.6	—	ABF	灰色	A	30%	南比企産。
155	須恵器蓋	—	—	—	ABGLN	外面：灰白色　内面：灰色	B	甲部破片	
156	須恵器蓋	—	—	—	AEFN	暗青灰色	A	甲部破片	
157	須恵器蓋	—	—	—	ABFGN	灰色	A	30%	南比企産。
158	須恵器蓋	(18.0)	—	—	ABFG	灰色、暗灰色	A	30%	南比企産。
159	須恵器蓋	(17.0)	3.2	—	ABEJLM	外面：灰色　内面：黄灰色	B	60%	
160	須恵器坏	(13.4)	3.9	6.5	ABGN	外面：灰色　内面：褐灰色	A	70%	
161	須恵器坏	13.0	4.2	7.0	ABGH	灰色	A	100%	
162	須恵器坏	(14.0)	3.0	(8.0)	ABN	灰色、黄灰色	A	40%	
163	須恵器坏	(12.4)	3.4	7.9	ABFGI	灰色、黄灰色	A	40%	南比企産。
164	須恵器坏	(13.2)	3.4	7.2	ABEF	外面：にぶい橙色　内面：橙色	B	40%	南比企産。
165	須恵器椀	(16.0)	5.5	(8.0)	AB	青灰色	A	40%	
166	須恵器椀	(18.2)	6.1	9.2	BFN	外面：黄灰色　内面：灰色	A	50%	南比企産。
167	須恵器坏	(11.6)	3.1	6.5	ABFGN	青灰色	A	60%	南比企産。
168	須恵器坏	(13.0)	3.8	8.0	ABF	灰色、青灰色	A	75%	
169	須恵器坏	12.2	3.7	6.2	ABFG	外面：黄灰色　内面：灰色	A	70%	南比企産。
170	須恵器坏	(11.8)	3.5	(6.0)	AB	灰色	A	20%	
171	須恵器坏	(11.4)	3.2	5.3	ABGL	青灰色	A	60%	末野産。
172	須恵器坏	(12.4)	3.1	(7.3)	ABFG	灰色	A	30%	南比企産。
173	須恵器坏	12.0	3.5	6.8	ABFN	青灰色	A	99%	南比企産。
174	須恵器坏	(12.6)	3.7	6.0	ABFGN	灰色	A	60%	南比企産。
175	須恵器坏	(12.0)	3.8	(6.2)	ABFGN	灰色	A	50%	南比企産。
176	須恵器坏	12.2	4.2	5.5	AEFN	灰色、灰赤色	A	70%	南比企産。
177	須恵器坏	12.0	3.8	6.0	ABLN	灰色	A	75%	末野産。
178	須恵器坏	(12.4)	3.5	6.2	ABFGN	灰色	A	30%	南比企産。
179	須恵器坏	12.2	3.5	6.0	ABF	灰色	A	100%	南比企産。
180	須恵器坏	12.2	3.2	6.4	ABF	灰色	A	100%	南比企産。
181	須恵器坏	(14.0)	4.1	7.2	ABFGN	灰色	A	60%	南比企産。
182	須恵器坏	(12.8)	3.7	(6.9)	ABEFH	外面：灰色　内面：青灰色	A	40%	南比企産。
183	須恵器坏	11.8	3.2	6.8	ABEGLN	灰白色、灰色	A	80%	末野産。
184	須恵器坏	12.3	3.4	6.8	ABGN	灰色、にぶい褐色	A	100%	
185	須恵器坏	(12.0)	3.5	6.5	ABFH	青灰色	A	50%	南比企産。
186	須恵器坏	(11.5)	3.0	(6.2)	AFN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	30%	南比企産。
187	須恵器坏	12.0	3.9	6.4	AFGH	灰色、灰白色	A	100%	南比企産。
188	須恵器坏	11.6	3.5	5.7	AFGN	灰赤色	A	60%	南比企産。
189	須恵器坏	—	—	—	ABLN	灰色	A	口縁部25%	末野産。
190	須恵器坏	11.6	3.4	5.4	ABEIN	灰色、黒色	B	60%	
191	須恵器坏	(12.0)	3.0	(7.0)	ABN	暗青灰色	A	20%	
192	須恵器坏	(12.6)	3.8	(6.2)	ABHJLN	灰白色、灰色	D	25%	末野産。
193	須恵器坏	12.5	4.2	5.8	ABHJMN	灰黄色、黄灰色	A	60%	
194	須恵器坏	11.9	4.0	6.0	ABMN	灰色、黒色	A	50%	
195	須恵器坏	(11.7)	3.2	6.0	ABGLN	青灰色	A	70%	末野産。
196	須恵器坏	(12.0)	4.2	5.6	ABF	灰白色	B	60%	南比企産。
197	須恵器坏	(11.0)	3.8	5.5	ABFH	外面：暗青灰色　内面：青灰色	A	40%	南比企産。
198	須恵器坏	12.2	4.1	5.2	ABDFGN	灰色、灰褐色	A	100%	南比企産。
199	須恵器椀	(12.0)	—	—	ABIN	外面：灰褐色　内面：黒色	B	50%	内外面に煤付着。
200	須恵器坏	(11.8)	3.9	5.2	ABJ	灰白色	D	60%	内外面に油煙付着。
201	須恵器坏	(12.2)	3.6	(6.6)	ABJ	灰黄褐色、黒色	B	50%	
202	須恵器坏	(13.0)	3.6	6.0	ABJ	灰色	A	30%	
203	須恵器坏	(12.8)	3.4	(5.0)	ABGN	暗青灰色	B	50%	末野産。
204	須恵器坏	(12.5)	3.9	7.0	ABGLN	灰色	A	60%	末野産。
205	須恵器椀	13.6	5.7	6.2	ALN	外面：暗灰色　内面：オリーブ黒色	A	95%	末野産。
206	須恵器椀	(13.2)	5.2	(6.6)	ABDLN	青灰色	A	50%	末野産。

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
207	須恵器椀	(14.6)	6.5	7.3	ABHLN	外面：暗灰色　内面：褐灰色	B	60%	末野産。
208	須恵器椀	—	—	6.4	AB	灰色	A	30%	
209	須恵器坏	(16.3)	—	—	ABGILN	外面：黒色　内面：灰黄褐色	D	20%	末野産。
210	須恵器椀	14.0	5.4	6.0	ABEILN	灰色、黒色	B	70%	末野産。
211	須恵器椀	(20.8)	8.8	9.2	ABE	外面：青灰色　内面：灰色	A	40%	末野産。
212	須恵器椀	(14.4)	6.0	(6.6)	ABEGLN	灰色、にぶい褐色	D	30%	末野産。
213	須恵器椀	(15.4)	6.2	7.0	ABDGLM	黄灰色、灰白色	D	40%	
214	須恵器椀	(15.0)	6.5	6.0	AILN	灰色、黒色	A	30%	末野産。
215	須恵器椀	(12.7)	4.8	(6.0)	ABDGLN	黄灰色	A	40%	末野産。
216	須恵器椀	(13.0)	4.6	(6.0)	ABEGL	灰色	A	口縁部25%	末野産。
217	須恵器椀	(13.0)	5.4	(6.4)	ABN	灰色	A	40%	末野産。
218	須恵器椀	(16.7)	6.7	(7.0)	ABLN	灰色	D	30%	末野産。
219	須恵器椀	(13.2)	5.6	7.2	ABEHILN	にぶい橙色	D	40%	末野産。
220	須恵器椀	(14.4)	5.3	(5.6)	ABEGLN	灰色	A	40%	末野産。
221	須恵器椀	—	—	8.0	ABEJMH	外面：灰色　内面：灰黄褐色	D	底部100%	
222	土師器椀	—	—	(8.4)	ABIM	外面：灰黄褐色　内面：灰褐色、黒色	A	底部30%	煤付着。
223	須恵器椀	(14.6)	6.0	6.9	ABHJ	明赤褐色	B	50%	内面黒色処理。
224	須恵器椀	—	—	—	ABEH	橙色、にぶい橙色	D	30%	
225	土師質土器皿	10.2	2.5	6.0	AEMN	にぶい橙色	A	70%	
226	土師質土器坏	10.7	3.6	5.0	ABEJ	灰黄褐色	A	70%	
227	須恵器皿	(12.2)	2.2	5.2	ABGLN	青灰色、灰色	A	70%	末野産。
228	須恵器皿	13.5	2.4	5.6	ABLN	にぶい橙色、灰色	A	70%	末野産。
229	須恵器皿	13.4	3.0	7.6	AEGL	灰色	A	85%	末野産。
230	須恵器鉄鉢形	19.8	8.6	—	ABN	外面：灰色　内面：黄灰色	A	65%	
231	須恵器鉄鉢形	(22.9)	—	—	ABGHN	灰色	A	10%	
232	須恵器鉄鉢形	—	—	—	ABP	外面：灰褐色　内面：褐色	A	30%	漆塗付。
233	緑釉陶器稜椀	(13.6)	—	—	AP	灰色	A	口縁部10%	猿投産。
234	灰釉陶器椀	(14.4)	—	—	ABNP	灰色	A	口縁部25%	
235	灰釉陶器椀	—	—	(6.5)	ABP	灰色	A	底部20%	
236	灰釉陶器皿	—	—	(5.8)	ABP	灰色	A	底部15%	東濃産。
237	灰釉陶器椀	—	—	(8.9)	ABP	灰色	A	底部25%	猿投産。
238	灰釉陶器椀	(14.0)	—	—	ABNP	灰色	A	口縁部15%	
239	灰釉陶器段皿	(14.8)	—	—	ABP	灰色	A	口縁部10%以下	東濃産。
240	灰釉陶器皿	—	—	7.2	ABNP	灰色	A	底部50%	東濃産。
241	灰釉陶器皿	—	—	(6.6)	ABN	灰色	A	底部30%	東濃産。
242	灰釉陶器長頸瓶	—	—	8.3	ABNP	灰白色、灰色	A	底部100%	東濃産。
243	須恵器長頸瓶	(14.2)	—	—	ABFP	灰色	A	口縁部80%	南比企産。
244	須恵器瓶	—	—	—	ABLMN	灰色	A	頸部破片	末野産。
245	須恵器長頸瓶	(8.3)	—	—	AB	灰色	A	口縁部50%	
246	須恵器長頸瓶	—	—	—	ABFN	灰色	A	頸部60%	南比企産。
247	須恵器長頸瓶	—	—	9.7	ABN	外面：暗青灰色　内面：黒褐灰色	A	底部100%	
248	須恵器壺	—	—	(12.8)	ABGN	外面：灰色　内面：黄灰色	A	胴下半部破片	
249	須恵器壺	—	—	11.0	ABFN	灰色、暗灰色	A	底部80%	
250	須恵器壺	—	—	12.4	ABFG	明赤褐色	A	70%	
251	須恵器壺	—	—	(16.0)	ABFN	外面：褐灰色　内面：灰色	A	底部45%	南比企産。
252	須恵器壺	—	—	(15.0)	ABGN	灰色	A	底部25%	
253	須恵器甕	(18.0)	—	—	ABN	灰色	A	口縁部35%	
254	須恵器壺	—	—	—	ABN	灰色	A	胴部	外面に自然釉。
255	須恵器甕	—	—	—	ABGN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	底部30%	内外面に付着物。
256	須恵器壺	—	—	—	ABGN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	胴下半部破片	
257	須恵器甕	(26.6)	—	—	ABDGLN	にぶい黄褐色	D	口縁部20%	末野産。
258	須恵器甕	(26.5)	—	—	ABGN	暗灰色、灰色、灰白色	A	口縁部30%	
259	須恵器甕	—	—	—	ABFN	外面：黒色　内面：灰色	A	頸部30%	南比企産。
260	須恵器蓋	—	—	—	ABFGN	灰色	A	口縁部	南比企産。
261	須恵器甕	—	—	—	ABN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	口縁部破片	
262	須恵器甕	(43.8)	—	—	ABDG	灰色	A	口縁部20%	
263	須恵器甕	—	—	—	ABGLN	黒色	A	底部破片	末野産。
264	須恵器蓋	—	—	—	ABGN	外面：灰色　内面：暗灰色	A	口縁部	内面に自然釉。
265	須恵器甕	—	—	—	ABGN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	口縁部破片	内外面に自然釉。
266	須恵器甕	—	—	—	ABN	灰色	A	口縁部破片	
267	須恵器甕	—	—	—	ABFN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	胴下半部破片	
268	須恵器甕	—	—	—	ABFN	外面：青灰色　内面：灰色	A	胴部破片	南比企産。

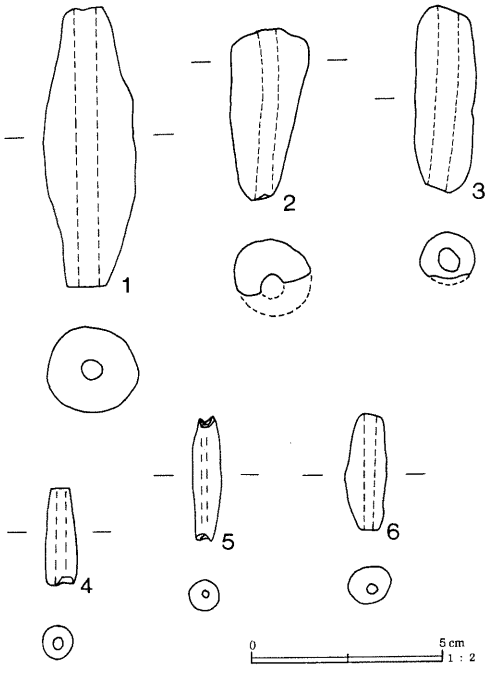
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
269	須恵器甕	—	—	—	ABN	灰色	A	胴部破片	
270	須恵器甕	—	—	—	ABLN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	胴部破片	末野産。
271	須恵器甕	—	—	—	ABFG	灰色	A	胴部破片	転用硯。南比企産。
272	須恵器擂鉢	—	—	(11.8)	ABG	灰色	A	底部50%	
273	須恵器把手	—	—	—	AB	灰色	A		



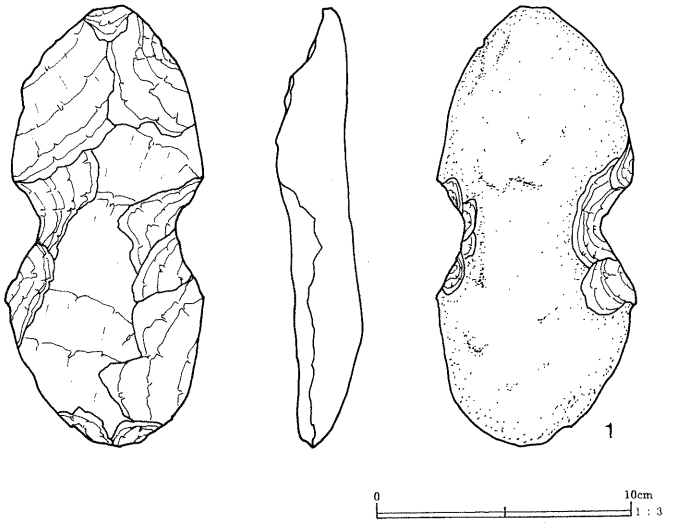
第56図　河川跡F地点出土瓦

第9表　河川跡F地点出土瓦観察表

番号	器種	厚さ	手法、形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	丸瓦	1.1～1.6	凸面：縦ナデ。凹面：縦ナデ、布目痕。端部ヘラケズリ。	ABN	暗灰色、灰色	A		
2	丸瓦	1.6～1.2	凸面：ヨコナデ。凹面：布目痕、布とじ目痕。端部ヘラケズリ。布目痕(7×8本/㎠)。	ABN	黄灰色、暗灰色	A		
3	丸瓦	1.4～1.3	凸面：縄叩き後ヨコナデ。凸面：布目痕、布とじ目痕。端部ヘラケズリ。布目痕(8×7本/㎠)。粘土紐丸木造り。	ABDN	灰黄色	A	狭端部側	
4	丸瓦	1.3～1.2	凸面：縦ナデ。凹面：布目痕。布目痕（5×6/㎠)。	ABN	褐色、にぶい黄橙色	A		
5	丸瓦	1.3～1.2	凸面：ヨコナデ。凹面：横ユビナデ。端部ヘラケズリ。粘土紐丸木造り。	ABDN	にぶい黄橙色、灰色	A	広端部側	
6	平瓦	2.5～1.8	凹面：縄叩き、縦ナデ。凸面：布目痕、端部ヘラケズリ。布目痕（8×10本/㎠)。粘土紐桶巻造り。	ABN	灰黄色	A	広端部側	隅切り瓦。
7	平瓦	1.1～1.0	凹面：布目痕。凸面：縄叩き後ナデ。布目痕（8×8本/㎠)。	ABN	灰色	A		
8	平瓦	1.7～1.6	凹面：布目痕。凸面：縄叩き一部ナデ。布目痕（5×6本/㎠)。粘土板一枚造り。	ABN	灰色	A	狭端部側	



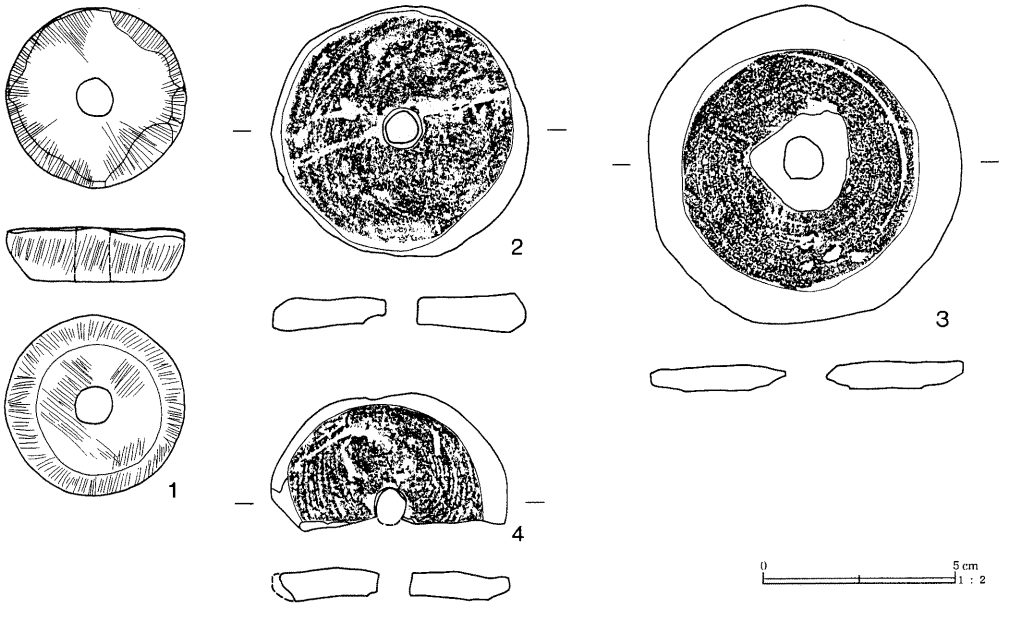
第57図　河川跡Ｆ地点出土土錘



第58図　河川跡Ｆ地点出土打製石斧

第10表　河川跡Ｆ地点出土土錘観察表

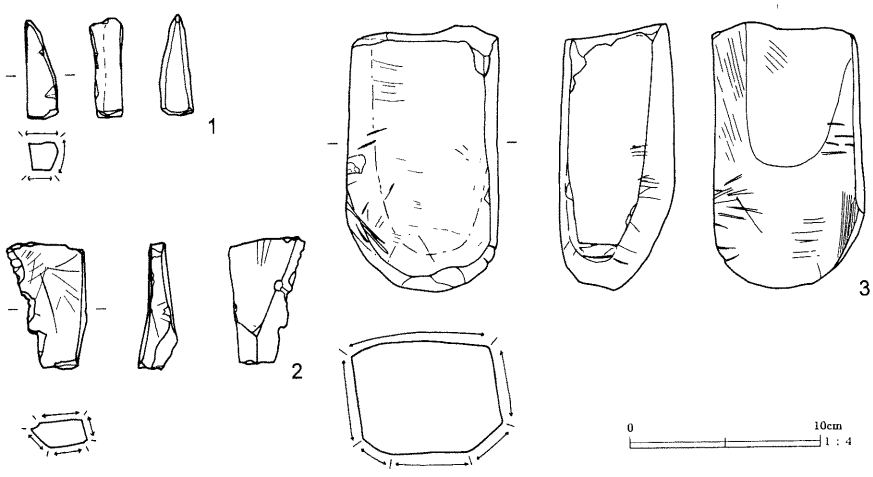
番号	出土位置	最大長	最大幅	重量	残存率	備考
1		7.4	2.4	35.0	完　形	
2	5区 A12	4.5	2.0	15.0	半分欠損	
3		4.8	1.4	15.0	完　形	
4	4区 T13	2.6	0.9	1.5	完　形	
5		3.3	0.8	1.0	完　形	
6		3.1	1.1	5.0	完　形	



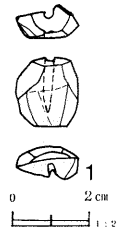
第59図　河川跡Ｆ地点出土紡錘車

第11表　河川跡Ｆ地点出土紡錘車観察表

番号	広面径	狭面径	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	4.8	3.6	1.5	55.0	滑石	100%	
2	6.3	—	0.7	20.0	土	100%	須恵器転用
3	8.3	—	0.7	60.0	土	100%	須恵器転用
4	6.5	—	1.0	40.0	土	100%	須恵器転用



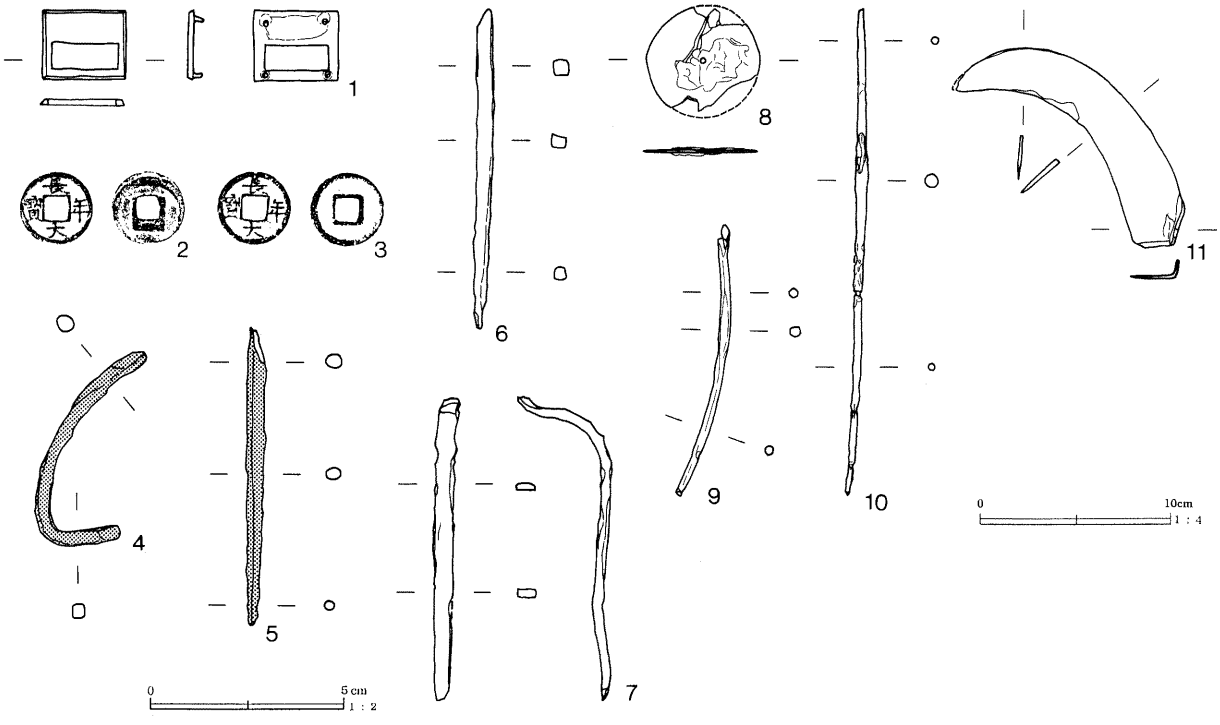
第60図　河川跡F地点出土砥石



第61図　河川跡F地点出土棗玉

第12表　河川跡F地点出土砥石観察表

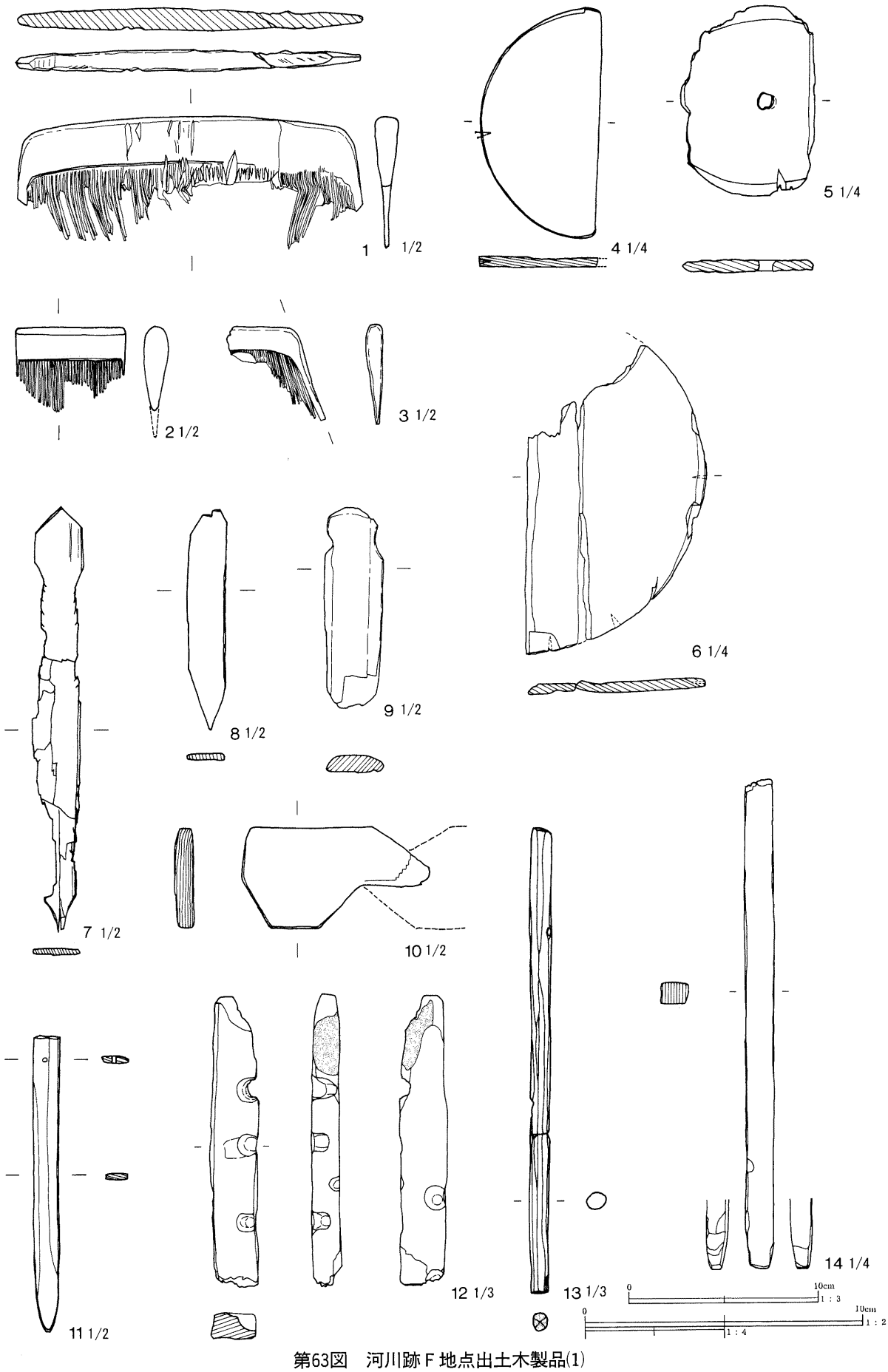
番号	長さ	幅	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	6.5	4.1	1.8	41.4	砂　岩	一部欠損	使用面4面。
2	5.2	1.6	1.4	20.0	緑色凝灰岩	一部欠損	使用面2面。
3	13.5	8.6	5.9	1,140.0	砂　岩	一部欠損	使用面4面。



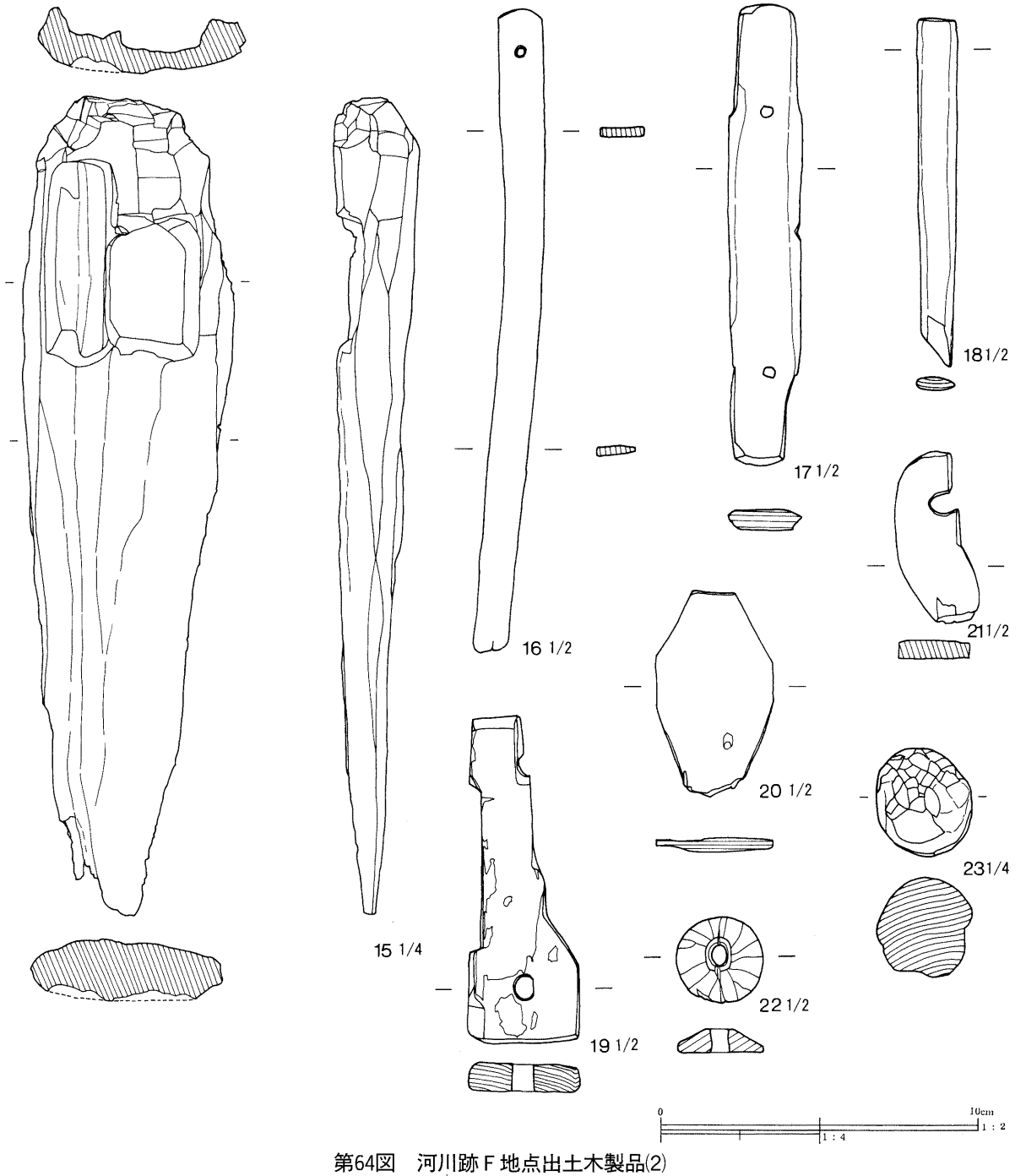
第62図　河川跡F地点出土金属製品

第13表　河川跡F地点出土金属製品観察表

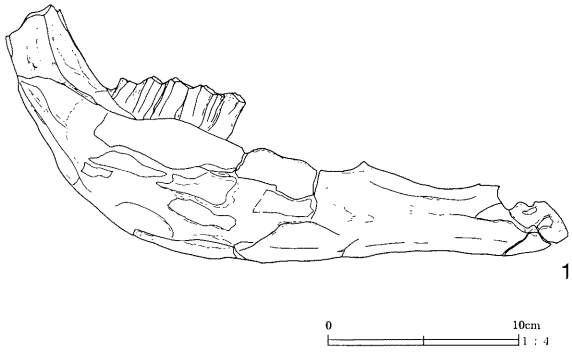
番号	器種	長さ	幅	厚さ	直径	孔幅	重さ	残存率	備考
1	銙帯具	2.2	1.9	0.2	—	1.7×1.7	3.8	完形	巡方。銅製。
2	古銭	—	—	—	1.9	0.6×0.6	—	完形	長年大寶。
3	古銭	—	—	—	1.9	0.6×0.6	—	完形	長年大寶。
4	鉄釘	8.0	0.5	0.5	—	—	—		朱塗り。
5	鉄釘	8.0	0.5	—	—	—	—	頭部欠損	朱塗り。
6	鉄釘	8.5	0.4	0.4	—	—	—	頭部欠損	
7	鉄釘	9.0	0.6	0.3	—	—	—	一部欠損	
8	紡錘車	—	—	0.2	6.0	—	—	80%	紡輪。鉄製。
9	紡錘車	14.7	0.6	—	—	—	—	欠損	紡茎。鉄製。
10	紡錘車	26.0	0.7	—	—	—	—	90%	紡茎。鉄製。
11	鎌	16.4	3.2	0.3	—	—	—	完形	曲刃鎌。鉄製。



第63図　河川跡Ｆ地点出土木製品(1)



第64図　河川跡Ｆ地点出土木製品(2)



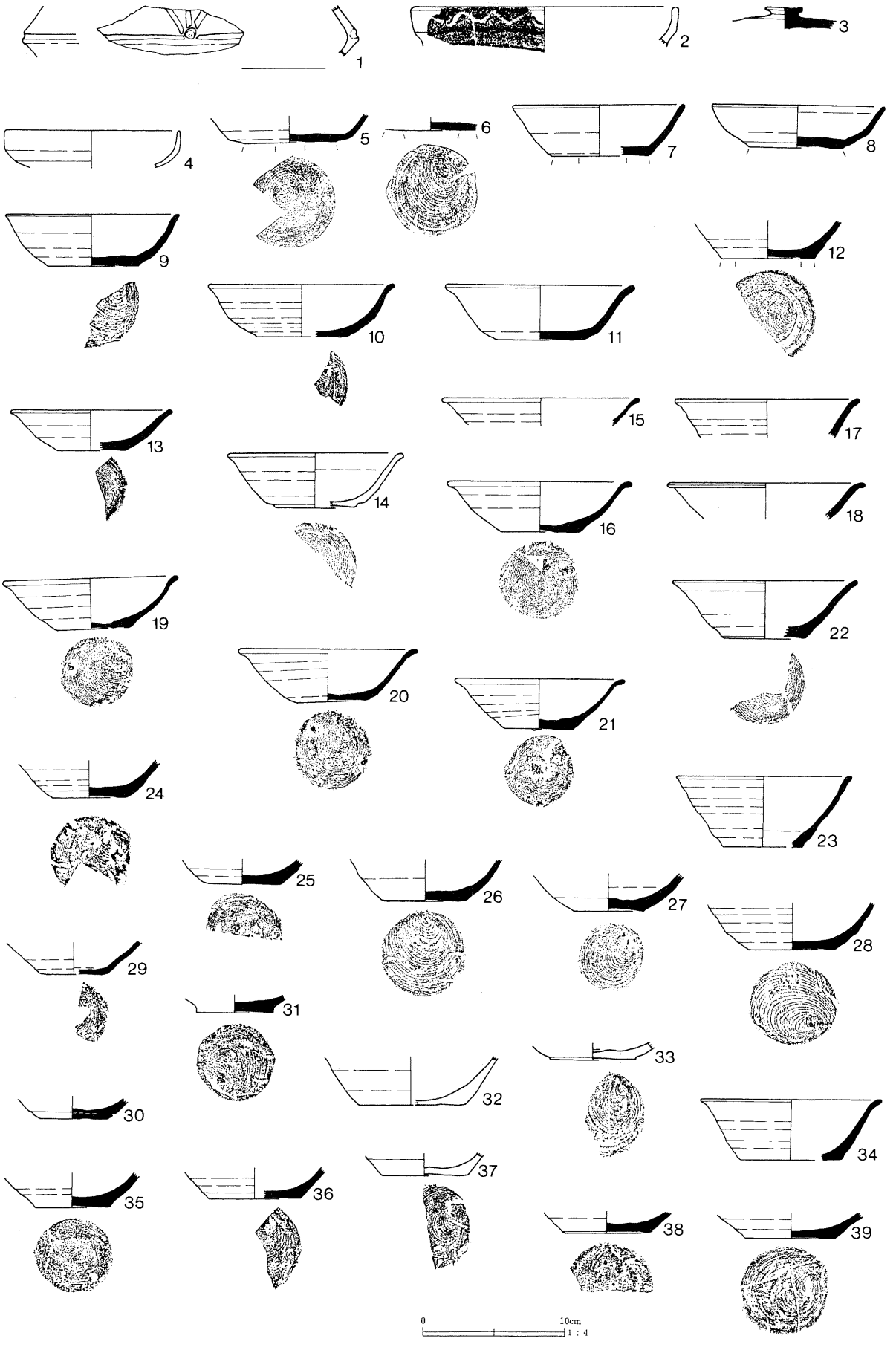
第65図　河川跡Ｆ地点出土馬頭骨

第14表　河川跡Ｆ地点出土木製品観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	木取	樹種	特徴	備考
1	横櫛	12.3	4.7	0.8	柾目(斜め)	シキミ	長方形で、肩部に丸味をもつタイプ。切通し線は、背の上縁に平行して曲線を描く。刃の挽き出し部の位置はほぼ一定。背の断面は、柳葉形。歯は土圧の為かくの字に変形しているが比較的精巧に作られており、総数84枚を挽き出す。	歯は欠損著しいが、櫛全体の幅は完存。
2	横櫛	4.0	3.1	0.85	柾目		長方形と推定される。歯は細かく３cmあたり31本である。切通し線は、背の上縁に平行して直線を描く。断面は柳葉形。背は断面が丸形で厚みは薄い。	中間のみ残存。
3	横櫛	3.4	5.6	0.6			長方形で肩部が角張るタイプ。歯は細く１cmあたり３本である。切通し線は、背の上縁に平行して曲線を描く。断面は柳葉形。	一方端が残存。
4	曲物	16.6	8.3	0.5	板目		釘結合曲物の底板。木釘の直径は残存部分で0.35cmである。木釘結合箇所は１箇所のみとどめる。	約半分残存。
5	曲物	13.5	9.5	0.9	板目		中央に直径約1.0cmの穴が穿たれている。	両端欠損。
6	曲物	(25.8)	6.4	0.7	斜め		釘結合曲物。結合釘孔３箇所残存。１ヶ所木釘残存。	約40%残存。
7	斎串	15.3	1.7	0.2	斜め(柾目)	ヒノキ	細長い板の上端を圭頭状にして、側面に一方は確認できるだけで２ヶ所８回、もう一方は２ヶ所17回切り込みが入れられている。内訳(上５回下３回と上10回下７回)。８ヶ所、17ヶ所とも考えられる。また、上下の切り込みが１対である。	一方側面及び下部欠損。
8	斎串	7.8	1.3	0.2	柾目	ヒノキ属	頭部、基部とも板材を三角に切り落とす。	頭部欠損。
9	人形?	7.2	2.1	0.6		ヒノキ	先端側端を切り込み頭部を作る。斎串の頭、人形、木簡の頭部か。	
10	馬形?	6.7	3.6	0.7	柾目	サワラ	背をあらわす切り欠きと頭と頸の境をあらわす切欠きをいれるタイプの馬形と思われる。細板を加工して作られている。残念ながら胴及び尾の部分が欠損していて、馬形と判断する確証に乏しい。	胴・尾部欠損。
11	木針	10.65	0.9	柄部2.3 杓部9.0	板目か。	針葉樹	小板片の一端をとがらして扁平に整形し、頭部に針耳をあける。丁寧なつくりで頭部端は面取りが施工されている。針耳は精巧につくられており、錐のようなもので丁寧にあけられている。	完形。
12	火鑽臼	15.6	2.3	1.4		スギ	長方形の木片の表面に火鑽穴が３ヶ所、裏面に３ヶ所、内に１ヶ所はわずかな凹みである。	
13	火鑽杵	25.0	1.1	1.0			周囲を削って多角形状に加工して棒を作る。先端は焦げているように見受けられる。また、若干円錐形を呈す。	
14	建築部材	35.3	1.9	1.6	割材か。(柾目)		断面長方形の角材の先端が杭のように若干削り落とされている製品。相対する２面が大きく落とされていて、もう一方の面はほんのわずか落とされている。	
15	建築部材	51.6	13.0	3.9	斜め		長方形の板材と思われる木材の一方の端に大小の長方形の枘穴があけられた製品。この２つの枘穴は平行しており大きさ13.0cm×3.6cm及び8cm×5.8cmの長方形の２つである。後者の方が深くえぐられてつくられている。枘穴のある方の端は斜めに３方向が削られており、削り痕が明瞭である。	
16	用途不明木製品	20.1	1.4	0.3	柾目	ヒノキ属	扇のような形状。一方端の中央に穿孔(直径0.3cm)。	
17	用途不明木製品	14.5	2.3	0.65	板目?	モミ属	長方形の平らな板の両端側面を端から２cmぐらい若干えぐり取り、やはり端から2.5cm～3.0cmの所に直径0.3cmぐらいの穴をあける。側面の片側中央に三角形に切り込みが入れられる。もう片側にも入っていた可能性あり。	
18	用途不明木製品	11.0	1.2	0.4	板目?	ヒノキ属	表面は平滑に加工されていて、丁寧な作りである。形状は先端に向かって先細り気味になっていくようである。	
19	用途不明木製品	10.3	3.5	0.9			側端を長方形に切り込んでいる。表から裏へ２つ孔を穿孔している。表に漆状のものが付着する。	
20	用途不明木製品	6.5	3.7	0.4			板の四隅を切り落とす形状。1箇所小さな穿孔あり。上側端は加工しているが下端は欠損していて不明。	
21	用途不明木製品	5.4	2.2	0.55	柾目	サワラ	平たい板きれの周囲を加工し先端は丸く落としている。先端付近穿孔。	
22	用途不明木製品	2.7	2.7	0.7		サワラ	円錐形の断面をもつ製品。円錐にするため斜めに削り落としている。中央に内側が焦げた穿孔あり。火鑽臼のような状態。	
23	用途不明木製品	6.8	5.8	6.3	割材		球形木製品。細かく削って球状にする箇所あり。	

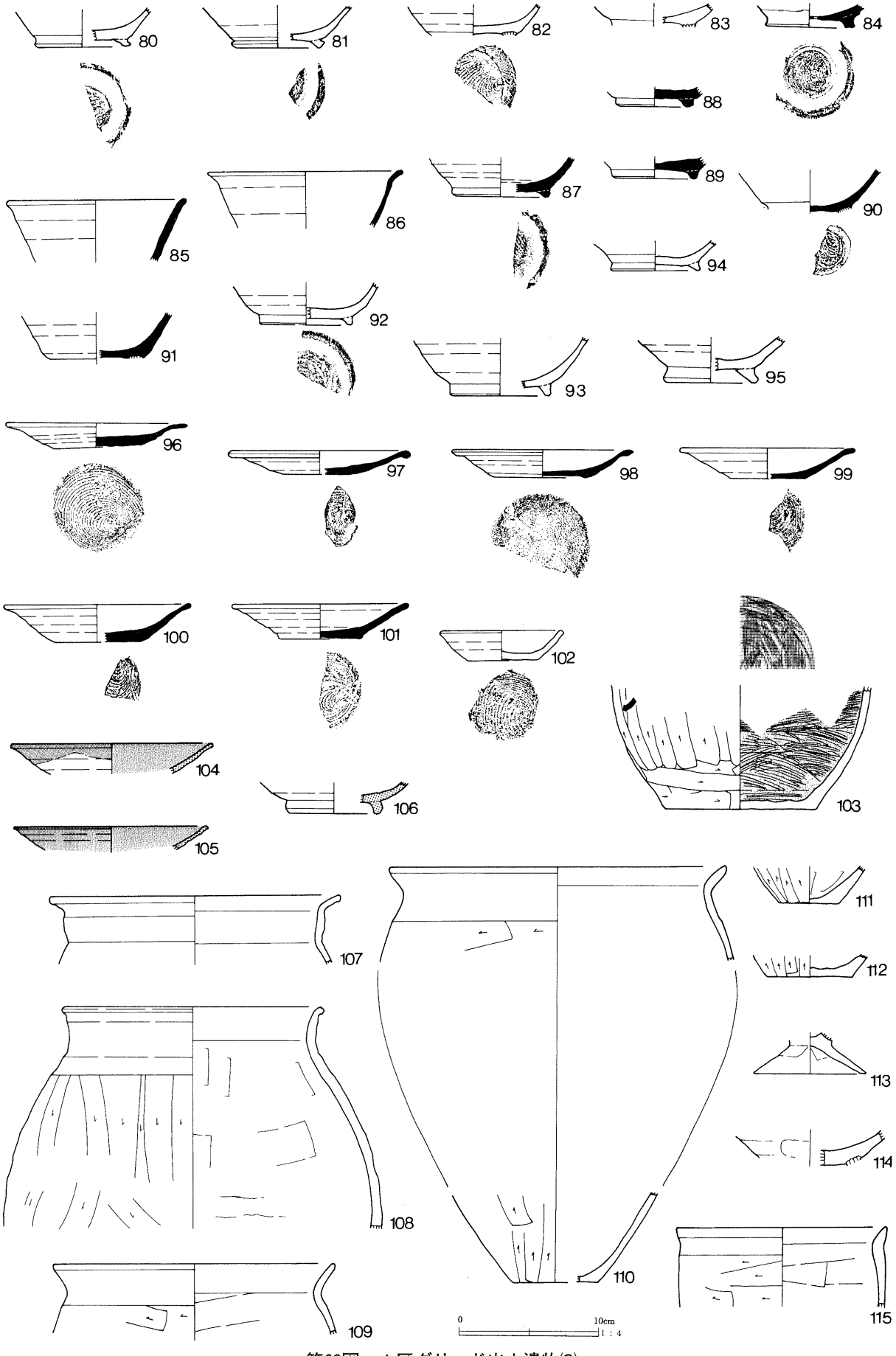
(7)　グリッド出土遺物

Ｉ区の遺構外から出土した遺物をまとめて掲載する。概ね縄文時代後期から10世紀代まで及び近世の遺物が出土した（第66～69図、第15表）。

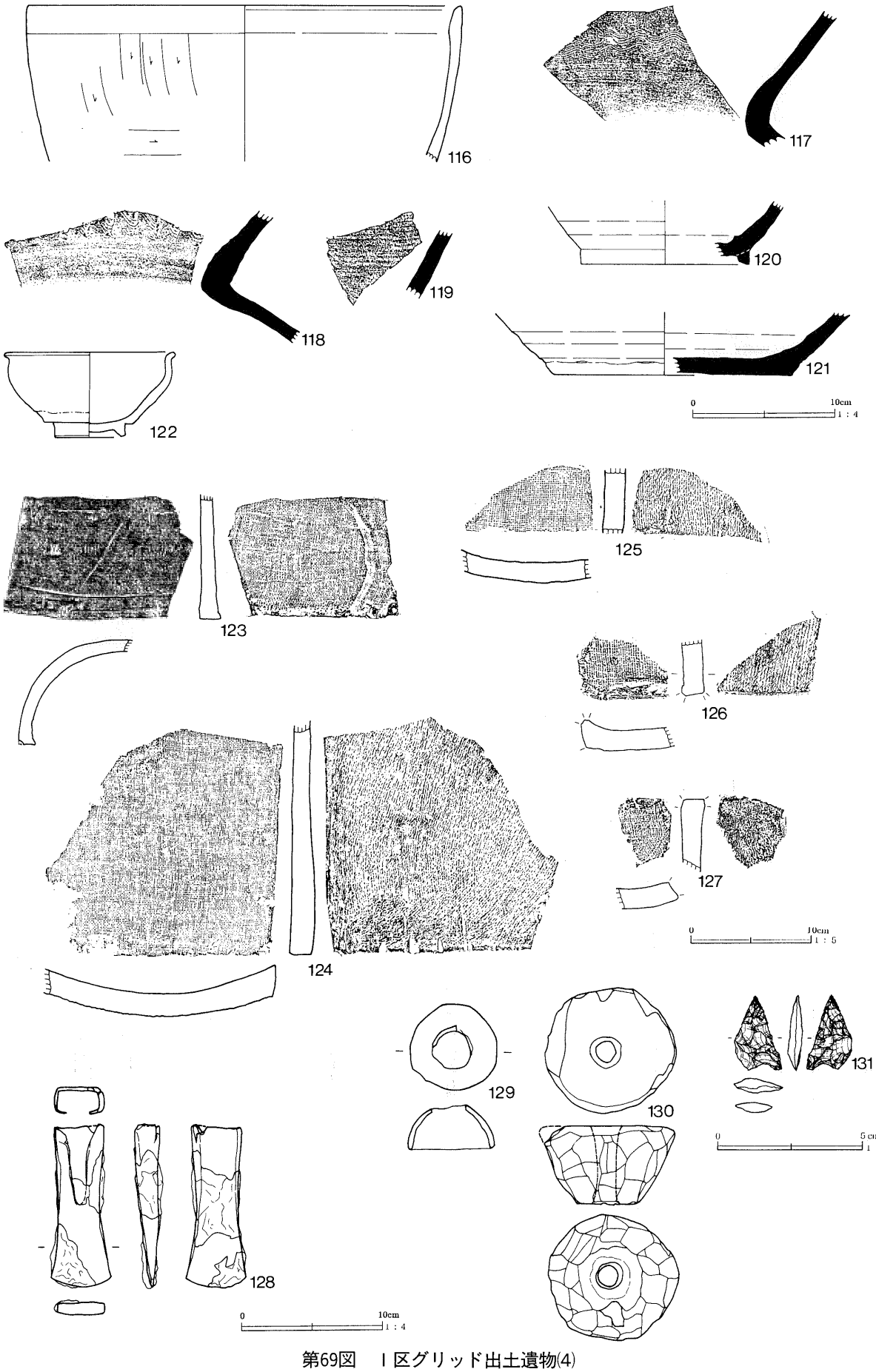


第66図　I区グリッド出土遺物(1)

第67図　Ⅰ区グリッド出土遺物(2)



第68図　I区グリッド出土遺物(3)



第69図　Ⅰ区グリッド出土遺物(4)

第15表　Ⅰ区グリッド出土遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	縄文土器深鉢	4区 S5	—	—	—	—	—	—	10%以下	加曽利 B。
2	土師器壺	4区 S5	(18.8)	—	—	AB	にぶい黄橙色	D	口縁部10%	
3	須恵器蓋	4区 T5	—	(1.5)	—	AB	青灰色	A	つまみ85%	
4	土師器坏	4区 T6	(12.4)	—	—	B	橙色	D	口縁部25%	
5	須恵器坏	4区 T6	—	—	6.5	ABP	青灰色	A	底部70%	
6	須恵器坏	5区 A7	—	—	—	AB	灰白色	A	底部破片	
7	須恵器坏	4区 T6	(12.2)	3.7	(6.8)	AF	明オリーブ灰色	A	口縁部20%	南比企産。
8	須恵器坏	4区 T6	(12.2)	3.0	6.6	AB	灰色	A	45%	
9	須恵器坏		(12.4)	3.7	(6.4)	ABF	灰白色	C	底部35%	南比企産。
10	須恵器坏	4区 S11	(13.2)	3.7	(6.4)	AB	黒色	A	20%	
11	須恵器坏	4区 S10	(13.4)	3.9	6.2	AB	灰白色	C	40%	
12	須恵器坏	4区 T6	—	—	(6.3)	AG	灰色	C	底部60%	
13	須恵器坏	4区 Q8	(11.4)	2.9	(4.8)	AB	灰色	A	25%	
14	須恵器坏	4区 S11	(12.2)	—	—	ABEI	にぶい褐色	C	40%	
15	須恵器坏	5区 A7	(14.0)	—	—	AB	青灰色	A	口縁部35%	
16	須恵器坏	5区 A7	(13.0)	5.5	3.6	AB	暗青灰色	A	40%	
17	須恵器坏	4区 S10	(13.0)	—	—	AB	灰色	C	口縁部40%	
18	須恵器坏	4区 S10	(14.0)	—	—	AB	暗オリーブ灰色	C	口縁部25%	
19	須恵器坏	5区 A7	12.4	4.7	5.1	AB	灰色	C	80%	
20	須恵器坏	5区 A7	12.8	3.7	4.8	AB	灰色	C	100%	
21	須恵器坏	5区 A7	(12.0)	3.6	(5.0)	AB	青灰色	C	80%	底部外面に粘土塊付着。
22	須恵器坏	4区 S11	(13.0)	4.1	(5.7)	AG	緑灰色	A	40%	
23	須恵器坏	5区 A7	12.4	5.0	5.4	E	橙色	E	60%	
24	須恵器坏	4区 S11	—	—	5.2	AB	明オリーブ灰色	A	底部80%	
25	須恵器坏	4区 S4	—	—	5.6	AB	緑灰色	A	底部50%	
26	須恵器坏	4区 Q3	—	—	6.2	ABN	灰色	C	底部100%	
27	須恵器坏	5区 B10	—	—	5.0	AB	外面：灰色　内面：灰白色	A	底部100%	
28	須恵器坏	4区 S11	—	—	6.0	AB	明緑灰色	C	底部100%	
29	須恵器坏		—	—	(4.8)	AB	オリーブ灰色	C	底部35%	
30	須恵器坏	5区 A7	—	—	(4.8)	AGHL	暗青灰色	C	底部20%	末野産。
31	須恵器坏	4区 S10	—	—	5.4	AB	灰色	E	底部100%	
32	須恵器坏	4区 R9	—	—	(7.6)	E	橙色	E	底部25%	
33	須恵器坏		—	(1.2)	6.0	AG	にぶい赤褐色	C	底部50%	
34	須恵器坏	5区 A8	(12.8)	4.3	(7.0)	ABE	灰色	E	口縁部25%	
35	須恵器坏	5区 A6	—	—	5.4	AB	灰色	A	底部100%	
36	須恵器坏	5区 A6	—	—	(6.5)	AB	灰色	A	底部40%	
37	須恵器坏	4区 T4	—	—	6.0	ABG	灰白色	D	底部50%	
38	須恵器坏	5区 A4	—	—	6.2	AB	明オリーブ灰色	D	底部50%	
39	須恵器坏	5区 A10	—	—	6.4	AB	灰白色	D	底部100%	
40	須恵器坏	4区 Q9	—	—	6.7	AB	浅黄橙色	E	底部50%	
41	須恵器椀	4区 S11	(14.2)	5.5	(7.0)	AB	灰色	A	40%	
42	須恵器椀	4区 S10	14.0	5.6	7.6	AEI	灰褐色	E	口縁部55%	高台脱落。
43	須恵器椀	4区 S10	(14.6)	—	—	AEI	灰白色	D	口縁部15%	
44	須恵器椀	4区 Q4	(19.2)	—	—	BE	灰白色	D	口縁部10%	
45	須恵器椀	4区 S10	—	—	(6.2)	ABI	明オリーブ灰色	E	底部50%	
46	須恵器椀	4区 S11	(12.8)	5.2	(4.2)	ABG	灰色	A	25%	
47	須恵器椀	5区 A7	(13.0)	5.3	(7.4)	AB	青灰色	A	20%	
48	須恵器椀	4区 S10	13.8	5.3	5.5	ABQ	外面:灰白色 内面:灰白色、灰色	C	100%	
49	須恵器椀	4区 S10	(13.2)	5.3	(5.6)	AE	青灰色	C	20%	
50	須恵器椀	4区 S10	(13.2)	5.1	6.0	AE	赤褐色	D	65%	
51	須恵器椀	4区 R11	(14.4)	6.1	6.8	ABE	橙色	C	40%	
52	須恵器坏	4区 S10	(14.4)	—	—	ABC	外面：褐灰色　内面：灰黄褐色	C	口縁部10%	
53	須恵器坏	4区 S11	(15.4)	—	—	AD	灰白色	C	口縁部20%	
54	須恵器椀	5区 A4	—	—	6.2	AB	灰色	A	底部55%	見込みに重ね焼痕。
55	須恵器椀	5区 A5	—	—	(6.2)	AB	オリーブ灰色	C	底部30%	
56	須恵器椀	5区 A10	—	—	5.8	AB	灰白色	C	底部100%	
57	須恵器椀	4区 S11	—	—	(6.5)	AB	灰色	C	底部45%	
58	須恵器椀	5区 B10	—	—	(5.4)	A	灰色	A	底部50%	
59	須恵器椀	5区 A10	—	—	(6.2)	AE	灰黄褐色	D	底部35%	
60	須恵器椀	4区 Q4	—	—	6.2	ABE	橙色	E	底部75%	
61	須恵器椀	4区 R3	—	—	5.4	ABE	灰白色	E	底部55%	
62	須恵器椀	4区 Q4	—	—	(6.2)	AE	にぶい橙色	C	底部60%	
63	須恵器椀	5区 A5	—	—	(5.8)	AEG	明黄橙色	D	底部45%	
64	須恵器椀	5区 A7	—	—	6.2	ABE	にぶい褐色	D	底部60%	
65	須恵器椀	4区 S4	(14.0)	—	—	AB	灰色	E	口縁部20%	

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
66	須恵器坏	4区 T4	(13.2)	—	—	AB	オリーブ灰色	C	口縁部25%	
67	須恵器椀	5区 A6	(13.0)	4.9	—	ABG	灰色	E	40%	
68	須恵器坏	4区 S10	(15.0)	(4.2)	—	AB	オリーブ灰色	A	口縁部20%	
69	須恵器椀	4区 T8	—	—	(6.4)	AB	オリーブ灰色	C	底部50%	
70	須恵器椀	5区 B10	—	—	7.2	AE	灰色	A	底部100%	
71	須恵器椀	5区 B10	—	—	(6.6)	AB	灰色	C	底部50%	
72	須恵器椀	4区 S10	—	—	6.5	ABE	灰白色	C	底部55%	
73	須恵器椀	4区 T4	—	—	6.0	ABE	褐色	C	底部80%	
74	須恵器椀		—	—	(6.4)	AB	灰色	C	底部30%	
75	須恵器椀	4区 T6	—	—	(7.2)	AB	灰白色	C	底部45%	
76	須恵器椀	4区 S8	—	—	8.0	ABE	灰白色	E	底部100%	
77	須恵器椀	4区 S11	—	—	(7.0)	AE	橙色	D	底部25%	
78	須恵器椀	4区 T4	—	—	5.8	AB	灰色	C	底部100%	
79	須恵器椀	5区 A10	—	—	—	ABE	灰白色	C	底部25%	
80	須恵器椀	5区 A11	—	—	(6.8)	ABE	褐灰色	D	底部45%	
81	須恵器椀	4区 T5	—	—	(6.6)	ABE	にぶい黄橙色	E	底部25%	
82	須恵器椀	5区 A6	—	—	—	A	橙色	D	底部30%	高台脱落。
83	須恵器椀	4区 T4	—	—	—	E	黄橙色	E	底部70%	高台脱落。
84	須恵器坏	4区 T4	—	—	(6.0)	ABE	緑灰色	C	底部100%	穿孔→転用紡錘車?
85	須恵器坏	5区 A4	(13.0)	—	—	AB	オリーブ灰色	C	口縁部15%	
86	須恵器坏	4区 S10	(14.0)	—	—	AE	灰色	C	口縁部20%	
87	須恵器椀	4区 T4	—	—	(7.0)	ABN	灰色	A	底部40%	
88	須恵器椀	5区 B10	—	—	(5.6)	AB	灰白色	D	底部50%	
89	須恵器椀	4区 T3	—	—	(6.0)	AB	灰色	E	底部40%	
90	須恵器椀	5区 A10	—	—	—	AB	灰色	C	底部45%	高台脱落。
91	須恵器坏	4区 R4	—	—	(6.6)	AE	灰白色	E	底部80%	高台脱落。
92	須恵器椀	4区 T7	—	(3.0)	(6.6)	AE	にぶい赤褐色	A	底部40%	
93	須恵器椀	4区 T7	—	—	(7.2)	ABE	橙色	C	底部25%	
94	須恵器椀	4区 R4	—	—	6.4	AE	にぶい橙色	E	底部100%	
95	須恵器椀	5区 B10	—	—	(6.3)	BP	橙色	E	底部45%	
96	須恵器皿	5区 A4	(13.0)	1.8	6.2	AB	灰色	A	70%	
97	須恵器皿	4区 S11	(13.0)	1.7	(5.2)	AB	暗緑灰色	A	20%	
98	須恵器皿	4区 S11	(12.8)	2.9	6.8	AB	灰白色	E	50%	
99	須恵器皿	4区 T4	(12.4)	2.2	(5.2)	AB	灰色	C	20%	
100	須恵器坏	4区 T6	(13.2)	2.7	(6.0)	AB	灰白色	C	底部25%	
101	須恵器皿	5区 A10	(12.6)	2.5	(5.8)	A	暗緑灰色	A	20%	
102	土師質土器皿	5区 C8	(4.8)	2.1	5.0	AE	橙色	C	底部80%	
103	土師器椀	4区 S12	—	—	10.8	HIM	灰白色	A	底部90%	墨書の痕跡あり。
104	灰釉陶器皿	5区 A3	(14.4)	—	—	AB	灰白色	A	口縁部25%	
105	灰釉陶器皿		(13.9)	—	—	P	灰白色	A	口縁部10%	
106	灰釉陶器椀	4区 S10	—	—	(7.0)	B	灰白色	A	底部30%	
107	土師器甕	4区 S7	(20.8)	—	—	ABE	橙色	C	口縁部25%	
108	土師器甕	4区 T11	(18.8)	—	—	ABE	明赤褐色	C	口縁部25%	
109	土師器甕	5区 A10	(20.0)	—	—	ABE	橙色	C	口縁部10%	
110	土師器甕		(24.2)	—	(6.0)	BE	浅黄橙色	C		
111	土師器甕	4区 S10	—	—	(4.2)	ABEI	浅黄橙色	C	底部40%	
112	土師器甕	5区 A5	—	—	(6.0)	AB	にぶい黄橙色	D	底部35%	
113	土師器台付甕	5区 B10	—	—	(8.0)	ABC	橙色	C	脚台部30%	一部煤付着。
114	土師器台付甕	5区 B10	—	—	—	ABEL	橙色	C	底部40%	末野産。
115	土師器甕	5区 A10	(15.0)	—	—	ABE	灰白色	C	口縁部20%	
116	土師器甕		(31.0)	—	(11.2)	BE	浅黄橙色	D	口縁部10%	
117	須恵器甕	5区 A4	—	—	—	AB	黄灰色	A	頸部10%	
118	須恵器甕	4区 T10	—	—	—	AB	灰色	A	頸部10%	
119	須恵器甕	5区 A11	—	—	—	A	灰色	A	胴部破片	
120	須恵器甕	4区 R11	—	—	(12.0)	AB	灰白色	A	底部30%	
121	須恵器甕	4区 T6	—	—	(18.0)	AF	オリーブ灰色	D	底部30%	南比企産。
122	陶器天目茶碗	4区 S5	(11.8)	6.1	(5.0)	灰白色	—	—	45%	瀬戸・美濃。
123	丸瓦		—	—	厚さ1.9~1.1	AB	凸面：灰白色、灰色 凹面：灰色	A	広端部側	
124	平瓦		—	—	厚さ2.5~2.0	AMN	灰色	B		
125	平瓦	4区 T10	—	—	厚さ1.8	AB	緑灰色	A	10%以下	
126	平瓦	4区 T10	—	—	厚さ1.8	AB	緑灰色	A	10%以下	
127	平瓦	4区 T10	—	—	厚さ2.0	ABE	にぶい黄橙色	D	広端部側	
128	鉄斧		長さ11.5	幅4.2	厚さ1.7	—	—	—	一部欠損	
129	飾金具		長径1.6	短径1.5	厚さ0.1	—	—	—	一部欠損	銅製。高さ0.1cm、重さ1.6g
130	紡錘車	5区 A10	広面4.0	狭面2.2	厚さ2.8	—	—	—	ほぼ完形	凝灰岩製。重さ65.5g
131	石鏃	4区 R9	長さ2.65	幅1.65	厚さ0.55	—	—	—	基部欠損	凹基無茎鏃。チャート製。重さ1.58g

V　II区の調査

1　II区の概観

調査区は、調査区域のほぼ中央を東西に流れる衣川が南にくぼむ付近の北側の区画であった。6本のトレンチ調査地区で、調査対象面積は、約400㎡であった。

遺構確認面の標高は22.4～22.7mで、ほぼ平坦であった。

確認された遺構は、竪穴住居跡1軒（第22号住居跡）、溝跡3条、河川跡1箇所（H～K地点）であった。遺構の総体としての分布は、非常に希薄であった。

竪穴住居跡は唯一軒検出されただけであった。時期は10世紀後半（10世紀第III四半期）で、須恵器坏・椀、土師器甕・台付甕などが出土した。

溝跡は、東のトレンチ2本で確認され、第1号溝と第2号溝が重複して、第3号溝が単独で検出された。第1号溝は河川跡K地点によって切られていた。

河川跡は、調査区の西から3本のトレンチ及び東端のトレンチで北側の立ち上がりが確認できた。これらは、現衣川の河道にほぼ沿っている。

2　遺構と遺物

(1)　住居跡

第22号住居跡（第70・71図、第16表）

4区C－1グリッドに位置する。II区で唯一確認された住居跡であった。西壁はトレンチで削平されており、南北方向は3mであった。主軸方向はN－90°－Eを指す。

カマドは東壁の南寄りに位置し、燃焼部は壁の外側に造られている。長さ60cm、幅約60cmで、煙道は削平され、確認できなかった。その他、壁溝、貯蔵穴などの施設は確認できなかった。

出土遺物は、削平を受けていたにも関わらず比較的多く検出でき、須恵器坏・壺、土師器甕・台付甕、砥石などが検出できた。

(2)　溝跡

第1号溝跡（第72図）

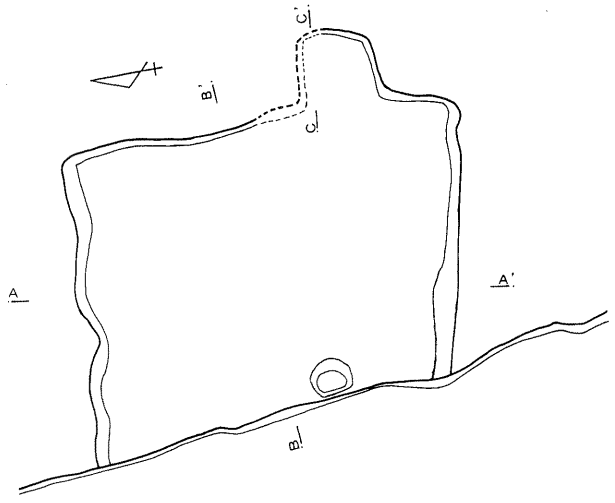
3区Q－18グリッドからとS－19グリッドに位置する。第2号溝跡、河川跡K地点と重複関係にあり、溝跡を切り、河川跡に切られていた。

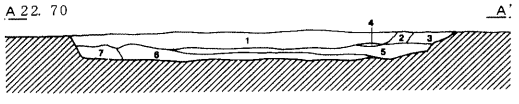
東西方向の溝で、西でやや南下するように曲がる。トレンチ状の調査区であったので、断片的にしか解らなかったが、推定残存長9.4m、幅6.8m、深さ0.7mを測る。底部は平坦で、幅0.5mと幅狭な形状である。底部付近の南に並行して杭が並んでいた。一方の杭は、枘孔状の穴が穿孔されるものであった。

出土遺物は、土師器坏が検出された。

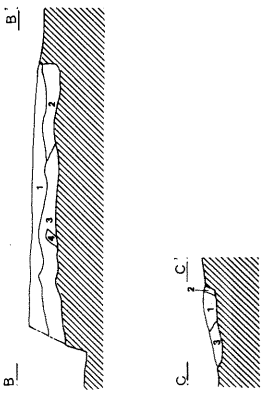
第2号溝跡（第72・74図、第17表）

3区Q－17グリッドからR－18グリッドに位置する。第1号溝跡と重複しており、本遺構が切られて





第22号住居跡（A－A'）
1 黄灰色土2.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、少量の炭化物を含む）
2 褐灰色土10YR-4/1（灰白色粒子、酸化鉄、少量のマンガン粒子を含む）
3 灰色土5Y-6/1（酸化鉄、マンガン粒子を含む）
4 黄灰色土2.5Y-4/1（焼土粒子、酸化鉄、炭化物を含む）
5 灰色土5Y-5/1（黄灰色小ブロック、酸化鉄、マンガン粒子を含む）
6 灰色土5Y-6/1（黒褐色小ブロック少量、酸化鉄、マンガン粒子を含む）
7 黒褐色土10YR-3/1（黄灰色ブロック、酸化鉄、マンガン粒子を含む）



第22号住居跡（B－B'）
1 黄灰色土2.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物少量含む）
2 黄灰色土2.5Y-5/1（黒褐色ブロック、灰白色粒子、酸化鉄を含む）
3 灰色土5Y-6/1（酸化鉄、マンガン粒子を含む）
4 黄灰色ブロック2.5Y-4/1

第22号住居跡（C－C'）
1 褐灰色土7.5YR-4/1（酸化鉄、炭化物を含む）
2 黄灰色土2.5Y-6/1（酸化鉄多量に含む）
3 黒褐色土10YR-3/1（焼土、酸化鉄、炭化物を含む）

0　2m
1：60

第70図　第22号住居跡

第16表　第22号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
22-1	須恵器坏	(11.4)	4.2	4.7	ACGLM	外面：明赤褐色　内面：赤褐色	E	55%	末野産。
22-2	須恵器坏	—	—	(6.4)	AEJ	外面：灰白色　内面：褐灰色	E	底部25%	
22-3	須恵器椀	—	—	6.0	AGLN	灰白色	E	底部45%	末野産。
22-4	須恵器椀	—	—	(5.9)	ABHLN	黒色	D	底部30%	
22-5	須恵器椀	—	—	5.9	AGLM	外面：灰黄色　内面：橙色	E	70%	末野産。
22-6	土師器甕	(17.8)	(24.9)	(3.9)	ABCJ	外面：にぶい橙色　内面：にぶい黄橙色	C	口縁部30%・底部50%	外面煤付着。
22-7	土師器甕	(19.0)	(24.8)	(4.0)	ACJ	浅黄橙色	A	口縁部25%・底部50%	
22-8	土師器甕	22.0	—	—	ABCHJ	外面：にぶい橙色　内面：浅黄色	C	口縁部100%～胴上半部	
22-9	土師器台付甕	—	—	(8.4)	ABCI	橙色	A	脚台部70%	
22-10	須恵器壺	—	—	12.0	AEN	褐灰色	A	底部75%	
22-11	砥石	長さ11.0	幅8.6	厚さ4.8				欠損	砂岩製。重さ730ｇ

いた。

南北方向の溝で、東は調査区域外になり、残存長は5.7m、幅2.7m、深さ0.5mを測る溝跡である。

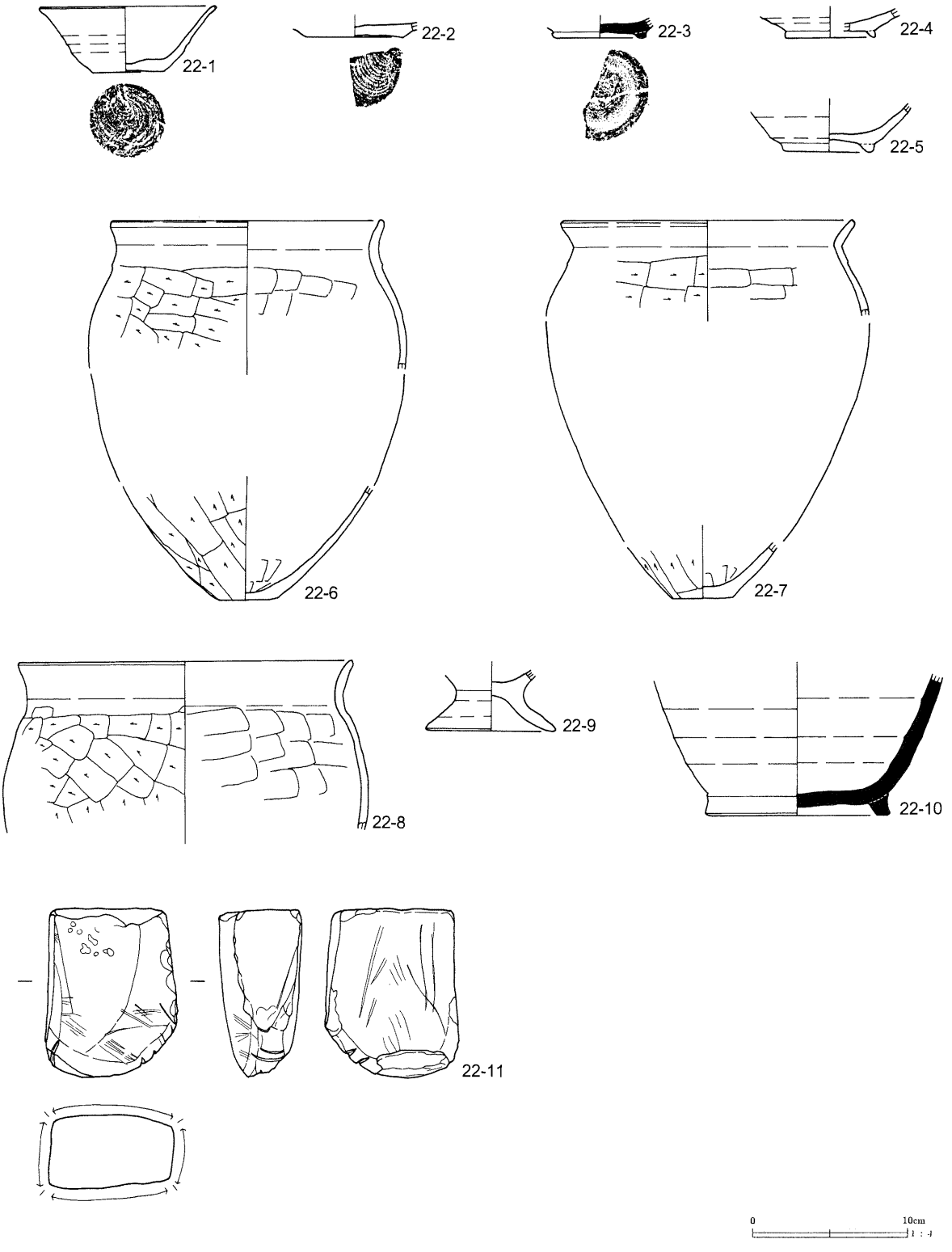
出土遺物は、検出されなかった。

第３号溝跡（第73図）

３区Q・R－15・16グリッドに位置する。

東西方向の溝で、両端は調査区域外になり、溝跡の本来の規模は把握できなかった。残存長2.2m、幅2.15m、深さ0.5mを測る。底部形状は平坦で1.05mと幅広で、壁の立ち上がりが斜めにゆるやかであった。

出土遺物は、検出されなかった。

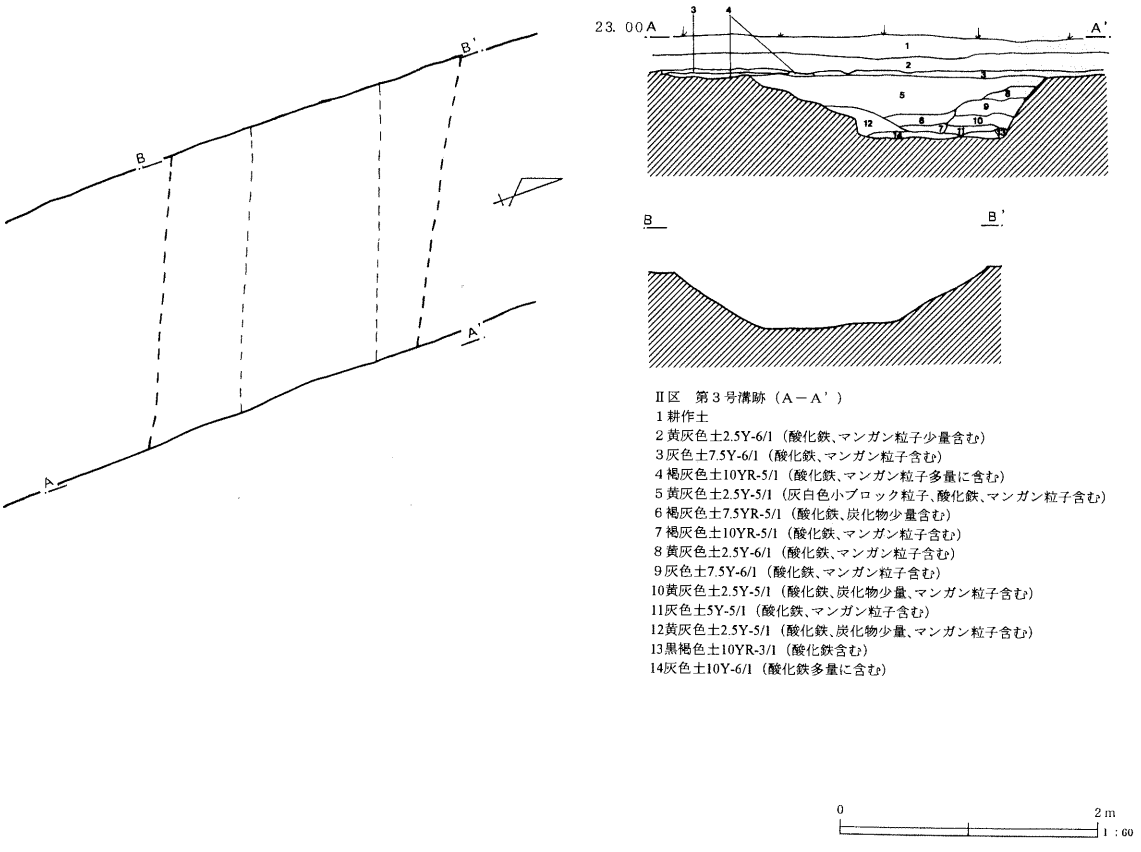


第71図　第22号住居跡出土遺物

Ⅱ区　第１・２号溝跡（Ａ－Ａ'）
1灰色砂質土N-4/（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2灰色砂質土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
3暗灰色粘質土N-3/（細砂、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4灰色粘質土N-4/（酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
5灰色粘質土N4/（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する、暗青色粒子若干、マンガン粒子含む）
6灰色粘土N-5/（細砂、酸化鉄、炭化物含む）
7灰色シルトN-4/（酸化鉄、炭化物含む）
8灰色シルトN-5/（酸化鉄、炭化物含む）
9暗灰色粘砂土N-3/（青灰色粒子、細砂、炭化物、腐食植物、木片含む）
10暗青灰色粘質土5PB-3/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
11青黒色粘質土５PB-2/1（酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
12暗青灰色粘土５PB-3/1（酸化鉄含む）
13灰色粘土N-5/（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
14暗青灰色粘土５PB-3/1（灰色粒子、酸化鉄含む）
15青黒色粘土５PB-2/1（灰色粒子、酸化鉄、炭化物若干含む）
16青黒色粘土５PB-1.7/1（灰色粒子若干、酸化鉄、炭化物含む）
17青黒色粘質土5PB-2/1（灰色粒子若干、酸化鉄、炭化物含む）
18青黒色粘質土5PB-2/1（灰色粒子若干、酸化鉄含む）
19灰色粘質土N-5/（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）

Ⅱ区　第１号溝跡（Ｂ－Ｂ'）
1耕作土
2灰色土5Y-6/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
3灰色粘質土N-5/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
4暗灰色土N-3/（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する、マンガン粒子含む）
5黄褐色粘質土10YR-5/6（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する、マンガン粒子含む）
6灰色粘質土N-6/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
7灰色粘質土N-5/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
8灰色粘質土N-4/（細砂、酸化鉄多量に含む）
9灰色粘質土7.5Y-4/1（青灰色ブロック・粒子若干、細砂、酸化鉄含む）
10青灰色シルト5BG-5/1（酸化鉄含む）
11暗青灰色粘質土5B-4/1（細砂、酸化鉄含む）
12暗青灰色シルト10BG-4/1（酸化鉄含む）
13暗灰色粘砂土N-3/
14暗灰色粘質土N-3/（細砂、炭化物含む）
15暗青灰色粘砂土5B-3/1（炭化物多量、腐食植物含む）
16暗灰色粘砂土N-3/（炭化物、腐食植物、木片、土器片含む）

第72図　II区第１・２号溝跡



第73図　II区第３号溝跡

(3)　河川跡

河川跡Ｈ地点（第75図）

４区Ｆ―16・17グリッドに位置していた。調査区をほぼ東西に横断していた。東西と南は調査区域外であった。

規模は、検出面での最大幅3.1m、土層観察幅4.6m、深さは最深で約１mであった。覆土は、灰色及び黒褐色の粘土が主体で、全体的に腐食し泥炭化した多量の植物繊維が含まれていた。

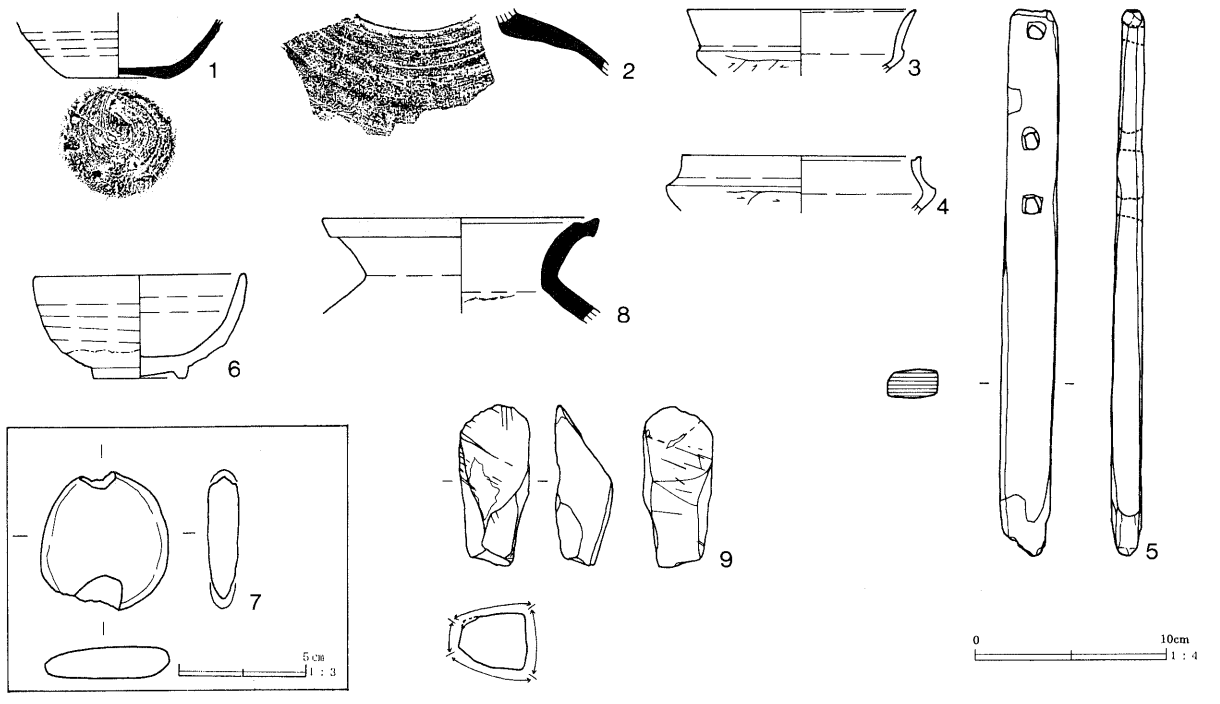
出土遺物は、検出できなかった。

河川跡Ｉ地点（第75図）

４区Ｃ・Ｄ―18・19グリッドに位置していた。調査区をほぼ東西に横断していた。東西と南は調査区域外であった。

規模は、検出面での最大幅3.4m、深さは最深で0.85mであった。覆土は、灰色粘土が主体で、全体的に細砂が含まれていた。

出土遺物は、検出できなかった。



第74図　II区出土遺物

第17表　II区出土遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径(長さ)	器高(幅)	底径(厚さ)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	須恵器坏	2トレンチ	—	—	5.5	AEN	灰色	A	底部100%	
2	須恵器甕	2トレンチ	—	—	—	AI	灰白色	A	胴部破片	
3	土師器坏	4トレンチ	12.4	—	—	ABE	外面：黒色　内面：黒褐色	A	口縁部15%	
4	土師器坏	SD2	12.8	—	—	—	外面：黒色　内面：黒褐色	A	口縁部15%	
5	杭	4トレンチ	—	—	—	—	—	—	—	板目。
6	陶器天目茶碗	5トレンチ	29.0	2.6	1.5	灰白色	—	A	95%	
7	石錘		5.4	5.1	1.2	—	—	—	一部欠損	重さ53.9g
8	須恵器甕		14.8	—	—	ABIN	外面：黒褐色　内面：褐灰色	A	口縁部20%	
9	砥石		8.5	3.0	3.0	—	—	—	欠損	砂岩製。重さ102g

河川跡J地点（第75図）

4区B—18・19グリッドに位置していた。調査区をほぼ東西に横断していた。東西と南は調査区域外であった。

規模は、検出面での最大幅2m、深さは最深で0.6mであった。覆土は、オリーブ灰色及び緑黒色の粘土が主体で、底部付近に砂が多量に含まれていた。

出土遺物は、検出できなかった。

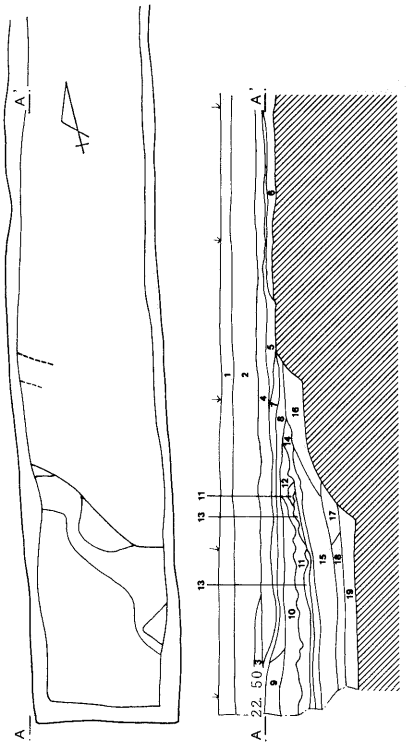
河川跡K地点（第76図）

3区Q・R—19及び8区Q・R—20グリッドに位置していた。調査区をほぼ東西に東北—南西方向に横断していた。東西と南は調査区域外であった。

規模は、検出面での最大幅8.35m、深さは最深で0.50mであった。覆土は、暗灰色、青灰色及び暗青灰色の粘土が主体で、腐食し泥炭化した植物繊維が含まれていた。

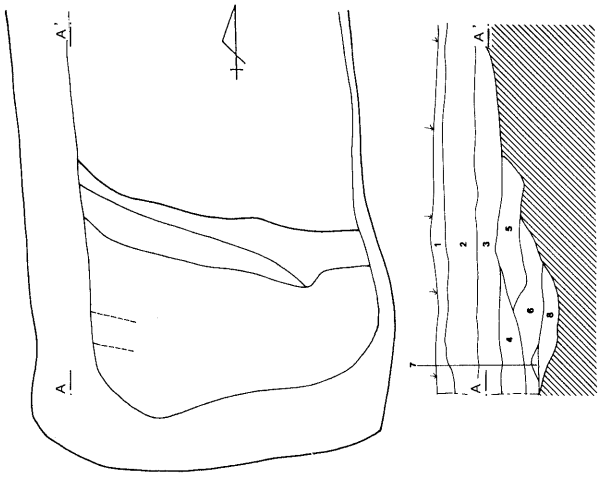
出土遺物は、検出できなかった。

河川跡H地点



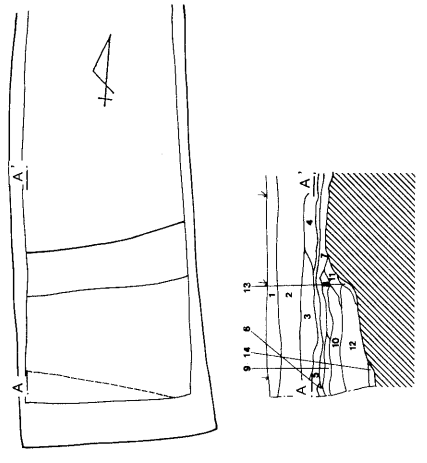
（A－A'）
1耕作土
2灰色土10Y-6/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
3黄灰色土2.5Y-6/1（酸化鉄、マンガン粒子少量含む）
4灰色土5Y-5/1（細砂、マンガン粒子、酸化鉄、炭化物少量含む）
5灰色粘土5Y-5/1（細砂、マンガン粒子、酸化鉄、火山灰含む）
6黄灰色土2.5Y-5/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
7灰黄褐色土10YR-5/2（酸化鉄多量に含む）
8灰色粘土N-5/（酸化鉄少量含む）
9灰色粘土7.5Y-6/1（酸化鉄、砂少量含む）
10黄灰色粘土2.5Y-6/1（砂多量に混じる、酸化鉄少量含む）
11黒褐色粘土10YR-3/1（火山灰多量、腐食植物、炭化物含む）
12黒褐色粘土2.5Y-3/1（火山灰少量含む）
13褐灰色粘土10YR-5/1（炭化物、腐食植物含む）
14黒褐色粘土7.5YR-3/1（炭化物、腐食植物含む）
15黄灰色粘土2.5Y-5/1（炭化物が横位に帯状、腐食植物含む）
16灰色粘土5Y-4/1（酸化鉄、腐食植物含む）
17灰色粘土5Y-4/1（明青灰色小ブロック、腐食植物、炭化物含む）
18黄灰色粘土2.5Y-5/1（腐食植物、炭化物少量含む）
19灰色粘土5Y-4/1（明黄灰色小ブロック、腐食植物含む）

河川跡I 地点



（A－A'）
1耕作土
2灰色土5Y-5/1（酸化鉄、火山灰、マンガン粒子含む）
3灰色土7.5Y-6/1（酸化鉄、細砂、マンガン粒子少量、炭化物含む）
4青灰色粘土5B-5/1（細砂多量に含む）
5灰色粘土10Y-5/1（細砂含む）
6灰色粘土N-5/（細砂含む）
7黒色土N-2/（炭化物含む）
8灰色粘土N-5/（砂少量含む）

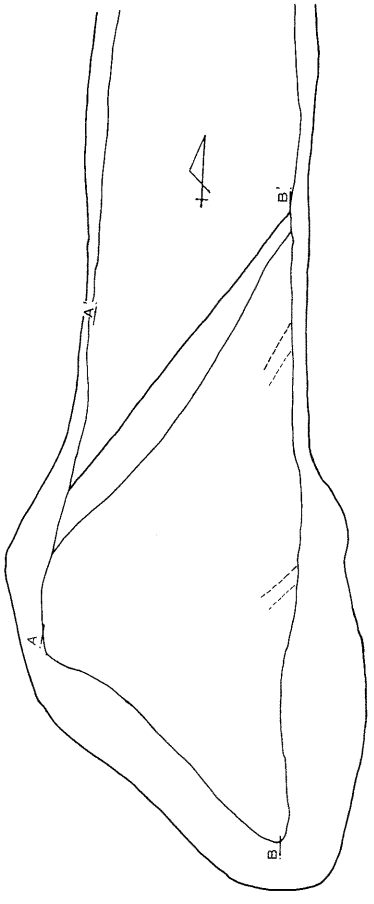
河川跡J 地点

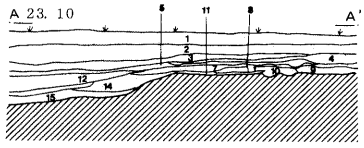


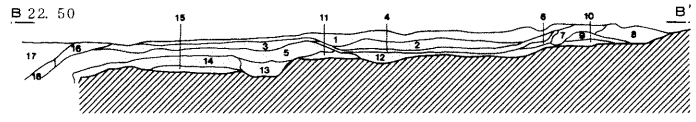
（A－A'）
1耕作土
2灰色土7.5Y-6/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
3灰色土5Y-6/1（砂混じる、酸化鉄多量に含む）
4灰色土5Y-5/1（上層にマンガン粒子多量、酸化鉄含む）
5灰色粘土5Y-6/1（酸化鉄含む）
6砂層（酸化鉄含む）
7灰色粘土5Y-6/1
8細砂層（酸化鉄含む）
9青灰色粘土5B-6/1（砂少量、酸化鉄含む）
10オリーブ灰色粘土5GY-6/1（砂含む）
11灰色粘土10Y-5/1
12緑黒色粘土5G-2/1（砂多量に含む）
13緑灰色粘土5G-6/1（砂少量含む）
14明青灰色粘土10BG-7/1（砂含む）

0　5 m
1：100

第75図　河川跡H・I・J地点







（A－A'）
1 耕作土（灰色土、酸化鉄、焼土、火山灰含む）
2 灰色土7.5Y-5/1（マンガン粒子、酸化鉄、砂、焼土含む）
3 灰色土10Y-5/1（マンガン粒子、酸化鉄含む）
4 灰色土N-5/（マンガン粒子、酸化鉄多量、焼土、炭化物、土器片若干含む）
5 黄褐色粘質土10YR-5/6（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する、マンガン粒子、砂含む）
6 灰色粘質土N-4/（暗紫灰色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
7 暗紫灰色粘質土5P-3/1（灰色ブロック・粒子、マンガン粒子、酸化鉄、火山灰、砂含む）
8 灰色粘質土N-4/（灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄、焼土含む）
9 灰色粘質土N-6/（暗紫灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
10灰色シルト10Y-6/1（マンガン粒子、酸化鉄含む）
11灰色粘質土N-4/（灰色粒子、暗紫灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄含む）
12灰色粘質土N-4/（灰オリーブ粒子、マンガン粒子、酸化鉄、炭化物、砂、炭化した腐食植物含む）
13黒色粘土N-2/（炭化した腐食植物で黒色を呈する、灰オリーブ粒子、酸化鉄、炭化物含む）
14灰色粘質土N-5/（マンガン粒子、酸化鉄多量に含む）
15灰色粘質土N-4/（マンガン粒子、酸化鉄、砂含む）

（B－B'）
1 灰色粘質土N-4/（灰色ブロック・粒子、暗青灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
2 暗灰色粘土N-3/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、腐食植物含む）
3 暗青灰色粘土5PB-3/1（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物含む）
4 黒色腐食植物層N-1.5/（スポンジ状、粘性ある）
5 暗青灰色粘土5PB-4/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
6 暗灰色粘土N-3/（灰色粒子、酸化鉄、炭化物、焼土含む）
7 灰色粘質土N-4/（灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄、炭化物含む）
8 灰色粘質土N-5/（マンガン粒子、酸化鉄含む）
9 暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄多量に含む）
10暗青灰色粘土5PB-3/1（灰色粒子、酸化鉄含む）
11青灰色粘土5B-5/1（暗青灰色粒子含む）
12青灰色粘土5BG-5/1（暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄若干含む）
13青灰色粘土5B-5/1（暗青灰色ブロック・粒子多量に含む）
14暗青灰色粘土5PB-3/1（青灰色粒子若干含む）
15暗青灰色粘土5PB-4/1（青灰色ブロック・粒子若干含む）
16暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄、炭化物含む）
17暗灰色粘土N-3/（細砂、酸化鉄、腐食植物含む）
18暗灰色粘砂土N-3/（粗砂多量、腐食植物含む）

第76図　河川跡Ｋ地点

VI　III区の調査

1　III区の概観

調査区は、調査区域のほぼ中央を東西に流れる衣川の北側最も東の区画であった。調査対象面積は、約270m²であった。

遺構確認面の標高は22.2～22.3mで、やや東に傾きをもっていたが、ほぼ平坦な形状であった。

確認された遺構は、土坑2基、溝跡7条、河川跡1箇所であった。遺構は北寄りに集中していた。

溝跡は、上層に4条、下層に3条重複しあって検出された。上層の4条は第1号溝跡の接続する第2号溝跡を除いてほぼ南北方向に走っていた。下層の溝はほぼ東西方向に横断して検出され、古墳時代中期及び後期の土器が出土した。

土坑は、2基のみで、いずれも下層の溝を切ってつくられていた。

河川跡は、調査区南西隅で検出された。

2　遺構と遺物

(1)　土坑

土坑は総数にして2基検出され、やや近接していた。いずれの土坑も東西に軸をもつ溝跡を切っていた。

以下、一覧表にして掲載する（第77図、第18表）。

第18表　III区土坑一覧表

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ	出土遺物	時期	重複関係	備考
1	8区 A21	長方形	272 × 110 × 116			SD6	
2	8区 B20・21	不整形	188 × 90 × 22			SD7	

(2)　溝跡

第1～4号溝跡は一面目の溝跡で、第5～6号溝跡は二面目の溝跡である。以下、詳細を記述する。

第1号溝跡（第78図）

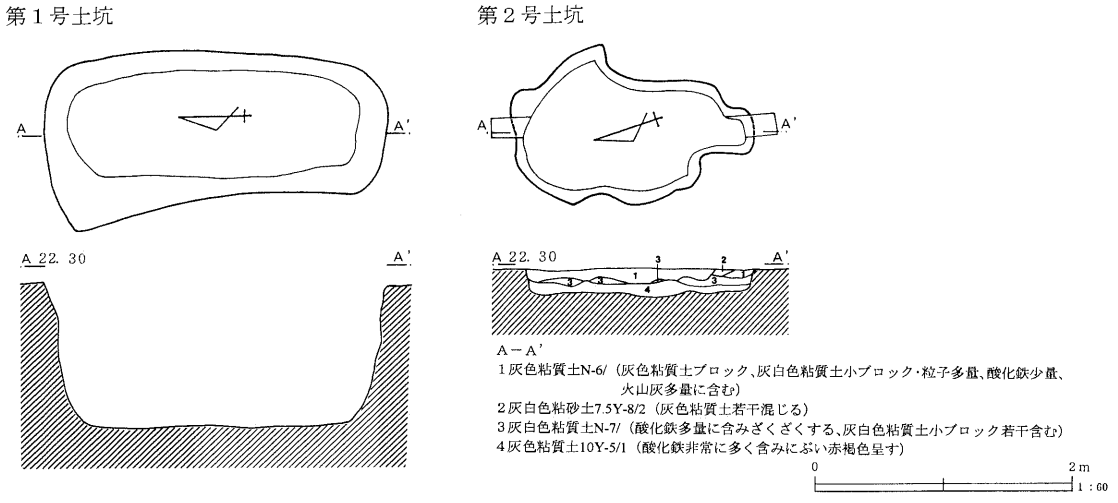
8区C—21グリッドとC—22グリッドにまたがり位置する。第2号溝跡と重複しており、本遺構が切っていた。

南北方向の溝で、両端とも調査区域外となっており、本来の規模は不明である。残存長3.6m、幅0.8m、深さ0.36mを測る。底部は平坦で幅0.6mと幅広な形状である。

出土遺物は、検出できなかった。

第2号溝跡（第78図）

8区B—21グリッドとC—22グリッドにまたがり位置する。第1号溝跡と重複しており、本遺構が切られていた。また、北側部分では、第5・6・7号溝跡と重複しており、本遺構の方が新しい。



第77図　III区第１・２号土坑

残存長は7.0m、幅0.36m、深さ0.2mを測る小規模な溝跡である。

出土遺物は、検出されなかった。

第３号溝跡（第78図）

８区Ｆ—21・22グリッドに位置する。

南北方向の溝で、両端は調査区域外になり、溝跡の本来の規模は把握できなかった。残存長2.4m、幅0.4mから0.9mと不規則な形状を呈し、深さは0.35mを測る。底部形状は平坦で、壁の立ち上がりは急である。

出土遺物は、検出されなかった。

第４号溝跡（第78図）

８区Ａ—21グリッドからＡ—22グリッドにまたがり位置する。第５号溝跡と重複しており、本遺構の方が新しい。

南北方向の溝で、北側は径１m×1.4m、深さ0.4mの隅丸方形の土坑状遺構から始まっており、南は調査区域外となっている。残存長6.5m、幅0.3m前後、深さ0.1mと浅い溝跡である。

出土遺物は、検出されなかった。

第５号溝跡（第79図）

７区Ｔ—21グリッドから８区Ｄ—22グリッドに位置する。第６号溝跡と重複しており、本遺構が切られていた。両端が調査区域外となり、溝跡本来の規模は把握できなかった。

東西方向の溝で、残存長は19.8m、幅は切り合いで正確に把握できなかったが、推定幅1.1m、深さ0.25～0.30mを測る。断面形はやや箱薬研状を呈し、浅いものであった。

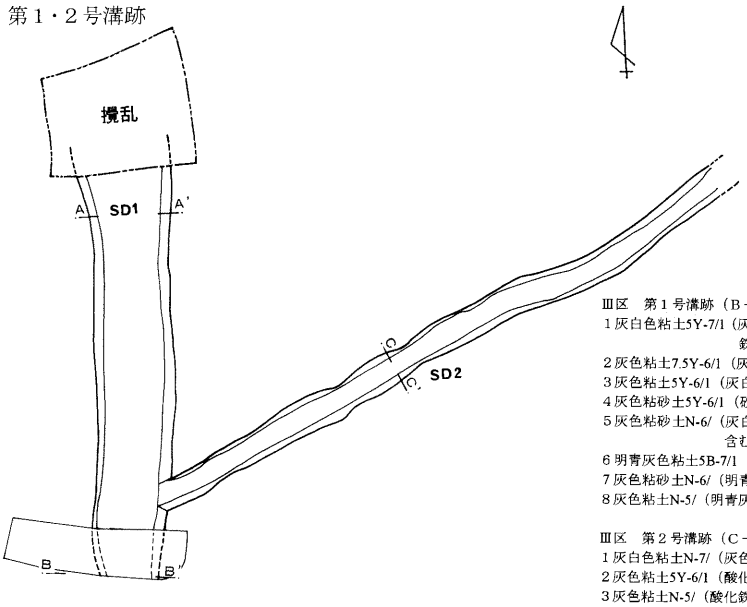
出土遺物は、検出されなかった。

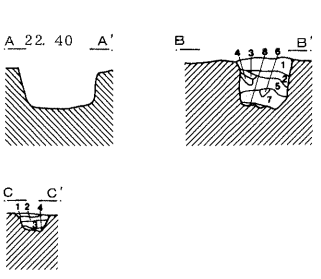
第６号溝跡（第79・80図、第19表）

７区Ｔ—21グリッドから８区Ｄ—22グリッドに位置する。第５・７号溝跡と重複しており、本遺構が切っていた。両端が調査区域外となり、溝跡本来の規模は把握できなかった。

南北方向の溝で、両端は調査区域外になり、溝跡の本来の規模は把握できなかった。残存長23.0m、

第１・２号溝跡

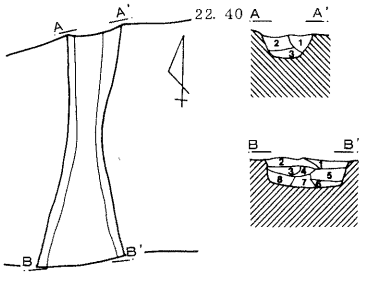




Ⅲ区　第１号溝跡（Ｂ－Ｂ'）
１灰白色粘土5Y-7/1（灰白色粘土粒子少量、灰白色粘土小ブロック、灰色粘土粒子若干、酸化鉄若干含む）
２灰色粘土7.5Y-6/1（灰白色粘土ブロック・粒子、灰色粘土粒子含む）
３灰色粘土5Y-6/1（灰白色粘土粒子、灰色粘土粒子、明青灰色粘土粒子含む）
４灰色粘砂土5Y-6/1（砂少量、酸化鉄若干含む）
５灰色粘砂土N-6/（灰白色粘土小ブロック、明青灰色粘土ブロック・粒子多量、酸化鉄少量含む）
６明青灰色粘土5B-7/1（灰色粘土粒子若干含む）
７灰色粘砂土N-6/（明青灰色粘土小ブロック・粒子若干、砂多量に含む）
８灰色粘土N-5/（明青灰色粘土粒子含む）

Ⅲ区　第２号溝跡（Ｃ－Ｃ'）
１灰白色粘土N-7/（灰色粘土粒子若干含む）
２灰色粘土5Y-6/1（酸化鉄若干含む）
３灰色粘土N-5/（酸化鉄ごくわずか含む）
４灰色粘土N-4/（酸化鉄少量含む）

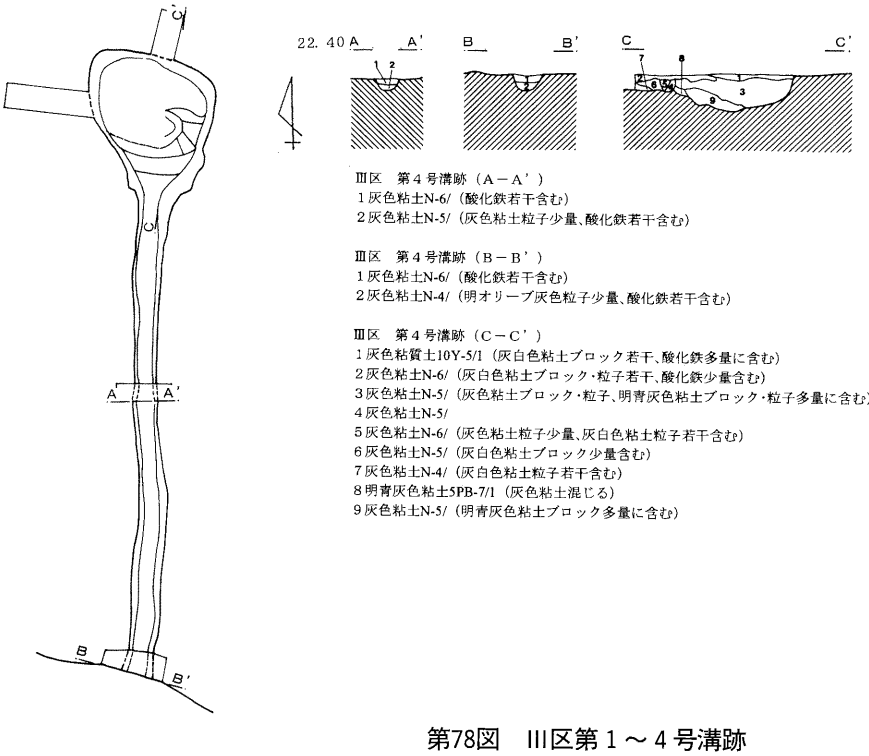
第３号溝跡



Ⅲ区　第３号溝跡（Ａ－Ａ'）
１灰色粘土5Y-6/1（オリーブ黒色粘土小ブロック・粒子多量、酸化鉄少量含む）
２灰色粘土10Y-6/1（酸化鉄若干、マンガン粒子若干含む）
３灰色粘土N-5/（酸化鉄若干含む）

Ⅲ区　第３号溝跡（Ｂ－Ｂ'）
１灰白色粘土N-7/（酸化鉄含みざくざくした感じ、灰白色粘土粒子含む）
２灰色粘土5Y-5/1（酸化鉄多量に含みざくざくした感じ、灰白色粘土ブロック含む）
３灰色粘土N-6/（酸化鉄多量に含む）
４灰色粘土N-5/（酸化鉄少量含む）
５灰白色粘土7.5Y-7/1（灰色粘土粒子若干、酸化鉄少量含む）
６灰色粘土N-5/（灰白色粘土粒子、酸化鉄若干含む）
７明青灰色粘土5PB-7/1（酸化鉄少量含む）
８灰色粘土N-6/（灰色粘土ブロック多量、明青灰色粘土ブロック少量含む）

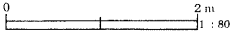
第４号溝跡



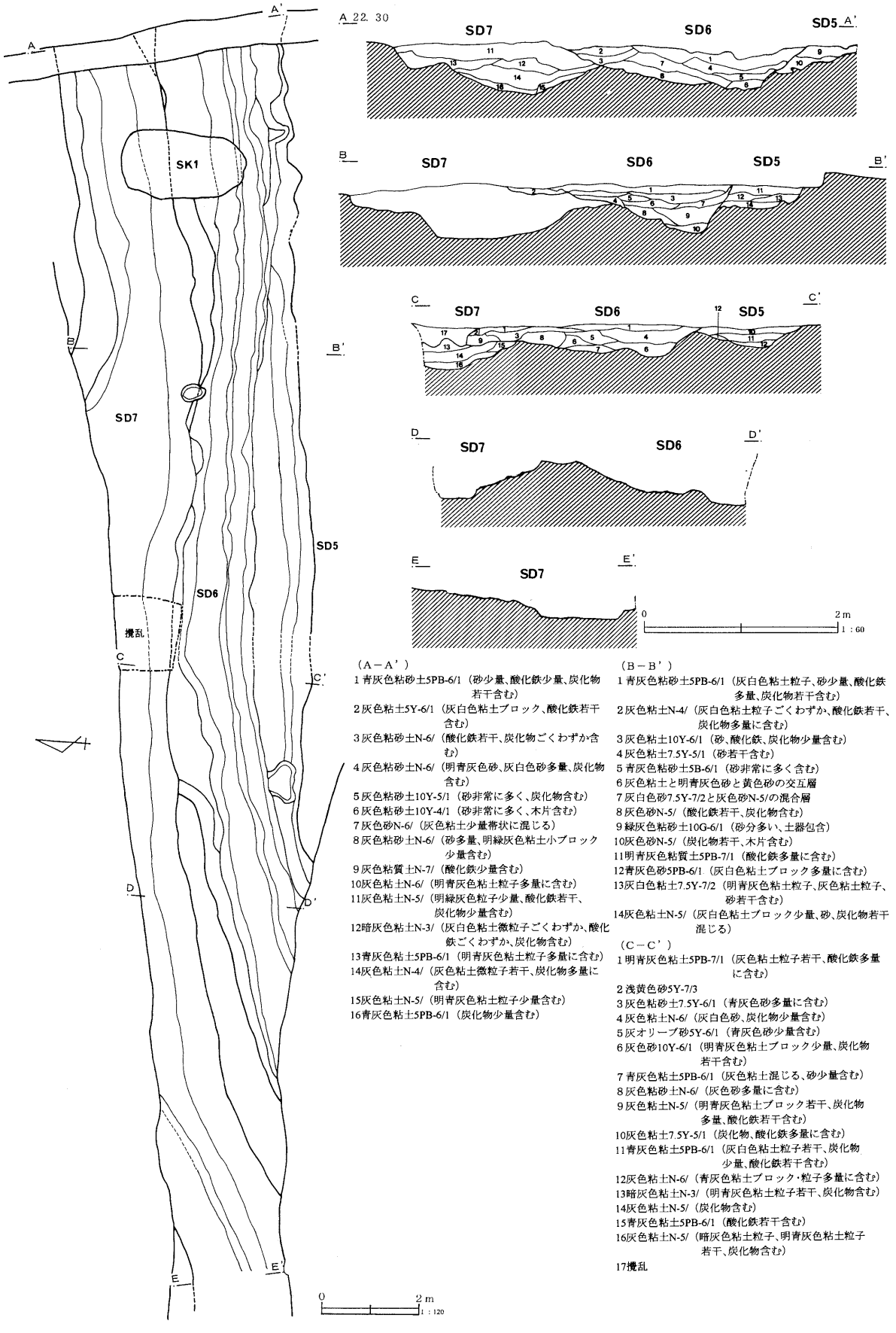
Ⅲ区　第４号溝跡（Ａ－Ａ'）
１灰色粘土N-6/（酸化鉄若干含む）
２灰色粘土N-5/（灰色粘土粒子少量、酸化鉄若干含む）

Ⅲ区　第４号溝跡（Ｂ－Ｂ'）
１灰色粘土N-6/（酸化鉄若干含む）
２灰色粘土N-4/（明オリーブ灰色粒子少量、酸化鉄若干含む）

Ⅲ区　第４号溝跡（Ｃ－Ｃ'）
１灰色粘質土10Y-5/1（灰白色粘土ブロック若干、酸化鉄多量に含む）
２灰色粘土N-6/（灰白色粘土ブロック・粒子若干、酸化鉄少量含む）
３灰色粘土N-5/（灰色粘土ブロック・粒子、明青灰色粘土ブロック・粒子多量に含む）
４灰色粘土N-5/
５灰色粘土N-6/（灰色粘土粒子少量、灰白色粘土粒子若干含む）
６灰色粘土N-5/（灰白色粘土ブロック少量含む）
７灰色粘土N-4/（灰白色粘土粒子若干含む）
８明青灰色粘土5PB-7/1（灰色粘土混じる）
９灰色粘土N-5/（明青灰色粘土ブロック多量に含む）



第78図　III区第１～４号溝跡

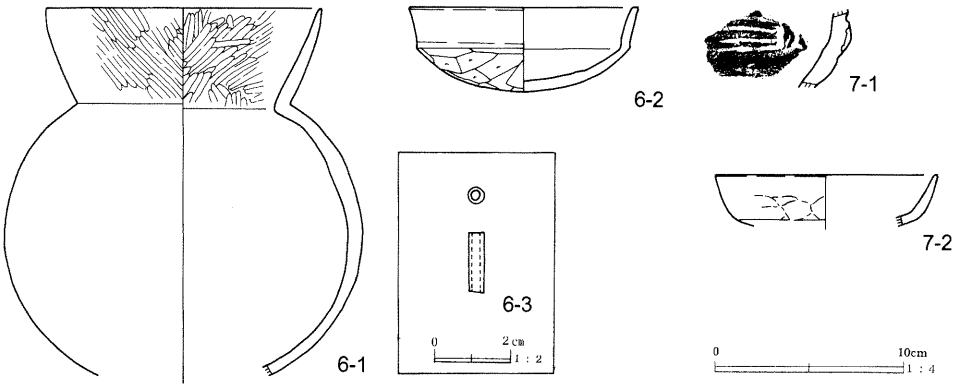


（A－A'）
1 青灰色粘砂土5PB-6/1（砂少量、酸化鉄少量、炭化物若干含む）
2 灰色粘土5Y-6/1（灰白色粘土ブロック、酸化鉄若干含む）
3 灰色粘砂土N-6/（酸化鉄若干、炭化物ごくわずか含む）
4 灰色粘砂土N-6/（明青灰色砂、灰白色砂多量、炭化物含む）
5 灰色粘砂土10Y-5/1（砂非常に多く、炭化物含む）
6 灰色粘砂土10Y-4/1（砂非常に多く、木片含む）
7 灰色砂N-6/（灰色粘土少量帯状に混じる）
8 灰色粘砂土N-6/（砂多量、明緑灰色粘土小ブロック少量含む）
9 灰色粘質土N-7/（酸化鉄少量含む）
10 灰色粘土N-6/（明青灰色粘土粒子多量に含む）
11 灰色粘土N-5/（明緑灰色粒子少量、酸化鉄若干、炭化物少量含む）
12 暗灰色粘土N-3/（灰白色粘土微粒子ごくわずか、酸化鉄ごくわずか、炭化物含む）
13 青灰色粘土5PB-6/1（明青灰色粘土粒子多量に含む）
14 灰色粘土N-4/（灰色粘土微粒子若干、炭化物多量に含む）
15 灰色粘土N-5/（明青灰色粘土粒子少量含む）
16 青灰色粘土5PB-6/1（炭化物少量含む）

（B－B'）
1 青灰色粘砂土5PB-6/1（灰白色粘土粒子、砂少量、酸化鉄多量、炭化物若干含む）
2 灰色粘土N-4/（灰白色粘土粒子ごくわずか、酸化鉄若干、炭化物多量に含む）
3 灰色粘土10Y-6/1（砂、酸化鉄、炭化物少量含む）
4 灰色粘土7.5Y-5/1（砂若干含む）
5 青灰色粘砂土5B-6/1（砂非常に多く含む）
6 灰色粘土と明青灰色砂と黄色砂の交互層
7 灰白色砂7.5Y-7/2と灰色砂N-5/の混合層
8 灰色砂N-5/（酸化鉄若干、炭化物含む）
9 緑灰色粘砂土10G-6/1（砂分多い、土器包含）
10 灰色砂N-5/（炭化物若干、木片含む）
11 明青灰色粘質土5PB-7/1（酸化鉄多量に含む）
12 青灰色砂5PB-6/1（灰白色粘土ブロック多量に含む）
13 灰白色粘土7.5Y-7/2（明青灰色粘土粒子、灰色粘土粒子、砂若干含む）
14 灰色粘土N-5/（灰白色粘土ブロック少量、砂、炭化物若干混じる）

（C－C'）
1 明青灰色粘土5PB-7/1（灰色粘土粒子若干、酸化鉄多量に含む）
2 浅黄色砂5Y-7/3
3 灰色粘砂土7.5Y-6/1（青灰色砂多量に含む）
4 灰色粘土N-6/（灰白色砂、炭化物少量含む）
5 灰オリーブ砂5Y-6/1（青灰色砂少量含む）
6 灰色砂10Y-6/1（明青灰色粘土ブロック少量、炭化物若干含む）
7 青灰色粘土5PB-6/1（灰色粘土混じる、砂少量含む）
8 灰色粘砂土N-6/（灰色砂多量に含む）
9 灰色粘土N-5/（明青灰色粘土ブロック若干、炭化物多量、酸化鉄若干含む）
10 灰色粘土7.5Y-5/1（炭化物、酸化鉄多量に含む）
11 青灰色粘土5PB-6/1（灰白色粘土粒子若干、炭化物少量、酸化鉄若干含む）
12 灰色粘土N-6/（青灰色粘土ブロック・粒子多量に含む）
13 暗灰色粘土N-3/（明青灰色粘土粒子若干、炭化物含む）
14 灰色粘土N-5/（炭化物含む）
15 青灰色粘土5PB-6/1（酸化鉄若干含む）
16 灰色粘土N-5/（暗灰色粘土粒子、明青灰色粘土粒子若干、炭化物含む）
17 撹乱

第79図　III区第５～７号溝跡



第80図　III区第６・７号溝跡出土遺物

第19表　III区溝跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
6-1	土師器坩	(14.5)	—	—	AEMN	にぶい赤褐色	A	口縁部20%	
6-2	土師器坏	(12.0)	4.5	—	ABEJ	にぶい橙色	D	50%	
6-3	管玉	長さ1.6	幅0.5	重さ0.5	—	—	—	完形	滑石製。
7-1	縄文土器深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙色	—	胴部破片	
7-2	土師器坏	(11.6)	—	—	AEJ	橙色	D	口縁部20%	

幅2.35～2.50m、深さは0.5mを測る。断面形はゆるやかなＶ字状や底部形状が平坦な形を呈し、壁の立ち上がりは南側が急である。

出土遺物は、土師器坩・坏、管玉が検出された。

第７号溝跡（第79・80図、第19表）

７区Ｔ—20グリッドから８区Ｆ—21グリッドに位置する。第６号溝跡と重複しており、本遺構が切られていた。両端が調査区域外となり、溝跡本来の規模は把握できなかった。

やや蛇行するが東西方向の溝で、残存長は26.0m、幅2.3～2.4m、深さ0.55mを測る。断面形は２段に掘り込まれるもので、底部は0.5mと狭い箇所と2.0mと広い箇所があり、幅がまちまちであった。

出土遺物は、縄文土器深鉢片、土師器坏が検出できた。

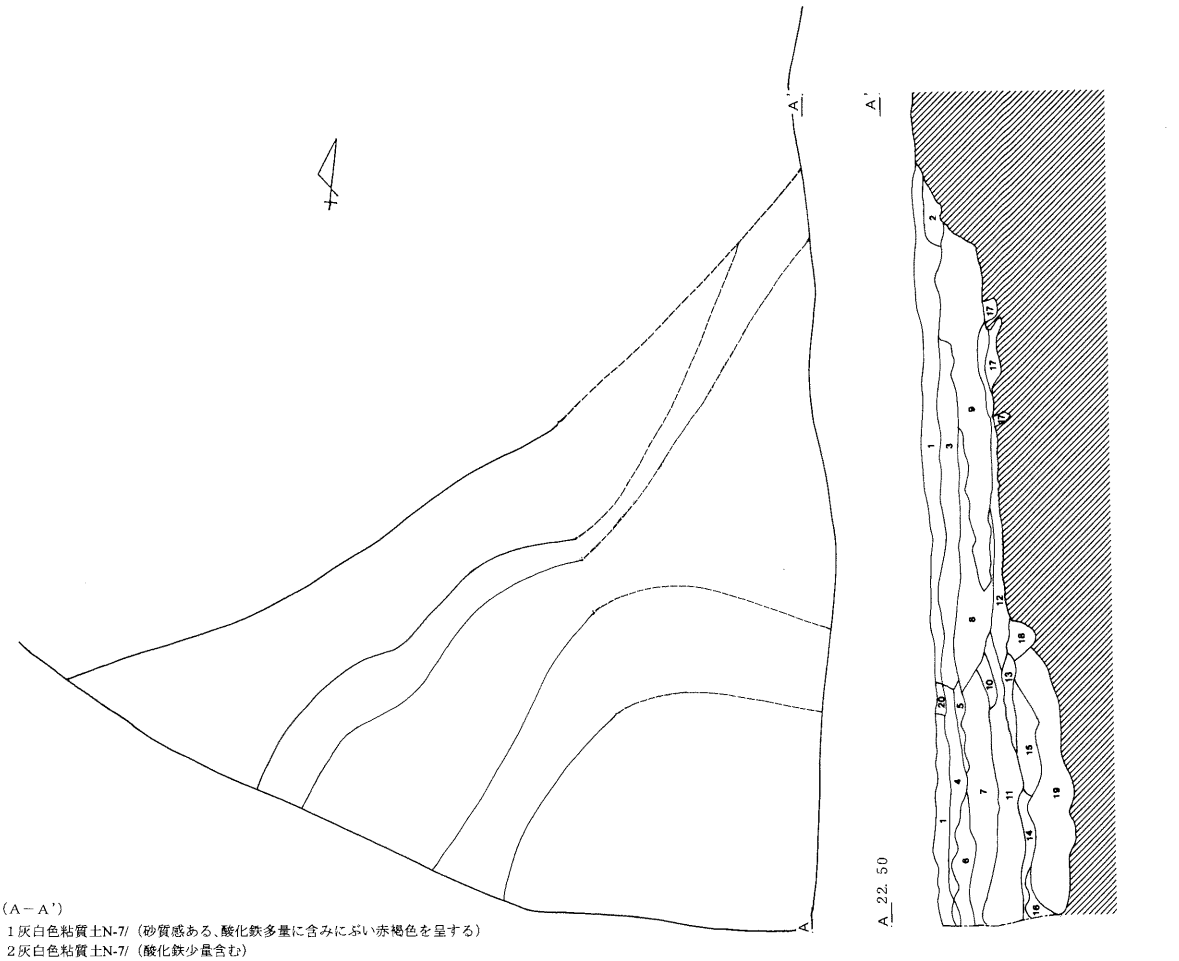
(3)　河川跡

河川跡Ｅ地点（第81・82図、第20表）

７区Ｔ—22･23及び８区Ａ—22･23グリッドに位置していた。調査区隅をほぼ東北—南西方向に横切っていた。東と南は調査区域外であった。

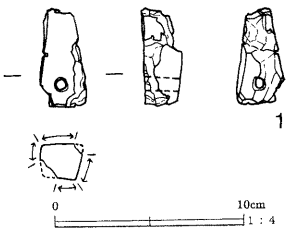
規模は、検出面での最大幅4.0m、深さは最深で0.76mであった。掘り方は、立ち上がり側に最大幅約２mのテラスがあり、そこから一段深い掘り込みであった。覆土は、灰白色粘質土、灰色及び青灰色の粘土が主体で、腐食し泥炭化した植物繊維が若干含まれていた。

出土遺物は、少なく砥石などが検出できた。



（A－A'）
1灰白色粘質土N-7/（砂質感ある、酸化鉄多量に含みにぶい赤褐色を呈する）
2灰白色粘質土N-7/（酸化鉄少量含む）
3灰白色粘砂土2.5Y-7/1（若干軟弱、酸化鉄多量に含みにぶい赤褐色を呈する）
4明青灰色砂5B-7/1（灰白色粘土若干混じる、酸化鉄少量含む）
5明青灰砂5PB-7/1（灰白色粘土粒子若干、酸化鉄少量含む）
6灰白色粘土5Y-7/1（酸化鉄多量に含みにぶい赤褐色を呈する、砂少量、炭化物含む）
7灰色粘土7.5Y-5/1（砂若干、酸化鉄若干、炭化物若干含む）
8灰色粘砂土10Y-6/1（砂多量、酸化鉄少量、骨片含む）
9灰色粘土7.5Y-5/1（明緑灰色砂少量、酸化鉄若干含む）
10灰色粘砂土5Y-6/1（砂多量、酸化鉄若干含む）
11灰色粘土10Y-5/1（明青灰色粘土少量混じる、砂少量、木片、腐食植物若干含む）
12灰色粘土5Y-6/1（青灰色粘土ブロック若干、砂若干、酸化鉄少量含む）
13灰白色砂N-7/（黒色砂帯状、灰色粘土粒子若干、酸化鉄若干含む）
14灰色粘砂土N-5/（青灰色粘土粒子若干、砂多量、酸化鉄ごくわずか、炭化物若干含む）
15青灰粘砂土5PB-5/1（青灰色粘土粒子少量、砂多量に含む）
16青灰粘土5PB-5/1（明青灰色粘土粒子若干含む）
17灰色粘土N-6/（灰色粘土粒子少量、明緑灰色粘土粒子少量含む）
18青灰色粘土5PB-6/1（オリーブ黒色粘土粒子若干含む）
19灰色粘土N-5/（灰色粘土混じる、明青灰色粘土ブロック含む）
20攪乱

第81図　河川跡Ｅ地点



第82図　河川跡Ｅ地点出土遺物

第20表　河川跡Ｅ地点出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	高さ	重さ	手法の特徴等	残存率	備考
1	砥石	5.2	2.4	2.0	22.5	凝灰質砂岩製。	欠損	使用面４面残存。穿孔あり。

Ⅶ　Ⅳ区の調査

1　Ⅳ区の概観

調査区は、調査区域のほぼ中央を東西に流れる衣川とⅤ・Ⅵ・Ⅶ区境にある農業用水路とに挟まれた台形状の細長い区画であった。調査対象面積は、約13,000㎡であった。

遺構確認面での標高は22.60～22.90mで、ほぼ平坦であった。

確認された遺構は、竪穴住居跡16軒（第１～16号住居跡）、掘立柱建物跡25棟（第１～20・27～31号掘立柱建物跡）、土坑93基、竪穴遺構４基、井戸跡17基（第７・８号井戸跡は欠番）、土坑墓５基、火葬跡３基、溝跡67条（内11条は下層の溝）、ピット多数、河川跡４箇所であった。遺構の分布は、調査区中央の河川跡より西に集中し、東側は希薄な状況であった。

調査区内の遺構は、空間を区切る溝跡及び遺構の構成状況により、大きく６つに分けることができた。

第１の空間は、第１・２・３・４・５・６号区画溝に囲まれた範囲で第１区画とした。区画内には掘立柱建物跡13棟、竪穴住居跡９棟、井戸跡１基、その他土坑、ピットが多数確認された。住居跡等を中心に８世紀後半から10世紀前半の遺物が出土している。

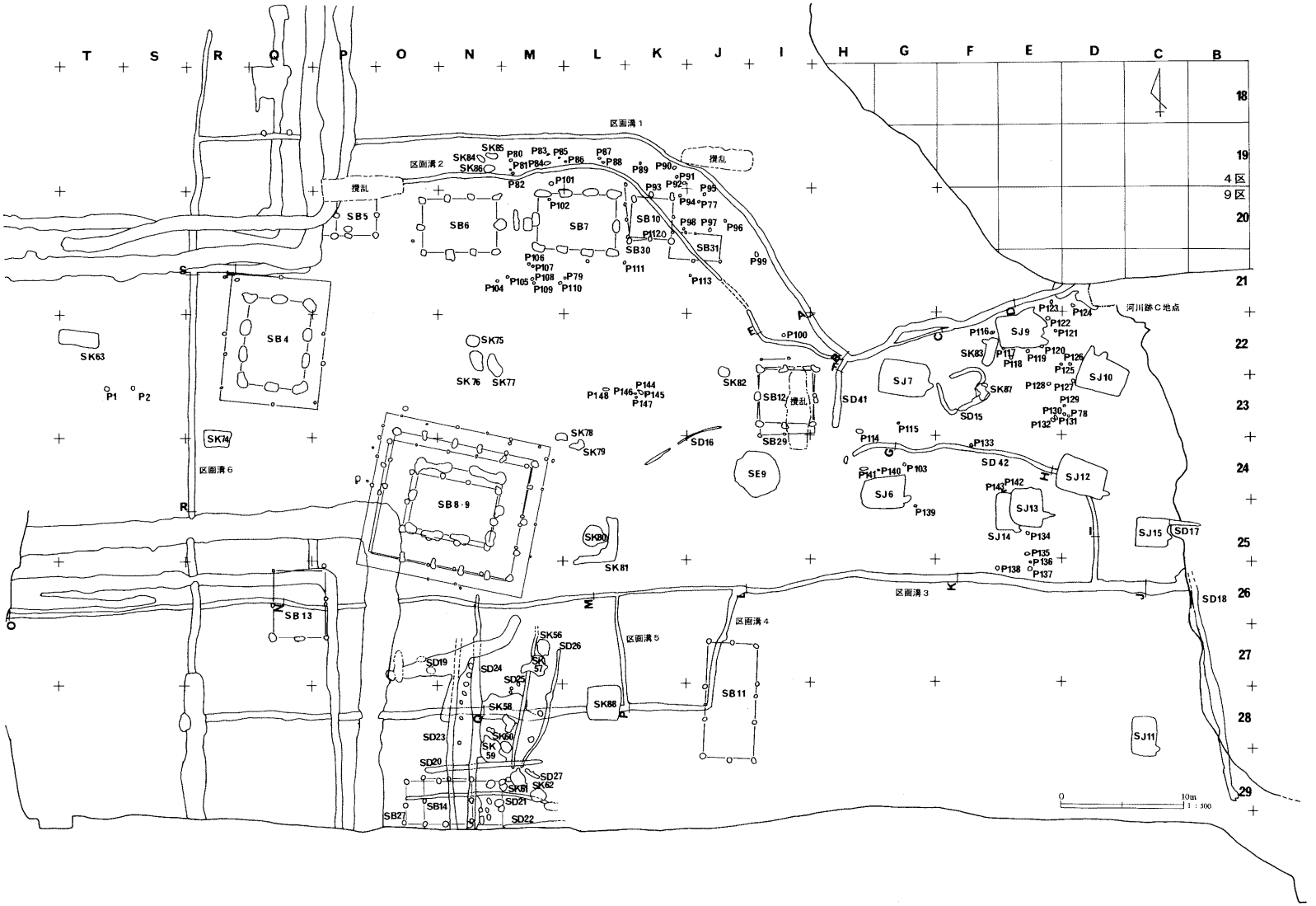
第２の空間は、第７・８・９号区画溝、第36～39号溝跡等に囲まれた空間で第２区画とした。この空間の中心に第28号掘立柱建物跡があり、掘立柱建物跡の北側に５棟の竪穴住居跡が検出された。その他、井戸跡、土坑、ピットなどが多数検出された。住居跡を中心に遺物が検出されており、９世紀後半から10世紀後半の遺物が出土している。

第３の空間は、調査区南西コーナーに位置し、第10～12号区画溝によって区切られる空間で、第３区画とした。この溝は、近世以降のものと推定される。ただ、区画内には多数のピット、中世土坑墓・火葬跡・井戸跡などが確認されている。出土遺物の多くは、第12号区画溝からのもので近世である。中世の遺物は少ない。

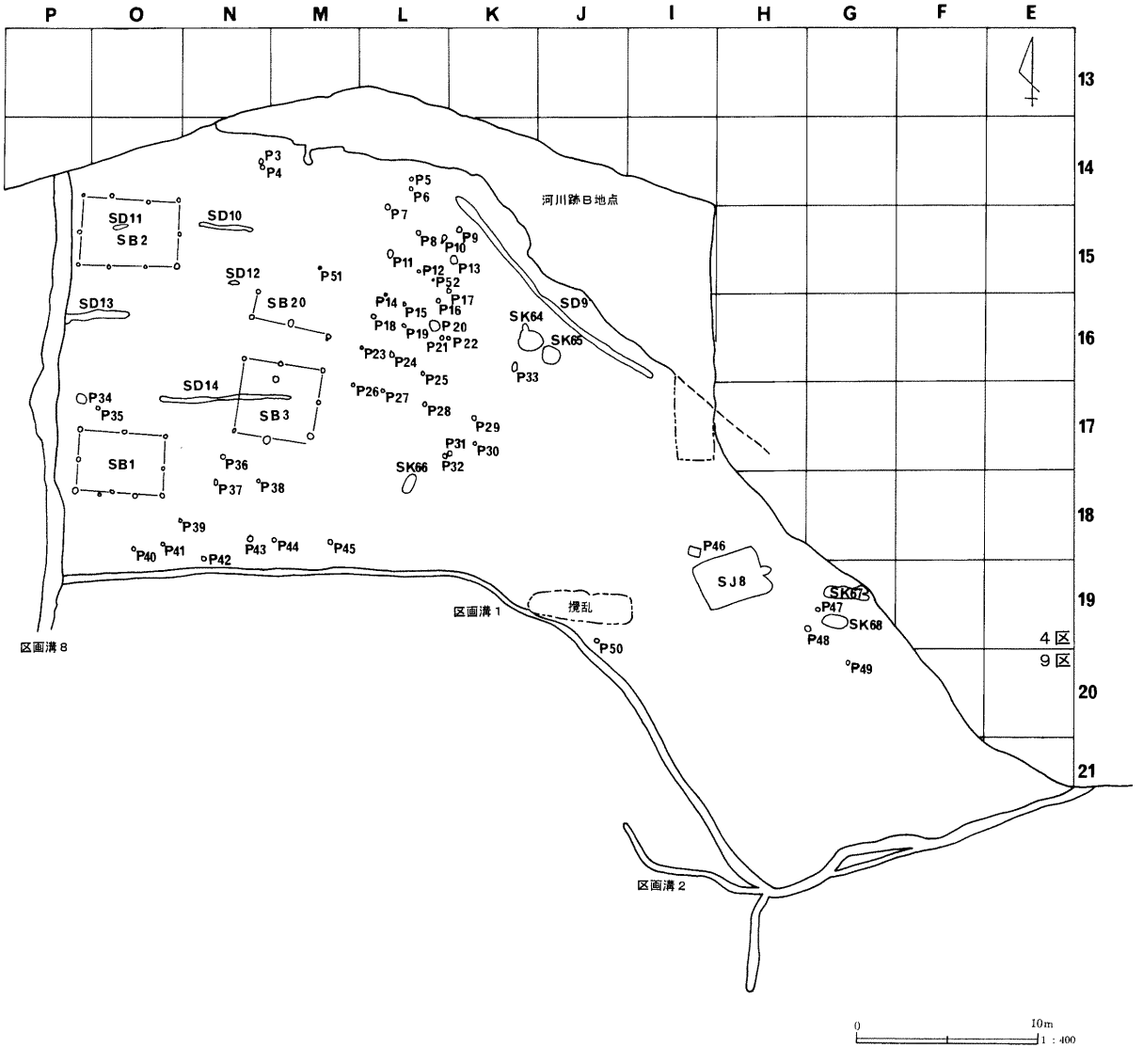
第４の空間は、第１区画の北側に位置し、掘立柱建物跡４棟、竪穴住居跡１軒等の遺構が確認されている。出土遺物は須恵器坏、土師器坏・甕等が出土している。

第５の空間は、第１区画の南側に位置し、掘立柱建物跡３棟、竪穴住居跡１軒等の遺構が確認されている。出土遺物は須恵器坏、土師器坏・甕等が出土している。また、上層に溝跡・土坑が密集して検出された箇所があり、灰釉陶器椀などが出土している。

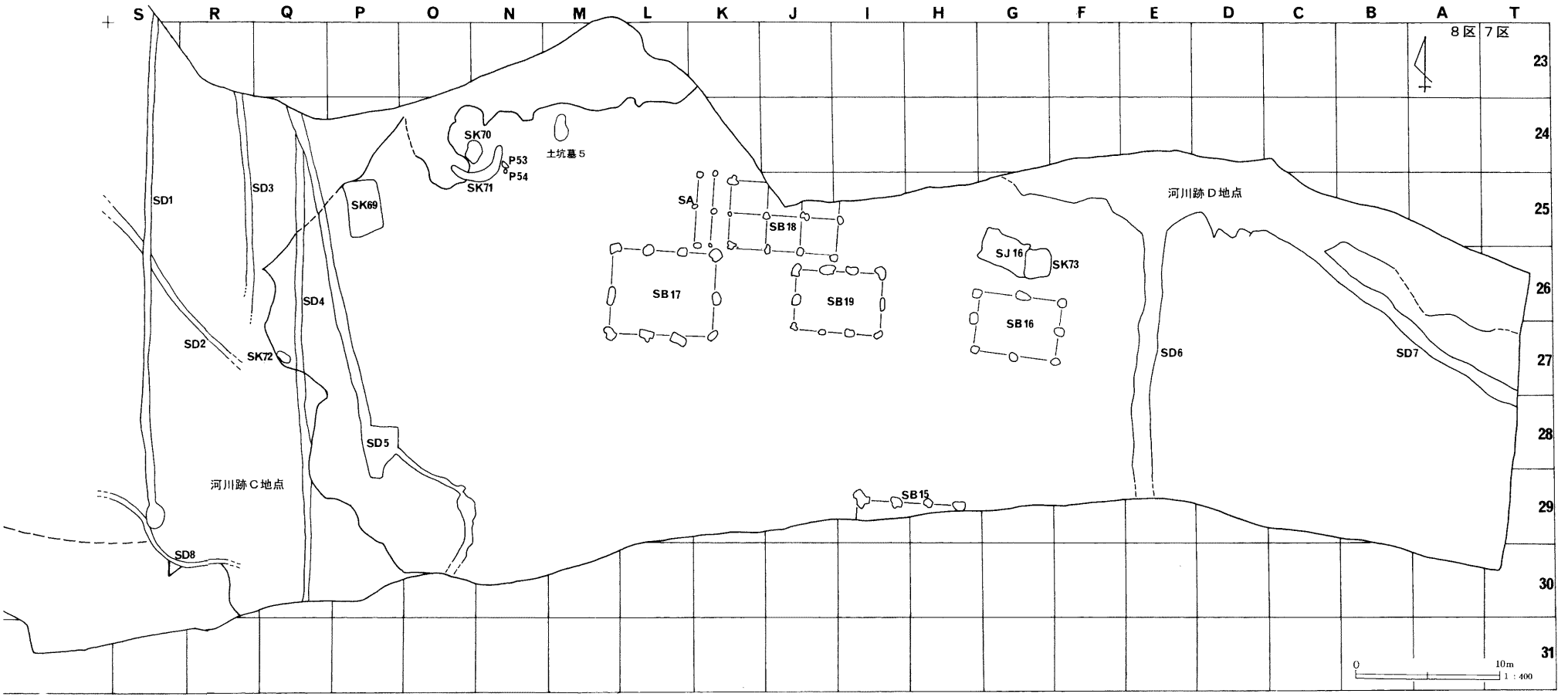
第６の空間は、調査区中央付近に南北に流れる河川跡の東側一帯である。遺構は比較的少なく、掘立柱建物跡４棟、竪穴住居跡１軒、竪穴住居跡とほぼ同時期と思われる土坑墓などが確認されている。



第83図　Ⅳ区全側図(1)第１区画・以南地区

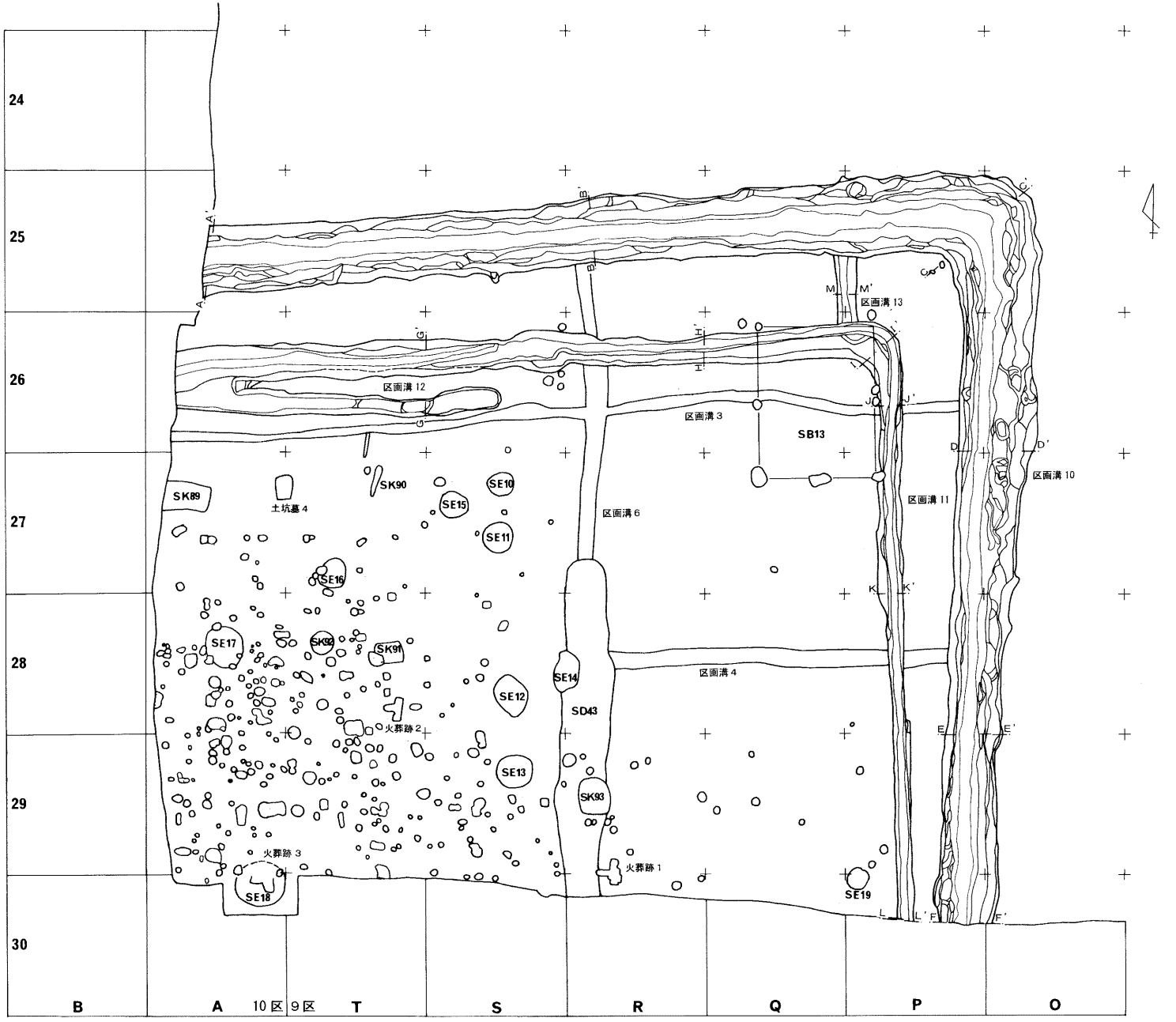

P
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
13
14
15
16
17
18
19
20
21
4区
9区
河川跡B地点
SD11
SB2
SD10
SD12
SD13
SB20
SD14
SB3
SB1
SD9
SK64
SK65
SK66
SK67
SK68
SJ8
撹乱
区画溝1
区画溝2
区画溝8
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P51
P52
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
P21
P22
P23
P24
P25
P26
P27
P28
P29
P30
P31
P32
P33
P34
P35
P36
P37
P38
P39
P40
P41
P42
P43
P44
P45
P46
P47
P48
P49
P50
0
10m
1：400

第84図　Ⅳ区全側図(2)


S R Q P O N M L K J I H G F E D C B A T
8区 7区
23
24
25
26
27
28
29
30
31
SK70
P53
P54
SK71
土坑墓５
SD1
SD3
SK69
SA
SB18
SJ 16
SK73
SB17
SB19
SB16
河川跡Ｄ地点
SD4
SD2
SK72
SD6
SD7
SD5
河川跡Ｃ地点
SB15
SD8
0
10m
1：400

第85図　Ⅳ区全側図(3)

第86図　Ⅳ区全側図(4)第２区画



第87図　IV区全側図(5)第3区画

2　遺構と遺物

(1)　住居跡

第１号住居跡（第88・94図、第21表）

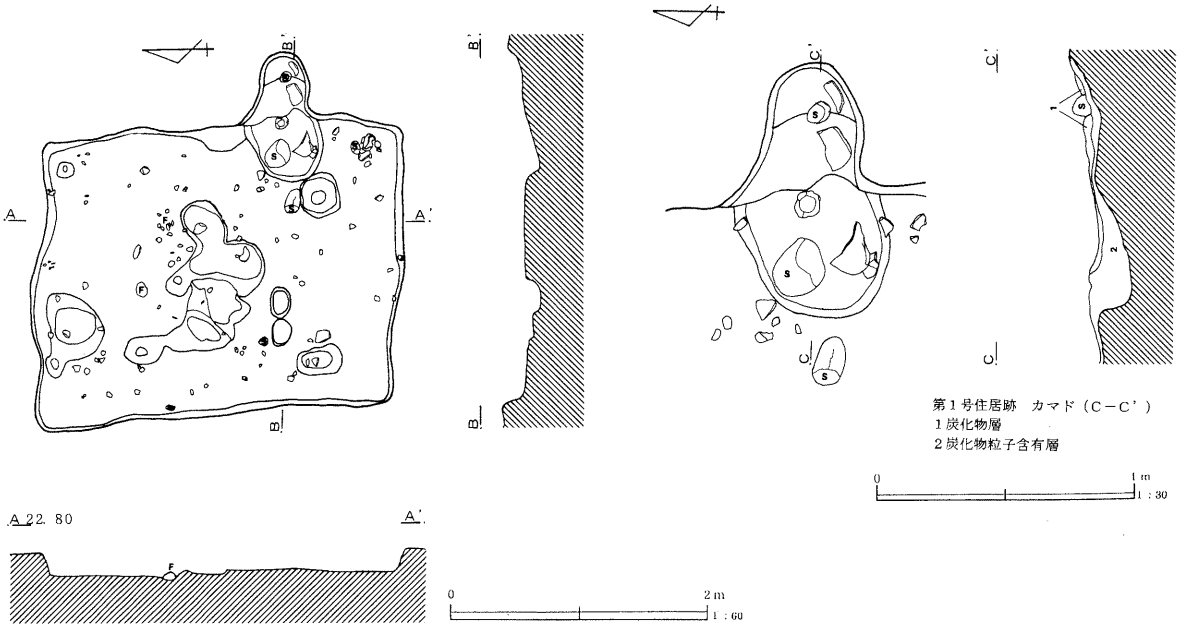
５区Ｃ―16グリッドに位置する。Ⅳ区第37号溝跡と重複する。

平面は軸長2.28ｍ×3.01ｍの長方形で、面積は6.86㎡を測る。主軸方向はおよそＮ―91°―Ｅを指す。床までの深さは約30cm、覆土は自然堆積と思われる。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。

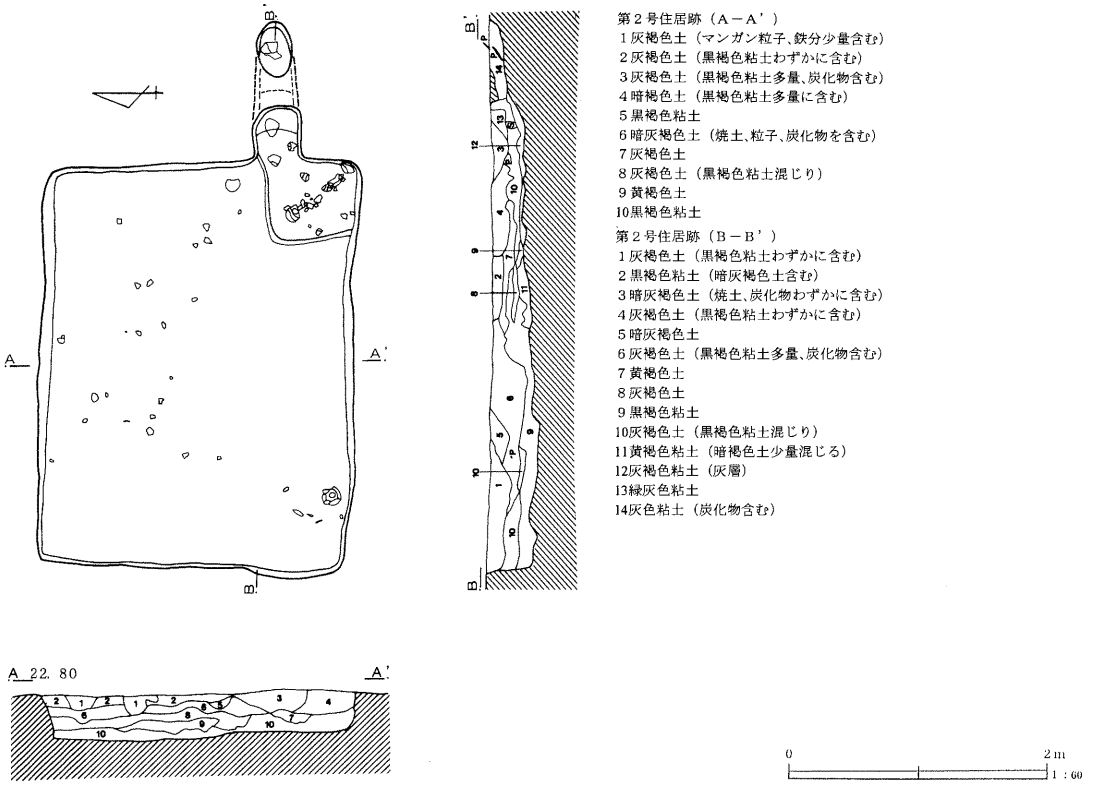
柱穴は、規模は不揃いであるが北壁寄りと、南壁寄りに確認された。北壁寄りの柱穴は壁から20cmほどしか離れておらず、東側の柱穴は径15cmであるのに対して、西側の柱穴は径45cmと大きい。南壁寄りの柱穴は、東側のものが径30cmでカマドのすぐ脇に作られていた。西側の柱穴は径35cm×25cmと長楕円形を呈していた。壁溝は確認できなかった。

カマドは東壁の南寄りに設けられている。燃焼部は53cm×54cmで、床からの深さは約12cmを測る。覆土中に礫が確認されたが、この礫が支脚として使われていたと思われる。煙道部は燃焼部から約15cm上がり作られている。袖は確認できなかった。

出土遺物は、須恵器坏・甕、土師器甕、瓦破片など住居跡全体から検出されているが、カマド周辺を中心に土師器甕の破片が目立った。



第88図　第１号住居跡



第89図　第２号住居跡

第２号住居跡（第89・94図、第21表）

４区Ｓ—16グリッドに位置する。他遺構との重複は確認されなかった。

平面は軸長3.21m×2.5mの長方形で、面積は8.03㎡を測る。主軸方向はＮ—89°—Ｅを指す。

床までの深さは約35cm、覆土は複雑な堆積状況を示しており、人為的に埋められた可能性もある。

柱穴、壁溝などの構造は確認できなかった。

カマドは東壁の南寄りに設けられている。燃焼部は、東壁から40cmほど外に張り出して作られ、幅は38cmを測る。燃焼部の奥際で緩やかに20cmほど立ち上がり煙道に移行する。煙道部は幅30cmほどの幅広に作られており、長さは58cmを測った。煙道の先端部には土器が検出されている。

出土遺物は、カマド周辺を中心に須恵器坏・甕、灰釉陶器皿などが検出されている。

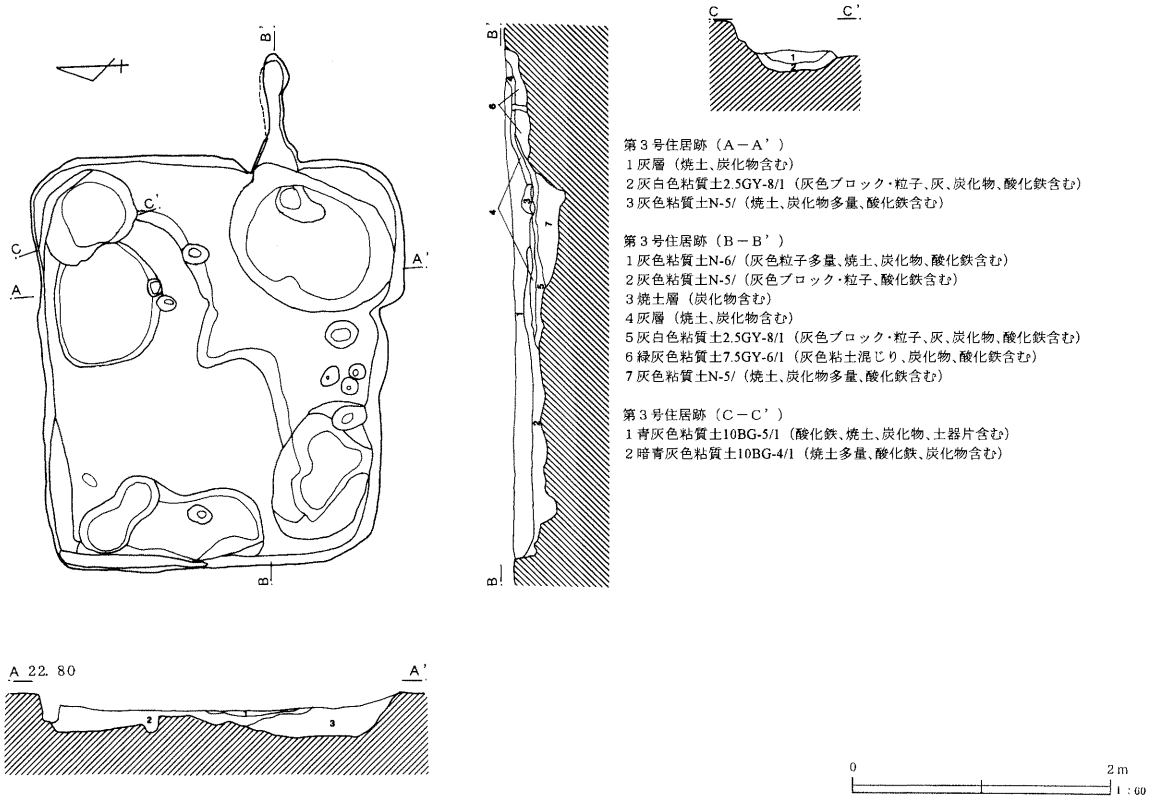
第３号住居跡（第90・91・94・95図、第21表）

４区Ｑ—16グリッドに位置する。第４号住居跡を切っていた。

平面は3.28m×2.8mの長方形で、面積は9.18㎡を測る。主軸方向はＮ—90°—Ｅを指す。

床までの深さは極めて浅く、確認面からわずか10cmほどであった。平面図に示したものは、貼り床面を除去した掘り方の状態であり、深さ10cm～40cmと起伏が激しい。断面で、北壁では幅約15cm、深さ約10cmの壁溝が確認された。柱穴跡と思われる穴は確認できなかった。

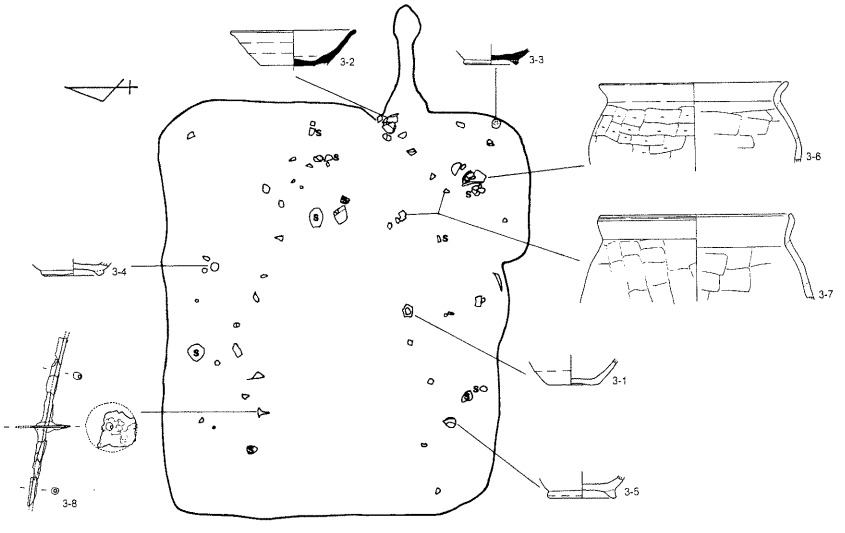
カマドは東壁の南寄りに設けられている。燃焼部の大半は東壁の外に延びており、長さ54cm、幅40cmを測る。袖は住居内に造られていたと思われるが、確認できなかった。煙道部は幅15cm前後で、長さは80cmを測る。火床面の下は、粘質の強い粘土層となっている。カマド構築に使われた土と同種の土が充



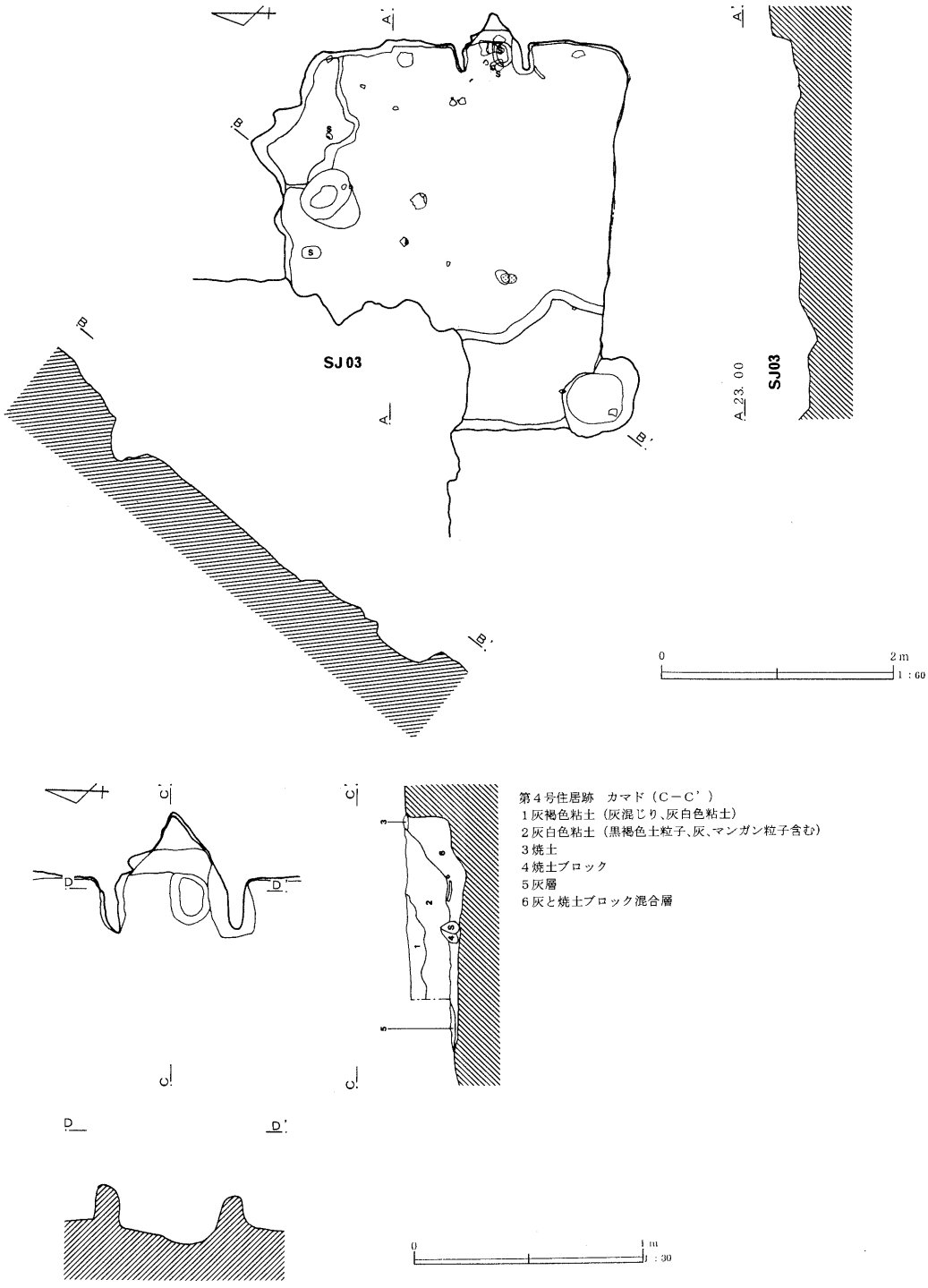
第90図　第３号住居跡

塡しているものと考えられる。

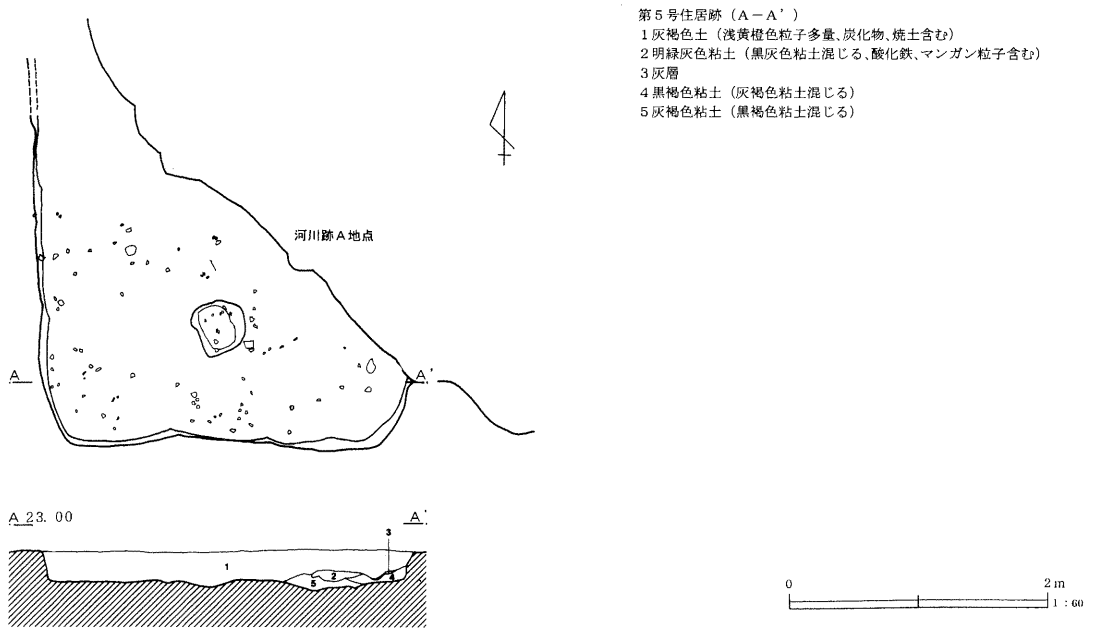
出土遺物は、カマド周辺を中心に土師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器皿、鉄製紡錘車などが検出されている。



第91図　第３号住居跡遺物分布図


SJ03
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
A 23.00
0
2m
1:60
第4号住居跡　カマド（C－C'）
1灰褐色粘土（灰混じり、灰白色粘土）
2灰白色粘土（黒褐色土粒子、灰、マンガン粒子含む）
3焼土
4焼土ブロック
5灰層
6灰と焼土ブロック混合層
0
1m
1:30

第92図　第4号住居跡



第93図　第５号住居跡

第４号住居跡（第92・95図、第21表）

４区Ｑ―16グリッドに位置する。第３号住居跡に切られている。

平面形は3.45m×2.92mのやや主軸方向が長い方形を呈し、面積はおよそ10.07㎡を測る。主軸の方向はＮ―89°―Ｅを指す。

床までの深さは確認面から10cmに満たなく、プランは非常に判りにくい状況であった。貼り床、壁溝、柱穴など住居跡の構造を示す遺構は確認できなかった。

カマドは東壁のほぼ中央に位置する。燃焼部は長さ約80cm、幅50cmを測り、燃焼部の中央付近に小さい石が確認されており、支脚と考えられなくもない。袖は住居内に地山土を掘り残して造られている。煙道部は削平されており、確認できなかった。

出土遺物は、カマド周辺を中心に土師器甕、須恵器坏・皿、緑釉陶器椀・皿が検出された。

第５号住居跡（第93・95図、第21表）

５区Ｂ―15グリッドに位置する。住居跡の北側は河川跡Ａ地点によって切られている。また、南側は第１号竪穴遺構と重複する。本住居跡の方が新しい。

平面形は南北の主軸方向については測定できなかった。東西方向は南壁寄りでおよそ2.95mを測る。

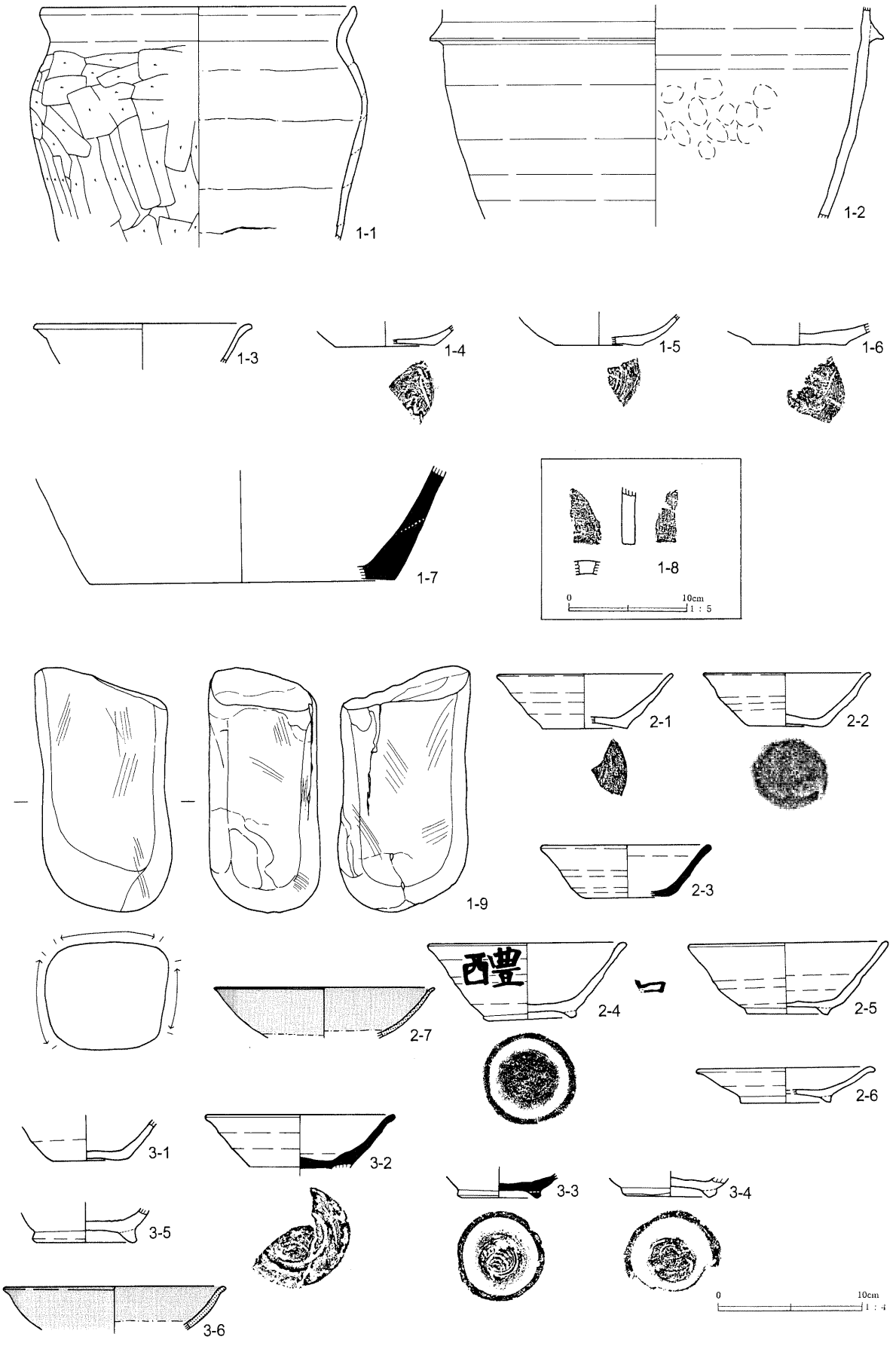
床までの深さは25cmを測る。貼り床、壁溝、柱穴など住居跡の構造を示す遺構は確認できなかった。カマドも攪乱部分にあったと思われ、確認するに至らなかった。

出土遺物は、破片資料が多く、須恵器坏・椀、土師器坏などが検出できた。

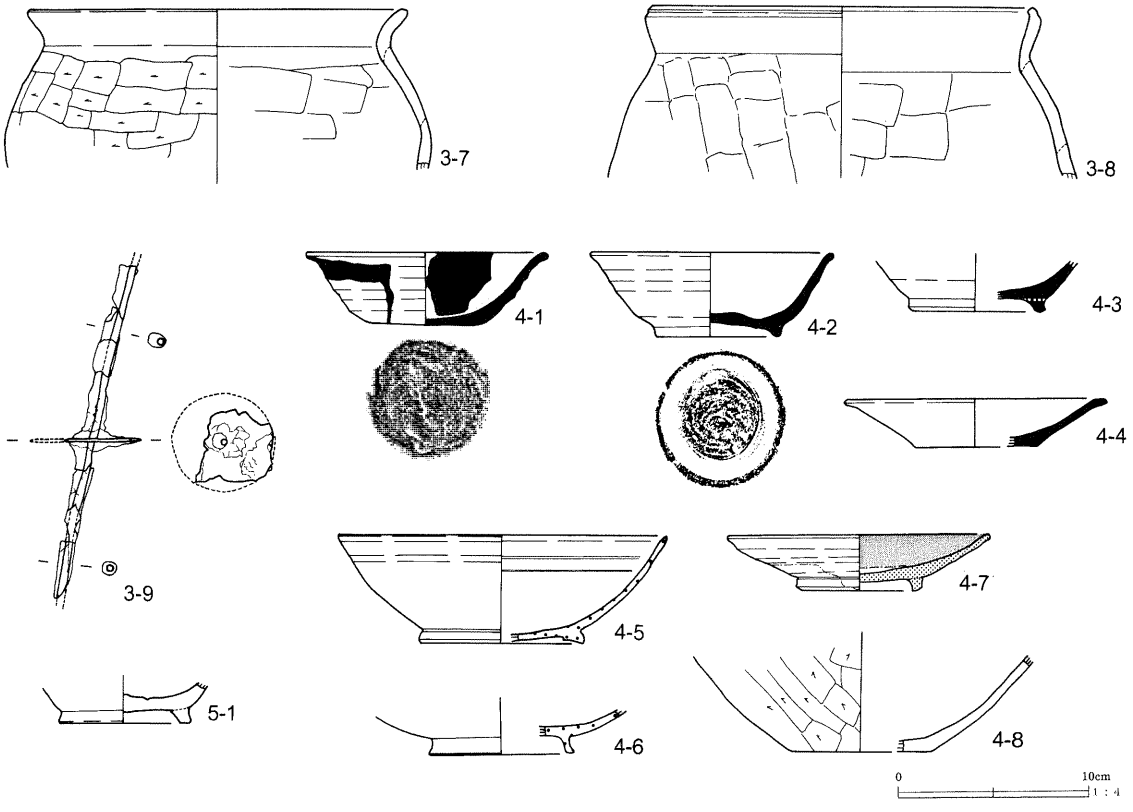
第６号住居跡（第96・107図、第22表）

９区Ｇ―24グリッドを中心に位置する。他の遺構と重複関係は確認できなかった。

平面形は3.29m×2.65mの長方形を呈し、面積は8.72㎡を測る。主軸の方向はＮ―89°―Ｅを指す。



第94図　第１～３号住居跡出土遺物



第95図　第３～５号住居跡出土遺物

第21表　第１～５号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1-1	土師器甕	(22.3)	—	—	AEI	明赤褐色	A	口縁部25%～胴上半部	
1-2	土師器羽釜	—	—	—	AEIN	外面：橙色、内面：にぶい黄橙色	B	羽の部分25%	
1-3	須恵器坏	(15.3)	—	—	AEMN	にぶい褐色、黄灰色	D	口縁部25%	
1-4	須恵器坏	—	—	(7.0)	EM	灰白色、橙色	D	底部25%	
1-5	須恵器坏	—	—	(6.2)	AE	にぶい褐色	D	底部25%～体部下半	
1-6	須恵器坏	—	—	(6.6)	AEG	灰色、灰褐色	D	底部25%	
1-7	須恵器甕	—	—	(21.5)	AGN	灰色、青灰色	A	底部20%	
1-8	丸瓦	—	—	—	ADM	灰白色	C	一方端部破片	
1-9	砥石	長さ7.2	幅9.3	厚さ7.6	—	—	—	欠損	花崗岩製。重さ1192ｇ
2-1	須恵器坏	(12.4)	3.8	(5.9)	AB	にぶい褐色	D	25%	内面に煤付着。
2-2	須恵器坏	(11.7)	3.8	5.0	BEI	にぶい赤褐色、にぶい褐色	B	70%	
2-3	須恵器坏	12.0	3.6	5.7	ABLMN	灰色	D	60%	末野産。
2-4	須恵器椀	14.0	5.4	5.7	AEHM	灰白色	D	95%	墨書「吉」、「醴」。
2-5	須恵器椀	14.1	5.1	5.7	AEMN	にぶい橙色、灰白色	E	60%	
2-6	須恵器皿	(12.5)	2.4	(6.2)	AEM	灰色、明黄褐色	E	30%	
2-7	灰釉陶器皿	(15.5)	—	—	BP	灰白色	A	口縁部10%以下～体部	
3-1	須恵器坏	—	—	4.7	AGHL	にぶい橙色	D	底部100%～体部下半	末野産。
3-2	須恵器椀	(13.4)	—	7.0	ABN	灰白色、灰色	D	40%	高台剝落。
3-3	須恵器椀	—	—	5.1	AEGL	灰色	A	底部100%	末野産。
3-4	須恵器椀	—	—	5.7	AEIM	灰褐色、褐灰色	D	底部90%	
3-5	須恵器椀	—	—	(6.7)	ABHI	外面：明黄褐色、内面：灰白色	E	底部60%	
3-6	灰釉陶器皿	(15.7)	—	—	—	灰白色	A	口縁部20%	
3-7	土師器甕	(20.2)	—	—	BEH	外面：にぶい橙色、内面：浅黄橙色	C	口縁部35%	
3-8	土師器甕	(20.9)	—	—	BEI	黒褐色、にぶい橙色	D	口縁部10%	
3-9	紡錘車	—	—	—	—	—	—	紡茎の両端欠損。紡輪の60%残存	鉄製。
4-1	須恵器坏	12.8	3.9	5.6	ABE	褐灰色	D	100%	内外面に油煙付着。
4-2	須恵器椀	13.0	4.5	6.4	ABGL	灰白色	E	90%	末野産。
4-3	須恵器椀	—	—	(7.2)	A	灰色	A	底部25%	
4-4	須恵器皿	(13.8)	2.55	(6.5)	ADLMN	灰オリーブ色、黄灰色	D	40%	末野産。
4-5	緑釉陶器椀	(17.6)	5.7	(8.6)	AP	灰色	A	40%	近江産。
4-6	緑釉陶器皿	—	—	(7.8)	AQ	淡黄色	A	底部20%～体部下半	猿投産。
4-7	灰釉陶器皿	14.0	3.0	5.8	ABP	灰白色	A	80%	東濃産。
4-8	土師器甕	—	—	(7.4)	AEM	外面：黄灰色、内面：橙色	A	底部破片	
5-1	須恵器椀	—	—	(6.8)	AB	灰白色	D	底部100%	

床までの深さは確認面から10cm前後と浅い。壁溝、柱穴などは確認できなかった。

カマドは東壁の南寄りに設けられている。形状は著しく不整形となっており、燃焼部の正確な形は把握できなかった。ただ、灰の分布などから推定して、長さはおよそ130cm、幅およそ60cmを測る。火床面下の形状は起伏が著しい。

出土遺物は、土師器甕などの破片資料が少し検出された。

第7号住居跡（第97・107図、第22表）

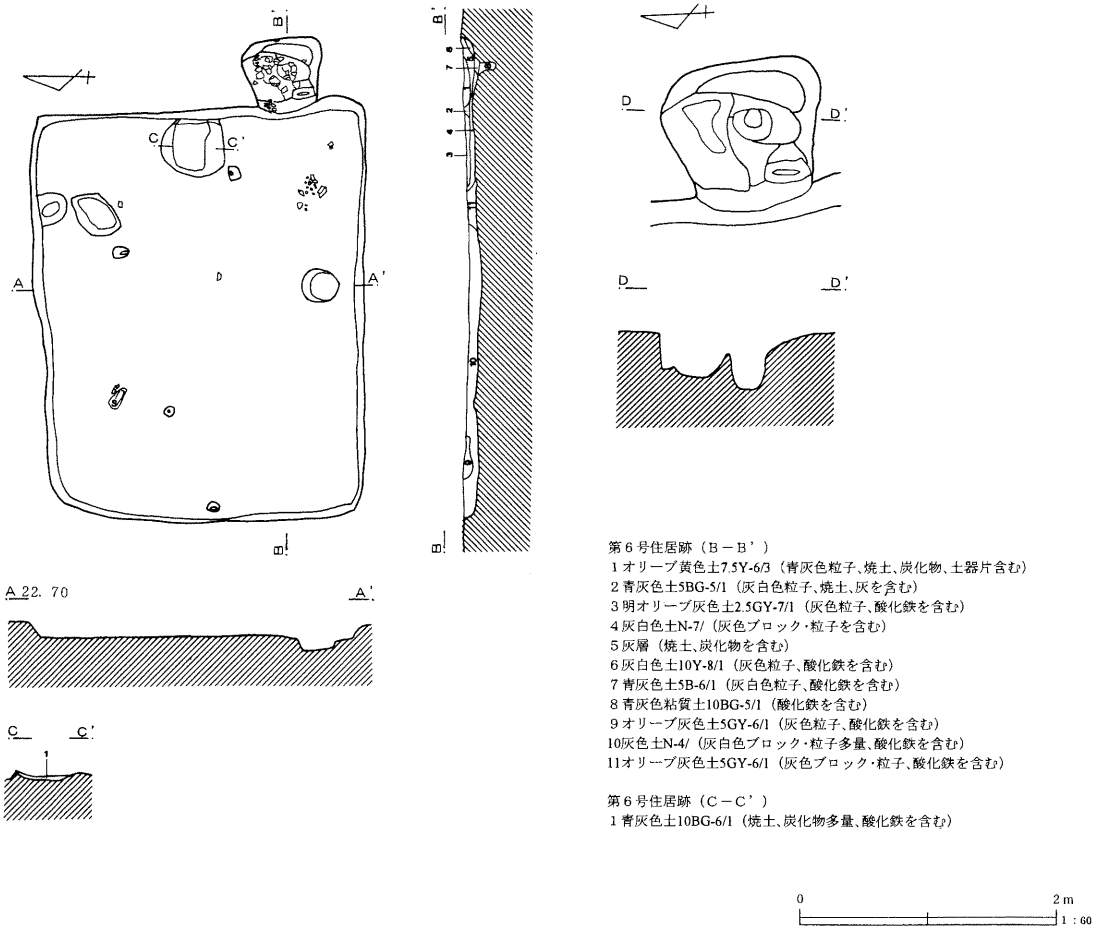
9区G—23グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

平面形は4.05m×3.14mの長方形を呈し、面積は12.72m²を測る。主軸の方向はN—96°—Eを指す。

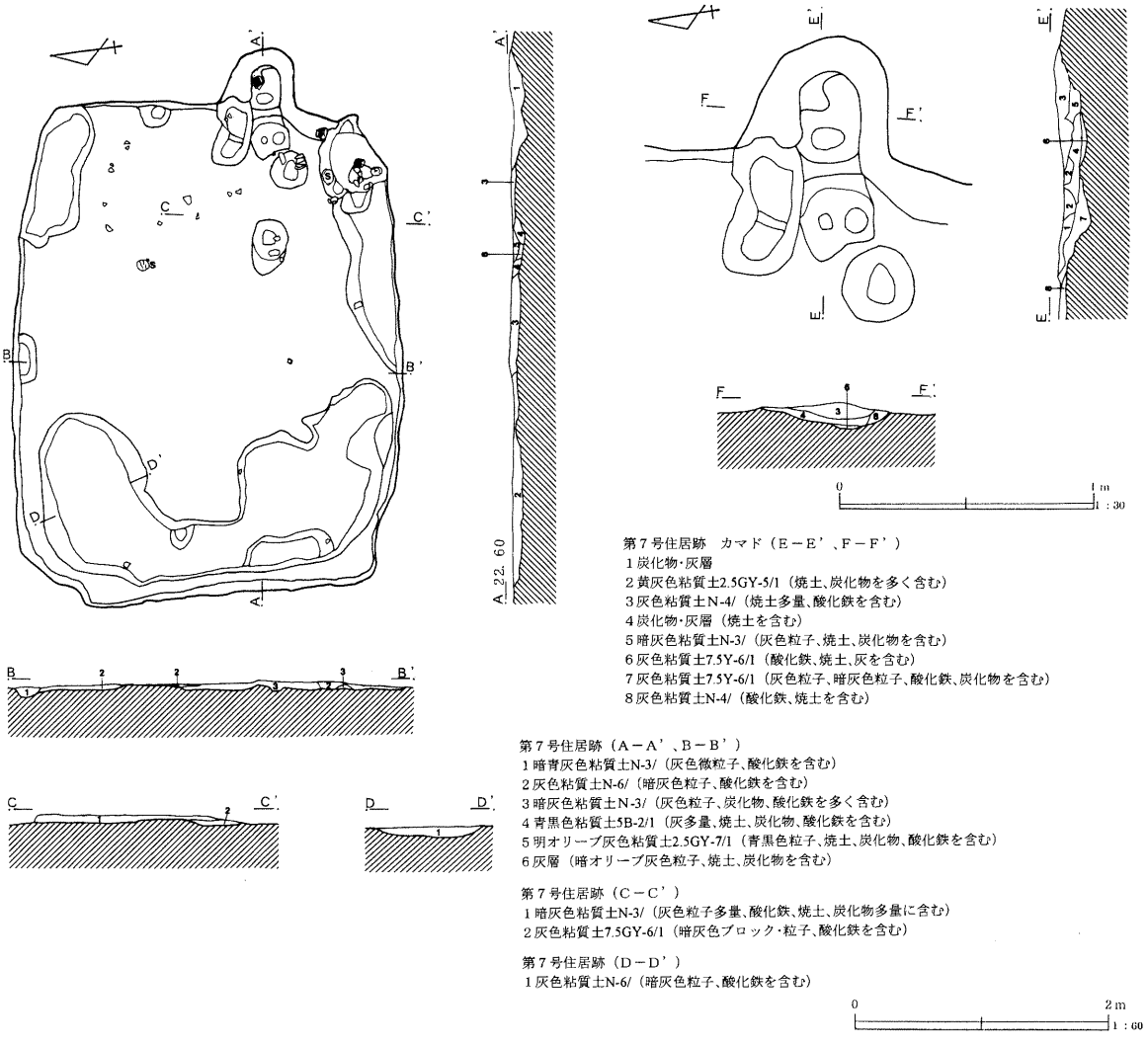
床までの深さは、確認面から数センチメートルと極めて浅い。壁溝、柱穴などの住居跡の構造を明らかにする遺構は確認できなかった。

カマドは東壁の南より位置する。全長はおよそ92cm、幅60cmで楕円に近い形状を呈する。火床面はやや煙道に向かって傾斜している。掘り方は起伏が著しく、深い部分には粘土混じりの土層となっており、カマド構築土が混入している。

出土遺物は、須恵器坏・甕、灰釉陶器椀、丸瓦破片などが検出されている。



第96図　第6号住居跡



第７号住居跡　カマド（Ｅ－Ｅ’、Ｆ－Ｆ’）
１炭化物・灰層
２黄灰色粘質土2.5GY-5/1（焼土、炭化物を多く含む）
３灰色粘質土N-4/（焼土多量、酸化鉄を含む）
４炭化物・灰層（焼土を含む）
５暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子、焼土、炭化物を含む）
６灰色粘質土7.5Y-6/1（酸化鉄、焼土、灰を含む）
７灰色粘質土7.5Y-6/1（灰色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物を含む）
８灰色粘質土N-4/（酸化鉄、焼土を含む）

第７号住居跡（Ａ－Ａ’、Ｂ－Ｂ’）
１暗青灰色粘質土N-3/（灰色微粒子、酸化鉄を含む）
２灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子、酸化鉄を含む）
３暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子、炭化物、酸化鉄を多く含む）
４青黒色粘質土5B-2/1（灰多量、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
５明オリーブ灰色粘質土2.5GY-7/1（青黒色粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
６灰層（暗オリーブ灰色粒子、焼土、炭化物を含む）

第７号住居跡（Ｃ－Ｃ’）
１暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子多量、酸化鉄、焼土、炭化物多量に含む）
２灰色粘質土7.5GY-6/1（暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄を含む）

第７号住居跡（Ｄ－Ｄ’）
１灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子、酸化鉄を含む）

第97図　第７号住居跡

第８号住居跡（第98・99・107図、第22表）

４区Ｈ—19グリッドを中心に位置する。遺構の重複は確認されなかった。

平面形は36.2m×2.83mの長方形を呈し、面積は10.24㎡を測る。主軸方向はＮ—70°—Ｅを指す。

確認面から床までの深さは15cm前後と浅い。壁溝、柱穴などの遺構は確認できなかった。

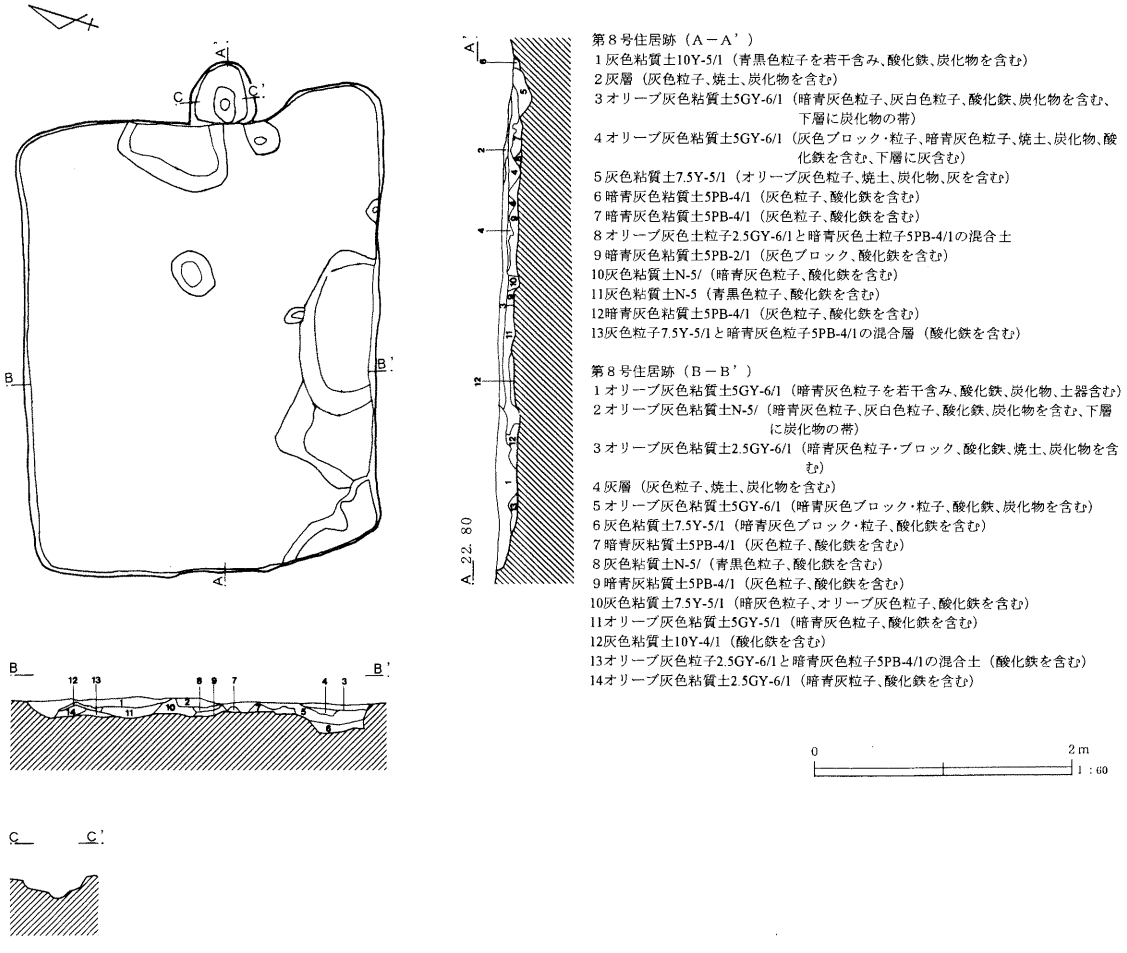
カマドは東壁のほぼ中央付近に設けられている。そして、カマドの前には焼土や炭化物が濃く分布していた。カマドは壁の外に50cmほど外に出ており、住居内に袖が設けられていたと思われるが、壊されたと思われ正確な規模は明らかにできなかった。袖の崩壊土と思われる粘質土がカマド内に確認できた。

出土遺物は、土師器坏・甕、須恵器蓋・坏・甕、灰釉陶器皿、緑釉陶器椀などが検出された。他住居跡と比較して遺物の点数は多い。

第９号住居跡（第100・107図、第22表）

９区Ｅ—22グリッドに位置する。ピットや土坑などが重複しており、住居跡の形状が著しく不整形となっている。遺構の新旧関係はわからなかった。

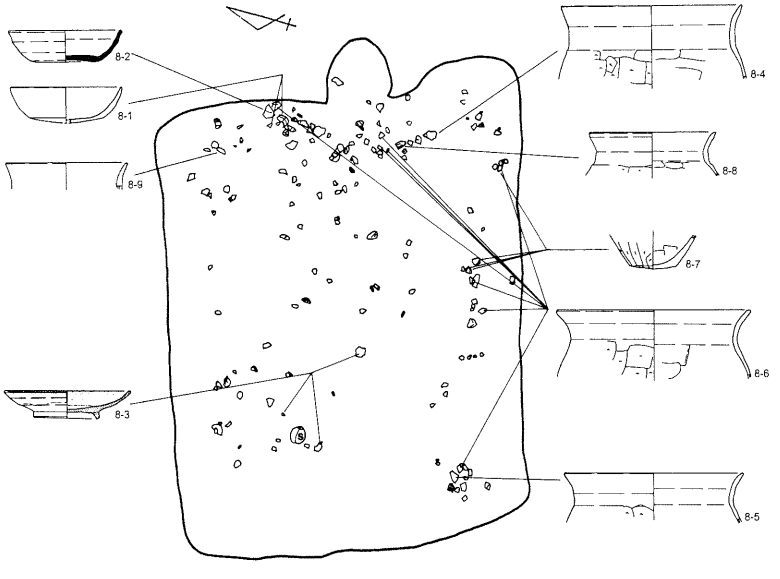
平面形は大まかに見て3.5m×3.0mほどで、元々は長方形を呈したものと推測される。カマドは東壁



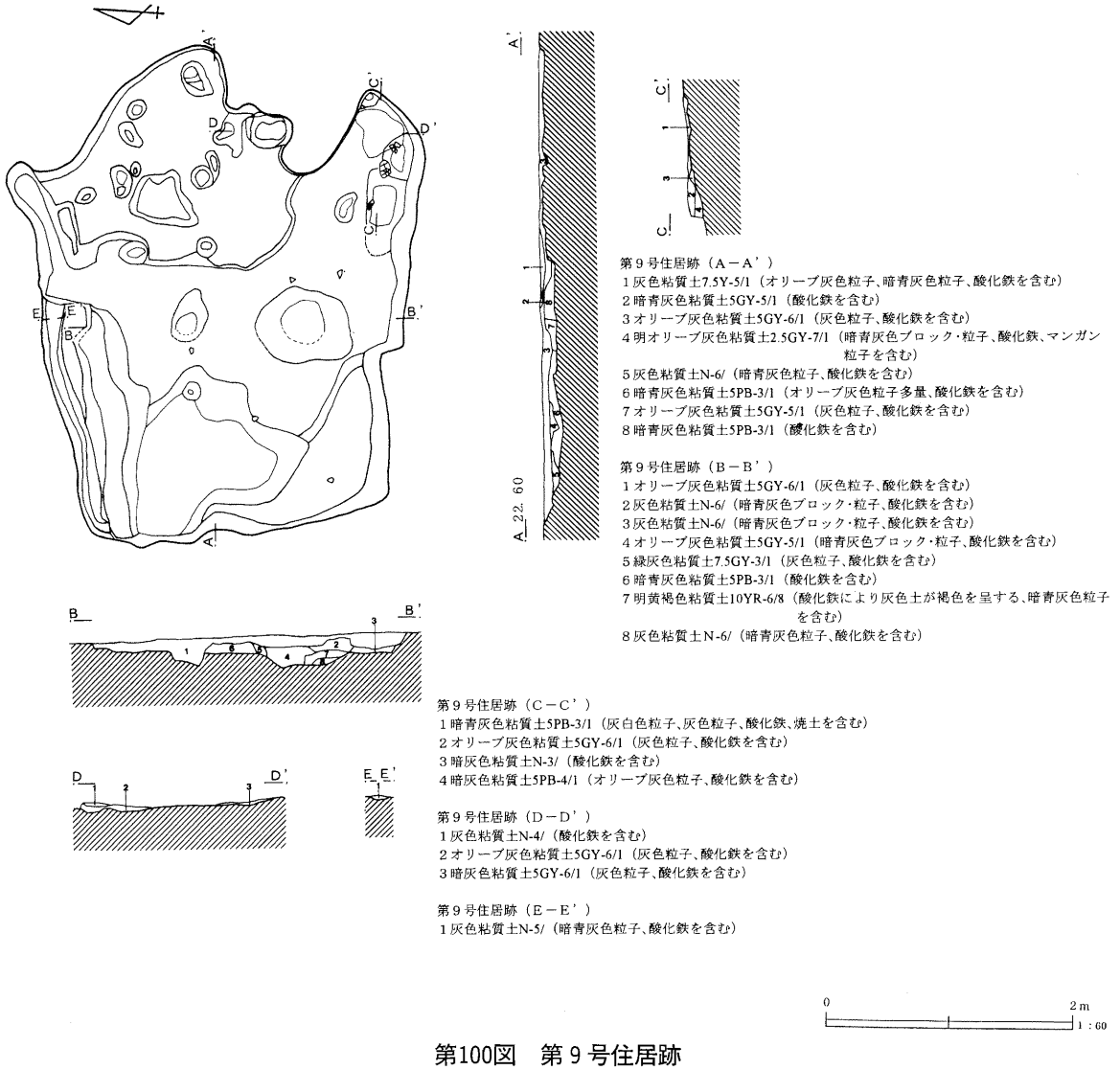
第８号住居跡（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土10Y-5/1（青黒色粒子を若干含み、酸化鉄、炭化物を含む）
２灰層（灰色粒子、焼土、炭化物を含む）
３オリーブ灰色粘質土5GY-6/1（暗青灰色粒子、灰白色粒子、酸化鉄、炭化物を含む、下層に炭化物の帯）
４オリーブ灰色粘質土5GY-6/1（灰色ブロック・粒子、暗青灰色粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む、下層に灰含む）
５灰色粘質土7.5Y-5/1（オリーブ灰色粒子、焼土、炭化物、灰を含む）
６暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
７暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
８オリーブ灰色土粒子2.5GY-6/1と暗青灰色土粒子5PB-4/1の混合土
９暗青灰色粘質土5PB-2/1（灰色ブロック、酸化鉄を含む）
10灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
11灰色粘質土N-5（青黒色粒子、酸化鉄を含む）
12暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
13灰色粒子7.5Y-5/1と暗青灰色粒子5PB-4/1の混合層（酸化鉄を含む）

第８号住居跡（Ｂ－Ｂ’）
１オリーブ灰色粘質土5GY-6/1（暗青灰色粒子を若干含み、酸化鉄、炭化物、土器含む）
２オリーブ灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、灰白色粒子、酸化鉄、炭化物を含む、下層に炭化物の帯）
３オリーブ灰色粘質土2.5GY-6/1（暗青灰色粒子・ブロック、酸化鉄、焼土、炭化物を含む）
４灰層（灰色粒子、焼土、炭化物を含む）
５オリーブ灰色粘質土5GY-6/1（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物を含む）
６灰色粘質土7.5Y-5/1（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄を含む）
７暗青灰粘質土5PB-4/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
８灰色粘質土N-5/（青黒色粒子、酸化鉄を含む）
９暗青灰粘質土5PB-4/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
10灰色粘質土7.5Y-5/1（暗灰色粒子、オリーブ灰色粒子、酸化鉄を含む）
11オリーブ灰色粘質土5GY-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
12灰色粘質土10Y-4/1（酸化鉄を含む）
13オリーブ灰色粒子2.5GY-6/1と暗青灰色粒子5PB-4/1の混合土（酸化鉄を含む）
14オリーブ灰色粘質土2.5GY-6/1（暗青灰粒子、酸化鉄を含む）

第98図　第８号住居跡



第99図　第８号住居跡遺物分布図



第100図　第９号住居跡

に設けられていたと思われるが判然としない。

出土遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏などが出土したが、図示できたのは少なかった。

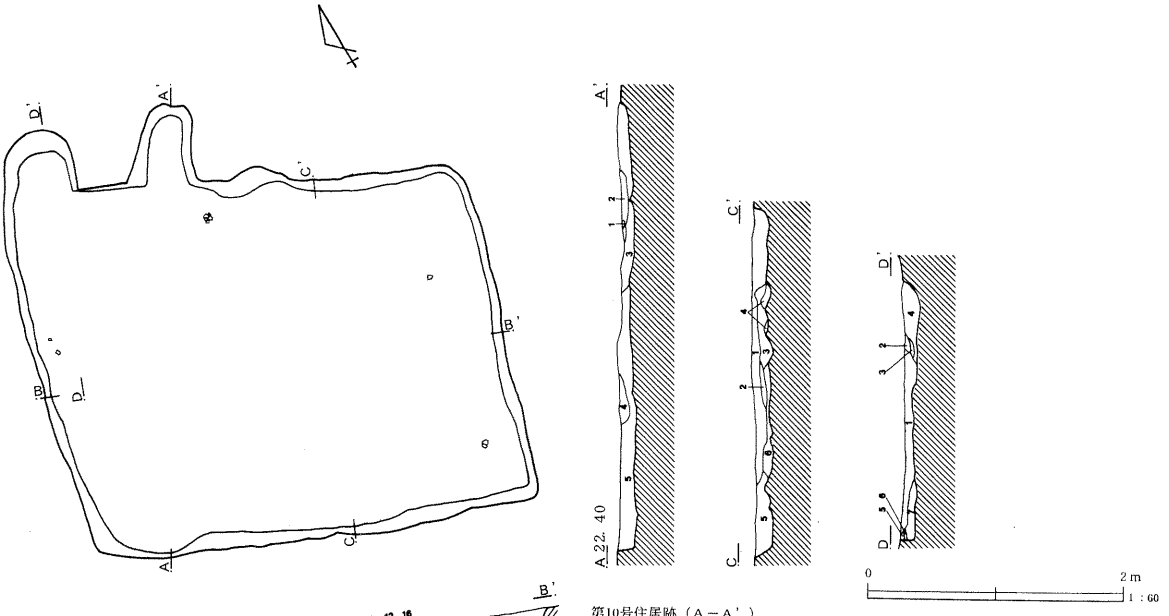
第10号住居跡（第101・107図、第22表）

９区Ｄ—23グリッドを中心に位置する。遺構の重複関係は確認できなかった。

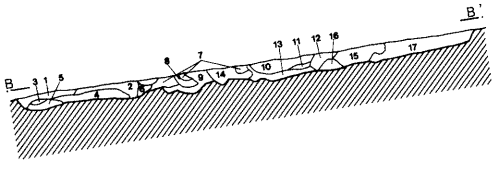
平面形はおよそ2.88m×3.66mを測るが長方形と言うより、菱形に近い形状を呈して、面積は10.54㎡を測る。主軸方向はＮ—20°—Ｅを指す。

この遺跡で確認された住居跡の大半が、住居跡東壁にカマドが設置されているのに対して、本住居跡は北壁の西壁寄りに設けられている。カマドの規模は長さ75cm、幅50cmと小規模な形態を呈している。袖が住居内に設置されていたと思われ、粘質の土がカマド周辺に散っていた。壁溝、柱穴などの遺構は確認できなかった。

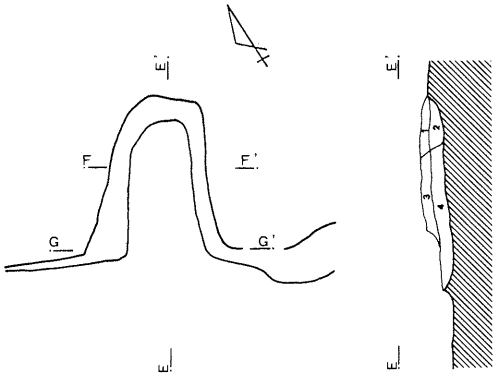
出土遺物は土師器坏、須恵器坏の破片が検出されたが、図示できたのはわずかであった。



第10号住居跡（Ａ－Ａ’）
1 炭化物層
2 青灰色粘質土5PB-5/1（酸化鉄、炭化物を含む）
3 黄褐色粘質土10YR-5/6（酸化鉄を多く含み黄褐色を呈する、暗青灰色粒子、青灰色粒子を含む）
4 暗青灰色粘質土5PB-4/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子を含む）
5 灰色粘質土N-6/（酸化鉄を多く含み黄褐色を呈する、暗青灰色ブロック・粒子を含む）

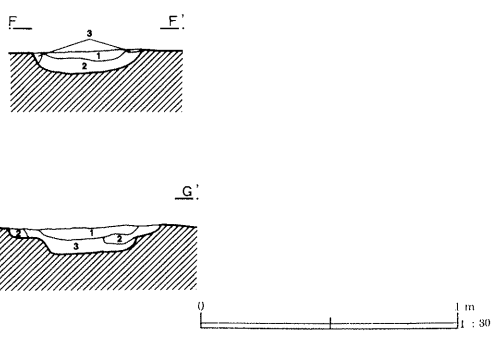


第10号住居跡（Ｂ－Ｂ’）
1 灰色粘質土N-6/（酸化鉄、マンガン粒子を含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
3 灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄を含む）
4 にぶい黄色粘質土2.5Y-6/3（暗青灰色粒子、酸化鉄を多量に含む）
5 黄褐色粘質土10YR-5/6（酸化鉄を多く含み黄褐色を呈する、灰色粒子、暗青灰色粒子を含む）
6 灰色粘質土N-6/（酸化鉄を多く含み黄褐色を呈する、暗青灰色ブロック・粒子を含む）
7 青黒色粘質土5PB-2/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
8 明オリーブ灰色粘質土5GY-7/1（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
9 青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色粒子多量、酸化鉄を含む）
10灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子を含む）
11青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子を含む）
12青黒色粘質土5PB-2/1（酸化鉄を含む）
13灰黄色粘質土2.5Y-6/2（灰色粒子、暗青灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
14黄褐色粘質土10YR-5/6（酸化鉄を多く含み黄褐色を呈する、灰色粒子、暗青灰色粒子を含む）
15暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色ブロック・粒子、酸化鉄を含む）
16灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子若干、酸化鉄を多量に含む）
17灰色粘質土N-5/（暗青灰色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子、酸化鉄を多量に含む）



第10号住居跡（Ｃ－Ｃ’）
1 灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子を含む）
2 青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子を含む）
3 青黒色粘質土5PB-2/1（灰色ブロック・粒子を含む）
4 灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
5 暗青灰色粘質土5PB-3/1（青灰色粒子、灰色粒子、酸化鉄を含む）
6 灰黄色粘質土2.5YR-6/2（灰色粒子、暗青灰色粒子、酸化鉄を多量に含む）

第10号住居跡（Ｄ－Ｄ’）
1 灰色粘質土N-5/（酸化鉄を多量に含み黄褐色を呈する、暗青灰色ブロック・粒子を含む）
2 青黒色粘質土5PB-3/1（酸化鉄を含む）
3 黄褐色粘質土10YR-5/6（酸化鉄により黄褐色を呈する、灰色粒子を含む）
4 灰色粘質土N-4/（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄を含む）
5 灰色粘質土N-6/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
6 にぶい黄色粘質土2.5Y-6/3（暗青灰色粒子、酸化鉄を多量に含む）
7 黄褐色粘質土10YR-5/6（酸化鉄を多く含み黄褐色を呈する、灰色粒子、暗青灰色粒子を含む）

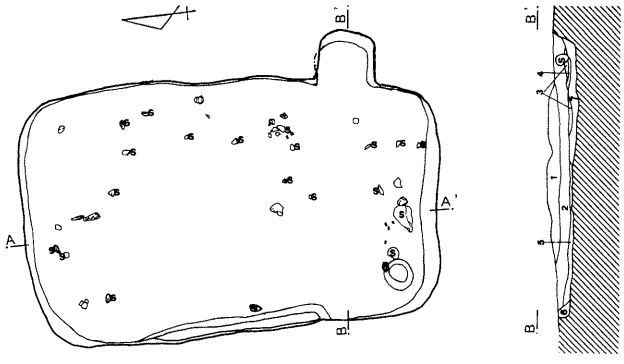


第10号住居跡　カマド（Ｅ－Ｅ’）
1 灰色粘質土N-4/（酸化鉄、灰を若干含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄を含む）
3 灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄を含む）
4 青灰色粘質土5PB-6/1（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）

第10号住居跡　カマド（Ｆ－Ｆ’）
1 灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄を含む）
2 青灰色粘質土5PB-6/1（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
3 暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄を含む）

第10号住居跡　カマド（Ｇ－Ｇ’）
1 青灰色粘質土5PB-5/1（酸化鉄、炭化物を含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄を含む）
3 青灰色粘質土5PB-6/1（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）

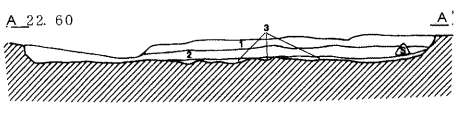
第101図　第10号住居跡

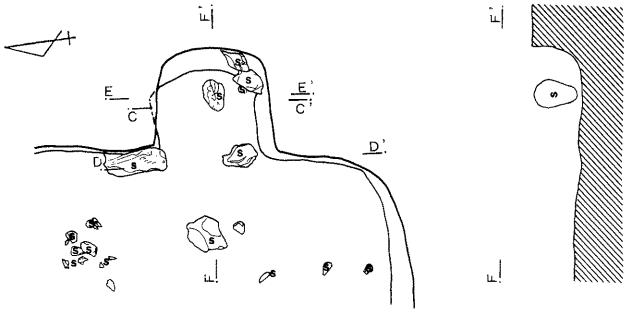


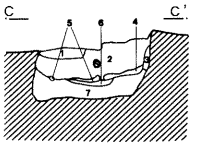
第11号住居跡（Ａ－Ａ'）
1灰色粘質土7.5Y-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2灰色粘質土N-5/（青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む、下層帯状に炭化物）
3灰色粘質土7.5Y-7/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物を含む）

第11号住居跡（Ｂ－Ｂ'）
1灰色粘質土7.5Y-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む、下層帯状に炭化物）
3炭化物層（焼土を含む）
4暗赤褐色土10R-3/3（熱により暗赤褐色化している）
5灰色粘質土7.5Y-7/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物を含む）
6灰色粘質土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子を含む）
7灰色粘質土N-4/（暗青灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）

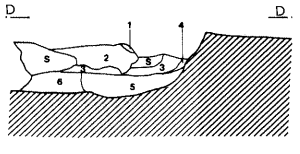
0　2m
1：60



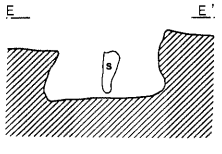




第11号住居跡　カマド（Ｃ－Ｃ'）
1暗青灰色粘質土5B-4/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む、下層に炭化物の帯）
3暗灰色粘質土N-3/（焼土を含む）
4焼土
5炭化物
6暗赤褐色土10R-3/3（熱により暗赤褐色化している）
7灰色粘質土N-4/（暗青灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）



第11号住居跡　カマド（Ｄ－Ｄ'）
1灰色粘質土7.5Y-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む、下層に炭化物の帯）
3焼土
4炭化物層（焼土を含む）
5灰色粘質土N-4/（暗青灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
6暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄を含む）



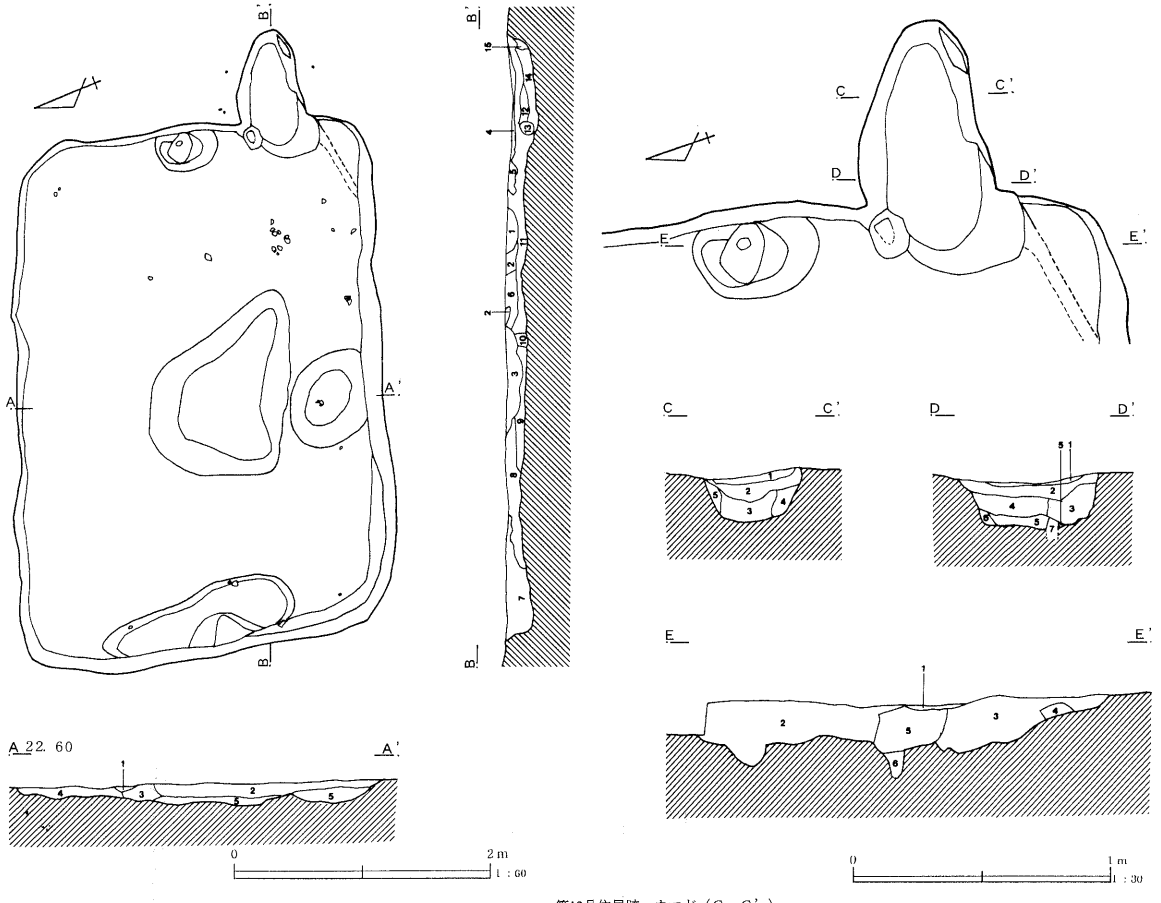
0　1m
1：30

第102図　第11号住居跡

第11号住居跡（第102・107図、第22表）

9区C—28グリッドを中心に位置する。調査区の南に単独で所在しており、周辺に他遺構は確認できなかった。

平面形は2.02m×3.32mの長方形を呈し、住居跡の面積は6.7m²を測り、小さな住居跡である。主軸の方向はN—95°—Eを指す。住居跡の深さは20cm前後と浅い。壁溝、柱穴などの住居の構造を示す遺構は確認できなかった。



第12号住居跡（A－A'）
1灰色粘質土7.5Y-6/1（暗青灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2灰色粘質土N-4/（暗青灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
4灰色粘質土N-4/（灰色粒子、暗青灰色ブロック・粒子を含む）
5灰色粘質土N-5/（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄を含む）

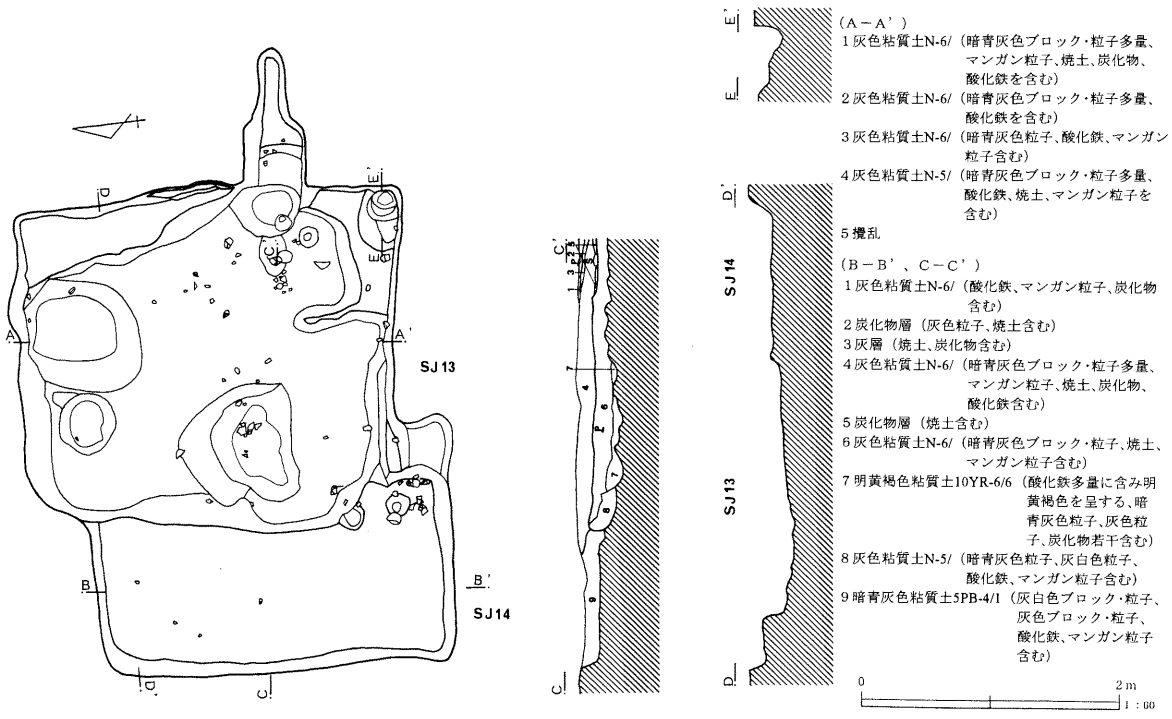
第12号住居跡（B－B'）
1灰色粘質土N-4/（灰白色粒子、焼土、炭化物多量、マンガン粒子含む）
2灰色粘質土7.5Y-6/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3灰色粘質土N-6/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
4灰層（灰白色粒子、炭化物、酸化鉄を含む）
5暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰白色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
6暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰色粒子を若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
7灰色粘質土N-5/（暗青灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
8暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰色粒子を若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
9灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子を多量、酸化鉄を含む）
10青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
11灰色粘質土N-6/（暗青灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
12暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
13灰色粘質土7.5Y-6/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
14灰色粘質土N-6/（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
15暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄を含む）

第12号住居跡　カマド（C－C'）
1灰層（灰白色粒子、炭化物、酸化鉄を含む）
2灰色粘質土N-6/（暗青灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3灰層（灰白色粒子、炭化物、酸化鉄を含む）
4暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色ブロック、酸化鉄を含む）
5暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色ブロック、酸化鉄を含む）

第12号住居跡　カマド（D－D'）
1灰層（灰色粒子、酸化鉄、炭化物を含む）
2灰色粘質土N-6/（暗青灰色粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3灰色粘質土N-4/（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄を含む）
4暗青灰色粘質土5PB-3/1（酸化鉄を含む）
5灰色粘質土N-6/（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
6灰色粘質土N-4/（酸化鉄を含む）
7攪乱

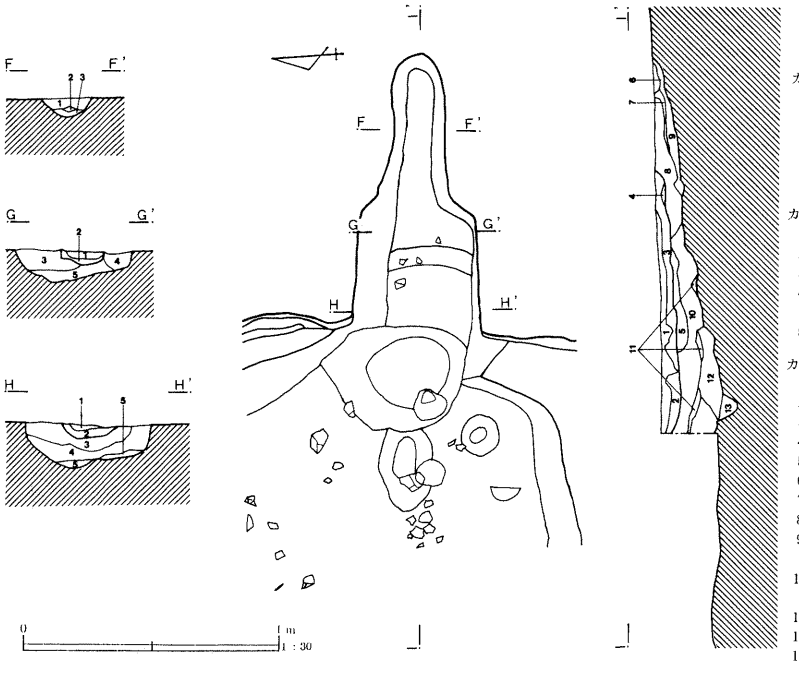
第12号住居跡　カマド（E－E'）
1灰層（灰白色粒子、炭化物、酸化鉄を含む）
2灰色粘質土N-6/（暗灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3灰色粘質土N-6/（暗灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4暗灰色粘質土5PB-3/1（酸化鉄を含む）
5灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子を若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
6青灰色粘質土5PB-6/1【攪乱】（酸化鉄を含む）

第103図　第12号住居跡



（A－A'）
1灰色粘質土N-6/（暗青灰色ブロック・粒子多量、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
2灰色粘質土N-6/（暗青灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄を含む）
3灰色粘質土N-6/（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4灰色粘質土N-5/（暗青灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄、焼土、マンガン粒子を含む）
5攪乱

（B－B'、C－C'）
1灰色粘質土N-6/（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
2炭化物層（灰色粒子、焼土含む）
3灰層（焼土、炭化物含む）
4灰色粘質土N-6/（暗青灰色ブロック・粒子多量、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄含む）
5炭化物層（焼土含む）
6灰色粘質土N-6/（暗青灰色ブロック・粒子、焼土、マンガン粒子含む）
7明黄褐色粘質土10YR-6/6（酸化鉄多量に含み明黄褐色を呈する、暗青灰色粒子、灰色粒子、炭化物若干含む）
8灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、灰白色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
9暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰白色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）



カマド（F－F'）
1灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
2炭化物層（焼土含む）
3暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子多量、酸化鉄含む）

カマド（G－G'）
1灰色粘質土N-6/（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
2青黒色粘質土5PB-2/1（灰、酸化鉄含む）
3灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
4炭化物・灰層（焼土含む）
5灰色粘質土N-6/（暗青灰色ブロック・粒子多量、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄含む）

カマド（H－H'）
1灰色粘質土N-6/（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
2青黒色粘質土5PB-2/1（灰、酸化鉄含む）
3灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
4灰色粘質土N-6/（暗青灰色ブロック・粒子多量、マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄含む）
5炭化物層（焼土含む）

カマド（I－I'）
1灰色粘質土N-6/（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
2炭化物層（灰色粒子、焼土含む）
3青黒色粘質土5PB-2/1（灰、酸化鉄含む）
4灰白色粘質土N-7/（灰、酸化鉄含む）
5灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
6炭化物・灰層（焼土含む）
7焼土層（灰、炭化物を含む）
8炭化物層（焼土含む）
9暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子、マンガン粒子、炭化物、酸化鉄含む）
10灰色粘質土7.5Y-6/1（暗青灰色ブロック・粒子、マンガン粒子、炭化物、酸化鉄含む）
11炭化物層（焼土含む）
12灰色粘質土7.5Y-5/1（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
13暗灰色粘質土N-3/（灰白色粒子、酸化鉄含む）

第104図　第13・14号住居跡

カマドは東壁の南寄りに位置し、燃焼部は壁の外に張り出してつくられている。カマドの規模は長さ45cm、幅50cmを測り、カマドの周辺には切り石が散乱しており、カマド補強に使用されたものと思われる。煙道部は削平されて確認できなかった。

出土遺物は少なく、須恵器椀・甕などが検出できたが図示できたのは少なかった。

第12号住居跡（第103・107図、第22表）

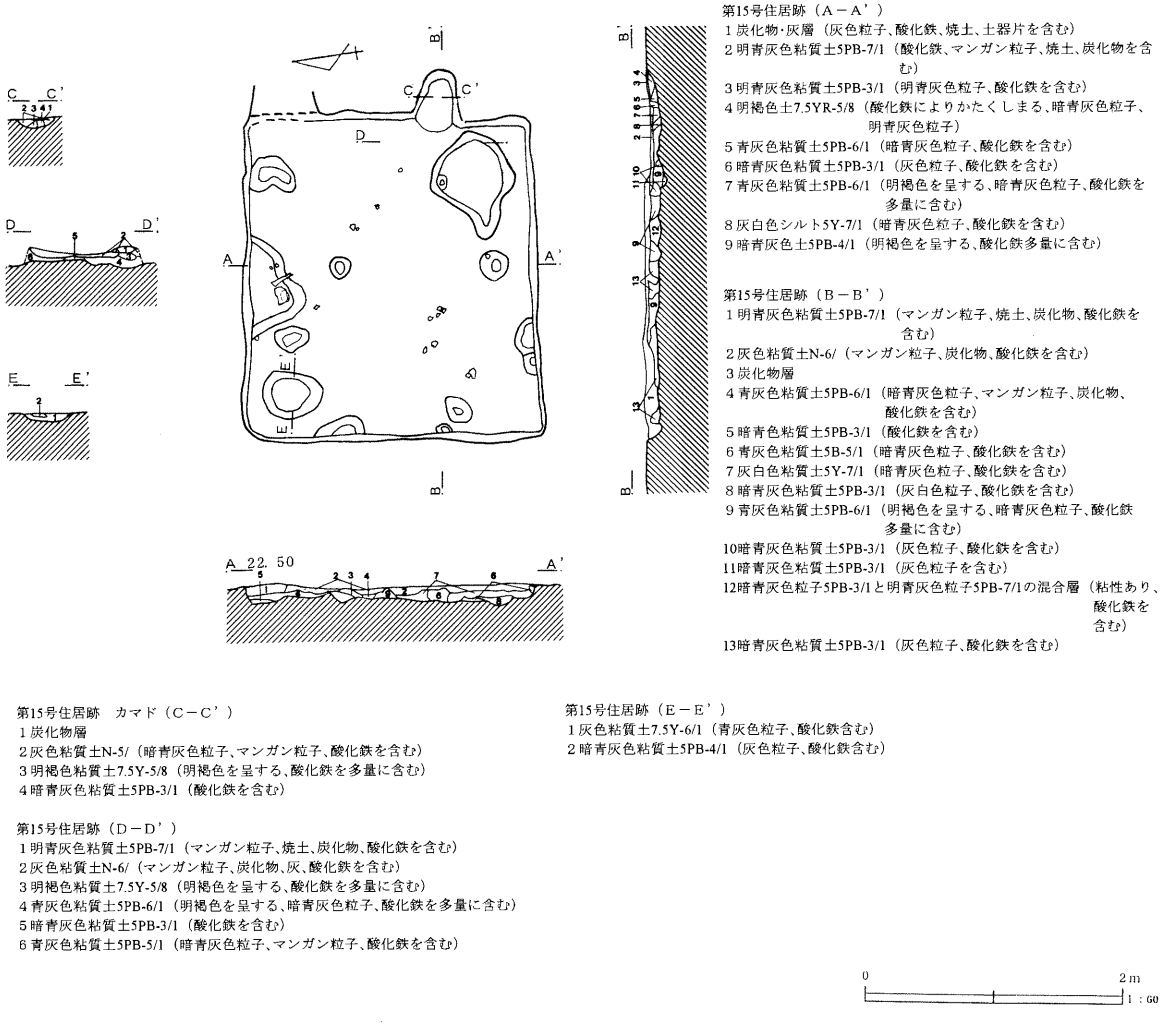
9区D—24グリッドに位置する。Ⅳ区第42号溝跡を切って作られている。

平面形は4.26m×2.9mの菱形に近い形態を呈し、住居跡の面積は12.35m²を測る。主軸の方向はN—112°—Eを指す。

住居跡の深さは確認面から15cm前後と浅い。壁溝、柱穴などの遺構は確認されなかった。

カマドは東壁の南寄りに位置し、全長100cm、中央付近で幅50cmの長楕円形を呈する。燃焼部と煙道部の境は明瞭でないが、住居内から80cm辺りから床面が傾斜することから、この辺りから煙道部と推測される。

出土遺物は、土師器甕、須恵器坏の小破片が検出されたのみである。



第15号住居跡（A－A'）
1炭化物・灰層（灰色粒子、酸化鉄、焼土、土器片を含む）
2明青灰色粘質土5PB-7/1（酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物を含む）
3明青灰色粘質土5PB-3/1（明青灰色粒子、酸化鉄を含む）
4明褐色土7.5YR-5/8（酸化鉄によりかたくしまる、暗青灰色粒子、明青灰色粒子）
5青灰色粘質土5PB-6/1（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
6暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
7青灰色粘質土5PB-6/1（明褐色を呈する、暗青灰色粒子、酸化鉄を多量に含む）
8灰白色シルト5Y-7/1（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
9暗青灰色土5PB-4/1（明褐色を呈する、酸化鉄多量に含む）

第15号住居跡（B－B'）
1明青灰色粘質土5PB-7/1（マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
2灰色粘質土N-6/（マンガン粒子、炭化物、酸化鉄を含む）
3炭化物層
4青灰色粘質土5PB-6/1（暗青灰色粒子、マンガン粒子、炭化物、酸化鉄を含む）
5暗青色粘質土5PB-3/1（酸化鉄を含む）
6青灰色粘質土5B-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
7灰白色粘質土5Y-7/1（暗青灰色粒子、酸化鉄を含む）
8暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰白色粒子、酸化鉄を含む）
9青灰色粘質土5PB-6/1（明褐色を呈する、暗青灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
10暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）
11暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色粒子を含む）
12暗青灰色粒子5PB-3/1と明青灰色粒子5PB-7/1の混合層（粘性あり、酸化鉄を含む）
13暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色粒子、酸化鉄を含む）

第15号住居跡　カマド（C－C'）
1炭化物層
2灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄を含む）
3明褐色粘質土7.5Y-5/8（明褐色を呈する、酸化鉄を多量に含む）
4暗青灰色粘質土5PB-3/1（酸化鉄を含む）

第15号住居跡（D－D'）
1明青灰色粘質土5PB-7/1（マンガン粒子、焼土、炭化物、酸化鉄を含む）
2灰色粘質土N-6/（マンガン粒子、炭化物、灰、酸化鉄を含む）
3明褐色粘質土7.5Y-5/8（明褐色を呈する、酸化鉄を多量に含む）
4青灰色粘質土5PB-6/1（明褐色を呈する、暗青灰色粒子、酸化鉄を多量に含む）
5暗青灰色粘質土5PB-3/1（酸化鉄を含む）
6青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色粒子、マンガン粒子、酸化鉄を含む）

第15号住居跡（E－E'）
1灰色粘質土7.5Y-6/1（青灰色粒子、酸化鉄含む）
2暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰色粒子、酸化鉄含む）

0　2m
1：60

第105図　第15号住居跡

第13号住居跡（第104・107図、第22表）

9区E—24グリッドを中心に位置する。重複関係は第14号住居跡を切っている。

全体は軸長2.83m×3.00mのやや横長の方形で、面積は8.49㎡を測る。主軸方向はおよそN—96°—Eを指す。

床までの深さは20～30cm程、覆土は自然堆積を示す。床は明確に把握できておらず、起伏が激しい。

カマドは東壁のやや南寄りに位置する。燃焼部は長さ72cm、幅50cmの長方形を呈し、火床面はほぼ平坦である。わずかに傾斜して立ち上がり煙道へ移行しており、煙道およそ65cmあり、緩やかに傾斜して先端となる。

壁溝、柱穴などの遺構は確認できなかった。

出土遺物は土師器坏・甕、須恵器坏などが検出されているが、いずれも小破片であった。

第14号住居跡（第104図）

9区E—24グリッドを中心に位置する。第13号住居跡に切られている。

住居跡全体は把握できず、軸長を測れるのは一方向のみで、長さ2.84mである。東南コーナーと思われる部分が確認されているが、その位置をコーナーとすると1.5mと極めて短く不自然である。

床までの深さは15cm前後と浅い。壁溝、柱穴、カマドは確認できなかった。

出土遺物は、土師器坏などが検出できたが、いずれも小破片で図化できるものはなかった。

第15号住居跡（第105・22表）

9区C—25グリッドに位置する。Ⅳ区第17号溝跡と重複するが、両遺構とも確認面が浅く、明確に新旧関係を明らかにできなかった。

平面形は2.61m×2.35mの長方形で、面積は6.13㎡と非常に小さい。主軸方向はおよそN—98°—Eを指す。

床面までの深さは10cm前後と浅い。壁溝、柱穴などは確認できなかった。

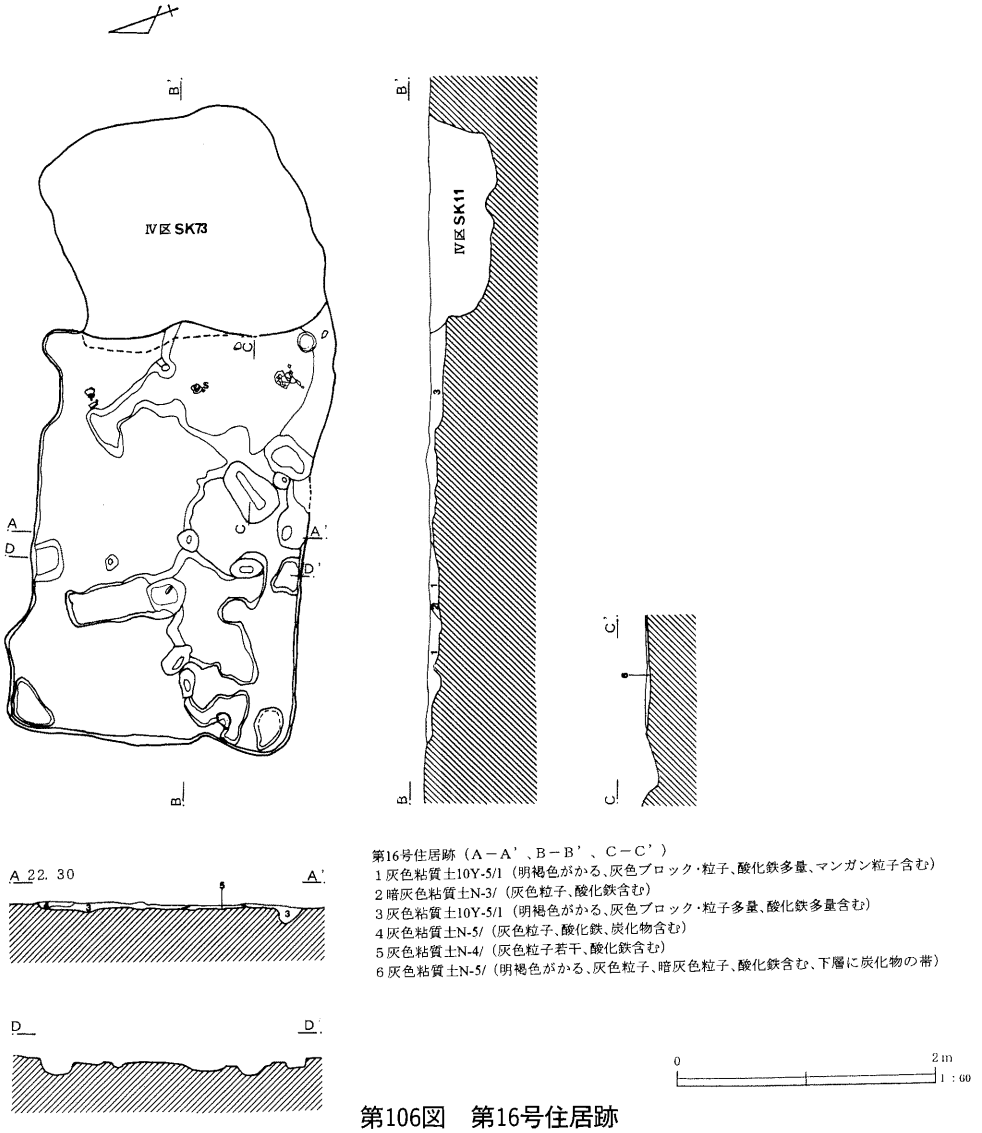
カマドは東壁の南寄りに設けられている。全長はおよそ50cm、幅35cmの楕円形で小型である。燃焼部と煙道部の境は明瞭でない。

出土遺物は少なく、須恵器坏・椀・甕などが検出できたが、図示できたのは少なかった。

第22表　第6～13・15・16号住居跡出土遺物観察表

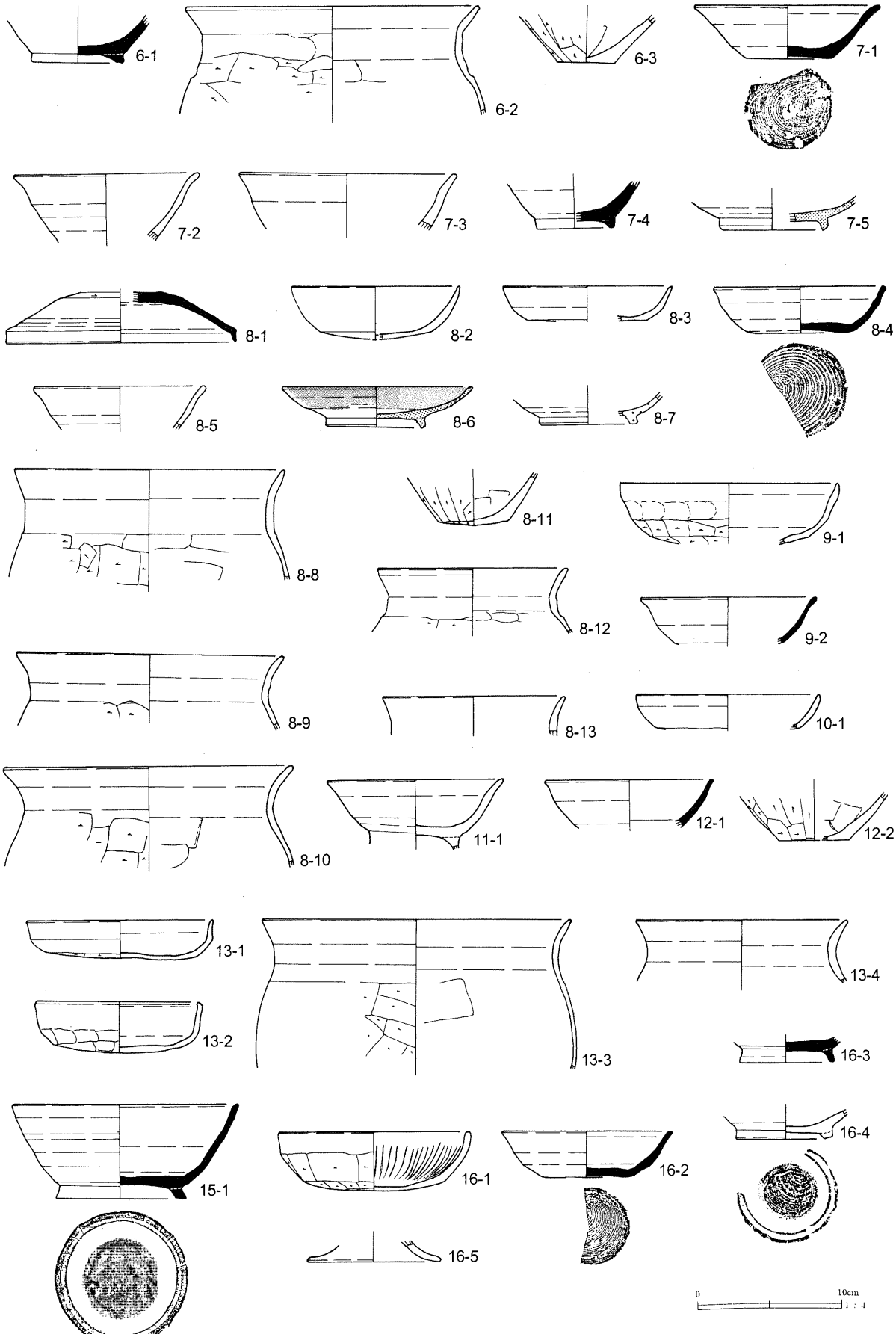
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
6-1	須恵器椀	—	—	(6.6)	ABE	灰白色	D	15%	
6-2	土師器甕	(20.9)	—	—	AEI	明褐色	A	口縁部25%	
6-3	土師器甕	—	—	4.0	ACHIN	外面：黒褐色　内面：明赤褐色	A	底部90%	
7-1	須恵器坏	(13.1)	3.8	(5.9)	AB	外面：褐白色　内面：灰白色	B	40%	
7-2	須恵器坏	(13.2)	—	—	AEJ	にぶい黄橙色	D	口縁部15%	
7-3	須恵器椀	(15.5)	—	—	ADHJ	浅黄橙色	E	口縁部25%	
7-4	須恵器椀	—	—	(5.4)	ABDJ	灰白色	D	15%	
7-5	灰釉陶器椀	—	—	(12.0)	ABP	灰色	A	底部20%	
8-1	須恵器蓋	(16.4)	—	—	AEF	紫灰色、青灰色	A	20%	南比企産。
8-2	土師器坏	(12.0)	3.7	—	BEJ	外面：にぶい橙色　内面：にぶい褐色	E	25%	
8-3	土師器坏	(12.0)	2.3	(8.3)	ABDJ	にぶい褐色	C	口縁部10%以下	
8-4	須恵器坏	(12.2)	3.3	(6.2)	ABFN	灰白色	A	35%	南比企産。
8-5	須恵器坏	(12.2)	—	—	AGIL	にぶい橙色	E	口縁部15%	末野産。
8-6	灰釉陶器皿	13.4	2.9	7.0	ABG	灰白色	A	45%	東濃産。
8-7	緑釉陶器椀	—	—	(6.9)	AH	淡緑色	A	底部15%	内外面施釉。
8-8	土師器甕	(19.4)	—	—	ABEI	外面：橙色　内面：にぶい橙色	A	口縁部20%	

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
8-9	土師器甕	(19.6)	—	—	ABEI	外面：灰黄褐色　内面：にぶい橙色	A	口縁部15%	
8-10	土師器甕	(20.6)	—	—	ABDJ	橙色、淡橙色	A	口縁部50%	
8-11	土師器甕	—	—	4.9	ABEI	外面：暗赤灰色　内面：橙色	A	底部80%	
8-12	土師器台付甕	(13.5)	—	—	AGHJ	橙色	C	口縁部30%	
8-13	土師器台付甕	(12.9)	—	—	AEJM	明赤褐色	A	口縁部30%	
9-1	土師器坏	(15.6)	—	(7.0)	ABEM	橙色、明赤褐色	C	30%(口縁部50%)	
9-2	須恵器坏	(12.4)	—	—	AEF	紫灰色	A	口縁部25%	南比企産。
10-1	土師器坏	(13.0)	—	—	AJ	にぶい褐色	A	口縁部10%以下	
11-1	須恵器椀	(12.6)	—	—	BEJ	外面：黒褐色　内面：黄橙色	D	50%	
12-1	須恵器坏	(11.9)	—	—	AFG	青灰色	A	口縁部25%	
12-2	土師器甕	—	—	(4.8)	AEG	にぶい赤褐色	A	底部20%	
13-1	土師器坏	13.4	2.6	10.9	ABEJ	灰褐色	E	80%	
13-2	土師器坏	11.8	3.6	9.0	ABE	橙色	D	60%	
13-3	土師器甕	(22.0)	—	—	AEGJM	橙色	B	口縁部10%	
13-4	土師器台付甕	(15.0)	—	—	AEJM	外面：赤黒色　内面：橙色	B	口縁部35%	
15-1	須恵器椀	(16.2)	6.6	9.2	AGL	外面：暗青灰色　内面：灰褐色	A	50%	末野産。
16-1	土師器坏	13.6	4.1	9.9	BEMN	橙色	E	100%	
16-2	須恵器坏	(12.0)	3.2	6.0	AF	外面：青灰色　内面：灰色	A	45%	南比企産。
16-3	須恵器椀	—	—	6.6	AB	黄灰色	A	底部100%	転用硯用途。
16-4	須恵器椀	—	—	6.8	ABHIM	明赤褐色	D	底部90%	
16-5	土師器台付甕	—	—	(9.5)	ABL	明赤褐色	B	脚台部20%	



第16号住居跡（A－A'、B－B'、C－C'）
1 灰色粘質土10Y-5/1（明褐色がかる、灰色ブロック・粒子、酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土10Y-5/1（明褐色がかる、灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄多量含む）
4 灰色粘質土N-5/（灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
5 灰色粘質土N-4/（灰色粒子若干、酸化鉄含む）
6 灰色粘質土N-5/（明褐色がかる、灰色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄含む、下層に炭化物の帯）

第106図　第16号住居跡



第107図　第６～13・15・16号住居跡出土遺物

第16号住居跡（第106図、第22表）

8区G—25グリッドを中心に位置する。Ⅳ区第73号土坑に切られている。

平面形は南北軸が2.18m、東西軸が確認できる範囲で3.38mを測る長方形を呈する。カマドは土坑により切られたと思われる。

床面までの深さはわずか5cm前後と浅く、ようやく住居跡のプランを確認した。かなり無理に床の確認を行っており、掘り方まで掘り下げた状態と思われる。

出土遺物は、須恵器坏、土師器暗文坏・台付甕などが検出されている。

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第108図）

4区O—17グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

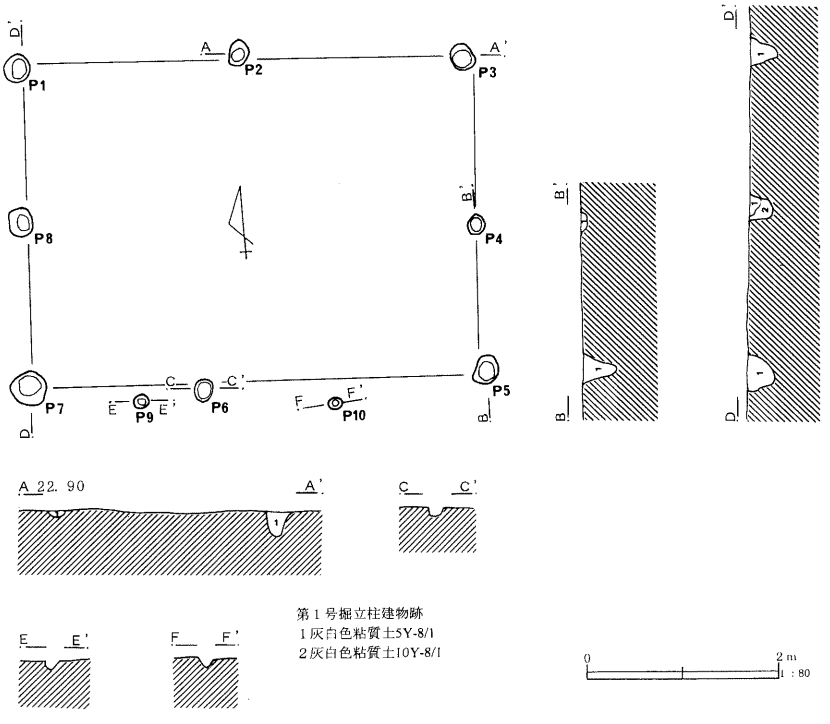
2間×2間の側柱建物で、規模は桁行4.6m、梁行3.4m、面積15.64㎡を測る。柱間は桁行が2.3m、梁行が1.7mで、主軸方向はN—84°—Wを指す。

柱穴の配置は、桁行方向で間隔に乱れがある。掘り方は円形で径20～35cm、深さ7～27cmと一定していない。柱痕はいずれからも確認できなかった。

出土遺物は、検出できなかった。

第2号掘立柱建物跡（第109図）

4区O—15グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。



第108図　第1号掘立柱建物跡

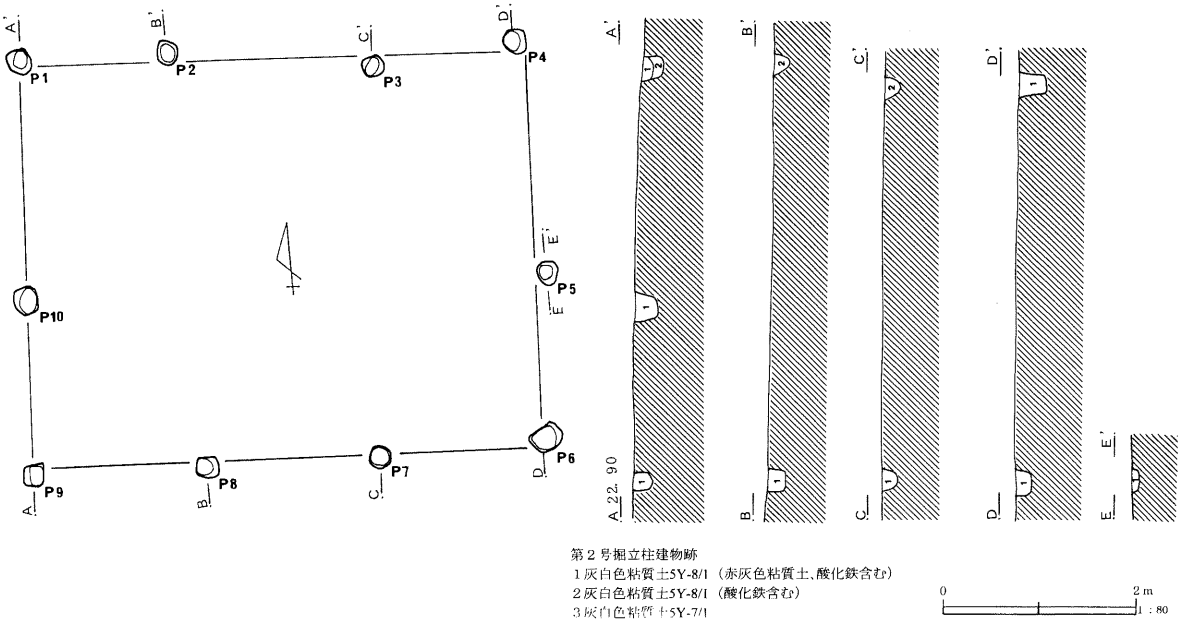
2間×3間の側柱建物で、規模は梁行4.2m、桁行5.3m、面積は22.26㎡を測る。柱間は梁行が北から2.4m、17.9m、桁行が1.7mで、主軸方向はN—87°—Wを指す。

柱穴の配置は、梁行方向でやや乱れがある。掘り方は円形で径20～27cm、深さは20cm前後と一定している。柱痕はいずれからも確認できなかった。

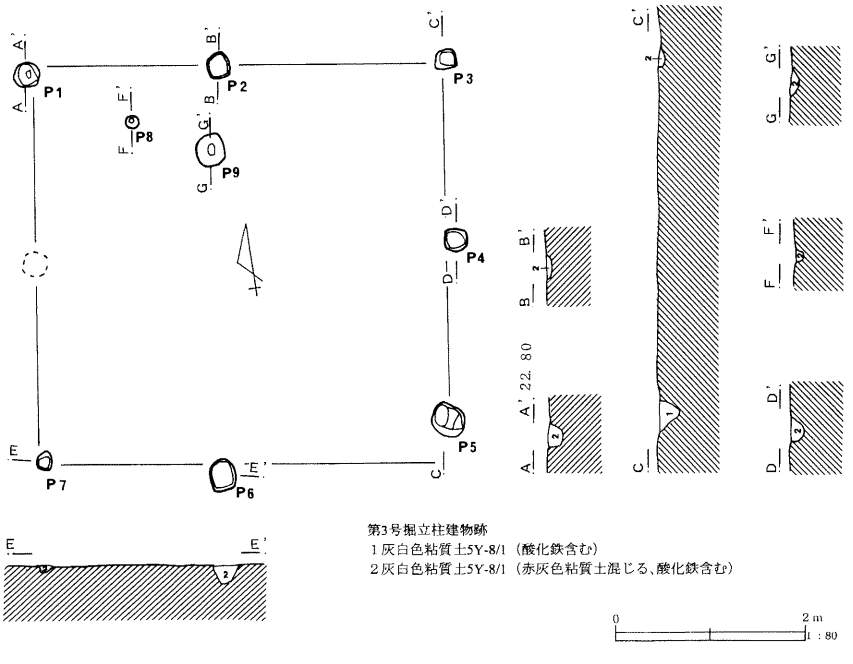
出土遺物は、検出できなかった。

第3号掘立柱建物跡（第110・129図、第23表）

4区M—17グリッドを中心に位置する。Ⅳ区第14号溝跡と重複するが、新旧関係は把握できなかった。



第109図　第2号掘立柱建物跡



第110図　第3号掘立柱建物跡

2間×2間の側柱建物で、規模は梁行4.2m、桁行4.3m、面積は18.06㎡を測る。柱間は梁行が2.1m、桁行が2.1mで、主軸方向N—81°—Wを指す。

柱穴の配置は、南側に少し乱れが見られる。掘り方は円形で径20～40cm、深さ7～27cmと一定していない。柱痕はいずれも確認できなかった。

出土遺物は少なく、須恵器坏などの破片が検出できたにすぎなく図示できたのは1点であった。

第4号掘立柱建物跡（第111・129図、第23表）

9区Q—22グリッドを中心に位置する。他の遺構との新旧関係は把握できなかった。

2間×3間の側柱建物で、規模は梁行4.9m、桁行6.9m、面積は33.81㎡を測る。柱間は梁行が2.4m、桁行が2.3mである。主軸方向はN—3°—Eを指す。

柱穴は長径130cm前後の長方形で、深さは40～53cmを測る。柱穴の配置は概ね整然としている。ピットの幾つか、P2、P3、P4など6つほどの柱穴において柱痕が観察でき、その痕跡から推測すると25cm前後の柱の太さが想定できる。

出土遺物は、須恵器坏、土師器坏・甕・台付甕などが出土した。

第5号掘立柱建物跡（第112図）

9区P—20グリッドに位置する。北側に攪乱があり、西側はIV区第7・8号区画溝と重複しており、本遺構が切られている。

4柱穴が確認されたのみであり、確認された柱穴から推測すると東西棟で、柱間は桁行3.7m、梁行1.6mを測る。主軸方向はN—88°—Wを指す。

柱穴は径40cm～60cm、深さ40cm前後であった。柱痕は確認できなかった。

この建物は、第28号掘立柱建物跡を中心とするエリアを区画する溝と切り合い関係にあり、それぞれのエリアの時期関係、役割を考える上に重要である。

出土遺物は、検出できなかった。

第6号掘立柱建物跡（第113図）

9区N—20グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

2間×3間の側柱建物で、梁行4.3m、桁行5.9m、面積は25.37㎡を測る。柱間は梁行が2.1m、桁行が1.9mで、主軸方向はN—89°—Wを指す。

柱穴は50cm～65cm前後の方形を呈する。深さは40cm～53cmを測る。柱穴の配列は概ね整っている。P7、P8に柱痕が確認できる。特にP7には、柱材が残っている。柱痕などから類推して、柱の太さは20cm前後と思われる。

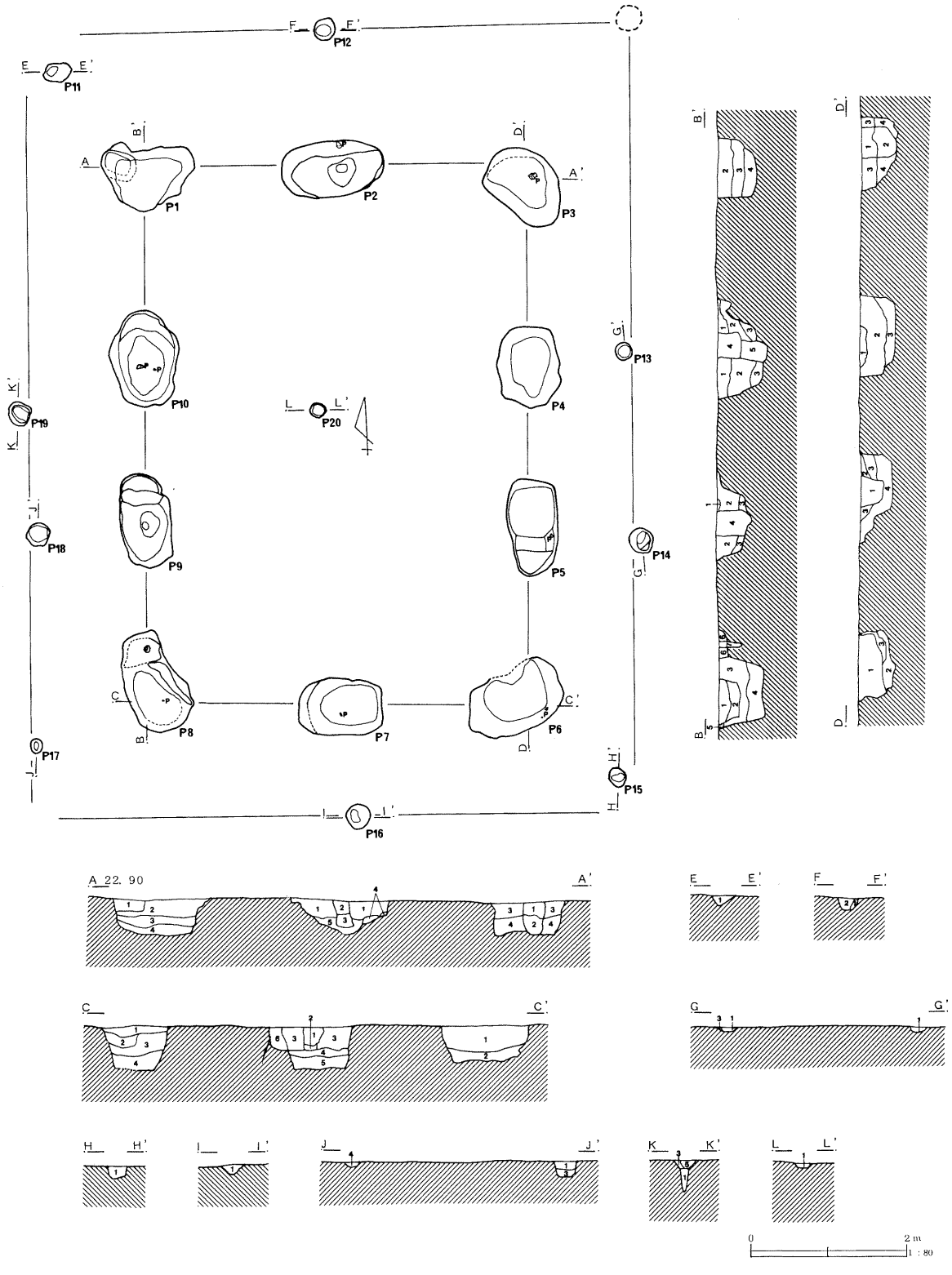
出土遺物は、検出できなかった。

第7号掘立柱建物跡（第114図）

9区L—20、M—20グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

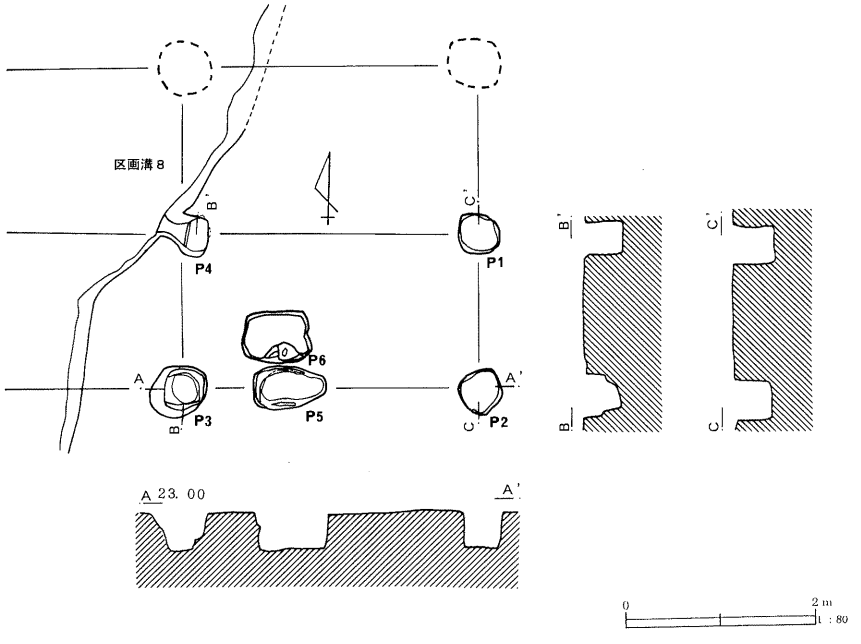
2間×3間の側柱建物で、梁行4.5m、桁行6.1m、面積は27.45㎡を測る。柱間は梁行が2.2m、桁行が2.0mで、主軸方向はN—87°—Wを指す。

柱穴は長径95cm前後、短径55cm前後の長方形を呈する。深さは40cm～53cmを測る。これらの配置は概ね整然となっている。P2、P4、P5、P7、P8、P9に柱痕が確認できる。P8には、柱材が残っ

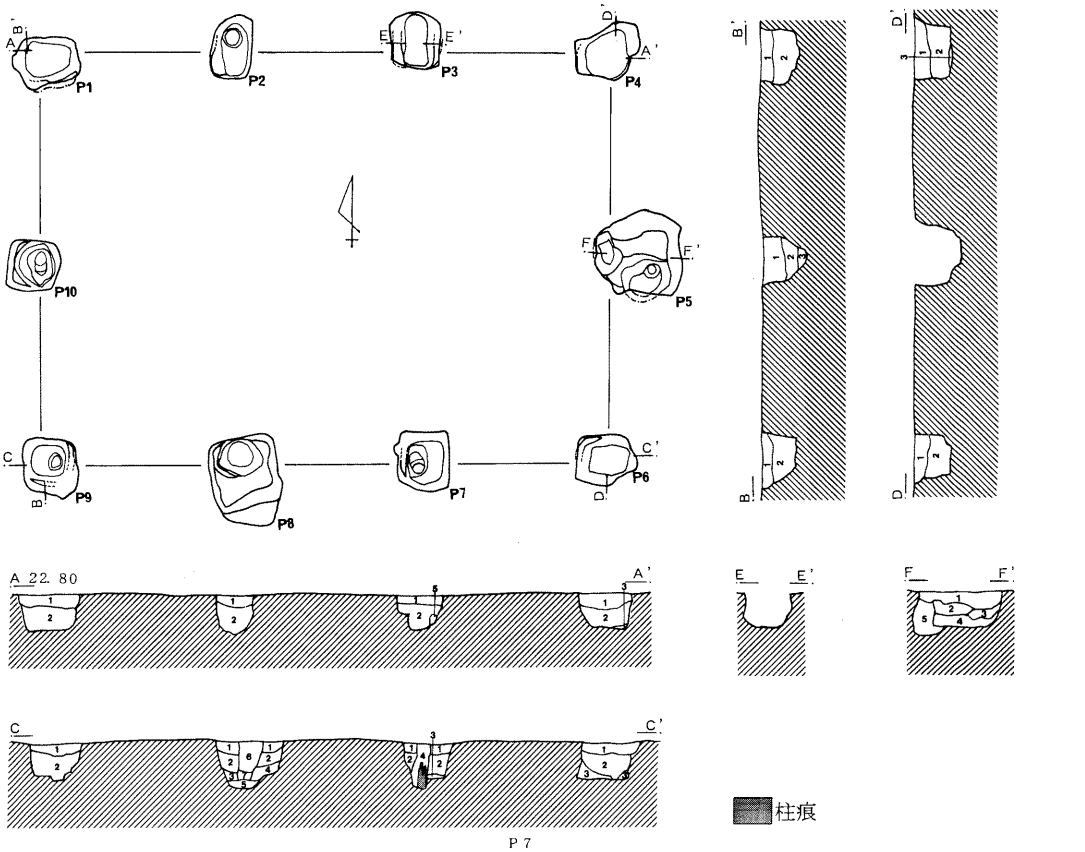


第111図　第４号掘立柱建物跡

第４号掘立柱建物跡
Ｐ１
１灰白色粘質土5Y-8/1（黒褐色粘質土ブロック、酸化鉄含む）
２灰白色粘質土5Y-8/1（酸化鉄含む）
３灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土少量混じる、酸化鉄多量に含む）
４灰色粘土5Y-6/1
Ｐ２
１灰白色粘質土5Y-8/1（褐灰色粘質土ブロック少量、酸化鉄含む）
２灰白色粘質土5Y-8/1（黒褐色粘質土ブロック、酸化鉄多量含む）
３灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土少量混じる、酸化鉄多量に含む）
４黒褐色粘質土7.5YR-2/1
５灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土、酸化鉄含む）
Ｐ３
１灰白色粘質土5Y-8/1（黒褐色粘質土少量混じる、酸化鉄含む）
２灰白色粘質土5Y-7/1（黒褐色粘質土少量混じる、酸化鉄含む）
３灰白色粘質土5Y-8/1（褐灰色粘質土混じる、酸化鉄少量含む）
４灰白色粘質土5Y-7/1（黒褐色粘質土混じる、酸化鉄多量に含む）
Ｐ４
１黒褐色粘質土
２灰白色粘質土（かたくしまる、黒褐色粘質土混じる、酸化鉄多量に含む）
３灰白色粘質土（褐色を呈する、粘性つよい、かたくしまる）
Ｐ５
１灰白色粘質土（酸化鉄少量含む）
２黒褐色粘質土
３灰白色粘質土（酸化鉄多量に含みやや褐色帯びる、黒褐色ブロック多量に含む）
４灰白色粘質土（かたくしまる、黒褐色土ブロック含む）
Ｐ６
１灰白色粘質土（黒褐色ブロック少量、酸化鉄多量に含む）
２灰白色粘質土（粘性つよい）
３黒褐色粘質土（粘性つよい、灰白粘質土少量混じる）
Ｐ７
１灰白色粘質土（黒褐色土ブロック少量、酸化鉄多量に含む）
２黒褐色粘質土
３灰白色粘質土（酸化鉄含む）
４灰白色粘質土（粘性つよい、かたくしまる、灰色つよい、黒褐色ブロック少量含む）
５黒褐色粘質土
６灰白色粘質土（かたくしまる、酸化鉄含む）
Ｐ８
１灰白色粘質土（黒褐色土ブロック少量含む）
２黒褐色粘質土（かたくしまる）
３灰白色粘質土（粘性つよい、黒褐色土ブロック少量含む）
４灰白色粘質土
５黒褐色粘質土（かたくしまる）
６灰白色粘質土（粘性つよい）
７灰白色粘質土（粘性非常につよい）
Ｐ９
１褐灰色粘質土7.5YR-4/1
２灰白色粘質土5Y-8/1（褐灰色粘質土少量混じる、酸化鉄含む）
３灰白色粘質土5Y-7/1（黒褐色粘質土ブロック、酸化鉄含む）
４灰白色粘質土5Y-8/1（褐灰色粘質土ブロック、酸化鉄含む）
Ｐ10
１淡黄色粘質土5Y-8/3
２灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土少量混じる、酸化鉄含む）
３灰白色粘質土5Y-7/1（酸化鉄少量含む）
４灰白色粘質土5Y-8/1（褐灰色粘質土少量含む）
５灰色粘土5Y-5/1
Ｐ11～19
１灰白色粘質土N-7/
２灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
３灰色粘質土N-4/
４灰色粘質土N-6/（酸化鉄含む）
５明緑灰色粘質土7.5GY-7/1



第112図　第５号掘立柱建物跡



P 1
1 灰白色粘質土5Y-8/1
2 灰色粘質土5Y-5/1（褐灰色粘質土ブロック、酸化鉄多量に含む）
P 2
1 灰白色粘質土5Y-8/1（酸化鉄少量含む）
2 灰色粘質土5Y-5/1（褐灰色粘質土粒子混じる、酸化鉄含む）
P 3
1 灰白色粘質土5Y-8/1
2 灰色粘質土5Y-5/1（粘性比較的ある、酸化鉄含む）
3 褐灰色粘質土ブロック層7.5YR-7/1
P 4
1 灰白色粘質土5Y-8/1
2 灰色粘質土5Y-5/1（褐灰色粘質土粒子若干、酸化鉄若干混じる）
3 暗灰色粘質土N-3/
P 5
1 灰白色粘質土5Y-8/1（褐灰色粘質土粒子少量、酸化鉄多量に含む）
2 褐灰色粘質土7.5YR-7/1（灰白色粘質土混じる、酸化鉄多量に含む）
3 灰色粘質土5Y-6/1（褐灰色粘質土混じる、酸化鉄若干含む）
4 褐灰色粘質土7.5YR-7/1
5 灰色粘質土5Y-6/1（褐灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
P 6
1 灰白色粘質土5Y-8/1
2 灰色粘質土5Y-6/1
3 浅黄粘質土5Y-7/4
P 7
1 灰白色粘質土2.5Y-6/1
2 灰色粘質土5Y-6/1
3 褐灰色粘質土
4 黄灰色粘質土
P 8
1 灰白色粘質土5Y-8/1（シルト感若干ある、褐灰色粘質土ブロック多量、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土5Y-6/1（粘性比較的ある、酸化鉄少量含む）
3 黄灰色粘質土2.5Y-6/1
4 灰色粘質土5Y-5/1
5 灰色粘質土5Y-6/1（粘性つよい、酸化鉄含む）
6 灰白色粘質土5Y-8/1（褐灰色粘質土粒子若干、酸化鉄多量に含む）
7 灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄多量に含む）
P 9
1 灰白色粘質土5Y-8/1
2 灰色粘質土5Y-6/1
P10
1 灰白色粘質土5Y-8/1（シルト感若干ある、褐灰色粘質土小ブロック含む、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土5Y-5/1（粘性比較的ある、酸化鉄多量に含む）
3 灰色粘質土5Y-6/1（粘性つよい、酸化鉄多量に含む）

0　2m
1：80

第113図　第６号掘立柱建物跡

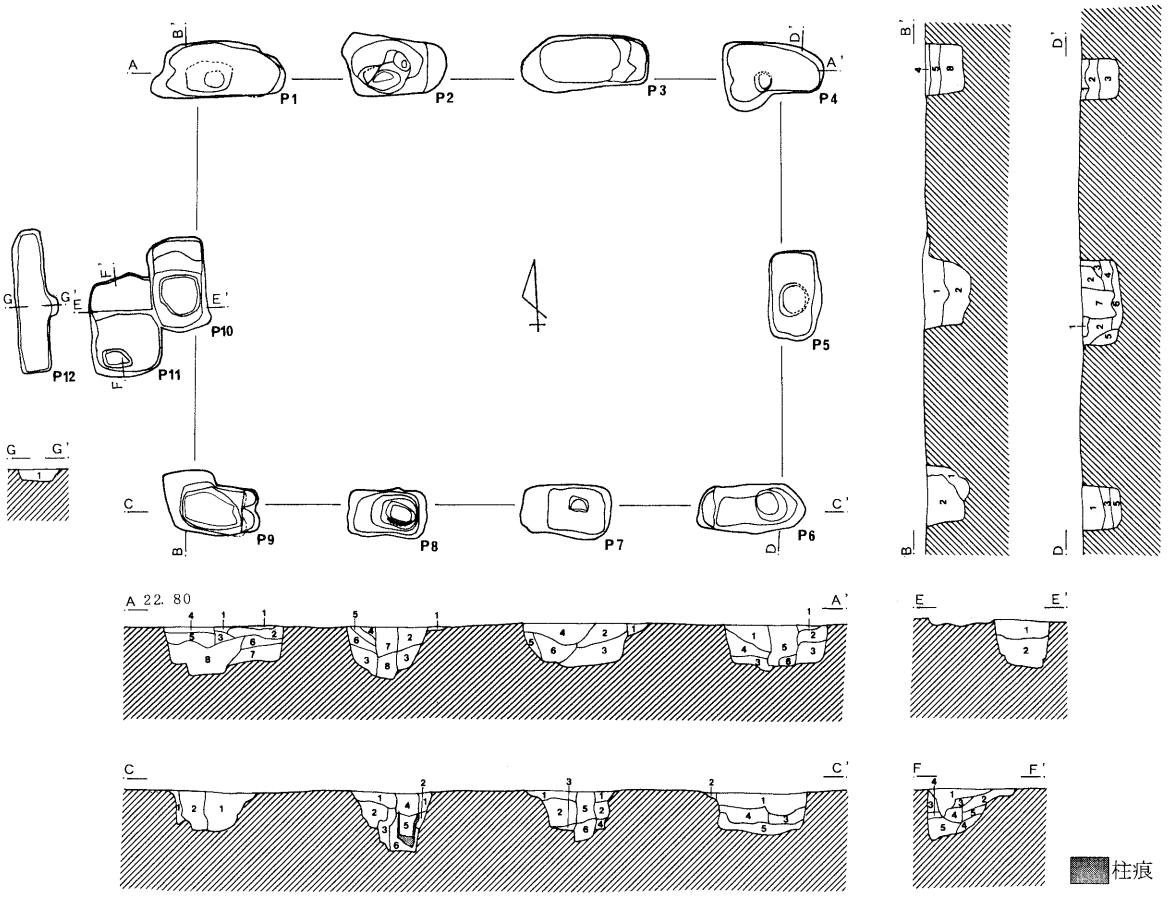
ていた。基本的にこの建物は柱を抜き取らなかったと思われる。柱痕等から推測すると柱の太さは20cm～27cm位であろうか。

出土遺物は、検出できなかった。

第８号掘立柱建物跡（第115・116・129図、第23表）

９区Ｎ－25グリッド、Ｏ－25グリッドを中心に位置する。Ⅳ区第10号区画溝と重複しており、区画溝の方が新しい。第９号掘立柱建物跡に先行して建てられた建物で、作り替えて第９号掘立柱建物跡となる。

２間×３間の身舎の四面に庇がつく建物である。建物規模は、身舎だけで梁行5.3m、桁行6.8mを測



P 1
1 灰白色粘質土
2 黒褐色粘質土
3 灰白色粘質土（粘性ややつよい）
4 灰白色粘質土（かたくしまる、黒褐色土粒子含む）
5 暗灰色粘質土（粘性ややつよい、黒褐色土ブロック・粒子含む）
6 暗灰色粘質土（ややかたくしまる、黒褐色土含む）
7 灰白色粘質土（しまりわるい）
8 暗灰色粘質土と黒褐色土ブロックの混合層
P 2
1 黒褐色粘質土
2 灰白色粘質土（黒褐色土ブロック少量含む）
3 暗灰色粘質土（黒褐色土ブロック含む）
4 灰白色粘質土（かたくしまる）
5 暗灰色粘質土（粘性つよい、黒褐色土小ブロック含む）
6 灰白色粘質土（黒褐色土粒子少量含む）
7 灰白色粘質土（粘性つよい、黒褐色土粒子多量に含む）
8 暗灰色粘質土（粘性つよい）
P 3
1 黒褐色粘質土（かたくしまる、灰白色粘質土わずかに含む）
2 灰白色粘質土とブロック状黒褐色土の混合層
3 暗灰色粘質土（粘性ややつよい）
4 灰白色粘質土（黒褐色土粒子多量に含む）
5 暗灰色粘質土（黒褐色土ブロック少量含む）
6 黒褐色粘質土（しまりよい、暗灰色粘質土多量に含む）
P 4
1 灰白色粘質土（黒褐色土小ブロックわずかに含みかたくしまる）
2 黒褐色粘質土
3 灰白色粘質土（やや褐色を帯びかたくしまる）
4 暗灰色粘質土（黒褐色ブロック・粒子含む）
5 灰白色粘質土とブロック状の黒褐色土の混合層
6 暗灰色粘質土（やわらかい）
P 5
1 黒褐色粘質土
2 灰白色粘質土（黒褐色土小ブロック少量含む）
3 暗灰色粘質土（粘性ややつよい、黒褐色土ブロック含む）
4 灰白色粘質土と黒褐色粘質土の混合層
5 灰白色粘質土（全体的に褐色を呈する）
6 灰白色粘質土（かたくしまる、黒褐色土ブロック含む）
7 灰白色粘質土（粘性ややつよい、黒褐色土ブロック含む）

P 6
1 灰白色粘質土（黒褐色土ブロック含む）
2 黒褐色粘質土（かたくしまる、灰白色粘質土少量含む）
3 暗灰色粘質土（黒褐色土ブロック含む）
4 黒褐色粘質土と灰白色粘質土の混合層（粘性つよい）
5 暗灰色粘質土（酸化鉄多量に含みやや褐色を呈す）
P 7
1 灰白色粘質土5Y-8/2（酸化鉄多量に含む）
2 灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土、酸化鉄少量含む）
3 灰白色粘質土5Y-8/2（粘性つよい、酸化鉄多量に含む）
4 褐灰色粘質土7.5YR-4/1（粘性つよい、酸化鉄含む）
5 灰白色粘質土5Y-8/1（褐灰色粘質土多量、酸化鉄含む）
6 灰色粘質土5Y-6/1（粘性つよい、酸化鉄含む）
P 8
1 灰白色粘質土5Y-8/2（酸化鉄含む）
2 灰白色粘質土5Y-7/1（酸化鉄含む）
4 灰白色粘質土5Y-7/1（粘性つよい、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土5Y-6/1（褐灰色粘質土、酸化鉄含む）
5 灰色粘質土5Y-6/1（褐灰色粘質土少量、酸化鉄含む）
6 灰色粘質土5Y-4/1（酸化鉄少量含む）
P 9
1 灰白色粘質土5Y-8/2（褐灰色粘質土少量、酸化鉄含む）
2 灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土、酸化鉄少量含む）
P10
1 灰白色粘質土（かたくしまる、黒褐色土ブロック・粒子含む）
2 灰白色粘質土と黒褐色粘質土の混合層
P11
1 灰白色粘質土（非常にかたくしまる、黒褐色土大ブロック多量に含む）
2 灰白色粘質土（かたくしまる）
3 暗灰色粘質土（粘性非常につよい）
4 黒褐色粘質土（暗灰色粘質土少量含む）
5 黒褐色粘質土と暗灰色粘質土の混合層（粘性つよい）
P12
1 灰白色粘質土5Y-8/1

0 2m
1：80

第114図　第７号掘立柱建物跡

り、四面の庇を含めると梁行9.8m、桁行11.3mとなる。棟方向はN—79°—Wを指す東西棟である。

身舎の柱間は、梁行でおよそ2.6m、桁行でおよそ2.2m前後を測る。庇の柱間は梁行が1.9mから2.7mと少々ばらつきがあり、桁行もやはり1.9mから2.6mとばらつきがある。第9号掘立柱建物跡と比較して、桁行はさほど変わらないが、梁行が少し広い。

身舎の柱穴は径80cm～95cmの楕円形を呈し、深さは80cm前後であった。これら身舎の柱穴に比べ、四面を巡る庇の四方隅の柱穴は径50cm～67cm、深さ67cmを測り、間の柱は径40cm～67cm、深さ20cm前後とかなり小規模となっている。庇の柱は、身舎の柱と対になるように柱通りを揃え掘られていたが、南北の庇柱のみ内側にさらに柱穴が確認された。これは庇の床の沈降を止めるための措置と考えられる。

この建物には、さらに庇柱穴の外に、小さな柱穴の並びが確認できた。柱穴の規模は径25cm前後で、深さ20cm前後と浅い。一部確認できない箇所もあるが、基本的に庇の柱と対になるように柱通りを揃えられている。考えられる機能としては、縁側が設けられていたか、庇の支えのための柱か、または建物建築の際に利用された足場の痕跡とも推測される。

出土遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・瓶・甕、灰釉陶器椀・皿・瓶、緑釉陶器段皿などが検出できた。内面をミガキ黒色処理した坏も見られた。

第9号掘立柱建物跡（第117・118・129図、第23表）

9区N—25グリッド、O—25グリッドを中心に位置する。第8号掘立柱建物跡を建替えてつくられたものと考えられる。

2間×3間の身舎の四面に庇がつく建物である。建物規模は、身舎だけで梁行4.6m、桁行6.9mを測り、四面の庇を含めると梁行9.1m、桁行11.4mとなる。棟方向はN—80°—Wを指す東西棟である。

身舎の柱間は、梁行で2.32m前後、桁行で2.39m前後であった。庇の柱間は、梁行で1.9mから2.3m、桁行で2.06mから2.59mと不揃いであった。

身舎の柱穴は径40cm～53cmの楕円形を呈し、深さは25cm前後であった。これら身舎の柱穴に比べ、四面を巡る庇の四方隅の柱穴は径27cm～47cm、深さ27cmを測る。第8号掘立柱建物跡と同様に四隅の柱穴に比して、中間のものは小規模となっている。庇の柱は、身舎の柱と対になるように柱通りを揃え掘られている。

出土遺物は、土師器台付甕、須恵器坏・甕・壺、灰釉陶器椀などが検出できた。

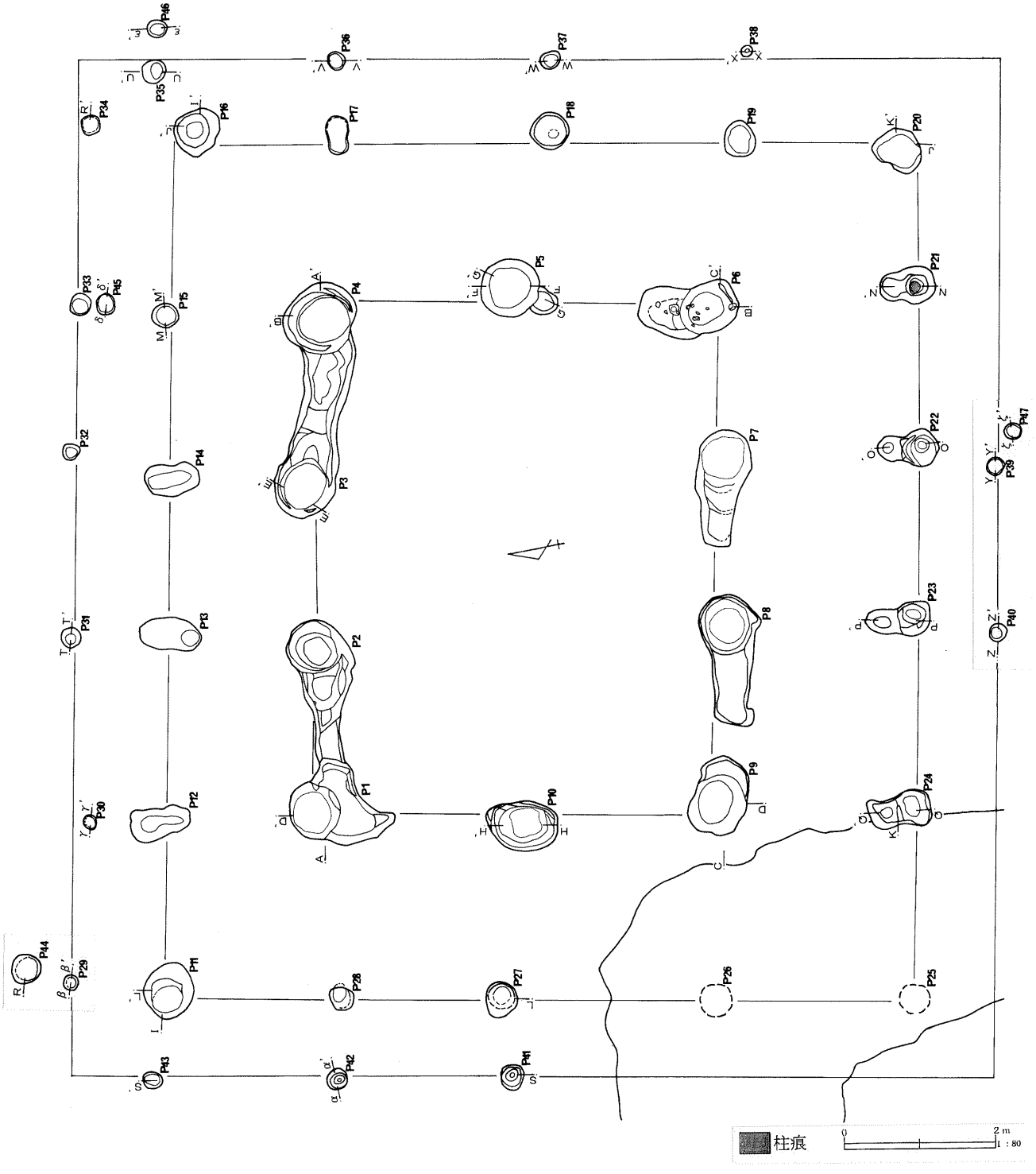
第10号掘立柱建物跡（第119図）

K—20グリッドを中心に位置する。Ⅳ区第2号区画溝と重複するが、新旧関係は確認できなかった。

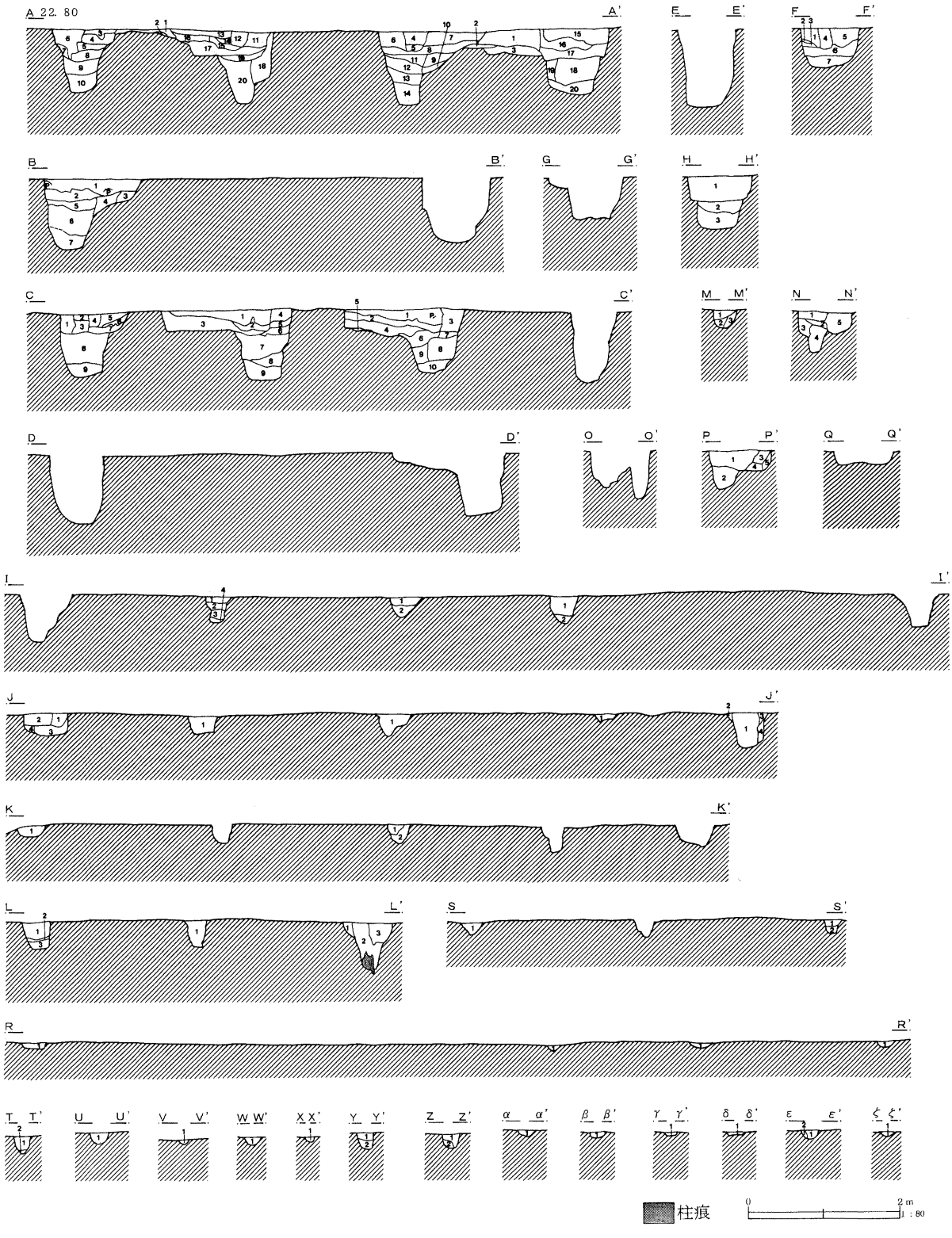
2間×2間の側柱建物で、梁行3.32m、桁行3.39m、面積は11.25m²を測る。柱間は梁行が1.6m、桁行が1.6mで、主軸方向はN—84°—Wを指す。

柱穴は径33cm～47cmの方形もしくは円形を呈し、方形を基本とするものと思われる。深さは13cm～27cmと浅い。P1のみ柱痕が確認できる。

出土遺物は、検出できなかった。



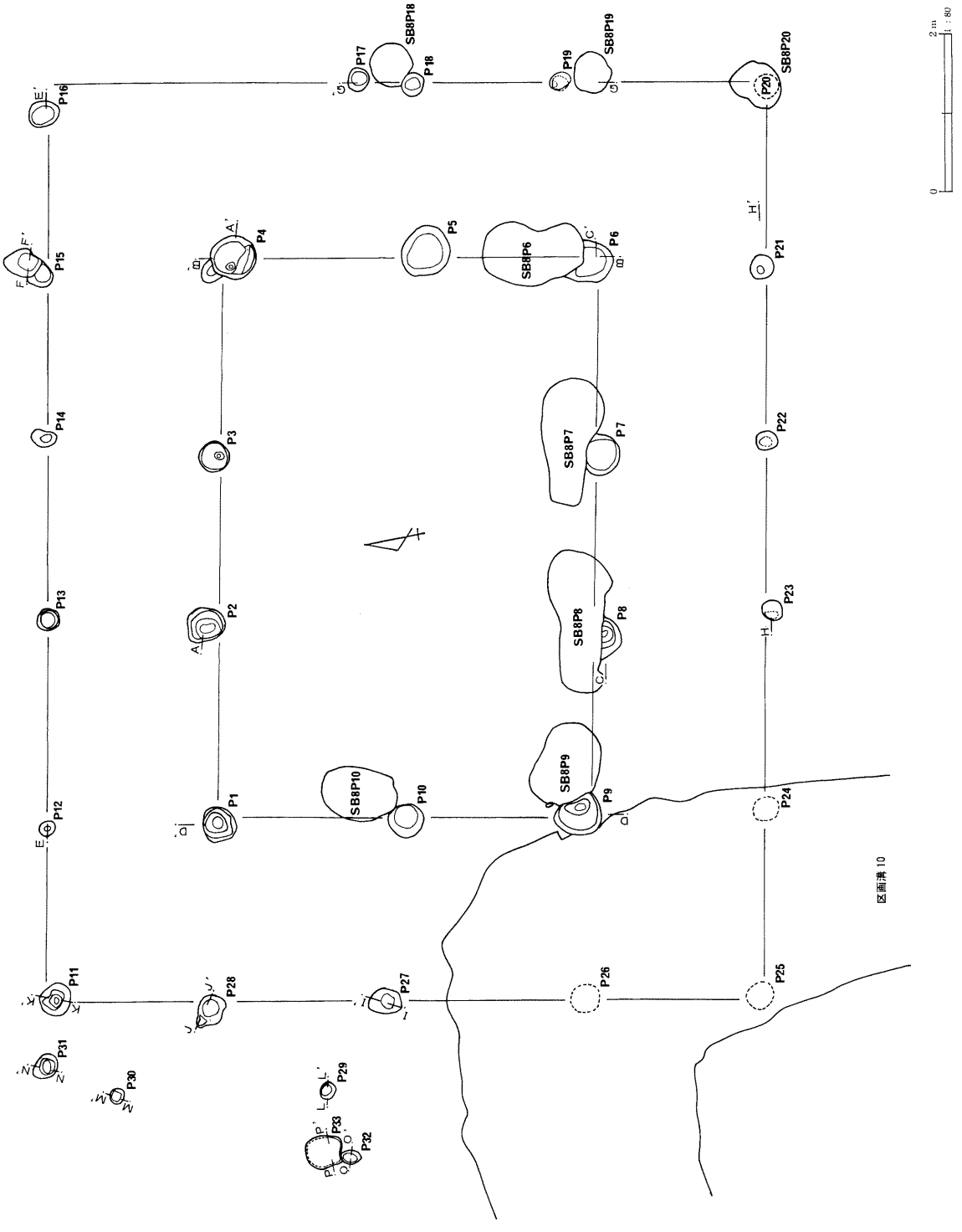
第115図　第 8 号掘立柱建物跡



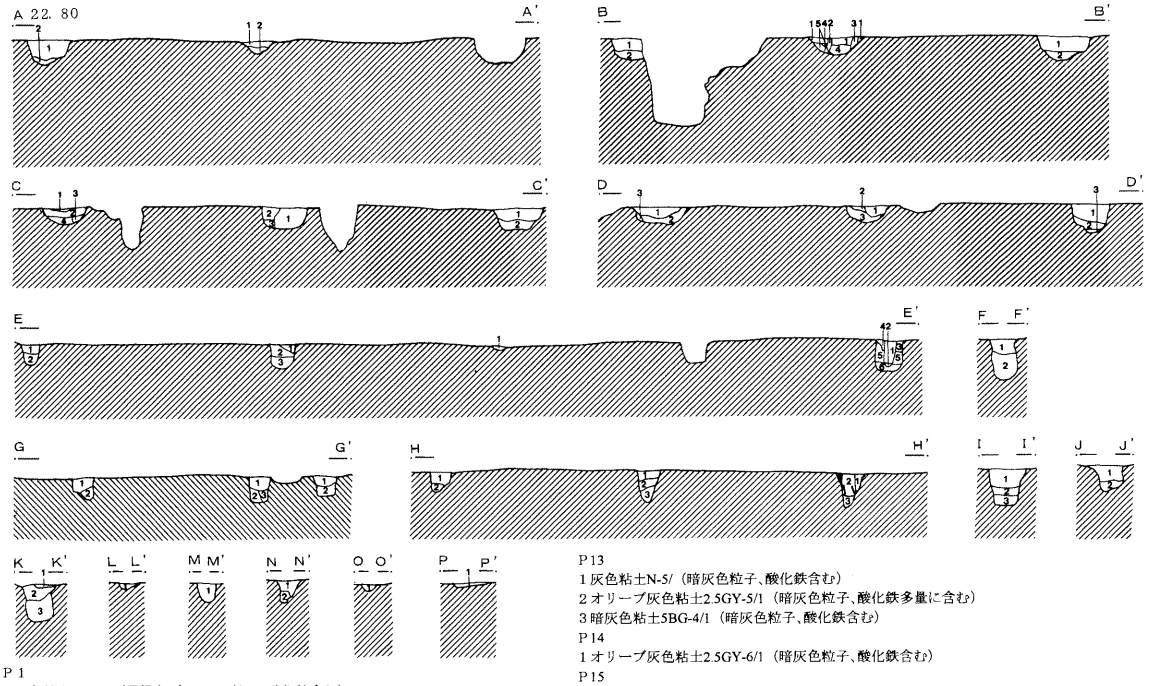
第116図　第８号掘立柱建物跡土層断面図

第８号掘立柱建物跡

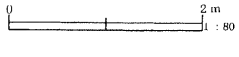
Ｐ１・２
１灰白色粘質土
２黒褐色粘質土
３灰白色粘質土（しまりわるい）
４黒灰色粘質土（かたくしまる、黒褐色土ブロック多量に含む）
５灰白色粘質土（かたくしまる）
６黒灰色粘質土（黒褐色粘質土含む）
７灰白色粘質土（かたくしまる、酸化鉄多量に含み褐色を呈する）
８明緑灰色粘土（暗青灰色ブロック、酸化鉄含む）
９青灰色粘土（暗青灰色ブロック、酸化鉄含む）
10青灰色粘土（暗青灰色ブロック、酸化鉄含む）
11白灰色粘質土（黒褐色土多量に含む）
12黒灰色粘質土（粘性つよい）
13白灰色粘質土
14黒灰色粘質土
15白灰色粘質土（かたくしまる）
16黒灰色粘質土（粘性つよい）
17白灰色粘質土
18明緑灰色粘質土（暗青灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
19緑灰色粘土（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
20青灰色粘土（暗青灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄若干含む）
Ｐ３・４
１灰白色粘質土（黒褐色土ブロック含む）
２黄橙色粘質土（暗青灰色粒子、明青灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
３明緑灰色粘質土（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
４黒灰色粘質土（黒褐色土含む）
５灰白色粘質土（かたくしまる、酸化鉄多量に含み褐色を呈する）
６灰白色粘質土（黒褐色土含む）
７灰白色粘質土（粘性つよい、黒褐色土ブロック多量に含む）
８灰白色粘質土（かたくしまる）
９緑灰色粘土（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
10青灰色粘土（暗青灰色粒子若干、酸化鉄含む）
11青灰色粘土（暗青灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
12暗青灰色粘土（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
13青灰色粘土（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄若干含む）
14青灰色粘土（青灰色ブロック・粒子多量に含む）
15灰白色粘質土（粘性つよい、黒褐色土ブロック若干含む）
16黒灰色粘質土（粘性つよい、炭化物ごくわずか含む）
17灰白色粘質土（黒褐色土ブロック、酸化鉄多量に含む）
18青灰色粘土（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
19暗青灰色粘土（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
20暗青灰色粘土（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
Ｐ５
１灰白色粘質土（酸化鉄含む）
２黒褐色粘質土
３灰白色粘質土
４灰白色粘質土（黒褐色土ブロック少量含む）
５灰白色粘質土（かたくしまる、黒褐色土ブロック含む）
６黒褐色粘質土（酸化鉄多量に含みやや褐色を帯びる）
７灰白色粘土（灰色ブロック・粒子含む）
Ｐ６
１灰白色粘質土（黒褐色土少量含む）
２黒褐色粘質土（粘性つよい）
３灰白色粘質土（暗青灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
４橙色粘質土（灰白色粒子、暗青灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
５明緑灰色粘質土（暗青灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
６明青灰色粘土（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
７青灰色粘土（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ７
１灰白色粘質土（黒褐色土混じる）
２黒褐色粘質土
３灰白色粘質土（黒褐色粘質土混じる）
４灰白色粘質土（かたくしまる、黒褐色土ブロック含む）
５明青灰色粘質土（黒褐色粒子若干、酸化鉄多量に含む）
６明緑灰色粘土（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄多量に含む）
７灰白色粘質土（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄多量に含む）
８青灰色粘土（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
９暗青灰色粘土（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
10青灰色粘土（暗青灰色粒子若干、酸化鉄若干含む）
Ｐ８
１灰白色粘質土（酸化鉄含む）
２黒灰色粘質土（かたくしまる）
３灰白色粘質土（黒褐色土ブロック少量、酸化鉄含む）
４黒褐色粘質土（かたくしまる、灰白色土少量含む）
５灰白色粘質土（粘性つよい、黒色つよく帯びる）
６黄橙色粘質土（明青灰色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄多量に含む）
７明青灰色粘土（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄多量に含む）
８緑灰色粘土（暗青灰色粒子、酸化鉄若干含む）
９暗青灰色粘土（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄若干含む）
Ｐ９
１灰白色粘質土（酸化鉄多量に含み全体的に褐色を呈する）
２灰白色粘質土（かたくしまる）
３黒褐色粘質土（かたくしまる）
４灰白色粘質土（黒褐色土ブロック少量含む）
５黒褐色粘質土（酸化鉄多量に含み褐色を呈する）
６灰白色粘質土
７黒褐色粘質土（酸化鉄多量に含み褐色を呈する）
８暗青灰色粘土（灰白色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
９青灰色粘土（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
Ｐ10
１灰白色粘質土（かたくしまる、酸化鉄多量に含み褐色を呈す、黒灰色粘質土混じる、黒褐色土ブロック含む）
２灰白色粘土（酸化鉄含む）
３暗青灰色粘土（灰白色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
Ｐ11
１灰色粘質土（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
２青灰色粘質土（しまりない、酸化鉄多量に含む）
３暗灰色粘質土（黒褐色粒子、オリーブ黄色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ12
１灰白色粘質土（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
２灰色粘質土（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
３黄褐色土（灰白色粒子、酸化鉄含む）
４灰色粘土（暗灰色ブロック・粒子含む）
Ｐ13
１灰白色粘質土（暗灰色粒子含む）
２暗灰色粘質土（灰白色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
Ｐ14
１灰色粘質土（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
２灰色粘土（酸化鉄含む）
Ｐ15
１暗灰黄色粘質土（暗灰色ブロック・粒子、灰色粒子、酸化鉄含む）
２灰オリーブ色粘質土（酸化鉄含む）
３オリーブ黒色粘質土（灰色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ16
１灰色粘質土（マンガン粒子、炭化物含む）
２黒色粘質土（灰色粒子、酸化鉄含む）
３灰色粘質土（黄褐色粒子、酸化鉄含む）
４黒色粘質土（灰白色粒子、灰色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ17
１灰色粘質土（酸化鉄含む）
Ｐ18
１灰色粘質土（黒褐色粒子、黄褐色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ19
１灰色粘質土（浅黄色粒子、酸化鉄、土器片含む）
Ｐ20
１暗灰色粘質土（黒褐色粒子、浅黄色粒子、酸化鉄含む）
２灰色粘質土（黒褐色粒子、浅黄色粒子、酸化鉄含む）
３暗青灰色粘土（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
４灰色粘質土（黒褐色粒子、浅黄色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ21
１灰色粘質土（灰白色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄含む）
２黒色粘質土（酸化鉄含む）
３暗灰色粘質土（灰色粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）
４柱痕
５灰色粘質土（灰白色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
Ｐ22
１灰色粘質土（灰白色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄含む）
２灰色粘質土（黒褐色ブロック・粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ23
１灰色粘質土（灰白色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
２灰色粘土（酸化鉄、暗灰色粒子多量に含む）
３灰色粘質土（灰白色粒子、暗灰色粒子、酸化鉄含む）
４明赤褐色土（灰色・暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄多量に含む）
５灰色粘質土（暗灰色粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ24
１暗青灰色粘質土（灰白色粒子、酸化鉄、炭化物、土器片含む）
Ｐ27
１灰色粘質土（オリーブ黄色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
２黄褐色粘質土（酸化鉄含む）
３青灰色粘土（酸化鉄含む）
Ｐ28
１灰色粘質土（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
Ｐ29
１オリーブ褐色粘質土2.5Y-4/3（灰色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ30
１暗灰黄色粘質土2.5Y-4/2（灰色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ31
１灰色粘質土（灰白色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄含む）
２暗灰色粘質土（酸化鉄含む）
Ｐ32・33
１灰色粘質土（黒褐色粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ34
１灰色粘質土（暗灰色粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ35
１灰白色粘質土
Ｐ36
１灰白色粘質土（灰色つよい、黒褐色土少量含む）
Ｐ37・38・45・47
１灰色粘質土N-4/（灰白色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ39・40
１灰色粘質土N-4/（灰白色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
２暗灰色粘質土N-3/（灰白色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
Ｐ41
１灰色粘質土（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ42
１灰色粘質土N-6/（灰白色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ43
１灰白色粘質土（灰色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄含む）
２灰色粘質土（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
Ｐ44
１黒褐色粘質土（灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
Ｐ46
１灰白色粘質土（黒褐色土小ブロック少量含む）
２黒灰色粘質土N-4/（灰白色粒子、酸化鉄含む）



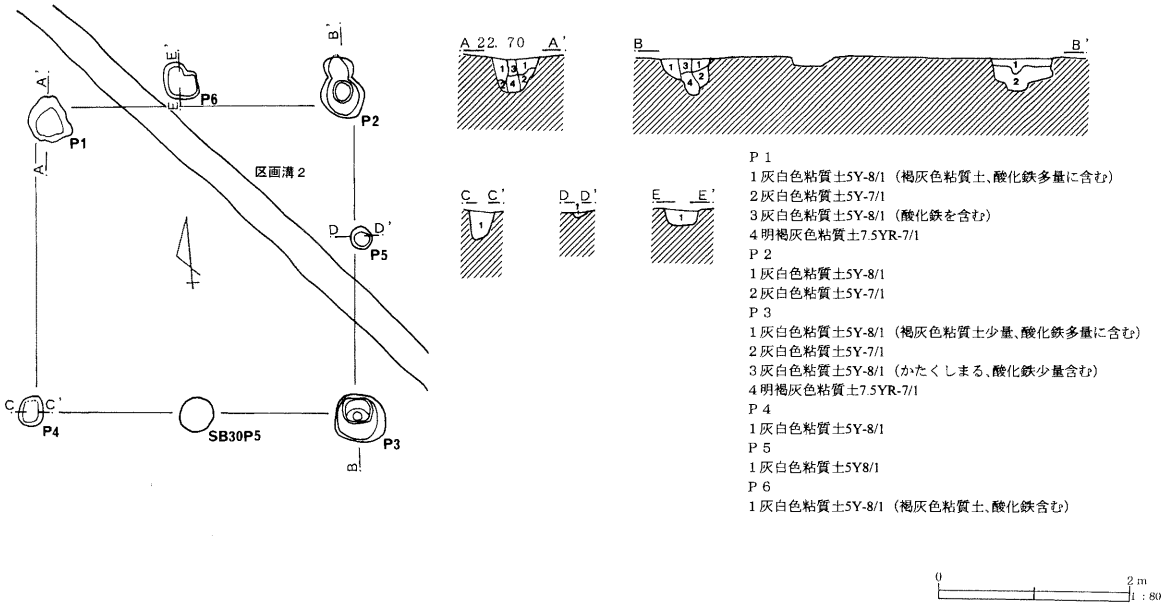
第117図　第９号掘立柱建物跡



P 1
1 灰色粘土5Y-4/1（黒褐色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
2 褐色粘土7.5YR-4/6（酸化鉄を含み褐色を呈する、黒褐色粒子、灰色粒子含む）
3 明緑灰色粘土5G-7/1（黒褐色粒子若干含む）
P 2
1 オリーブ灰色粘土2.5GY-5/1（かたくしまる、黒褐色ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
2 明黄褐色粘質土10YR-6/6（黒褐色粒子、酸化鉄多量に含む）
P 3
1 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1（黒褐色粒子若干、酸化鉄含む）
2 暗青灰色粘土5B-4/1（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
P 4
1 灰色粘土N-6/（黒褐色粒子若干、酸化鉄含む）
2 青灰色粘土5B-6/1（黒褐色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
P 5
1 灰色粘土N-6/（酸化鉄を含み黄褐色を呈する、黒褐色ブロック・粒子多量に含む）
2 灰色粘土N-4/（黄褐色粒子、暗灰色粒子若干含む）
3 灰色粘土N-5/（黄褐色粒子、黒褐色粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）
4 暗灰色粘土N-3/(黄褐色粒子、酸化鉄含む）
5 灰色粘土N-5/（酸化鉄含む）
P 6
1 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1（酸化鉄含む）
2 黒色粘質土2.5Y-2/1（灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
P 7
1 オリーブ灰色粘土2.5GY-5/1（黒褐色粒子多量、酸化鉄含む）
2 オリーブ灰色粘土5GY-5/1（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
3 暗オリーブ灰色粘土5GY-4/1（黒褐色粒子、酸化鉄多量に含む）
P 8
1 青灰色粘土5B-5/1（黒褐色粒子、灰色粒子含む）
2 オリーブ灰色粘土2.5GY-5/1（青灰色粒子、酸化鉄含む）
3 オリーブ灰色粘土5GY-5/1（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
4 黒褐色粘質土2.5Y-2/1（かたくしまる、灰色粒子、酸化鉄含む）
P 9
1 灰色粘土N-6/（かたくしまる、酸化鉄含む）
2 青灰色粘土5B-6/1（かたくしまる、暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
3 灰色粘土N-5/（かたくしまる、暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
P10
1 灰色粘土N-5/（黄褐色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄含む）
2 緑灰色粘土10GY-6/1（黄褐色粒子、黒褐色粒子若干、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土N-6/（酸化鉄を含み褐色を呈する、黒褐色ブロック・粒子多量に含む）
P11
1 オリーブ灰色粘土5GY-5/1（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
2 暗オリーブ灰色粘土2.5GY-4/1（黒褐色粒子若干、酸化鉄含む）
3 暗青灰色粘土5BG-4/1（青黒色粒子、灰白色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
P12
1 オリーブ灰色粘土2.5GY-5/1（酸化鉄含む）
2 灰色粘土N-5/（酸化鉄含む）
P13
1 灰色粘土N-5/（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
2 オリーブ灰色粘土2.5GY-5/1（暗灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
3 暗灰色粘土5BG-4/1（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
P14
1 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
P15
1 灰色粘質土N-6/（黄褐色ブロック、暗灰色粒子、酸化鉄含む）
2 灰色粘土N-4/（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
P16
1 灰色粘土N-6/（酸化鉄含む）
2 灰白色粘土N-7/（灰色粒子、酸化鉄含む）
3 緑灰色粘土7.5GY-6/1（酸化鉄含む）
4 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1（酸化鉄含む）
5 灰色粘土N-5/（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
6 灰色粘土N-5/（酸化鉄、暗灰色粒子含む）
P17・18・19
1 灰色粘土N-5/（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
2 灰色粘土N-4/（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
3 暗灰色粘土N-3/（灰色粒子、酸化鉄含む）
P21
1 灰色粘土N-4/（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
2 暗灰色粘土N-3/（灰色粒子、酸化鉄、柱痕含む）
3 オリーブ灰色粘土2.5GY-5/1（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
P22
1 灰色粘土N-4/（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
2 暗灰色粘土N-3/（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
3 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
P23
1 灰色粘土N-4/（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
2 暗灰色粘土N-3/（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
P27
1 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
2 青灰色粘土5BG-5/1（酸化鉄多量に含む）
3 暗青灰色粘土5BG-4/1（青黒色粒子、酸化鉄含む）
P28
1 オリーブ灰色粘土2.5GY-5/1（黒褐色粒子、酸化鉄含む）
2 暗オリーブ灰色粘土2.5GY-3/1（黒褐色粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）
P29・30
1 オリーブ灰色粘質土2.5GY-5/1（暗青灰色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄含む）
P31
1 灰色粘質土N-4/（黒褐色粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（灰白色粒子若干、酸化鉄含む）
P32
1 灰色粘質土N-4/（酸化鉄含む）
P33
1 灰色粘質土N-5/（黒褐色ブロック・粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）



第118図　第９号掘立柱建物跡土層断面図



第119図　第10号掘立柱建物跡

第11号掘立柱建物跡（第120図）

Ｊ―28グリッドを中心に位置する。Ⅳ区第４号区画溝と重複し、新旧関係は本遺構の方が新しい。

２間×４間の建物で、梁行3.9m、桁行9.4m、面積は36.66㎡を測る。柱間は梁行が1.9m、桁行は3.0m前後を基本とする。ただ、中間にさらに小ピットが存在する。主軸方向はＮ－３°－Ｅを指す。

柱穴は径40cm前後の円形を呈する。深さは27cm～40cmを測る。柱痕は確認できなかった。

出土遺物は、検出できなかった。

第12号掘立柱建物跡（第121図）

Ｉ―23グリッドを中心に位置する。第29号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。

２間×２間の建物で、梁行4.3m、桁行4.6m、面積は19.78㎡を測る。柱間は梁行が2.1m、桁行が2.3mを測る。主軸方向はＮ－90°－Ｅを指す。

柱穴は長径40～67cm、短径33～53cmを測る楕円形を呈するが、本来は長方形に掘られたものと推測される。Ｐ１、Ｐ８に柱痕と思われる土層が把握できる。深さは35cm前後であった。

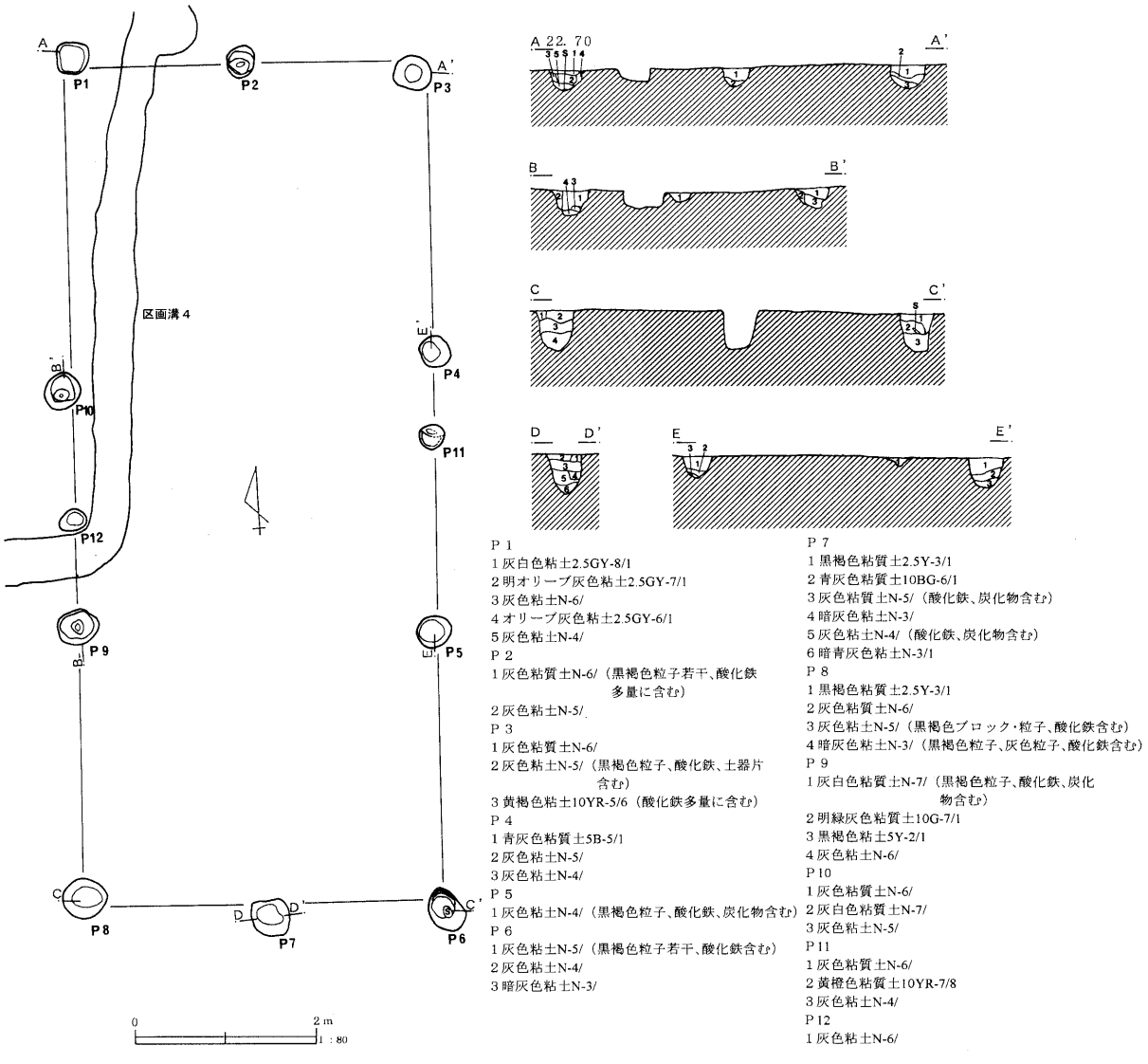
出土遺物は、土師器坏・甕などの破片が出土したが図示可能な遺物ではなかった。

第13号掘立柱建物跡（第122図）

Ｑ―26グリッドを中心に位置する。Ⅳ区第３・11号区画溝と重複する。新旧関係は、第３号区画溝、次いで本遺構、そして第11号区画溝である。

２間×２間の側柱建物で、梁行4.2m、桁行5.3m、面積は22.26㎡を測る。柱間は梁行が2.1m、桁行が2.6mを測る。主軸方向はほぼ真北である。

柱穴は、小さなものは35cm前後、大きなもので67cmと不揃いであった。形は楕円形に近いものが多い。柱痕を認められるものはなかった。



P 1
1 灰白色粘土2.5GY-8/1
2 明オリーブ灰色粘土2.5GY-7/1
3 灰色粘土N-6/
4 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1
5 灰色粘土N-4/
P 2
1 灰色粘質土N-6/（黒褐色粒子若干、酸化鉄多量に含む）
2 灰色粘土N-5/
P 3
1 灰色粘質土N-6/
2 灰色粘土N-5/（黒褐色粒子、酸化鉄、土器片含む）
3 黄褐色粘土10YR-5/6（酸化鉄多量に含む）
P 4
1 青灰色粘質土5B-5/1
2 灰色粘土N-5/
3 灰色粘土N-4/
P 5
1 灰色粘土N-4/（黒褐色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
P 6
1 灰色粘土N-5/（黒褐色粒子若干、酸化鉄含む）
2 灰色粘土N-4/
3 暗灰色粘土N-3/

P 7
1 黒褐色粘質土2.5Y-3/1
2 青灰色粘質土10BG-6/1
3 灰色粘質土N-5/（酸化鉄、炭化物含む）
4 暗灰色粘土N-3/
5 灰色粘土N-4/（酸化鉄、炭化物含む）
6 暗青灰色粘土N-3/1
P 8
1 黒褐色粘質土2.5Y-3/1
2 灰色粘質土N-6/
3 灰色粘土N-5/（黒褐色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
4 暗灰色粘土N-3/（黒褐色粒子、灰色粒子、酸化鉄含む）
P 9
1 灰白色粘質土N-7/（黒褐色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
2 明緑灰色粘質土10G-7/1
3 黒褐色粘土5Y-2/1
4 灰色粘土N-6/
P 10
1 灰色粘質土N-6/
2 灰白色粘質土N-7/
3 灰色粘土N-5/
P 11
1 灰色粘質土N-6/
2 黄橙色粘質土10YR-7/8
3 灰色粘土N-4/
P 12
1 灰色粘土N-6/

第120図　第11号掘立柱建物跡

出土遺物は、検出できなかった。

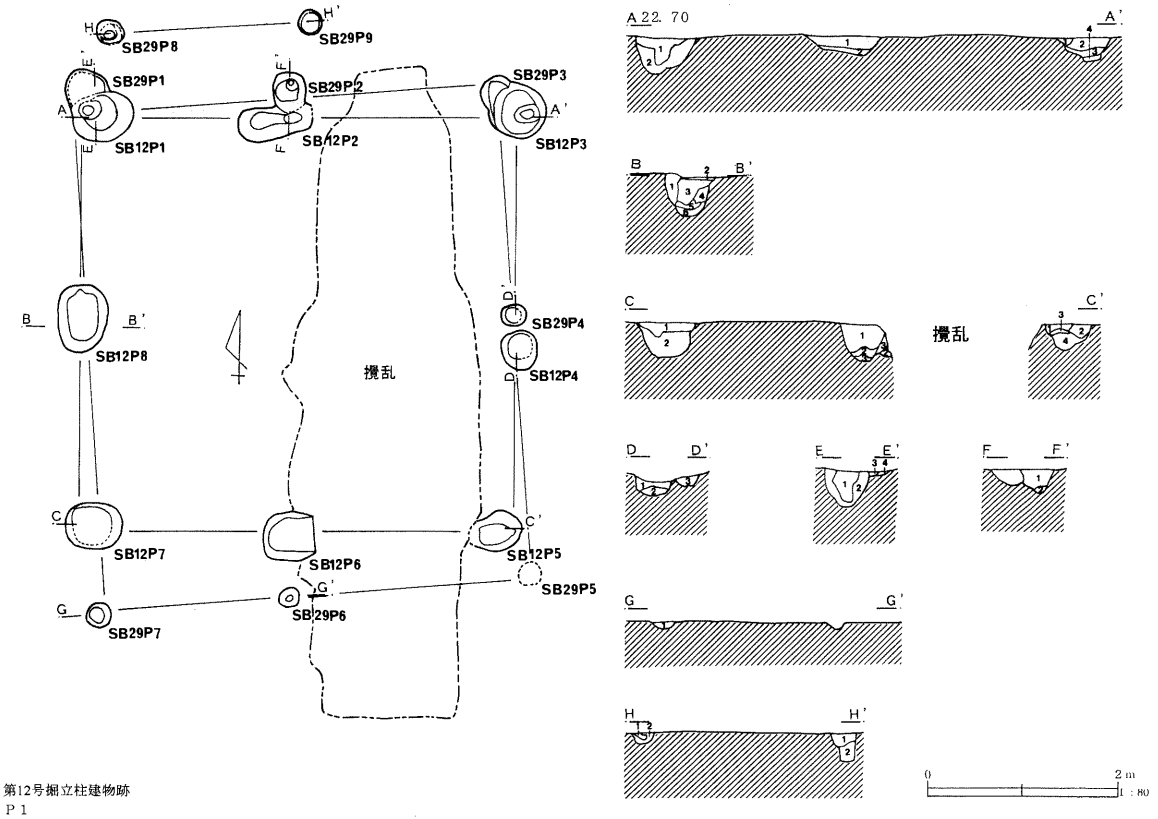
第14号掘立柱建物跡（第123図）

Q—29グリッドに位置する。第27号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が切っている。

南側の大半は調査区域外となり、全体の規模や形状などは明らかにし得なかった。２間×３間以上の東西棟で、検出部分で梁行3.9m、桁行7.7m、面積はおよそ30.03㎡と推測される。主軸方向はN—90°—Wを指す。

柱穴は、径40cmから53cmと不揃いな大きさで、不整楕円形を呈している。柱痕はどの柱穴からも確認できなかった。

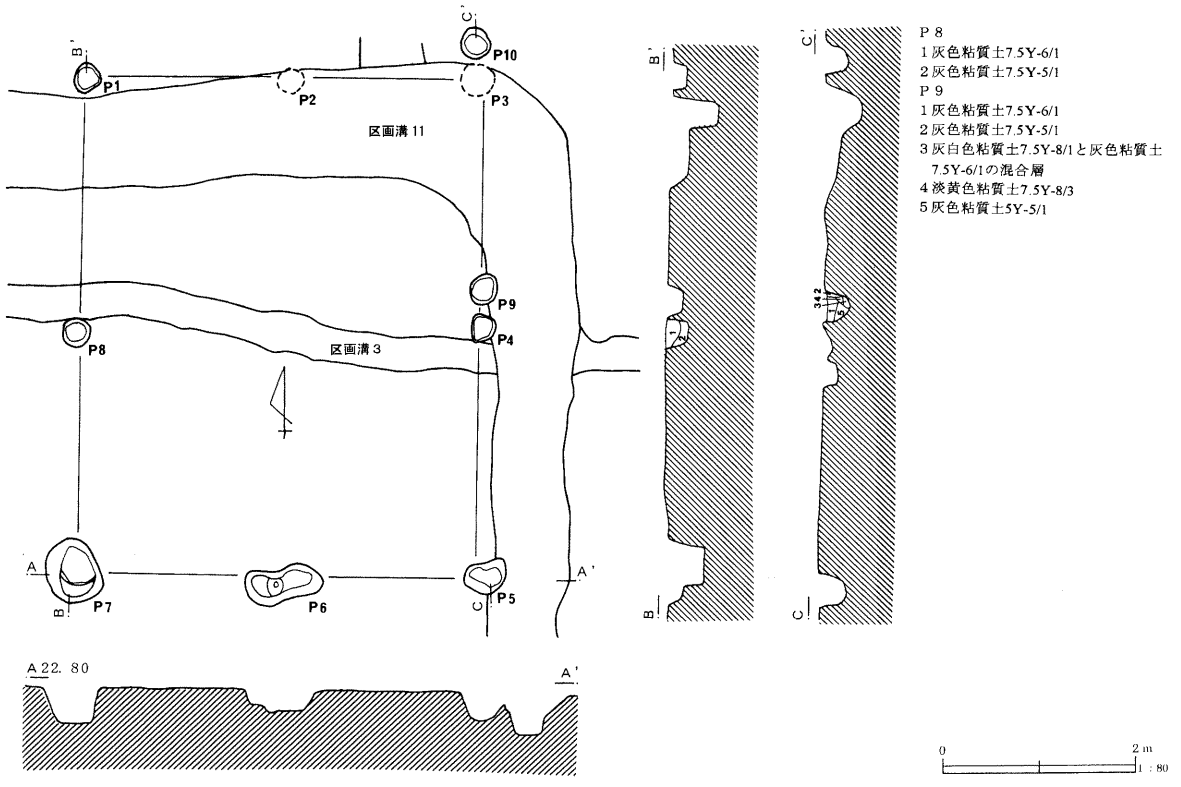
出土遺物は、検出できなかった。



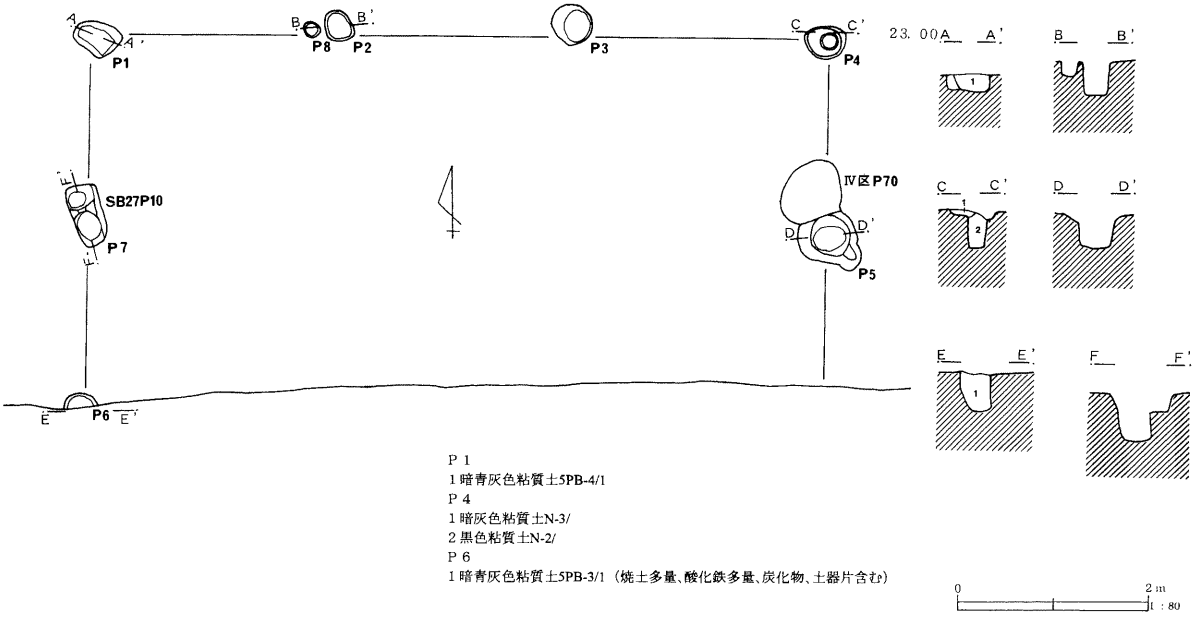
第12号掘立柱建物跡
P 1
1 灰色粘質土N-5/（暗灰色粒子、明黄褐色粒子、酸化鉄含む）
2 灰色粘土N-4/（暗灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
P 2
1 灰色粘土N-4/（暗灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
2 青黒色粘質土5PB-2/1
P 3
1 暗灰色粘質土N-3/
2 灰白色粘質土N-7/（暗灰色粒子多量、酸化鉄含む）
3 灰色粘土N-5/
4 青黒色粘質土5PB-2/1
P 4
1 灰色粘質土N-5/（暗灰色粒子多量、酸化鉄含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-3/1
P 5
1 オリーブ灰色粘質土2.5GY-6/1
2 灰色粘質土N-6/（しまりない、焼土、炭化物多量、酸化鉄含む）
3 暗灰色粘土N-3/
4 灰色粘土N-5/（暗灰色粒子若干、酸化鉄含む）
P 6
1 灰色粘土N-6/（暗灰色粒子、酸化鉄、焼土若干含む）
2 明黄褐色粘土2.5Y-6/8（酸化鉄を含み明黄褐色を呈する、暗灰色粒子含む）
3 灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子多量、酸化鉄含む）
P 7
1 オリーブ灰色粘質土2.5GY-6/1（暗灰色粒子若干、酸化鉄多量に含む）
2 灰色粘土N-5/（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
P 8
1 灰白色粘質土7.5Y-7/1（灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土N-5/
3 灰白色粘質土N-7/（酸化鉄、灰色粒子含む）
4 灰色粘質土N-6/
5 暗灰色粘質土N-3/
6 灰色粘質土N-5/

第29号掘立柱建物跡
P 1
3 暗灰色粘質土N-3/
4 灰色粘質土7.5Y-6/1
P 2
1 灰色粘土N-5/（暗灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
2 灰色粘土N-4/
P 4
3 灰色粘質土N-6/
P 7
1 灰色粘土N-5/
P 8
1 青黒色粘質土ブロック5PB-2/1
2 オリーブ灰色粘質土2.5GY-6/1
P 9
1 灰色粘質土N-5/
2 灰色粘土N-4/（暗灰色粒子、酸化鉄含む）

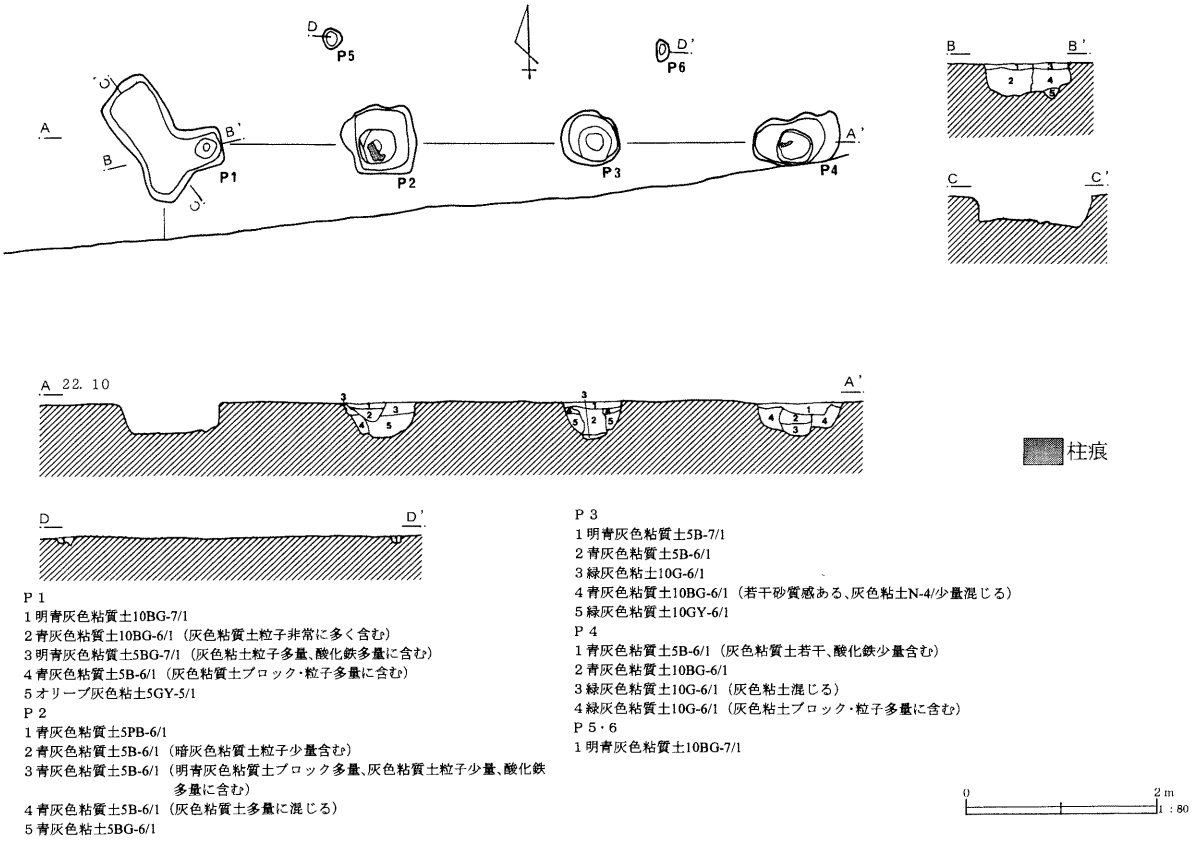
第121図　第12・29号掘立柱建物跡



第122図　第13号掘立柱建物跡



第123図　第14号掘立柱建物跡



第124図　第15号掘立柱建物跡

第15号掘立柱建物跡（第124図）

8区H—29グリッド、I—29グリッドにまたがり位置する。

遺構の大半が南側の調査区域外となっており、北壁寄りの桁行方向が3間確認されたのみである。桁行の長さは6.2m、柱間はおよそ2.0mを測る。主軸の方向は、N—88°—Wを指す。

柱穴の形状は、P2に見られるような径65cm前後の方形の形状が本来の形と思われるが、他の柱穴はいずれも不整形となっている。深さは40cm前後である。P3、P4に柱痕が確認できる。P2から柱の材が検出できた。柱痕から推測すると柱は20cm前後と思われる。

出土遺物は、土師器の細片が検出できたにすぎなかった。

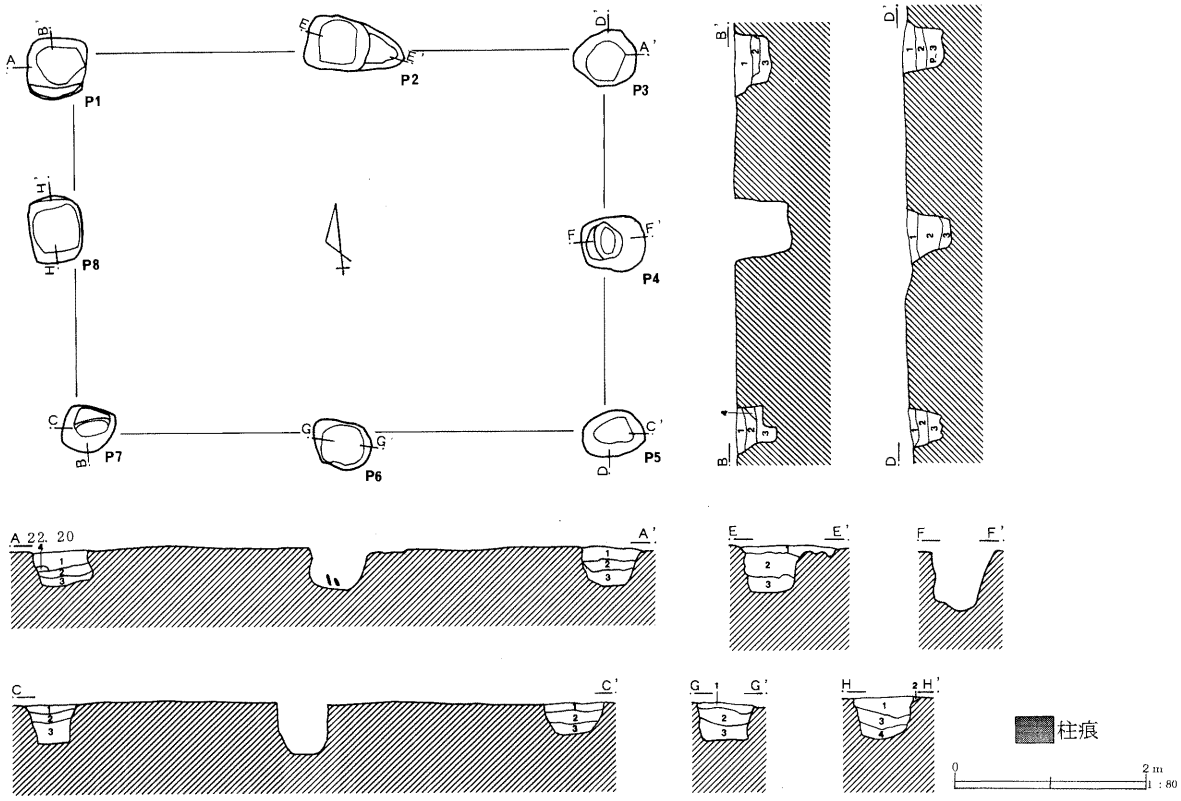
第16号掘立柱建物跡（第125図）

8区G—26、G—27グリットを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

2間×2間の側柱建物で、梁行3.9m、桁行5.7m、面積22.23m²を測る。柱間は梁行1.9m、桁行2.8mで、主軸方向はN—83°—Wを指す。

柱穴は楕円形と隅丸方形のものがあるが、基本的に方形に掘られたものと思われる。径は55cm前後である。深さは40cm前後である。いずれの柱穴も柱痕は確認できなく、抜き取られたと思われる。

出土遺物は、土師器坏・甕の破片が検出できたが、図示可能な遺物ではなかった。



P1
1青灰色粘質土5B-5/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する）
2暗青灰色粘質土5B-4/1
3暗青灰色粘質土10BG-4/1
4暗灰色粘質土N-3/
P2
1青灰色粘質土5B-6/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、灰色ブロック・粒子含む）
2灰色粘質土N-5/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する）
3暗青灰色粘質土10BG-4/1
P3
1灰色粘質土N-6/（マンガン粒子、焼土若干、酸化鉄多量に含む）
2青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
3暗青灰色粘質土5B-4/1
P4
1青灰色粘質土10BG-6/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、暗青灰色粒子多量、マンガン粒子含む）
2青灰色粘質土5BG-5/1
3青灰色粘質土5B-5/1（暗青灰色ブロック少量、酸化鉄少量含む）
P5
1灰色粘質土N-6/
2青灰色粘質土5B-5/1（酸化鉄多量含み明褐色を呈する、暗青灰色粒子含む）
3青灰色粘質土5BG-5/1
P6
1灰色粘質土N-5/
2青灰色粘質土5B-6/1（暗青灰色粒子若干、酸化鉄多量に含む）
3青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄若干含む）
P7
1灰色粘質土N-5/
2青灰色粘質土5B-5/1
3暗青灰色粘質土5B-4/1
4灰色粘質土7.5Y-5/1
P8
1青灰色粘質土5B-5/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、マンガン粒子若干含む）
2灰色粘質土N-5/
3暗青灰色粘質土5B-4/1
4暗青灰色粘質土10BG-4/1（暗青灰色ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）

第125図　第16号掘立柱建物跡

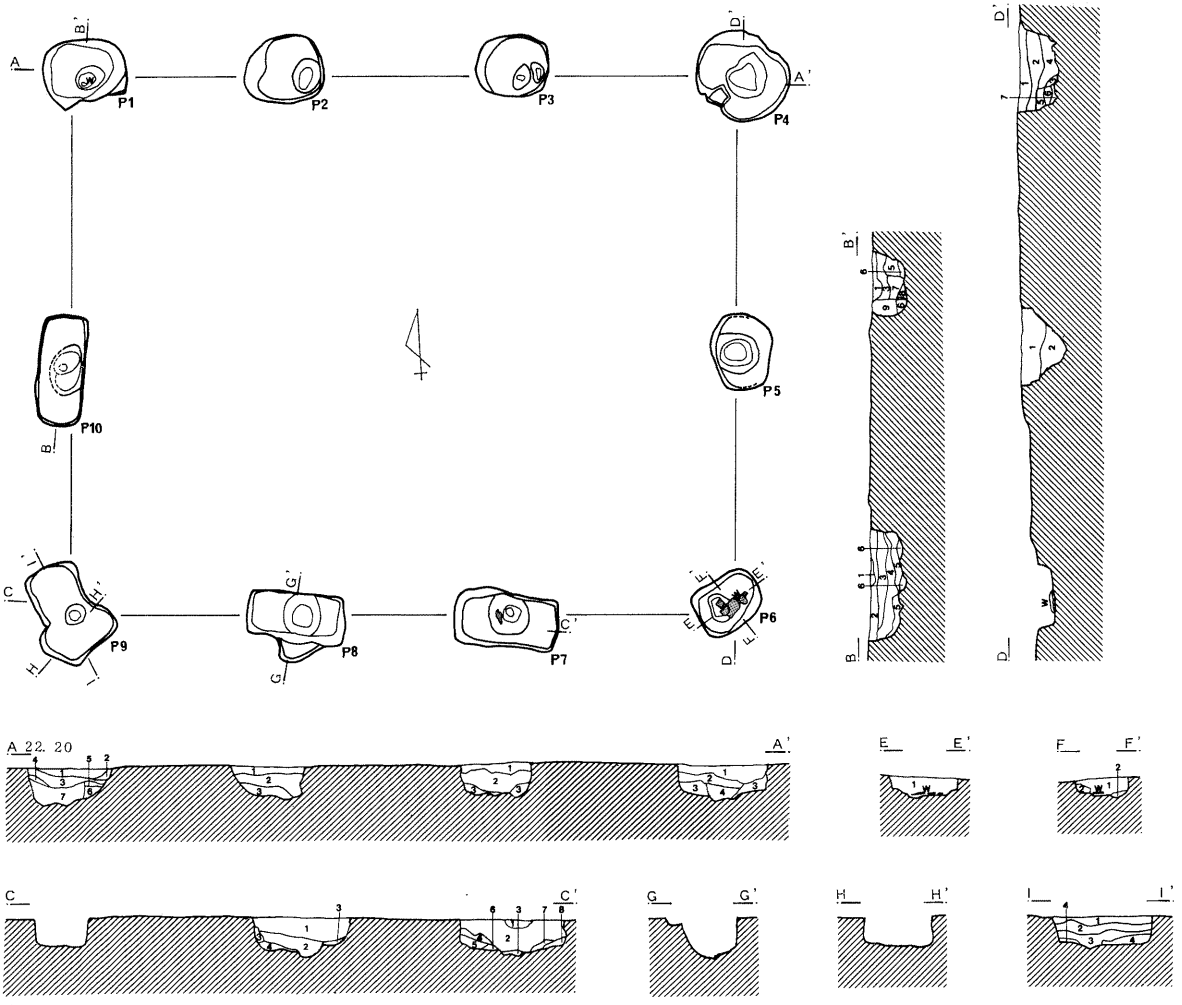
第17号掘立柱建物跡（第126図）

8区L—26グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

2間×3間の東西棟で、梁行5.7m、桁行7.0m、面積39.9m²を測る。柱間は梁行2.8m、桁行2.3mで、主軸方向はN—87°—Wを指す。

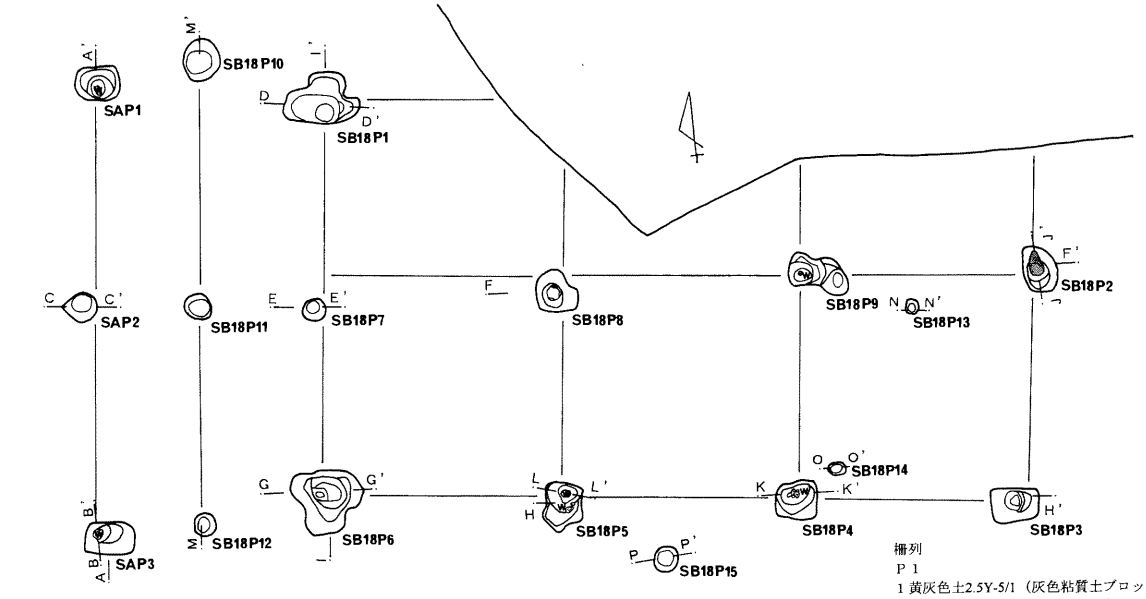
柱穴は楕円形のものが多いが、当初は長方形に造られたと思われ、長径67cm～113cm、短径53cm～67cmを測る。深さは27cm～40cmと浅い。P6に柱の材が検出されたが、他の柱穴では柱痕も明確でなく、柱は抜き取られた可能性は高い。

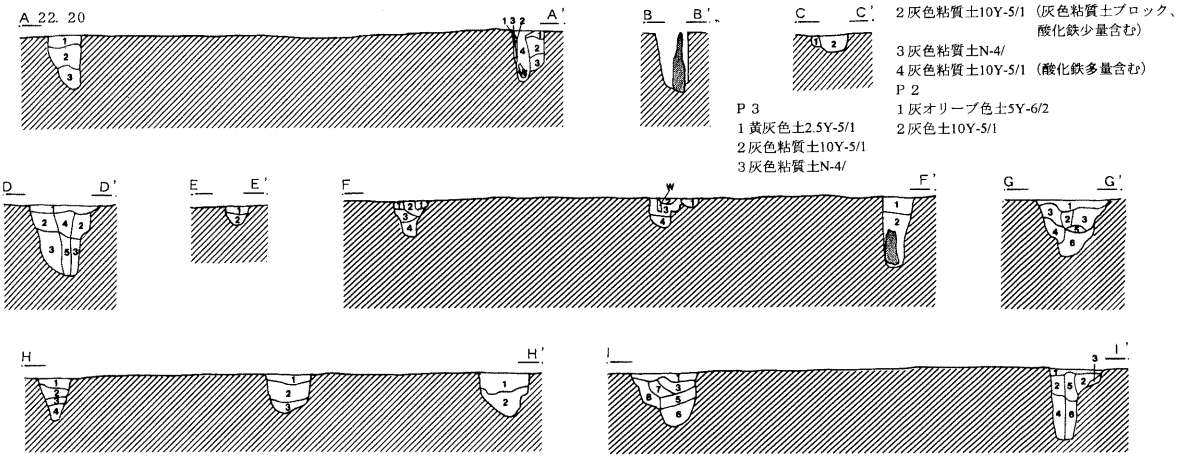
出土遺物は、土師器坏の破片が検出できたが、図示可能な遺物ではなかった。

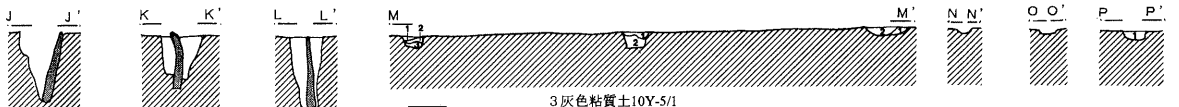


P 1
1 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄多量に含む）
2 明オリーブ灰色粘質土2.5GY-7/1
3 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄多量に含む）
4 灰色粘質土N-4/ブロック層（青灰色粘質土若干混入、酸化鉄若干含む）
5 灰色粘質土N-4/
6 緑灰色粘質土10G-6/1
7 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘土小ブロック・粒子少量含む）
8 灰色粘土N-4/（柱痕あり）
9 青灰色粘質土5BG-6/1
P 2
1 青灰色粘砂土5PB-6/1
2 青灰色粘質土5B-6/1
3 青灰色粘質土10BG-6/1
P 3
1 青灰色粘砂土5PB-6/1
2 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘土微粒子多量、酸化鉄若干含む）
3 緑灰色粘質土10G-6/1（灰色粘土小ブロック多量に含む）
P 4
1 青灰色粘砂土5PB-6/1（灰色粘土小ブロック・粒子・微粒子多量、酸化鉄多量に含む）
2 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘土小ブロック若干、酸化鉄ごくわずか含む）
3 緑灰色粘質土10G-6/1（粘性比較的つよい、灰色粘土小ブロック・粒子多量に含む）
4 青灰色粘土5B-6/1（粘性つよい、灰色粘土小ブロック・粒子少量含む）
5 青灰色粘質土10BG-6/1（酸化鉄ごくわずか含む）
6 灰色粘土
7 青灰色粘質土5PB-5/1（酸化鉄ごくわずか含む）
P 5
1 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘土微粒子若干、酸化鉄少量含む）
2 青灰色粘土10BG-6/1（粘性つよい、灰色粘土混じる）
P 6
1 青灰色粘質土5PB-6/1（若干砂質感ある、灰色粘質土微粒子若干、酸化鉄少量含む）
2 青灰色粘質土5BG-6/1（灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄若干含む）
P 7
1 青灰色粘砂土5PB-6/1（酸化鉄多量に含む）
2 青灰色粘質土5B-6/1（砂質感ある、酸化鉄少量含む）
3 青灰色粘土10BG-6/1（灰色粘土粒子若干混入）
4 青灰色粘質土10BG-6/1（暗青灰色粘質土多量に混入）
5 青灰色粘土5BG-6/1（灰色粘土ブロック・粒子少量含む）
6 緑灰色粘土10G-6/1（灰色粘土多量に混入）
7 灰色粘土N-4/
8 緑灰色粘土10G-6/1（灰色粘土混入）
P 8
1 青灰色粘砂土5PB-6/1（灰色粘質土粒子ごくわずか、酸化鉄少量含む）
2 青灰色粘質土10BG-6/1（若干砂質感あり、灰色粘質土粒子ごくわずか含む）
3 緑灰色粘質土10G-6/1（灰色粘質土ブロック多量に混入し全体を占める）
4 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘質土粒子少量含む）
P 9
1 青灰色粘砂土5B-6/1
2 青灰色粘質土5BG-6/1（酸化鉄少量含む）
3 灰色粘質土5BG-6/1（砂質感あり、灰色粘土小ブロック・粒子、酸化鉄若干含む）
4 緑灰色粘質土10G-6/1（灰色粘土ブロック・粒子多量に含む）
P10
1 青灰色粘砂土5PB-6/1（酸化鉄多量に含み浅黄色呈する、褐灰色粘質土粒子少量含む）
2 青灰色粘砂土5B-6/1
3 青灰色粘質土5BG-6/1（灰色粘土粒子ごくわずか、酸化鉄少量含む）
4 青灰色粘土5PB-6/1（灰色粘土ブロック若干、酸化鉄若干含む）
5 青灰色粘質土5BG-6/1（灰色粘土ブロック・粒子多量に含む）
6 緑灰色粘質土10G-6/1（灰色粘土粒子多量に含む）

第126図　第17号掘立柱建物跡







柱痕

第18号掘立柱建物跡

P 1
1 灰色土10Y-6/1
2 青灰色粘質土5B-6/1
3 灰色粘質土10Y-5/1（灰色粘質土小ブロック、酸化鉄含む）
4 青灰色粘質土10BG-5/1
5 灰色粘質土10Y-5/1（黒褐色粘質土小ブロック、酸化鉄、炭化物含む）
6 灰色粘質土N-5/

P 2
1 青灰色粘質土5PB-6/1
2 緑灰色粘土10G-6/1（軟弱、灰色粘土多量に混じる、酸化鉄ごくわずか含む、柱痕残存）

P 3
1 青灰色粘質土5PB-6/1（灰色粘質土小ブロック・粒子、酸化鉄少量含む）
2 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘質土多量に混じる）

P 4
1 青灰色粘砂土5PB-6/1（シルト質、灰色粘質土粒子、酸化鉄多量、炭化物ごくわずか含む）
2 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘質土粒子、酸化鉄少量含む）
3 灰色粘土N-4/（非常に軟弱、緑灰色粘土微粒子含む）

P 5
1 青灰色粘砂土5PB-6/1（シルト質、浅黄色呈する、黄灰色粘質土粒子、酸化鉄少量含む）
2 青灰色粘質土5PB-6/1（黄灰色粘質土粒子若干、酸化鉄少量含む）
3 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘質土粒子多量、酸化鉄少量含む）
4 青灰色粘質土5B-6/1（酸化鉄少量含む）
5 青灰色粘土10BG-6/1（粘性つよい、灰色粘土混入、酸化鉄若干含む）
6 緑灰色粘土10G-6/1（軟弱、灰色粘土混入）

P 6
1 灰黄色土2.5Y-7/2
2 オリーブ灰色粘質土2.5GY-6/1

柵列
P 1
1 黄灰色土2.5Y-5/1（灰色粘質土ブロック少量、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土10Y-5/1（灰色粘質土ブロック、酸化鉄少量含む）
3 灰色粘質土N-4/
4 灰色粘質土10Y-5/1（酸化鉄多量含む）

P 2
1 灰オリーブ色土5Y-6/2
2 灰色土10Y-5/1

P 3
1 黄灰色土2.5Y-5/1
2 灰色粘質土10Y-5/1
3 灰色粘質土N-4/
3 灰色粘質土10Y-5/1
4 灰色粘質土7.5Y-6/1
5 オリーブ灰色粘質土5GY-6/1
6 黒褐色粘質土10YR-3/1
7 オリーブ灰色粘質土2.5GY-5/1
8 緑灰色粘質土7.5GY-6/1

P 7
1 灰オリーブ色土5Y-6/2
2 灰色土10Y-5/1

P 8
1 灰白色粘質土N-7/
2 灰色粘質土N-5/
3 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘質土若干混じる、酸化鉄少量含む）
4 緑灰色粘質土10G-6/1（灰色粘質土粒子少量含む）

P 9
1 青灰色粘砂土5PB-6/1（シルト質、酸化鉄非常に多く含み、明黄橙色を呈する）
2 灰白色粘質土7.5Y-7/2
3 青灰色粘質土5PB-6/1（黄灰色粘質土ブロック若干、酸化鉄少量、炭化物若干含む）
4 青灰色粘土5B-6/1

P10
1 黄灰色土2.5GY-5/1
2 オリーブ灰色土2.5GY-6/1

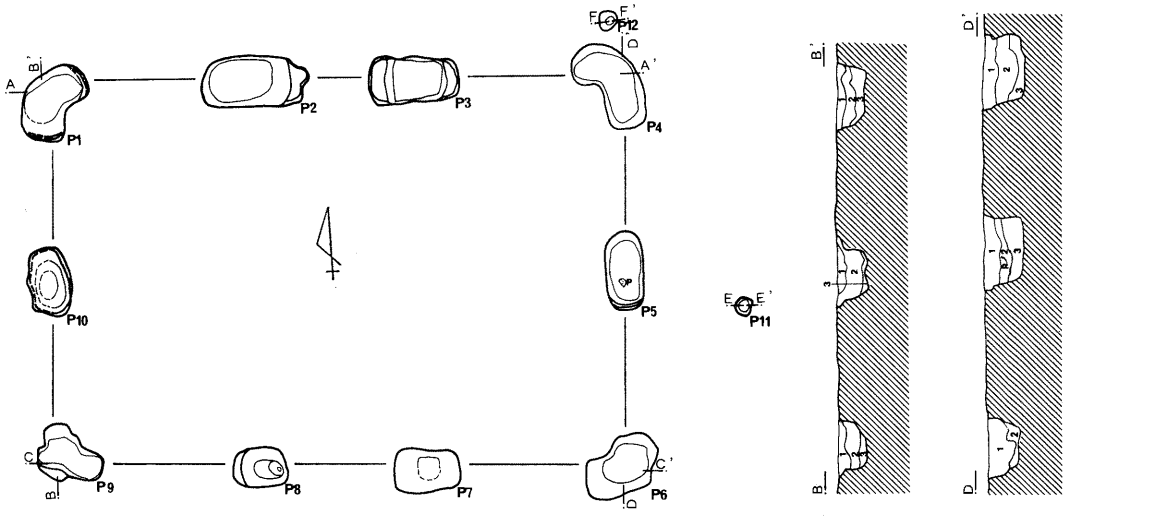
P11
1 灰オリーブ色土5Y-6/2
2 褐灰色土10YR-4/1

P12
1 褐灰色土10YR-4/1
2 黒褐色土10YR-3/1
3 灰色土5Y-5/1

P15
1 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄非常に多く、炭化物若干含む）

0 2m
1 : 80

第127図　第18号掘立柱建物跡



P1
1 青灰色粘質土5B-6/1（砂質感ある、浅黄色呈する、黒褐色粘質土粒子含む）
2 青灰色粘質土10BG-6/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄少量、土器包含）
3 緑灰色粘質土10G-6/1
P2
1 青灰色粘質土5PB-6/1（灰色粘質土、酸化鉄多量に含む）
2 青灰色粘質土5B-6/1（粘性比較的ある、酸化鉄若干含む）
3 緑灰色粘質土10G-6/1
P3
1 青灰色粘質土5PB-6/1（灰色粘質土ブロックわずか、酸化鉄多量に含む）
2 青灰色粘質土5B-6/1
P4
1 青灰色粘質土5PB-6/1（砂質感つよい、灰色粘質土ブロック少量、酸化鉄多量に含む）
2 青灰色粘質土5B-6/1（灰色粘質土ブロック少量含む）
3 緑灰色粘土10G-6/1（暗灰色粘土混じる）

P5
1 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄多量に含む）
2 青灰色粘質土5B-6/1
3 緑灰色粘質土10G-6/1
P6
1 青灰色粘質土5PB-6/1（灰色粘質土ブロック・粒子少量、酸化鉄少量含む）
2 緑灰色粘質土10G-6/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄若干含む）
P7
1 青灰色粘質土5PB-6/1
2 青灰色粘質土5B-6/1
3 緑灰色粘質土10G-6/1
P8
1 青灰色粘質土5PB-6/1
2 緑灰色粘土10G-6/1（粘性つよい、暗灰色粘質土混じる）
3 緑灰色粘土5G-6/1
P9
1 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄多量に含み浅黄色呈する、黒褐色粘質土若干含む）
2 青灰色粘質土5PB-6/1（若干砂質感ある、暗青灰色粘質土ブロック・粒子多量含む）
3 緑灰色粘質土10G-6/1
4 青灰色粘土5B-6/1（粘性非常につよい、酸化鉄ごくわずか含む）
P10
1 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄多量に含み浅黄色呈する、黒褐色粘質土粒子少量含む）
2 青灰色粘質土5PB-6/1（若干砂質感ある、暗青灰色粘質土ブロック・粒子少量含む）
3 緑灰色粘質土10G-6/1

第128図　第19号掘立柱建物跡

第18号掘立柱建物跡（第127図）

8区J—25グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複はないが、北側部分は調査区域外となり、建物の全貌はわからない。

2間×3間の建物で、北側の柱3つが攪乱で確認できなかった。梁行4.1m、桁行7.3m、面積はおよそ29.93m²を測る。柱間は、梁行2.06m～2.12m、桁行2.32m～2.39mであった。

棟筋には、柱筋を揃え、P8、P9が確認できた。屋内に作られた棟持ち柱か、床束と考えられるが、他の柱穴と規模が共通することから、前者と考えられる。

柱穴は径40cm～67cmで、基本的には方形に掘られたと思われるが、不整形、方形、楕円形と様々な形を成している。

柱痕は非常に残りが良く、５つの柱痕で朽ちることなく確認でき、太いもので径13cmを測る。

建物方向はＮ―83°―Ｗを指す南北棟であった。

なお、この建物と同一軸の柵列と思われるピット列を３つ検出した。

出土遺物は、土師器坏、須恵器坏・瓶などの破片が検出できたが、いずれも図示可能な遺物ではなかった。

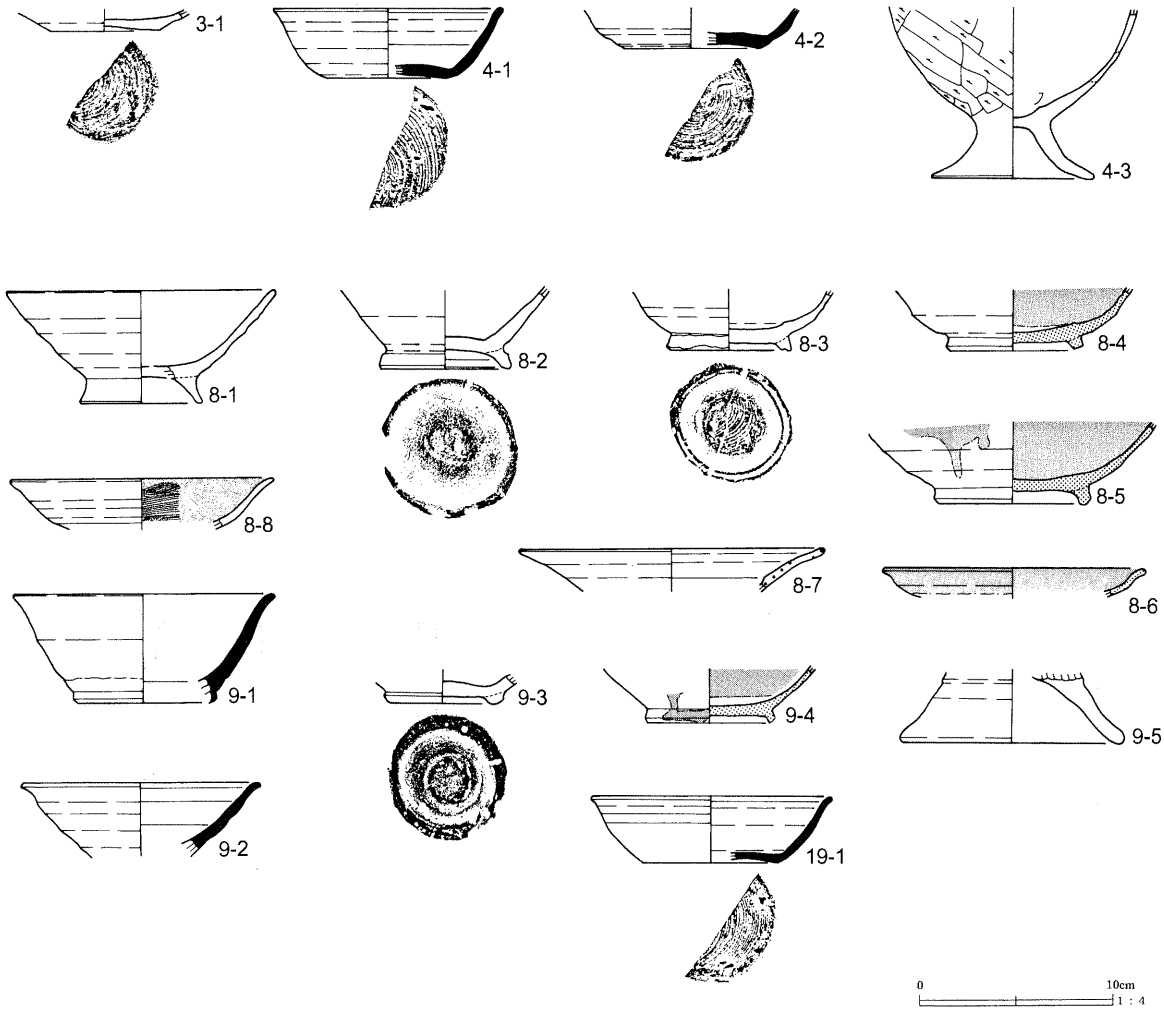
第19号掘立柱建物跡（第128・129図、第23表）

８区Ｉ―26グリッド、Ｊ―26グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

２間×３間の側柱建物で、梁行4.1m、桁行5.9m、面積24.19㎡を測る。柱間は梁行で2.06m、桁行で1.99m、主軸方向はＮ―85°―Ｗを指す。

柱穴は長方形のものが主体で、長径53cm～106cm、短径40cm～53cmを測る。深さは40cm前後と浅い。柱痕を確認できる柱穴はなく、柱は抜き取られたと思われる。

出土遺物は、須恵器坏、土師器細片が検出できた。



第129図　第３・４・８・９・19号掘立柱建物跡出土遺物

第23表　第３・４・８・９・19号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
3-1	須恵器皿	—	—	5.8	FIM	暗褐色	E	30%	南比企産。P1
4-1	須恵器坏	(12.2)	3.7	(6.8)	ACF	明オリーブ灰色	B	40%	南比企産。P10
4-2	須恵器坏	—	—	(7.0)	AFH	灰色	A	底部40%	南比企産。P2
4-3	土師器台付甕	—	—	8.6	ABEIM	外面：橙色　内面：にぶい橙色	A	胴部下半部100%	南比企産。P3
8-1	須恵器椀	14.4	—	—	ABEHJM	橙色	E	口縁部20%	P7
8-2	須恵器椀	—	—	6.8	ACM	灰褐色　暗橙色	E	底部100%	P8
8-3	須恵器椀	—	—	6.6	AB	灰白色	D	体部下半部100%	P6
8-4	灰釉陶器椀	—	—	7.0	ABN	灰白色	A	底部100%	東濃産。P6
8-5	灰釉陶器椀	—	—	7.8	ABGN	灰白色	A	50%	東濃産。P6
8-6	灰釉陶器皿	(13.9)	—	—	AB	灰白色	A	口縁部10%以下	P4
8-7	緑釉陶器段皿	(16.2)	—	—	AP	淡黄色	A	口縁部破片	猿投産。P24
8-8	須恵器坏	(14.0)	—	—	ADGHN	明褐灰色	B	口縁部10%以下	P7
9-1	須恵器椀	(14.0)	5.7	(7.0)	ABN	外面：黒褐色　内面：橙色	E	10%	P9
9-2	須恵器坏	(12.8)	—	—	AFH	暗灰色	A	20%	南比企産。P9
9-3	須恵器椀	—	—	6.4	ABLN	灰色	E	底部100%	末野産。P9
9-4	灰釉陶器椀	—	—	6.5	ABN	外面：灰白色　内面：灰色	A	底部90%	東濃産。P9
9-5	土師器台付甕	—	—	11.8	ABEJM	明赤褐色	E	底部25%	P9
19-1	須恵器坏	(12.8)	3.5	(7.0)	AFH	黒褐色、灰色	A	40%	南比企産。P5

第20号掘立柱建物跡（第130図）

４区M—16グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかったが、建物の北側部分の柱穴は確認することでができなかった。

第３号掘立柱建物跡と東西方向が一致しており、この東西方向が梁行と推定でき２間(4.45m)であった。桁行は柱穴が一つしか確認できておらず、規模は確認できなかった。梁行の柱間は2.2mであった。

柱穴は径13cm～26cm、深さ６cm～13cmと小規模であった。

出土遺物は、検出できなかった。

第27号掘立柱建物跡（第131図）

９区N—29、０—29グリッドを中心に位置する。第14号掘立柱建物跡、Ⅳ区第24号溝跡と重複関係にあり、第14号掘立柱建物跡、Ⅳ区第24号溝跡に切られていた。

２間×３間の建物で梁行3.5m、桁行5.4m、面積18.90㎡を測る。柱間は梁行で1.7m前後、桁行で1.5m～1.8mであった。側柱のＰ２とＰ８の間にＰ11が確認された。柱穴の規模はあまり大きくなく、床束の可能性が考えられる。

柱穴の掘り方は径26cm～53cmの小さな方形、楕円形などの形がある。柱痕はいずれもの柱穴からも確認できなかった。

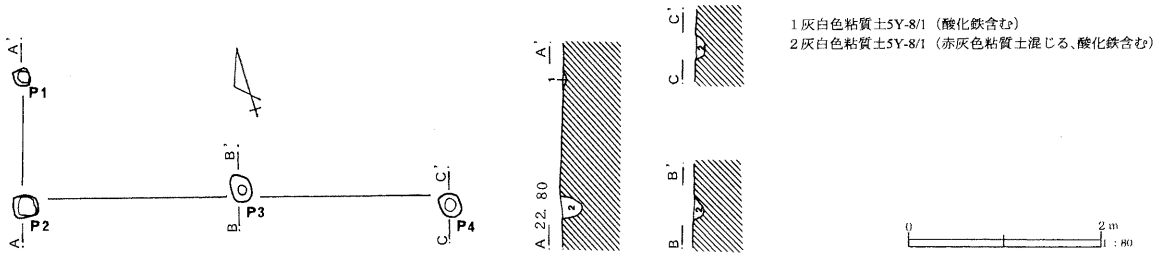
出土遺物は、検出できなかった。

第28号掘立柱建物跡（第132図）

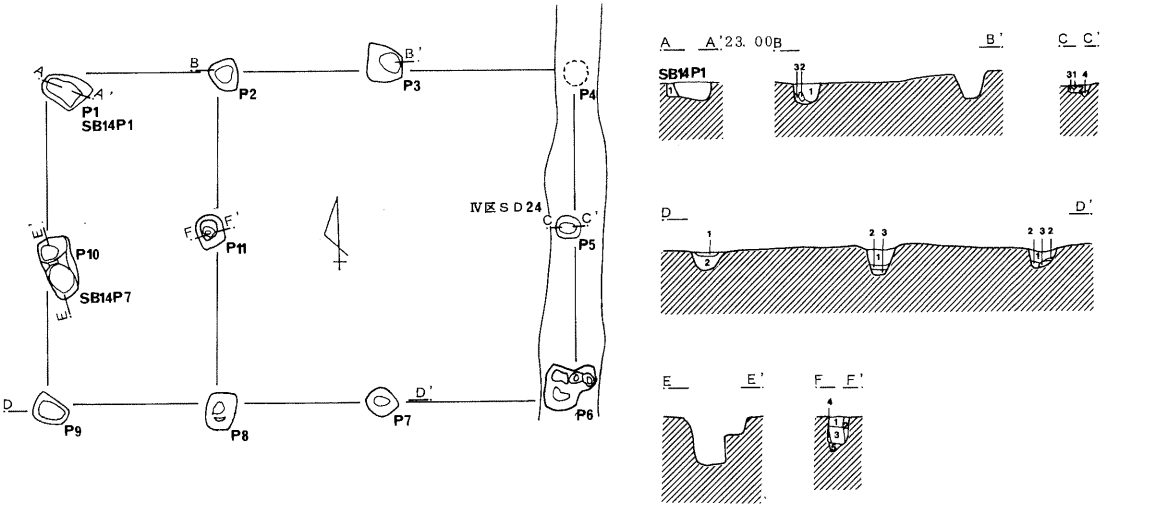
４区S—17、T—17グリッドを中心に位置する。Ⅳ区第34号溝跡、第34号土坑、第36号土坑などと重複しており、土坑はいずれも掘立柱建物跡より新しい。溝は新旧関係が定かでなかった。

２間×３間の身舎の四面に庇がつく建物である。建物規模は、身舎だけで梁行4.45m、桁行6.84mを測り、四面の庇を含めると梁行8.3m、桁行およそ10.6mとなる。ただし、庇の柱穴は他遺構との重複で確認できていないところもある。棟方向はN—87°—Wを指す東西棟である。

身舎の柱間は、梁行でおよそ2.19m、桁行2.26m前後を測る。庇の柱間は梁行が1.66mから2.26mと



第130図　第20号掘立柱建物跡



第27号掘立柱建物跡（A－A'）
1灰色粘質土N-6/

第27号掘立柱建物跡（B－B'）
1暗灰色粘質土N-2/
2暗青灰色ブロック5PB-4/1
3暗灰色粘質土N-3/

第27号掘立柱建物跡（C－C'）
1灰色粘質土N-5/
2灰色粘質土N-4/（黄褐色粒子、酸化鉄含む）
3灰色粘質土N-4/（酸化鉄多量含む）
4暗青灰色粘土5PB-4/1

第27号掘立柱建物跡（D－D'）
P7
1灰色粘質土N-4/
2黒色粘土N-2/
3暗灰色粘土N-3/
P8
1暗青灰色粘質土5PB-4/1（焼土、炭化物、酸化鉄含む）
2暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄多量に含み褐色を呈する、焼土、炭化物含む）
3暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄、炭化物含む）
P9
1灰色粘質土N-4/
2暗灰色粘土N-3/

第27号掘立柱建物跡（F－F'）
1青灰色粘質土5PB-6/1
2灰色粘質土N-4/
3暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄、炭化物含む）
4暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄多量に含む）
5明青灰色粘土5PB-3/1

第131図　第27号掘立柱建物跡

少々ばらつきがあった。桁行は確認できるところで1.6mと2.3mであったが、先に触れたように柱穴の確認が不十分で身舎の柱穴との通りも不揃いである。

身舎の柱穴は径40cm～67cmの楕円形を呈し、深さは45cm前後であった。これら身舎の柱穴に比べ、四面を巡る庇の柱穴は小さなものが多く径40cm前後のものが多く、深さも13cm～40cmと浅いものが多い。柱痕はいずれからも確認できなかった。建物規模の割に、柱穴の規模が小さめであることも指摘できる。

出土遺物は、検出できなかった。

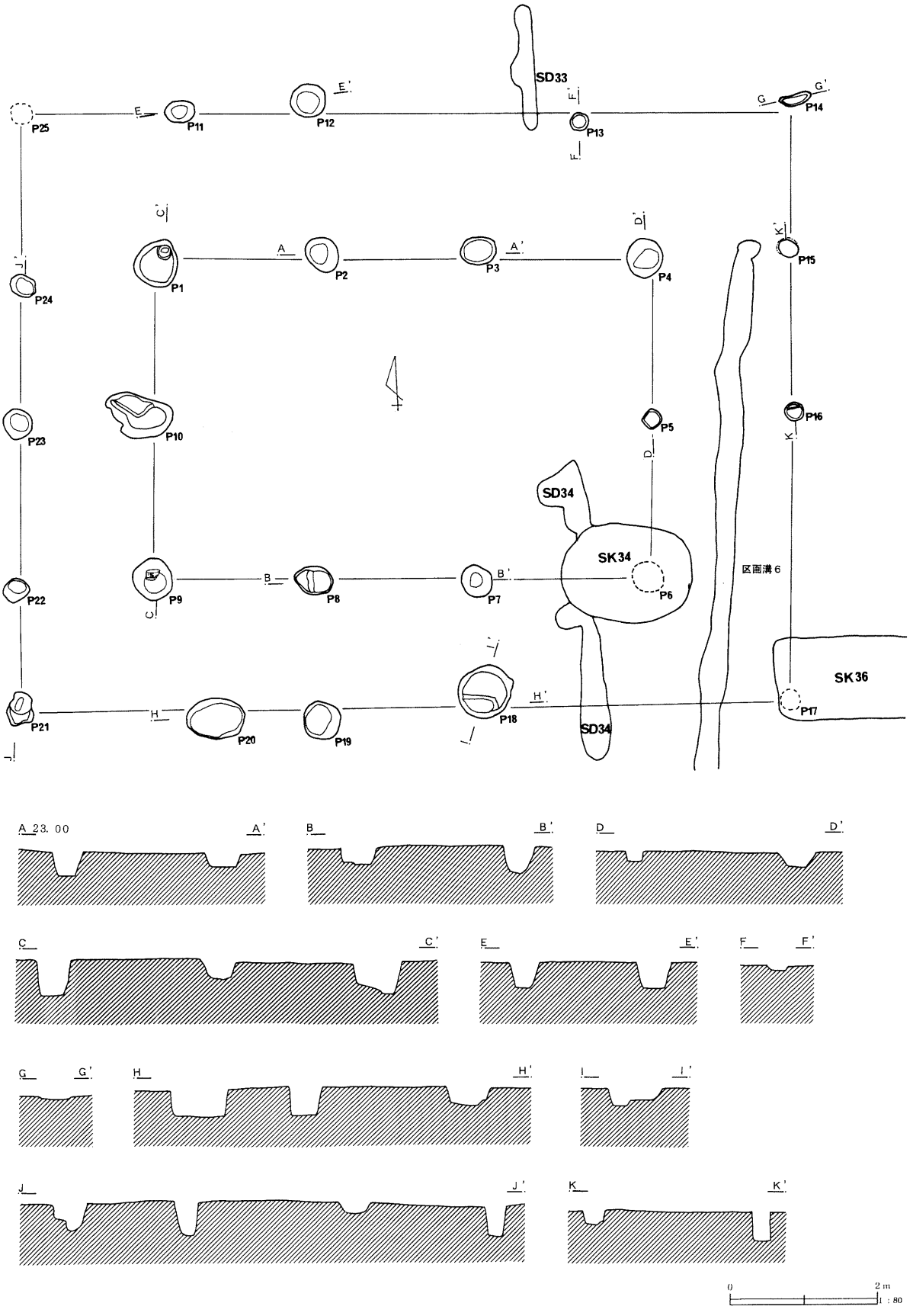
第29号掘立柱建物跡（第121図）

Ⅰ－23グリッドに位置する。第12号掘立柱建物跡を切っている。

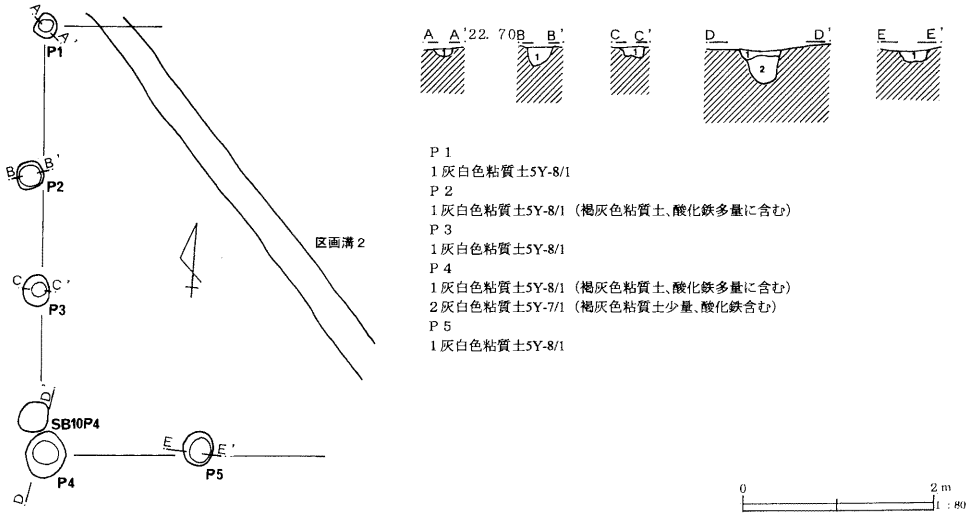
2間×2間の建物で、梁行4.5m、桁行5.3m、面積23.85㎡を測る。柱間は梁行が2.2m、桁行が2.6mを測る。主軸方向はN－6°－Wを指す。

柱穴は径25cm前後の円形を呈する。柱痕は何れのピットでも確認できなかった。

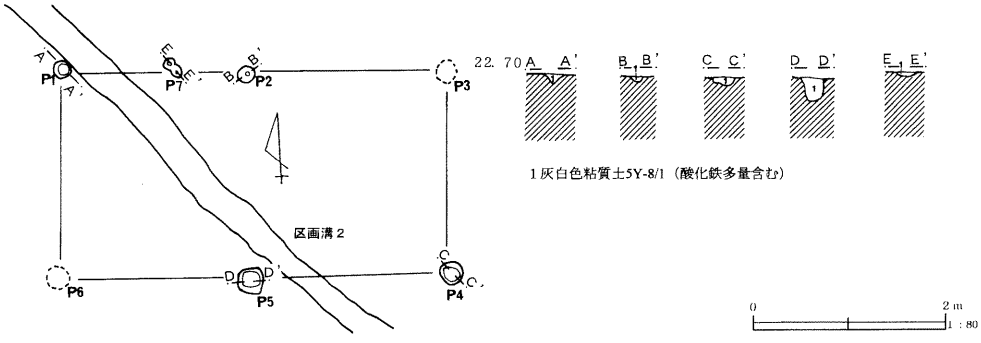
出土遺物は、検出できなかった。



第132図　第28号掘立柱建物跡



第133図　第30号掘立柱建物跡



第134図　第31号掘立柱建物跡

第30号掘立柱建物跡（第133図）

9区K—20グリッドを中心に位置する。第10号掘立柱建物跡、IV区第2号区画溝と重複するが、新旧関係は確認できなかった。

梁行は2間、桁行3間の建物と推測されるが、大半の柱穴が確認できておらず、正確な規模は不明である。梁行は1.6m以上、桁行は4.5mを測る。柱間は桁行で1.5m～1.8mであった。主軸の方向はN—5°—Wを指す。

柱穴は径27cm～46cmと小規模で、深さも13cm～27cmと浅い。

出土遺物は、検出できなかった。

第31号掘立柱建物跡（第134図）

9区J—20グリッドを中心に位置する。第10号掘立柱建物跡、IV区第2号区画溝と重複するが、新旧関係は確認できなかった。

1間×2間の建物と推定した。梁行は2.2m、桁行4.1m、面積9.02㎡を測る。柱間は桁行2.06mを測る。主軸の方向はN—87°—Wを指す。

柱穴はいずれも27cm以内と小さく、深さも7cm前後と浅い。

出土遺物は、検出できなかった。

(3)　ピット・土坑

ピットについては、下層二面目で確認されたピットの説明を行う。土坑については、上層一面目で総数にして93基検出した。以下、一覧表で掲載する（第135～145図、第24～26表）。

縄文時代ピット及び土器出土箇所（第135・136図）

9区S・T－19～21グリッドを中心に縄文時代後期と推定されるわずかなピット及び遺物分布が確認された。ピットの規模は大きなものは径0.5m×0.4m、小さなもので径0.2m前後とまちまちで、大半のものが楕円形を呈していた。深さも確認面から深いもので0.14m、浅いもので0.04m前後であった。規則的な並びも確認できず、性格は不明である。縄文土器は、9区T－20グリッドに分布が集中していた。

出土遺物は、後期の深鉢などが出土した。

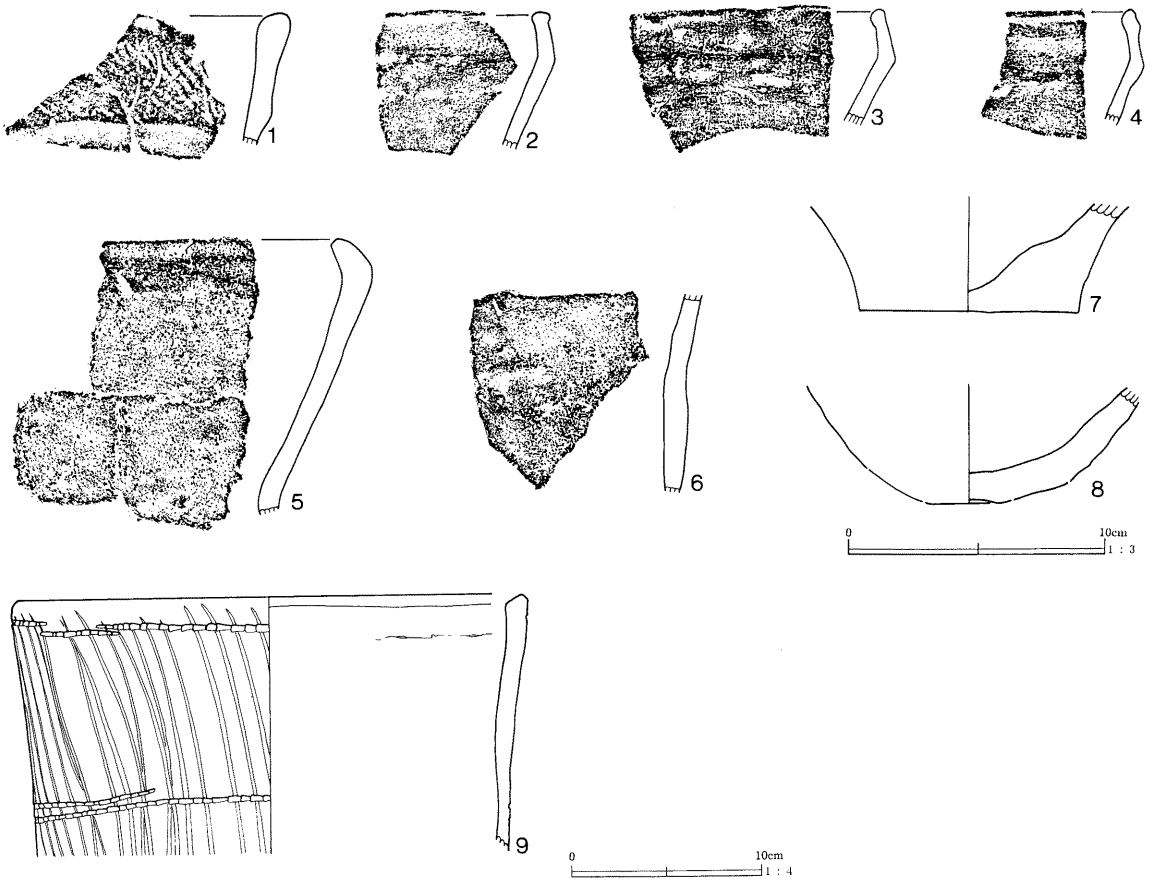
出土遺物

1は口縁部破片である。肥厚する口縁と隆帯間に単節RL縄文が施される。

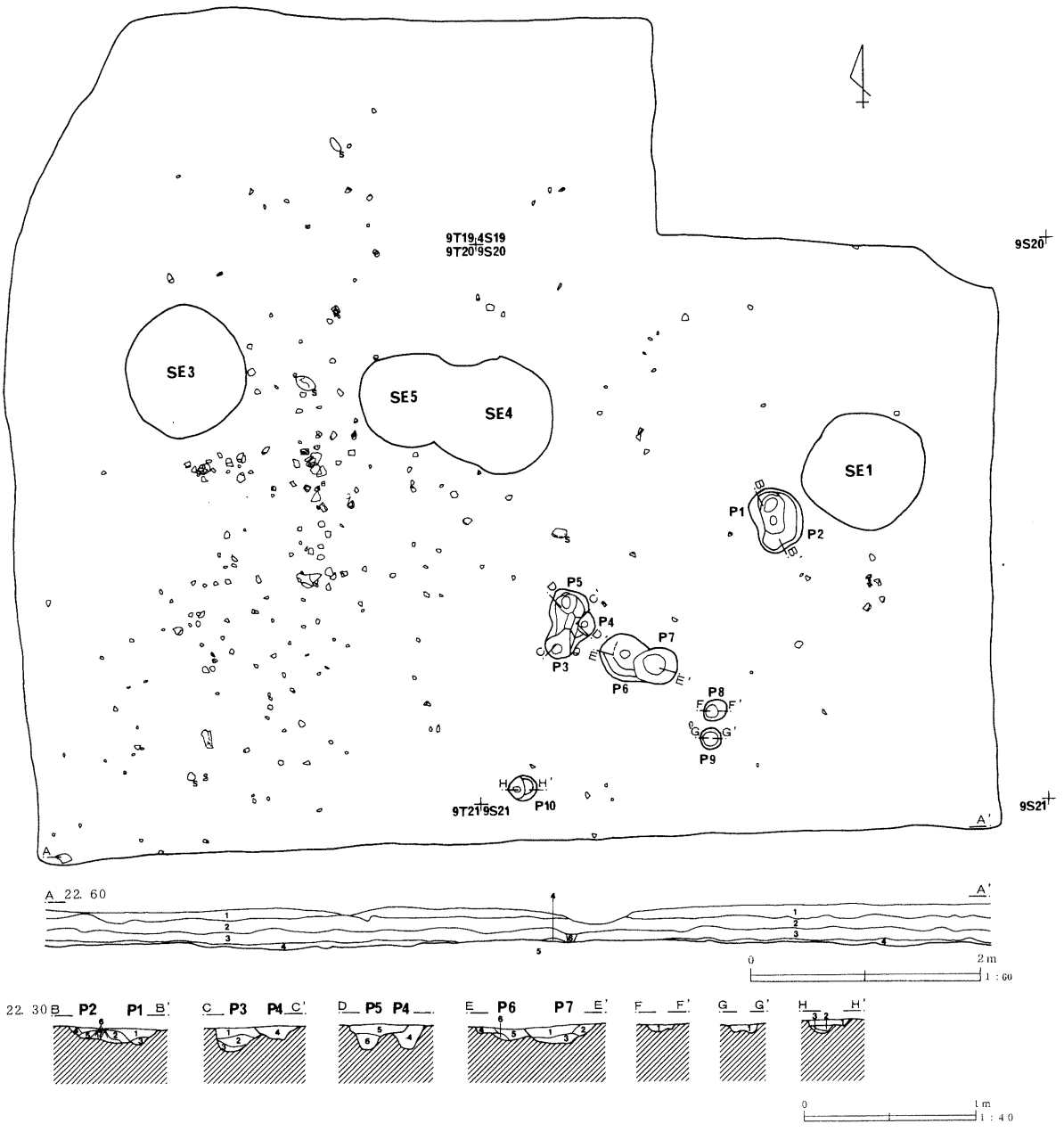
2～6は粗製無文土器である。2～5は口縁部破片であり、いずれも「く」の字状に内屈する。2・3は口縁端部がわずかに肥厚する。6は胴部破片であり、ゆるやかに外反する。7・8は底部破片である。7は平底、8は丸底である。9は口縁部～胴部にかけての破片である。縦位の条線を施した後、口縁部と胴部に右方向から左方向への押引文が巡る。口縁部は直立して立ち上がる。

古墳時代ピット群（第137図）

9区S－22、S－23、T－22、T－23グリッドを中心に古墳時代と推定されるピット群が確認された。



第135図　Ⅳ区縄文土器出土グリッド遺物



A－A'
1 淡黄色粘質土5Y-8/4（灰白色粘質土ブロック少量、酸化鉄多量に含む）
2 褐灰色粘質土10YR-4/1（淡黄色粘質土微粒子、酸化鉄少量含む）
3 灰色粘質土5Y-5/1（マンガン粒子、酸化鉄若干含む）
4 青灰色粘質土5B-6/1（灰白色粘質土粒子少量、酸化鉄少量含む）【縄文遺構確認面】
5 明青灰色粘質土10BG-7/1（酸化鉄多量に含む）
6 攪乱

B－B'
1 灰色粘質土N-4/（灰白色粘質土微粒子少量、酸化鉄少量含む）
2 灰色粘質土N-5/（明緑灰色粘質土若干混じる）
3 灰色粘質土N-5/（明緑灰色粘質土若干混じる）
4 灰色粘質土N-6/（明緑灰色粘質土多量に混じる）
5 灰色粘質土N-4/（酸化鉄若干含む）
6 灰色粘質土N-5/（酸化鉄若干含む）
7 明青灰色粘質土5BG-7/1

C－C'、D－D'
1 オリーブ黒色粘質土5Y-3/1（酸化鉄若干含む）
2 灰色粘質土N-4/（酸化鉄少量含む）
3 灰色粘質土5Y-4/1（明緑灰色粘質土混じる、酸化鉄若干含む）
4 オリーブ黒色粘質土5Y-3/1（酸化鉄若干、マンガン粒子含む）
5 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（灰白色土粒子少量、酸化鉄若干含む）
6 灰色粘質土5Y-4/1（明緑灰色粘質土粒子、酸化鉄少量含む）

E－E'
1 灰色粘質土N-4/（灰白色土粒子若干、酸化鉄少量含む）
2 灰色粘質土N-4/（明緑灰色粘質土多量、暗灰色粘質土混じる、酸化鉄少量含む）
3 灰色粘質土N-4/（明緑灰色粘質土粒子、酸化鉄少量含む）
4 灰色粘質土N-5/（酸化鉄少量含む）
5 灰色粘質土N-5/（明緑灰色粘質土若干混じる、酸化鉄少量、マンガン粒子含む）
6 灰色粘質土N-5/（明緑灰色粘質土混じる）

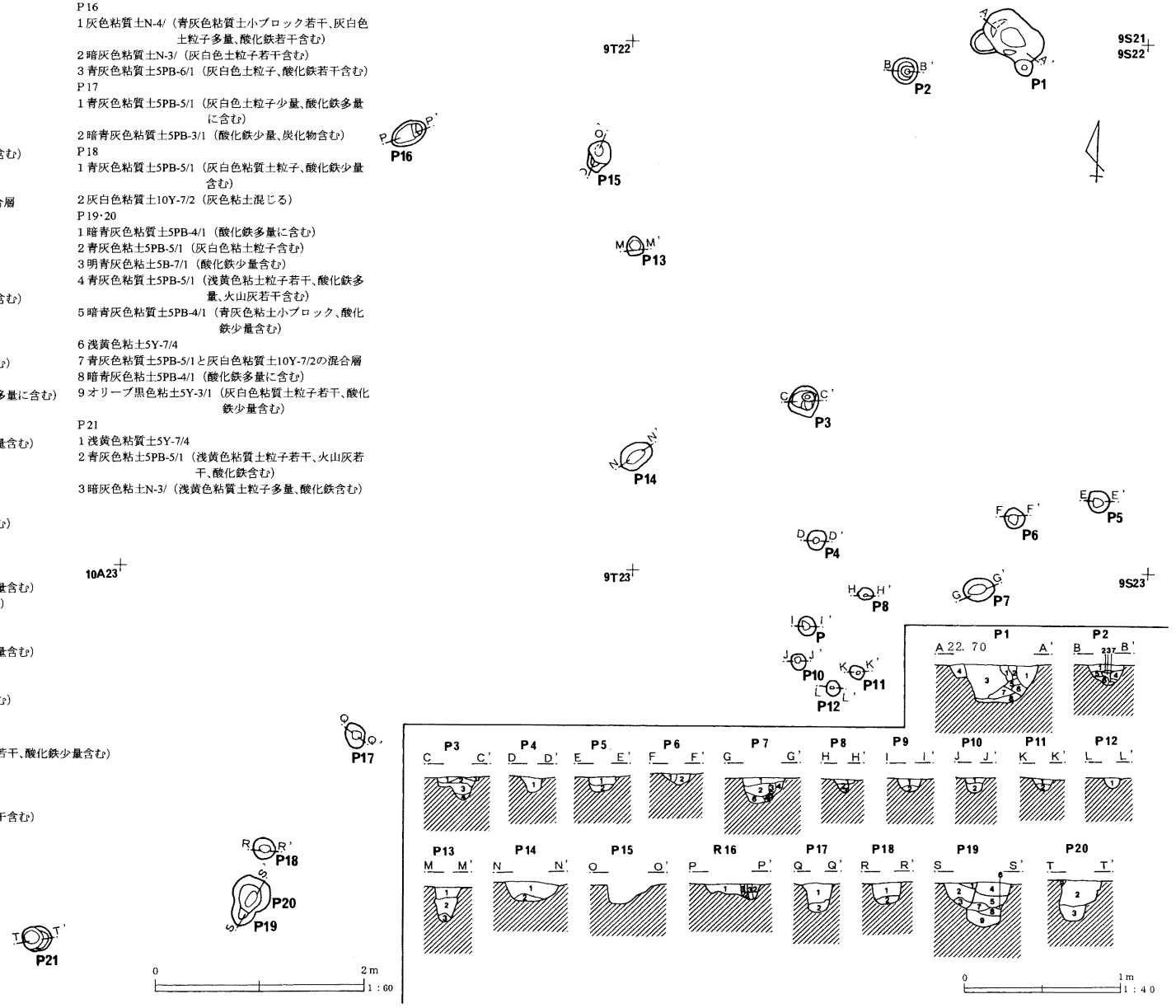
F－F'
1 灰色粘質土N-4/（明緑灰色粘質土微粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子若干含む）

G－G'
1 灰色粘質土N-4/（明緑灰色粘質土微粒子多量、酸化鉄若干含む）

H－H'
1 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
2 オリーブ黒色粘質土5Y-2/1（酸化鉄若干含む）
3 青灰色粘質土5B-6/1（オリーブ黒色粘質土混じる、酸化鉄含む）

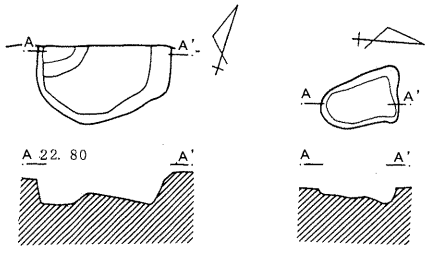
第136図　Ⅳ区縄文土器出土グリッド・ピット

P 1
1 暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄少量含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-3/1（酸化鉄若干含む）
3 暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰白色土粒子、酸化鉄若干含む）
4 明緑灰色粘質土10GY-8/1（ブロック状）
5 暗青灰色粘土5PB-4/1（暗青灰色粘質土若干混入）
6 青灰色粘土5PB-6/1（酸化鉄含む）
7 暗青灰色粘土5PB-3/1
P 2
1 青灰色粘質土5PB-6/1（灰白色土小粒子少量、酸化鉄若干含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰白色土粒子含む）
3 青灰色粘質土5PB-5/1（酸化鉄少量含む）
4 灰白色粘質土粒子10Y-8/2と暗青灰色粘質土5PB-4/1の混合層
5 青灰色粘質土5PB-5/1（酸化鉄含む）
6 灰白色粘質土10Y-8/2
7 暗青灰色粘質土5PB-4/1
P 3
1 灰白色粘質土10Y-8/2（酸化鉄含む）
2 青灰色粘質土5PB-5/1（淡黄色土粒子若干、酸化鉄多量に含む）
3 暗青灰色粘土5PB-4/1（灰白色土混じる、酸化鉄若干含む）
4 灰白色粘質土10Y-8/2（暗青灰色粘土粒子、酸化鉄含む）
P 4
1 青灰色粘質土5PB-6/1（淡黄色粘質土少量、酸化鉄少量含む）
P 5
1 暗青灰色粘質土5PB-4/1（淡黄色粘質土粒子少量、酸化鉄多量に含む）
P 6
1 暗灰色粘質土N-2/（灰白色粘質土粒子少量含む）
2 青灰色粘質土5PB-5/1（淡黄色粘質土粒子少量、酸化鉄少量含む）
P 7
1 青灰色粘質土5PB-5/1（酸化鉄少量含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄多量に含む）
3 灰白色粘質土10Y-8/2ブロック層
4 暗青灰色粘土5PB-3/1（灰白色土粒子若干、酸化鉄少量含む）
5 青灰色粘土5PB-5/1
6 灰白色粘質土10Y-8/2
P 8
1 青灰色粘質土5PB-5/1（淡黄色粘質土粒子若干、酸化鉄少量含む）
2 灰色粘質土N-4/（淡黄色粘質土粒子多量、酸化鉄少量含む）
3 暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰白色粒子若干含む）
P 9・11・12
1 青灰色粘質土5PB-5/1（淡黄色粘質土粒子少量、酸化鉄少量含む）
2 黒褐色粘質土7.5YR-3/1（淡黄色粘質土小ブロック含む）
P10
1 青灰色粘質土5PB-6/1（淡黄色粘質土粒子、酸化鉄若干含む）
2 灰色粘質土5Y-4/1（淡黄色粘質土粒子少量含む）
P13
1 青灰色粘質土5PB-5/1（灰白色粘質土粒子少量、黒色粒子若干、酸化鉄少量含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-4/1（灰色粘質土、酸化鉄若干含む）
3 浅黄色粘質土5Y-7/4（黄灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
P14
1 青灰色粘質土5PB-5/1（浅黄色粘質土粒子若干、酸化鉄若干含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄含む）
P16
1 灰色粘質土N-4/（青灰色粘質土小ブロック若干、灰白色土粒子多量、酸化鉄若干含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（灰白色土粒子若干含む）
3 青灰色粘質土5PB-6/1（灰白色土粒子、酸化鉄若干含む）
P17
1 青灰色粘質土5PB-5/1（灰白色土粒子少量、酸化鉄多量に含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-3/1（酸化鉄少量、炭化物含む）
P18
1 青灰色粘質土5PB-5/1（灰白色粘質土粒子、酸化鉄少量含む）
2 灰白色粘質土10Y-7/2（灰色粘土混じる）
P19・20
1 暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄多量に含む）
2 青灰色粘土5PB-5/1（灰白色粘土粒子含む）
3 明青灰色粘土5B-7/1（酸化鉄少量含む）
4 青灰色粘質土5PB-5/1（浅黄色粘土粒子若干、酸化鉄多量、火山灰若干含む）
5 暗青灰色粘質土5PB-4/1（青灰色粘土小ブロック、酸化鉄少量含む）
6 浅黄色粘土5Y-7/4
7 青灰色粘質土5PB-5/1と灰白色粘質土10Y-7/2の混合層
8 暗青灰色粘土5PB-4/1（酸化鉄多量に含む）
9 オリーブ黒色粘土5Y-3/1（灰白色粘質土粒子若干、酸化鉄少量含む）
P21
1 浅黄色粘質土5Y-7/4
2 青灰色粘土5PB-5/1（浅黄色粘質土粒子若干、火山灰若干、酸化鉄含む）
3 暗灰色粘土N-3/（浅黄色粘質土粒子多量、酸化鉄含む）

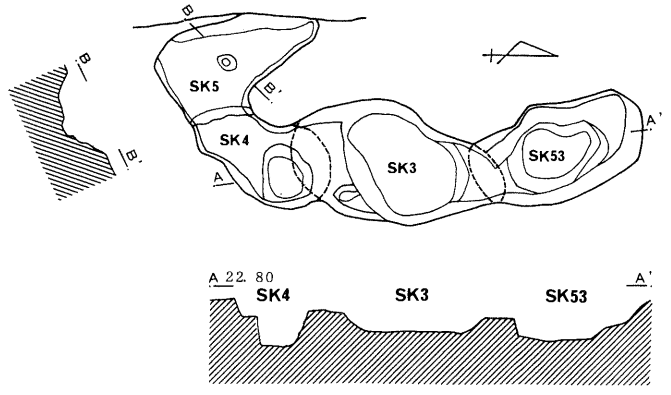


第137図　IV区古墳時代ピット群

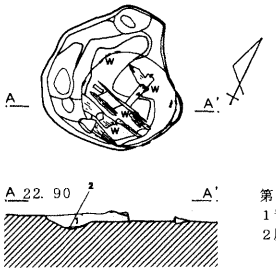
第１号土坑



第３・４・５・53 号土坑

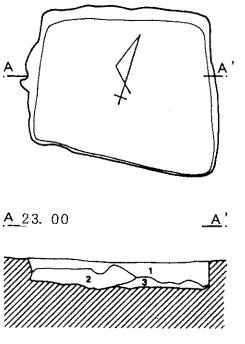


第９号土坑

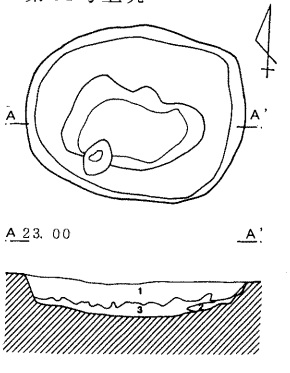


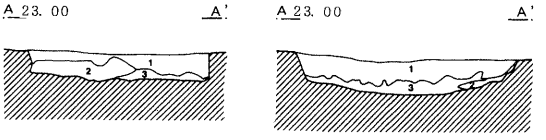
第９号土坑（A－A'）
１青灰色粘土（酸化鉄含む）
２灰褐色粘土

第 31 号土坑

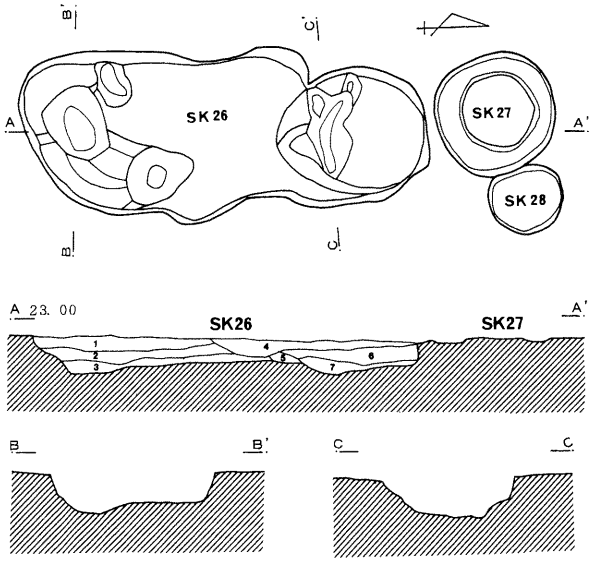


第 34 号土坑





第 26 号土坑



第26号土坑（A－A'）
１緑灰色土7.5GY-6/1（黒色粒子、酸化鉄含む）
２青灰色土10BG-6/1（黒褐色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
３青灰色粘土10BG-6/1（黒色粒子、酸化鉄含む）
４緑灰色土10GY-6/1（黒色粒子、灰白色粒子、酸化鉄含む）
５オリーブ灰色土10GY-6/1（酸化鉄含む）
６青灰色土5BG-5/1（酸化鉄含む）
７青灰色粘土10BG-5/1（酸化鉄含む）

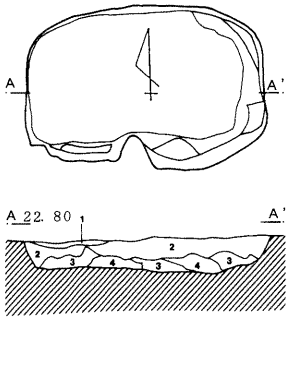
第31号土坑（A－A'）
１灰色粘質土N-6/（酸化鉄含む）
２青灰色粘質土5B-5/1（酸化鉄含む）
３青灰色粘質土5B-5/1（酸化鉄若干含む）

第34号土坑（A－A'）
１灰褐色土（マンガン、酸化鉄多量に含む）
２灰黒色粘土（黒褐色土混じる）
３灰黒色粘土

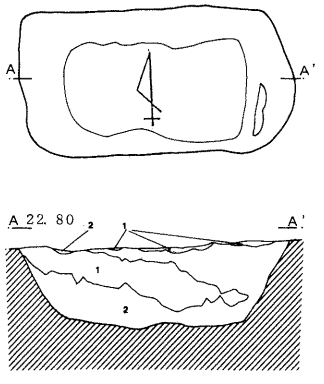
第35号土坑（A－A'）
１灰色土（ざらざらしている）
２灰褐色土（ざらざらしている、酸化鉄、マンガン粒子含む）
３暗灰褐色粘土（黒色粘土わずかに混じる、酸化鉄、マンガン粒子わずかに含む）
４茶褐色粘土（黒色粘土多量、酸化鉄、マンガン粒子わずかに含む）

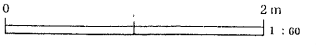
第36号土坑（A－A'）
１灰褐色粘土（酸化鉄、炭化物わずかに含む）
２灰褐色砂（酸化鉄、木片多量に含む）

第 35 号土坑

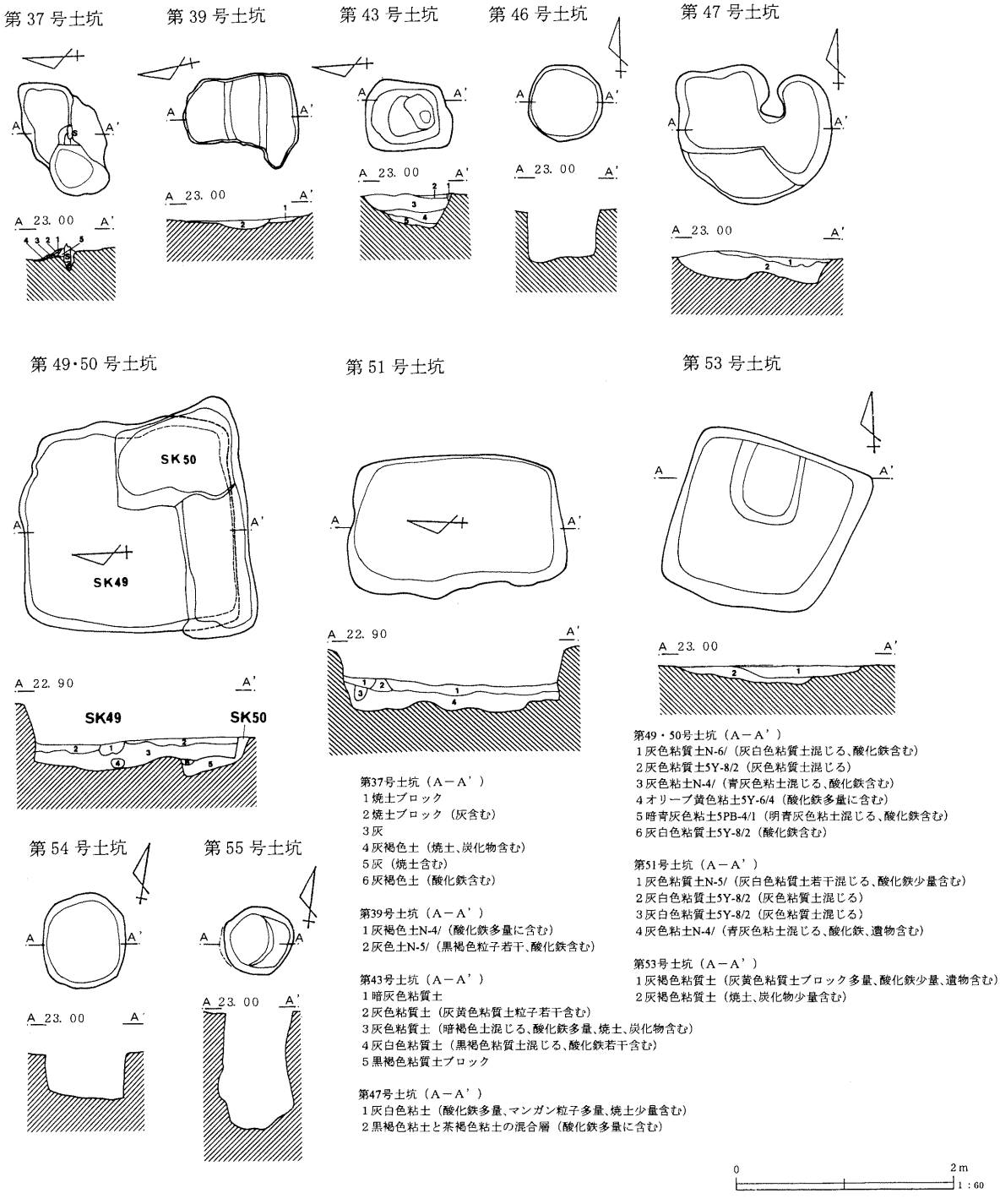


第 36 号土坑





第138図　IV区土坑(1)



第37号土坑（A－A'）
1 焼土ブロック
2 焼土ブロック（灰含む）
3 灰
4 灰褐色土（焼土、炭化物含む）
5 灰（焼土含む）
6 灰褐色土（酸化鉄含む）

第39号土坑（A－A'）
1 灰褐色土N-4/（酸化鉄多量に含む）
2 灰色土N-5/（黒褐色粒子若干、酸化鉄含む）

第43号土坑（A－A'）
1 暗灰色粘質土
2 灰色粘質土（灰黄色粘質土粒子若干含む）
3 灰色粘質土（暗褐色土混じる、酸化鉄多量、焼土、炭化物含む）
4 灰白色粘質土（黒褐色粘質土混じる、酸化鉄若干含む）
5 黒褐色粘質土ブロック

第47号土坑（A－A'）
1 灰白色粘土（酸化鉄多量、マンガン粒子多量、焼土少量含む）
2 黒褐色粘土と茶褐色粘土の混合層（酸化鉄多量に含む）

第49・50号土坑（A－A'）
1 灰色粘質土N-6/（灰白色粘質土混じる、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土5Y-8/2（灰色粘質土混じる）
3 灰色粘土N-4/（青灰色粘土混じる、酸化鉄含む）
4 オリーブ黄色粘土5Y-6/4（酸化鉄多量に含む）
5 暗青灰色粘土5PB-4/1（明青灰色粘土混じる、酸化鉄含む）
6 灰白色粘質土5Y-8/2（酸化鉄含む）

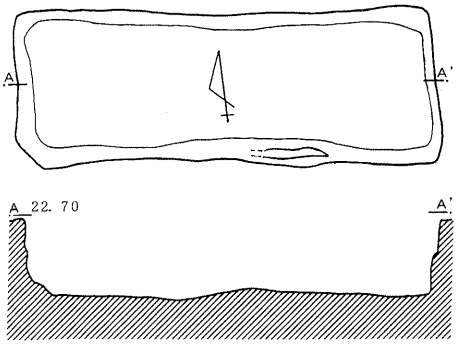
第51号土坑（A－A'）
1 灰色粘質土N-5/（灰白色粘質土若干混じる、酸化鉄少量含む）
2 灰白色粘質土5Y-8/2（灰色粘質土混じる）
3 灰白色粘質土5Y-8/2（灰色粘質土混じる）
4 灰色粘土N-4/（青灰色粘土混じる、酸化鉄、遺物含む）

第53号土坑（A－A'）
1 灰褐色粘質土（灰黄色粘質土ブロック多量、酸化鉄少量、遺物含む）
2 灰褐色粘質土（焼土、炭化物少量含む）

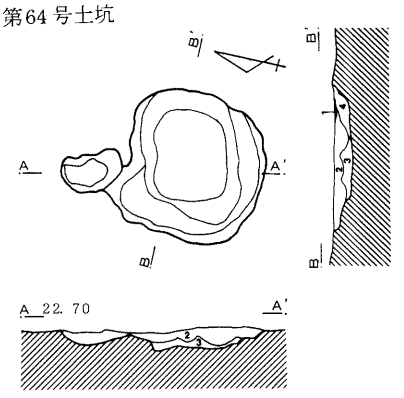
第139図　Ⅳ区土坑(2)

ピットの規模は大きなものは径0.6m×0.4m、小さなもので径0.1m前後、大半のものが径0.2m前後と小さな楕円形を呈した。深さも確認面から深いもので0.2m、浅いもので0.05m前後であった。規則的な並びも確認できず、性格は不明である。

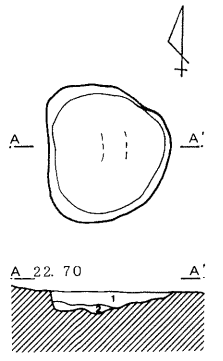
第63号土坑



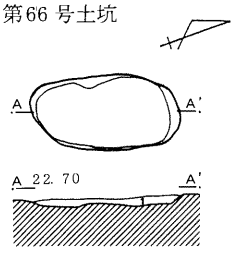
第64号土坑



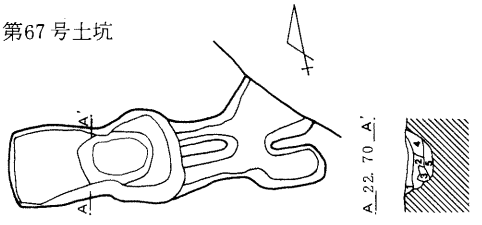
第65号土坑



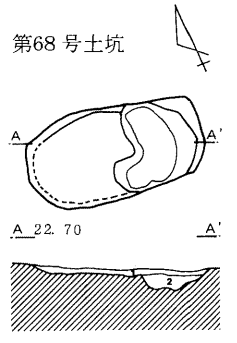
第66号土坑



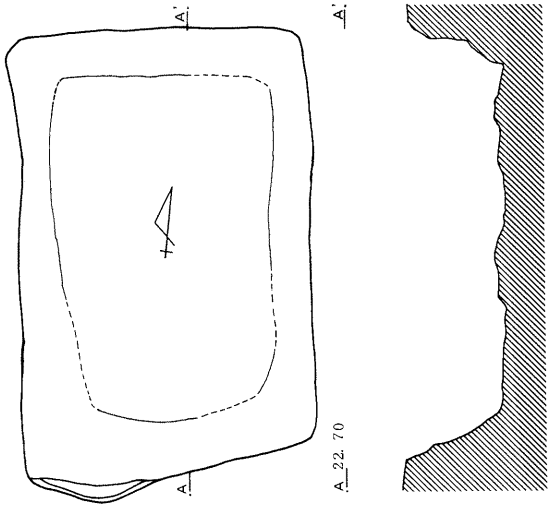
第67号土坑



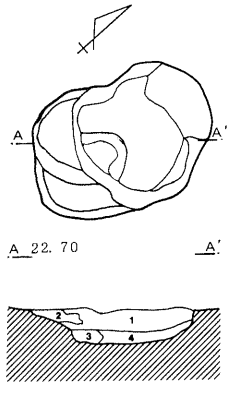
第68号土坑



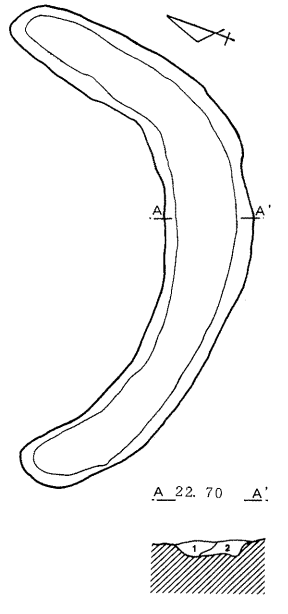
第69号土坑



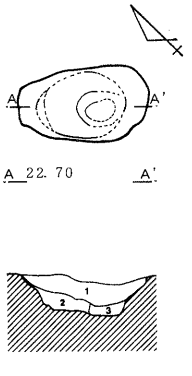
第70号土坑



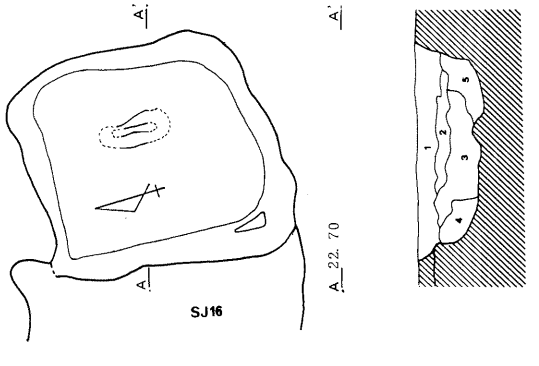
第71号土坑



第72号土坑

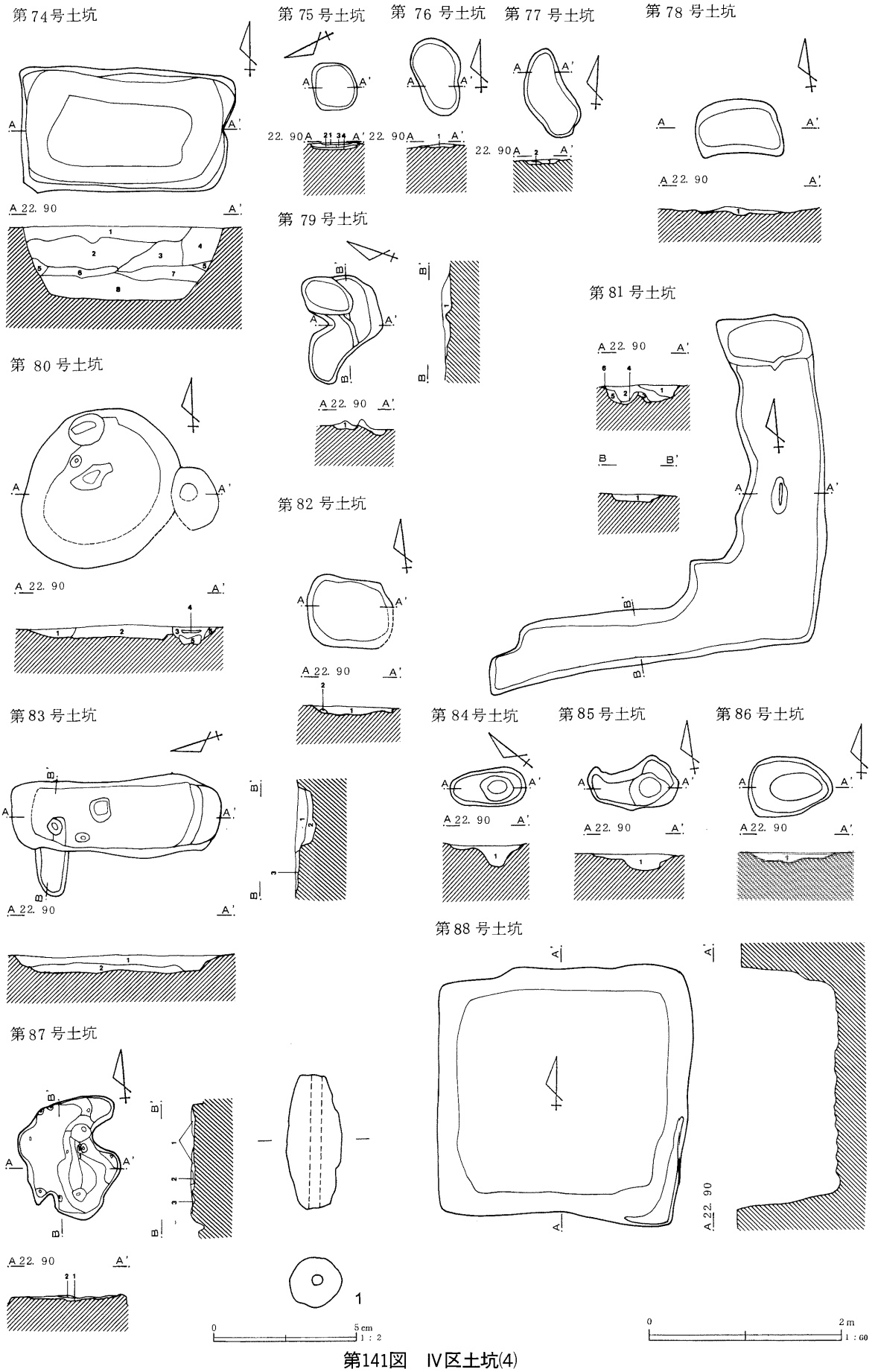


第73号土坑



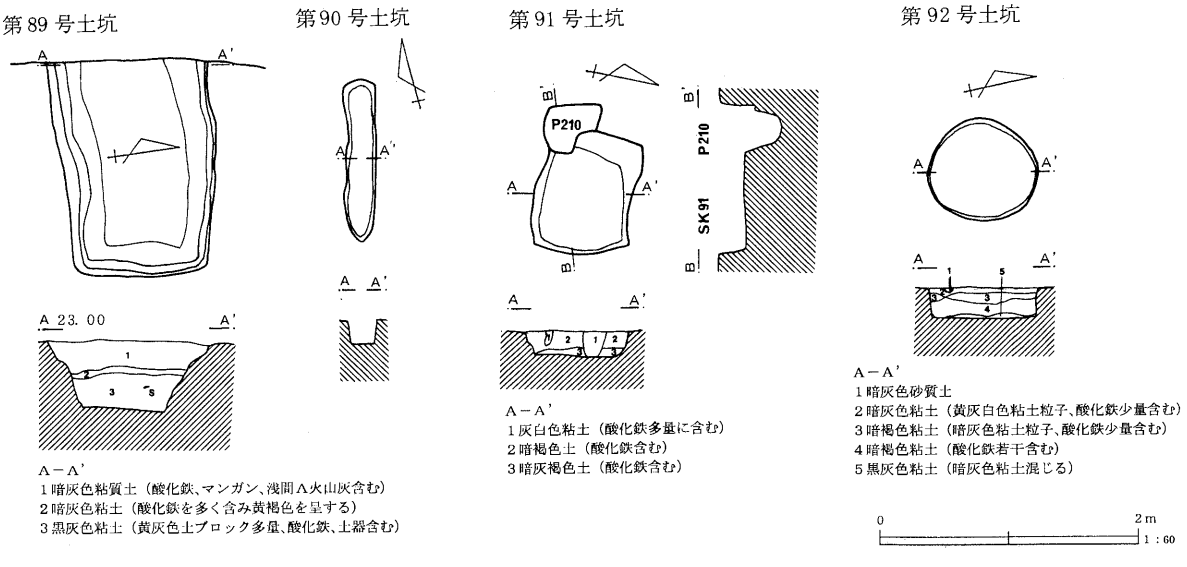
0 2m
1 : 60

第140図　Ⅳ区土坑(3)


第74号土坑
第75号土坑
第76号土坑
第77号土坑
第78号土坑
第79号土坑
第80号土坑
第81号土坑
第82号土坑
第83号土坑
第84号土坑
第85号土坑
第86号土坑
第87号土坑
第88号土坑
A 22. 90
0
5 cm
1 : 2
0
2 m
1 : 60

第141図　Ⅳ区土坑(4)

Ⅳ区土坑
第64号土坑
1 褐灰色粘質土7.5YR-6/1（焼土、炭化物多量に含む）
2 灰白色粘質土5Y-8/1（褐灰色粘質土粒子少量、酸化鉄含む）
3 灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
4 灰白色粘質土5Y-7/1（酸化鉄含む）
第65号土坑
1 灰白色粘質土5Y-8/1（酸化鉄、炭化物少量含む）
2 灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土粒子多量、酸化鉄含む）
第66号土坑
1 灰白色粘質土5Y-8/1（褐色粘質土粒子、酸化鉄含む）
第67号土坑
1 灰色粘質土N-6/（酸化鉄、炭化物含む）
2 青灰色粘質土5PB-5/1（酸化鉄含む）
3 灰白色粘質土5Y-7/1（酸化鉄含む）
4 灰白色粘質土5Y-7/1（灰色粒子、暗青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
5 灰色粘質土7.5Y-6/1（暗青灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
第68号土坑
1 灰色粘質土N-6/（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土N-5/（灰白色粘質土ブロック・粒子、暗青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
第70号土坑
1 暗青灰色粘質土5PB-2/1（明黄褐色粘質土ブロック・粒子多量、火山灰含む）
2 灰色粘質土N-6/（酸化鉄多量に含み明黄褐色を呈する、暗青灰色粘質土粒子、マンガン粒子含む）
3 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄多量に含み明黄褐色を呈する、暗青灰色粘質土粒子含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（明黄褐色粘質土ブロック・粒子多量に含む）
第71号土坑
1 暗灰色粘質土5PB-4/1（灰色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
2 灰色粘質土N-5/（灰色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第72号土坑
1 灰色砂質土10Y-6/1（暗灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
2 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘質土ブロック・粒子、青灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘質土粒子、青灰色粘質土粒子若干、酸化鉄含む）
第73号土坑
1 灰色粘質土N-5/（暗灰色粘質土ブロック・粒子、灰色粘質土ブロック・粒子酸化鉄多量、炭化物、火山灰含む）
2 灰色粘質土N-5/（暗青灰色粘質土ブロック・粒子、灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄、火山灰含む）
3 青灰色粘質土5BG-5/1（暗青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
4 青灰色粘質土5BG-5/1（暗青灰色粘質土ブロック多量、酸化鉄含む）
5 青灰色粘質土5BG-5/1（暗青灰色粘質土ブロック・粒子、灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
第74号土坑
1 灰色土N-5/（暗灰色粘土ブロック、淡黄色粘土ブロック多量、火山灰、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘土ブロック、酸化鉄含む）
3 灰色粘土ブロック・淡黄色粘土ブロック・暗灰色粘土ブロックの混合層（粘性ある）
4 灰色粘土ブロック・淡黄色粘土ブロック・暗灰色粘土ブロック・灰白色粘土ブロックの混合層
5 暗灰色粘土N-3/（酸化鉄含む）
6 灰色粘土N-4/（淡黄色粘土ブロック、酸化鉄若干含む）
7 灰色粘土N-4/（淡黄色粘土ブロック、灰白色粘土ブロック、酸化鉄含む）
8 暗灰色粘土N-3/（腐食植物繊維、酸化鉄含む）
第75号土坑
1 青灰色粘質土5BG-6/1（酸化鉄、炭化物含む）
2 青灰色粘質土10BG-6/1（酸化鉄、炭化物、土器片含む）
3 明青灰色粘質土10BG-2/1（酸化鉄多量、炭化物含む）
4 炭化物層（焼土含む）
第76号土坑
1 暗青灰色粘質土5B-4/1（オリーブ灰色粘質土粒子、酸化鉄、焼土、炭化物、土器含む）
第77号土坑
1 暗青灰色粘質土5B-4/1（オリーブ灰色粘質土粒子、酸化鉄、焼土、炭化物、土器含む）
2 明オリーブ灰色粘質土5GY-7/1（暗青灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
第78号土坑
1 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
第79号土坑
1 暗青灰色粘質土10BG-4/1（灰白色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、焼土、炭化物、土器含む）
第80号土坑
1 暗褐色粘質土7.5YR-2/3（酸化鉄多量に含み暗褐色を呈する）
2 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘質土粒子若干、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土N-4/（酸化鉄を含み褐色を呈する）
4 灰色粘質土N-5/（酸化鉄を含み褐色を呈する、灰白色粒子若干含む）
5 黒褐色粘質土7.5YR-2/2（灰色粘質土粒子、灰白色粘質土粒子、酸化鉄含む）
第81号土坑（A－A'）
1 灰色粘質土N-6/（酸化鉄含む）
2 灰色粘質土N-5/（黒褐色粘質土粒子若干、酸化鉄含む）
3 黒褐色粘質土10YR-2/1（灰白色粘質土粒子、酸化鉄含む）
4 褐灰色粘質土10YR-4/1（灰白色粘質土粒子、灰色粘質土粒子含む）
5 褐灰色粘質土10YR-4/1（灰色粘質土粒子含む）
6 灰白色粘質土7.5GY-8/1
第81号土坑（B－B'）
1 灰色粘質土5Y-4/1（黒褐色粒子若干、酸化鉄含む）
第82号土坑
1 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄多量に含み黄色を呈する、黒色粒子含む）
2 黒色粘質土ブロック10YR-2/1
第83号土坑
1 灰白色粘質土7.5Y-6/1（暗青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物含む）
2 暗紫灰色粘質土5P-4/1（灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
3 暗青灰色粘質土5PB-3/1と灰白色粘質土7.5Y-6/1の混合土
第84号土坑
1 灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物少量含む）
第85号土坑
1 灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
第86号土坑
1 灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物少量含む）
第87号土坑
1 炭化物層（焼土含む）
2 明黄褐色土10YR-6/8（酸化鉄、炭化物含む）
3 灰色粘質土7.5Y-6/1（焼土、炭化物含む）

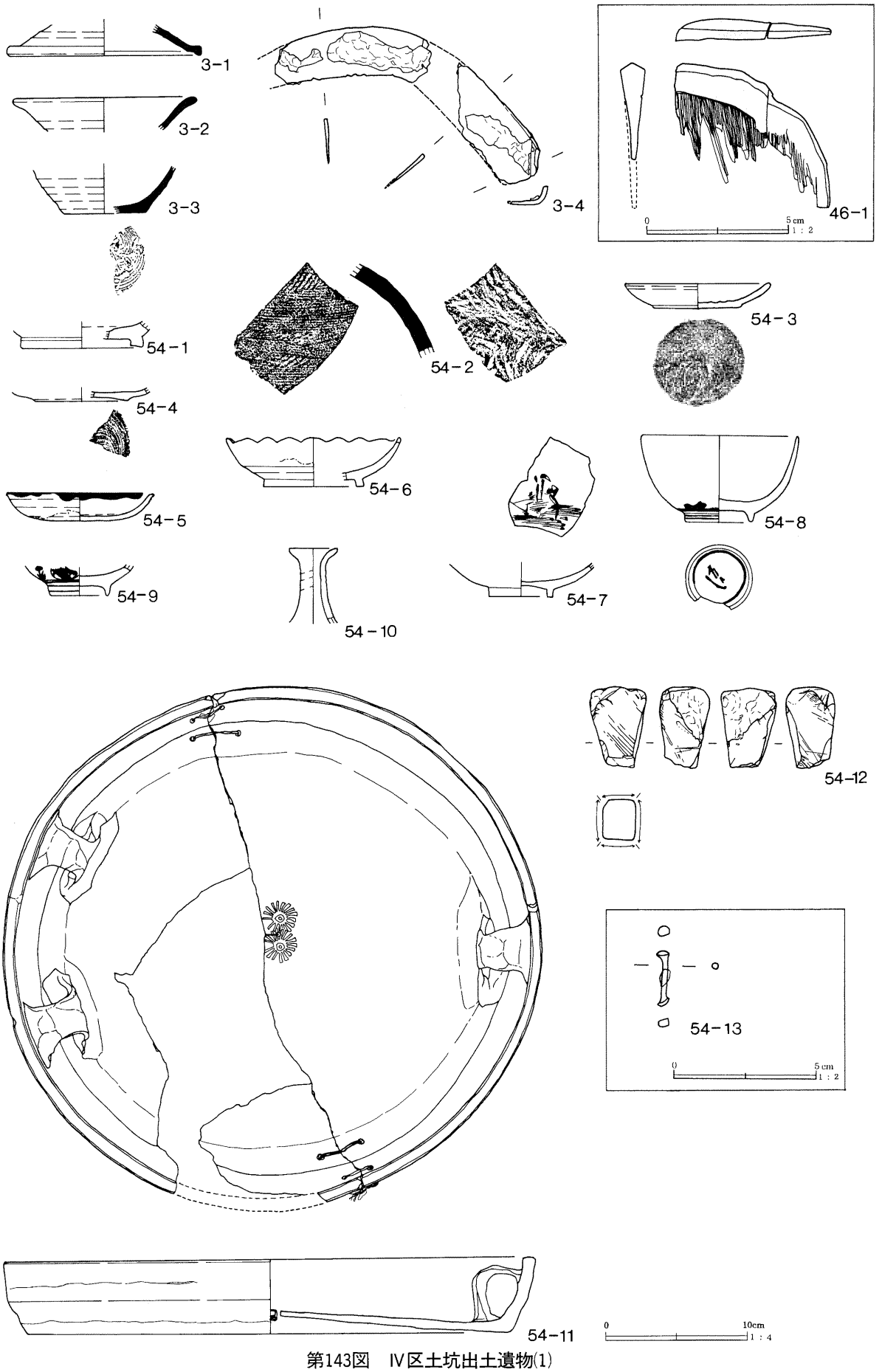


第142図　Ⅳ区土坑(5)

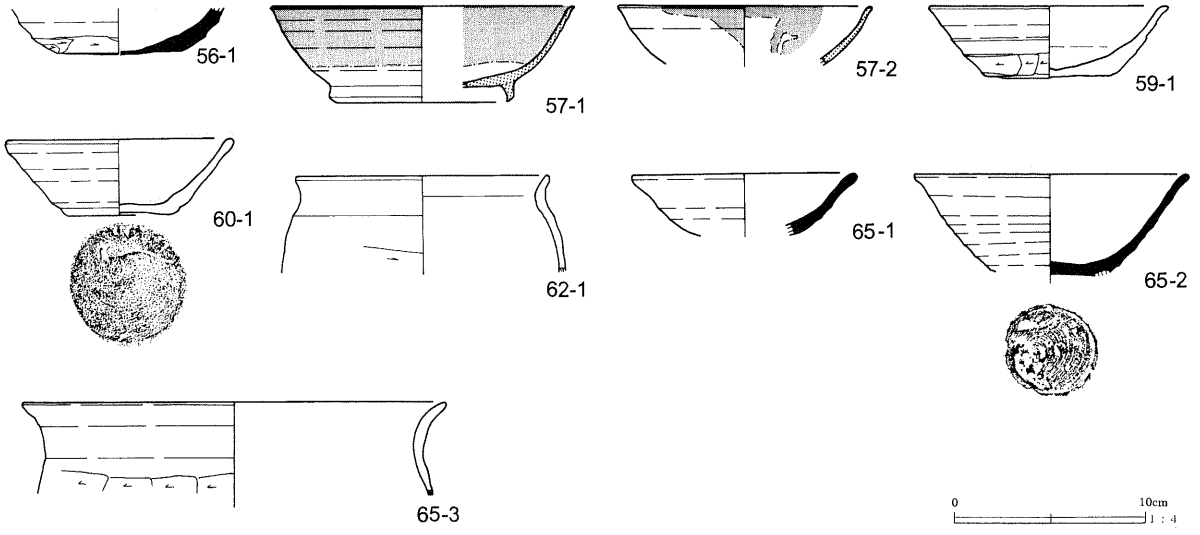
第24表　Ⅳ区土坑一覧表（表中、括弧付数値は推定値）

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ	出土遺物	時期	重複関係	備考
1	5区 D14・15	楕円形	98 × 60 × 25				ピット1つあり
2	5区 D15	楕円形	62 × 37 × 13				
3	5区 D15	楕円形	165 × 94 × 26	須恵器坏・甕・蓋、土師器坏・甕、鎌	9世紀後半	SK4・52	
4	5区 D15	楕円形	100 × 63 × 14	土師器破片		SK3・5	ピット1つあり
5	5区 D15	不整形	131 × 70 × 23	須恵器坏	9世紀後半	SK4	
6	5区 C15	楕円形	89 × 74 × 20				
7	5区 B15	楕円形	90 × 76 × 26				
8	5区 B15・16	円形	68 × 62 × 23				
9	5区 A・B15	楕円形	114 × 111 × 10				
10	5区 A15・16	円形	75 × 70 × 169				
11	4区 R15・16	円形	120 × 113 × 35				ピット2つあり
12	4区 P・Q15	不整形	77 × 40 × 25				
13	5区 D16	不整形	100 × 60 × 18				
14	5区 D16	楕円形	120 × 64 × 19				
15	5区 D16	不整形	84 × 23 × 37				
16	5区 D16	不整形	108 × 49 × 75				
17	5区 A・B16	楕円形	74 × 72 × 53				
18	5区 A16	円形	61 × 57 × 33				
19	5区 A16	不整形	72 × 62 × 15				
20	5区 A16	楕円形	112 × 100 × 33				
21	5区 A16	楕円形	80 × 79 × 18				
22	4区 T16	楕円形	65 × 61 × 26				
23	4区 S16	楕円形	68 × 60 × 21				
24	5区 D17	楕円形	95 × 72 × 19	土師器甕			
25	5区 B17	楕円形	68 × 45 × 38				
26	5区 A16・17	不整形	312 × 133 × 30				
27	5区 A16・17	円形	98 × 94 × 3				
28	5区 A16・17	円形	58 × 55 ×				
29	4区 T17	円形	122 × 116 × 44				
30	4区 S17	楕円形	110 × 63 × 11				
31	4区 Q17	長方形	157 × 124 × 25				
32	4区 Q17・18	楕円形	94 × 62 × 63				
33	4区 T18	楕円形	79 × 56 × 30				
34	4区 S・R18	楕円形	180 × 137 × 25	陶磁器、焙烙	近世	SD34、SB28	
35	4区 R18	不整形	186 × 130 × 63	須恵器椀	10世紀	SK36、P113・149	
36	4区 R18	長方形	216 × 114 × 30	須恵器椀	10世紀初	SK35、SB28	
37	4区 R18	不整形	100 × 74 × 37				
38	5区 A17	円形	93 × 82 × 299				ピット3つあり
39	5区 A18	不整形	115 × 85 × 13			SD29	
40	5区 A18	楕円形	84 × 74 × 12				
41	4区 T18	円形	68 × 57 × 28				
42	4区 T・S18	楕円形	115 × 38 × 44				ピット4つあり
43	5区 C19	不整形	82 × 67 × 32			SD38・40、SX4	
44	5区 A19	不整形	70 × 63 ×				ピット2つあり
45	4区 T・S19	不整形	113 × 45 × 55				
46	4区 S19	円形	70 × 69 × 47	横櫛			
47	9区 T20	不整形	141 × 132 × 23	須恵器坏、土師器甕	10世紀初	区画溝8	
48	9区 S20	不整形	211 × 200 ×				
49	10区 A20・21	長方形	207 × 194 × 61	須恵器椀、土師器甕	10世紀前半	SK50、区画溝7	
50	10区 A20・21	不整形	210 × 110 × 37			SK49、区画溝7	
51	10区 A21	長方形	200 × 134 × 69	須恵器坏・椀	10世紀	区画溝7	
52	5区 D15	楕円形	130 × 81 × 30			SK3	
53	5区 C17・18	不明	(160) × (160) × 18			SD37・40	

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ	出土遺物	時期	重複関係	備考
54	5区 C15	楕 円 形	90 × 78 × 41	土師質土器皿、陶器、焙烙、砥石、飾り金具	近世		
55	5区 C15	円 形	66 × 64 × 110				
56	9区 M27	不 整 形	130 × 114 × 24	須恵器坏・甕	10～11世紀		
57	9区 M27	不 整 形	232 × 170 × 32	須恵器坏破片、灰釉陶器椀	10世紀前半		
58	9区 MN28	不 整 形	350 × 170 ×				
59	9区 MN28・29	不 整 形	260 × 130 ×	須恵器坏	9 世紀後半		
60	9区 M28・29	円 形	92 × 90 × 14	須恵器坏	10世紀前半		
61	9区 M29	楕 円 形	128 × 110 × 12	須恵器坏	11世紀		
62	9区 M29	楕 円 形	125 × 120 × 17	土師器甕	11世紀		
63	9区 T22	長 方 形	34 × 115 × 60				ピット 1 つあり
64	4区 K16	不 整 形	160 × 120 × 26				
65	4区 J16	楕 円 形	110 × 96 × 18	須恵器坏・瓶・椀、土師器甕	9 世紀後半		
66	4区 L18	楕 円 形	120 × 58 × 7				
67	4区 G19	不 整 形	251 × 55 × 20				
68	4区 G19	楕 円 形	141 × 71 × 16				
69	8区 P25	長 方 形	377 × 230 × 82				
70	8区 NO24	楕 円 形	156 × 102 × 28				
71	8区 NO24・25	三日月形	382 × 57 × 10				
72	8区 Q27	楕 円 形	105 × 57 × 28				
73	8区 G26	長 方 形	195 × 175 × 50				
74	9区 R23・24	長 方 形	226 × 128 × 78				
75	9区 N22	円 形	57 × 46 × 8				
76	9区 N22	楕 円 形	85 × 40 × 4				
77	9区 N22	楕 円 形	98 × 46 × 5				
78	9区 L・M23・24	長 方 形	91 × 57 × 9				
79	9区 L24	不 整 形	114 × 42 × 12				ピット 1 つあり
80	9区 L25	楕 円 形	182 × 155 × 15				ピット 1 つあり
81	9区 L25・26	L 字 形	352 × 56 × 20				ピット 1 つあり
82	9区 J22	長 方 形	100 × 73 × 12				ピット 1 つあり
83	9区 F22	長 方 形	223 × 76 × 20				ピット 1 つあり
84	4区 N19	楕 円 形	80 × 36 × 23				
85	4区 N19	不 整 形	96 × 32 × 18				
86	4区 N19	楕 円 形	89 × 60 × 11				
87	9区 F23	不 整 形	132 × 80 × 70				
88	9区 L28	正 方 形	268 × 260 × 108				
89	10区 A27	長 方 形	(162) × 102 × 96				
90	9区 T27	長楕円形	130 × 23 × 19				
91	9区 T28	長 方 形	98 × 73 × 25			P210	
92	9区 T28	円 形	89 × 88 × 24				
93	9区 R29	楕 円 形	126 × 115 ×			SD43	



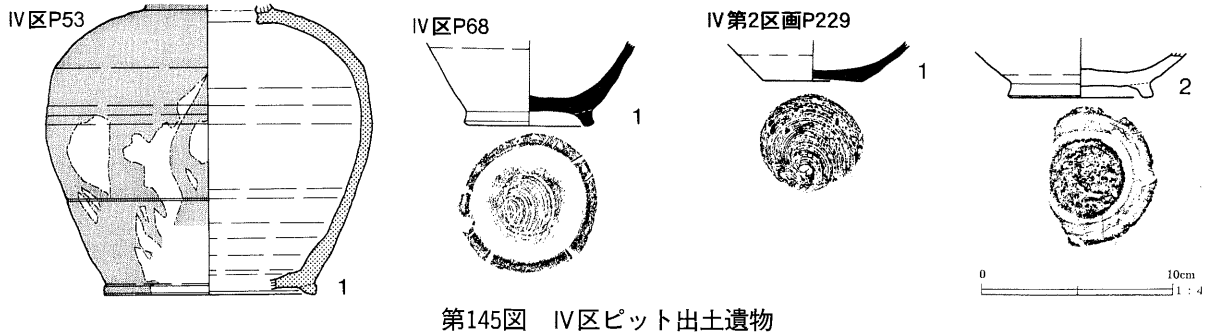
第143図　Ⅳ区土坑出土遺物(1)



第144図　Ⅳ区土坑出土遺物(2)

第25表　Ⅳ区土坑出土遺物観察表

番号	器種	口径(長さ)	器高(幅)	底径(厚さ)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
3-1	須恵器蓋	(14.0)	—	—	ABL	灰色	A	口縁部10%以下	
3-2	須恵器坏	(13.3)	—	—	AB	灰色	B	口縁部20%	
3-3	須恵器坏	—	—	(5.9)	AGLN	灰色	A	底部40%～体部下半	
3-4	鎌	22.5	3.6	0.3	—	—	—	刃部欠損	曲刃鎌。鉄製。
46-1	横櫛	5.5	5.2	0.8	—	—	—	一方端残存	木取：柾目
54-1	陶器瓶	—	—	(8.6)	A	灰白色、オリーブ灰色	A	底部20%	
54-2	須恵器甕	—	—	1.1	ABE	灰色	A	胴部破片	
54-3	土師質土器皿	(10.4)	1.7	6.1	AEI	外面：浅黄橙色　内面：灰白色	D	口縁部20%、底部95%	
54-4	土師質土器皿	—	—	(6.6)	AEI	外面：浅黄橙色　内面：灰白色	A	底部20%	
54-5	陶器灯明皿	10.7	2.0	5.1	ABD	—	—	100%	瀬戸・美濃。
54-6	陶器皿	(12.6)	(3.5)	(7.2)	灰白色	—	—	底部25%	
54-7	陶器小鉢	—	—	4.6	淡黄色	—	—	底部50%	肥前系。
54-8	磁器染付椀	(11.3)	6.2	4.8	—	—	—	20%	肥前系。
54-9	磁器染付椀	—	—	(4.2)	—	—	—	底部60%	肥前系。
54-10	磁器仏具	3.5	—	—	—	—	—	口縁部75%	肥前系。
54-11	焙烙	38.1	5.3	34.3	AE	外面：にぶい黄褐色　内面：にぶい黄橙色	A	90%	
54-12	砥石	5.7	4.0	3.5	—	—	—	欠損	重さ110ｇ
54-13	飾り金具	1.0	0.2		—	—	—		
56-1	須恵器坏	—	—	(6.5)	ABI	明赤褐色	C	底部50%	
57-1	磁器染付椀	(16.0)	5.2	(9.0)	AP	—	—	30%	東濃産。
57-2	灰釉陶器皿	(13.4)	—	—	BP	灰白色	A	口縁部20%	東濃産。
59-1	須恵器坏	(12.6)	3.8	6.8	AB	外面：浅黄橙色　内面：灰白色	D	50%	
60-1	須恵器坏	(12.0)	4.0	6.2	ABEI	明赤褐色	E	80%	
62-1	土師器甕	(13.4)	—	—	ABE	浅黄橙色	C	口縁部20%	
65-1	須恵器坏	(12.0)	—	—	AGIJ	灰白色	D	口縁部20%	
65-2	須恵器椀	14.5	—	(6.1)	ALMN	灰色	A	90%	末野産。
65-3	土師器甕	(22.6)	—	—	ABEHM	外面：橙色　内面：淡黄色	A	口縁部20%	



第145図　Ⅳ区ピット出土遺物

第26表　Ⅳ区ピット出土遺物観察表

番号	出土遺構	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	P53	灰釉陶器長頸瓶	—	—	(11.2)	A	灰白色	A	肩～底部50%	東濃産。
1	P68	須恵器椀	—	—	6.8	ABN	青灰色	C	底部100%	
1	第2区画 P229	須恵器坏	—	—	5.2	ABGL	青灰色	A	40%	末野産。
2	第2区画 P229	須恵器椀	—	—	7.5	ABE	灰白色	D	底部80%	末野産。

(4)　竪穴遺構

第１号竪穴遺構（第146・148図、第27表）

５区Ｂ―15グリッドに位置する。第５号住居跡、河川跡Ａ地点と重複関係にあり、新旧関係は第５号住居跡、本遺構、河川跡の順である。

第５号住居跡及び河川跡Ａ地点に切られているため、正確な規模が把握できなかった。残存する部分で、南北長1.32m、東西長3.5m、深さ0.18mを測る。出土遺物はわずかに土師器の細片が検出されただけであった。不整形の土坑が二つ重なったように見ることもできるが、詳細は分からなかった。

第２号竪穴遺構（第146図）

５区Ｂ―16・17グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

平面形は不整形な楕円形状で、規模は、東西方向が4.15m、南北方向が最大1.36mを測り、東西方向に長い土坑である。最深部は0.4mで西寄りにあり、そこから東に向かって緩やかに傾斜している。中間層に炭化物層があり、その層はほぼ土坑全体を被っていた。

出土遺物は、須恵器坏・瓶、土師器甕破片などが検出された。

第３号竪穴遺構（第146・148図、第27表）

４区Ｑ―18グリッドに位置する。第９号区画溝を切って作られていた。

平面形は2.75m×2.5mの方形を基本とするが、北東コーナー付近が膨らみをもっており、南西コーナーからは長さ１m、幅0.2mの溝状の飛び出しがある。深さは確認面から0.05m前後と極めて浅い。底面はピット状の穴が幾つか確認でき、起伏がある。北東壁よりには長さ２m、幅１mにわたり炭化物の分布が確認された。

出土遺物は、土師器甕、須恵器坏・甕、瓦片、鉄斧などが検出されている。

竪穴遺構としたが、竪穴住居跡の可能性が高いものと推測され、北に所在する第４号住居跡とほぼ同時期に存在していたと推測される。

第４号竪穴遺構（第147図）

５区Ｂ―17・18・19、Ｃ―18・19グリッドにかけて広がった不規則な形の遺構が確認された。

遺構の規模は南北が12m、東西10mを測り、全体に幾つかの土坑状の遺構が重なりあったような複雑な形状を成している。出土遺物は細片で検出され、時代も特定できなかった。第２区画の地業のための土取りを行った跡と推測されなくもない。

(5)　井戸跡

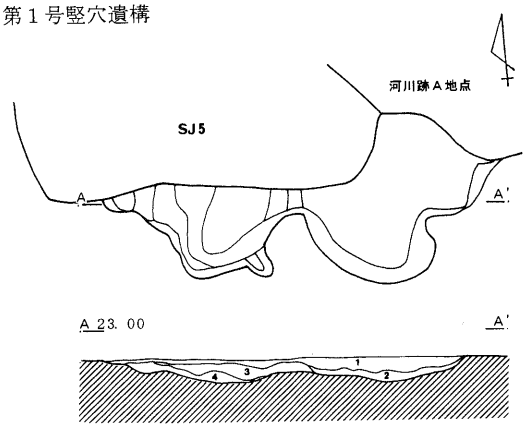
第１号井戸跡（第149図）

９区Ｓ―20グリッドに位置する。第２区画を限る溝跡と重複するが、新旧関係は本遺構の方が新しい。

平面は径1.96m×1.83mの楕円形で、確認面からの深さは1.25mを測る。確認面から深さ50cm位までは崩壊が著しいため原形をとどめておらず、傾斜した壁面を呈する。50cmより下は径70cmの井筒となり、ほぼ垂直な壁面を呈している。底面は平坦となっている。

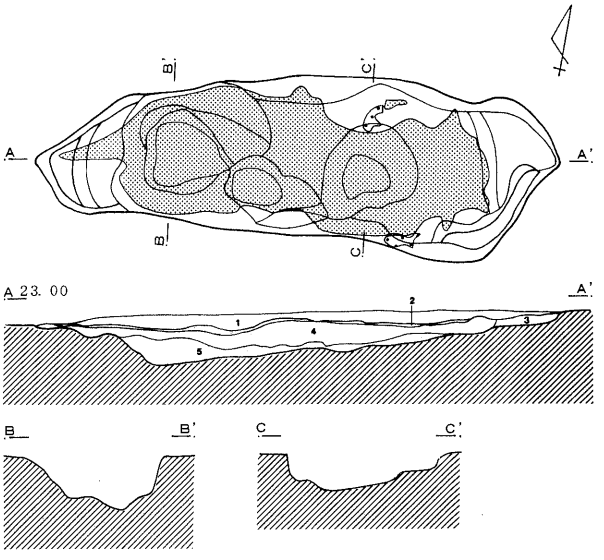
出土遺物は、須恵器坏・甕、常滑の甕片などが出土した。

第１号竪穴遺構



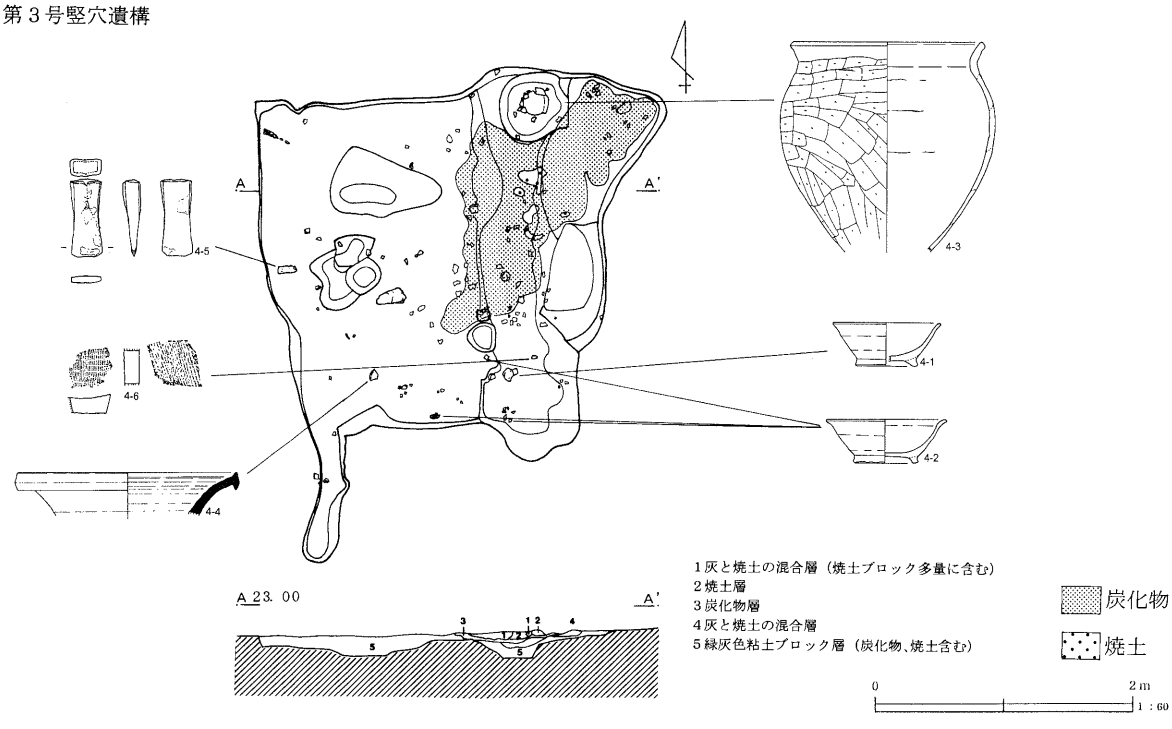
1 緑灰色粘土（酸化鉄、炭化物、マンガン含む）
2 緑灰色粘土（上層に暗灰褐色粘土混じる）
3 暗褐色粘土と灰褐色粘土の混合層
4 暗灰褐色粘土（緑灰色粘土ブロック・粒子含む）

第２号竪穴遺構



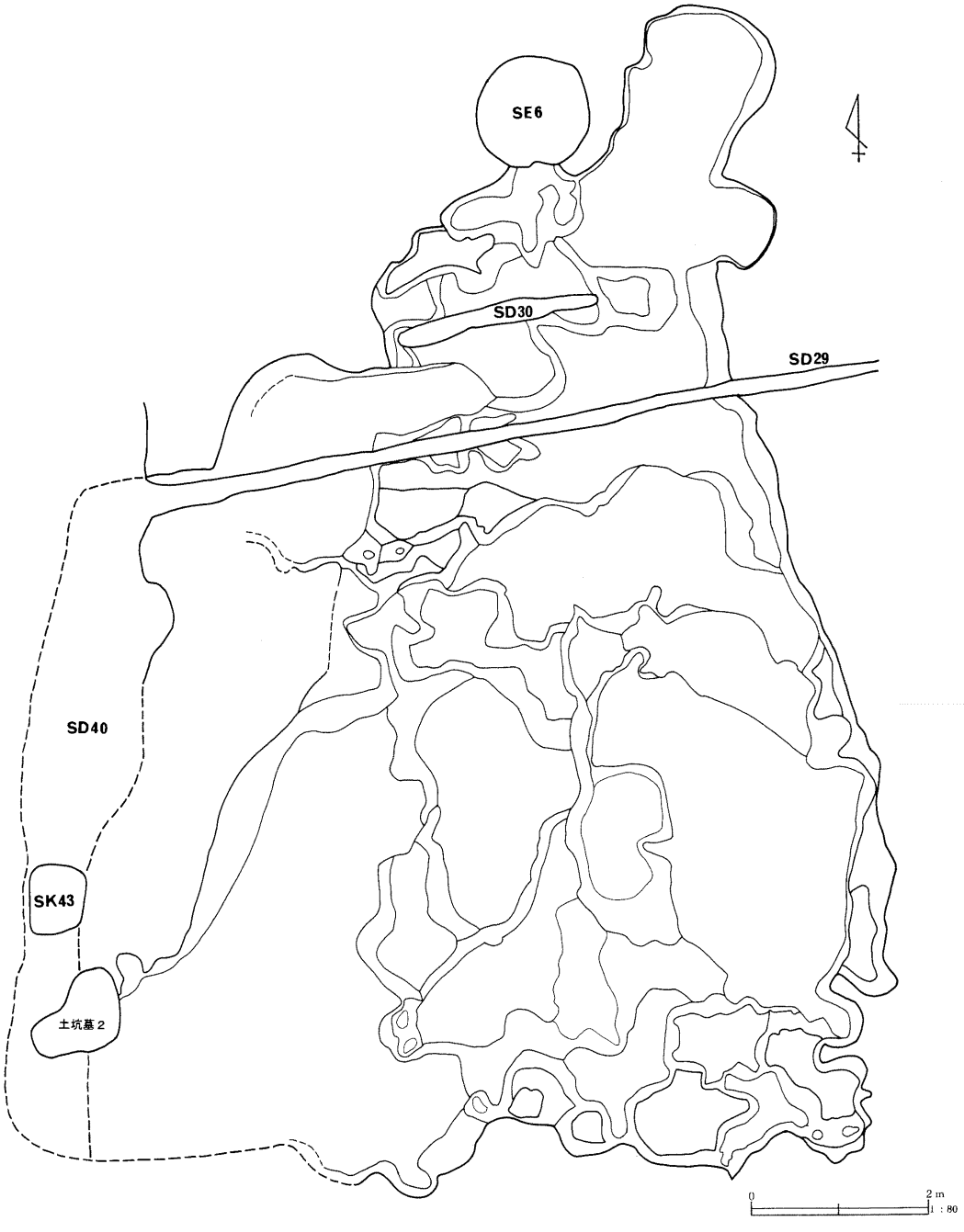
（A－A'）
1 灰色粘質土N-5/（灰白色粒子、酸化鉄、焼土、炭化物含む）
2 炭化物層
3 暗灰褐色粘質土N-3/（灰白色粒子、酸化鉄、灰、炭化物含む）
4 暗灰褐色ブロックと灰褐色ブロックと灰白色ブロックの混合層（酸化鉄含む）
5 灰白色土（黒褐色ブロック、酸化鉄含む）

第３号竪穴遺構

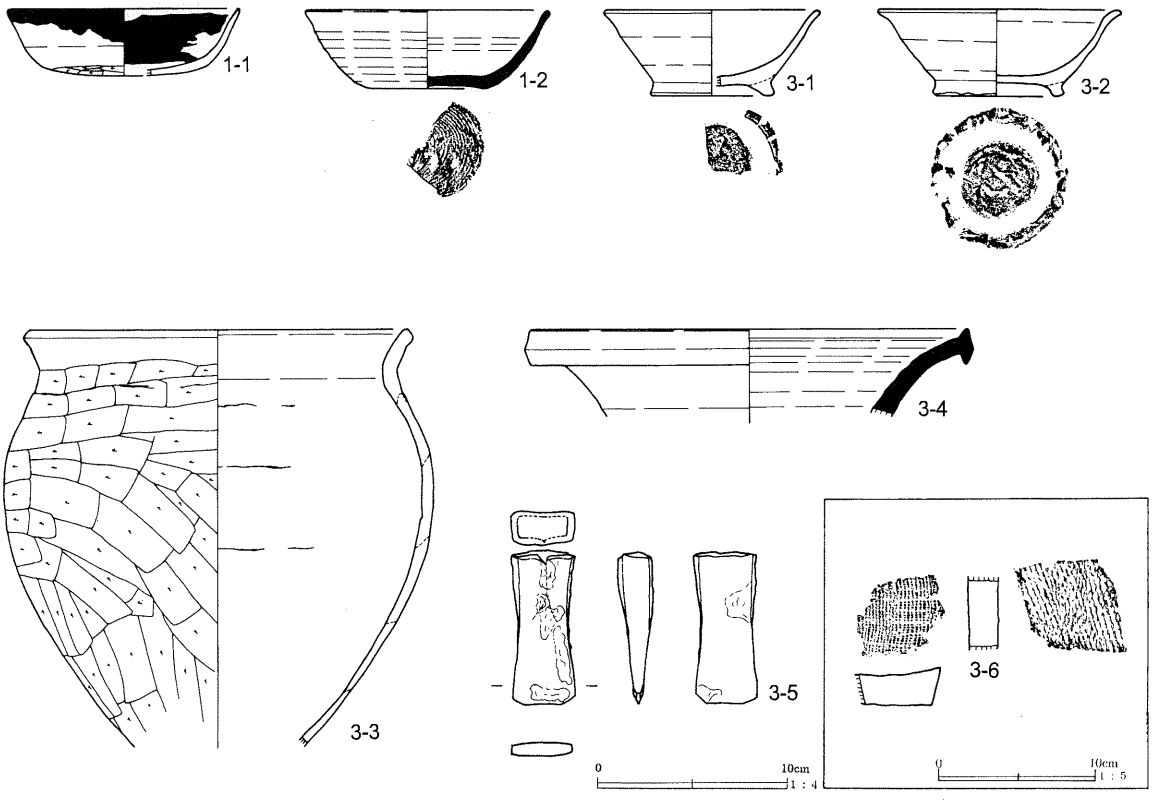


1 灰と焼土の混合層（焼土ブロック多量に含む）
2 焼土層
3 炭化物層
4 灰と焼土の混合層
5 緑灰色粘土ブロック層（炭化物、焼土含む）

第146図　Ⅳ区第１～３号竪穴遺構



第147図　Ⅳ区第４号竪穴遺構



第148図　Ⅳ区竪穴遺構出土遺物

第27表　Ⅳ区竪穴遺構出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1-1	土師器坏	(12.3)	3.5	(6.5)	ADHJM	外面：にぶい橙色　内面：灰褐色	B	25%	内外面に油煙付着。
1-2	土師器坏	(13.0)	4.2	(6.0)	ABDGN	灰色、灰白色、にぶい黄橙色	A	30%	
3-1	須恵器椀	(11.4)	4.5	(6.4)	ABDJ	外面：にぶい黄橙色　内面：橙色	A	25%	
3-2	須恵器椀	(12.4)	4.6	(6.2)	ABHJ	外面：浅黄橙色　内面：浅黄橙色	D	70%	
3-3	土師器甕	(20.0)	—	—	ABIM	橙色、浅黄橙色	C	40%（口縁部35%）	
3-4	須恵器甕	(23.2)	—	—	AEN	灰色	A	口縁部75%	
3-5	鉄斧	長さ8.1	幅3.4	厚さ1.8	—	—	—	—	
3-6	平瓦	—	—	—	ABE	黄灰色	A	—	

第２号井戸跡（第149・150図、第28表）

５区Ｓ—19グリットを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

平面は径2.1m×1.95mの円形で、確認面から1.5mまで掘削を行ったが、崩壊が著しいため井筒の途中で掘削を終了した。壁面は崩壊が著しく、深さ50cm辺りからオーバー・ハングし、最大幅1.8mを測った。さらにその下、最下層付近では径60cmと極端に狭く窄まる形状であった。土層は複雑で、並行堆積しており、人為的に埋設された可能性がある。

出土遺物は、須恵器坏・瓶・甕、土師器甕の破片の他、陶器椀、常滑の甕片、瓦片などが出土した。

第３号井戸跡（第149・150図、第28表）

９区Ｔ—20グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかったが、本井戸跡に隣接して、第４・５号井戸が確認された。

平面は径1.02m×0.93mの楕円形で、確認面からの深さは0.98mを測る。確認面に近い箇所は崩壊しており、壁面は傾斜した形状で、その下はほぼ垂直の壁面を呈している。底面は整いの悪い舟底状となっ

ている。覆土は並行に堆積しており、人為的に埋められた可能性が高い。

出土遺物は、須恵器坏、土師器坏・甕の破片、用途不明な木製の部材が検出された。

第４号井戸跡（第149図）

９区Ｓ―20グリッドに位置する。第５号井戸跡とはぎりぎり接触するほどの位置関係にあるが、重複はしていなかった。平面は径1.0m×0.94mの円形で、確認面からの深さは0.92mと浅い井戸であった。底は径40cmの舟底上を呈し、確認面から急な傾斜の壁面を成している。覆土は大きく２層に分けられ、やはり人為的に埋められた可能性が高い。

出土遺物は、検出できなかった。

第５号井戸跡（第149・159図、第28表）

９区Ｔ―20グリッドに位置する。第４号井戸跡に隣接するが、新旧関係は把握できていない。平面は径0.85mの円形で、確認面からの深さは1.16mを測る。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直であり、横断面は太い円筒状となっている。覆土は第４号井戸跡と極めて類似した堆積状況で、人為的に埋められた可能性が高いと推測される。

出土遺物は、須恵器坏・甕破片が検出できた。

第６号井戸跡（第149図）

５区Ｂ―17グリッドに位置する。第４号竪穴遺構との重複関係にあった。新旧関係は、本遺構が切っていた。平面は径1.25mの円形で、確認面からの深さは1.26mを測る。底面は径50cmほどの舟底状を呈している。壁面は急な傾斜となっている。土層は崩壊が著しかったため、計測することができなかった。

出土遺物は、検出できなかった。

第９号井戸跡（第151図、第29表）

９区Ｉ・Ｊ―24グリッドに位置する。この一帯は第８・９号掘立柱建物跡を中心に幾つかの掘立柱建物跡によって構成されており、東よりに第12号掘立柱建物跡、第29号掘立柱建物跡があり、この直ぐ南に本井戸跡は所在する。平面形は径3.65m×3.48mの不整な円形で、確認面からの深さは最深部で2.08mを測る。確認面から1.5mの深さに一辺0.7mの方形の井戸枠が確認された。井戸枠は表面のみで、下部には組まれておらず、深さ0.5mの素掘りの井筒となっている。確認面から井戸枠までの壁面は崩壊も加わり段をもった形状となっている。覆土は複雑な構成となっており、人為的に埋められた可能性が考えられる。

第８・９号掘立柱建物跡を中心としたこの地点で唯一であるのに加えて、他の地点の井戸と比較して規模が大きいことが指摘でき、このエリアの共同井戸的なものであることが推測される。

出土遺物は須恵器蓋・坏、土師器甕破片などが検出された。須恵器坏には、「里」の墨書の見られるものが確認された。

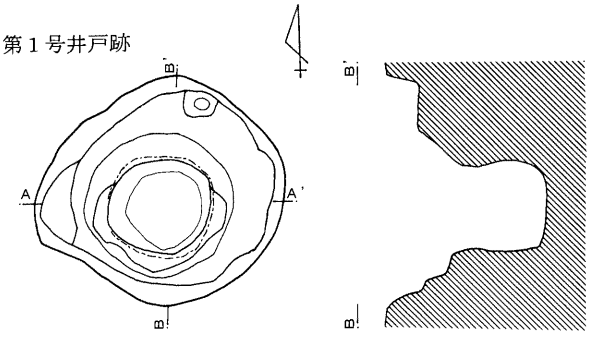
第10号井戸跡（第152図）

９区Ｓ―27グリッドに位置する。

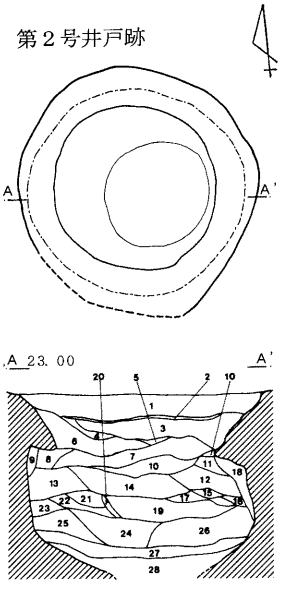
平面は径0.9mのほぼ円形で、確認面からの深さは1.58mを測る。底面は平坦で、壁面の立ち上がりはほぼ垂直である。覆土の層は並行に堆積しており、人為的に埋められた可能性が考えられる。

出土遺物は、検出できなかった。

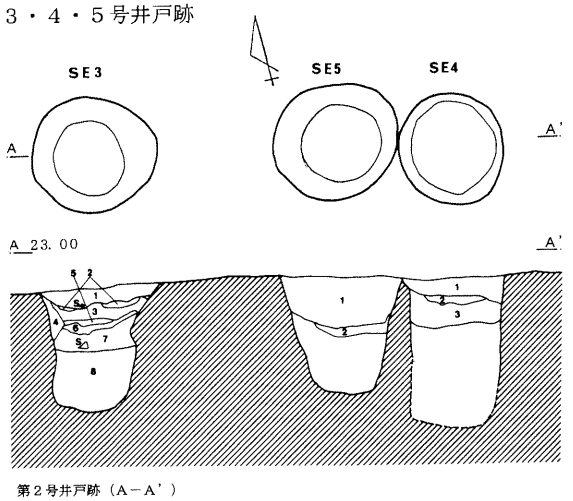
第１号井戸跡



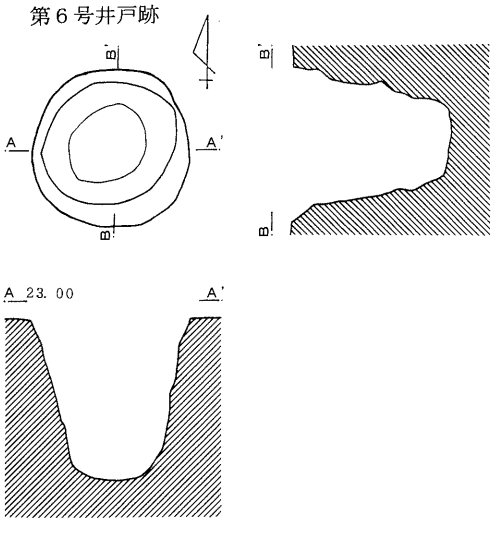
第２号井戸跡



第３・４・５号井戸跡



第６号井戸跡

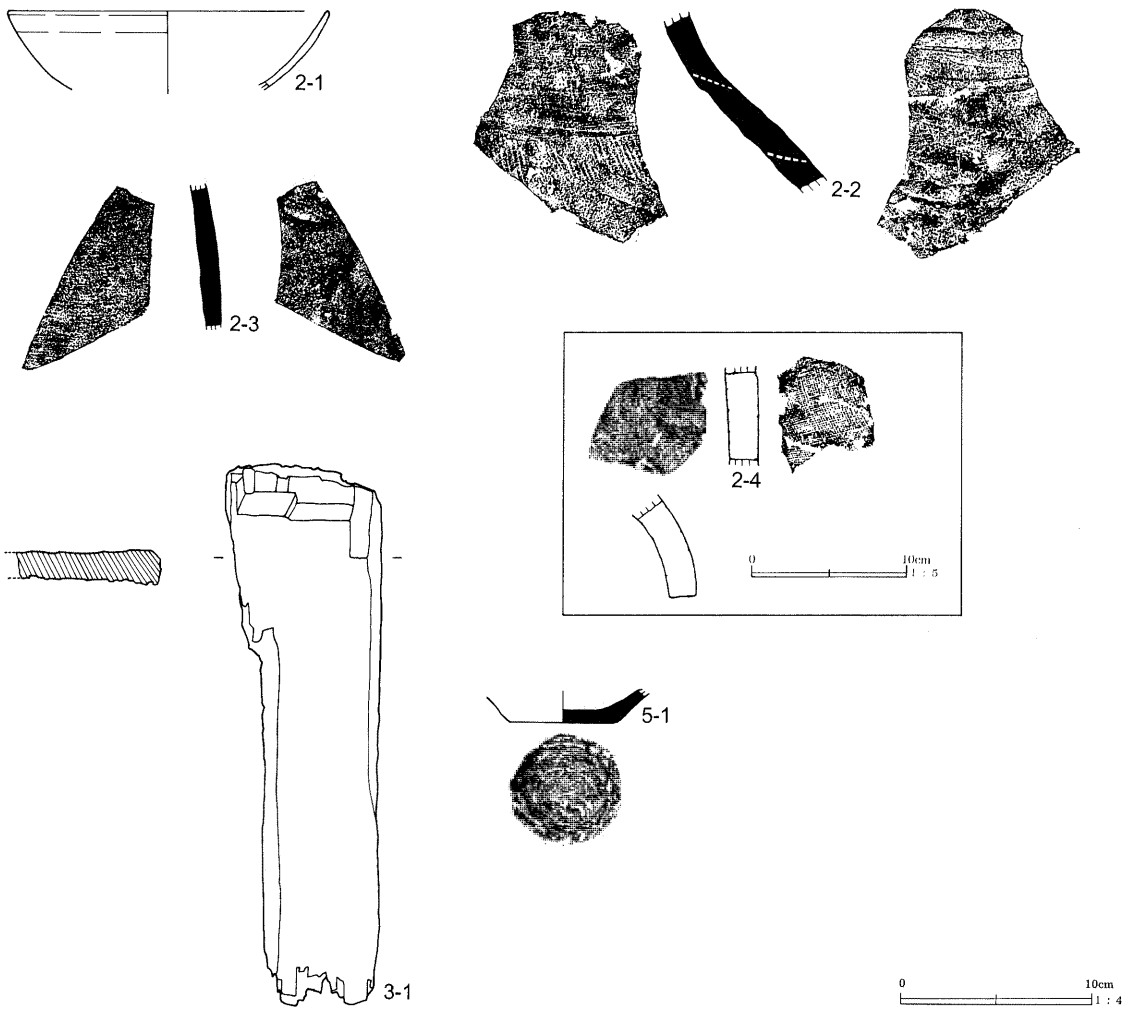


第２号井戸跡（Ａ－Ａ’）
１灰色シルト質土（かたくしまる、酸化鉄多量、マンガン粒子、火山灰含む）
２酸化鉄層
３灰色粘土（シルト質、かたくしまる、酸化鉄、マンガン粒子、火山灰含む）
４暗灰色粘土（酸化鉄含む）
５灰色粘土（酸化鉄非常に多く含む）
６暗灰色粘土（灰白色粘土粒子多量、酸化鉄、焼土、マンガン粒子、木片、火山灰含む）
７灰褐色粘土（かたくしまる、淡緑灰色粘土ブロック混じる、酸化鉄含む）
８灰色粘土（シルト質）
９灰白色粘土
10淡緑灰色粘土（かたくしまる、酸化鉄多量に含む）
11灰色粘土（酸化鉄含む）
12暗灰色粘土（若干シルト質、酸化鉄含む）
13暗灰色粘土（若干シルト質、酸化鉄若干含む）
14淡緑灰色粘土
15暗灰色粘土
16灰色粘土
17緑灰色粘土と暗灰色粘土の混合層
18灰褐色粘土
19暗灰色粘土（シルト質）
20緑灰色粘土
21暗灰色粘土（シルト質）
22暗青灰色粘土（緑灰色粘土粒子含む）
23緑灰色粘土（灰色粘土粒子若干含む）
24暗青灰色シルト
25暗青灰色粘土（腐食植物含む）
26暗青灰色粘土（マンガン粒子含む）
27暗青灰色粘土（シルト質、中央部付近に木片混じる）
28緑灰色粘土

第３・４・５号井戸跡（Ａ－Ａ’）
第３号井戸跡
１灰色粘土（黒灰色土粒子少量含む）
２酸化鉄層
３灰色粘土（灰黄色粘土ブロック、酸化鉄少量、炭化物、焼土含む）
４暗青灰色粘土（灰黄色粘土、酸化鉄含む）
５灰色粘土（シルト質）
６灰色粘土（灰黄色粘土粒子少量、酸化鉄少量含む）
７暗青灰色粘土（下層に炭化物含む）
８灰黒色粘土（腐食植物多量に含む）
第４号井戸跡
１明灰色粘土（灰黄白色粘土小ブロック、酸化鉄多量に含む）
２明灰色粘土と灰黄白色粘土ブロックの混合層（褐色土混じる、酸化鉄含む）
３灰色粘土（シルト質、酸化鉄含む）
第５号井戸跡
１灰色粘土（灰黄白色粘土、酸化鉄多量に含む）
２灰色粘土（灰黄白色粘土帯状に入り込む、酸化鉄含む）

0　2m
1：60

第149図　Ⅳ区第１～６号井戸跡



第150図　Ⅳ区第２・３・５号井戸跡出土遺物

第28表　Ⅳ区第２・３・５号井戸跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
2-1	陶器椀	(17.1)	—	—	灰色	灰色	A	口縁部15%	施釉。
2-2	陶器甕	—	—	—	ACN	外面：赤灰色　内面：灰赤色	A	胴部破片	
2-3	須恵器甕	—	—	—	ABN	灰色	A	胴部破片	
2-4	丸瓦	—	—	—	AN	灰色	A		
3-1	部材	長さ8.8	幅8.3	厚さ1.6	—	—	—		木取：斜め
5-1	須恵器坏	—	—	5.8	AEN	外面：にぶい黄橙色　内面：橙色	D	底部100%	

第11号井戸跡（第152図）

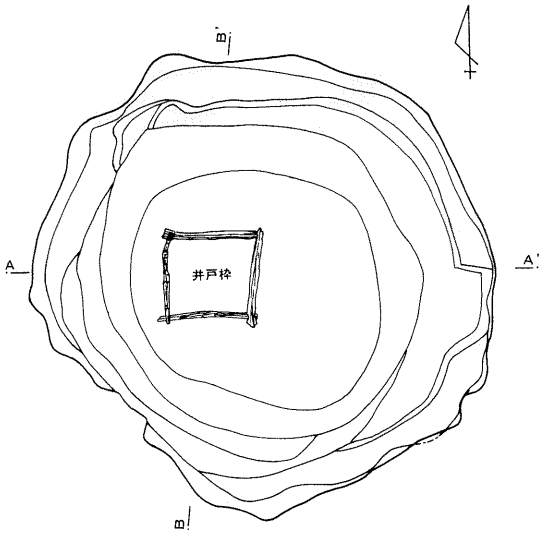
９区Ｓ―27グリッドに位置する。

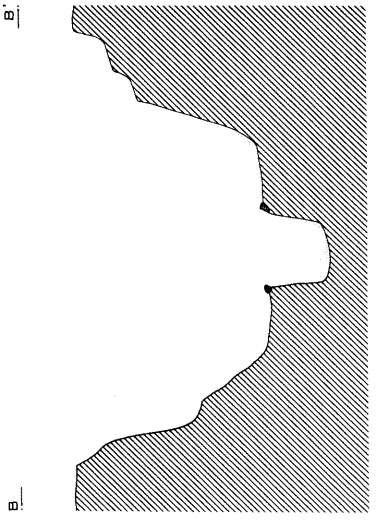
平面は径1.05ｍのほぼ円形で、確認面からの深さは1.42ｍを測る。確認面から20cm辺りで窄まり、その位置から1.2ｍの深さがある。底面はわずかに平坦面をもつ、舟底状となっている。底面からの立ち上がりはほぼ垂直であり、断面形は漏斗状となっている。

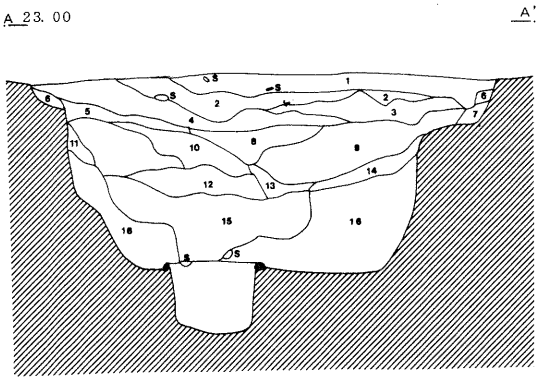
出土遺物は、検出できなかった。

第12号井戸跡（第152図）

９区Ｓ―28グリッドに位置する。

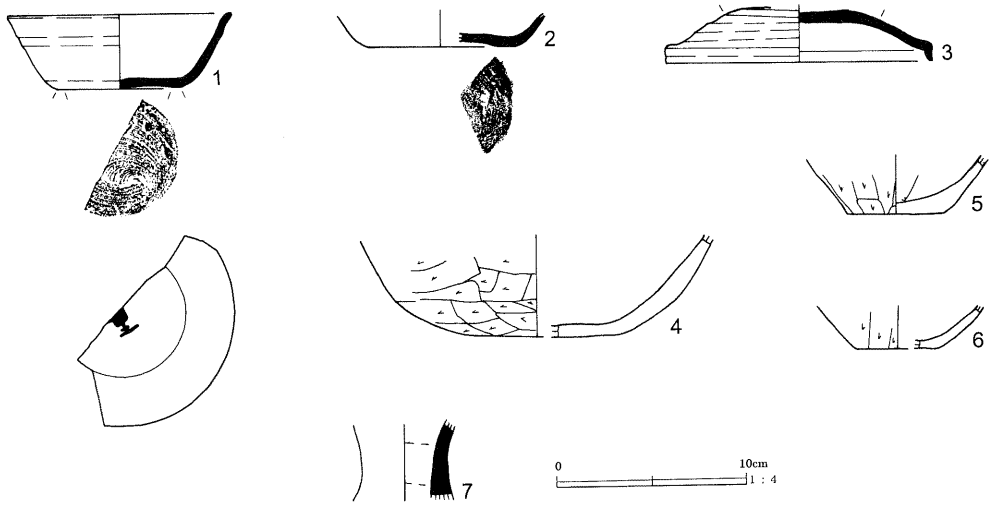






A－A'
1灰褐色粘土（暗褐色土ブロック若干混入、酸化鉄多量、炭化物、焼土、火山灰若干含む）
2灰色粘土（酸化鉄多量、炭化物、焼土若干、火山灰含む）
3灰色粘土（若干シルト質、暗褐色土ブロック多量に混入、酸化鉄多量に含む）
4灰色粘土（暗褐色ブロック、灰白色土ブロック少量混入、酸化鉄多量、炭化物少量含む）
5灰黄白色粘土（若干シルト質、暗褐色ブロック多量、酸化鉄多量に含む）
6暗褐色土（酸化鉄若干含む）
7灰黄白色粘土
8灰色粘土（暗灰褐色粘土粒子若干混入、酸化鉄少量含む）
9淡緑灰色粘土（シルト質、暗灰褐色粘土ブロック多量に含む）
10淡緑灰色粘土（シルト質、暗灰褐色粘土ブロック少量含む）
11暗灰褐色粘土
12緑灰色粘土（暗灰褐色粘土ブロック混入）
13緑灰色粒子
14暗灰褐色粘土ブロック
15暗緑灰色粘土（暗灰褐色粘土多量に混入）
16緑灰色粘土（シルト質）

0　2m
1：60



第151図　Ⅳ区第９号井戸跡、出土遺物

第29表　Ⅳ区第９号井戸跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	須恵器坏	(11.8)	3.9	(6.5)	ABF	灰色	A	30%	墨書「里」。南比企産。
2	須恵器坏	－	－	(7.5)	ABN	灰色	D	底部25%	
3	須恵器蓋	14.1	－	－	AFN	灰色	A	90%	南比企産。
4	土師器鉢	－	－	(8.0)	ABJN	橙色	A	底部破片	
5	土師器甕	－	－	5.1	AI	外面：にぶい褐色　内面：にぶい橙色	A	底部100%	
6	土師器甕	－	－	(4.4)	BEI	外面：橙色　内面：淡橙色	D	底部40%	
7	須恵器瓶	－	－	－	B	灰白色	D	頸部50%	

平面は径1.64m×1.15mの南北に長い楕円形である。これは、南側の肩部が崩壊したためと思われる。確認面からの深さは1.32mを測り、底面は平坦であった。壁面は深さ１m辺りでオーバー・ハングしており、その下部は袋状となっている。

出土遺物は、検出できなかった。

第13号井戸跡（第152図）

９区Ｓ―29グリッドに位置する。

平面は径14.2m×1.23mの楕円形で、確認面からの深さは1.03mを測る。底面は平坦となっている。壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がっているが、肩部の崩壊もあり、確認面から25cm辺りで漏斗状に広がりをもっている。

出土遺物は、検出できなかった。

第14号井戸跡（第152図）

９区Ｒ・Ｓ―28グリッドに位置する。Ⅳ区第43号溝跡と重複していた。

平面は径1.2m×0.95mの楕円形で、確認面からの深さは1.3mを測る。底面は平坦となっている。壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がっているが、肩部付近は崩壊のため深さ20cmほどまでえぐれている。

出土遺物は、検出できなかった。

第15号井戸跡（第152図）

９区Ｓ―27グリッドに位置する。

平面は径1.21m×1.0mの楕円形で、確認面からの深さは1.47mを測る。底面は平坦となっている。壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。壁面は北側に一部崩壊が認められるが、ほぼ垂直に近い状態である。覆土の層はほぼ並行となっている。

出土遺物は、検出できなかった。

第16号井戸跡（第152図）

９区Ｔ―27グリッドに位置する。いくつかのピットと重複していた。

平面は径1.0m前後でほぼ円形である。深さは確認面から１m辺りまで掘削を行ったが、調査中の崩壊が著しく、底面まで確認することができなかった。確認された壁面はほぼ垂直であった。

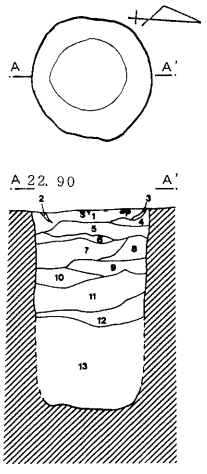
出土遺物は、検出できなかった。

第17号井戸跡（第152図）

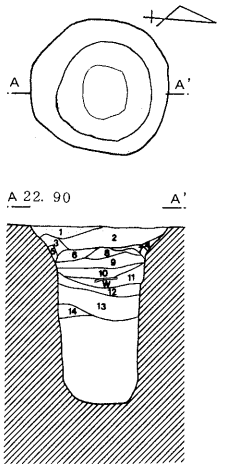
10区Ａ―28グリッドに位置する。いくつかのピットと重複していた。

平面は径1.46m×1.35mの楕円形で、確認面からの深さは0.96mを測る。確認面から擂鉢状に傾斜し

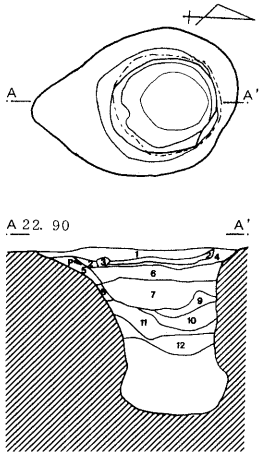
第 10 号井戸跡



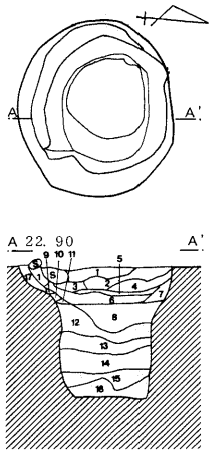
第 11 号井戸跡



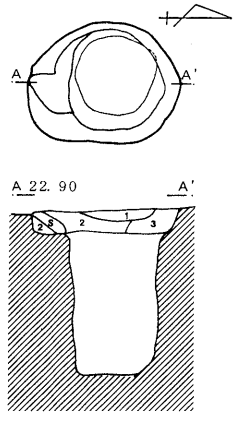
第 12 号井戸跡



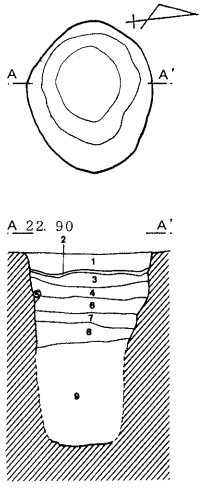
第 13 号井戸跡



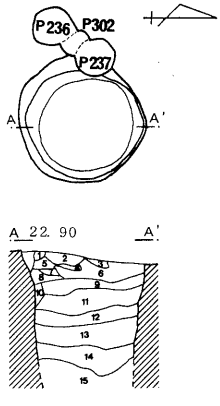
第 14 号井戸跡



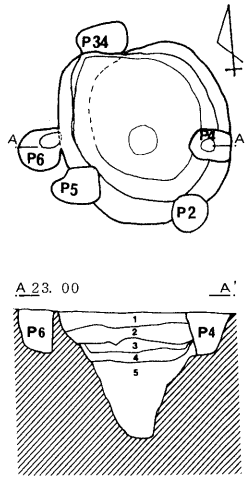
第 15 号井戸跡



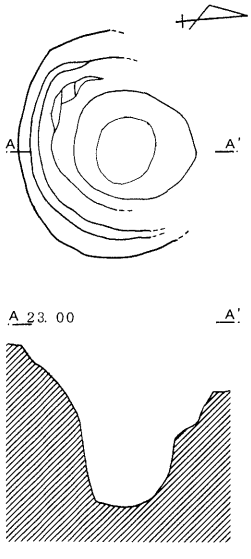
第 16 号井戸跡



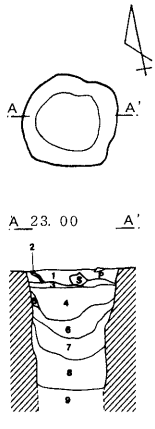
第 17 号井戸跡



第 18 号井戸跡



第 19 号井戸跡



第10号井戸跡（A－A'）
1灰色粘土（シルト質、酸化鉄多量、土器含む）
2淡緑灰色粘土（酸化鉄含む）
3淡緑灰色粘土（酸化鉄含む）
4灰色粘土（酸化鉄少量含む）
5灰色粘土（淡緑灰白色粘土ブロック、酸化鉄、炭化物、マンガン含む）
6灰色粘土（粘性つよい、酸化鉄若干、腐食植物含む）
7灰色粘土（淡緑灰白色粘土小ブロック若干、酸化鉄、腐食植物含む）
8灰褐色粘土（粘性つよい、酸化鉄ごくわずか含む）
9灰褐色粘土（粘性非常につよい）
10暗緑灰色粘土（暗灰色粘土粒子含む）
11暗灰色粘土（粘性つよい）
12暗灰色粘土（若干シルト質、腐食植物、木片含む）
13暗灰色粘土（粘性つよい）

第11号井戸跡（A－A'）
1灰色粘土（シルト質、酸化鉄多量に含む）
2灰色粘質土（マンガン、酸化鉄含む）
3灰色粘質土
4灰色粘質土
5灰色粘土（酸化鉄わずかに含む）
6灰色粘土（酸化鉄多量、炭化物わずかに含む）
7灰色粘質土（酸化鉄多量に含む）
8灰色粘土（酸化鉄わずかに含む）
9灰色粘土（酸化鉄わずかに含む）
10灰色粘土（酸化鉄、木片、植物片含む）
11暗灰色粘土
12暗灰色粘土（シルト質）
13暗灰色粘土
14暗灰色粘土

第12号井戸跡（A－A'）
1灰色粘土（シルト質、酸化鉄多量、火山灰含む）
2灰色粘土（酸化鉄少量含む）
3暗灰色粘土
4灰色粘土（酸化鉄層）
5灰褐色粘土（酸化鉄若干含む）
6灰褐色粘土（酸化鉄若干含む）
7灰色粘土（粘性つよい、小石若干含む）
8暗灰色粘土
9暗灰色粘土（粘性つよい、白色・コバルトブルー粒子多量、腐食植物含む）
10灰色粘土（腐食植物含む）
11暗灰色粘土（粘性つよい、白色・コバルトブルー粒子多量、腐食植物含む）
12灰色粘土（腐食植物含む）

0　2m
1：60

第152図　Ⅳ区第10～19号井戸跡

第13号井戸跡（Ａ－Ａ’）
１灰色粘土（シルト質、酸化鉄多量、炭化物、火山灰含む）
２灰色粘土（酸化鉄少量、火山灰含む）
３灰褐色粘土（酸化鉄少量含む）
４灰褐色粘土（酸化鉄少量含む）
５灰褐色粘土（酸化鉄多量に含む）
６灰色粘土（黄灰白色粘土小ブロック若干含む）
７灰色粘土
８暗灰色粘土（酸化鉄若干含む）
９灰色粘土
10灰褐色粘土（酸化鉄多量に含む）
11灰色粘土
12暗灰色粘土（酸化鉄若干含む）
13暗灰色粘土（シルト感ある）
14黒灰色粘土（粘性つよい）
15暗灰色粘土（粘性つよい）
16暗灰色粘土（暗緑灰色粘土ブロック含む）
17灰色粘質土（黒褐色粒子、酸化鉄含む）

第14号井戸跡（Ａ－Ａ’）
１灰褐色粘土（灰黄褐色粒子、酸化鉄含む）
２灰褐色粘土（灰黄褐色粒子若干、酸化鉄含む）
３灰褐色粘土（酸化鉄多量に含む）

第15号井戸跡（Ａ－Ａ’）
１灰色粘土（黄灰色粘土粒子、酸化鉄、炭化物、焼土、火山灰含む）
２灰色粘土（酸化鉄多量に含む）
３灰色粘土（粘性つよい、黄灰色粘土粒子若干、酸化鉄若干含む）
４灰色粘土（粘性つよい、酸化鉄若干含む）
５暗灰色粘土
６灰色粘土（粘性つよい、酸化鉄含む）
７暗灰褐色粘土（粘性つよい、酸化鉄多量に含む）
８暗緑灰色粘土（粘性つよい）
９暗灰色粘土（暗緑灰色粘土粒子含む）

第16号井戸跡（Ａ－Ａ’）
１灰色粘土（かたくしまる、黄灰色粘土ブロック、酸化鉄含む）
２灰色粘土（かたくしまる、黄灰白色粘土粒子少量含む）
３緑灰色粘土ブロック（酸化鉄若干含む）
４緑灰色粘土ブロック（酸化鉄若干含む）
５灰色粘土（酸化鉄含む）
６灰色粘土（緑灰色粘土ブロック若干、酸化鉄含む）
７淡灰色粘土（酸化鉄含む）
８灰色粘土（酸化鉄含む）
９灰褐色粘土（粘性つよい、緑灰色粘土粒子少量、酸化鉄多量に含む）
10暗灰褐色粘土（粘性つよい）
11暗灰褐色粘土（粘性つよい、灰白粘土小ブロック少量、酸化鉄含む）
12灰褐色粘土（粘性つよい、灰色粘土粒子含む）
13暗灰色粘土（シルト質、粘性つよい、暗緑灰色粘土ブロック含む）
14暗灰色粘土（粘性つよい）
15暗灰色粘土（粘性つよい、暗緑灰色粘土ブロック少量混じる）

第17号井戸跡（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土（酸化鉄、マンガン、全面に浅間Ａ火山灰含む）
２灰色粘質土（青灰色土ブロックわずか、酸化鉄、マンガン、全面に浅間Ａ火山灰含む）
３灰色粘質土（青灰色土ブロック、酸化鉄多量、マンガン、全面に浅間Ａ火山灰含む）
４灰色粘土（青灰色土ブロック、酸化鉄わずかに含む）
５暗灰色粘土（青灰色土ブロックわずかに含む）

第19号井戸跡（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土（酸化鉄多量、マンガンわずかに含む）
２灰色粘質土（炭化物わずかに含む）
３灰色粘質土（酸化鉄多量に含む）
４暗灰色粘土（酸化鉄わずかに含む）
５暗灰色粘土（青灰色ブロック・粒子含む）
６青灰色粘土（下層に酸化鉄含む）
７炭化物層
８暗灰色粘土（下層に酸化鉄、植物片含む）
９青灰色シルト

て、最下面では幅わずか20cmと狭くなる。大半の井戸が筒状であるのに対して、この遺構は崩壊も加わったためか擂鉢状とやや特異である。

出土遺物は、検出できなかった。

第18号井戸跡（第152図）

10区Ａ－30グリッドに位置する。南側部分は調査区域外であったが、拡張して調査を行った。境界断面の観察ができ、北側より高い位置でプランを把握することができたため、平面図がやや不規則となった。

推定される平面は径1.8mの円形で、深さは1.25mを測る。底面は舟底状で、底からの立ち上がりはほぼ垂直に近いが、中ほどから肩部の崩壊が認められ、漏斗状となっている。

出土遺物は、検出できなかった。

第19号井戸跡（第152図）

９区Ｐ－30グリッドに位置する。

平面は径0.75mほどの円形で、深さは確認面から1.1mまで確認した。その下は、崩壊が著しかったため、掘削を行わなかった。壁はほぼ垂直に立ち上がり、円筒状となっている。

出土遺物は、陶器こね鉢、焙烙破片などが上層で検出できた。

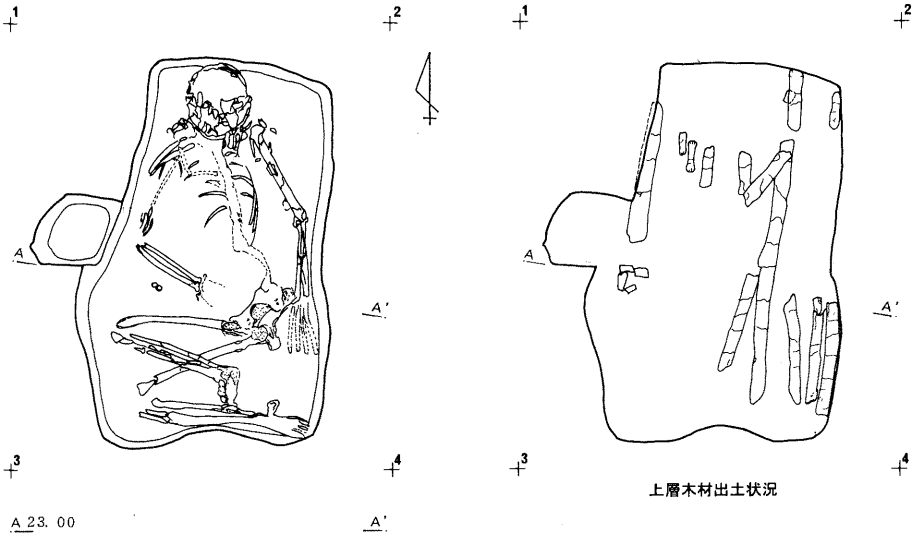
(6)　土坑墓

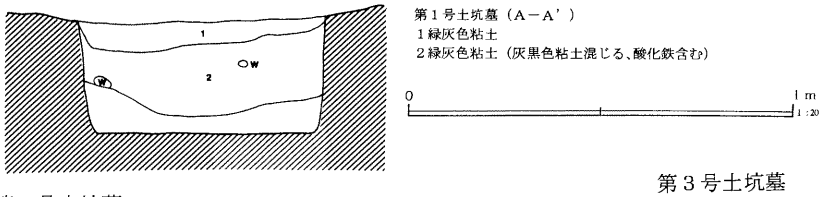
第１号土坑墓（第153図）

４区Ｓ－16、Ｓ－17グリッドにまたがり位置する。

平面は0.98m×0.53mの規模で、南にやや張り出した長方形である。深さは確認面から0.3mを測る。人骨の残りは比較的良好で、頭部を北に位置し、仰臥屈葬で埋葬されていることがわかる。土坑が長方形で比較的整った形状であることから、方形の木棺により埋葬されたものと推測される。人骨の上部の覆土から棒状の材木が確認されており、板材でないことから多少の疑問も残るが、棺材の一部と思われ

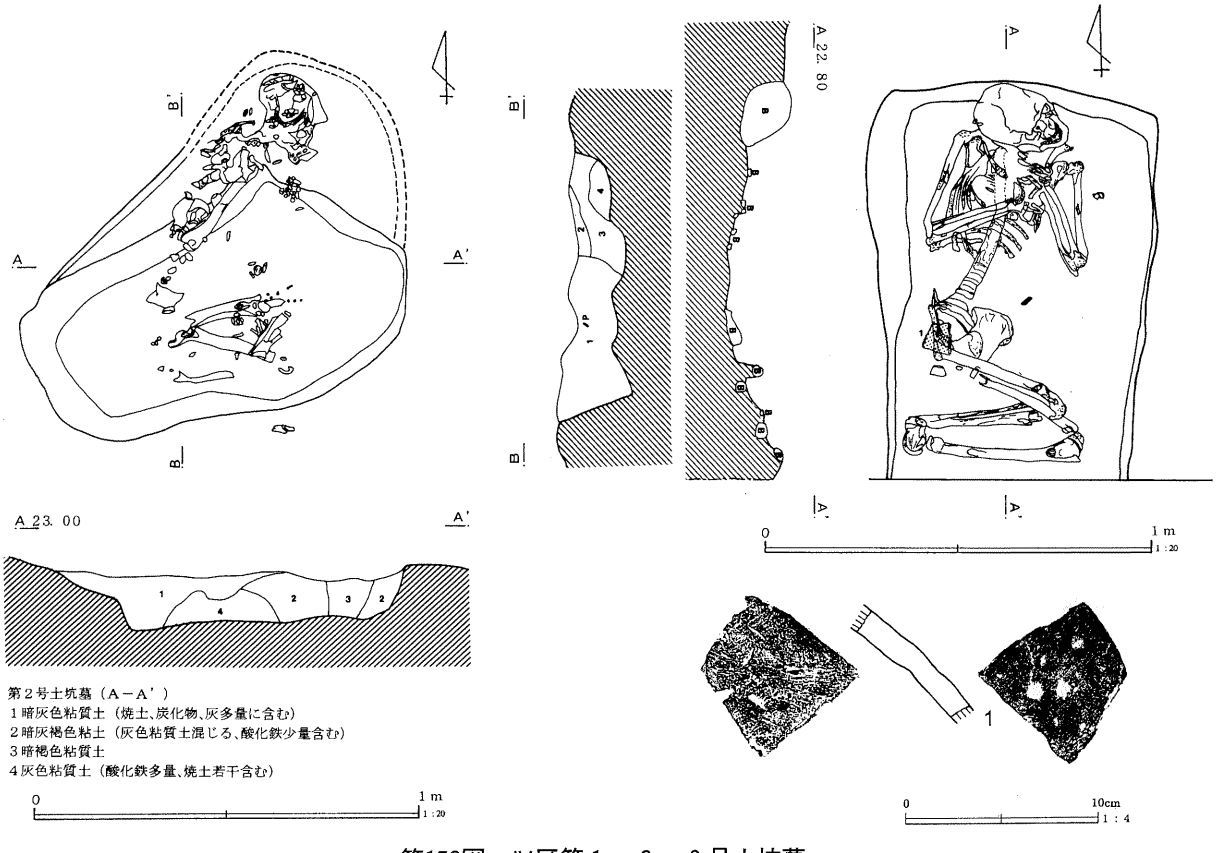
第１号土坑墓





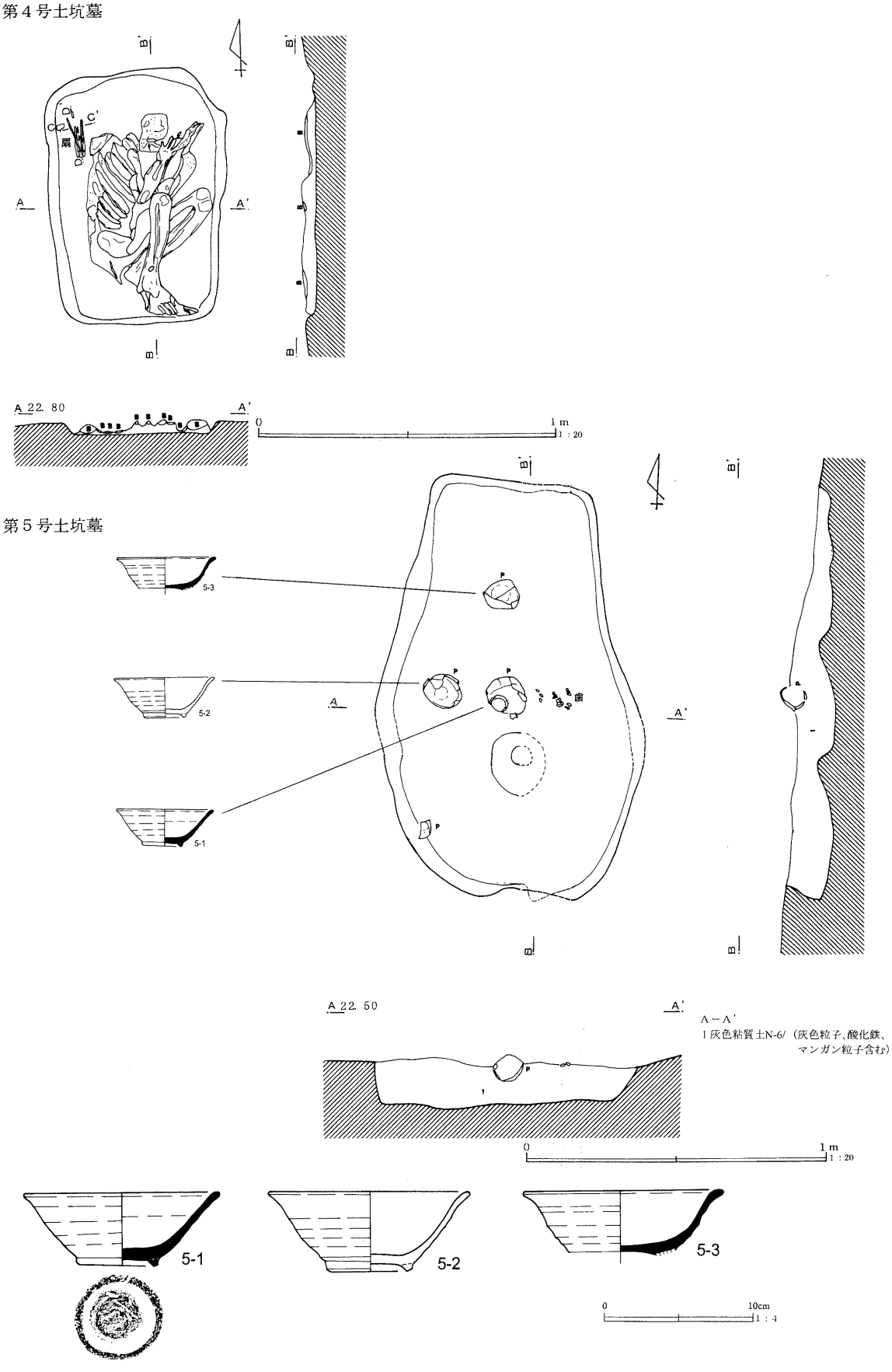
第２号土坑墓

第３号土坑墓



第153図　Ⅳ区第１・２・３号土坑墓

第４号土坑墓



第154図　Ⅳ区第４・５号土坑墓、第５号土坑墓出土遺物

第30表　Ⅳ区第５号土坑墓出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
5-1	須恵器椀	13.3	5.0	5.5	ABEGL	灰色	E	100%	末野産。
5-2	須恵器椀	13.6	5.5	5.8	ABILN	外面：灰色　内面：黄灰色	E	60%	末野産。
5-3	須恵器椀	(13.6)	—	—	ABEGLMN	外面：灰色　内面：灰白色	E	70%	末野産。

なくもない。出土遺物は、検出できなかった。

第２号土坑墓（第153図）

５区Ｃ-19グリッドに位置する。第40号溝跡上に作られた遺構で、平面プランが不鮮明である。

平面形は南北方向1.0m、東西方向1.0mの不整楕円形を呈するが、本来南北を長軸とした長方形であったと思われる。頭部から胸部、大腿部周辺の骨が比較的良好に残っていた。頭部を北にして、東を向く、横臥屈葬で埋葬されている。

出土遺物は、検出できなかった。

第３号土坑墓（第153図）

４区Ｓ―17グリッドに位置する。第１号土坑墓に隣接して作られている。南側の立ち上がりは攪乱のために確認できなかった。

平面形は長軸1.05m、短軸0.74m、深さ0.16mを測る。人骨の残りは非常に良好である。頭部を北に位置し、胸骨の具合から推定して、仰臥屈葬したものと思われる。

出土遺物は、常滑の甕破片がわずかに検出できた。

第４号土坑墓（第154図）

10区Ａ―27グリッドと９区Ｔ―27グリッドにまたがり位置する。

平面は長軸0.86m、短軸0.59mの長方形で、深さは確認面から５cm前後と浅かった。土坑には頭を北に位置し、横臥屈葬で埋納された人骨が確認された。調査時には比較的良好な形で人骨は確認されが、非常に脆く、取上げを行うことは出来なかった。頭部の西側には副葬品と思われる扇子が確認されたが、他の遺物は検出するに至らなかった。

第５号土坑墓（第154図、第30表）

８区Ｍ―24グリッドに位置する。

平面は長軸1.38m、短軸0.88mの長方形で、深さは確認面から0.18mほどであった。土坑の中央付近に歯が検出しており、この土坑が墓跡の可能性が高いと判断された。土坑の中央付近から北にかけて酸化焔焼成の須恵器椀１点、須恵器椀が２点検出された。板材、釘などは確認されなかったが、土坑の形状から木製の棺に納められて埋葬されたものと推測される。遺物から判断して、９世紀代のものと判断される。

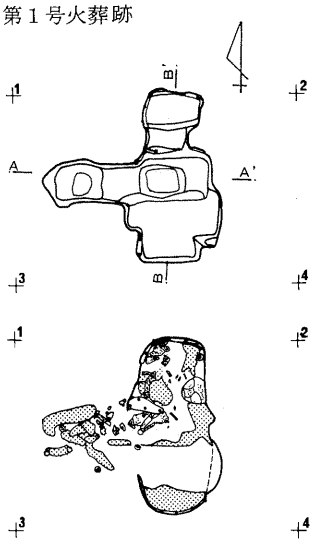
(7)　火葬跡

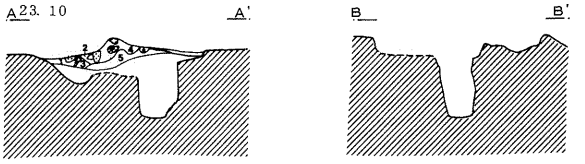
第１号火葬跡（第155図）

９区Ｒ―29グリッドに位置する。

主体となる土坑の平面は長軸0.91m、短軸0.36mの長方形で、深さは0.15m前後を測る。土坑西壁は

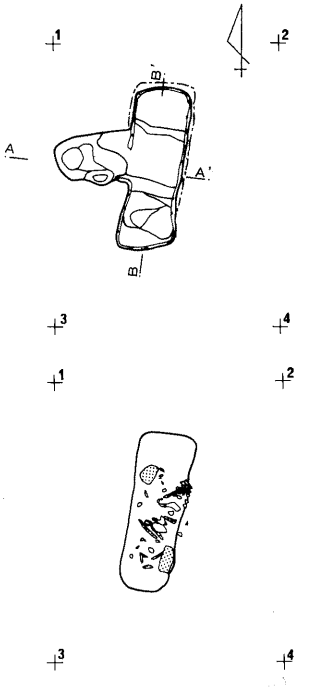
第１号火葬跡

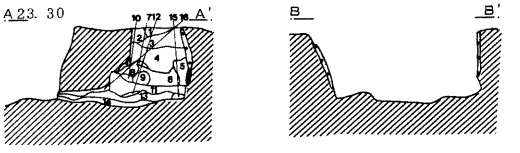




A－A'
1灰色粘土（酸化鉄若干含む）
2灰白色粘土
3黒灰色粘土
4暗灰色粘土（炭化物、骨片含む）
5炭化物層

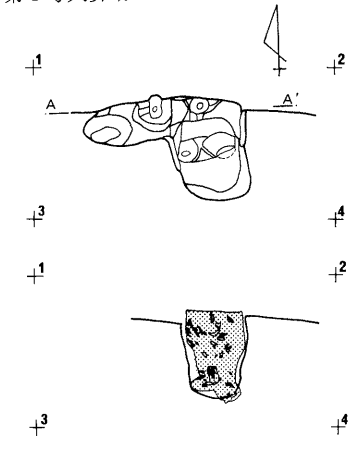
第２号火葬跡

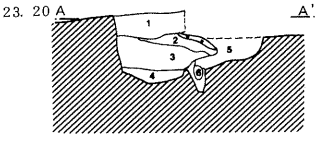




A－A'
1黄灰色粘土（酸化鉄、火山灰含む）
2灰色粘土（青灰色粒子、酸化鉄、火山灰含む）
3灰褐色粘土（酸化鉄、マンガン、焼土、炭化物、土器含む）
4灰褐色粘土（褐色土ブロック若干、焼土、炭化物、火山灰含む）
5焼土と炭化物の混合層（骨片含む）
6暗灰褐色粘土（焼土、炭化物含む）
7焼土壁（崩落したもの）
8焼土壁（崩落したもの）
9焼土壁（崩落したもの）
10灰褐色粘土（炭化物、焼土含む）
11暗灰褐色粘土（青灰色粘土粒子若干、焼土、炭化物、骨片含む）
12暗灰褐色粘土（焼土、炭化物含む）
13灰褐色粘土（焼土少量、骨片多量に含む）
14炭化物層
15暗灰色粘土（若干比熱し紫褐色呈する）
16灰色粘土（若干シルト質、焼土、マンガン含む）

第３号火葬跡





A－A'
1淡褐色土（シルト質、炭化物、焼土若干、火山灰含む）
2灰褐色粘土（焼土、炭化物、骨片含む）
3炭化物層（焼土、骨片含む）
4灰色粘土（酸化鉄少量含む）
5灰色粘土（酸化鉄少量、炭化物含む、焼土壁混じる）
6焼土と炭化物の混合層

炭化物
焼土

0　1m
1：40

第155図　Ⅳ区第１～３号火葬跡

中央付近から西に幅20cm、長さ45cmほど溝状に張り出している。これは、火葬の際の焚口部分となるものと推定される。土坑の中央部付近は確認面から35cmと深くなっているが、本遺構と類似する火葬遺構と比較すると、本土坑のように深いピットを持つことは機能的でなく不自然であることから、他の遺構との重複と考えられる。人骨を含んだ焼土・炭化物が、遺構全体に広がっていた。同種の火葬遺構には、土坑の左右に礫が置かれたものが多いが、本遺跡の火葬跡のいずれからも礫の確認はなかった。

第2号火葬跡（第155図）

9区T—28グリッドに位置する。

平面長軸0.85m、短軸0.32mの南北に長い長方形土坑で、深さは0.4mを測る。土坑の壁は四面とも強く火を受け、硬化した赤色面となっている。土坑の覆土中には炭化物、焼土などに混じり、人骨もたくさん検出された。土坑の西壁は中央付近から西に幅30cm、長さ40cm、高さ10cmのトンネルとなっている。本来、高さはもっとあったものと思われるが、崩落したものと考えられる。この穴が、火葬の際の焚口的なものと推定される。

第3号火葬跡（第155図）

10区A—30グリッドに位置する。遺構の北半分は切られてない。

長軸方向の残存長0.53m、短軸は0.39mであったが、実際は長軸方向が1mほどの規模と考えられる。深さは確認面から38cmほどを測る。土坑の西壁から西に幅25cm、長さ45cmほどの溝状の張り出しがある。これが、火葬の際の焚口的な施設と推定される。

(8) 溝跡

区画溝及び第1～43号溝跡は、上層の一面目の溝跡で、第44～54号溝跡は下層の二面目の調査で確認された溝跡である。以下、詳細を記述する。

第1号区画溝（第83・156・157図、第31表）

4区R—19グリッドからほぼ東西に延び、4区K—19グリッドで方向を南に30°ほど変えて延びる。そして、9区H—22グリッドで第2号区画溝・第41号溝跡と合流し、角度を北に20°ほど変えて第2号区画溝と交わりながら東へと延び、9区D—21グリッドで調査区域外となる。

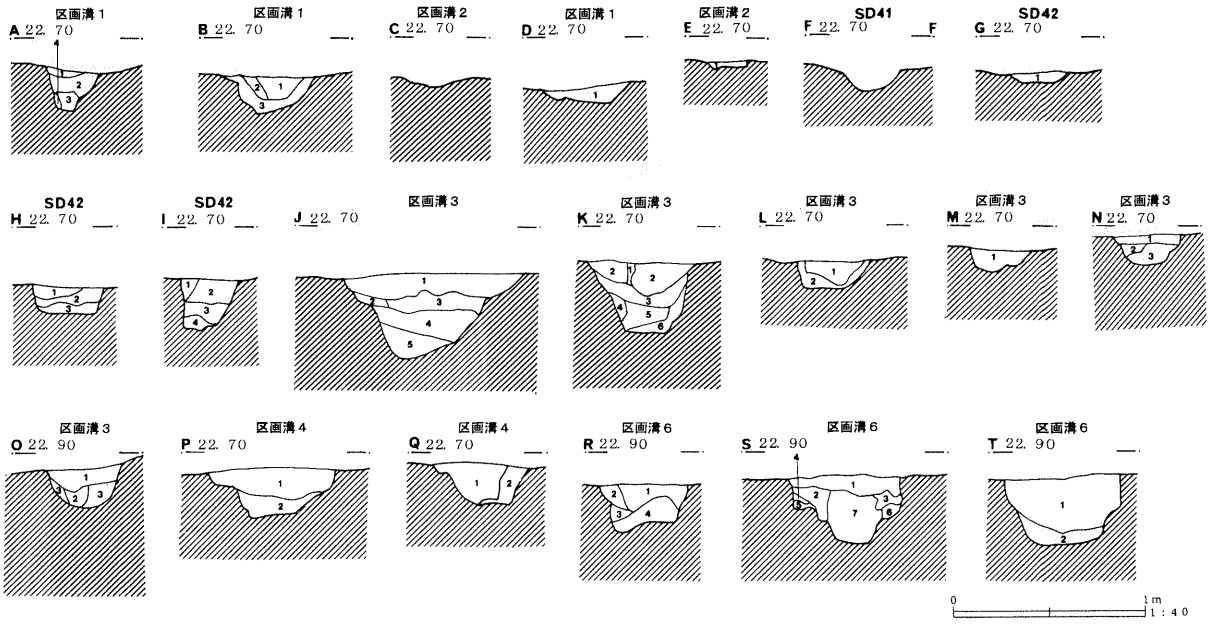
幅は広いところで0.5m前後、狭いところで0.25m前後であり、深さは0.10～0.22mと浅い。底部は溝幅が広い所ではほぼ平坦となっており、狭いところでは壁面の立ち上がりは急である。土層は比較的単純で、自然堆積したものと推測される。この溝に並行に主軸をほぼ同じにして並ぶ掘立柱建物跡群は、この溝との関連が想定できる。

出土遺物は少なかったが、土師器坏、須恵器坏などが検出された。

第2号区画溝（第83・156図）

4区O—19グリッドから始まり第1号区画溝の南に並行して東へ延び、4区L—19グリッドで第1号区画溝と同じに南へ方向を変え、9区H—22グリッドで合流した後は、交差しながら第1号区画溝と同じになる。また、西は攪乱を受けて不明であった。

幅は、0.20～0.30mで狭く、深さも0.06mと非常に浅く、規模的には、かなり小さいものであった。断面形は、ゆるやかな窪地状ないしは箱形を呈する。土層は単純で、自然堆積したものと推測される。



A
1 灰色粘質土7.5Y-6/1（酸化鉄含む）
2 灰色粘質土粒子7.5Y-6/1と暗青灰色粘質土5PB-3/1粒子の混合層
3 灰色粘質土7.5Y-6/1（酸化鉄含む）
4 暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色粒子、酸化鉄含む）
B
1 灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色粒子、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土N-4/（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
D
1 灰色粘質土7.5Y-6/1（暗青灰色粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
E
1 灰色粘質土7.5Y-6/1（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
G
1 灰色粘質土N-5/（暗青灰色粒子、酸化鉄多量、焼土含む）
H
1 灰色粘質土N-5/（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 灰色粘質土N-6/（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
3 青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
I
1 灰色粘質土N-4/（暗灰色粒子、マンガン粒子含む）
2 灰色粘質土N-6/（暗灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄含む）
4 灰色粘質土N-5/（酸化鉄を多量に含み明褐色を呈する、暗灰色粒子含む）
J
1 青灰色粘質土5PB-6/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 明褐色粘質土7.5YR-6/8（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、暗青灰色粒子含む）
3 青灰色粘質土5B-6/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、黒褐色粒子、炭化物若干含む）
4 青灰色粘質土5B-6/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
5 青灰色粘質土5B-5/1（暗青灰色粒子含む）
K
1 攪乱
2 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
4 青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
5 青灰色粘質土5B-6/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、暗青灰色粒子含む）
6 青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色粒子多量、酸化鉄含む）
L
1 灰色粘質土N-5/（暗灰色粒子若干、酸化鉄多量に含む）
2 灰色粘質土N-4/（黒褐色粒子多量、暗灰色粒子、酸化鉄含む）
M
1 灰色粘質土N-5/（暗灰色粒子、酸化鉄多量に含む）
N
1 灰色粘質土（酸化鉄若干含む）
2 灰色粘質土（灰色粘質土混じる）
3 灰色粘質土（褐灰色粘質土多量に混じる、酸化鉄含む）
O
1 灰白色粘質土（酸化鉄多量に含み浅黄色を呈する、灰色粘質土混じる）
2 灰白色粘質土（粘性つよい、酸化鉄若干含む）
P
1 灰色粘質土N-5/（暗灰色粒子多量、酸化鉄含む）
2 灰色粘土N-4/（暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
Q
1 灰白色粘質土（褐灰色粘質土粒子混じる、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土（酸化鉄含む）
R
1 灰色粘質土N-6/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 灰白色粘質土N-7/（酸化鉄含む）
3 暗青灰色粘土10BG-4/1（酸化鉄含む）
4 青灰色粘質土5BG-5/1（酸化鉄含む）
S
1 灰色粘質土（酸化鉄、マンガン粒子わずかに含む）
2 暗灰色粘土（酸化鉄、マンガン粒子わずかに含む）
3 暗灰色粘土
4 黄灰色粘土（酸化鉄含む）
5 黒灰色粘土（酸化鉄含む）
6 黄灰色粘土
7 灰色粘質土（暗灰色粘土ブロックわずかに含む）
T
1 灰色粘質土（しまる、褐灰色粘質土混じる、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土（黒灰色粘土、灰白色粘質土若干混じる、酸化鉄含む）

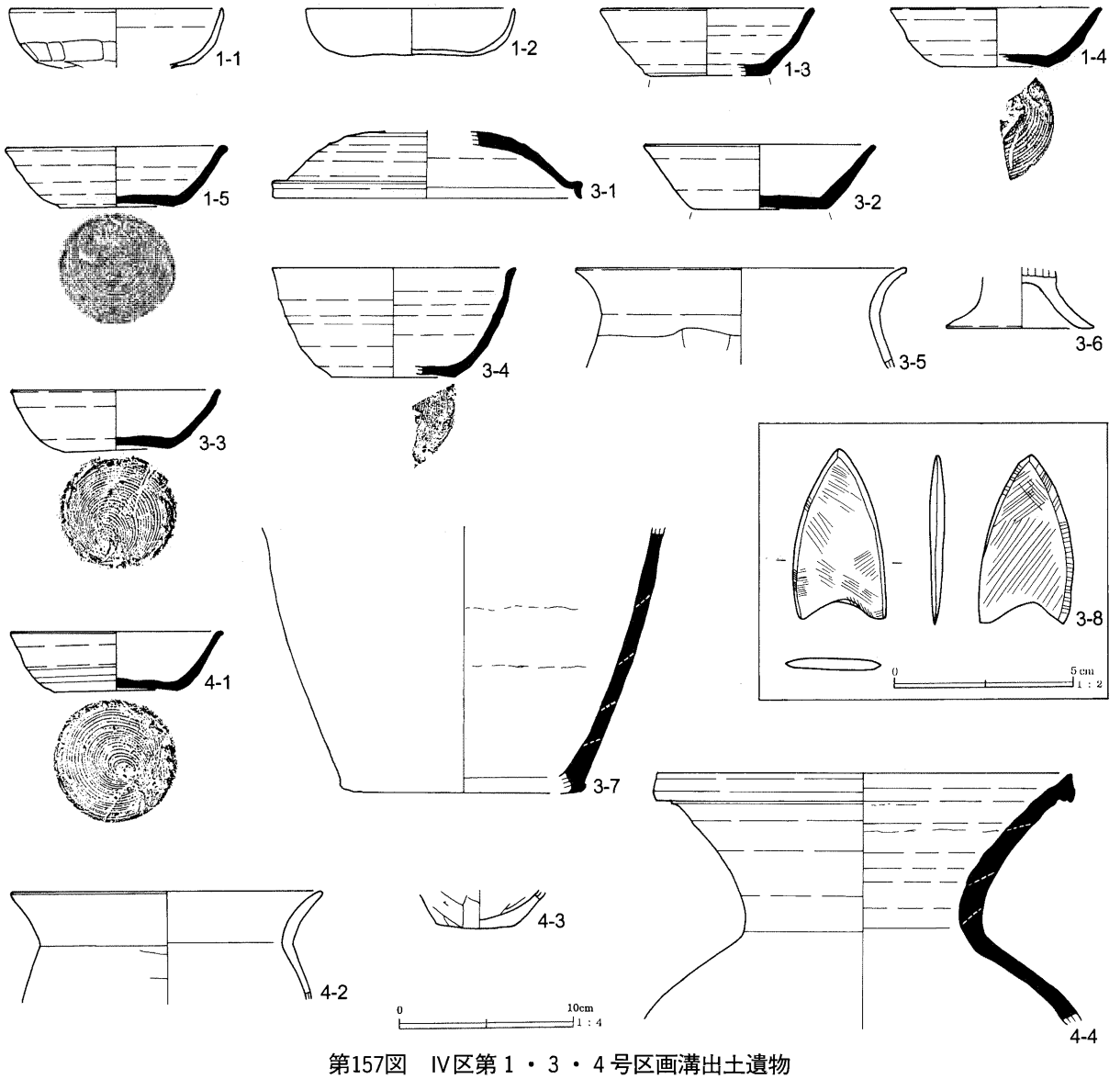
第156図　Ⅳ区第１～６号区画溝、第41・42号溝跡土層断面図

出土遺物は検出できなかった。

第３号区画溝（第83・156・157図、第31表）

西調査区域外の10区Ａ—26グリッドからほぼ東へ延び、９区Ｒ—26グリッドで第６号区画溝と直交し、９区Ｌ—26グリッドで第５号区画溝と、９区Ｊ—26グリッドで第４号区画溝と、９区Ｄ—26グリッドで第42号溝跡とそれぞれ合流し、河川跡Ｃ地点に接続する。

幅は0.32～0.94m、深さは0.12～0.45mと幅、深さともにばらつきがあり、西から９区Ｊ—26グリッドまでの範囲は幅、深さとも小規模な溝である。このことから、別溝でそれ以東の規模の大きい溝が第４号区画溝へとつながるのが最初の区画溝であった可能性も考えられる。西部分の溝は底部が船底状で、



第157図　Ⅳ区第１・３・４号区画溝出土遺物

東部分の溝は箱薬研状を呈する。壁面の立ち上がりはいずれも急である。土層は比較的単純で、自然堆積したものと推測される。

出土遺物は、９区D—26グリッドからG—26グリッドにかけて出土し、須恵器蓋・坏・椀・壺、土師器甕・台付甕などとともに磨製石鏃が検出された。遺物から判断すると第１号区画溝と同時期と考えられる。

第４号区画溝（第83・156・157図、第31表）

９区R—28グリッドから東へ延び、９区K—28グリッドで第５号区画溝と合流し、９区J—28グリッドでほぼ直角に方向を北に変え、９区J—26グリッドで第３号区画溝と合流する。西端は、第43号溝跡に、東寄りで第88号土坑に切られていた。

幅は0.50～0.67mであり、深さは0.12～0.34mを測る。断面形は箱薬研状で、底部幅はほぼ平坦で0.20～0.30mであった。土層はやや複雑で、人工的に埋めた可能性も推測される。

本遺構は、第３号区画溝の９区J—26グリッド以東の形状に似て、同一溝の可能性も考えられる。

出土遺物は、９区Ｋ―28グリッドに集中して出土し、須恵器坏・甕、土師器甕などが検出できた。遺物からも第３号区画溝と同一性が考えられる。

第５号区画溝（第83・156図）

９区Ｌ―26からＫ―28グリッドに位置し、南北に第３号区画溝と第４号区画溝をつなぐ形の溝である。

幅は0.25～0.35m、深さは0.08mと規模の小さなものであった。底面は船底状で非常にゆるやかなものであった。

区画内外に所在する建物群との関係から、第４号区画溝の９区Ｊ―26から９区Ｋ―28グリッド部分の代わりに作られた溝で、この第４号区画溝を埋めた後に第11号掘立柱建物跡が建てられたのではないか。

出土遺物は、検出できなかった。

第６号区画溝（第83・156図）

９区Ｒ―17グリッドからほぼ真南に延び、４区Ｒ―19グリッドで第１号区画溝と、９区Ｒ―21で東西方向の溝と合流する。南下した溝は、９区Ｒ―26グリッドで第３号区画溝と直交し、９区Ｒ―27グリッドで第43号溝跡に切られていた。第３号区画溝との新旧関係は、本遺構が古い。

幅は、南北溝0.64～0.70m、東西溝0.60～0.80m、深さは、南北溝0.26～0.37m、東西溝0.35m前後を測る。底面はほぼ平坦となっており、壁面の立ち上がりは急である。土層は、南北溝が比較的複雑で人工堆積、東西溝が単純で自然堆積したものと推測される。

出土遺物は、検出できなかった。

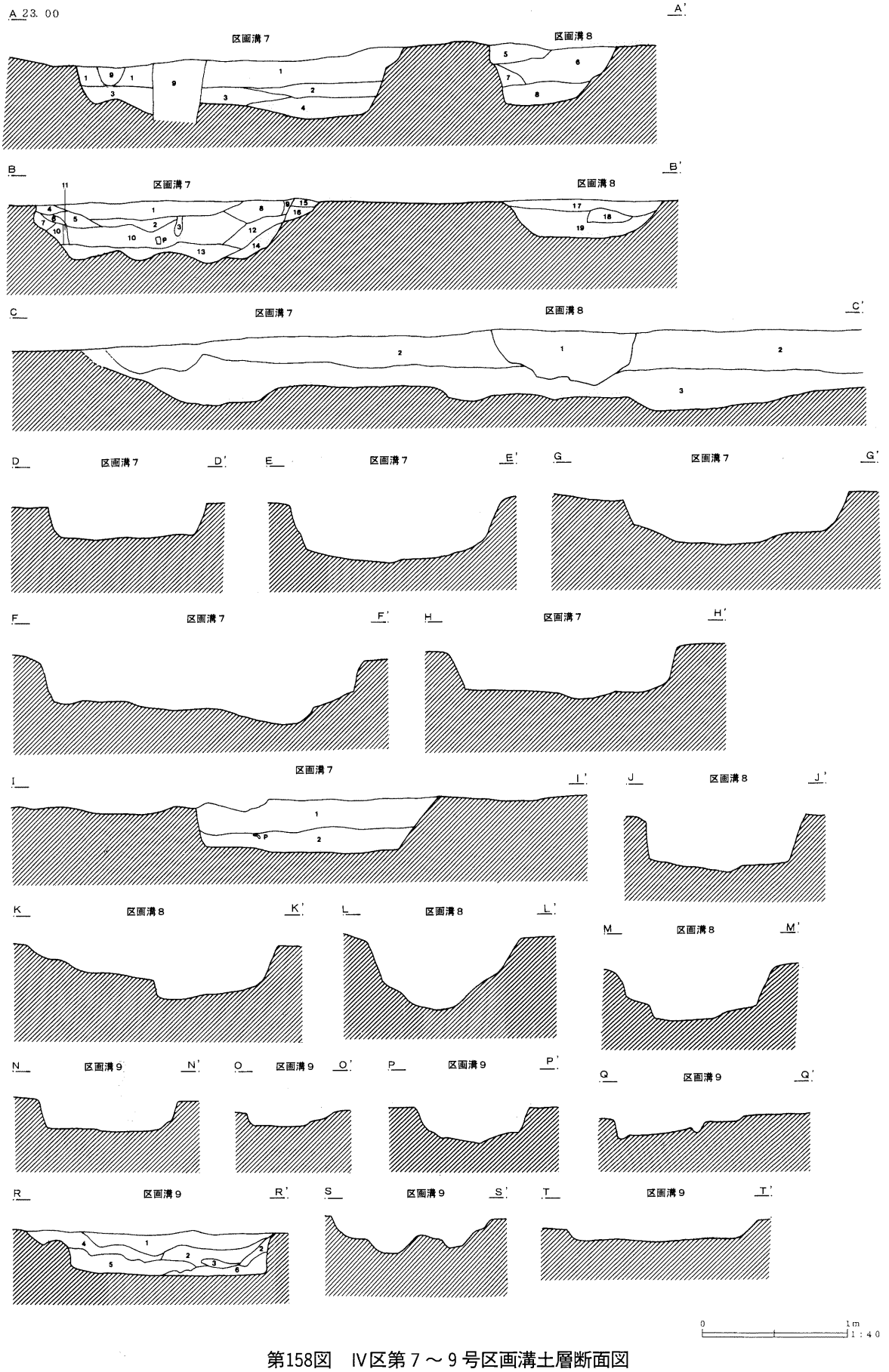
第７号区画溝（第86・158～163図、第32・33表）

４区Ｐ―14グリッドからほぼ真南に延び、９区Ｐ―20グリッドで直角に方向を西に変え、10区Ｃ―21グリッドで調査区域外となる。第２号区画溝、第49・50・51号土坑と重複関係にあり、各々に切られていた。

幅は1.8m前後であり、深さは0.4m前後と浅い。底面はほぼ平坦となっており、壁面の立ち上がりは緩やかに傾斜している。土層は比較的単純で、自然堆積したものと推測される。

第31表　Ⅳ区第１・３・４号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1-1	土師器坏	12.2	—	—	ABDJM	外面：橙色　内面：黄橙色、橙色	D	口縁部25%	
1-2	土師器坏	—	7.9	2.8	AB	橙色	D	20%	
1-3	須恵器坏	12.3	7.6	3.8	ABFN	灰色	A	15%	南比企産。
1-4	須恵器坏	12.4	8.6	3.6	AB	灰色	A	15%	
1-5	須恵器坏	12.5	3.5	6.5	ABEN	灰白色、青灰色	A	90%	
3-1	須恵器蓋	18.0	—	—	ABNF	外面：灰褐色　内面：灰褐色、灰色	A	20%	南比企産。
3-2	須恵器坏	13.3	7.5	3.7	ABE	灰白色	A	80%	
3-3	須恵器坏	12.2	6.4	3.5	AF	灰白色	A	90%	南比企産。
3-4	須恵器埦	—	7.4	6.4	AFN	灰色	A	15%	南比企産。
3-5	土師器甕	19.0	—	—	ABEI	橙色	A	口縁部25%	
3-6	土師器台付甕	—	8.3	—	ABHI	橙色	D	底部90%	
3-7	須恵器甕	—	14.4	—	ABN	外面：黒褐色　内面：黄灰色	A		
3-8	磨製石鏃	長さ2.1	幅1.3	厚さ0.2	—	—	—	完形	重さ0.7ｇ
4-1	須恵器坏	12.1	7.2	3.5	AFN	外面：灰色　内面：灰白色	A	95%	
4-2	土師器甕	18.2	—	—	ABEI	にぶい橙色	D	口縁部20%	
4-3	土師器甕	—	4.6	—	ABI	外面：橙色　内面：浅黄橙色	D	底部のみ	
4-4	須恵器甕	24.0	—	—	AB	外面：灰色　内面：灰白色	A	口縁部30%	



第158図　Ⅳ区第７～９号区画溝土層断面図

第７・８号区画溝（Ａ－Ａ’）
１灰白色粘質土5Y-7/1（しまった感じ、灰色粘質土若干混じる、酸化鉄、マンガン粒子含む）
２灰色粘質土5Y-6/1（しまった感じ、褐灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
３明青灰色粘質土10BG-7/1（比較的しまった感じ、灰色粘質土、酸化鉄含む）
４明青灰色粘質土10BG-7/1（酸化鉄含む）
５灰色粘質土5Y-6/1（灰白色粘質土粒子多量、酸化鉄含む）
６灰白色粘質土5Y-7/1（灰白色粘質土ブロック含む）
７灰白色粘質土N-7/（かたくしまる、灰白色粘質土粒子ごくわずか、酸化鉄若干含む）
８明青灰色粘質土10BG-7/1（比較的しまった感じ、灰色粘質土、酸化鉄含む）
９攪乱
第７・８号区画溝（Ｃ－Ｃ’）
１灰褐色粘質土（火山灰含む）
２暗灰褐色粘土（焼土、炭化物含む）
３灰褐色粘土（焼土、炭化物多量に含む）
第７号区画溝（Ｉ－Ｉ’）
１灰色粘質土N-4/（酸化鉄少量、炭化物、焼土含む）
２灰色粘質土N-4/（しまりない、酸化鉄少量、土器片含む）
第９号区画溝（Ｒ－Ｒ’）
１灰褐色土N-5/（黒褐色粒子、焼土、炭化物若干含む）
２灰色粘質土N-6/（酸化鉄含む）
３暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子、酸化鉄含む）
４灰色粘質土N-6/と暗灰色粘質土N-3/の混合層
５灰白色粘質土N-7/（黒褐色粒子、酸化鉄多量に含む）
６灰褐色土N-5/（酸化鉄含む）

第７・８号区画溝（Ｂ－Ｂ’）
１炭化物、灰（焼土多量に含む、遺物包含）
２灰色粘質土（炭化物、灰少量含む）
３灰色粘質土（炭化物、灰少量含む）
４灰白色粘質土（酸化鉄少量、炭化物含む）
５灰色粘質土（炭化物若干含む）
６灰白色粘土
７暗灰色粘土（酸化鉄含む）
８灰色粘質土（炭化物若干含む）
９灰白色粘土
10灰色粘質土（酸化鉄若干含む、遺物包含）
11黒灰色粘質土
12灰色粘質土（酸化鉄若干含む）
13暗灰色粘質土（酸化鉄多量に含む）
14暗灰褐色粘質土（酸化鉄若干含む）
15灰色粘質土
16灰白色粘質土
17灰色粘質土（灰白黄色粘土粒子若干、酸化鉄多量、焼土、炭化物含む）
18灰褐色粘質土（灰色粘土混じる）
19灰色粘質土（酸化鉄多量に含む）

５区Ｃ－15グリッドからＣ－21グリッドにかけて第36・37・38号溝跡があるが、この溝跡はいずれも同一の溝跡であり、さらに言うならば第７号区画溝と規模・形態が類似しており、同一の溝跡とも考えられる。さらに、北側の調査区域外に東西方向の溝跡が想定でき、第28号掘立柱建物跡を囲む形での方形区画が想定できる。ただし、北側には河川跡が所在し、これを区画の溝に代替えしていた可能性も残される。

出土遺物は、須恵器坏・甕・瓶、土師器甕・台付甕、灰釉陶器椀・皿・瓶、緑釉陶器皿、丸瓦、平瓦などが検出された。特に４区Ｑ－18・19グリッドでは、土層の堆積の過程で焼土が大量に堆積し、その覆土中に遺物が大量に入り込み、土師器甕、須恵器坏、灰釉陶器皿、緑釉陶器陰刻花文皿などが確認された。

本遺構は、第９号区画溝と同時期に存在していた可能性と、９世紀末から10世紀後半代まで存続していた可能性が考えられる。

第８号区画溝（第86・158・161図、第32表）

４区Ｐ－14グリッドから始まりほぼ真南に28m延び、９区Ｐ－20グリッドで西に方向を変え、９区Ｔ－20グリッドで終わる。第７・９号区画溝と重複関係にあり、各々を切っていた。

幅は1.0m前後であり、深さは0.4～0.5m前後と浅い。底面はほぼ平坦となっており、壁面の立ち上がりはやや急に立ち上がっている。土層は比較的単純で、自然堆積したものと推測される。

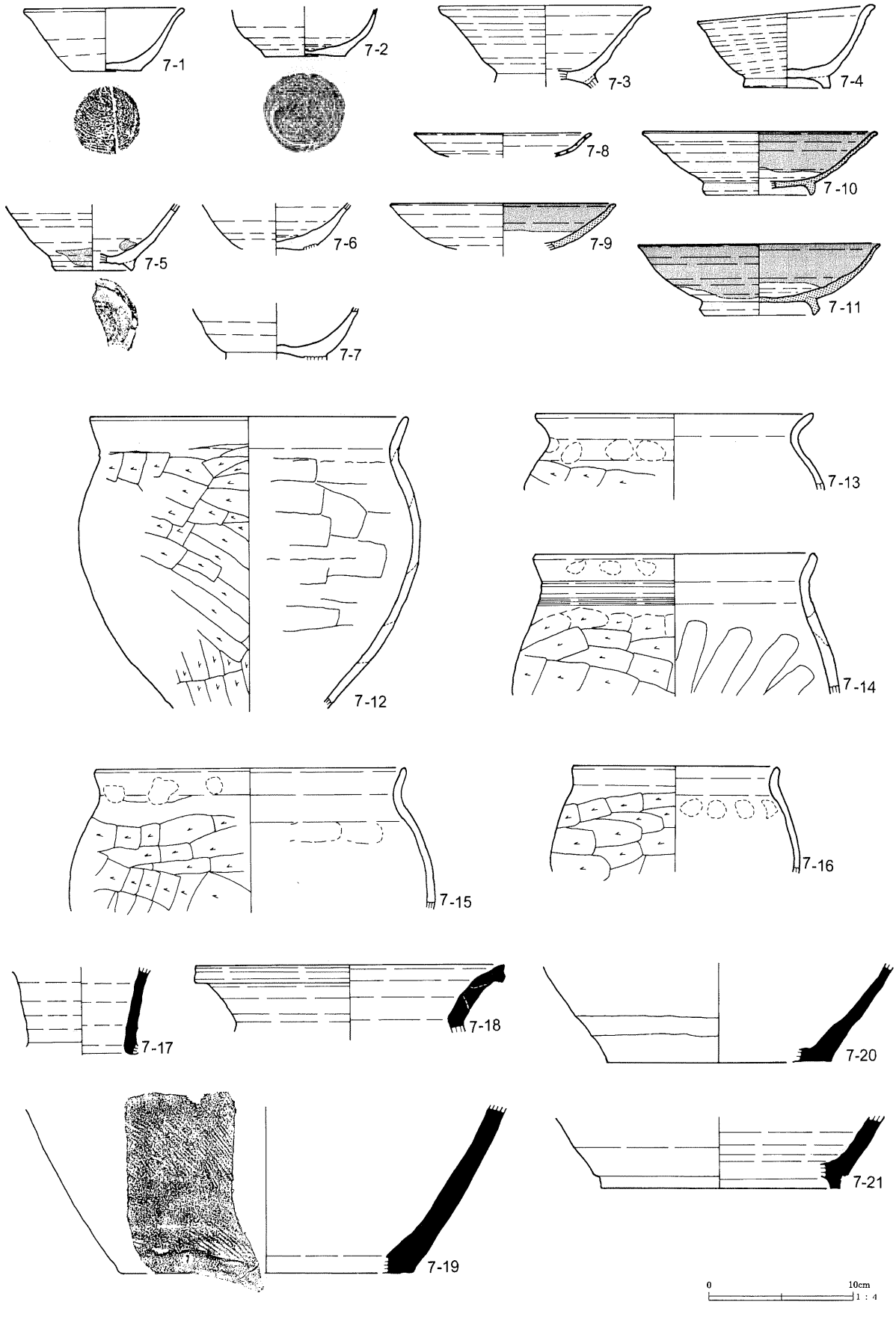
出土遺物は、須恵器坏、灰釉陶器椀・皿、土錘などが検出できた。

第９号区画溝（第86・158・161図、第32表）

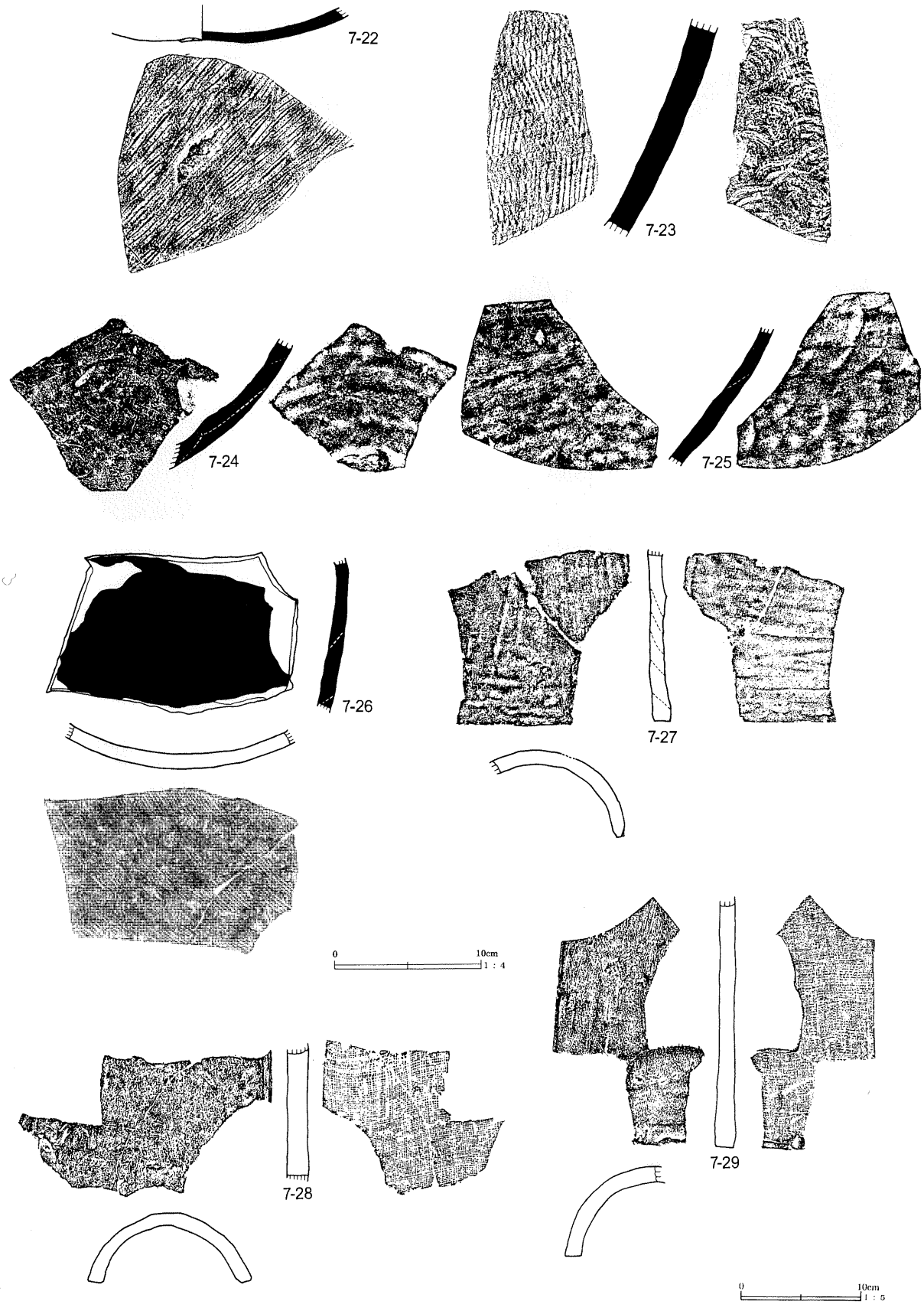
４区Ｑ－15グリッドからほぼ真南に延び、９区Ｑ－20グリッドで直角に方向を西に変え、10区Ｃ－20グリッドで調査区域外となる。第８号区画溝、第35号溝跡、第４号住居跡、第31・47号土坑、第３号竪穴遺構、第１号井戸跡と重複関係にあり、各々の遺構に切られていた。

幅、深さとも一定しておらず、幅は1.0m前後から0.6m前後、深さは0.1～0.3mであった。また、平面形態も不均一で、一部いわゆる繭溝のような形態を呈する箇所も見受けられた。底面はほぼ平坦となっており、壁面の立ち上がりは比較的急な傾斜であった。土層は比較的単純で、自然堆積したものと推測される。

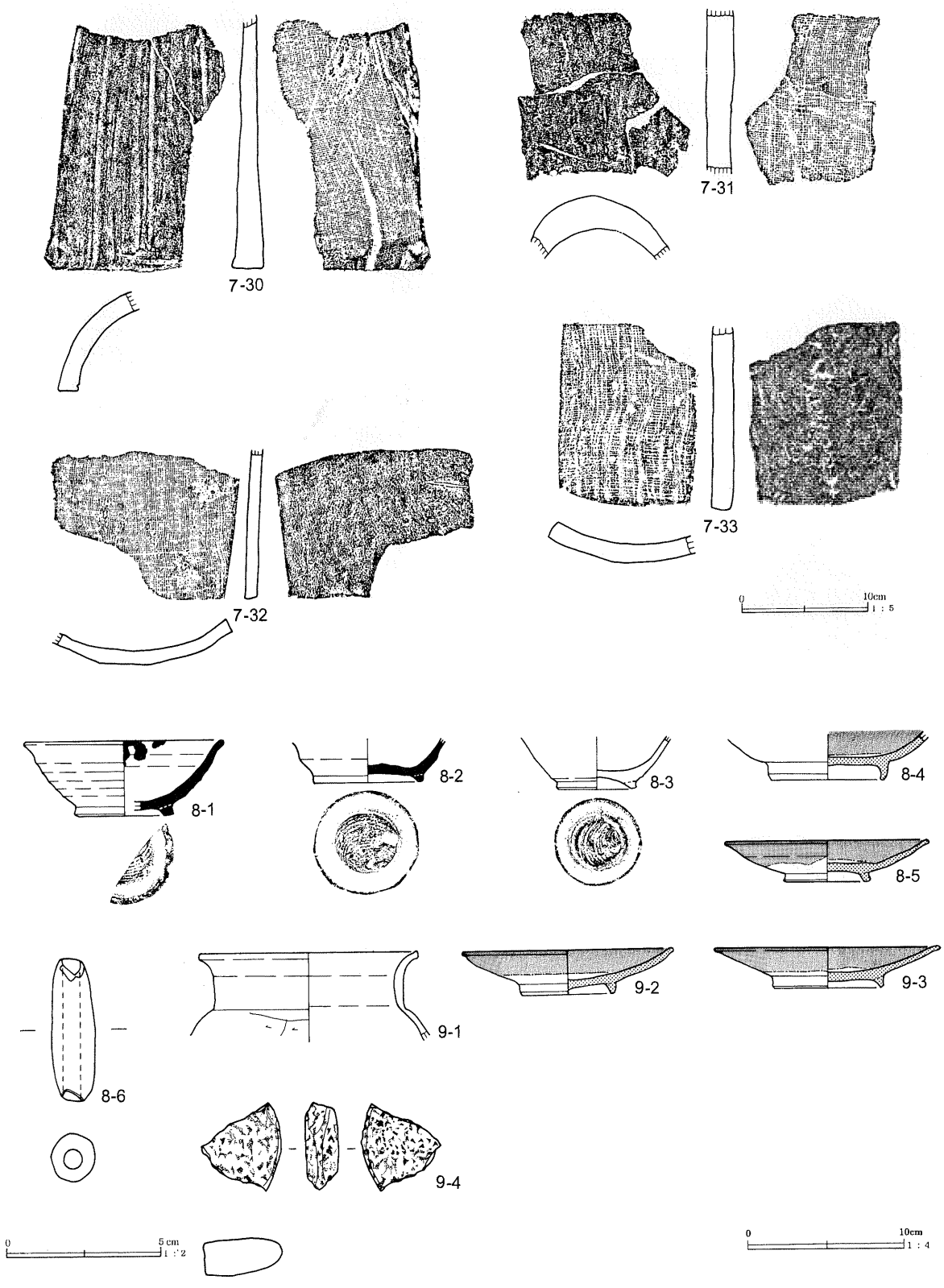
出土遺物は、土師器甕、灰釉陶器皿などが検出されたが、出土量は少なかった。



第159図　Ⅳ区第７号区画溝出土遺物(1)



第160図　Ⅳ区第７号区画溝出土遺物(2)



第161図　Ⅳ区第７・８・９号区画溝出土遺物

第32表　Ⅳ区第７～９号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
7-1	須恵器坏	(11.4)	4.5	5.0	ABLN	外面：灰オリーブ色、灰色　内面：灰色	E	60%	
7-2	須恵器坏	—	—	5.8	AHIKM	浅黄橙色	A	30%	
7-3	須恵器椀	(15.0)	—	—	KM	灰黄色	A	40%	
7-4	須恵器椀	12.4	5.2	6.0	AMN	外面：灰白色　内面：黒色	A	90%	
7-5	須恵器椀	—	—	(5.4)	HM	にぶい褐色	A	30%	器面磨滅著しい。
7-6	須恵器坏	—	—	5.0	HJMN	にぶい黄橙色	A	70%	高台脱落。
7-7	須恵器椀	—	—	—	ABE	灰白色	E	70%	
7-8	緑釉陶器皿	(12.6)	—	—	P	灰オリーブ色	A	口縁部10%	猿投産。
7-9	灰釉陶器椀	(16.0)	—	—	M	灰白色	A	口縁部20%	東濃産。
7-10	灰釉陶器椀	(16.6)	4.7	7.4	M	灰白色	A	40%	東濃産。
7-11	灰釉陶器椀	(17.0)	5.0	(7.7)	MN	灰白色	A	60%	東濃産。
7-12	土師器甕	(22.4)	—	—	ABDIKM	外面：灰黄褐色　内面：灰白色	A	口縁部30%～胴部	
7-13	土師器甕	(19.6)	—	—	M	橙色	A	口縁部20%	
7-14	土師器甕	(22.0)	—	—	HMN	にぶい褐色、にぶい黄褐色	A	口縁部25%	
7-15	土師器甕	(22.2)	—	—	M	浅黄橙色	A	口縁部20%	
7-16	土師器台付甕	(14.6)	—	—	M	にぶい橙色	A	口縁部30%	
7-17	須恵器瓶	—	—	—	ABFG	灰色	A	口縁部45%	南比企産。
7-18	須恵器壺	(21.8)	—	—	MN	灰白色	A	口縁部15%	
7-19	須恵器壺	—	—	(20.6)	ABDFGN	褐灰色	A	底部破片	南比企産。
7-20	須恵器甕	—	—	(15.7)	ABEGN	灰色	A	底部30%	
7-21	須恵器壺	—	—	(16.2)	ABEFGN	外面：灰色　内面：黄灰色	A	底部破片	南比企産。
7-22	須恵器甕	—	—	—	ABGI	灰色、灰白色	A	底部破片	底部に付着物。
7-23	須恵器甕	—	—	—	ABDFGN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	胴部10%以下	南比企産。
7-24	須恵器甕	—	—	—	ABFGIN	灰色	A	底部破片	南比企産。
7-25	須恵器甕	—	—	—	ABFGN	灰色	A	10%以下	南比企産。
7-26	須恵器甕	—	—	—	ABFI	灰色	A	底部破片	転用硯。南比企産。
7-27	丸瓦	—	—	—	ABEN	凸面：淡橙色　凹面：黄橙色	E	広端部側	
7-28	丸瓦	—	—	—	ABN	灰色、灰白色	A		
7-29	丸瓦	—	—	—	AB	凸面：灰白色　凹面：灰色	A		
7-30	丸瓦	—	—	—	ABI	凸面：にぶい黄橙色　凹面：浅黄橙色	D	広端部側	
7-31	丸瓦	—	—	—	AE	灰色	A		
7-32	平瓦	—	—	—	ABIN	褐灰色	A	狭端部側	
7-33	平瓦	—	—	—	AEN	黄灰色、明褐灰色	A	狭端部側	
8-1	須恵器椀	(13.2)	4.9	(5.7)	AN	灰色	A	15%	
8-2	須恵器椀	—	—	7.1	ABN	灰白色	A	底部100%	
8-3	須恵器椀	—	—	5.0	ABN	外面：にぶい橙色　内面：黄灰色	E	底部100%～体部下半	
8-4	灰釉陶器椀	—	—	(7.4)	AN	灰白色	A	底部45%	東濃産。
8-5	灰釉陶器皿	(13.4)	2.7	5.8	B	灰白色	A	10%	東濃産。
8-6	土錘	長さ4.7	幅1.6	重さ10.5	—	—	—	98%	
9-1	土師器台付甕	(14.5)	—	—	ABEJ	外面：明黄褐色　内面：灰黄褐色	E	口縁部15%	
9-2	灰釉陶器皿	(14.0)	2.9	(6.8)	A	灰白色	A	15%	東濃産。
9-3	灰釉陶器皿	(14.9)	2.7	(7.4)	AB	灰白色	A	20%	二川産。
9-4	磨石	長さ5.7	幅2.3	厚さ2.3	—	—	—		重さ77ｇ

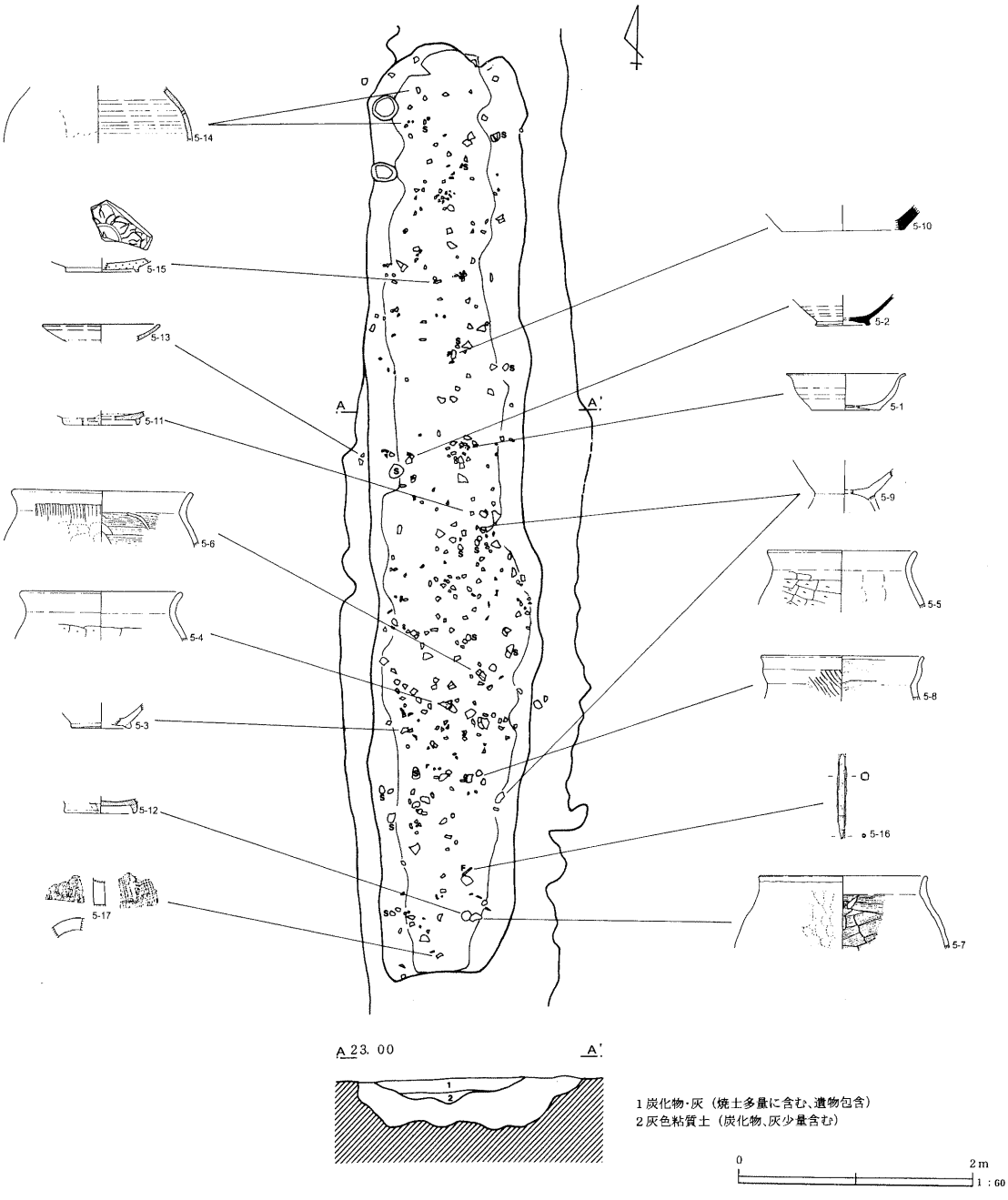
本遺構は、少なくとも第４号住居跡や第３号竪穴遺構が作られる10世紀初めには、廃絶していたと考えられる。

第10号区画溝（第87・164図）

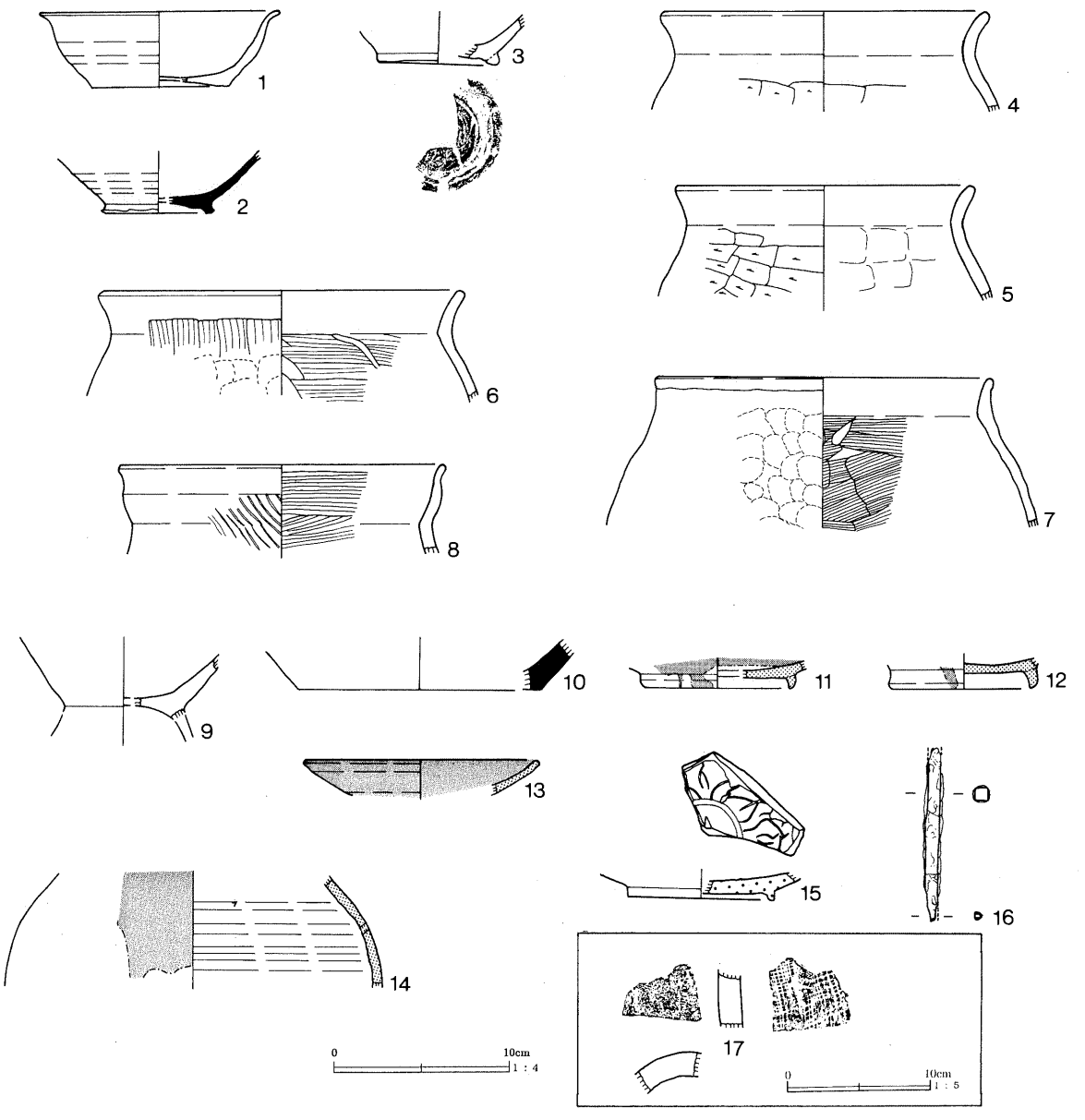
10区Ａ—25グリッドからほぼ東に延び、９区Ｏ—25グリッドで直角に方向を南に変え、９区Ｐ—30グリッドで調査区域外となる。第３・４・５号区画溝と重複関係にあり、各々を切っていた。

溝の規模は上幅2.0～2.8m、下幅0.44～1.04m、深さ0.80～1.06mを測り、底面が平坦な箱薬研状を呈する。底面はほぼ平坦となっており、壁面の立ち上がりは急である。土層は比較的単純で、自然堆積したものと推測される。

出土遺物は、検出できなかった。



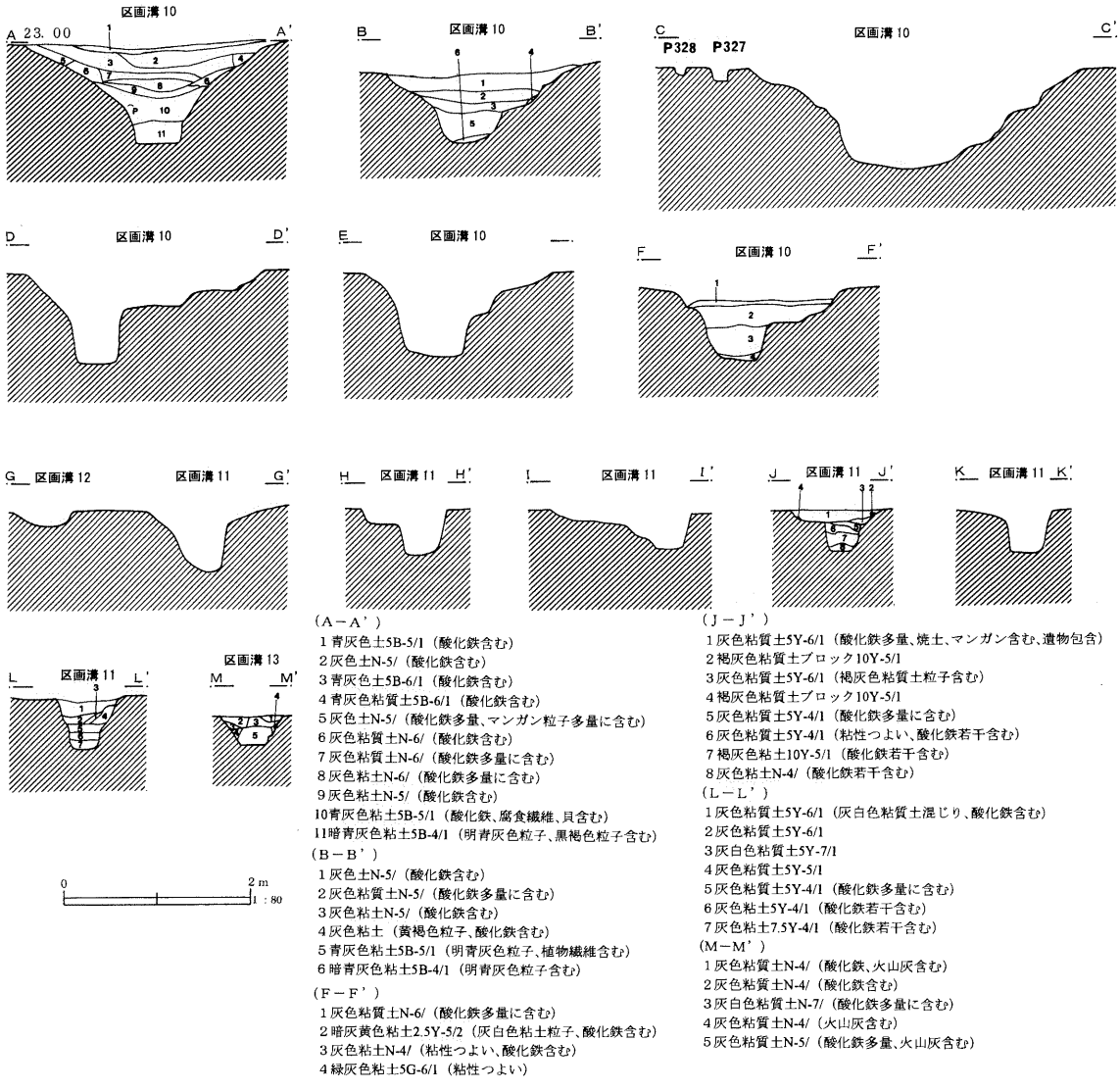
第162図　Ⅳ区第７号区画溝遺物集中箇所遺物分布図



第163図　Ⅳ区第７号区画溝遺物集中箇所出土遺物

第33表　Ⅳ区第７号区画溝遺物集中箇所出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	須恵器坏	(13.8)	4.3	(7.9)	ABDI	浅黄橙色	A	25%	
2	須恵器椀	—	—	(6.0)	ABM	外面：灰白色　内面：灰色	C	底部	
3	須恵器椀	—	—	(6.8)	ABDHJ	外面：灰白色　内面：橙色、浅黄橙色	E	底部50%	
4	土師器甕	(15.5)	—	—	ABHIM	外面：浅黄橙色　内面：にぶい黄橙色	A	口縁部20%	
5	土師器甕	(17.0)	—	—	ABEHJM	浅黄橙色	D	口縁部15%	
6	土師器甕	(21.0)	—	—	ABEM	にぶい褐色	A	口縁部20%	
7	土師器甕	(19.0)	—	—	ABEGMN	外面：にぶい橙色　内面：橙色	C	口縁部10%	
8	土師器甕	(18.5)	—	—	ABEIM	橙色、にぶい橙色	A	口縁部10%以下	
9	土師器台付甕	—	—	—	ABEIM	外面：にぶい橙色　内面：浅黄橙色	C	底部破片	
10	須恵器甕	—	—	(14.0)	ABG	灰白色	A	底部20%	
11	灰釉陶器椀	—	—	(8.4)	ABP	灰白色	A	底部20%	東濃産。
12	灰釉陶器椀	—	—	7.9	ABM	灰白色	A	底部100%	東濃産。
13	灰釉陶器皿	(13.6)	—	—	ABP	灰白色	A	口縁部10%以下	
14	灰釉陶器瓶	—	—	—	ABGHP	灰白色	A	胴上半部破片	
15	緑釉陶器皿	—	—	(8.4)	P	灰白色、灰色	A	底部20%	猿投産。
16	鉄釘	長さ9.4	幅1.1	重さ12	—	—	—	一部欠損	
17	丸瓦	—	—	—	ABDL	灰色	A		



(A－A')
1 青灰色土5B-5/1（酸化鉄含む）
2 灰色土N-5/（酸化鉄含む）
3 青灰色土5B-6/1（酸化鉄含む）
4 青灰色粘質土5B-6/1（酸化鉄含む）
5 灰色土N-5/（酸化鉄多量、マンガン粒子多量に含む）
6 灰色粘質土N-6/（酸化鉄含む）
7 灰色粘質土N-6/（酸化鉄多量に含む）
8 灰色粘土N-6/（酸化鉄多量に含む）
9 灰色粘土N-5/（酸化鉄含む）
10 青灰色粘土5B-5/1（酸化鉄、腐食繊維、貝含む）
11 暗青灰色粘土5B-4/1（明青灰色粒子、黒褐色粒子含む）

(B－B')
1 灰色土N-5/（酸化鉄含む）
2 灰色粘質土N-5/（酸化鉄多量に含む）
3 灰色粘土N-5/（酸化鉄含む）
4 灰色粘土（黄褐色粒子、酸化鉄含む）
5 青灰色粘土5B-5/1（明青灰色粒子、植物繊維含む）
6 暗青灰色粘土5B-4/1（明青灰色粒子含む）

(F－F')
1 灰色粘質土N-6/（酸化鉄多量に含む）
2 暗灰黄色粘土2.5Y-5/2（灰白色粘土粒子、酸化鉄含む）
3 灰色粘土N-4/（粘性つよい、酸化鉄含む）
4 緑灰色粘土5G-6/1（粘性つよい）

(J－J')
1 灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄多量、焼土、マンガン含む、遺物包含）
2 褐灰色粘質土ブロック10Y-5/1
3 灰色粘質土5Y-6/1（褐灰色粘質土粒子含む）
4 褐灰色粘質土ブロック10Y-5/1
5 灰色粘質土5Y-4/1（酸化鉄多量に含む）
6 灰色粘質土5Y-4/1（粘性つよい、酸化鉄若干含む）
7 褐灰色粘土10Y-5/1（酸化鉄若干含む）
8 灰色粘土N-4/（酸化鉄若干含む）

(L－L')
1 灰色粘質土5Y-6/1（灰白色粘質土混じり、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土5Y-6/1
3 灰白色粘質土5Y-7/1
4 灰色粘質土5Y-5/1
5 灰色粘質土5Y-4/1（酸化鉄多量に含む）
6 灰色粘土5Y-4/1（酸化鉄若干含む）
7 灰色粘土7.5Y-4/1（酸化鉄若干含む）

(M－M')
1 灰色粘質土N-4/（酸化鉄、火山灰含む）
2 灰色粘質土N-4/（酸化鉄含む）
3 灰白色粘質土N-7/（酸化鉄多量に含む）
4 灰色粘質土N-4/（火山灰含む）
5 灰色粘質土N-5/（酸化鉄多量、火山灰含む）

第164図　Ⅳ区第10～13号区画溝土層断面図

第11号区画溝（第87・164図）

10区Ａ—26グリッドからほぼ東に延び、９区Ｐ—26グリッドで直角に方向を南に変え、９区Ｐ—30グリッドで調査区域外となる。第10号区画溝の内側２ｍほどにほぼ並行して巡る。第３・４・５号区画溝と重複関係にあり、各々を切っていた。

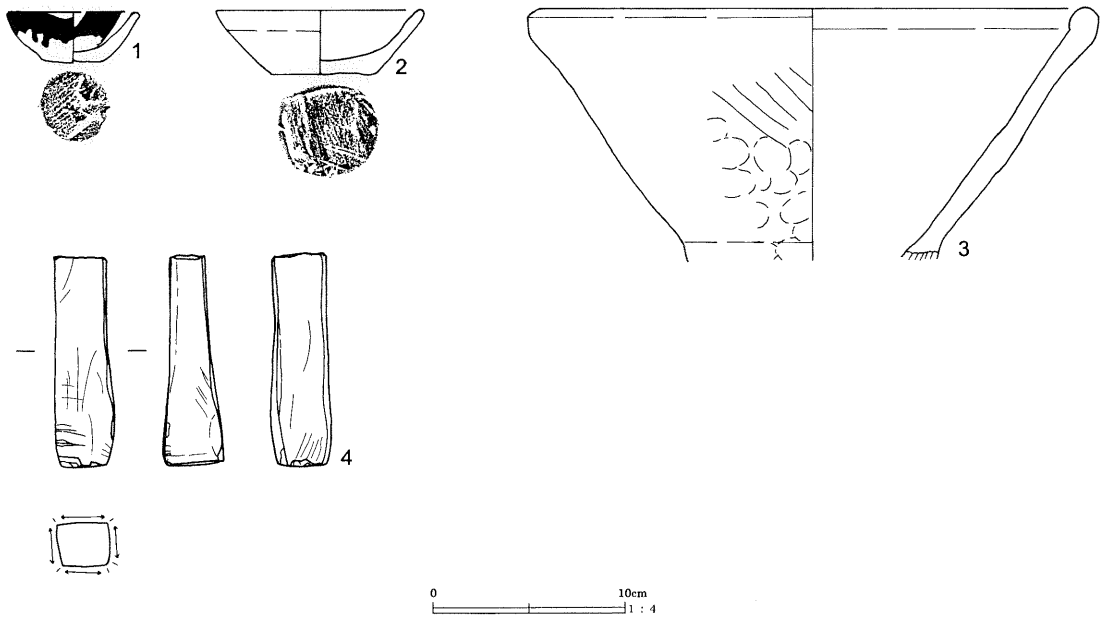
溝の規模は上幅0.6～0.8m、下幅0.2m前後、深さ0.52～0.64mを測る。形状は計測位置によって異なっているが、箱薬研状を呈する。底面はほぼ平坦となっており、壁面の立ち上がりは急である。土層は比較的単純で、自然堆積したものと推測される。

出土遺物は、検出できなかった。

第12号区画溝（第87・164・165図、第34表）

10区Ａ—26グリッドからほぼ東に延び、９区Ｓ—26グリッドで浅くなり消滅する。第11号区画溝の内側でほぼ並行して走り、10区Ａ—26グリッドで接続する。重複関係にある遺構はなかった。

溝の規模は上幅0.64m前後、下幅0.36m前後、深さ0.16mを測る。形状は、浅い船底状を呈し、規模の小さなものであった。壁面の立ち上がりはゆるやかであった。



第165図　Ⅳ区第12号区画溝出土遺物

第34表　Ⅳ区第12号区画溝出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	土師質土器皿	6.2	2.6	3.2	DI	外面：にぶい褐色　内面：にぶい橙色	C	80%	油煙付着。
2	土師質土器皿	10.6	3.4	5.4	EI	外面：にぶい橙色　内面：灰白色	D	100%	
3	陶器こね鉢	28.8	—	—	AEN	外面：灰色、灰白色　内面：灰白色	A	口縁部15%	
4	砥石	長さ(11.0)	幅(3.1)	厚さ(2.3)	—	—	—	一方端欠損。	重さ185ｇ

出土遺物は、検出長が短かったにも関わらず唯一本遺構で遺物が検出でき、土師質土器皿、陶器こね鉢、砥石など確認できた。

第13号区画溝（第87・164図）

9区P・Q—25・26グリッドに位置し、第10号区画溝と第11号区画溝をつなぐ溝であった。重複関係にある遺構はなかった。

溝の規模は上幅0.66m前後、下幅0.26m前後、深さ0.30mを測る。形状は、箱薬研状を呈し、規模の小さなものであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第1号溝跡（第166図）

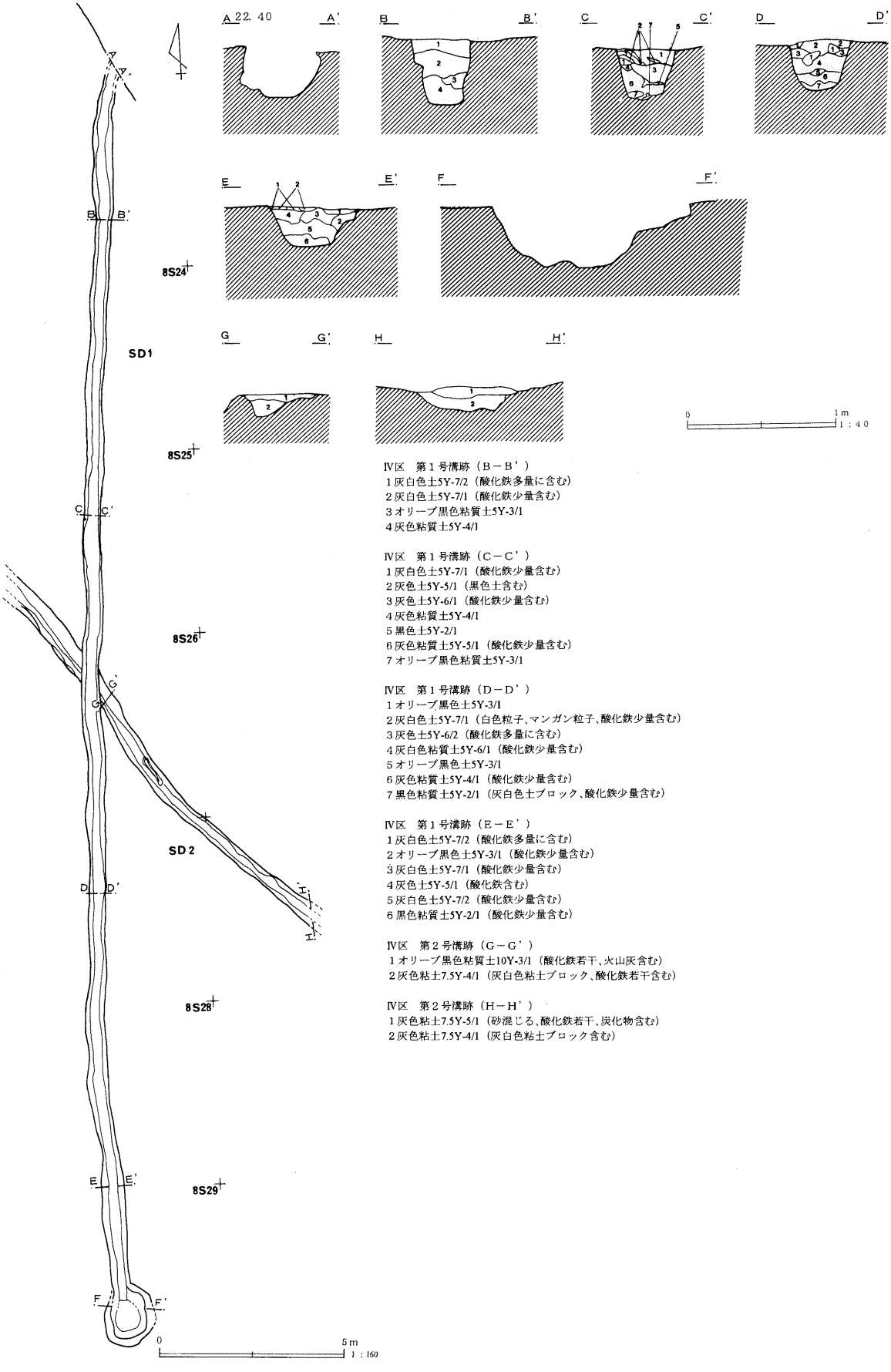
8区S—23グリッドから8区S—29グリッドにかけて延びる溝跡で、第2号溝跡を切っていた。

本溝はほぼ南北に延びており、北側は調査区域外となり、南は8区S—29グリッドで終わっている。残存長は34.4m、幅0.4m前後、深さは0.35m前後で、舟底状を呈する。溝が終わる箇所は径1.5mの円形で、深さ0.5mほどの土坑となっており、水溜めの施設と思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第2号溝跡（第166図）

8区S—26グリッドを中心にあり、第1号溝跡と重複する。



Ⅳ区　第１号溝跡（Ｂ－Ｂ'）
１灰白色土5Y-7/2（酸化鉄多量に含む）
２灰白色土5Y-7/1（酸化鉄少量含む）
３オリーブ黒色粘質土5Y-3/1
４灰色粘質土5Y-4/1

Ⅳ区　第１号溝跡（Ｃ－Ｃ'）
１灰白色土5Y-7/1（酸化鉄少量含む）
２灰色土5Y-5/1（黒色土含む）
３灰色土5Y-6/1（酸化鉄少量含む）
４灰色粘質土5Y-4/1
５黒色土5Y-2/1
６灰色粘質土5Y-5/1（酸化鉄少量含む）
７オリーブ黒色粘質土5Y-3/1

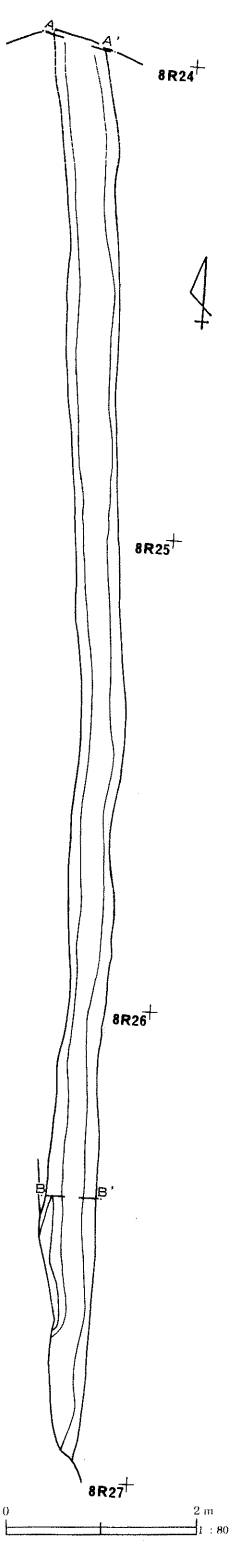
Ⅳ区　第１号溝跡（Ｄ－Ｄ'）
１オリーブ黒色土5Y-3/1
２灰白色土5Y-7/1（白色粒子、マンガン粒子、酸化鉄少量含む）
３灰色土5Y-6/2（酸化鉄多量に含む）
４灰白色粘質土5Y-6/1（酸化鉄少量含む）
５オリーブ黒色土5Y-3/1
６灰色粘質土5Y-4/1（酸化鉄少量含む）
７黒色粘質土5Y-2/1（灰白色土ブロック、酸化鉄少量含む）

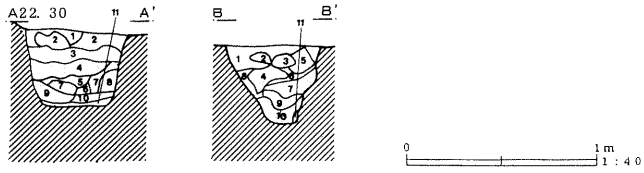
Ⅳ区　第１号溝跡（Ｅ－Ｅ'）
１灰白色土5Y-7/2（酸化鉄多量に含む）
２オリーブ黒色土5Y-3/1（酸化鉄少量含む）
３灰白色土5Y-7/1（酸化鉄少量含む）
４灰色土5Y-5/1（酸化鉄含む）
５灰白色土5Y-7/2（酸化鉄少量含む）
６黒色粘質土5Y-2/1（酸化鉄少量含む）

Ⅳ区　第２号溝跡（Ｇ－Ｇ'）
１オリーブ黒色粘質土10Y-3/1（酸化鉄若干、火山灰含む）
２灰色粘土7.5Y-4/1（灰白色粘土ブロック、酸化鉄若干含む）

Ⅳ区　第２号溝跡（Ｈ－Ｈ'）
１灰色粘土7.5Y-5/1（砂混じる、酸化鉄若干、炭化物含む）
２灰色粘土7.5Y-4/1（灰白色粘土ブロック含む）

第166図　Ⅳ区第１・２号溝跡





A－A'
1 灰色粘質土5Y-5/1（酸化鉄、火山灰少量含む）
2 灰色粘質土N-4/（酸化鉄、火山灰若干含む）
3 灰色粘質土N-5/（酸化鉄、火山灰若干含む）
4 灰色粘質土N-4/（黒色ブロック、酸化鉄、火山灰含む）
5 暗灰色粘質土N-3/（黒色ブロック、酸化鉄、火山灰含む）
6 灰色粘質土N-4/（黒色粒子含む）
7 黒褐色粘質土2.5Y-3/1（腐食植物含む）
8 緑灰色粘質土10GY-5/1（炭化物、黒色粒子含む）
9 緑灰色粘質土10GY-5/1（黒色粒子含む）
10暗灰色粘質土N-3/（黒色粒子、腐食植物含む）
11暗灰色粘質土5PB-4/1（黒色粒子少量、炭化物含む）

B－B'
1 黒色土N-2/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄、火山灰多量に含む）
2 灰色粘質土5Y-4/1（酸化鉄含む）
3 灰色粘質土N-4/（酸化鉄、火山灰含む）
4 灰色粘質土N-4/（酸化鉄、火山灰含む）
5 灰色粘質土N-5/（灰白色粒子、酸化鉄含む）
6 黒色粘質土（火山灰含む）
7 暗灰色粘質土N-6/（黒色粒子、酸化鉄含む）
8 暗灰色粘質土N-6/（黒色粒子、酸化鉄、火山灰若干含む）
9 オリーブ灰色粘質土5GY-5/1（黒色粒子、酸化鉄、炭化物若干含む）
10暗オリーブ灰色粘質土5GY-4/1（炭化物、砂含む）
11黒色粘質土N-2/（炭化物含む）

第167図　Ⅳ区第３号溝跡

溝の残存長は12.5mで、幅0.5m、深さ0.18mの小規模な溝跡である。底は舟底状や平坦な箇所もあり、形状が一定でない。

出土遺物は、検出できなかった。

第3号溝跡（第167図）

8区S—24グリッドから8区S—26グリッドにかけてほぼ南北に延びる溝跡である。北、南とも調査区域外に延びている。

残存長は15.2m、上幅0.55m前後、深さ0.4mを測る。底部は平坦であったり、舟底状であったりと一定でない。

出土遺物は、検出できなかった。

第4号溝跡（第168・177図、第35表）

8区Q—24グリッドから8区S—30グリッドにかけて南北に延びる溝跡である。北は第5号溝跡により切られている。

残存長は30m、幅0.5m、深さは0.5m前後を測る。底部は舟底状となっている。

出土遺物は、土師質土器坏などが検出できた。

第5号溝跡（第168・177図、第35表）

8区Q—24グリッドから8区N—30グリッドにかけて南北に延びる溝跡である。北側で第4号溝跡を切っている。南は調査区域外となっている。

河川跡から南に21.2mの地点で2m×1.5mの長方形の土坑に合流し、土坑の東壁から東方向に溝は延び、8区N—30グリッドで方向を再び南に変え調査区外へと延びている。溝の途中にある土坑は水の調整枡のような機能を有するものであろうか。この溝は用水として使用されたものと考えられる。

出土遺物は、土師器坏などが検出できた。

第6号溝跡（第169・177図、第35表）

8区E—25グリッドから8区E—29グリッドにかけて南北に延びる溝跡である。北は河川跡D地点と合流し、南はⅦ区第3号溝跡に接続する。南の一部は攪乱を受けていた。

残存長は18m、幅1.3m、深さは0.6m前後を測る。底部は舟底状及び平坦となっている。

出土遺物は、須恵器坏・甕、土師器羽釜、灰釉陶器皿・耳皿・瓶などが検出できた。

第7号溝跡（第278図）

8区C—26グリッドから7区T—28グリッドにかけて東西に延びる溝跡である。東は河川跡D地点と合流し、西は調査区域外となる。

残存長は15.5m、幅0.7～1m、深さは0.4～0.48mを測る。底部は舟底状及びやや平坦となっている。

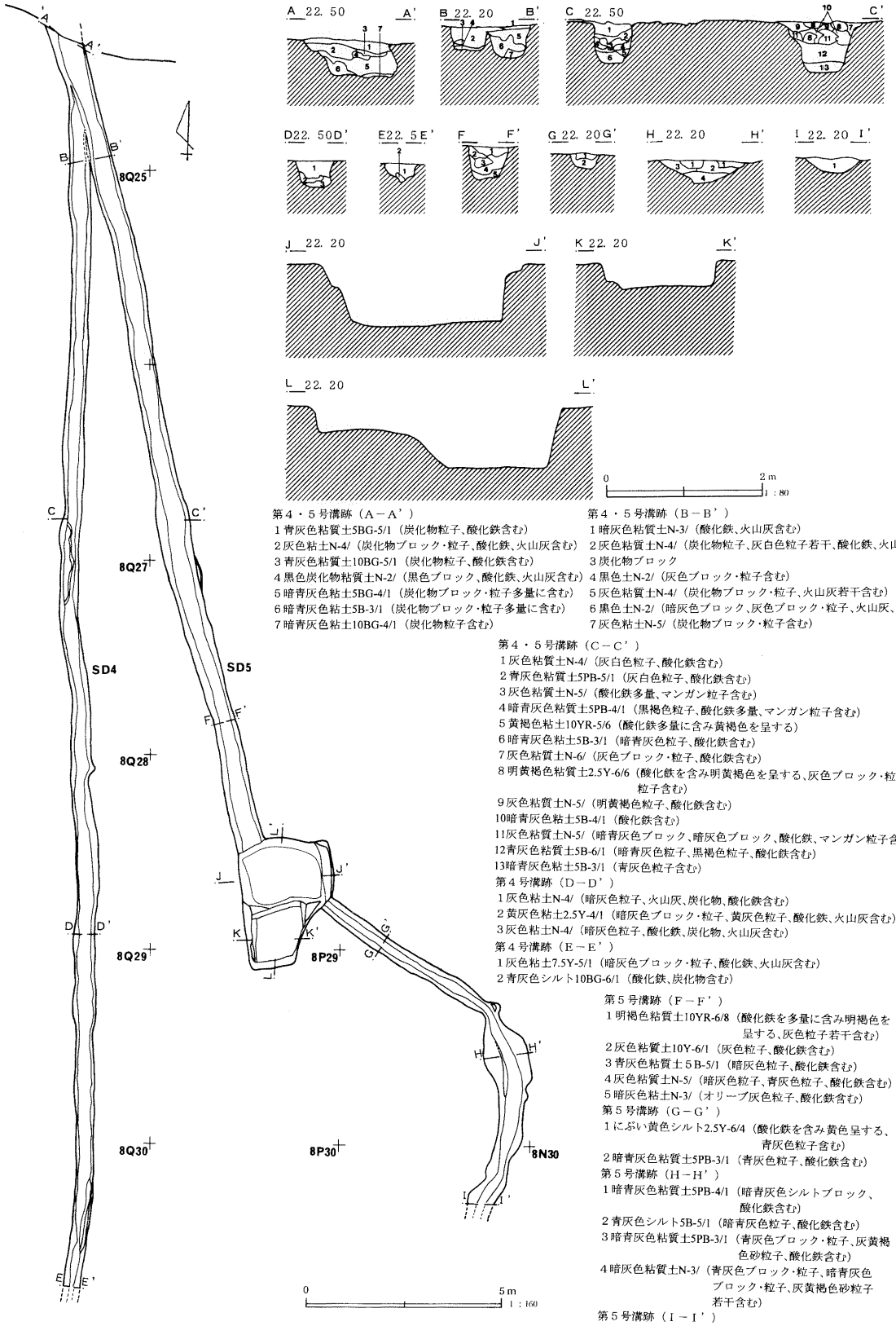
出土遺物は、検出できなかった。

第8号溝跡（第170図）

8区T—29グリッドから8区R—30グリッドに蛇行しながら延びている。溝の中間と東は、河川跡C地点に切られていた。

残存長は10m、幅0.2m前後、深さは0.15m前後を測る。底部は舟底状となっている。

出土遺物は、検出できなかった。



第４・５号溝跡（Ａ－Ａ’）
1 青灰色粘質土5BG-5/1（炭化物粒子、酸化鉄含む）
2 灰色粘土N-4/（炭化物ブロック・粒子、酸化鉄、火山灰含む）
3 青灰色粘質土10BG-5/1（炭化物粒子、酸化鉄含む）
4 黒色炭化物粘質土N-2/（黒色ブロック、酸化鉄、火山灰含む）
5 暗青灰色粘土5BG-4/1（炭化物ブロック・粒子多量に含む）
6 暗青灰色粘土5B-3/1（炭化物ブロック・粒子多量に含む）
7 暗青灰色粘土10BG-4/1（炭化物粒子含む）

第４・５号溝跡（Ｂ－Ｂ’）
1 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄、火山灰含む）
2 灰色粘質土N-4/（炭化物粒子、灰白色粒子若干、酸化鉄、火山灰含む）
3 炭化物ブロック
4 黒色土N-2/（灰色ブロック・粒子含む）
5 灰色粘質土N-4/（炭化物ブロック・粒子、火山灰若干含む）
6 黒色土N-2/（暗灰色ブロック、灰色ブロック・粒子、火山灰、炭化物含む）
7 灰色粘土N-5/（炭化物ブロック・粒子含む）

第４・５号溝跡（Ｃ－Ｃ’）
1 灰色粘質土N-4/（灰白色粒子、酸化鉄含む）
2 青灰色粘質土5PB-5/1（灰白色粒子、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土N-5/（酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
4 暗青灰色粘質土5PB-4/1（黒褐色粒子、酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
5 黄褐色粘土10YR-5/6（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する）
6 暗青灰色粘土5B-3/1（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
7 灰色粘質土N-6/（灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
8 明黄褐色粘質土2.5Y-6/6（酸化鉄を含み明黄褐色を呈する、灰色ブロック・粒子、マンガン粒子含む）
9 灰色粘質土N-5/（明黄褐色粒子、酸化鉄含む）
10 暗青灰色粘土5B-4/1（酸化鉄含む）
11 灰色粘質土N-5/（暗青灰色ブロック、暗灰色ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
12 青灰色粘質土5B-6/1（暗青灰色粒子、黒褐色粒子、酸化鉄含む）
13 暗青灰色粘土5B-3/1（青灰色粒子含む）

第４号溝跡（Ｄ－Ｄ’）
1 灰色粘土N-4/（暗灰色粒子、火山灰、炭化物、酸化鉄含む）
2 黄灰色粘土2.5Y-4/1（暗灰色ブロック・粒子、黄灰色粒子、酸化鉄、火山灰含む）
3 灰色粘土N-4/（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物、火山灰含む）

第４号溝跡（Ｅ－Ｅ’）
1 灰色粘土7.5Y-5/1（暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄、火山灰含む）
2 青灰色シルト10BG-6/1（酸化鉄、炭化物含む）

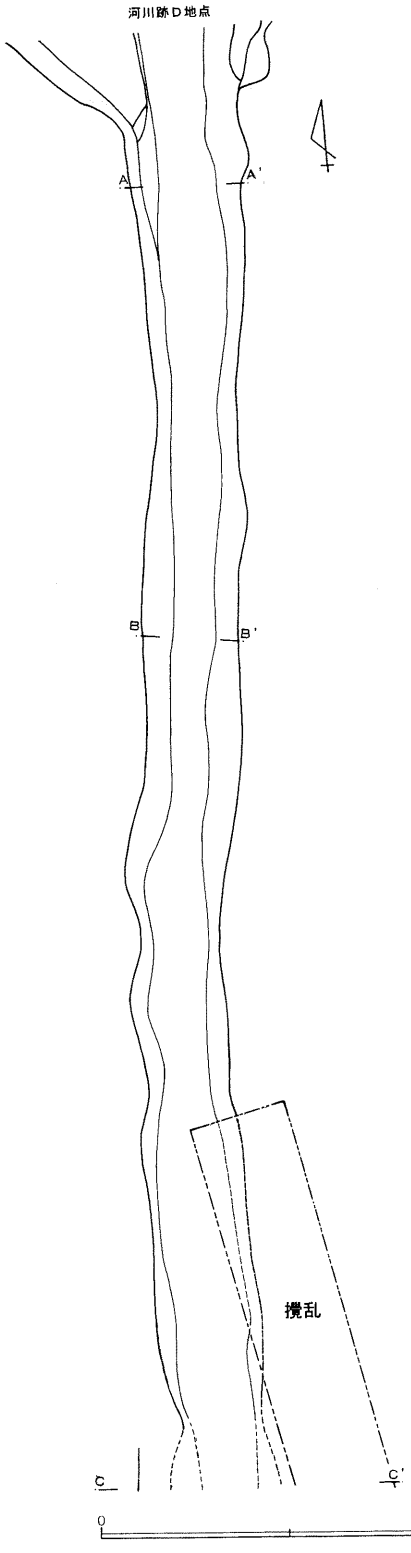
第５号溝跡（Ｆ－Ｆ’）
1 明褐色粘質土10YR-6/8（酸化鉄を多量に含み明褐色を呈する、灰色粒子若干含む）
2 灰色粘質土10Y-6/1（灰色粒子、酸化鉄含む）
3 青灰色粘質土５B-5/1（暗灰色粒子、酸化鉄含む）
4 灰色粘質土N-5/（暗灰色粒子、青灰色粒子、酸化鉄含む）
5 暗灰色粘土N-3/（オリーブ灰色粒子、酸化鉄含む）

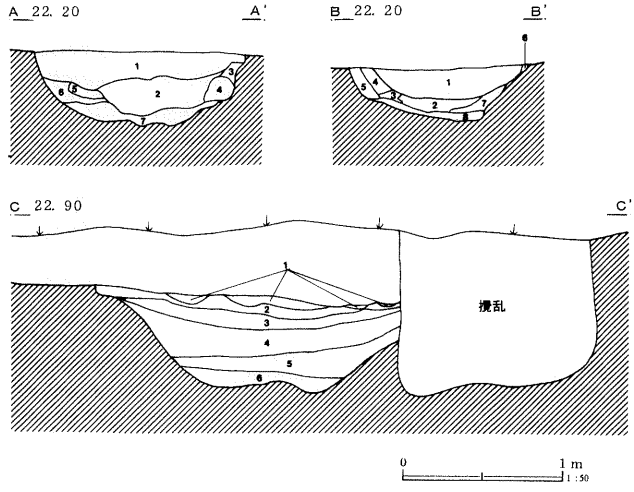
第５号溝跡（Ｇ－Ｇ’）
1 にぶい黄色シルト2.5Y-6/4（酸化鉄を含み黄色呈する、青灰色粒子含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-3/1（青灰色粒子、酸化鉄含む）

第５号溝跡（Ｈ－Ｈ’）
1 暗青灰色粘質土5PB-4/1（暗青灰色シルトブロック、酸化鉄含む）
2 青灰色シルト5B-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
3 暗青灰色粘質土5PB-3/1（青灰色ブロック・粒子、灰黄褐色砂粒子、酸化鉄含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（青灰色ブロック・粒子、暗青灰色ブロック・粒子、灰黄褐色砂粒子若干含む）

第５号溝跡（Ｉ－Ｉ’）
1 暗青灰色粘質土5PB-4/1（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）

第168図　Ⅳ区第４・５号溝跡



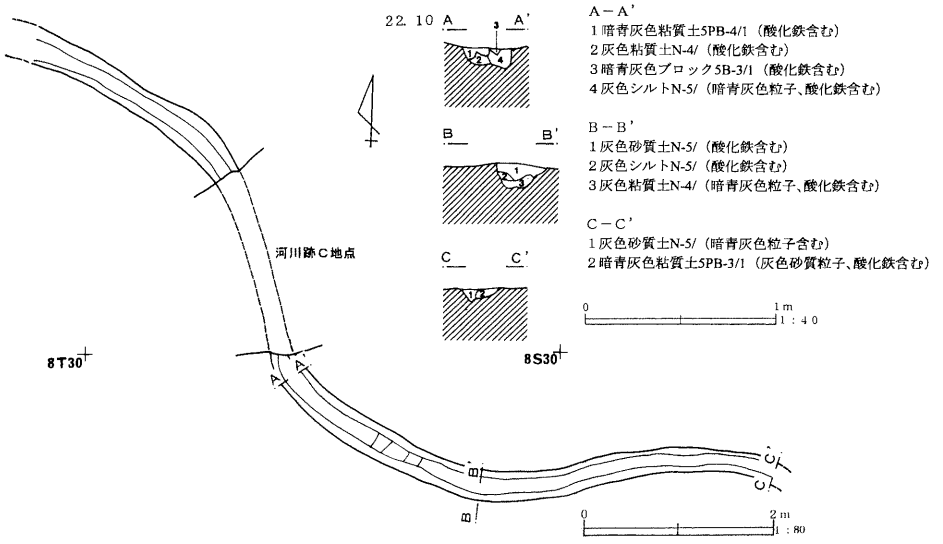


A－A'
1 灰色粘質土N-5/（酸化鉄、炭化物含む）
2 灰色粘質土7.5Y-4/1（灰色粒子、酸化鉄若干、炭化物多量に含む）
3 灰色粘質土N-4/（オリーブ灰色粒子、酸化鉄含む）
4 灰色粘質土10Y-5/1（オリーブ灰色ブロック・粒子多量、暗灰色粒子、酸化鉄含む）
5 オリーブ灰色土5GY-5/1（暗灰色粒子、酸化鉄若干含む）
6 灰色粘質土N-4/（オリーブ灰色粒子若干、酸化鉄含む）
7 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（オリーブ灰色ブロック・粒子含む）

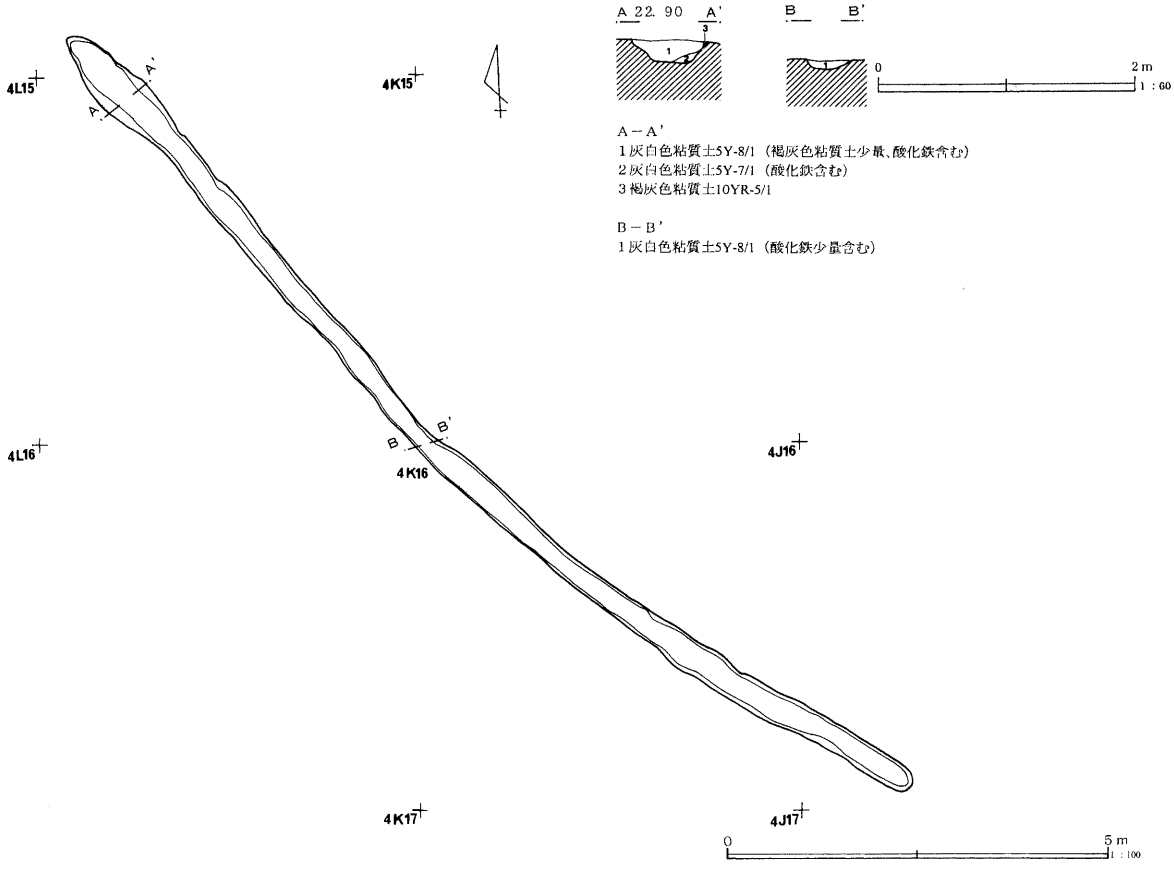
B－B'
1 灰色粘質土N-4/（オリーブ灰色粒子、暗灰色粒子若干、酸化鉄、炭化物多量に含む）
2 暗灰色粘土N-3/（黒色ブロック・粒子、暗緑灰色粒子、酸化鉄、炭化物片含む）
3 暗青灰色粘土5B-4/1（青灰色粒子多量、酸化鉄含む）
4 青灰色粘質土10BG-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
5 暗青灰色粘質土5PB-4/1（青灰色粒子多量、酸化鉄含む）
6 灰色粘質土N-5/（オリーブ灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
7 灰色粘土N-4/（青灰色ブロック・粒子多量、黒色粒子、酸化鉄若干含む）
8 黒色粘土N-2/（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄若干含む）

C－C'
1 黒色砂質土5Y-2/1（明黄褐色粒子若干、酸化鉄、火山灰含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
3 灰色粘質土N-4/（酸化鉄、炭化物含む）
4 灰色粘土N-5/（酸化鉄、炭化物含む）
5 灰色粘土N-4/（酸化鉄多量に含む）
6 暗青灰色粘土5PB-4/1（暗青灰色粒子、青灰色粒子、酸化鉄含む）

第169図　IV区第6号溝跡



第170図　Ⅳ区第8号溝跡



第171図　Ⅳ区第9号溝跡

第9号溝跡（第171図）

4区K—14グリッドから4区I—16グリッドに斜め方向に延びていた。

溝の両端は次第に浅くなり、消滅しており、残存する長さは15mであった。溝の上幅は35cmから50cmと一定でない。深さは10cmと浅い。

出土遺物は、検出できなかった。

第10号溝跡（第172図）

4区N—15グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は確認されなかった。

溝の長さは3.2m、上幅0.2m、深さは2cmほどと極めて浅い。

出土遺物は、検出できなかった。

第11号溝跡（第172図）

4区O—15グリッドに位置する。第2号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

長さ1m、上幅0.5mの楕円形を呈しており、溝跡というよりは土坑と言った方がよいかもしれない。深さはわずかに窪む程度と極めて浅い。掘立柱建物跡と重複関係、ないしは建物に付随する施設の可能性も考えられなくもない。

出土遺物は、検出できなかった。

第12号溝跡（第172図）

4区N—15グリッドに位置する。

長さ0.6m、深さ0.04mと極めて浅い。長く、深かった溝跡が遺構確認の削平で大半が消滅してしまった可能性が考えられる。

出土遺物は、検出できなかった。

第13号溝跡（第172図）

4区P—16グリッド、O—16グリッドに位置する。第8号区画溝に切られている。

区画溝から真東に3.48mほど延びた短い溝で、幅は0.3m、深さ0.03mと非常に浅く、小規模な溝跡である。

出土遺物は、検出できなかった。

第14号溝跡（第172図）

4区M—17グリッドから4区O—17グリッドにほぼ東西に延びた溝跡である。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

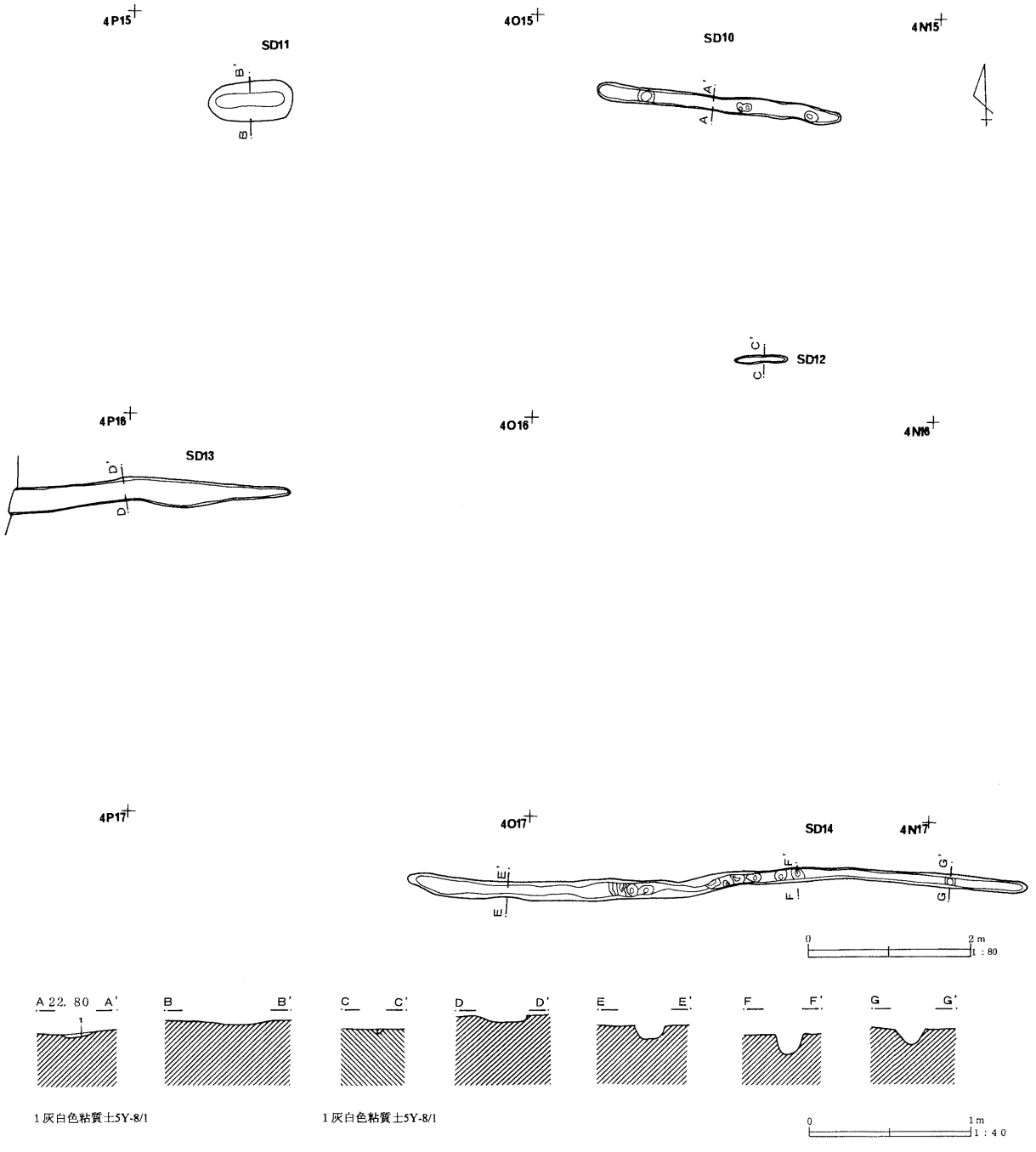
全長7.64mで両端は次第に浅くなって行き、消滅する。幅0.18m、深さ0.05mほどと浅い形態である。溝の中央付近の底には小ピットが並んでいた。

出土遺物は、検出できなかった。

第15号溝跡（第173図）

9区F—23グリッドを中心に位置する。第7号住居跡の東に隣接して位置する。第14号土坑と重複関係にあった。

幅30cm前後、深さ3cmほどの小規模な溝が、サークル状に方形に回っている。溝に囲まれた規模は東西4m、南北3mであった。



第172図　Ⅳ区第10～14号溝跡

出土遺物は、検出できなかった。

第16号溝跡（第173図）

9区K—24グリッドから9区J—24グリッドに位置する。他の遺構との重複は確認されなかった。

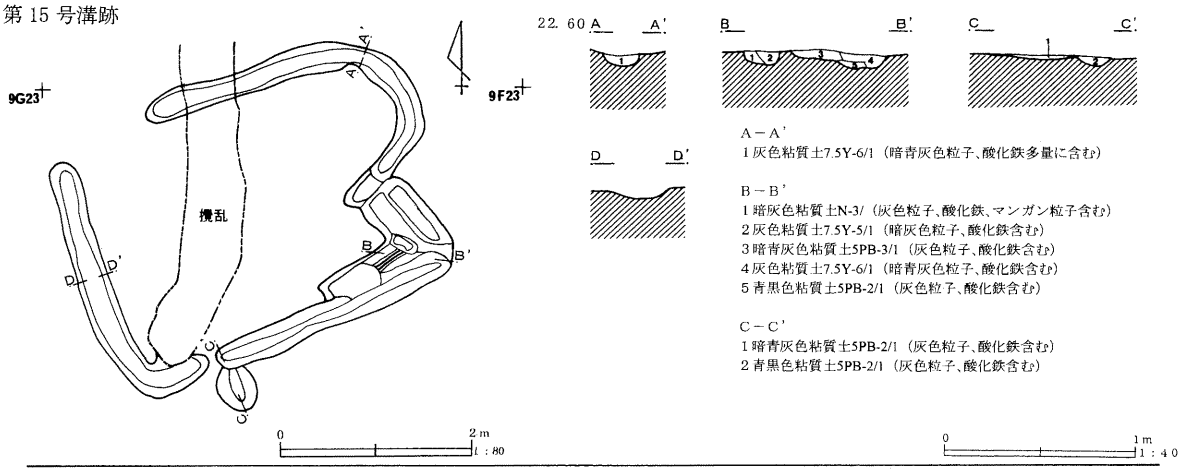
全長7.2m、幅は0.25m前後、深さ0.03mと非常に浅い溝である。溝は中ほどで一部消滅し、さらに両端は次第に浅くなり消滅する。出土遺物は、検出できなかった。

第17号溝跡（第173図）

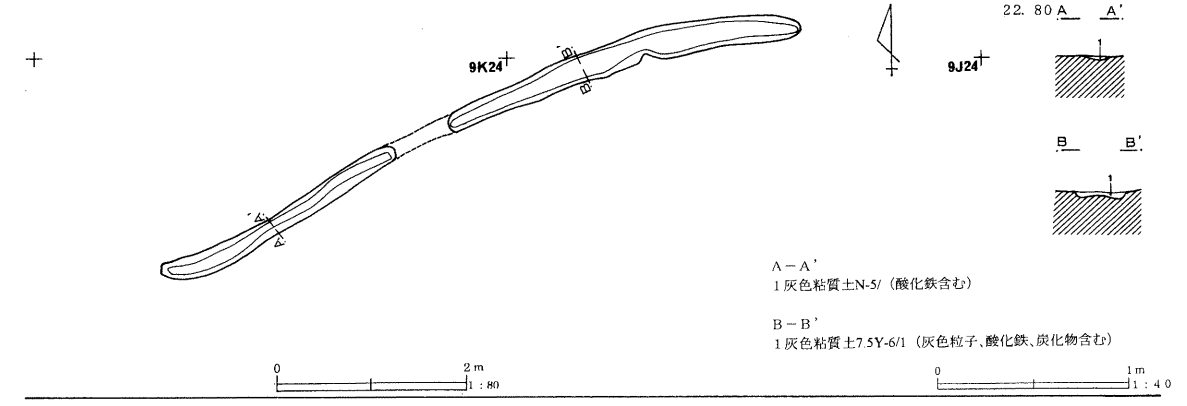
9区B—25グリッド、C—25グリッドに位置する。第15号住居跡により切られている。

残存長は2.72m、幅0.3cm、深さ0.15cmを測る。溝の方向はほぼ東西である。

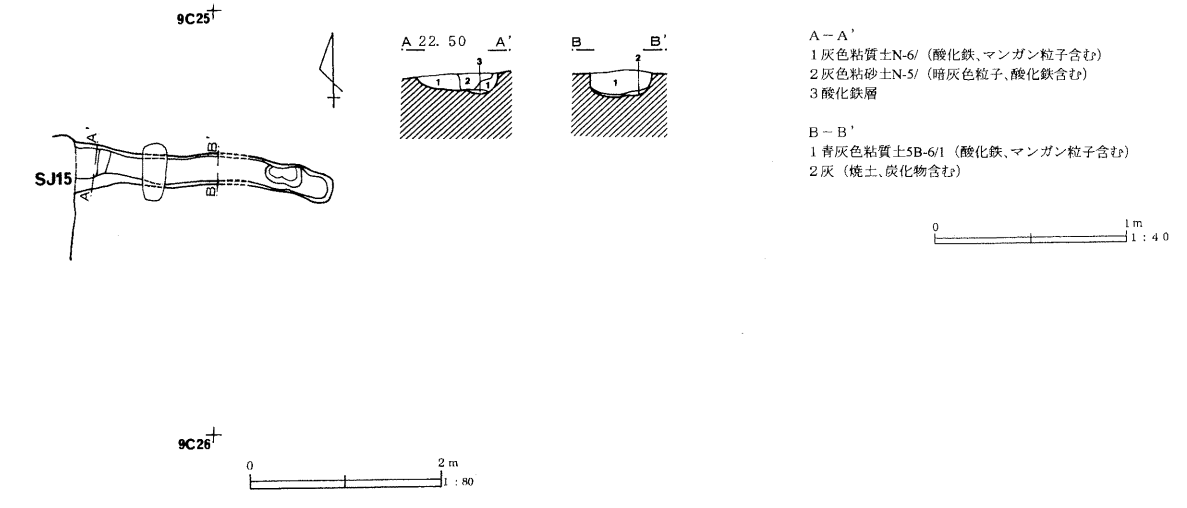
第 15 号溝跡



第 16 号溝跡



第 17 号溝跡



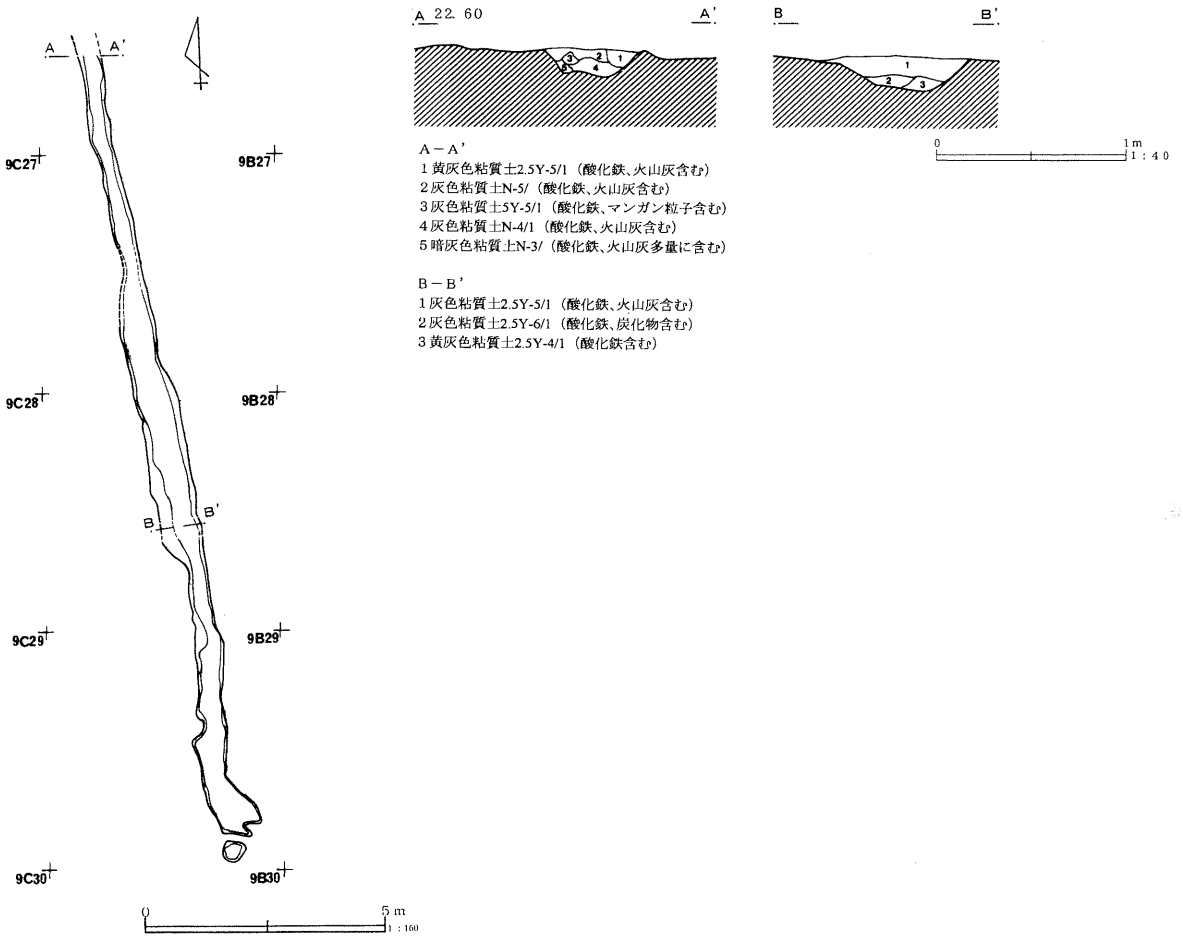
第173図　Ⅳ区第15～17号溝跡

出土遺物は、わずかに土師器細片が検出できただけであった。

第18号溝跡（第174図）

9区B—26グリッドから9区B—29グリッドに延びる溝跡である。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

溝はほぼ南北に延びており、残存長16.5m、幅0.5m、深さ0.18mを測る。底部の断面形は舟底状である。



第174図　Ⅳ区第18号溝跡

出土遺物は、検出できなかった。

第19号溝跡（第175～177図、第35表）

9区M・N・O—26～30グリッドに溝、土坑、ピットが集中して確認された。第19号溝跡は第23・24号溝跡と重複しているが、新旧関係は把握できなかった。

長さは12m、幅1mから1.5m、深さは0.3mを測り、一定した平面形態と深さを維持していない。形状から推測される溝の性格は全く不明である。

出土遺物は大量に検出され、須恵器坏・甕、内面がミガキ後黒色処理された酸化焔焼成の須恵器椀、土師器甕・羽釜などが出土した。

第20号溝跡（第175・176図）

9区M—29グリッドから9区O—29グリッドに位置する。第23・24・25・26号溝跡と重複するが、新旧関係は把握できなかった。

長さは9.5m、幅0.35m、深さ0.07mを測る。確認面から10cmも満たない深さの溝跡であった。

出土遺物は、酸化焔焼成の須恵器坏細片、須恵器甕・瓶などが検出できたが、性格などは見極めることはできなかった。

第21号溝跡（第175・176図）

9区M—29グリッドから9区O—29グリッドに位置し、第20号溝跡の南2mにほぼ並行して位置する。

第62号土坑、第23・24号溝跡と重複する。確認面からの深さがあまりなく、他遺構との重複関係は把握できなかった。

長さ11.5m、幅0.2m、深さ0.05mを測る。幅、深さとも非常に規模の小さな溝跡で、性格は不明である。

出土遺物は、酸化焔焼成の須恵器坏破片がわずかに検出できた。

第22号溝跡（第175・176図）

9区M—30グリッドに位置する溝で、南側の肩は調査区域外なり、規模は把握できなかった。

残存長5m、幅不明、深さは推定0.1mを測る。出土遺物もなく、性格は不明である。

第23号溝跡（第175・176図）

9区N—27から9区N—30グリッドにかけて位置し、第24号溝跡と並行して南北に走る溝跡である。長さ16m、幅0.6m前後、深さ0.1mを測る。北側は次第に浅くなり消滅し、南は調査区域外になる。非常に浅く、第19号溝跡と重複する辺りでは、プランがほとんど把握できない状況である。

出土遺物は、酸化焔焼成の須恵器坏破片がわずかに検出できた。

第24号溝跡（第175～177図、第35表）

9区N—27から9区N—30グリッドにかけて位置し、第23号溝跡の東1.5mに並行して南北に延びる溝跡である。

北側は次第に浅くなり消滅し、南は調査区域外となる。第19・20・21号溝跡と重複するが、新旧関係は把握できなかった。また、第27号掘立柱建物跡の柱穴と重複し、本遺構が切っていた。

残存長18.5m、幅0.5mから0.7m、深さ0.15mを測る。性格は把握できなかった。

第23号溝跡と第24号溝跡との間に、7つのピット列が確認された。北側から5つのピットの間隔はほぼ一定で0.8m前後であった。南の2つのピットは1.2m、2mの間隔があった。これらのピットが溝と関連するものか、それとも全く別なものか調査段階では把握するに至らなかった。

出土遺物は、須恵器坏（酸化焔焼成のものあり）、灰釉陶器椀、丸瓦片などが検出できた。

第25号溝跡（第175・176図）

9区M—27から9区M—29グリッドにかけて位置し、第24号溝跡の東3mに位置し、ほぼ南北に延びる溝跡である。北側では第56・57号土坑に切られ、南は第20号溝跡と重複する。

残存長11m、幅0.4m前後、深さ0.02mと極めて浅い。北側は次第に浅くなって消滅する。

出土遺物は、検出できなかった。

第26号溝跡（第175・176図）

9区L—27から9区M—29グリッドにかけて位置し、第25号溝跡の東2mに位置し、第25号溝跡と並行して南北に走っている。第20号溝跡と重複する。

長さ10mで、両端とも次第に浅くなって消滅している。幅0.2m、深さ0.1mを測る。

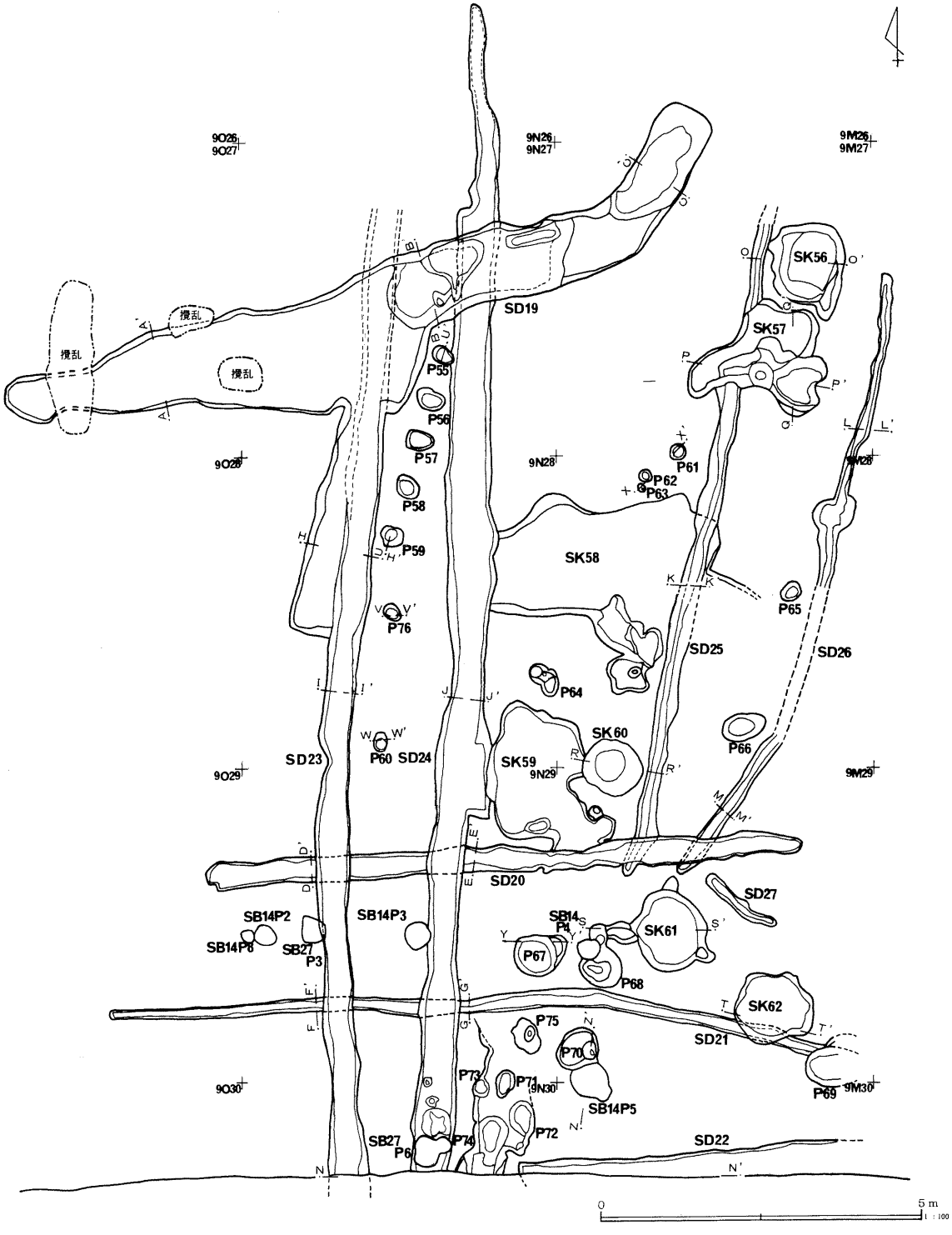
出土遺物は、検出できなかった。

第27号溝跡（第175・176図）

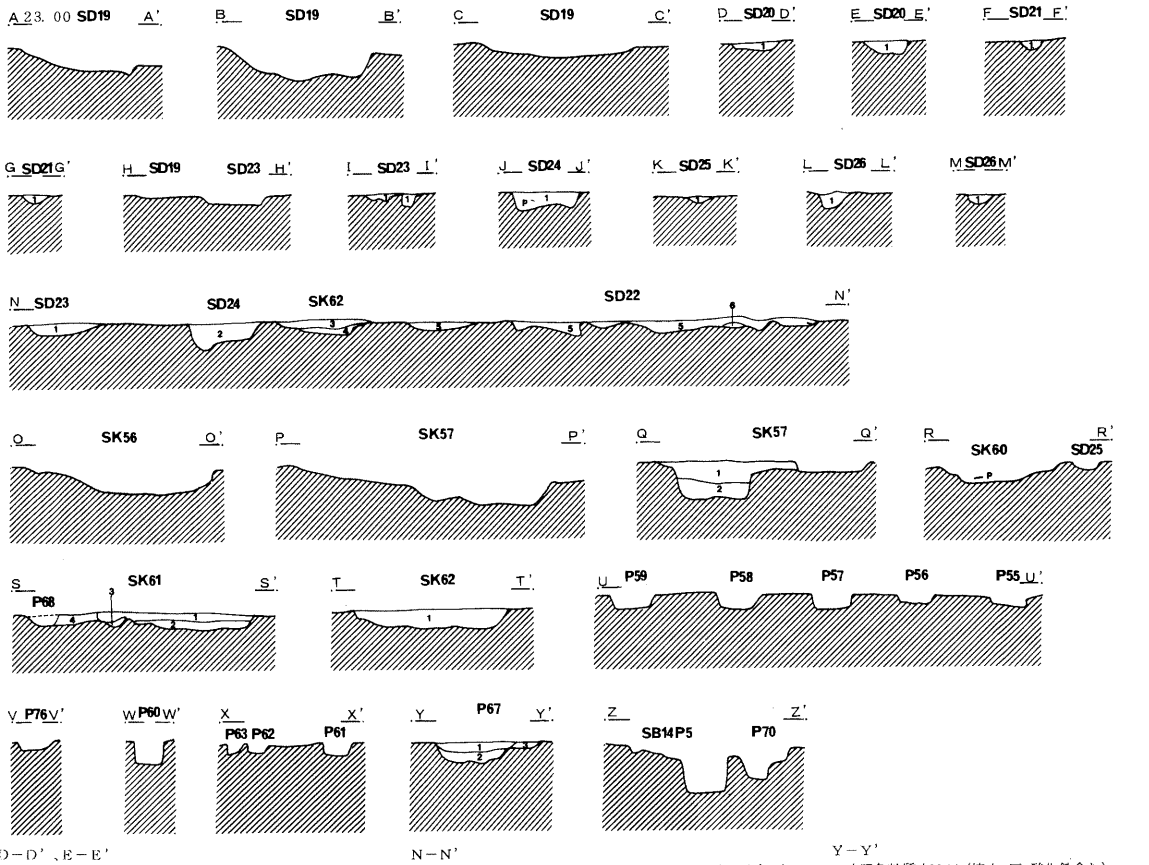
9区M—29グリッドに位置する。他の遺構との重複はない。

長さ1.2m、幅0.2m、深さ0.1mを測る。短い溝跡で、どのような性格のものかは把握できなかった。

出土遺物は、検出できなかった。



第175図　9区M～O-26～30グリッド遺構集中箇所



D－D'、E－E'
1 灰色粘質土N-5/（灰白色粘質土粒子、酸化鉄、土器含む）

F－F'、G－G'
1 灰色粘質土N-5/（酸化鉄含む）

I－I'
1 灰色粘質土N-5/（酸化鉄含む）

J－J'
1 灰色粘質土N-5/（灰黄褐色粘質土ブロック、酸化鉄含む）

K－K'
1 暗灰色粘質土N-2/（オリーブ黄色粘質土粒子含む）

L－L'
1 暗灰色粘質土N-3/（灰白色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

M－M'
1 暗灰色粘質土N-3/（灰白色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

N－N'
1 灰色粘質土（灰黄褐色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土（灰黄褐色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土（酸化鉄含む）
4 灰色粘質土（酸化鉄、炭化物含む）
5 灰色粘質土（灰黄褐色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
6 暗灰色粘質土

Q－Q'
1 灰色粘質土N-4/（灰白粒子、灰、土器片含む）
2 灰色粘質土N-4/とオリーブ灰色粘質土2.5GY-5/1の混合層

S－S'
1 暗灰色粘質土N-3/（灰、炭化物、焼土多量に含む）
2 灰層（炭化物、焼土含む）
3 灰色粘質土N-4/（黄褐色粘質土粒子含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（黄褐色粘質土粒子含む）

T－T'
1 暗灰色粘質土N-3/（灰、炭化物、焼土、土器含む）

Y－Y'
1 暗灰色粘質土N-3/（焼土、灰、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土N-6/（酸化鉄、炭化物含む）
3 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄含む）

0 2m
1：60

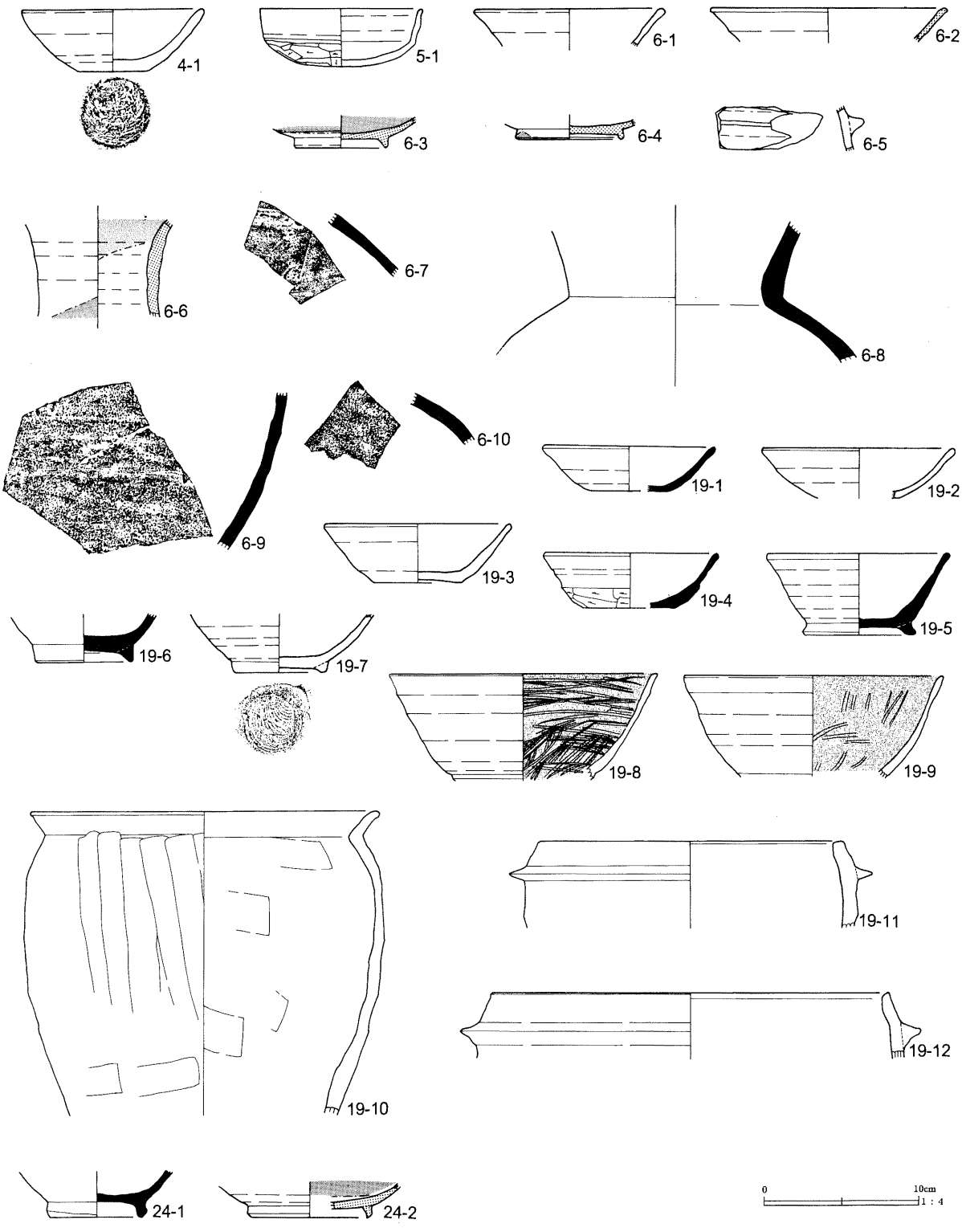
第176図　9区M～O-26～30グリッド遺構集中箇所土層断面図

第28号溝跡（第178図）

5区A—17グリッドから5区A—19グリッドに位置する。溝やピットと重複しており、第29号溝跡を切って、ほぼ南北に延びている。

全長13.5m、幅0.3m前後、深さ0.05m前後と浅い。小ピットが多数溝を切っている。

出土遺物は、検出できなかった。



第177図　Ⅳ区第４・５・６・19・24号溝跡出土遺物

第35表　Ⅳ区第４～６・19・24号溝跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
4-1	須恵器坏	12.0	4.1	4.6	AIN	外面：灰白色　内面：灰白色、灰色	E	60%	
5-1	土師器坏	10.5	3.9	9.8	ABEIM	赤褐色、明赤褐色	D	100%	
6-1	須恵器坏	(12.3)	—	—	ADH	外面：にぶい橙色、黄灰色　内面：にぶい橙色、褐灰色	D	口縁部15%	末野産。
6-2	灰釉陶器皿	(15.3)	—	—	BP	灰白色	A	口縁部15%	
6-3	灰釉陶器耳皿	—	—	6.0	ABP	灰白色	A	底部70%	東濃産。
6-4	灰釉陶器椀	—	—	7.2	ABP	灰白色	A	底部80%	浜北産。
6-5	土師器羽釜	—	—	—	ABEN	外面：黒褐色　内面：にぶい橙色	B	胴部破片	
6-6	灰釉陶器長頸瓶	—	—	—	ABP	灰白色	A	頸部20%	
6-7	須恵器瓶	—	—	—	ABN	灰色	A	胴部破片	
6-8	須恵器甕	—	—	—	ABN	灰色	A	頸部25%	
6-9	須恵器甕	—	—	—	ABGN	外面：灰黄褐色　内面：灰色	A	胴部破片	
6-10	須恵器甕	—	—	—	AB	灰色	A	胴部破片	
19-1	須恵器坏	(10.4)	3.0	(5.8)	ABE	灰色	A	25%	
19-2	須恵器坏	(12.6)	—	—	AE	にぶい橙色	D	口縁部25%	
19-3	須恵器坏	(12.2)	3.9	(5.7)	ABE	橙色	D	40%	
19-4	須恵器坏	(11.6)	3.6	(6.0)	ABI	灰白色	C	口縁部25%	
19-5	須恵器椀	(12.0)	5.4	7.4	AB	灰白色	D	60%	
19-6	須恵器椀	—	—	6.5	BI	灰白色	E	底部100%	
19-7	須恵器椀	—	—	(6.0)	AE	橙色	D	50%	高台剝落。
19-8	須恵器椀	(17.4)	—	—	ABEL	外面：にぶい黄橙色　内面：黒色	C	口縁部20%	末野産。
19-9	須恵器椀	(17.0)	—	—	ABEI	外面：浅黄橙色　内面：黒褐色	C	口縁部15%	
19-10	土師器甕	(23.0)	—	—	AB	橙色	C	口縁部75%	
19-11	土師器羽釜	(20.0)	—	—	AB	浅黄橙色	D	口縁部10%以下	
19-12	土師器羽釜	(26.0)	—	—	ABE	浅黄橙色	C	口縁部10%	
24-1	須恵器椀	—	—	(6.6)	AB	灰白色	E	底部55%	
24-2	灰釉陶器椀	—	—	(8.2)	B	灰白色	A	底部30%	

第29号溝跡（第178図）

５区Ａ—18グリッドから５区Ｃ—18グリッドにかけて延びている。第28号溝跡に直交し、５区Ｃ—18グリッドで第38号溝跡によって切られている。また、第39号土坑、第４号竪穴遺構と重複関係にある。

残存長10.4m、幅0.18m、深さ0.15mを測る。底部は舟底状を呈する。

出土遺物は、検出できなかった。

第30号溝跡（第178図）

５区Ｂ—17グリッドと５区Ｂ—18グリッドにまたがり位置する。第４号竪穴遺構と重複関係にある。長さ2.3m、幅0.24m、深さ0.05mを測る。両端は次第に浅くなり、消滅する。

出土遺物は、検出できなかった。

第31号溝跡（第178図）

５区Ｂ—17グリッドに位置し、第30号溝跡に隣接する。

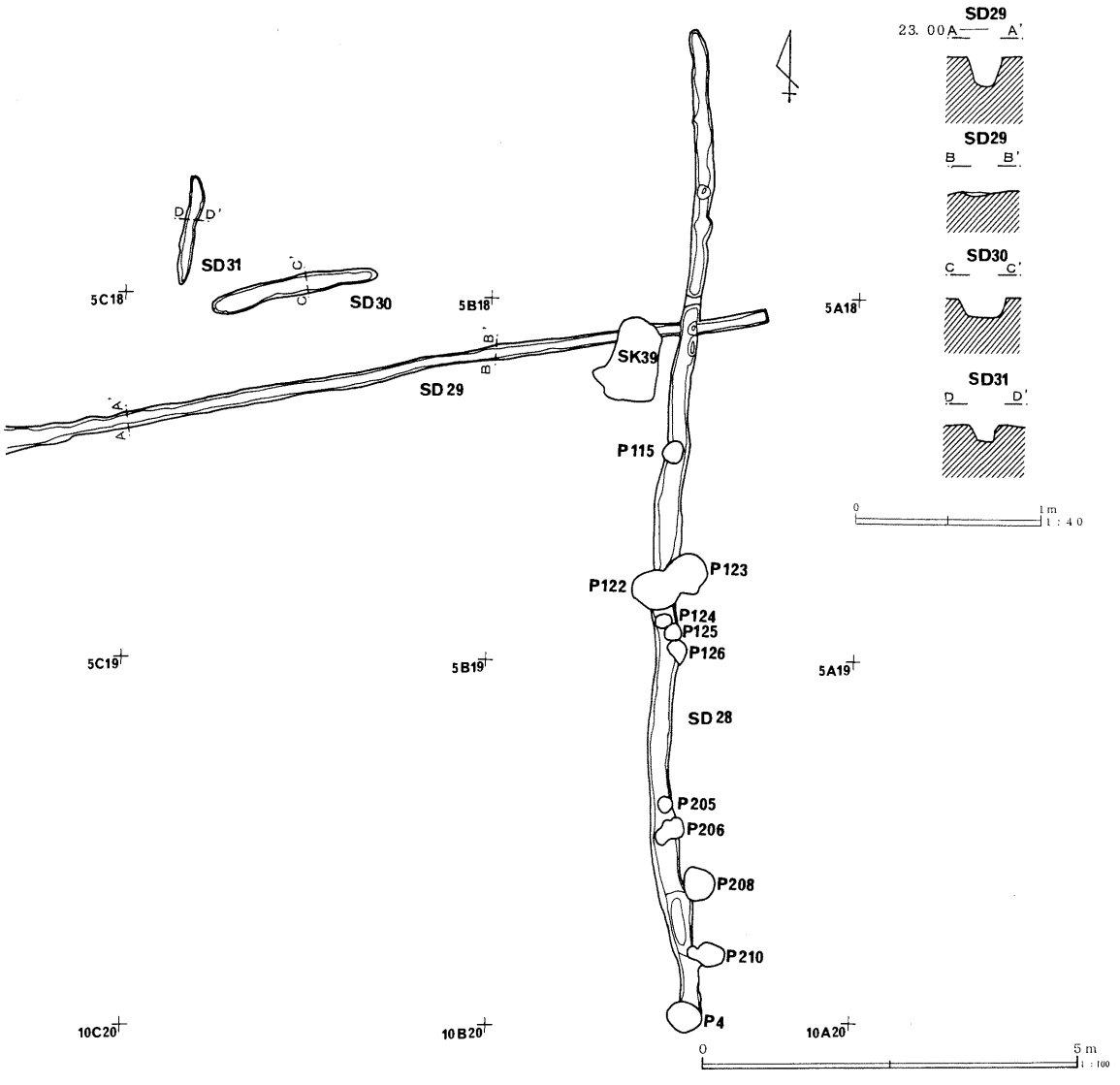
長さ1.5m、幅0.13m、深さ0.05mを測り、両端は次第に浅くなり消滅する。長さ、深さとも小規模な溝跡であった。

出土遺物は、検出できなかった。

第32号溝跡（第179図）

４区Ｔ—16グリッドから５区Ｂ—16グリッドにまたがり位置する。第21号土坑と重複し、第28号掘立柱建物跡の北西に位置する。

全長14.2m、幅0.4m、中央付近は0.1mと狭くなっている。深さは極めて浅く３cmほどである。出土遺物は、検出できなかった。



第178図　Ⅳ区第28～31号溝跡

第33号溝跡（第179図）

4区S－16グリッドに位置する。第28号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

全長1.8m、幅0.2m、深さ0.05mほどの小規模な溝跡である。両端は次第に浅くなり消滅する。

出土遺物は、検出できなかった。

第34号溝跡（第179図）

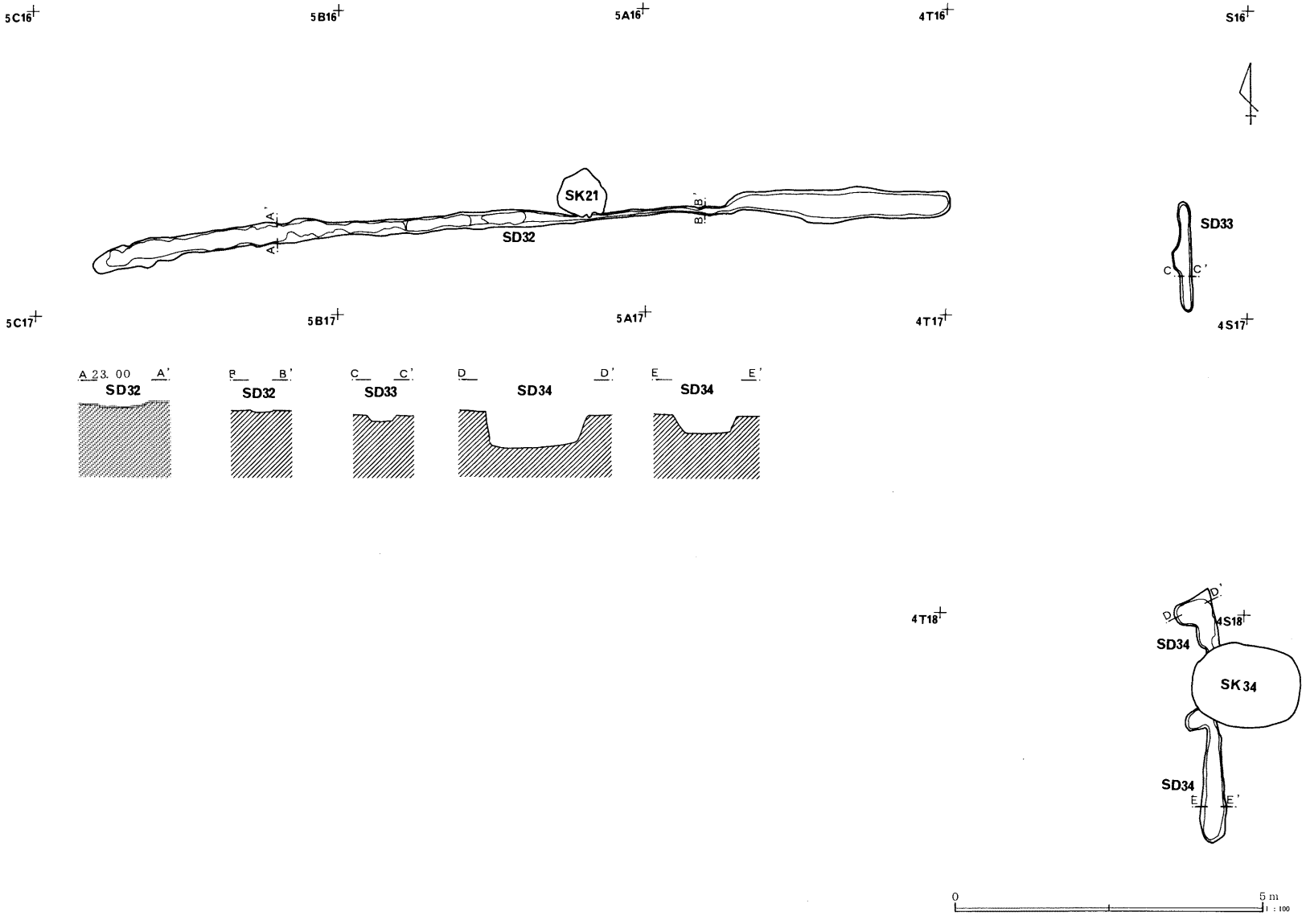
4区S－18グリッドに位置する。第28号掘立柱建物跡、第34号土坑と重複する。建物跡との重複関係は不明であったが、第34号土坑に切られていた。

全長4m、幅は0.2mから0.5mと一定でなかった。深さは0.5mを測る。

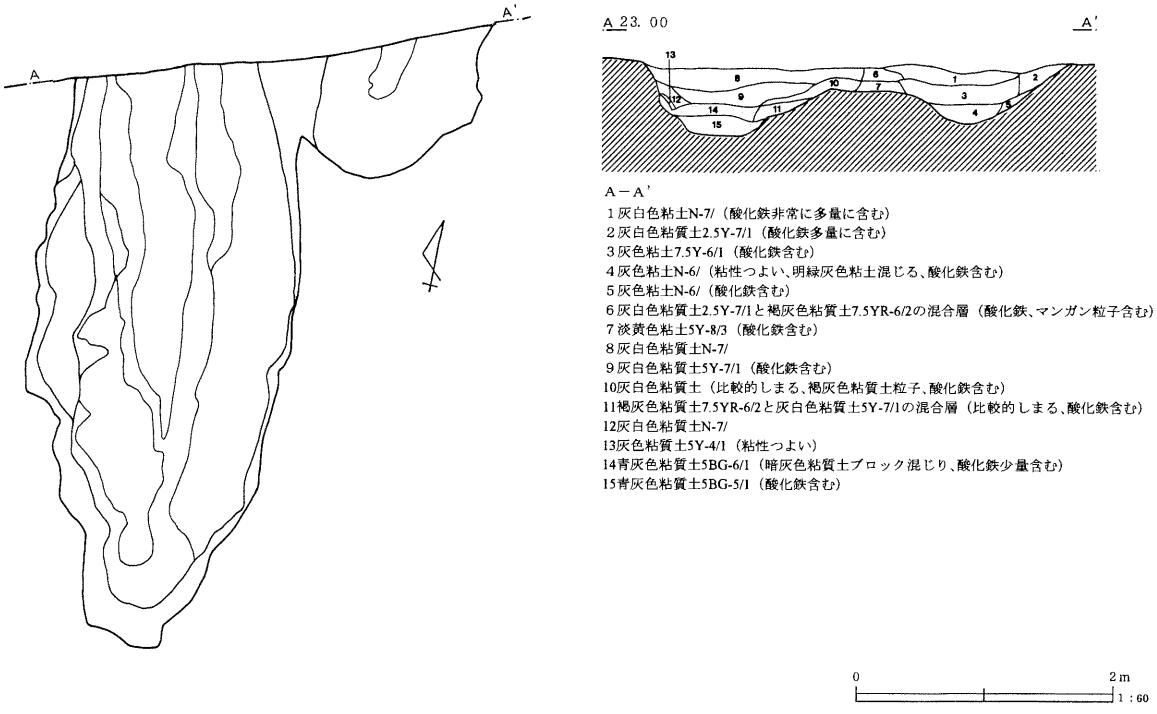
出土遺物は、検出できなかった。

第35号溝跡（第180図）

4区Q－15グリッドに位置する。第9号区画溝と重複し、本遺構が切っている。



第179図　Ⅳ区第32～34号溝跡



第180図　Ⅳ区第35号溝跡

平面形は２条の溝が接しているような形状で、残存長4.5m、最大幅２m、調査区域外幅3.3m、深さ0.53mを測る。南は浅くなり、消滅する。

出土遺物は、検出できなかった。

第36号溝跡（第181・182図、第36表）

５区Ｃ―14グリッドから５区Ｃ―16グリッドに位置し、第１号住居跡、第54号土坑、第37号溝跡と重複関係にあり、各々の遺構に切られていた。北は調査区域外となる。

残存長10.0m、幅0.6～1.4m、深さ0.25mを測り、南は第37号溝跡に切られて消滅する。断面形は、方形の船底状を呈し、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物は、土師器坏、須恵器椀、灰釉陶器皿などが検出できた。

第37号溝跡（第181～183図、第36表）

５区Ｃ―17グリッドを中心に位置する。北の第36号溝跡を切り、南の第38号溝跡に切られており、さらに第53号土坑と重複し切られていた。

残存長6.3m、幅２m前後と第36号溝跡より幅広で、南付近は2.6mと広くなっている。深さは0.37mほどである。断面形は箱形状で、壁面はややゆるやかに立ち上がる。

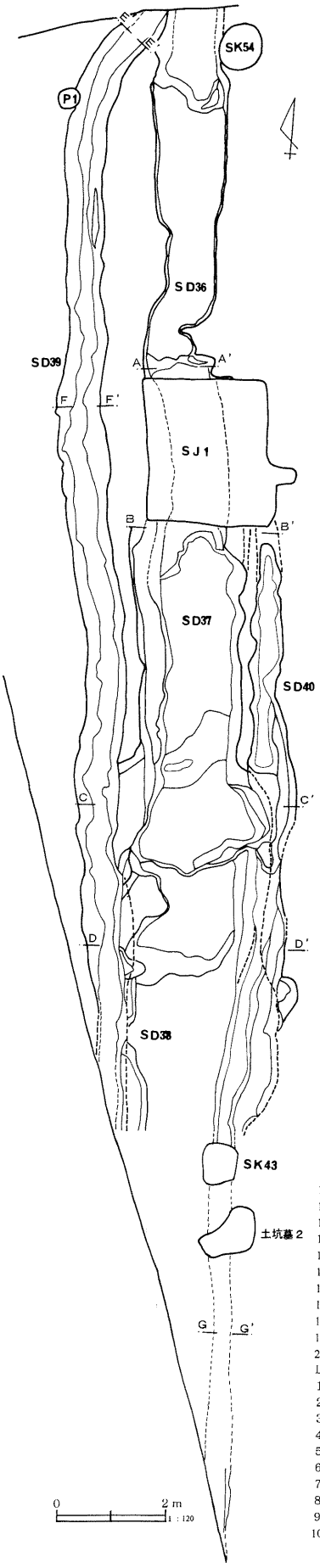
出土遺物は大量に検出され、須恵器坏・椀、土師器甕などが検出でき、墨書の見られるものもあった。

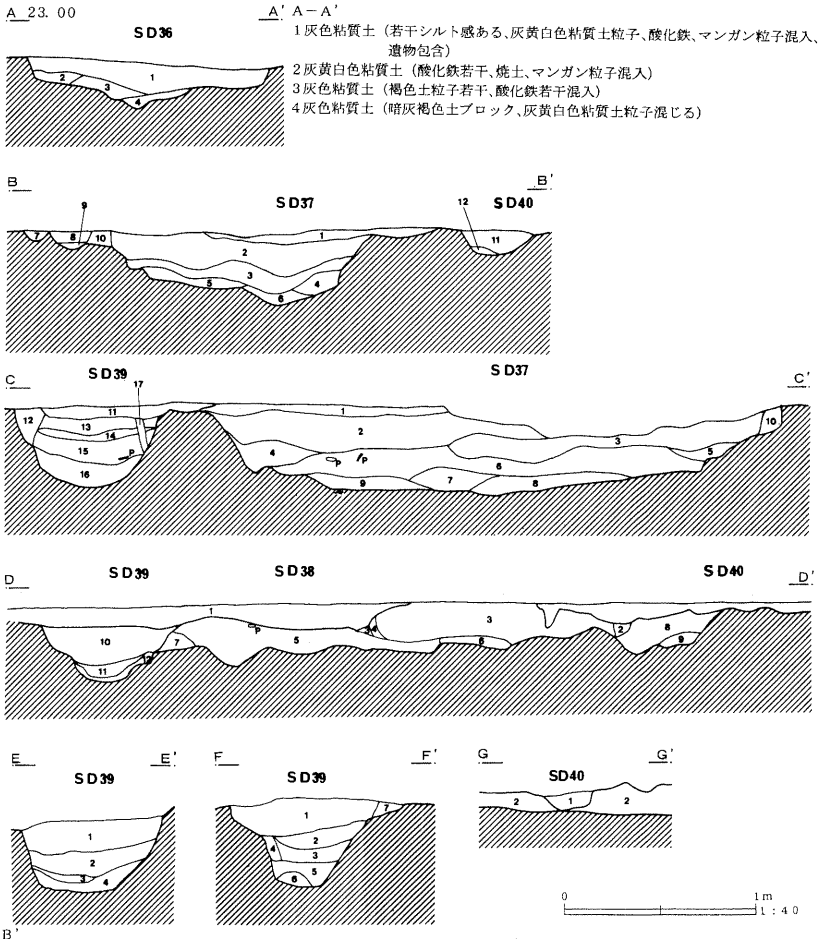
第38号溝跡（第181・183・184図、第36表）

５区Ｃ―18から５区Ｃ―19グリッドに位置する。北の第37号溝跡を切っていた。南は調査区域外となる。また、東は第39号溝跡を切り、西は第40号溝跡に切られていた。

残存長10m、幅は第37号溝跡と同様に幅広で３m前後、深さ0.25mを測る。溝幅はほぼ一定である。

出土遺物は、須恵器坏・椀・壺、土師器台付甕、土師質土器皿などが検出できた。





A－A'
1灰色粘質土（若干シルト感ある、灰黄白色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子混入、遺物包含）
2灰黄白色粘質土（酸化鉄若干、焼土、マンガン粒子混入）
3灰色粘質土（褐色土粒子若干、酸化鉄若干混入）
4灰色粘質土（暗灰褐色土ブロック、灰黄白色粘質土粒子混じる）

B－B'
1灰色粘質土（若干シルト感ある、灰黄白色粘質土粒子、酸化鉄若干含む）
2灰色粘質土（灰褐色土粒子、灰黄白色粘質土粒子多量に含む）
3灰色粘質土（灰褐色土ブロック若干含む）
4灰色粘質土
5暗褐色土と灰色粘質土の混合層
6褐色土（灰黄白色粘質土粒子若干含む）
7灰褐色粘質土（酸化鉄若干含む）
8灰褐色粘質土（灰黄白色粘質土粒子含む）
9灰黄白色粘質土
10暗灰褐色粘土（灰黄白色粘質土粒子若干、酸化鉄含む）
11灰褐色粘質土（灰黄白色粘質土粒子含む）
12灰黄白色粘質土

C－C'
1灰色粘質土（酸化鉄若干、炭化物若干含む）
2灰色粘質土（灰黄白色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物、焼土若干含む）
3灰色粘質土（灰黄白色粘質土粒子若干、焼土少量含む）
4青灰色粘質土（灰黄白色粘質土粒子若干含む）
5灰色粘質土（灰黄白色粘質土混じる）
6灰色粘質土（灰黄白色粘質土粒子若干、焼土、炭化物少量含む、遺物包含）
7灰色粘質土
8灰色粘質土
9灰色粘質土（灰黄白色粘土小ブロック含む、褐色土混じる）
10淡褐色粘質土（灰黄白色粒子、酸化鉄若干含む）
11灰白色粘質土（若干シルト質、灰褐色粘質土小ブロック、酸化鉄少量含む）
12灰色粘質土（褐色粘質土ブロック、酸化鉄含む）
13灰白色粘質土（酸化鉄、マンガン粒子含む）
14灰白色粘質土（灰黄白色粘質土帯状に混じる）
15灰色粘質土（酸化鉄少量含む）
16灰色粘質土（じゃりじゃりした感じ）
17暗灰褐色粘質土（灰色粘質土粒子含む）
18暗灰褐色粘質土
19灰色粘質土（灰黄白色粘土粒子若干、焼土含む）
20灰色粘質土

D－D'
1灰色粘質土（酸化鉄少量、炭化物、焼土、灰若干含む）
2灰色粘質土（炭化物含む）
3灰色粘質土（灰黄白色粘質土粒子若干、酸化鉄、焼土、炭化物若干含む）
4炭化物層（焼土、灰含む）
5灰色粘質土（灰黄白色粘質土、暗褐色粘質土粒子多量、酸化鉄多量に含む）
6暗灰褐色粘質土（灰黄白色粘質土粒子含む）
7灰色粘質土（暗褐色粘質土ブロック多量に含む）
8灰色粘質土
9灰色粘質土（灰黄白色粘質土多量に混じる）
10灰色粘質土（灰黄白色粘質土小ブロック、酸化鉄含む）
11灰色粘質土（灰褐色粘質土混じる）
12灰色粘質土（暗灰褐色粘質土多量に混じる）

E－E'
1灰色粘質土（若干シルト感ある、灰黄白色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む、遺物包含）
2灰黄白色粘質土（酸化鉄若干、焼土、マンガン粒子含む）
3暗灰褐色粘質土ブロック
4淡灰褐色土（暗灰色粘質土粒子、酸化鉄少量含む）

F－F'
1灰色粘質土（若干シルト質、灰白色粘質土粒子若干、酸化鉄少量含む）
2灰色粘質土（若干シルト質、酸化鉄少量含む）
3灰色粘質土（酸化鉄、マンガン粒子含む）
4灰褐色粘質土（酸化鉄少量含む）
5灰黄色粘質土（酸化鉄若干含む）
6淡灰褐色粘土（粘性つよい）
7淡褐色土（酸化鉄少量含む）

G－G'
1灰色粘質土（暗褐色粘質土若干混じる、酸化鉄含む）

第181図　IV区第36～40号溝跡

なお、第36・37・38号溝跡は、順に新しい溝であるが、すべてほぼ南北方向に走る１つの溝とも考えられる。

第39号溝跡（第181・184図、第36表）

５区Ｃ―14グリッドから５区Ｄ-19グリッドに位置する。第36～38号溝跡にほぼ並行して約１ｍ離れて南北方向に走る。北で第36号溝跡と合流する。北及び南は、調査区域外となる。

残存長21ｍ、幅0.7ｍと幅が狭く、ほぼ一定で、深さは0.47ｍを測る。断面形は箱薬研状で底部が平底と、船底状であった。土層は、ほぼ並行に堆積していたので、人為的に埋め戻されたようである。

出土遺物は、土師器甕、須恵器甕・壺などが検出できた。

第40号溝跡（第181・184図、第36表）

５区Ｃ―15グリッドから10区Ｃ―21グリッドに位置する。第43号土坑、第２号土坑墓、第37・38号溝跡、第７・９号区画溝と重複し、土坑、土坑墓に切られており、溝跡、区画溝を切っていた。

残存長11.2ｍ、幅0.25～0.3ｍ、深さ0.1ｍを測る小規模な溝である。断面形は箱形状で、壁面はやや急に立ち上がる。北及び南は、平面的には確認が困難であったので、土層断面上で復元した。

出土遺物は、須恵器坏などが検出できた。

第41号溝跡（第83・156図）

９区Ｈ―22グリッド、Ｈ―23グリッドに位置する。第１・２号区画溝と接続する。

長さ5.5ｍ、幅0.3ｍ、深さ0.12ｍを測る小規模な溝である。断面形は船底状である。

出土遺物は、検出できなかった。

第42号溝跡（第83・156図）

９区Ｈ―24グリッドから東に延び、９区Ｄ―24グリッドで方向を変え南へ延び、９区Ｄ―26グリッドで第３号区画溝と合流する。第12号住居跡と重複し、本遺構が切られていた。

長さは27ｍ、幅0.28ｍ、深さ0.6ｍを測る。断面形は、底部が平坦で、壁面がゆるやかに立ち上がる。

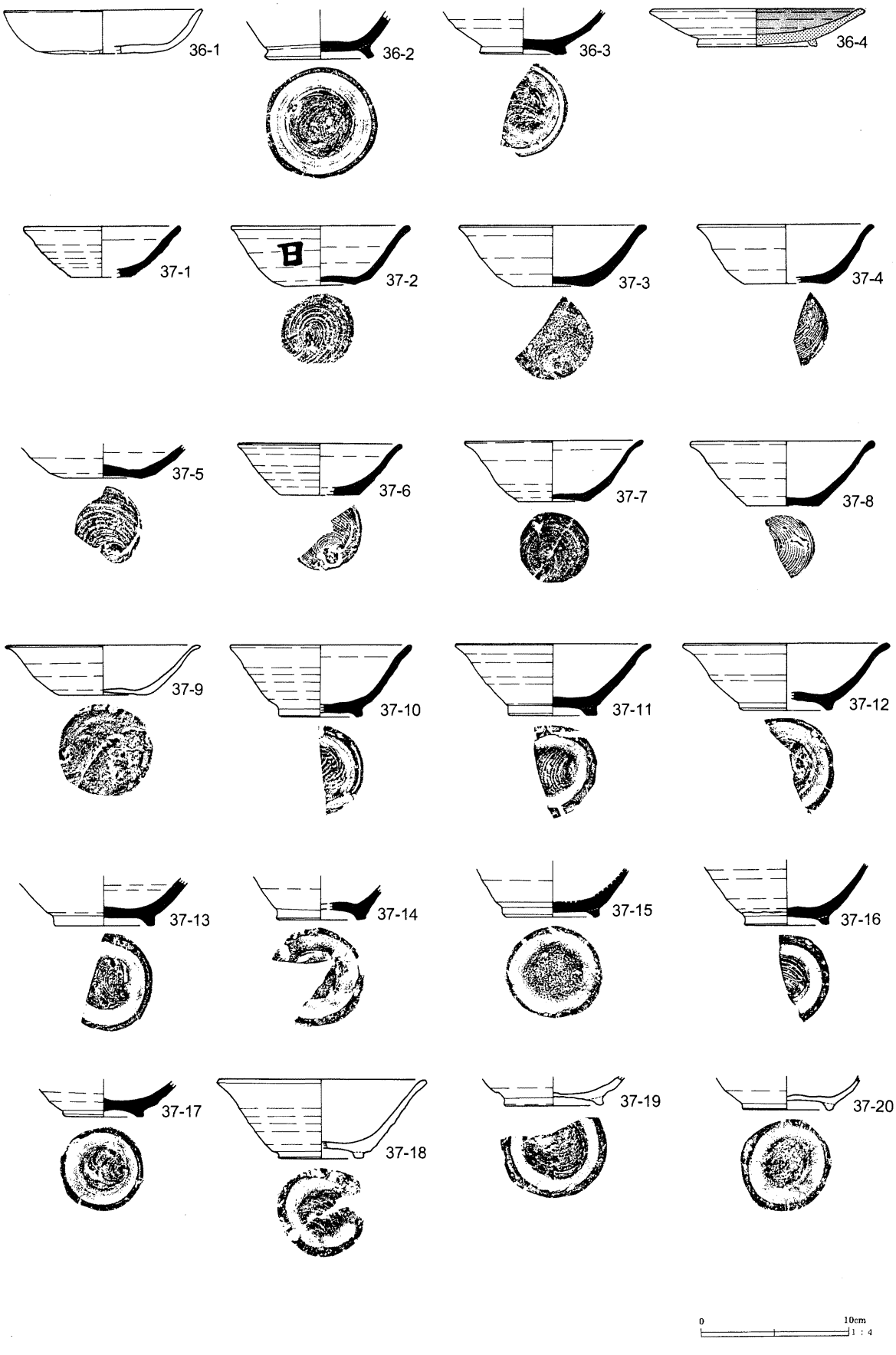
出土遺物は、検出できなかった。

第41号溝跡、第42号溝跡ともに第１区画の掘立柱建物跡空間と竪穴住居跡空間を画する溝と考えられる。

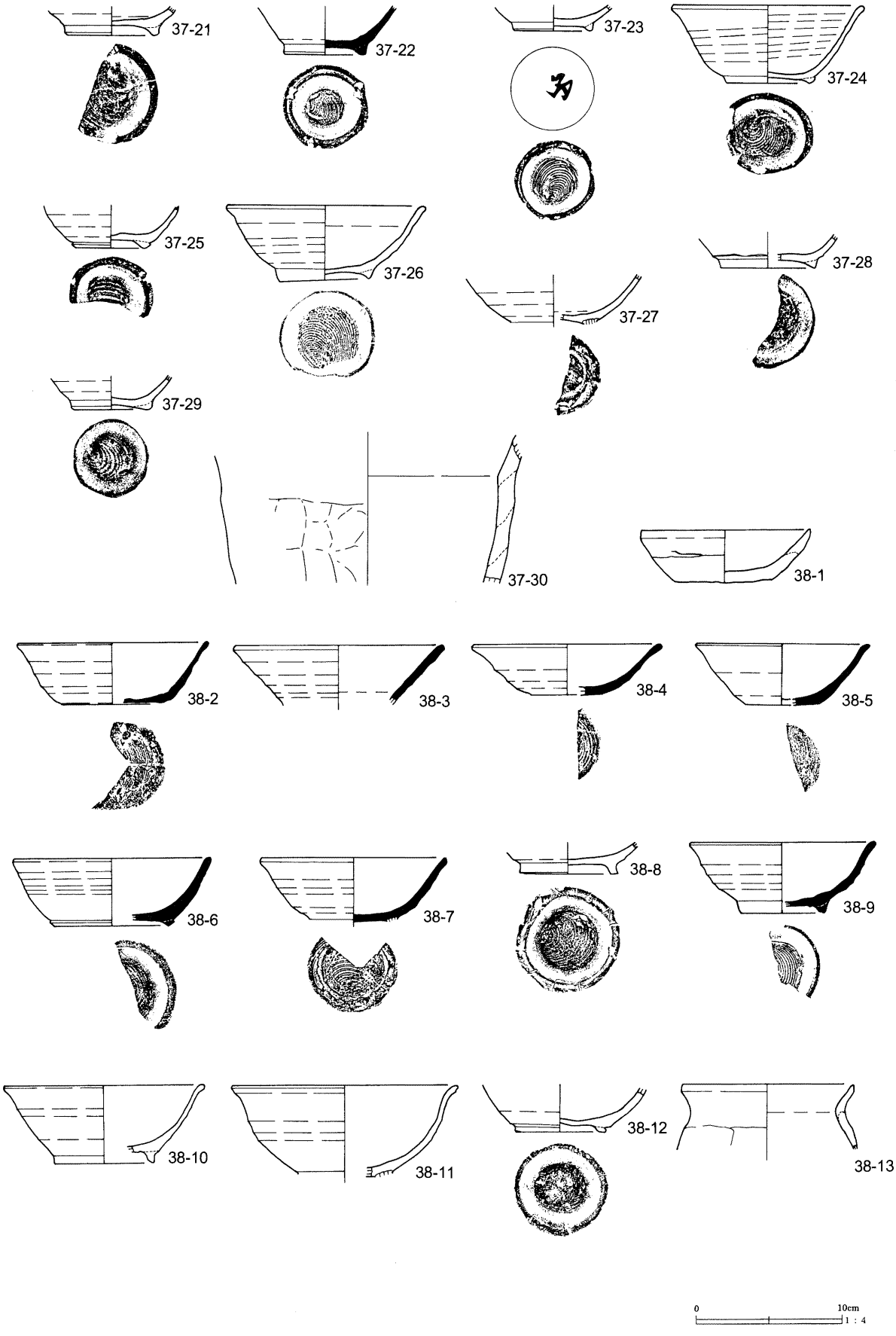
第43号溝跡（第185図）

９区Ｒ―27グリッドから真南に延びる溝で、Ｒ―30グリッドで調査区域外となる。第４号区画溝、第６号区画溝、第14号井戸跡、第93号土坑などと重複する。両区画溝よりは新しい。

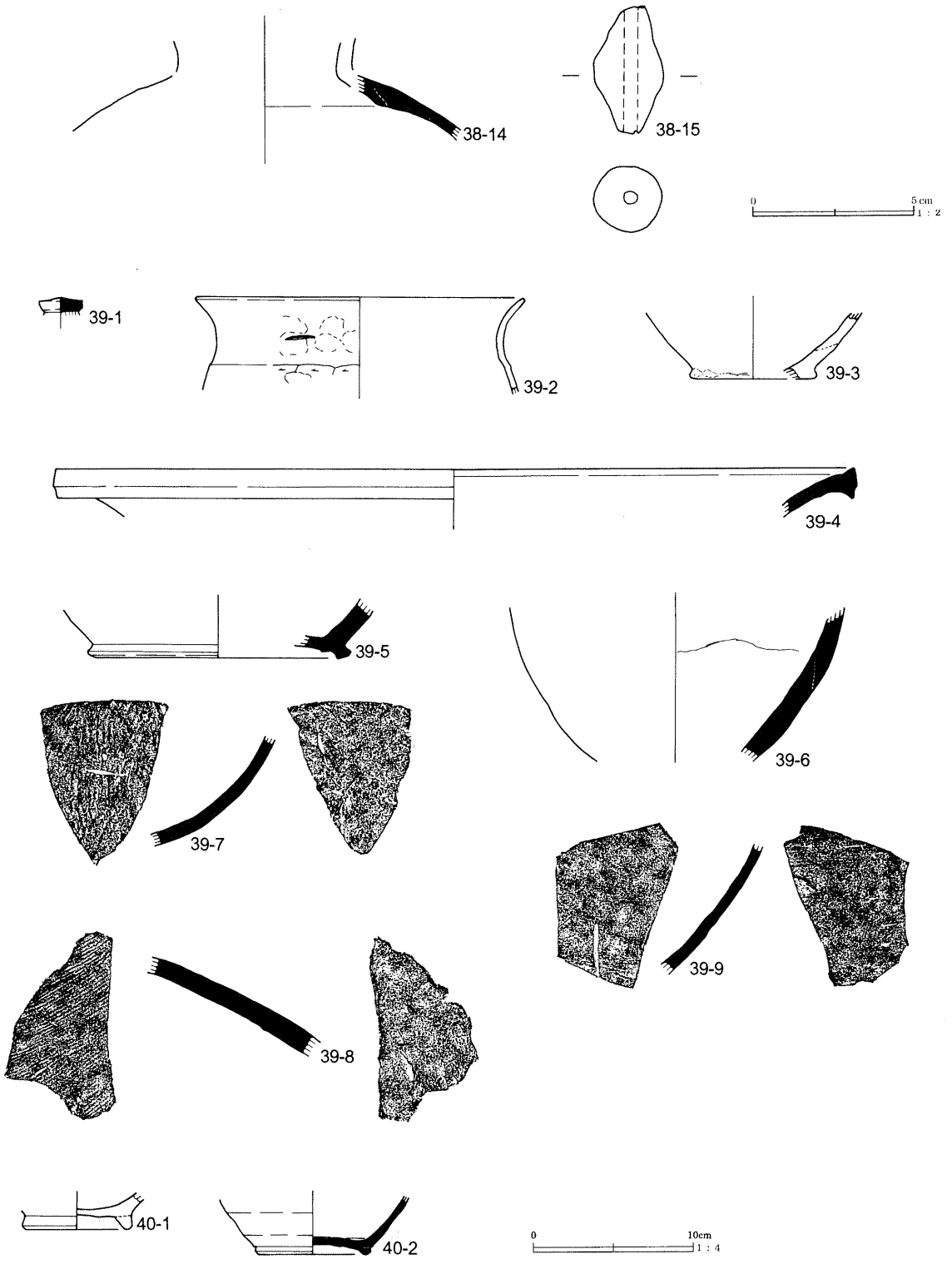
残存長は12ｍ、上幅1.5ｍから2.0ｍ、底幅0.25ｍと非常に細く、薬研のような形状となっている。出土遺物は、検出できなかった。



第182図　IV区第36・37号溝跡出土遺物



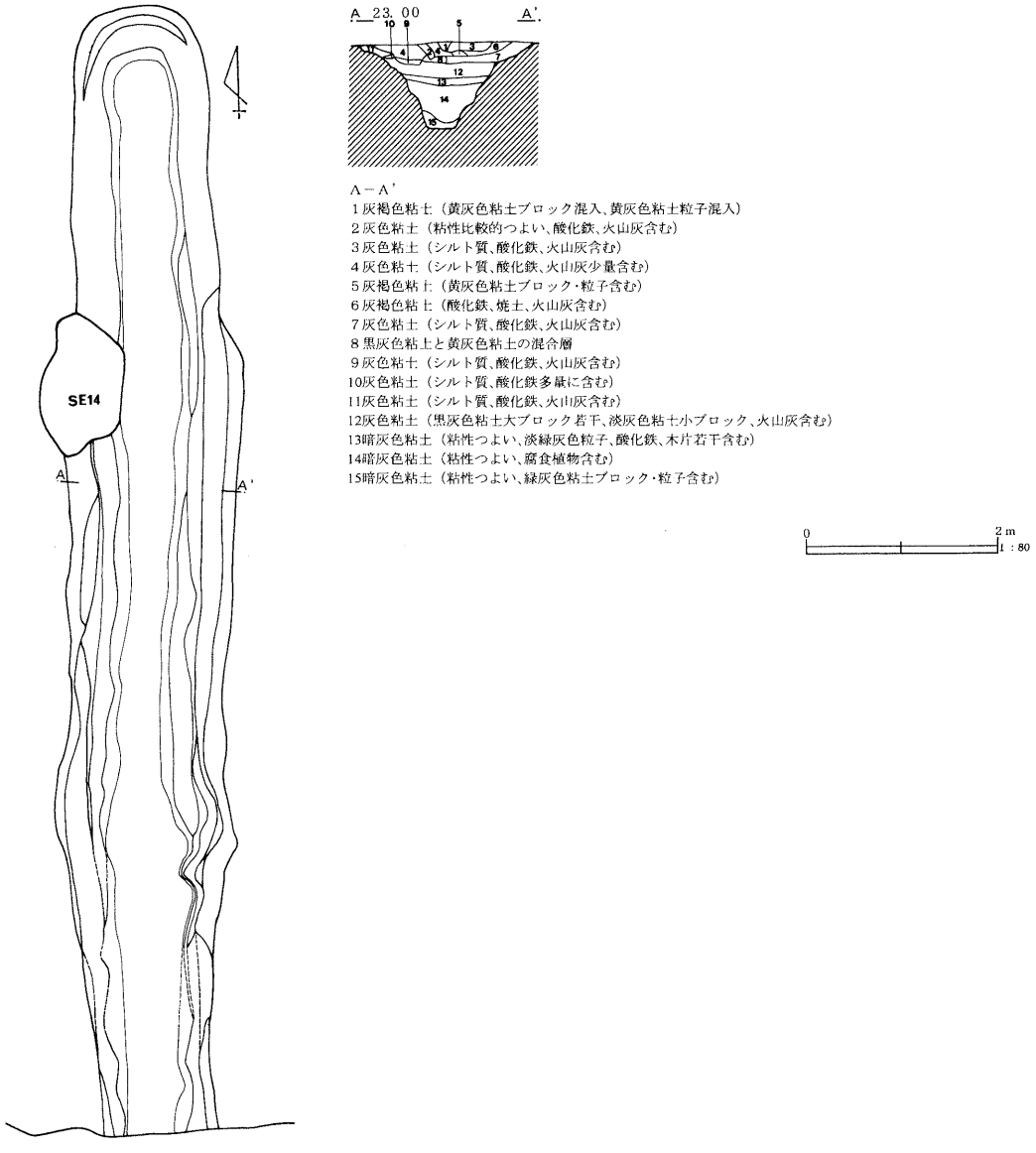
第183図　Ⅳ区第37・38号溝跡出土遺物



第184図　IV区第38～40号溝跡出土遺物

第36表　Ⅳ区第36～40号溝跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
36-1	土師器杯	(13.6)	3.0	(7.8)	EM	にぶい橙色	E	20%	
36-2	須恵器椀	—	—	6.6	ABNL	灰色	A	体部下半破片	末野産。
36-3	須恵器椀	—	—	5.5	ABN	灰白色	C	体部下半破片	
36-4	灰釉陶器皿	(14.6)	2.6	8.0	M	灰白色	A	70%	猿投産。
37-1	須恵器坏	(10.8)	3.4	4.1	A	灰色	A	口縁部10%	
37-2	須恵器坏	12.4	4.1	4.8	ABEGLM	灰白色	C	55%	墨書「日」。末野産
37-3	須恵器坏	(12.8)	4.2	(5.4)	AN	灰色	E	45%	
37-4	須恵器坏	(12.2)	4.0	(5.5)	AB	灰白色	A	70%	
37-5	須恵器坏	—	—	(5.3)	ABE	橙色	E	底部	
37-6	須恵器坏	(11.2)	3.6	(5.4)	AN	灰色	A	30%	
37-7	須恵器坏	12.4	4.3	4.8	HM	灰白色	E	80%	
37-8	須恵器坏	(12.7)	4.4	(4.9)	ABI	灰白色	A	30%	
37-9	須恵器坏	(13.5)	3.4	6.2	ADMN	灰白色	E	60%	
37-10	須恵器椀	(12.6)	4.9	(5.5)	ABEFJN	灰色	A	45%	南比企産。
37-11	須恵器椀	13.4	5.0	5.9	ABE	にぶい橙色、黄灰色	A	30%	
37-12	須恵器椀	(14.0)	4.6	(5.6)	AB	灰白色、黄灰色	A	15%	煤付着。
37-13	須恵器椀	—	—	6.7	AB	灰色	B	底部50%	
37-14	須恵器椀	—	—	5.9	AB	灰白色	A	底部70%	
37-15	須恵器椀	—	—	6.0	ABI	灰白色、灰色	E	体部下半破片	
37-16	須恵器椀	—	—	(5.6)	ABD	灰白色、灰色	A	底部50%	
37-17	須恵器椀	—	—	5.2	ABLN	灰白色	C	体部下半破片	
37-18	須恵器椀	(14.5)	5.4	(5.3)	ABEGHIMN	外面：にぶい褐色　内面：灰白色	E	50%	
37-19	須恵器椀	—	—	6.6	ADHM	灰白色	D	底部60%	
37-20	須恵器椀	—	—	5.8	ABN	灰白色	E	底部100%	
37-21	須恵器椀	—	—	(6.3)	BHLMN	灰白色	D	底部60%	末野産。
37-22	須恵器椀	—	—	5.3	AB	灰色	E	底部100%	
37-23	須恵器椀	—	—	5.4	AB	にぶい橙色	A	底部100%	墨書。
37-24	須恵器椀	13.5	5.4	5.6	ABE	灰白色、灰黄色	A	75%	
37-25	須恵器椀	—	—	4.9	BDHM	灰白色	E	底部60%	
37-26	須恵器椀	14.1	5.3	6.3	ABEGHLN	灰白色	D	90%	末野産。
37-27	須恵器椀	—	—	—	AHIMN	にぶい褐色	D	底部50%	高台脱落。
37-28	須恵器椀	—	—	(6.5)	ABM	外面：黄灰色　内面：灰白色	E	底部45%	
37-29	須恵器椀	—	—	5.2	AIM	灰白色	E	底部100%	
37-30	土師器甕	—	—	—	ABEM	外面：にぶい褐色　内面：灰褐色	E	胴部破片	
38-1	土師質土器坏	11.9	3.7	6.9	C	浅黄色、黄灰色	E	70%	
38-2	須恵器坏	(13.6)	4.8	(7.2)	A	灰白色	C	50%	
38-3	須恵器坏	(15.0)	—	—	AN	灰白色	C	40%	
38-4	須恵器坏	(13.4)	3.5	(5.0)	AH	灰白色	C	30%	
38-5	須恵器坏	(12.2)	4.2	(5.2)	A	灰白色	C	40%	
38-6	須恵器椀	(14.0)	4.7	(8.0)	A	灰色	A	30%	
38-7	須恵器坏	(13.2)	—	—	AGN	灰白色	C	50%	高台脱落。
38-8	須恵器椀	—	—	6.1	ADL	にぶい橙色	D	底部100%	
38-9	須恵器椀	(13.0)	5	(5.9)	A	灰色	A	20%	
38-10	須恵器椀	(14.3)	5.4	(7.1)	D	にぶい橙色	E	45%	
38-11	須恵器椀	(16.0)	—	—	DI	灰白色、黒色	E	40%	高台脱落。
38-12	須恵器椀	—	—	6.2	ACN	にぶい橙色	E	体部下半破片	
38-13	土師器台付甕	(12.1)	—	—	DHI	にぶい橙色	D	口縁部25%	
38-14	須恵器甕	—	—	—	AB	灰色	A	胴部破片	
38-15	土錘	長さ4.0	幅2.2	—	—	—	—	100%	重さ16ｇ
39-1	須恵器蓋	—	—	—	AC	にぶい橙色	D	つまみのみ	
39-2	土師器甕	(21.1)	—	—	ACI	橙色	A	口縁部20%	
39-3	土師器甕	—	—	(7.9)	GM	外面：黒褐色　内面：灰褐色	E	胴下半部破片	
39-4	須恵器甕	(51.0)	—	—	BN	灰白色	A	口縁部10%以下	
39-5	須恵器甕	—	—	(15.3)	ABF	外面：オリーブ灰色　内面：灰白色	A	底部10%以下	南比企産。
39-6	須恵器甕	—	—	—	AF	外面：灰赤色　内面：灰色	A	胴下半部破片	南比企産。
39-7	須恵器甕	—	—	—	A	灰色	A	胴部破片	
39-8	須恵器甕	—	—	—	AFN	灰褐色	A	胴部破片	
39-9	須恵器甕	—	—	—	ABN	灰色	A	胴部破片	
40-1	須恵器椀	—	—	6.5	DHI	外面：橙色　内面：灰黄褐色	E	底部70%	
40-2	須恵器椀	—	—	(6.8)	A	灰白色	D	底部25%	内外面に煤付着。



第185図　Ⅳ区第43号溝跡

以下、２面目の溝跡を記述する。

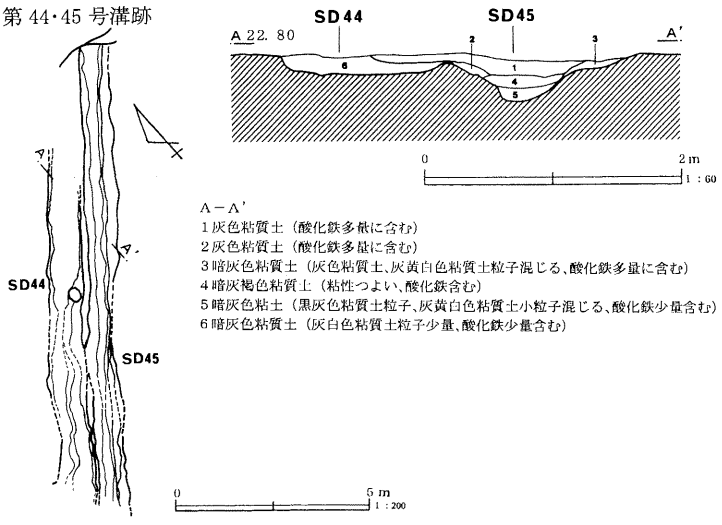
第44号溝跡（第186図）

５区C—14グリッドからD—16グリッドに位置する。第45号溝跡と並行し、一部で重複する。本遺構が切られている。北側は次第に浅くなり消滅する。南は調査区域外となる。

残存長は8.6m、幅1.2m、深さは確認面から0.15m前後と浅いが、場所によって底部にピット状の穴があり、不規則な形状である。

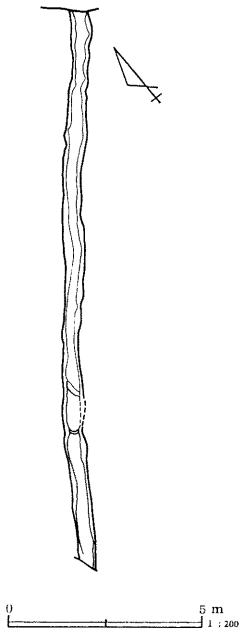
出土遺物は、検出されなかった。

第 44・45 号溝跡

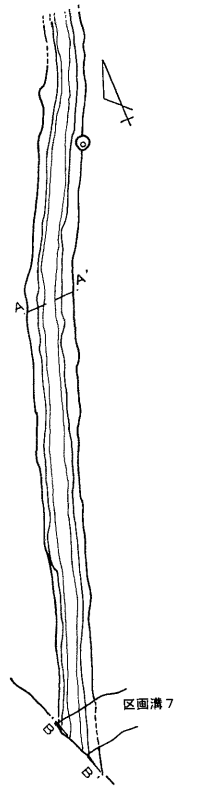


A－A'
1 灰色粘質土（酸化鉄多量に含む）
2 灰色粘質土（酸化鉄多量に含む）
3 暗灰色粘質土（灰色粘質土、灰黄白色粘質土粒子混じる、酸化鉄多量に含む）
4 暗灰褐色粘質土（粘性つよい、酸化鉄含む）
5 暗灰色粘土（黒灰色粘質土粒子、灰黄白色粘質土小粒子混じる、酸化鉄少量含む）
6 暗灰色粘質土（灰白色粘質土粒子少量、酸化鉄少量含む）

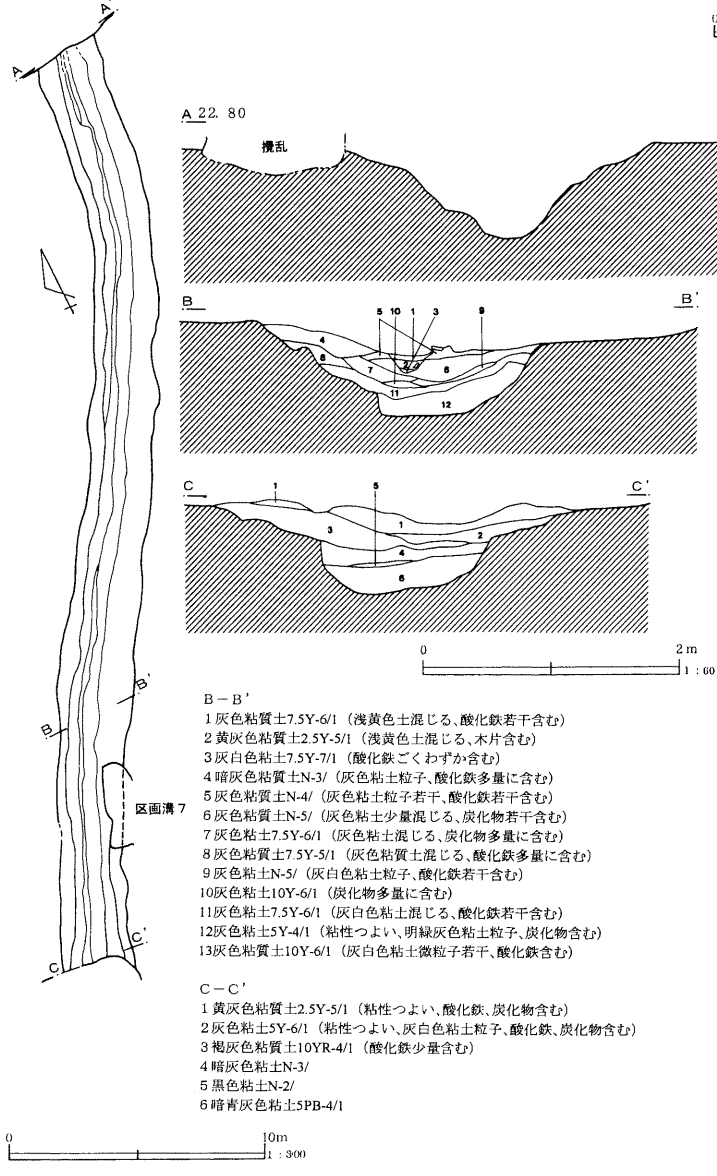
第 46 号溝跡



第 47 号溝跡

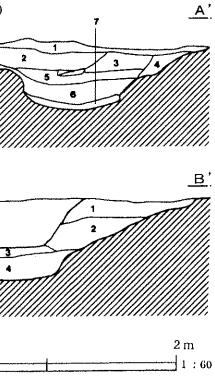


第 48 号溝跡



B－B'
1 灰色粘質土7.5Y-6/1（浅黄色土混じる、酸化鉄若干含む）
2 黄灰色粘質土2.5Y-5/1（浅黄色土混じる、木片含む）
3 灰白色粘土7.5Y-7/1（酸化鉄ごくわずか含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘土粒子、酸化鉄多量に含む）
5 灰色粘質土N-4/（灰色粘土粒子若干、酸化鉄若干含む）
6 灰色粘質土N-5/（灰色粘土少量混じる、炭化物若干含む）
7 灰色粘土7.5Y-6/1（灰色粘土混じる、炭化物多量に含む）
8 灰色粘質土7.5Y-5/1（灰色粘質土混じる、酸化鉄多量に含む）
9 灰色粘土N-5/（灰白色粘土粒子、酸化鉄若干含む）
10灰色粘土10Y-6/1（炭化物多量に含む）
11灰色粘土7.5Y-6/1（灰白色粘土混じる、酸化鉄若干含む）
12灰色粘土5Y-4/1（粘性つよい、明緑灰色粘土粒子、炭化物含む）
13灰色粘質土10Y-6/1（灰白色粘土微粒子若干、酸化鉄含む）

C－C'
1 黄灰色粘質土2.5Y-5/1（粘性つよい、酸化鉄、炭化物含む）
2 灰色粘土5Y-6/1（粘性つよい、灰白色粘土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
3 褐灰色粘質土10YR-4/1（酸化鉄少量含む）
4 暗灰色粘土N-3/
5 黒色粘土N-2/
6 暗青灰色粘土5PB-4/1

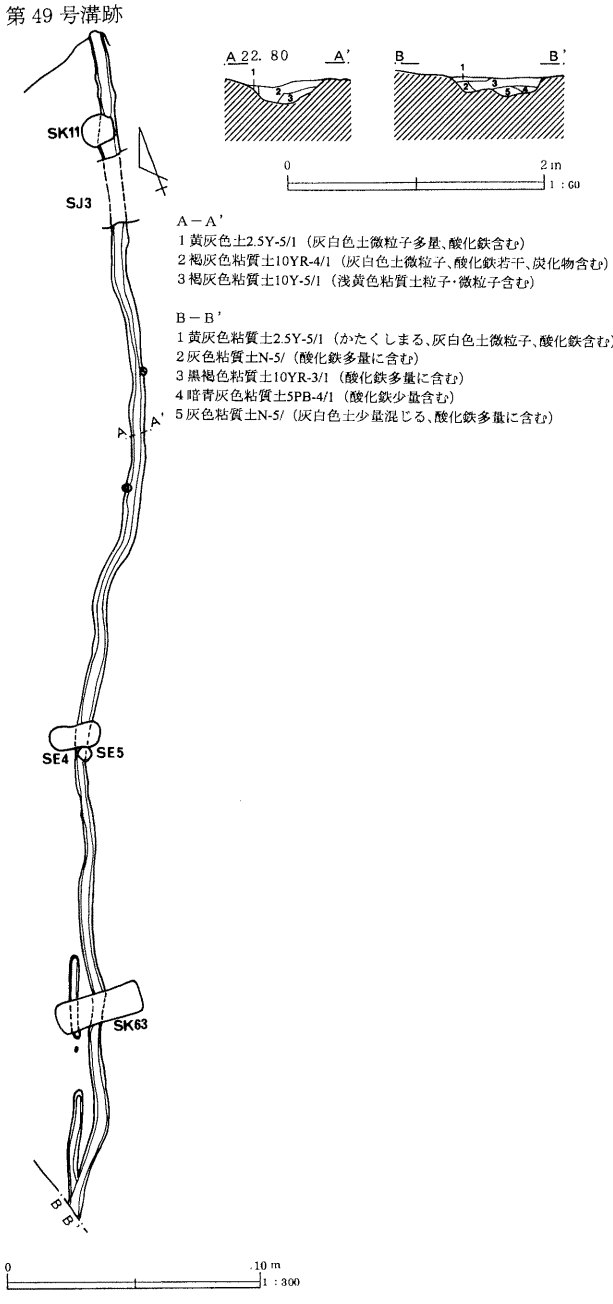


A－A'
1 黄灰色粘質土2.5Y-6/1（酸化鉄少量含む）
2 灰色粘質土N-5/（灰白色粘土微粒子少量、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土（しまった感じ）
4 灰色粘質土N-4/（浅黄色粘質土粒子、酸化鉄含む）
5 褐灰色粘質土10YR-5/1（灰白色粘土粒子、酸化鉄少量含む）
6 黄灰色粘質土2.5Y-4/1（灰白色粘土粒子、酸化鉄含む）
7 灰色粘質土N-4/（粘性非常につよい）

B－B'
1 灰白色粘質土5Y-7/1（褐灰色粘質土ブロック、酸化鉄少量含む）
2 褐灰色粘質土5YR-4/1（酸化鉄少量含む）
3 黒褐色粘質土10YR-3/1（酸化鉄多量に含む）
4 暗灰色粘土N-3/（酸化鉄ごくわずか、炭化植物含む）

第186図　Ⅳ区第44～48号溝跡

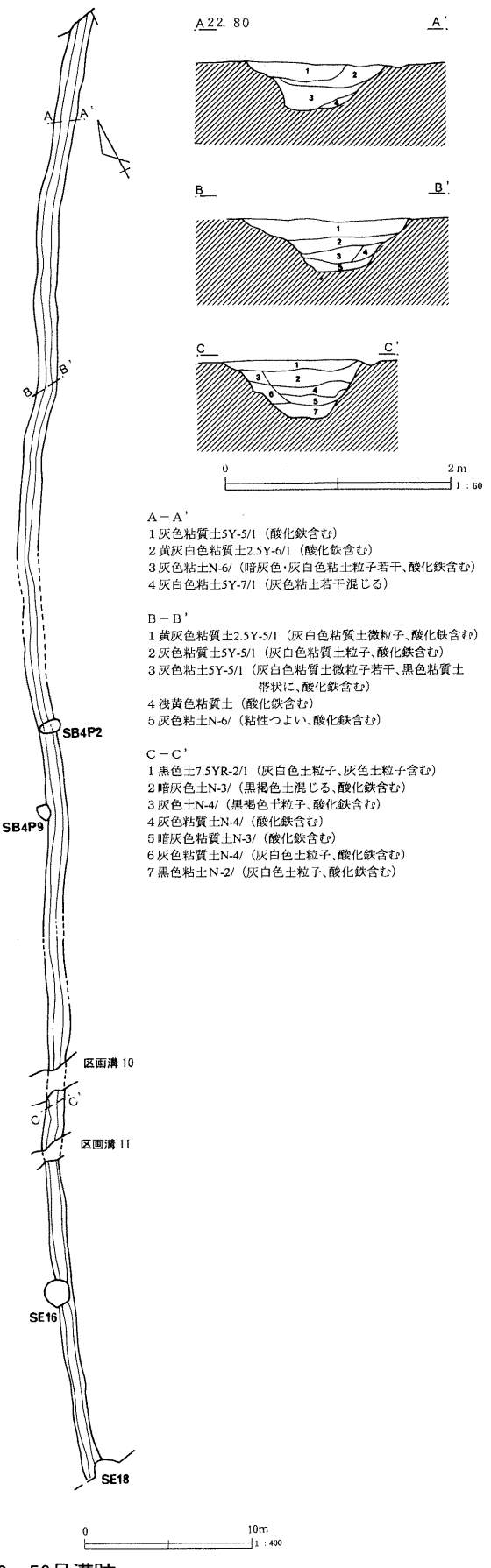
第 49 号溝跡



A－A'
1 黄灰色土2.5Y-5/1（灰白色土微粒子多量、酸化鉄含む）
2 褐灰色粘質土10YR-4/1（灰白色土微粒子、酸化鉄若干、炭化物含む）
3 褐灰色粘質土10Y-5/1（浅黄色粘質土粒子・微粒子含む）

B－B'
1 黄灰色粘質土2.5Y-5/1（かたくしまる、灰白色土微粒子、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土N-5/（酸化鉄多量に含む）
3 黒褐色粘質土10YR-3/1（酸化鉄多量に含む）
4 暗青灰色粘質土5PB-4/1（酸化鉄少量含む）
5 灰色粘質土N-5/（灰白色土少量混じる、酸化鉄多量に含む）

第 50 号溝跡

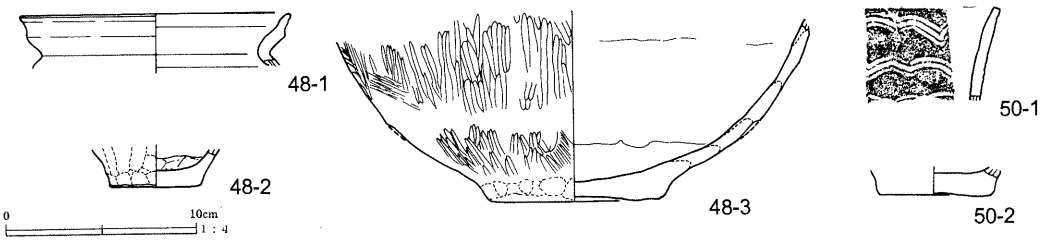


A－A'
1 灰色粘質土5Y-5/1（酸化鉄含む）
2 黄灰白色粘質土2.5Y-6/1（酸化鉄含む）
3 灰色粘土N-6/（暗灰色・灰白色粘土粒子若干、酸化鉄含む）
4 灰白色粘土5Y-7/1（灰色粘土若干混じる）

B－B'
1 黄灰色粘質土2.5Y-5/1（灰白色粘質土微粒子、酸化鉄含む）
2 灰色粘質土5Y-5/1（灰白色粘質土粒子、酸化鉄含む）
3 灰色粘土5Y-5/1（灰白色粘質土微粒子若干、黒色粘質土帯状に、酸化鉄含む）
4 浅黄色粘質土（酸化鉄含む）
5 灰色粘土N-6/（粘性つよい、酸化鉄含む）

C－C'
1 黒色土7.5YR-2/1（灰白色土粒子、灰色土粒子含む）
2 暗灰色土N-3/（黒褐色土混じる、酸化鉄含む）
3 灰色土N-4/（黒褐色土粒子、酸化鉄含む）
4 灰色粘質土N-4/（酸化鉄含む）
5 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄含む）
6 灰色粘質土N-4/（灰白色土粒子、酸化鉄含む）
7 黒色粘土N-2/（灰白色土粒子、酸化鉄含む）

第187図　IV区第49・50号溝跡



第188図　Ⅳ区第48・50号溝跡出土遺物

第37表　Ⅳ区第48・50号溝跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
48-1	土師器台付甕	14.2	—	—	AHI	浅黄橙色	D	口縁部15%	
48-2	土師器甕	—	—	4.7	AB	外面：にぶい褐色　内面：にぶい赤褐色	A	底部100%	
48-3	土師器壺	—	—	9.0	ABEN	外面：黒褐色　内面：にぶい橙色	D	胴下半部40%	
50-1	弥生土器壺	—	—	—	AIN	外面：にぶい赤褐色　内面：にぶい橙色	C	口縁部破片	
50-2	土師器壺	—	—	6.0	A	外面：橙色、黒色　内面：橙色	D	底部100%	

第45号溝跡（第186図）

5区C—14グリッドからD—17グリッドに延びている。南北とも調査区域外となり、溝の規模は分からない。

残存長は12m、幅1m、深さ確認面から0.35mを測る。底の形状は舟底状となっている。

出土遺物は、検出されなかった。

第46号溝跡（第186図）

5区B—15グリッドからD—17グリッドに延びる溝跡である。両端は調査区域外に延びており、溝の規模は把握できなかった。

残存長は14.8m、幅0.6mを測る。深さは20cm前後と浅い。

出土遺物は、検出されなかった。

第47号溝跡（第186図）

4区T—15グリッドから10区C—21グリッドに延びる溝跡である。両端は調査区域外となり、溝の規模は分からない。第7号区画溝と重複するが、本遺構が古い。

残存長は28m、幅1.8m、深さは確認面から0.5m前後である。底部はほぼ平坦で、断面形は箱薬研状となっている。

出土遺物は、検出されなかった。

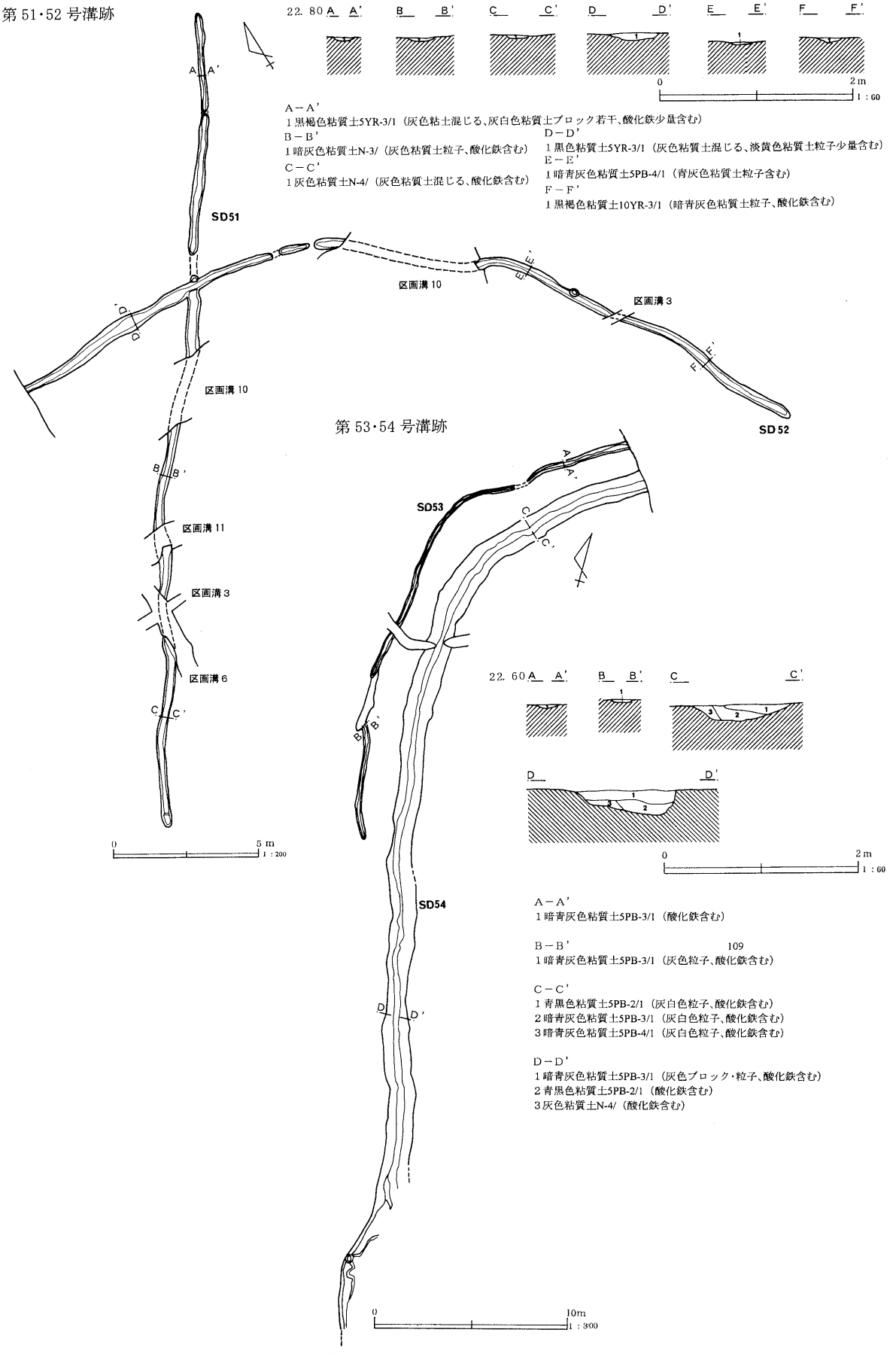
第48号溝跡（第186・188図、第37表）

4区S—15グリッドから10区B—22グリッドに延びる溝跡である。両端は調査区域外となり、溝の規模は把握できなかった。

残存長は36.2m、幅2.6m前後、深さ確認面から0.7m前後を測る。底部は平坦で、断面形は箱薬研状を呈している。非常に規模が大きな溝跡と言える。

出土遺物は、土師器S字口縁台付甕、壺などが検出された。

第51・52号溝跡



第189図　Ⅳ区第51～54号溝跡

第49号溝跡（第187図）

4区Q—15グリッドから10区A—23グリッドに延びる溝跡である。両端は調査区域外となり、溝の規模は分からない。第3号住居跡などと重複するが、いずれの遺構よりも本遺構が古い。

溝は僅かずつ蛇行しながら延び、残存長47m、幅0.6m、深さは確認面から0.2m前後と浅い。底部の形状は舟底状を呈している。

出土遺物は、検出されなかった。

第50号溝跡（第186・188図、第37表）

4区L—13グリッドから9区A—30グリッドに延びる溝跡である。両端は調査区域外となり、溝の規模は解明できなかった。第10号区画溝、第1号区画溝などの遺構と重複するが、いずれの遺構よりも本遺構が古い。

残存長は89.4m、幅1.2m前後、深さ確認面から0.5m前後を測る。断面形は箱薬研状を呈する。

出土遺物は、弥生土器壺、土師器壺破片などが検出された。

第51号溝跡（第189図）

9区P—23グリッドから9区S—26グリッドに延びる溝跡である。両端は、次第に浅くなり消滅する。第3・6・10・11号区画溝と重複しており、本遺構が切られている。

長さ28.6m、幅0.3m、深さ0.05m前後と極めて浅く、先に述べたように両端は次第に深さをなくして消滅する。

出土遺物は、検出されなかった。

第52号溝跡（第189図）

9区R—24グリッドで第50号溝跡と合わさるところから始まり、9区N—27グリッドまで延びている。第50号溝跡との新旧関係は不明である。9区Q—24グリッドで第51号溝跡と交差する。第51号溝跡同様に第3・10号区画溝などと重複しており、本遺構が切られている。

残存長28m、幅0.3m、深さ0.05m前後を測り、第51号溝跡同様に浅く、規模の小さい溝で、両端は次第に浅くなり消滅する。

出土遺物は、検出されなかった。

第53号溝跡（第189図）

9区F—20グリッドから9区H—24グリッドに延びる溝跡である。H—21グリッドで大きく蛇行している。溝の北側は調査区域外となり、南は次第に浅くなり消滅する。

残存長27m、幅0.2m、深さ0.05mを測る。

出土遺物は、検出されなかった。

第54号溝跡（第189図）

9区F—20グリッドから9区F—29グリッドに延びる溝跡である。H—22グリッドで大きく南に方向を変えている。北部分は、第53号溝跡と並行する。

残存長52m、幅1m、深さ0.2mから0.3mと浅い。底の形状は舟底状を呈している。

出土遺物は、検出されなかった。

(9) 河川跡

河川跡Ａ地点（第190・191図、第38表）

４区Ｔ―15グリッド及び５区Ａ・Ｂ―14・15グリッドに位置していた。調査区の北西隅にあたり、第５号住居跡及びⅣ区第１号竪穴遺構を切っていた。北は調査区域外であった。また、河川跡Ｆ地点の対岸にあたる。

規模は、検出面での最大幅3.9m、長さ13.1m、深さは最深で1.0mであった。北に向かって底面が傾斜をもっていた。覆土は、上層から下層に向かって灰色味が増して明灰色から暗灰色になる粘質土であった。上層には酸化鉄を多く含み、下層には砂及び木片・木の葉片が含まれていた。また、検出部南端付近の中間及び下層が氾濫による層位の不整合が認められた。土層観察から、周辺部から徐々に堆積し、確認された箇所では、大きく２度にわたって堆積したことがわかった。

出土遺物は、江戸時代の遺物が検出された。出土遺物のうち土器については、伊万里系の染付碗、瓦質の脚付火鉢、焙烙などが出土した。

木製品については、椀・曲物などの食膳具や横櫛が出土した。

石製品では砥石が、鉄製品では鏃のような形態をした用途不明品が出土した。

河川跡Ｂ地点（第192～203図、第39～40）

４区Ｉ・Ｊ―14～16、４区Ｋ―14・15、４区Ｌ～Ｎ―13・14グリッドに位置していた。調査区中央北隅を西から東へ流れ、大きく南東に張り出して横断していた。北と西は調査区域外であった。

規模は、検出面での最大幅9.5m、長さ30.0m、深さは最深で1.8mであった。中央より西では底が一段掘りくぼめられていた。やや南寄りの底は東西に溝状の掘り込みがあった。覆土は、上層が青灰色のシルト混じりの粘土、中間層が灰色の粘土、下層が木片や腐食植物を含んだ灰色・灰褐色の粘土及び緑灰色シルトであり、第12層が木製品を多量に出土した層である。

出土遺物は、弥生時代中期から古墳時代後期の遺物が検出された。出土遺物のうち土器については、弥生土器壺、土師器Ｓ字口縁台付甕・坏・鉢・高坏・甕・甑、須恵器蓋・坏・高坏・甕・瓶が出土した。

時期は、古墳時代後期が主体であった。土師器坏・甕の出土量が絶対的に多く、土師器坏の中には内外面とも赤彩を施したものも見られた。須恵器には把手付の椀が見られた。

石器は、弥生時代の磨製石鏃（第203図７）が１点出土した。

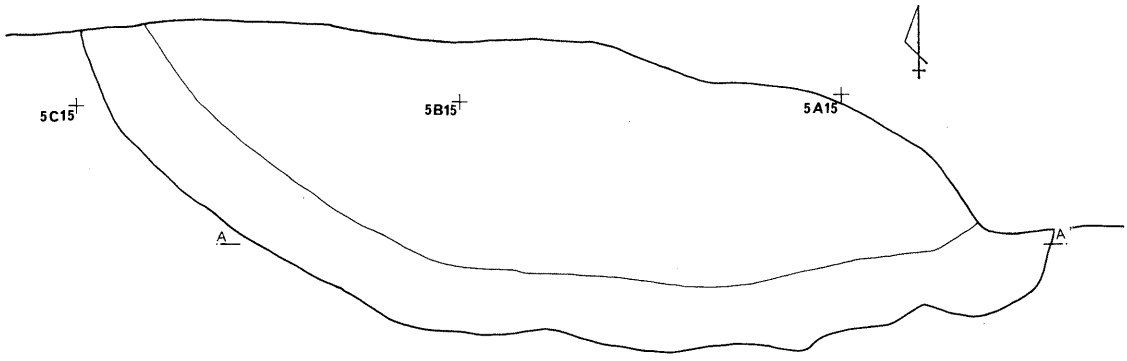
玉類は、滑石製模造品臼玉（第203図４・５）、丸玉（第203図６）が出土した。

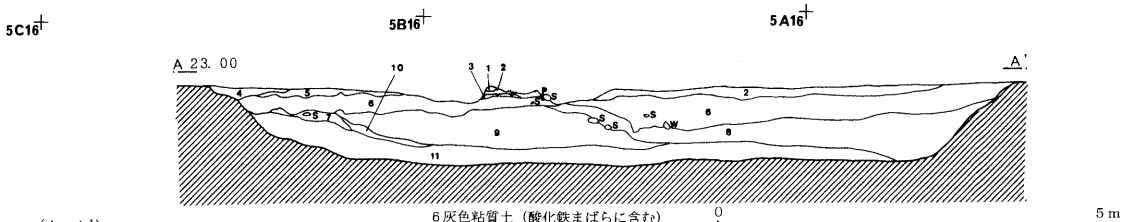
石製品は、滑石製の紡錘車（第203図３）が出土した。

土製品は、土錘が２点（第203図１・２）が出土した。

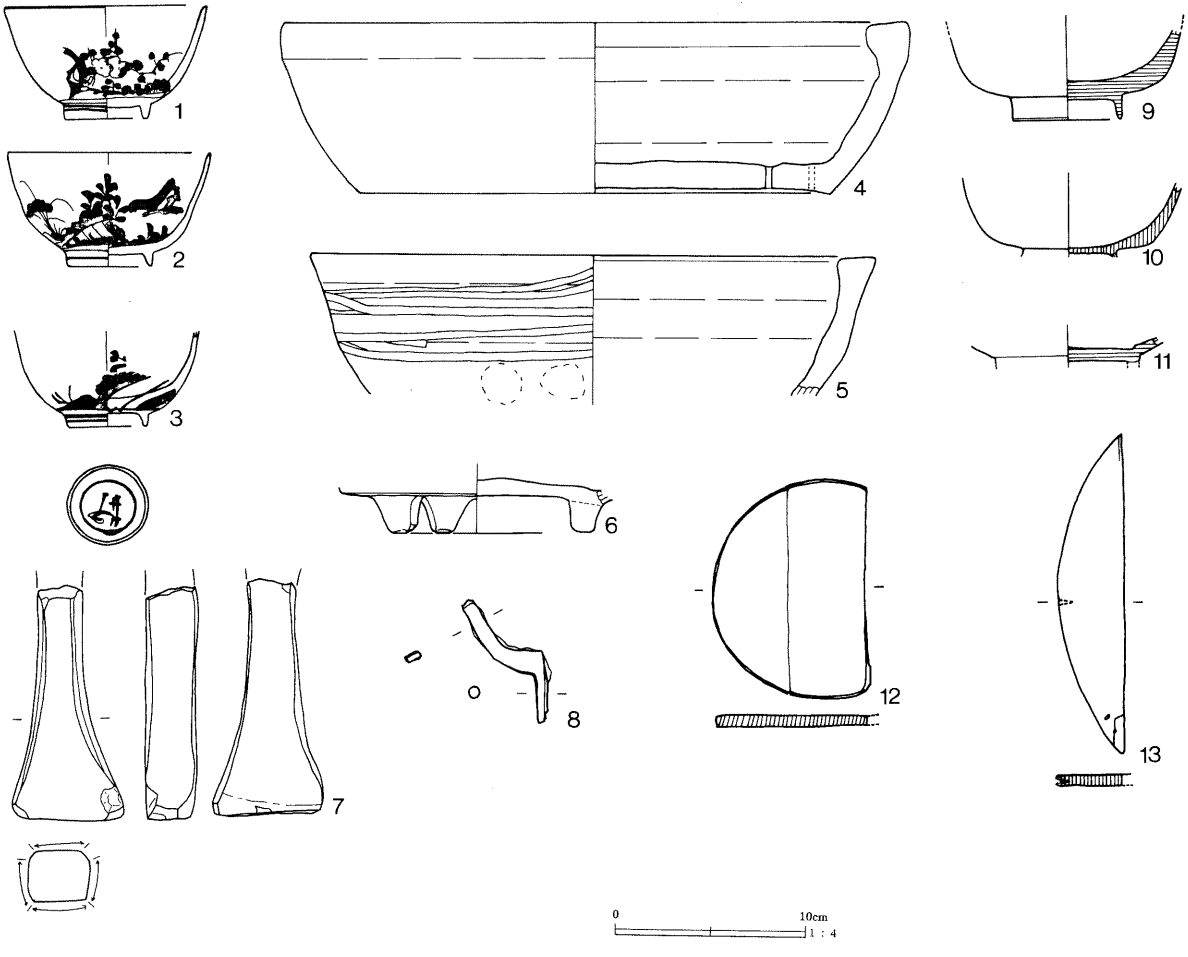
金属製品については、銅製の指輪と考えられるもの（第203図８）が出土した。

木製品については、おおまかに分類すると、工具・農具・紡織具・馬具・漁労具・食膳具・容器・祭祀具・雑具・建材・用途不明品・杭が出土した。工具では、曲柄の一部と考えられるもの。農具では、掘り棒・竪杵・田下駄の一部。紡織具は、組合せ式糸巻きの枠木。馬具については、壺鐙。漁労具は、浮子。容器については、横杓子・槽・曲物が出土し、横杓子に関しては身の部分があまりにも厚く未製品の可能性も考えられる。祭祀具については、平たい棒の先端を切り込んで頭部をつくった人形状の製品が出土した。雑具は、発火具の火鑽杵などが出土した。

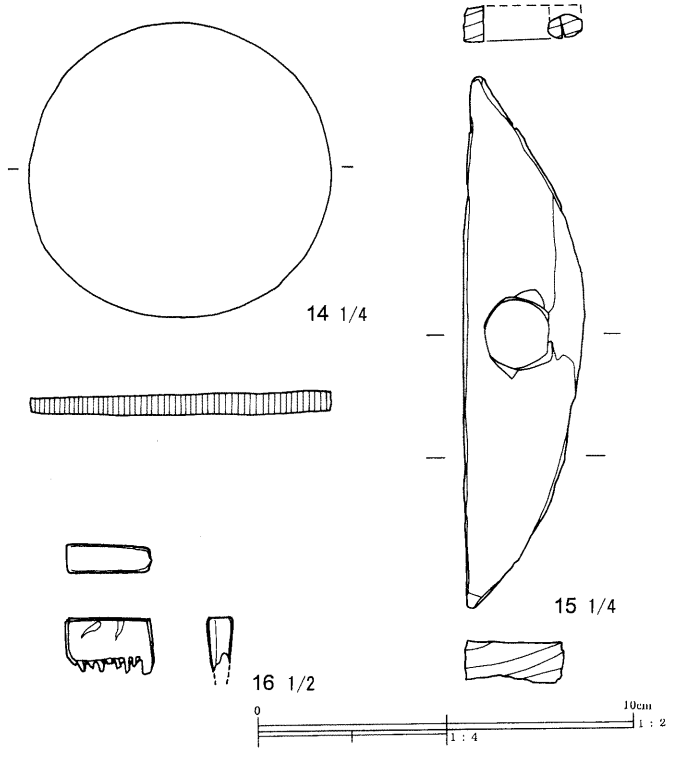




(A－A')
1 明灰色粘質土（マンガン粒子含む）
2 明灰色粘質土（全面に酸化鉄含む）
3 明灰色粘質土（酸化鉄わずかに含む）
4 灰色粘質土（全面に酸化鉄、マンガン粒子わずかに含む）
5 灰色砂質土（全面に酸化鉄、マンガン粒子わずかに含む）
6 灰色粘質土（酸化鉄まばらに含む）
7 灰色砂質土（酸化鉄わずかに含む）
8 灰色砂
9 灰色粘土
10 暗灰色砂（粒子が粗い）
11 暗灰色粘土（木片、葉等含む）



第190図　河川跡Ａ地点、出土遺物(1)

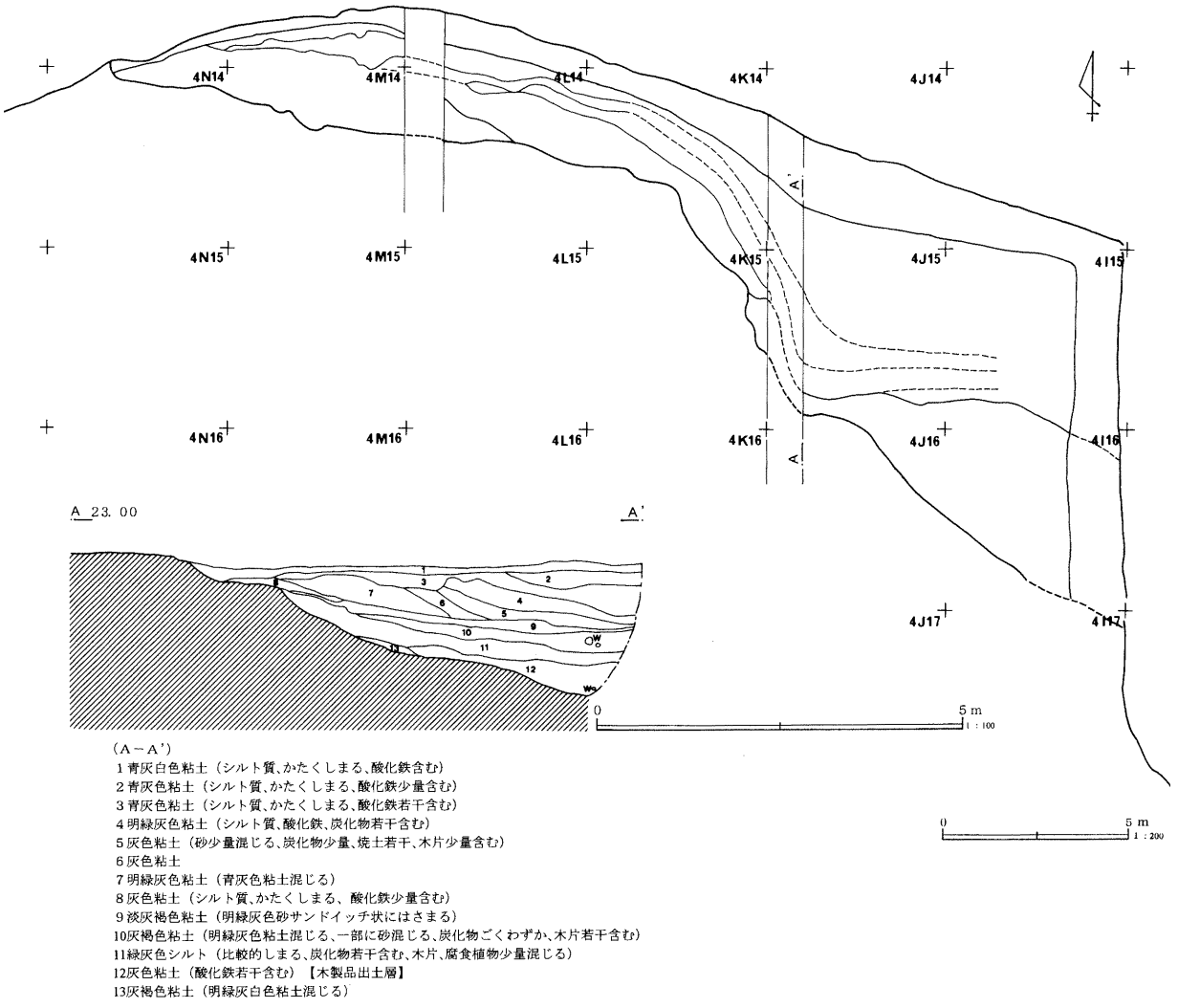


第191図　河川跡Ａ地点出土遺物(2)

第38表　河川跡Ａ地点出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	磁器染付碗	(10.5)	6.0	4.3	—	—	—	50%	肥前系。
2	磁器染付碗	(10.8)	6.0	4.5	—	—	—	50%	肥前系。
3	磁器染付碗	—	—	4.0	—	—	—	底部100%	肥前系。
4	陶器火鉢	33.0	9.0	25.0	ABE	褐色、褐灰色	A	90%	
5	陶器火鉢	(30.0)	—	—	ABD	灰色	D	口縁部50%	
6	陶器火鉢	—	—	—	AB	灰色	B	底部100%	煤吸着。
7	砥石	長さ12.5	幅5.9	厚さ2.9	—	—	—	一方端欠損。	重さ245ｇ
8	鉄製品	長さ8.5	幅1.3	径0.6	—	—	—	欠損	鏃か。

番号	器種	高さ	幅	厚さ(底径)	手法の特徴等	残存率	備考
9	挽物椀	4.5	—	5.8	高台付の椀。口縁部はやや開き気味に直立する。高台はやや高い。内外とも下地塗りの後、赤漆を塗る。厚手のもの。		横木取り、柾目
10	挽物椀	—	—	11.4	高台付の椀。口縁部やや開き気味に立ち上がり、高台は残存程度が悪い。内外とも下地塗りを施し、赤漆を塗る。歪みがある。		横木取り、柾目
11	挽物皿	—	—	17.5	高台付の皿?体部は広く開いて立ち上がる。高台は摩滅激しい。内面は見込みの部分と体部との間に段差がある形態。内外とも下地塗りの後、赤漆を塗ったようだが、遺存率が悪い。		横木取り、柾目
12	曲物	11.4	11.4	0.6	端部若干斜めに切り落とした円板。曲物の底板もしくは、蓋の可能性がある。	2/3残存	柾目
13	曲物	—	—	0.55	釘結合曲物の底板である。木釘の直径は、(残存部) 孔で0.2cm、長さ0.7cm (推定) である。木釘箇所は１箇所のみとどめる。	一部残存	柾目
14	曲物	15.7	15.7	0.7～1.5	円板を呈する。木釘の痕跡などは見られない。		柾目
15	曲物	28.2	6.3	2.1	半月状の製品。中央に直径3.4cmの穴があいている。		板目
16	横櫛	2.4	1.5	0.8	長方形のもので肩部が角張るタイプ。歯は粗いつくりである。		

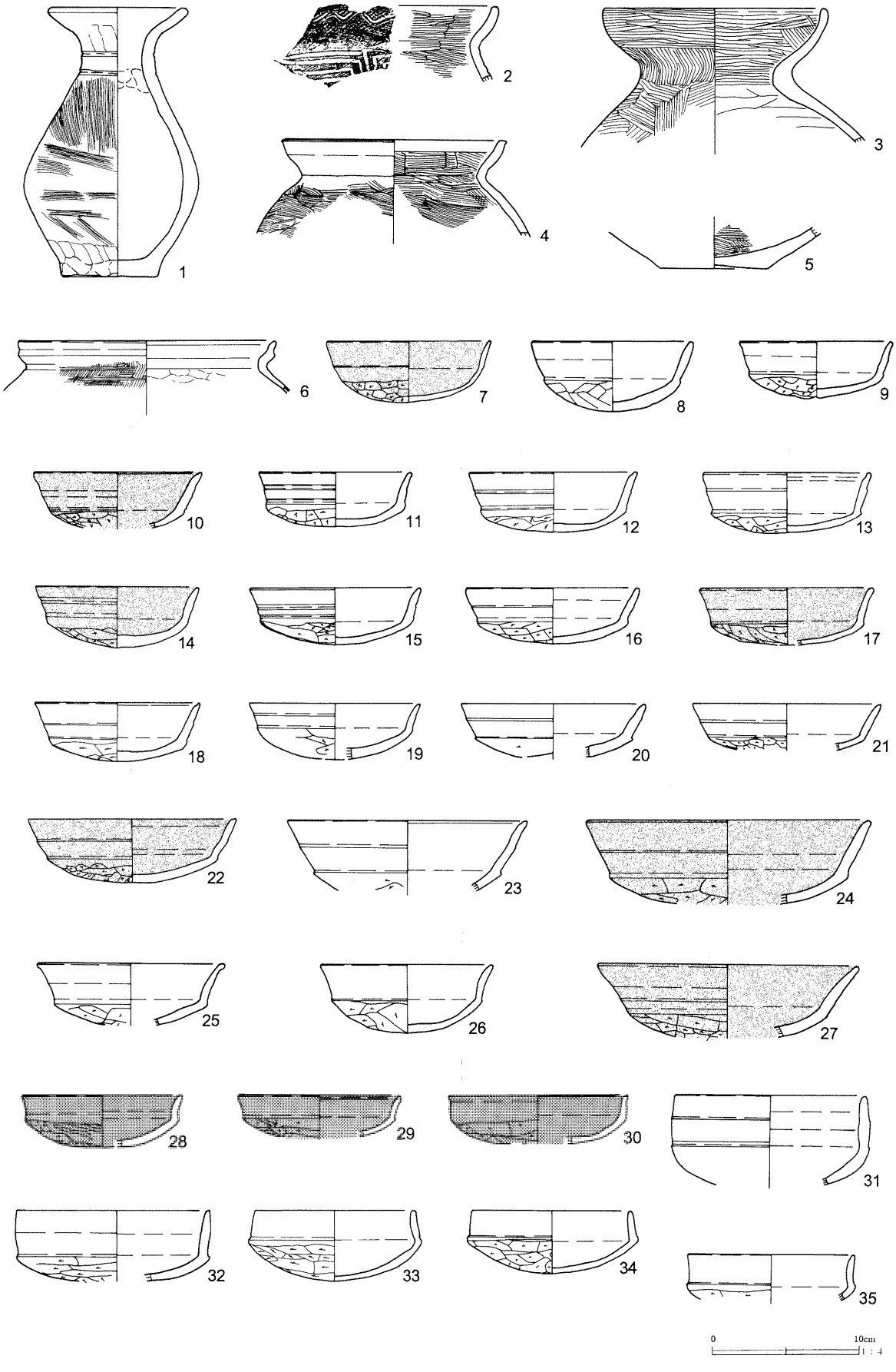


（A－A'）
1 青灰白色粘土（シルト質、かたくしまる、酸化鉄含む）
2 青灰色粘土（シルト質、かたくしまる、酸化鉄少量含む）
3 青灰色粘土（シルト質、かたくしまる、酸化鉄若干含む）
4 明緑灰色粘土（シルト質、酸化鉄、炭化物若干含む）
5 灰色粘土（砂少量混じる、炭化物少量、焼土若干、木片少量含む）
6 灰色粘土
7 明緑灰色粘土（青灰色粘土混じる）
8 灰色粘土（シルト質、かたくしまる、酸化鉄少量含む）
9 淡灰褐色粘土（明緑灰色砂サンドイッチ状にはさまる）
10 灰褐色粘土（明緑灰色粘土混じる、一部に砂混じる、炭化物ごくわずか、木片若干含む）
11 緑灰色シルト（比較的しまる、炭化物若干含む、木片、腐食植物少量混じる）
12 灰色粘土（酸化鉄若干含む）【木製品出土層】
13 灰褐色粘土（明緑灰白色粘土混じる）

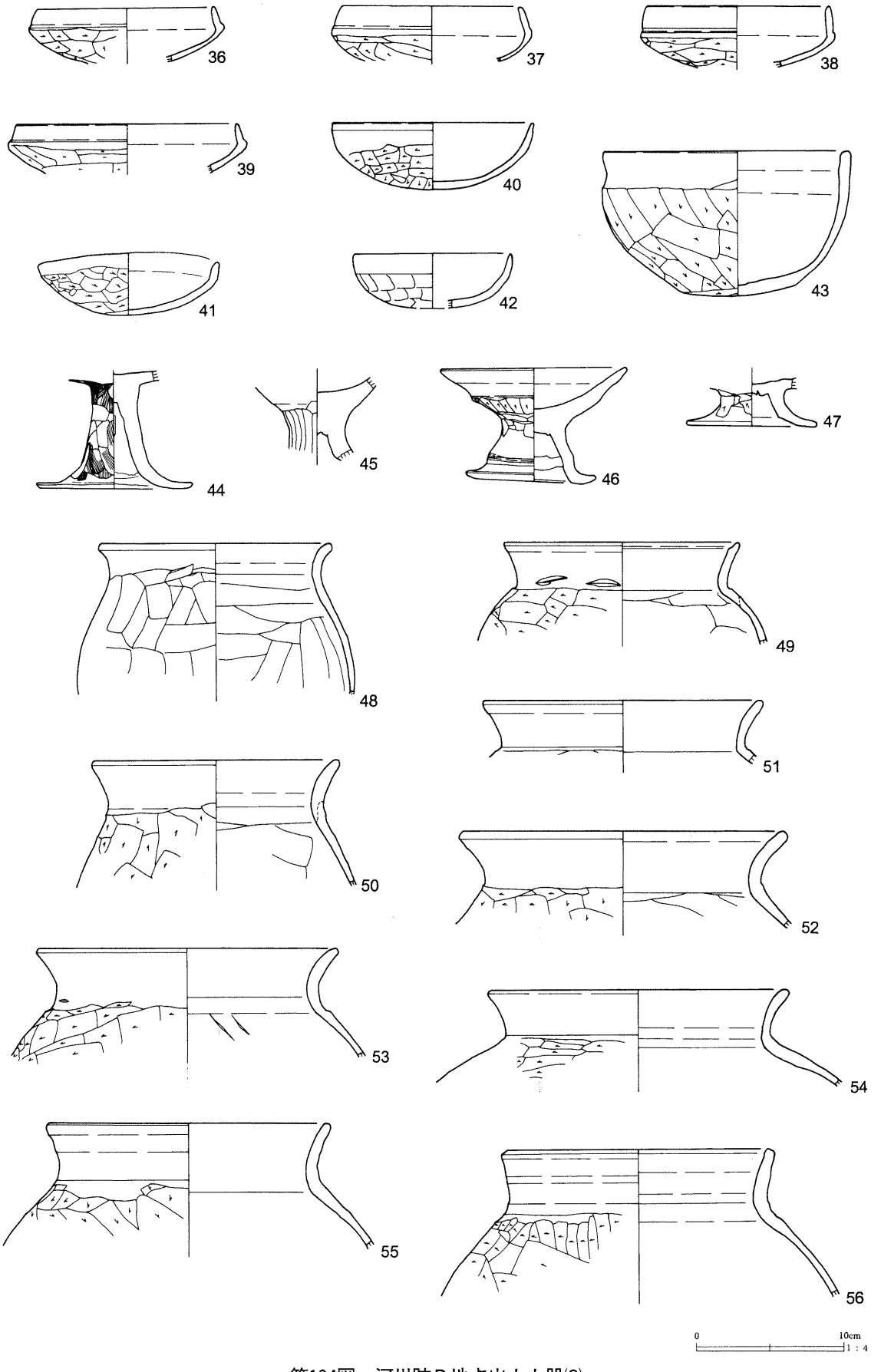
第192図　河川跡Ｂ地点

また、獣骨については、雌馬の頭蓋が下顎は失っているがほぼ完全な形で後頭部を上にして出土した（第202図１）。この馬頭骨は、木製壺鐙と同一の土層から他の木製品とともに出土したものである。さらに馬に関しては、前足の中手骨（第202図２）、後足の左脛骨（第202図３）・中足骨（第202図４）などが出土した。その他の動物としては、鹿（第202図５～８）、猪（第202図９・10）、イタチ（第202図11）、犬（第202図12）、魚（第202図13～15）などの骨及び角が出土した。

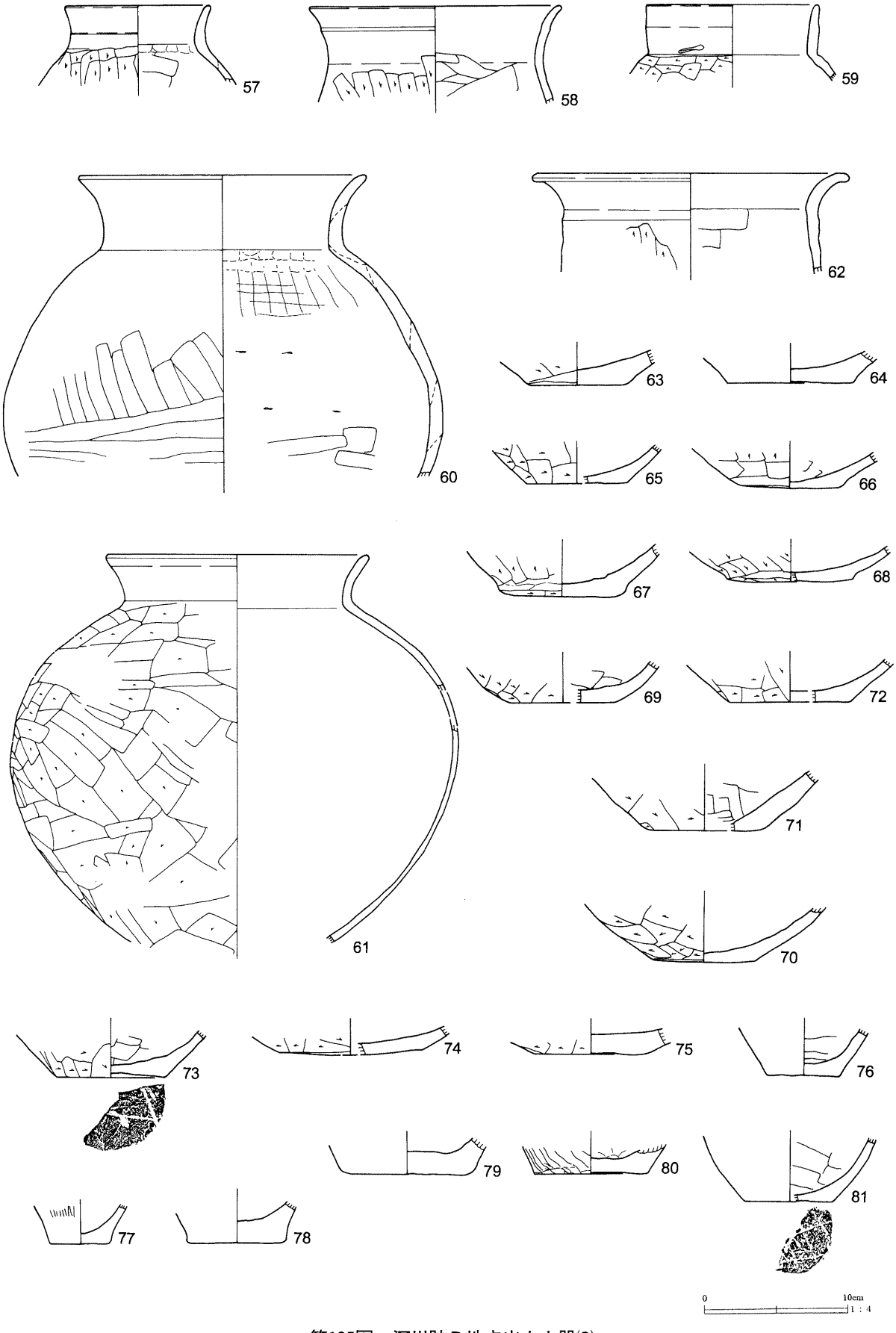
遺物出土状況は、平面的に見ると、検出された河川跡の東、４区Ｉ・Ｊ―15グリッド付近に集中して検出された。



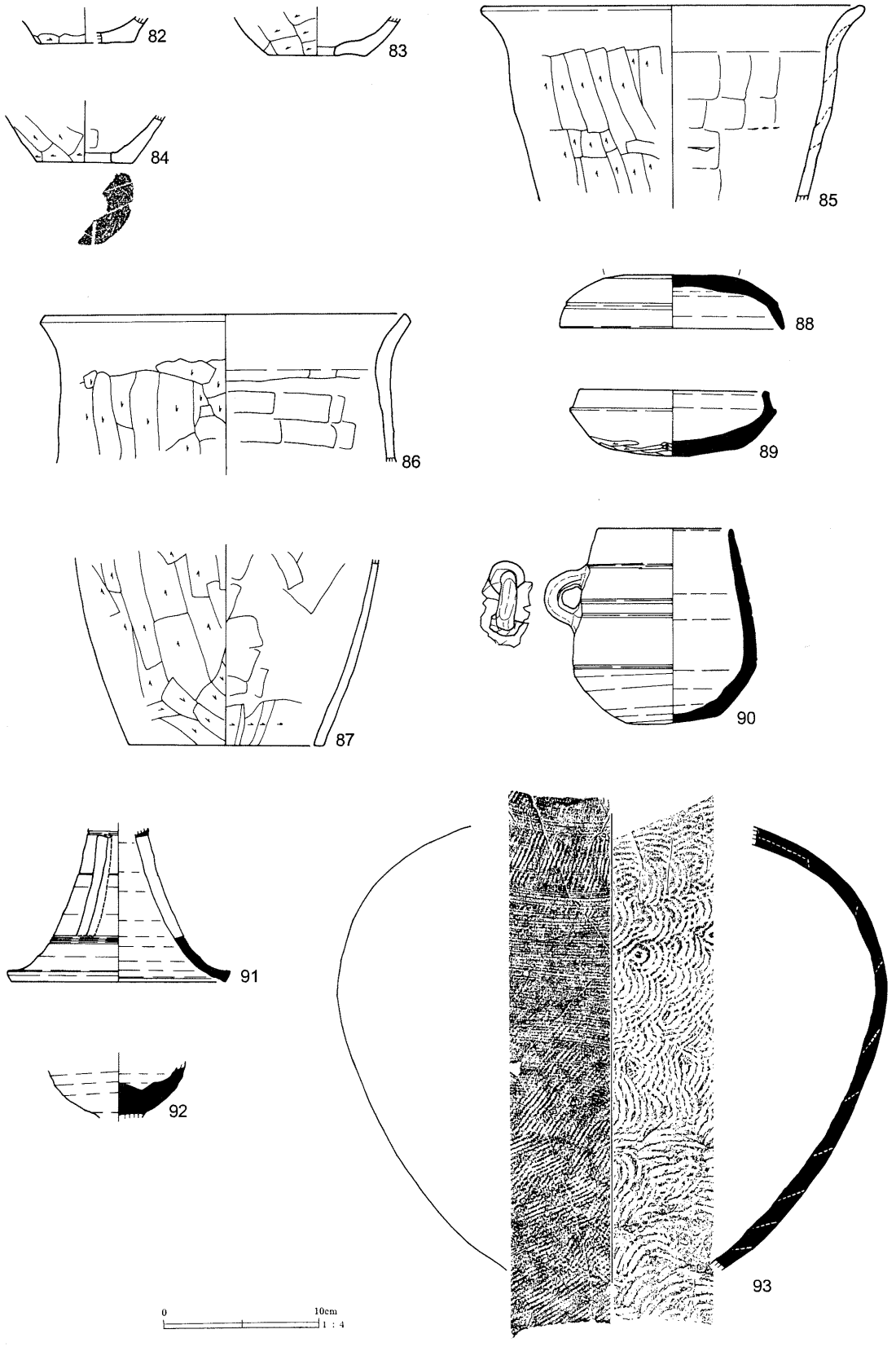
第193図　河川跡Ｂ地点出土土器(1)



第194図　河川跡Ｂ地点出土土器(2)



第195図　河川跡Ｂ地点出土土器(3)

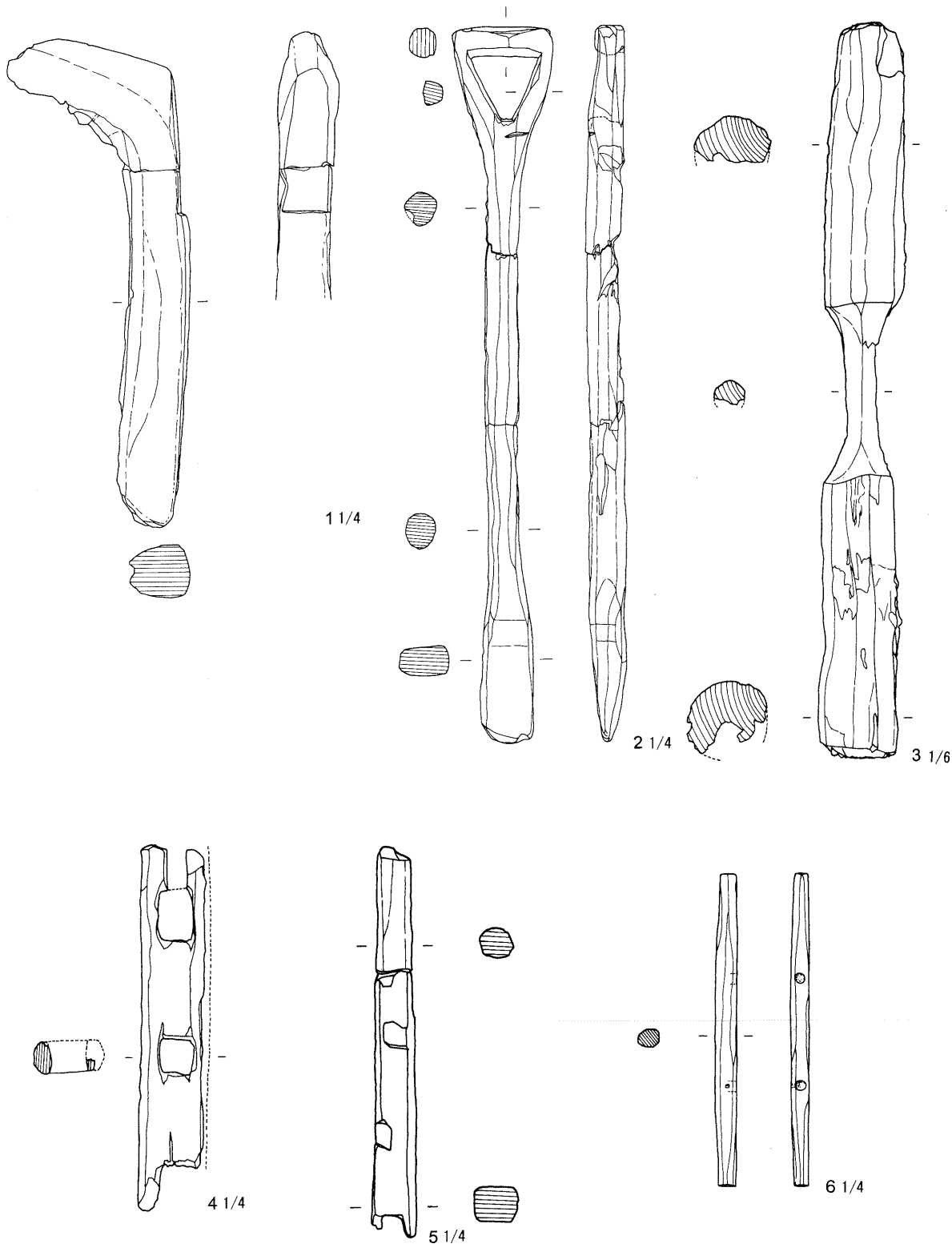


第196図　河川跡Ｂ地点出土土器(4)

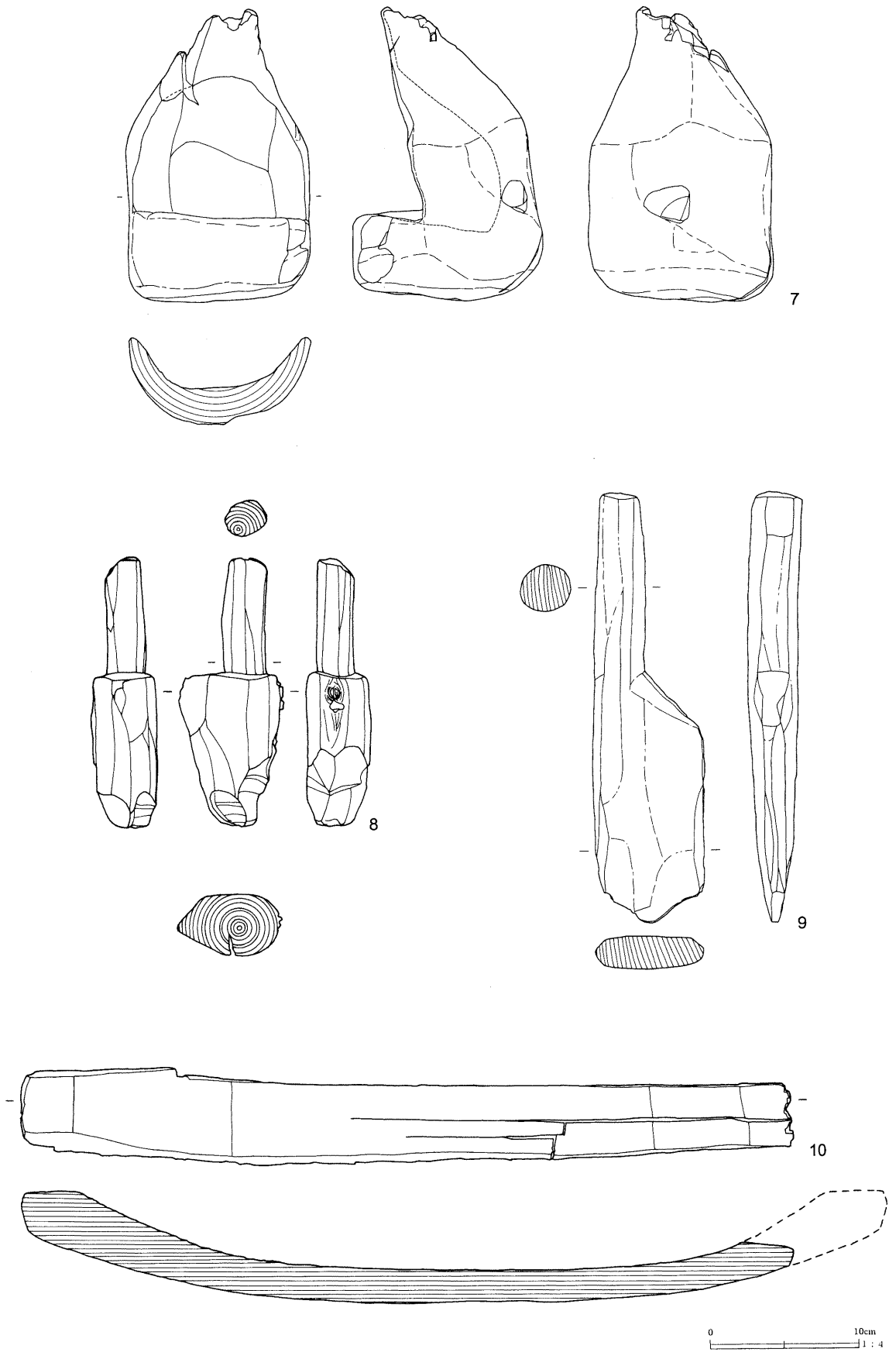
第39表　河川跡Ｂ地点出土土器観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	弥生土器壺	(9.0)	18.6	6.5	ABJM	灰黄色	B	95%	外面に黒斑。
2	弥生土器壺	(19.6)	—	—	ABEM	外面：褐灰色　内面：灰黄褐色	A	口縁部10%	
3	土師器壺	15.0	—	—	ABEGJMN	橙色	A	口縁部～胴上半部	
4	土師器甕	(15.0)	—	—	ABEGMN	にぶい橙色	B	口縁部45%	
5	土師器甕	—	—	(7.5)	ABEGJN	外面：黒色　内面：にぶい褐色	D	底部40%	
6	土師器台付甕	(17.5)	—	—	ABGM	にぶい黄褐色	A	口縁部15%	
7	土師器坏	11.2	4.2	—	ABEGHL	外面：橙色　内面：にぶい黄橙色	A	70%	
8	土師器坏	11.0	4.8	—	ABEI	外面：にぶい褐色　内面：にぶい橙色	A	100%	内外面黒色処理。
9	土師器坏	(10.5)	3.8	—	ABEJ	明赤褐色	D	30%	
10	土師器坏	(11.5)	—	—	ABDJ	外面：にぶい橙色　内面：灰黄色	B	口縁部30%	内外面黒色処理。
11	土師器坏	(10.5)	3.8	—	ABEHJ	明赤褐色	B	30%	
12	土師器坏	11.5	4.1	—	ABEJ	赤橙色	A	90%	黒斑。
13	土師器坏	11.5	4.1	—	ABEJ	外面：にぶい黄橙色　内面：にぶい黄褐色	A	100%	
14	土師器坏	11.2	4.2	—	ABDHJ	にぶい黄橙色	D	70%	内外面黒色処理。
15	土師器坏	11.6	3.9	10.4	ABH	明赤褐色	A	100%	
16	土師器坏	11.8	3.8	—	ABJN	外面：黒色　内面：黒褐色	B	40%	
17	土師器坏	(11.8)	—	—	ADEH	橙色	A	40%	内外面黒色処理。
18	土師器坏	11.4	4.1	—	ABJ	外面：橙色　内面：明褐灰色	D	97%	
19	土師器坏	11.8	3.8	—	ABHJ	にぶい橙色	B	30%	
20	土師器坏	(12.5)	—	—	ABJ	橙色	A	30%	
21	土師器坏	(13.0)	—	—	ABH	にぶい橙色	B	口縁部25%	
22	土師器坏	14.5	—	—	ABEGJN	橙色	A	60%	内外面黒色処理。
23	土師器坏	(16.5)	—	—	ABEI	外面：にぶい褐色　内面：橙色	A	口縁部15%	
24	土師器坏	(19.5)	—	—	ABEIN	外面：灰黄褐色　内面：黒褐色	B	20%	内外面黒色処理。
25	土師器坏	(13.0)	—	—	ABEHJ	外面：にぶい橙色　内面：橙色	B	30%	
26	土師器坏	(12.0)	4.7	—	ABEJ	外面：橙色　内面：にぶい橙色	D	40%	
27	土師器坏	(18.0)	—	—	ABEJ	明赤褐色	B	30%	内外面黒色処理。
28	土師器坏	(11.0)	—	—	ABN	外面：褐灰色　内面：にぶい褐色	A	40%	内外面に赤彩。
29	土師器坏	(11.0)	—	—	ABEJ	外面：にぶい橙色　内面：灰褐色	A	口縁部25%	内外面に赤彩。
30	土師器坏	(12.2)	3.4	—	ABEH	にぶい橙色	B	30%	内外面に赤彩。
31	土師器坏	(13.0)	—	—	ABEH	外面：浅黄色　内面：にぶい橙色	B	30%	
32	土師器坏	(13.3)	—	—	ABDH	赤褐色	B	30%	
33	土師器坏	11.0	4.9	—	ABEHJ	外面：橙色　内面：にぶい橙色	B	70%	
34	土師器坏	10.8	4.3	—	ABEI	明赤褐色	A	98%	
35	土師器坏	(11.5)	—	—	ABDE	にぶい橙色	B	口縁部35%	内外面に煤付着。
36	土師器坏	(12.0)	—	—	ABEI	外面：灰黄色　内面：にぶい黄橙色	B	口縁部25%	
37	土師器坏	(12.2)	—	—	ABE	にぶい橙色	B	口縁部30%	
38	土師器坏	(12.5)	—	—	ABEH	明褐色、灰黄色	B	40%	
39	土師器坏	(15.5)	—	—	AEJ	にぶい橙色	A	口縁部20%	
40	土師器坏	(14.0)	4.5	—	ABEJN	外面：浅黄色　内面：明赤褐色	B	30%	
41	土師器坏	12.5	4.3	—	ABJ	外面：赤褐色　内面：明赤褐色	B	100%	
42	土師器坏	(10.8)	3.7	—	ABJ	にぶい橙色	D	40%	
43	土師器鉢	17.0	10.0	8.0	ABE	外面：にぶい橙色　内面：灰黄褐色	D	90%	
44	土師器高坏	—	—	(10.5)	ABEI	外面：赤褐色　内面：明赤褐色	A	脚部90%	
45	土師器高坏	—	—	—	AEHM	外面：橙色　内面：にぶい黄褐色	B	底部～脚部破片	
46	土師器高坏	13.0	7.8	9.0	ABEI	外面：橙色　内面：にぶい橙色	A	80%	
47	土師器高坏	—	—	(9.0)	ABEJ	橙色	A	底部70%	
48	土師器甕	(16.0)	—	—	ABDEJN	橙色	D	口縁部25%	
49	土師器甕	(16.0)	—	—	ABEJN	にぶい橙色	A	口縁部25%	
50	土師器甕	(17.0)	—	—	ABEJN	外面：にぶい橙色　内面：灰黄色	B	口縁部25%	
51	土師器甕	(19.0)	—	—	ABDN	外面：にぶい橙色　内面：黄褐色	A	口縁部25%	
52	土師器甕	(22.5)	—	—	ABEHJ	にぶい黄橙色	A	口縁部25%	
53	土師器甕	(20.5)	—	—	ABEJN	にぶい黄橙色	B	口縁部40%	
54	土師器甕	(20.5)	—	—	ABDG	外面：にぶい黄褐色　内面：にぶい橙色	A	口縁部25%	
55	土師器甕	(19.5)	—	—	ABDGIM	灰白色、灰黄色	B	口縁部25%	
56	土師器甕	(18.5)	—	—	ABE	外面：灰黄色　内面：にぶい橙色	A	口縁部30%	
57	土師器甕	(10.0)	—	—	ABDJM	外面：橙色　内面：浅黄色	A	口縁部25%	
58	土師器甕	(18.0)	—	—	ABEHJMN	橙色	B	口縁部30%	
59	土師器壺	(12.2)	—	—	AEGJ	外面：にぶい黄橙色　内面：黒褐色	A	口縁部45%	
60	土師器壺	(20.0)	—	—	AEGN	橙色、にぶい橙色	A	口縁部30%	

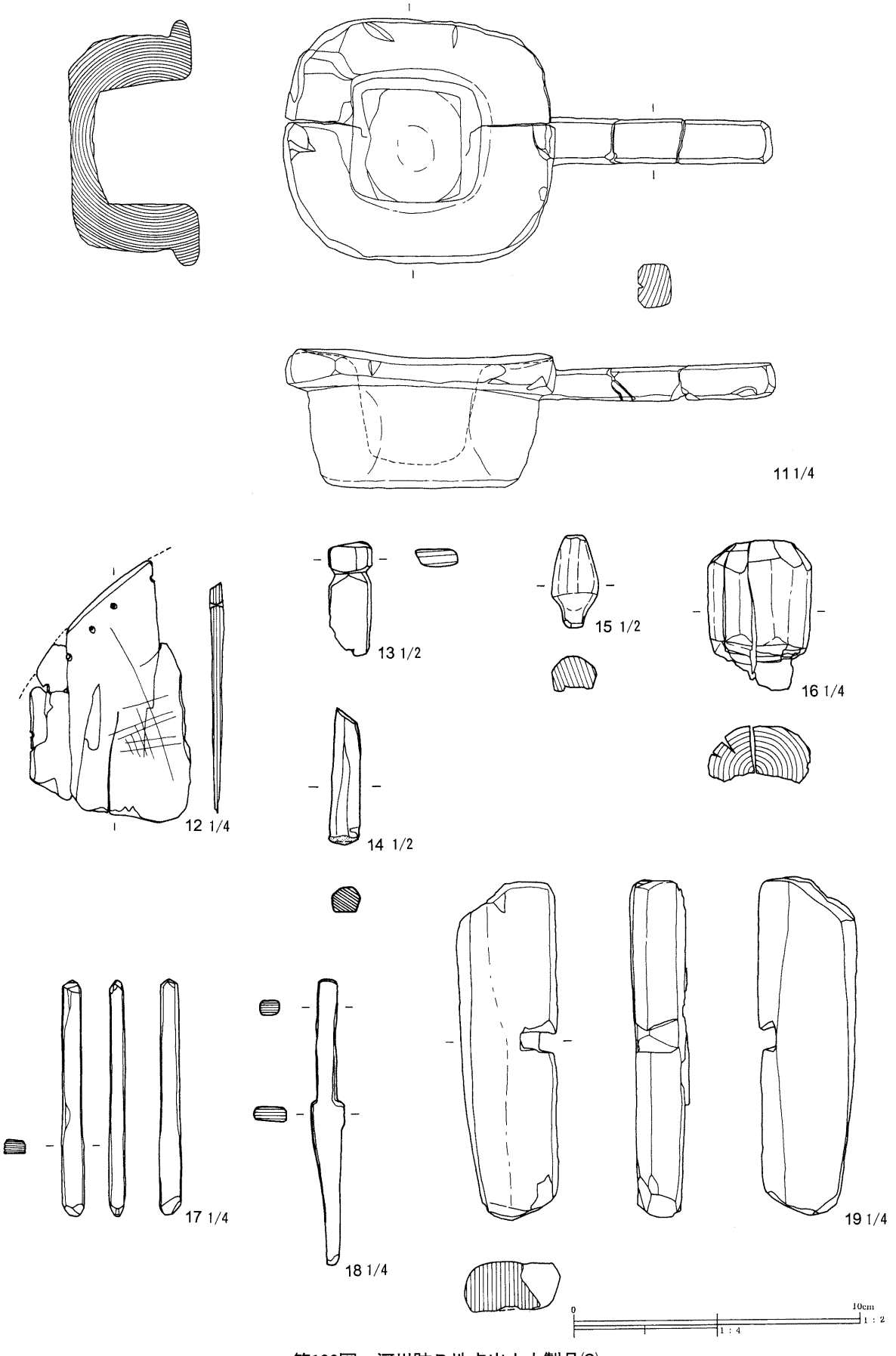
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
61	土師器壺	18.4	—	—	ABEJG	外面：灰色　内面：灰黄色	A	70%	
62	土師器甕	(22.0)	—	—	ABEJN	にぶい黄橙色	A	口縁部20%	
63	土師器甕	—	—	(6.7)	AEGIN	外面：橙色　内面：にぶい橙色	B	底部50%	
64	土師器甕	—	—	(8.8)	ABEMN	外面：橙色　内面：にぶい黄橙色	D	底部30%	
65	土師器甕	—	—	(7.0)	ABEJGM	外面：灰黄色　内面：にぶい黄橙色	B	底部20%	胴下半部外面に黒斑。
66	土師器甕	—	—	(7.0)	ABEHN	外面：にぶい黄橙色　内面：橙色	B	底部60%	
67	土師器甕	—	—	(7.5)	ABEGMN	にぶい橙色	B	底部30%	内外面の黒斑。
68	土師器甕	—	—	(9.0)	ABDIMGN	外面：灰黄色　内面：橙色	C	底部50%	底部外面全体に黒斑。
69	土師器甕	—	—	(7.5)	ABEGMN	橙色	B	底部30%	
70	土師器甕	—	—	(7.3)	AEGHJN	外面：にぶい黄橙色　内面：黒色	B	底部80%	底部外面に黒斑。
71	土師器甕	—	—	(8.0)	AHMN	外面：灰色　内面：黒色	B	底部30%	
72	土師器甕	—	—	(8.5)	ABEMN	外面：にぶい橙色　内面：灰黄色	B	底部20%	
73	土師器壺	—	—	(7.7)	ABEGIN	外面：黒色　内面：褐灰色	B	底部30%	底部外面木の葉文。
74	土師器甕	—	—	(10.0)	ABEGMN	外面：灰黄褐色　内面：にぶい黄褐色	B	底部40%	
75	土師器甕	—	—	(7.8)	ABEGMN	にぶい橙色	B	底部45%	外面に黒斑。
76	土師器甕	—	—	5.0	ABEHM	外面：明赤褐色　内面：にぶい橙色	B	底部100%	底部外面に黒斑。
77	土師器甕	—	—	4.2	ABEGJMN	外面：にぶい黄橙色　内面：浅黄色	B	底部100%	
78	土師器甕	—	—	7.0	ABEGHN	外面：にぶい黄橙色　内面：橙色	D	底部100%	底部外面に黒斑。
79	土師器甕	—	—	(8.0)	AMN	外面：にぶい黄橙色　内面：橙色	D	底部50%	
80	土師器甕	—	—	8.0	ABDHGMN	にぶい黄橙色	C	底部100%	外面に黒斑。
81	土師器甕	—	—	(6.0)	ADHJN	外面：橙色、灰黄色　内面：灰白色	D	底部50%	
82	土師器甕	—	—	(6.0)	AGJM	にぶい黄褐色	B	底部40%	
83	土師器甕	—	—	(6.0)	ABEGM	外面：にぶい橙色　内面：にぶい黄橙色	D	底部40%	底部に穿孔。
84	土師器壺	—	—	(6.2)	ABDHN	外面：橙色　内面：にぶい橙色	B	底部40%	底部に穿孔。
85	土師器甑	(24.5)	—	—	ABEGMN	外面：にぶい黄橙色　内面：灰黄褐色	B	口縁部15%	胴部外面に黒斑。
86	土師器甑	(23.5)	—	—	ABIMN	外面：にぶい黄橙色　内面：黒色	B	口縁部25%	内部に煤付着。
87	土師器甑	—	—	(12.5)	ABEHJN	外面：褐灰色　内面：灰黄色	A	25%	
88	須恵器坏	12.2	4.2	—	ABEN	灰色	A	90%	
89	須恵器蓋	14.5	3.5	—	ABHL	灰色	A	50%	
90	須恵器把手付椀	(8.6)	12.6	(5.8)	AB	灰色	A	50%	
91	須恵器高坏	—	—	(14.0)	ABN	灰色	A	脚部25%	
92	須恵器瓶	—	—	—	ABN	灰色	A	胴部破片	外部に自然釉。
93	須恵器甕	—	—	—	ABGN	外面：灰白色　内面：灰色	A	脚部40%	粘土紐輪積み痕。



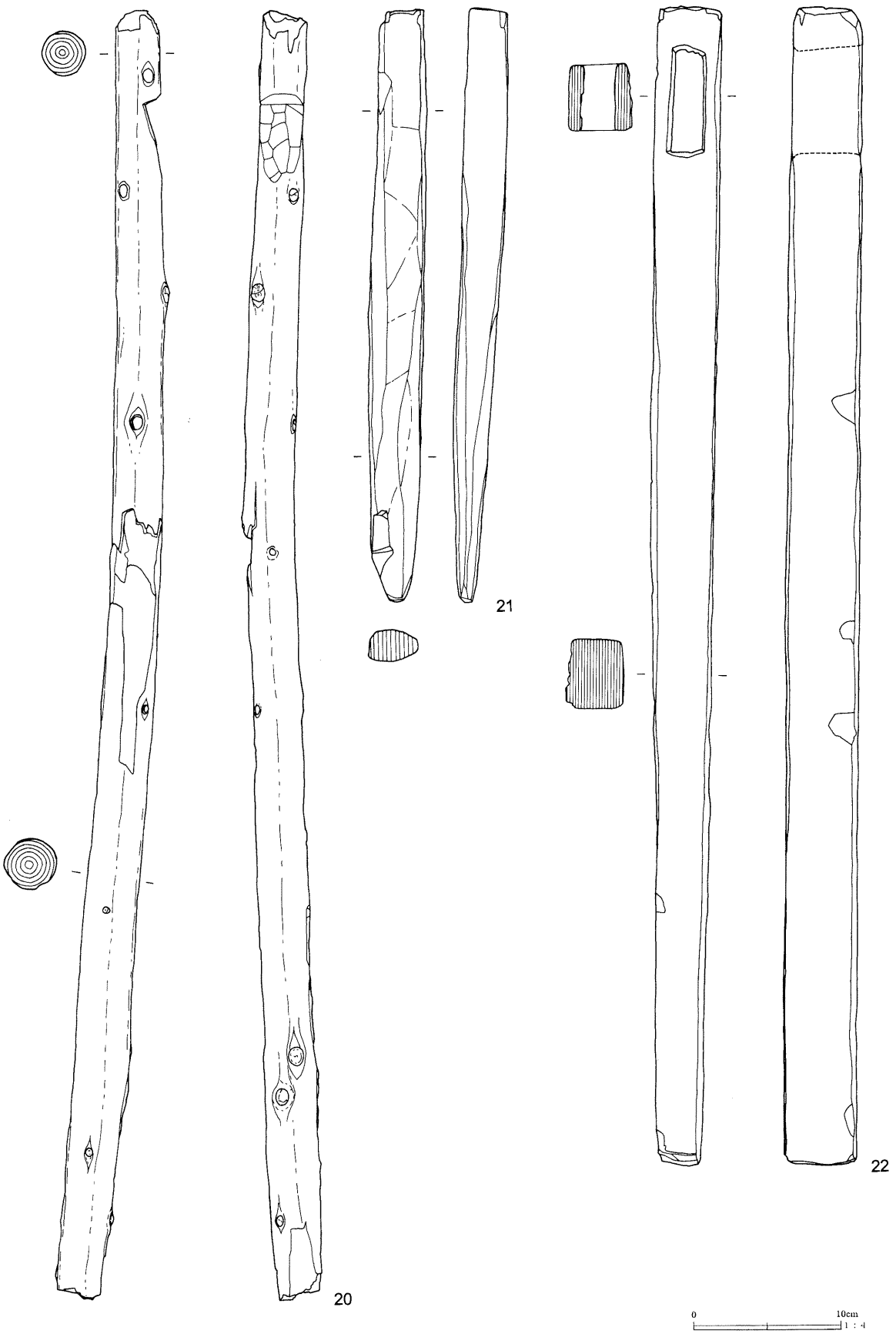
第197図　河川跡Ｂ地点出土木製品(1)



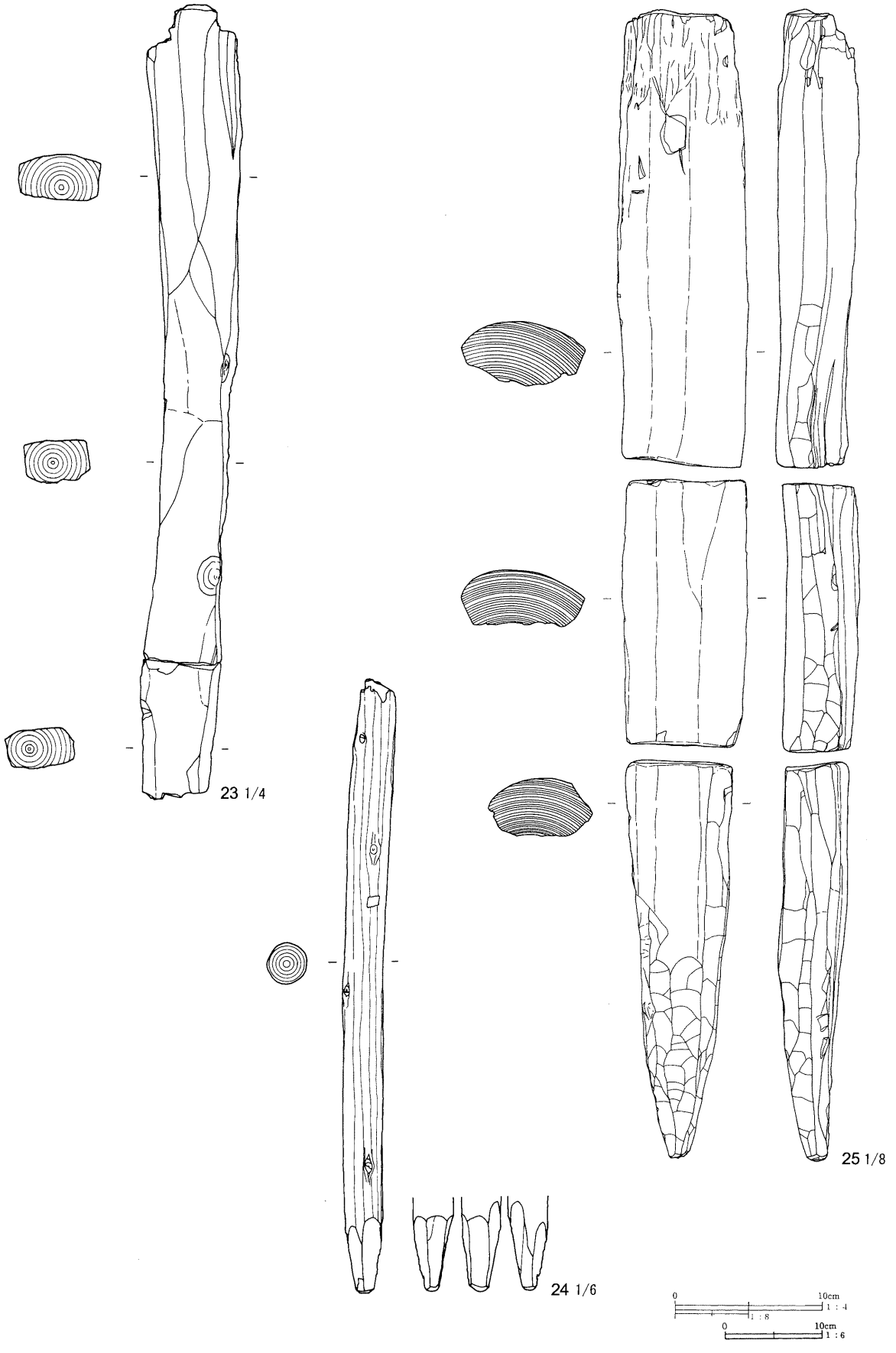
第198図　河川跡Ｂ地点出土木製品(2)



第199図　河川跡Ｂ地点出土木製品(3)



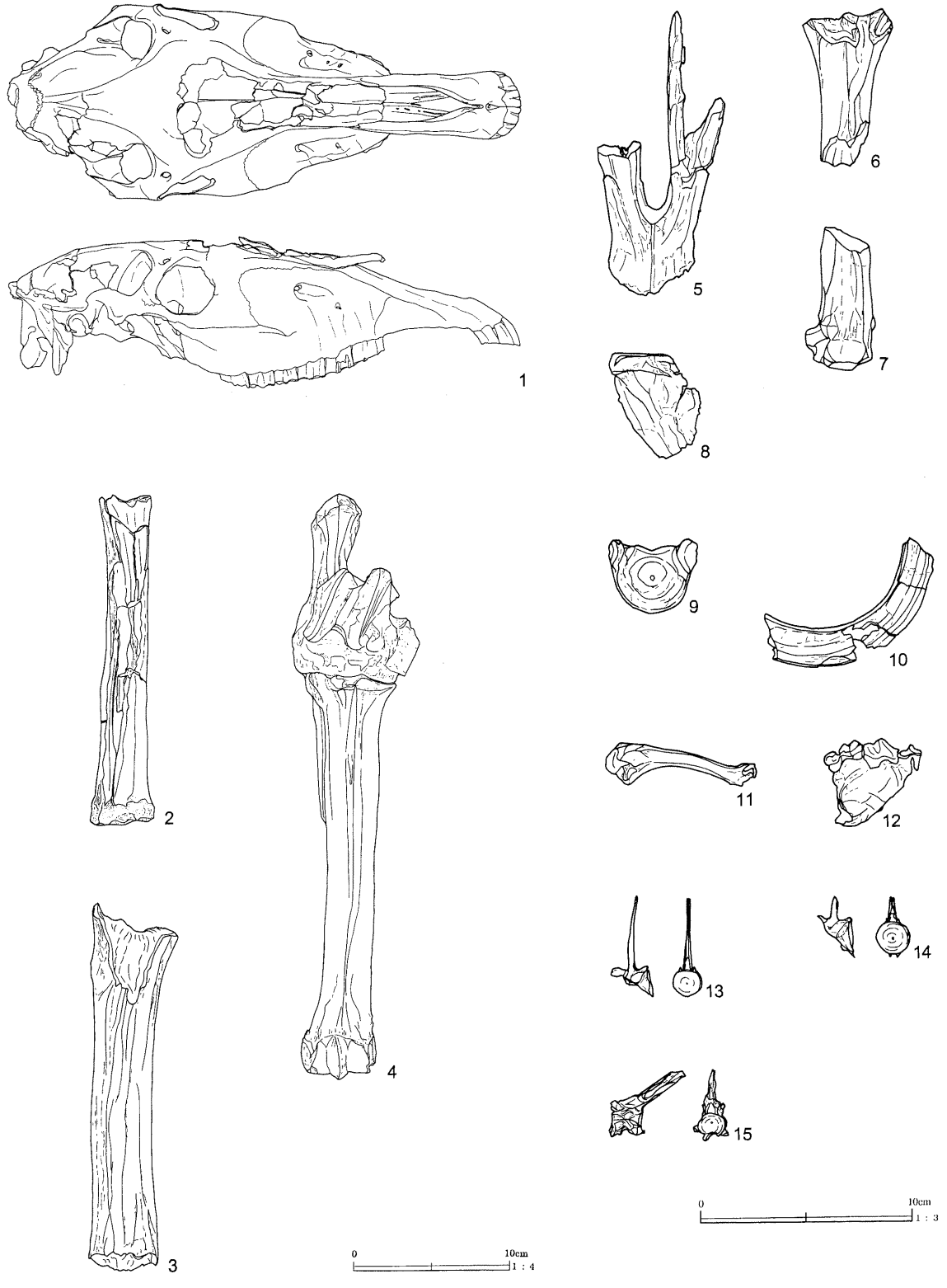
第200図　河川跡Ｂ地点出土木製品(4)



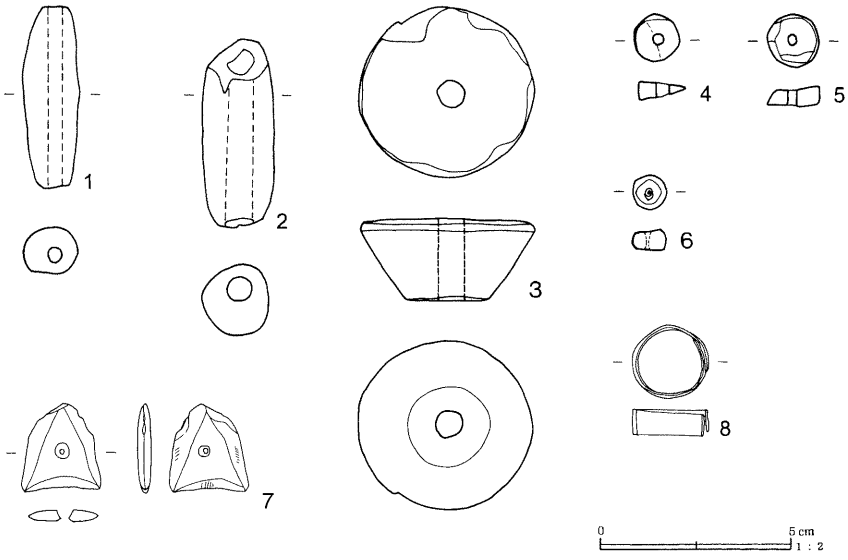
第201図　河川跡Ｂ地点出土木製品(5)

第40表　河川跡Ｂ地点出土木製品観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	木取	樹種	特徴	備考
1	斧膝柄	32.6	4.0	3.5	板目? 割材?	クリ	１面に長さ9.5cmの切り込みがある。表面は丁寧に仕上げられている。	
2	掘り棒	71.3	把手9.6 柄　3.2 身 5.05	把手2.6 柄　3.6 身　2.9	割材?	コナラ属 アカガシ亜属	棒の下端をヘラ状に仕上げたもの。柄から身にかけて緩やかに幅を増す形態。柄の把手は逆三角形。	
3	竪杵	搗き部　74.4 握　部　18.3	搗き部 平：7.7 丸：7.9 握部　3.0	搗き部 平：7.3(7.8) 丸：4.7 握部2.4(3.1)	割材	広葉樹	搗き部が円柱状をなし屈曲しくびれて握部に至るタイプ。搗き部端は、一方が平坦で、逆の方が若干丸形を呈しているようである。欠損が激しく下半（断面の半分）のみ残存。	無節式竪杵。 脆弱。
4	田下駄枠	24.3	4.2	2.1	柾目		両端、裏面とも欠損し、３ヶ所の穴の箇所のみ残存。	一部残存。
5	枠	19.6	2.1	1.7	柾目		枠の腕木か?中央の枘孔の部分が一部残存。中央から両端に向かって若干先細りぎみのもの。	「支え木さしこみ式」枠。
6	糸巻	20.85	1.4	1.2		針葉樹	組合せ式糸巻。枠木の部分。腹面に２ヶ所の枘孔をあけて横木を結合するタイプ。枠は断面が背面を丸く加工する形状で棒状。枘孔の一方は側面から木釘孔をあける。枘孔内に横木残存。	
7	壺鐙	20.2	12.5	13.0	割材		上端の吊紐孔部分は欠損する。踏込み部は、約９cmと比較的浅い。	
8	浮子	18.4	本体　7.0 柄部　2.9	本体　4.2 柄部　2.4	芯持材	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	横槌のように柄の部分があり、本体は円錐形を呈す。断面は、一方が三角にとがり、もう一方が丸くなる。	先端欠損。
9	杓子形木器	29.5	柄径3.2～3.3 身幅 7.3	2.6	割材 or 柾目	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	真っ直ぐな柄の先に片方に出張る先端がつく。断面二等辺三角形の身。攪拌の機能を持つ道具と推定される。	
10	槽	52.9 推定長(59.2)	6.0	7.5	板目	モミ属	やや丸みを帯びた平坦な底部から口縁部へ丸味を帯びて斜めに立ち上がる。口縁は上端が平坦で厚手に仕上げられている。比較的丁寧に作られている。	長方形槽の一部。長辺に対して全体の半分以上欠損。
11	横杓子	全長 34.2 柄部　5.4 杓部 18.8	柄部　3.0 杓部 16.8	柄部 2.3 杓部 9.0	割材	ケヤキ	身（杓部）の口縁を柄のつけねの上面より一段高くつくり、身と柄が水平の角度でつく。柄の断面は長方形を呈する。身は、平面形正方形を呈し、幅広く縁をとりほぼ正方形に抉って杓部をつくる。刳込部内側に若干ハツリ痕残すが丁寧なつくりである。縁が突出するつくりで、段差をもち、身の底部へとつながる。	未製品か。
12	曲物	18.3	11.3	0.8	板目		樹皮を円板に加工している。円の弧に平行して６ヶ所穿孔箇所残存。	容器の蓋か。
13	人形	4.0	1.5	0.6	板目	コナラ属 アカガシ亜属	棒の先端の側面にＵ字状に切り込みを入れ頭部を作り出す。	
14	火鑽杵	4.7	1.0	1.7	斜め		棒の先端が焦げており、火鑽臼と推定する。断面形は上半が丸く下半が平らである。	
15	用途不明木製品	3.3	1.6 茎部 0.7	1.2	斜め		独楽のような形状の製品。本体先端、茎部先端とも円錐形である。	
16	用途不明木製品	10.5	7.1	3.5	芯持材		竪杵の先端状木製品。但し先端から８cm程のところでくびれをもつ。くびれ部の断面は方形を呈す。	欠損部多い。
17	用途不明木製品	16.6	1.5	1.05	板目?		両端が削り落とされている一見ヘラのようなつくりである。	
18	用途不明木製品	21.0	2.3	1.0			剣状。	
19	用途不明木製品	23.5	8.0	3.3	柾目		やや紡錘形の板の中央部にきざみの入った製品。	
20	用途不明木製品	89.5	3.1	3.0	芯持材	カヤ	頭部は円柱形を呈す。杭状。一面を三角形に削り込み頭部のくびれをつくる。	下端欠損。 中間が欠ける。
21	用途不明木製品	41.0	3.4	2.8	割材? 柾目?		一方端がとがる太刀状の製品。先端が断面二等辺三角形（丸味を帯びる）を呈す角材。表面は丁寧に削り作られている。	
22	枘穴部材	80.3	3.9	4.75	柾目	モミ属	断面長方形の棒状の部材。一方端付近に長方形(2.5×7.7cm）の枘穴があけられている。枘穴のある端部から他方の端部にかけて若干細くなる。	
23	部材	55.6	3.9～6.9	2.3～3.0	芯持材		四面を丁寧に加工した角材。	
24	杭	64.9	4.3	4.4	芯持材		５面に削り落として杭先をつくり出す。	
25	杭	上端 65.0 中央 38.0 杭先 56.6	上端 17.5 中央 16.9 杭先 14.5	上端 9.1 中央 7.7 杭先 8.2	割材	エノキ属	断面が扇形の杭。３つに分割された状態。それぞれの切り口は平滑で丁寧である。上端部分は両側端が削られ平らになり、削り痕若干残る。中央部分も上端部と同様に両側端に削り痕が明瞭に残り平らに削られる。杭先部分は大きく６面に削り落として作られる。	



第202図　河川跡Ｂ地点出土獣骨



第203図　河川跡Ｂ地点出土遺物

第41表　河川跡Ｂ地点出土遺物観察表

番号	器種	出土位置	長さ	長径	短径	広面径	狭面径	幅	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	土　錘		4.8	—	—	—	—	1.4	—	9.8	—	完　形	
2	土　錘		4.9	—	—	—	—	1.0	—	18.0	—	先端欠損	
3	紡錘車		—	—	—	4.5	2.0	—	2.2	58.4	滑　石	完　形	
4	臼　玉		1.2	—	—	—	—	0.6	—	1.0	滑　石	一部欠損	
5	臼　玉	4区I16	1.4	—	—	—	—	0.5	—	1.0	滑　石	一部欠損	
6	丸　玉	4区I16	0.9	—	—	—	—	0.6	—	0.4	土	完　形	
7	磨製石鏃		2.3	—	—	—	—	2.1	0.4	1.8	頁　岩	切先欠損	
8	指　輪		—	2.0	1.9	—	—	0.6	—	2.6	銅	完　形	

河川跡Ｃ地点（第204～277図、第42～63表）

８区Ｌ～Ｔ・９区Ａ～Ｄ―21～30グリッドの範囲内に位置していた。調査区の中央やや東寄りを北から南東方向と、東方向に流れていた。北と南は調査区域外であった。また、河川跡Ｈ～Ｋ地点の対岸部分にあたる。

規模は、最大幅30.5m、東走の河川長62.0m、南下の河川長58.2m、深さは最深で1.2mであった。南下する流路（以下、流路１）は、ほぼ南に下り、調査区南端付近で大きく東へ向きを変えまたすぐ南へ向きを変えてＧ地点へと流れる。東流する流路(以下、流路２)はやや南へ傾いて東へ流れ、８区Ｑ―24グリッド付近で北へ向きを変えて流れる。この二つの流路に挟まれた箇所と、流路２の北側に平場が存在した。河川跡の中央部は淀みを形成している。流路２の覆土は、上層が青灰色及び灰色の粘質土が堆積し、中間層との間に灰黄色の火山灰層を挟む。中間層には泥炭化した腐食植物を含む灰色粘土が堆積し、下層が砂混じりの灰色・青灰色の粘土（第13～17・24・25・53層など）が堆積し、土器や木製品を含む木片を多量に含んでいた。一方、流路１の覆土は、上層から中間層までは砂混じりの灰色粘土で、腐食植物を含んでいた。最下層には第46層の明緑灰色粘土が堆積し、その直上の第45層とともに土器などの遺物を含んでいた。ポイントＢの土層を観察すると、流路１はある時期に瀬替えされていることが

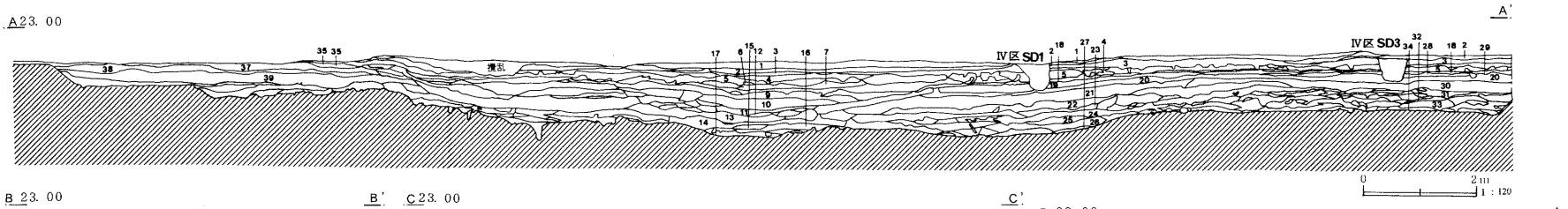
第204図　河川跡Ｃ地点

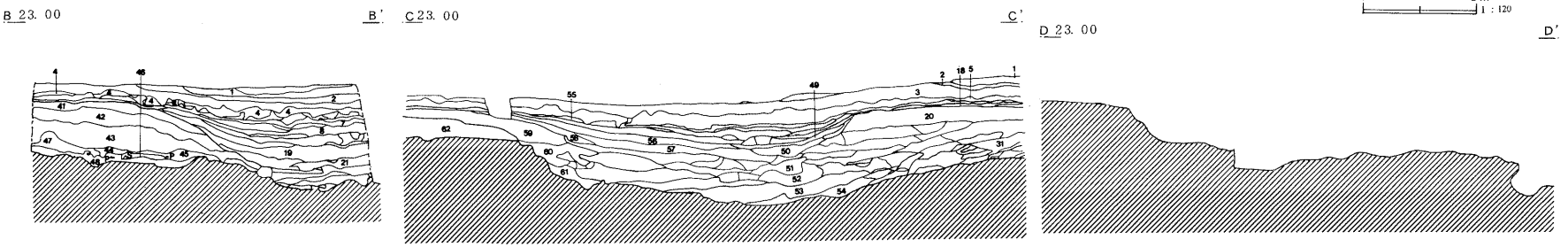
読みとれる。それは、流路１の第41～48層が堆積後のことである。これを遺物から見てみると、流路１は若干９世紀代の遺物が混入するもののおおよそ８世紀代までの遺物で収まる。これは、流路１は周辺部からの堆積及び河床面の乾燥化を繰り返し、８世紀代までに次第に湿地化して埋没していったものと考えられる。そして、その途中おおよそポイントＢ箇所で瀬替えされ流路２となり、現在まで多少流路の変化はあったものの衣川として残ったものと考えられる。

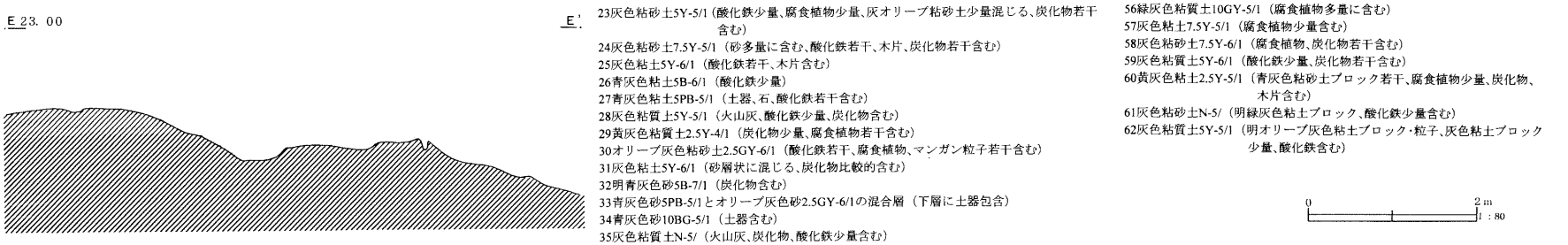
河川中には、杭列が３箇所、堰跡が２箇所、筵状の網代が２箇所確認された。杭列はいずれも流路２で検出された（拡大範囲Ａ・Ｃ・Ｄ）。一方、堰跡２箇所（拡大範囲Ｇ・Ｈ）及び網代２箇所（拡大範囲Ｅ・Ｆ）はいずれも流路１で検出された。

Ａの第１杭列は９区Ｂ―21・22グリッドで流路２を横切る形で、Ｃの杭列は８区Ｔ―24・９区Ａ―24グリッドで河川西の平坦部から河川中へおりるスロープ状に、Ｄの第２杭列は８区Ｑ―25・26グリッドで流路２のバイパス状の流路を横切る形で確認された。

Ｇの第１堰跡は、８区Ｒ・Ｓ―28グリッドで検出された。流れの底の長さ3.90m、幅2.28mの楕円形



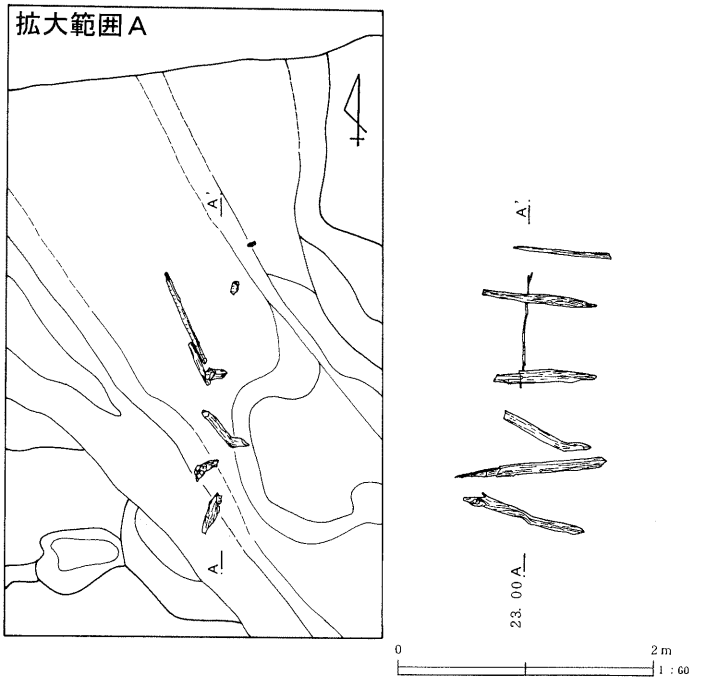




河川跡C地点

1 青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄多量、火山灰多量、マンガン粒子含む）
2 灰色粘質土N-6/（酸化鉄多量、火山灰含む）
3 灰色粘質土N-4/（火山灰少量、マンガン粒子含む、灰白色粒子含む）
4 オリーブ黒色粘質土5Y-3/1（火山灰少量、炭化物若干含む）
5 灰色粘質土5Y-4/1（火山灰＜灰黄色2.5Y-7/2＞多量、腐食植物、炭化物含む）
6 黒褐色粘質土7.5YR-3/1（腐食植物、炭化物若干含む）
7 灰色粘質土5Y-4/1（腐食植物帯状に多量、炭化物含む）
8 緑灰色粘質土10G-5/1（炭化物若干、腐食植物含む）
9 黒褐色粘質土2.5Y-3/1（緑灰色粘砂土ブロック、火山灰、腐食植物多量に含む）
10灰色粘土5Y-4/1（オリーブ灰色粘土ブロック多量、炭化物、腐食植物含む）
11灰色粘土7.5Y-4/1（砂混じる、炭化物、腐食植物含む）
12黄灰色粘砂土2.5Y-4/1（炭化物、腐食植物含む）
13黄灰色粘砂土2.5Y-4/1（比較的しまる、酸化鉄若干、木片、炭化物、腐食植物含む）
14灰白色砂7.5Y-7/2（灰色粘質土混入、木片多量、石含む）
15青灰色砂5PB-5/1（粘性若干ある、木片、小石、炭化物、土器含む）
16浅黄色砂7.5Y-7/3（青灰色砂混じる、土器、炭化物含む）
17青灰色粘土10BG-6/1（かたくしまる、灰色粘土混じる、土器含む）
18黒褐色粘質土2.5Y-3/1（腐食植物多量に含む）
19オリーブ灰色粘質土2.5GY-6/1（粘性非常に強い、炭化物、腐食植物含む）
20灰色粘砂土5Y-5/1（炭化物少量、腐食植物若干、酸化鉄若干含む）
21灰色粘砂土5Y-4/1（灰色粘土ブロック状に混じる、腐食植物含む）
22黒褐色粘砂質土2.5Y-3/1（炭化物、腐食植物、木片含む）
23灰色粘砂土5Y-5/1（酸化鉄少量、腐食植物少量、灰オリーブ粘砂土少量混じる、炭化物若干含む）
24灰色粘砂土7.5Y-5/1（砂多量に含む、酸化鉄若干、木片、炭化物若干含む）
25灰色粘土5Y-6/1（酸化鉄若干、木片含む）
26青灰色粘土5B-6/1（酸化鉄少量）
27青灰色粘土5PB-5/1（土器、石、酸化鉄若干含む）
28灰色粘質土5Y-5/1（火山灰、酸化鉄少量、炭化物含む）
29黄灰色粘質土2.5Y-4/1（炭化物少量、腐食植物若干含む）
30オリーブ灰色粘砂土2.5GY-6/1（酸化鉄若干、腐食植物、マンガン粒子若干含む）
31灰色粘土5Y-6/1（砂層状に混じる、炭化物比較的含む）
32明青灰色砂5B-7/1（炭化物含む）
33青灰色砂5PB-5/1とオリーブ灰色砂2.5GY-6/1の混合層（下層に土器包含）
34青灰色砂10BG-5/1（土器含む）
35灰色粘質土N-5/（火山灰、炭化物、酸化鉄少量含む）
36灰色粘質土N-5/（酸化鉄非常に多く、火山灰、炭化物若干含む）
37青灰色砂5PB-6/1（暗青灰色粘質土粒子、浅黄色粘質土粒子多量、酸化鉄多量、炭化物少量、に含む）
38灰色粘質土7.5YR-6/1（酸化鉄多量、火山灰若干含む）
39青灰色粘砂土5PB-6/1（青灰色粘質土混じる、炭化物若干、酸化鉄少量含む）
40灰色粘砂土N-5/（炭化物少量、酸化鉄若干、土器、木片含む）
41灰色粘砂土N-6/（灰白色粘質土粒子多量、酸化鉄少量、炭化物若干含む）
42灰色粘砂土7.5Y-6/1（灰色粘砂土粒子少量、酸化鉄少量含む）
43灰色砂質土7.5Y-5/1（砂質感強い、酸化鉄若干、腐食植物若干、炭化物若干含む）
44灰色粘砂土5Y-6/1（明緑灰色粘土ブロック多量に含む）
45灰色粘土5Y-4/1（明緑灰色粘土ブロック少量、腐食植物若干、土器含む）
46明緑灰色粘土7.5GY-7/1（酸化鉄若干、土器含む）
47灰色粘土5Y-4/1（土器含む）
48青灰色粘土5B-6/1（酸化鉄少量、遺物含む）
49青灰色粘質土10BG-5/1（腐食植物若干、炭化物少量含む）
50黄灰色粘土2.5Y-5/1（粘性つよい、オリーブ灰粘土ブロック多量、腐食植物少量混入、炭化物含む）
51青灰色粘砂土5B-6/1（酸化鉄若干含む）
52青灰色粘土5B-6/1（粘性つよい、酸化鉄少量、炭化物含む）
53灰色粘土5Y-4/1（粘性非常に強い、木片、遺物含む）
54青灰色砂5B-5/1（砂粒が粗い砂層、酸化鉄少量、遺物含む）
55オリーブ灰色粘土5GY-5/1（腐食植物、炭化植物繊維少量含む）
56緑灰色粘質土10GY-5/1（腐食植物多量に含む）
57灰色粘土7.5Y-5/1（腐食植物少量含む）
58灰色粘砂土7.5Y-6/1（腐食植物、炭化物若干含む）
59灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄少量、炭化物若干含む）
60黄灰色粘土2.5Y-5/1（青灰色粘砂土ブロック若干、腐食植物少量、炭化物、木片含む）
61灰色粘砂土N-5/（明緑灰色粘土ブロック、酸化鉄少量含む）
62灰色粘質土5Y-5/1（明オリーブ灰色粘土ブロック・粒子、灰色粘土ブロック少量、酸化鉄含む）

第205図　河川跡C地点土層断面図



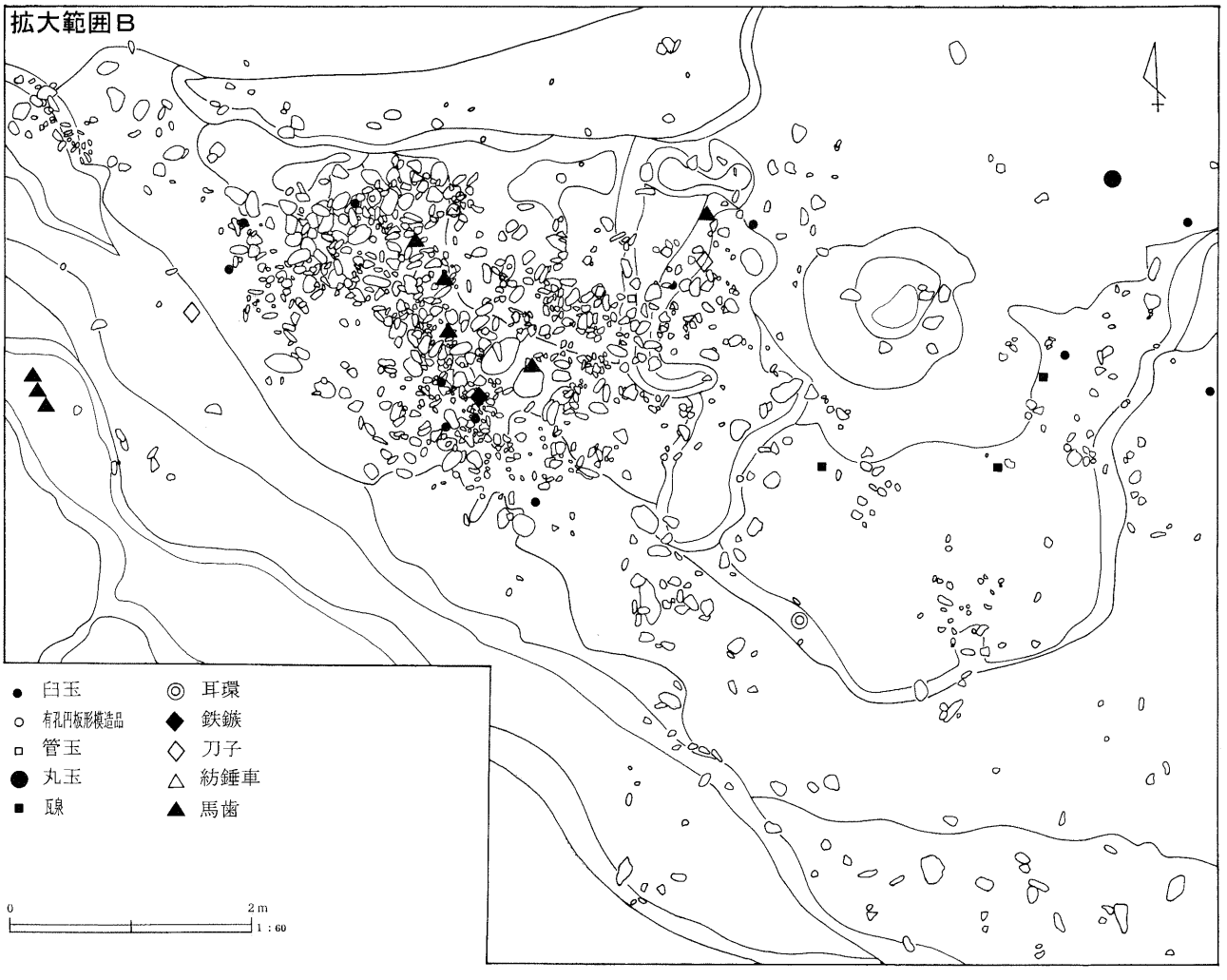
第206図　河川跡C地点第1杭列出土状況

の窪みに同等の規模で、おおよそ60cm間隔で縦杭を打ち、それに横木を4箇所組ませて骨組みを作り、その上に盛土を補強するための筵状の網代が敷かれていた。おそらく水圧や土圧で倒れてしまったのか骨組みとも斜めに寝た状態で検出された。堰の組み物中で扉部材と考えられる木製品、堰手前で竪杵が出土した。

Hの第2堰跡は、8区Q・R—29・30グリッドで検出された。やはり第1堰跡と同様に流れの底のくぼみにおおよそ30cmの間隔に縦杭を打ち、それに横木を3箇所組ませて骨組みを作っていた。その上に筵状のものと格子編み状の網代を幾重にも土と交互に重ねて敷き盛土の補強をしていたと考えられる。格子編みの単位は、7本×8本であった。堰は南北にややずれて東西に2列確認された。東の堰が縦杭列上で長さ4.4m、高さ0.75m、網代の敷かれた範囲で7.0m、幅2.4mであった。西の堰は縦杭上で2.3m、高さは斜面に作られているため最長で0.45m、網代範囲で長さ2.1m、幅1.7mであった。この2列のずれは、取水口の確保のために作られたのではないか。東の堰の縦杭の1本に鋤が転用されていた。

Eの第1網代は9区A—25グリッドに検出され、筵状の網代の下に縦杭が2本と横木が検出された。規模は、長さ1.46m、幅0.8mであった。Fのやはり筵状の第2網代は、9区A—26グリッドに検出され、窪地に二重に重なって検出された。

出土遺物は、縄文時代後・晩期、弥生時代中期、古墳時代前期から平安時代（11世紀代）の遺物が検出された。出土遺物のうち土器については、縄文土器深鉢、弥生土器壺・甕、土師器S字口縁台付甕・手焙形土器・器台・坩・壺・坏・鉢・高坏・甕・甑、須恵器蓋・坏・椀・皿・高坏・提瓶・横瓶・甕・瓶・徳利形平底壺・壺・甑・羽釜、灰釉陶器椀・皿、三彩陶器小壺、土師質土器坏などが出土した。時

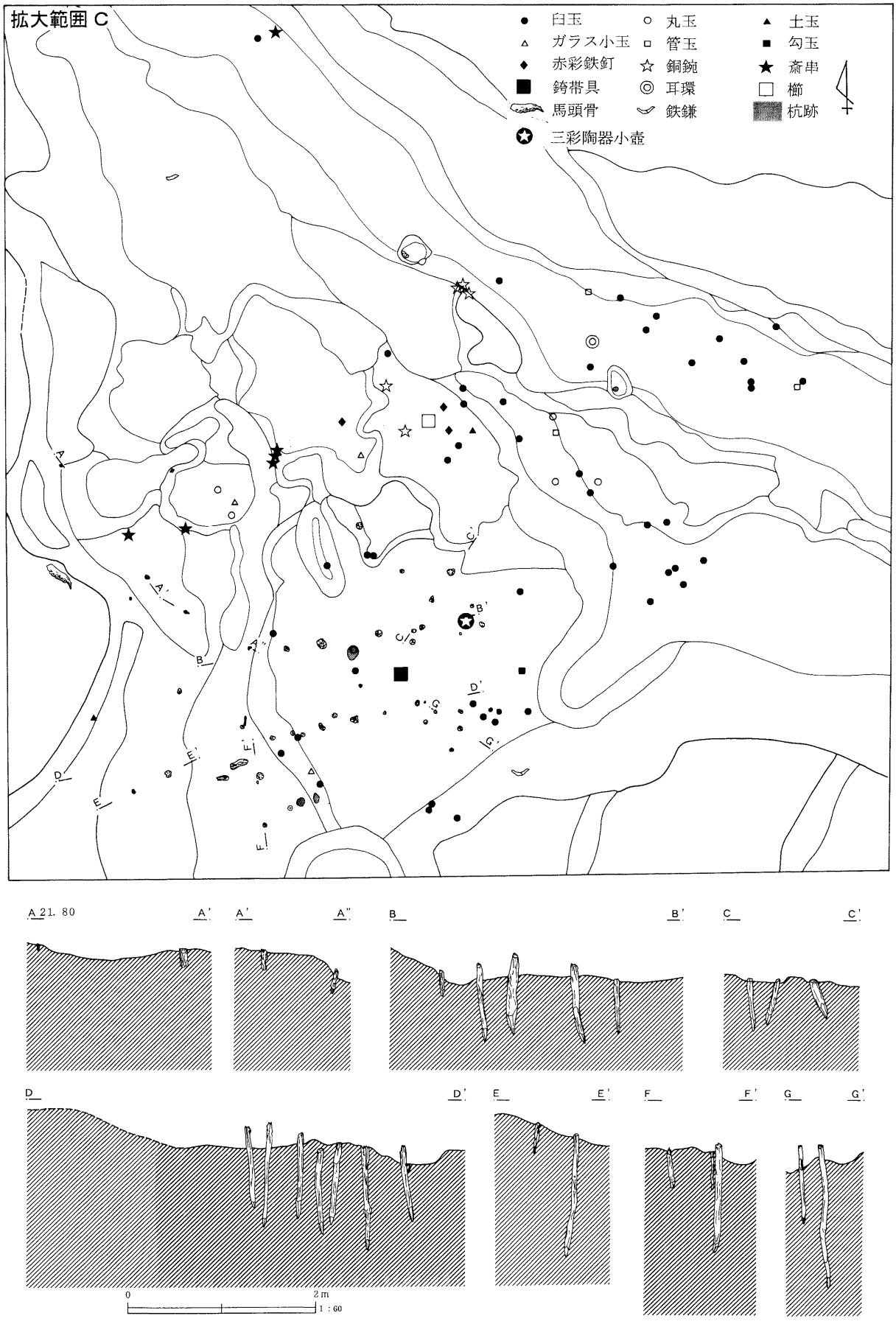


第207図　河川跡C地点第2祭祀箇所川原石及び遺物分布図

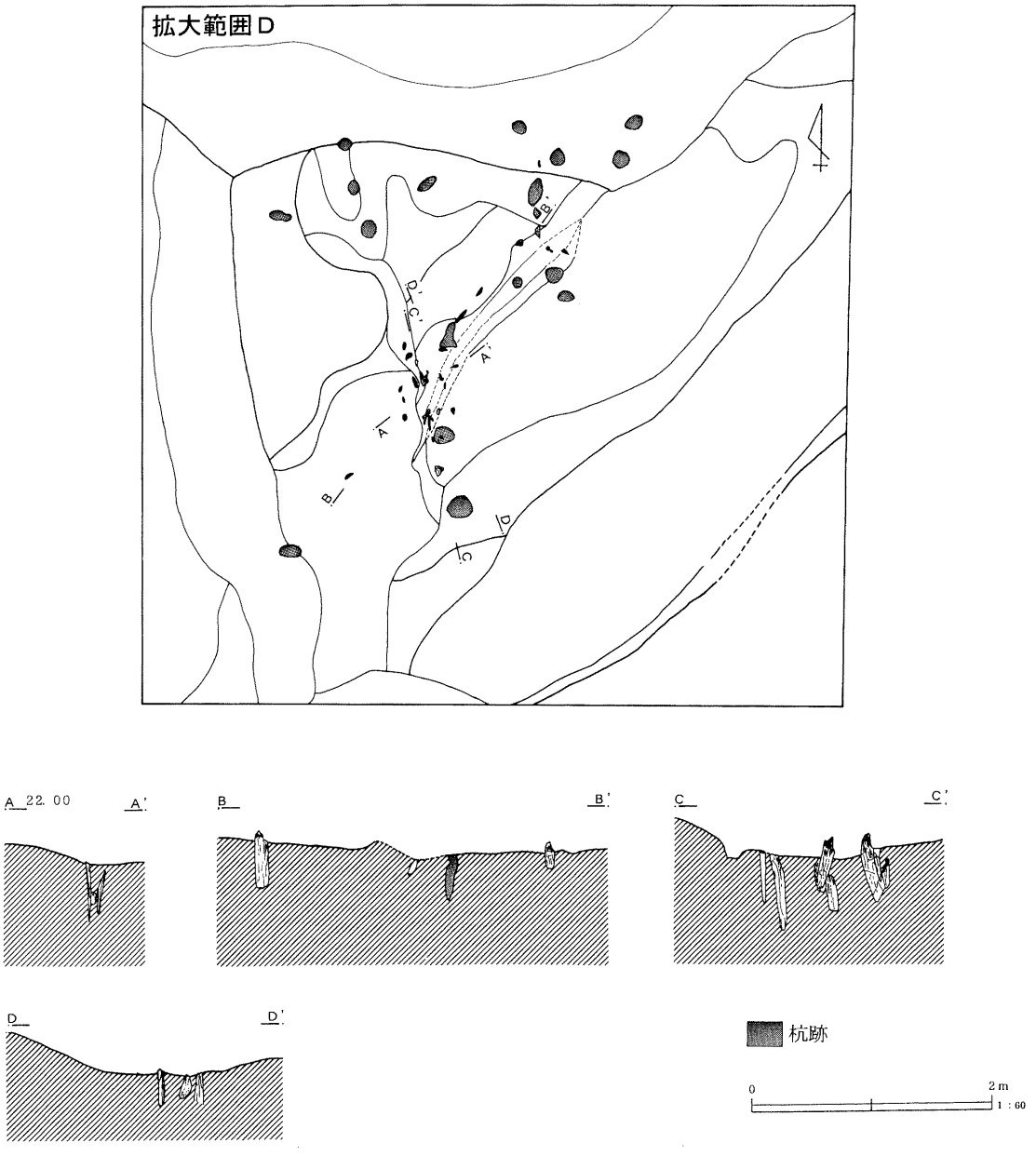
期は、流路1については古墳時代後期が主体で、概ね縄文時代後期から8世紀代までであった。一方、流路2については8・9世紀代が主体であるが、瀬替えの後も存在したため11世紀代までの幅広い時期の土器が出土した。(出土土器図版は流路のことを念頭の置いてあえてグリッドごとに掲載した。)

流路2の須恵器坏・椀・皿、灰釉陶器長頸瓶の多くには墨書が見られた。「山」、「院」、「大」、「日」、「寸」、「本」、「木」、「舎？」、「田」、「浄」、「正院」、「上公大」などであった。「山」の墨書が最も多く、「木」、「日」、「上公大」などは河川跡F地点と共通の字である。

また、三彩陶器小壺、灰釉陶器椀などの搬入陶器が出土した。三彩陶器小壺は、ちょうど瀬替えの箇所、すなわち流路1と流路2が重なる所で出土し、粘板岩製の銙帯具、斎串、被熱して融解した銅鋺などが周辺から出土した。さらには、河川西側のゆるやかな立ち上がり部分からこの場所にかけて杭列が並び、あたかも当該箇所へのスロープがあったかのようであった(拡大範囲C)。そして、この北側付近



第208図　河川跡C地点第1祭祀箇所遺物分布図、杭列出土状況

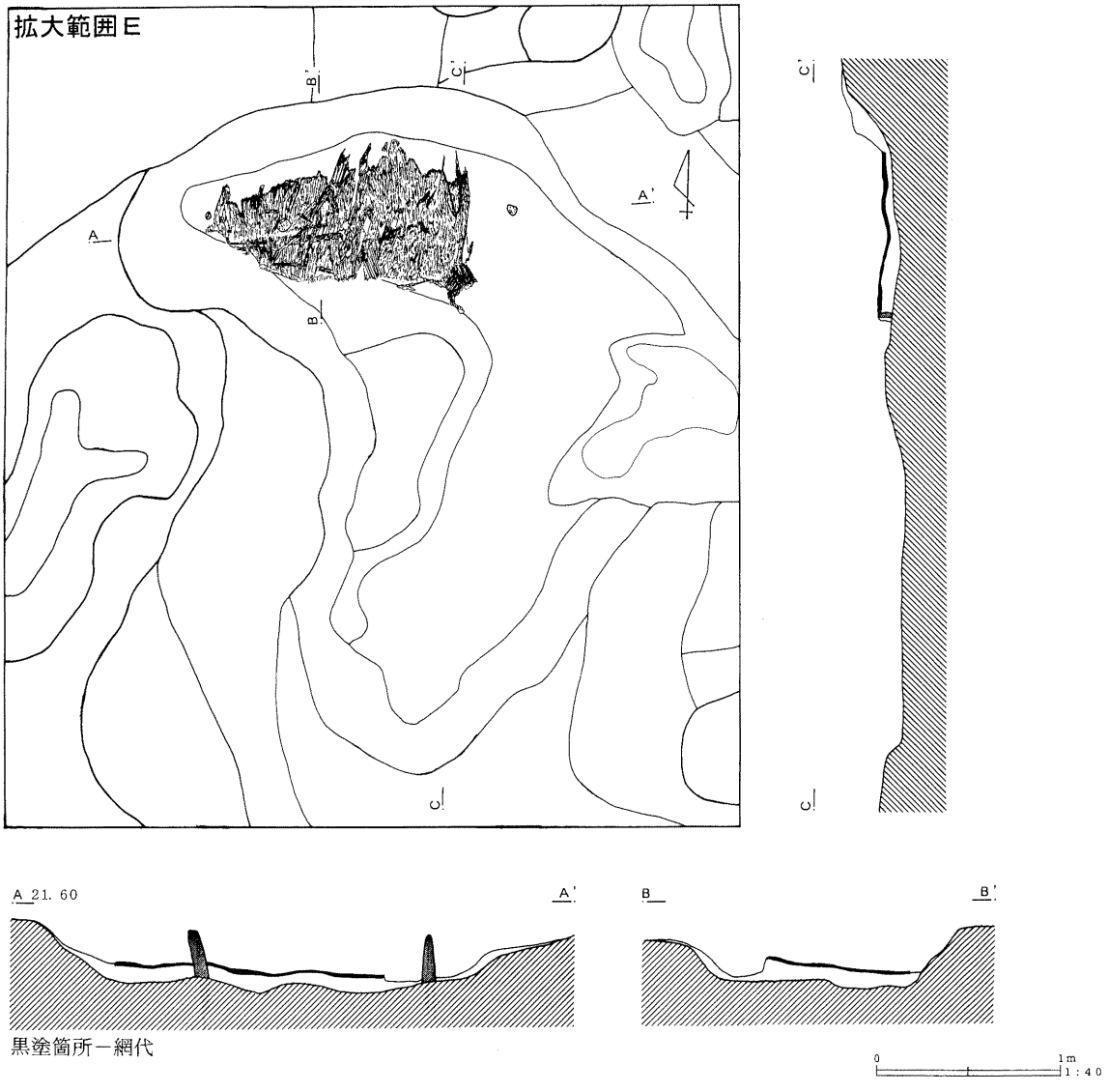


第209図　河川跡C地点第2杭列出土状況

を含めて、滑石製臼玉、ガラス小玉、丸玉、管玉、耳環、土製の玉、勾玉、木製の櫛などの祭祀に使われたと思われる遺物が集中して出土した。

この拡大範囲C箇所の最も深い流路を挟んでちょうど対岸の平坦な場所（拡大範囲B）でも祭祀に関わる遺物が出土した。この場所は、広く平坦部分が広がり、平たい川原石があたかも敷き詰められているようであった。ここに、滑石製臼玉・有孔円板形模造品、管玉、馬歯などが出土し、少し離れて耳環、丸玉、須恵器瑞などが出土した。

流路1については、土師器では坏・高坏・甕の出土量が多かった。また、須恵器の出土量も多く、蓋・

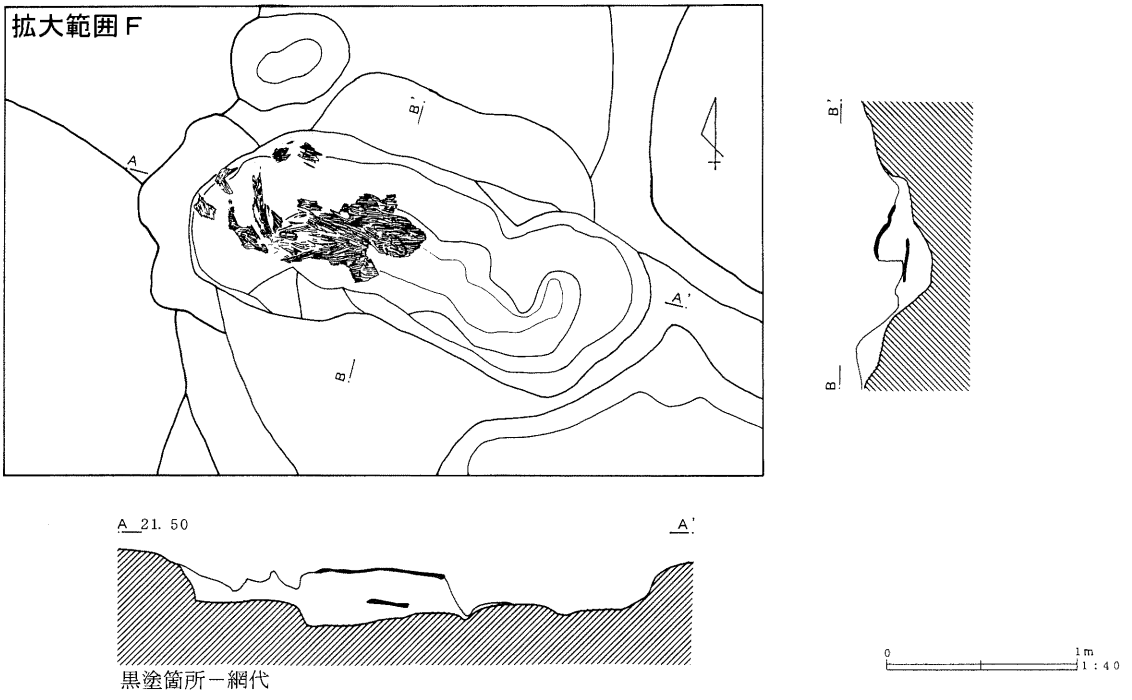


第210図　河川跡C地点第1網代出土状況

長脚二段スカシ高坏・瑯・横瓶・提瓶・フラスコ形瓶・脚付長頸瓶・甕・壺・徳利形平底壺などバラエティーに富んでいた。特殊なところでは、ミニチュア土器が7点出土した。高坏形、壺形、坩形のものであった。これらは、おおよそ8区R—26・27グリッドを中心に出土した。土師器坏の中には内外面とも赤彩を施したものも見られた。須恵器には把手付の椀が見られた。瑯もこのミニチュア土器出土箇所に多く見られた。

石器は、打製石斧・石鏃・掻器・磨製石鏃・石錘が出土した。打製石斧・石錘は、流路2の9区A—22付近に分布が集中していた。石鏃は、8区T—24グリッド付近を中心にして分布していた。磨製石鏃は、流路2でほとんどが出土した。

滑石製模造品は、臼玉・有孔円板形・剣形・砥石形が出土した。臼玉は197点出土したが、分布の中心



第211図　河川跡Ｃ地点第２網代出土状況

がおおよそ２つに分かれた。流路１と２の瀬替え付近の８区Ｔ—24・９区Ａ—24グリッドを中心とした箇所と流路１の８区Ｒ—26･27グリッドの平坦部分の２箇所である。有孔円板形は、流路２の８区Ｒ—24グリッドに濃密な分布があった。

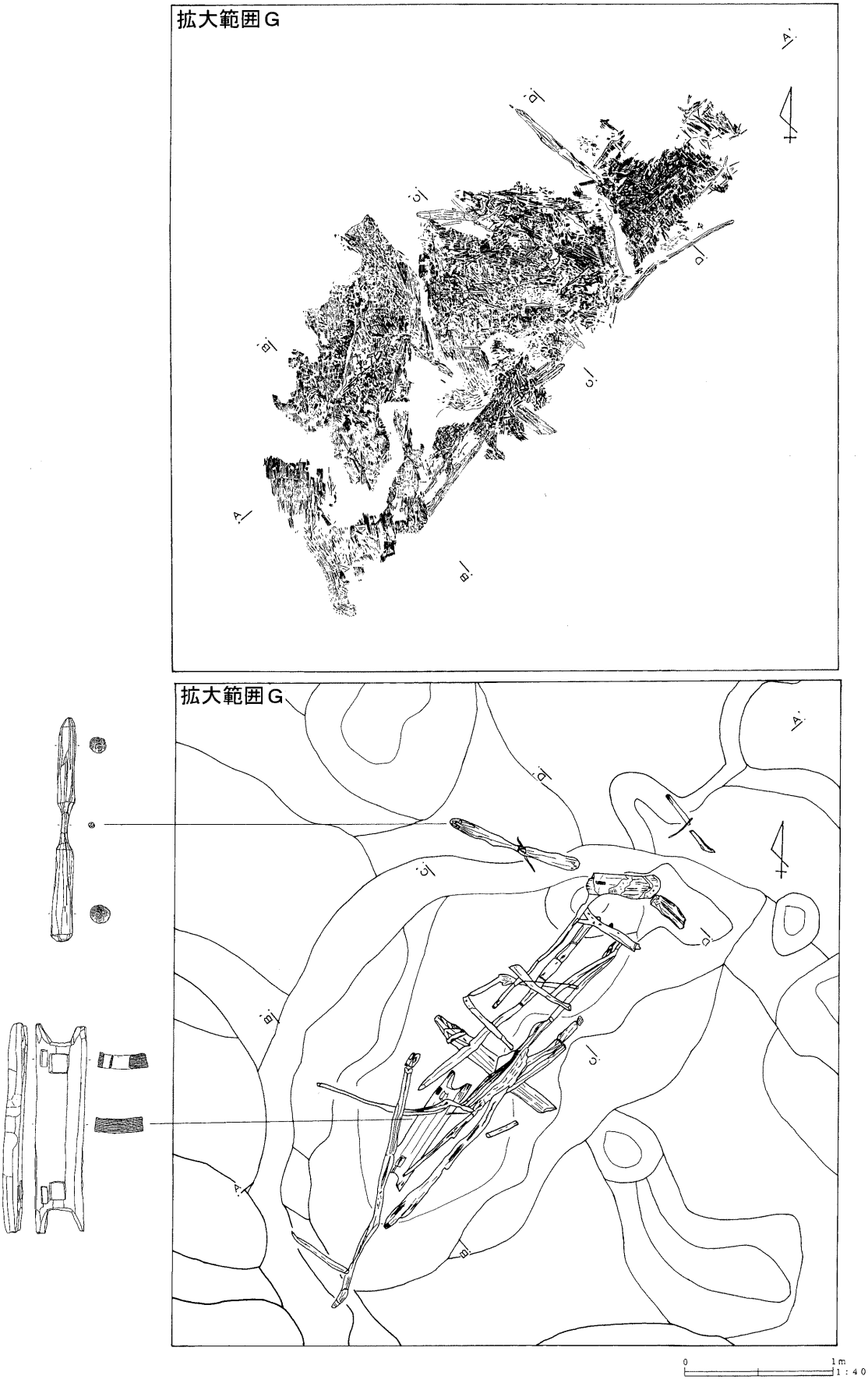
玉類は、小玉・丸玉・管玉・切子玉・勾玉・土製玉が出土した。小玉・丸玉・勾玉・管玉・切子玉は、流路１の８区Ｒ—26グリッド付近を中心にして出土し、丸玉・管玉に関しては、流路２の８区Ｔ—22グリッドにもう一つの濃密な分布が見られた。土製玉は、流路１にほとんどの分布が見られた。

石製品は、紡錘車・砥石・銙帯具が出土した。紡錘車についても丸玉・管玉と同様の分布傾向にあり、大半が滑石製であった。銙帯具は完形の巡方であり、９区Ａ—24グリッドで出土した。

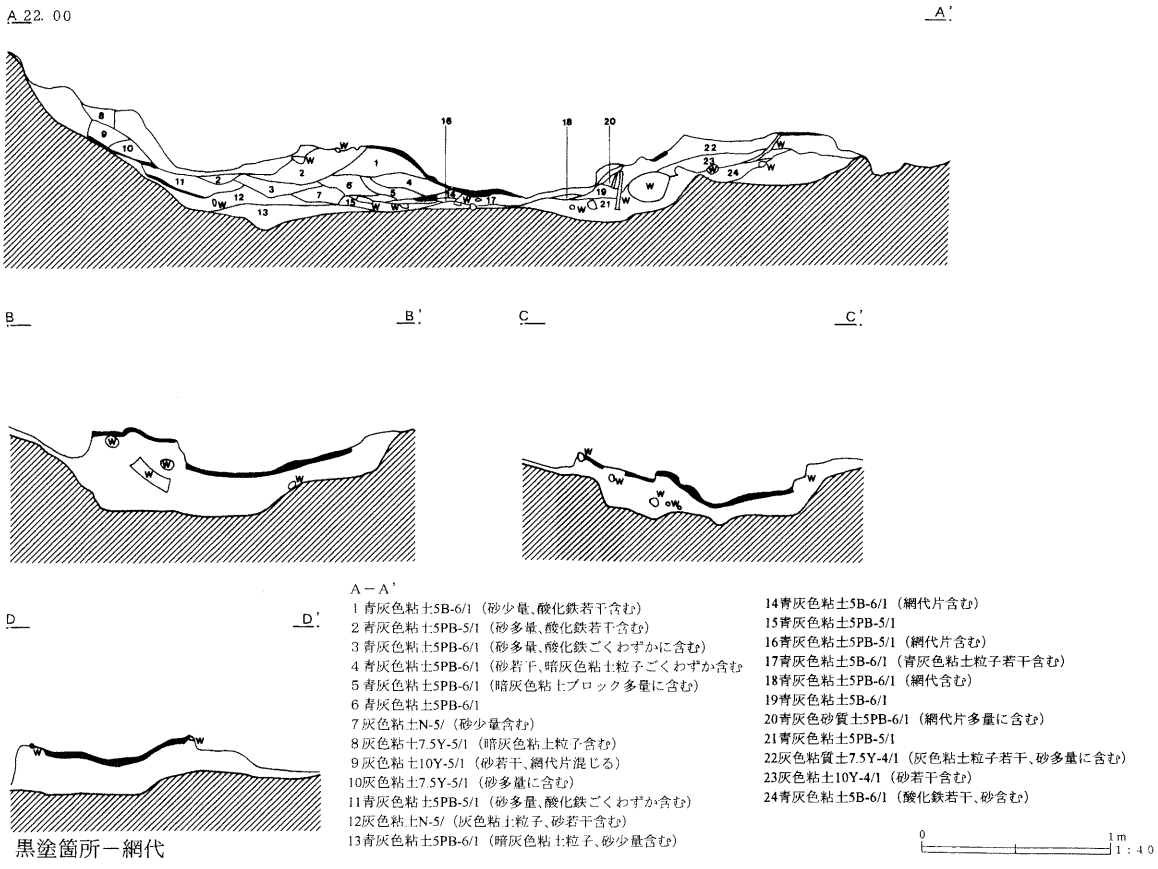
土製品は、土錘・支脚が出土した。土錘は河川のほぼ全体に分布が見られ、183点出土した。

金属製品については、耳環の他、銅製品が銅鋺・刀装具・飾金具、鉄製品が鏃・刀子・釘・鎌が出土した。鉄製品は、流路２の拡大範囲Ｂにおける８区Ｔ—22・９区Ａ—22グリッドに分布の中心があり、特に刀子は当該部分でそのほとんどが出土した。

木製品については、おおまかに分類すると、農具・紡織具・武具・服飾具・容器・祭祀具・雑具・建材・用途不明品・杭が出土した。農具では鋤・竪杵・横槌・鎌柄・田下駄枠、紡織具では組合せ式糸巻きの枠木・桛・経（布）巻具、武具では丸木弓、服飾具では横櫛・下駄・扇・挽物（漆椀・皿）、容器では槽・曲物、祭祀具では斎串・形代（人形・刀形・太刀形・刀子形・剣形・陽物形）、雑具は発火具の火鑽杵と臼・針状製品、建築部材では扉部材、その他の部材としては板材・用途不明の部材、そして用途



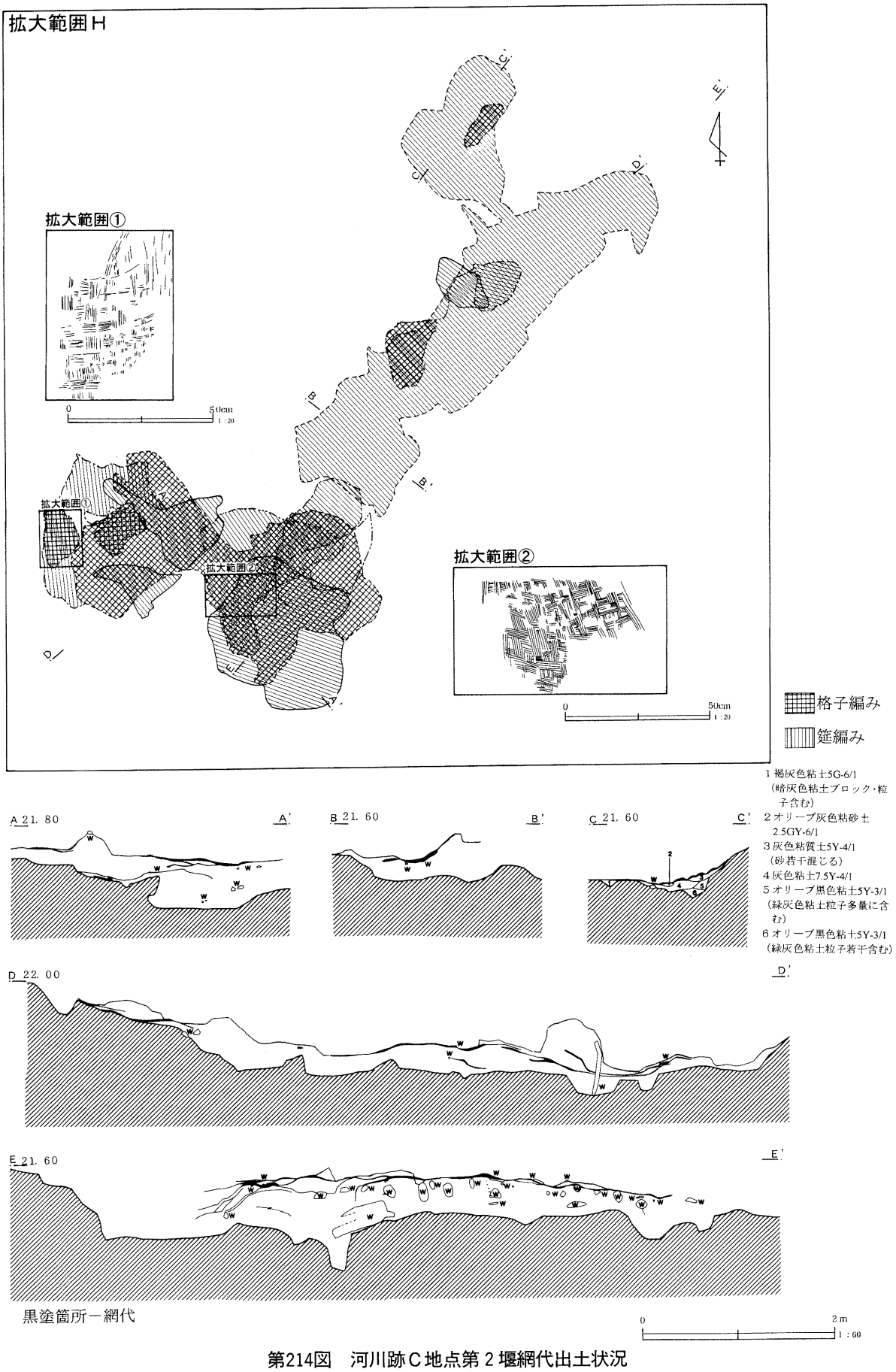
第212図　河川跡C地点第1堰出土状況



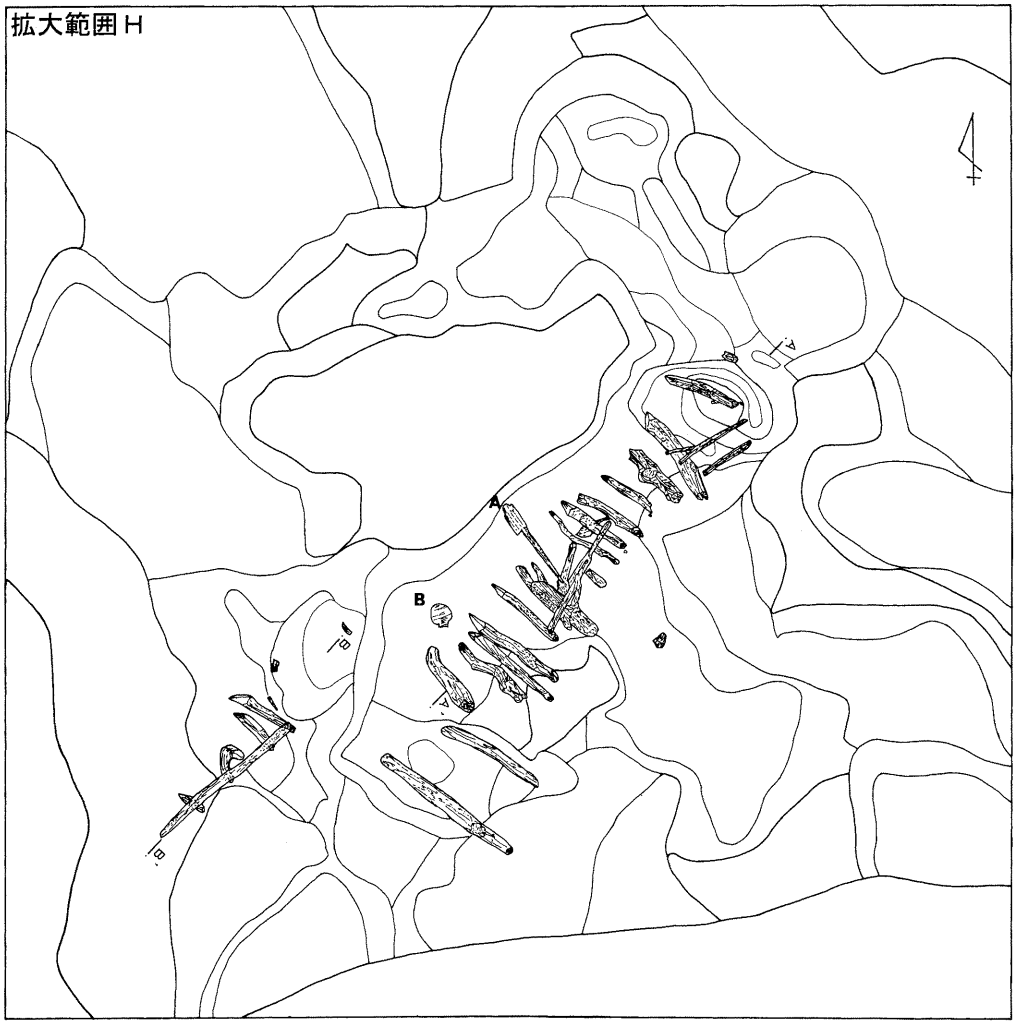
第213図　河川跡Ｃ地点第１堰土層断面図

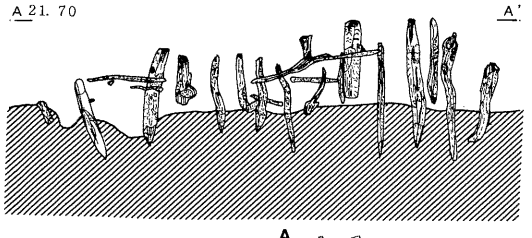
不明品が出土した。

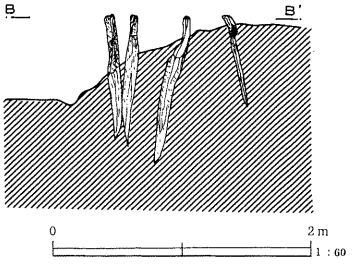
獣骨については、馬の頭蓋下顎部分（第277図１・２）の他肢骨部分など多数出土した。また、長さ９cmの刀子形骨角器（第254図１）が出土した。

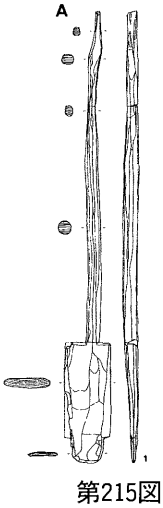


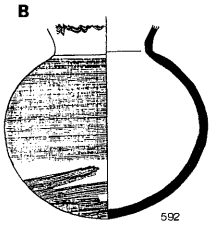
第214図　河川跡C地点第２堰網代出土状況











第215図　河川跡Ｃ地点第２堰出土状況

河川跡C地点出土縄文土器（第216図1～39）

出土した遺物を第1群土器（加曽利B式～曽谷式）、第2群土器（安行式）の2群に分けて掲載する。

第1群土器（後期中葉の土器）

1～5は波状口縁を有する深鉢形土器の突起部分である。3～5は同一個体であり、口縁部は「く」の字状に内屈する。突起の下部には沈線によって横線と「(　)」状モチーフが施される。

6・8・9は無文地に沈線が施される。6は横線間に「(　)」状モチーフが施される。胎土・色調の状態から3～5と同一個体と思われる。

8は平行沈線に縦区切りの沈線が施される。内文を有し5条の沈線が施される。

7は単節LR縄文を地文に沈線が施される。内文を有し4条の沈線が施される。

9は2条の沈線間に格子目文を施す胴部破片である。

10は屈曲する胴部破片である。

11～13は浅鉢形土器である。

第2群土器（後期後葉の土器）

14～19は波状口縁を有する深鉢形土器の口縁部分である。

14・15は同一個体であり、「8」字状の貼付文に2段の豚鼻状モチーフを描出する。

16・19は刻文帯を有する土器である。16は波頂部であり、弧状の刻文帯の直下に瘤状の貼付文を配する。

19は波底部に粘土紐による把手を施す土器である。刻文帯を有する。

17は縦位の沈線を3条施した魚鰭状の波頂部を有する。浅い沈線により縦長の豚鼻状貼付文を、その直下に刺突による豚鼻状貼付文を施す。

18は波底部の破片である。口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。瘤状の貼付文を縦に3段施し、斜行する沈線間に単節RL縄文を充填し、縄文帯を形成する。

20・21は平縁の口縁である。20は口縁部に縦長の貼付文を施した後、横走する沈線を施し、それより上部に単節RL縄文を施文し、縄文帯を形成する。

21は3条の刻みのある貼付文を施した後、その周囲を沈線により「⊂」状モチーフ、横線で区画する。

22～29は条線文を施す土器である。23～26は同一個体であり、口縁部に1条の横線を施し、その上部には刻み列を、その下部には幅の広い条線を施す。

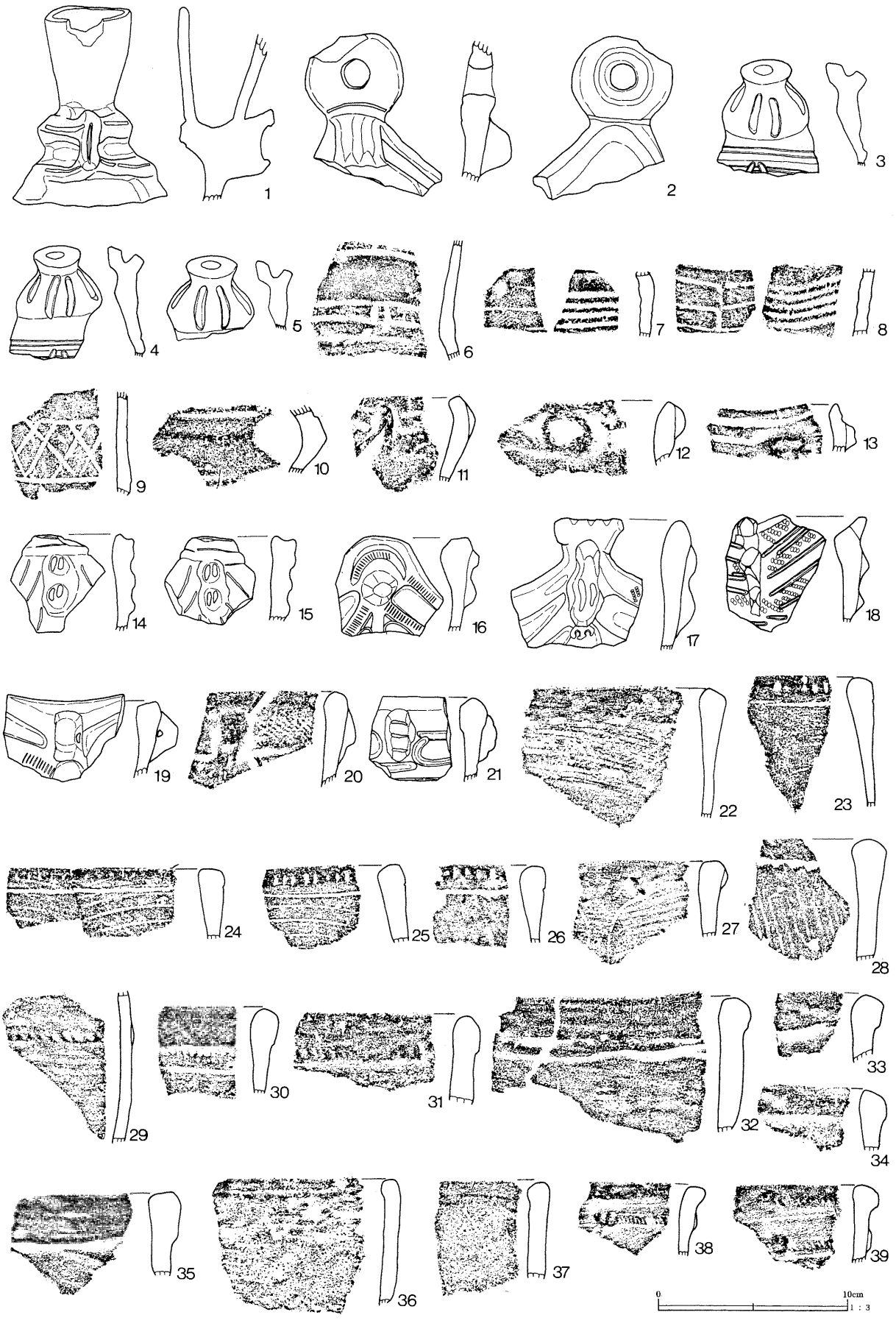
27は条線文を地文にもつ深鉢形土器で、口縁部には器壁を削りだして瘤を作り出す。

28は口縁部に刺突列を巡らせ、それより下部に縦位の条線を施す。

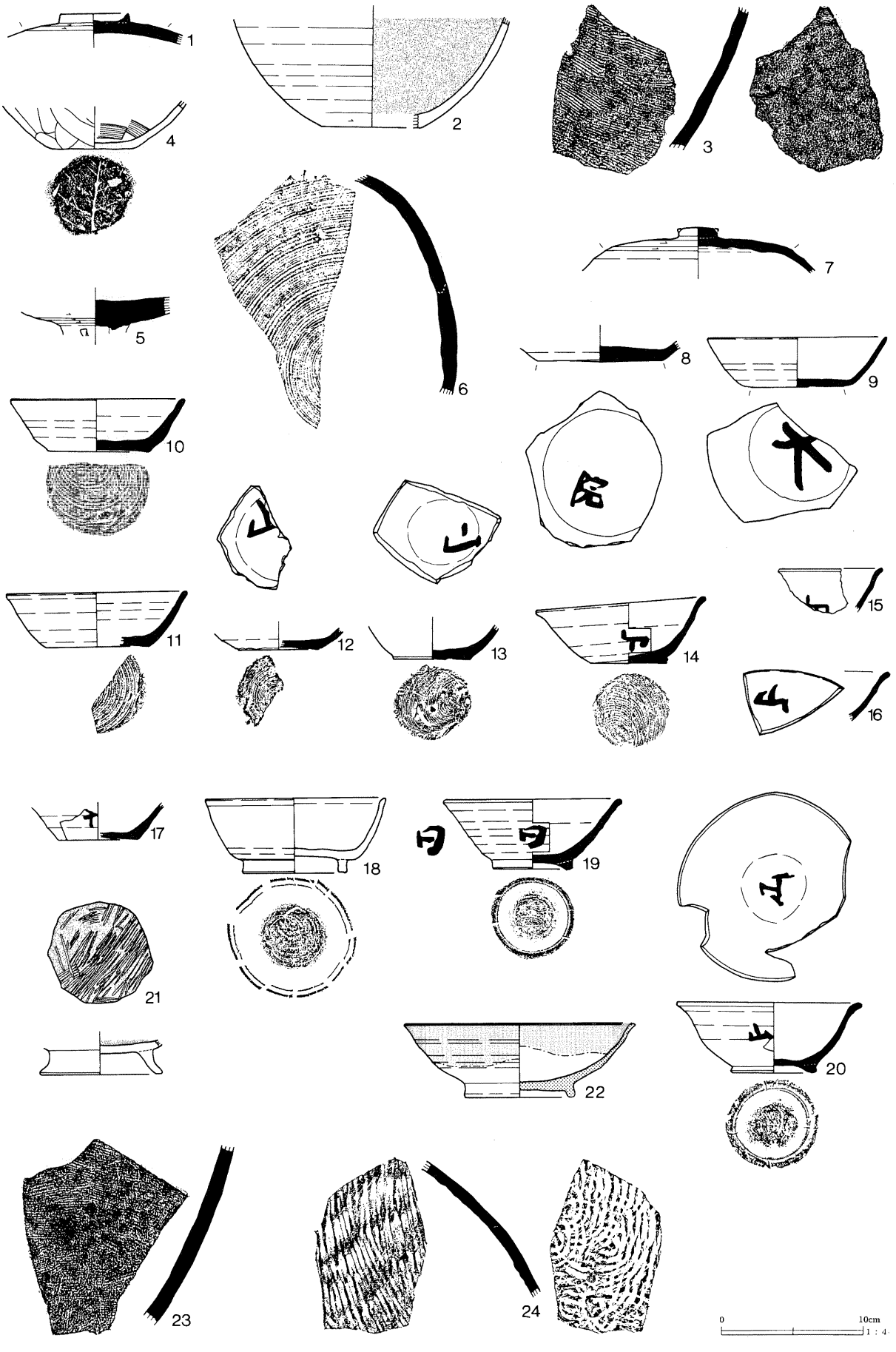
29は条線文を地文とし、胴部に点刻を施した隆帯を巡らせたもの。

31～37は粗製無文土器である。31～35は肥厚する口縁をもつ。

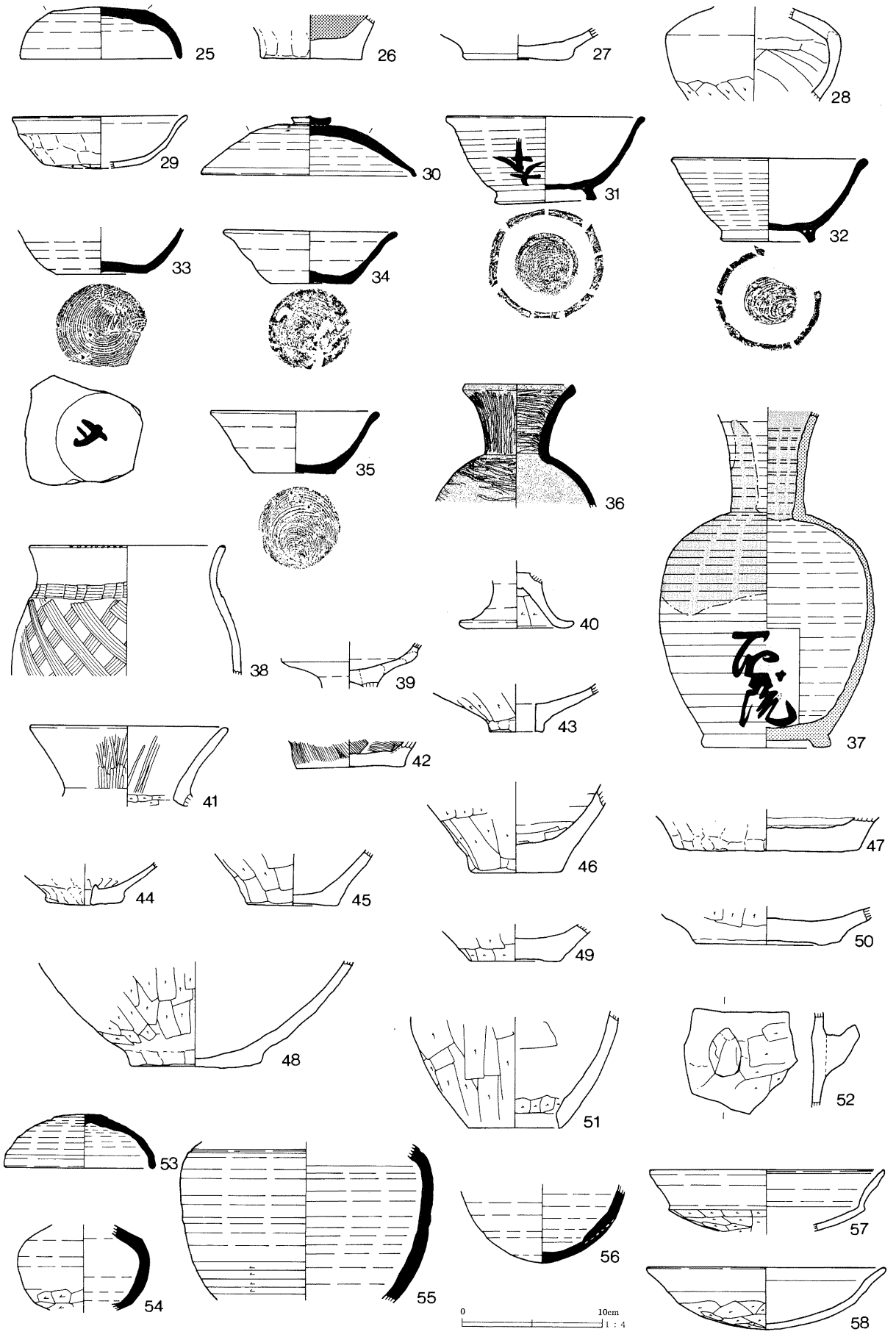
38・39は台付鉢形土器と思われる。肥厚する口縁をもち、刻みを持つ隆帯が巡る。隆帯上には38は豚鼻状貼付文を、39は円形の貼付文が施される。



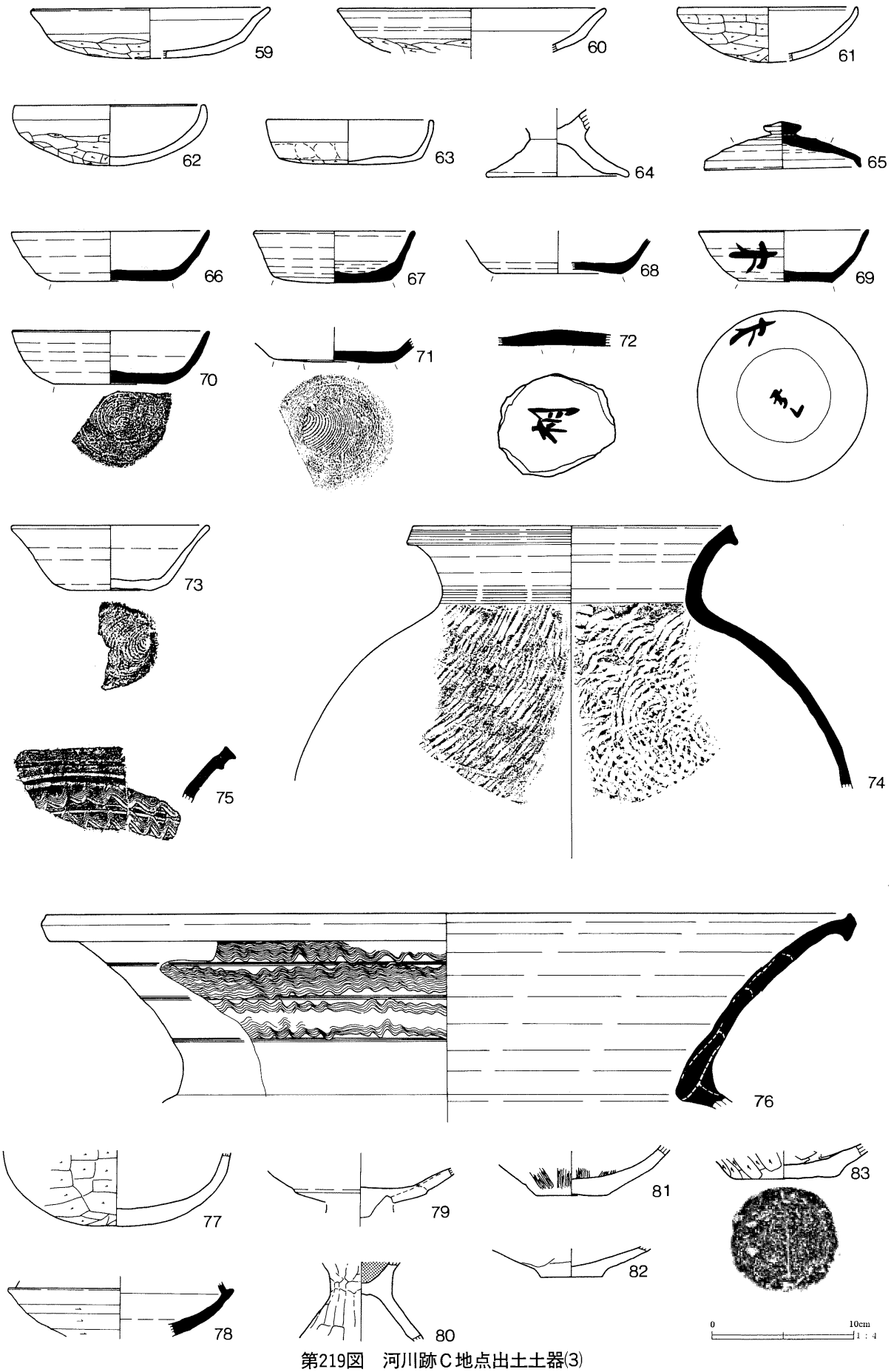
第216図　河川跡Ｃ地点出土縄文土器



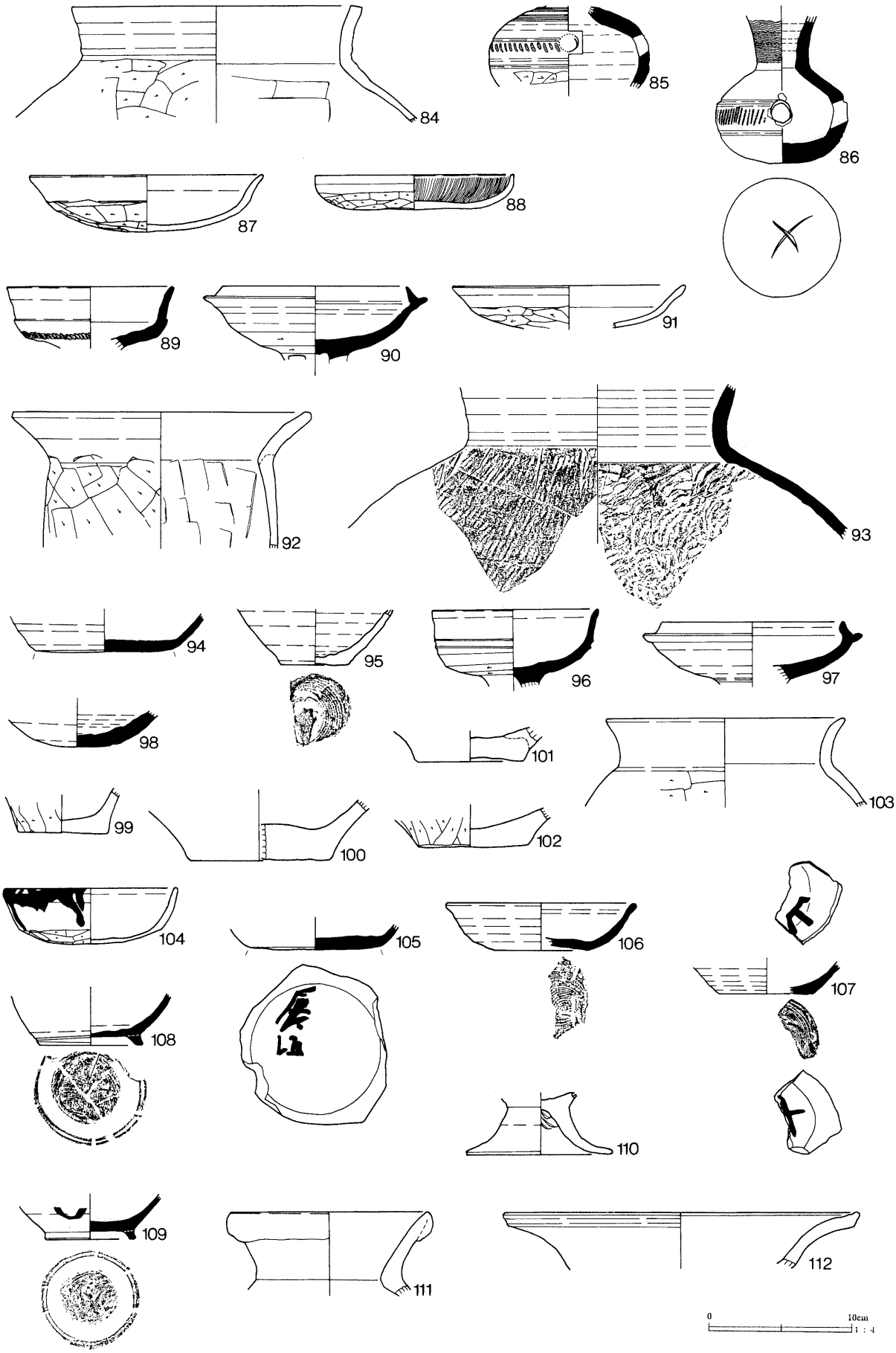
第217図　河川跡C地点出土土器(1)



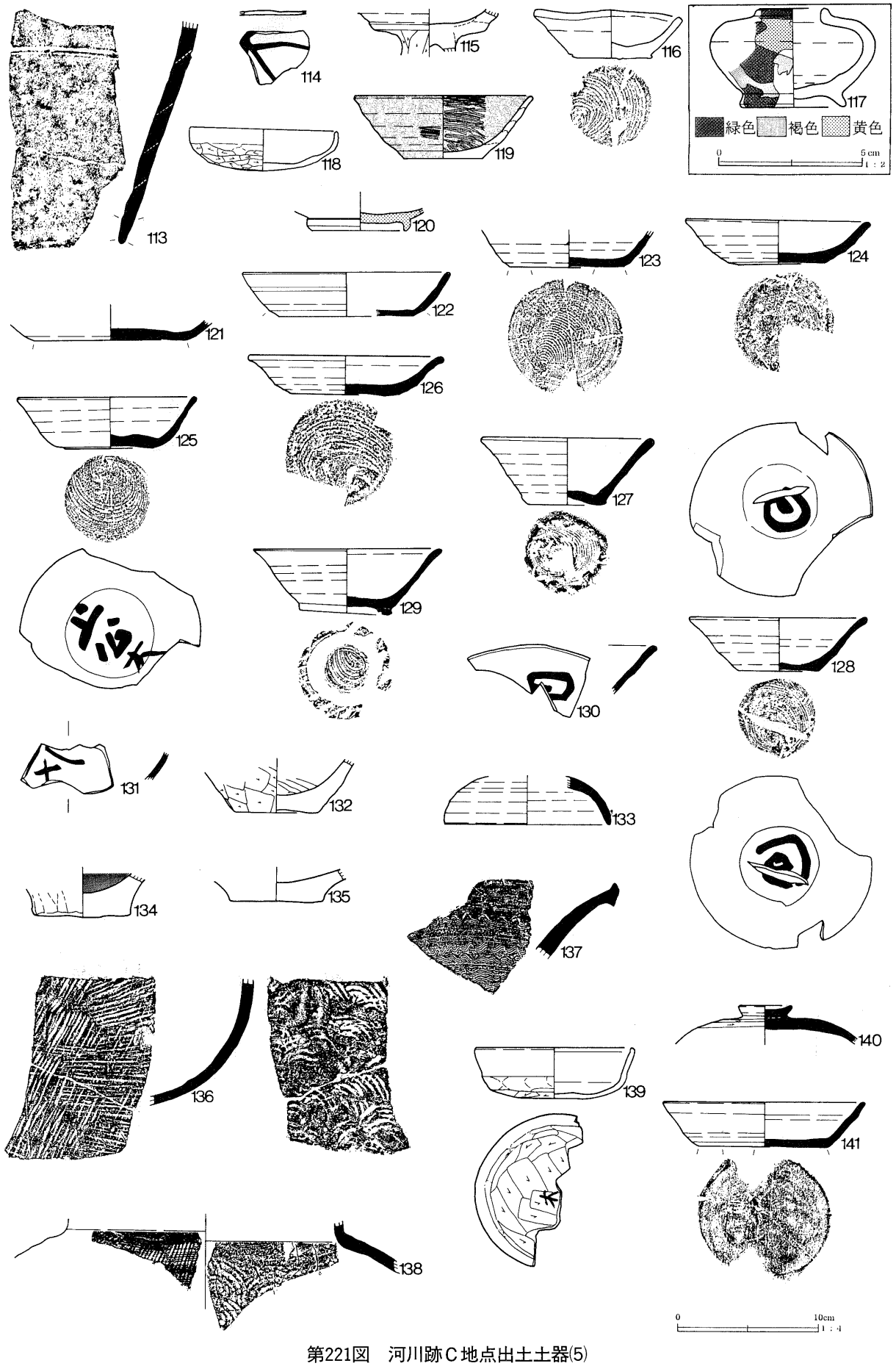
第218図　河川跡Ｃ地点出土土器(2)



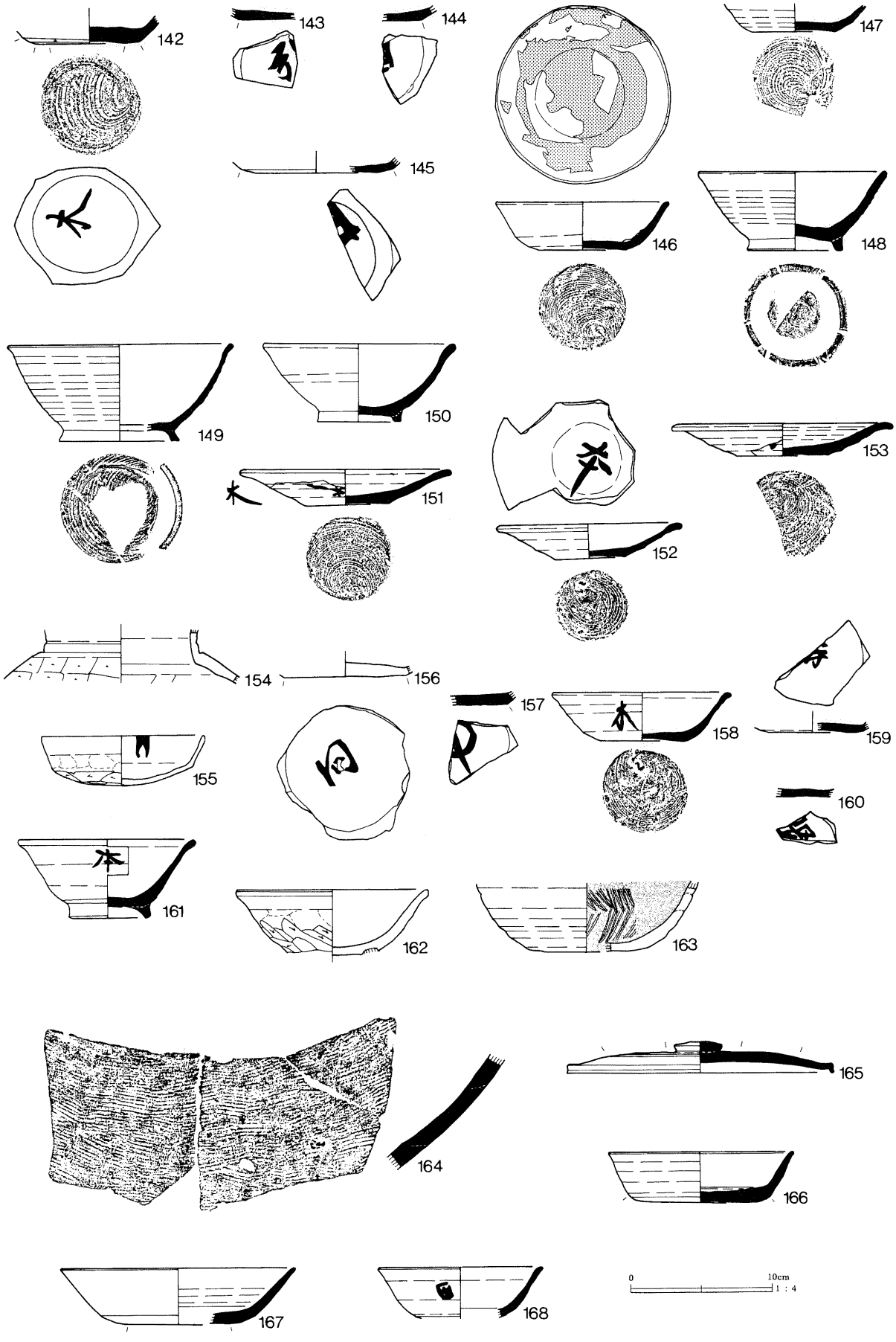
第219図　河川跡C地点出土土器(3)



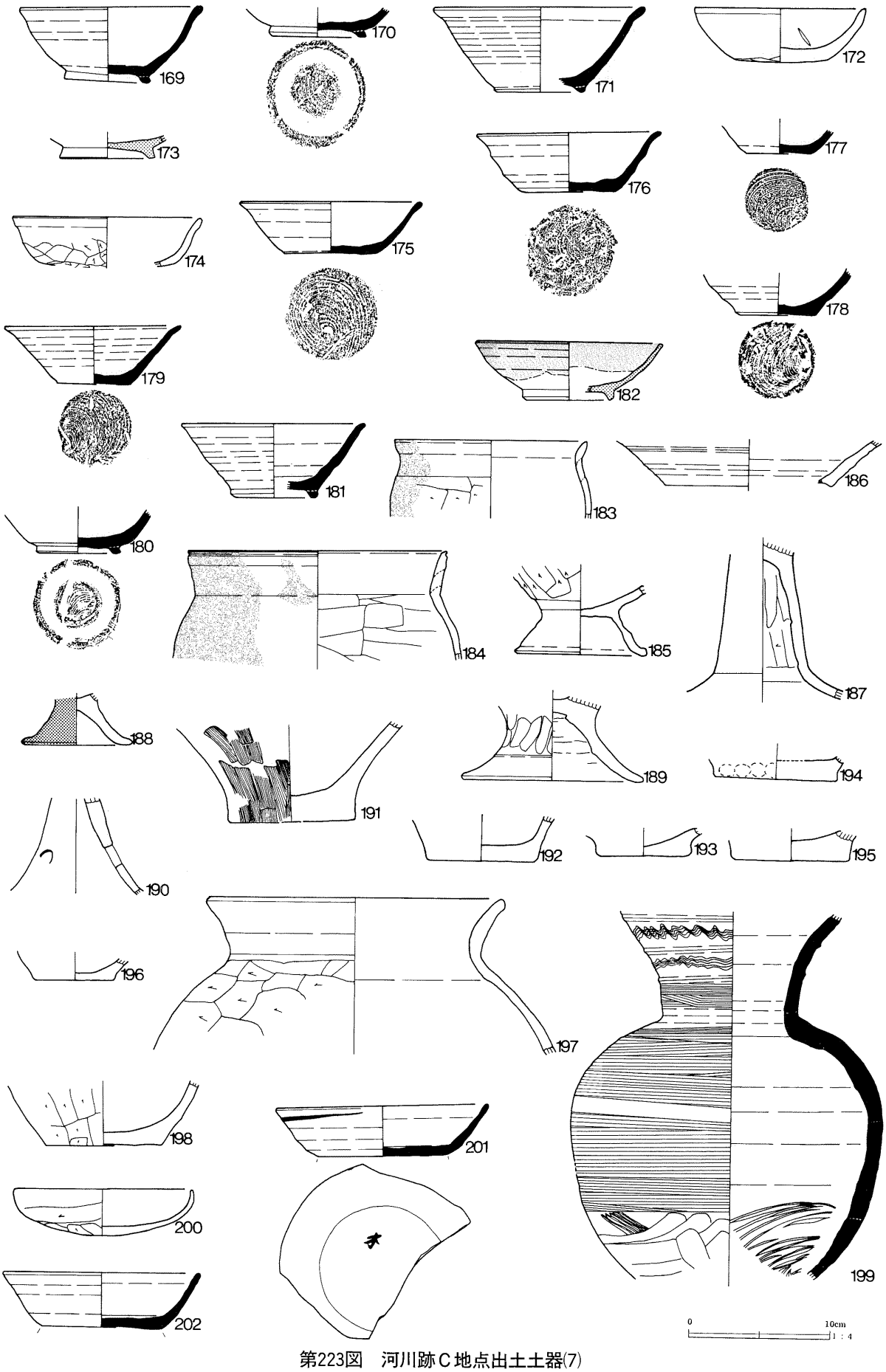
第220図　河川跡Ｃ地点出土土器(4)



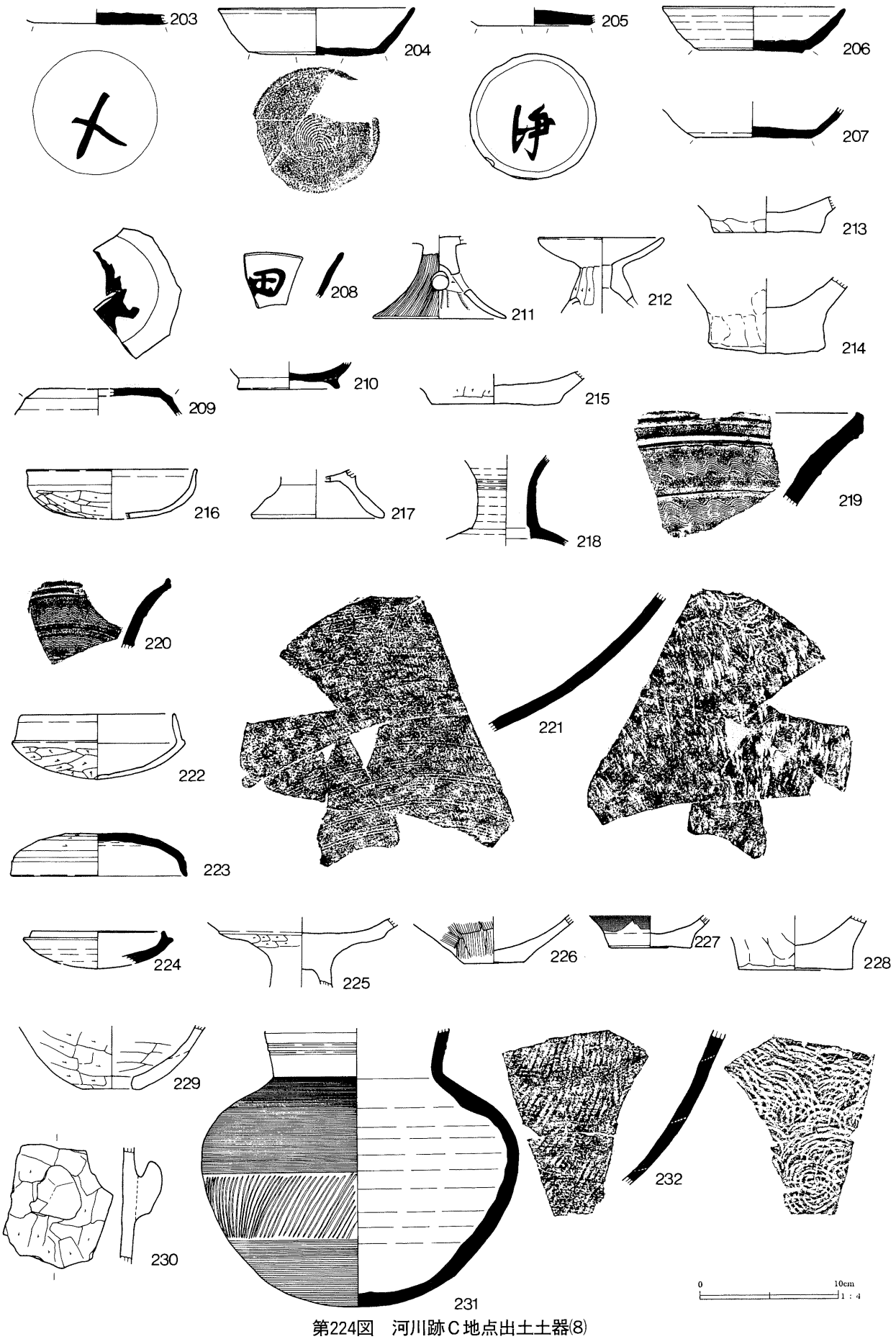
第221図　河川跡C地点出土土器(5)



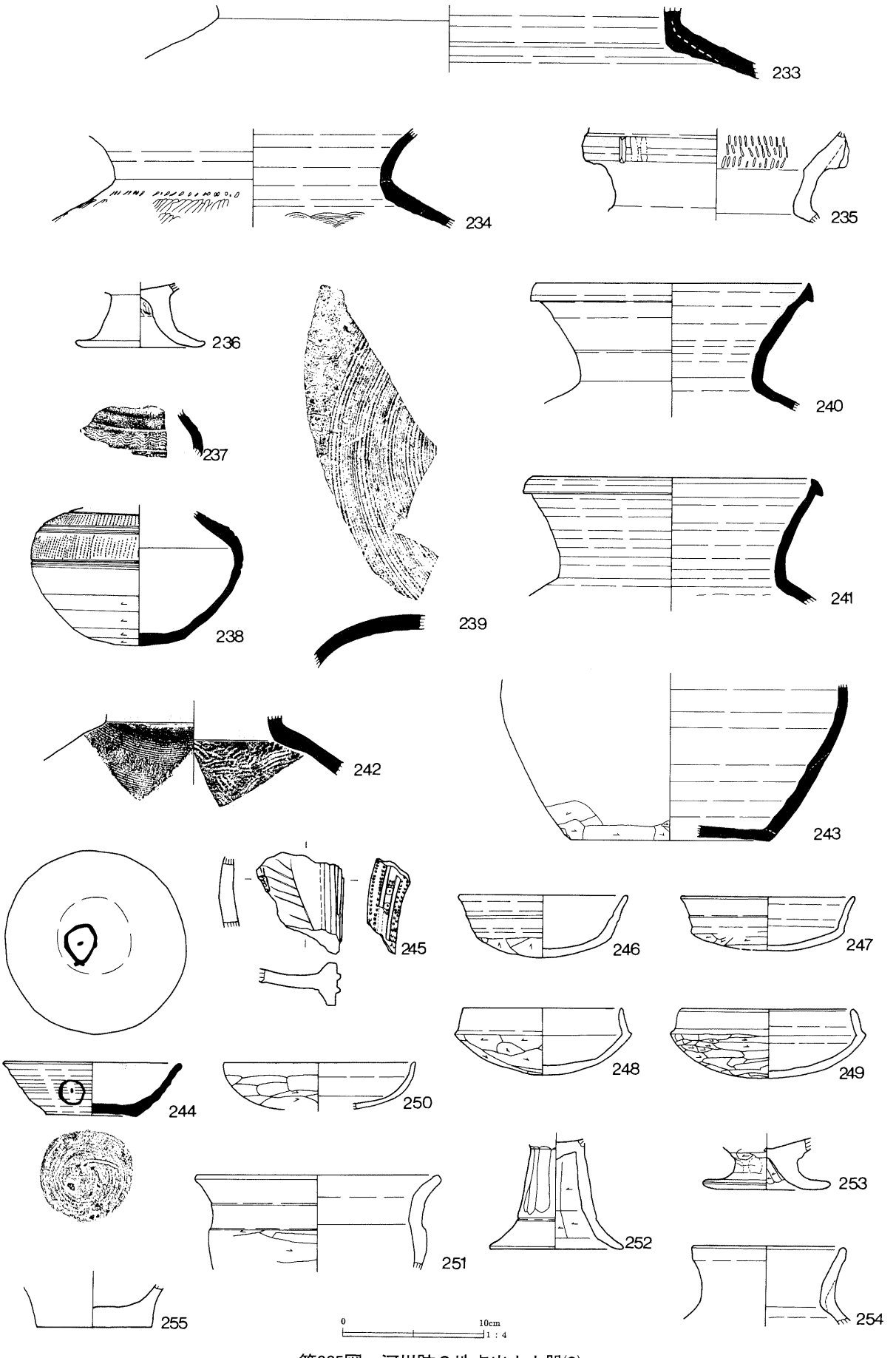
第222図　河川跡Ｃ地点出土土器(6)



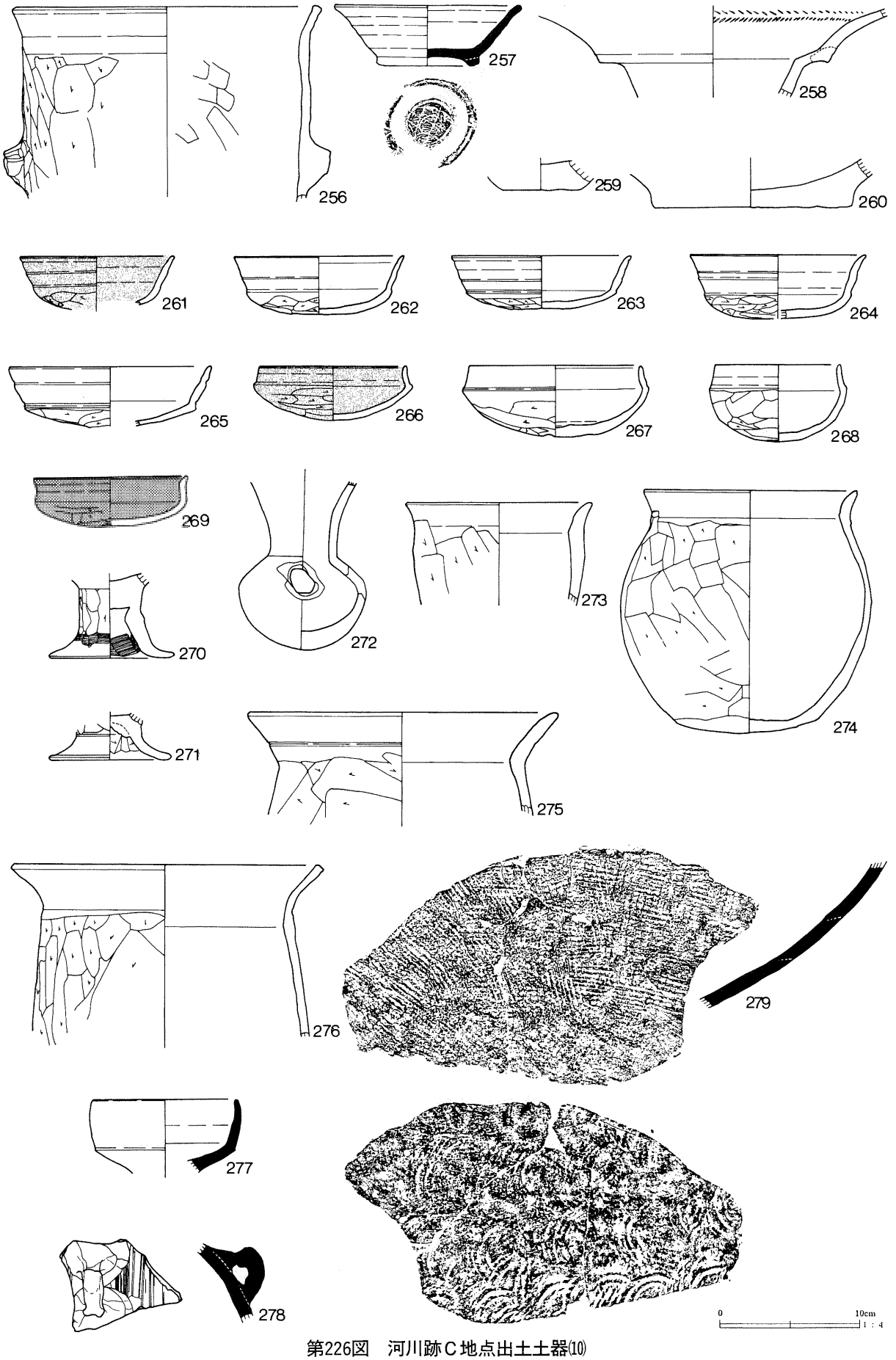
第223図　河川跡C地点出土土器(7)



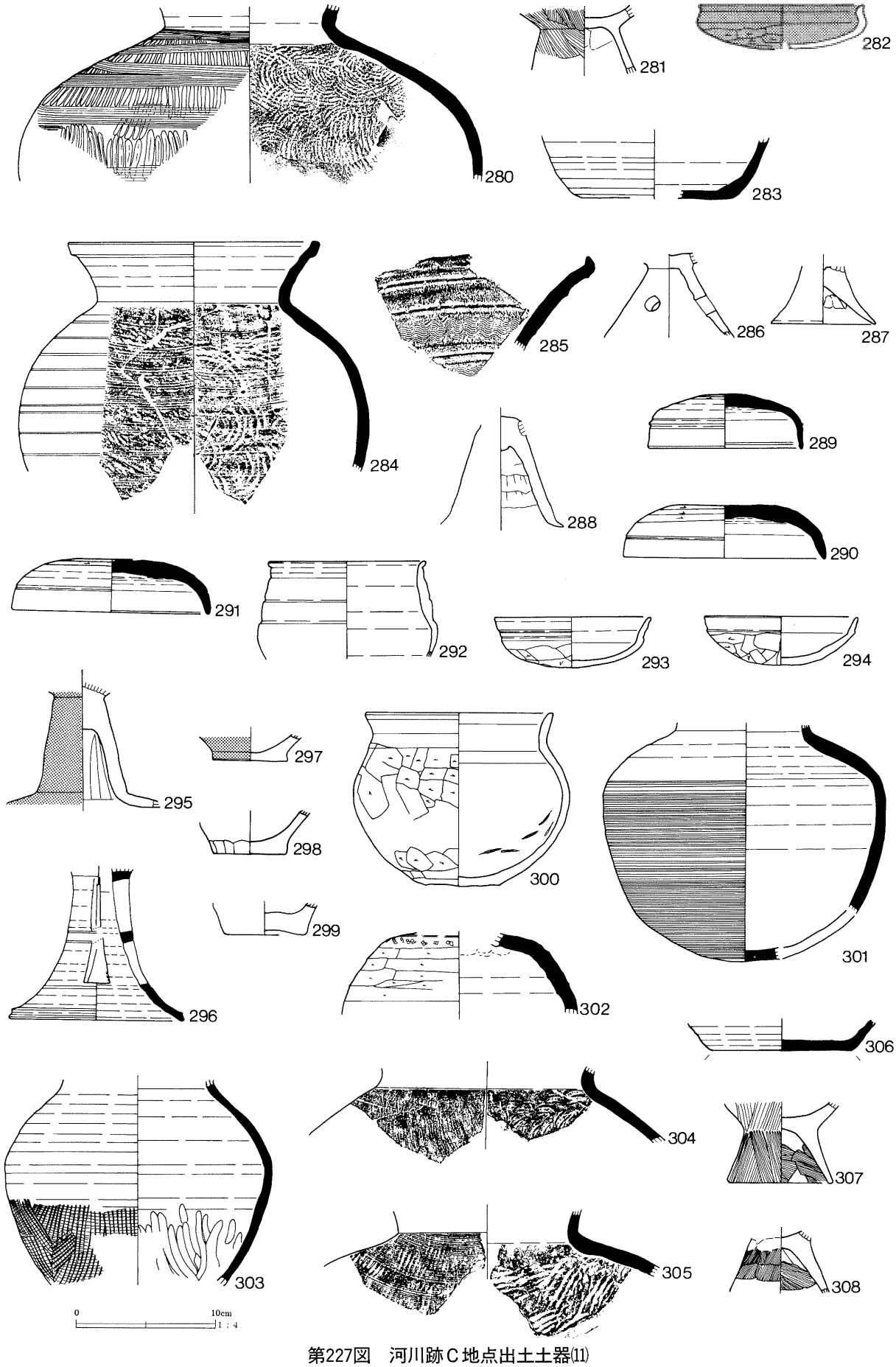
第224図　河川跡Ｃ地点出土土器(8)



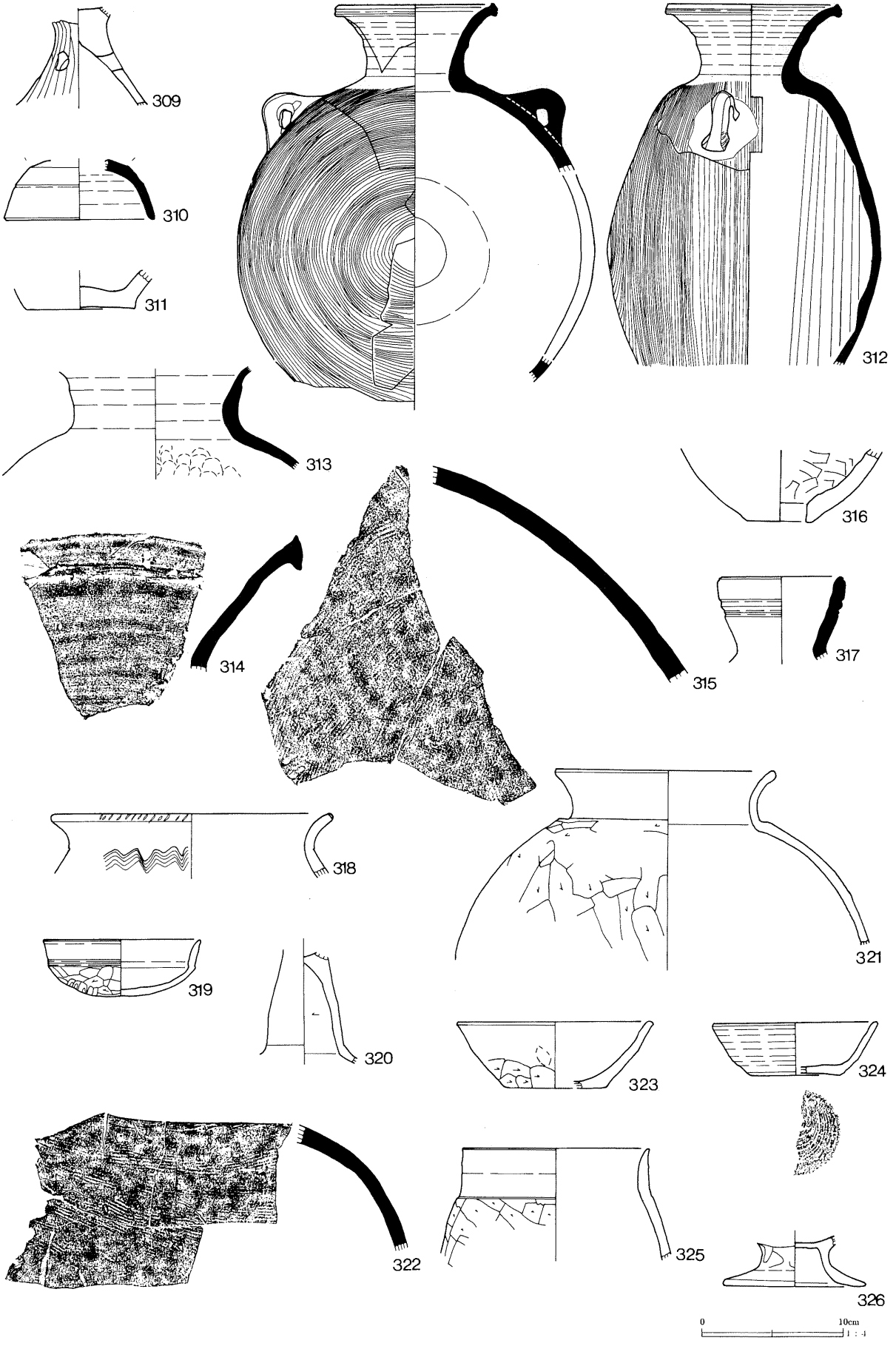
第225図　河川跡C地点出土土器(9)



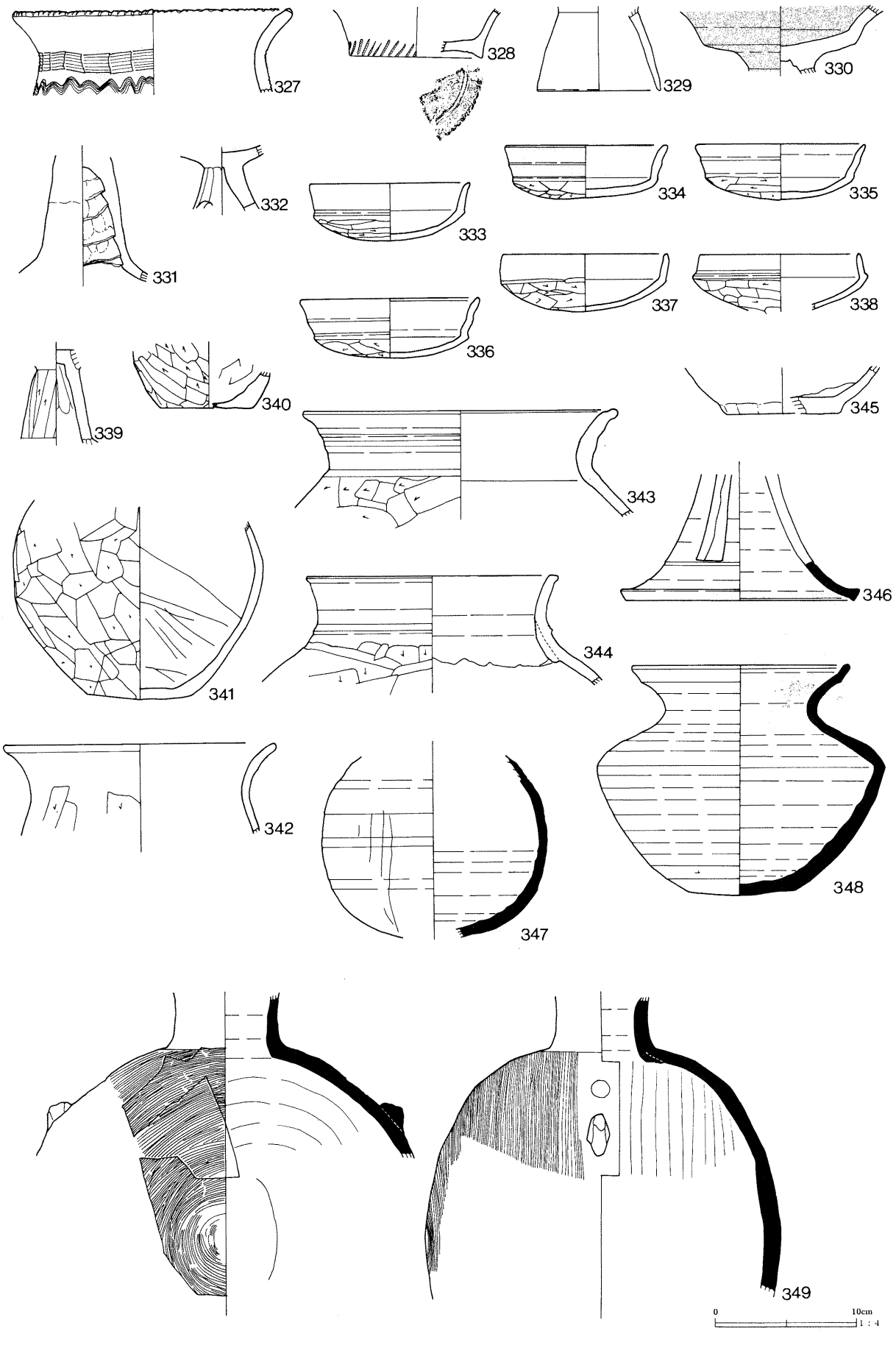
第226図　河川跡Ｃ地点出土土器(10)



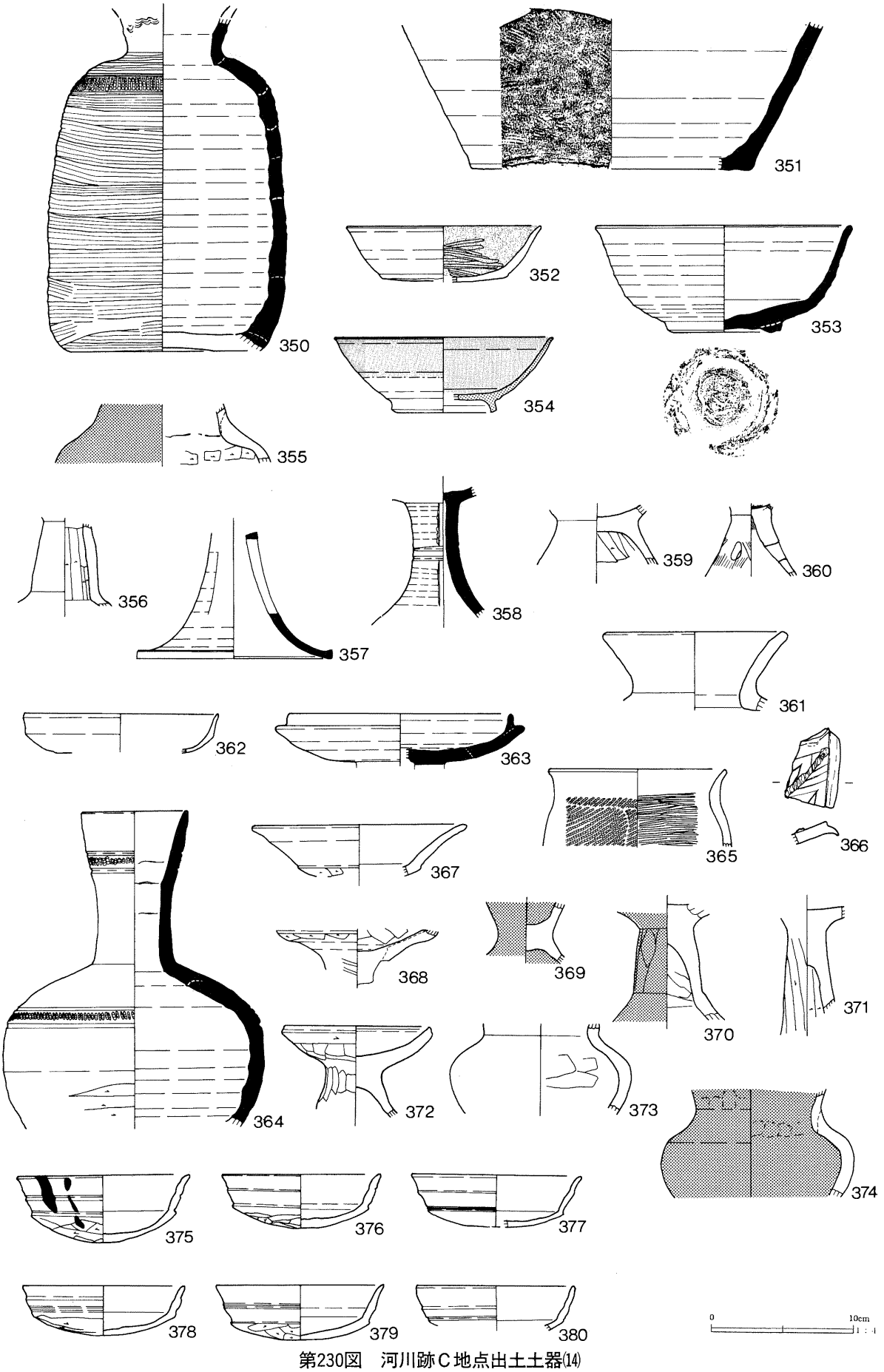
第227図　河川跡C地点出土土器(11)



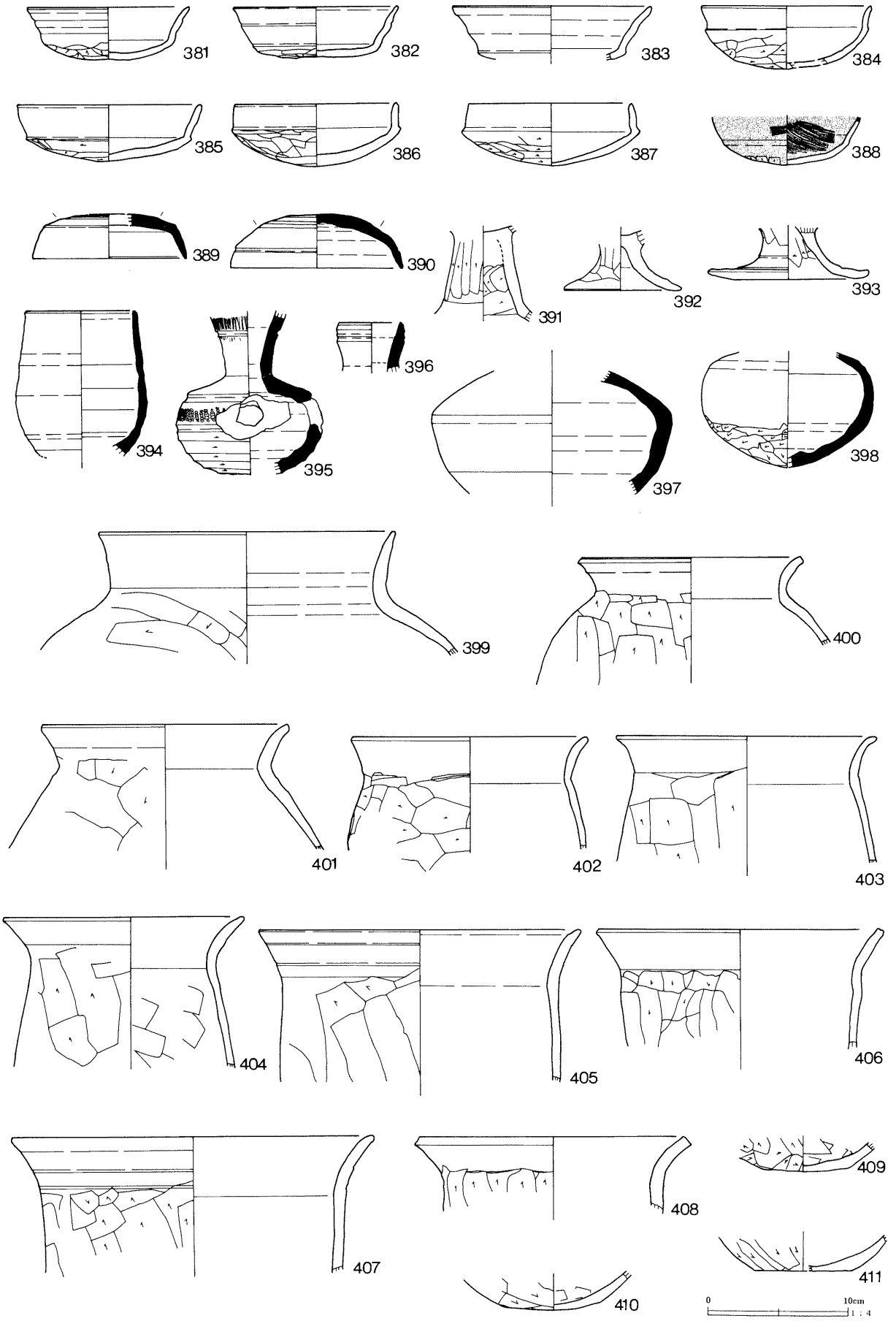
第228図　河川跡Ｃ地点出土土器(12)



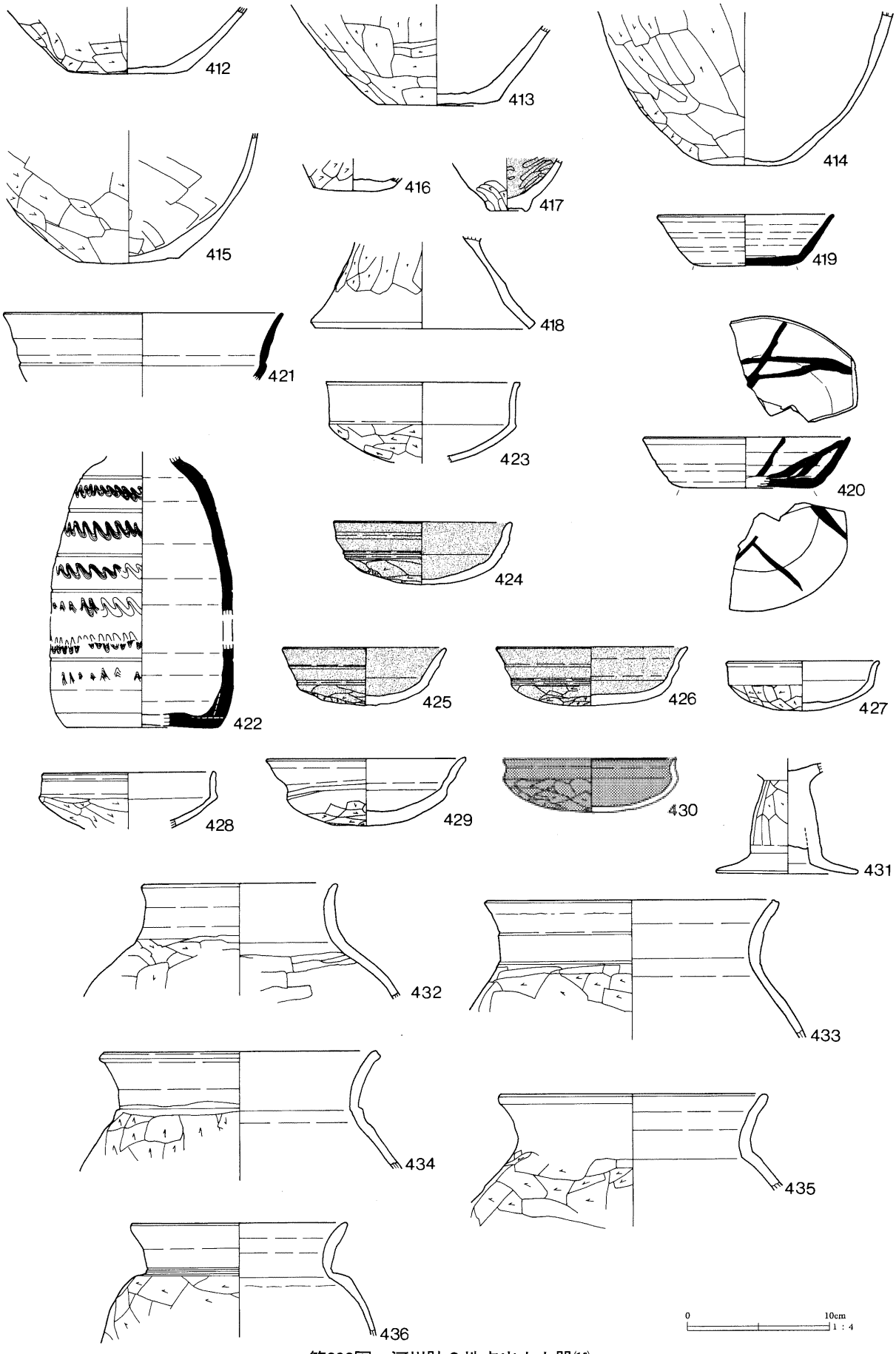
第229図　河川跡Ｃ地点出土土器(13)



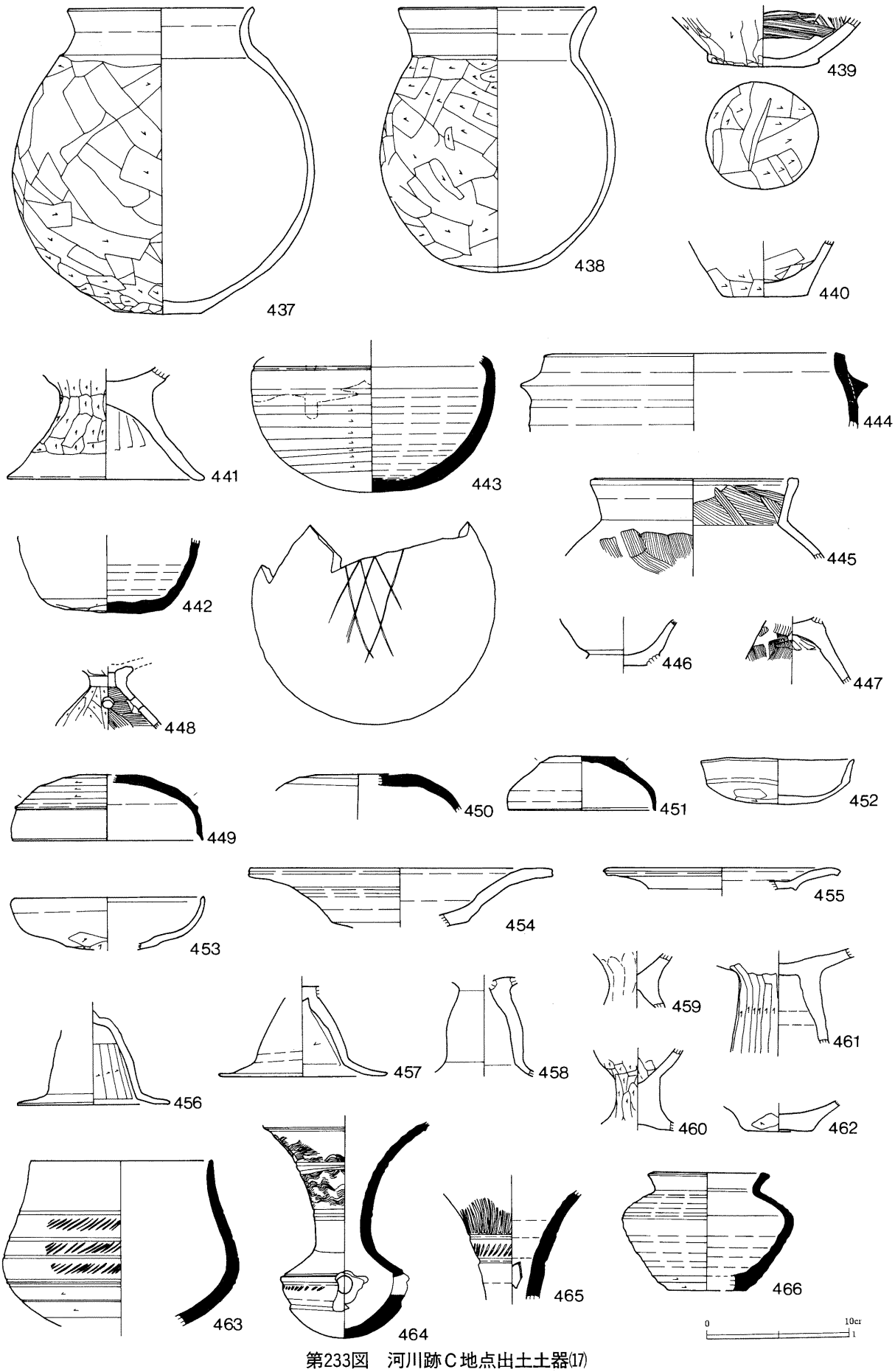
第230図　河川跡Ｃ地点出土土器(14)



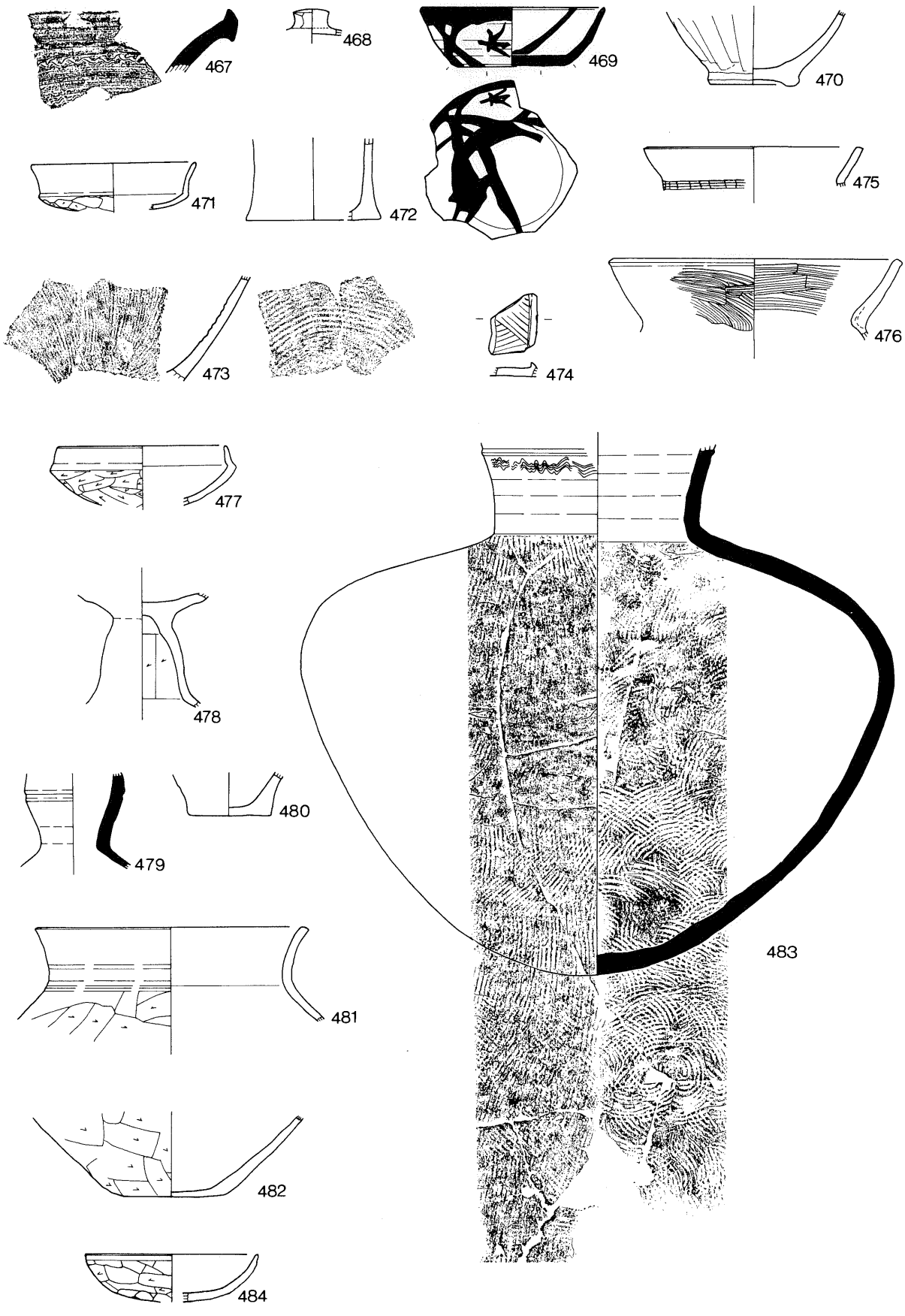
第231図　河川跡C地点出土土器(15)



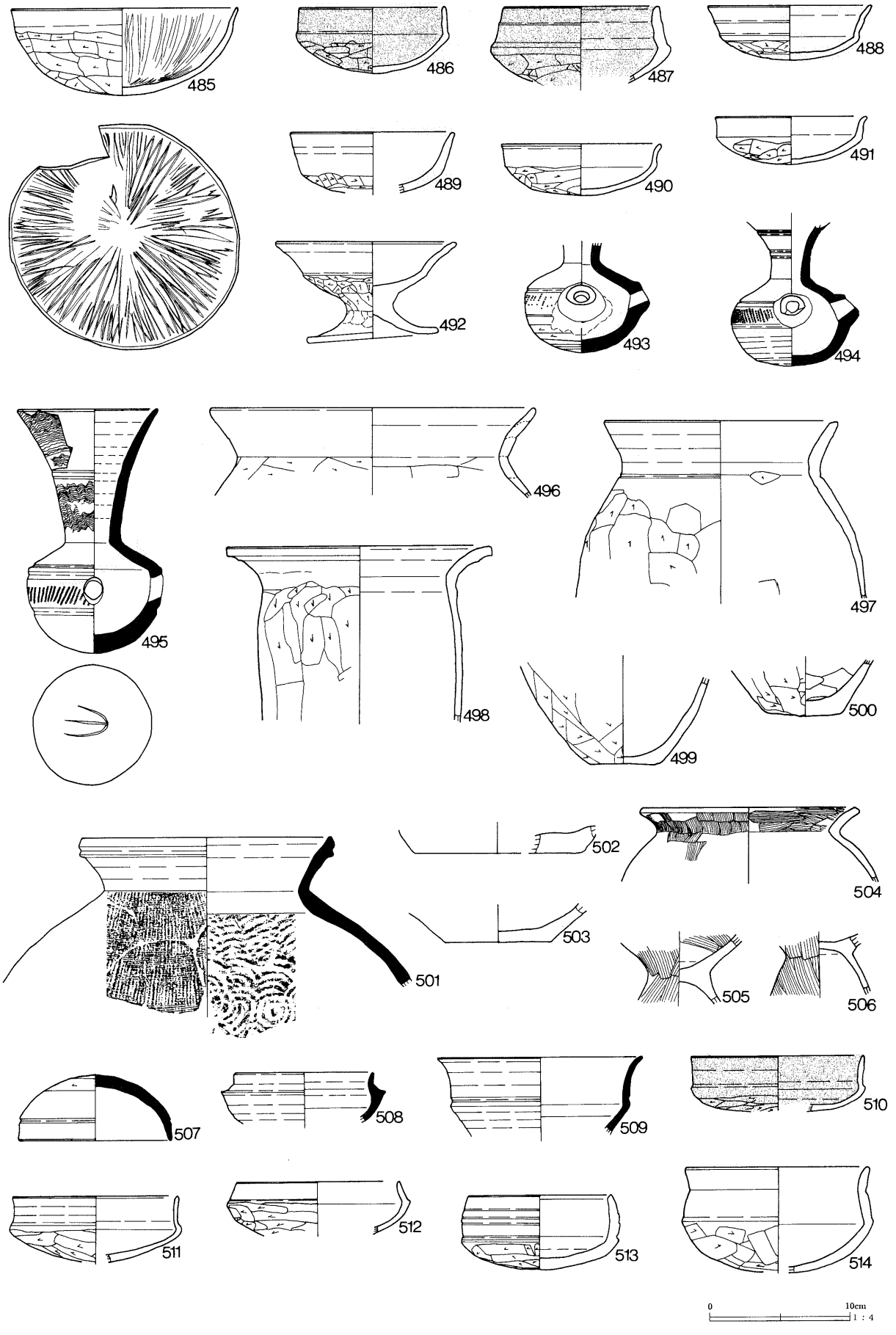
第232図　河川跡Ｃ地点出土土器(16)



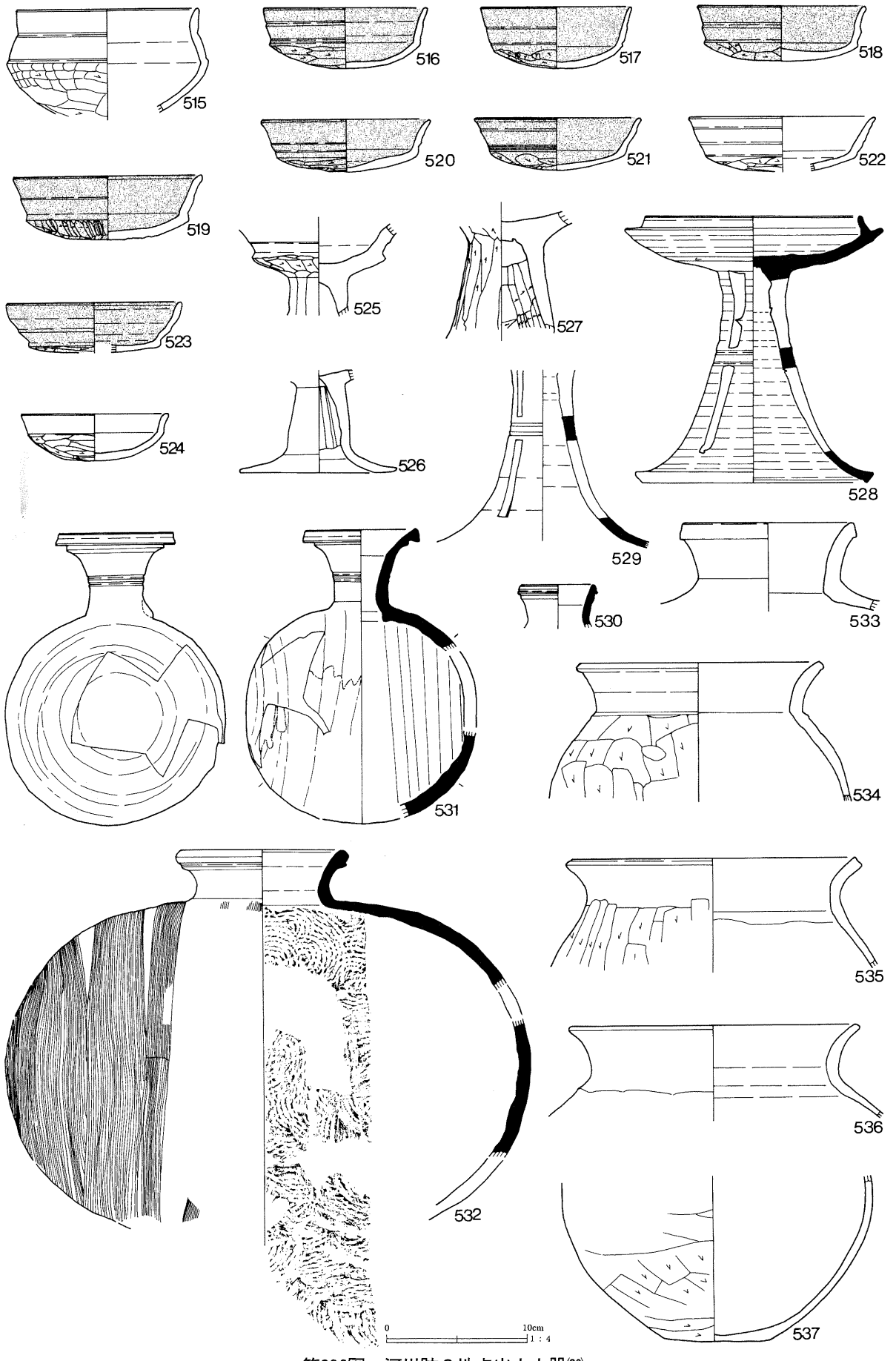
第233図　河川跡Ｃ地点出土土器(17)



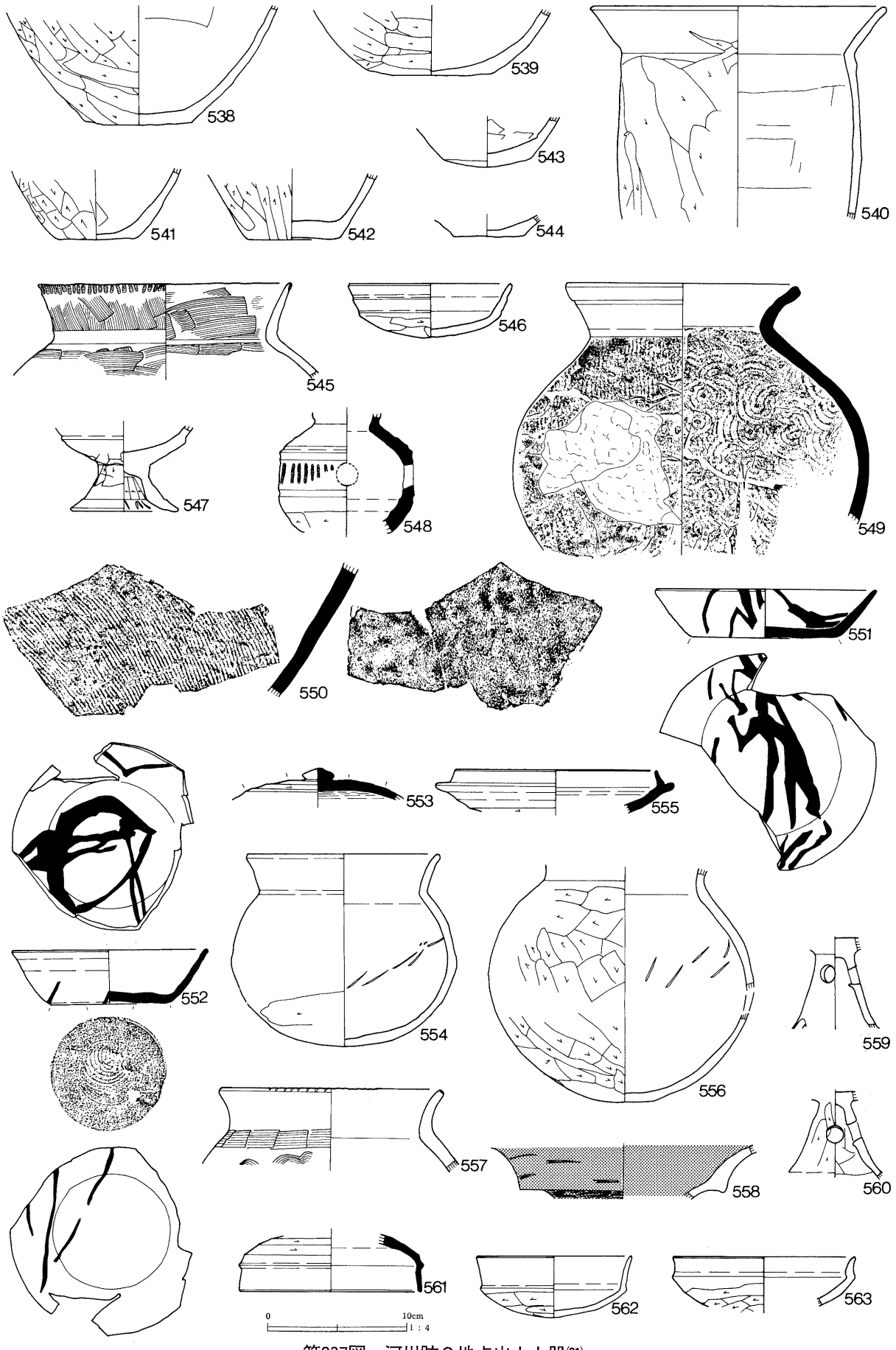
第234図　河川跡Ｃ地点出土土器(18)



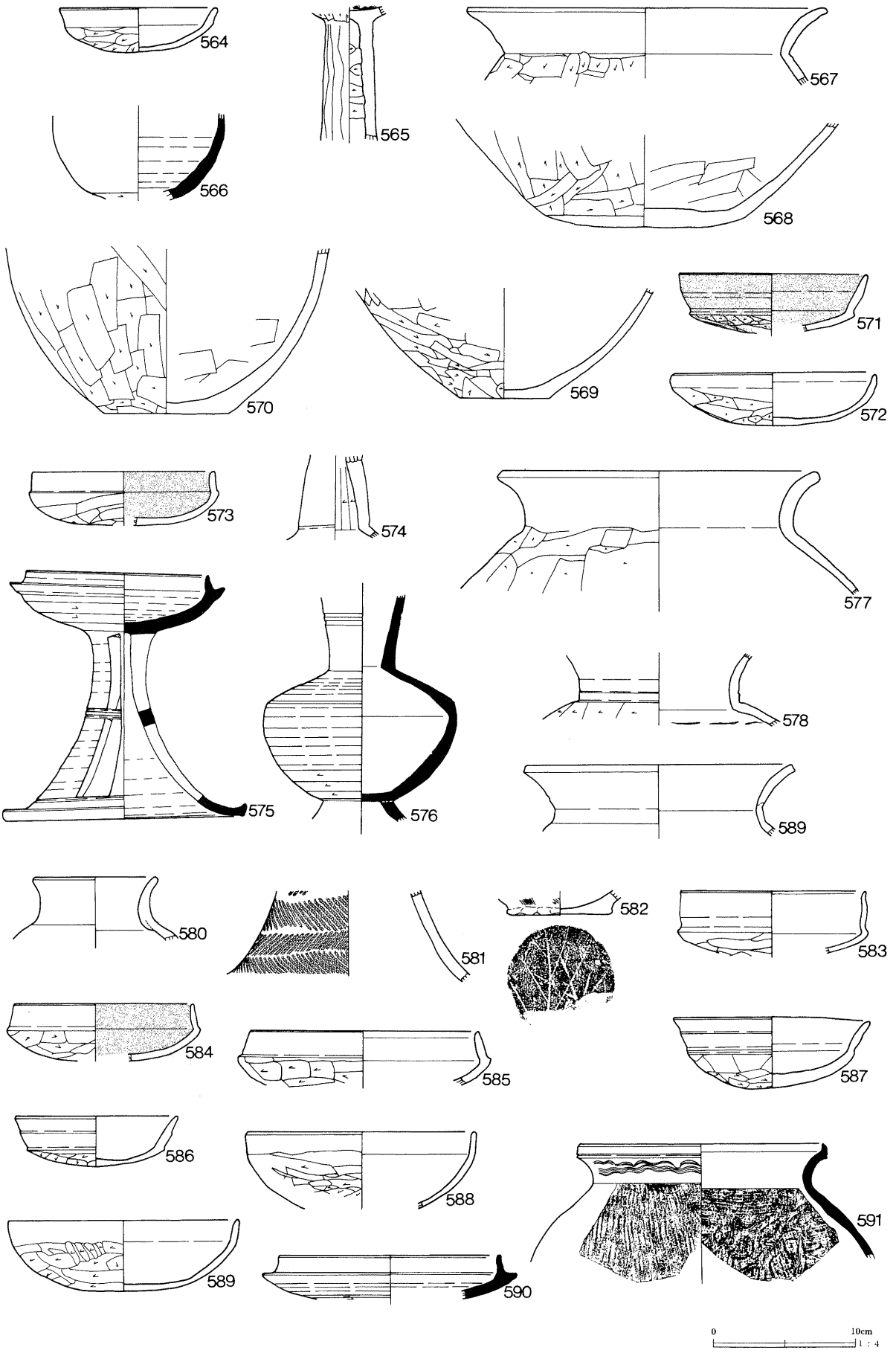
第235図　河川跡Ｃ地点出土土器(19)



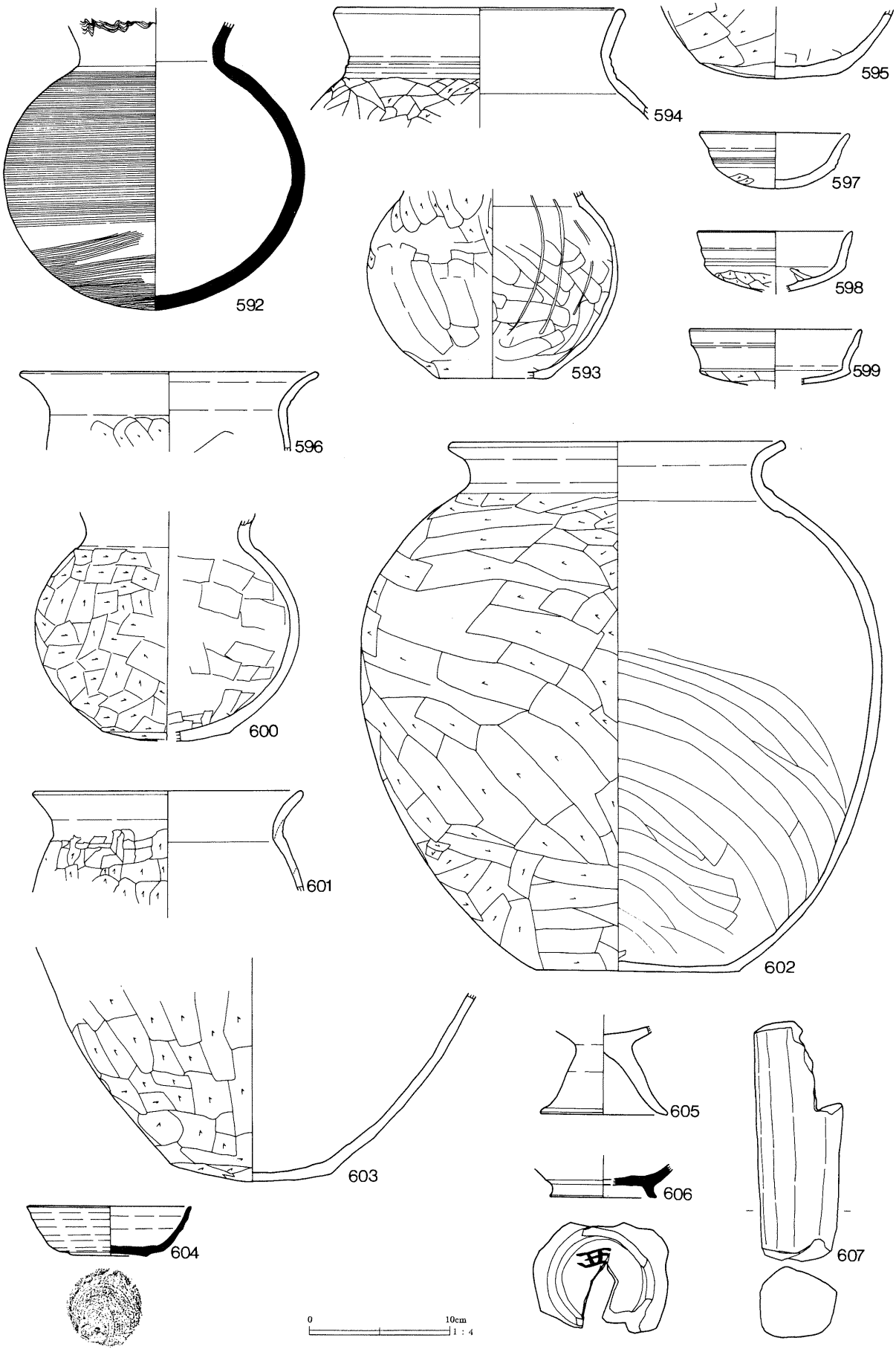
第236図　河川跡Ｃ地点出土土器(20)



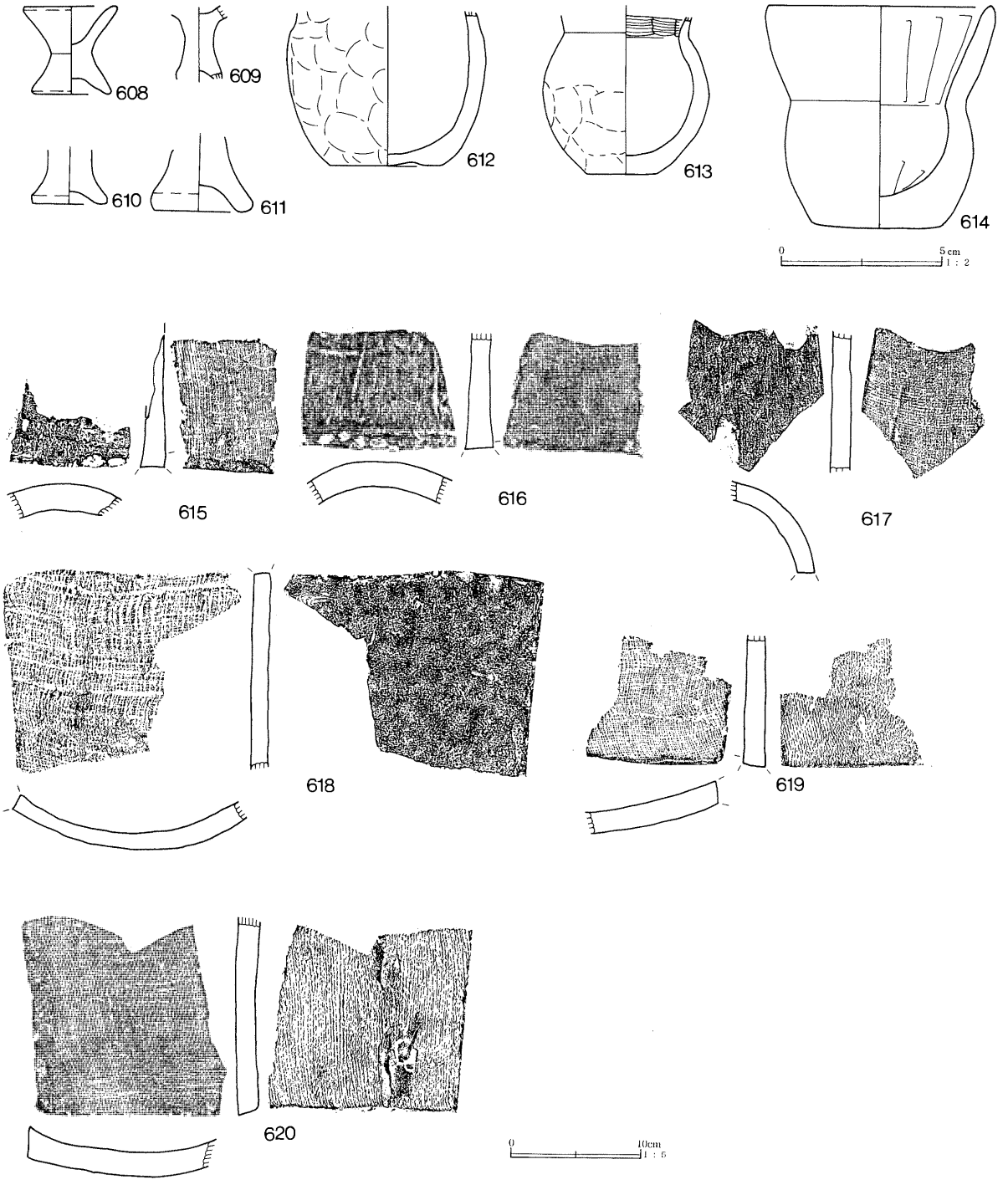
第237図　河川跡C地点出土土器(21)



第238図　河川跡Ｃ地点出土土器(22)



第239図　河川跡C地点出土土器(23)



第240図　河川跡Ｃ地点出土ミニチュア土器・瓦

第42表　河川跡Ｃ地点出土土器観察表

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	須恵器蓋	9区C21	—	—	—	ABD	灰白色	A	甲部破片	
2	須恵器椀	9区C21	—	—	(7.3)	ADGH	橙色	A	体部10%以下	内面黒色処理。
3	須恵器甕	9区C21	—	—	—	AEFN	外面：灰色　内面：暗灰色	A	10%以下	南比企産。
4	土師器甕	9区B21	—	—	5.5	AMN	にぶい橙色、にぶい褐色	A	底部100%	
5	須恵器高坏	9区B21	—	—	—	ABHN	青灰色	A	坏部破片	
6	須恵器提瓶	9区B21	—	—	—	AEN	暗青灰色	A	胴部破片	
7	須恵器蓋	9区B21	—	—	—	ABHN	灰黄色	B	甲部破片	
8	須恵器坏	9区B21	—	—	9.0	ABEN	灰色	A	底部95%	墨書「院」?
9	須恵器坏	9区B21	12.7	3.5	6.7	ABFGN	外面：灰色　内面：褐灰色	A	40%	墨書「大」?。南比企産。
10	須恵器坏	9区B21	(12.2)	3.8	7.2	ABEL	灰色、明オリーブ灰色、橙色	D	50%	末野産。
11	須恵器坏	9区B21	(12.8)	3.8	(7.4)	ABFH	黄灰色、暗青灰色	A	30%	南比企産。
12	須恵器坏	9区B21	—	—	(5.8)	ABHG	灰色	A	底部40%	墨書「山」。
13	須恵器坏	9区B21	—	—	5.4	ABGN	暗青灰色	A	底部100%	墨書「山」。
14	須恵器坏	9区B21	12.0	4.2	5.5	ABGL	青灰色	A	60%	墨書「山」。末野産。
15	須恵器坏	9区B21	(9.6)	—	—	ABL	灰色	A	口縁部破片	墨書「山」。末野産。
16	須恵器坏	9区B21	—	—	—	ABN	暗灰色	A	口縁部破片	墨書「山」。
17	須恵器坏	9区B21	—	—	(5.8)	ABG	灰白色	A	底部40%	底部外面に墨書。
18	須恵器坏	9区B21	(12.8)	5.3	7.0	ABEHILN	にぶい橙色	E	60%	
19	須恵器坏	9区B21	12.6	5.0	5.6	ABGLN	灰色	A	70%	墨書「日」。末野産。
20	須恵器坏	9区B21	13.2	5.2	5.8	AB	灰色	A	80%	墨書「山」。末野産。
21	須恵器椀	9区B21	—	—	8.6	ABEHI	にぶい黄橙色	B	底部100%	内外黒色処理。
22	灰釉陶器椀	9区B21	(16.5)	5.2	7.8	ABP	黄灰色	A	50%	東濃産。
23	須恵器甕	9区B21	—	—	—	AEFN	外面：黒色　内面：暗灰色	A	10%以下	南比企産。
24	須恵器甕	9区B21	—	—	—	AN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	胴部破片	
25	須恵器蓋	8区T21	11.5	3.7	6.6	A	灰色	A	35%	
26	土師器甕	9区B22	—	—	7.2	AN	灰白色、にぶい黄橙色	D	底部100%	内面に赤彩。
27	土師器壺	9区B22	—	—	7.4	AIMN	にぶい橙色	A	底部100%	
28	土師器坩	9区B22	—	—	—	HN	外面：灰褐色　内面：にぶい橙色	E	胴部破片	
29	土師器坏	9区B22	12.6	3.7	7.0	ABE	にぶい黄橙色	B	50%	
30	須恵器蓋	9区B22	(15.5)	4.2	—	ABF	灰色	A	35%	南比企産。
31	須恵器坏	9区B22	14.0	6.0	7.0	AGLM	灰色	A	85%	墨書「本」。末野産。
32	須恵器坏	9区B22	14.0	6.0	6.6	ABDLN	灰白色	D	98%	煤付着。末野産。
33	須恵器坏	9区B22	—	—	6.4	AEFN	灰色	A	底部95%～体部	墨書「寸」。南比企産。
34	須恵器坏	9区B22	(12.5)	3.7	5.8	AIM	灰白色	A	40%	
35	須恵器坏	9区B22	11.9	4.5	6.0	ALN	青灰色、暗青灰色	A	90%	末野産。
36	須恵器壺	9区B22	(7.8)	—	—	ABEI	外面：暗灰色　内面：黄灰色	A	頸部～胴上半部60%	内外面黒色処理。
37	須恵器長頸瓶	9区B22	—	—	8.9	AB	灰白色	A	80%	墨書「正院」。
38	弥生土器甕	9区A22	(14.0)	—	—	ABE	にぶい橙色	—	口縁部10%～胴部	
39	土師器高坏	9区A22	—	—	—	AHIKMN	赤橙色	A	坏部40%	
40	土師器高坏	9区A22	—	—	7.6	ABEN	にぶい黄橙色、橙色	A	脚部95%	
41	土師器壺	9区A22	(14.2)	—	—	AJN	外面:灰白色、灰黄褐色　内面:にぶい黄橙色	D	口縁部15%	
42	土師器壺	9区A22	—	—	7.8	AIKMN	にぶい橙色、にぶい褐色	A	底部100%	
43	土師器壺	9区A22	—	—	3.8	ACN	にぶい褐色	A	底部100%	底部穿孔。
44	土師器壺	9区A22	—	—	(5.4)	AHIMN	にぶい黄橙色	A	底部70%	
45	土師器壺	9区A22	—	—	6.5	AHIN	にぶい橙色	A	底部100%	
46	土師器壺	9区A22	—	—	6.4	ABGJN	灰黄色	A	底部100%	
47	土師器壺	9区A22	—	—	(13.2)	ABEGH	灰黄褐色	D	底部50%	
48	土師器甕	9区A22	—	—	(9.4)	ACN	赤褐色	B	不明	
49	土師器甕	9区A22	—	—	6.4	ABCJN	明黄褐色	B	底部98%	底部に黒斑。
50	土師器甕	9区A22	—	—	10.3	AJN	明赤褐色	D	底部95%	
51	土師器甑	9区A22	—	—	(6.7)	A	外面：褐色　内面：明褐色	B	底部～胴下半部30%	
52	土師器甑	9区A22	—	—	—	CN	にぶい褐色	D	把手部破片	
53	須恵器蓋	9区A22	(10.8)	3.8	—	AB	青灰色、灰色	A	40%	
54	須恵器鉢	9区A22	—	—	(7.0)	AG	外面：暗青灰色　内面：灰色	A	40%	自然釉付着。
55	須恵器壺	9区A22	—	—	—	A	灰色	A	胴部破片	
56	須恵器壺	9区A22	—	—	—	BH	灰白色	A	底部破片	底部に自然釉付着。
57	土師器坏	9区A22	(16.8)	—	—	ABEH	にぶい黄褐色	A	20%	

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
58	土師器坏	9区A22	(17.0)	4.5	—	ABJN	橙色、明赤褐色	A	30%	
59	土師器坏	9区A22	(17.0)	3.5	—	ABJ	橙色	A	60%	
60	土師器坏	9区A22	(19.0)	—	—	ABN	にぶい褐色	A	20%	
61	土師器坏	9区A22	(12.6)	(4.0)	—	ABHJN	にぶい橙色	A	25%	
62	須恵器坏	9区A22	13.6	4.3	—	ABI	にぶい橙色	B	100%	
63	土師器坏	9区A22	(11.9)	3.2	(10.4)	ABJ	暗褐色	B	60%	油煙付着。
64	土師器台付甕	9区A22	—	—	(10.0)	ABCN	外面：橙色　内面：明赤褐色	B	脚台部60%	煤・油煙付着。
65	須恵器蓋	9区A22	(11.0)	3.8	—	ABGN	灰色	A	30%	
66	須恵器坏	9区A22	(14.0)	3.5	(8.7)	ABGN	青灰色	A	40%	内面に自然釉付着。
67	須恵器坏	9区A22	(11.4)	3.7	8.3	ABGI	外面：暗灰色　内面：黒褐色	A	70%	
68	須恵器坏	9区A22	—	—	(9.3)	ABF	灰色	A	底部50%	南比企産。
69	須恵器坏	9区A22	12.0	3.6	6.7	AFN	灰色	A	100%	墨書「木」底部「？」。南比企産。
70	須恵器坏	9区A22	(14.0)	3.8	(8.0)	ABFGN	にぶい褐色	B	30%	南比企産。
71	須恵器坏	9区A22	—	—	8.7	ABF	灰色、灰黄褐色	A	底部80%	南比企産。
72	須恵器坏	9区A22	—	—	—	ABEFHJN	灰色	A	底部90%	墨書「相」。南比企産。
73	須恵器坏	9区A22	(14.2)	4.6	(5.7)	ABGHJN	浅黄橙色	B	30%	
74	須恵器甕	9区A22	(23.0)	—	—	ABN	外面：灰色　内面：暗灰色	A	20%	
75	須恵器甕	9区A22	—	—	—	ABN	灰白色	A	10%以下	
76	須恵器甕	9区A22	(58.0)	—	—	AMN	暗灰色	A	口縁部30%	
77	土師器鉢	8区T22	—	—	—	ABCN	灰黄褐色	B	底部破片	
78	須恵器高坏	8区T22	—	—	—	AB	灰色	A	坏部15%	
79	土師器高坏	8区T22	—	—	—	HKM	橙色	A	坏部10%	
80	土師器高坏	8区T22	—	—	—	ACN	にぶい褐色	E	脚部～底部40%	坏部内面に赤彩。
81	土師器甕	8区T22	—	—	5.0	AHIMNO	にぶい褐色	A	底部100%	
82	土師器壺	8区T22	—	—	4.4	BCN	灰白色	B	底部100%	
83	土師器甕	8区T22	—	—	7.4	AMNO	にぶい橙色	A	底部100%	
84	土師器甕	8区T22	(20.7)	—	—	BN	灰白色	B	口縁部～頸部20%	
85	須恵器甑	8区T22	—	—	—	A	灰色	A	体部20%	
86	須恵器甑	8区T22	—	—	—	ABFN	灰色、暗灰色	B	80～90%	底部に窯印。
87	土師器坏	8区T22	16.6	4.0	—	ABEJM	にぶい橙色、黄灰色、	B	75%	
88	土師器坏	8区T22	(14.0)	2.5	—	ABEJ	明赤褐色	A	40%	放射状暗文。
89	須恵器高坏	9区A23	(11.8)	—	—	ABN	褐灰色	D	坏部65%	
90	須恵器高坏	9区A23	13.2	—	—	ABGN	青灰色	A	坏部70%	有蓋。
91	土師器坏	9区A23	(16.4)	—	—	ABI	にぶい橙色	A	20%	口縁部に黒斑。
92	土師器甕	9区A23	(21.0)	—	—	CJN	外面：橙色　内面：浅黄橙色	D	口縁部30%～胴上半部	
93	須恵器甕	9区A23	(18.8)	—	—	AN	暗灰色、灰色、灰白色	A	10%以下	
94	須恵器坏	9区A23	—	—	9.8	ABFN	灰色	A	底部95%	南比企産。
95	須恵器坏	9区A23	—	—	(4.8)	IMO	にぶい黄橙色	D	40%	
96	須恵器高坏	8区T23	11.8	—	—	AB	暗青灰色	A	坏部50%	自然釉付着。
97	須恵器高坏	8区T23	(12.8)	—	—	ABN	外面：灰色　内面：灰白色	A	坏部70%	有蓋。
98	須恵器瓶	8区T23	—	—	—	ABN	灰色	A	底部破片	
99	土師器壺	8区T23	—	—	6.5	AN	灰白色	D	底部100%	
100	土師器壺	8区T23	—	—	(10.0)	ABDIMN	橙色	B	底部45%	
101	土師器甕	8区T23	—	—	7.3	MN	にぶい橙色	A	底部100%	風化顕著。
102	土師器甕	8区T23	—	—	7.8	ABEJM	灰黄褐色	A	底部60%	
103	須恵器甕	8区T23	(17.0)	—	—	IKMN	にぶい橙色	A	口縁部25%	
104	土師器坏	8区T23	12.2	4.0	10.0	ABEJN	にぶい橙色	B	90%	油煙付着。
105	須恵器坏	8区T23	—	—	9.4	AFGN	灰色	A	底部95%	墨書。南比企産。
106	須恵器坏	8区T23	(13.5)	3.4	(6.5)	ABFN	灰色	A	口縁部20%	南比企産。
107	須恵器坏	8区T23	—	—	(6.6)	ABL	黄灰色、灰白色	B	底部10%	外面「？」内面「山」。末野産。
108	須恵器坏	8区T23	—	—	7.6	ABE	灰黄褐色	D	底部80%～体部下半	
109	須恵器椀	8区T23	—	—	6.5	ABGN	灰色	A	底部100%～体部下半	体部外面に墨書。末野産。
110	土師器台付甕	8区T23	—	—	(10.5)	CJMN	外面：橙色　内面：浅黄橙色	D	脚部85%	
111	土師器壺	8区S23	(14.0)	—	—	AHN	浅黄色	E	口縁部25%	
112	土師器壺	8区S23	(25.0)	—	—	AJ	浅黄橙色　内面：灰白色	D	口縁部15%	
113	須恵器甑	8区S23	—	—	—	ABN	灰色	A	胴下半部10%以下	
114	土師器坏	8区S23	—	—	—	ABEI	にぶい橙色	A	底部破片	墨書「木」か。
115	土師器高坏	8区R23	—	—	—	HMN	橙色	A	坏部20%	

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
116	土師質土器坏	8区R23	(10.4)	3.5	5.6	ABEJ	外面：橙色　内面：にぶい褐色	B	80%	
117	三彩陶器小壺	9区A24	(2.6)	3.7	(3.7)	ABP	外面：灰白色　内面：浅黄色	B	50%	釉薬剝落著しい。
118	土師器坏	9区A24	10.6	3.0	—	AHJ	外面：灰黄褐色　内面：褐灰色	A	100%	
119	土師器椀	8区T24	12.6	4.5	5.6	AIMN	外面：にぶい橙色　内面：黒色	A	35%	内外面黒色処理。
120	灰釉陶器皿	8区T24	—	—	6.8	ABN	灰色	A	底部80%	東濃産。
121	須恵器坏	8区S24	—	—	(10.8)	ABGF	外面：灰白色　内面：灰黄色	A	底部50%	南比企産。
122	須恵器坏	8区S24	(14.9)	3.2	—	ABF	灰色	A	30%	南比企産。
123	須恵器坏	8区S24	—	—	8.4	ABFHN	灰色	A	40%	南比企産。
124	須恵器皿	8区S24	13.0	3.1	6.0	ABEGLN	外面：灰色　内面：灰白色	D	70%	末野産。
125	須恵器坏	8区S24	12.8	3.7	6.5	ABFGM	暗青灰色、灰色	A	70%	墨書「上公大」。南比企産。
126	須恵器皿	8区S24	(14.0)	2.8	7.8	ABDMN	外面：灰色　内面：灰黄色	A	70%	末野産。
127	須恵器坏	8区S24	12.2	4.8	5.6	AJ	灰白色、にぶい橙色	B	95%	
128	須恵器坏	8区S24	12.6	3.9	5.7	ABDGHL	外面：黄灰色　内面：褐灰色	B	80%	墨書外面「回」、内面「日」。末野産。
129	須恵器坏	8区S24	13.5	4.6	6.5	AB	外面：灰白色　内面：灰黄色	A	70%	
130	須恵器坏	8区S24	—	—	—	AB	外面：灰黄色　内面：灰色	A	口縁部破片	墨書「日」。
131	須恵器坏	8区S24	—	—	—	ABJ	外面：灰色　内面：黄灰色	A	体部破片	墨書「舎」?
132	土師器甕	8区S24	—	—	6.0	ACJN	外面：黒色　内面：にぶい橙色	B	底部100%	煤付着。
133	須恵器蓋	8区R24	(11.8)	—	—	B	灰白色	A	口縁部15%	
134	土師器壺	8区R24	—	—	7.0	ABEGHJ	にぶい黄橙色	D	底部100%	内面に赤彩。
135	土師器甕	8区R24	—	—	6.8	ABEM	にぶい黄橙色	A	底部100%	
136	須恵器甕	8区R24	—	—	—	ABGLN	灰色	A	10%以下	末野産。
137	須恵器甕	8区R24	—	—	—	AEFN	外面：灰白色　内面：灰色	A	10%以下	南比企産。
138	須恵器甕	8区R24	—	—	—	ABEN	灰色	D	10%以下	
139	土師器坏	8区R24	(11.5)	3.6	—	ABJ	にぶい褐色	A		墨書「木」。
140	須恵器蓋	8区R24	—	—	—	AFGN	暗青灰色	A	60%	南比企産。
141	須恵器坏	8区R24	14.3	3.2	9.3	AF	にぶい赤褐色、暗青灰色	A	70%	南比企産。
142	須恵器坏	8区R24	—	—	7.4	ABFGN	黄灰色	A	底部100%	墨書「木」。南比企産。
143	須恵器坏	8区R24	—	—	—	ABFN	灰色	A	10%以下	底部外面に墨書。南比企産。
144	土師器坏	8区R24	—	—	—	ABF	灰色	A	10%以下	底部外面に墨書。南比企産。
145	須恵器坏	8区R24	—	—	(10.8)	ABEFGM	にぶい黄橙色	A	底部破片	底部外面に墨書。南比企産。
146	須恵器坏	8区R24	12.2	3.4	6.3	ABFGN	暗灰色	A	100%	漆状付着物。南比企産。
147	須恵器坏	8区R24	(10.0)	—	—	ABEIN	紫灰色	A	底部～体部下半20%	
148	須恵器椀	8区R24	(13.2)	5.6	6.5	ABE	にぶい赤褐色	B	60%	
149	須恵器椀	8区R24	(16.0)	(6.9)	(8.5)	ABGLN	暗灰色	A	60%	
150	須恵器椀	8区R24	13.5	5.6	6.0	ABEGN	灰色	A	85%	
151	須恵器皿	8区R24	(14.8)	2.5	6.0	ABILN	暗灰色、灰色	A	70%	墨書「木」。末野産。
152	須恵器皿	8区R24	(13.0)	2.4	5.0	ABN	灰色	B	40%	墨書「木」。末野産。
153	須恵器皿	8区R24	(14.8)	2.3	(6.5)	ABGLN	灰色	A	40%	墨書。末野産。
154	土師器壺	8区Q24	—	—	—	IKM	にぶい赤褐色	A	口縁部80%	
155	土師器坏	8区Q24	11.6	3.5	—	ADJN	灰褐色	A	100%	油煙付着。
156	須恵器坏	8区Q24	—	—	8.7	ABF	にぶい黄褐色、灰黄色	B	底部90%	墨書。
157	須恵器坏	8区Q24	—	—	—	ABF	橙色、褐灰色	A	底部破片	墨書。南比企産。
158	須恵器坏	8区Q24	12.4	3.4	6.0	ABGLN	灰色	A	100%	墨書「木」。末野産。
159	須恵器坏	8区Q24	—	—	(6.2)	ABF	灰色	A	底部破片	墨書「寺」?。南比企産。
160	須恵器坏	8区Q24	—	—	—	ABF	灰色	A	底部破片	墨書。南比企産。
161	須恵器椀	8区Q24	12.7	5.6	5.9	ABHL	灰色、暗灰色	A	80%	墨書「本」。末野産。
162	須恵器椀	8区Q24	(13.5)	—	—	AEHJ	にぶい黄橙色	B	40%	
163	須恵器椀	8区Q24	—	—	(6.0)		褐灰色、にぶい橙色	A	30%	内面黒色処理。
164	須恵器甕	8区Q24	—	—	—	AEG	灰色	A	胴部破片	
165	須恵器蓋	8区R25	(19.0)	(2.2)	—	ABEFIN	外面：黄灰色　内面：褐灰色	A	40%	
166	須恵器坏	8区R25	(13.1)	3.5	9.7	ABEN	灰色	A	60%	
167	須恵器坏	8区R25	(16.8)	4.0	(8.2)	ABEIN	灰白色	D	45%	
168	須恵器坏	8区R25	(11.7)	—	—	ABF	灰色	A	口縁部10%	墨書「田」。南比企産。
169	須恵器椀	8区R25	(13.0)	5.3	6.0	ABEIN	灰色	A	80%	
170	須恵器椀	8区R25	—	—	6.6	ABN	黄灰色	A	底部100%	
171	須恵器椀	8区R25	(15.0)	6.1	(6.0)	ABEIN	灰色、黄灰色	B	45%	
172	土師器坏	8区R25	(12.0)	3.9	—	ABI	褐色	D	50%	
173	灰釉陶器皿	8区R25	—	—	6.8	ABD	灰白色	A	底部100%	浜北産。

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
174	土師器坏	8区Q25	(13.5)	(3.5)	(7.5)	ABI	にぶい褐色	A	口縁部25%	
175	須恵器坏	8区Q25	(13.0)	3.6	6.6	ABEI	黄灰色	D	45%	
176	須恵器坏	8区Q25	(13.0)	4.2	(6.3)	ABN	極暗赤褐色	A	60%	内面に煤付着。
177	須恵器坏	8区Q25	—	—	4.5	ABEIN	暗灰色、灰色	A	底部100%～体部	
178	須恵器坏	8区Q25	—	—	5.4	ABEIN	褐灰色	A	底部100%～体部	
179	須恵器坏	8区Q25	(12.6)	4.1	(5.2)	ABEIN	黄灰色、浅黄色	A	50%	
180	須恵器坏	8区Q25	—	—	6.0	AILN	褐灰色	A	底部100%～体部	
181	須恵器椀	8区Q25	—	5.3	(5.5)	ABEIN	黒褐色	A	40%	
182	灰釉陶器椀	8区Q25	(13.2)	4.2	(6.0)	ABEIN	外面：灰色　内面：褐灰色	A	70%	
183	土師器甕	8区Q25	(13.6)	—	—	IM	にぶい橙色	A	口縁部30%	炭化物付着。
184	土師器甕	8区Q25	(18.5)	—	—	AIM	褐灰色	A	口縁部40%	外面に煤付着。
185	土師器台付甕	8区Q25	—	—	9.0	ABN	灰黄色	D	脚台部80%	
186	土師器高坏	8区R26	—	—	—	IKM	灰褐色	A	坏部破片	
187	土師器高坏	8区R26	—	—	—	ABDI	明赤褐色、橙色	B	底部80%	
188	土師器高坏	8区R26	—	—	(7.5)	EHIKMN	にぶい橙色	A	脚部50%	外面に赤彩。
189	土師器高坏	8区R26	—	—	(13.1)	ABEIN	橙色	A	40%	脚部煤付着。
190	土師器器台	8区R26	—	—	—	BCHN	にぶい黄橙色	B	脚部50%	
191	土師器甕	8区R26	—	—	(9.0)	ABEGIN	にぶい黄橙色	A	底部破片	
192	土師器甕	8区R26	—	—	7.3	ABEI	灰黄褐色	A	底部破片	
193	土師器甕	8区R26	—	—	6.9	ABEI	灰白色	A	底部100%	
194	土師器甕	8区R26	—	—	8.9	ABEI	にぶい黄橙色	A	底部100%	
195	土師器甕	8区R26	—	—	8.5	ABE	浅黄橙色	A	底部100%	
196	土師器甕	8区R26	—	—	5.7	ABEIN	にぶい黄橙色	B	底部100%	
197	土師器甕	8区R26	(20.8)	—	—	ABEHIN	にぶい黄橙色	A	口縁部30%	
198	土師器甕	8区R26	—	—	8.3	ABJ	褐灰色	B	底部100%～胴部	
199	須恵器壺	8区R26	—	—	—	AMN	灰色	A	60%	
200	土師器坏	8区R26	(13.0)	3.3	—	ABIN	明褐色	A	60%	
201	須恵器坏	8区R26	(15.0)	3.6	(9.4)	ABFN	灰色	A	60%	墨書「木」。南比企産。
202	須恵器坏	8区R26	(14.0)	3.9	8.5	ABFN	灰白色	A	60%	南比企産。
203	須恵器坏	8区R26	—	—	(9.8)	ABEF	灰白色	A	底部20%	墨書「十」。南比企産。
204	須恵器坏	8区R26	(14.4)	3.3	(10.0)	ABFN	灰色	A	80%	南比企産。
205	須恵器坏	8区R26	—	—	(9.3)	ABCFN	灰白色	A	底部100%	墨書「浄」。南比企産。
206	須恵器坏	8区R26	13.3	3.2	7.5	ABFN	灰色、暗灰色	A	100%	南比企産。
207	須恵器坏	8区R26	—	—	(8.5)	ABEFIN	灰黄褐色、灰色	A	底部30%	
208	須恵器坏	8区R26	—	—	—	ABN	外面：灰黄色　内面：黄灰色	A	口縁部破片	墨書「田」。
209	須恵器坏	8区R26	—	—	—	ABF	暗灰色	A	底部片30%	転用硯。南比企産。
210	須恵器椀	8区N23	—	—	7.4	AEGI	褐灰色	B	底部100%	
211	土師器高坏	9区A24	—	—	9.8	MN	にぶい黄橙色	A	脚部30%	
212	土師器器台	9区A24	(9.2)	—	—	NJ	にぶい橙色	A	40%	
213	土師器甕	9区A24	—	—	7.8	ACN	外面：褐色　内面：橙色	D	底部100%	
214	土師器甕	9区A24	—	—	7.8	AJN	にぶい黄橙色	E	底部100%	
215	土師器甕	9区A24	—	—	9.2	ABCN	にぶい黄橙色	B	底部100%	
216	土師器坏	9区A24	(12.5)	(3.6)	—	ABJ	褐色	A	25%	
217	土師器高坏	9区A24	—	—	(9.5)	NJ	褐灰色	D	脚部100%	煤付着。
218	須恵器提瓶	9区A24	—	—	—	AB	オリーブ灰色	A	頸部100%	自然釉付着。
219	須恵器甕	9区A24	—	—	—	AB	灰色	A	10%以下	
220	須恵器甕	9区A24	—	—	—	AH	暗灰色	A	10%以下	内面に自然釉付着。
221	須恵器甕	9区A24	—	—	—	ABGLN	灰色	A	胴部破片	
222	土師器坏	8区T24	(11.3)	4.8	—	AEHJM	橙色	A	30%	
223	須恵器蓋	8区T24	(13.0)	3.1	5.0	ABN	灰白色	A	40%	
224	須恵器坏身	8区T24	(9.7)	—	—	ABN	灰色	A	40%	
225	土師器高坏	8区T24	—	—	—	ABCJ	橙色	C	坏部破片	
226	土師器甕	8区T24	—	—	4.5	AMN	にぶい黄橙色	A	底部100%	
227	土師器壺	8区T24	—	—	6.0	HIKMN	にぶい橙色	A	底部100%	胴部外面に赤彩。
228	土師器甕	8区T24	—	—	8.3	CN	褐灰色	E	底部100%	
229	土師器甑	8区T24	—	—	(4.2)	AN	黒褐色、灰黄褐色	D	底部45%	
230	土師器甑	8区T24	—	—	—	ACMN	灰黄褐色	D	把手部破片	
231	須恵器壺	8区T24	—	—	—	A	灰色	A	80%	

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
232	須恵器甕	8区T24	—	—	—	A	暗灰色	A	胴部破片	
233	須恵器甕	8区T24	—	—	—	ABEGN	暗灰色、黒色	A	10%以下	
234	須恵器甕	8区T24	—	—	—	M	灰色	A	胴上半部40%	
235	土師器壺	8区S24	—	—	—	CJHN	灰白色	D	口縁部15%	
236	土師器高坏	8区S24	—	—	8.0	AMN	橙色	A	脚部80%	
237	須恵器甑	8区S24	—	—	—	A	灰色	A	体部破片	
238	須恵器壺	8区S24	—	—	(7.0)	ABEN	褐色	A	60%	
239	須恵器提瓶	8区S24	—	—	—	AB	青灰色	A	胴部破片	
240	須恵器甕	8区S24	(19.6)	—	—	ABGN	灰色	A	口縁部20%	
241	須恵器甕	8区S24	(20.0)	—	—	AF	灰色	A	口縁部～胴上半部破片	南比企産。
242	須恵器甕	8区S24	—	—	—	AB	褐色	A	10%以下	外面に自然釉付着。
243	須恵器甕	8区S24	—	—	(14.2)	AGN	暗青灰色	A	底部35%～胴下半部	
244	須恵器坏	9区C25	12.6	3.7	6.6	ABEFN	灰色、灰白色	A	100%	内外面に墨書。南比企産。
245	土師器手焙形土器	9区B25	—	—	—	ACN	褐灰色	B	覆部破片	
246	土師器坏	9区B25	(12.0)	4.4	—	ABDI	黒色	B	60%	
247	土師器坏	9区B25	(12.4)	(3.8)	(10.8)	ABEI	暗灰色	A	65%	
248	土師器坏	9区B25	11.2	4.8	—	ABIN	橙色	D	90%	
249	土師器坏	9区B25	(12.4)	5.0	—	ABEI	橙色	B	80～90%	
250	土師器坏	9区B25	(13.7)	—	—	ABEI	明赤褐色	A	20%	
251	土師器鉢	9区B25	(17.4)	—	—	ABEI	褐灰色	A	口縁部20%	
252	土師器高坏	9区B25	—	—	(9.6)	ABEI	橙色	A	40%	
253	土師器高坏	9区B25	—	—	(9.0)	ABDHJ	橙色、にぶい橙色	C	脚部70%	
254	土師器甕	9区B25	—	—	—	ABEIN	明赤褐色	A	口縁部破片	
255	土師器甕	9区B25	—	—	—	ABEI	橙色	D	底部60%	
256	土師器甑	9区B25	—	—	—	ABEIN	黒褐色	A	口縁部40%	
257	須恵器椀	9区B25	(13.1)	4.4	7.4	ABE	にぶい橙色	D	50%	ヘラ記号「#」。
258	土師器壺	9区A25	—	—	—	AIKM	にぶい橙色	A	10%	
259	弥生土器壺	9区A25	—	—	5.6	AEN	明赤褐色	E	底部95%	
260	弥生土器壺	9区A25	—	—	(14.2)	AEIN	黒褐色	E	底部25%	
261	土師器坏	9区A25	(11.2)	—	—	ABEI	黒色	A	50%	内外面黒色処理。
262	土師器坏	9区A25	(12.2)	—	—	ABEIN	橙色	A	40%	
263	土師器坏	9区A25	(13.0)	(3.8)	—	ABEIN	にぶい黄橙色	A	40%	
264	土師器坏	9区A25	(12.6)	—	—	ABI	褐灰色、灰白色	B	40%	
265	土師器坏	9区A25	(14.6)	—	—	AM	にぶい橙色	E	30%	
266	土師器坏	9区A25	(10.5)	4.0	—	ABEI	橙色、にぶい橙色	A	30%	外面黒色処理。
267	土師器坏	9区A25	12.4	5.2	—	ABID	にぶい褐色	B	100%	
268	土師器坏	9区A25	8.8	5.4	—	ABN	橙色	B	50%	
269	土師器坏	9区A25	(11.0)	3.6	—	ABEN	にぶい黄橙色	B	60%	内外面に赤彩。
270	土師器高坏	9区A25	—	—	(9.1)	ABEI	にぶい黄橙色	A	脚部100%	
271	土師器高坏	9区A25	—	—	8.8	ABE	にぶい褐色	A	底部破片	内面に付着物。
272	須恵器甑	9区A25	—	—	—	AEGM	黒褐色、褐灰色	E	80%	表面摩滅著しい。
273	土師器甕	9区A25	(13.3)	—	—	ABEIN	橙色	A	口縁部破片	
274	土師器甕	9区A25	(15.4)	(17.4)	(10.3)	ABEIN	浅黄橙色	A	70%	外面に煤付着。
275	土師器甕	9区A25	(22.5)	—	—	ABEI	にぶい黄橙色	A	口縁部25%	
276	土師器甕	9区A25	(22.0)	—	—	ABEIN	にぶい黄橙色	A	口縁部30%	
277	須恵器高坏	9区A25	(10.6)	—	—	AG	暗灰色	A	20%	内外面に自然釉付着。
278	須恵器甕	9区A25	—	—	—	AB	灰色	A	10%以下	
279	須恵器甕	9区A25	—	—	—	ABN	にぶい黄色	D	胴部破片	
280	須恵器甕	9区A25	—	—	—	AM	暗灰色、灰色	A	胴上半部50%	自然釉付着。
281	土師器台付甕	8区T25	—	—	—	ABDGIN	浅黄橙色	B	脚部～胴下半部破片	
282	土師器坏	8区T25	(11.7)	—	—	ABEIN	にぶい黄褐色	D	40%	内外面に赤彩。
283	須恵器坏	8区T25	(16.2)	—	—	ABEI	褐色	A	底部～胴下半部破片	
284	須恵器甕	8区T25	(17.7)	—	—	ABEN	灰白色	A	20%	
285	須恵器甕	8区T25	—	—	—	ABEN	外面：暗灰色　内面：灰色	A	口縁部10%	内面に自然釉付着。
286	土師器器台	8区S25	—	—	—	CGN	浅黄色	E	脚部50%	3方にスカシ孔。
287	土師器高坏	8区S25	—	—	(7.5)	AN	灰褐色	D	脚部60%	
288	土師器高坏	8区S25	—	—	(9.0)	ABE	にぶい橙色	A	40%	内面に粘土紐の接合痕。
289	須恵器蓋	8区S25	(11.0)	3.9	—	AB	灰色	A	40%	

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
290	須恵器蓋	8区S25	(14.4)	(3.8)	(7.5)	ABEN	灰色	A	70%	
291	須恵器蓋	8区S25	(14.1)	(3.8)	(7.6)	ABN	灰色	A	30%	
292	土師器坏	8区S25	11.0	—	—	AHIM	灰黄色	A	口縁部15%	
293	土師器坏	8区S25	(11.2)	3.6	—	ABEI	橙色	B	40%	
294	土師器坏	8区S25	(10.8)	(3.5)	—	ABI	橙色	D	30%	
295	土師器高坏	8区S25	—	—	—	ABEIN	橙色	A	脚部80%	外面に赤彩。赤彩はほぼ剝落。
296	須恵器高坏	8区S25	—	—	(12.5)	ABIN	灰黄色	A	脚部70%	2段のスカシ孔。
297	土師器甕	8区S25	—	—	5.4	ABI	褐灰色	A	50%	
298	土師器甕	8区S25	—	—	5.3	ABE	褐灰色	A	50%	
299	土師器甕	8区S25	—	—	5.7	ABEI	灰黄褐色	D	底部90%	
300	土師器甕	8区S25	13.4	12.4	(5.4)	ABEIN	にぶい褐色	D	70～80%	煤付着。
301	須恵器壺	8区S25	—	—	—	ABEIN	灰白色	A	50%	
302	須恵器壺	8区S25	—	—	—	AN	灰色	B	胴上半部破片	
303	須恵器甕	8区S25	—	—	—	AHM	黄灰色	A	胴部破片	
304	須恵器甕	8区S25	—	—	—	ABH	灰色	A	胴部破片	
305	須恵器甕	8区S25	—	—	—	ABN	暗灰色	D	胴上半部破片	
306	須恵器坏	8区S25	—	—	10.3	ABFI	灰色	A	50%	
307	土師器台付甕	8区R25	—	—	(7.2)	AMN	にぶい橙色	A	脚台部70%	
308	土師器台付甕	8区R25	—	—	—	ABEIN	にぶい橙色	A	脚台部破片	
309	土師器高坏	8区R25	—	—	—	ABI	灰白色	B	脚部30%	スカシ孔。
310	須恵器蓋	8区R25	(10.5)	—	—	AB	灰黄色	A	口縁部20%	
311	土師器甕	8区R25	—	—	7.8	ABEIN	にぶい黄橙色	A	底部100%	
312	須恵器提瓶	8区R25	(11.0)	—	—	ABN	灰色、黒褐色	A	40%	
313	須恵器壺	8区R25	—	—	—	AFN	オリーブ黒色	A	頸部25%	南比企産。
314	須恵器甕	8区R25	(40.0)	—	—	ABFN	灰白色	A	10%以下	南比企産。
315	須恵器甕	8区R25	—	—	—	AEFN	灰色	A	胴部破片	南比企産。
316	土師器甑	8区Q25	—	—	(4.6)	N	明赤褐色	A	底部40%	
317	須恵器瓶	8区Q25	(8.5)	—	—	AB	黄灰色、灰色	A	口縁部20%	
318	弥生土器甕	9区B26	(20.0)	—	—	ABI	黒褐色	C	口縁部10%以下	
319	土師器坏	9区B26	11.3	4.0	—	AIN	にぶい橙色	A	100%	
320	土師器高坏	9区B26	—	—	—	ABEI	外面：黄灰色　内面：黒褐色	A	30%	
321	土師器甕	9区B26	(15.5)	—	—	ABEIN	外面：褐灰色　内面：黒褐色	A	口縁部～胴上半部60～70%	頸部に煤付着。
322	須恵器甕	9区B26	—	—	—	ABEN	外面：灰白色　内面：灰色	A	胴部破片	
323	土師器坏	9区B26	(14.0)	(4.8)	(7.2)	ABEI	にぶい赤褐色	D	20%	
324	須恵器坏	9区B26	11.5	3.8	(6.2)	ABEI	褐灰色	A	20%	
325	土師器台付甕	9区B26	(13.4)	—	—	ABEIN	外面：黒色　内面：灰黄褐色	A	口縁部～頸部60%	
326	土師器台付甕	9区B26	—	—	(10.0)	ABDN	橙色、明赤褐色	A	底部100%	
327	弥生土器甕	9区A26	(20.0)	—	—	AB	外面：褐灰色　内面：にぶい橙色	C	口縁部25%	
328	弥生土器壺	9区A26	—	—	(9.5)	A	黒褐色	C	底部25%	
329	土師器台付甕	9区A26	—	—	—	CJN	外面：浅黄橙色　内面：橙色	A	脚台部40%	
330	土師器高坏	9区A26	—	—	—	ABEIN	黒色	A	坏部破片	
331	土師器高坏	9区A26	—	—	—	ABEIN	赤色、にぶい橙色	D	脚部70%	
332	土師器高坏	9区A26	—	—	—	ABEHI	褐灰色	A	50%	3単位のスカシ孔。
333	土師器坏	9区A26	11.4	4.1	—	ABE	にぶい橙色	A	95%	
334	土師器坏	9区A26	(11.5)	3.7	—	ABEI	橙色	B	60%	
335	土師器坏	9区A26	12.0	4.0	—	ABNI	外面：にぶい褐色　内面：黒色	B	90%	
336	土師器坏	9区A26	12.8	4.2	11.0	BEI	外面：明褐色　内面：橙色	D	100%	
337	土師器坏	9区A26	11.8	4.1	—	ABI	にぶい橙色	D	90%	
338	土師器坏	9区A26	(11.4)	—	—	ABDIN	明赤褐色	D	30%	
339	土師器高坏	9区A26	—	—	—	ABEI	にぶい黄橙色	B	脚部50%	
340	土師器壺	9区A26	—	—	6.8	ABEI	にぶい黄橙色	C	底部破片	
341	土師器甕	9区A26	—	—	—	ABDIN	にぶい黄橙色	B	60%	外面に煤付着。
342	土師器甕	9区A26	(19.3)	—	—	ABEI	褐色	B	口縁部30%	
343	土師器壺	9区A26	(22.3)	—	—	ABEI	明褐色、灰黄褐色	D	口縁部10%	
344	土師器甕	9区A26	(17.7)	—	—	ABEIN	にぶい赤褐色	A	口縁部10%	
345	土師器甕	9区A26	—	—	(8.0)	AJMN	外面：灰黄褐色　内面：黒色	D	底部40%	
346	須恵器高坏	9区A26	—	—	(16.5)	ABN	灰白色	A	脚部25%	
347	須恵器壺	9区A26	—	—	—	AB	灰色	A	胴部30%	内面に自然釉付着。

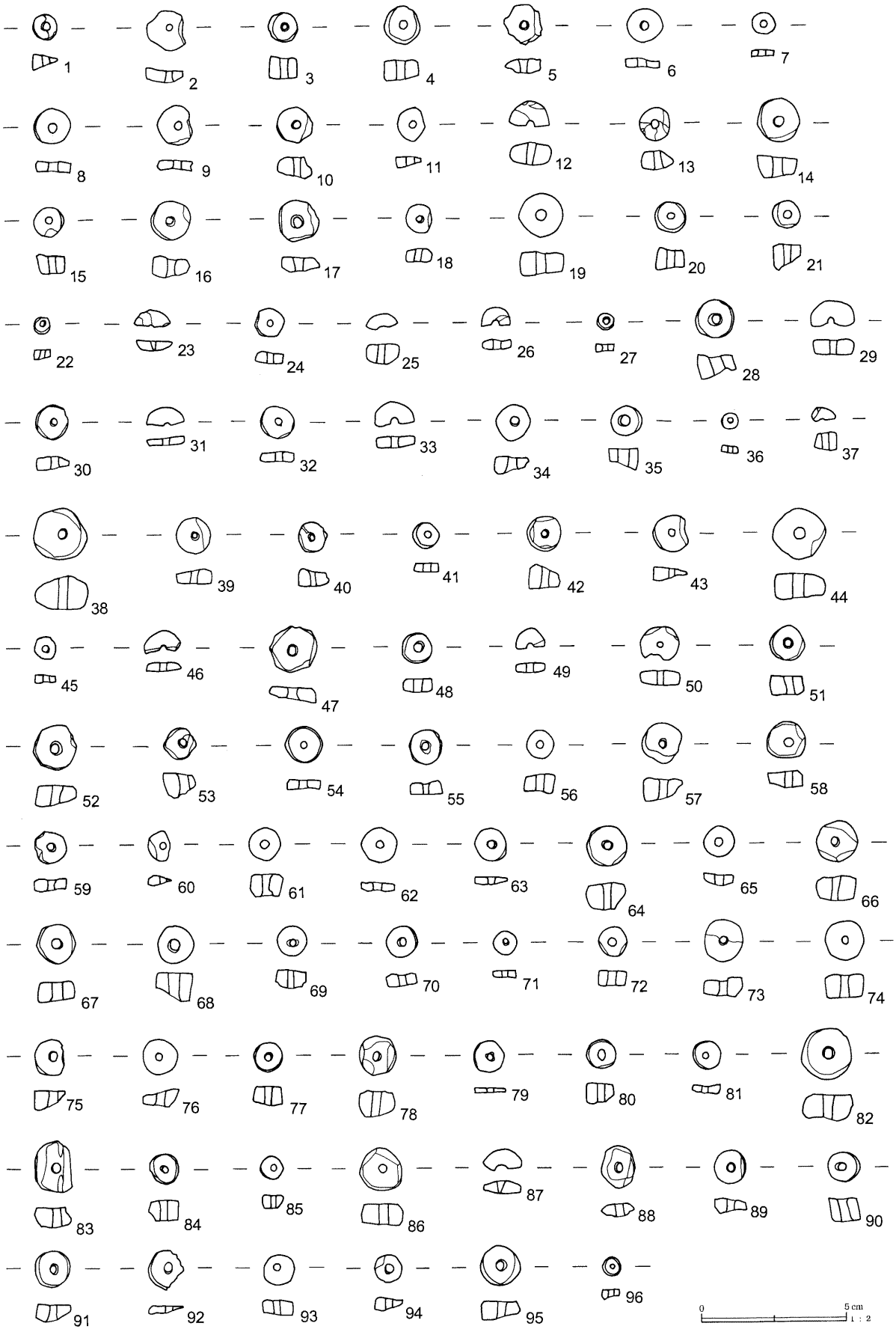
番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
348	須恵器壺	9区A26	(15.2)	16.7	7.5	B	外面：灰白色　内面：灰色	A	70%	
349	須恵器提瓶	9区A26	—	—	—	AMN	灰色	B	頸部～胴部破片	把手欠損。
350	須恵器徳利形平底壺	9区A26	—	—	(13.5)	AHN	灰色	A	60%	
351	須恵器甕	9区A26	—	—	(20.0)	AEN	灰色	A	胴下半部破片	
352	土師器坏	9区A26	(14.0)	4.0	(9.0)	ABEI	外面：明赤褐色　内面：黒色	A	20%	内面黒色処理。
353	須恵器椀	9区A26	(18.0)	—	—	ABEIN	にぶい黄橙色、灰白色	D	50%	
354	灰釉陶器椀	9区A26	15.5	5.3	6.7	ABD	灰黄色	A	25%	
355	土師器壺	8区T26	—	—	—	ANJ	外面：灰黄褐色　内面：灰白色	D	脚部破片	外面に赤彩。
356	土師器高坏	8区T26	—	—	—	ABEI	にぶい橙色	A	30%	
357	須恵器高坏	8区T26	—	—	(14.0)	ABFIN	外面：灰色　内面：灰色	A	脚部30%	南比企産。
358	須恵器高坏	8区T26	—	—	—	ABN	外面：灰白色　内面：褐灰色	A	脚部80%	
359	土師器台付甕	8区S26	—	—	—	ABEGI	にぶい黄橙色	B	脚台部破片	
360	土師器器台	8区S26	—	—	—	HIKMN	橙色	A	20%	
361	土師器壺	8区S26	(12.6)	—	—	ACN	灰黄褐色	D	口縁部30%	
362	土師器坏	8区S26	13.8	—	(9.5)	IM	にぶい黄橙色	B	口縁部30%	全体的に摩耗。
363	須恵器高坏	8区S26	(16.0)	—	—	AMN	灰白色	A	40%	つまみ欠損。
364	須恵器長頸瓶	8区R26	(7.4)	—	—	AN	灰色	B	60%～70%	
365	弥生土器甕	9区A27	(12.2)	—	—	AI	にぶい褐色	C	口縁部20%	
366	土師器手焙形土器	9区A27	—	—	—	ABEHG	にぶい黄橙色	A	覆部破片	綾杉文。
367	土師器高坏	9区A27	(15.2)	—	—	AIH	橙色、にぶい橙色	A	口縁部20%	
368	土師器高坏	9区A27	—	—	—	IKMN	橙色	A	坏部10%	
369	土師器高坏	9区A27	—	—	—	ABEIN	外面：赤褐色　内面：赤色	A	脚部・坏底部破片	内外面に赤彩。
370	土師器高坏	9区A27	—	—	—	ABEI	外面：橙色　内面：明赤褐色	A	脚部60%	外面に赤彩。
371	土師器高坏	9区A27	—	—	—	ABE	にぶい褐色	A	脚部70%	
372	土師器高坏	9区A27	(10.5)	—	—	ABEI	外面：にぶい橙色　内面：橙色	A	坏部90%～脚部上半	
373	土師器壺	9区A27	—	—	—	AHN	にぶい黄橙色、明赤褐色	E	胴部破片	
374	土師器壺	9区A27	—	—	—	AJN	にぶい黄橙色	B	胴部破片	内外面に赤彩。
375	土師器坏	9区A27	(12.4)	(4.9)	—	ABDIN	黒褐色	B	30%	内面全体に油煙付着。
376	土師器坏	9区A27	11.2	3.9	—	BEIN	外面：灰褐色　内面：暗灰色	A	70%	
377	土師器坏	9区A27	(12.0)	—	—	ABI	外面：橙色　内面：にぶい橙色	D	40%	底部に黒斑。
378	土師器坏	9区A27	(11.5)	3.6	—	ABEI	橙色、にぶい赤褐色	A	35%	
379	土師器坏	9区A27	(12.0)	4.0	—	ABN	橙色、黒色	D	30%	
380	土師器坏	9区A27	(11.2)	—	—	ABI	灰黄褐色	B	40%	
381	土師器坏	9区A27	(11.7)	3.7	—	ABEI	外面：暗灰色　内面：灰褐色	A	30%	
382	土師器坏	9区A27	11.8	3.6	8.5	ABDIN	外面：にぶい褐色　内面：橙色	A	40%	
383	土師器坏	9区A27	(14.5)	—	—	ABIN	にぶい橙色	B	20%	
384	土師器坏	9区A27	(12.0)	4.4	—	ABDIN	外面：赤褐色　内面：明赤褐色	A	80%	
385	土師器坏	9区A27	13.4	4.0	—	ABEI	褐灰色	A	100%	
386	土師器坏	9区A27	11.7	4.5	—	BEI	橙色	A	100%	
387	土師器坏	9区A27	(11.9)	4.5	—	ABEI	黄灰色	A	50%	
388	土師器坏	9区A27	—	—	—	AHIM	にぶい橙色	A	50%	内外面黒色処理。
389	須恵器蓋	9区A27	(11.0)	—	—	ABF	黄灰色	A	20%	
390	須恵器蓋	9区A27	12.5	3.8	12.4	AB	褐灰色	A	90%	
391	土師器高坏	9区A27	—	—	—	HINO	橙色	A	脚部70%	
392	土師器台付甕	9区A27	—	—	(8.5)	ABEIN	橙色	A	30～40%	脚部内外面に煤付着。
393	土師器高坏	9区A27	—	—	11.5	ABIN	にぶい黄橙色	B	底部100%	
394	須恵器把手付椀	9区A27	(8.0)	—	—	B	外面：黄灰色　内面：褐灰色	A	30%	自然釉付着。
395	須恵器甑	9区A27	—	—	4.8	AM	灰色	D	80%	
396	須恵器壺	9区A27	(4.5)	—	—	ABF	灰色	A	口縁部95%	南比企産。
397	須恵器瓶	9区A27	—	—	—	AB	外面：灰色　内面：にぶい褐色	B	胴部破片	
398	須恵器瓶	9区A27	—	—	—	ABEI	外面：灰褐色　内面：灰色	A	体部40%	
399	土師器甕	9区A27	(21.5)	—	—	ABEIN	にぶい褐色、にぶい橙色	E	口縁部50%～胴上半部	
400	土師器甕	9区A27	(15.8)	—	—	ABEIN	にぶい黄橙色	A	口縁部20%	
401	土師器甕	9区A27	(17.8)	—	—	ABEIN	にぶい黄橙色	D	口縁部40%	
402	土師器甕	9区A27	(17.0)	—	—	ABEI	にぶい黄褐色	D	口縁部55%	
403	土師器甕	9区A27	(18.7)	—	—	ABEIMN	にぶい赤褐色	A	口縁部～胴上半部25%	
404	土師器甕	9区A27	(17.5)	—	—	ABEIN	にぶい黄橙色	A	口縁部～胴上半部10%	
405	土師器甑	9区A27	23.4	—	—	ABEIN	褐色	A	口縁部～胴上半部10%	

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
406	土師器甕	9区A27	(20.3)	—	—	ABEIN	褐色	A	口縁部～胴上半部25%	
407	土師器甕	9区A27	(26.3)	—	—	ABEIN	褐色	A	口縁部～胴上半部20%	口縁部・内面に煤付着。
408	土師器甕	9区A27	(19.2)	—	—	ABEIN	褐色	A	口縁部30%	
409	土師器甕	9区A27	—	—	8.0	ABEI	褐色	D	底部破片	
410	土師器甕	9区A27	—	—	(6.2)	ABEIN	褐色	A	底部50%	
411	土師器甕	9区A27	—	—	(6.9)	ABEI	褐色	A	底部破片	
412	土師器甕	9区A27	—	—	8.5	ABEI	灰白色	B	底部～胴上半部破片	
413	土師器甕	9区A27	—	—	(8.8)	ABEIN	外面：灰色　内面：赤黒色	D	底部～胴下半部20%	
414	土師器甕	9区A27	—	—	(7.0)	ABEI	黒褐色	D	底部～胴下半部20%	
415	土師器甕	9区A27	—	—	7.3	ABEIN	外面：灰白色　内面：灰色	D	底部90%～胴下半部	
416	土師器甕	9区A27	—	—	5.6	ABEI	褐色	C	底部100%	
417	土師器甕	9区A27	—	—	3.0	ABEI	にぶい橙色	A	底部100%	内面黒色処理。
418	土師器台付甕	9区A27	—	—	(15.4)	ABEIN	外面：灰黄色　内面：黄灰色	D	60%	
419	須恵器坏	9区A27	(11.5)	3.6	(6.0)	ABEIN	外面：青灰色　内面：灰色	A	20%	
420	須恵器坏	9区B27	(14.8)	3.6	(10.0)	ABEF	灰色	A	20%	
421	須恵器坏	8区T27	(20.0)	—	—	AH	暗灰色	A	10%以下	
422	須恵器徳利形平底壺	8区T27	—	—	(10.6)	AHIM	灰色、にぶい橙色	A	胴部40%	
423	土師器坏	8区T27	(13.9)	—	—	ABEIN	明赤褐色	A	25%	
424	土師器坏	8区T27	12.7	4.4	—	ABIN	褐灰色	A	90%	内外面黒色処理。
425	土師器坏	8区T27	11.6	4.1	—	ABDN	にぶい黄褐色、黒褐色	A	100%	内外面黒色処理。
426	土師器坏	8区T27	13.7	4.1	—	ABEIN	外面：黒褐色　内面：黒色	A	40%	内外面黒色処理。
427	土師器坏	8区T27	(10.7)	3.5	—	ABHIN	外面：にぶい橙色　内面：橙色	B	90%	
428	土師器坏	8区T27	(12.5)	—	—	ABDI	褐灰色、橙色	B	25%	内外面に黒斑。
429	土師器坏	8区T27	(14.3)	4.8	—	ABDIN	褐色	B	80%	内面に鉄付着。
430	土師器坏	8区T27	(12.4)	3.8	—	ABEIN	外面：赤色　内面：赤褐色	A	80%	内外面に赤彩。
431	土師器高坏	8区T27	—	—	(10.0)	ABEI	褐色	B	50%	
432	土師器甕	8区T27	(13.6)	—	—	ABEIN	暗灰色	A	口縁部～胴上半部破片	
433	土師器甕	8区T27	(20.6)	—	—	ABEI	褐色	A	口縁部90%～胴上半部	
434	土師器甕	8区T27	(19.5)	—	—	ABEHIN	褐色	B	口縁部50%	
435	土師器甕	8区T27	19.0	—	—	ABEIN	褐色	A	口縁部100%～胴上半部	
436	土師器坏	8区T27	(14.5)	—	—	ABIN	褐色	B	口縁部40%	
437	土師器甕	8区T27	(13.2)	21.8	6.2	ABN	褐色	B	100%	
438	土師器甕	8区T27	14.2	(18.9)	—	ABEIN	にぶい褐色	B	90%	
439	土師器壺	8区T27	—	—	8.0	ABIN	褐色	B	底部100%	
440	土師器壺	8区T27	—	—	6.0	ABEIN	褐色	D	底部100%	
441	土師器台付甕	8区T27	—	—	(14.0)	BCN	黒色、黒褐色、灰褐色	D	脚台部65%	
442	須恵器壺	8区T27	—	—	8.0	ABEIN	外面：灰色　内面：灰白色	A	底部～体部20%	
443	須恵器壺	8区T27	—	—	—	ABN	外面：灰色　内面：黄灰色	A	50%	
444	須恵器羽釜	8区T27	(11.5)	—	—	AMN	黄灰色	A	口縁部15%	
445	土師器甕	8区S27	(14.5)	—	—	ABEIN	外面：黒色　内面：にぶい褐色	A	口縁部20～30%	胴上半部に煤付着。
446	土師器台付甕	8区S27	—	—	—	ABEI	褐色	A	底部～脚台部破片	外面に煤付着。
447	土師器台付甕	8区S27	—	—	—	ABEIN	褐色	D	脚台部破片	
448	土師器器台	8区R27	—	—	—	AKMN	灰黄褐色、灰黄色	A	脚部20%	4方向にスカシ孔。
449	須恵器蓋	8区R27	13.6	4.6	—	ABDN	灰色	A	60%	
450	須恵器蓋	8区R27	—	—	(15.0)	ABN	灰色	A	底部80%	
451	須恵器蓋	8区R27	(10.6)	3.9	(4.6)	ABI	外面：暗灰色　内面：灰色	A	30%	
452	土師器坏	8区R27	10.9	3.2	6.0	ABI	橙色	D	100%	
453	土師器坏	8区R27	13.7	3.8	—	ABIN	明赤褐色、にぶい褐色	A	90%	
454	土師器高坏	8区R27	(21.6)	—	—	ACN	橙色、にぶい赤褐色	A	口縁部30%	
455	土師器壺	8区R27	(17.0)	—	—	HIMN	にぶい黄橙色	A	口縁部15%	
456	土師器高坏	8区R27	—	—	(10.9)	ABEI	橙色	A	底部70%	
457	土師器高坏	8区R27	—	—	(12.0)	ABD	褐色	A	底部80%	
458	土師器高坏	8区R27	—	—	—	ABEI	褐色	A	脚部60%	
459	土師器高坏	8区R27	—	—	—	HKMN	灰黄褐色	C	脚部10%	風化が顕著。
460	土師器高坏	8区R27	—	—	—	ACN	褐色	D	脚部70%	
461	土師器高坏	8区R27	—	—	—	ABEFI	明赤褐色	A	50%	南比企産。
462	土師器甕	8区R27	—	—	—	ABEI	外面：橙色　内面：褐色	A	底部100%	
463	須恵器椀	8区R27	(13.0)	—	—	N	外面：灰色　内面：灰白色	A	20%	

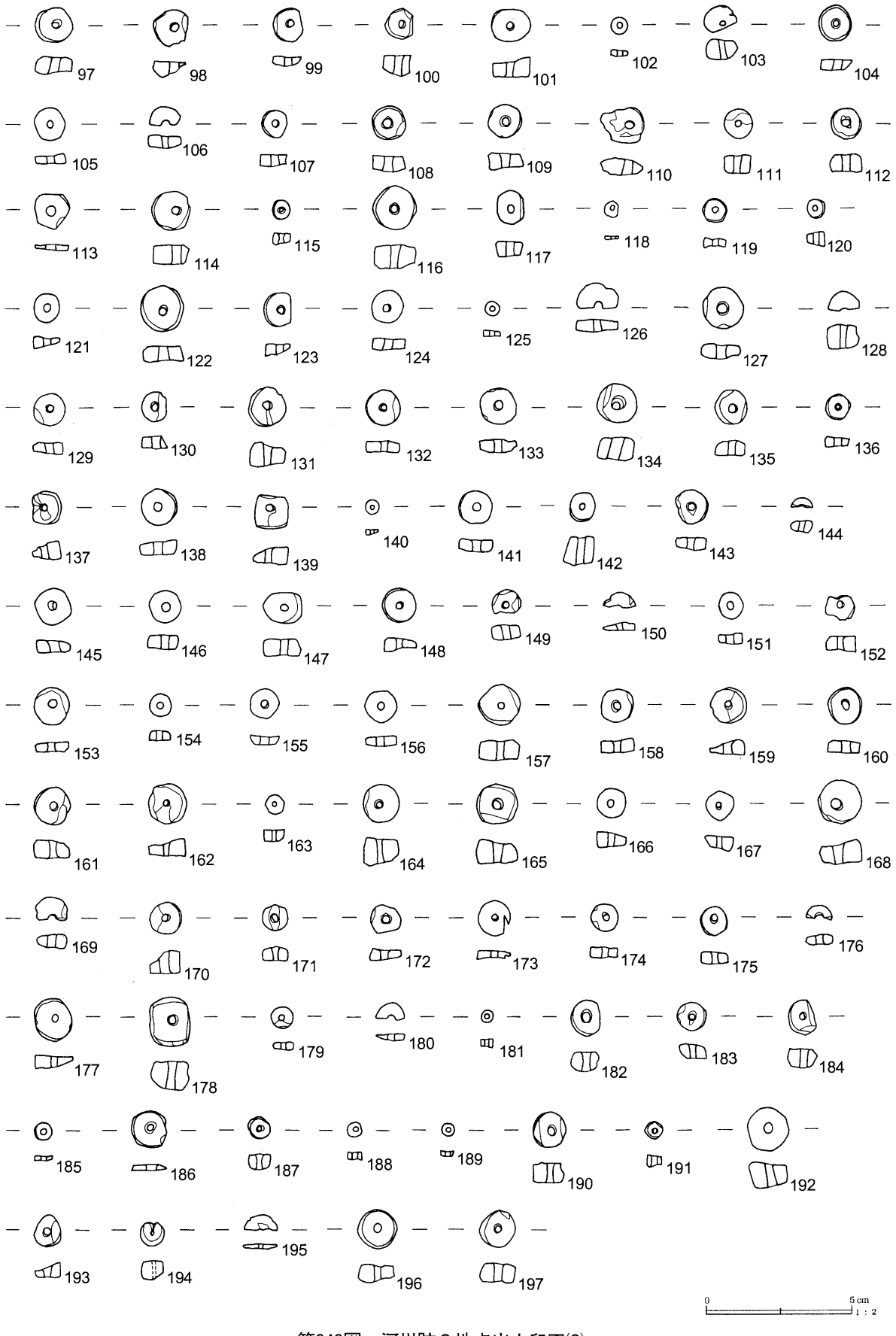
番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
464	須恵器𤭯	8区R27	(11.8)	15.5	—	ABN	外面：暗灰色　内面：灰色	B	90%	
465	須恵器𤭯	8区R27	—	—	—	B	褐色	D	30%	窯滓付着。
466	須恵器壺	8区R27	(7.8)	8.4	(5.5)	A	外面：灰色　内面：灰白色	A	30%	
467	須恵器甕	8区R27	—	—	—	AEG	灰色	A	口縁部10%以下	
468	須恵器蓋	8区R27	—	—	—	IM	橙色	A	つまみ部100%	つまみ径3.0cm。
469	須恵器坏	8区R27	—	—	—	ABFIN	外面：黒褐色　内面：灰色	A	40%	墨書「木」。火だすき痕。
470	土師器甕	8区R27	—	—	6.0	ABI	外面：赤褐色　内面：橙色	A	底部破片	
471	土師器坏	8区Q27	(11.5)	—	—	ABI	明赤褐色、灰褐色	A	40%	
472	弥生土器壺	9区A28	—	—	—	ABI	褐色	E	底部10%	
473	弥生土器甕	9区A28	—	—	—	AE	褐色	A	胴部破片	
474	土師器手焙形土器	9区A28	—	—	—	AELG	褐色	A	覆部破片	
475	弥生土器甕	9区A28	(15.2)	—	—	ABI	黒褐色	A	口縁部10%以下	
476	土師器台付甕	9区A28	(20.0)	—	—	ABEIN	にぶい黄橙色、褐色	A	口縁部10%以下	
477	土師器坏	9区A28	(11.8)	—	—	ABIN	橙色	B	40%	
478	土師器高坏	9区A28	—	—	—	ABEI	褐色	A	10%以下	
479	須恵器瓶	9区A28	—	—	—	AN	褐色	D	10%以下	
480	土師器壺	9区A28	—	—	6.0	ADM	にぶい橙色、灰褐色	C	底部90%	
481	土師器甕	9区A28	(19.2)	—	—	ABEIN	灰黄色、にぶい黄色	A	口縁部～胴上半部20%	
482	土師器甕	9区A28	—	—	(7.4)	ABEI	外面：橙色　内面：にぶい橙色	B	底部100%	
483	須恵器甕	9区A28	—	—	—	ABDN	褐色	B	80%	
484	土師器坏	9区A28	(12.2)	—	—	ABI	外面：橙色　内面：明赤褐色	C	50%	内面剝落顕著。
485	土師器坏	9区A28	16.4	6.2	—	ABEIMN	褐色	A	90%	放射状暗文。
486	土師器坏	8区T28	10.5	4.7	—	ABIN	黒褐色	B	50%	内外面黒色処理。
487	土師器坏	8区T28	(11.2)	—	—	ABIN	外面：黒色　内面：黒褐色	B	40%	内外面黒色処理。
488	土師器坏	8区T28	(11.6)	4.0	—	ABEI	外面：橙色　内面：明赤褐色	A	90%	
489	土師器坏	8区T28	(11.7)	—	—	ABEIN	外面：灰黄褐色　内面：橙色	A	30%	
490	土師器坏	8区T28	11.5	3.8	—	ABIN	褐色	B	100%	
491	土師器坏	8区T28	10.7	3.5	—	ABEIN	外面：明赤褐色　内面：橙色	A	100%	
492	土師器高坏	8区T28	12.8	7.0	9.2	BEHJN	にぶい黄橙色	B	70%	
493	須恵器𤭯	8区T28	—	—	7.0	ABN	灰白色、灰色	B	90%	
494	須恵器𤭯	8区T28	—	—	9.0	ABFIN	灰色	A	90%	南比企産。
495	須恵器𤭯	8区T28	10.0	17.5	8.7	ABFN	灰色	A	90%	底部に窯印。南比企産。
496	土師器甕	8区T28	(23.6)	—	—	HIKMN	にぶい橙色	A	口縁部10%	外面に煤付着。
497	土師器甕	8区T28	(16.7)	—	—	ABEN	外面：橙色　内面：明赤褐色	A	口縁部～胴上半部破片	
498	土師器甕	8区T28	(19.1)	—	—	ABDIN	褐色	B	口縁部25%	内面に錆付着。
499	土師器甕	8区T28	—	—	5.0	ABIN	外面：灰白色　内面：黄灰色	D	底部破片	内外面に黒斑。
500	土師器甕	8区T28	—	—	5.4	ABEN	褐色	D	底部100%～胴下半部	底面に煤付着。
501	須恵器甕	8区T28	(18.0)	—	—	ABG	外面：黄灰色　内面：灰白色	A	10%以下	
502	弥生土器甕	8区S28	—	—	(12.0)	ABHI	褐色	E	底部45%	
503	弥生土器壺	8区S28	—	—	(7.6)	ABE	外面：褐灰色　内面：灰褐色	E	40%	
504	土師器台付甕	8区S28	(15.2)	—	—	ABEIN	褐色	A	口縁部破片	
505	土師器台付甕	8区S28	—	—	—	AIMN	赤橙色	A	脚部20%	
506	土師器台付甕	8区S28	—	—	—	AIMN	にぶい橙色	A	脚部20%	
507	須恵器蓋	8区S28	(11.0)	4.7	—	ABN	褐色	A	30%	
508	須恵器坏身	8区S28	(10.0)	—	—	AB	外面：暗灰色　内面：灰色	A	口縁部破片15%	
509	須恵器高坏	8区S28	(14.8)	—	—	ABFIN	外面：灰色　内面：暗灰色	A	口縁部30%	南比企産。
510	土師器坏	8区S28	(12.3)	—	—	ABEI	褐色	A	30%	内外面黒色処理。
511	土師器坏	8区S28	(11.8)	—	—	ABEI	にぶい褐色	B	25%	内面にタール付着。
512	土師器坏	8区S28	(11.7)	—	—	ABEIN	橙色	B	30%	
513	土師器坏	8区S28	10.2	5.4	—	ABDN	外面：橙色　内面：褐灰色	B	100%	
514	土師器坏	8区S28	(13.0)	—	—	ABEI	外面：明赤褐色　内面：橙色	B	30%	
515	土師器坏	8区S28	(13.0)	—	—	ABEI	外面：橙色　内面：明赤褐色	D	30%	
516	土師器坏	8区S28	11.6	4.4	—	ABEI	外面：黒褐色　内面：黒色	A	60%	内外面黒色処理。
517	土師器坏	8区S28	10.6	4.4	—	ABEIN	暗灰色	A	100%	内外面黒色処理。
518	土師器坏	8区S28	11.9	3.9	—	ABDI	外面：にぶい褐色　内面：黒褐色	A	95%	内外面黒色処理。
519	土師器坏	8区S28	(13.5)	4.5	—	ABDIN	外面：黒褐色　内面：灰褐色	B	75%	内外面黒色処理。
520	土師器坏	8区S28	12.0	3.8	—	ABE	黒色	D	95%	内外面黒色処理。
521	土師器坏	8区S28	11.8	3.7	—	ABEIN	黒色、黒褐色	A	100%	内外面黒色処理。

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
522	土師器坏	8区S28	(13.2)	3.9	—	AEIN	明赤褐色	D	50%	
523	土師器坏	8区S28	(12.5)	—	—	ABEI	黒色	A	25%	内外面黒色処理。
524	土師器坏	8区S28	10.5	3.5	—	ABIN	橙色	D	100%	内面に煤付着。
525	土師器高坏	8区S28	—	—	—	ABEIN	外面：赤褐色　内面：橙色	A	脚部破片	
526	土師器高坏	8区S28	—	—	(11.2)	ABEI	褐色	A	脚部50%	
527	土師器高坏	8区S28	—	—	—	ABEHIN	褐色	A	脚部60%	
528	須恵器高坏	8区S28	(15.4)	(19.0)	(16.0)	ABEIN	外面：褐灰色　内面：黄灰色	A	40%	
529	須恵器高坏	8区S28	—	—	—	AN	暗灰色、灰白色	D	脚部30%	2段3方向にスカシ孔。
530	須恵器壺	8区S28	5.2	—	—	AFN	灰色	A	口縁部100%	南比企産。
531	須恵器フラスコ形瓶	8区S28	(7.8)	—	—	AB	灰色	A	60%	
532	須恵器横瓶	8区S28	(11.6)	—	—	AB	灰白色	A	口縁部～頸部90%	
533	土師器壺	8区S28	(12.2)	—	—	AN	褐色	D	口縁部～頸部20%	
534	土師器甕	8区S28	(17.0)	—	—	ABEIN	褐色	A	口縁部20～30%	
535	土師器甕	8区S28	(20.3)	—	—	ABEIN	外面：浅黄色　内面：黄灰色	A	口縁部25%	
536	土師器甕	8区S28	(20.3)	—	—	ABEIN	灰黄色	A	口縁部25%	
537	土師器甕	8区S28	—	—	7.3	ABEGIN	外面：明赤褐色　内面：橙色	B	40%	
538	土師器甕	8区S28	—	—	7.8	HKLM	灰黄褐色	A	底部100%	内面に厚く有機物付着。
539	土師器甕	8区S28	—	—	9.0	HIKM	にぶい黄橙色	A	底部100%	
540	土師器甕	8区S28	(20.8)	—	—	ABEIN	外面：灰色　内面：黄灰色	A	30%	
541	土師器甕	8区S28	—	—	(5.5)	ABEIN	外面：灰褐色　内面：浅黄色	D	底部100%～胴下半部	
542	土師器甕	8区S28	—	—	6.7	ABEI	外面：褐灰色　内面：明褐色	A	底部100%	内面に煤付着。
543	土師器甕	8区S28	—	—	6.0	ABEIN	褐色	C	底部破片	
544	土師器甕	8区S28	—	—	5.2	ABEIN	褐色	C	底部100%	
545	土師器台付甕	8区R28	(18.0)	—	—	M	褐色	C	口縁部20%	
546	土師器坏	8区R28	11.7	4.0	—	ABEI	明赤褐色	D	ほぼ50%	
547	土師器高坏	8区R28	—	—	(7.6)	ABDIN	外面：灰黄褐色　内面：橙色	B	50%	
548	須恵器甑	8区R28	—	—	—	AN	灰色	D	20%	
549	須恵器壺	8区R28	(16.2)	—	—	AN	外面：黒色　内面：暗灰色	A	頸部～上半部50%	
550	須恵器甕	8区R28	—	—	—	AB	外面：灰色　内面：灰褐色	A	胴部破片	
551	須恵器坏	8区R28	(15.7)	3.4	(10.5)	ABN	灰色、褐灰色	A	60%	
552	須恵器坏	8区R28	(14.1)	3.7	8.3	ABEN	外面：黒褐色　内面：灰黄褐色	A	60%	
553	須恵器蓋	8区Q28	—	—	—	ABN	灰白色	A	15%	
554	土師器甕	9区A29	13.7	13.8	—	ABEN	褐色	D	50%	
555	須恵器高坏	8区T29	—	—	—	BGN	褐色	A	50%	
556	須恵器甕	8区S29	—	—	—	ABEIN	外面：褐灰色　内面：浅黄色	C	60%	
557	弥生土器甕	8区R29	(16.0)	—	—	AB	褐色	C	口縁部10%以下	
558	土師器高坏	8区R29	—	—	—	HIKMN	にぶい黄橙色	A	10%	
559	土師器高坏	8区R29	—	—	—	CGN	橙色	D	脚部50%	
560	土師器器台	8区R29	—	—	—	HIKMN	にぶい褐色	C	脚部40%	
561	須恵器蓋	8区R29	(13.0)	—	—	A	暗青灰色	A	15%	
562	土師器坏	8区R29	(11.0)	(4.5)	—	BEI	橙色、明赤褐色	A	40%	
563	土師器坏	8区R29	(12.7)	—	—	ABDN	灰黄褐色、灰色	A	40%	内外面に赤彩。
564	土師器坏	8区R29	(11.2)	3.2	—	ABIN	橙色	A	70%	
565	土師器高坏	8区R29	—	—	—	IMN	橙色	A	脚部90%	
566	須恵器壺	8区R29	—	—	—	AB	外面：灰色　内面：灰白色	A	体部30%	
567	土師器甕	8区R29	(25.3)	—	—	ABE	褐色	A	口縁部25%	
568	土師器甕	8区R29	—	—	(14.5)	CN	褐色	D	底部100%	
569	土師器甕	8区R29	—	—	6.4	ABEIN	褐色	B	60%	
570	土師器甕	8区R29	—	—	9.0	ACN	外面：淡黄色　内面：黄灰色	B	底部100%	黒斑。
571	土師器坏	8区Q29	(13.4)	4.2	—	ABDI	黒色	A	25%	内面黒色処理。
572	土師器坏	8区Q29	(14.4)	3.7	—	ABEI	褐色	B	100%	
573	土師器坏	8区Q29	(13.0)	3.9	—	ABEIN	褐色	C	25%	内面黒色処理。
574	土師器高坏	8区Q29	—	—	—	ABEI	橙色	A	脚部60%	
575	土師器高坏	8区Q29	13.0	17.4	17.0	ABEN	外面：黒褐色　内面：灰白色	A	60%	
576	須恵器脚付長頸瓶	8区Q29	—	—	—	ABFN	灰色	A	80%	
577	土師器甕	8区Q29	(22.0)	—	—	ABEIN	灰黄色	A	口縁部40%	
578	土師器壺	8区Q29	—	—	—	N	外面：黒色　内面：黒褐色	A	頸部30%	
579	土師器甕	8区Q29	(19.0)	—	—	AIN	にぶい褐色	A	口縁部15%	

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
580	土師器壺	8区Q29	(8.6)	—	—	ABEIN	褐色	A	口縁部破片	
581	弥生土器壺	8区Q30	—	—	—	AB	褐色	C	頸部40%	
582	土師器甕	8区Q30	—	—	7.2	HKMN	黄灰色、灰白色	A	底部破片	
583	土師器坏	8区Q30	—	—	—	ABIN	橙色	A	20%	
584	土師器坏	8区Q30	(13.2)	—	—	ABEI	黒色、黒褐色	B	25%	内面黒色処理。
585	土師器坏	8区Q30	(16.2)	—	—	ABD	褐色	A	10%	
586	土師器坏	8区Q30	(11.5)	3.5	—	ABI	褐色	A	30%	
587	土師器坏	8区Q30	(14.0)	5.0	—	ABEIN	にぶい黄橙色	B	100%	
588	土師器坏	8区Q30	(16.3)	—	—	ABI	褐色	B	15%	
589	土師器坏	8区Q30	(16.4)	5.0	—	ABI	褐色	A	40%	
590	須恵器坏身	8区Q30	(15.7)	—	—	A	黄灰色	A	口縁部破片	
591	須恵器甕	8区Q30	(17.3)	—	—	ABN	灰色	A	口縁部30%	
592	須恵器短頸壺	8区Q30	—	—	—	ABEHIN	外面：黄灰色　内面：暗褐色	A	90%	器面剝落。
593	土師器甕	8区Q30	—	—	(7.7)	HIMN	にぶい黄橙色	A	20%	外面に煤付着。
594	土師器甕	8区Q30	(20.4)	—	—	ABDI	褐色	B	口縁部20%	
595	土師器甕	8区Q30	—	—	9.0	ACN	外面：灰白色　内面：黄灰色	E	底部100%	
596	土師器甕	8区Q30	(21.3)	—	—	HKM	にぶい橙色	A	口縁部20%	
597	土師器坏	8区P30	10.5	4.0	—	ABIN	外面：黒色　内面：にぶい黄橙色	D	100%	底部外面に煤付着。
598	土師器坏	8区P30	10.8	—	—	ABDI	明赤褐色、明褐色、黒色	A	25%	
599	土師器坏	8区P30	(12.0)	—	—	ABDIN	にぶい橙色	A	70%	
600	土師器甕	8区P30	—	—	(9.0)	AN	黄灰色、黒褐色	D	40%	外面に煤付着。
601	土師器甕	8区P30	(19.0)	—	—	ABEIN	外面：にぶい赤褐色　内面：橙色	A	口縁部20%	
602	土師器甕	8区P30	(23.6)	37.5	(14.2)	ABIN	灰白色	B	70%	煤付着。
603	土師器甕	8区P30	—	—	11.6	ABDIN	褐色	B	底部100%	
604	須恵器坏	8区P30	(11.6)	3.4	5.0	ABEFIN	外面：灰色　内面：明褐色	A	50%	南比企産。
605	土師器高坏		—	—	9.0	ABEJ	褐色	A	脚部80%	
606	須恵器椀		—	—	7.5	ABDN	灰色	B	底部80%	墨書「西○」。末野産。
607	土製支脚		—	—	—	AMN	灰黄褐色	E	—	
608	ミニチュア土器	8区S25	3.0	2.8	2.5	ABJM	灰褐色	A	85%	高坏形。
609	ミニチュア土器		—	—	1.4	AE	灰黄褐色	D	脚部	高坏形。
610	ミニチュア土器	8区R26	—	—	2.4	BGM	灰黄色	D	脚部	高坏形。
611	ミニチュア土器	8区Q30	—	—	2.9	AN	にぶい橙色	B	脚部20%	高坏形。
612	ミニチュア土器	8区R26	—	—	3.6	ABEI	外面：橙色　内面：明赤褐色	D	60%	壺形。
613	ミニチュア土器	8区R27	—	—	2.3	ABEHJM	橙色	B	90%	壺形。
614	ミニチュア土器	8区R27	7.0	7.0	4.0	ABEHIJ	にぶい褐色	A	95%	坩形。
615	丸瓦	9区A21	—	—	—	ABN	凸面：灰赤色　凹面：褐灰色	E	広端部側	
616	丸瓦	9区A22	—	—	—	AN	灰赤色	D	広端部側	
617	丸瓦	8区R28	—	—	—	AEN	黄灰色、灰黄色	A		
618	平瓦	9区A22	—	—	—	AN	凸面：灰色　凹面：黄灰色	A		凹面：布目痕(3×4本/㎠)
619	平瓦	8区T24	—	—	—	AN	灰色	B	狭端部側	凹面：布目痕(6×6本/㎠)
620	平瓦		—	—	—	AN	凸面：灰色　凹面：黄灰色	A	狭端部側	凹面：布目痕(6×6本/㎠)



第241図　河川跡Ｃ地点出土臼玉(1)

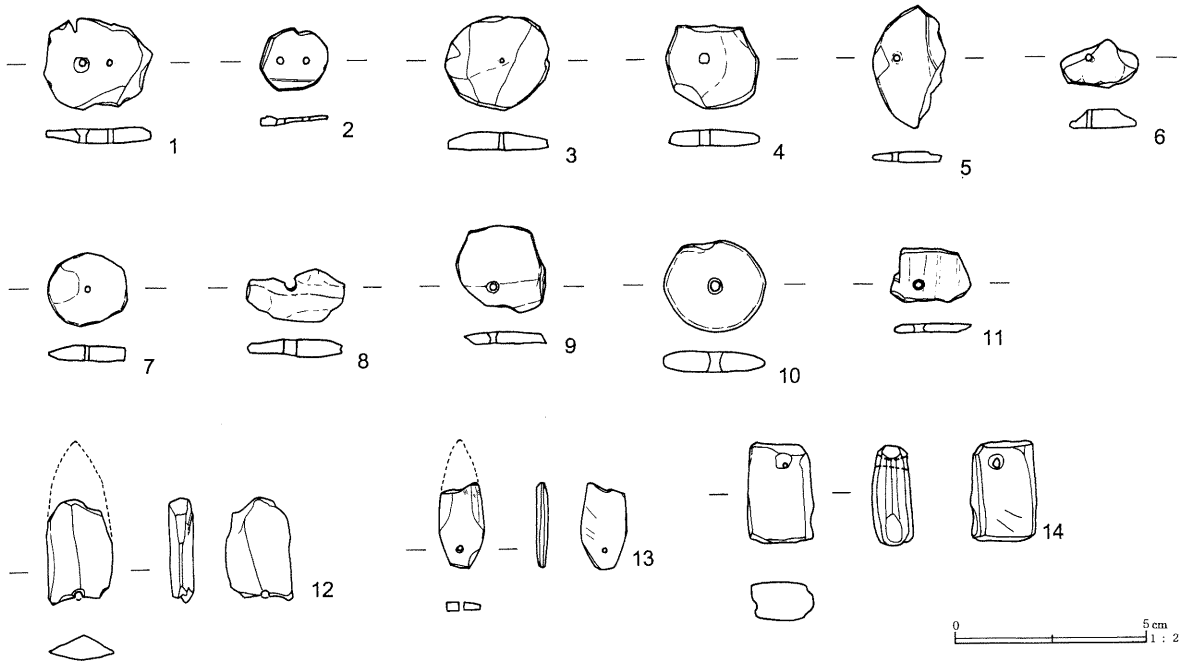


第242図　河川跡C地点出土臼玉(2)

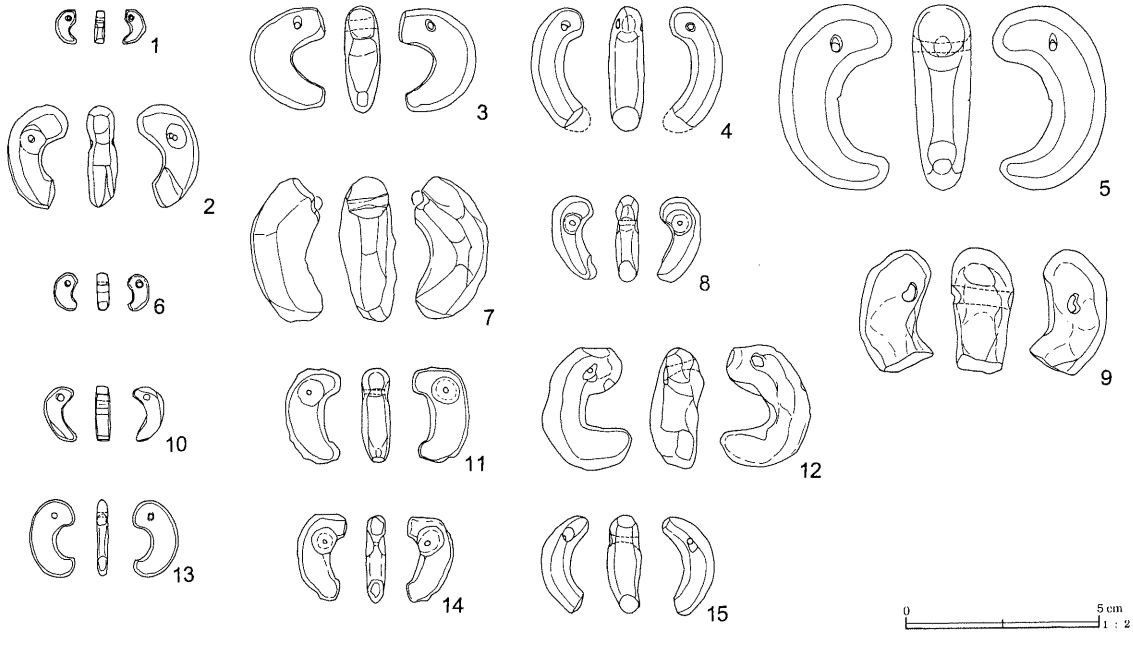
第43表　河川跡Ｃ地点出土臼玉観察表

番号	出土位置	直径	厚さ	重量	材質	残存率	番号	出土位置	直径	厚さ	重量	材質	残存率
1	9区 C21	0.9	0.5	1.0	滑石	一部残存	51	8区 S23	1.1	0.6	2.0	滑石	完形
2	9区 B21	1.4	0.5	2.0	滑石	一部残存	52	8区 S23	1.5	0.7	3.0	滑石	一部欠損
3	8区 T21	0.9	0.8	2.0	滑石	一部欠損	53	8区 S23	1.0	0.3	2.0	滑石	一部欠損
4	9区 B22	1.1	0.5	2.0	滑石	一部欠損	54	8区 S23	1.3	0.4	1.0	滑石	完形
5	9区 A22	1.4	0.4	1.0	滑石	一部残存	55	8区 R23	1.2	0.3	1.0	滑石	一部欠損
6	9区 A22	1.0	0.3	0.5	滑石	一部残存	56	9区 A24	1.0	0.5	1.0	滑石	一部欠損
7	9区 A22	1.3	0.4	0.2	滑石	完形	57	9区 A24	1.0	0.5	3.0	滑石	一部欠損
8	9区 A22	1.0	0.4	1.0	滑石	完形	58	9区 A24	1.2	0.4	2.0	滑石	一部欠損
9	9区 A22	0.8	0.2	1.0	滑石	尾部欠損	59	9区 A24	1.0	0.4	0.0	滑石	一部欠損
10	9区 A22	1.0	0.6	2.0	滑石	一部欠損	60	9区 A24	0.9	0.2	0.0	滑石	一部残存
11	9区 A22	1.2	0.4	0.7	滑石	一部残存	61	9区 A24	1.0	0.9	2.0	滑石	一部欠損
12	9区 A22	1.5	0.7	1.2	滑石	半欠損	62	9区 A24	1.0	0.3	1.0	滑石	一部欠損
13	9区 A22	1.1	0.6	0.6	滑石	半欠損	63	9区 A24	1.0	0.1	0.0	滑石	一部欠損
14	9区 A22	0.7	0.1	3.0	滑石	一部欠損	64	9区 A24	1.3	0.9	3.0	滑石	一部欠損
15	8区 T22	1.0	0.6	1.0	滑石	一部欠損	65	9区 A24	1.0	0.3	1.0	滑石	一部残存
16	8区 T22	1.2	0.6	2.0	滑石	一部欠損	66	9区 A24	1.4	0.8	2.8	滑石	一部欠損
17	8区 T22	1.3	0.5	2.0	滑石	一部欠損	67	9区 A24	1.7	0.5	2.0	滑石	一部欠損
18	8区 T22	0.9	0.4	0.0	滑石	一部欠損	68	9区 A24	1.3	1.0	3.0	滑石	一部欠損
19	8区 T22	1.2	0.7	3.0	滑石	一部欠損	69	9区 A24	1.1	0.6	1.0	滑石	一部欠損
20	8区 T22	1.0	0.7	1.5	滑石	一部欠損	70	9区 A24	1.1	0.4	0.6	滑石	一部欠損
21	8区 T22	0.9	0.7	1.0	滑石	一部欠損	71	9区 A24	0.8	0.3	0.3	滑石	一部欠損
22	8区 T22	0.5	0.3	0.2	滑石	一部欠損	72	9区 A24	1.1	0.6	0.9	滑石	一部欠損
23	8区 T22	1.2	0.3	0.3	滑石	一部残存	73	8区 T24	1.4	0.4	2.0	滑石	一部欠損
24	8区 T22	1.0	0.3	0.0	滑石	一部欠損	74	8区 T24	1.3	0.7	3.0	滑石	一部欠損
25	8区 T22	1.0	0.7	0.9	滑石	一部残存	75	8区 T24	1.0	0.6	1.0	滑石	一部残存
26	8区 S22	1.0	0.3	0.3	滑石	半分欠損	76	8区 T24	1.2	0.5	2.0	滑石	一部欠損
27	8区 S22	0.6	0.3	0.2	滑石	一部欠損	77	8区 T24	1.0	0.6	2.0	滑石	一部欠損
28	8区 S22	1.3	1.0	3.0	滑石	一部欠損	78	8区 T24	1.2	0.9	3.0	滑石	一部欠損
29	8区 S22	1.4	0.5	1.1	滑石	半分欠損	79	8区 T24	1.1	0.3	0.0	滑石	一部欠損
30	9区 A23	1.0	0.4	1.0	滑石	一部欠損	80	8区 T24	0.9	0.7	1.0	滑石	一部欠損
31	9区 A23	1.3	0.3	0.4	滑石	半分欠損	81	8区 T24	0.9	0.2	0.4	滑石	一部欠損
32	9区 A23	1.0	0.4	1.0	滑石	一部欠損	82	8区 T24	1.7	0.7	5.0	滑石	一部欠損
33	9区 A23	1.3	0.5	0.6	滑石	半分欠損	83	8区 T24	1.7	0.7	2.0	滑石	一部残存
34	9区 A23	1.3	0.6	1.0	滑石	一部欠損	84	8区 T24	1.0	0.7	1.0	滑石	一部欠損
35	9区 A23	1.1	0.8	1.3	滑石	一部欠損	85	8区 T24	0.8	0.4	0.5	滑石	一部欠損
36	8区 T23	0.5	0.2	0.0	滑石	完形	86	8区 T24	1.5	0.6	3.0	滑石	一部欠損
37	8区 T23	0.8	0.6	0.2	滑石	一部残存	87	8区 T24	1.2	0.4	0.4	滑石	一部残存
38	8区 T23	1.9	1.0	6.0	滑石	一部欠損	88	8区 T24	1.5	0.4	0.9	滑石	一部残存
39	8区 T23	1.2	0.6	2.0	滑石	一部欠損	89	8区 T24	1.1	0.3	1.0	滑石	一部欠損
40	8区 T23	1.0	0.5	1.0	滑石	一部欠損	90	8区 T24	1.0	0.9	2.0	滑石	一部欠損
41	8区 T23	0.8	0.4	0.5	滑石	一部欠損	91	8区 T24	1.2	0.5	2.0	滑石	一部欠損
42	8区 T23	1.2	0.9	2.0	滑石	一部欠損	92	8区 T24	1.0	0.4	0.0	滑石	一部残存
43	8区 T23	1.2	0.4	1.0	滑石	一部欠損	93	8区 T24	1.1	0.5	1.0	滑石	一部欠損
44	8区 T23	1.7	0.8	4.0	滑石	一部欠損	94	8区 S24	0.9	0.4	0.0	滑石	一部欠損
45	8区 T23	0.7	0.3	0.0	滑石	一部欠損	95	8区 S24	1.3	0.6	2.0	滑石	一部欠損
46	8区 T23	1.2	0.2	0.3	滑石	半分欠損	96	8区 S24	0.5	0.2	0.2	滑石	一部欠損
47	8区 T23	1.6	0.5	3.0	滑石	一部欠損	97	8区 S24	1.1	0.6	2.0	滑石	一部欠損
48	8区 T23	1.0	0.5	1.0	滑石	一部欠損	98	8区 S24	1.2	0.4	1.0	滑石	一部残存
49	8区 S23	1.0	0.4	0.3	滑石	半分欠損	99	8区 R24	1.1	0.3	1.0	滑石	一部欠損
50	8区 S23	1.3	0.5	1.0	滑石	一部欠損	100	8区 R24	0.9	0.6	1.0	滑石	一部欠損

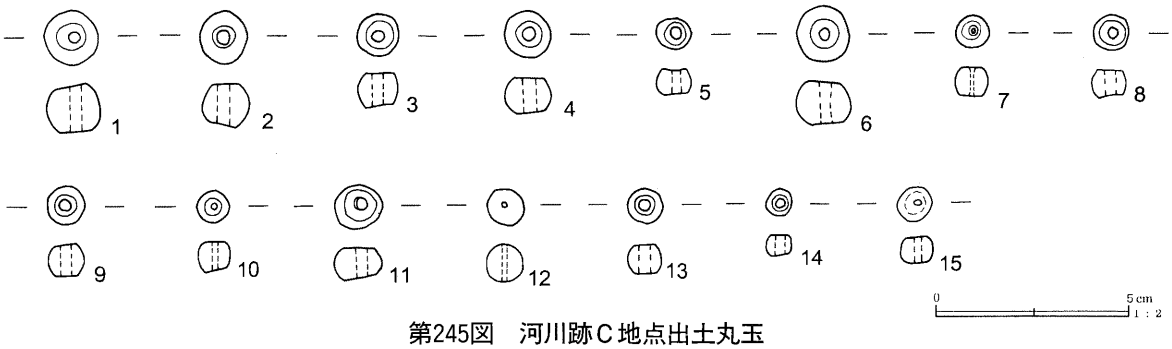
番号	出土位置	直径	厚さ	重量	材質	残存率
101	8区 R24	1.3	0.6	2.0	滑石	一部欠損
102	8区 R24	0.5	0.2	0.0	滑石	完形
103	8区 R24	1.0	0.7	0.9	滑石	一部欠損
104	8区 R24	1.1	0.4	1.0	滑石	一部欠損
105	8区 R24	1.0	0.2	0.7	滑石	完形
106	8区 R24	1.0	0.5	0.4	滑石	一部残存
107	8区 R24	0.9	0.4	0.6	滑石	一部欠損
108	8区 R24	1.2	0.5	1.0	滑石	一部欠損
109	8区 R24	1.1	0.5	1.0	滑石	完形
110	8区 R24	1.5	0.6	1.0	滑石	一部欠損
111	8区 Q24	0.9	0.6	1.0	滑石	一部欠損
112	9区 A25	1.0	0.3	1.2	滑石	一部欠損
113	9区 A25	1.0	0.1	0.5	滑石	一部残存
114	9区 A25	1.3	0.6	2.0	滑石	一部欠損
115	9区 A25	0.5	0.3	0.0	滑石	一部欠損
116	9区 A25	1.3	0.6	4.0	滑石	一部欠損
117	9区 A25	0.9	0.3	1.0	滑石	一部欠損
118	9区 A25	0.5	0.1	0.0	滑石	一部欠損
119	9区 A25	0.8	0.4	0.4	滑石	一部欠損
120	9区 A25	0.7	0.5	0.3	滑石	一部欠損
121	8区 T25	0.9	0.3	0.5	滑石	一部欠損
122	8区 T25	1.5	0.4	2.2	滑石	一部欠損
123	8区 T25	1.0	0.4	0.7	滑石	一部残存
124	8区 T25	1.1	0.4	1.0	滑石	一部欠損
125	8区 S25	0.5	0.2	0.0	滑石	一部欠損
126	8区 S25	1.4	0.4	0.7	滑石	半分欠損
127	8区 S25	1.4	0.6	2.0	滑石	一部欠損
128	8区 S25	1.1	0.9	0.8	滑石	半分欠損
129	8区 S25	1.1	0.4	1.0	滑石	一部欠損
130	8区 S25	0.9	0.4	0.6	滑石	一部残存
131	8区 R25	1.4	0.9	2.0	滑石	一部欠損
132	8区 R25	1.1	0.3	1.0	滑石	一部欠損
133	8区 R25	1.4	0.6	2.0	滑石	一部欠損
134	8区 R25	1.4	0.8	2.1	滑石	一部欠損
135	9区 A26	1.0	0.5	2.0	滑石	一部欠損
136	8区 S26	0.9	0.4	0.5	滑石	一部欠損
137	8区 R26	1.1	0.6	1.0	滑石	一部欠損
138	8区 R26	1.3	0.5	2.0	滑石	一部欠損
139	8区 R26	1.3	0.5	2.0	滑石	一部欠損
140	8区 R26	0.4	0.1	0.0	滑石	完形
141	8区 R26	1.1	0.4	1.0	滑石	一部欠損
142	8区 R26	1.0	0.9	2.0	滑石	一部欠損
143	8区 R26	1.1	0.5	1.0	滑石	一部欠損
144	8区 R26	0.8	0.4	0.2	滑石	一部残存
145	8区 R26	1.2	0.4	1.0	滑石	一部欠損
146	8区 R26	1.0	0.4	1.0	滑石	一部欠損
147	8区 R26	1.3	0.6	2.0	滑石	一部欠損
148	8区 R26	1.1	0.5	1.0	滑石	一部欠損
149	8区 R26	1.0	0.5	0.7	滑石	一部欠損
150	8区 R26	1.1	0.2	0.2	滑石	一部残存
151	8区 R26	0.9	0.4	0.5	滑石	一部欠損
152	8区 R26	1.1	0.6	1.0	滑石	一部欠損
153	9区 A27	1.0	0.3	1.0	滑石	一部欠損
154	9区 A27	0.7	0.4	0.0	滑石	一部欠損
155	9区 A27	0.9	0.2	0.5	滑石	一部残存
156	9区 A27	1.0	0.4	1.0	滑石	一部残存
157	9区 A27	1.2	0.7	2.0	滑石	一部欠損
158	8区 T27	1.1	0.4	1.0	滑石	一部欠損
159	8区 T27	1.2	0.5	1.0	滑石	一部欠損
160	8区 S27	1.0	0.3	1.0	滑石	一部欠損
161	8区 R27	1.2	0.5	2.0	滑石	一部欠損
162	8区 R27	1.3	0.6	2.0	滑石	一部欠損
163	8区 R27	0.7	0.4	0.0	滑石	一部欠損
164	8区 R27	1.1	0.9	3.0	滑石	一部欠損
165	8区 R27	1.3	0.8	3.0	滑石	一部欠損
166	8区 R27	1.0	0.5	1.0	滑石	一部欠損
167	8区 R27	1.0	0.6	0.8	滑石	一部欠損
168	8区 R27	1.5	0.7	3.0	滑石	一部欠損
169	8区 R27	1.0	0.4	0.7	滑石	半分欠損
170	8区 R27	1.1	0.8	2.0	滑石	一部欠損
171	8区 R27	0.8	0.5	0.0	滑石	一部欠損
172	8区 R27	0.9	0.4	0.0	滑石	一部欠損
173	8区 R27	1.1	0.1	0.0	滑石	一部欠損
174	8区 R27	0.9	0.4	0.0	滑石	一部欠損
175	8区 R27	0.9	0.4	1.0	滑石	一部欠損
176	8区 R27	0.9	0.3	0.2	滑石	半分欠損
177	8区 R27	1.4	0.4	2.0	滑石	一部欠損
178	8区 R27	1.8	1.0	5.0	滑石	一部欠損
179	8区 R27	0.8	0.3	0.2	滑石	完形
180	9区 B28	1.0	0.2	0.1	滑石	一部残存
181	9区 A28	0.5	0.3	0.1	滑石	完形
182	8区 T28	1.0	0.5	2.0	滑石	一部欠損
183	8区 S28	1.0	0.5	1.1	滑石	完形
184	8区 S28	1.0	0.6	3.0	滑石	一部残存
185	8区 S28	0.5	0.2	0.0	滑石	完形
186	8区 S28	1.2	0.3	0.6	滑石	一部残存
187	8区 S28	0.6	0.5	0.0	滑石	一部欠損
188	8区 S28	0.5	0.2	0.0	滑石	一部欠損
189	8区 S28	0.4	0.2	0.0	滑石	完形
190	8区 S28	1.1	0.6	2.0	滑石	一部欠損
191	8区 S28	0.5	0.4	1.0	滑石	一部欠損
192	8区 R29	1.5	0.9	3.0	滑石	一部欠損
193	8区 R29	1.0	0.5	0.0	滑石	半分欠損
194	8区 P30	0.9	0.7	0.4	滑石	一部欠損
195		1.1	0.1	0.2	滑石	一部残存
196		1.1	0.7	2.0	滑石	一部欠損
197		1.2	0.6	2.0	滑石	一部欠損



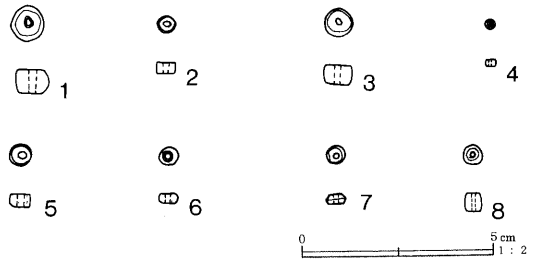
第243図　河川跡Ｃ地点出土滑石製模造品



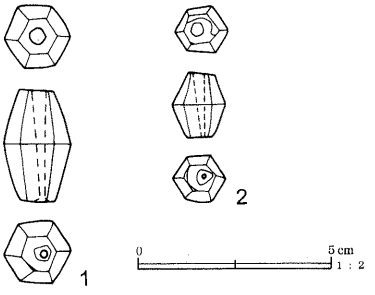
第244図　河川跡Ｃ地点出土勾玉



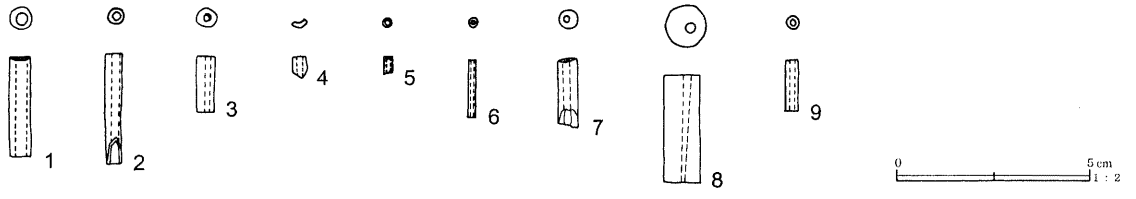
第245図　河川跡Ｃ地点出土丸玉



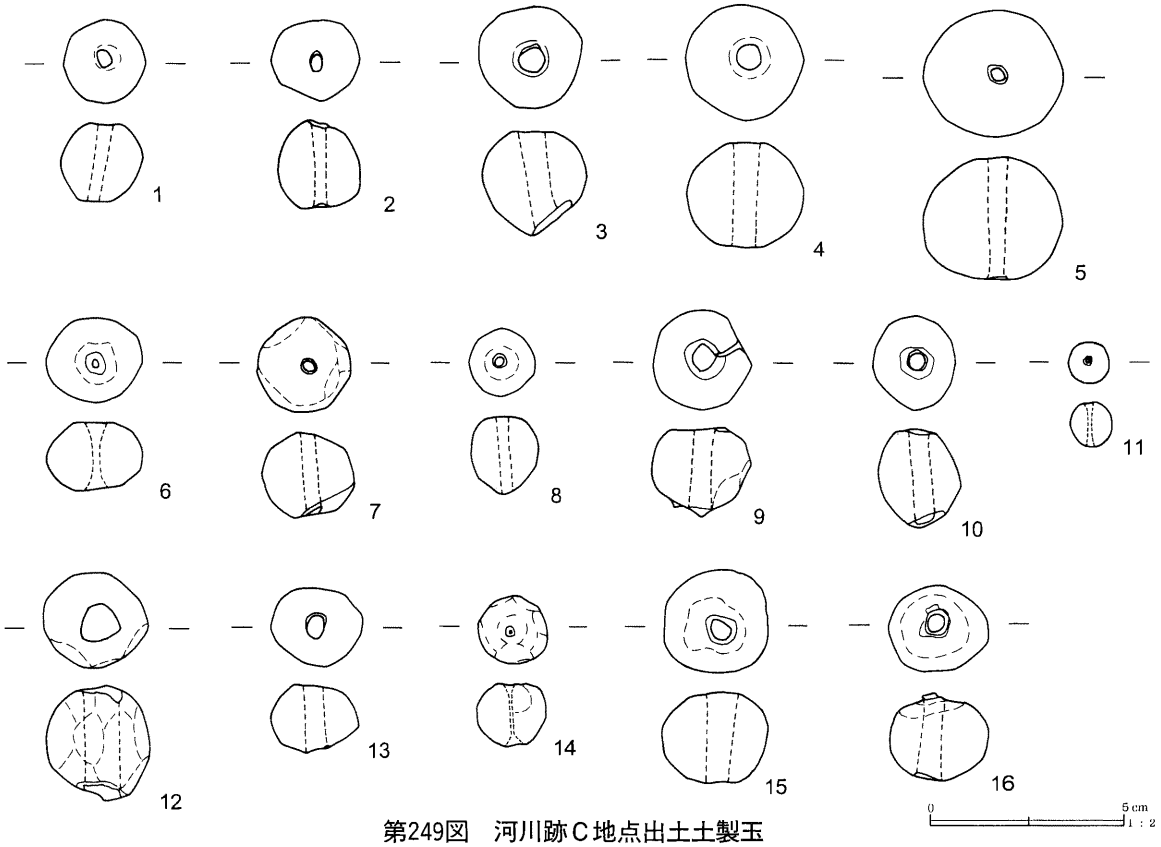
第246図　河川跡Ｃ地点出土小玉



第247図　河川跡Ｃ地点出土切子玉



第248図　河川跡Ｃ地点出土管玉



第249図　河川跡Ｃ地点出土土製玉

第44表　河川跡Ｃ地点出土滑石製模造品観察表

番号	形態	出土位置	直径	長さ	幅	厚さ	重量	残存率	備考
1	有孔円板形	9区 A22	2.8	—	—	0.4	4.0	一　部　欠　損	双孔
2	有孔円板形	9区 A22	1.7	—	—	0.3	2.0	ほ　ぼ　完　形	双孔
3	有孔円板形	8区 S23	2.8	—	—	0.5	5.0	ほ　ぼ　完　形	単孔
4	有孔円板形	8区 T23	2.5	—	—	0.5	4.0	一　部　欠　損	単孔
5	有孔円板形	8区 R24	3.2	—	—	0.3	3.0	半　　欠　　損	単孔
6	有孔円板形	8区 R24	2.1	—	—	0.5	2.0	一　部　欠　損	単孔
7	有孔円板形	8区 R24	2.1	—	—	0.4	3.0	ほ　ぼ　完　形	単孔
8	有孔円板形	8区 R24	2.5	—	—	0.5	2.0	半　　欠　　損	単孔
9	有孔円板形	8区 S26	2.2	—	—	2.3	3.0	一　部　欠　損	単孔
10	有孔円板形	8区 R26	2.7	—	—	0.5	3.0	ほ　ぼ　完　形	単孔
11	有孔円板形	8区 T27	2.0	—	—	0.2	1.0	半　　欠　　損	単孔
12	剣形	8区 S23	—	2.6	1.7	0.6	4.0	切先及び基部欠損	
13	剣形	9区 A22	—	2.1	1.2	0.3	1.5	切　先　欠　損	
14	砥石形	8区 S24	—	2.6	1.7	1.0	8.3	一　部　欠　損	

第45表　河川跡Ｃ地点出土勾玉観察表

番号	出土位置	長さ	幅	重量	材質	残存率	穿孔方向	備考
1	8区 T22	0.8	0.4	2.0	碧　玉	完　　形	両方	
2	8区 T24	2.6	1.4	3.6	滑　石	尾部の一部欠損	右→左	
3	8区 S24	2.8	1.9	6.4	滑　石	完　　形	両方	
4	9区 A25	3.3	1.2	3.4	土	尾　部　欠　損	右→左	
5	8区 S25	4.8	2.7	23.9	硬　玉	完　　形	両方	
6	8区 R26	1.0	0.5	0.3	滑　石	完　　形	右→左	
7	8区 A26	3.8	1.8	8.4	土	頭　部　欠　損	右→左	
8	8区 T27	2.1	1.0	2.0	滑　石	尾部の一部欠損	両方	
9	8区 R27	3.3	1.8	9.4	土	尾　部　欠　損		細い竹管で穿孔
10	8区 R27	1.5	0.7	0.6	滑　石	一　部　欠　損	左→右	
11	8区 S28	2.5	1.3	3.8	滑　石	完　　形	右→左	
12	8区 S28	3.2	2.1	7.6	土	完　　形	両方	
13	8区 S28	2.0	1.0	0.7	片　岩	完　　形	左→右	
14	8区 S28	2.3	1.2	1.8	滑　石	完　　形	両方	
15	8区 Q30	2.5	1.0	1.8	土	尾　部　欠　損	両方	

第46表　河川跡Ｃ地点出土丸玉観察表

番号	出土位置	直径	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	8区 T22	1.3	1.4	4.0	硬　玉	完　　形	
2	8区 T22	1.1	1.2	3.0	硬　玉	完　　形	
3	8区 S22	0.8	0.7	2.0	硬　玉	完　　形	
4	8区 S22	1.1	0.7	3.0	硬　玉	完　　形	
5	8区 T23	0.6	0.9	0.7	硬　玉	完　　形	
6	9区 A24	1.5	1.2	4.0	滑　石	完　　形	
7	9区 A24	0.9	0.8	0.6	土	完　　形	
8	8区 T24	1.0	0.8	1.0	硬　玉	完　　形	
9	8区 T24	1.0	0.8	1.0	硬　玉	尾　部　欠　損	
10	9区 A25	0.8	0.8	0.6	滑　石	一　部　欠　損	
11	8区 R26	1.2	1.2	2.0	硬　玉	完　　形	
12	8区 R26	1.0	1.0	0.8	土	完　　形	
13	8区 R26	0.9	0.6	0.8	硬　玉	完　　形	
14	9区 A28	0.7	0.6	0.4	土	完　　形	
15	8区 S28	0.8	0.7	0.6	土	完　　形	

第47表　河川跡Ｃ地点出土小玉観察表

番号	出土位置	直径	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	9区 A23	1.0	0.6	1.0	ガラス	完形	
2	9区 A24	0.5	0.3	0.1	ガラス	完形	
3	9区 A24	0.8	0.5	0.4	ガラス	完形	
4	9区 A25	0.25	0.2	0.0	ガラス	完形	
5	8区 T25	0.6	0.4	0.2	滑石	完形	
6	8区 S26	0.5	0.3	0.0	ガラス	完形	
7	8区 R26	0.5	0.2	0.1	滑石	完形	
8	8区 R29	0.5	0.4	0.2	ガラス	完形	

第48表　河川跡Ｃ地点出土切子玉観察表

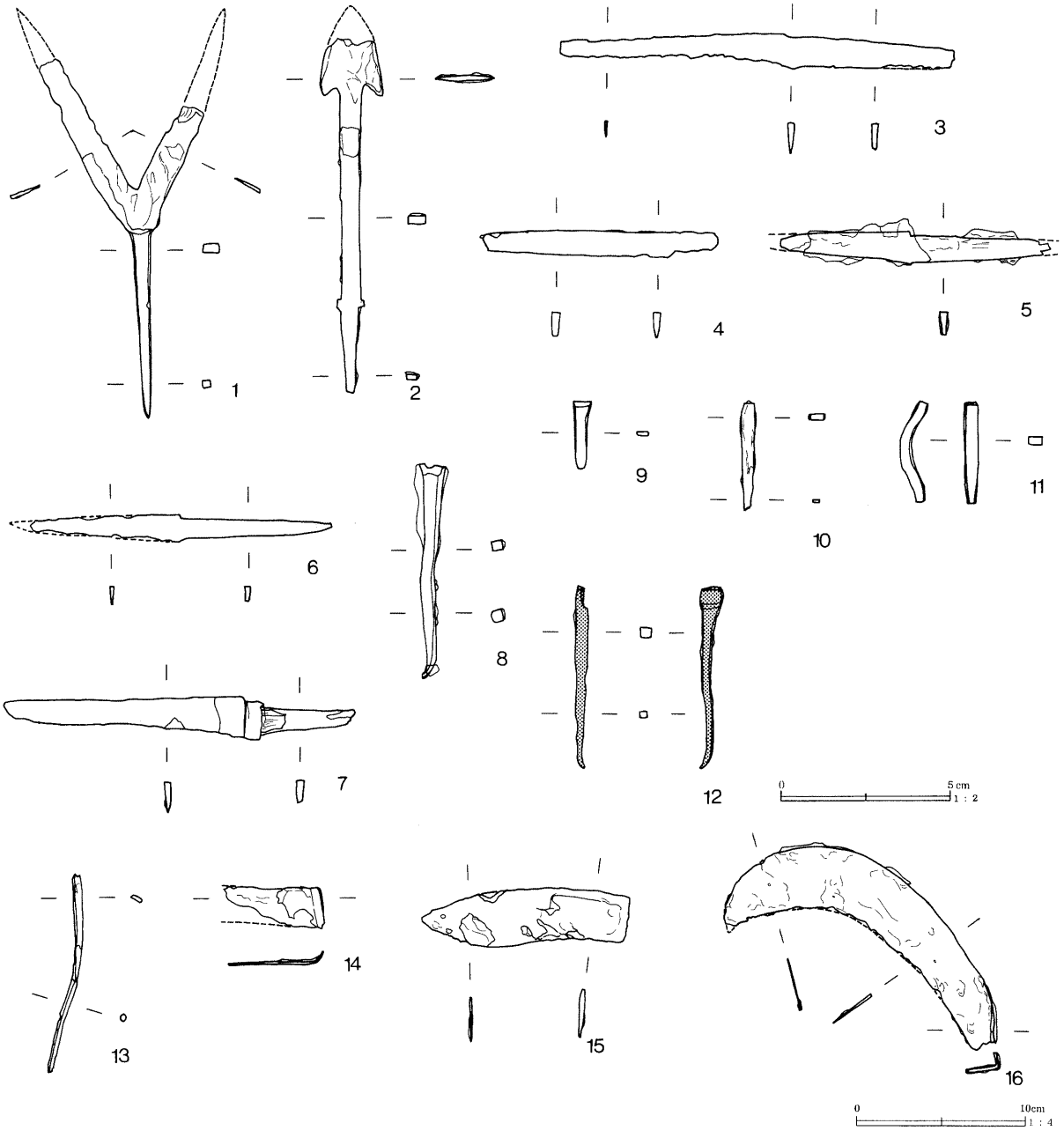
番号	出土位置	長さ	幅	重量	材質	残存率	備考
1	8区 S26	3.0	1.8	10.0	水晶	完形	
2		1.7	1.9	4.0	水晶	完形	

第49表　河川跡Ｃ地点出土管玉観察表

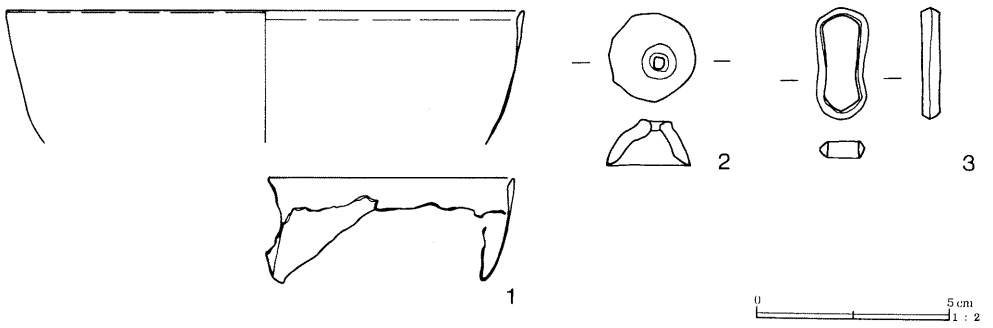
番号	出土位置	長さ	直径	重量	材質	残存率	備考
1	9区 A22	2.5	0.5	1.5	硬玉	完形	
2	8区 T22	2.9	0.3	0.7	滑石	一部欠損	
3	9区 T23	1.5	0.4	0.7	滑石	完形	
4	9区 T23	0.5	0.1	0.0	碧玉	欠損	
5	8区 T23	0.4	0.3	0.0	碧玉	欠損	
6	9区 A25	1.5	0.1	0.1	碧玉	完形	
7	9区 A25	1.8	0.5	0.9	滑石	欠損	
8	8区 R26	2.8	1.0	6.2	碧玉	完形	
9	9区 A27	1.3	0.3	0.2	瑪瑙	尾部欠損	

第50表　河川跡Ｃ地点出土土製玉観察表

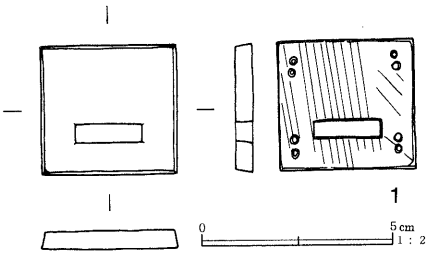
番号	出土位置	長さ	直径	重量	材質	残存率	備考
1	8区 T23	2.2	2.2	9.0	土	完形	
2	9区 A24	2.4	2.4	10.0	土	完形	
3	9区 B25	2.7	2.8	18.0	土	完形	
4	9区 A25	3.4	2.8	26.0	土	完形	
5	8区 T25	3.1	3.4	37.0	土	完形	
6	8区 S25	1.7	2.5	8.0	土	完形	
7	8区 S25	2.0	2.3	10.0	土	完形	
8	9区 B26	1.8	2.1	6.0	土	完形	
9	9区 A26	2.6	2.1	14.0	土	尾部欠損	
10	9区 A26	2.5	2.7	12.0	土	一部欠損	
11	8区 S26	1.0	1.0	2.0	土	完形	
12	9区 A27	2.7	3.1	19.0	土	完形	
13	9区 A27	2.4	1.8	8.0	土	完形	
14	8区 T28	2.6	1.9	5.0	土	完形	
15	8区 S28	3.0	2.4	16.0	土	完形	
16	8区 R29	2.0	2.6	12.0	土	一部欠損	



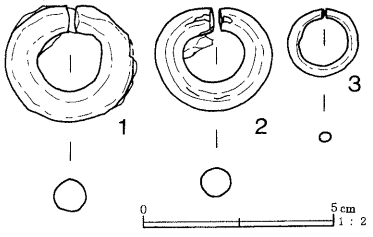
第250図　河川跡Ｃ地点出土鉄製品



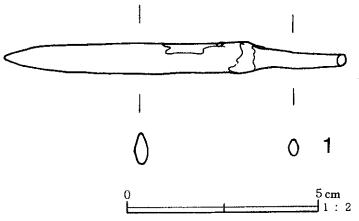
第251図　河川跡Ｃ地点出土銅製品



第252図　河川跡Ｃ地点出土鋳帯具



第253図　河川跡Ｃ地点出土耳環



第254図　河川跡Ｃ地点出土骨角器

第51表　河川跡Ｃ地点出土鉄製品観察表

番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	残存率	備考
1	鉄鏃	9区 A22	(鏃部)6.0(茎部)5.6	(鏃部)0.9(茎部)0.6	(鏃部)0.1(茎部)0.3	刃部欠損	
2	鉄鏃	8区 Q30	10.8	(刃部)1.8(茎部)0.6	(刃部)0.2(茎部)0.3	刃部欠損	
3	刀子	9区 A22	11.7	(刃部)1.0(茎部)0.9	(刃部)0.2(茎部)0.2	刃部欠損	
4	刀子	8区 T22	6.9	0.8	0.2	刃部の大部分欠損	
5	刀子	8区 T22	8.0	(刃部)1.0(茎部)0.7	(刃部)0.2(茎部)0.2	刃部先端及び茎部欠損	
6	刀子	8区 T22	9.0	(刃部)0.8(茎部)0.6	(刃部)0.1(茎部)0.2	刃部先端欠損	
7	刀子	8区 S23	10.5	(刃部)1.2(茎部)0.8	(刃部)0.2(茎部)0.3	柄の木質部残存。ハバキ残存。	
8	鉄釘	9区 A23	6.7	0.7	0.4	頭部欠損	朱塗り。
9	鉄釘	9区 A23	2.1	0.5	0.1	欠損	朱塗り。
10	鉄釘	9区 A23	3.3	0.5	0.2	頭部欠損	
11	鉄釘?	9区 A24	3.3	0.4	0.3	欠損	角釘。
12	鉄釘	9区 A24	5.6	0.6	0.3	欠損	朱塗り。
13	不明鉄製品	8区 M23	12.0	0.5	0.4	欠損	紡錘車の紡茎か。
14	鎌	8区 T22	5.8	2.4	0.2	刃部の大部分欠損	
15	鎌	9区 A23	12.4	3.4	0.4	刃部欠損	直刀鎌。
16	鎌	8区 T24	22.0	3.7	0.3	98%	曲刀鎌。

第52表　河川跡Ｃ地点出土銅製品観察表

番号	器種	出土位置	口径	長径	直径	長さ	幅	厚さ	材質	残存率	備考
1	銅鋺	9区 A23	13.6	—	—	—	—	—	銅	口縁部50%	被熱する。
2	飾金具	9区 A26	—	1.2	—	—	—	0.6	銅	完形	孔径0.4cm。
3	刀装具	8区 T24	—	—	—	3.0	1.4	0.4	銅	完形	銅製。

第53表　河川跡Ｃ地点出土鋳帯具観察表

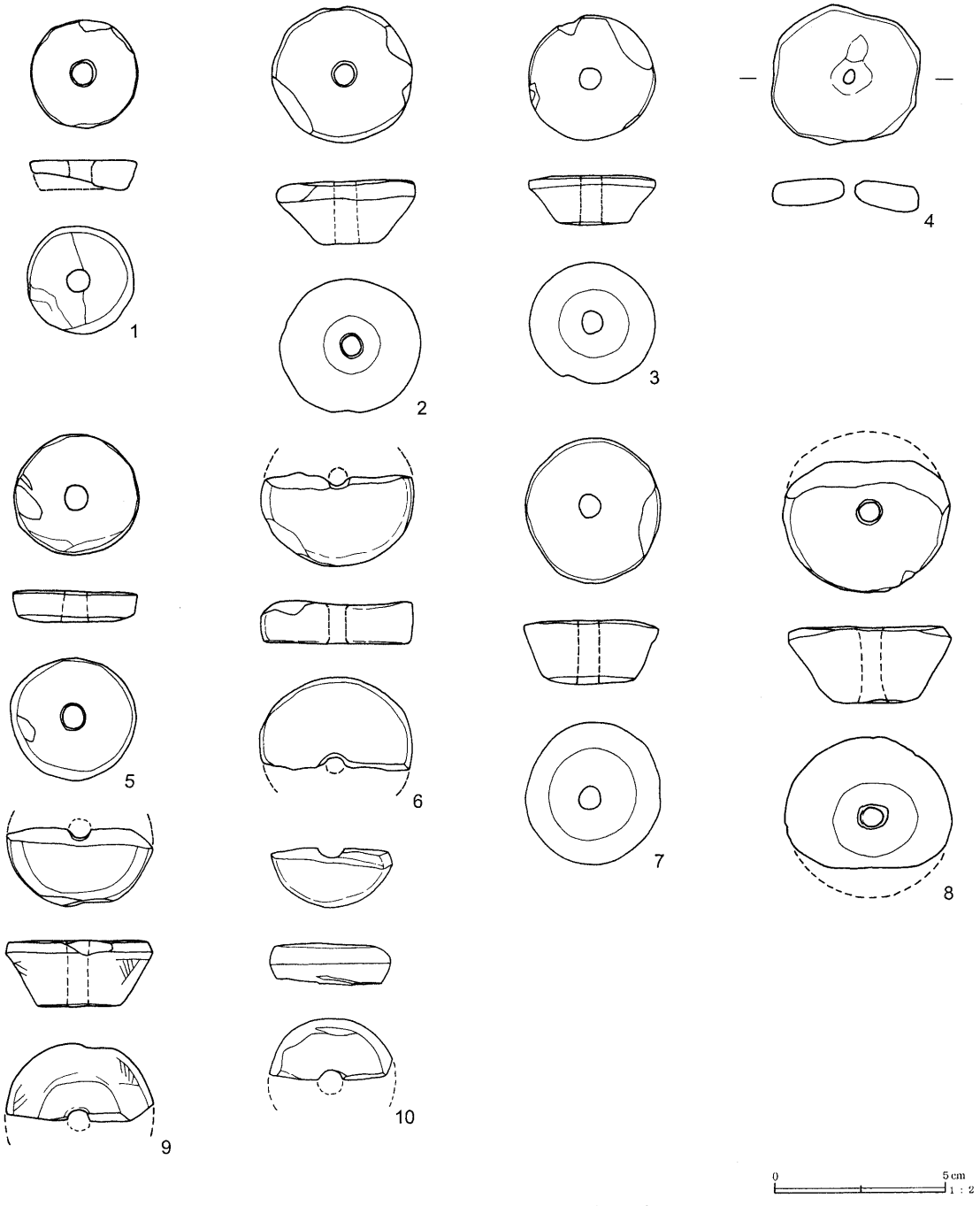
番号	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	9区 A24	3.6	3.4	0.5	13.5	粘板岩製	完形	孔幅1.8×0.5

第54表　河川跡Ｃ地点出土耳環観察表

番号	出土位置	長径	短径	断面径	重量	残存率	備考
1	9区 A23	3.4	3.1	0.9	11.7	完形	鉄地錫巻き耳環。鉄芯のみ残存。
2	8区 T23	3.1	2.7	0.8	23.0	完形	銀環。鉄地銀(錫)巻き耳環。
3	9区 A27	1.9	1.8	0.3	2.4	完形	耳環？

第55表　河川跡Ｃ地点出土骨角器観察表

番号	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	残存率	備考
1	8区 T27	9.0	(刃部)0.8(茎部)0.4	(刃部)0.5(茎部)0.3	3.1	完形	



第255図　河川跡Ｃ地点出土紡錘車

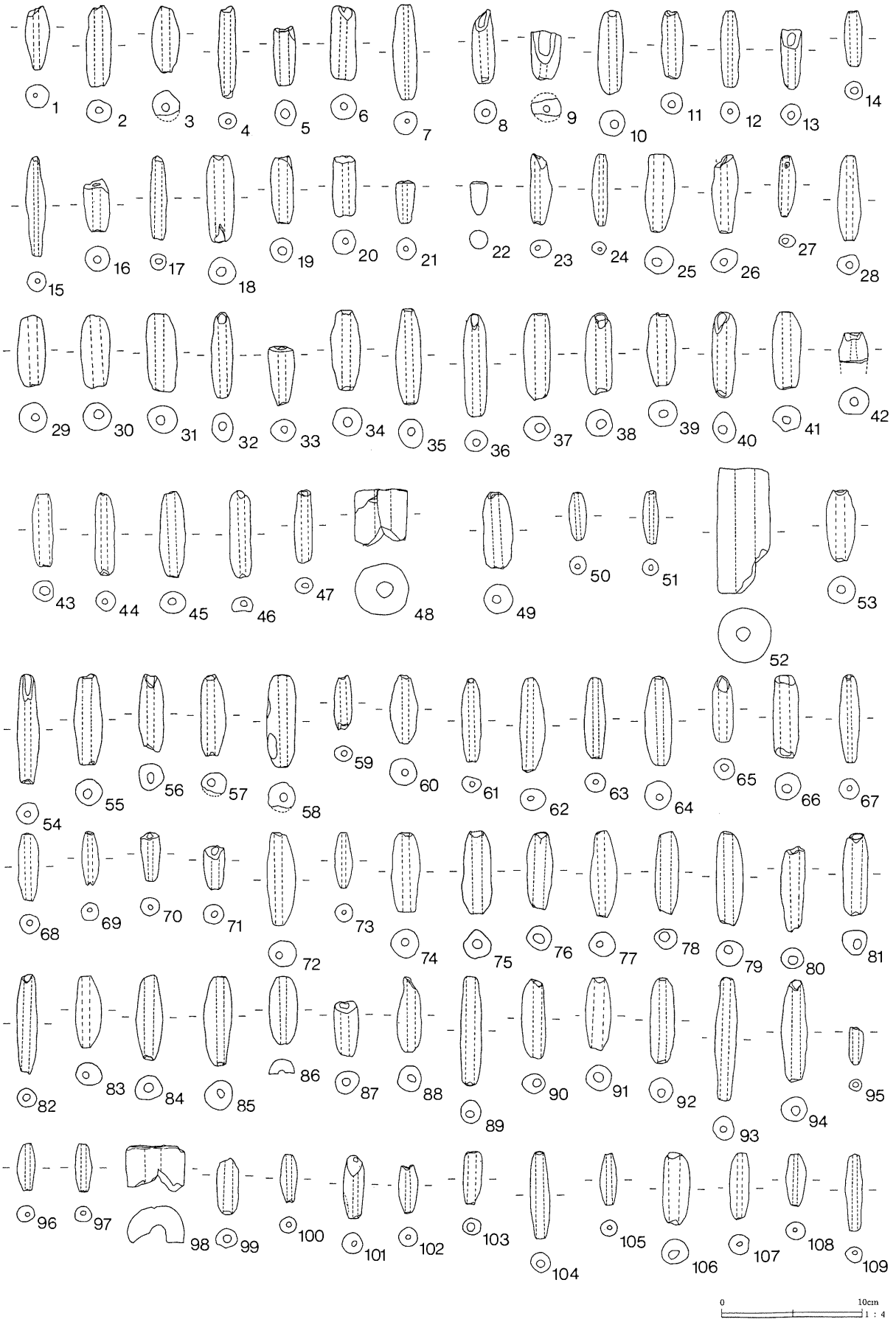
第56表　河川跡Ｃ地点出土紡錘車観察表

番号	出土位置	広面径	狭面径	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	9区 A22	3.2	2.5	0.8	12.3	滑　石	70%	
2	9区 A22	4.2	1.8	2.0	38.5	滑　石	100%	
3	8区 T23	3.8	2.1	1.5	20.8	滑　石	100%	
4	9区 A25	4.2	—	0.8	15.4	土	100%	須恵器転用
5	8区 S25	3.8	2.2	1.0	22.5	滑　石	100%	
6	8区 S26	4.4	—	1.1	19.8	土	50%	
7	8区 T27	4.3	2.5	1.9	50.0	滑　石	100%	
8	8区 T27	5.0	2.4	2.2	35.8	緑色凝灰岩	80%	
9	8区 R27	4.5	2.5	2.0	24.3	滑　石	50%	
10	8区 R27	3.5	—	—	13.0	滑　石	25%	

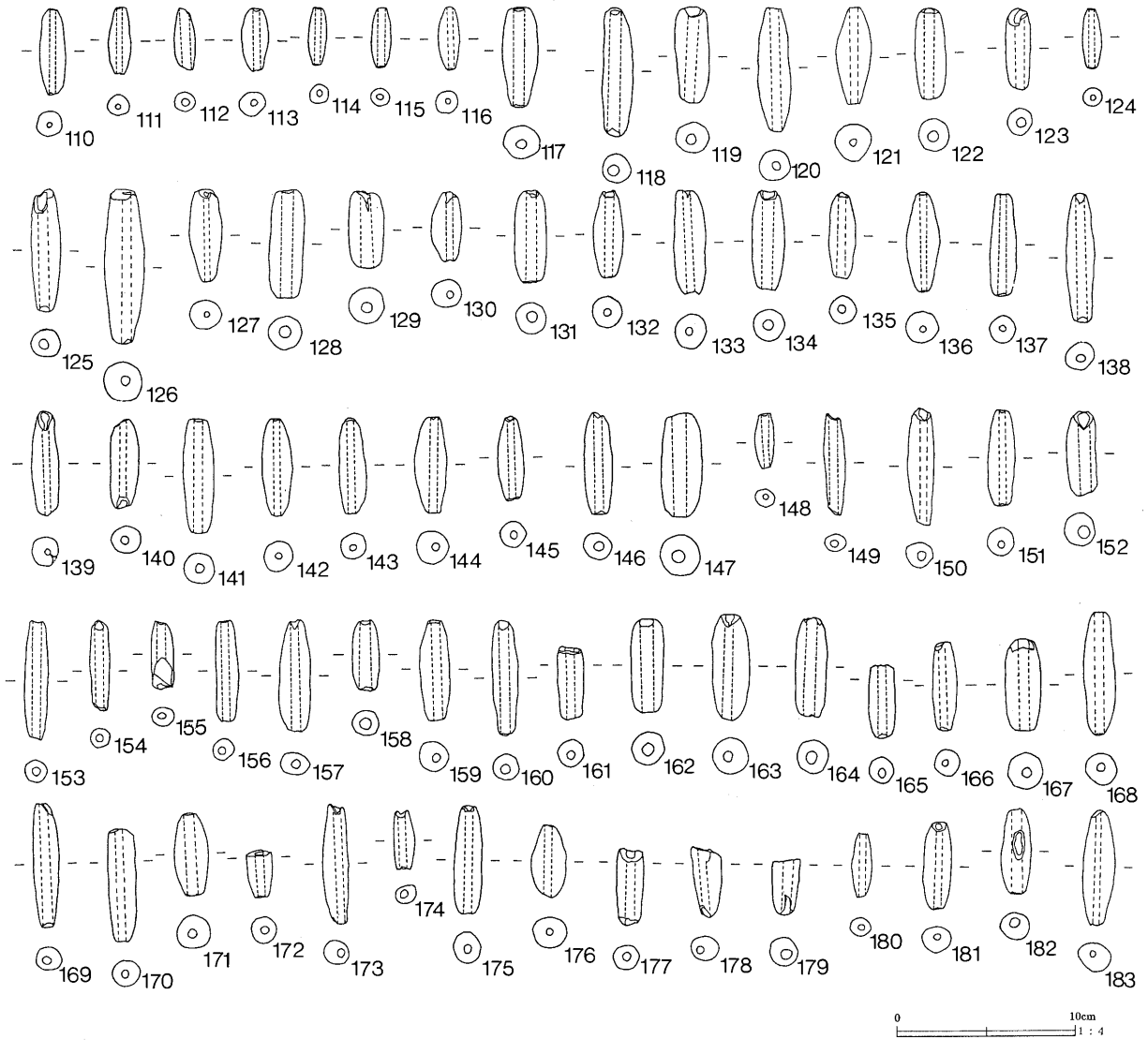
第256図　河川跡Ｃ地点出土砥石

第57表　河川跡Ｃ地点出土砥石観察表

番号	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	8区 T24	4.5	2.5	2.0	40	砂岩製	一部欠損	使用面6面全て。穿孔あり。
2	8区 T25	3.4	2.2	1.0	11	砂岩製	半分欠損	使用面3面。穿孔あり。
3	8区 T27	4.8	2.9	1.5	30	砂岩製	一部欠損	使用面6面全て。穿孔あり。
4	8区 Q27	5.5	2.3	2.4	50	砂岩製	一方端欠損	使用面5面。刃物キズあり。
5	9区 B26	5.6	4.5	2.3	90	砂岩製	両端欠損	
6	8区 T27	7.6	5.8	2.9	150	砂岩製	一方端欠損	
7	9区 A23	10.9	6.0	3.9	440	砂岩製	両端欠損	
8	9区 A23	16.2	8.7	2.5	320	砂岩製	欠損	使用面4面。
9	8区 Q27	13.3	10.0	5.6	1,190	砂岩製	一方端欠損	使用面4面。刃物キズあり。



第257図　河川跡Ｃ地点出土土錘(1)

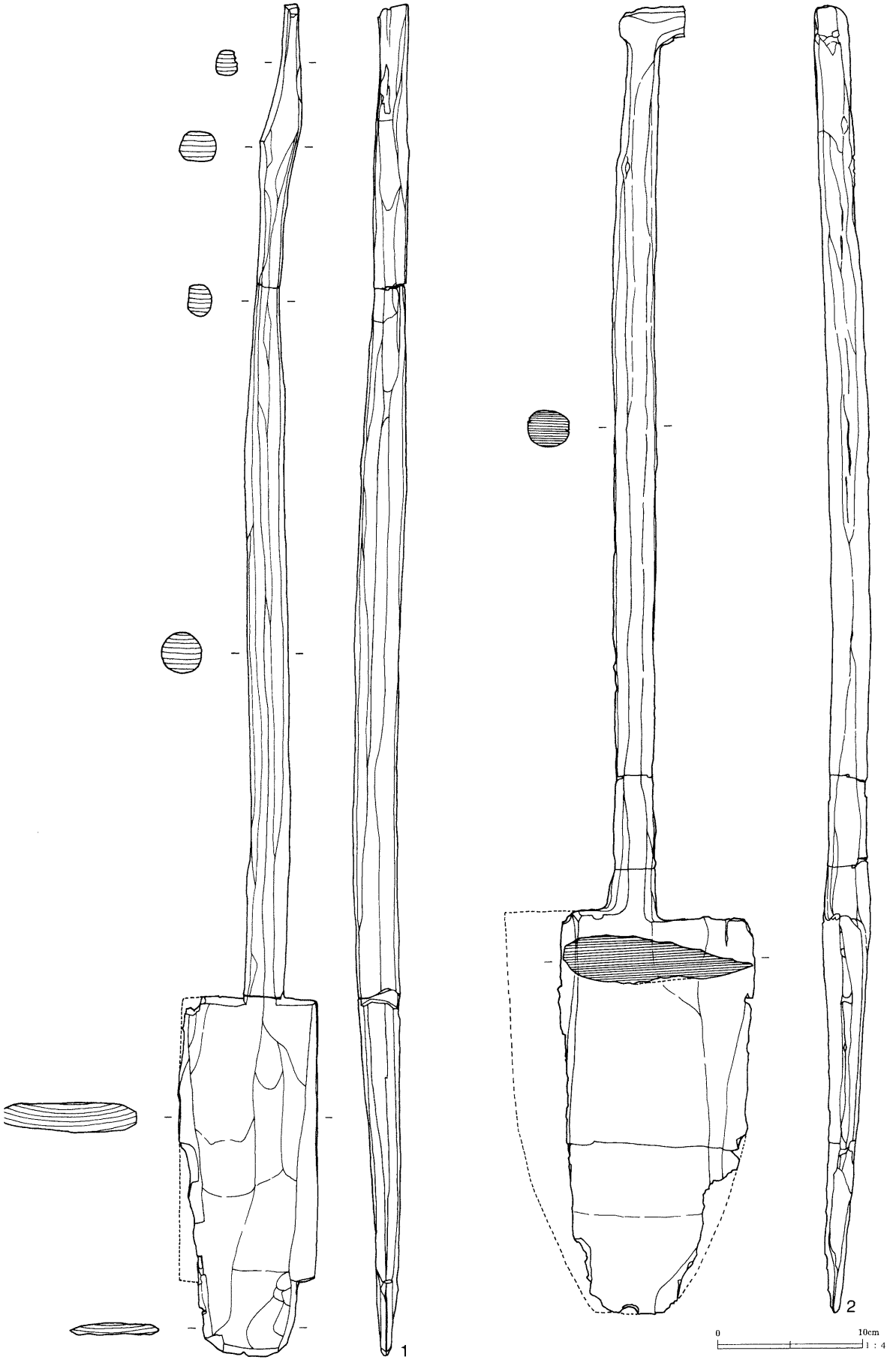


第258図　河川跡C地点出土土錘(2)

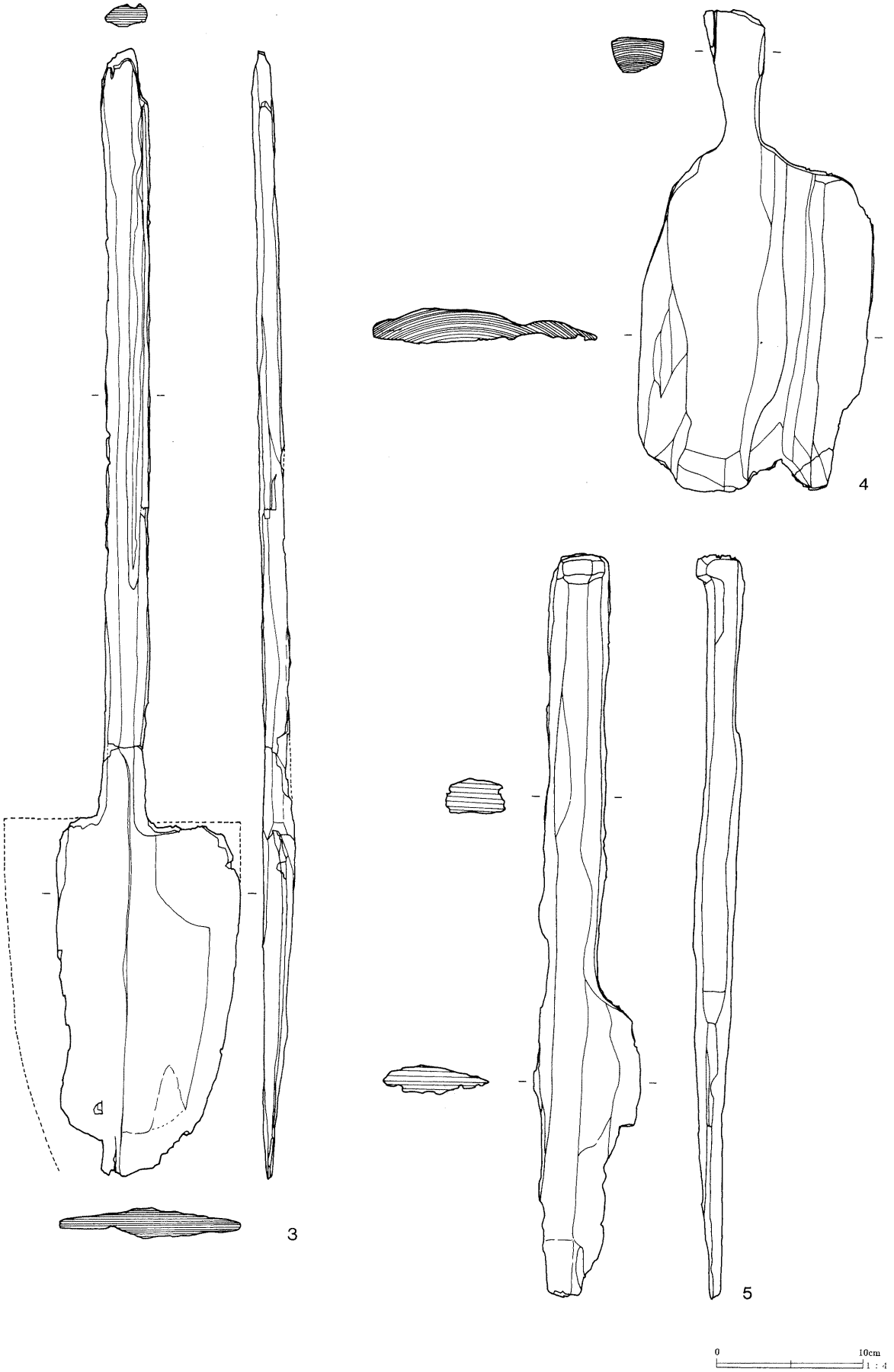
第58表　河川跡Ｃ地点出土土錘観察表

番号	出土位置	長さ	幅	重量	残存率	備考	番号	出土位置	長さ	幅	重量	残存率	備考
1	9区 B21	4.5	1.7	5.0	先端欠損		54	9区 A26	7.7	1.6	15.2	先端欠損	
2	9区 B22	5.7	1.8	9.0	完形		55	9区 A26	6.5	1.9	23.3	先端欠損	
3	9区 B22	4.7	1.9	15.0	完形		56	9区 A26	5.4	1.9	17.5	先端欠損	
4	8区 T22	6.5	1.6	7.9	先端欠損		57	9区 A26	5.7	1.8	15.0	一部欠損	
5	8区 T22	4.2	1.9	11.0	先端欠損		58	9区 A26	6.6	1.9	26.2	一部欠損	
6	8区 T22	5.1	1.8	20.5	先端欠損		59	9区 A26	3.6	1.3	4.5	先端欠損	
7	8区 T22	6.7	1.7	17.7	先端欠損		60	9区 A26	4.8	1.9	15.3	先端欠損	
8	9区 A23	5.2	1.6	13.7	先端欠損		61	9区 A26	5.9	1.4	9.2	先端欠損	
9	8区 T23	3.4	2.1	11.0	半分欠損		62	8区 T26	6.6	1.8	17.1	先端欠損	
10	8区 R23	6.0	1.8	20.0	完形		63	8区 T26	5.7	1.4	15.0	完形	
11	9区 A24	4.8	1.6	8.0	完形		64	8区 S26	6.3	2.0	21.0	完形	
12	9区 A24	5.4	1.5	11.4	完形		65	8区 S26	4.7	1.5	6.0	一部欠損	
13	9区 A24	4.2	1.5	7.0	先端欠損		66	8区 S26	5.9	2.0	18.3	一部欠損	
14	9区 A24	4.0	1.3	6.3	先端欠損		67	8区 S26	6.2	1.5	12.9	完形	
15	9区 A24	7.2	1.4	9.0	完形		68	8区 R26	4.8	1.4	10.0	完形	
16	9区 A24	3.7	1.8	13.0	半分欠損		69	8区 R26	3.8	1.3	5.0	完形	
17	8区 T24	6.0	1.1	6.8	先端欠損		70	8区 R26	3.5	1.3	6.0	先端欠損	
18	8区 T24	6.3	1.9	22.8	下端欠損		71	8区 R26	3.2	1.5	6.0	先端欠損	
19	8区 T24	4.8	1.7	11.1	先端欠損		72	8区 R26	6.6	3.0	21.0	完形	
20	8区 T24	4.4	1.6	14.6	先端欠損		73	8区 R26	3.9	1.3	6.0	完形	
21	8区 T24	3.0	1.5	5.8	半分欠損		74	8区 R26	5.7	2.1	25.0	完形	
22	8区 T24	2.4	1.3	3.2	半分欠損	未製品	75	9区 A27	6.0	2.1	25.0	完形	
23	8区 S24	5.0	1.5	4.0	先端欠損		76	9区 A27	5.5	1.8	16.0	完形	
24	8区 R24	5.1	1.1	4.0	完形		77	9区 A27	6.2	1.8	16.0	完形	
25	8区 R24	5.6	2.1	20.0	完形		78	9区 A27	5.9	1.6	14.0	完形	
26	8区 R24	5.6	2.0	15.0	先端欠損		79	9区 A27	6.6	2.0	21.0	完形	
27	8区 R24	4.5	1.1	4.0	完形		80	9区 A27	5.8	1.6	14.8	先端欠損	
28	8区 R24	6.1	1.6	16.0	完形		81	9区 A27	5.8	1.8	21.0	完形	
29	9区 B25	5.0	2.1	20.0	完形		82	9区 A27	7.1	1.4	9.0	一部欠損	
30	9区 B25	5.2	2.0	20.0	完形		83	9区 A27	5.1	1.9	11.0	完形	
31	9区 A25	5.5	2.0	22.6	先端欠損		84	9区 A27	6.1	1.9	16.0	一部欠損	
32	9区 A25	6.1	2.0	15.5	先端欠損		85	9区 A27	6.4	2.1	22.0	完形	
33	9区 A25	4.2	1.8	10.0	半分欠損		86	8区 T27	4.8	1.9	6.0	半分欠損	
34	9区 A25	5.7	2.0	21.7	先端欠損		87	8区 T27	4.0	1.7	10.5	半分欠損	
35	9区 A25	6.8	2.0	24.2	先端欠損		88	8区 T27	5.4	1.8	15.3	先端欠損	
36	9区 A25	7.4	1.6	19.8	先端欠損		89	8区 T27	7.8	1.7	16.9	先端欠損	
37	9区 A25	6.1	1.9	17.5	先端欠損		90	8区 T27	5.6	1.6	14.3	先端欠損	
38	9区 A25	5.7	1.9	21.2	先端欠損		91	8区 T27	5.2	1.9	15.0	完形	
39	9区 A25	5.3	2.1	18.0	先端欠損		92	8区 S27	6.1	1.7	22.0	完形	
40	9区 A25	6.2	2.1	20.7	先端欠損		93	8区 S27	8.8	1.7	18.0	完形	
41	9区 A25	5.6	2.0	20.6	一部欠損		94	8区 R27	7.2	1.9	17.0	一部欠損	
42	9区 A25	2.2	2.2	8.5	半分欠損		95	8区 R27	2.7	0.9	4.0	半分欠損	
43	8区 T25	5.2	1.6	10.0	完形		96	8区 R27	3.3	1.3	4.0	完形	
44	8区 T25	5.9	1.5	12.0	完形		97	8区 R27	3.4	1.2	5.0	完形	
45	8区 T25	6.2	1.8	15.0	完形		98	8区 R27	3.2	4.0	38.0	一部残存	
46	8区 S25	6.2	1.5	10.5	完形		99	8区 R27	4.1	1.6	8.0	先端欠損	
47	8区 S25	5.2	1.3	6.0	一部欠損		100	8区 R27	3.4	1.2	4.0	完形	
48	8区 S25	4.0	3.8	53.0	一部残存		101	8区 R27	4.6	1.5	11.0	先端欠損	
49	8区 R25	5.5	2.1	21.0	一部欠損		102	8区 R27	3.5	1.4	7.0	一部欠損	
50	8区 R25	3.4	1.3	4.0	完形		103	8区 R27	3.8	1.3	5.0	完形	
51	8区 R25	3.8	1.2	4.0	完形		104	8区 R27	6.2	1.5	10.0	完形	
52	9区 B26	8.9	3.9	149.0	一部欠損		105	8区 R27	3.7	1.3	5.0	完形	
53	9区 B26	5.1	2.0	20.0	完形		106	8区 R27	5.2	1.9	20.0	完形	

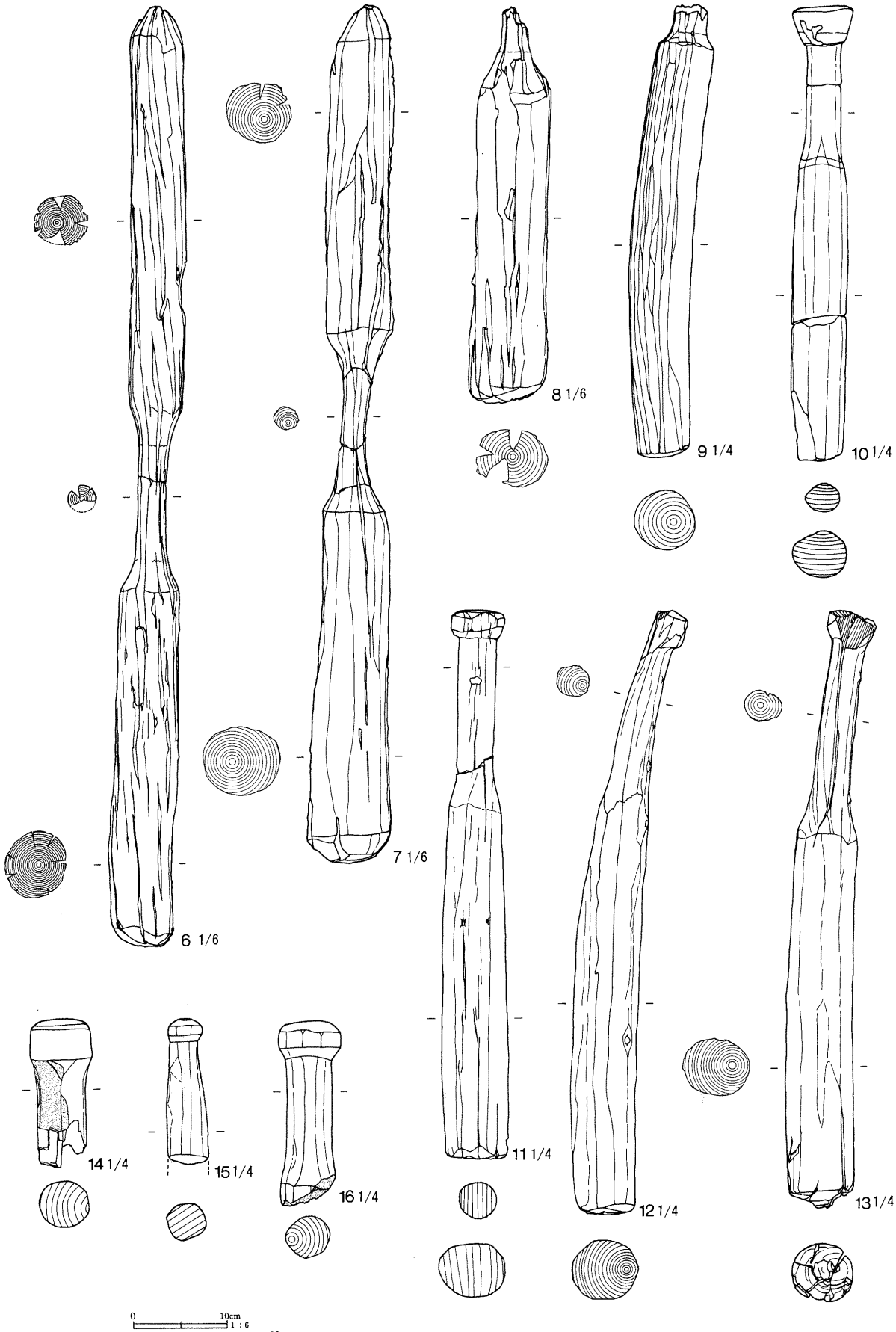
番号	出土位置	長さ	幅	重量	残存率	備考
107	8区 R27	4.8	1.5	10.0	完形	
108	8区 R27	3.7	1.4	7.0	完形	
109	8区 R27	5.6	1.2	8.0	完形	
110	8区 R27	4.9	1.5	10.0	完形	
111	8区 R27	3.7	1.2	6.0	完形	
112	8区 R27	3.4	1.2	5.0	完形	
113	8区 R27	3.6	1.5	7.0	完形	
114	8区 R27	3.3	1.2	4.0	完形	
115	8区 R27	3.4	1.1	4.0	完形	
116	8区 R27	3.6	1.4	5.0	完形	
117	9区 A28	5.6	2.1	16.0	完形	
118	9区 A28	7.3	1.6	19.0	完形	
119	9区 A28	5.4	1.8	20.5	先端欠損	
120	8区 T28	7.0	1.7	19.0	完形	
121	8区 T28	5.5	2.1	16.0	完形	
122	8区 S28	5.2	1.8	18.0	先端欠損	
123	8区 S28	4.6	1.5	9.7	完形	
124	8区 S28	3.5	1.0	3.1	完形	
125	8区 S28	6.9	1.7	13.0	一部欠損	
126	8区 S28	8.7	2.3	45.0	一部欠損	
127	8区 S28	5.2	1.8	15.8	一部欠損	
128	8区 S28	6.1	1.9	25.0	完形	
129	8区 S28	4.3	2.0	16.4	先端欠損	
130	8区 S28	3.9	1.7	10.0	一部欠損	
131	8区 S28	5.2	1.8	18.4	一部欠損	
132	8区 S28	4.9	1.8	13.7	先端欠損	
133	8区 S28	5.8	2.0	20.1	先端欠損	
134	8区 S28	5.6	1.8	18.3	先端欠損	
135	8区 S28	4.8	1.6	13.0	一部欠損	
136	8区 S28	5.6	1.9	16.1	完形	
137	8区 S28	5.7	1.5	12.0	完形	
138	8区 S28	7.2	1.6	15.0	先端欠損	
139	8区 S28	5.9	1.6	14.0	一部欠損	
140	8区 S28	4.9	1.7	12.8	一部欠損	
141	8区 S28	6.4	1.8	13.0	完形	
142	8区 S28	5.5	1.6	15.3	完形	
143	8区 S28	5.4	1.4	12.1	先端欠損	
144	8区 R28	5.4	1.8	15.0	完形	
145	8区 R28	4.7	1.5	11.0	完形	
146	8区 R28	5.7	1.6	14.0	完形	
147	8区 R28	5.9	2.3	28.0	完形	
148	8区 R28	3.1	1.1	3.0	完形	
149	8区 R28	5.7	1.2	7.0	完形	
150	8区 R28	6.5	1.6	11.0	一部欠損	
151	8区 Q28	5.4	1.6	11.7	完形	
152	8区 R29	4.8	1.7	15.0	先端欠損	
153	8区 R29	6.6	1.3	10.0	完形	
154	8区 R29	5.6	1.1	4.7	先端欠損	
155	8区 R29	3.8	1.3	3.0	下端欠損	
156	8区 R29	5.6	1.2	9.0	完形	
157	8区 R29	6.3	1.7	12.0	完形	
158	8区 R29	4.0	1.5	6.0	完形	
159	8区 R29	5.6	1.7	17.0	先端欠損	
160	8区 R29	6.4	1.5	13.0	完形	
161	8区 Q30	4.1	1.5	10.0	先端欠損	
162	8区 Q30	5.2	1.9	18.0	完形	
163	8区 Q30	6.0	2.0	22.0	一部欠損	
164	8区 Q30	5.5	1.9	18.0	完形	
165	8区 Q30	4.1	1.4	8.0	先端欠損	
166	8区 P30	5.0	1.5	9.0	一部欠損	
167	8区 P30	5.2	2.0	20.3	一部欠損	
168		6.8	1.8	20.0	完形	
169		6.9	1.4	10.3	先端欠損	
170		6.3	1.5	15.0	先端欠損	
171		4.6	1.9	15.0	完形	
172	9区 A	2.7	1.5	4.0	半分欠損	
173	8区 T	6.6	1.4	12.5	先端欠損	
174	8区 T	3.4	1.2	3.8	先端欠損	
175	8区 T	6.1	1.8	18.0	先端欠損	
176	8区 T	4.1	1.9	13.0	下端欠損	
177	8区 T	4.4	1.5	9.2	半分欠損	
178	8区 T	3.8	1.6	7.6	半分欠損	
179	8区 T	3.1	1.6	7.0	半分欠損	
180	8区 R	3.7	1.2	4.0	完形	
181	8区 R	4.9	1.7	7.0	完形	
182		4.8	1.6	10.0	完形	
183		6.5	1.9	20.0	完形	



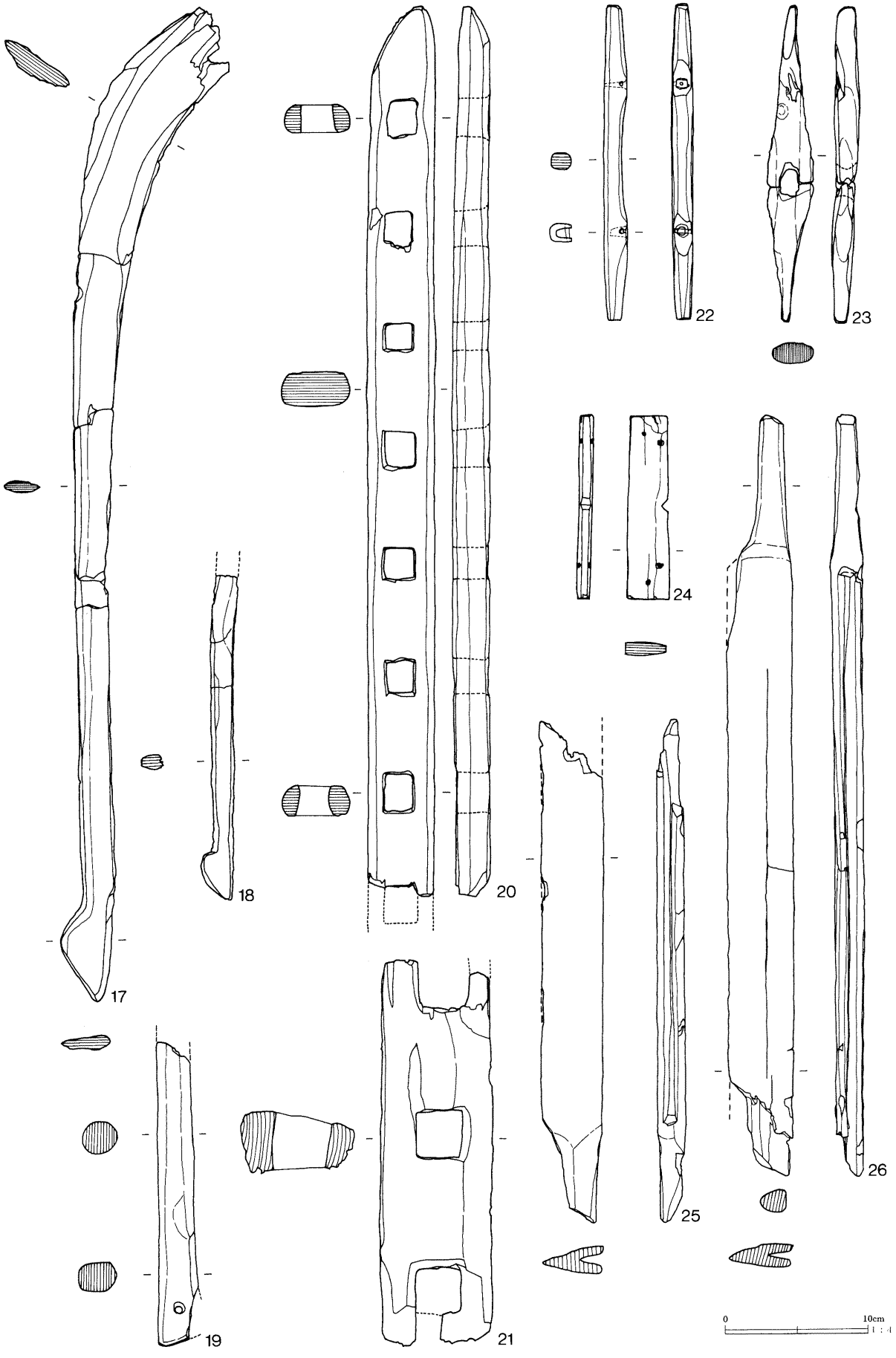
第259図　河川跡Ｃ地点出土木製品(1)



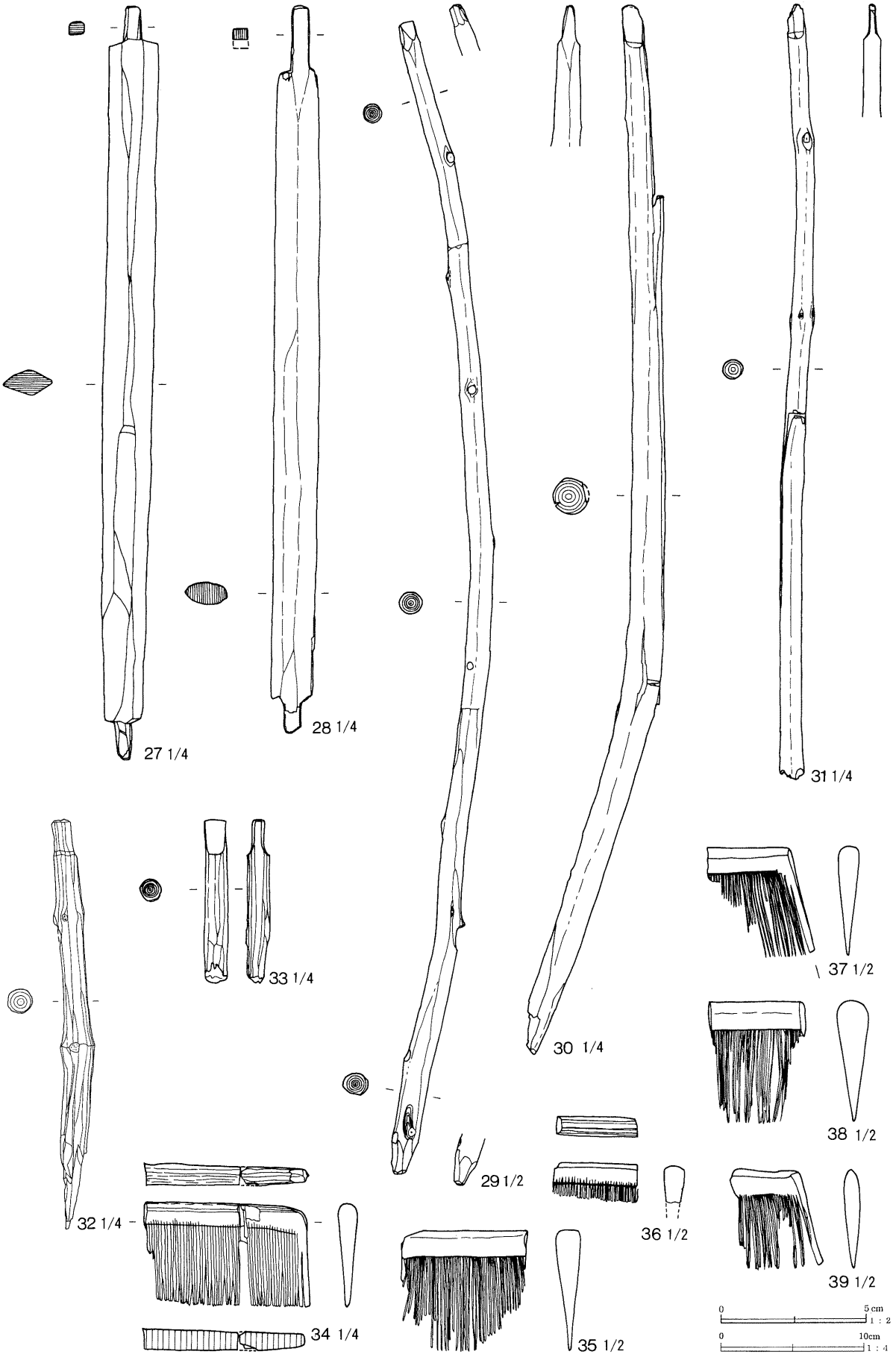
第260図　河川跡Ｃ地点出土木製品(2)



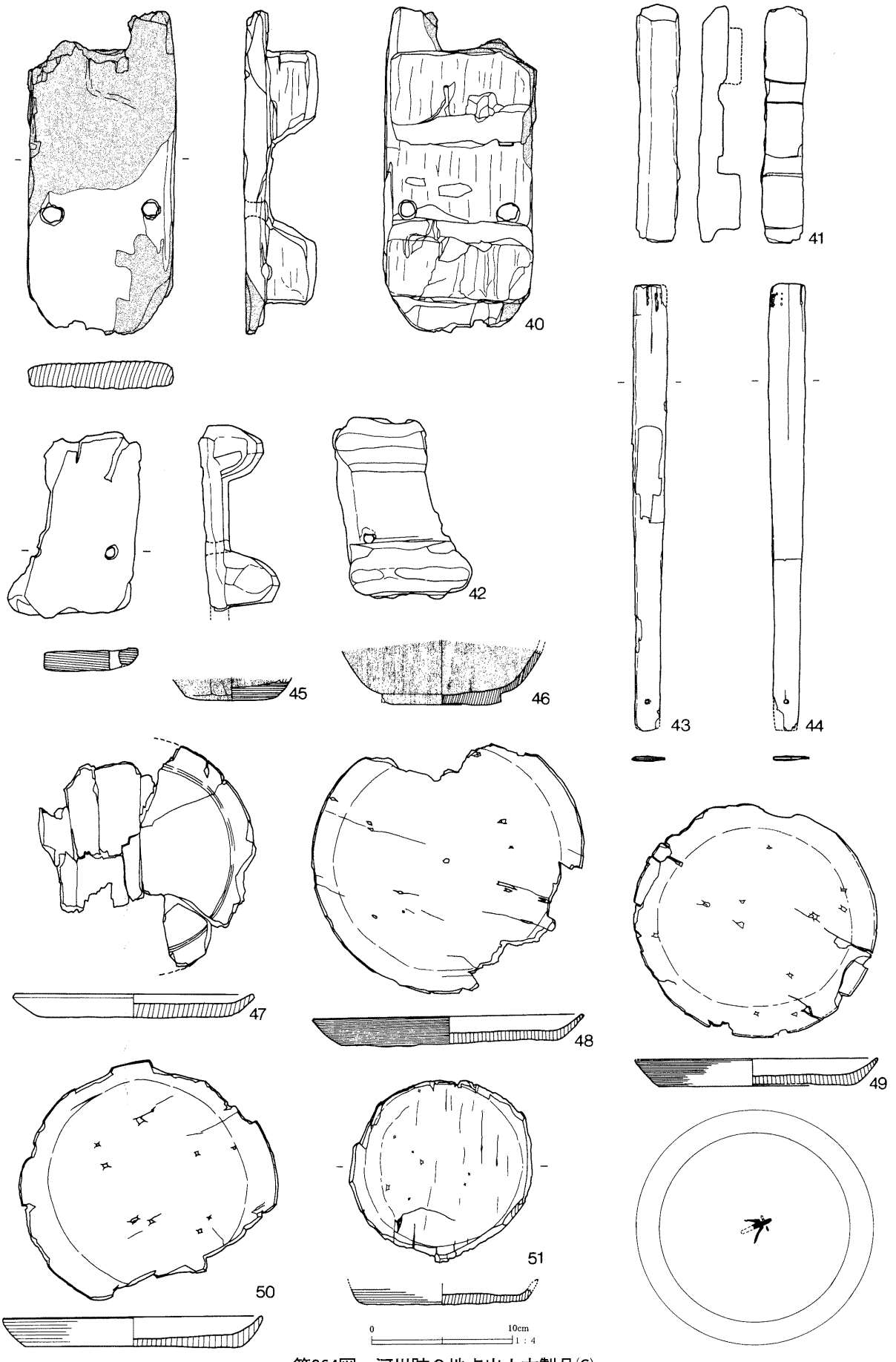
第261図　河川跡Ｃ地点出土木製品(3)



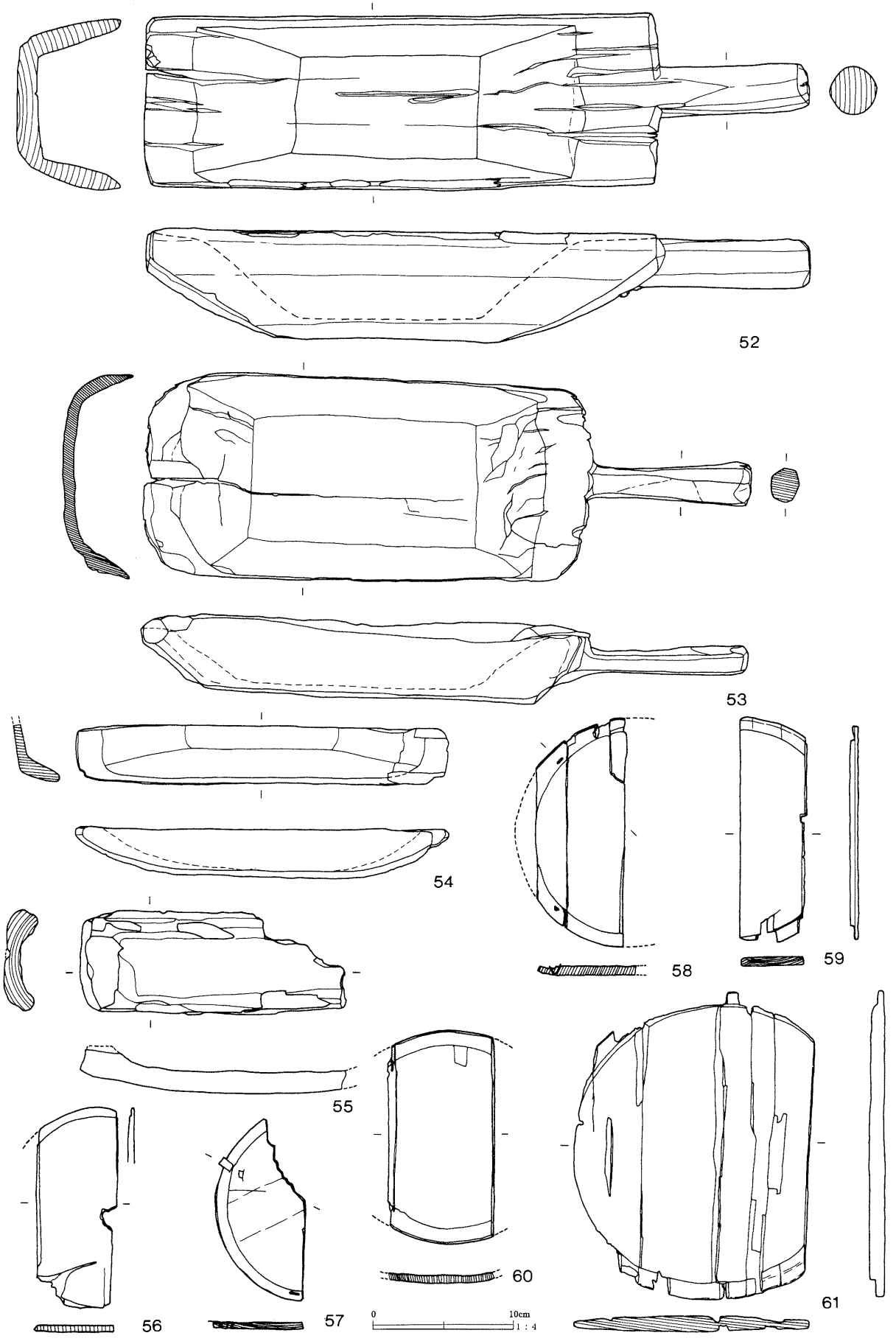
第262図　河川跡C地点出土木製品(4)



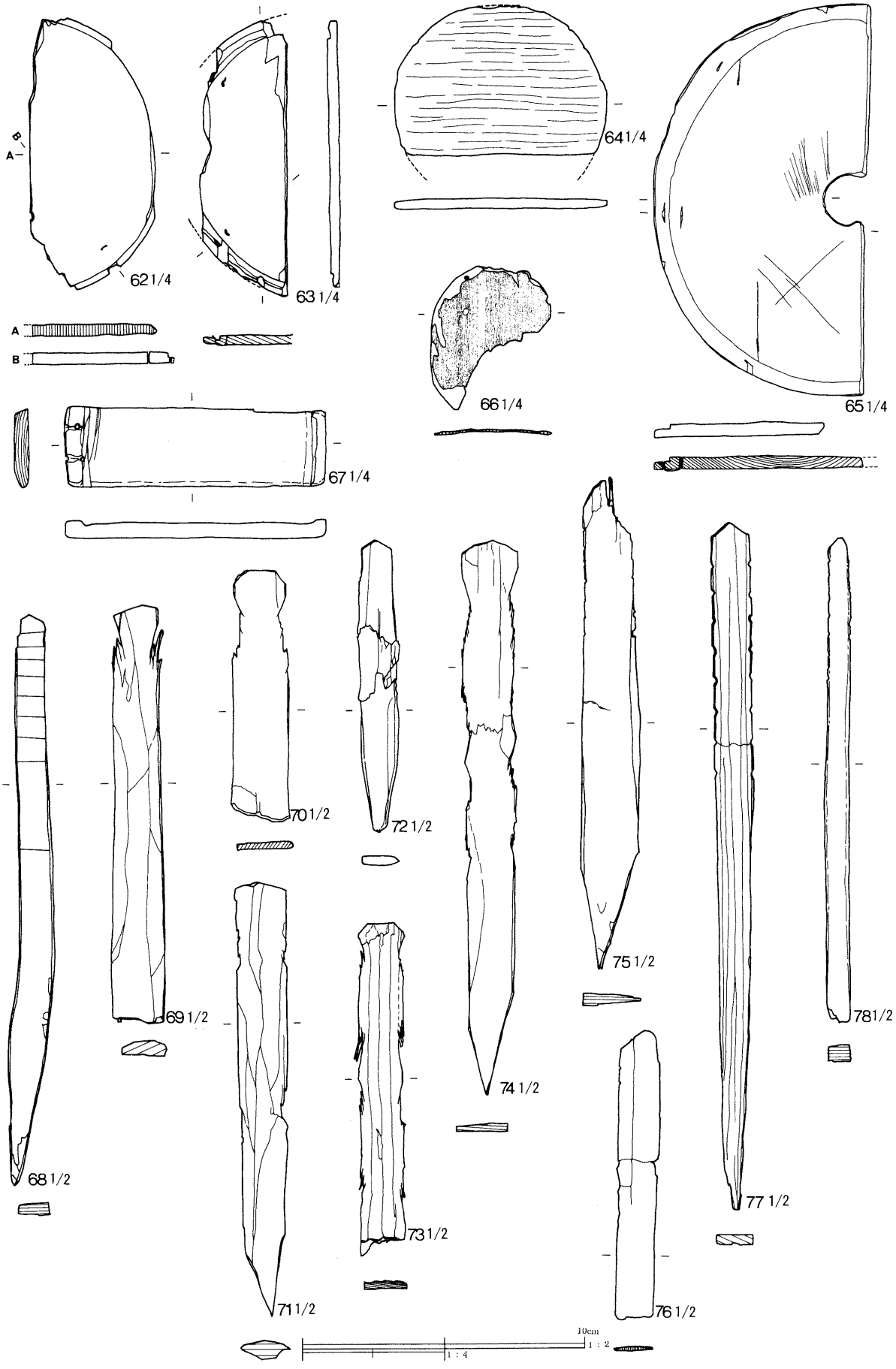
第263図　河川跡Ｃ地点出土木製品(5)



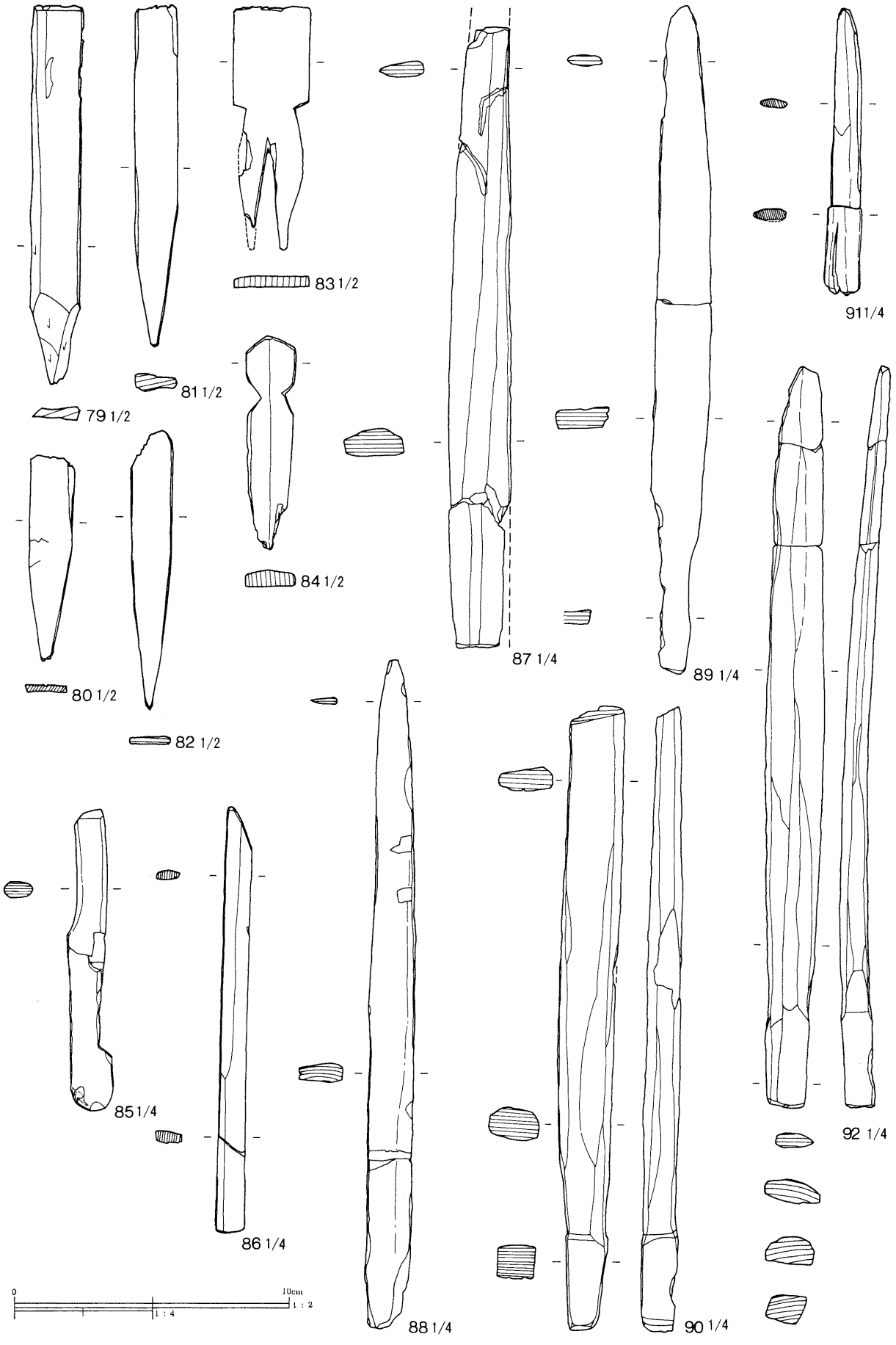
第264図　河川跡Ｃ地点出土木製品(6)



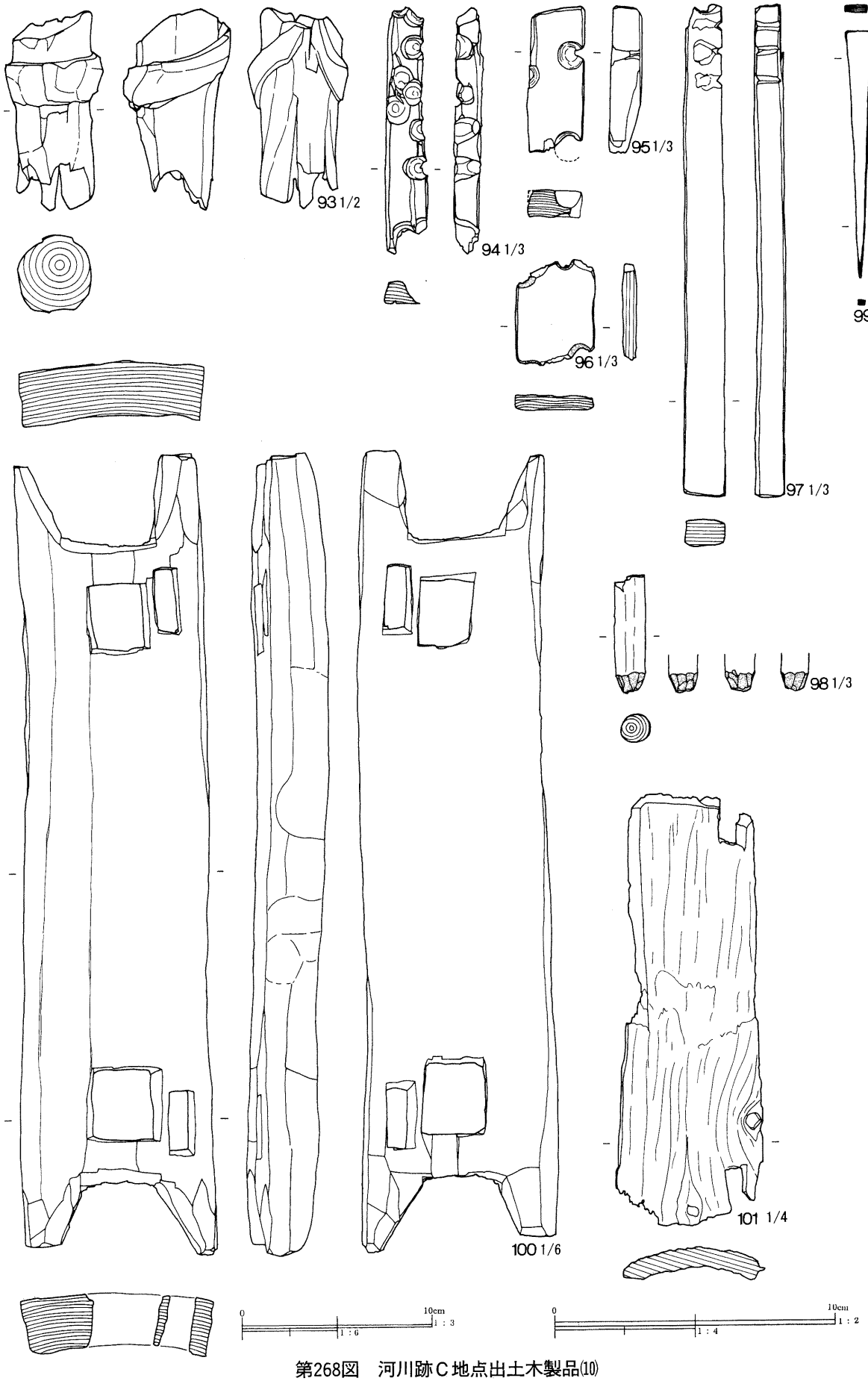
第265図　河川跡Ｃ地点出土木製品(7)



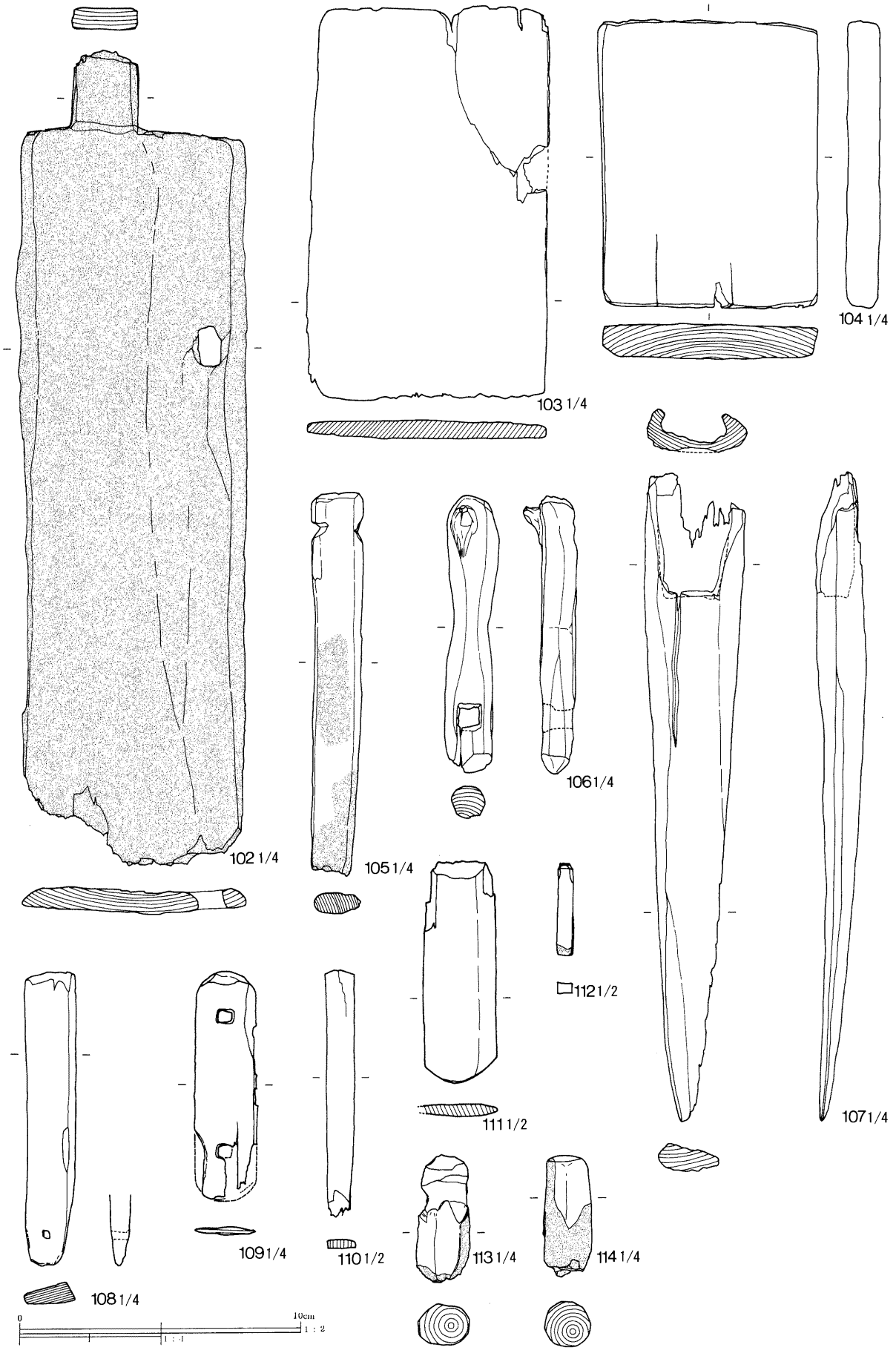
第266図　河川跡C地点出土木製品(8)



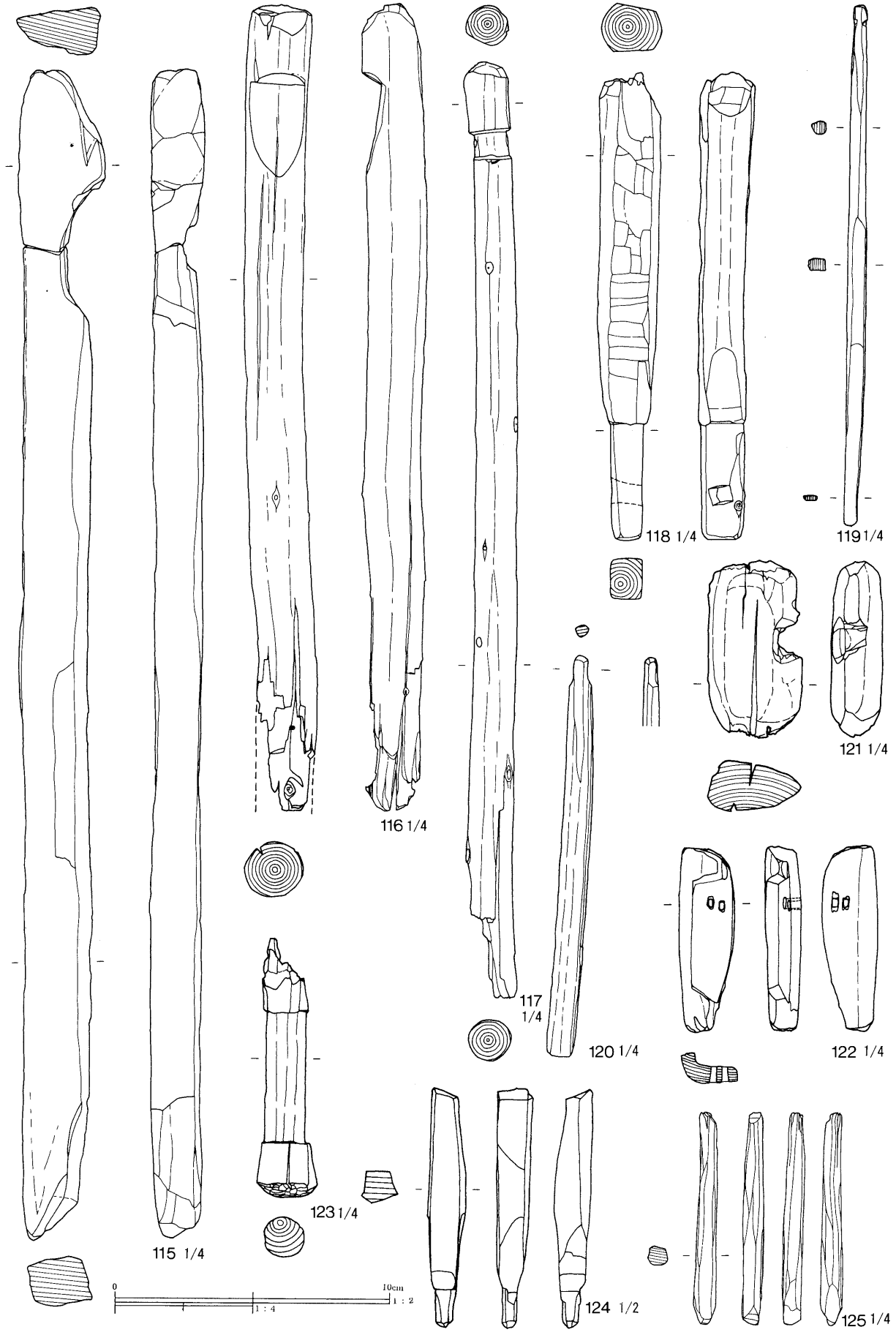
第267図　河川跡Ｃ地点出土木製品(9)



第268図　河川跡Ｃ地点出土木製品(10)



第269図　河川跡Ｃ地点出土木製品(11)



第270図　河川跡C地点出土木製品(12)

第59表　河川跡Ｃ地点出土木製品観察表

番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	木取	樹種	特徴	備考
1	鋤	8区 Q30	96.2	柄　2.9 身　9.7	柄　2.9 身　2.2	板目	コナラ属 アカガシ亜属	一木鋤の平鋤(直伸鋤)。把手は上端に特に把手を作らないもので、先端を細く端から１cmぐらいの所を太く、又さらに10cm程の所を細くしたｆ字形を呈す。断面は隅丸方形状。身の形態は柄から左右に肩が水平にのび、肩幅と刃部最大幅が大差なく、鉄製のＵ字型刃先を装着したと思われる痕跡が鋤先端付近にある(Ｌ字に切欠いて先端へ至る)。刃部の断面形は、前・後面の区別が不明瞭であり、中央がやや膨らんだ紡錘形を呈する。	ほぼ完形。
2	鋤	9区 A26	93.0	柄　3.0 身 13.7	柄　2.6 身　3.3	板目	コナラ属 アカガシ亜属 クヌギ節	一木鋤の平鋤(直伸鋤)。把手は棒状の柄の上端に横木を一木で作り出す(片方が欠損)。身の形態は柄から左右に肩が水平にのび、肩幅と刃部最大幅が大差なく屈曲点から緩やかに刃線に至るものと推定できる(一方側欠損)。刃部の断面形は前・後面の区別が不明瞭であり、中央で膨らんだ紡錘形を呈する。	ほぼ完形。
3	鋤	9区 A25	79.0	柄　3.2 身 12.5	柄　1.9 身　2.0	板目	コナラ属 アカガシ亜属	一木鋤の平鋤(直伸鋤)。把手は欠損していて不明。身の形態は柄から左右に肩が水平にのび、刃部最大幅と肩幅が大差なく屈曲点から緩やかに刃線に至るものと推定できる。刃部の断面形は、前・後面の区別が不明瞭であり、中央で膨らんだ紡錘形もしくは菱形を呈するものか、身の前面がややふくらみ後面が平坦なものかの判断がつきづらい。	刃部の一方の側が欠損著しい。
4	鍬身	8区 O24	33.7 軸部 9.1 刃部24.6	15.5 軸部 4.1 刃部15.5	2.4	板目	サワラ	曲柄鍬身(紐結合鍬)曲柄平鍬。軸部と刃部との境が明瞭なものである。刃部は左側が著しく欠損しているが、恐らく平行しており、また刃部幅と肩幅は大差がないと考えられる。軸頭は不明瞭である。	鍬の可能性もある。
5	曲柄鍬身	9区 B26	52.0	軸部 (着柄軸) 4.3	軸部 (着柄軸) 2.5	板目	コナラ属 アカガシ亜属	軸部と刃部との境が明瞭で肩が斜めである。軸頭はＬ字に前面に突出している。刃部の断面形はやや中央の膨らんだ紡錘形を呈していると思われる。軸部が長い。	刃部欠損により全体が不明のため、鍬身かどうか不明。
6	竪杵	8区 R29	102.2 握部20.0	搗き部6.6 握部　3.1	搗き部7.1 握部　2.9	芯持材	ハイノキ属	無節式竪杵。搗き部が円柱状をなし屈曲してくびれて握部に至るタイプ。搗き部端は一方が平坦で逆のほうが丸く仕上げられている。丸い側の搗き部は欠損が著しい。	ほぼ完形。
7	竪杵	8区 S28	93.1 握部20.0	搗き部8.8 握部　2.6	搗き部7.4 握部　2.5	芯持材	コナラ属 アカガシ亜属	無節式竪杵。搗き部が円柱状をなし屈曲してくびれて握部に至るタイプ。搗き部は一方の端は平坦に、もう一方の端が丸く仕上げられている。	ほぼ完形。
8	竪杵	8区 T28	43.0	搗き部7.2 握部　3.0	搗き部6.9	芯持材	コナラ属 アカガシ亜属	無節式竪杵。搗き部が円柱状をなし屈曲して握り部に至るタイプ。搗き部の端は平坦である。搗き部はほぼ同じ径であり、握部との境は急に径が減じる。	半欠損。
9	横槌	8区 T27	23.0	4.3	4.3	芯持材	ヒノキ属	砧用か。身は細身で若干湾曲している。表面は丁寧に細く削り、断面円形に平滑につくられている。約半分は表皮が荒れている。	柄欠損。
10	横槌	8区 S28	32.4	3.8	3.3	割材	カバノキ属	砧用と想定できる。楕円形の身と棒状の柄からなる。身から柄への変化は不明瞭で、多少のくびれをもち身へと太くなる。全体的に細身。柄はしっかりとしたもので野球のバット状の柄頭に似て、円錐の頭を切り取ったような形態。柄との境は明瞭な稜をもつ。	先端部欠損。
11	横槌	8区 P30	柄部 2.3 杓部 9.0	柄 2.7	4.6	割材 (柾目)	コナラ属 アカガシ亜属	砧用。身から削り細めて柄を作る。身と柄の区別は比較的明瞭である。身の断面はほぼ円形だが対応する2面に敲打と思われる窪みがつき平坦になっているのでこの面を使用したと推定できる。柄は野球のバット状で柄尻を太く削り残すがＪ字に丸く仕上げられている。全体に非常に丁寧なつくりである。	
12	横槌	9区 B26	43.4	柄　15.0	4.6	芯持材	ヒノキ	砧用。身から次第に削り細めて柄を作り、身と柄の区別は不明瞭である。身は断面円形だが、対応する2面に敲打と思われる窪みがわずかながら認められ平坦部分を作り、使用面と思われる。柄は柄尻が太く削り残されているがほぼ欠損。	
13	横槌	9区 A29	42.5 柄　6.3	4.6 柄 2.6	3.9 柄 2.2	芯持材	ヒノキ	砧用。身から削り細めて柄を作る。身と柄の区別は比較的明瞭である。身は断面円形だが対応する2面に敲打と思われる窪みが若干認められ、恐らく使用面はこの2面であろう。柄は野球のバット状で太く削り残すタイプ。また身の先端は木材の芯を削り残したようである。	柄尻3/4欠損。
14	横槌	8区 R25	5.6	3.5	3.3	割材		柄の握り部の一部。非常に平滑に丁寧につくられている。端部にバット状の頭をつける。握り部は均等な太さである。一部炭化する。	柄部分。
15	横槌	9区 A25	10.2	2.7	2.6	割材		柄の握り部の一部のみ。末端に向かって細く削られ、端部にバット状の頭をつける。	柄部分。
16	横槌	9区 A27	13.1	3.1	2.9	芯持材	サワラ	柄の握り部の一部のみ。握り部に太さはほぼ均等につくられ、端にバット状の頭をつける。平滑につくられている製品。欠損部は炭化する。	柄部分。
17	大鎌	9区 B25	72.0	5.7	1.5	割材か 板目	クリ？	長大な鎌柄。中央が厚みのある平たい柄で、柄の基部面には突起がある。身を装着する方は基部突起と逆方向に反る。	
18	鎌	9区 A26	23.3	1.6	1.0	割材？	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	棒状の柄で、断面が楕円形を呈す。柄尻の腹面側に山形の突起を作り出す。柄の握りがまっすぐな形態。	
19	柄	9区 B22	21.6	柄頭部 2.7	柄頭部 2.1	柾目		柄頭が断面長方形を呈し1箇所穿孔。他は断面楕円形。丁寧につくられている。	
20	田下駄枠	8区 P30	64.0	4.8	2.5	割材	ヒノキ属	角材の四隅を落とし、両端が丸みを持つ。柄穴は8箇所認められ、内１ヶ所は若干痕跡を残すのみである。2.9×2.2cmの長方形のものから2.4×2.4cmの正方形のもの、2.0×2.2cmの正方形の小さめの穴までバラエティに富んでいる。先端部は二等辺三角形でスキーの板の先端のように反り上がるように削り落とす。	一方端欠損。

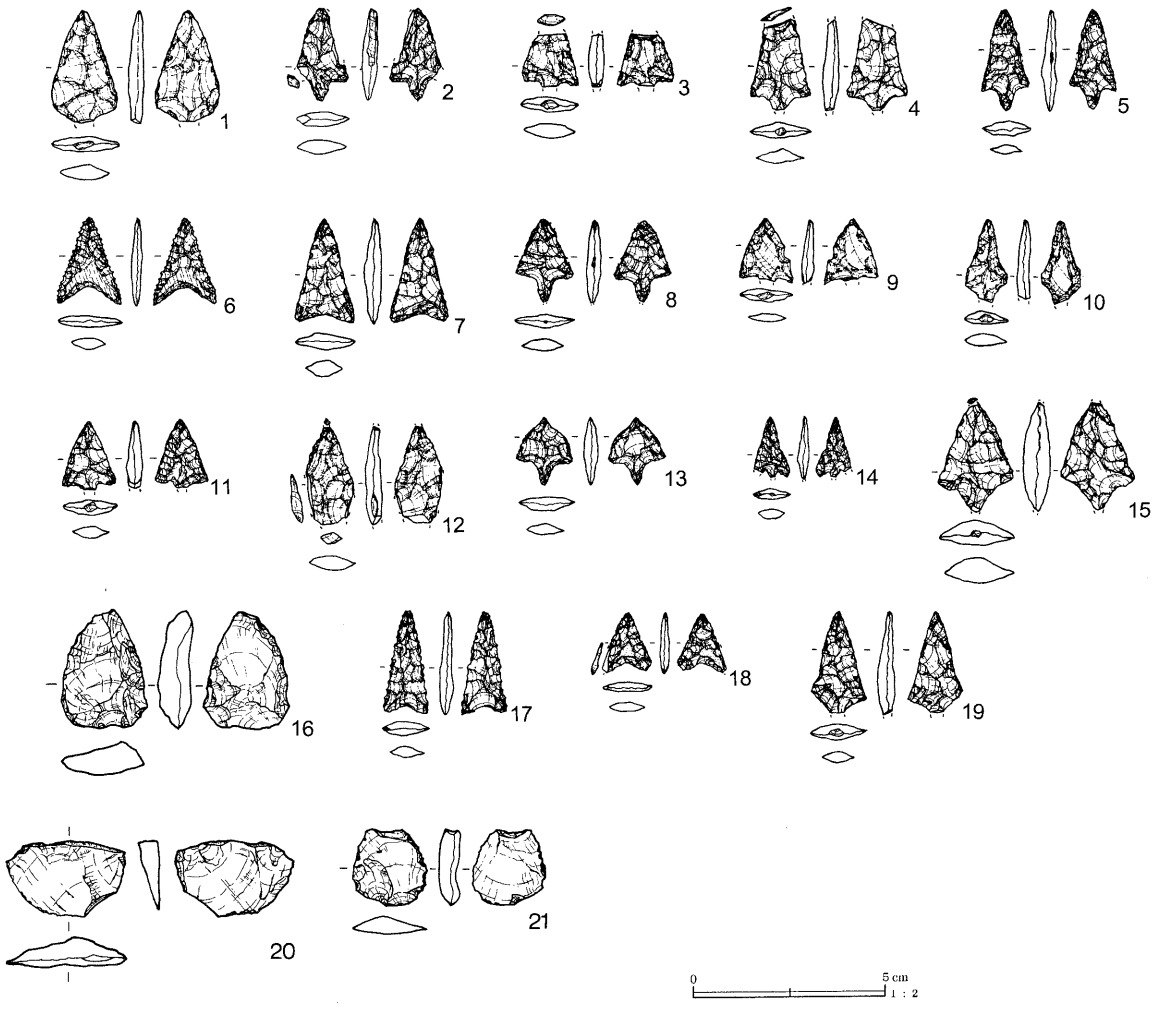
番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	木取	樹種	特徴	備考
21	田下駄枠	9区 B25	27.7	8.0	5.2	柾目？		正方形の穴を３ヶ所あける部分のみ残存。	両端欠損。
22	糸巻	9区 A22	22.6	1.6	1.5	柾目	サワラ	組合せ式糸巻。枠木の部分。枠木の両端から内寄りの腹面に２ヶ所の枘孔をあけて横木を結合するタイプで、枠木の形状は断面が背面を丸く加工したカマボコ形。２ヶ所の結合部間に浅い刳形を入れる。枘孔は隅丸方形で一方が背面まで貫通する。一方は一側面から木釘孔をあけて、もう一方は貫通させる。	
23	枠	9区 B21	22.7	3.1	1.7	柾目 板目	スギ	「支え木さしこみ式」。枠の腕木の部分だと思われる。中央の枘孔付近を最大幅をもち両端に向かって細い形状。枘孔は長方形で支え木端をさしこんだものと考えられる。	
24	織機	8区 T24	13.15	3.0	0.9	板目	ヒノキ	楔の先端を切り落とした断面形の板材で、一方側面中央を三角形に切り欠いたもの。三角形に切り欠いた側の短辺近くに１つずつ穿孔。穿孔は比較的雑。	織機か。
25	経巻具 (経布具)	8区 Q29	36.2	身　4.4 把手 2.4	身　2.0 把手　—	柾目	マキ属	長い板の両端が把手状にのびる形態。身の断面は一辺を刃状に削り、他方の辺に溝を穿って断面楔形に仕上げる。	一方端欠損。
26	経巻具 (経布具)	8区 Q29	54.5	身　4.5 把手 1.8	身 1.65 把手 1.6	斜め	マキ属	長い板の両端が把手状にのびる形態。身の断面は一辺を刃状に削り、他辺に溝を穿って断面楔形に仕上げる。	一方の把手欠損。
27	経巻具 (経布具)	9区 B26	53.9	身　3.5 突起 1.2	身　1.8 突起 1.0	板目	ヒノキ	細長い板の両端に把手状に枘状突起がつく。身の断面は菱形を、突起の断面は方形を呈する。	
28	経巻具 (経布具)	8区 S28	52.1	身　3.1 突起 1.2	身　1.5 突起 0.8	柾目	ヒノキ	細長い板の両端に把手状に枘状の突起がつく。身の断面は中央を厚くした凸レンズ形で、突起の断面は方形を呈する。	身剝離欠損。突起一部欠損。枠形田下駄の横桟の可能性あり。
29	丸木弓		84.0	1.8	1.6	芯持材	モミ属	両端に弭をとどめる完存なもの。弭は一方端は両側を削り込んでやや枘状の物でもう一方端は多面から削り込み杭先のような状態である。弭付近以外は樹皮をとりさる程度の整形で枝の基部とところどころ若干残す比較的雑なつくりである。	「短弓」、「反曲弓」。一方端からもう一方端へ向かって細くなる。
30	丸木弓		76.5	2.5	2.6	芯持材	カヤ	直弓か。弭の切り込みは両面から削り落として長方形の形態である。	途中２ヶ所欠ける。一方端欠損。
31	丸木弓		55.5	1.4	1.4	芯持材	イヌガヤ	直弓か。弭の切り込みは両端から削り落として長方形の形態である。	一方端欠損。上下で切断されている。
32	丸木弓		29.3	1.9 弭(1.3)	1.7	芯持材	カヤ	直弓か。弭の切り込みは全面から削り込み円柱状に細くつくる。身は面取り状に削り平滑し丁寧に作られる。	一方端欠損。
33	丸木弓		6.6	1.6	1.7	芯持材	カヤ	丸木の灌木を用いて、先端を両端から削り込んで枘状の弭をつくりだす。樹皮をとり除いて断面が多角形状を呈すように加工。	単純弓。 単体弓。 弭部のみ残存。
34	横櫛	(9区 B22)	5.9	3.7	0.7	柾目	イスノキ	長方形のもので肩部に丸味をもたすタイプ。切通し線は背の上縁にほぼ並行して肩部の方では若干下に下がり気味の直線を描く。歯の挽きだしの位置は一定していない。背の断面は柳葉を呈する。歯は精巧につくられており、３cmあたり34枚を挽きだす。	一方端部残存。
35	横櫛	(8区 T23・24)	4.4	4.3	0.9		イスノキ	長方形と推定される。歯は細く３cmあたり33本である。切通し線は、背の上線に平行して直線を描くものである。断面は柳葉形である。背は断面が角が張る丸形でやや方形を呈する。	中間部分残存。
36	横櫛		2.9	1.4	0.7		イスノキ	長方形と推定される。歯は細く１cmあたり11本である。切通し線は、背の上縁に平行して直線を描くものである。切通し線は深め、歯の挽き出しは切通し線より上から挽きだす。背は断面がやや角張る丸形でやや方形を呈す。	中間部分残存。
37	横櫛	9区 A23	2.9	3.9	0.65		イスノキ	長方形で肩部が角張るタイプ。歯は細く１cmあたり13本である。切通し線は、背の上縁に平行して直線を描くものである。断面は柳葉形である。背は断面が丸い。	一方端残存。
38	横櫛	8区 R24	3.3	4.3	1.1		イスノキ	長方形と推定される。歯は細く１cmあたり13本である。切通し線は、背の上縁に平行して、直線を描くものである。断面は柳葉形である。背は断面形が丸い。	中間部分残存。
39	横櫛	(9区 A23・24)	3.2	3.5	0.5		イスノキ	長方形で肩部が角張るタイプ。歯は細く１cmあたり11本である。切通し線は、背の上縁に平行して直線を描くものである。断面は柳葉形である。背が三角形に尖る断面である。	一方端残存。
40	下駄	9区 B26	23.2	10.3	台　1.9 歯　5.2	柾目か	不明	連歯下駄。緒孔の前壺の位置は炭化欠損していて不明だが、後壺は後歯の前にあける。歯は台の両側から若干内寄りに歯をつくり出し、前・後歯とも側面から見て内側が斜めで外側が直立する台形を呈する。下駄の平面形によって隅丸方形と思われる。若干足裏による摩滅痕が若干残っているようである。台のかなりの部分と前歯の左側の部分が炭化する。つま先は欠損著しい。	80%残存。炭化欠損。
41	下駄	8区 T26	17.0	3.0	台　1.6 ～1.8 歯　3.0	柾目		連歯下駄。歯は縦断面が方形のものである。歯の内側には幅約1.3cmの枘がある。(のみか鋸の切り出しと思われる)前後の歯の中間と一方端(後歯？)を厚く彫り残す。鼻緒孔は不明。平面形不明。	摩滅が激しい。中央部のみ残存。
42	下駄	9区 B22	13.0	8.6	台　1.4 歯　5.2	板目	ケヤキ	後壺の２ヶ所残る。歯は摩滅が激しい。後歯の前に鋸びきの痕跡残す。	大部分欠損。
43	扇	8区 S24	32.0	2.4	0.2		サワラ	要孔の方を若干細くつくった長方形の板材で、断面は中央部がふくらむ。綴目の孔は６つ、要孔は１つあけられる。	ほぼ完形。
44	扇	8区 S24	32.2	2.7	0.2		サワラ	要孔の方を若干細くつくった長方形の板材で、断面は中央部がふくらむ。綴目の孔は６つ、要孔は１つあけられる。	ほぼ完形。

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	木取	樹種	特徴	備考
45	挽物漆椀	8区 T23 ・24	—	1.5	6.8	横木取り 柾目	トチノキ	内面と底部をのぞく外面に黒漆を塗付する。	底部付近のみ残存。
46	挽物椀		—	4.0	8.6	横木取り	トチノキ	高台付の椀。口縁部は垂直気味に立ち上がり若干八字に広がる。高台は中央を窪めておらず平坦なままである。内外面とも黒漆をかける。下地塗りはなく素地に直接かけている。又底部内面に轆轤挽きの痕跡が認められる。	下半残存。
47	挽物皿	9区 A22	(17.2)	1.7	13.6	横木取り	トチノキ	高台のつかない皿。器の内面から口縁部外面にかけて轆轤挽きしている痕跡残す(内面口縁部たち上がり部境と口縁部外面)。白木作り。	60～70％残存。
48	挽物皿	9区 B22	19.2	2.0	15.4	横木取り	トチノキ	高台のつかない皿。口縁部外面は轆轤ケズリの痕跡残し、底部と水平に線刻状の痕跡を残す。	80％残存。
49	挽物皿	9区 B22	17.3	2.0	13.6	横木取り		高台のつかない皿。口縁部外面は轆轤ケズリの痕跡残し、底部と水平に線刻状の痕跡を残す。	ほぼ完形。底部外面に「木」の焼印。
50	挽物皿	9区 R24	18.5	2.0	15.2	横木取り	トチノキ	高台のつかない皿。口縁部外面は轆轤ケズリの痕跡残し、底部と水平に線刻状の痕跡を残す。底部は中央が薄く、口縁部に向かって厚みを増す。	
51	挽物皿	9区 A23	(13.5)	(2.0)	11.8	横木取り (柾目)	トチノキ	高台のつかない皿。小型皿。中央が厚く口縁部に向かって薄いつくりの底である。口縁部外面は轆轤ケズリ痕跡を残し底部と水平に線刻状の痕跡残す。又比較的急に立ち上がる。一部口縁部内側から外側さらに底部にかけて炭化箇所あり。	

番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	木取	樹種	特徴	備考
52	槽	9区 A24	47.8 把手10.5	12.3	7.5 把手　3.3	横木取り	針葉樹	長方形把手付槽。内外とも平坦な底部から口縁部が斜めに立ち上がる。短辺中央に棒状の把手が１本付くものである。底部は全体の身の長さから比べると約1/2の長さの小さいものであるが、器高が高く深い。両端とも端部が平坦である。内外とも丁寧なつくりである。把手は断面円形の太いものである。	完形。
53	槽	8区 R29	43.6 把手11.7	14.7 把手　3.2	5.1 把手　2.1	横木取り	ヒノキ	長方形把手付槽。内外とも平坦な底部から口縁部が斜めに立ち上がる。短辺中央に棒状の把手が１本付くものである。把手側の短辺の方が厚く作られている。内外とも比較的丁寧に作られていて、内側刳込部の口縁に若干ハツリ痕らしきものを残す。外面は風化が著しい。把手は端部が若干幅の広いつくりである。	完形。
54	槽	8区 T27	長辺26.9	4.2	3.4	横木取り	スギ	長方形槽。短辺は平坦な底部から口縁部が丸みを帯び斜めに立ち上がる。長辺はやや斜めの底部から口縁部が斜めに立ち上がる。口縁端部は長辺が薄く、短辺が厚い。脚台はつかず把手もつかない。	
55	槽	9区 B22	19.0	7.2	2.4	板目	クリ	長方形の板材の中央をやはり長方形に刳り抜いて作られる。短辺の両端が反っていて船状になる。	
56	曲物	9区 A22	14.5	5.8	0.4	柾目		樺皮結合曲物の蓋板か。周縁の形態は周縁の下面を切欠いて段を設け側板をあてるものである。中央が焼けて炭化。	
57	曲物		14.2	6.5	0.45	板目		樺皮結合曲物。樺皮結合孔２ヶ所残存、樺皮残存。底板周縁の形態は底面側面が上下面と直角をなし周縁の上面を切欠いて段を設け側板をあてる形態。	
58	曲物	8区 O24	16.0	6.4	0.6			樺皮結合曲物。樺皮結合孔２ヶ所残存。樺皮残存。底板周縁の形態は、底板側面は上下面と直角を成し周縁上面を切欠いて段を設け側板をあてるものである。	50％残存。遺存状態悪い。
59	曲物	8区 N23	16.1	4.5	0.6	板目		樺皮結合曲物の蓋板か。周縁の形態は周縁の下面を切欠いて段を設け側板をあてるものである。樺皮結合孔は残存していない。	
60	曲物	8区 Q24	15.4	7.7	0.6	柾目		樺皮結合曲物。樺皮結合孔１箇所残存。樺皮残存。底板周縁の形態は底板側面は上下と直角を成し、周縁上面を切欠いて段を設け側板をあてるものである。	
61	曲物	9区 A23	22.8	16.8	1.0	斜め		樺皮結合曲物か。周縁の形態は上面を切り欠いて段を設け側板を当てるものである。	周縁欠損。
62	曲物	8区 S28	20.0	8.9	0.8	柾目		樺皮結合曲物。樺皮結合孔１ヶ所残存。樺皮残存。底板の周縁の形態は底板側面は上下面と直角を成し周縁上面を切欠いて段を設け側板をあてるものである。	50％残存。
63	曲物	8区 R30	(21.0)	6.2	0.7	斜め		樺皮結合曲物。樺皮結合孔２ヶ所残存。樺皮残存。蓋板の周縁に浅い溝を彫り込んで側板を結合する形態と推定できる。	
64	曲物	8区 P30	14.8	10.6	0.7			結合孔等残存しない。	
65	曲物	9区 A27	27.9	14.9	0.9	板目	ヒノキ	樺皮結合曲物。樺皮結合孔３ヶ所残存。樺皮残存。底板周縁の形態は底板側面は上下面と直角をなし、周縁上面を切り欠いて段を設け側板をあてるものである。中央に直径3.6cmの孔が穿たれる。	
66	曲物	8区 P24	10.1	長軸10.1 短軸 8.5	0.2	柾目		隅丸方形の平面形の蓋板と思われる。片方の面に黒漆が塗られる。	残存率悪い。
67	曲物	8区 T22	18.4	5.6	端　1.2 中央 1.0	板目	サワラ	長方形の板で両端を幅0.7～1.2cmで高く残し、それ以外を平らに彫り窪めた製品。一方の端に穴が３つ確かめられる。	
68	斎串	9区 A23	20.1	1.3	0.4	柾目	サワラ	細長い板材の上端を圭頭状にして下端を剣先状につくる。表面から側面そして裏面にかけて横位に細い沈線が上端から９本入れられている。切り込みを入れないタイプ。	完形。

番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	木取	樹種	特徴	備考
69	斎串		14.7	1.9	0.5	斜め(板目)	スギ	細長い板の上端を圭頭状にして、上端近くの側面の左右1ヶ所に切り込みを入れたもの。左右各々確認できるだけで各4回切り込みを入れる。残存部分の中央部断面は台形に近い形を呈する。	下端欠損。
70	斎串	8区 Q24	8.9	2.0	0.2	斜め(板目)	ヒノキ	細長い板材の上端を圭頭状(上端が平らなものだが)にして上端近くの側面1ヶ所に一方が4回、もう一方が5回切り込みを入れるものである。	下端欠損。
71	斎串	9区 A23	15.3	1.8	0.6	板目	スギ	断面が紡錘形に近い形をした細長い板材の上端を圭頭状にして、上端近くの側面の左右1ヶ所に下から切り込みを入れたもの。左右の切り込みは確認できるだけで5回と4回である。下端の切り落としは鋭い三角形である。	完形。
72	斎串	9区 A26	10.3	1.3	0.3	斜め	サワラ	細長い板状の上端を圭頭状にして下端を剣先状につくる。上端近くの側面の一方に2回の切り込みを入れた痕跡を残すものである。もう一方の側面は不明である。	ほぼ完形。
73	斎串	9区 A23	11.7	1.5	0.25	板目	スギ	細長い板の上端を頭を平らな圭頭状にして、側面は上・下2対切り込みを入れている(合計4箇所)。	下部欠損。
74	斎串	9区 A23	19.6	1.8	0.3	板目	スギ	細長い板の上端を圭頭状にして側面は上・下2対切り込み(1箇所に数回)を入れる。(合計4箇所)。下端の切り落としは鋭い三角形である。	ほぼ完形。
75	斎串	9区 A23	17.4	2.0	0.4	板目	スギ	細長い板材の上端を圭頭状にして、おそらく両側のほぼ左右対称位置の7ヶ所を三角形に切り欠くタイプ。下端の切落としは、鋭く三角形になる。	剝離欠損。
76	斎串	9区 B22	10.25	1.4	0.1	柾目		上端を圭頭状につくる。側面の2ヶ所を三角形に切り欠く。	上端部欠損。
77	斎串	8区 S24	14.3	1.3	0.35	斜め(板目)	ヒノキ	細長い板材の上端を圭頭状にして、両側面のほぼ左右対称位置を三角形に切り欠くタイプ。切り欠いた場所の個数は8対である。	ほぼ完形。
78	斎串？	8区 Q24	18.1	0.8	0.6	柾目	サワラ	細長い板材の上端を若干圭頭状にして、両側面のほぼ左右対称位置を若干三角形に細く切り欠くタイプ。切り欠いた箇所は8ヶ所である。板材は厚めのものを使用している。	下部欠損。
79	斎串	9区 A23	13.7	1.8	0.45	斜め？	スギ	下端を三角形に尖らせてあるもの。両側だけでなく表面も削り落としている。	上端部欠損。
80	斎串	8区 T23	8.5	1.6	0.2	板目 or 斜め	スギ	下端は剣先状。	下端のみ残存。
81	斎串	9区 A24	12.3	1.6	0.6	板目？斜め？		下端を三角形に尖らせてあるもの。	上端欠損。
82	斎串？	8区 Q24	8.1	1.5	0.25	板目？		下端は剣先状。	下端のみ残存。
83	正面全身人形	9区 B21	8.8	2.7	0.4	柾目		短冊状の板を切り抜いて作る扁平な人形。手の表現は欠くもので、腹部の両側に一辺が長く一辺が短い三角形の切欠きを入れて胴と脚を区別する。脚の表現の切り欠きはV字形の切り込みである。頸部に入れる切り欠きは不明であるが、おそらく腰と同様の切り欠きにより頬がやせ、怒り肩の表現となる。	墨書きによる表現は認められない。頭部欠損。
84	正面全身人形	8区 Q25	7.7	1.8	0.6	柾目		短冊状の厚手の板を切り抜いて作る扁平な人形。頭部は圭頭状で手の表現は欠いている。頸部の切欠きは2辺の長さがほぼ等しいV字形のもので頬が膨らみなで肩の表現である。	墨書きによる表現は認められない。腰部以下欠損。
85	刀形	8区 S28	21.6	2.7	1.1	板目？		柄頭が丸くJ字状に突出するもの。刃部は厚い。刀身部は不明。	剝離欠損。芯のみ残存。
86	刀形	9区 A23	31.0	2.0	1.0	柾目		柄をつけない刀身のみをかたどる。細板の片側を削ってつくる。	
87	太刀形	8区 T28	45.1	4.4	1.95	板目		太刀のような形状を示す木製品。切先は断面二等辺三角形で刃のような形態。柄の部分と思われるものは欠損している。切先から柄へと向かって幅が広がる。	
88	太刀形	8区 T28	48.5	3.1	1.6	板目		太刀のような形状を示す木製品。切先は断面二等辺三角形で刃のような形態。柄の部分と思われるものは欠損している。切先から柄へと向かって幅が広がる。	
89	太刀形	9区 A26	48.5	刀 3.8 柄 2.0	刀 1.5 柄 1.0	板目？		柄を装着した抜身の刃を表現する。刃の切先は断面二等辺三角形に近い形を示すが柄に近い方は断面長方形である。柄は直線的(把間は真っ直ぐ)で刃から先細りし、ほぼ同じ幅で柄頭に達する。柄の断面は長方形。	
90	太刀形	8区 R28	45.5	4.0 柄 2.65	2.5 柄 2.5	板目？		抜身の刀を表現する具。刀身は柄から切先に向かうにしたがって片刃のように断面逆三角形に近い形に作られている。柄は柄間幅が刀身幅より狭く断面が方形の直線の柄である。柄頭は作り出されていない。	切先欠損。
91	刀子形		20.7	柄 2.6 刃 2.1	柄 0.8 刃 0.6	斜め	サワラ	刀身と柄との間に段をつけ、身と柄を明瞭に区別するもの。刀身を一段薄くし、真っ直ぐ通る柄をかたどる。	
92	剣形	8区 S28	53.7	4.1 柄 2.4	2.0 柄 2.0	板目？		抜身の剣形刀身は片刃のようにも見えるが限りなく両刃の剣形と考える。柄は断面形で柄頭はつくりだされていない。	
93	陽物形？	9区 R29	7.0	3.4	2.6	芯持材		陽物形祭祀具に似た形状の製品。芯持丸木材の棒の樹皮をはがして製作されている。	

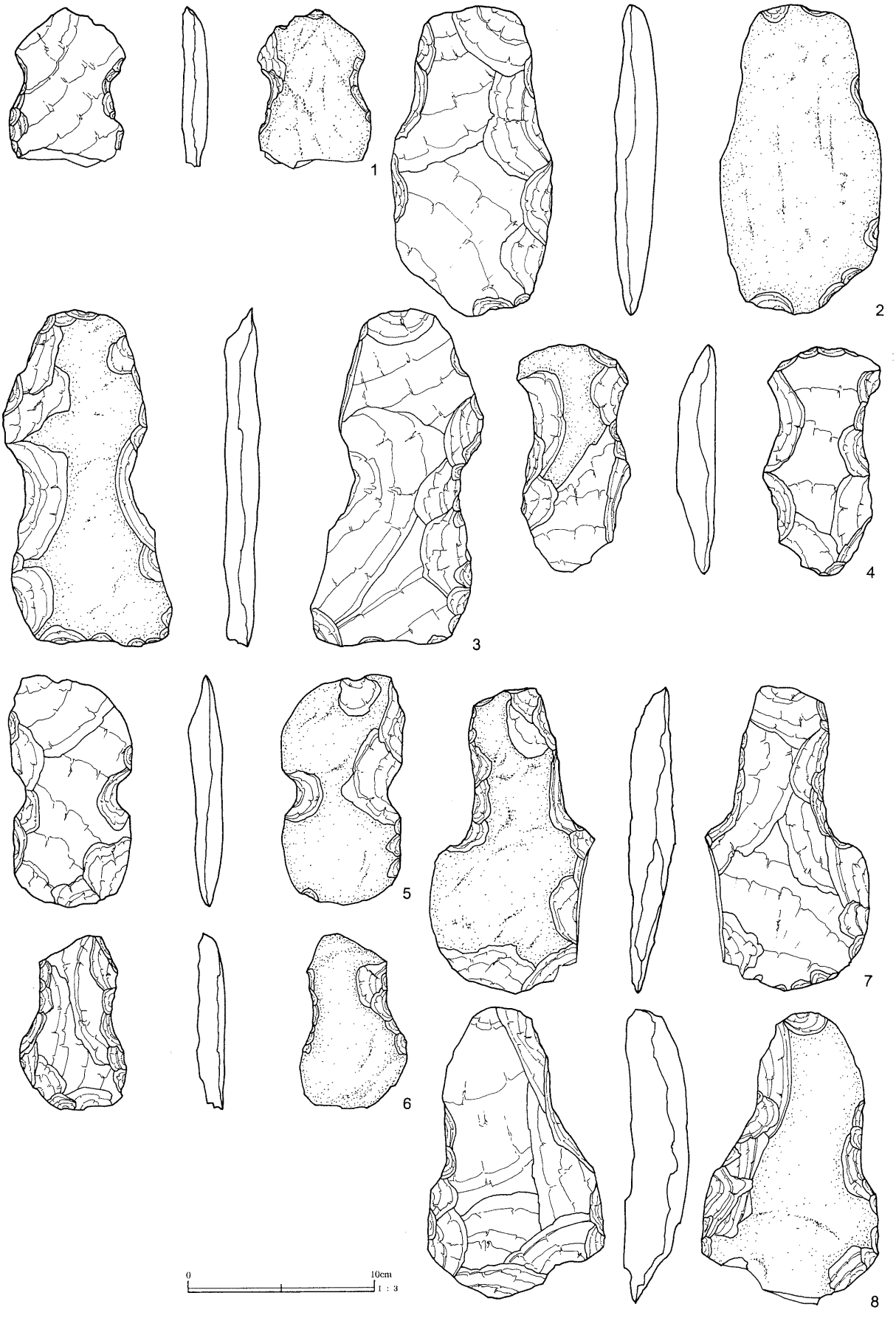
番号	器種	出土位置	長さ	幅	厚さ	木取	樹種	特徴	備考
94	火鑽臼	9区 A27	13.1	2.2	1.4	柾目	サワラ	細長い板の一方側面に火鑽穴が６ヶ所、表面に４ヶ所残る。火鑽穴の１ヶ所で側面に前もって、断面Ｖ字に刻みを入れた痕跡が残る。	
95	火鑽臼	8区 R29	7.8	2.9	1.45	板目？	サワラ	長方形の木片の側面に火鑽穴が３ヶ所残る。	
96	火鑽臼	8区 S22	5.6	4.1	0.75	板目？	スギ？	長方形の板の表面に火鑽穴が４ヶ所残る。火鑽穴は木口側にあり側面はない。	
97	火鑽臼	9区 A25	26.2	2.1	1.4	板目？	サワラ	側面に３ヶ所きざみ有り。火鑽穴が１ヶ所認められる。	
98	火鑽杵	9区 A23	6.3	1.6	1.5	芯持材	ヤナギ属	先端を杭のように斜めに削り落とす。その削り落としている部分は焦げている。	
99	木針	9区 A28	8.85	0.95	0.3	板目	サワラ	小板片の一端をとがらせて扁平に整形したもの。頭部端から鋭角にとがらせているため鋭い。	
100	扉部材	8区 S29	82.3	19.8	6.0	割材	モミ属	中央がやや膨らみ弧を描く板材。両端は凹字状に刳られている。両端付近に長方形と正方形に近い形の枘孔が近接して２つ対にあけられている。	
101	部材	8区 T28	30.9	10.0	1.5	斜め		湾曲した長方形の板材。木口の両端に長方形(1.5cm×1.8cm)の枘穴があけられている。樽材の一部のようである。	
102	扉部材	8区 Q24	58.7	16.2	1.5	板目	モミ属	長方形の板の上端(木口)及び下端？に長方形の突出部がつく部材。身には二つ枘孔があけられている。身の一面及び突出部の上端が火をうけ炭化する。	
103	板材	9区 A23	28.0	17.0	1.2	斜め		長方形の板材。	
104	板材	9区 A28	20.3	15.2	2.4	板目		長方形の板材。全面が丁寧に加工されている。	
105	部材	8区 B26	27.6	3.6	1.9	斜め	ツガ属	紐かけをもつ部材。細長い板の一端を削り込んで紐かけを作り出した切欠紐結合の部材か。	
106	部材	8区 T28	19.9	3.6	2.4	割材	カヤ	棒状の木を中央にくびれをもたせて加工した製品。一方端から約３cmの所に一辺約２cmの正方形に穿孔。一方端の表に木の切り株状のものが残存。	
107	部材	8区 R26	46.7	7.0	3.4	割材		先が尖った断面紡錘形の製品。一方が欠損していて不明だが欠損部に枘穴があけられている。枘穴は袋状の長方形のもので表面隅が炭化する。	
108	部材	8区 R29	20.9	3.0	1.5	斜め？ 板目？		断面二等辺三角形状の棒状製品。一方端近くに１つ穴(両面貫く)があけられている。	
109	部材	8区 R29	16.2	4.4	0.5	板目		長方形の板の短辺(両端)が丸く加工された製品。そして、端から約３cmの所に隅丸。断面は中央を厚くしてレンズ状。	方形の穿孔。
110	用途不明品	9区 A25	8.8	1.0	0.35	柾目？		斎串状製品。頭を山形に削り落としている。断面は中央がやや ふくらむ形状。	下部欠損。
111	用途不明品	8区 T23	7.9	2.6	0.4	柾目		先端を丸く加工する。断面は側端部を斜めに丸くする。	
112	用途不明品	9区 A23 ・24	3.3	0.5	0.35			マッチ棒のような長方形の棒の先端を、少し削り斜めに落とす。もう一方の端は先端が焦げている。	
113	用途不明品	8区 T27	9.0	3.6	2.9	芯持材		陽物状木製品。先端近くにくびれをもうけ、頭を作り出す。下半は火をうけ炭化している。くびれは不明瞭である。	
114	用途不明品	8区 T25	8.7	3.4	3.25	芯持材		棒の先端状製品。表面は全て平滑に丁寧に作られている。全体的に炭化していて欠損箇所は真っ黒である。	
115	用途不明品	8区 Q24	85.2	頭部　6.2 体部　4.6	頭部　3.4 体部　3.4	斜め		頭部が三角形になるように切り落とした角材。頭部をつくりだすのに、角材の一片を角張った三日月状に切り落としている。頭部とは反対の端も一片を大きく斜めに切り落とす。	
116	用途不明品	8区 T28	58.7	4.2	4.2	芯持材	モミ属	頭部が二面斜めに削り落とされていて、側面から見ると台形状になる。一面を三角形に削り込み頭部のくびれを作る。	下端欠損。
117	用途不明品	9区 A26	68.1	3.0	3.0	芯持材	モミ属	頭部はほぼ円錐形を呈す。幅1.7cmの削り込みを施してくびれを作る。頭部は円柱形を呈す。	下端欠損。
118	用途不明品	9区 B25	34.0	本体　4.2 枘　3.8	本体　2.3 枘　3.0	芯持材	イヌガヤ	断面長方形の棒状の芯持材を枘のような部分を長方形に、本体の両側を丸く上下端平らに作った製品。上下端は削り痕がよく残る。枘には方形の穴が穿孔。枘とは反対の先端は、一方の側面が斜めに削り落とされる。	先端欠損。
119	用途不明品	8区 Q24	38.9	1.3	1.0	柾目	サワラ	頭部を削ってくびれをつくり表現し、斎串状にした製品。下端は方形の断面で薄く作る。	
120	用途不明品	8区 S28	29.2	2.0	1.1	板目？	イヌガヤ	丸木弓の弭状の先端をもつ木製品。両方から削り取って弭状の先端をつくる。身は面取り状に平滑に仕上げられている。	剝離欠損。
121	用途不明品	9区 A27	12.8	6.7	3.5	板目		断面隅丸の二等辺三角形で、隅丸の長方形の製品。長辺の片方の中央を欠いている。	
122	用途不明品	9区 A22	13.2	4.0	1.9	板目		一段彫り窪められた面に２つ孔が平行してあけられている製品。断面はＬ字状。	
123	用途不明品	9区 A28	18.6	枘　2.9 枘頭　4.2	2.9	芯持材	サワラ	枘。枘の握り部の一部か。非常に平滑に丁寧に削ってつくられている。握り部は均等な太さである。頭の端面も細く削って丸く作られている。	
124	用途不明品	8区 T24	8.7	1.4	1.2	板目？		四角い棒の一方を削り落として、弓の弭状にしている製品。	
125	用途不明品	9区 A23	15.4	15.5	1.35	板目 or 割材		棒状の木材を多角形に削り落とした製品。	



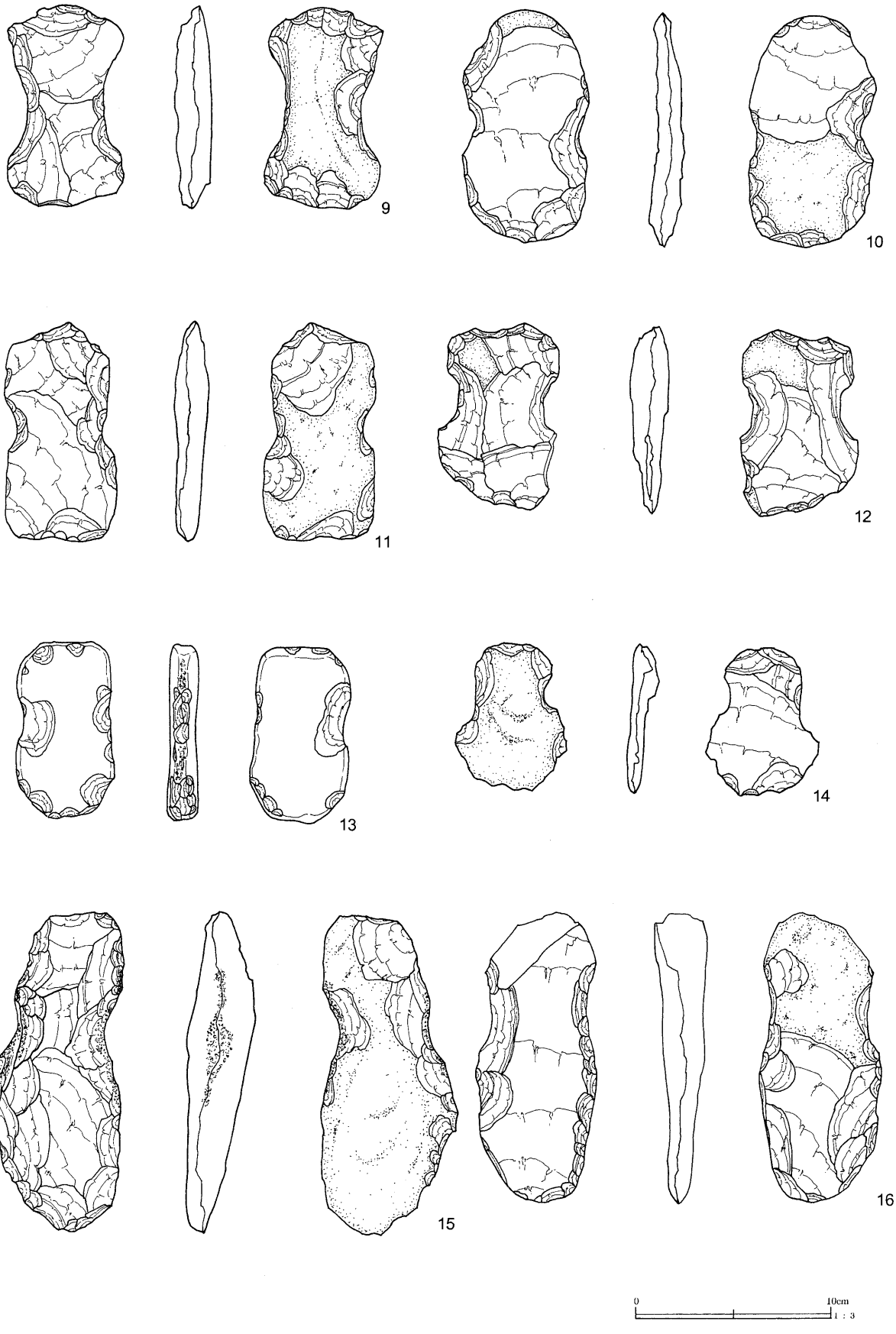
第271図　河川跡Ｃ地点出土石鏃・石器剝片

第60表　河川跡Ｃ地点出土石鏃・石器剝片観察表

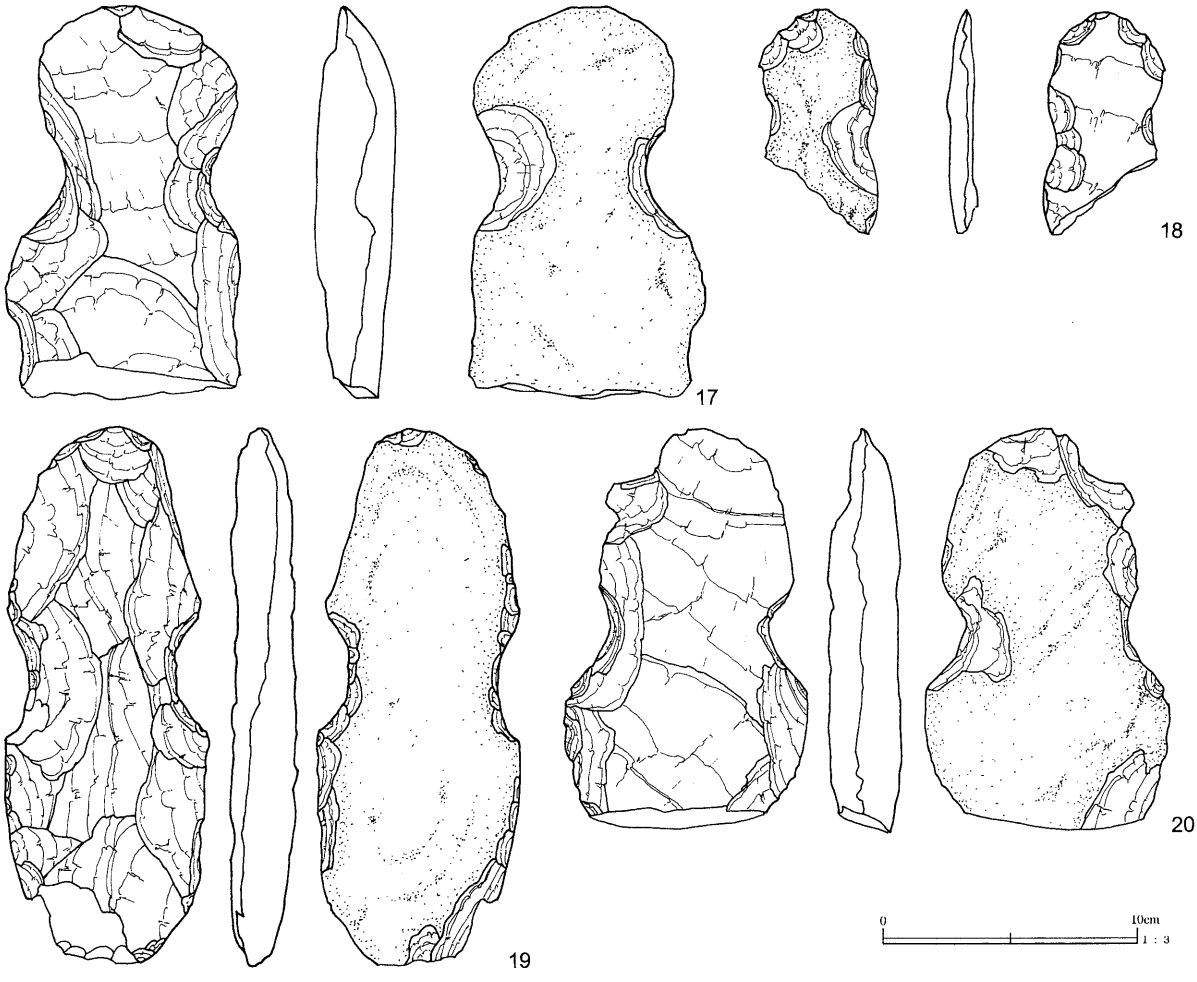
番号	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	9区 B22	2.95	2.70	0.40	2.12		茎部欠損	
2	9区 A22	2.45	1.35	0.45	1.08	赤色チャート	基部及び茎部欠損	
3	9区 A23	1.40	1.50	0.40	0.94	ホルンフェルス	先端及び茎部欠損	
4	9区 A25	2.40	1.55	0.40	1.48	頁岩	先端及び茎部欠損	
5	9区 A26	2.65	1.20	0.40	0.76	黒曜石	完形	
6	8区 S22	2.30	1.65	0.30	0.85	頁岩	完形	
7	8区 T24	2.80	1.55	0.45	1.39	チャート	完形	
8	8区 T24	2.20	1.55	0.40	0.87	チャート	完形	
9	8区 T24	1.70	1.45	0.35	0.71	ホルンフェルス	尾部欠損	
10	8区 T24	2.25	1.05	0.35	0.68	ホルンフェルス	一部欠損	
11	8区 S24	1.85	1.45	0.45	0.76	赤色チャート	基部及び茎部欠損	
12	8区 S24	2.60	1.30	0.45	1.65	ホルンフェルス	先端及び基部欠損	
13	8区 S25	1.80	1.55	0.40	0.71	ホルンフェルス	完形	
14	8区 T26	1.60	0.95	0.30	0.25	黒曜石	基部及び茎部欠損	
15	8区 T26	2.85	1.95	0.70	2.91	チャート	先端及び茎部先端欠損	
16	8区 S26	3.10	2.25	0.90	5.58	チャート		
17	8区 R26	2.75	1.20	0.35	1.01	チャート	ほぼ完形	
18	8区 R27	1.60	1.30	0.30	0.39	黒曜石	基部の一部欠損	
19	8区 Q29	2.70	1.45	0.45	1.09	チャート	茎部欠損	
20	8区 T23・24	2.0	3.2	0.6	3.7	チャート		
21	8区 R24	2.0	2.0	1.0	2.0	チャート		両側縁を使用。



第272図　河川跡Ｃ地点出土打製石斧(1)



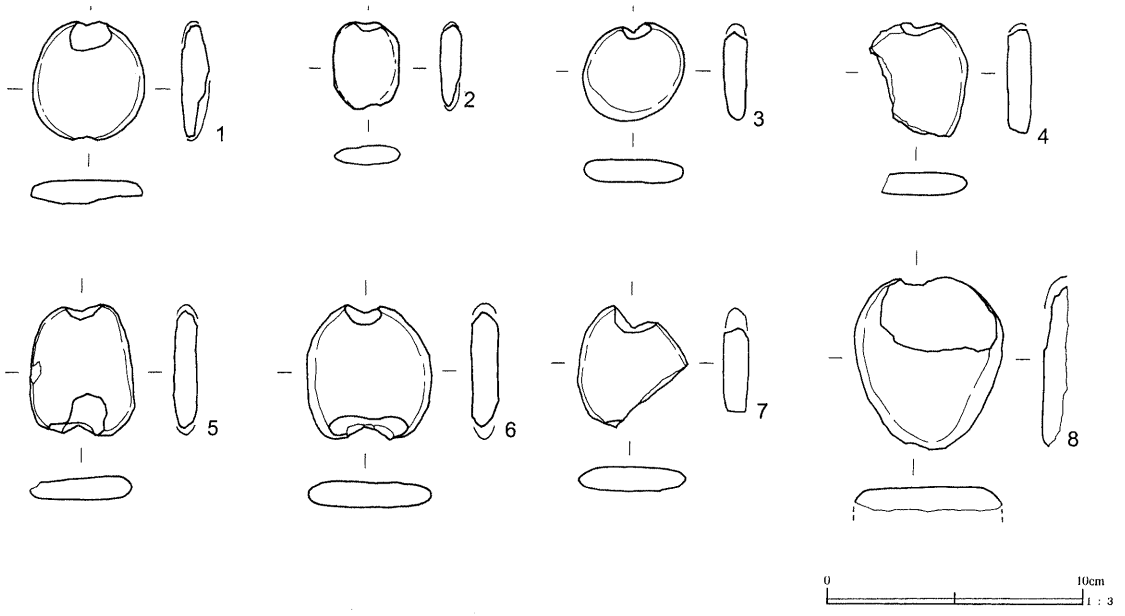
第273図　河川跡Ｃ地点出土打製石斧(2)



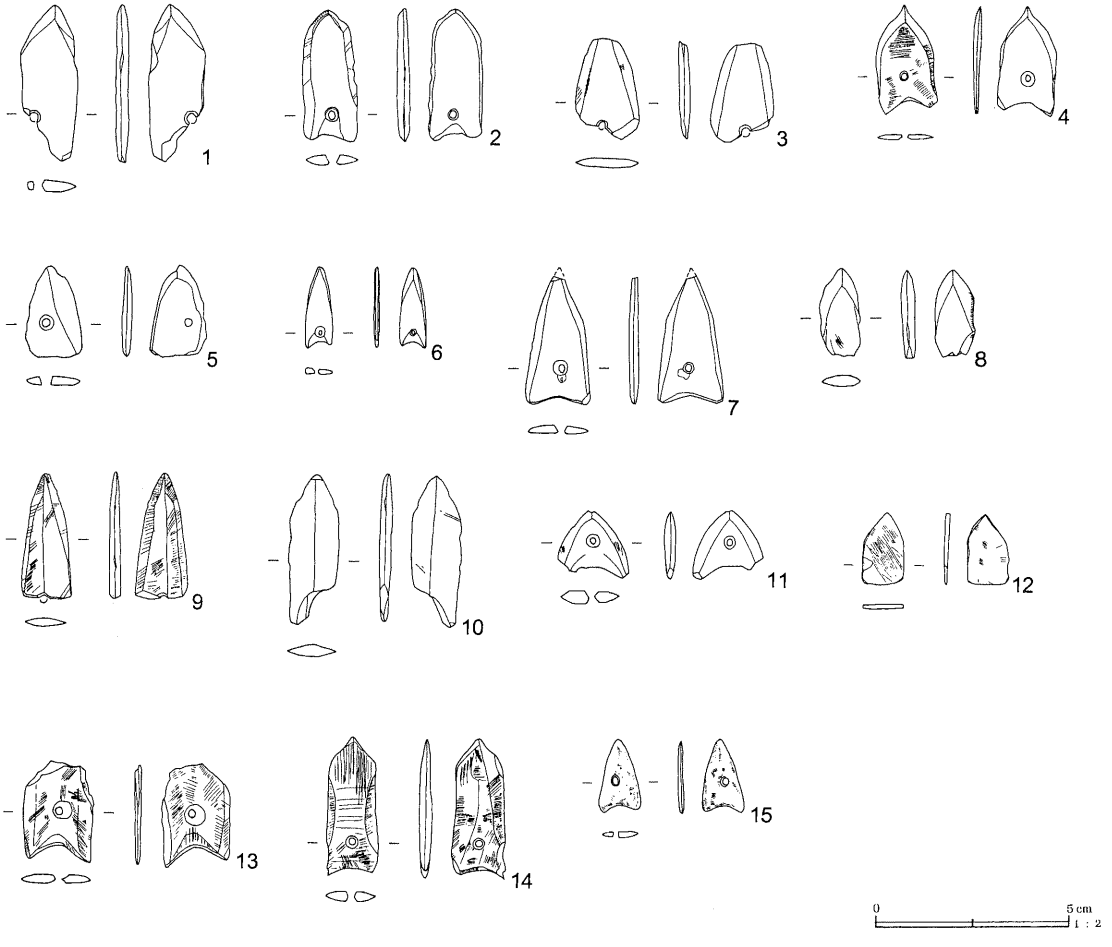
第274図　河川跡Ｃ地点出土打製石斧(3)

第61表　河川跡Ｃ地点出土打製石斧観察表

番号	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	残存率	備考
1	9区 B22	8.5	6.0	1.4	85	刃部欠損	分銅形。
2	9区 B22	15.5	8.5	2.3	370	完形	短冊形。
3	9区 A22	18.0	9.1	2.0	320	完形	分銅形。
4	9区 A22	12.2	6.2	2.1	165	完形	分銅形。
5	9区 A22	12.3	6.6	1.9	140	完形	分銅形。
6	9区 A22	9.3	5.7	1.5	80	完形	分銅形。
7	9区 A23	16.2	8.7	2.5	320	刃部欠損	撥形。
8	8区 T23	14.5	19.4	3.4	460	刃部欠損	撥形。
9	8区 T23	10.4	6.0	2.0	135	完形	分銅形。
10	8区 T23	12.0	6.4	1.6	145	刃部欠損	分銅形。
11	8区 T23・24	10.3	5.9	1.8	125	完形	分銅形。刃部磨耗。
12	8区 T23・24	9.6	6.0	1.9	115	刃部欠損	分銅形。
13	8区 S24	9.1	5.1	1.6	105	完形	基部の両端敲整形研磨。
14	8区 R24	7.6	5.7	1.5	45	完形	分銅形。
15	9区 A25	16.4	6.9	3.4	400	完形	分銅形。基部両端敲整形。
16	9区 A26	15.0	6.2	2.7	245	完形	分銅形。
17	8区 R27	15.5	9.3	3.2	540	刃部欠損	分銅形。
18	9区 A28	8.8	4.7	1.2	40	刃部欠損	分銅形。
19	8区 S29	21.0	8.1	2.7	545	刃部欠損	分銅形。
20	8区 R29	15.7	9.5	3.0	545	刃部欠損	分銅形。



第275図　河川跡Ｃ地点出土石錘



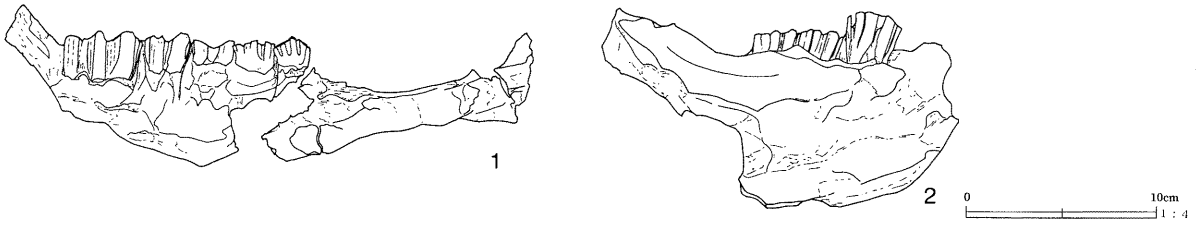
第276図　河川跡Ｃ地点出土磨製石鏃

第62表　河川跡Ｃ地点出土石錘観察表

番号	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	9区 A22	4.7	4.3	1.1	28.6	ホルンフェルス	剝離欠損	
2	9区 A22	3.4	2.5	0.7	10.1		ほぼ完形	
3	8区 S24	4.0	4.0	0.9	22.0		一部欠損	
4	8区 R25	4.5	3.8	0.9	20.0	砂岩	欠損	
5	9区 B26	5.2	4.1	0.9	33.0		ほぼ完形	
6	9区 B26	5.4	4.9	1.1	45.2		ほぼ完形	
7	8区 R26	4.8	4.3	1.0	21.4	砂岩	欠損	
8	8区 S28	6.9	5.8	1.0	55.8		剝離欠損	

第63表　河川跡Ｃ地点出土磨製石鏃観察表

番号	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量	材質	残存率	備考
1	9区 B22	4.2	1.4	0.3	2.3	緑泥片岩	基部欠損	
2	9区 B22	3.4	1.4	0.3	2.1	緑泥片岩	完形	
3	9区 A22	2.6	1.6	0.3	1.6	緑泥片岩	切先及び基部欠損	
4	9区 A22	2.5	1.5	0.2	0.9		完形	
5	8区 T24	2.4	1.5	0.3	1.2	緑泥片岩	切先及び右端欠損	
6	8区 T24	2.0	0.8	0.1	0.4	緑泥片岩	完形	
7	8区 S24	3.1	1.7	0.3	1.6	緑泥片岩	完形	
8	8区 R24	2.3	1.0	0.4	0.9	緑泥片岩	基部欠損	
9	8区 R24	3.3	1.4	0.3	1.5	緑泥片岩	基部欠損	
10	8区 R25	3.2	1.3	0.3	1.8	緑泥片岩	基部欠損	
11	8区 S26	1.8	1.8	0.3	1.0	緑泥片岩	脚部欠損	
12	8区 R27	1.9	1.0	0.1	0.6		完形	
13	8区 R27	2.6	1.8	0.2	1.4	頁岩	切先欠損	
14	8区 T28	3.5	1.4	0.3	1.9		完形	
15	8区 Q30	1.8	1.1	0.1	0.4	緑泥片岩	完形	



第277図　河川跡Ｃ地点出土馬頭骨

河川跡Ｄ地点（第278・279図、第64表）

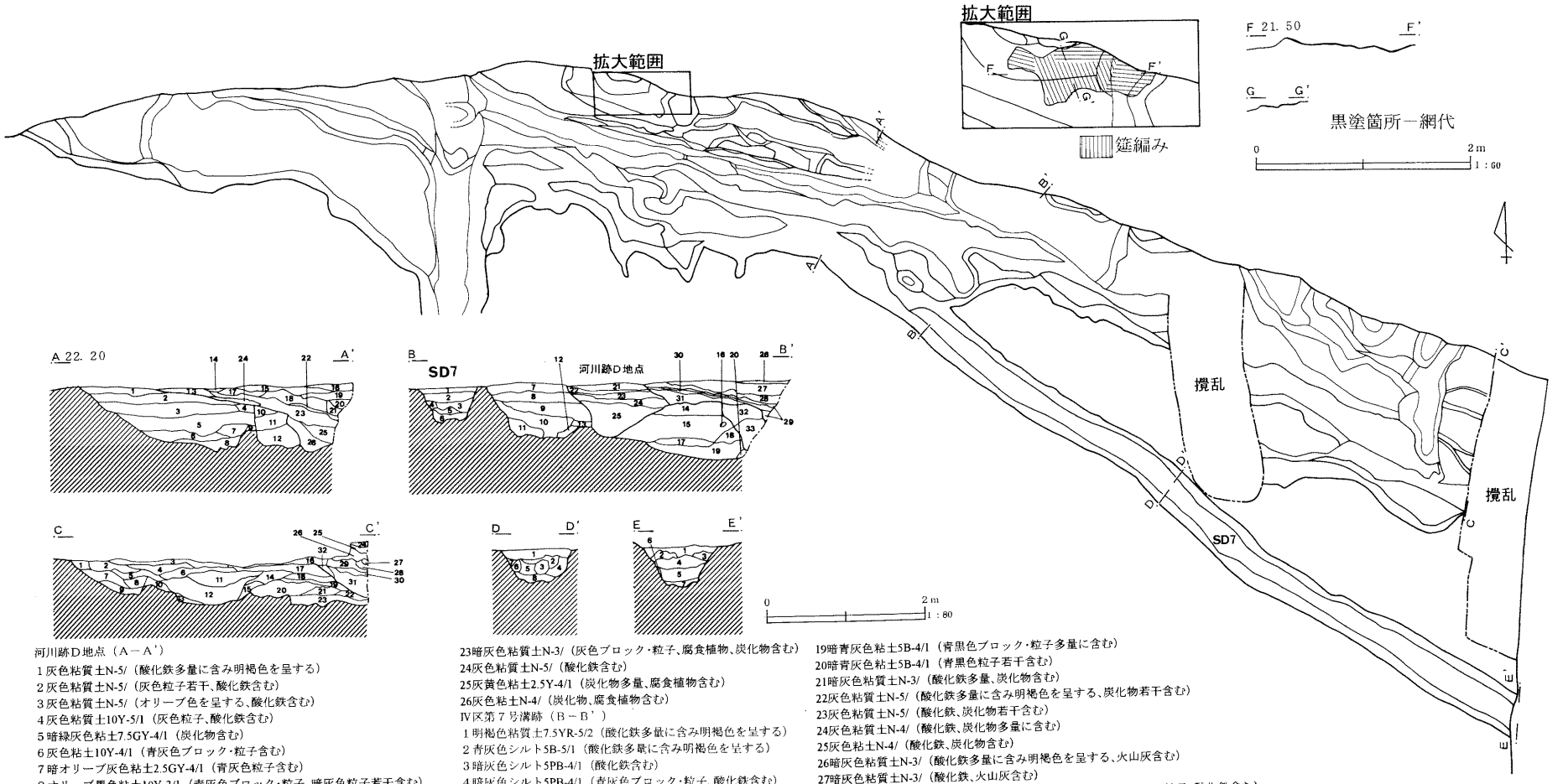
7区Ｔ—26・27から8区Ｇ—24・25グリッドにかけて位置していた。調査区北東端を西から東へ横断していた。東でⅣ区第7号溝跡と接続し、西でⅣ区第6号溝跡と接続していた。この第6号溝跡は、Ⅶ区に検出された河川跡Ｃ地点流路1に接続する河川跡Ｇ地点とを結ぶ溝であった。北と東は調査区域外であった。

規模は、検出面での最大幅5.0m、長さ35.5m、深さは最深で1.0mであった。河川中央部底が一段深く掘りくぼめられていた。覆土は、おおよそ上層が灰色の粘質土、下層が腐食植物を含んだ暗オリーブやオリーブ黒色の粘土であった。土層を観察すると、Ａ・Ｂポイントで3回、Ｃポイントで2回以上の土層の切り合いが認められるので、幾度かの堆積と掘り直しを経て利用されていた可能性が伺われる。

出土遺物は、8世紀後半から9世紀後半の遺物が検出された。出土遺物は少なく、そのうち土器については土師器坏、須恵器坏などが出土した。金属製品は釘が、木製品は曲物・杭などと少なかった。

須恵器の坏に判読不明だが墨書の見られるものがあった。

遺物出土状況は、Ⅳ区第6号溝跡が接続する付近である8区Ｅ—25グリッドに最も多く検出された。



河川跡D地点（A－A'）
1 灰色粘質土N-5/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する）
2 灰色粘質土N-5/（灰色粒子若干、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土N-5/（オリーブ色を呈する、酸化鉄含む）
4 灰色粘質土10Y-5/1（灰色粒子、酸化鉄含む）
5 暗緑灰色粘土7.5GY-4/1（炭化物含む）
6 灰色粘土10Y-4/1（青灰色ブロック・粒子含む）
7 暗オリーブ灰色粘土2.5GY-4/1（青灰色粒子含む）
8 オリーブ黒色粘土10Y-3/1（青灰色ブロック・粒子、暗灰色粒子若干含む）
9 暗オリーブ灰色粘土2.5GY-4/1（暗灰色粒子、青灰色粒子含む）
10青灰色粘土5BG-5/1（灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
11緑灰色粘土10GY-5/1（灰色ブロック・粒子多量に含む）
12暗緑灰色粘土10GY-4/1（灰色粒子多量、青灰色ブロック・粒子含む）
13灰色粘質土N-4/（酸化鉄、火山灰、炭化物含む）
14灰色粘質土10Y-5/1（酸化鉄、火山灰含む）
15暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄、火山灰含む）
16暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、火山灰含む）
17黒色粘質土N-2/（酸化鉄、火山灰多量に含む）
18オリーブ黒色粘質土5Y-2/2（黒色ブロック、灰色ブロック・粒子、火山灰含む）
19灰色粘質土N-4/（酸化鉄含む）
20灰色粘質土N-4/（灰色粒子、酸化鉄含む）
21灰色粘質土N-4/（オリーブ黒色粘質土ブロック多量に含む）
22黒褐色粘質土2.5Y-3/2（炭化物、腐食植物多量含む）

23暗灰色粘質土N-3/（灰色ブロック・粒子、腐食植物、炭化物含む）
24灰色粘質土N-5/（酸化鉄含む）
25灰黄色粘土2.5Y-4/1（炭化物多量、腐食植物含む）
26灰色粘土N-4/（炭化物、腐食植物含む）
Ⅳ区第７号溝跡（B－B'）
1 明褐色粘質土7.5YR-5/2（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する）
2 青灰色シルト5B-5/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する）
3 暗灰色シルト5PB-4/1（酸化鉄含む）
4 暗灰色シルト5PB-4/1（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
5 灰色シルトN-4/（細砂、酸化鉄含む）
6 暗灰色シルト5BG-4/1（青黒色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
7 明褐色粘質土7.5YR-5/8（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する）
8 青灰色粘質土5B-5/1（酸化鉄含む）
9 暗青灰色粘質土5B-4/1（暗青灰色粒子若干、酸化鉄含む）
10暗青灰色粘土5PB-3/1（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
11暗青灰色粘土5B-4/1（暗青灰色粒子多量、酸化鉄若干含む）
12青灰色粘土5B-5/1（暗青灰色ブロック・粒子含む）
13暗灰色粘土N-3/（青灰色粒子、酸化鉄若干含む）
14灰色粘土N-5/（酸化鉄、腐食植物含む）
15暗青灰色粘土5B-3/1（酸化鉄、炭化物若干、腐食植物含む）
16青灰色粘土ブロック5B-5/1（暗青灰色粒子、酸化鉄含む）
17暗灰色粘土N-3/（暗青灰色粒子、青灰色粒子含む）
18暗青灰色粘土5PB-4/1（暗青灰色粒子、青灰色粒子含む）

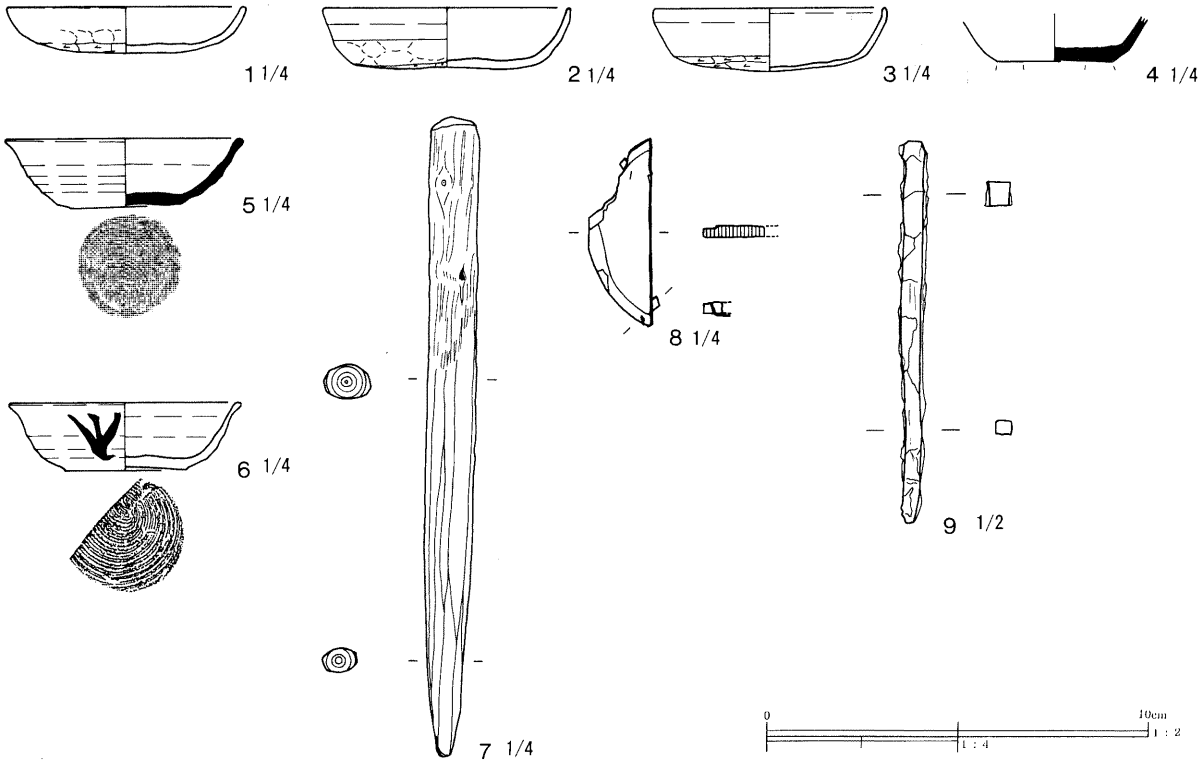
19暗青灰色粘土5B-4/1（青黒色ブロック・粒子多量に含む）
20暗青灰色粘土5B-4/1（青黒色粒子若干含む）
21暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄多量、炭化物含む）
22灰色粘質土N-5/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、炭化物若干含む）
23灰色粘質土N-5/（酸化鉄、炭化物若干含む）
24灰色粘質土N-4/（酸化鉄、炭化物多量に含む）
25灰色粘土N-4/（酸化鉄、炭化物含む）
26暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、火山灰含む）
27暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄、火山灰含む）
28オリーブ黒色粘質土5Y-2/2（黒色ブロック・粒子、灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
29灰色粘質土N-5/（黒褐色ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物、腐食植物含む）
30黒褐色粘質土2.5Y-3/2（酸化鉄、炭化物、腐食植物含む）
31灰色シルトN-4/（酸化鉄多量、炭化物含む）
32暗青灰色粘土5B-4/1（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
33暗青灰色粘土10BG-4/1（暗青灰色ブロック・粒子含む）
34黒色粘土7.5Y-2/1（腐食植物含む）

第278図　河川跡D地点・Ⅳ区第７号溝跡

河川跡D地点（C－C'）
1 青灰色粘質土5PB-5/1（酸化鉄多量に含む）
2 灰色粘質土N-4/（暗灰色粒子若干、酸化鉄、炭化物含む）
3 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粒子、酸化鉄、炭化物若干含む）
4 暗青灰色粘土5BG-4/1（酸化鉄含む）
5 暗青灰色粘土5B-4/1（酸化鉄、炭化物若干含む）
6 灰色粘土N-4/（青灰色ブロック・粒子多量に含む）
7 暗オリーブ灰色粘土2.5GY-4/1（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
8 灰色粘土N-4/（暗灰色粒子、酸化鉄、炭化物若干含む）
9 暗青灰色粘土5B-4/1（暗灰色粒子若干含む）
10暗青灰色粘土5B-4/1（酸化鉄、炭化物若干含む）
11灰色粘土10Y-4/1（暗灰色粒子、暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物含む）
12オリーブ黒色粘土10Y-3/2（暗青灰色ブロック・粒子、炭化物、腐食植物若干含む）
13オリーブ黒色粘土10Y-3/1（青灰色ブロック・粒子多量に含む）
14灰色粘土10Y-4/1（暗青灰色粒子、オリーブ灰色粒子、炭化物含む）
15灰色粘土7.5Y-4/1（暗青灰色粒子、土器片含む）
16褐色土7.5YR-4/6（酸化鉄多量に含み褐色を呈する、灰色ブロック・粒子多量、暗灰色粒子、火山灰含む）
17暗灰色粘質土5PB-4/1（灰色粒子、酸化鉄若干含む）
18灰色粘土N-4/（細砂、砂多量に含む）
19灰色粘土7.5Y-4/1（細砂若干、腐食植物含む）
20オリーブ黒色粘土7.5Y-3/2（暗青灰色ブロック・粒子、細砂、炭化物、腐食植物含む）
21オリーブ黒色粘土7.5Y-3/2（暗青灰色ブロック・粒子、腐食植物含む）
22オリーブ黒色粘土10Y-3/2（細砂含む）
23暗青灰色砂5B-4/1（オリーブ黒色ブロック・粒子、腐食植物、木片、土器片含む）
24灰色土5Y-4/1（酸化鉄含む）
25暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄、火山灰多量に含む）
26黒色粘質土N-3/（黒褐色ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物、火山灰多量に含む）
27緑灰色粘質土ブロック5G-5/1（酸化鉄含む）
28黒褐色粘質土2.5Y-3/1（酸化鉄、腐食植物多量に含む）
29オリーブ灰色粘質土2.5GY-5/1（酸化鉄多量、炭化物含む）
30灰色粘質土N-4/（オリーブ灰色粒子、酸化鉄、炭化物多量に含む）
31灰色粘質土7.5Y-4/1（オリーブ灰色粒子、炭化物、腐食植物含む）
32灰色シルト10Y-4/1（酸化鉄、炭化物若干含む）

Ⅳ区第7号溝跡（D－D'）
1 青灰色粘質土5B-6/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、マンガン粒子若干含む）
2 青灰色粘質土5B-5/1（青灰色粒子若干、酸化鉄含む）
3 暗青灰色粘質土5B-4/1（酸化鉄含む）
4 暗青灰色粘質土5B-4/1（青灰色ブロック・粒子、細砂、酸化鉄含む）
5 暗青灰色粘質土5B-4/1（酸化鉄含む）
6 暗青灰色粘質土5B-4/1（酸化鉄含む）
7 暗青灰色粘質土5PB-3/1（青灰色ブロック・粒子、酸化鉄多量に含む）
8 暗青灰色粘質土5B-3/1（上層に細砂の帯、黒色粒子、青灰色粒子、酸化鉄若干含む）

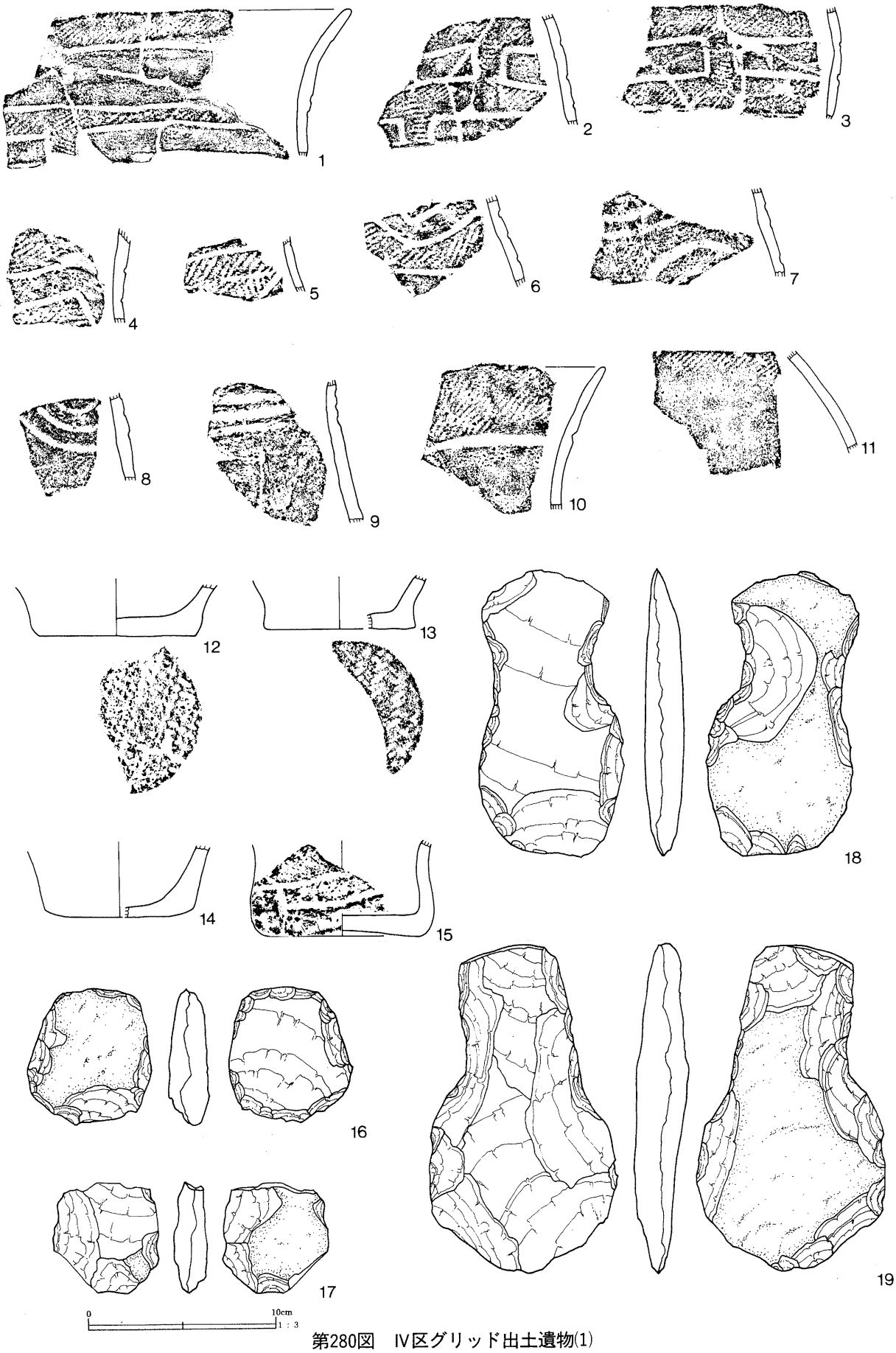
Ⅳ区第7号溝跡（E－E'）
1 暗青灰色土5B-4/1（しまりある、酸化鉄、火山灰含む）
2 灰色土N-5/（しまりある、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 灰色土N-5/（下層に酸化鉄の帯、マンガン粒子含む）
4 灰色土N-5/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
5 青灰色土5B-5/1（しまりある、酸化鉄含む）
6 灰色土10Y-5/1（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、灰色ブロック・粒子、灰色粒子、マンガン粒子含む）
7 灰色土N-5/（酸化鉄、マンガン粒子含む）



第279図　河川跡D地点出土遺物

第64表　河川跡D地点出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	土師器坏	(12.5)	2.4	—	CDHI	にぶい橙色	D	50%	
2	土師器坏	13.0	3.1	9.5	ABDHJ	外面：赤褐色、にぶい褐色 内面：にぶい黄褐色	E	90%	
3	土師器坏	(12.0)	3.3	(10.0)	DI	にぶい橙色	D	50%	
4	須恵器坏	—	—	6.0	ABFGJN	灰色	A	底部100%	南比企産。
5	須恵器坏	12.6	3.6	5.8	ABEFN	暗灰色、灰色	A	60%	南比企産。
6	須恵器坏	12.4	3.6	6.4	ABEGIN	にぶい橙色、にぶい黄橙色	D	30%	体部外面に墨書。南比企産。
7	杭	残存長34.0	幅2.6	厚み32.0	—	—	—		杭状製品。表面を面取り。木取：芯持材。
8	曲物	直径(10.5)	—	厚み0.55	—	—	—	40%	樺皮結合曲物。木取：柾目。
9	鉄釘	長さ10.4	幅0.6	厚み0.6	—	—	—		



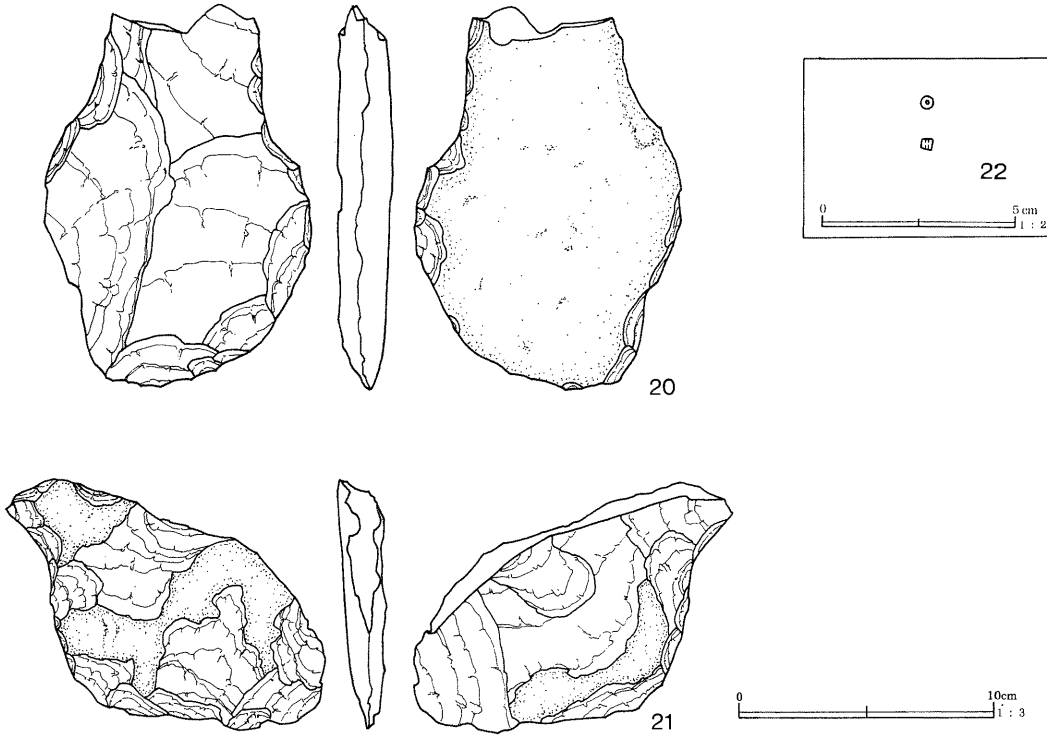
第280図　Ⅳ区グリッド出土遺物(1)

⑽　グリッド出土遺物

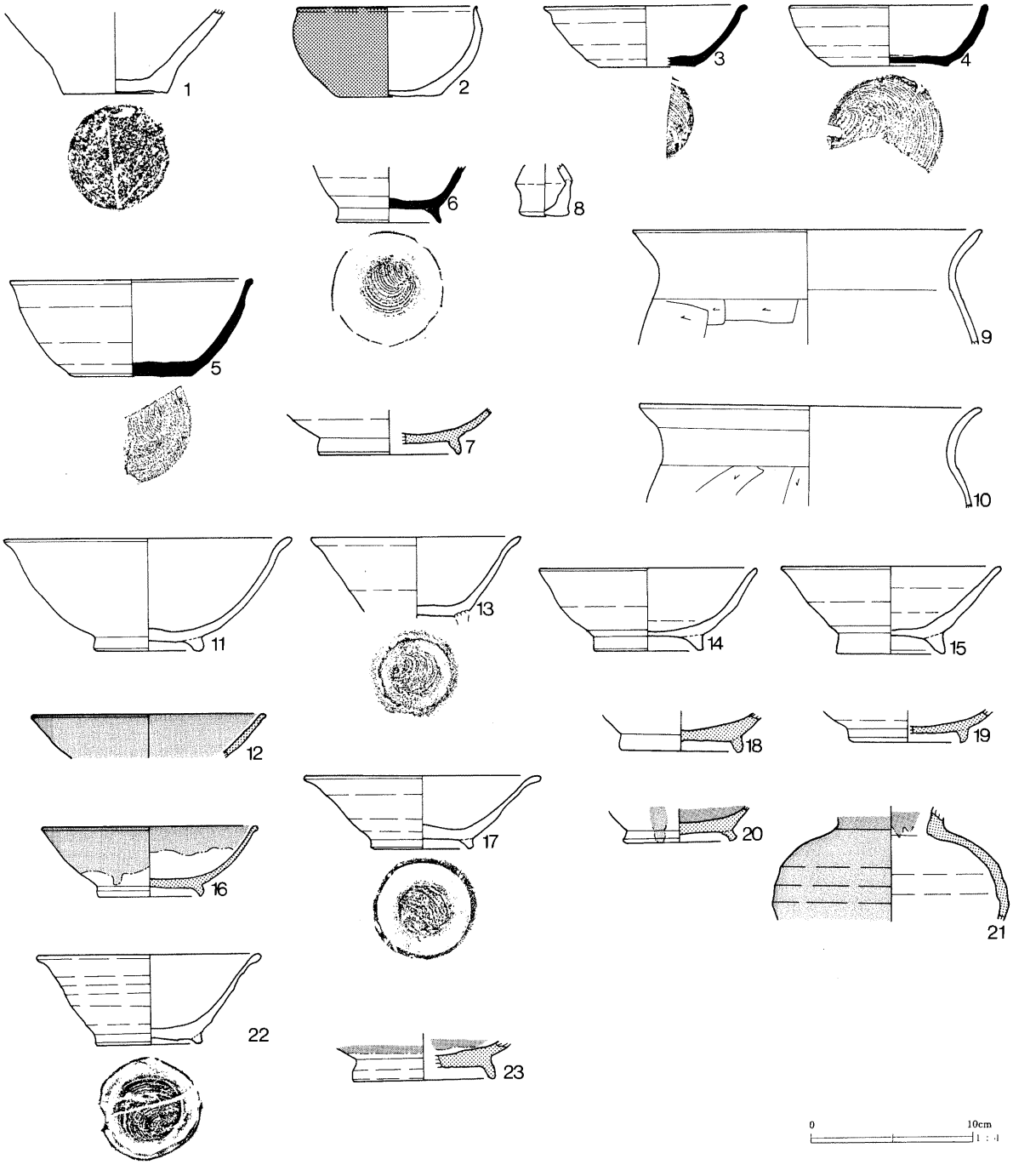
Ⅳ区の遺構外から出土した遺物をまとめて掲載する（第280～282図、第65・66表）。

９区Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ―26・27・28・29・30グリッドを中心に弥生時代中期の土器（甕・壺）、打製石斧、管玉などがまとまって出土した。

また、第１区画の掘立柱建物跡群に囲まれた第６・７号掘立柱建物跡と第８・９号掘立柱建物跡の間、９区Ｍ・Ｎ―22・23グリッド付近の約10ｍ四方と、９区Ｋ―24グリッド付近に遺物の出土が集中する箇所があった。概ね８世紀末から９世紀中頃までの須恵器坏、土師器甕、灰釉陶器椀などが出土した。これらは掘立柱建物跡群との関係が考えられる。



第281図　Ⅳ区グリッド出土遺物(2)



第282図　IV区グリッド出土遺物(3)

第65表　Ⅳ区グリッド出土弥生時代遺物観察表

番号	器種	出土位置	長さ	幅	直径	厚さ	重さ	材質	残存率	備考
1	甕	9区 M29	—	—	—	—	—	—	口縁	
2	甕	9区 M28	—	—	—	—	—	—	胴部	
3	甕	9区 M28	—	—	—	—	—	—	胴部	
4	甕	9区 M27	—	—	—	—	—	—	胴部	
5	壺	9区 M28	—	—	—	—	—	—	胴部	
6	壺	9区 M28	—	—	—	—	—	—	胴部	
7	壺	9区 M29	—	—	—	—	—	—	胴部	
8	壺	9区 M28	—	—	—	—	—	—	胴部	
9	壺	9区 M29	—	—	—	—	—	—	胴部	
10	壺	9区 M29	—	—	—	—	—	—	胴部	
11	壺	9区 M28	—	—	—	—	—	—	胴部	
12	壺	9区 M29	—	—	—	—	—	—	底部	網代痕
13	壺	9区 M27	—	—	—	—	—	—	底部	網代痕
14	壺	9区 M29	—	—	—	—	—	—	底部	
15	壺	9区 M29	—	—	—	—	—	—	底部	
16	掻器	9区 M29	7.3	6.6	—	2.2	140		完形	円形掻器
17	打製石斧	9区 M29	5.9	5.7	—	1.8	75		基部・刃部欠損	
18	打製石斧	9区 M28	16.2	7.7	—	2.1	320		完形	撥形
19	打製石斧	9区 M28	17.5	10.0	—	2.9	470		完形	撥形
20	打製石斧	9区 M28	15.1	10.5	—	2.2	380		基部欠損	撥形
21	打製石斧	9区 M28	9.9	12.6	—	1.9	210		基部欠損	分銅形？
22	管玉	9区 M29	0.4	—	0.4	—	計測不能	硬玉	欠損	

第66表　Ⅳ区グリッド出土遺物観察表

番号	器種	出土位置	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	土師器甕	9区 O21	—	—	6.4	JMN	にぶい橙色	C	底部100%	
2	土師器椀	9区 O23	(11.2)	5.6	(6.5)	AMN	にぶい橙色	A	50%	赤彩。
3	須恵器坏	9区 K24	(12.6)	3.7	(6.0)	AB	灰色	A	40%	
4	須恵器坏	9区 M22	12.2	6.2	3.8	AB	灰色	C	55%	
5	須恵器坏	9区 M22	(15.0)	(7.4)	6.0	AB	灰白色	C	30%	
6	須恵器椀	9区 M22	—	—	6.3	AP	灰白色	A	底部100%	
7	灰釉陶器椀	9区 M23	—	—	(8.6)	ABP	灰白色	A	底部35%	浜北産。
8	ミニチュア土器	9区 N22	—	—	3.2	AB	外面：浅黄橙色　内面：黄灰色	D	底部100%	
9	土師器甕	9区 L23	(21.4)	—	—	ABE	明赤褐色	C	口縁部25%	
10	土師器甕	9区 L24	21.0	—	—	ABI	橙色	C	口縁部80%	
11	須恵器椀	4区 I18	(17.6)	(7.0)	6.8	AD	橙色	E	口縁部15%	
12	灰釉陶器椀	4区 I18	(14.6)	—	—	A	灰白色	A	口縁部15%	
13	須恵器椀	9区 H22	(13.0)	—	5.8	AB	明赤褐色	E	40%	
14	須恵器椀	9区 R28	(13.6)	6.6	5.4	ABEI	浅黄橙色	E	30%	
15	須恵器椀	9区 R28	(13.4)	6.6	5.1	AE	浅黄橙色	E	50%	
16	灰釉陶器椀	8区 P24	(13.3)	4.4	6.3	AB	暗灰黄色	A	50%	
17	須恵器椀	9区 O27	(14.6)	4.6	6.4	AI	灰黄色	E	50%	
18	灰釉陶器椀	9区 O27	—	—	(7.6)	ABP	灰白色	A	底部40%	
19	灰釉陶器椀	9区 M・N30	—	—	7.4	AB	灰白色	A	底部50%	
20	灰釉陶器椀	9区 N27	—	—	7.0	AB	灰白色	A	底部75%	
21	灰釉陶器手付瓶	9区 LM28・29	—	—	—	AP	灰白色	A	胴部破片	
22	須恵器椀	4区 S19	14.0	5.6	6.4	ADGHJ	灰白色	D	70%	
23	灰釉陶器椀	4区 S19	—	—	(8.7)	AB	灰白色	A	底部25%	

Ⅷ　Ｖ区の調査

1　Ｖ区の概観

調査区は、調査区域の南西、Ⅳ区の南、Ⅵ区の西に位置する区画であった。調査対象面積は、約5,400㎡であった。

遺構確認面での標高は、22.2～22.5mであった。調査区全体の自然地形は、ほぼ平坦であったがやや北西に傾きをもっていた。

確認された遺構は、竪穴遺構５基、土坑５基、溝跡16条であった。遺構の総体としての分布は、中央から東に遺構が集中していた。

竪穴遺構は、調査区南東隅に３基まとまって、南西に２基まとまって検出できた。プランは、第５号竪穴遺構がやや楕円形を呈するが、いずれも長方形の大型のものであった。掘り方も約0.7～1.0mと深いものであった。出土遺物は、第５号竪穴遺構のみで検出され、縄文土器深鉢片と打製石斧が出土した。これらの竪穴遺構は、同様の形態を示しているので第５号竪穴遺構と同時期すなわち縄文時代後期と考えたい。

土坑は、５基が点在して分布していた。第１・３・４号土坑が溝跡と重複関係にあった。第５号土坑を除いて長方形ないしは正方形のプランを呈すものであった。出土遺物はいずれもなく時期は不明であるが、第１号土坑は弥生時代中期の土器を出土した第１号溝を切っており、第３号土坑は第６号溝跡を切り、第４号土坑は第６号溝跡に切られていた。

溝跡は、16条が分岐・接続・重複しあって検出された。中央の第２・３・４・５号溝跡及び東の第１号溝跡がやや規模の大きなもので、他は、規模の小さなものであった。接続する第15・16号溝跡を除いてやや東に傾斜してほぼ南北方向の主軸の溝が大部分であった。出土遺物は比較的少なく、第１・２・３・５・６号溝跡で検出できただけであった。時期は、これらの遺物から判断すると、第１号溝跡が弥生時代中期、第３号溝跡が古墳時代前期以前となるが、他は不明である。ただし、多少の重複関係にある溝が存在するが、ほぼ同時期に存在していた可能性が考えられる。

2　遺構と遺物

(1)　竪穴遺構

第１号竪穴遺構（第283図）

14区Ｑ－45、Ｑ－46グリッドにまたがり位置する。平面形は長軸2.93m、短軸1.91mの長方形で、深さは0.72mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは崩壊も認められるが、角度は強い。出土遺物は検出されておらず、時期も確定できない。

第２号竪穴遺構（第283図）

14区Ｑ－47グリッドを中心に位置する。平面形は長軸3.14m、短軸1.51mの長方形で、深さは0.62mを測る。底面は平坦で、壁面の立ち上がりは一部に崩壊も認められるが、ほぼ垂直に近い。出土遺物は

検出されておらず、遺構の時期は確定できない。

第3号竪穴遺構（第283図）

14区C—48グリッドを中心に位置する。平面形は長軸3.42m、短軸1.69mの長方形で、深さは0.82mを測る。底面は平坦で、壁面の立ち上がりはほぼ垂直である。覆土はブロック状に堆積しており、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。出土遺物は検出さておらず、遺構の時期は確定できない。

第4号竪穴遺構（第283図）

14区D—49グリッドを中心に位置する。平面形は長軸2.65m、短軸2.25mの方形で、深さは0.88mを測る。底面はほぼ平坦で、壁面の立ち上がりは一部に崩壊も見られるが、ほぼ垂直に近い。覆土は人為的に埋め戻されたものと推定される。出土遺物は検出されなかった。

第5号竪穴遺構（第283・288図、第68表）

14区C—51、D—51グリッドにまたがり位置する。平面形は長軸2.95m、短軸2.2mの楕円形で、深さは0.97mを測る。底面はほぼ平坦で、壁面の立ち上がりは一部に崩壊も認められるが、ほぼ垂直に近い。

覆土は堆積状況から判断して、人為的に埋められた可能性がある。

出土遺物は、縄文土器深鉢破片、打製石斧が検出された。

(2) 土坑

土坑は総数にして5基検出された。

以下、一覧表にして掲載する（第284図、第67表）。

第67表　V区土坑一覧表

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ	出土遺物	時期	重複関係	備考
1	14区 F44・45	長方形	174 × 152 × 72			SD1	
2	14区 E48	長方形	205 × 42 × 84				
3	9区 J・K38	長方形	264 × 104 × 62			SD6	
4	14区 J36	長方形	148 × 76 × 38			SD6	
5	14区 F40	楕円形	105 × 56 × 8				

(3) 溝跡

全て古墳時代中期以前の溝跡と考えられる。以下、詳細を記述する。

第1号溝跡（第285～288図、第68表）

14区C—41グリッドから14区J—53グリッドに蛇行しながら延びる溝跡で、北側、南側とも調査区域外に延びており、規模は不明である。14区E—42グリッドで第9・10号溝跡と重複し、14区I—48グリッドで第12号溝跡と重複する。第9・10号溝跡より本遺構の方が新しい。第12号溝跡とは新旧関係が明確でなく、合流箇所から南にかけては両者の分離も難しい。

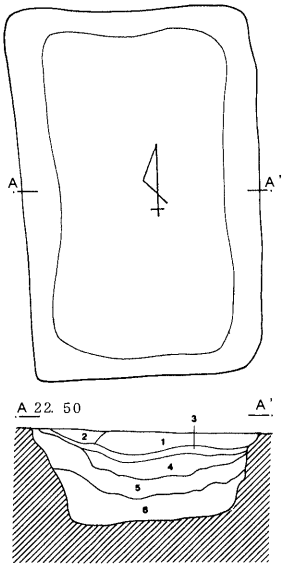
残存長は65m、幅1.2mから1.5m、深さ0.5mを測る。底の形状は舟底状を呈している。

出土遺物は、弥生土器壺などが検出された。

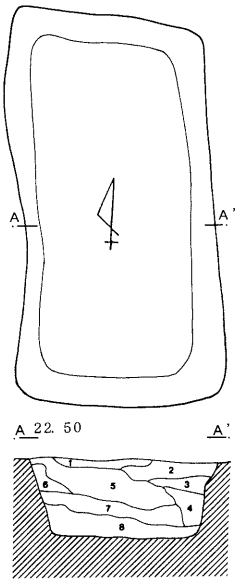
第2号溝跡（第285～288図、第68表）

9区G—34グリッドから14区L—51グリッドに概ね直線的に延びている。第15号溝跡と9区H—37グリッドで重複するが、本遺構が新しい。北側、南側とも調査区域外に延びており、規模は不明である。

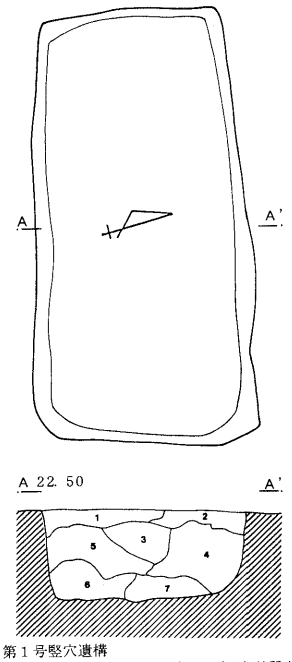
第１号竪穴遺構



第２号竪穴遺構



第３号竪穴遺構

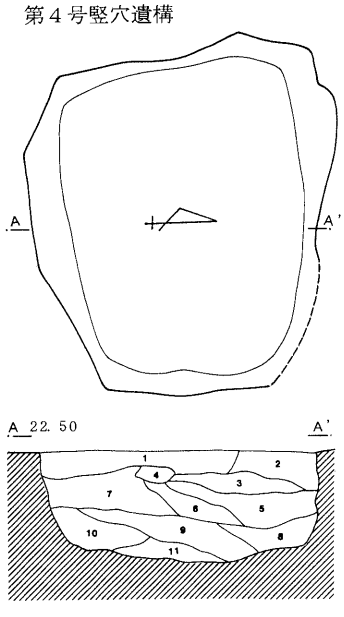


第１号竪穴遺構
1 暗紫灰色粘質土5P-4/1（オリーブ灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 灰色粘質土N-4/（オリーブ灰色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 オリーブ褐色粘質土2.5Y-4/6（酸化鉄多量に含み褐色を呈する、暗紫灰色粘質土ブロック・粒子多量に含む）
4 暗紫灰色粘質土5P-3/1（青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
5 暗青灰色粘質土5PB-3/1（青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
6 青灰色シルト5B-5/1（暗紫灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

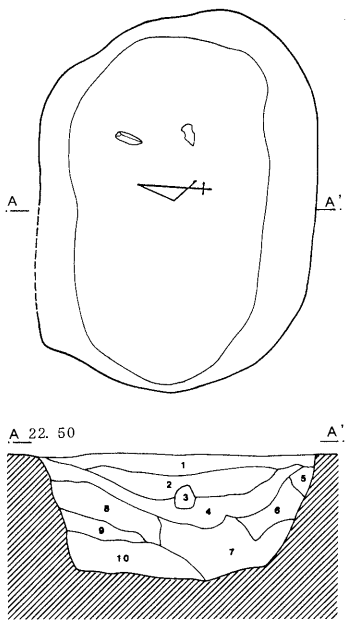
第２号竪穴遺構
1 暗紫灰色粘質土5P-3/1（灰オリーブ粘質土ブロック、灰色粘質土ブロック・粒子、黄褐色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 黄褐色シルト10YR-5/6（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する、暗紫灰色粘質土ブロック・粒子含む）
3 青灰色シルト5BG-6/1（暗紫灰色粘質土粒子若干、酸化鉄多量に含む）
4 暗青灰色粘質土5PB-4/1（暗青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
5 暗紫灰色粘質土5P-3/1（青灰色粘質土ブロック・粒子、マンガン粒子含む）
6 青灰色シルト5BG-6/1（暗紫灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
7 暗紫灰色粘質土5P-3/1（青灰色粘質土ブロック・粒子、黄褐色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
8 暗青灰色シルト5B-4/1（暗青灰色粘質土ブロック・粒子含む）

第３号竪穴遺構
1 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、黒褐色粘質土粒子、マンガン粒子、火山灰含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土粒子、黒褐色粘質土粒子多量、酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘質土ブロック・粒子、灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子若干含む）
4 青灰色粘質土5BG-5/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
5 灰色粘質土N-4/（灰色粘質土ブロック・粒子、青灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
6 青灰色粘質土10BG-5/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子若干、酸化鉄含む）
7 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

第４号竪穴遺構



第５号竪穴遺構

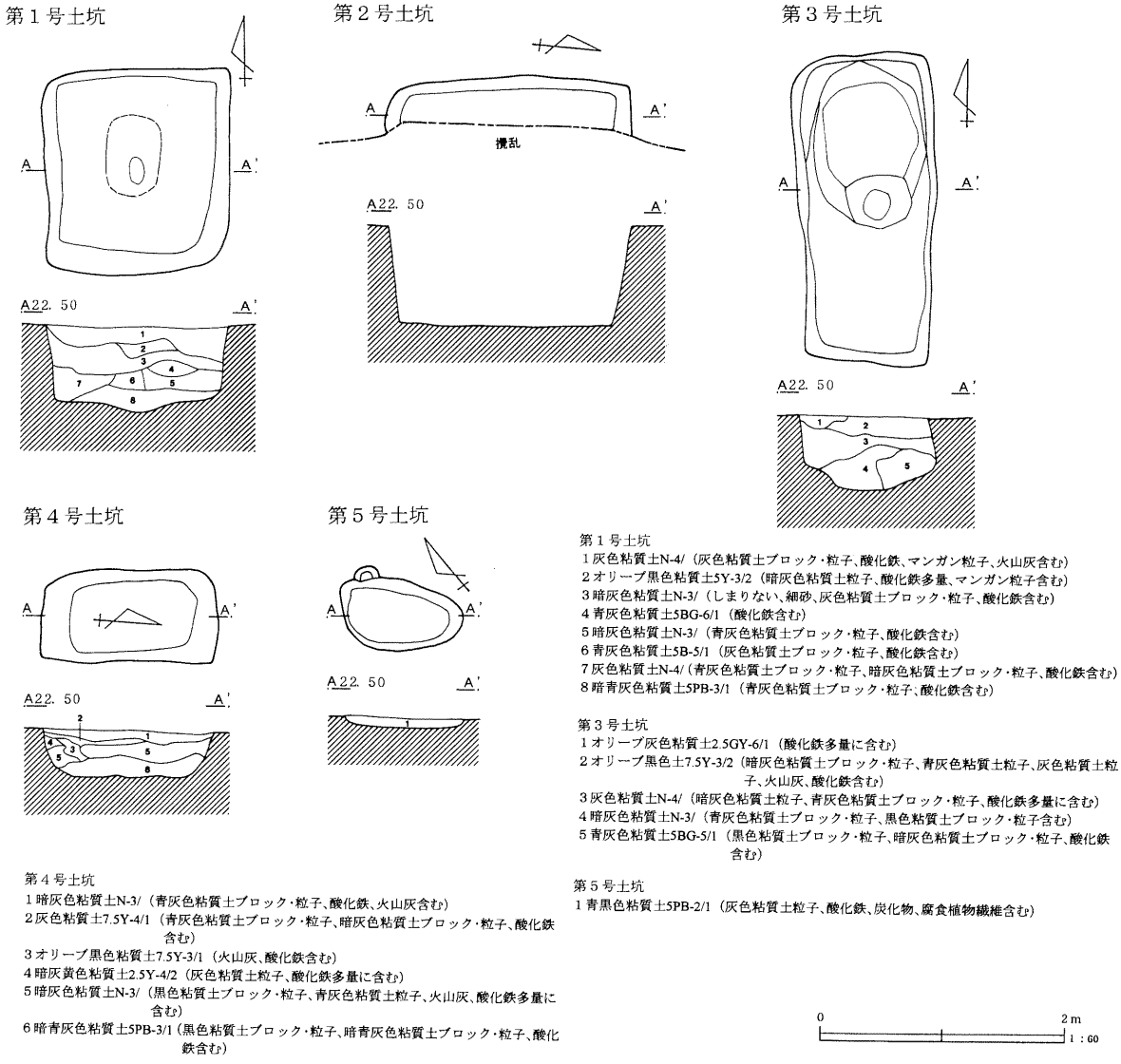


第４号竪穴遺構
1 灰色粘質土粒子、暗灰色粘質土ブロック・粒子、黒褐色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 灰色粘質土7.5Y-4/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子多量、灰色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
3 明褐色粘質土7.5YR-5/6（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する、暗灰色粘質土ブロック・粒子、灰色粘質土ブロック・粒子含む）
4 灰色シルト7.5Y-6/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄多量に含む）
5 暗灰色粘質土N-2/（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
6 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘質土ブロック・粒子、青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
7 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
8 暗青灰色粘質土5BG-4/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
9 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土ブロック・粒子多量、青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
10 暗青灰色粘質土5BG-4/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

第５号竪穴遺構
1 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘質土ブロック・粒子、灰白色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子、火山灰含む）
2 灰色粘質土7.5Y-5/1（暗灰色粘質土粒子、灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
3 緑灰色粘質土10G-6/1（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土ブロック・粒子、青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
5 黄褐色粘質土10YR-5/6（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する、灰色粘質土ブロック、炭化物含む）
6 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘質土ブロック・粒子、青灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
7 黒色粘質土N-2/（青灰色粘質土ブロック・粒子、灰色粘質土ブロック・粒子含む）
8 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土ブロック・粒子、青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
9 青灰色粘質土5BG-5/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
10 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）

0　2m
1：60

第283図　Ⅴ区第１～５号竪穴遺構



第１号土坑
1 灰色粘質土N-4/（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子、火山灰含む）
2 オリーブ黒色粘質土5Y-3/2（暗灰色粘質土粒子、酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
3 暗灰色粘質土N-3/（しまりない、細砂、灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
4 青灰色粘質土5BG-6/1（酸化鉄含む）
5 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
6 青灰色粘質土5B-5/1（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
7 灰色粘質土N-4/（青灰色粘質土ブロック・粒子、暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
8 暗青灰色粘質土5PB-3/1（青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

第３号土坑
1 オリーブ灰色粘質土2.5GY-6/1（酸化鉄多量に含む）
2 オリーブ黒色土7.5Y-3/2（暗灰色粘質土ブロック・粒子、青灰色粘質土粒子、灰色粘質土粒子、火山灰、酸化鉄含む）
3 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘質土粒子、青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄多量に含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土ブロック・粒子、黒色粘質土ブロック・粒子含む）
5 青灰色粘質土5BG-5/1（黒色粘質土ブロック・粒子、暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

第４号土坑
1 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄、火山灰含む）
2 灰色粘質土7.5Y-4/1（青灰色粘質土ブロック・粒子、暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
3 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（火山灰、酸化鉄含む）
4 暗灰黄色粘質土2.5Y-4/2（灰色粘質土粒子、酸化鉄多量に含む）
5 暗灰色粘質土N-3/（黒色粘質土ブロック・粒子、青灰色粘質土粒子、火山灰、酸化鉄多量に含む）
6 暗青灰色粘質土5PB-3/1（黒色粘質土ブロック・粒子、暗青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）

第５号土坑
1 青黒色粘質土5PB-2/1（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物、腐食植物繊維含む）

第284図　Ｖ区第１～５号土坑

残存長は87.8m、幅1.2m、深さ0.35m前後を測る。断面形状は、底が平坦で箱薬研状の所、舟底状の所など一定でない。

出土遺物は、打製石斧などが検出された。

第３号溝跡（第285～288図、第68表）

９区Ｅ—35グリッドから14区Ｋ—51グリッドに直線的に延びている。第４・５号溝跡と重複し、第４号溝跡が一番新しく、次いで第３号溝跡、第５号溝跡が一番古い。南北両端は調査区域外となり、規模は不明である。

残存長86.8m、幅2.8m前後、深さ0.5m前後を測る。底部は舟底状を呈している。

出土遺物は、縄文土器深鉢破片、土師器高坏などが検出された。

第４号溝跡（第285・286図）

９区Ｅ—35グリッドから第３号溝跡と重複しながら南に延び、14区Ｈ—41グリッドで両溝跡は合流して、その南では第４号溝跡の実体は不明確となる。

確認できる地点までの長さはおよそ30m、幅１m前後、深さ0.3mを測る。底部形状は舟底状を呈する。

出土遺物は、検出されなかった。

第５号溝跡（第285～288図、第68表）

９区Ｅ―34グリッドから14区Ｋ―51グリッドに蛇行しながら延びる溝跡で、第３・４号溝跡と重複する。本溝跡が一番古い。

残存長は88.4m、幅1.4m前後、深さ0.3m前後を測る。底部形状は舟底状を呈する。

出土遺物は、土師器坩などが検出された。

第６号溝跡（第285～288図、第68表）

９区Ｊ―34グリッドから14区Ｍ―51グリッドに延びる溝跡で、９区Ｋ―36グリッドで南にカーブする。

残存長は87.7m、幅0.35mから0.5m、深さ0.05mと非常に浅い。底部形状は舟底状である。

出土遺物は、磨石、砥石などが検出された。

第７号溝跡（第285・286図）

９区Ｄ―38グリッドから14区Ｊ―50グリッドに蛇行しながら延びている。第10号溝跡、第13号溝跡などと重複するが、明確な新旧関係は把握できなかった。

残存長は67.5m、幅0.6m、深さ0.05mを測る。底部形状は舟底状を呈している。

出土遺物は、検出されなかった。

第８号溝跡（第285・286図）

14区Ｉ―47グリッドに位置し、第４号溝跡と第７号溝跡に挟まれた小さな溝跡である。

残存長は10mほど、幅0.3m、深さ0.15mを測る小規模な溝跡である。

出土遺物は、検出されなかった。

第９号溝跡（第285・287図）

14区Ｄ―43グリッドから14区Ｅ―45グリッド間に延びる13mほどの溝跡である。14区Ｄ―42グリッドで第１号溝跡から分かれてくる溝跡があるが、方向から考えて第９号溝跡と同一の溝跡と推測される。

幅0.35m、深さ0.1mと浅い。

出土遺物は、検出されなかった。

第10号溝跡（第285・287図）

14区Ｅ―42グリッドで第１号溝跡と、14区Ｉ―43グリッドで第４号溝跡と合流するような形態である。平面形は重複するものか合流するものか判断しかねるが、断面図では第１号溝跡に切られる形であり、第４号溝跡とは重複関係は把握できなかった。

幅は２m近くあるが、深さは0.2m前後と浅い。

出土遺物は、検出されなかった。

第11号溝跡（第285・287図）

14区Ｇ―42グリッドから14区Ｈ―47グリッドまで延びる溝跡である。第10号溝跡と14区Ｇ―42グリッドで重複しているが、本遺構が確認面から浅く、重複付近で遺構プランが不鮮明となり明確な新旧関係を把握できなかった。南側は次第に浅くなり、消滅する。

幅0.9m前後、深さ0.1mと非常に浅い。

出土遺物は、検出されなかった。

第12号溝跡（第285・287図）

14区H—45グリッドで第11号溝跡から分かれ、14区I—48グリッド付近で第1号溝跡と合流するような平面プランを呈する。第11号溝跡とは、プランから類推して同時存在もしくは同一溝と把握してよいのではなかろうか。第1号溝跡との重複関係は本遺構の方が新しいと思われるが、南に行くに従って、第1号溝跡との新旧関係が土層では把握できなくなった。

溝の幅は0.6m前後、深さは0.3mを測る。

出土遺物は、検出されなかった。

第13号溝跡（第285・286図）

14区G—43グリッド、H—43グリッドにまたがり位置する。第7号溝跡と第5号溝跡と重複し、第5号溝跡よりは新しいが、第7号溝跡との新旧関係は不明であった。

残存長は約4m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。

出土遺物は、検出されなかった。

第14号溝跡（第285・286図）

14区J—48グリッドに位置する。第7号溝跡と第8号溝跡と重複する。第7号溝跡を切って作られている。第8号溝跡との新旧関係は把握できなかった。

長さは3m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。

出土遺物は、検出されなかった。性格は不明である。

第15号溝跡（第285・287図）

この地区の溝の大半が南北方向であるのに対して、本遺構のみが東西方向であった。9区K—36グリッドで第6号溝跡と合流するが、新旧関係はわからず、第6号溝跡から分かれた溝のようにも思われる。第2号溝跡とは交差するが本遺構が古く、さらにその東で第3号溝跡に切られて、その実体は分からなくなる。

残存長約20m、深さ0.25m前後、深さ0.1mを測る。

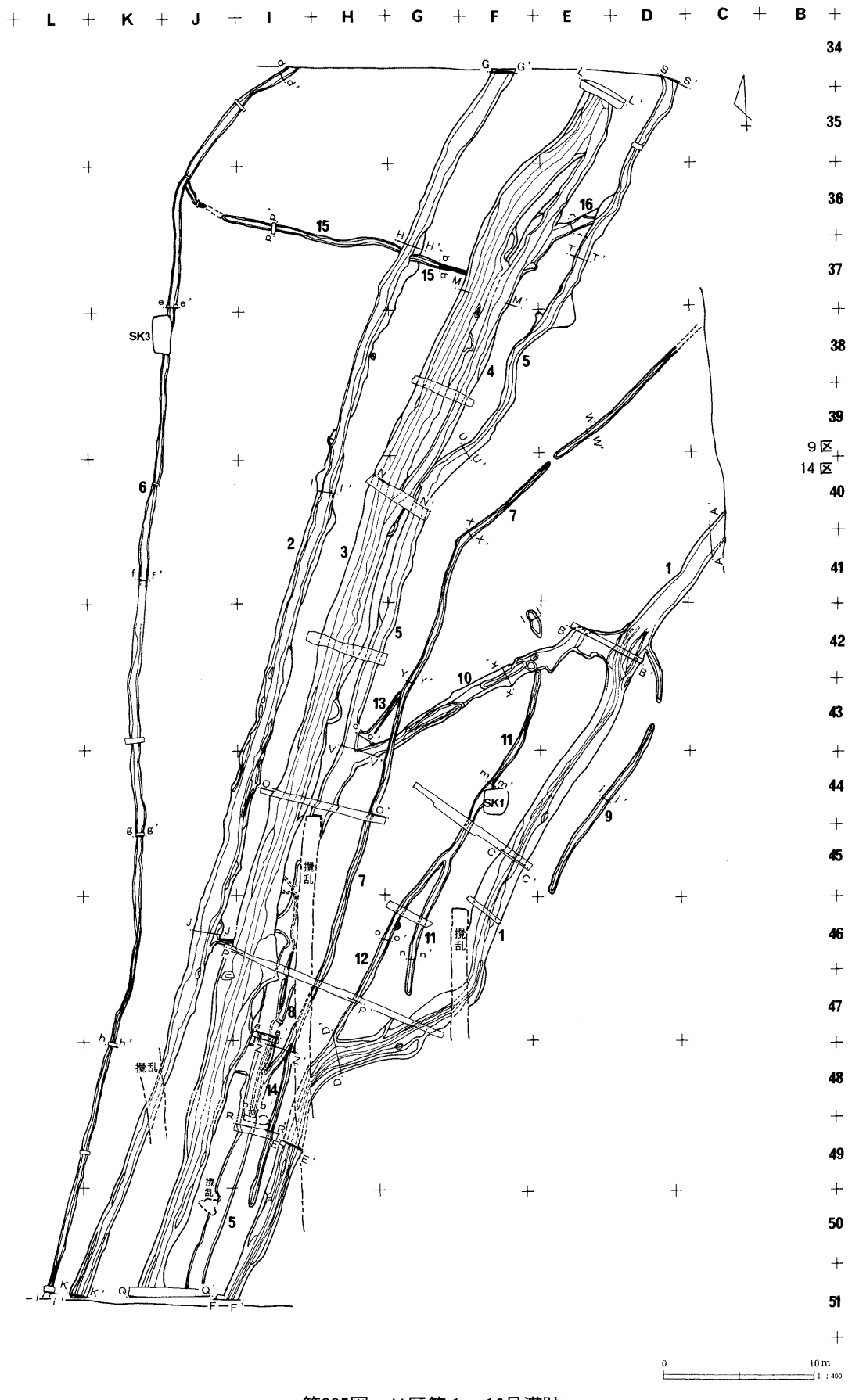
出土遺物は、検出されなかった。

第16号溝跡（第285・287図）

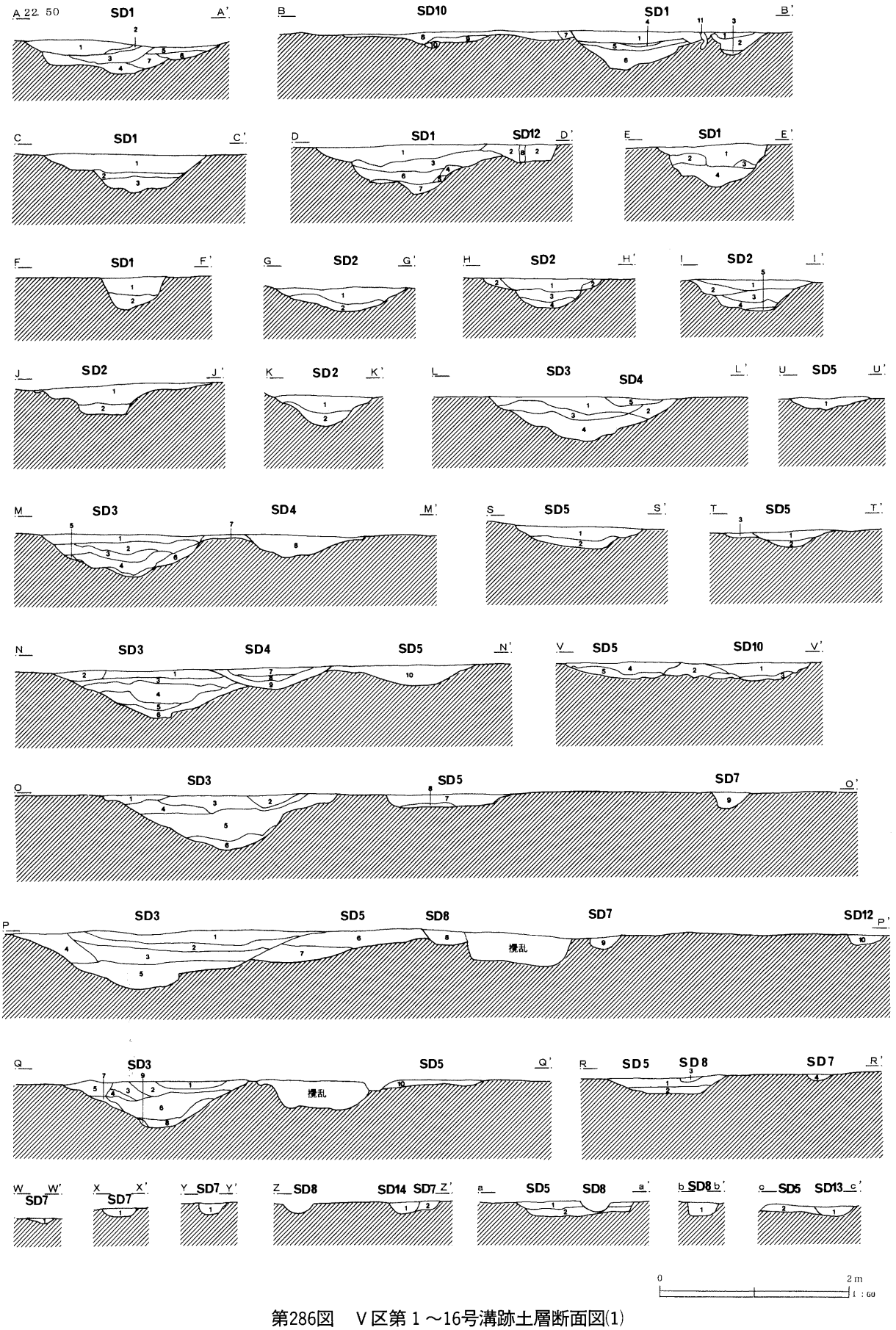
9区F—36、F—37グリッドにまたがり位置する。第5号溝跡、第4号溝跡と重複するが、新旧関係はわからない。平面形態は第4・5号溝跡を結ぶような位置関係である。

長さは3.5m、幅0.6m、深さ0.08mと非常に浅い。

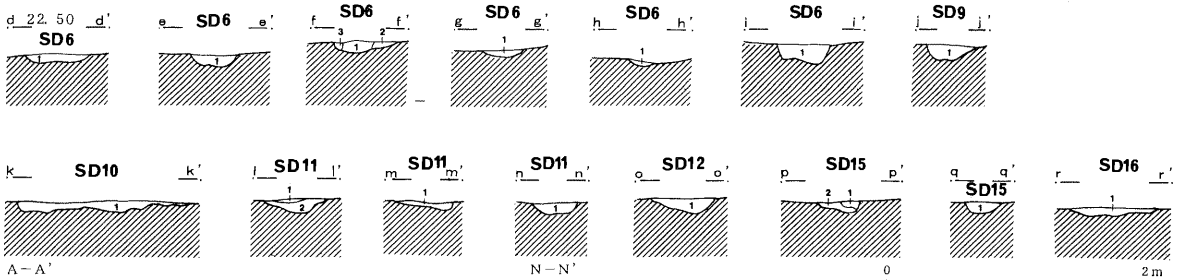
出土遺物は、検出されなかった。



第285図　Ⅴ区第１～16号溝跡



第286図　V区第1～16号溝跡土層断面図(1)

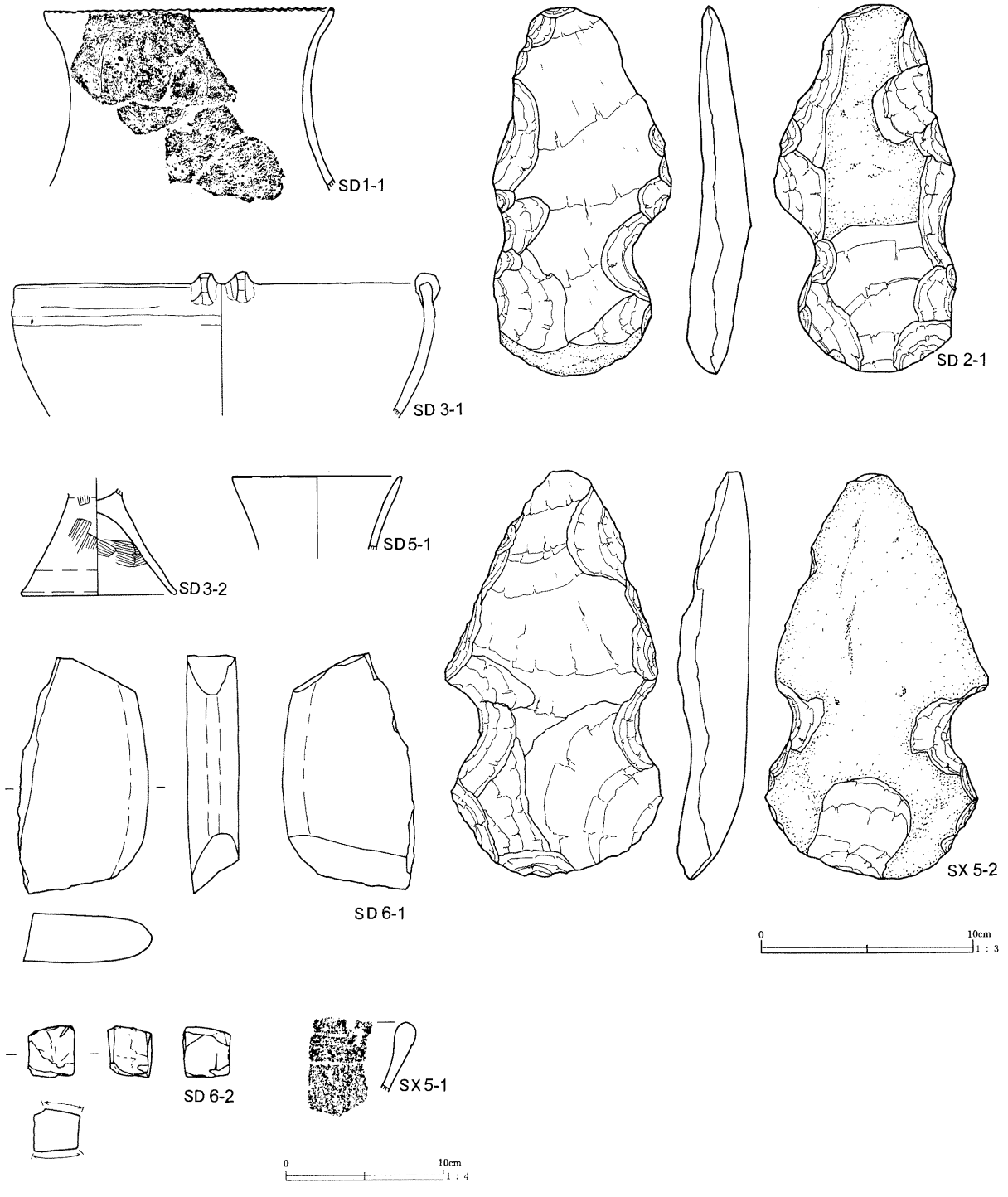


A－A'
1 黒色土N-2/（かたくしまる、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 オリーブ黒色粘質土5Y-3/1（灰オリーブ色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
3 青黒色粘質土5PB-2/1（灰白色粘質土粒子若干、酸化鉄、炭化物多量に含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
5 黒色土5Y-2/1（かたくしまる、酸化鉄含む）
6 褐色粘質土10YR-4/6（酸化鉄多量に含み褐色を呈する）
7 黒色粘質土N-2/（酸化鉄、炭化物多量に含む）
B－B'
1 黒色土N-2/（かたくしまる、灰色粘質土粒子若干、酸化鉄含む）
2 暗灰色土N-3/（酸化鉄含む）
3 黒色粘質土N-2/（酸化鉄多量に含む）
4 オリーブ黄色粘質土7.5Y-6/3（暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
5 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄含む）
6 黒色粘質土N-2/（灰オリーブ色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
7 黒褐色土10YR-3/1（マンガン粒子、酸化鉄含む）
8 青黒色土5PB-2/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
9 暗灰色土N-3/（灰オリーブ色粘質土粒子、酸化鉄含む）
10オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄含む）
11攪乱
C－C'
1 黒褐色土10YR-3/1（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
2 褐色粘質土7.5YR-4/4（酸化鉄多量に含み褐色を呈する）
3 暗灰色粘質土N-3/（黒色粘質土粒子、灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
D－D'
1 黒色土N-2/（酸化鉄含む）
2 暗灰色土N-3/（黄褐色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
3 黒色粘質土N-2/（酸化鉄多量、炭化物含む）
4 灰色粘質土7.5Y-4/1（酸化鉄多量に含む）
5 暗青灰色粘質土5PB-3/1（酸化鉄、炭化物含む）
6 青黒色粘質土5PB-2/1（酸化鉄、炭化物多量に含む）
7 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土粒子多量、酸化鉄含む）
8 攪乱
E－E'
1 黒色土2.5Y-2/1（かたくしまる、酸化鉄含む）
2 暗灰色土N-3/（酸化鉄含む）
3 黒褐色土10YR-3/1（酸化鉄多量に含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物含む）
F－F'
1 暗灰色土N-3/（かたくしまる、酸化鉄多量に含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-3/1（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
G－G'
1 黒色粘質土N-2/（灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄含む）
H－H'
1 黒色土5Y-2/1（火山灰若干、酸化鉄、炭化物含む）
2 黒褐色土2.5Y-3/1（黄褐色粘質土粒子、酸化鉄多量に含む）
3 黒色粘質土N-2/（黄褐色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物多量に含む）
4 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（黄褐色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
I－I'
1 黒色土7.5Y-2/1（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物若干含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
3 黒色粘質土10Y-2/1（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
5 青黒色粘質土5PB-2/1（青灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
J－J'
1 黒色土5Y-2/1（火山灰若干、酸化鉄含む）
2 黒色粘質土N-2/（灰色粒子、酸化鉄、炭化物含む）
K－K'
1 黒色土7.5Y-2/1（酸化鉄、炭化物若干含む）
2 黒色粘質土N-2/（オリーブ灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄、炭化物含む）
L－L'
1 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土粒子若干、酸化鉄、炭化物含む）
2 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（酸化鉄、炭化物含む）
3 オリーブ黒色粘質土10Y-3/1（酸化鉄多量、炭化物含む）
4 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
5 暗灰色土N-3/（酸化鉄、炭化物多量に含む）
M－M'
1 オリーブ黒色土10Y-3/1（酸化鉄含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（灰色粘質土粒子若干、酸化鉄、炭化物含む）
3 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（灰オリーブ色粘質土粒子若干、酸化鉄、炭化物含む）
4 黒色粘質土10Y-2/1（灰オリーブ色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
5 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
6 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土ブロック・粒子多量、酸化鉄含む）
7 暗灰色土N-3/（酸化鉄多量、炭化物含む）
8 暗灰色粘質土N-3/（灰色粒子粘質土若干、酸化鉄、炭化物含む）

N－N'
1 暗灰色土N-3/（酸化鉄含む）
2 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄含む）
3 オリーブ黒色粘質土5Y-3/1（酸化鉄、炭化物含む）
4 黒色粘質土N-2/（灰色粘質土粒子多量、酸化鉄、炭化物含む）
5 黒色粘質土N-1.5/（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物多量に含む）
6 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
7 黒色土N-2/（酸化鉄含む）
8 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（酸化鉄、炭化物含む）
9 黒色粘質土7.5Y-2/1（酸化鉄、炭化物多量に含む）
10暗灰色土N-3/（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
O－O'
1 オリーブ黒色土10Y-3/1（酸化鉄含む）
2 オリーブ黒色土5Y-3/1（酸化鉄多量に含む）
3 黒色土10Y-2/1（酸化鉄、炭化物含む）
4 オリーブ黒色土5Y-3/1（酸化鉄含む）
5 オリーブ黒色粘質土7.5YR-3/1（酸化鉄、炭化物含む）
6 黒色粘質土N-2/（暗灰色粘質土ブロック・粒子、青灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物多量に含む）
7 灰色土5Y-4/1（酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
8 黒褐色土2.5Y-3/2（酸化鉄多量に含む）
9 暗灰色土N-3/（灰色粘質土粒子、酸化鉄含む）
P－P'
1 灰色土7.5Y-4/1（酸化鉄多量に含む）
2 黒色粘質土N-2/（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
3 黒色粘質土10Y-2/1（酸化鉄、炭化物多量に含む）
4 オリーブ黒色土5Y-3/1（酸化鉄含む）
5 黒色粘質土N-2/（灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
6 黒色土5Y-2/1（酸化鉄多量、炭化物含む）
7 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄多量に含み明褐色を呈する）
8 暗灰色土N-3/（酸化鉄、炭化物含む）
9 黒色土2.5Y-2/1（かたくしまる、酸化鉄含む）
10黒色土2.5Y-2/1（かたくしまる、酸化鉄含む）
Q－Q'
1 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄、炭化物含む）
2 オリーブ黒色粘質土10Y-3/1（酸化鉄、炭化物含む）
3 暗灰色粘質土N-3/（黒色粘質土粒子、酸化鉄含む）
4 オリーブ黒色粘質土7.5Y-3/1（酸化鉄多量に含む）
5 灰色土10Y-4/1（酸化鉄多量に含む）
6 黒色粘質土N-2/（暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄、炭化物多量に含む）
7 灰色粘質土N-4/（暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
8 暗灰色粘質土N-3/（青灰色粘質土粒子、酸化鉄、炭化物含む）
9 青灰色粘質土5BG-5/1（暗灰色粘質土ブロック・粒子、酸化鉄含む）
10暗灰色土N-3/（酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
R－R'
1 灰色土N-4/（灰色粘質土粒子、酸化鉄多量に含む）
2 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（灰色粘質土粒子若干、酸化鉄多量に含む）
3 黒色土N-2/（酸化鉄含む）
4 暗灰色土N-3/（酸化鉄含む）
S－S'
1 青黒色土5PB-2/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（灰オリーブ色粘質土粒子、酸化鉄含む）
T－T'
1 青黒色土5PB-2/1（灰色粘質土粒子若干、酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄、炭化物若干含む）
3 灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
U－U'
1 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄多量に含む）
V－V'
1 暗灰色土N-3/（酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
2 灰色土N-4/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
3 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
4 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄、マンガン粒子含む）
5 褐色粘質土10YR-4/1（酸化鉄多量に含み褐色を呈する、マンガン粒子含む）
W－W'、X－X'
1 暗灰色土N-3/（灰色粘質土粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
Y－Y'
1 黒色土N-2/（灰オリーブ色粘質土、酸化鉄含む）
Z－Z'
1 暗灰色土N-3/（酸化鉄、マンガン粒子含む）
2 暗灰色土N-3/（酸化鉄多量、マンガン粒子含む）
a－a'
1 暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄含む）
2 暗青灰色粘質土5PB-3/1（酸化鉄、マンガン粒子、炭化物含む）
b－b'
1 黒色土10Y-2/1（黄褐色土粒子、酸化鉄多量、炭化物若干含む）
c－c'
1 黒色土2.5Y-2/1（黄灰色土粒子、酸化鉄含む）
2 黒褐色土2.5Y-3/1（灰色土粒子若干、酸化鉄含む）

d－d'、e－e'
1 灰色土7.5Y-4/1（酸化鉄、炭化物若干含む）
f－f'
1 黒色土7.5Y-2/1（灰色土粒子若干、酸化鉄含む）
2 暗灰色土N-3/（酸化鉄、炭化物若干含む）
3 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄若干含む）
g－g'、i－i'
1 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（明黄褐色土粒子、酸化鉄含む）
h－h'
1 暗灰色土N-3/（酸化鉄含む）
j－j'、k－k'
1 暗灰色土N-3/（灰色土粒子、酸化鉄含む）
l－l'
1 暗灰色土N-3/（灰オリーブ色土粒子、酸化鉄含む）
2 灰オリーブ色土7.5Y-6/2（暗灰色土ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
m－m'、n－n'、o－o'、p－p'
1 暗灰色土N-3/（灰色土粒子、酸化鉄含む）
2 オリーブ黒色土7.5Y-3/1（酸化鉄含む）
q－q'、r－r'
1 暗灰色土N-3/（灰色土粒子、酸化鉄、炭化物含む）

第287図　Ⅴ区第１～16号溝跡土層断面図(2)



第288図　V区竪穴遺構・溝跡出土遺物

第68表　第V区竪穴遺構・溝跡出土遺物観察表

番号	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	胎土	色調	焼成	残存率	備考
SD1-1	弥生土器壺	18.4	—	—	AMN	にぶい橙色	—	口縁部20%	
SD2-1	打製石斧	17.7	8.6	3.1	—	—	—	完形	分銅形。重さ420g
SD3-1	縄文土器深鉢	26.4	—	—	—	—	—	口縁部20%	
SD3-2	土師器高坏	—	—	—	BE	灰白色	A	底部70%	
SD5-1	土師器坩	(10.8)	—	—	AEN	外面：浅黄橙色　内面：橙色	D	口縁部25%	
SD6-1	磨石	14.7	7.6	3.1	—	—	—	欠損	重さ651g
SD6-2	砥石	3.2	3.0	2.7	—	—	—	欠損	砂岩製。重さ45g
SX5-1	縄文土器深鉢	—	—	—	—	にぶい橙色	—	口縁部破片	
SX5-2	打製石斧	19.3	10.6	3.4	—	—	—	完形	分銅形。重さ640g

IX　VI区の調査

1　VI区の概観

調査区は、調査区域のほぼ中央南、IV・V・VII・VIII区に囲まれた区画であった。調査対象面積は、約1,600㎡であった。

遺構確認面での標高は、上層の遺構が22.6m前後、下層の遺構が22.2～22.3mであった。調査区全体の自然地形は、ほぼ平坦であった。

確認された遺構は、溝跡4条であった。遺構の総体としての分布は、北と南に分散していた。

溝跡は、上層に第1・2号溝跡の2条がL字型に検出され、第1号溝跡がほぼ南北に、第2号溝跡が東西に軸をもっていた。下層の第3・4号溝跡の2条は南北に分かれてほぼ並行に走り、北東一南西方向の傾きであった。出土遺物は、検出できなかった。時期は、第1・2号溝跡が同時期で平安期以降、第3・4号溝跡が他の調査区で検出した古墳時代後期以前の溝とレベル的にも、傾き的にも同様と考えられるので当該時期と考えたい。

2　遺構と遺物

(1)　溝跡

第1・2号溝跡は上層の一面目の溝跡で、第3・4号溝跡は下層の二面目の溝跡である。以下、詳細を記述する。

第1号溝跡（第289図）

8区T－33グリッドから8区T－38グリッドにかけて南北方向に延びる溝跡である。北側は調査区域外となり、南は次第に浅くなり消滅する。

残存長21.3m、上幅は北側で0.9m、中央付近で0.4m、深さも北側で0.5m、中央付近で0.3mとなる。断面形は底が平坦な漏斗状を呈するが、南は削平が著しく、上部を飛ばされている。

出土遺物は、検出されなかった。

第2号溝跡（第289図）

8区Q－37グリッドから8区S－38グリッドにかけて東西方向に延びる溝跡である。両端とも次第に浅くなり消滅する。

残存長は10m、幅0.3m、深さ0.04mを測る。

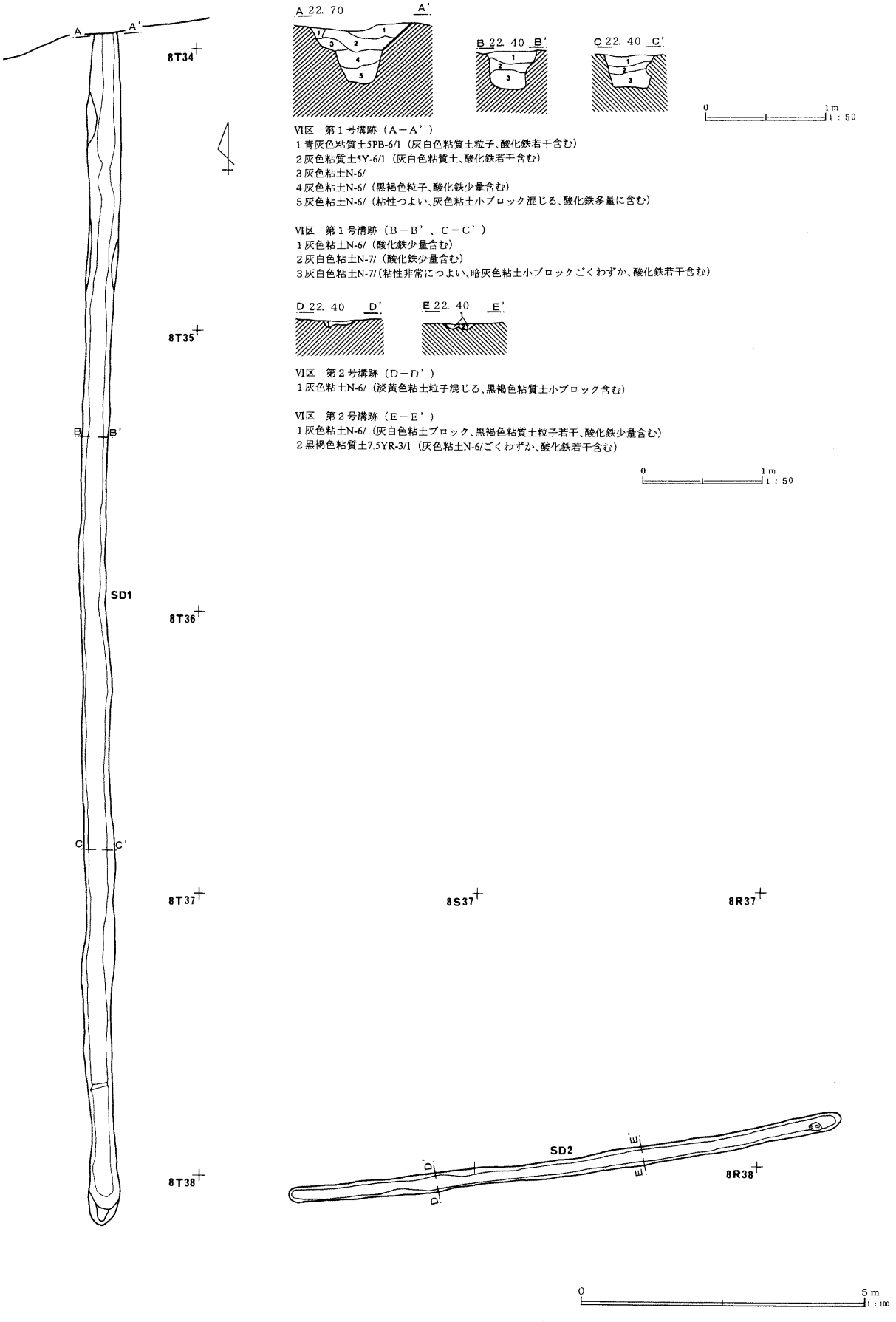
出土遺物は、検出されなかった。

第3号溝跡（第290図）

第1・2号溝跡を確認した面では、第3・4号溝跡は確認できず、さらに20cmほど下で確認された。

両端は調査区域外となる。

残存長18.4m、幅1.3m、深さ0.4mを測る。溝方向と規模が、V区の第1号溝跡と類似することから同一の遺構の可能性が考えられる。



VI区　第１号溝跡（Ａ－Ａ’）
１青灰色粘質土5PB-6/1（灰白色粘質土粒子、酸化鉄若干含む）
２灰色粘質土5Y-6/1（灰白色粘質土、酸化鉄若干含む）
３灰色粘土N-6/
４灰色粘土N-6/（黒褐色粒子、酸化鉄少量含む）
５灰色粘土N-6/（粘性つよい、灰色粘土小ブロック混じる、酸化鉄多量に含む）

VI区　第１号溝跡（Ｂ－Ｂ’、Ｃ－Ｃ’）
１灰色粘土N-6/（酸化鉄少量含む）
２灰白色粘土N-7/（酸化鉄少量含む）
３灰白色粘土N-7/（粘性非常につよい、暗灰色粘土小ブロックごくわずか、酸化鉄若干含む）

VI区　第２号溝跡（Ｄ－Ｄ’）
１灰色粘土N-6/（淡黄色粘土粒子混じる、黒褐色粘質土小ブロック含む）

VI区　第２号溝跡（Ｅ－Ｅ’）
１灰色粘土N-6/（灰白色粘土ブロック、黒褐色粘質土粒子若干、酸化鉄少量含む）
２黒褐色粘質土7.5YR-3/1（灰色粘土N-6/ごくわずか、酸化鉄若干含む）

第289図　VI区第１・２号溝跡

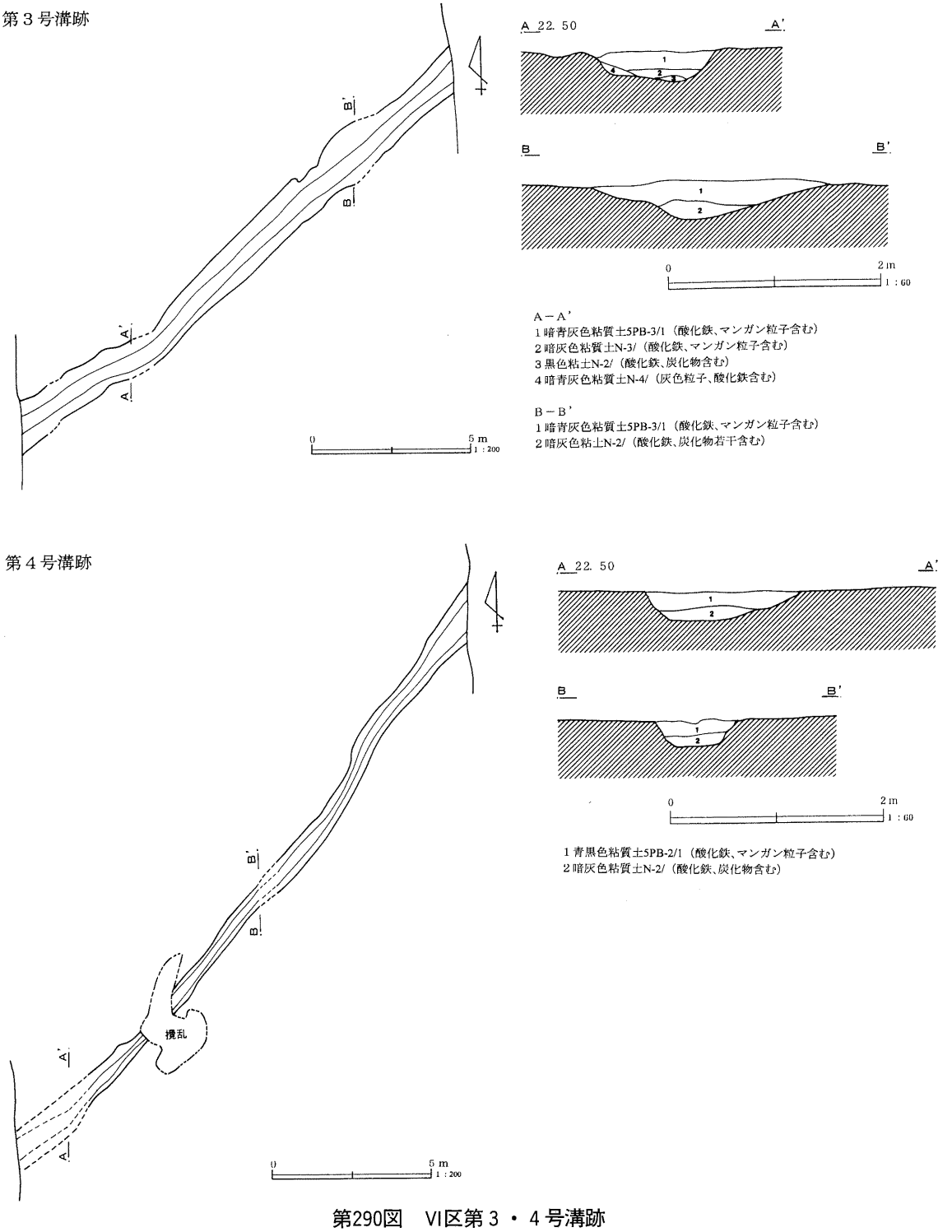
出土遺物は、検出されなかった。

第４号溝跡（第290図）

13区Ｐ―47グリッドから13区Ｓ―51グリッドにかけて東西方向に延びる溝跡である。両端とも調査区域外に延びており、規模はわからない。

残存長22m、幅0.6m、深さ0.3mを測る。底は舟底状を呈する。

出土遺物は、検出されなかった。



第290図　VI区第３・４号溝跡

X　Ⅶ区の調査

1　Ⅶ区の概観

調査区は、調査区域の東端、Ⅳ区の南の最も東の区画であった。調査対象面積は、約3,100㎡であった。

遺構確認面での標高は、21.9～22.2mであった。調査区全体の自然地形は、ほぼ平坦であった。

確認された遺構は、掘立柱建物跡２棟（第25･26号掘立柱建物跡）、土坑３基、ピット３基、井戸跡１基、溝跡３条、土坑墓６基、河川跡１箇所であった。遺構の総体としての分布は、希薄ではあるがほぼ全域に分布していた。

掘立柱建物跡は、２棟がやや離れてほぼ軸を同じにして検出された。後述する第３号溝跡（Ⅳ区６号溝跡）に区画されたエリアに存在し、Ⅳ区に所在する第15～19号掘立柱建物跡群と同じ群を形成する可能性も考えられる。土坑は、方形のやや大きめのもので、出土遺物は検出できなかった。溝跡は、河川跡の上層に１条河川が埋没した後に作られた。他の２条は河川跡に接続する形で検出された。この内第３号溝跡は南北に走り、Ⅳ区第６号溝跡と同一である。土坑墓は、第３号溝跡を挟んで掘立柱建物跡側に２基、もう一方に４基検出された。第３・５・６号土坑墓で10世紀前半の土器が出土しており、第４号土坑墓では人の歯が検出された。第６号土坑墓では、土器と伴に棺の木質部が検出された。古代の当該時期には、墓域としての空間であったのであろう。河川跡については、Ⅳ区で検出されたＣ地点の流路１の続きが検出された。平面的に流れを確認するに止まり、トレンチをあけて堆積状況を把握した。いずれのトレンチからも７世紀から８世紀初頭の土師器坏などが検出された。また、Ｃと呼称したトレンチ付近では流路が南北に分かれており、北流路で堰跡の一部を検出した。

2　遺構と遺物

(1)　掘立柱建物跡

第25号掘立柱建物跡（第291図）

８区Ｇ－37、Ｔ－37グリッドにまたがり位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

２間×３間の建物で梁行4.9m、桁行8.2m、面積40.18㎡を測る。柱間は梁行2.3m、桁行2.6mでほぼ等間隔であった。建物の方向はＮ－88°－Ｅを指す。

柱穴の掘り方は径13cm～27cmと非常に小規模な円形を呈していた。柱痕と思われる痕跡も幾つかの柱で確認できるが明確ではない。

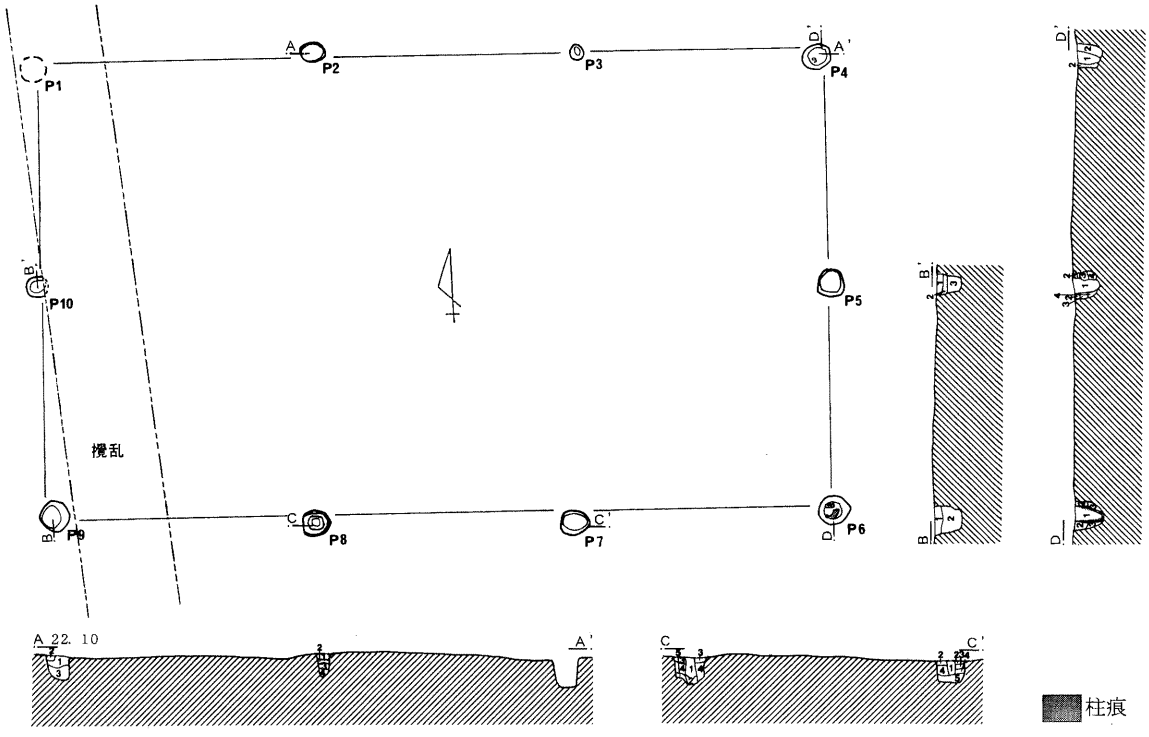
出土遺物は、検出できなかった。

第26号掘立柱建物跡（第292図）

８区Ｊ－34グリッドを中心に位置する。他の遺構との重複関係は確認できなかった。

１間×３間の建物で梁行3.5m、桁行6.1m、面積21.35㎡を測る。桁行の柱間はおよそ1.9mの等間隔であった。建物の方向はＮ－89°－Ｗを指す。

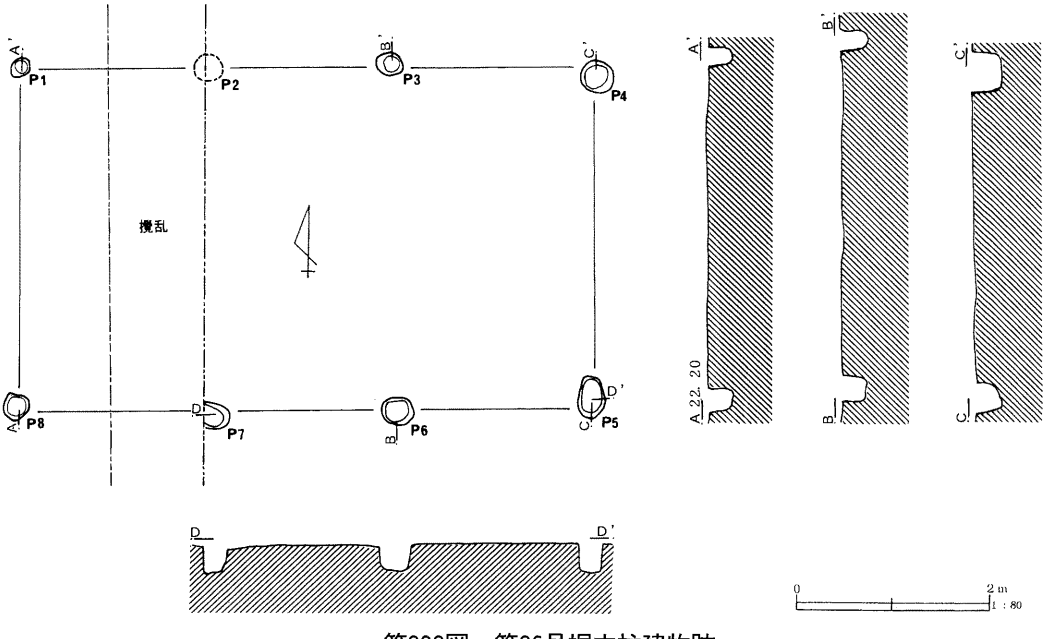
柱穴の掘り方は径20cm～33cmの小さな楕円形を呈するものが多い。柱痕はいずれの柱穴からも確認さ



P 2
1 灰色粘質土N-6/
2 灰白色粘質土7.5Y-7/1
3 明青灰色粘土5B-7/1
P 3
1 灰色粘質土7.5Y-5/1
2 灰色粘土N-6/（酸化鉄多量に含む、柱痕残存）
3 灰色粘土10Y-6/1
4 灰白色粘土N-7/
P 4
1 灰色粘土10Y-6/1（粘性つよい、灰色粘土粒子多量に含む）
2 明青灰色粘土5PB-7/1
P 5
1 灰色粘土N-6/
2 青灰色粘土5PB-6/1
3 灰色粘土10Y-6/1（若干砂質感ある）
4 明青灰色粘土5B-7/1
P 6
1 灰色粘土N-6/
2 青灰色粘土5PB-6/1
3 明青灰色粘土5B-7/1
P 7
1 灰色粘土N-6/（粘性つよい、灰色粘土粒子若干、酸化鉄多量に含む）
2 青灰色粘土5PB-6/1
3 灰色粘土5Y-4/1
4 灰白色粘土7.5Y-7/1（灰色粘土ブロック・粒子、酸化鉄少量含む）
5 明青灰色粘土5B-7/1
P 8
1 灰色粘土N-6/（非常にもろい、酸化鉄少量含む、柱痕残存）
2 灰色粘土5Y-5/1
3 青灰色粘土5PB-7/1
4 灰色粘土N-6/（酸化鉄少量含む）
5 明オリーブ灰色粘土2.5GY-7/1
P 9
1 明青灰色粘砂土5PB-7/1
2 灰色粘土N-6/（灰色粘土粒子、酸化鉄若干含む）
P10
1 明青灰色粘砂土5PB-7/1
2 灰色粘土N-6/
3 明緑灰色粘土5G-7/1

0 2 m
1 : 80

第291図　第25号掘立柱建物跡



0 2 m
1 : 80

第292図　第26号掘立柱建物跡

れなかった。

出土遺物は、須恵器坏破片などが検出できたが、図示可能な遺物ではなかった。

(2)　土坑・ピット

土坑は総数にして3基検出され、各々離れて位置していた。いずれの土坑も長方形で大型のものであった。また、掘り方も浅いものであった。以下、一覧表にして掲載する（第293図、第69表）。

また、ピット列を記述する。

第69表　Ⅶ区土坑一覧表

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ	出土遺物	時期	重複関係	備考
1	13区 A40	長方形	306 × 230 × 46				
2	8区 J33	長方形	278 × 194 × 36	須恵器、土師器破片	平安		
3	8区 I・J37	長方形	295 × 204 × 32				

ピット列（第294図）

8区B—39グリッドを中心に位置するピット列である。第1号ピットは径0.2mの円形、深さ0.2mを測る。第2号ピットは径0.2m、深さ0.08mを測る。第3号ピットは径0.2m、深さ0.05mを測る。第1号ピットと第2号ピットの間隔は2.6m、第2号ピットと第3号ピットの間隔は3.8mを測る。近くで確認されている第25号掘立柱建物跡と方向が類似する。ただ、ピットの規模が小さい点や、3箇所しか確認できないことなど建物跡と断定するには資料が少なすぎる。

出土遺物は、検出されなかった。

(3)　井戸跡

第1号井戸跡（第295図）

8区F—34グリッドに位置する。第3号溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていた。

平面は径1.14mの円形で、深さは確認面から1.65mを測る。底面は平坦で、壁の面はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒状となっている。覆土は崩壊が著しく、土層を把握するに至らなかった。

出土遺物は、検出されなかった。

(4)　土坑墓

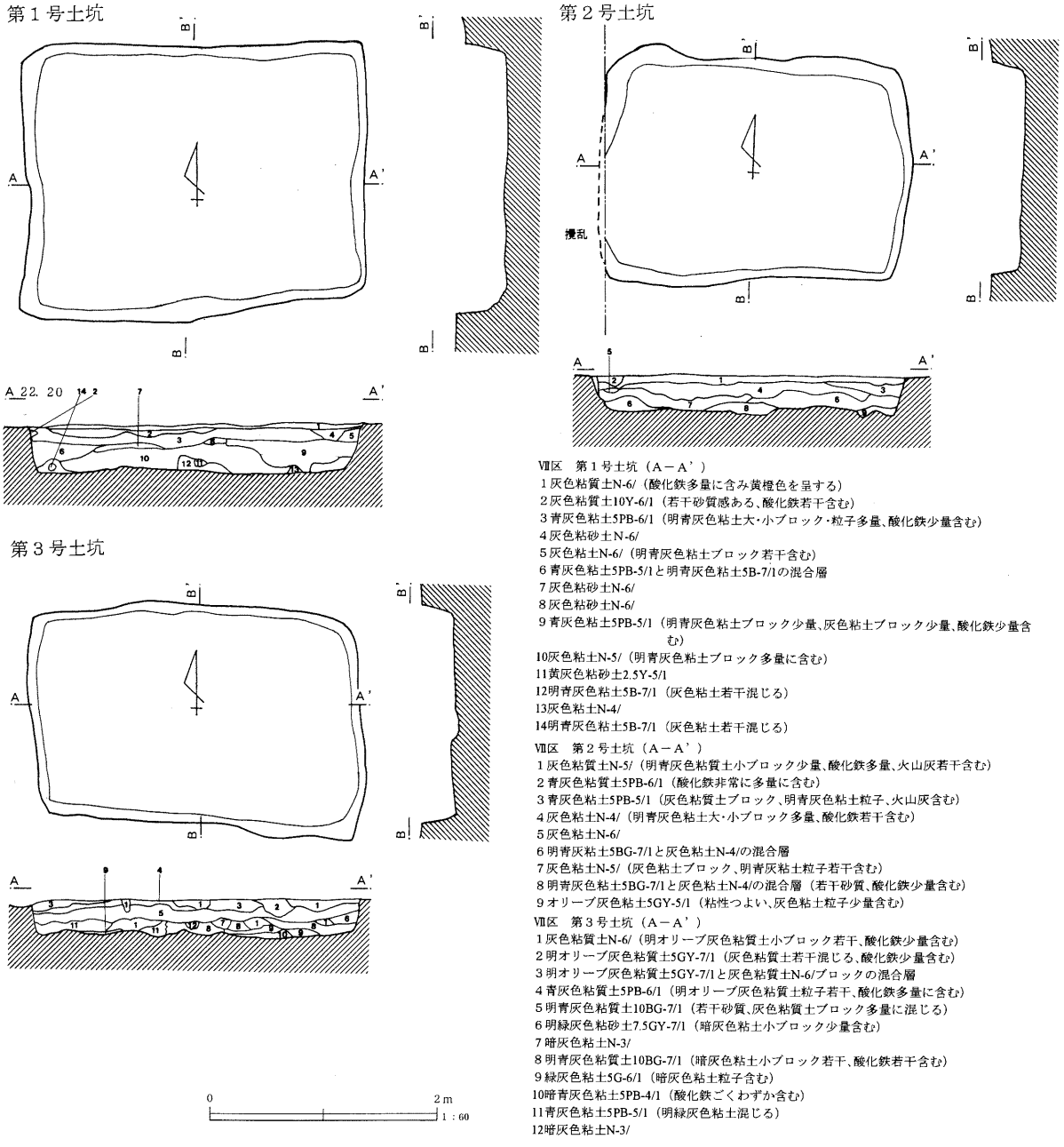
第1号土坑墓（第296図）

8区C—39グリッドに位置する。北側は攪乱、西側は第2号土坑墓と重複する。第2号土坑墓の方が新しい。残存長は長軸2.95m、短軸1.05mの長方形であるが、正確な規模は把握できなった。深さは0.2mを測る。土坑墓としたが、確証はない。

出土遺物は、須恵器坏片・土師器細片が検出された。

第2号土坑墓（第296図）

8区D—39グリッドに位置する。第1号土坑墓と重複する。北側は攪乱を受けている。長軸は推定2.7m、短軸1.15m、深さ0.5mを測る。覆土は複雑に堆積しており、人為的に埋め戻された可能性がある。



Ⅶ区　第１号土坑（A－A'）
1灰色粘質土N-6/（酸化鉄多量に含み黄橙色を呈する）
2灰色粘質土10Y-6/1（若干砂質感ある、酸化鉄若干含む）
3青灰色粘土5PB-6/1（明青灰色粘土大・小ブロック・粒子多量、酸化鉄少量含む）
4灰色粘砂土N-6/
5灰色粘土N-6/（明青灰色粘土ブロック若干含む）
6青灰色粘土5PB-5/1と明青灰色粘土5B-7/1の混合層
7灰色粘砂土N-6/
8灰色粘砂土N-6/
9青灰色粘土5PB-5/1（明青灰色粘土ブロック少量、灰色粘土ブロック少量、酸化鉄少量含む）
10灰色粘土N-5/（明青灰色粘土ブロック多量に含む）
11黄灰色粘砂土2.5Y-5/1
12明青灰色粘土5B-7/1（灰色粘土若干混じる）
13灰色粘土N-4/
14明青灰色粘土5B-7/1（灰色粘土若干混じる）

Ⅶ区　第２号土坑（A－A'）
1灰色粘質土N-5/（明青灰色粘質土小ブロック少量、酸化鉄多量、火山灰若干含む）
2青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄非常に多量に含む）
3青灰色粘土5PB-5/1（灰色粘質土ブロック、明青灰色粘土粒子、火山灰含む）
4灰色粘土N-4/（明青灰色粘土大・小ブロック多量、酸化鉄若干含む）
5灰色粘土N-6/
6明青灰粘土5BG-7/1と灰色粘土N-4/の混合層
7灰色粘土N-5/（灰色粘土ブロック、明青灰粘土粒子若干含む）
8明青灰色粘土5BG-7/1と灰色粘土N-4/の混合層（若干砂質、酸化鉄少量含む）
9オリーブ灰色粘土5GY-5/1（粘性つよい、灰色粘土粒子少量含む）

Ⅶ区　第３号土坑（A－A'）
1灰色粘質土N-6/（明オリーブ灰色粘質土小ブロック若干、酸化鉄少量含む）
2明オリーブ灰色粘質土5GY-7/1（灰色粘質土若干混じる、酸化鉄少量含む）
3明オリーブ灰色粘質土5GY-7/1と灰色粘質土N-6/ブロックの混合層
4青灰色粘質土5PB-6/1（明オリーブ灰色粘質土粒子若干、酸化鉄多量に含む）
5明青灰色粘質土10BG-7/1（若干砂質、灰色粘質土ブロック多量に混じる）
6明緑灰色粘砂土7.5GY-7/1（暗灰色粘土小ブロック少量含む）
7暗灰色粘土N-3/
8明青灰色粘質土10BG-7/1（暗灰色粘土小ブロック若干、酸化鉄若干含む）
9緑灰色粘土5G-6/1（暗灰色粘土粒子含む）
10暗青灰色粘土5PB-4/1（酸化鉄ごくわずか含む）
11青灰色粘土5PB-5/1（明緑灰色粘土混じる）
12暗灰色粘土N-3/

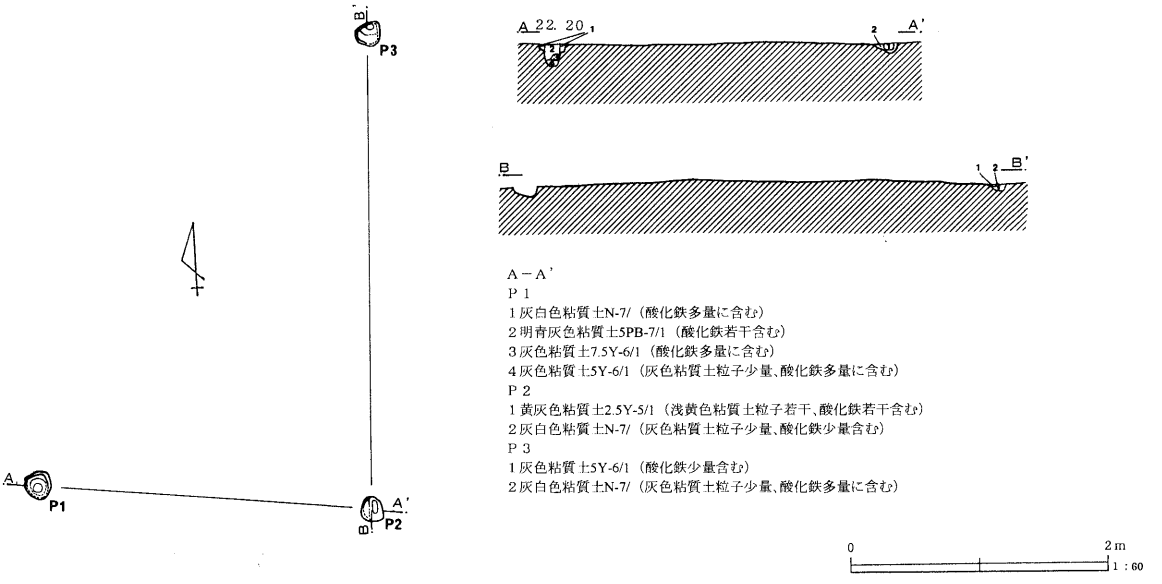
第293図　Ⅶ区第１～３号土坑

出土遺物は、土師器細片が出土したが、人骨は検出されなかった。

第３号土坑墓（第296・298図、第70表）

８区Ｃ―39グリッドに位置する。平面は長軸2.85m、短軸0.76mの長方形で、深さは0.42mを測る。底面は平坦で、壁面の立ち上がりはほぼ垂直である。覆土は人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物は、酸化焔焼成の須恵器椀が検出された。



第294図　Ⅶ区ピット列

第4号土坑墓（第296図）

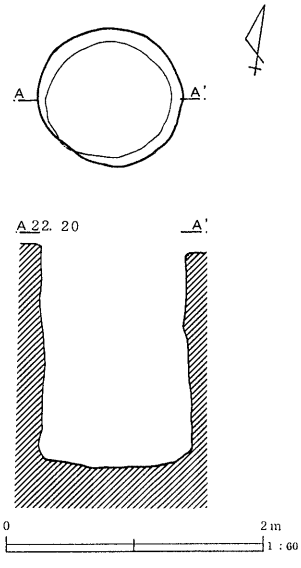
8区H—34グリッドに位置する。平面は長軸1.52m、短軸0.38mの長方形であるが、長軸方向の外形は直線的でなく、ぶれた形状である。深さは確認面から0.2mと浅い。土坑の北側から人の歯が確認された。覆土の状況から人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土器などの遺物は検出されなかった。

第5号土坑墓（第296・298図、第70表）

8区B—36グリッドに位置する。平面は長軸2.59m、短軸0.67mで元々長方形を意識して作られたと思われるが、隅は丸みが強く、長方形とは言い難い形状となっている。深さは確認面から0.4mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりも少し斜めだが、急な立ち上がりである。覆土の状況から人為的に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物は、西壁よりに須恵器坏が1点検出された。



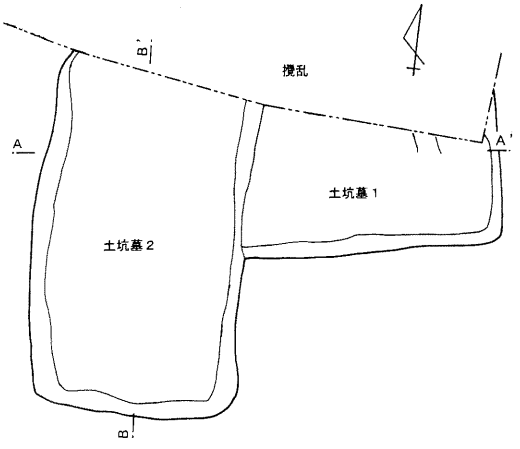
第295図　Ⅶ区第1号井戸跡

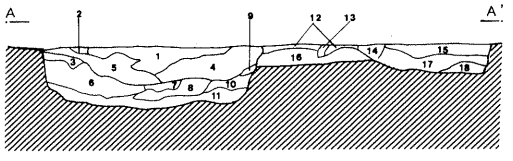
第6号土坑墓（第297・298図、第70表）

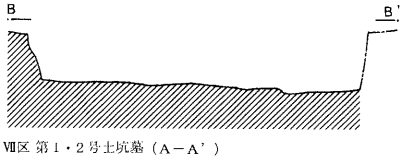
8区G—36グリッドに位置する。平面形は長軸2.05m、短軸0.76mで隅丸の長方形となっている。西壁の北寄りが10cmほど張り出した作りとなっている。深さは確認面から16cmと浅い。底面は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。覆土中には棺の一部が朽ちないで残っており、残存木材から推測される棺の規模は長さ1.78m、幅0.46mであった。覆土中から人骨は確認するに至らなかった。

出土遺物は、棺の左、東壁寄りに灰釉陶器椀、須恵器椀、西壁寄りに須恵器椀が検出された。

第１・２号土坑墓

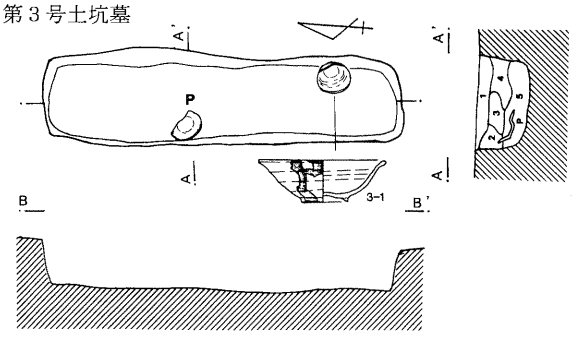






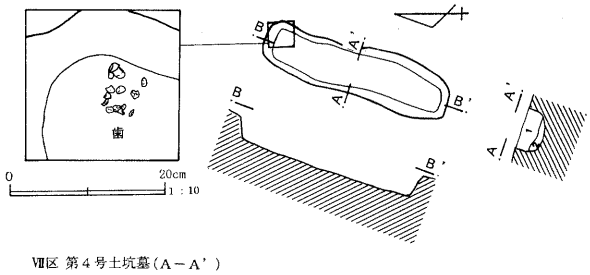
Ⅶ区 第１・２号土坑墓（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土5Y-6/1（灰白色粘質土粒子少量、酸化鉄少量、火山灰含む）
２灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する）
３灰白色粘砂土7.5Y-7/1
４灰白色粘砂土7.5Y-7/1（明青灰色粘土若干混じる、灰色粘土ブロック・粒子非常に多量、酸化鉄少量含む）
５灰色粘質土N-6/（灰色粘土小ブロック少量、灰白色粘質土小ブロック少量含む）
６灰色粘土N-5/（明青灰色粘土粒子多量、酸化鉄少量含む）
７灰白色粘土7.5Y-7/1（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する、粘性つよい）
８灰色粘土N-5/（明青灰色粘土粒子多量に含む）
９灰色粘砂土N-6/（粘性比較的つよい）
10灰色粘土N-4/（明青灰色粘砂土若干混じる、酸化鉄若干含む）
11緑灰色粘土10G-6/1（粘性非常につよい、灰色粘土大ブロック・粒子少量含む）
12灰白色粘質土7.5Y-7/1（砂質感つよい、灰色粘質土ブロック、酸化鉄含む）
13灰白色粘質土5Y-6/1（酸化鉄、火山灰含む）
14灰色粘質土N-6/（火山灰含む）
15灰色粘質土N-5/（酸化鉄少量、火山灰多量に含む）
16灰色粘質土N-5/B（灰白色粘質土粒子多量、酸化鉄ごくわずか含む）
17灰白色粘砂土7.5Y-7/1（灰色粘土大ブロック・粒子多量、酸化鉄少量含む）
18灰色粘土N-4/（粘性比較的つよい、明青灰色粘土粒子若干、酸化鉄若干含む）

第３号土坑墓



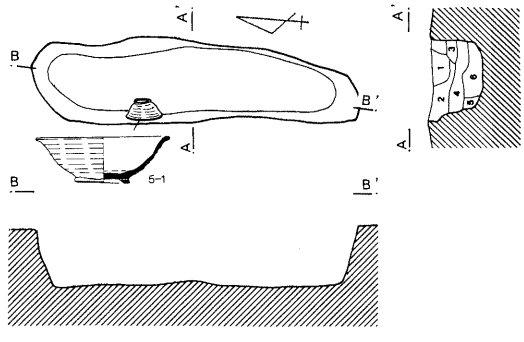
Ⅶ区 第３号土坑墓（Ａ－Ａ’）
１明青灰色粘質土5PB-7/1（若干砂質感あり、酸化鉄多量に含む）
２青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄多量に含む）
３灰色粘質土5Y-4/1（酸化鉄少量含む、明青灰色粘質土ごくわずか粒子で混じる）
４明青灰色粘質土5PB-7/1（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する）
５灰色粘土7.5Y-6/1（灰色粘土粒子多量に含む、土器包含）

第４号土坑墓

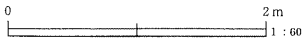


Ⅶ区 第４号土坑墓（Ａ－Ａ’）
１明青灰色粘質土5PB-7/1（若干砂質、酸化鉄多量に含む）
２灰色粘土7.5Y-6/1（灰色粘土ブロック多量に含む）

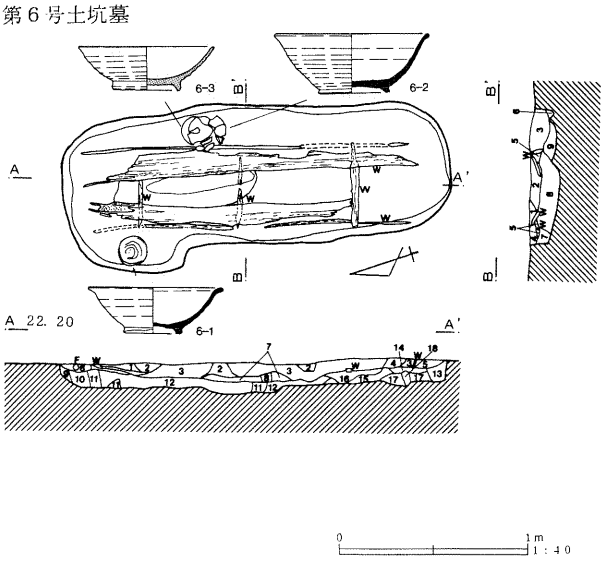
第５号土坑墓



Ⅶ区 第５号土坑墓（Ａ－Ａ’）
１明青灰色粘砂土５PB-7/1と灰色粘質土N-5/粒子多量の混合層
２明青灰色粘砂土5PB-7/1（酸化鉄少量含む）
３灰色粘砂土N-6/（酸化鉄少量含む）
４明青灰色粘質土5B-7/1（酸化鉄多量に含み黄褐色を呈する）
５灰色粘土N-5/（酸化鉄若干含む）
６灰色粘土N-6/（粘性非常につよい、灰色粘土粒子多量に含む）



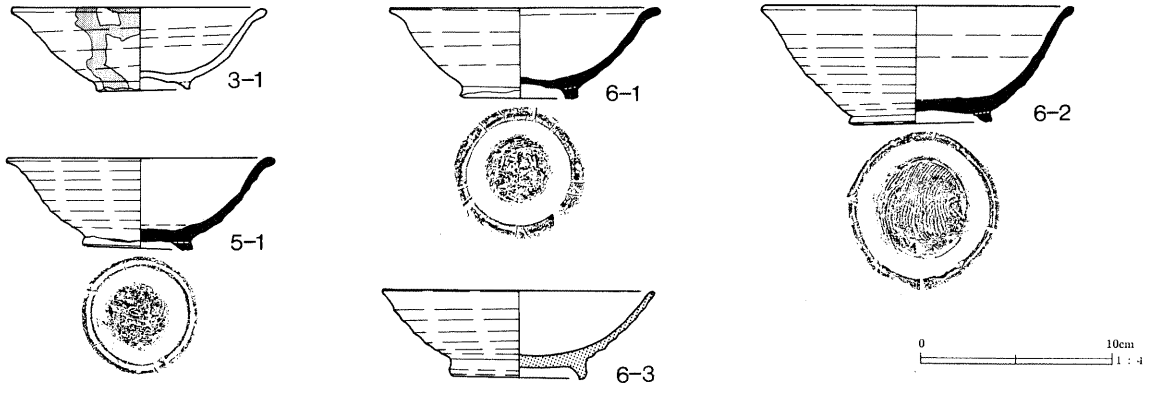
第296図　Ⅶ区第１～５号土坑墓



Ⅶ区　A－A'
1灰白色粘質土7.5Y-7/1（酸化鉄少量含む）
2灰色粘質土5Y-6/1（灰白色粘土粒子少量含む）
3明青灰色粘質土5PB-7/1（灰色粘質土粒子若干、酸化鉄少量含む）
4灰色粘質土N-5/
5灰白色粘質土7.5Y-7/1（酸化鉄多量に含み浅黄色・黄褐色を呈する）
6灰色粘質土5Y-4/1
7灰白色粘質土7.5Y-7/1（酸化鉄少量含む）
8灰色粘質土5Y-4/1
9灰色粘質土7.5Y-6/1（酸化鉄少量含む）
10灰色粘質土N-4/（酸化鉄若干含む）
11明青灰色粘質土5PB-7/1（若干砂質感ある、酸化鉄少量含む）
12灰色粘質土N-5/（灰白色粘質土粒子、灰色粘質土小ブロック、酸化鉄若干含む）
13青灰色粘質土5PB-5/1（灰白色粘質土粒子若干、酸化鉄多量に含む）
14灰色粘質土N-6/（灰色粘質土粒子、灰白色粘質土粒子若干含む）
15灰白色粘質土7.5Y-7/1（酸化鉄少量含む）
16灰色粘質土N-5/（酸化鉄若干含む）
17灰白色粘質土7.5Y-7/1（灰色粘質土小ブロック含む）
18灰色粘質土N-5/

Ⅶ区　B－B'
1灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄若干含む）
2明青灰色粘質土5PB-7/1（灰色粘土粒子若干、酸化鉄少量含む）
3灰色粘質土N-5/（灰色粘質土粒子含む）
4灰色粘質土N-5/1（酸化鉄少量含みざくざくした感じ）
5青灰色粘質土5PB-5/1（酸化鉄非常に多量に含む）
6灰色粘質土7.5Y-6/1（酸化鉄非常に多量に含み黄褐色を呈する）
7灰色粘質土N-6/（酸化鉄多量に含みざくざくする）
8灰色粘質土N-5/（灰白色粘質土小ブロック・粒子、酸化鉄若干含む）
9灰色粘質土N-6/（灰色粘質土小ブロック、酸化鉄少量含む）

第297図　Ⅶ区第６号土坑墓



第298図　Ⅶ区第３・５・６号土坑墓出土土器

第70表　Ⅶ区第３・５・６号土坑墓出土土器観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	残存率	備考
3-1	須恵器椀	13.4	4.4	4.8	ABDMN	外面：にぶい黄色　内面：灰白色	E	100%	酸化鉄。
5-1	須恵器椀	14.2	4.8	5.5	ABGLNQ	灰色	D	100%	末野産。
6-1	須恵器椀	13.8	4.8	5.0	ABLMNP	灰白色	A	100%	末野産。
6-2	須恵器椀	16.2	6.2	7.0	ABGLNQ	灰色	C	95%	末野産。
6-3	灰釉陶器椀	14.4	4.6	6.8	AGP	灰白色	A	100%	

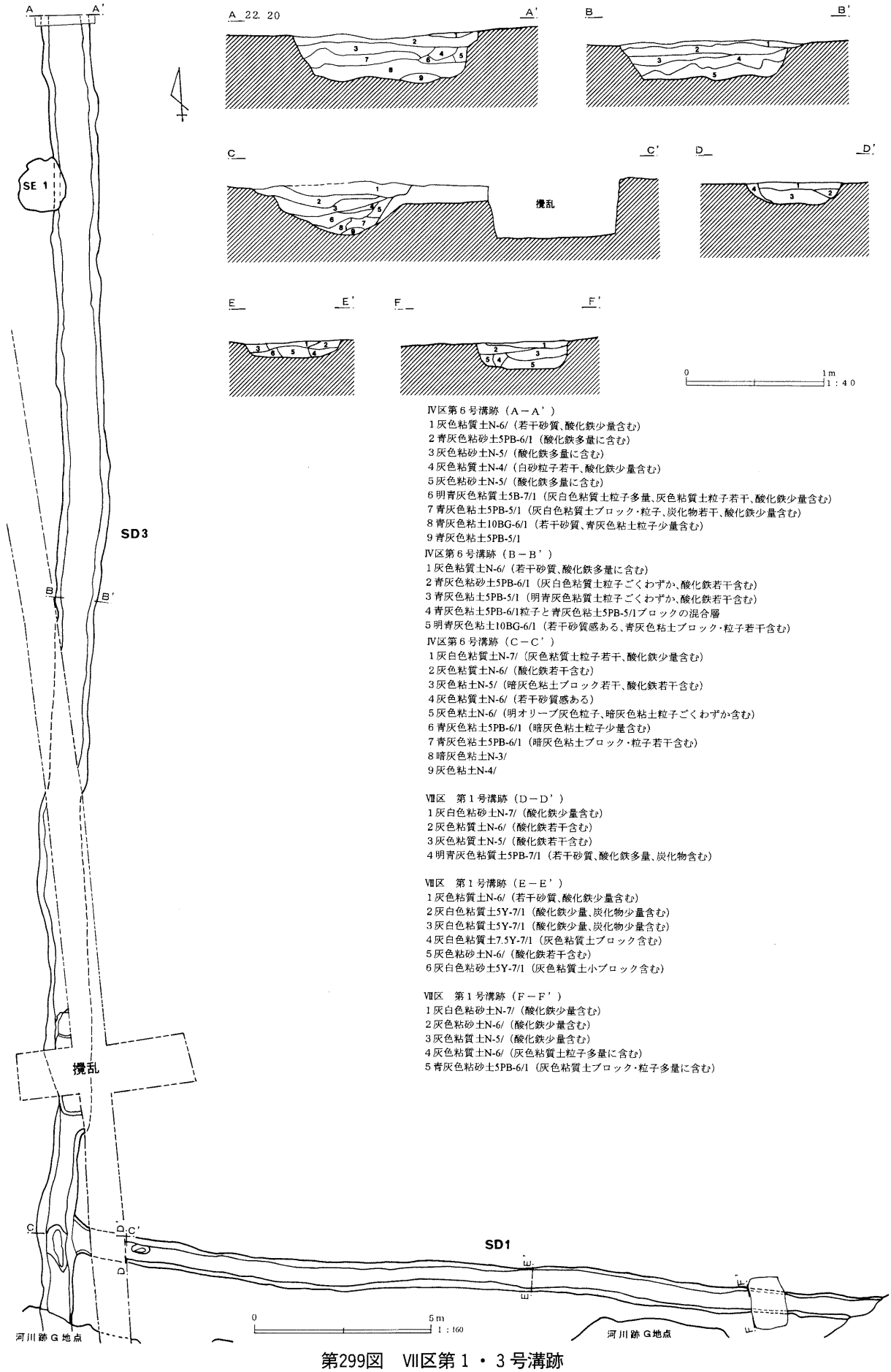
(5)　溝跡

第１号溝跡（第299図）

13区Ａ—40グリッドから12区Ｆ—40グリッドにかけて延びる溝跡である。西側は第３号溝跡と重複し、東は河川跡Ｇ地点に至る。第３号溝跡との関係は、本遺構が古い。一方、河川跡との関係は判然としない。

残存長22m、幅0.7m、深さ0.2mを測る。底部は平坦である。

出土遺物は、検出されなかった。



Ⅳ区第６号溝跡（Ａ－Ａ'）
１灰色粘質土N-6/（若干砂質、酸化鉄少量含む）
２青灰色粘砂土5PB-6/1（酸化鉄多量に含む）
３灰色粘砂土N-5/（酸化鉄多量に含む）
４灰色粘質土N-4/（白砂粒子若干、酸化鉄少量含む）
５灰色粘砂土N-5/（酸化鉄多量に含む）
６明青灰色粘質土5B-7/1（灰白色粘質土粒子多量、灰色粘質土粒子若干、酸化鉄少量含む）
７青灰色粘土5PB-5/1（灰白色粘質土ブロック・粒子、炭化物若干、酸化鉄少量含む）
８青灰色粘土10BG-6/1（若干砂質、青灰色粘土粒子少量含む）
９青灰色粘土5PB-5/1

Ⅳ区第６号溝跡（Ｂ－Ｂ'）
１灰色粘質土N-6/（若干砂質、酸化鉄多量に含む）
２青灰色粘砂土5PB-6/1（灰白色粘質土粒子ごくわずか、酸化鉄若干含む）
３青灰色粘土5PB-5/1（明青灰色粘質土粒子ごくわずか、酸化鉄若干含む）
４青灰色粘土5PB-6/1粒子と青灰色粘土5PB-5/1ブロックの混合層
５明青灰色粘土10BG-6/1（若干砂質感ある、青灰色粘土ブロック・粒子若干含む）

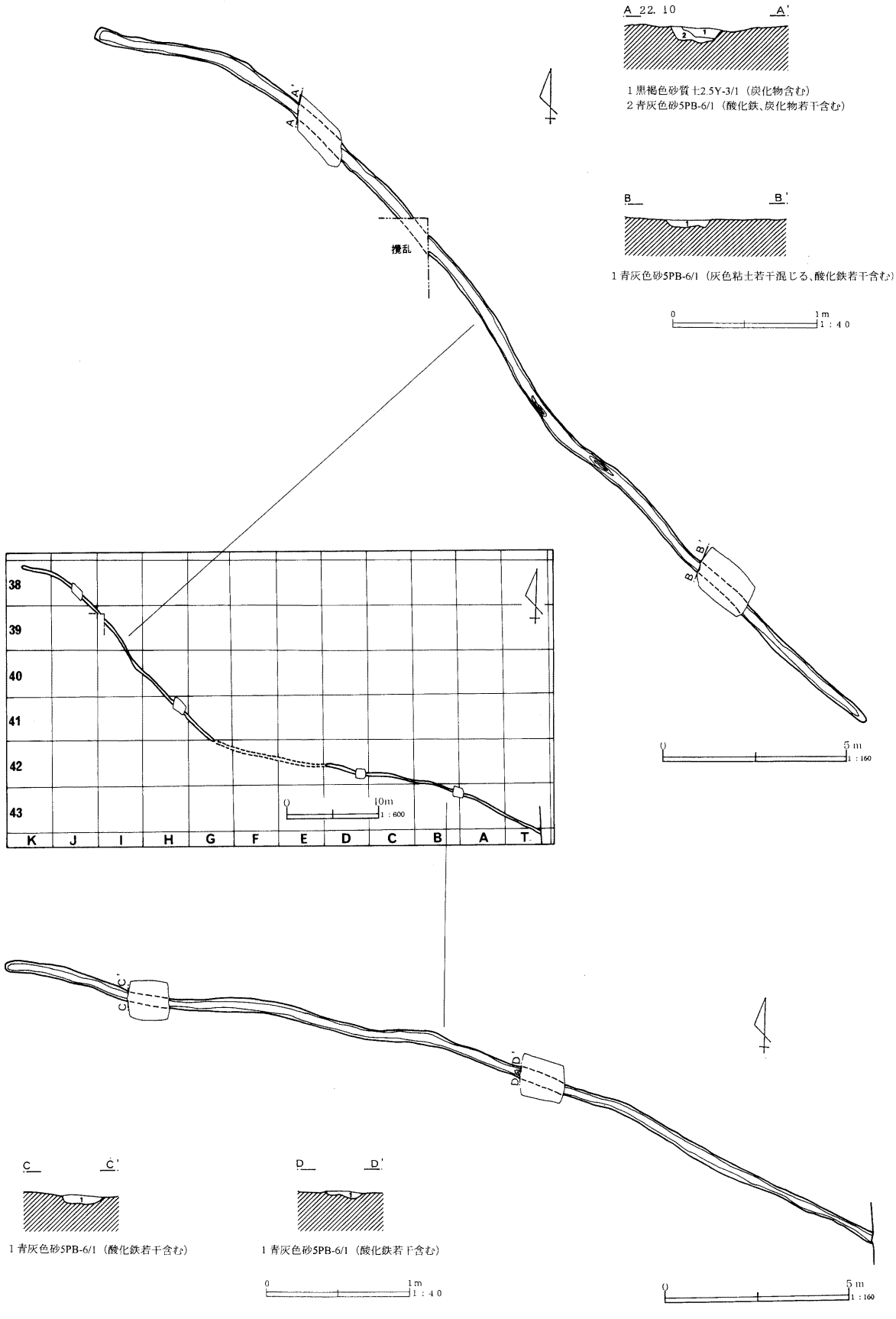
Ⅳ区第６号溝跡（Ｃ－Ｃ'）
１灰白色粘質土N-7/（灰色粘質土粒子若干、酸化鉄少量含む）
２灰色粘質土N-6/（酸化鉄若干含む）
３灰色粘土N-5/（暗灰色粘土ブロック若干、酸化鉄若干含む）
４灰色粘質土N-6/（若干砂質感ある）
５灰色粘土N-6/（明オリーブ灰色粒子、暗灰色粘土粒子ごくわずか含む）
６青灰色粘土5PB-6/1（暗灰色粘土粒子少量含む）
７青灰色粘土5PB-6/1（暗灰色粘土ブロック・粒子若干含む）
８暗灰色粘土N-3/
９灰色粘土N-4/

Ⅶ区　第１号溝跡（Ｄ－Ｄ'）
１灰白色粘砂土N-7/（酸化鉄少量含む）
２灰色粘質土N-6/（酸化鉄若干含む）
３灰色粘質土N-5/（酸化鉄若干含む）
４明青灰色粘質土5PB-7/1（若干砂質、酸化鉄多量、炭化物含む）

Ⅶ区　第１号溝跡（Ｅ－Ｅ'）
１灰色粘質土N-6/（若干砂質、酸化鉄少量含む）
２灰白色粘質土5Y-7/1（酸化鉄少量、炭化物少量含む）
３灰白色粘質土5Y-7/1（酸化鉄少量、炭化物少量含む）
４灰白色粘質土7.5Y-7/1（灰色粘質土ブロック含む）
５灰色粘砂土N-6/（酸化鉄若干含む）
６灰白色粘砂土5Y-7/1（灰色粘質土小ブロック含む）

Ⅶ区　第１号溝跡（Ｆ－Ｆ'）
１灰白色粘砂土N-7/（酸化鉄少量含む）
２灰色粘砂土N-6/（酸化鉄少量含む）
３灰色粘質土N-5/（酸化鉄少量含む）
４灰色粘質土N-6/（灰色粘質土粒子多量に含む）
５青灰色粘砂土5PB-6/1（灰色粘質土ブロック・粒子多量に含む）

第299図　Ⅶ区第１・３号溝跡



第300図　Ⅶ区第２号溝跡

第２号溝跡（第300図）

８区Ｋ―38グリッドから13区Ｔ―44グリッドにかけて東西に延びる溝跡である。

河川跡Ｇ地点が機能を失い埋設後に作られた溝と推定される。西側は次第に浅くなり消滅し、東側は調査区域外となっている。溝跡は途中12mほど確認できなくなる。元々、浅い溝であったのに加えて、遺構確認の際にかなり深度を深く掘り下げたため、途切れてしまったものと推測される。

残存長は西側28m、東側23mであった。幅は0.3m、深さ0.1mを測る。

出土遺物は、検出されなかった。

第３号溝跡（第299図）

８区Ｅ―33グリッドから13区Ｆ―40グリッドまで延びた溝跡で、北側は調査区域外となり、南は河川跡に合流する。途中、第１号井戸跡、第１号溝跡と重複する。第１号溝跡よりも本遺構の方が新しいと思われるが、両者の合流地点で第１号溝が終わっていることから、同一時期と推測されなくもない。本溝跡は方向と規模から判断して、Ⅳ区第６号溝跡と同一の溝と思われ、河川跡Ｇ地点と河川跡Ｄ地点を結ぶような平面プランである。

出土遺物は検出されなかったが、Ⅳ区第６号溝跡と同時期と考えられる。

(6) 河川跡

河川跡Ｇ地点（第301～306図、第71表）

12区Ｔ―40～44から８区Ｍ―35～37グリッドにかけて位置していた。調査区の南端を北東から南西に横断し、上部は第２号溝跡によって切られていた。また、第１号溝跡とⅣ区第６号溝跡の続きである第３号溝跡と接続する。東西と南に一部は調査区域外であった。河川跡Ｃ地点流路１の続きにあたる。

規模は、検出面での幅6.0m～18.7m、長さ79.0m、深さは最深で1.4mであった。全体を掘らずトレンチを３本入れて河川の状況を確かめた。最も西のＡトレンチの覆土は、上層は灰色の砂質土や青灰色の砂が、中間層はオリーブ灰色の粘土が堆積し、木片・炭化した木片・獣骨片などが含まれていた。下層については、南付近は青灰色の砂及び灰色の粘土が堆積し木片及び獣骨片が含まれていた。中央から北は中間層にオリーブ灰色の粘土が堆積し、下層に灰色の粘土及び砂が堆積し、木片・炭化木片・獣骨片が含まれていた。堆積状況は、北から徐々に大きく２回に亘って堆積し窪地化し、最後に上層が全体的に堆積していったようである。

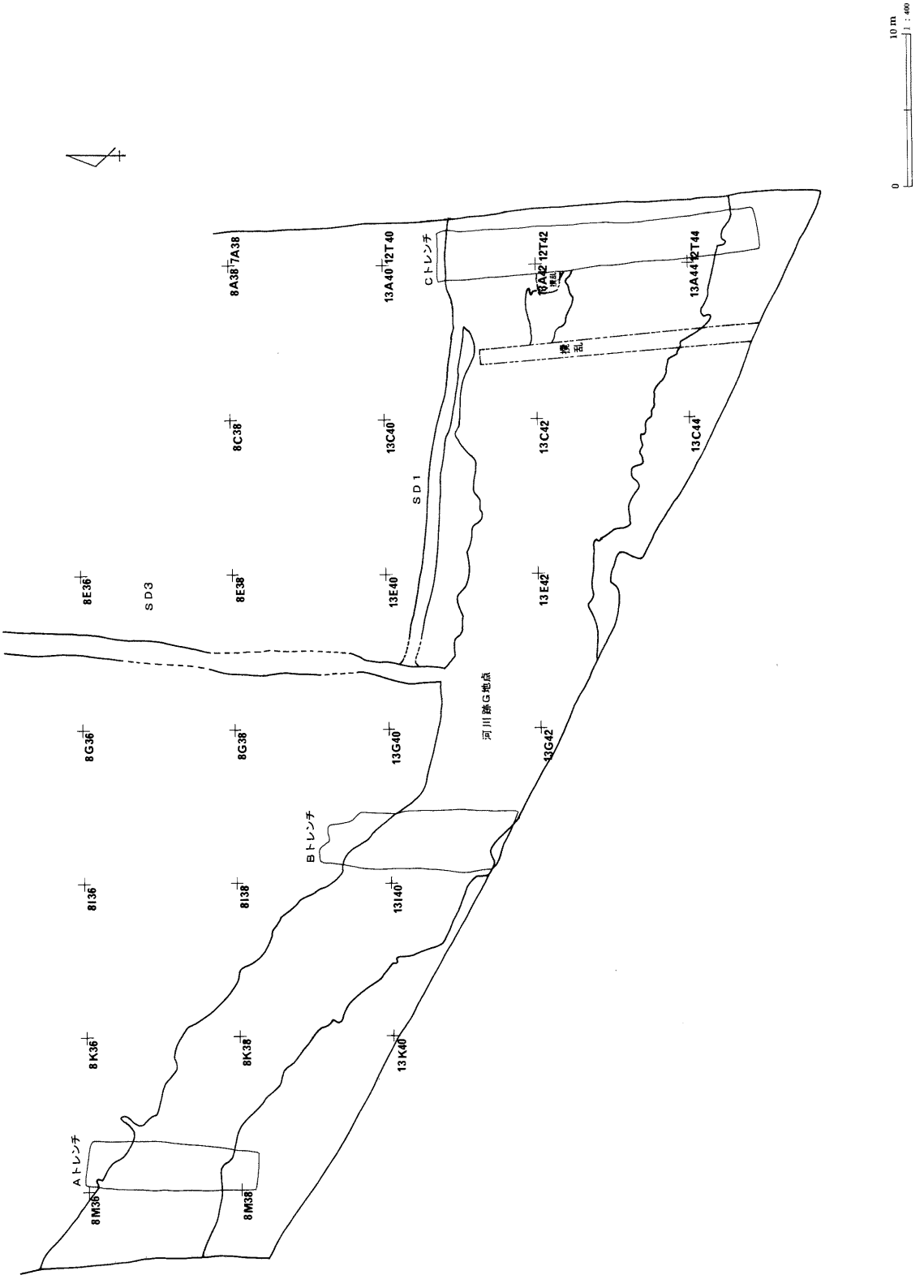
トレンチのほぼ中央部に格子編みと筵状の網代が出土した。土層上では第27層にあたる。

出土遺物は、７世紀末から８世紀初頭の土師器坏・甕が検出された。その他は、補修孔の残る右足用の連歯下駄が出土した。

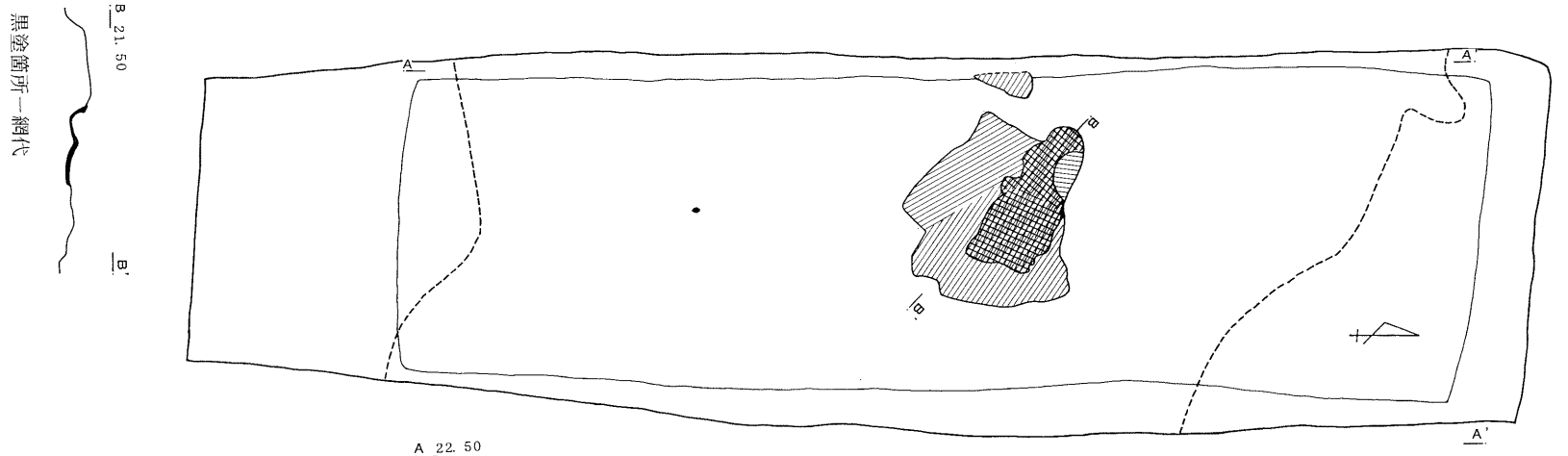
中央のＢトレンチの覆土は、大きく３回の堆積を経て埋没したのが分かった。まず北から灰色の粘土・砂、明青灰色の砂混じりの粘土が堆積し、次に下層の灰色の粘土、浅黄色や明緑灰色の砂が堆積してやや深さのある窪地を形成した。この下層は、多量の木片を含んでいた。そして最後に砂混じりの灰色粘質土である大部分の上層が堆積していった。

出土遺物は、７世紀前半から後期の土師器坏が出土した。

最も東のＣトレンチでは、流路が二つに分かれていることが観察された。一部攪乱を受けているが、



第301図　河川跡G地点



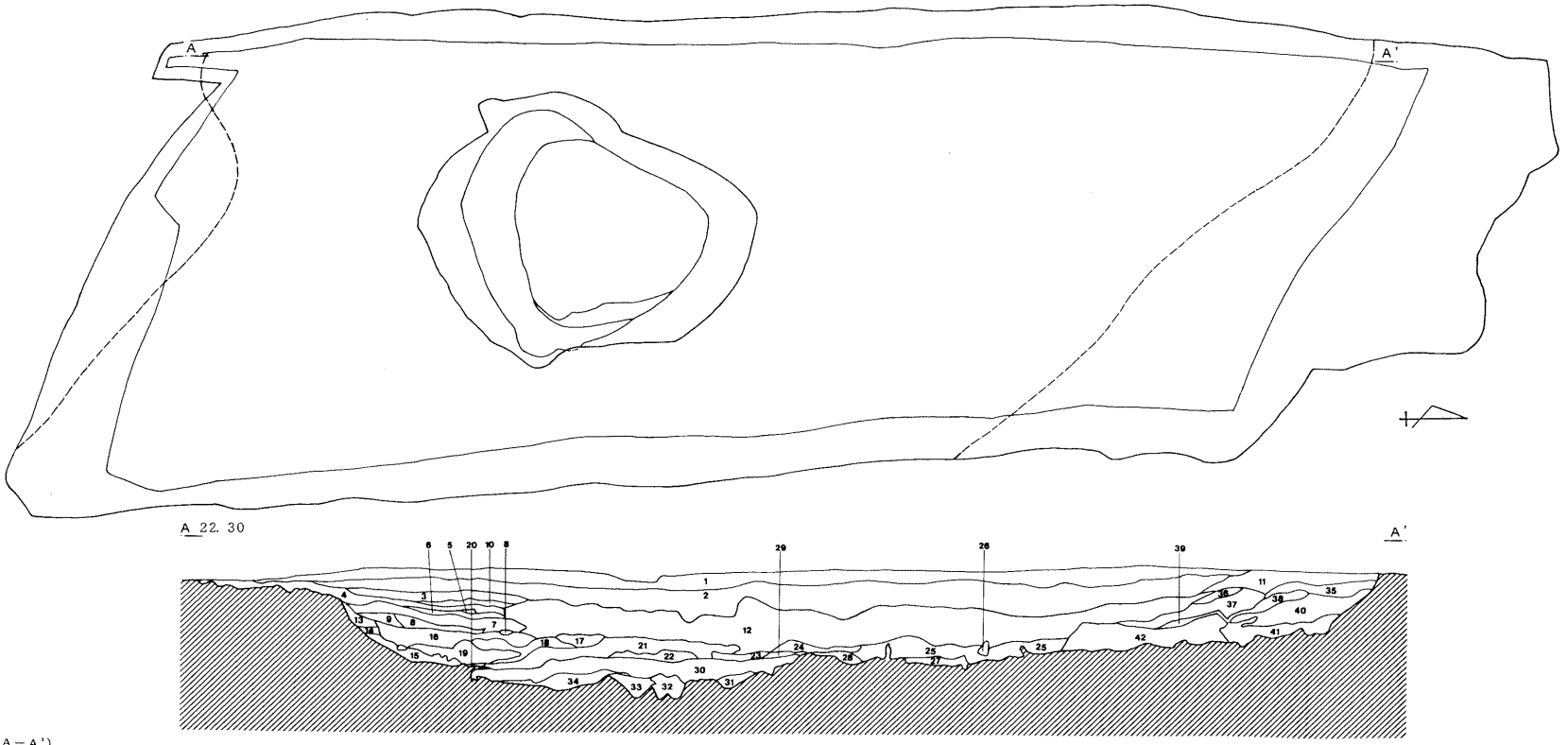
A－A'

1 灰色砂質土7.5Y-6/1（砂分多い、灰色粘質土粒子若干、酸化鉄若干含む）
2 灰色砂質土N-6/（砂多量、灰白色粘質土ブロック・粒子少量、灰色粘質土含む）
3 明青灰色粘砂土5PB-7/1（砂少量、灰色粘質土粒子、酸化鉄若干、炭化した木片含む）
4 灰白色粘砂土N-7/（酸化鉄少量含む）
5 灰色粘砂土N-6/（粘性比較的つよい、砂多量、木片、酸化鉄、炭化物若干含む）
6 青灰色砂5BG-6/1と黄色砂5Y-7/6の互層（灰色砂質土若干混じる）
7 灰色粘土7.5Y-5/1（明緑灰色粘土粒子多量に含む）
8 灰色粘砂土N-6/（粘性比較的ある、砂分多い、酸化鉄少量含む）
9 青灰色砂10BG-6/1と灰色粘土N-6ブロックの混合層
10 青灰色砂5BG-6/1と黄色砂5Y-7/6の混合層
11 明青灰色砂5PB-7/1（黄色砂5Y-7/6若干、灰白色粘土若干混じる）
12 青灰色砂5BG-6/1と黄色砂5Y-7/6と灰色粘質土5Y-6/1の互層（木片、炭化木片、腐食植物含む）
13 青灰色砂5BG-6/1
14 灰色粘土7.5Y-5/1
15 灰色粘砂土N-6/（灰色粘土ブロック、灰白色粘土粒子少量、青灰色砂、黄色砂若干含む）
16 灰色粘土5Y-6/1（青灰色砂含む）
17 青灰色粘砂土5Y-6/1（青灰色砂、黄色砂、腐食植物多量、炭化物少量含む）
18 灰色粘土5Y-5/1（青灰色砂多量に含む）
19 灰色砂10Y-6/1（炭化物、腐食植物少量含む）
20 灰色粘砂土7.5Y-6/1（酸化鉄少量含む）
21 灰色砂10Y-6/1（炭化物、腐食植物少量含む）
22 灰色粘土5Y-5/1（粘性つよい、若干砂分ある、灰色粘土粒子、灰白色粘土粒子少量、炭化物、腐食植物若干含む）
23 緑灰色砂7.5GY-6/1（木片、獣骨片含む）
24 明オリーブ灰色粘土5GY-7/1（若干砂含む）
25 灰色粘土7.5Y-5/1（オリーブ灰色砂多量、灰白色粘土粒子少量、炭化物、骨片若干含む）
26 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1（緑灰色砂多量、明オリーブ灰色粘土粒子若干、木片、炭化木片、骨片含む）
27 灰色粘土5Y-6/1と青灰色砂10BG-6/1の混合層（炭化木片含む）
28 緑灰色砂7.5GY-6/1（青灰色砂ごくわずか、木片多量、炭化木片少量含む）
29 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1（灰色粘土ブロック含む）
30 灰色粘土5Y-5/1
31 青灰色砂10BG-6/1（木片多量に含む）
32 明緑灰色砂10GY-7/1と明オリーブ灰色粘土2.5GY-7/1ブロックの混合層（灰色粘土粒子若干含む）
33 オリーブ灰色粘土2.5GY-6/1（青灰色粘土小ブロック、青灰色砂5PB-6/1少量含む）
34 緑灰色砂10GY-6/1（灰色粘土ブロック多量、灰色粘土粒子、木片ごくわずか含む）
35 灰色砂10Y-5/1（木片、骨片少量含む）
36 灰色粘土5Y-5/1（灰色粘土ブロック、明オリーブ灰色粘土小ブロック・粒子、オリーブ黒色粘土粒子、緑灰色砂含む）
37 灰色粘土7.5Y-5/1（木片、炭化木片、骨片多量に含む）
38 灰色粘土5Y-4/1（オリーブ黒色を呈する）
39 灰色砂7.5Y-6/1（青灰色砂若干、明オリーブ灰色粘土粒子含む）
40 灰色砂5Y-5/1（粘性ある、灰色粘土、青灰色砂、炭化木片少量含む）
41 灰色粘土7.5Y-5/1（灰白色粘土粒子、明オリーブ灰色粘土粒子、明青灰色粘土粒子、灰色粘土粒子含む）
42 灰色粘土5Y-4/1と青灰色砂5B-6/1の混合層（砂分多い、木片、炭化木片多量に含む）
43 暗青灰色粘土5PB-4/1
44 青灰色粘土5BG-6/1（灰色粘土と暗灰色粘土粒子多量に含む）
45 灰色砂N-5/（土器含む）
46 明青灰色粘砂土5PB-7/1（灰色粘質土多量に混じる、酸化鉄若干含む）
47 灰色粘砂土5Y-6/1（明青灰色砂少量、灰白色粘砂土若干混じる）
48 青灰色粘砂土5B-6/1（黄色砂若干含む）
49 青灰色砂10BG-6/1（灰色粘土粒子若干含む）
50 灰色粘土5Y-6/1（青灰色砂少量、明緑灰色粘土粒子、炭化木片含む）
51 明青灰色粘砂土5B-7/1（酸化鉄若干、木片含む）
52 明青灰色砂5B-7/1（酸化鉄少量含む）
53 灰色粘土N-6/（砂混じる、灰色粘土、灰白色粘土粒子若干含む）
54 灰色粘土5Y-5/1（明オリーブ灰色粘土粒子少量、帯状に木片、骨片、炭化物含む）
55 青灰色砂10BG-6/1（灰色粘土7.5Y-5/1混じる、木片含む）
56 灰色粘土5Y-5/1（若干砂分ある）

格子編み
筵編み

0 2m
1：60

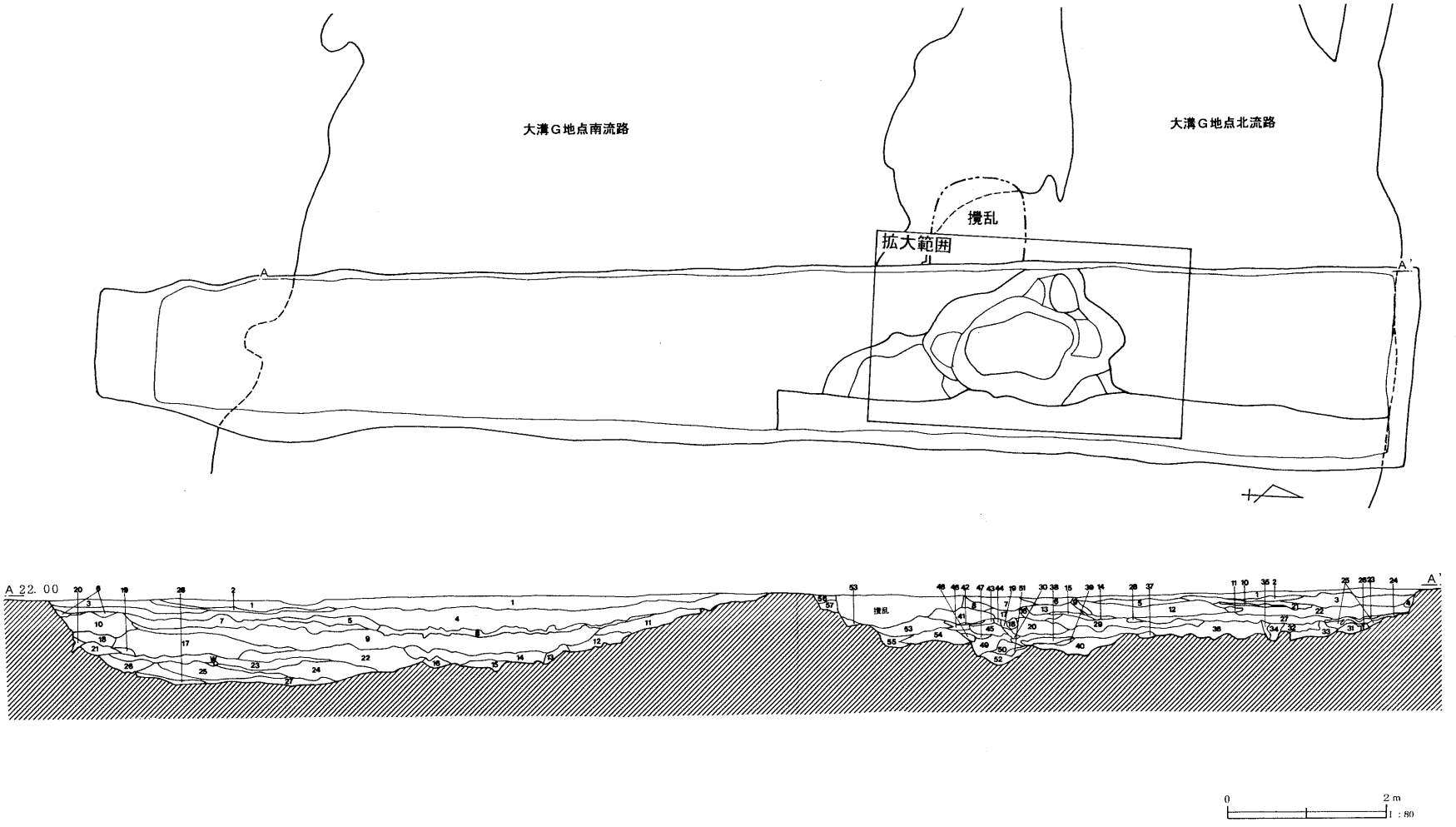
第302図　河川跡Ｇ地点Ａトレンチ網代出土状況



（A－A'）
1灰色粘砂土7.5Y-6/1（灰色粘質土粒子若干、砂分多量、酸化鉄少量含む）
2灰色粘質土5Y-6/1（灰色粘質土粒子若干、砂分少量、酸化鉄少量、炭化物含む）
3明青灰色粘質土5B-7/1（砂分多い、灰色粘質土若干、酸化鉄若干含む）
4灰色粘砂土N-6/（灰色粘質土粒子若干、砂非常に多く、木片、腐食植物若干含む）
5灰色砂N-5/
6明緑灰色シルト5G-7/1（灰色粘質土若干含む）
7灰色粘砂土7.5Y-5/1（明緑灰色砂若干混じる）
8オリーブ灰色シルト5GY-6/1（黄灰色粘質土若干含む）
9緑灰色シルト7.5GY-6/1（しま状に黄灰色粘質土混じる）
10灰色砂N-6/（灰色粘質土若干、酸化鉄若干含む）
11灰色粘砂土N-6/（砂分非常に多い、浅黄色砂少量、酸化鉄若干含む）
12灰色粘砂土5Y-6/1（明オリーブ灰色粘土ブロック、灰色粘土粒子、砂多量、酸化鉄少量、木片少量含む）
13灰色粘砂土7.5Y-5/1（緑灰色シルト少量混じる）
14オリーブ黒色粘土7.5Y-3/1（明オリーブ灰色粘土粒子多量に含む）
15灰色粘土10Y-5/1（オリーブ黒色粘土粒子、明オリーブ灰色シルト若干含む）
16灰色粘質土5Y-5/1（オリーブ灰色シルト若干、砂多量、木片、腐食植物片多量に含む）
17灰色シルト5Y-5/1
18浅黄色砂7.5Y-7/3と明緑灰色砂10GY-7/1の混合層（木片少量含む）
19灰色粘土5Y-5/1と明緑灰色砂10GY-7/1の混合層（木片少量含む）
20オリーブ灰色砂5GY-6/1（青灰色粘土粒子含む）
21明緑灰色砂10GY-7/1（浅黄色砂少量、灰色粘土少量、木片少量含む）
22灰色粘土5Y-5/1（明緑灰色砂若干含む）
23黄色砂5Y-7/6と青灰色砂5B-6/1の混合層
24灰色粘砂土7.5Y-5/1（木片若干含む）
25灰色粘土5Y-4/1（明緑灰色粘土粒子、灰色粘土粒子多量に含む）
26灰色粘土N-5/（砂多量に含む）
27青灰色砂5B-6/1（粗砂、黄色砂少量含む）
28明緑灰色粘土7.5GY-7/1（灰色粘土ブロック、明青灰色粘土含む）
29灰色シルト7.5Y-5/1
30灰色粘砂土5Y-5/1（砂多量、木片多量に含む）
31灰色粘土7.5Y-5/1（青灰色粘土ブロック含む）
32灰色粘土5Y-4/1と明緑灰色粘土7.5GY-7/1ブロックの混合層
33明緑灰色粘土7.5GY-7/1大ブロック層（中間に灰色砂含む）
34灰色粘土7.5Y-4/1（緑灰色砂混じる、青灰色粘土粒子若干含む）
35明青灰色粘砂土5PB-7/1（酸化鉄若干含む）
36灰色シルト10Y-6/1（灰色粘土粒子少量、浅黄色砂多量に含む）
37明青灰色粘砂土5PB-7/1（浅黄色砂と明緑灰色砂多量に混じる、灰色粘土少量含む）
38灰色砂N-6/（灰白色粘土粒子少量、灰白色砂若干、酸化鉄ごくわずか含む）
39灰色粘土5Y-6/1
40明青灰色粘砂土5B-7/1（灰色粘土粒子若干含む）
41灰色粘土7.5Y-5/1（明オリーブ灰色粘土、灰色粘土粒子多量、浅黄色砂少量含む）
42灰色粘砂土7.5Y-5/1（明青灰色粘土ブロック・粒子少量、砂多量、木片少量含む）

0　2m
1：60

第303図　河川跡G地点Bトレンチ

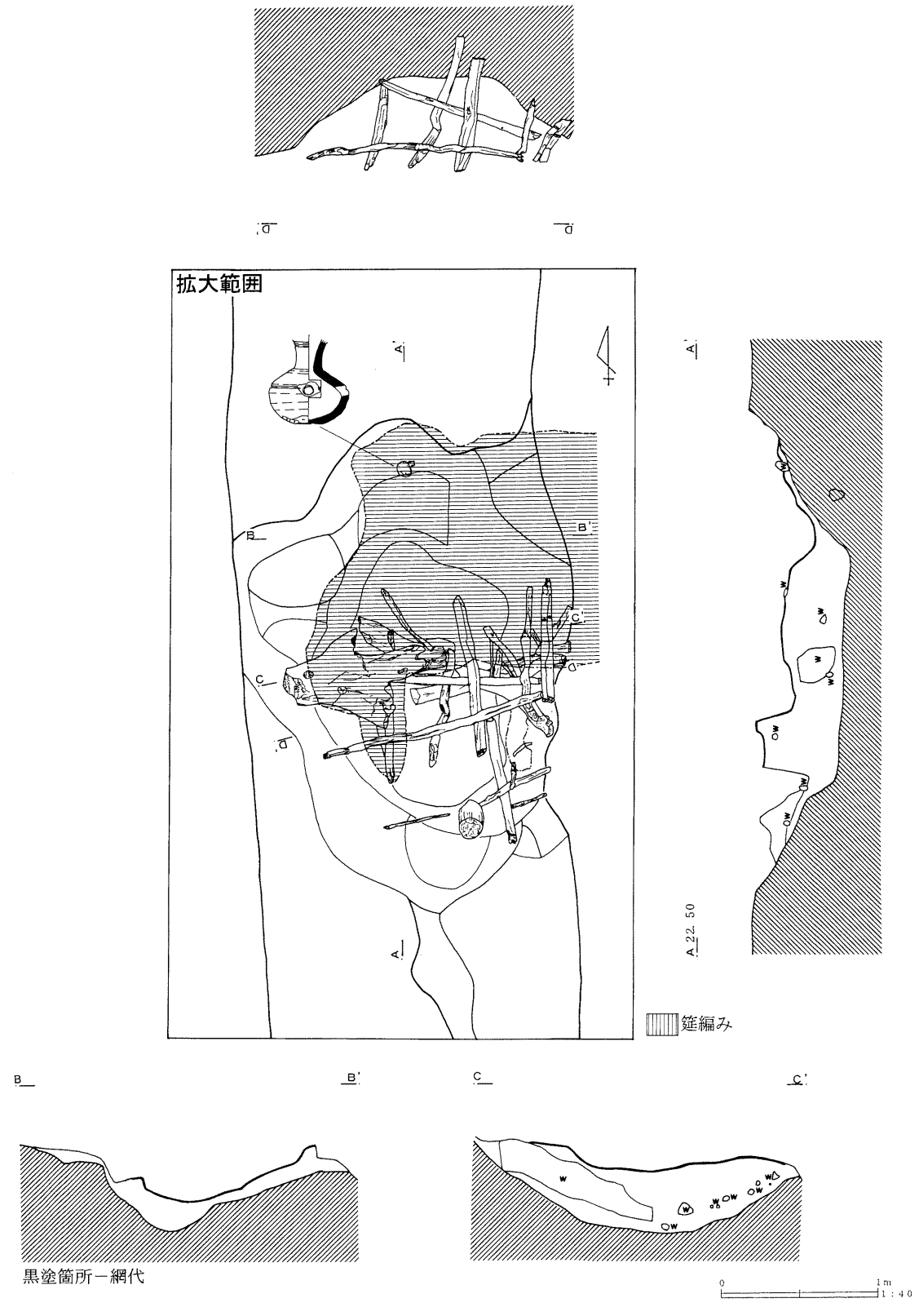


第304図　河川跡G地点Cトレンチ

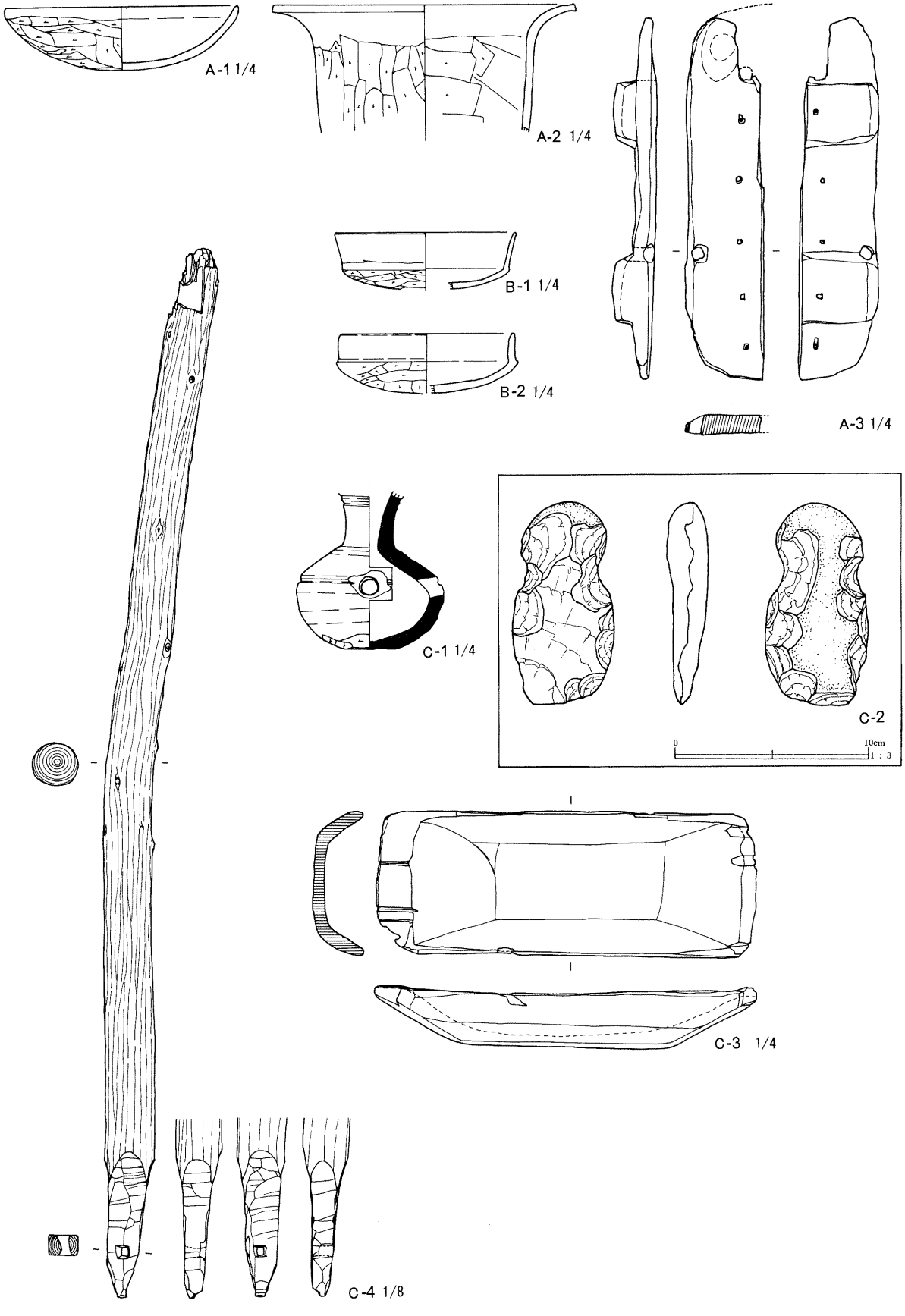
河川跡G地点　Cトレンチ（A－A'）
大溝G地点北流路
1灰色粘砂土5Y-6/1（黄灰色粘質土ブロック・粒子若干、酸化鉄多量に含む）
2灰白色粘質土5Y-7/1（酸化鉄少量含む）
3明青灰色粘質土5PB-7/1（青灰色粘質土小ブロック若干、酸化鉄少量、炭化物若干含む）
4灰白色粘質土5Y-7/2（灰色粘質土粒子若干、酸化鉄少量含む）
5灰色砂質土7.5Y-6/1（灰色粘質土粒子若干、灰色粘質土、酸化鉄ごくわずか含む）
6灰オリーブ砂5Y-6/2（酸化鉄多量に含む）
7灰白色粘質土5Y-7/2（灰色粘質土ブロック・粒子少量、砂多量、酸化鉄若干含む）
8灰色粘質土7.5Y-6/1（酸化鉄ごくわずか含む）
9灰色粘質土N-6/（灰色粘土粒子少量含む）
10明青灰色粘土5PB-7/1（青灰色粘土多量、砂、酸化鉄若干、炭化物若干含む）
11灰色粘砂土N-6/（酸化鉄ごくわずか、炭化物含む）
12明オリーブ灰色砂2.5GY-7/1（灰白色粘土帯状に含む、灰色砂多量、酸化鉄少量、炭化物少量含む）
13灰色粘砂土10Y-6/1（灰白色粘土粒子、灰色粘土若干含む）
14灰白色砂7.5Y-7/2
15明緑灰シルト10GY-7/1（酸化鉄若干含む）
16灰色粘土N-6/（灰白色粘質土小ブロック、灰色粘土粒子多量に含む）
17灰色粘砂土10Y-6/1（灰色粘土粒子少量含む）
18明オリーブ灰色粘土2.5GY-7/1（灰色粘土粒子含む）
19灰白色粘土10Y-7/1（灰色粘土粒子多量に含む）
20灰色粘土10Y-6/1
21灰白色砂7.5Y-7/2
22青灰色粘質土5PB-6/1（灰色粘土小ブロック・粒子若干、灰色砂含む）
23灰白色粘土7.5Y-7/1（酸化鉄若干含む）
24灰色砂5Y-6/1
25灰色粘土7.5Y-6/1
26オリーブ黒色粘土7.5Y-3/1（明青灰色粘土粒子若干含む）
27明青灰色シルト5BG-7/1（灰色粘土混じる、酸化鉄少量含む）
28明オリーブ灰色粘土5GY-7/1（灰色粘土多量に含む）
29灰色粘砂土5Y-6/1（粘性つよい、砂分多い、酸化鉄若干含む）
30灰色粘土7.5Y-5/1
31青灰色粘土5PB-6/1（明青灰色粘土粒子、明オリーブ灰色粘土粒子少量含む）
32灰色粘土7.5Y-6/1（オリーブ黒色粘土粒子若干含む）
33青灰色粘土5B-6/1（オリーブ黒色粘土ブロック多量、明オリーブ灰色粘土ブロック少量、灰色粘土粒子少量含む）
34明青灰色粘土5B-7/1（灰色粘土ブロック若干、明オリーブ灰色粘土ブロック少量含む）
35灰色粘土7.5Y-6/1（オリーブ黒色粘土粒子若干含む）
36灰色粘土N-6/と灰色粘土N-5/の混合層（明オリーブ灰色粘土ブロック・粒子多量、明緑灰色砂含む）
37明青灰色粘土5B-7/1（灰色粘土粒子多量に含む）
38灰色粘土7.5Y-5/1（オリーブ黒色粘土ブロック多量、明オリーブ灰色粘土ブロック少量含む）
39明オリーブ灰色粘土2.5GY-7/1（オリーブ黒色粘土ブロック少量含む）
40オリーブ黒色粘土7.5Y-3/1と明オリーブ灰色粘土2.5GY-7/1の混合層
41灰色粘砂土7.5Y-5/1（砂分多い、明青灰色粘質土少量含む）
42灰色粘土N-6/（腐食植物、木片多量に含む）
43明緑灰色粘土7.5GY-7/1（灰色粘土粒子若干含む）
44灰白色粘砂土7.5Y-7/1（酸化鉄少量含む）
45灰色粘土N-4/（明オリーブ灰色粘土ごくわずか含む）
46明オリーブ灰色粘土5GY-7/1（灰色粘土粒子若干含む）
47灰色粘土7.5Y-5/1（木片多量に含む）
48明青灰色シルト7.5GY-7/1
49灰色粘土N-5/（明青灰色粘土ブロック・粒子多量に含む）
50オリーブ灰色粘砂土2.5GY-6/1（青灰色粘土ブロック含む）
51明緑灰色砂10GY-7/1
52灰色粘土10Y-5/1（明青灰色粘土ブロック含む）
53明オリーブ灰色粘質土2.5GY-7/1（砂分多い、灰白色砂若干、木片少量含む）
54オリーブ黒色粘土7.5Y-3/1（明青灰色粘土粒子若干含む）
55灰色粘土7.5Y-5/1（砂分多い、明青灰色粘土小ブロック若干、灰色粘土粒子少量含む）
56浅黄色粘砂土5Y-7/4（酸化鉄非常に多く含む）
57灰色粘砂土7.5Y-6/1（砂分多量、酸化鉄少量含む）

大溝G地点南流路
1灰色粘砂土N-6/（酸化鉄少量、炭化物若干含む）
2灰色粘質土5Y-6/1（酸化鉄若干、腐食木片含む）
3灰色粘砂土7.5Y-6/1（砂分多い、酸化鉄少量）
4灰色粘質土5Y-6/1（明青灰色粘土、浅黄色砂混じり、酸化鉄少量、炭化物含む）
5明青灰色粘土5PB-7/1（黄灰色粘土混じり、酸化鉄少量含む）
6灰白色粘砂土5Y-7/1（黄灰色粘質土、明オリーブ灰色砂質土混じる、酸化鉄若干含む）
7明オリーブ灰色砂5GY-7/1（灰色粘土若干混じる、酸化鉄少量、木片少量含む）
8明緑灰色砂7.5GY-7/1（酸化鉄若干含む）
9灰色粘土7.5Y-5/1（砂分多い、明青灰色粘土粒子少量、酸化鉄若干、木片含む）
10青灰色粘砂土5PB-6/1（砂分多い、酸化鉄少量含む）
11灰色粘砂土5Y-6/1（砂と粘土が50%ずつ混じる層、酸化鉄少量含む）
12灰色粘土5Y-5/1（明青灰色粘土ブロック少量含む）
13灰色砂5Y-5/1と明青灰色粘土5B-7/1ブロックの混合層
14灰色粘砂土7.5Y-4/1（灰色砂多量、明青灰色粘土粒子若干、木片多量に含む）
15青灰色粘砂土5PB-5/1と青灰色粘土5B-6/1ブロック混合層
16灰色砂10Y-5/1（オリーブ灰色粘土少量含む）
17灰色粘土5Y-6/1（青灰色粘土ブロック、青灰色砂少量含む）
18黄灰色粘土2.5Y-6/1（青灰色砂若干、酸化鉄若干含む）
19灰色粘土N-6/（青灰色粘土粒子多量に含む）
20灰色粘土5Y-5/1（砂若干含む）
21オリーブ黒色粘土7.5Y-3/1（明オリーブ灰色粘土混じる）
22灰色粘土N-5/（青灰色砂、炭化物、木片含む）
23青灰色砂5B-6/1と灰色砂5Y-5/1の混合層（木片少量含む）
24青灰色シルト5PB-5/1（青灰色砂、木片多量に含む）
25青灰色シルト5B-6/1と緑灰色シルト10GY-6/1の混合層（灰色粘土粒子多量、木片多量に含む）
26青灰色粘土5PB-6/1（灰色粘土ブロック多量、暗灰色粘土粒子、明青灰色粘土粒子少量含む）
27灰色粘砂土N-5/（砂多量に含む）
28青灰色粘砂土5PB-6/1（青灰色粘土粒子少量含む）

トレンチの５ｍ手前のところで分岐しているようである。これらを便宜的に北流路・南流路と呼称した。北流路の覆土は、南からオリーブ灰色やオリーブ黒色の粘土が堆積し、次に灰色や青灰色の粘土が北側に堆積し窪地化した。そして、上層の灰色や灰白色の粘質土が徐々に堆積し埋没していったようである。この北流路には南寄りに、堰跡の一部を検出した。堰は、南北幅3.2m、東西幅2.2mの楕円状の窪みに正面を北にして縦杭を約20～40cmの間隔で打ち込み、それに横木を２箇所渡して骨組みを作っていた。そして、この骨組み上に筵状の網代を敷いて盛土の補強としていた。検出規模は、東西長1.9m、南北長1.65m（網代範囲で2.8m）であった。骨組みは水圧や土圧のせいかやや傾いて検出され、西端に大木が置かれていた。この骨組みの縦杭の１本に先端に枘孔を持つものが見られた。また、堰手前の網代下で須恵器瑞が１点、打製石斧が１点出土した。一方、南流路の覆土は、ほぼ水平に堆積しており、徐々に窪地化していったことが分かった。南寄りのやや深い部分に砂混じりの灰色や青灰色の粘土が堆積し、その上層は全体的に灰色粘土が砂の堆積を挟みながら徐々に埋没していったようである。流路のほぼ中央13区Ａ―43グリッドから長方形の槽が１点出土した。



第305図　河川跡Ｇ地点Ｃトレンチ堰出土状況



第306図　河川跡Ｇ地点出土遺物

第71表　河川跡Ｇ地点出土遺物観察表

番号	器種	口径(長さ)	器高(幅)	底径(厚さ)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
A-1	土師器坏	16.0	4.4	—	ABJE	外面：橙色　内面：赤灰色	D	70%	外面に黒斑。
A-2	土師器甕	21.3	—	—	AEINGM	灰黄褐色	A	口縁の20%	
A-3	下駄	25.4	5.5	1.4 歯2.5	—	—	—	—	木取：柾目。樹種：スギ。歯は磨滅している。
B-1	土師器坏	(12.6)	—	—	ABIMN	外面：橙色　内面：にぶい橙色	A	30%	
B-2	土師器坏	(12.0)	—	—	AIJN	黒色、灰黄色	A	30%	全体黒色処理。
C-1	須恵器甑	—	—	3.5	ABDN	灰色	B	90%	内部に栓状の物質あり。
C-2	打製石斧	10.7	5.3	2.1	—	—	—	—	重さ135ｇ
C-3	槽	26.4	10.0	3.7	—	—	—	—	木取：横木取り。樹種：スギ　長方形槽。内外とも平坦な底部から口縁部が斜めに立ち上がる。口縁部は長辺が薄く短辺が厚い。把手のつかないものである。内外とも若干釿ハツリによる加工痕をとどめている。短辺の厚みは2辺とも同じでなく片方が一方より厚い。
C-4	杭	150.0	6.2	6.0	—	—	—	—	木取：芯持材。樹種：モミ属。先端の四面を削り落とし、切先をつくる。そのうちの二面を貫通する枘孔がある。1.8×1.8cmと1.6×1.6cmの方形で一方が若干狭い孔である。

XI　Ⅷ区の調査

1　Ⅷ区の概観

調査区は、調査区域の東南端、Ⅴ・Ⅶ区の南の最も南の区画であった。調査対象面積は、約2,400m²であった。

遺構確認面での標高は、22.2～22.4mであった。調査区全体の自然地形は、ほぼ平坦であった。

確認された遺構は、土坑3基であった。遺構の総体としての分布は、希薄であった。

土坑は、第2・3・4号土坑がまとまって、第1号土坑のみ離れた位置に単独で検出された。いずれの土坑も大型で長方形のプランをしており、掘り方の浅いものであった。出土遺物は、ほとんど検出できなかった。

2　遺構と遺物

(1)　土坑

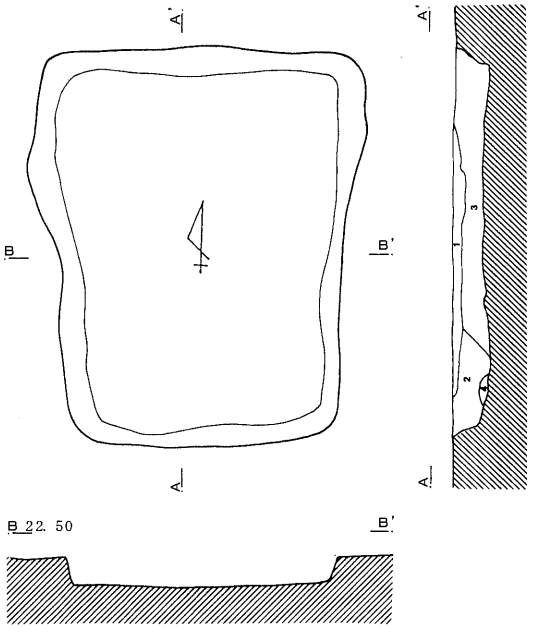
土坑は総数にして4基検出された。第2号土坑と第3号土坑は近接して検出されたが、他は距離をおいて検出された。第3号土坑の北は調査区域外であった。

以下、一覧表にして掲載する（第307図、第72表）。

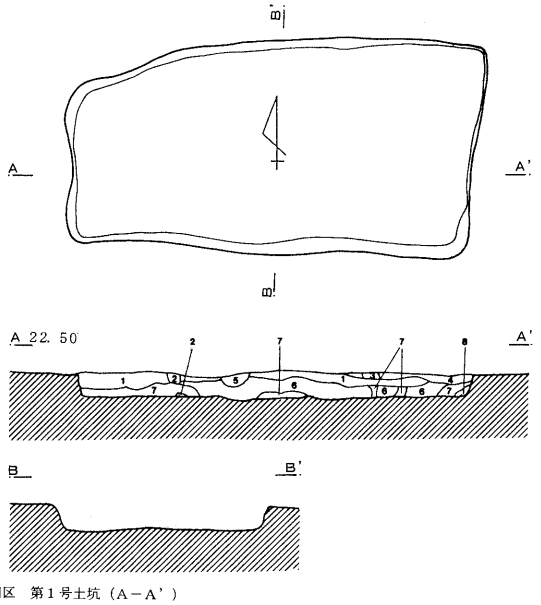
第72表　Ⅷ区土坑一覧表

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ	出土遺物	時期	重複関係	備考
1	13区 N55	長方形	318 × 220 × 30				
2	13区 E54	長方形	330 × 170 × 22				
3	13区 E54	長方形	185 × 80 × 27				
4	13区 B・C54	不整形	372 × 235 × 47				

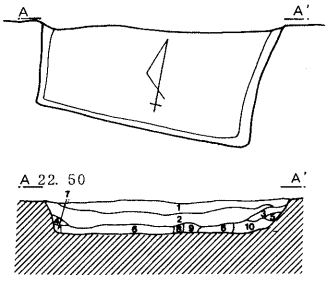
第１号土坑



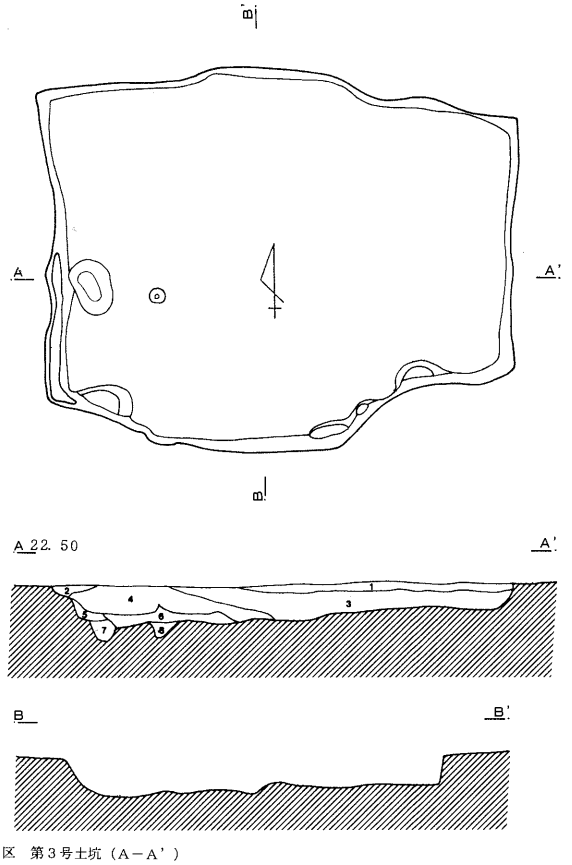
第２号土坑



第３号土坑



第４号土坑



Ⅷ区　第１号土坑（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土N-4/（暗灰色ブロック・粒子、灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、火山灰含む）
２灰色粘質土N-4/（明黄褐色粒子多量、暗灰色ブロック・粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
３灰色粘質土N-4/（暗灰色ブロック・粒子、灰色ブロック、酸化鉄、マンガン粒子含む）
４暗灰色粘質土ブロックN-3/（酸化鉄含む）

Ⅷ区　第２号土坑（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土5Y-5/1（灰白色粘質土ブロック、灰色粘質土ブロック・粒子含む）
２灰白色粘質土7.5Y-7/1（酸化鉄含む）
３灰白色粘質土7.5Y-7/2（酸化鉄含む）
４青灰色粘質土5PB-6/1（灰白色粘質土混じる、酸化鉄若干含む）
５灰色粘質土N-6/（酸化鉄非常に多く含む）
６灰色粘土N-6/（灰色粘土小ブロック若干、酸化鉄少量含む）
７灰色粘土N-5/（灰色粘土粒子若干、酸化鉄若干含む）
８青灰色粒子5PB-5/1（酸化鉄少量含む）

Ⅷ区　第３号土坑（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土7.5Y-6/1（灰白色粘質土ブロックごくわずか、酸化鉄少量含む）
２灰色粘質土7.5Y-5/1（灰白色粘質土ブロック、灰色粘質土ブロック少量混じる、酸化鉄少量含む）
３灰色粘土N-6/（灰白色粘質土ブロック含む）
４青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄非常に多く含み褐灰色を呈する）
５灰色粘土5Y-4/1
６灰色粘土N-6/（酸化鉄含む）
７攪乱
８灰色粘土5Y-4/1（ざくざくした感じ）
９明青灰色粘土5PB-7/1（灰色粘土混じる、酸化鉄含む）
10青灰色粘質土5PB-6/1（酸化鉄非常に多く含み褐灰色を呈する）

Ⅷ区　第４号土坑（Ａ－Ａ’）
１灰色粘質土N-4/（黒褐色粒子、明黄褐色粒子、酸化鉄、マンガン粒子、火山灰含む）
２灰色粘質土N-4/（黒褐色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
３青灰色粘質土5PB-5/1（暗青灰色ブロック・粒子、明黄褐色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
４灰色粘質土N-4/（明黄褐色粒子、暗青灰色粒子、酸化鉄、マンガン粒子含む）
５黒褐色土2.5Y-3/1（灰色ブロック・粒子、酸化鉄多量に含む）
６暗青灰色粘質土5PB-4/1（オリーブ黄色ブロック、酸化鉄含む）
７灰色粘質土N-6/（暗青灰色ブロック・粒子、酸化鉄含む）
８暗灰色粘質土N-3/（酸化鉄含む）

0　2m
1：60

第307図　Ⅷ区第１～４号土坑

XII　調査のまとめ

1　遺構について

(1)　竪穴住居跡

諏訪木遺跡では、竪穴住居跡が計22軒確認されている。現況の河川の衣川を挟んで、左岸のⅠ区に4軒、II区に1軒、右岸のIV区に17軒である。分布状況としては、左岸地域はⅠ区の河川跡F地点寄りにまとまって4軒、離れて単独でII区に1軒である。右岸地域は、大きく5地区に分かれて分布する。IV区の中央部、区画溝に囲まれた第8・9号掘立柱建物跡を中心とした第1区画内の東部に8軒、その北側の地区に単独で1軒、その反対地区にやはり単独で1軒所在する。また、北西部の区画溝に囲まれた第2区画内に4軒、そして、河川跡C地点を挟んだもう一つの掘立柱建物跡群集中地区に1軒所在する。

住居跡は、いずれも小規模で、カマドの方向もほぼ一定で圧倒的に東向きが多かった。河川左岸は、Ⅰ区第6・7号溝跡と河川跡に挟まれた地区には第17～21号住居跡が所在し、出土遺物からそれぞれの時期を判断すると、第20号住居跡が9世紀第II四半期、第17号住居跡が9世紀第III四半期、第18号住居跡が9世紀第IV四半期、第19号住居跡・第21号住居跡が同時期で10世紀第III四半期である。II区に単独で所在する第22号住居跡は10世紀第III四半期である。

河川右岸については、IV区第1・2・3・4・5・6号区画溝に囲まれた第1区画の東にまとまって検出された。9世紀末から10世紀初頭の第12号住居跡がIV区第42号溝跡を切っているが、大きく第1・3号区画溝とIV区第41・42号溝跡に囲まれた西の空間とその外の東の空間に分かれて所在した。前者の空間には第6・13・14号住居跡が該当し、ほぼ8世紀末から9世紀第Ⅰ四半期の土器を出土した。後者の空間には、第7・9・10・15号住居跡が該当し、第10号住居跡は9世紀中頃から後半、第7号住居跡は10世紀第II四半期であるが、第9・15号住居跡は9世紀前半（第15号住居跡は9世紀第Ⅰ四半期）であった。

もう一つのまとまったエリアは、IV区第7・8・9号区画溝に囲まれた第2区画にあった。第1～5号住居跡が所在する。第4号住居跡が先行して営まれ、その後第1～3・5号住居跡がほぼ同時期に存在したようである。第4号住居跡が須恵器坏、灰釉陶器皿、緑釉陶器椀・皿などを出土し、9世紀後半から10世紀初頭と考えられる。他の住居跡は10世紀第III四半期であり、第2号住居跡出土の還元焔焼成の須恵器椀には、墨書が見られた。

他の第8・11・16号住居跡は、各々単独で検出されたが、第8号住居跡は河川跡とIV区第1号区画溝に囲まれた地区、第11号住居跡はIV区第3号区画溝以南の地区、第16号住居跡は河川跡C地点とIV区第6号溝跡に囲まれた地区に所在した。第8号住居跡は8世紀末から9世紀第Ⅰ四半期の土師器坏・甕、須恵器坏を出土したが、灰釉陶器皿は9世紀末から10世紀初めのものであった。第11号住居跡は10世紀第III四半期の須恵器椀を出土した。第16号住居跡は、9世紀前半の土師器暗文坏、須恵器坏などを出土した。

(2) 掘立柱建物跡

諏訪木遺跡では、掘立柱建物跡が計31棟確認されている。Ⅰ区に4棟、Ⅳ区に25棟、Ⅶ区に2棟である。分布状況としては、河川左岸のⅠ区では、L字形に3棟、軸を変えて1棟、河川右岸のⅣ区では、第1区画内に第8・9号掘立柱建物跡を中心にして周囲に10棟、北の地区に4棟、南の地区に3棟、河川跡C地点を挟んで東の地区に4棟、第2区画内に1棟、さらにはⅦ区に2棟所在する。それぞれの時期については、遺物を出土する建物が少ないため、軸方向などを鑑み判断していきたいと思う。

Ⅰ区の第21・23・24号掘立柱建物跡はほぼ軸を同じにして3棟L字に並ぶが、出土遺物から9世紀末から10世紀初頭のものと考えられる。Ⅳ区第1区画の東西に走るⅣ区第1・2号区画溝に沿って建てられた第5・6・7号掘立柱建物跡は、この溝に並行に2間×3間（東西棟）の大きさで並列して3棟配されていた。これらとほぼ同じ軸で、東に2間×2間の小型掘立柱建物跡2棟（第10・31号掘立柱建物跡）、東南に第12号掘立柱建物跡、南西に第13号掘立柱建物跡、Ⅳ区第4号区画溝を挟んで南に第14・27号掘立柱建物跡が配されていた。また、やや主軸を真北から東に傾けた2間×3間（南北棟）の第4号掘立柱建物跡が、第5～7号掘立柱建物跡の西に配されていた。一方、この区画で最も大きく中心的建物である第8・9号掘立柱建物跡の主軸は、他の掘立柱建物跡から比べると大きく真北から東へ約10°傾いていた。ほぼ同じ主軸の第5～7・10・12・13・14・27・31号掘立柱建物跡は、第12号掘立柱建物跡から9世紀前半の土師器坏・甕が出土したことと、第5号掘立柱建物跡を切るⅣ区第8号区画溝が9世紀末から10世紀初めの土器を出土したことからこれらの掘立柱建物跡はこの時期以前すなわち9世紀前半の建物である可能性があることが分かった。また、主軸がやや東に傾く第4号掘立柱建物跡については、9世紀中頃から後半の須恵器坏が出土した。そして、第8号掘立柱建物跡からは10世紀中頃の酸化焔焼成須恵器椀の他に、灰釉陶器椀・皿、緑釉陶器皿、段皿など特殊な遺物が検出され、第9号掘立柱建物跡は10世紀後半の年代が与えられる。

第28号掘立柱建物跡は、第2区画の中心的建物で周囲に小規模な竪穴住居が所在する。この掘立柱建物跡は、第1区画の第5～7・10・12・13・31号掘立柱建物跡とほぼ同じ主軸をもつ。ただ、この第2区画を区画する第9号区画溝形成期と同時期の建築ならば、これらの掘立柱建物跡より遅れる時期が第28号掘立柱建物跡に与えられる。一方、Ⅳ区第1号区画溝北の第1・2号掘立柱建物跡も第5～7・10・12・13・31号掘立柱建物跡と同様の主軸をもち、この2棟は時期的な同一性が見受けられる。

Ⅳ区第4号区画溝と重複する第11号掘立柱建物跡は、第4号掘立柱建物跡と同じ主軸をもつことと、8世紀末から9世紀初頭の須恵器坏、土師器甕を出土するⅣ区第4号区画溝と重複することから、この区画溝廃絶後の9世紀中頃から後半という時期を与えられる。なお、Ⅳ区第1号区画溝、Ⅳ区第3号区画溝からも8世紀末から9世紀初めの須恵器坏、土師器甕などが出土した。

第3・20号掘立柱建物跡は、第8・9号掘立柱建物跡とほぼ主軸を同じにすることから10世紀後半代と考えられる。

第29・30号掘立柱建物跡は、Ⅰ区の第21・23・24号掘立柱建物跡とほぼ同じ軸をもつことから、9世紀末から10世紀初頭と考えられる。

第15～18号掘立柱建物跡は、ほぼ同じ主軸方位の東西棟で、同一時期の可能性が考えられる。ただ、第15・17・19号掘立柱建物跡の3棟は、主軸の同一性と17号掘立柱建物跡出土のおおよそ9世紀前半代

と考えられる土師器坏細片から、ほんのわずかに主軸のずれる9世紀後半代の須恵器坏を出土した第18号掘立柱建物跡と第16号掘立柱建物跡の2棟とはわずかではあるが時期差がみられる。

そして、VII区の第25・26号掘立柱建物跡は、第15～18号掘立柱建物跡と同様にIV区第6号溝跡・VII区第3号溝跡に区画された地区の建物とも考えられ、第15・17・19号掘立柱建物跡とほぼ同じ軸を、さらには、第5～7・10・12・13・31号掘立柱建物跡とほぼ同じ主軸をもつことから、9世紀前半代と考えられる。

一方、河川左岸I区の唯一軸方向の異なった第22号掘立柱建物跡も、やはり第5～7・10・12・13・31号掘立柱建物跡とほぼ同じ主軸をもつことから、9世紀前半代と考えられる。

(3)　埋葬関連遺構

諏訪木遺跡の埋葬関連の遺構としては、時期の上で大きく2時期に分けて考えられる。伸展葬を主体とする古代の遺構、屈葬と火葬遺構を伴う中世の埋葬跡の二つである。

IV区第5号土坑墓、VII区第1～6号土坑墓は、いずれも長方形の木製棺を使用した埋葬形態である。この形態は時期、場所を問わず最も普遍的に認められる埋葬方法と言え、西日本から東日本にかけて広く分布が認められるものである。近くでは、妻沼町飯塚北遺跡、岡部町六反田遺跡などがある。飯塚北遺跡では、緑釉陶器椀、須恵器椀などが副葬品として出土した。六反田遺跡では土師器椀、須恵器椀・長頸瓶が出土している。長野県塩尻市吉田川西遺跡では白磁、緑釉陶器などが出土した。

このように、この土坑墓は全国各地に分布することが知られており、その中で典型的と思われる副葬品の組み合わせを見てみよう。器種としては長頸瓶、椀の組み合わせが主体で、長頸瓶がなく椀だけの場合も認められる。複数以上の同一形態がある場合は、素材を替えて埋葬されている。この点は階層差、地域差などが想定できる。例えば、同一地域内で素材の異なる副葬品を持った土坑墓があった場合は、両者は階層的な差をそこに認めることができる。本遺跡では灰釉陶器椀と須恵器椀の組み合わせで埋葬されていたが、須恵器に変わり緑釉陶器、さらに西日本では白磁などが使用された例もあり、階層や地域差により、副葬品として埋納されるものの素材に変化が大きく変遷すると言える。

一方、IV区において4区西側で2基、5区南側で1基、10区東側で1基確認された土坑墓は、屈葬で行われており、副葬品などはほとんど確認されていない。屈葬を行う墓跡は古代以来継続的に見受けられるが、関東周辺では中世に帰属するものが圧倒的に多い。本遺跡の屈葬の土坑墓もすべて中世に帰属するものと断定できる。

また、T字形の火葬跡と推定される土坑は、IV区における9区西側で3基ほど確認されたのみであるが、3基の周辺にはたくさんのピットや土坑等が重複して確認されており、火葬跡と思われる遺構がほかにもあった可能性は高い。この種の火葬跡は、他の遺跡での検討から14世紀から15世紀代の時期が与えられている。火葬した後、その場を墓地とする考えがあるが、骨の残存が少ないため、集骨した後、別のところに埋葬したとする考えも強い。ただ、火葬骨を納めた骨壺などを伴う埋葬遺構は確認されていない。屈葬の土坑墓と火葬跡は、ほぼ同じ時期のものと推測される。

(4) 集落の変遷

諏訪木遺跡から出土した遺物の時代は、縄文時代から中・近世にわたっている。

縄文時代の遺構は、IV区でピットが数基、V区で竪穴遺構などが確認されているのみで、住居跡は検出されていない。遺物の大半は、河川跡の覆土中から出土している。その遺物の時期は、後期のものである。

弥生時代の遺構は、V区の溝跡などが確認されているのみで、住居跡は検出されていない。遺物の大半は、IV区の遺物包含層や河川跡の覆土中から出土している。その時期は、いずれも中期のものである。

古墳時代の遺構は、I・III・IV・V区の溝跡、IV区のピット群などが確認されている。また、後期を中心に河川跡に大量に遺物が検出されたが、住居跡は検出されていない。遺物の大半は、前述したとおり河川跡の覆土中から、後期の土器や木製品などの遺物が出土している。溝跡からは、中期の遺物も見られた。非常に大量の後期の遺物が検出されているのにかかわらず、当該期の集落は確認できなかった。

7世紀の遺構は検出されていない。遺物が河川跡で検出されたのみである。

8世紀の遺構も検出されていない。やはり、遺物が河川跡で検出されたのみである。

諏訪木遺跡において、人々が活発に生活を営み始めるのは、8世紀末から9世紀初頭にかけてである。今回の調査により検出できた竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの建物遺構は、この時期からで、竪穴住居跡22軒、掘立柱建物跡31棟であった。以下、時期ごとに順を追って見ていきたいと思う。

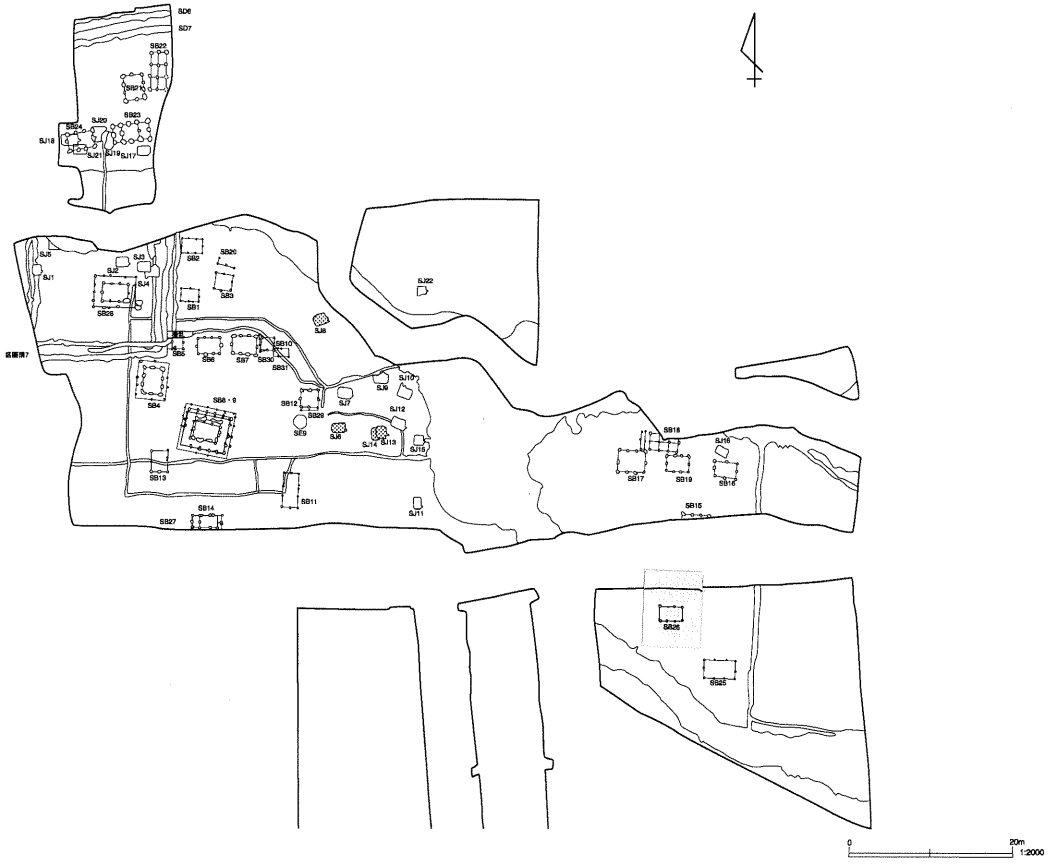
8世紀末～9世紀初頭（第308図）

当該期の竪穴住居跡は4軒検出され、3軒がまとまって、もう1軒が離れて位置している。すなわち、8世紀末から9世紀初頭の遺物を出土するIV区第1・3・4・6号区画溝に囲まれた第1区画の東、IV区第42号溝跡とIV区第3号区画溝に挟まれた場所とIV区第1号区画溝より北の地区である。

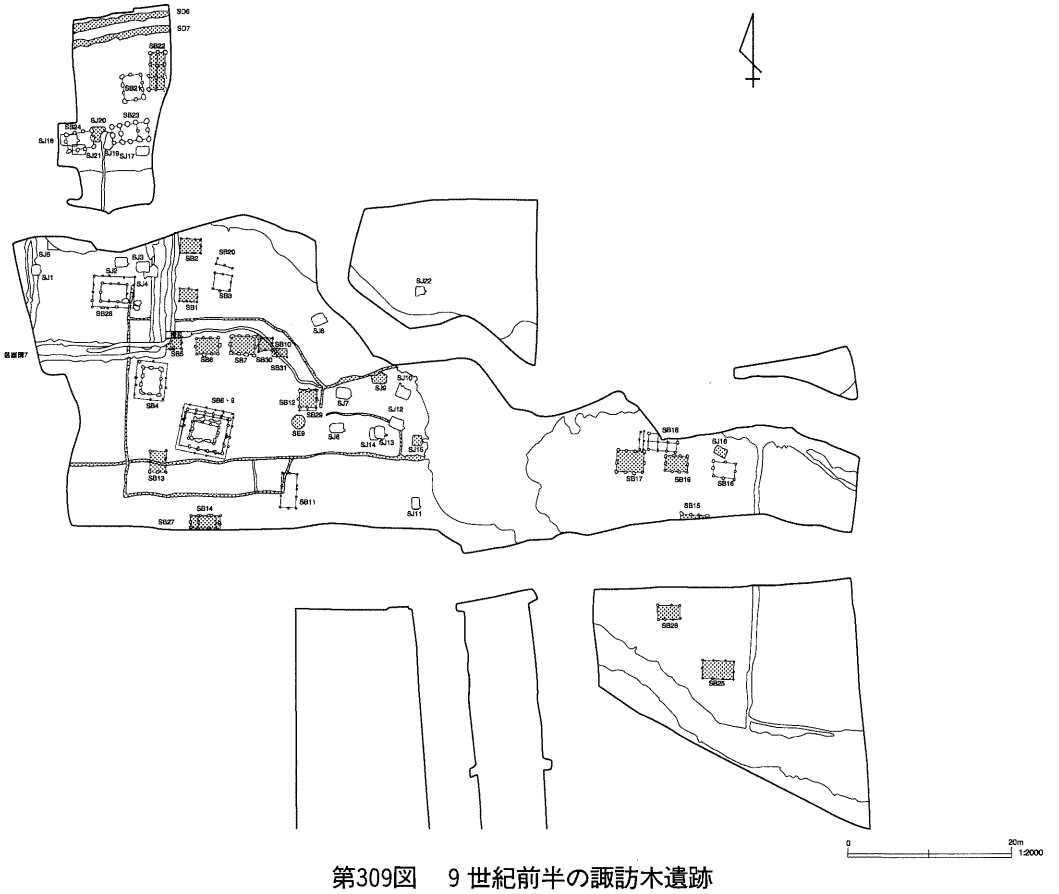
9世紀前半（第309図）

当該期の竪穴住居跡は4軒、掘立柱建物跡は17棟検出された。第1区画の東部、IV区第41号溝跡と第42号溝跡に区画された外側の空間に竪穴住居跡2軒、IV区第41・42号溝跡の西に掘立柱建物跡7棟、第8・9号掘立柱建物跡を囲むように所在する。そして、第12号掘立柱建物跡の南には井戸が1基所在する。また、IV区第1号区画溝を挟んで北の地区に2棟の掘立柱建物跡、IV区第4号区画溝を挟んで南の地区に2棟の掘立柱建物跡、南下する河川跡を挟んで東、IV区第6号溝跡とVII区第3号溝跡に東を限られた地区において、北に3棟の掘立柱建物跡と1軒の竪穴住居跡、南に2棟の掘立柱建物跡が所在する。そして、河川左岸のI区第6・7号溝跡に囲まれた地区に、1軒の竪穴住居跡と1棟の掘立柱建物跡が所在する。

第1区画における掘立柱建物跡と竪穴住居跡とは、重複するものがほとんどなく、同時期に存在したと考えられ、IV区第41・42号溝跡は、掘立柱建物跡と竪穴住居空間を区切る溝で、溝どうしが結合していないのは入口的意味も考えられる。さらには、竪穴住居跡を営んでいた人々は、掘立柱建物跡を住居として使用した階層に支配された立場の人々とも考えられる。いずれにしても、掘立柱建物跡に付随す



第308図　8 世紀末～ 9 世紀初頭の諏訪木遺跡



第309図　9 世紀前半の諏訪木遺跡

る出先機関的な住居跡であると考えられる。

また、IV区第1号区画溝北及び南の掘立柱建物跡所在地区は、第1区画内とは別の機能を有していた可能性が考えられる。さらに、河川跡以東の地区もIV区第1区画溝以北・以南地区と同様に別の機能を有していたと考えられる。この河川跡以東の地区は南北に広い地区だが、やや広くなりすぎる状況も考えられるので、北と南とでは場の役割の違いを考えることもできるであろう。

なお、中間に挟まれた河川跡は、9世紀段階で瀬替えにより埋没していたはずであるが、この部分には建物などが存在しない。理由は、集落形成時期と埋没時期がほぼ同じ頃で、泥沼地化しており、建物建設地には条件的に不向きな状態であったことが予測される。

9世紀後半（第310図）

当該期の竪穴住居跡は3軒、掘立柱建物跡は6棟検出された。第1区画の東部に1軒の竪穴住居跡、西部に1棟の掘立柱建物跡、IV区第4号区画溝をまたがるように1棟の掘立柱建物跡が存在した。この掘立柱建物跡は、IV区第4号区画溝を廃絶させIV区第5号区画溝経由の溝に付け替えた可能性があるため、建てられたと考えられる。また、この時期には、IV区第9号区画溝に区画された第2区画が作られ、その区画溝の軸と同じ1棟の掘立柱建物跡が建てられたと考えられる。この掘立柱建物跡は1棟のみ存在することから、居住空間とするよりも寺院的な場所、特別な空間が想定できるとも言える。実際にIV区第7号区画溝からは、少ないながらも瓦片が出土しており、関係があるのかもしれない。

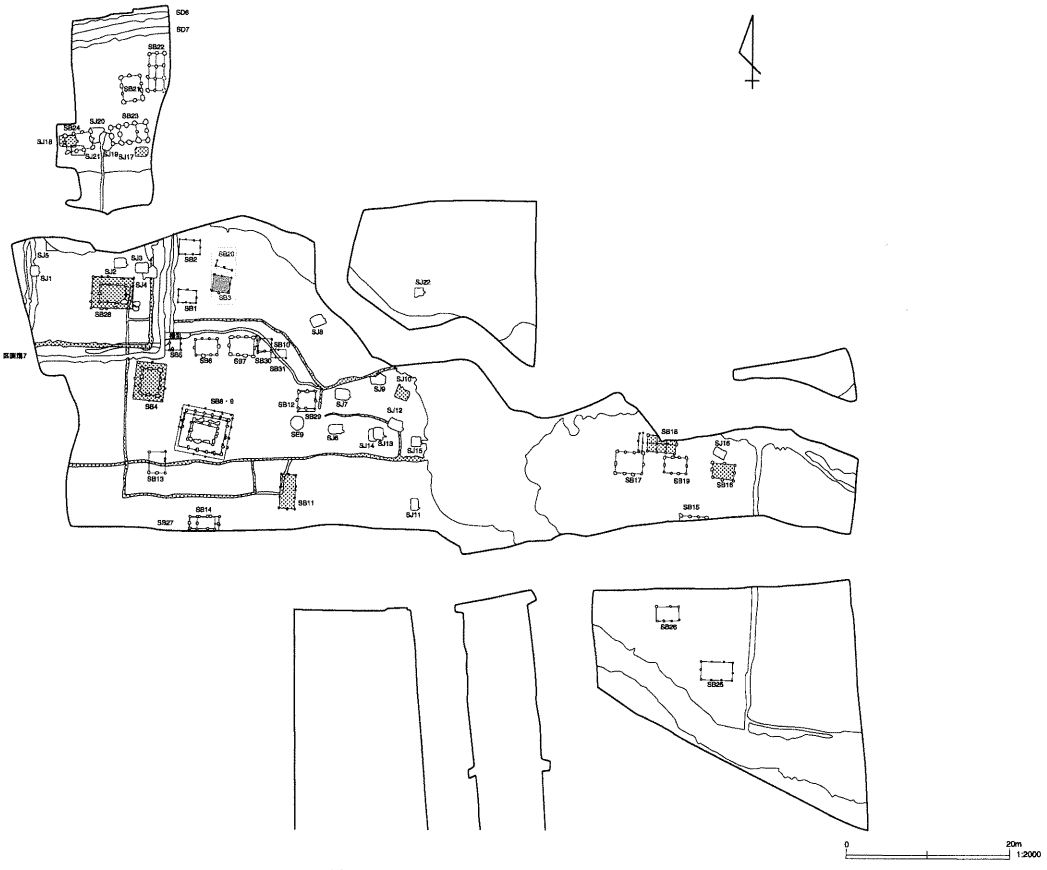
そして、先行して3棟の掘立柱建物跡と1軒の竪穴住居跡が建てられた河川跡以東地区には、さらに2棟の掘立柱建物跡が作られた。加えて、北に1基、南に2基、さらにはVII区第3号溝跡を挟んで東に4基土坑墓が営まれており、この頃から10世紀前半には墓域としての役割をもつ空間であった可能性が考えられる。

一方、河川左岸の区画には、2軒の竪穴住居跡が営まれた。

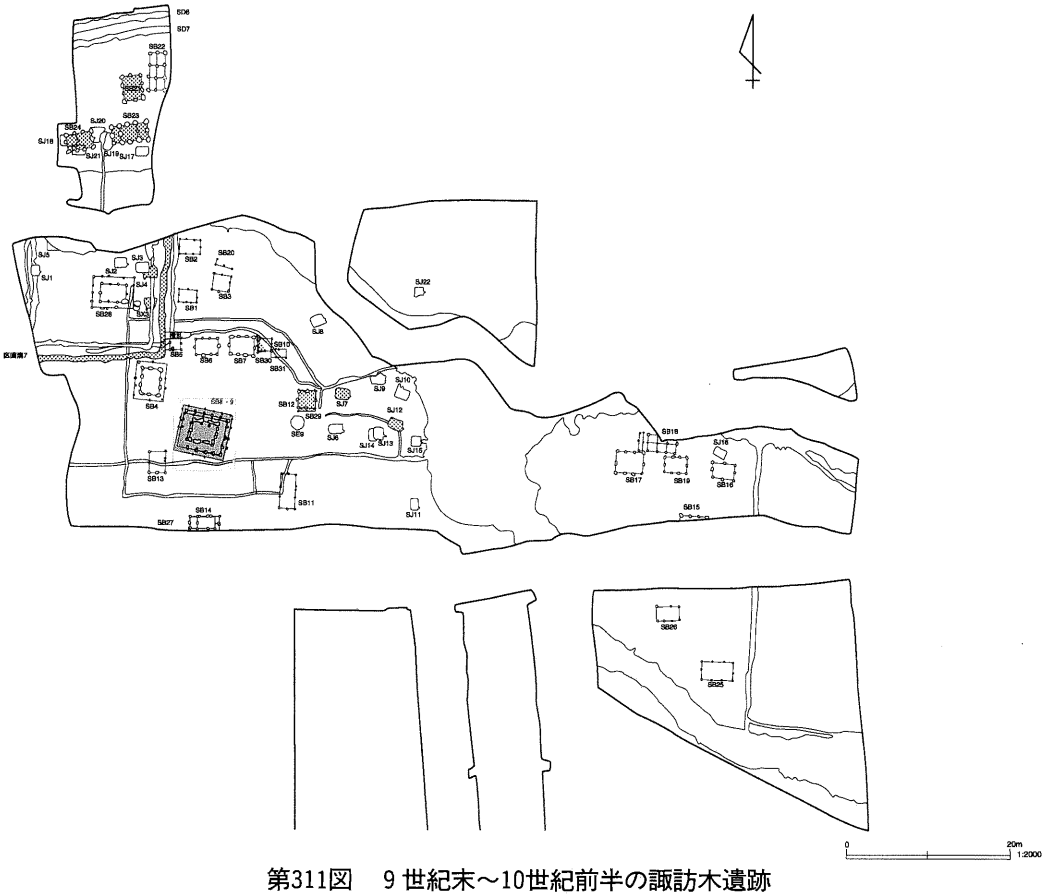
9世紀末から10世紀前半（第311図）

当該期の竪穴住居跡は3軒、掘立柱建物跡は6棟である。第1区画内東部に、竪穴住居跡がIV区第42号溝跡を切る形で1軒、竪穴住居跡空間に1軒建てられた。さらに、2棟の掘立柱建物跡が9世紀前半代にあった掘立柱建物跡をそれぞれ建て替えて所在する。そして、第2区画内に竪穴住居跡1軒、竪穴住居跡とも考えられる竪穴遺構が1基所在する。これらは、第9号区画溝と重複していることから、この時期にはすでに機能を失い東へシフトした第7号区画溝がこの地区を区画していた可能性が考えられる。また、この住居跡からは灰釉陶器、緑釉陶器の他に鉄製紡錘車が、竪穴遺構からは鉄斧などが出土した。

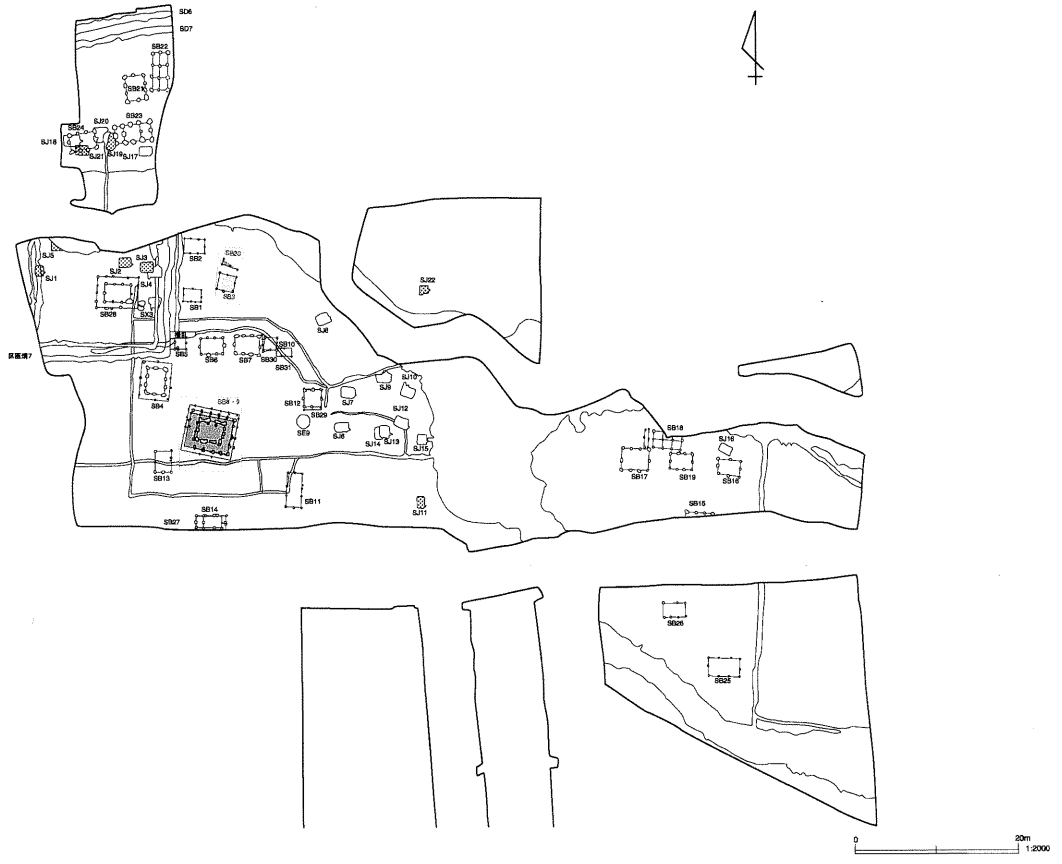
一方、河川左岸の溝によって区画され竪穴住居跡が所在した地区には、3棟の同一軸方向の掘立柱建物跡がL字形に所在する。東西棟が2棟並列し、その北西に南北棟が1棟である。これらの掘立柱建物跡は、9世紀末から10世紀初頭と考えられ、9世紀代に営まれた竪穴住居が廃絶した後の建築であろう。



第310図　9 世紀後半の諏訪木遺跡



第311図　9 世紀末～10世紀前半の諏訪木遺跡



第312図　10世紀後半の諏訪木遺跡

10世紀後半（第312図）

当該期の竪穴住居跡は8軒、掘立柱建物跡は2棟である。第1区画内に最も大規模な掘立柱建物跡が1棟所在し、前のと建て替えの関係にある。そして、第1区画以北地区に1棟の掘立柱建物跡、第1区画のⅣ区第3号区画溝を挟んだ南の地区に竪穴住居跡が1軒所在する。また、第2区画内には、1棟の掘立柱建物跡を囲むように北に4軒の竪穴住居跡が所在する。これらの住居跡は、先行して存在したこの掘立柱建物跡と同時期に存在したと考えられ、いずれも小規模であることから、この掘立柱建物跡に関わる職人、想像を逞しくすれば大規模な修復作業があり、その人々が使用した短期間の住居跡とも考えられる。

一方、河川左岸の掘立柱建物跡が所在していた所には竪穴住居跡が2軒所在し、掘立柱建物跡が機能を失った後の建築であろう。また、同じ左岸の下流地区に竪穴住居跡が離れて単独で1軒所在する。

中世

河川左岸地域で、土坑墓が4基、火葬跡が3基確認されている。他の生活痕跡は、調査の段階では確認できなかったため不明である。

近世

河川左岸地域で、区画する溝を3条確認した。この区画は、南・西にある現在の集落とも一致している。

今回の調査における諏訪木遺跡の主に建物を中心とする集落の展開は、以上のとおりである。面的に調査できたのは、河川の右岸が中心であったため、河川左岸の状況はごく一部しか捉えることができなかった。

集落展開の最大のピークは、9世紀、中でも9世紀前半代の時期である。竪穴住居跡、掘立柱建物跡ともに最大に増加した時期である。少なくとも5つの地区で集落がおのおのの機能をもち展開した時期である。その最大の地区が第1区画であったのであろう。掘立柱建物跡群と竪穴住居跡空間がはっきりと区切られ、掘立柱建物跡空間には中央に広場的空間があり、東端に大きな井戸も存在した。この地区は、9世紀後半、10世紀前半を経て、10世紀後半代にもう1回ピークをむかえる。それは、本遺跡最大の掘立柱建物跡が中央西よりに作られた時期である。この掘立柱建物跡は10世紀中葉の大規模なものから10世紀後葉にやや小さなものに建て替えられているが、この地区における中心的建物で、先行して建てられた周囲の掘立柱建物跡群との関係に有機的な可能性が想定できる。

さらに、9世紀後半代には、1棟の掘立柱建物跡を中心とする区画が新たに作られ、10世紀後半代には周囲にこの掘立柱建物跡関連の住居跡も作られた。この時期は、第1区画における大規模掘立柱建物跡存在時期と一致する。

一方、河川左岸の区画では、9世紀後半代に竪穴住居跡の増加を、この住居跡廃絶後の9世紀末から10世紀初頭に掘立柱建物跡の増加が見られて、河川右岸地域とは、やや遅れた集落展開であったようである。さらに、河川左岸区画より下流に1軒の竪穴住居跡が確認された地域は、河川の存在が影響し、遺構の希薄な現象が見られたのかもしれない。そのことは、さらに下流の地域では、居住関連の遺構が確認されず、ますますその傾向を示しているのであろう。

このように、場所によって若干の展開差はあるが、遺跡全体では時期を同じくして、すなわち10世紀後半代までで居住関連遺構は確認されなくなってしまう。以後、中世段階でわずかに埋葬遺構が確認されだけで、その後、近世、17世紀段階まで本遺跡では遺構が確認されていない。

(5)　河川祭祀の変遷（第313図）

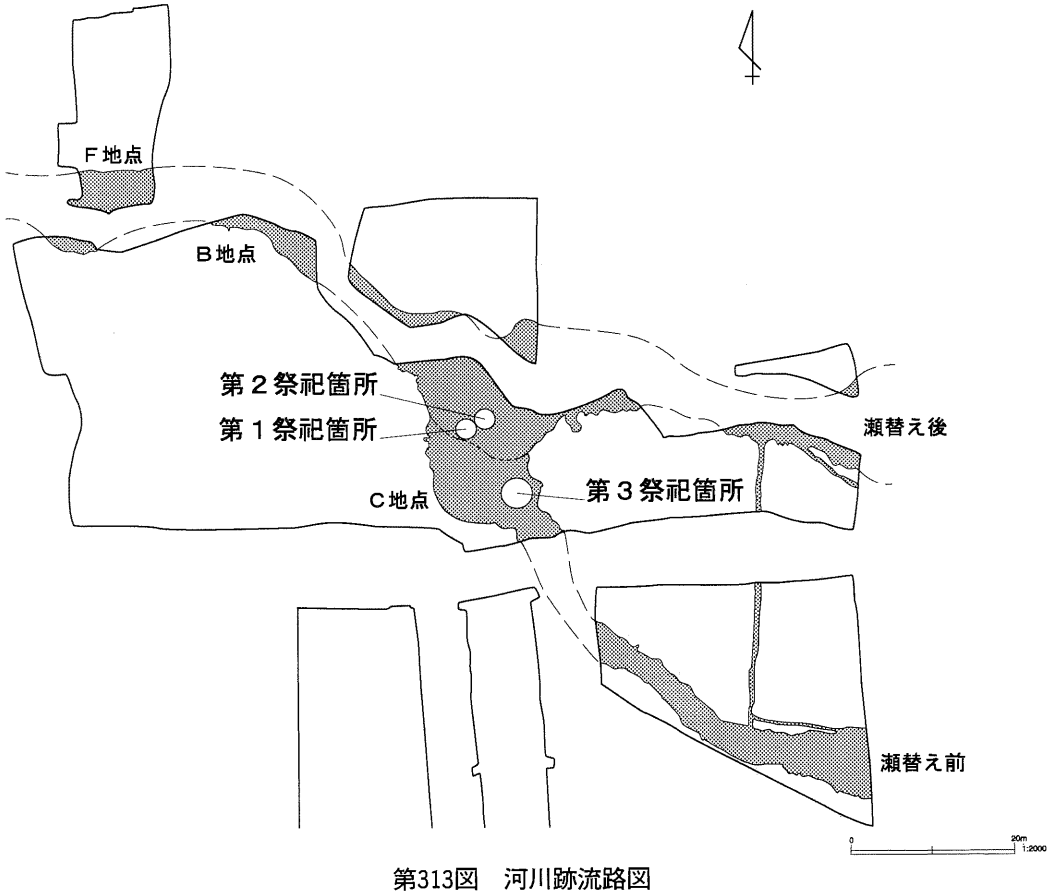
諏訪木遺跡では、調査区を東西及び南北に貫く河川跡を検出した。調査の結果から、河川跡C地点において9世紀に瀬替えが行われていることが解り、流れを復元すると、上流A・F地点からB・H・I・J地点をとおりC地点に至り、8世紀以前は、G地点へと流れていた。そして、瀬替えを経て東西の流れになり、K地点、D・E地点へと流れ、調査時現況河川の衣川とほぼ流路が一致していた。

河川は、長期にわたり改修・利用されていたと考えられ、各々の調査地点で出土する遺物の時期が異なることがこれを傍証すると考える。例えば、A地点では近世の遺物、B・G地点では古墳時代後期を中心とする遺物、F地点では8世紀初頭から11世紀の遺物、C地点では古墳時代後期を中心として11世紀の遺物が検出されたようにである。中でも、B地点、C地点、及びF地点は、河川における水辺の祭祀が行われたと考えられる遺物が大量に出土した箇所である。ここでは、各地点の祭祀の状況を概観し、祭祀の変遷を考えていきたいと思う。

最初にB地点である。ここでは、弥生時代中期から古墳時代後期までの多量の土器や木製品などに混じって、馬頭蓋骨などの獣骨なども検出した。これらの遺物の中で、注目されるのが、馬頭蓋骨、木製

壺鐙、滑石製臼玉の祭祀関連と考えられる遺物である。まず、馬頭蓋骨であるが、下顎は失っているもののほぼ完全な形で出土した。しかも、木製壺鐙を含む農工具などの木製品を出土した古墳時代後期の土師器・須恵器を含んだ層からの出土である。これは、古墳時代後期の完全な馬頭蓋骨の全国的に珍しい検出例であった。この馬頭蓋骨は、前頭部中央が故意に打ち欠かれたように陥没していた。この馬は、宮崎重雄氏の鑑定によれば、体高約130cm、推定年齢10才前後の雌の中型馬であるという。一般的に、遺跡から出土する動物遺存体のほとんどは、様々な理由によりゴミ捨て場や溝などに廃棄された結果であることが多い。さらに、溝や河川から出土した場合は、祭祀の後にそこに埋没したものか否か区別が困難である。しかし、葬送儀式や水神に対する信仰により馬が使われた例は、時代を超えて見られる。例えば、馬そのものではないが、古墳時代後期から平安時代にかけて祭祀が行われた市内西別府祭祀遺跡では、滑石製模造品の馬形などを水源池に投じて祭祀を行っている。また、市内一本木前遺跡においても、入り江に面した祭祀跡から古墳時代後期の土器、滑石製臼玉・有孔円板形模造品に混じって、馬の頭蓋骨が出土している。さらには、平安時代の例であるが、千葉県船橋市印内台遺跡では、調査区のほぼ中央を走る幅２～３m、深さ１～1.5mの溝跡から１個体の馬の骨とそれ以外の散乱した破片骨が出土している。ここで出土した馬頭蓋骨も前頭部中央に屠殺のための打撃による陥没が認められ、遺体の埋没には人為的なことが指摘されている。

さらに、生馬に関する文献資料をみると、国家祭祀と個人及び共同体祭祀があったことが知られる。正史において国家が神に馬を献ずる最初の記事は、『続日本紀』文武二年（698年）に二つ見られる。また、『続日本紀』天平宝字七年（763年）や宝亀二年（771年）には雨を祈って馬を奉じた記事が見られる。



第313図　河川跡流路図

一方、個人及び共同体祭祀に関しては、『日本書紀』皇極天皇元年(642年)に、当時村々で行われていた雨乞いの風俗を伝えるもので、「牛馬を殺して諸の社の神に祭る」とか「河伯（河の神）を禱る」などの記事が見える。これらの祭りは民衆の祭りで、馬による祭りは祈雨の祭りであるが、国家祭祀との違いは馬を屠殺する点にある。屠殺は、不浄を嫌う神が雨を降らせて清めるのを期待すると言うよりは、むしろ強制する行為と考えられている。これは、農業を生活基盤とする人々が水利などに関わる祈雨祭をこのような形で行っていたと考えられる。なお、6世紀段階には既に屠殺された馬の発掘例があり、民衆の間でこれらの祭りが行われていた可能性が高く、本遺跡例もこれに該当するのではないかと考える。

次に、F地点である。ここでは、祭祀関連遺物としては、馬形、斎串、馬頭骨などが挙げられる。馬形は、人形に移る鬼神の乗り物、供献物の運搬手段としての機能をもつとされているが、人形らしき木製品は検出できたが確証に乏しく、馬形とのセット関係は不確かである。また、馬頭骨に関しては、B地点とは、時期的に下った8世紀以降のものであるが、さまざまな文献資料が示すように引き続き祈雨の祭が執り行われていたのであろう。

最後に、C地点である。9世紀段階の瀬替えによって流路が変化していることは既に述べたが、この瀬替えが流路の変化をもたらしたことは当然のことであるが、祭祀の形態の変化もまたもたらしたようである。これは、逆に祭祀の変化が瀬替えをもたらしたとも言える。

最初の南下する流路では、おおよそ8世紀代までの土器とともに多量の祭祀に関わる木製品、土製品、石製品が出土している。もちろん、土器の中にも祭祀に関わるものが含まれる。第1の場所は瀬替え後の東西流路と重なる箇所（拡大範囲C〈第208図〉）で、祭祀にかかわる遺物が集中して出土している。須恵器甕・長脚二段スカシ有蓋高坏・無蓋高坏などとともに滑石製臼玉、ガラス小玉、丸玉、管玉、耳環、土製玉、勾玉、木製の櫛などが出土した。また、被熱して融解した銅鋺の破片が出土した。これは、火を使用した祭祀も想定しなければならないであろう。第2の場所は第1の場所の対岸、平坦部分（拡大範囲B〈第207図〉）で、滑石製臼玉・有孔円板形模造品、管玉、丸玉、馬歯などとともに耳環、須恵器甕などが出土した。この場所は、広い平坦部に平たい川原石が敷き詰められているかのような場所であった。これらの場所は、後述するが瀬替え後も祭祀の場所として使用されていたことが窺える。第3の場所は、C地点の南西部8区R—26・27グリッドを中心とした場所である。土師器高坏、須恵器甕・長脚二段スカシ有蓋高坏・フラスコ形瓶・横瓶などとともに高坏形、壺形、坩形のミニチュア土器が出土した。他には滑石製臼玉、小玉、丸玉、勾玉、管玉、切子玉、刀形・太刀形・剣形の木製の形代が出土した。また、南下する流路全体を見ると、須恵器提瓶・徳利形平底壺・脚付長頸瓶、木製の丸木弓などの祭祀に関連すると思われる遺物も出土している。これらの出土遺物の中で日常什器としては使用されず祭祀用に発達したものに須恵器の甕がある。古墳時代にだけ見られる器種で、かみ（嚼）酒、醴酒などに関係したものと考えられ、この器種の出土量が多いのは注目される。また、ミニチュア土器に関しても神に捧げる供物が盛られていたのであろうか。一方、木製品の中で注目したいのが、刀などの武具を模したものである。これらは、刀本来の機能すなわち敵を防ぐという機能から、人間世界にさまざまな障害をもたらす疫神、豊かなみのりを妨害する祟り神に対して防ぐという意味合いをもち、祭祀の場で機能したと考える。また、弓に関しても刀形と同様に祭祀に関わるものとも考えられる。確かに弓は、狩猟・戦闘用との区別が難しいが、『延喜式』では、太刀を用いる祭祀に弓が伴うことが多い。また、

群馬県群馬町三ツ寺遺跡では、木製の刀形と弓を水源となる用水に対する祭祀に使用されたとしており、この遺跡は5世紀第III四半期に位置づけられている。これからすると、本遺跡も含めて刀形や弓は、この頃から祭祀においてさまざまな疫神に対しての防御の手段に使われていた可能性が考えられる。

もう一つの瀬替え後の流路における祭祀を見てみると、前時代の祭祀箇所と一致した箇所での祭祀が見られる。これは前時代から祭祀を執り行う場所を聖なる場所として引き続き継承していったことが窺える。その1つは、第1とした場所である。この場所には、河川右岸側から河川中のゆるやかな平場におりるためのスロープのような杭列が検出できた。このたもとでは、石製銙帯具の巡方、三彩陶器小壺、馬頭蓋骨、斎串などが出土した。斎串は、祭祀に関わる遺物であるが、人形などと伴に使用される。水に関係する遺構から出土するが、他の場所で使用されたものがそこに投棄されたものと考えられる。一方、人形はそれに罪や穢れを負わせて流れに投じる祓いの儀式に使われるものであるが、これについてもこの流路で2点検出されている。これらはこの祭祀場所の上流と下流に分かれて出土しており、流れによって移動したことが窺える。人形は馬形とともに7世紀末の天武・持統朝期に新たに成立する律令的祭祀具であると考えられている。また、時代、地域によって形が異なり、時期を特定するのは困難と考えられているが、畿内の木製人形には編年がある。これに当てはめて本遺跡例を考えてみると、形態的な特徴から推定して、いずれも9世紀後半のものに該当すると考えられる。

そして、もう一つは、第2の場所としたところで、そこでは、墨書が書かれた須恵器坏などが比較的多く出土した。

以上のように、本遺跡における河川祭祀の場所は、時期によってさまざまに変化している。B地点の祭祀形態、C地点の9世紀を境にする形態の変化などである。C地点については、9世紀を画期にそれ以前は、南下流路（一部東西流路に入るとも考えられる）の主に3箇所で、それ以後は東西流路の主に2箇所で行われていたことが推測できた。これらの前者と後者の祭祀形態は、遺物から違いが見られた。前者は、滑石製臼玉・有孔円板形模造品、玉類、ミニチュア土器、刀形や弓などの斎串・人形を除く祭祀具を伴うもの、後者は、人形、斎串などの祭祀具にさらに三彩陶器小壺や石製巡方などの遺物である。これは、9世紀段階に河川の右岸に集落が大きく展開するが、これに伴って河川の瀬替えを行い、祭祀の形態に変化をもたらしたと考えられる。それは、今までの状況を一新したい気持ちの表れが感じられる。また、古墳時代までに受けつがれた祭祀形態が、古代律令国家成立を機に新しい祭祀の形態が誕生し、律令的祭祀となって変化したものであるとも考えられる。この律令的祭祀は、従来の祭祀に、道教などの新しく大陸からもたらされた民間信仰を付け加えることによって変化し、天皇の絶対的地位を確立するための信仰面への国家的政策であったとされている。そういった面からは、律令制の当地における浸透と関わりをもっているのではないだろうか。

2　遺物について

(1)　灰釉陶器

諏訪木遺跡出土の灰釉陶器は、図化したもので61点を数える。器種としては、椀・皿・段皿・耳皿・長頸瓶・手付瓶が見られた。生産地については、猿投・二川・浜北・京都・東濃のものが見られたが、

東濃産がほとんどであった。時期としては、９世紀前半から10世紀前半に収まるようである。出土遺構は、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、土坑墓、溝跡、区画溝、河川跡などであった。

竪穴住居跡では、第２・３・４・８・19号住居跡で皿が出土した。いずれの皿も東濃産である。時期差はあるものの第２～４号住居跡は第２区画エリアに所在し、おそらく第28号掘立柱建物跡も同時期に存在したのではないだろうか。第８号住居跡は第１区画エリアの北のエリアに単独で、第19号住居跡は河川左岸の地区に所在した。

掘立柱建物跡では、第８・９号掘立柱建物跡で椀が出土した。いずれも東濃産である。第８・９号掘立柱建物跡は、第８号掘立柱建物跡を建て替えて第９号掘立柱建物跡を建てた関係にある。

土坑では、９区M―27グリッドに位置するIV区第57号土坑から椀と皿が出土した。いずれも東濃産である。

８区N―24グリッドに位置するIV区第53号ピットからは、東濃産の長頸瓶が出土した。

土坑墓からは、VII区の第６号土坑墓から東濃産の椀が須恵器椀を伴って出土した。

溝跡については、Ｉ区第６・８号溝跡、IV区第７・８・９号区画溝、IV区第６・24・36号溝跡から出土した。Ｉ区第６号溝跡の高台付皿はいずれも浜北産であった。Ｉ区第８号溝跡からは、椀・稜椀・長頸瓶が出土し、いずれも東濃産であった。IV区第７号区画溝からは椀・皿・瓶が出土し、東濃産であった。第８号区画溝の椀・皿も東濃産、第９号区画溝の高台付皿は、第161図９―２が東濃産、第161図９―３が二川産である。IV区第６号溝跡からは椀・高台付皿の他、耳皿が出土した。皿は浜北産、他は東濃産である。IV区第24号溝跡の椀は東濃産、IV区第36号溝跡の高台付皿は猿投産である。

河川跡については、Ｃ地点とＦ地点で出土した。Ｃ地点では、椀が３点、高台付皿が２点、長頸瓶が１点出土し、ほとんどが東濃産であったが、第223図173の皿は浜北産であった。Ｆ地点では、椀が４点、高台付皿が４点、段皿が１点、長頸瓶が１点の合計10点出土した。ほとんどが東濃産であったが、第53図237の椀は猿投産であった。

さらには、遺構外であるがＩ区から皿２、椀１、IV区から椀４、皿３、手付瓶１が出土している。IV区の第282図７の椀・19の皿は浜北産であった。珍しいところでは、第282図21の東濃産の手付瓶は県内ではあまり出土例が見られなく、信濃や上野地方に多く見られるものである。

以上が当遺跡の灰釉陶器の状況であるが、特徴的なのは遺跡の中でいくつか区画されたエリアがあるがその中でまとまって出土しているように考えられる。例えば、第２区画であるが、IV区第７・８・９号区画溝及びIV区第36号溝跡、第４号住居跡から出土した。また、この区画の河川跡Ｆ地点を挟んだＩ区も第６・７号溝跡と第８号溝跡に区画され掘立柱建物跡群と住居跡が所在するが、その区画するIV区第６・８号溝及び区画南の河川跡Ｆ地点から多く出土している。

そして、31棟検出された掘立柱建物跡のうち、第８・９号掘立柱建物跡にだけ灰釉陶器及び緑釉陶器が出土し、特異な様相を示している。

当遺跡おいて東濃産のものが多数を占めていることは前述したが、この東濃産の出土が多いのは県内では上里・美里地域であり、当遺跡も特異な例であると考えられる。すぐ北に所在する北島遺跡でも東濃産が見られ、当遺跡を含めて信濃や上野の山方面からの流通経路の東限ないしは南限の可能性も考えられる。一方、流通形態としては、同じ高台のものがない理由から、いったん窯から中間地点、例えば

国府などに供給されたものが、2次的に時期幅なく他種類が供給されたと考えられる。(この灰釉陶器に関しては、田中広明氏に実見していただき、多大なるご教示とご指摘を受けた。)

(2) 緑釉陶器

諏訪木遺跡出土の緑釉陶器は、数は少ないものの10点を数える。いずれも破片資料である。器種として、椀・稜椀・皿・段皿があった。生産地は、猿投・近江産が見られた。時期はいずれも9世紀後半(9世紀第III・IV四半期)と考えられる。出土遺構は、掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝跡・河川跡であった。IV区に所在する第8号掘立柱建物跡、第8号住居跡、第2区画の第7号区画溝・第4号住居跡、I区に所在する第17・19号住居跡及び河川跡F地点であった。

第7号区画溝の皿、第17号住居跡、第19号住居跡及び河川跡F地点の稜椀は、陰刻花文の文様が施されていた。

第4号住居跡出土蛇の目高台付き椀(第95図4—5)は近江産、それ以外の9点は、全て猿投産であった。

以上が緑釉陶器の遺跡における概要だが、緑釉陶器出土遺構は、灰釉陶器出土遺構とほぼ重なっていることが確認できた。このことは、先に灰釉陶器ついては述べたが、緑釉陶器も灰釉陶器と同じく流通してきたということであろう。

(3) 墨書土器

諏訪木遺跡出土の墨書土器は、総数で159点に上る。最も墨書土器を出土した遺構は、河川跡F地点で106点であった。次いで、河川跡C地点で44点であった。竪穴住居跡・掘立柱建物跡では出土点数が極めて少なかった。次に器種を見てみると、圧倒的に坏・椀が多く大多数を占め、次いで蓋、皿、瓶という順になる。また、土師器には少なく、159点のうち135点が須恵器であった。

一方、文字について見てみると、一文字では、「木」、「へ」、「門」、「月」、「寺」、「文」、「大」、「官」、「山」、「刀」、「日」、「巳」、「三」、「西」、「寸」、「舎」、「真」、「田」、「丈」、「宮」、「長」、「酒」、「里」、「院」、「相」、「本」、「句」、「浄」、「吉」、「醴」などが見られる。二文字以上では、「當成」、「寺師」、「□前」、「正院」、「上公」、「上公大」、「□郷□殿」などが見られた。その他、記号状の文字や、渦巻き文など字としては判別できないものもあった。

これらの中で、最も多かった字は、「木」であった。実に56点に上る。字体も様々で、大まかに分類すると、①2画目のはねをしないで止め、4画目のはらいが大きいもの、②2画目のはねをしないで、3・4画目がほぼ均等になるもの、③2画目のはねをするもの、④全体的に線が細く、2画目のはらいが大きいもの、⑤全体的に力強く、3・4画目のはらいを2画目の中位から出すもの、⑥1画目の止めが点を書くような止めのものなどに大別できる。例を挙げると、①例は、第42図3・5・6、第43図26・36、第44図47・48・51・57、第221図139、第222図151。②例は、第42図11・25、第43図35・42、第44図47・55。③例は、第42図2・9・24、第43図30・40、第44図44・52、第222図142。④例は、第42図13、第43図37、第44図49・50・54・56、第222図158。⑤例は、第43図31・41。⑥例は、第42図8、第43図32・38、第44図45である。①例では第42図3・6は非常に似かよっているし、④例でも第44図49・56は字の癖が

よく似ている。また、⑥例は非常に特徴的な字体を示している。

以上のように、同じ「木」という字を取り上げても、字体が様々で、多数の人々によって書かれたことや、字体の若干の違いはあるものの似かよっているものは、人から人へ字が受け継がれたことなどが想定できる。

一文字の字は、何を意味するのかについての判断がなかなか難しい。その中でも「木」、「山」などは「多く」という意味を示す字と考えられ、五穀豊穣など人々の繁栄に対する願いが込められているのではないだろうか。第2号住居跡出土の「吉」と「醴」の文字が書かれた須恵器椀についてだが、「吉」は吉祥句で、めでたいという意味であろう。一方、「醴」は一夜酒で甘いアルコール度の低い酒のことである。めでたい時にこの酒を飲むために墨書きされ使用されたのであろうか。また、「門」、「舎」、「宮」、「院」、「寺」などは建物や施設などの存在を連想できるし、「官」などはその施設で働く人々の役職に関係あるのではなかろうか。「□郷□殿」などは、まさにこの地域に地方の役所的な施設が存在していたことを想像させる。そして、「寺」、「院」は、「寺師」とともに寺の存在とその寺に関わる人々の活動が想定できる。このことに関しては、Ⅰ区において若干の瓦片、鉄鉢形土器、瓦塔破片が出土していることに関係があるのではないだろうか。

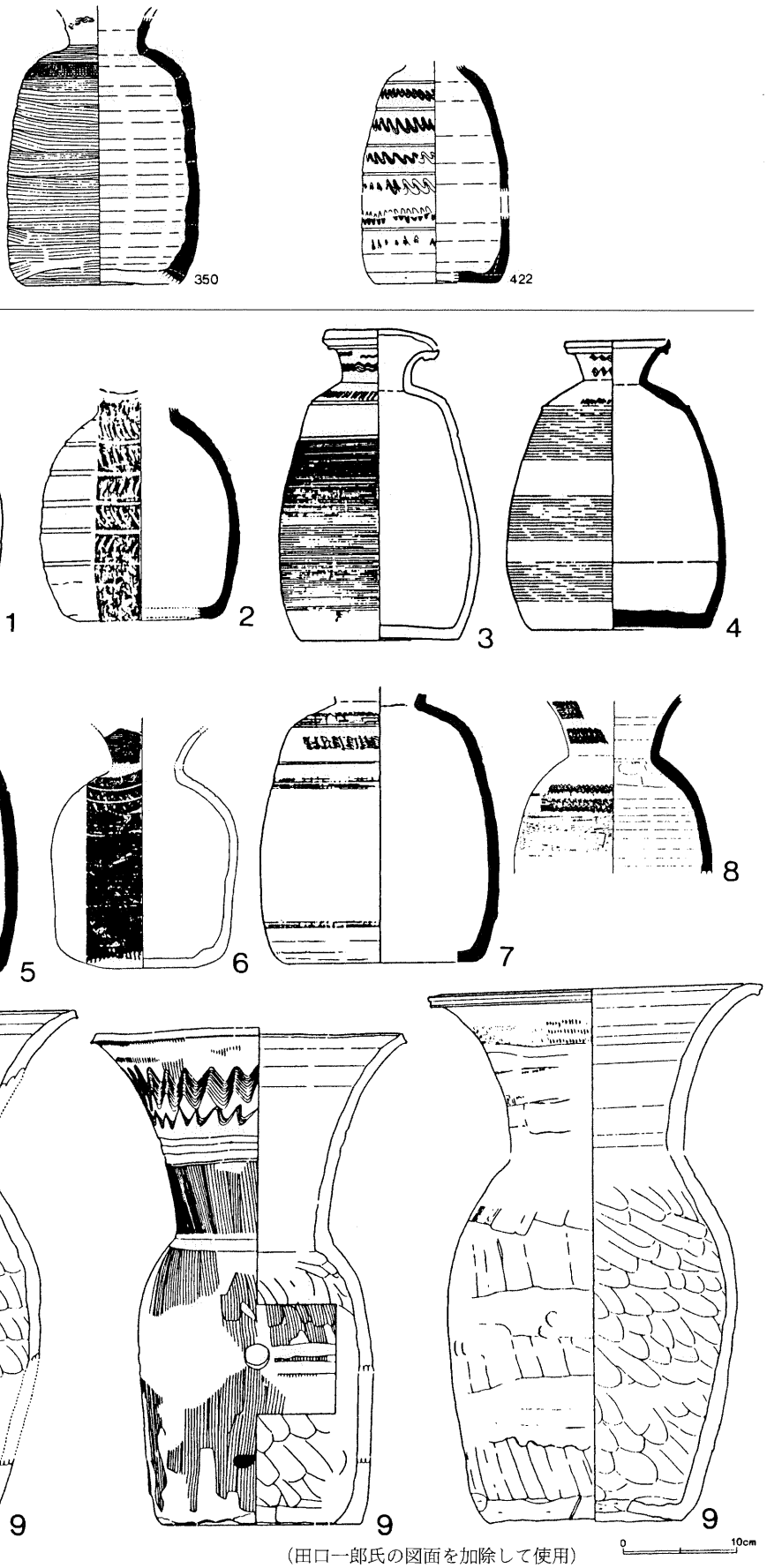
また、「西」という字は、本遺跡の西に所在する池上遺跡でも4点出土している。そして、内2点は二文字のいずれかの字である。本遺跡例は一文字例と考えられるが、池上例はやや雑な筆致であるのに対して、諏訪木例は比較的丁寧で力強いものである。

一方、二文字例の内、「正院」は、何かの施設の存在を示し、「□前」は、何かの施設（建物）の前を示すとも考えられる。「當成」は、人の名前であろう。この字が書かれた須恵器椀（第47図83）には、この字が内面に1つ、外面に2つ、さらには内面底部に「酒」という字が、かなり達筆な筆跡で書かれていた。この人物の所有物であり、酒を扱う際に使用するための専用容器、または、酒を取り扱う職に就く者であろうか。

(4)　須恵器徳利形平底壺（第314図）

諏訪木遺跡では、関東では群馬から埼玉にかけての北西部に分布するいわゆる徳利形平底壺という特徴的な器形の須恵器が2例出土した。この器種は、百済系の平底壺として畿内をはさみ東国と朝鮮半島との関わりの中で注目されるものであると認識されている。本遺跡例は、おそらく関東北西部で15例目、埼玉県内で6例目になるであろう。いずれも河川跡からの出土である。C地点と呼称した河川跡の9区A－26グリッドから第230図350が、8区T－27グリッドから第232図422である。前者は、比較的短胴で肩が張り、最大径を下半にもつ寸胴である。口縁部は欠損しており不明である。文様の特徴は、口頸部に1条の櫛描波状文をとどめ、肩部に刺突文を施し、それ以外の胴全体にカキ目が巡る。後者は、前者と比べると長胴でなで肩、最大径を底部近くにもつ。口縁から口頸部は欠損していて不明。文様の特徴は、凹線（沈線）区画を胴部に5つ（途中欠損のため6つが妥当か）もうけ、その中に櫛描波状文を施す。両者の類例を探すと、前者は、胴の形態は異なるが文様形態は群馬県伊勢崎市権現山2号墳例（第315図1）と、後者は、やはり胴形態は異なるが、群馬県富岡市久保遺跡例（第315図4）、子持村伊熊古墳例（第315図3）と似ている。しかし、微妙に文様施文の方法が異なり、各例バラエティーに富み製作

諏訪木遺跡例



（田口一郎氏の図面を加除して使用）

第314図　北関東西部の須恵器徳利形平底壺

者の好みが反映しているようにも見える。それでは、以下出土遺構や時期的なことについて考えてみたいと思う。

まず出土遺構についてだが、本遺跡では水辺の祭祀が行われたと考えられる河川跡からであるが、他の関東例を見てみると、圧倒的に古墳出土例である。実に８例を数える。そして、窯跡、住居跡、祭祀遺構である。全国的な分布は、関東北西部の他に北部九州、近畿周辺に濃密な分布が見られるが、そのほとんどがやはり古墳例である。祭祀遺構について見てみると、群馬県富岡市久保遺跡例がある。径１～２ｍの石で覆われた円形壇中央の窪みから出土した須恵器の中の１点で、石製模造品7,000点以上、鉄製模造品、玉類、土師器とともに出土した。祭祀の対象や主催者像など不明な点が多い。一方、古墳例を見てみると、横穴式石室などの埋葬施設内が多く、埋葬に伴う葬送儀礼に用いられている場合が多いようである。この古墳例については、埋葬施設ではないが、近隣では行田市埼玉古墳群中の１基、前方後円墳である中の山古墳周堀くびれ部の埴輪列に確認されている（第315図９）。さらに、この古墳に供給された徳利形平底壺を焼いた窯が、寄居町末野窯跡群末野遺跡第３号窯で確認されている。住居跡例については、群馬県子持村黒井峯遺跡Ｃ－49号住居跡、県内では深谷市上敷免遺跡第70号住居跡（第315図８）で出土している。この上敷免例は、なで肩の胴で、頸部及び肩部の凹線区画の上下に櫛描波状文、以下カキ目を巡らすものである。形態的には、中の山古墳例に似てあまり肩の張らないタイプであるが、文様つかいなどは伊熊古墳例系統に似て、埼玉県美里町広木大町９号墳例（第315図７）と酷似する。以上のように、徳利形平底壺は、基本的には他の横瓶、提瓶、平瓶などの瓶類と同じように葬送儀礼に用いられていると考えられ、広義で解釈すれば、祭祀行為の一環で取り扱われる容器と言っても良いのではないか。

それでは、この土器の時期的なことであるが、田口一郎氏の分類によれば、群馬県伊勢崎市恵下古墳例（第315図２）・権現山２号墳例のような短胴で最大径が中位にあるものは１類に、久保遺跡・伊熊古墳・広木大町９号墳例のような長胴で最大径が下がり肩部の屈曲が顕著なものを２類に分類している。３類は、２類に比較的近いものとし、群馬県赤堀町五目牛８号墳例（第315図５）、栃木県壬生町上原１号墳例（第315図６）を充てている。４類は、中の山古墳例を充て、この土器の系譜に位置づけている。時期は、１類がMT15～TK10形式、２類が１類とほぼ同じ時期ないしはやや後出する時期、３類がMT85形式（６世紀後半）、４類がTK43～TK209形式の須恵器形式に位置づけている。それでは、本遺跡例はいつに位置づけられるのであろうか。形態的に見ると、第232図422は２類に近いものがある。第230図350は２類でもやや３類的要素をもっている。文様を見ると、前者は、１類の権現山２号墳例に似る。以上からいずれにしても、本遺跡例は６世紀前半に位置づけられると考える。この時期は、北関東西部の分布地域へ２系統が伝播したか、２つの製作工人が関わったかと考えられる状況下にあると考えられているので、互いに影響し合う状況は多分にあると考える。

ちなみに、１類は伊勢崎市周辺、２類は西方に片寄り、その間には利根川が画している。３類は伊勢崎市周辺と東方の栃木県に片寄って分布する。４類は、埼玉県北部に分布する。本遺跡例が、２類であるとすると、主に分布する地域と大きく離れた所に位置づけられ、今までの例では特異な分布を示すことになる。

(5) 祭祀遺物

諏訪木遺跡では、河川跡から様々な祭祀に使われたと考えられる遺物が出土した。これらの遺物は、土器に始まり、石製品、金属製品、木製品と材質も様々であった。時期も、古墳時代から平安時代と幅広いものであった。これらは特に、C地点と呼称した河川跡箇所からの出土が目立った。それでは、いくつかの祭祀具を取り上げてみていきたいと思う。

滑石製模造品

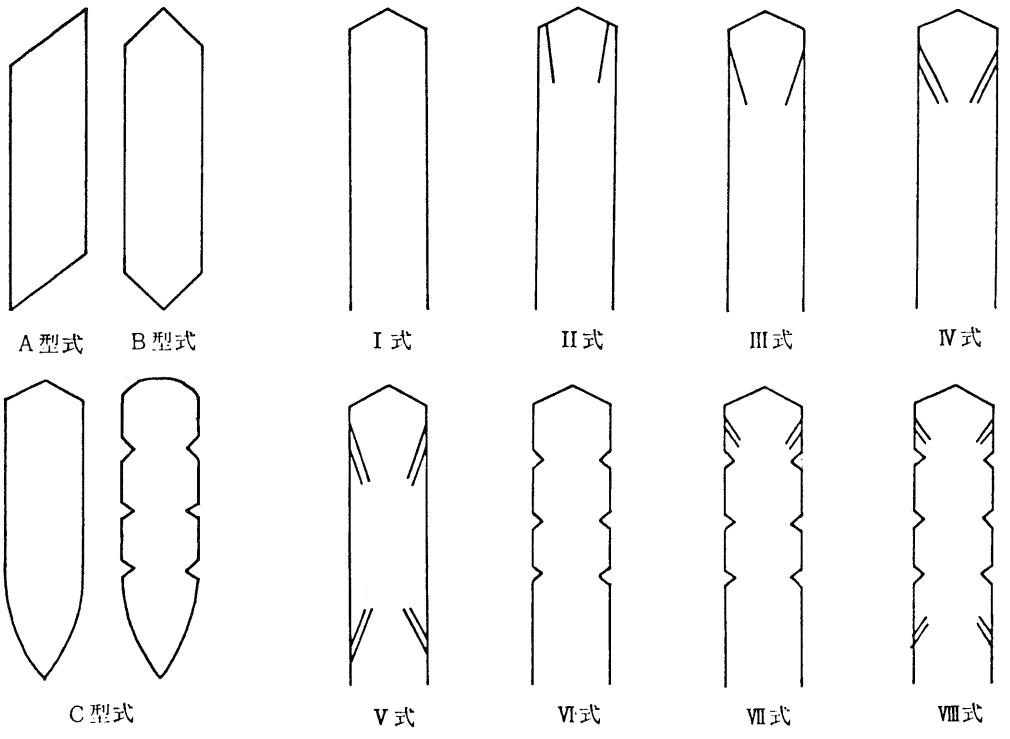
河川跡からは、臼玉、有孔円板形、剣形、砥石形の模造品が出土した。B地点からは、2点の臼玉の出土があっただけだが、C地点からは、臼玉197点、有孔円板形11点、剣形2点、砥石形1点という出土であった。臼玉は、おおまかに直径5㎜前後の小型、直径1㎝前後の中型、直径2㎝前後の大型にわけられ、厚さは、小型品は3㎜前後と薄く、中型品は5㎜以下のものと1㎝前後のものとに分けられる。大型品は、1㎝前後と厚いものであった。小型品は16点、大型品は7点と少なく、主体は中型品と分類したものであった。剝離などの欠損品も多く、製作時のものか、祭祀行為の後何らかの理由で欠けてしまったのか、材質の特性か判断は難しい。

有孔円板形は、双孔のものが2点で、他は単孔のものであった。材質を見ると、単孔のものと双孔のものとは同じ滑石でも若干の質感の違いがみられた。やはり完形品は少なく、欠損するものが多かった。市内西部所在する西別府祭祀遺跡では、馬形、櫛形、有線円板形などとともに有孔円板形も出土したが、いずれも単孔であった。有孔円板形は、古代の鏡を模したものと理解されているが、その鏡の鈕を見ると2つ孔に見える。これを模したとすれば双孔が最も忠実に鏡を表現し、単孔は簡略化された表現なのであろうか。砥石形とした模造品については、砥石に形状が似ているので仮に呼称したものである。現況では本来何を模したかは不明である。

斎串

木製の祭祀具は、河川跡から多く出土した。中でも斎串や人形・刀形・馬形などの形代は注目される。これらは、1回限りの使用の後遺棄されたもので、多くは、板材を切り抜く平面的形態をとるのが一般的である。また、刀形などは弥生・古墳時代以来存在するが、斎串、人形、馬形などは、7世紀に出現したものである。ここでは、斎串、人形、馬形を順にみていきたいと思う。

斎串は、細長い薄板の両端をとがらせ、側面に切り込みを施した串状製品である。用途としては、結界を表し、外部の悪気を遮断するとともに、人形の負った罪や穢れを外に漏らさぬ役割を果たしたと考えられている。本遺跡では、河川跡C地点から15点、F地点から1点、人形、馬形などとともに出土している。C地点に関して言えば、流路2とした東西方向の河道の特に9区A—24グリッドに集中して出土した。奈良国立文化財研究所（以下、奈文研）は、斎串を形状でA～Dの4型式、さらに側面の切り込み方によってⅠ～Ⅷの8式に分類している（第315図）。それによると、本遺跡出土斎串は分類形式のC型式にあたり、上端を圭頭状にし下端を剣先状にしたものである。そして、側面の切り込み方による分類によると、4種類の形式が該当すると考える。Ⅰ式は切り込みを入れないもの、Ⅳ式は上端近くの側面に左右2箇所以上切り込みを入れ1箇所の切り込み回数は1回のもの、Ⅴ式はⅣ式同様に切り込みを入れ1箇所の切り込みが4～5回に及ぶもの、Ⅵ式は両側面の左右対象位置を三角形に切り欠くものである。第266図68はCⅠ型式、第266図69・70・71・72はCⅣ型式、第64図7、第266図73・74はCⅤ型



（奈文研の図面を使用）

第315図　斎串形式分類図

式、第266図75・76・77・78はCⅥ型式に分類できる。時期的な点では、C型式は7世紀第Ⅲ四半期に出現し、8・9世紀には主にこの型式が展開すると考えられているようである。本遺跡に照らし合わせると、斎串を出土した東西の流路は、主に8・9世紀を中心とした遺物を出土したことから、時期的に合致していると考えられる。

人形

人形は、短冊型状の板を切り抜いて作る扁平なものと、棒状の材を用いて立体的に表現するものがある。用途は、罪や穢れ、悪気をその人形に移し、流れに投げ捨てる祓いのためのものであるというのが一般的とされている。本遺跡では、河川跡C地点の流路2の9区B—21グリッドで第267図83が、8区Q—25グリッドで第267図84が出土した。セット関係にある斎串の出土箇所から離れての出土だが、これは流れによって移動したものであろう。前者は、頭部は失っているが、正面全身人形である。頸部に入れた切り欠きにより怒り肩で、足の表現はV字の切り込みである。しかし、手の表現を欠くものである。一方、後者の人形もやはり正面全身人形であるが、足の状況は不明で手の表現を欠くものである。また、やや厚みのある板材を加工していた。時期的に見ると、肩の形状については、怒り肩は撫で肩の後に出現し、足の表現については、コの字切り込みに先行してV字切り込みが出現するようであるが、形態的に見ると、手の表現しないものは、するものより後出するようである。本遺跡例は手の表現を重視してみると、いずれも9世紀後半のものである可能性が考えられる。ちなみに、手を表現するものは、頬が膨らみ撫で肩表現は7世紀末から8世紀前半、頬がこけ怒り肩表現は8世紀後半以降主流になる形態である。そして、9世紀後半には、手の表現を欠き腰の部分に段を設け頭・胴・足を表現する形態に変わるようである（畿内における木製人形編年）。しかし、いずれにしても決定的な編年は確立していないようである。

馬形

馬形は、河川跡Ｆ地点において、斎串とともに検出された。馬形は、水神への祈願に流れに投じたとする見方が一般的である。本遺跡の馬形（第64図10）は、頭部のみ残存し、胴部以下は不明である。山形県八幡町、出羽国府と考えられている城輪柵跡の南東の俵田遺跡例では、旧河川の岸辺で祭祀跡が確認され、人形の入った須恵器甕の周囲に馬形・斎串が出土した。これは、斎串よってこの空間を遮断し、罪や穢れを負った人形を馬形が他界に運ぶという状況が考えられ、祭りの場の様子を示している。そして、この祭祀遺構はまさに祓所にあたり、出羽国府が執り行った大祓の跡と考えられている。なお、この遺構の年代は９世紀中頃と考えられている。本遺跡ではこのような状況は解らないが、斎串と馬形というセットで出土したのは意味のあることであろう。

以上、本遺跡における遺構、遺物で注目されると思われる事項について簡単にまとめてみた。

引用・参考文献

『熊谷市史』前編　熊谷市　1963
『新編　埼玉県史』資料編１　1980
『新編　埼玉県史』資料編２　1982
『新編　埼玉県史』資料編３　1984
大里郡市文化財担当者会「大里地域の遺跡Ⅰ」『埼玉考古』第29号　埼玉考古学会　1992
大里郡市文化財担当者会「大里地域の遺跡Ⅱ」『埼玉考古』第30号　埼玉考古学会　1993
小久保徹他『三尻天王・三尻林(1)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第23集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1983
高山清司「三ヶ尻上古遺跡」『埼玉県土器集成』４　埼玉考古学会　1976
鈴木敏昭『横間栗遺跡』熊谷市教育委員会　1999
木戸春夫『根絡・横間栗・関下』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第153集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1995
中島　宏他『池守・池上』　埼玉県教育委員会　1984
鈴木孝之『北島遺跡』Ⅳ　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1998
吉田　稔他『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1991
滝瀬芳之他『上敷免遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第128集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1993
田中広明『新屋敷東・本郷前東』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第111集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1992
田部井功『弥藤吾新田遺跡』埼玉県遺跡調査会報告第29集　埼玉県遺跡調査会　1976
寺社下博他『中条条里遺跡調査報告書Ⅰ』熊谷市教育委員会　1979
寺社下博他『天神遺跡』　熊谷市教育委員会　1988
寺社下博『中条遺跡群Ⅲ　権現山古墳・常光院東遺跡』　熊谷市教育委員会　1982
滝瀬芳之『東川端遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第94集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1990
増田逸朗他『横塚山古墳』　埼玉県遺跡調査会　1971
山川守男『城北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第150集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1995
寺社下博『中条遺跡群』　熊谷市教育委員会　1984
寺社下博「三尻中学校遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和55年度　埼玉県教育委員会　1982
寺社下博『中条遺跡群・中島遺跡』　熊谷市教育委員会　1980
金子正之『三尻遺跡群　黒沢館・樋ノ上遺跡』　熊谷市教育委員会　1985
小川良祐他『樋の上遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第59集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1986
坂野和信他『樋の上／皇山』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第205集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1998
金子正之『三尻遺跡群　上辻・下辻遺跡』　熊谷市教育委員会　1982
金子正之『三尻遺跡群　上辻・下辻遺跡』　熊谷市教育委員会　1984
中村倉司『下辻遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第69集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1987
川口　潤『本郷前東遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第78集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989
寺社下博『めづか』　熊谷市教育委員会　1983
利根川章彦他『新ヶ谷戸』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第９集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1982
中島洋一『酒巻古墳群』行田市文化財調査報告書第20集　行田市教育委員会　1988
寺社下博「熊谷市籠原裏遺跡の調査」『第20回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会他　1987

『埼玉県古代寺院調査報告書』　埼玉県県史編さん室　1982
吉野　健『西別府廃寺』　熊谷市教育委員会　1992
吉野　健『西別府廃寺（第２次）』　熊谷市教育委員会　1994
大場磐雄・小沢國平「新発見の祭祀遺跡」『史跡と美術』第338号　1963
吉野　健・松田　哲『西別府祭祀遺跡』　熊谷市教育委員会　2000
富田和夫『在家遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第220集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1998
浅野晴樹『北島遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第81集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989
中村倉司『北島遺跡』II　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第88集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989
大谷　徹『北島遺跡』III　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第103集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1991
『埼玉の館城跡』　埼玉県教育委員会　1968
『埼玉の中世城館跡』埼玉県教育委員会　1988
『中世の熊谷の武士たち』熊谷市立図書館　1998
『木器集成図録』近畿原始編　奈良国立文化財研究所　1993
『木器集成図録』近畿古代編　奈良国立文化財研究所　1985
寺社下　博『一本木前遺跡』　熊谷市教育委員会　2000
金子裕之「武器・武具・農耕具」『古墳時代の研究』３生活と祭祀　雄山閣　1991
金子裕之「平城京と祭場」『国立歴史民俗博物館研究報告』第７集　1985
金子裕之「歴史時代の人形」『神道考古学講座３巻』　雄山閣　1981
松井　章「養老厩牧令の考古学的考察―斃れ馬牛の処理をめぐって―」『信濃』　第39巻第４号　信濃史学会　1987
松井　章「環境考古学研究」『埋蔵文化財ニュース』　100　奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター　2000
巽　淳一郎「形代の種類と形代を使った祭祀の呪い」『日本の美術』まじないの世界II　至文堂　1996
平川　南「墨書土器とその字形―古代村落における文字の様相―」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集　1991
酒井清治「関東」『古墳時代の研究』６土師器と須恵器　雄山閣　1991
田口一郎「平底短頸瓶覚書―東国の渡来文化研究Ⅰ」『群馬考古学手帳』５　群馬土器観会　1995
若松良一『奥の山古墳・瓦塚古墳・中の山古墳』　埼玉県教育委員会　1989
福田　聖『末野遺跡Ⅰ』　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第196集　（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1998
『群馬県史』資料編３　原始古代３　古墳　1981

写　真　図　版

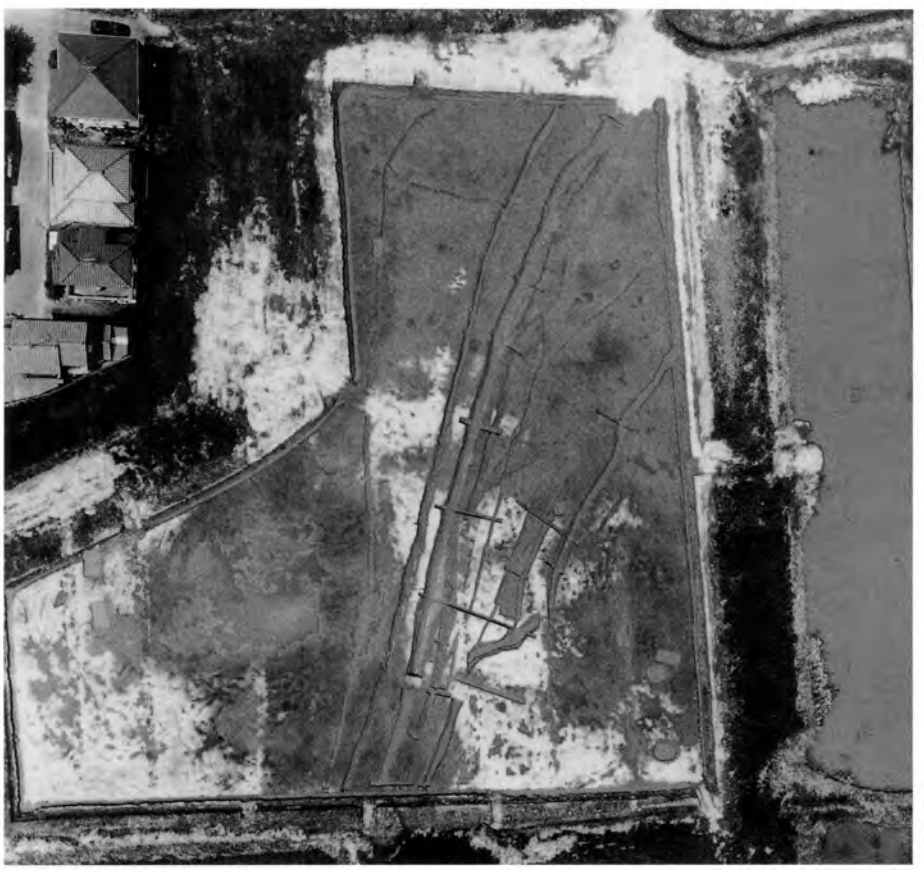
諏訪木遺跡全景

図版2

Ⅰ区全景

Ⅳ区河川跡Ｃ地点以西全景

Ⅲ区、Ⅳ区河川跡C地点以東、Ⅶ区全景



Ⅴ区全景

図版４

第１号住居跡

第１号住居跡遺物出土状況

第２号住居跡

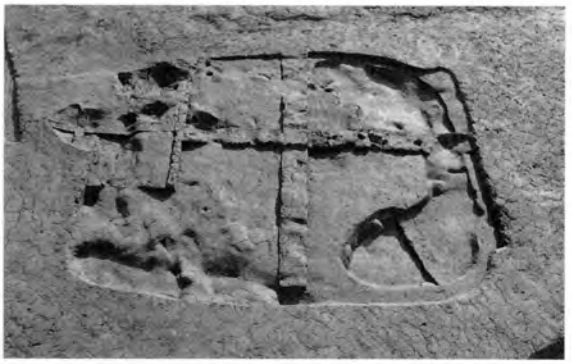
第２号住居跡カマド

第３・４号住居跡

第４号住居跡カマド

第５号住居跡

第６号住居跡

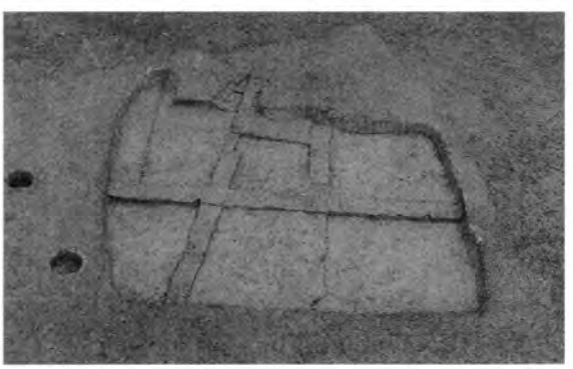


第７号住居跡

第８号住居跡

第８号住居跡カマド

第９号住居跡



第10号住居跡

第11号住居跡

第12号住居跡

第13・14号住居跡

図版6

第15号住居跡

第16号住居跡、Ⅳ区第73号土坑

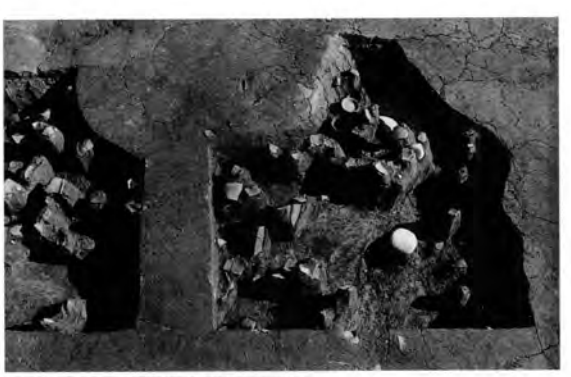
第16号住居跡遺物出土状況

第17号住居跡

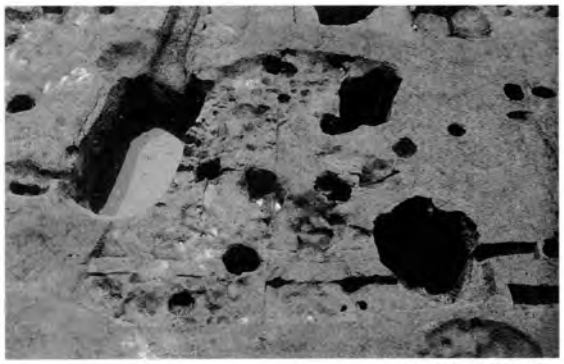
第17号住居跡遺物出土状況

第18号住居跡

第19号住居跡



第19号住居跡遺物出土状況

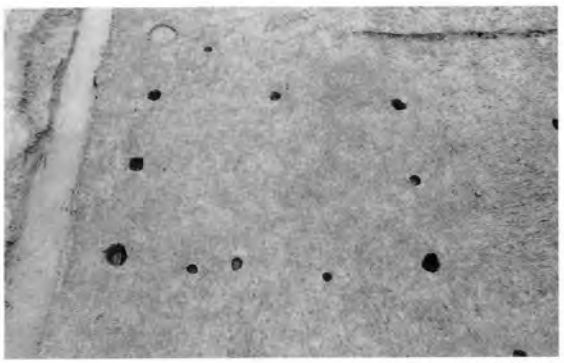


第20号住居跡

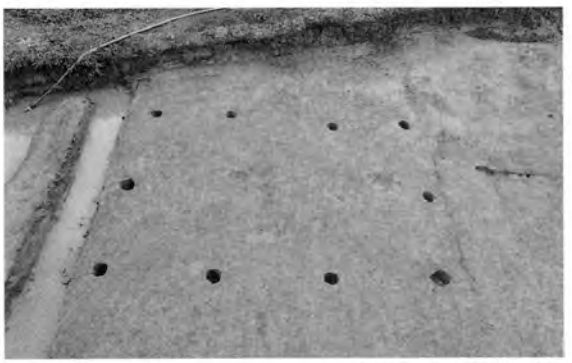
第21号住居跡

第21号住居跡遺物出土状況

第22号住居跡



第１号掘立柱建物跡



第２号掘立柱建物跡

第３・20号掘立柱建物跡

第４・５号掘立柱建物跡

図版８

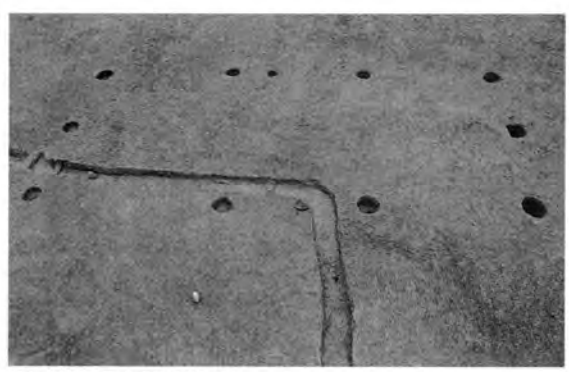
第４号掘立柱建物跡ピット３遺物出土状況

第６号掘立柱建物跡

第７号掘立柱建物跡

第８・９号掘立柱建物跡

第10・30号掘立柱建物跡



第11号掘立柱建物跡

第12・29号掘立柱建物跡

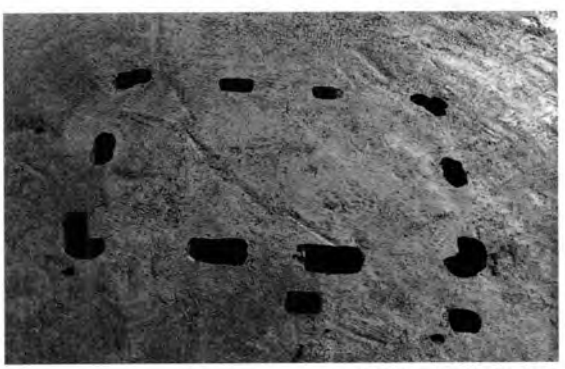
第14・27号掘立柱建物跡

第15号掘立柱建物跡

第16号掘立柱建物跡

第17号掘立柱建物跡

第18号掘立柱建物跡



第19号掘立柱建物跡

第21号掘立柱建物跡

第22号掘立柱建物跡

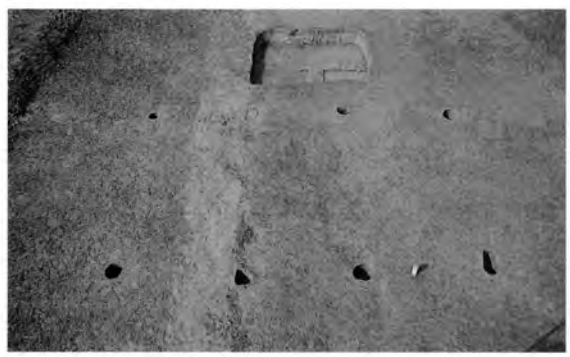
第23号掘立柱建物跡

図版10

第24号掘立柱建物跡

第24号掘立柱建物跡ピット２

第25号掘立柱建物跡



第26号掘立柱建物跡

第１号柵列

Ⅰ区第８号土坑

Ⅰ区第14号土坑

Ⅰ区第15号土坑

Ⅰ区第16号土坑

Ⅰ区第20号土坑

Ⅰ区第22号土坑

Ⅰ区第24号土坑

Ⅰ区第25・26号土坑

Ⅰ区第29号土坑、第56号ピット

Ⅰ区第30号土坑遺物出土状況

Ⅰ区第30号土坑、第68・69号ピット

図版12

Ⅰ区第34号土坑

Ⅰ区第41号土坑

Ⅰ区第41号土坑遺物出土状況

Ⅰ区第42号土坑

Ⅰ区第48号土坑

Ⅰ区第50号土坑

Ⅰ区第51号土坑

Ⅰ区第60号土坑

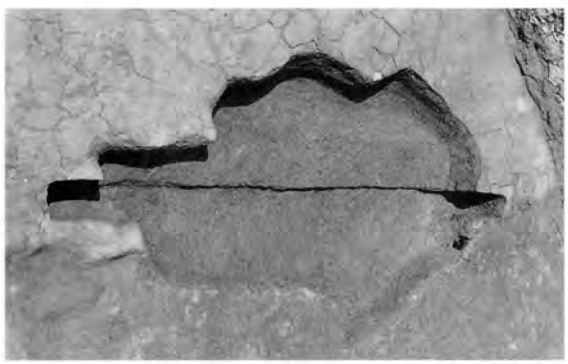
Ⅰ区第63号土坑

Ⅰ区第64号土坑遺物出土状況

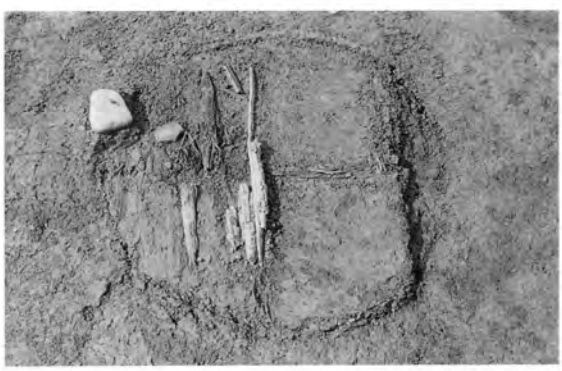
Ⅰ区第１号土坑群

Ⅰ区第２号土坑群

Ⅲ区第１号土坑



Ⅲ区第２号土坑



Ⅳ区第９号土坑

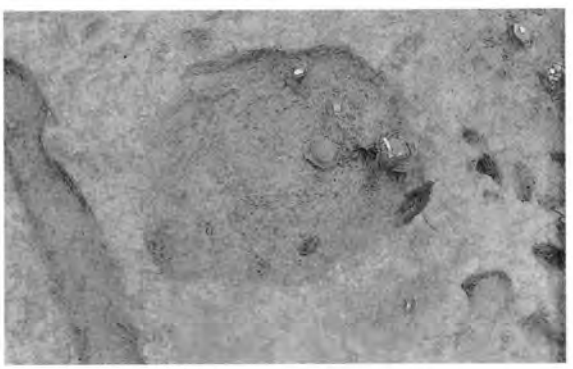
Ⅳ区第31号土坑

図版14

Ⅳ区第35・36号土坑

Ⅳ区第50・51号土坑

Ⅳ区第54号土坑

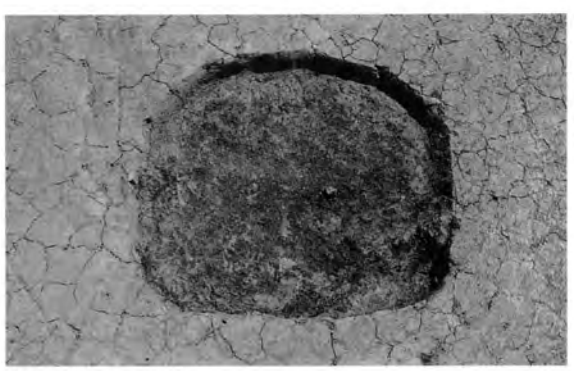


Ⅳ区第60号土坑

Ⅳ区第70号土坑

Ⅳ区第72号土坑

Ⅳ区第73号土坑

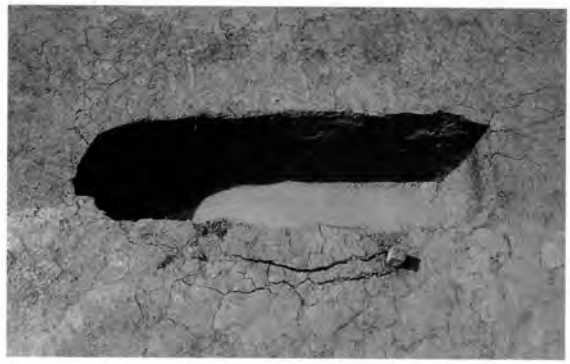


Ⅳ区第75号土坑

Ⅳ区第80・81号土坑

Ⅳ区第89号土坑

Ⅴ区第１号土坑



Ⅴ区第２号土坑

Ⅴ区第３号土坑

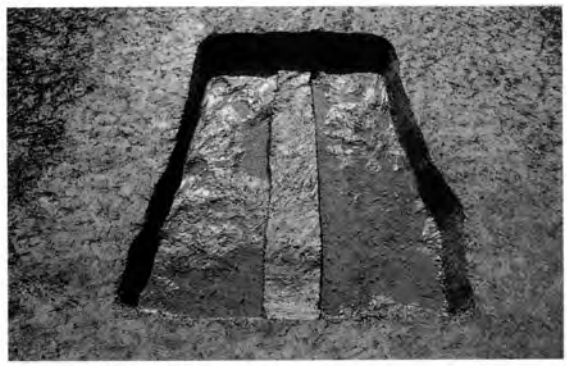
Ⅴ区第４号土坑

Ⅶ区第１号土坑

Ⅶ区第２号土坑

図版16

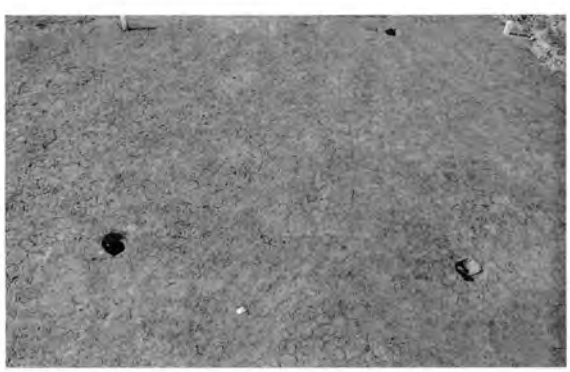
Ⅶ区第３号土坑



Ⅷ区第１号土坑

Ⅷ区第２・３号土坑

Ⅷ区第４号土坑



Ⅶ区ピット列

Ⅳ区第１号竪穴遺構

Ⅳ区第２号竪穴遺構

Ⅳ区第３号竪穴遺構

Ⅳ区第４号竪穴遺構

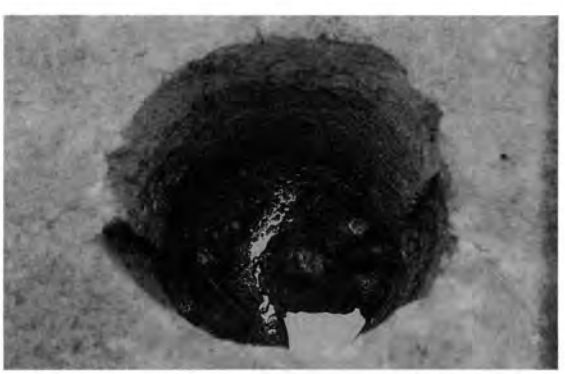
Ⅴ区第１号竪穴遺構

Ⅴ区第２号竪穴遺構

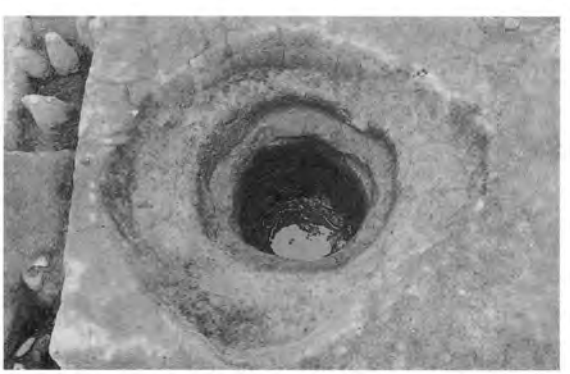
Ⅴ区第３・４号竪穴遺構

Ⅴ区第５号竪穴遺構

Ⅴ区第５号竪穴遺構遺物出土状況

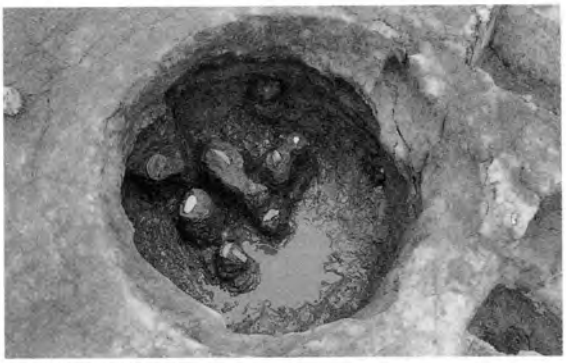


Ⅰ区第１号井戸跡



Ⅳ区第１号井戸跡

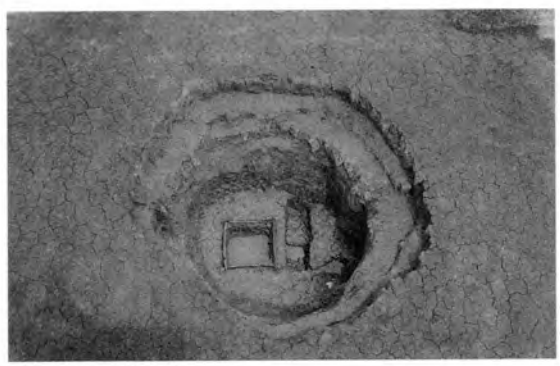
図版18



Ⅳ区第２号井戸跡

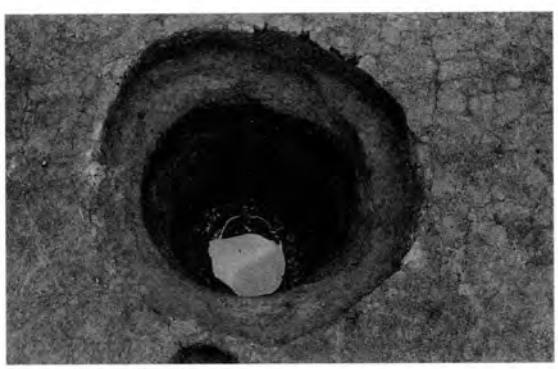
Ⅳ区第３・４・５号井戸跡

Ⅳ区第６号井戸跡

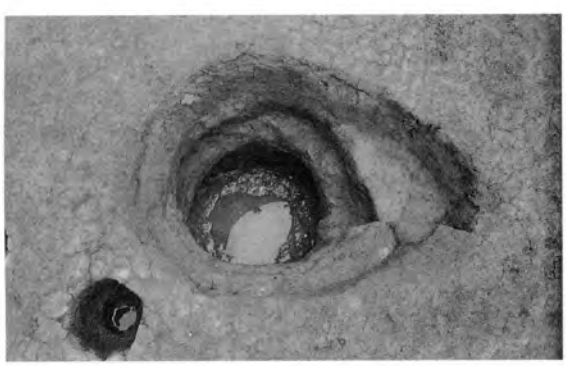


Ⅳ区第９号井戸跡

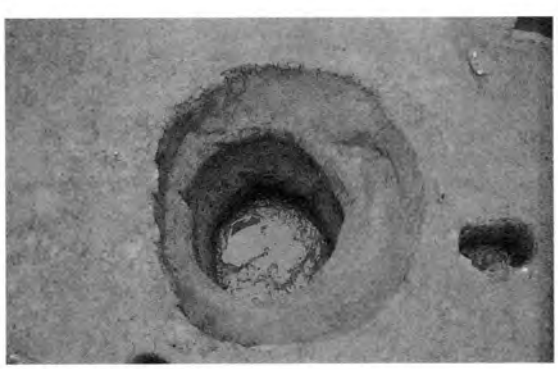
Ⅳ区第10号井戸跡



Ⅳ区第11号井戸跡



Ⅳ区第12号井戸跡



Ⅳ区第13号井戸跡

Ⅳ区第14号井戸跡

Ⅳ区第15号井戸跡

Ⅳ区第16号井戸跡

Ⅳ区第17号井戸跡

Ⅳ区第18号井戸跡

Ⅳ区第19号井戸跡

Ⅳ区第１号土坑墓

Ⅳ区第１号土坑墓木材出土状況

図版20

Ⅳ区第２号土坑墓

Ⅳ区第３号土坑墓

Ⅳ区第４号土坑墓

Ⅳ区第５号土坑墓

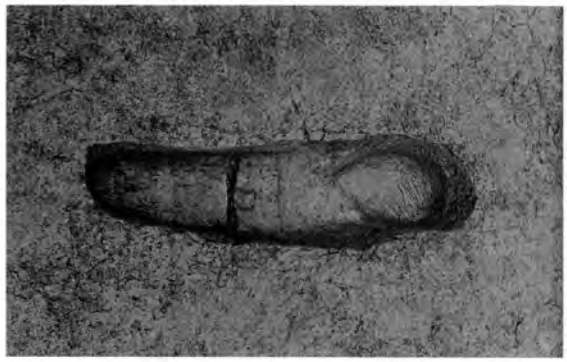
Ⅶ区第１・２号土坑墓

Ⅶ区第３号土坑墓

Ⅶ区第３号土坑墓遺物出土状況

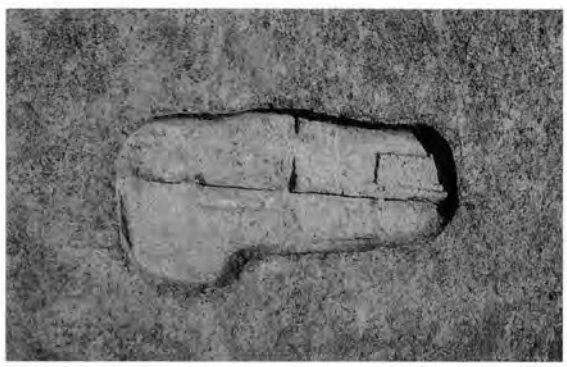
Ⅶ区第４号土坑墓

Ⅶ区第４号土坑墓歯出土状況

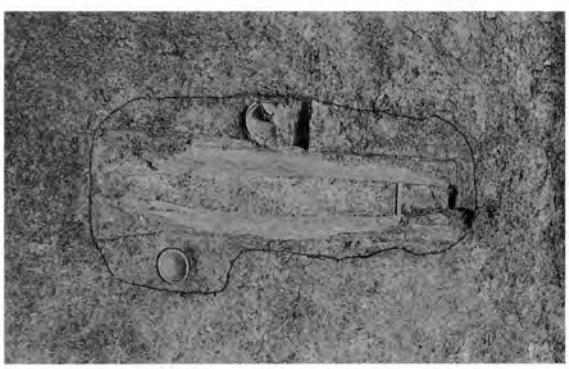


Ⅶ区第５号土坑墓

Ⅶ区第５号土坑墓遺物出土状況



Ⅶ区第６号土坑墓



Ⅶ区第６号土坑墓遺物・棺材出土状況

Ⅳ区第１号火葬跡

Ⅳ区第２号火葬跡

Ⅳ区第３号火葬跡

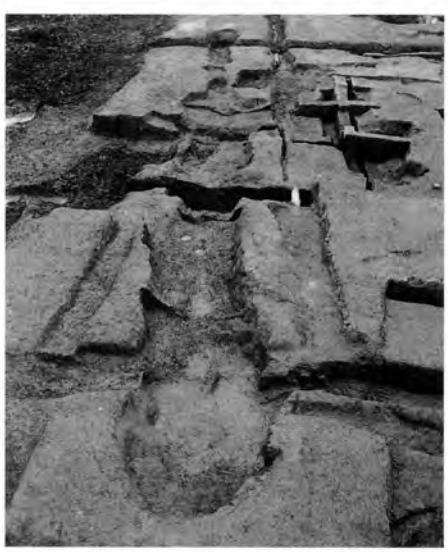
図版22

Ⅰ区第１・４号溝跡

Ⅰ区第２号溝跡

Ⅰ区第３号溝跡

Ⅰ区第６・７号溝跡



Ⅰ区第８号溝跡

Ⅰ区第12号溝跡

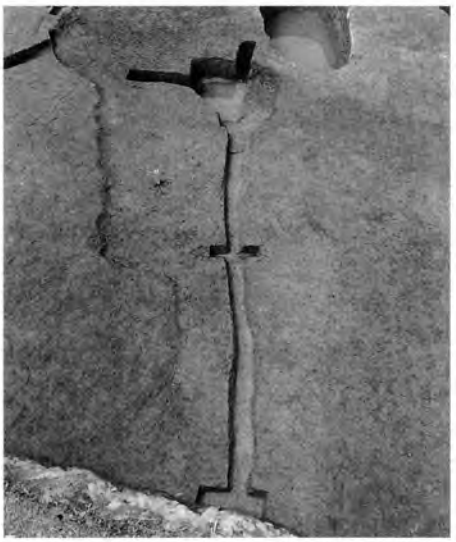
Ⅰ区第14号溝跡

Ⅰ区第15～18号溝跡

Ⅱ区第１・２号溝跡

Ⅲ区第１・２号溝跡

Ⅲ区第３号溝跡



Ⅲ区第４号溝跡

図版24

Ⅲ区第５～７号溝跡

Ⅳ区第４号区画溝遺物出土状況

Ⅳ区第７～９号区画溝

Ⅳ区第７号区画溝遺物集中箇所

Ⅳ区第10～12号区画溝

Ⅳ区第１号溝跡

Ⅳ区第６号溝跡

Ⅳ区第15号溝跡

Ⅳ区第19～27号溝跡

Ⅳ区第35号溝跡

Ⅳ区第43号溝跡

Ⅳ区第44～46号溝跡

Ⅳ区第47・48号溝跡

Ⅳ区第49号溝跡

Ⅳ区第50号溝跡

図版26

Ⅳ区第53・54号溝跡

Ⅴ区第１～16号溝跡

Ⅴ区第１号溝跡遺物出土状況

Ⅵ区第１号溝跡

Ⅵ区第２号溝跡

Ⅶ区第１号溝跡

Ⅶ区第２号溝跡

Ⅶ区第３号溝跡、第１号井戸跡

河川跡Ａ地点

河川跡Ｂ地点

河川跡Ｂ地点遺物出土状況

河川跡Ｂ地点遺物出土状況

河川跡Ｂ地点遺物出土状況

河川跡Ｂ地点遺物出土状況

河川跡Ｂ地点遺物出土状況

図版28

河川跡Ｂ地点遺物出土状況

河川跡Ｂ地点遺物出土状況

河川跡Ｃ地点（中央部分）

河川跡Ｃ地点第１祭祀箇所杭列出土状況

河川跡Ｃ地点第２祭祀箇所

河川跡Ｃ地点第１網代出土状況

河川跡Ｃ地点第１堰網代出土状況

河川跡Ｃ地点第１堰出土状況

河川跡Ｃ地点第２堰網代出土状況

河川跡Ｃ地点第２堰網代

河川跡Ｃ地点第２堰出土状況

河川跡Ｃ地点遺物出土状況

河川跡Ｃ地点遺物出土状況

図版30

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡Ｃ地点遺物出土状況

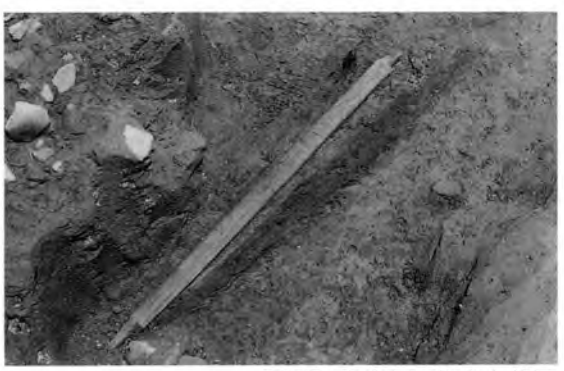
河川跡Ｃ地点遺物出土状況

河川跡Ｃ地点遺物出土状況

河川跡Ｃ地点遺物出土状況

河川跡Ｃ地点遺物出土状況

河川跡Ｃ地点遺物出土状況



河川跡Ｃ地点遺物出土状況

河川跡Ｃ地点遺物出土状況

図版32

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

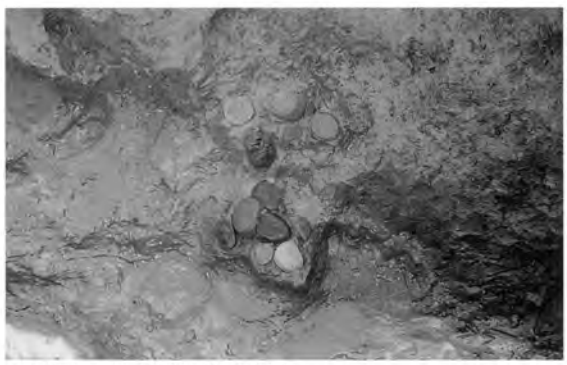
河川跡C地点遺物出土状況

河川跡C地点遺物出土状況

図版34

河川跡Ｄ地点

河川跡Ｆ地点



河川跡Ｆ地点遺物出土状況

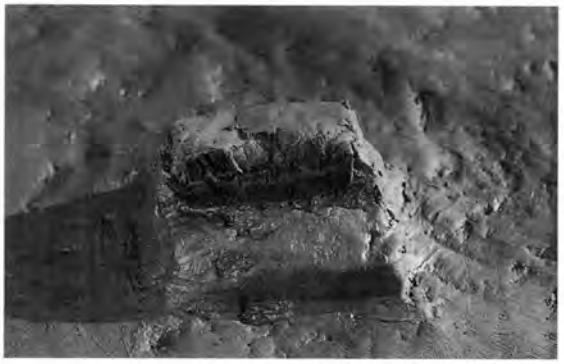
河川跡Ｆ地点遺物出土状況

河川跡Ｆ地点遺物出土状況

河川跡Ｆ地点遺物出土状況

河川跡Ｆ地点遺物出土状況

河川跡Ｆ地点遺物出土状況



河川跡Ｆ地点遺物出土状況

河川跡Ｆ地点遺物出土状況

河川跡Ｆ地点遺物出土状況

河川跡Ｆ地点遺物出土状況

河川跡Ｇ地点Ｃトレンチ堰網代出土状況

河川跡Ｇ地点Ｃトレンチ堰出土状況

Ⅰ区グリッド遺物出土状況

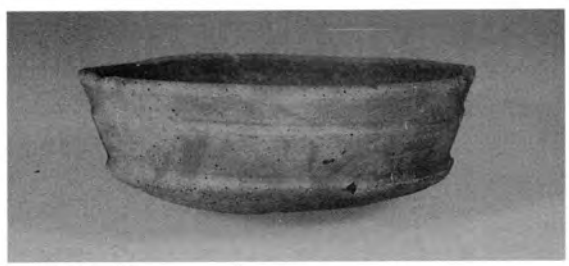
Ⅳ区グリッド遺物出土状況

図版36

第193図7

第193図8

第193図12



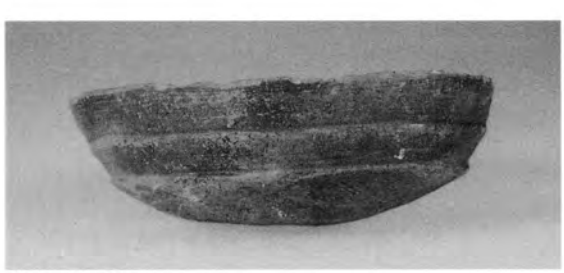
第193図13

第193図14

第193図15

第193図17

第193図18



第193図22

第193図28

第193図31

第193図33

第193図34

第194図37

第194図38

第225図248

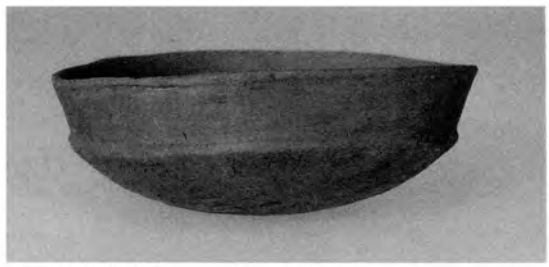
第225図249

第226図261

第226図267

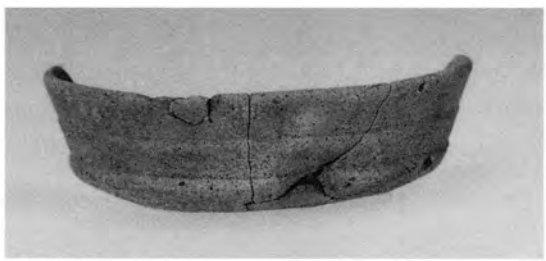
第226図268

図版38



第228図319

第229図333



第229図334

第229図335

第229図336

第229図337

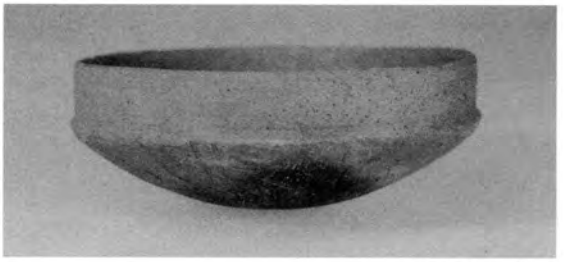
第230図375

第230図376

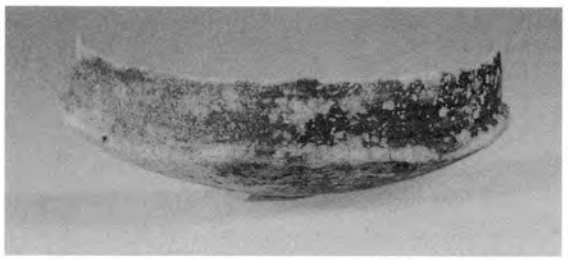
第230図380

第231図384

第231図385



第231図386



第231図387

第232図424

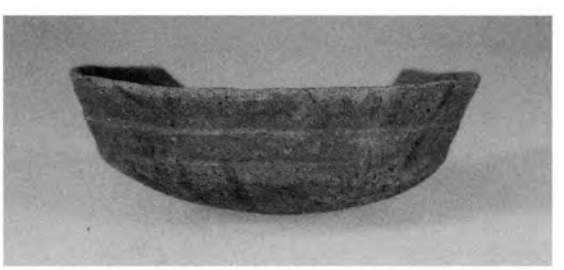
第232図425

第232図429

第233図452

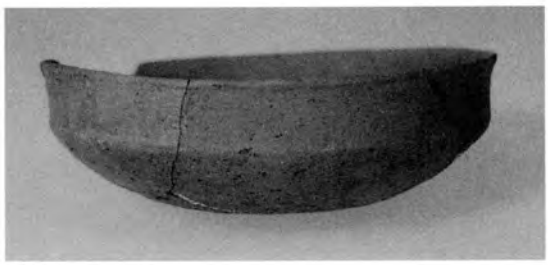
第234図471

第234図477



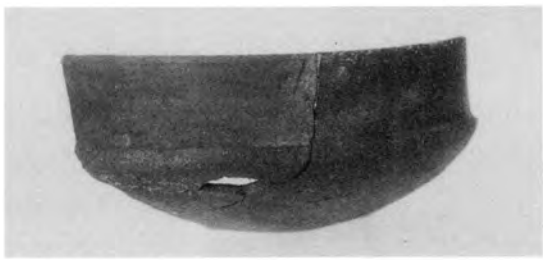
第235図488

図版40

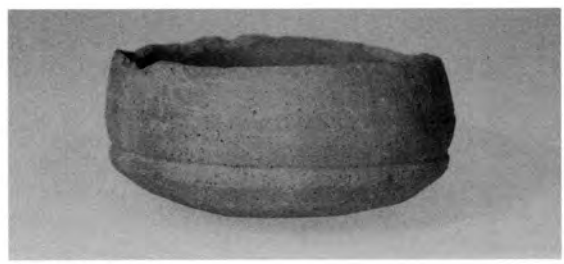


第235図490

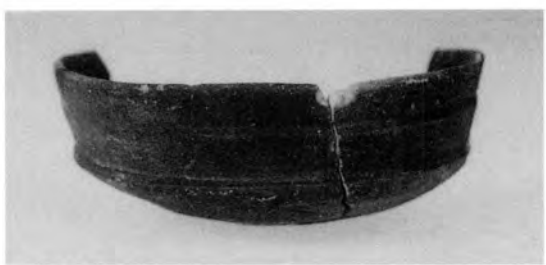
第235図491



第235図511



第235図513



第236図516

第236図517

第236図518

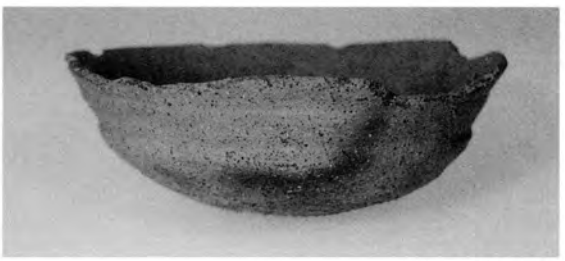
第236図519

第236図520

第236図521

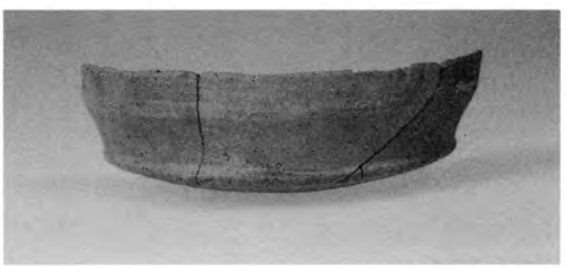
第236図522

第237図563

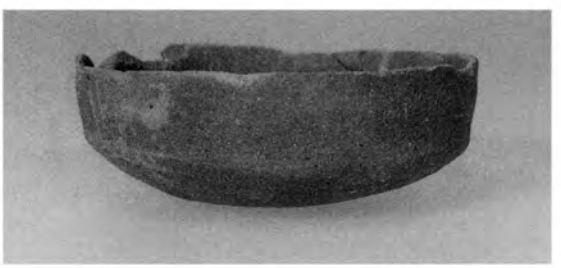


第238図587

第239図597

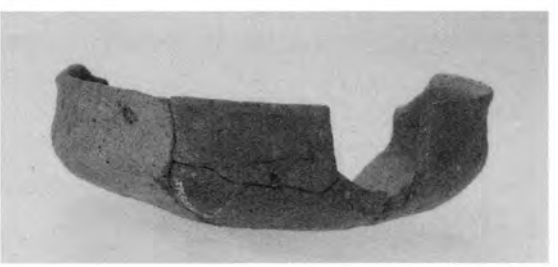


第239図599



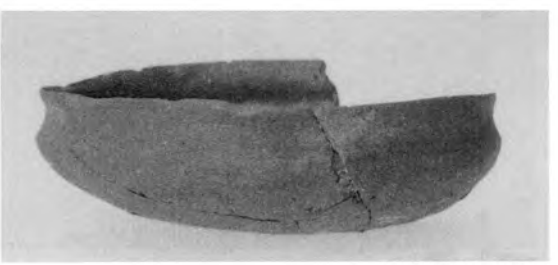
第177図５－１

第80図６－２



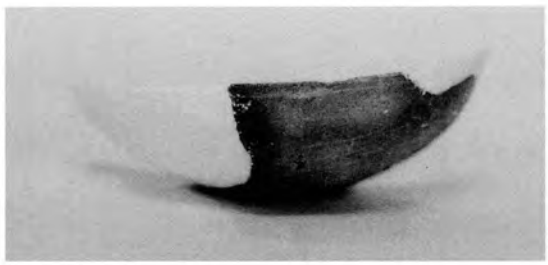
第226図269

第232図427

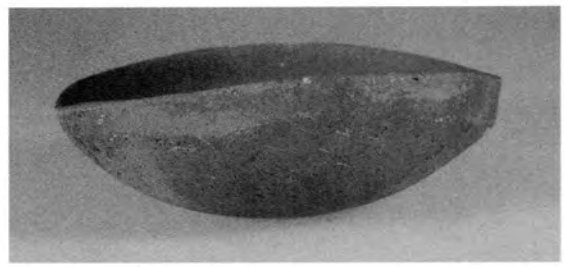


第232図430

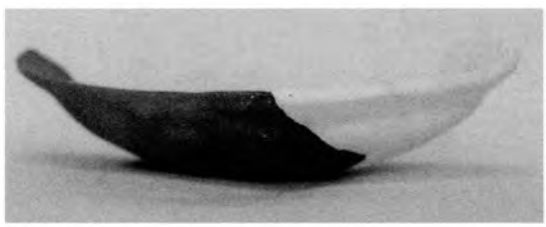
図版42



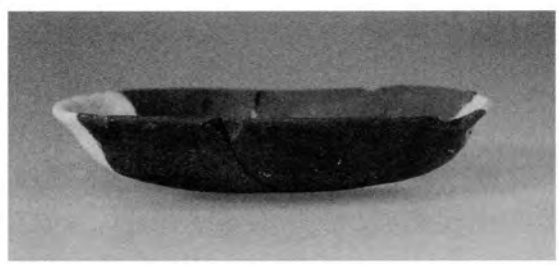
第194図40



第194図41

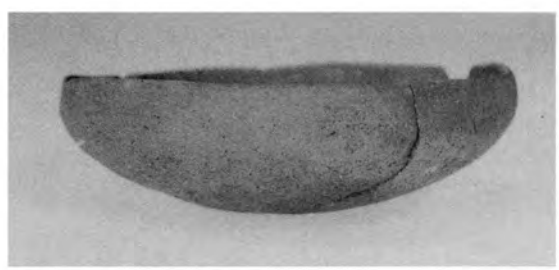


第218図58

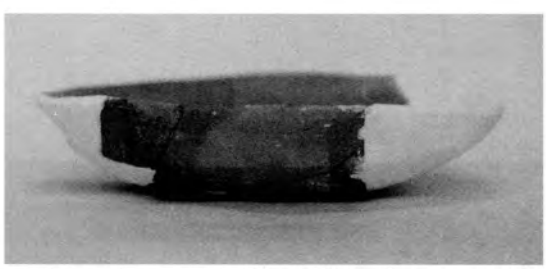


第219図59

第219図61



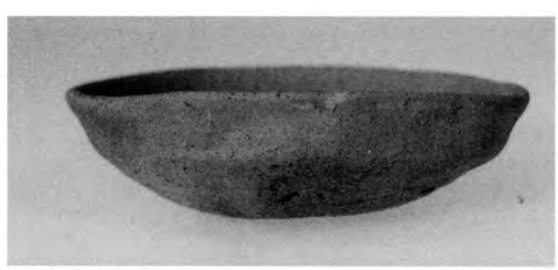
第219図62



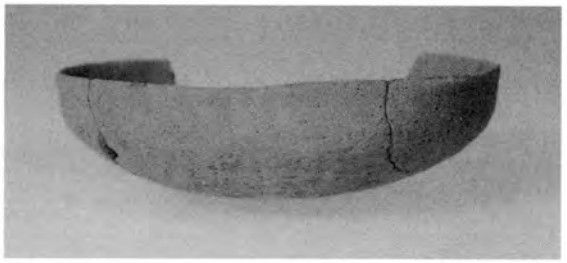
第220図87

第220図88

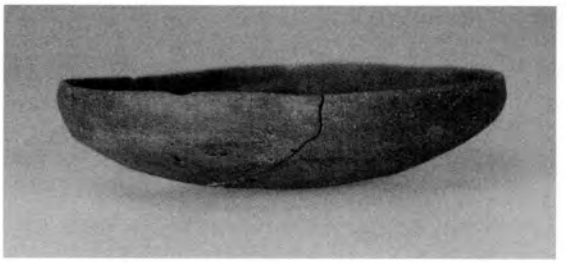
第235図485



第236図524

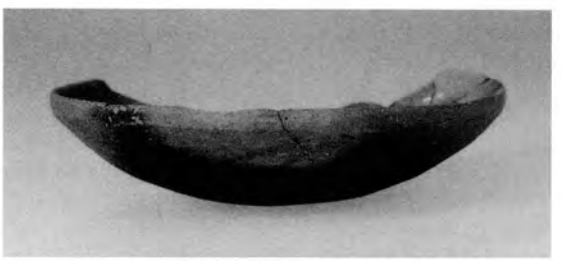


第238図564

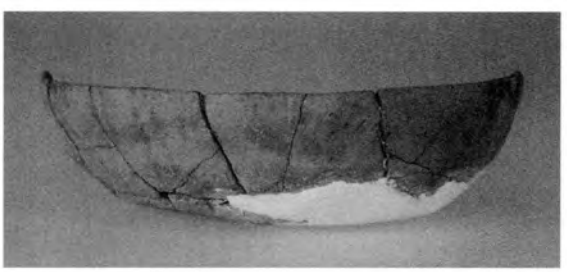


第238図572

第238図587

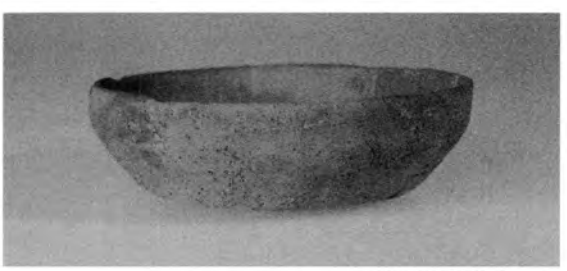


第306図A－1



第107図9－1

第107図13－2



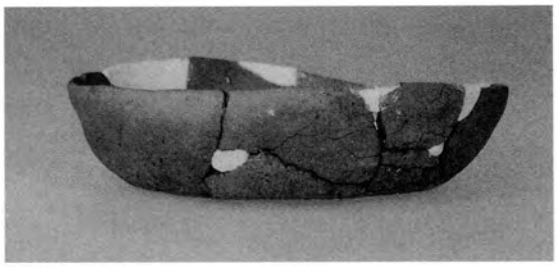
第107図16－1

第218図29

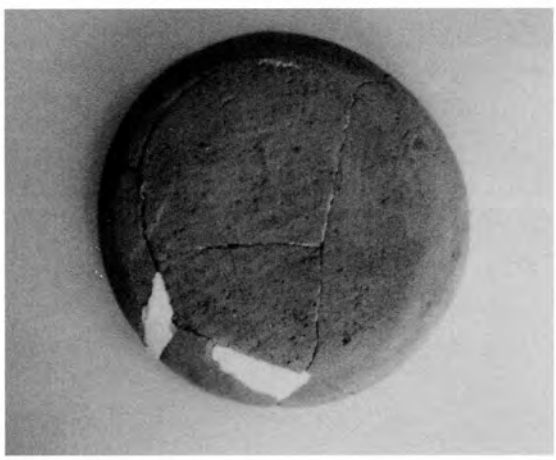
第220図104

第222図155

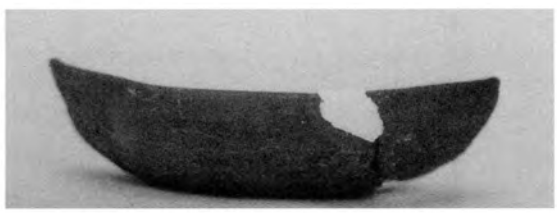
図版44

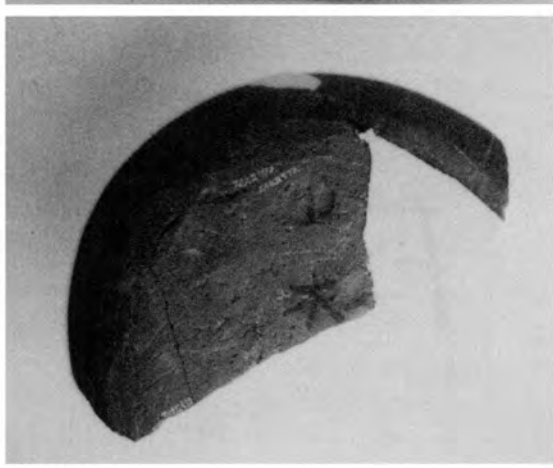


第279図2

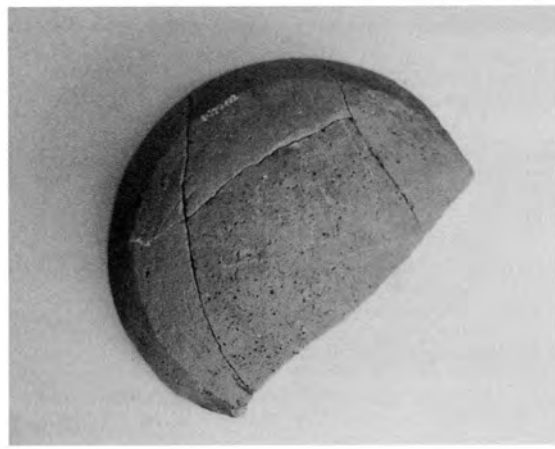


第42図2





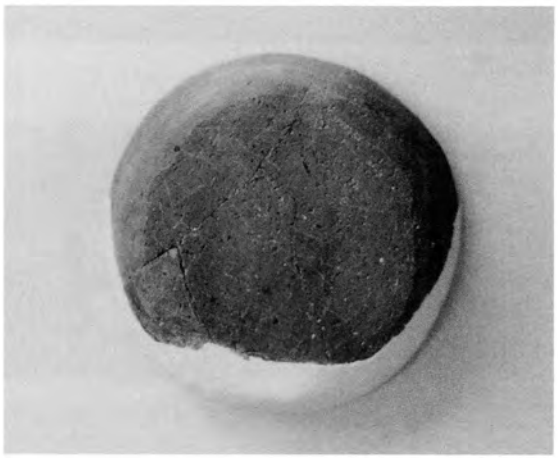
第42図4



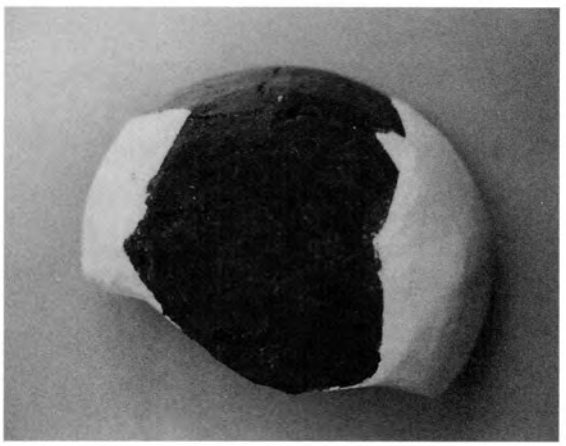
第42図1

第42図3

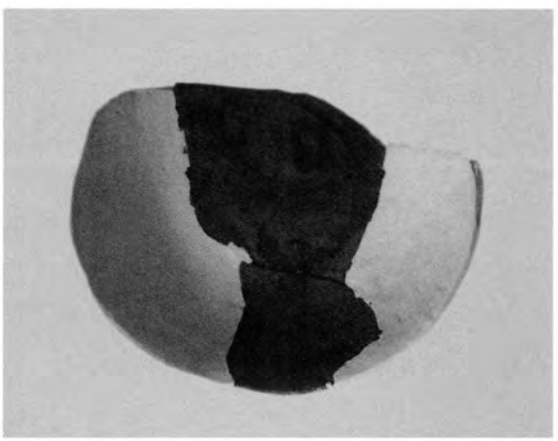
第42図8

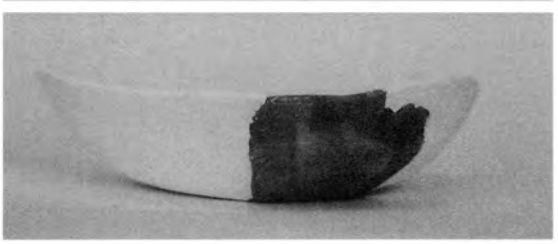


第42図5

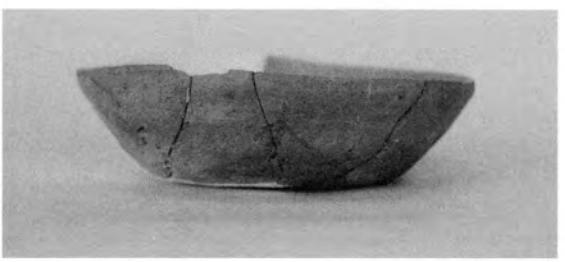


第42図6

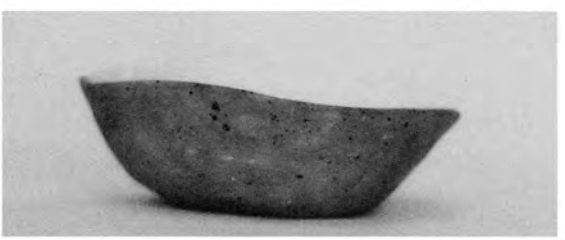




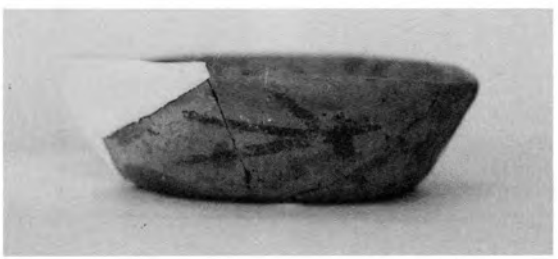
第42図7



第42図9

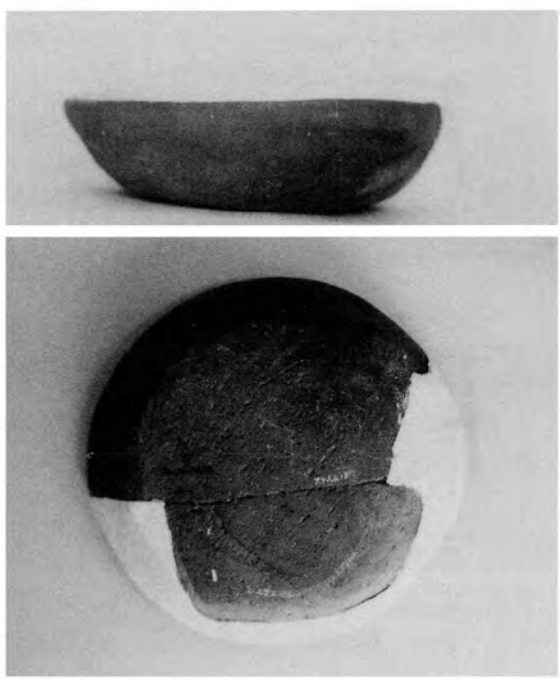


第42図10



第42図12

第42図11



第42図15

第42図18

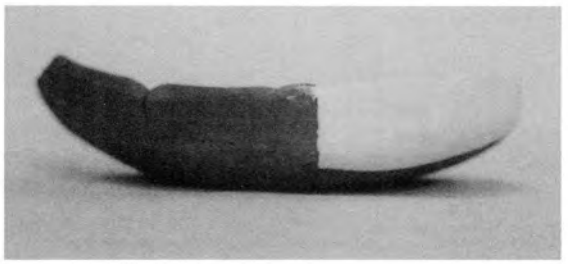
第42図13

第42図14

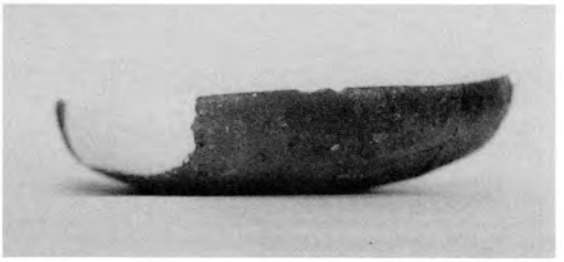
第42図17

第42図19

第42図20



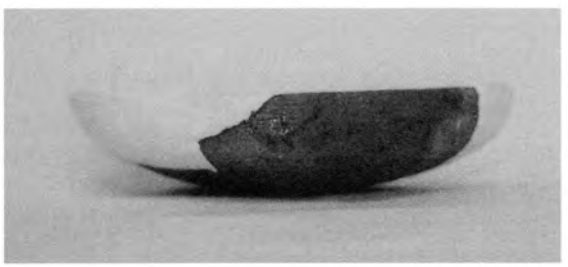
第48図108



第48図111

第48図112

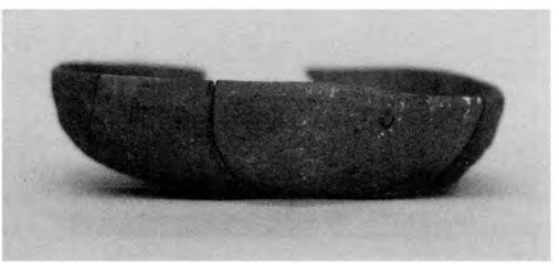
第48図113



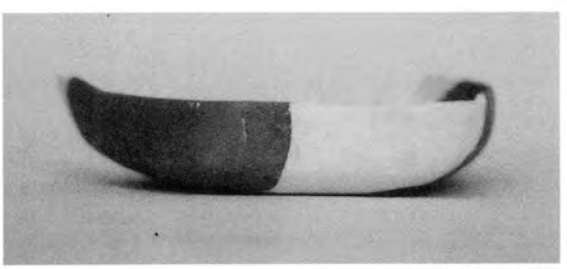
第48図115

第48図117

第48図118



第48図119

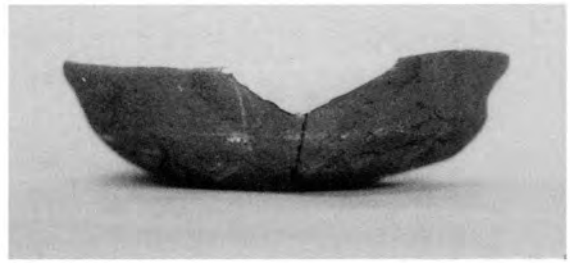


第48図120

第48図121

図版48

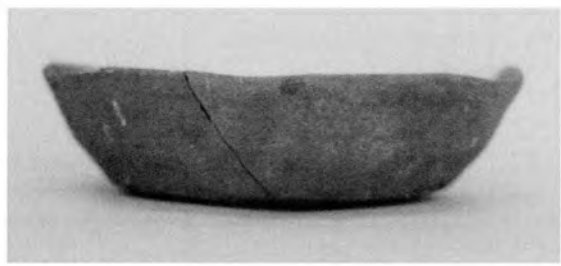
第48図122

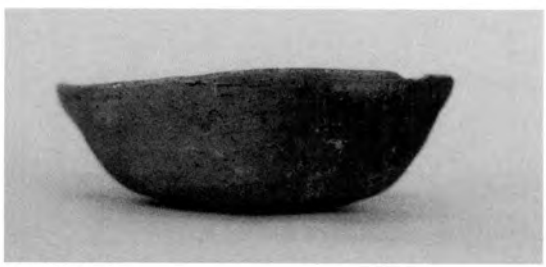

第48図123

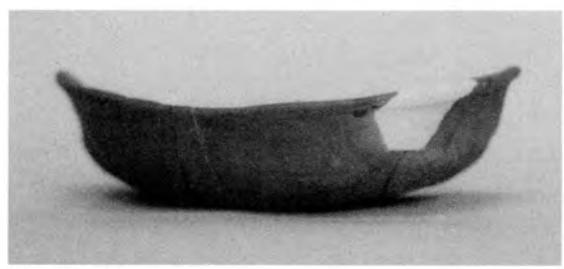
第48図124

第48図125

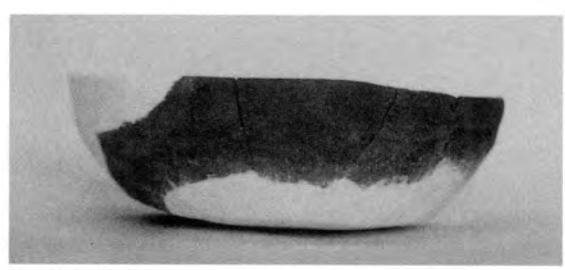
第48図126


第48図127

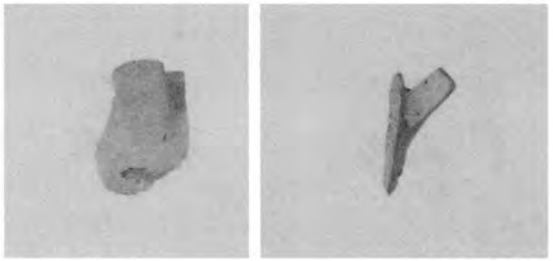

第48図128


第48図129

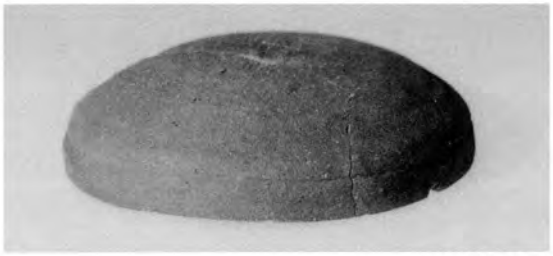
第48図130


第48図132

第31図62-1

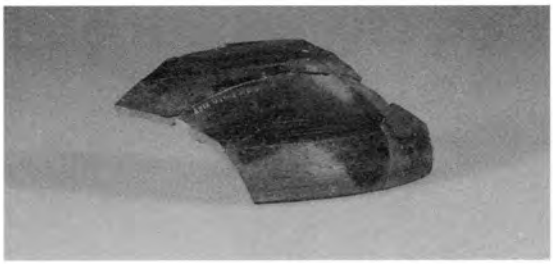


第48図134



第196図88

第218図25



第233図451

第218図53

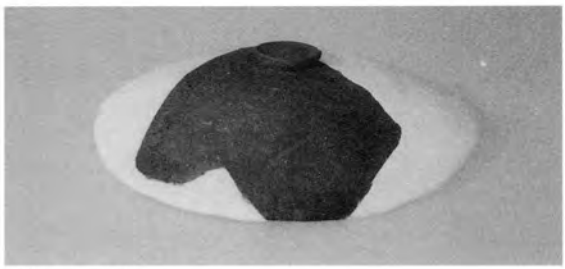
第227図289

第227図290

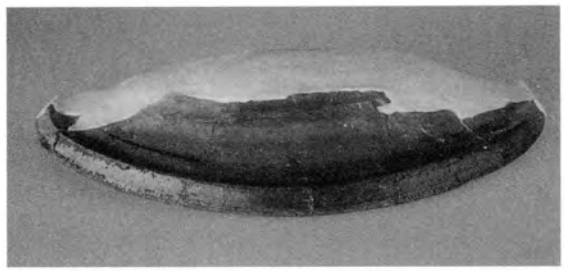
第227図291

第231図390

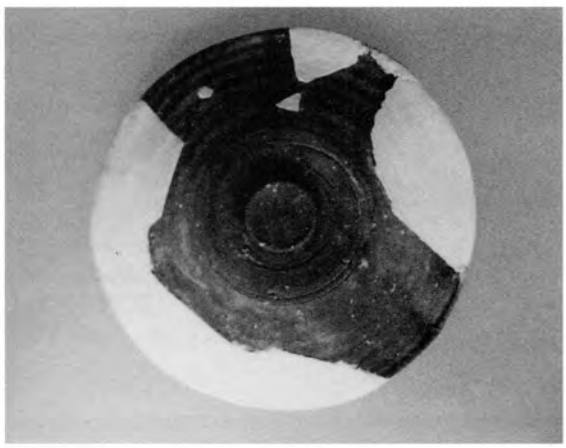
図版50

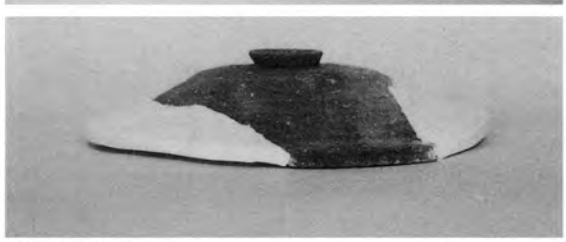


第218図30

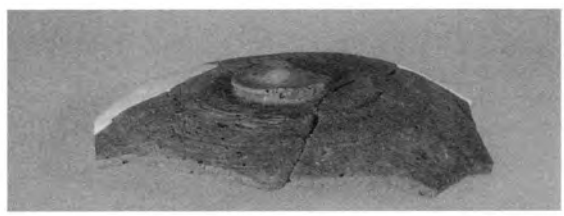


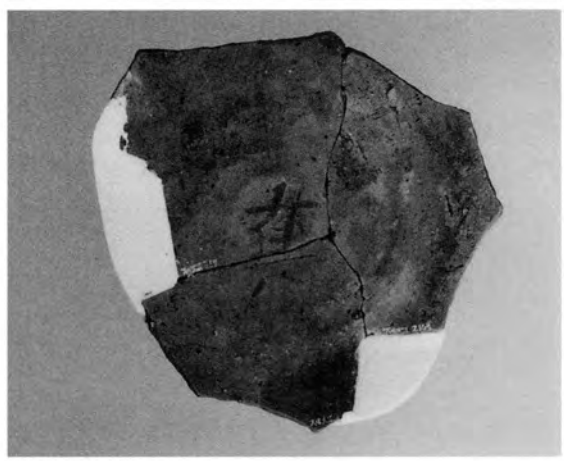
第49図158



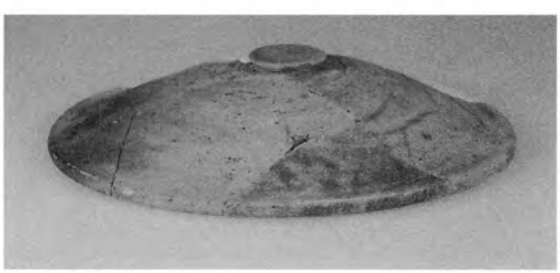


第42図21





第45図72

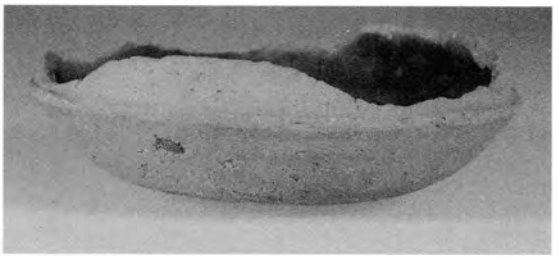


第45図73

第49図153

第49図154

第49図159

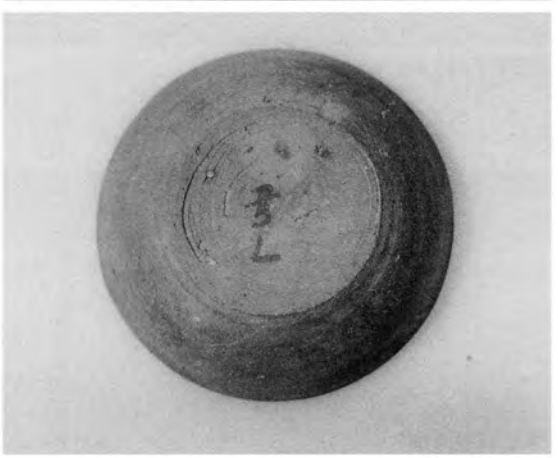


第196図89

第224図224

第217図10

第217図11

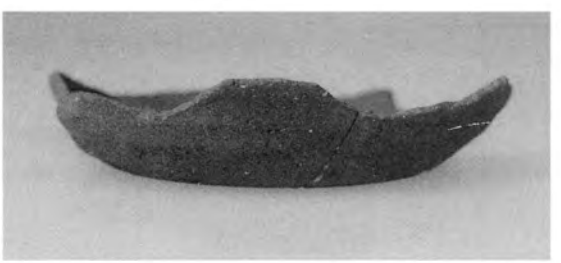


第219図69

第219図66

第219図67

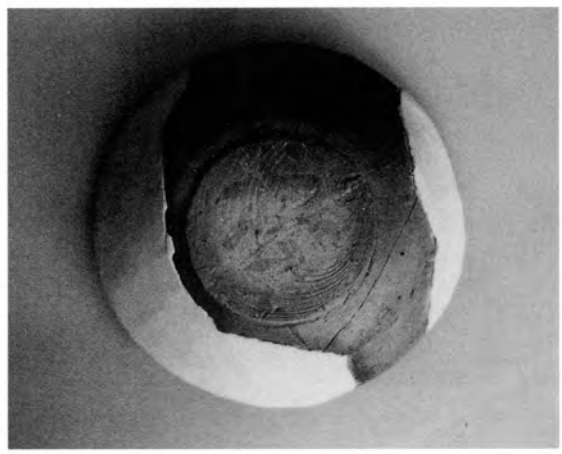
第219図70



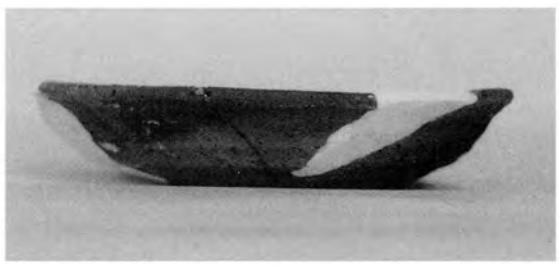
第221図123

図版52

第221図124



第221図125

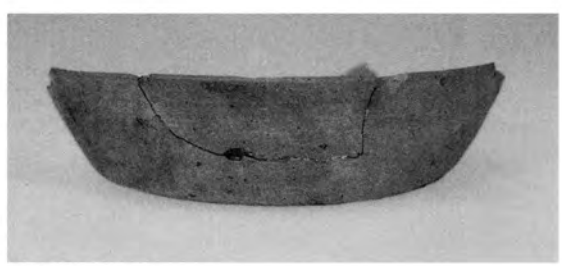


第221図126

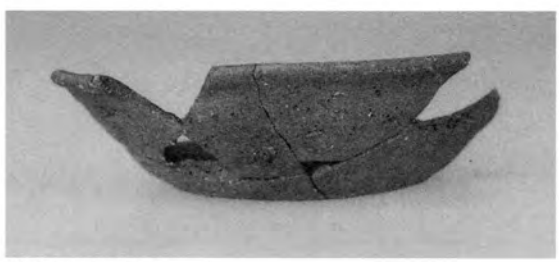
第221図141

第222図146

第222図158



第222図166

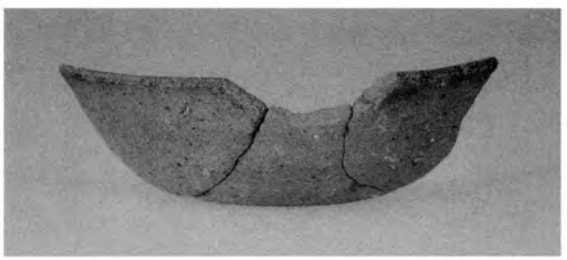


第223図175

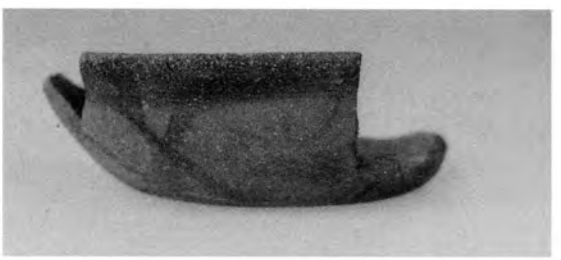
第223図201

第224図206

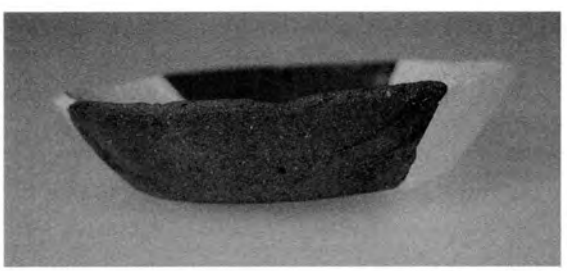
第225図244



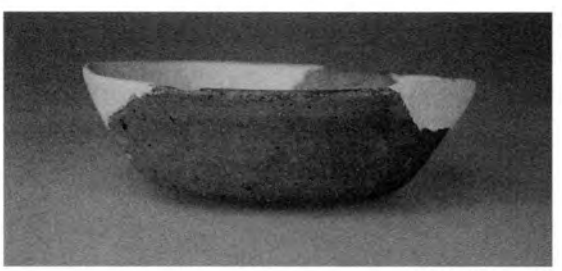
第232図419



第234図469



第237図551



第237図552

第42図22

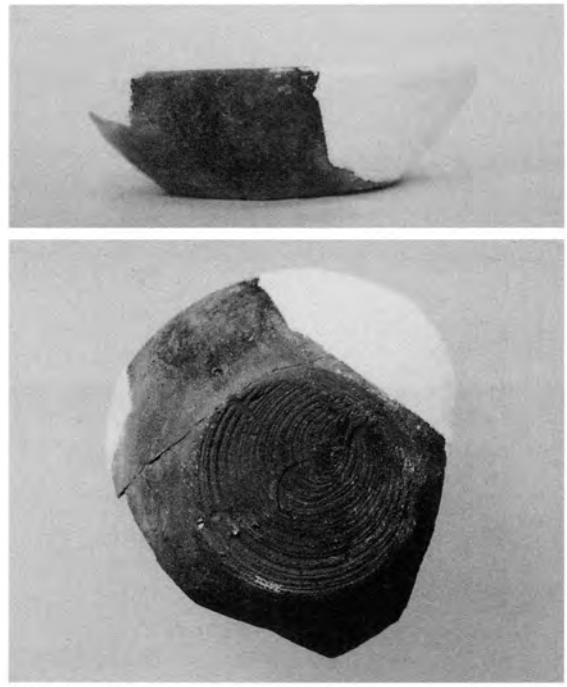
第42図23

第43図26

第43図29

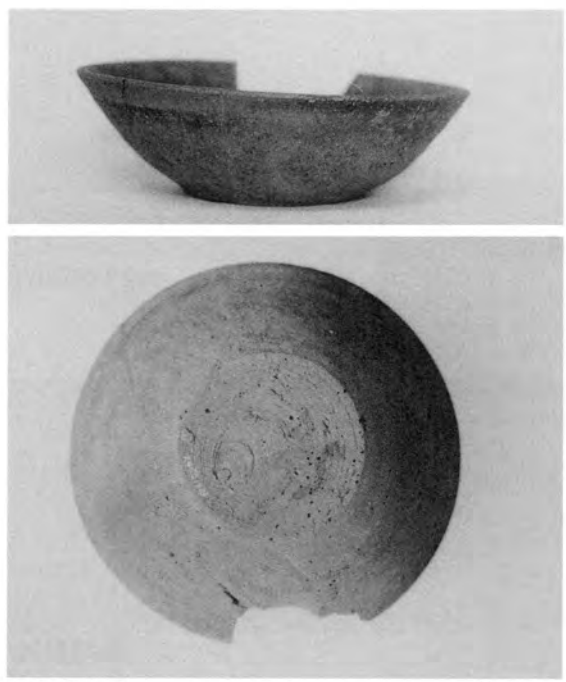
図版54

第43図27



第43図28

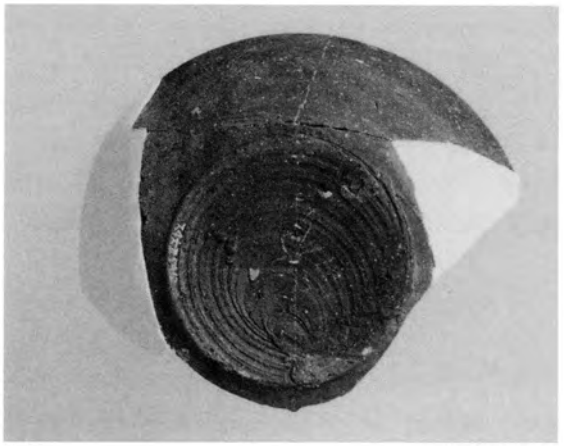
第43図30



第43図32

第43図31

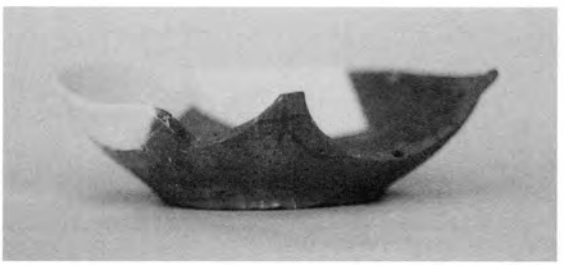
第43図35



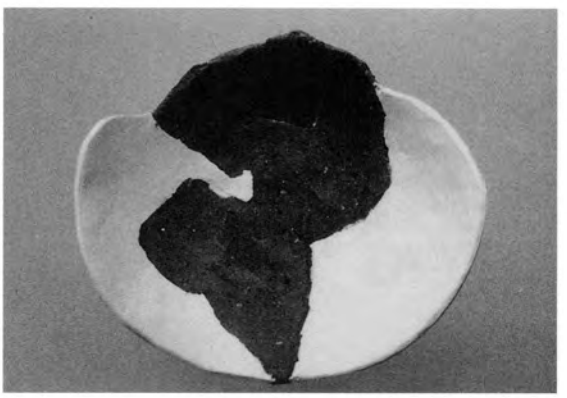
第43図33

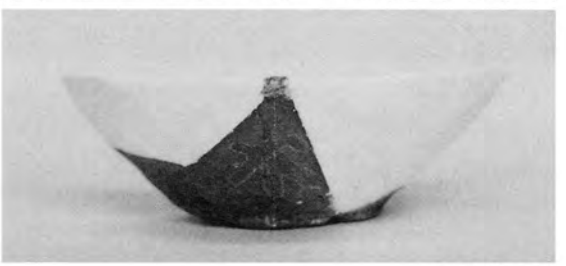
第43図34

第43図36



第43図37





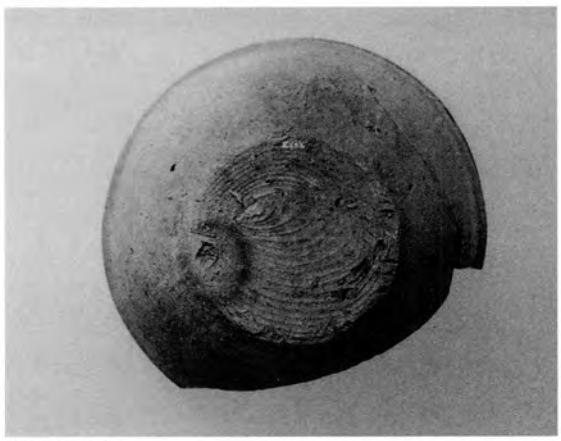
第43図38

第43図40

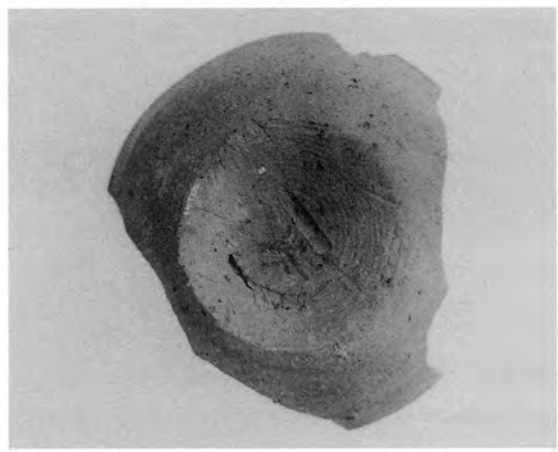
第43図42

第43図43

図版56



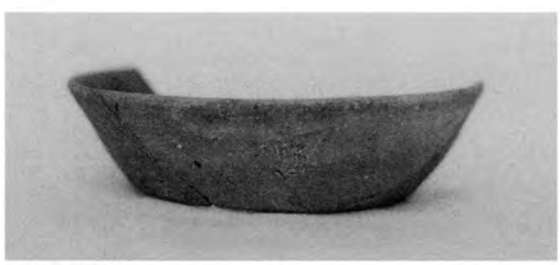
第43図41



第44図44

第45図68

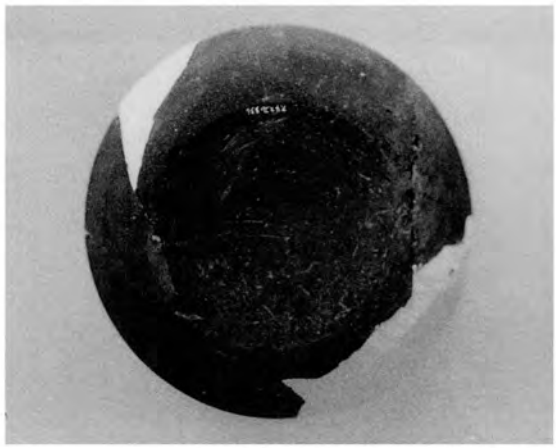
第45図74



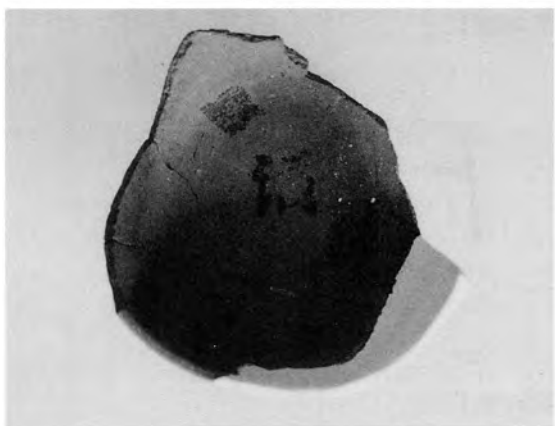
第45図75

第46図81

第45図78



第46図80



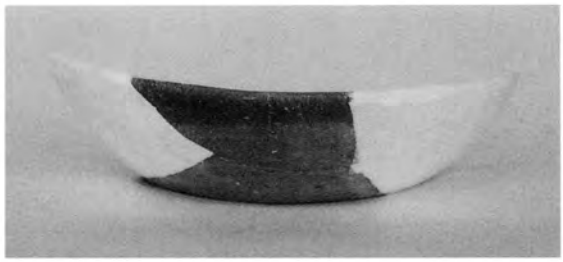
第46図83

第46図85

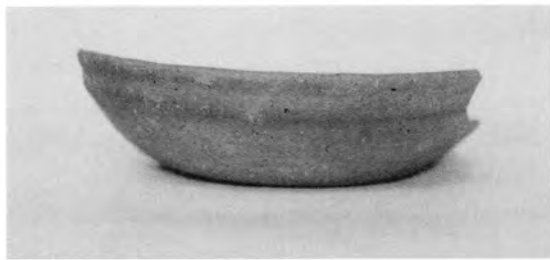
第46図86

第49図161

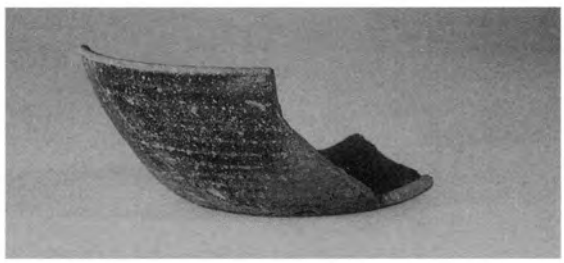
図版58



第49図163



第49図164



第49図166

第49図167

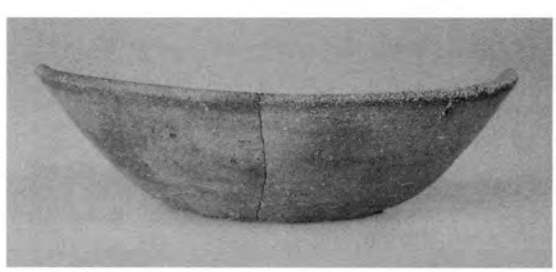
第49図168

第49図169

第50図171

第50図172

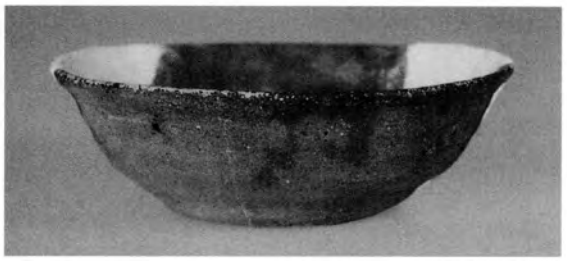
第50図173



第50図174

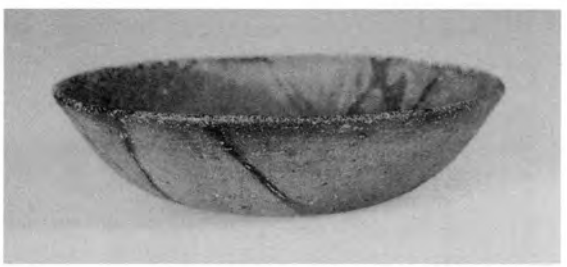
第50図175

第50図176

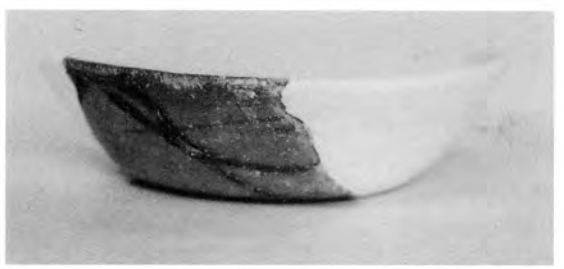


第50図177

第50図179

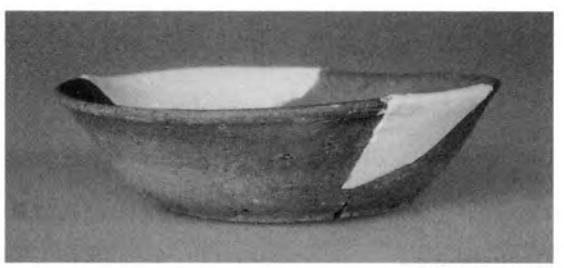


第50図180



第50図181

第50図182

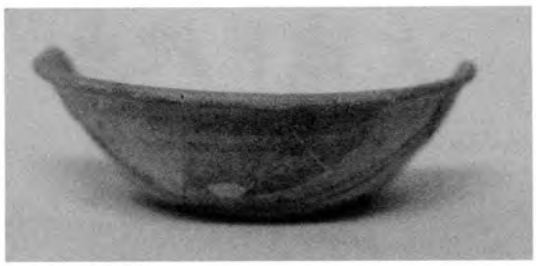


第50図183

第50図184

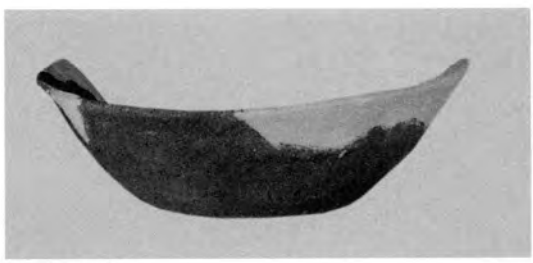
第50図187

図版60



第51図193

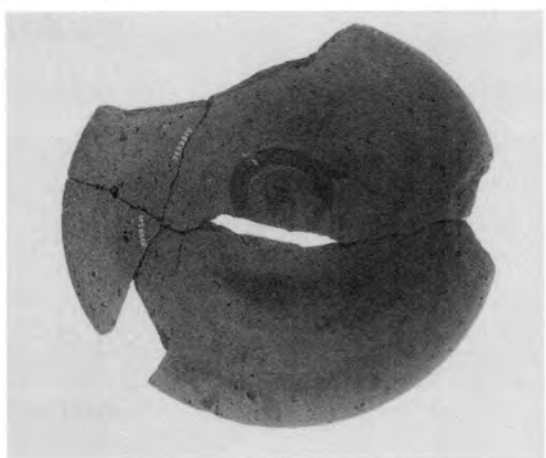
第51図198

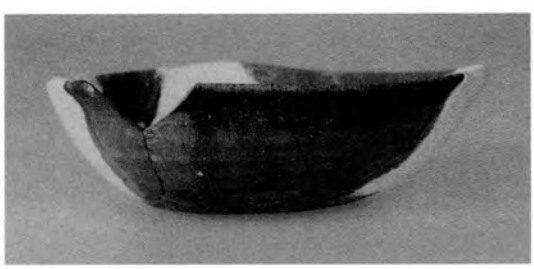


第51図204

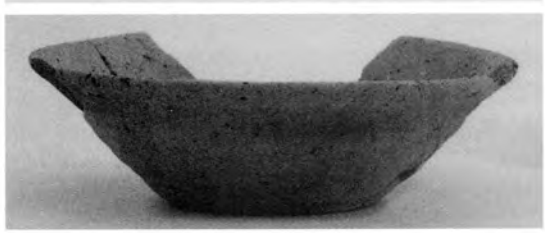
第217図14

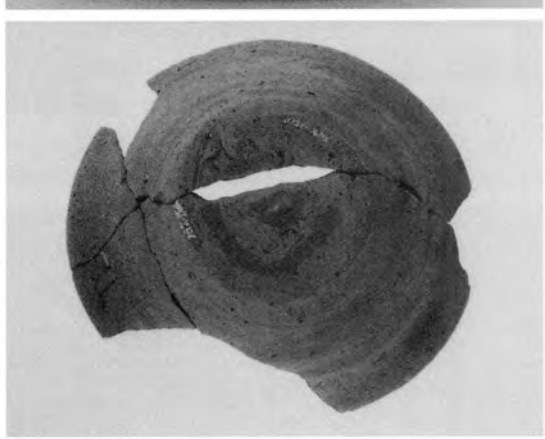
第44図52

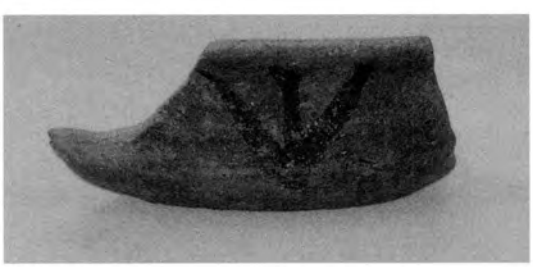




第279図5







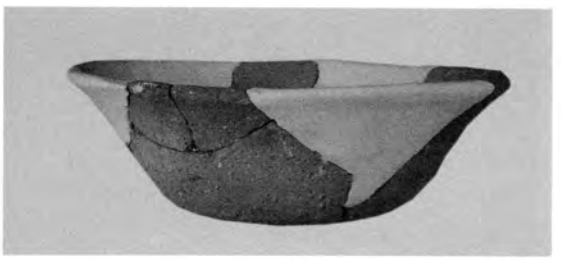
第279図6

第221図128

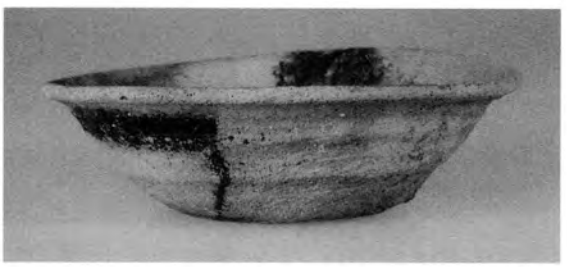
第221図127

第94図2-2

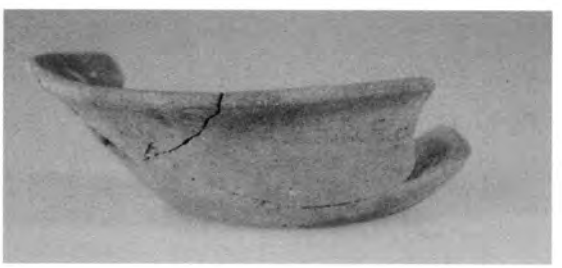
第223図179



第94図2-3



第95図4-1



第107図7-1

第107図16-2

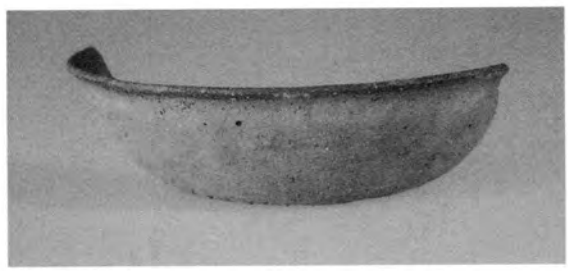
第13図17-2

第15図19-6

第18図21-1

図版62

第129図4-1



第129図19-1

第30図22-3

第30図34-1

第30図30-1

第31図土坑群2-1

第31図土坑群2-2

第38図6-3

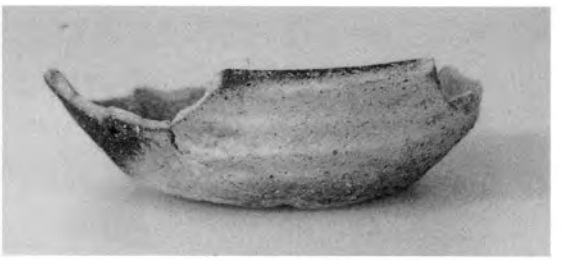
第38図6-2

第66図14

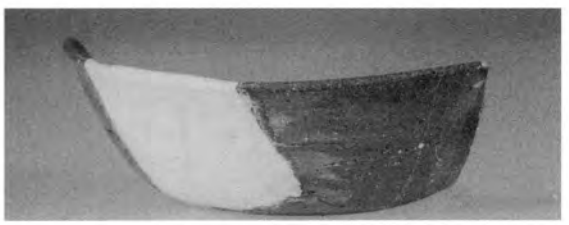
第66図21

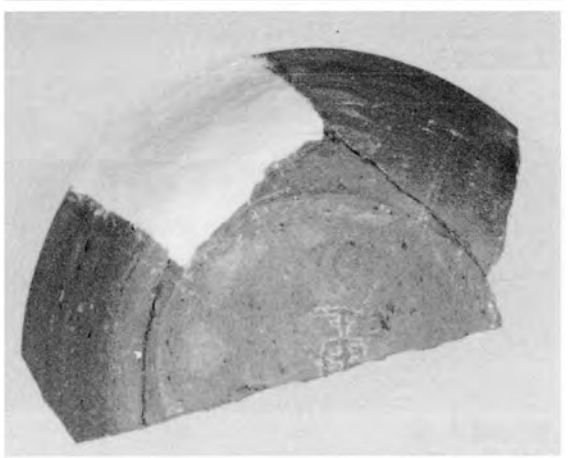
第66図20

第66図19

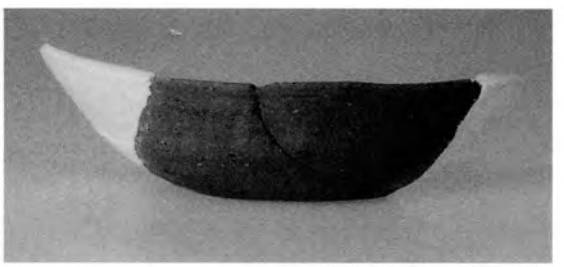


第144図59-1





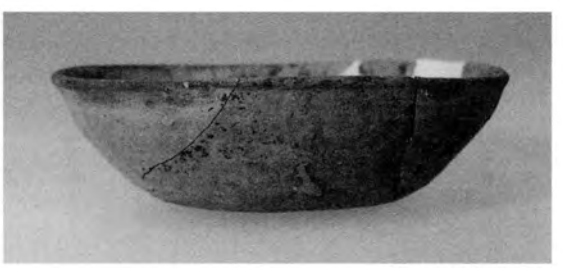
第151図9-1



第157図1-4

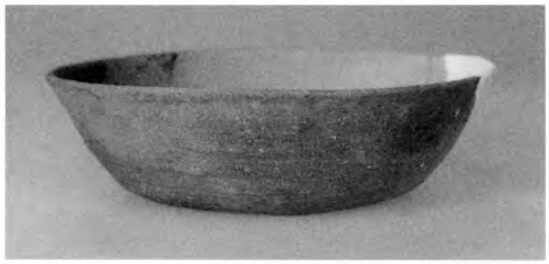
第157図1-5

第157図3-2

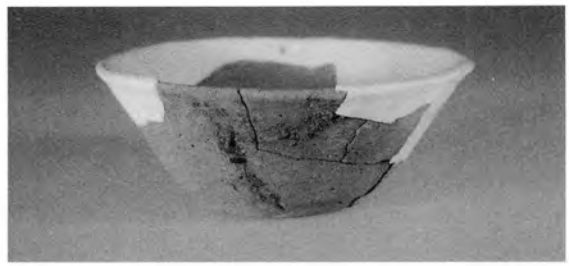


第157図3-3

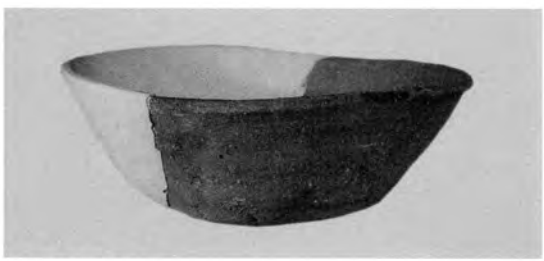
図版64



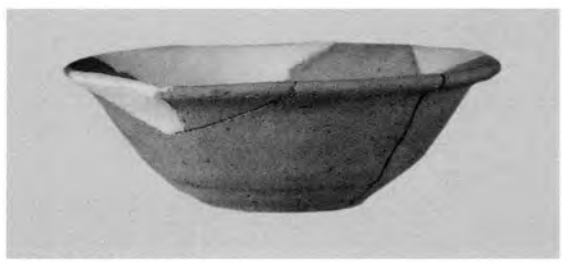
第157図4-1



第159図7-1



第182図37-2

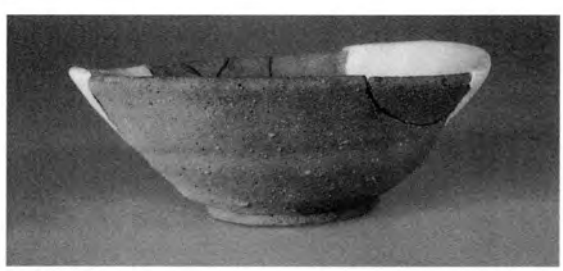


第182図37-7

第182図37-9

第282図5

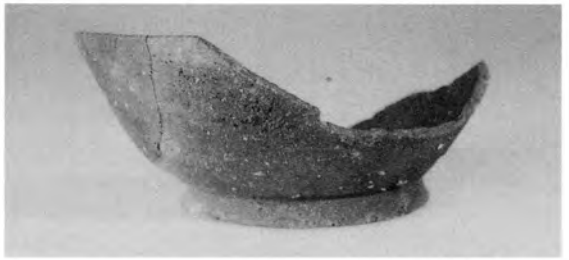
第94図2-4墨書「醴」



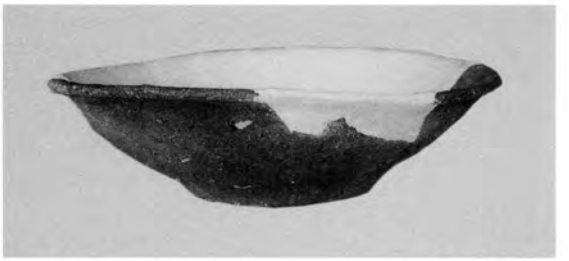
第94図2-5

第94図2-4墨書「吉」

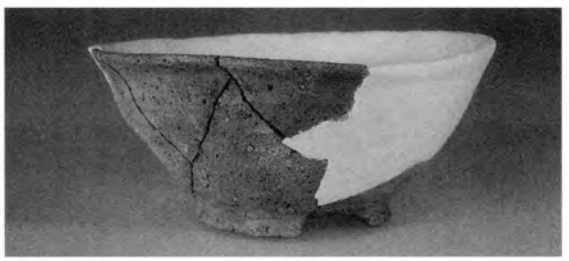
第95図4-2



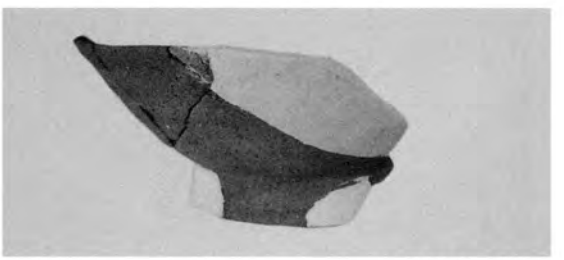
第107図15-1



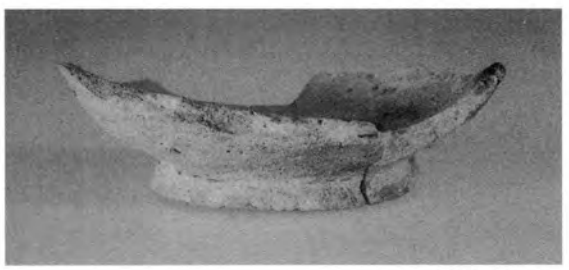
第13図17-4



第13図18-5



第129図8-1



第129図8-3

第30図15-2

第30図18-1

第13図18-6

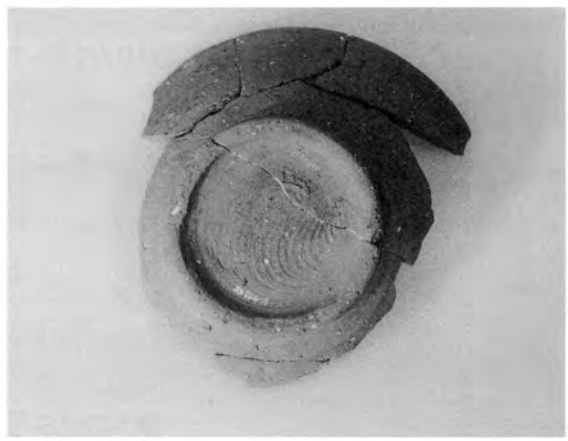
第30図23-2

第30図30-2

図版66

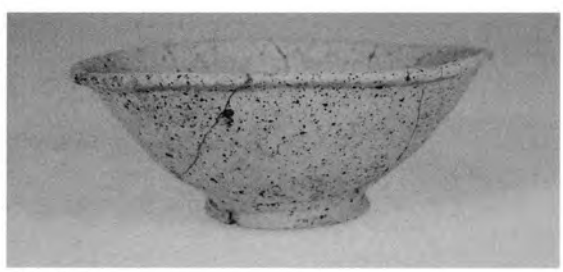
第31図41-3

第39図8-13



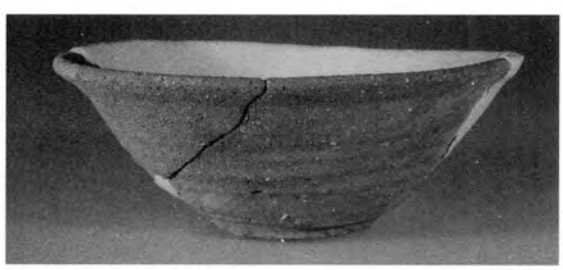
第39図7-4

第40図13-2



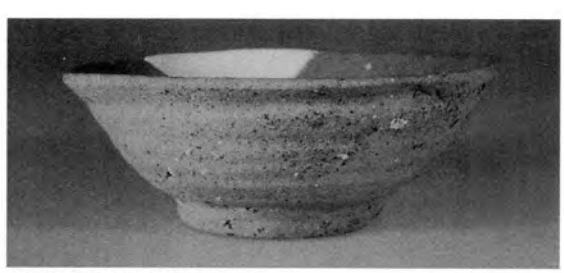
第67図48

第159図7-4

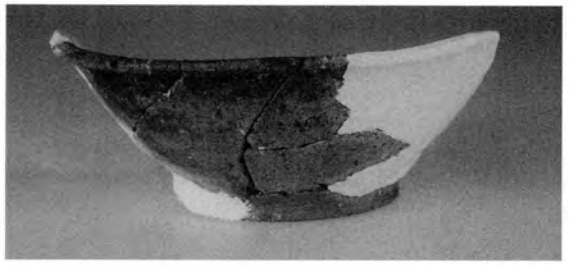


第182図37-18

第183図37-24



第183図37-26



第183図38-10

第154図5-1

第154図5-2

第298図3-1

第298図5-1

第298図6-1

第298図6-2

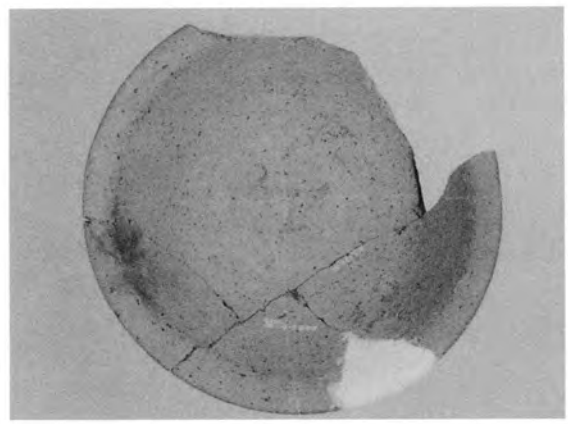
第282図14

第282図15

第282図17

図版68

第217図19

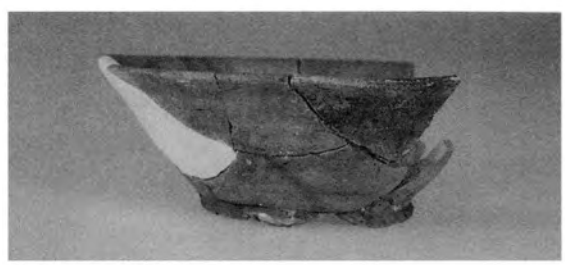


第217図20

第218図31

第218図35

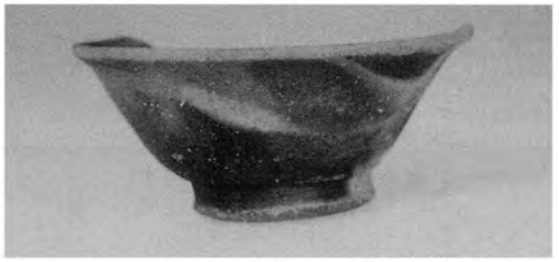
第218図32



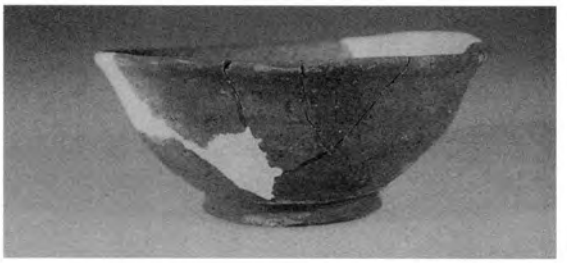
第221図129

第222図148

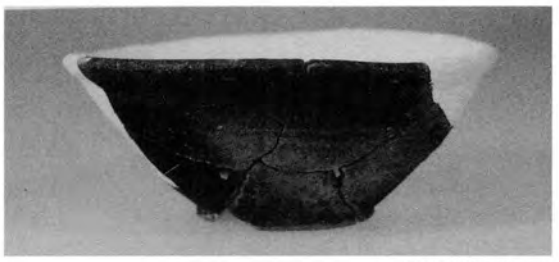
第222図150



第222図161

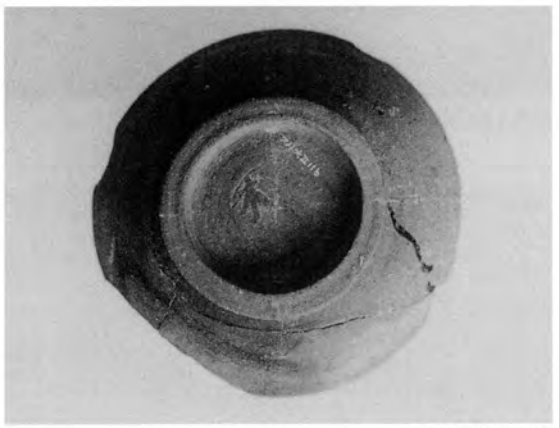


第223図169



第223図171

第223図181



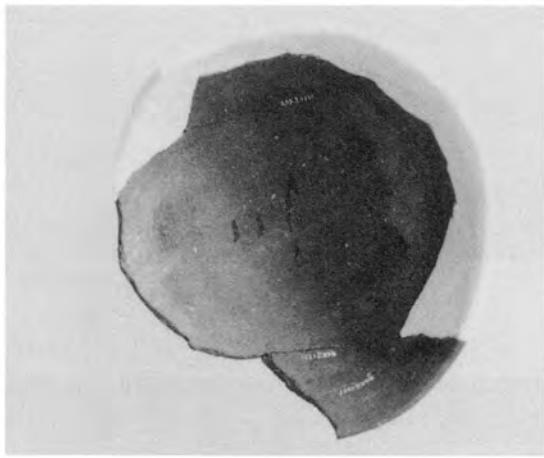
第44図53

第45図63

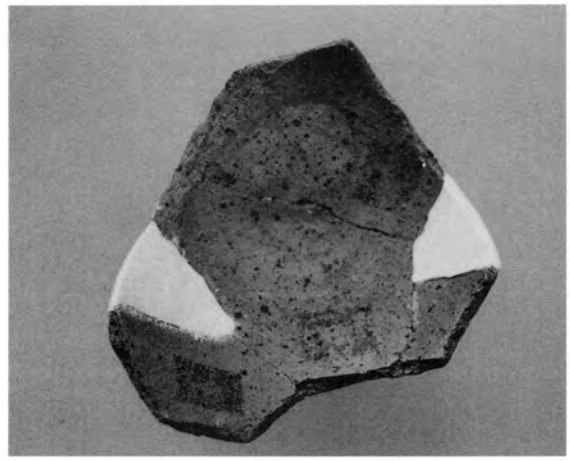
第52図219

第51図205

図版70



第45図66

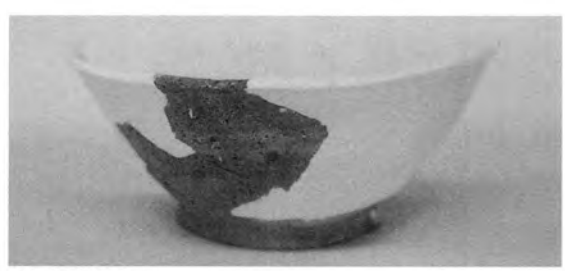


第45図71

第51図200

第51図206

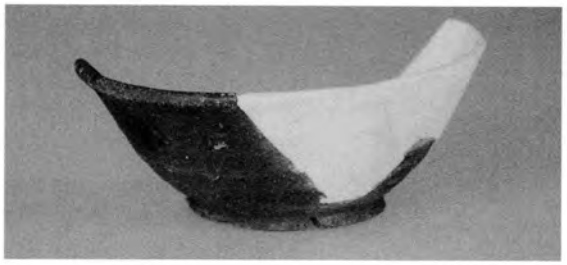
第51図210



第51図211

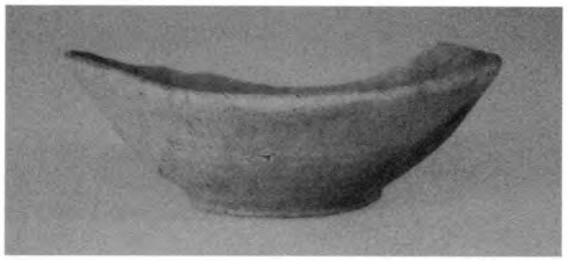
第52図213

第52図214

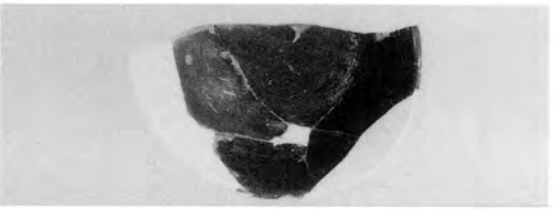


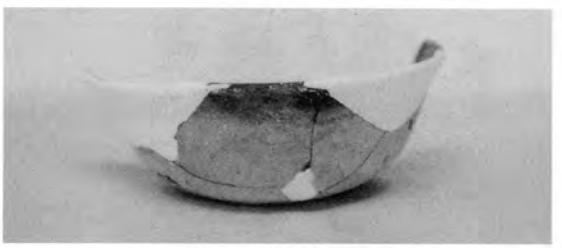
第52図215

第52図220



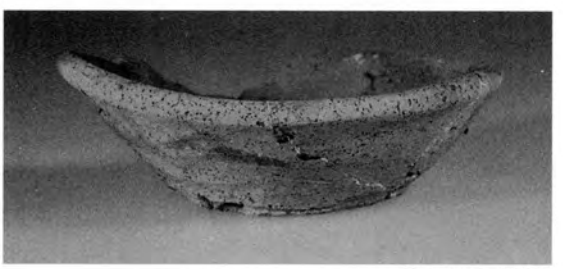
第52図226



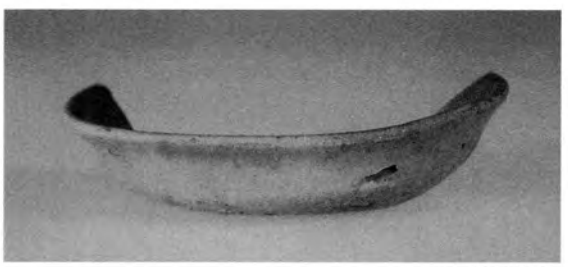


第52図223

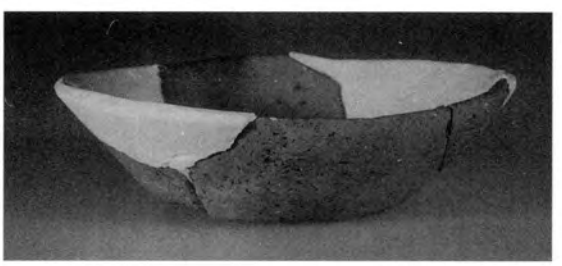
第52図221



第221図116



第52図225

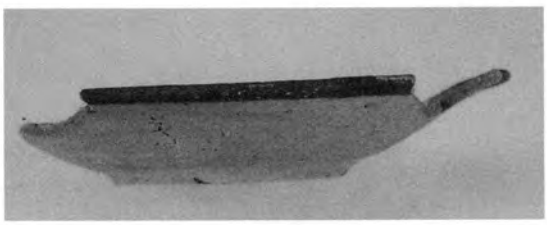


第183図38-1

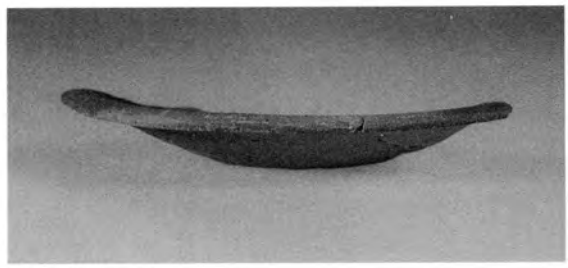
第165図1

第165図2

図版72



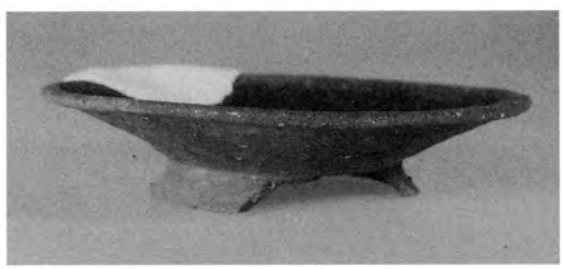
第222図151



第222図153

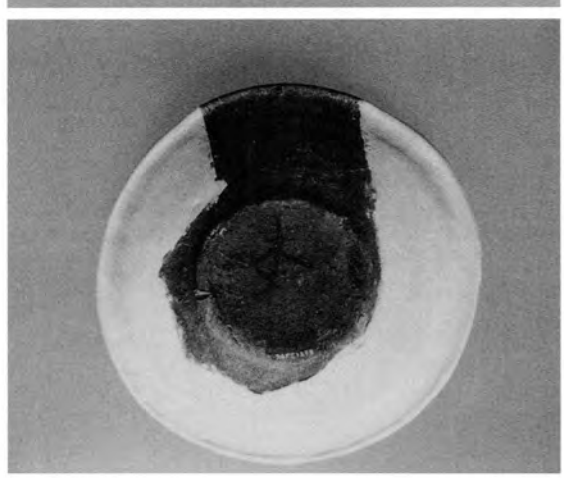
第52図227

第52図228

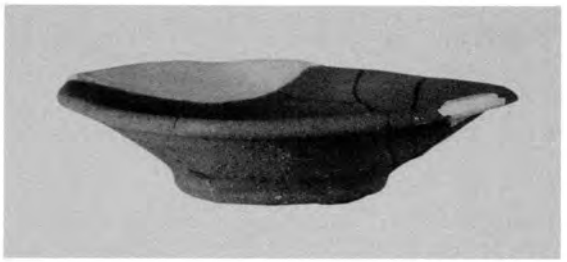


第52図229

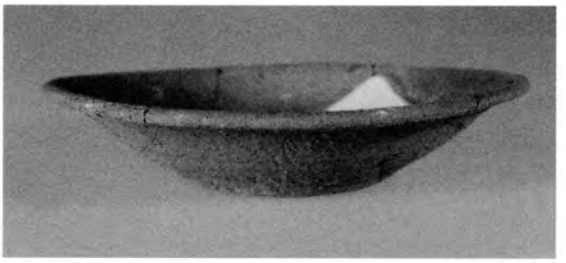
第44図57



第44図56

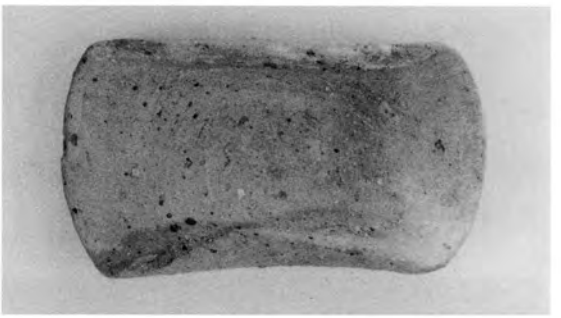


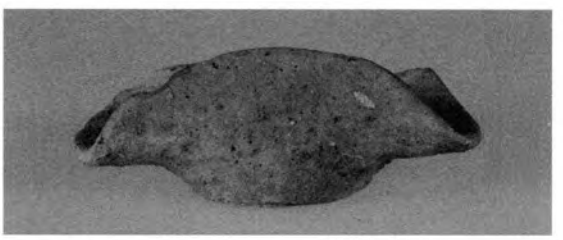
第13図18-10

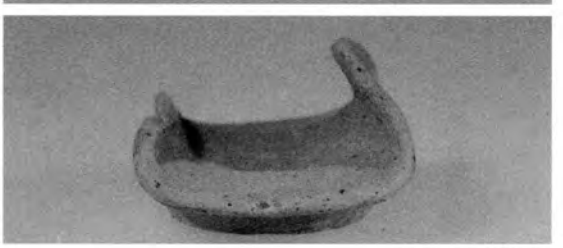


第13図18-11

第30図16-1



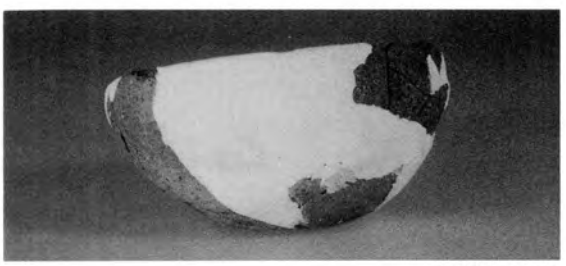




第30図16-3

第40図13-3

第68図96



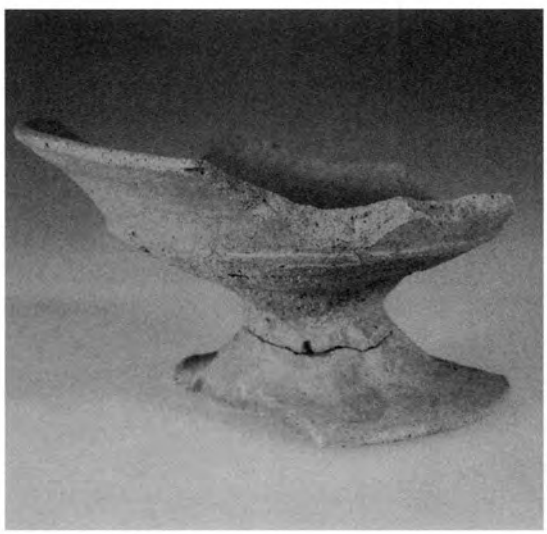
第282図2

第194図43

図版74

第194図44

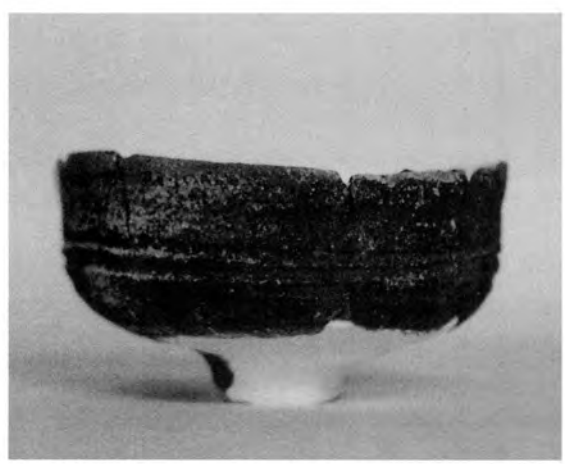
第194図46



第235図492

第48図135

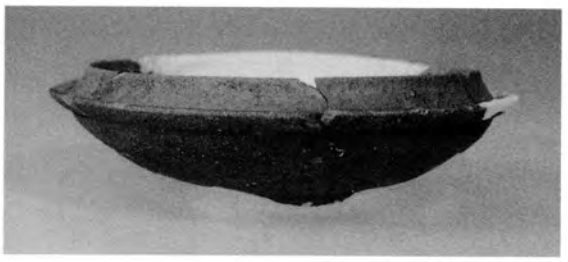
第224図212



第220図96

第220図89

第220図90

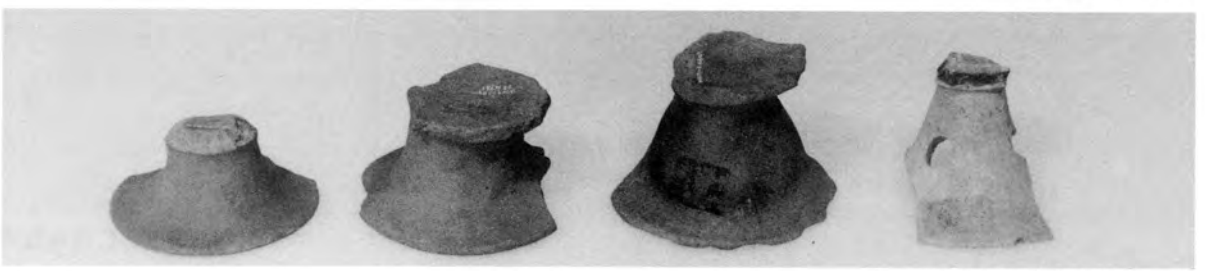


第220図97

第230図358

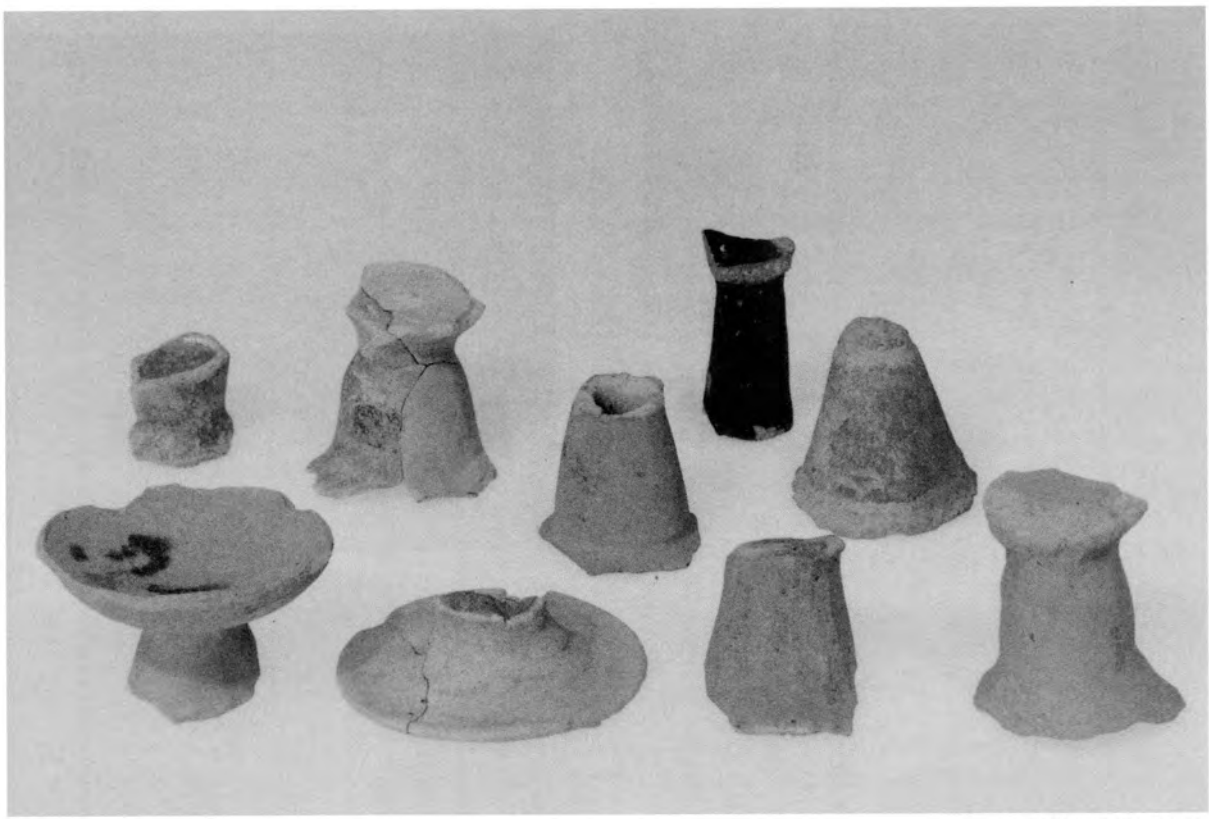
第236図528

第238図575



河川跡C地点高坏・器台

河川跡C地点高坏

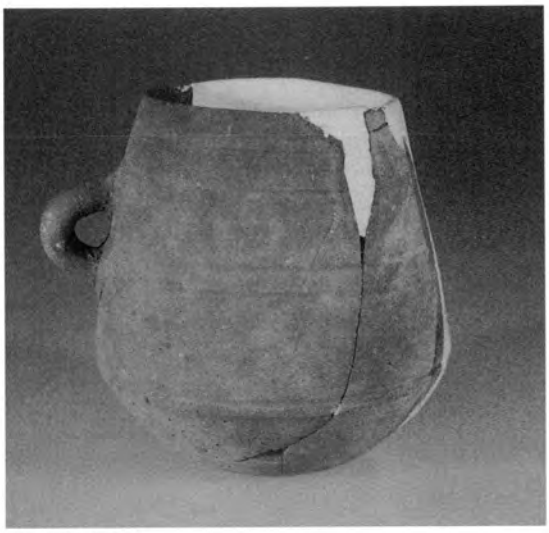


河川跡C地点高坏

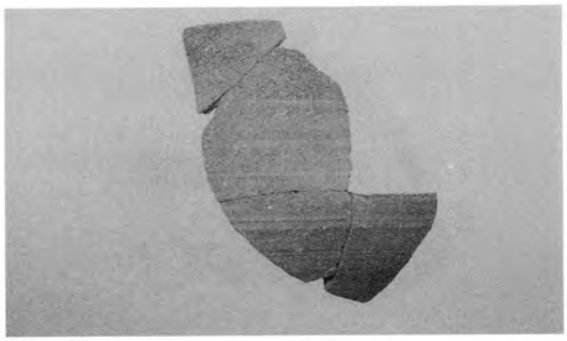
河川跡C地点高坏

河川跡C地点高坏・器台

図版78

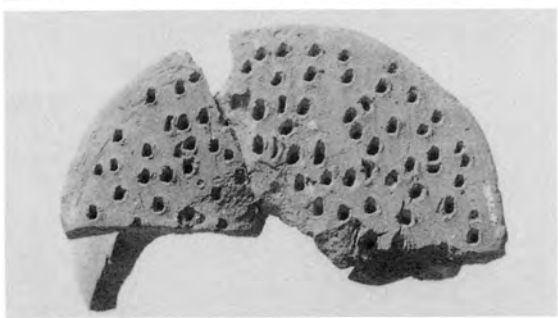


第196図90



第233図463

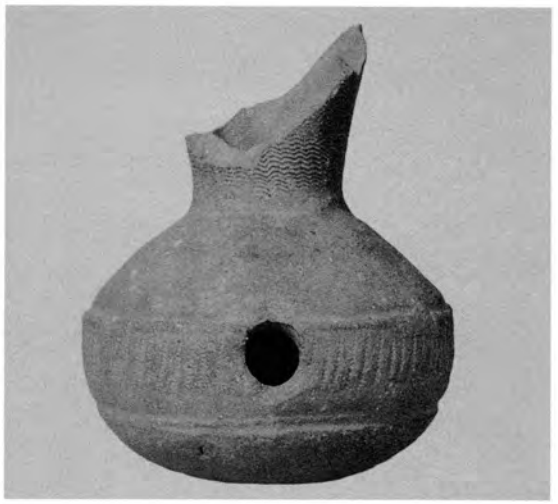
第52図230

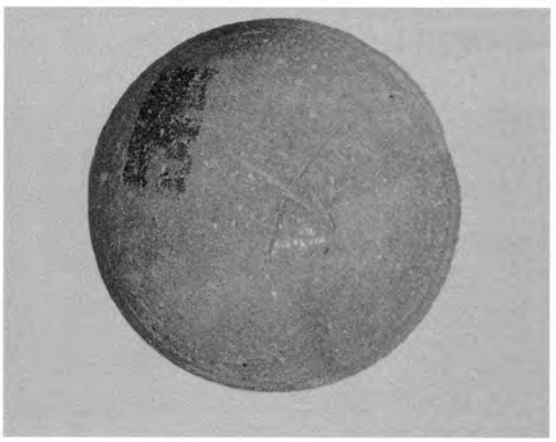


第55図272

第226図272

第231図395





第220図86

第233図464

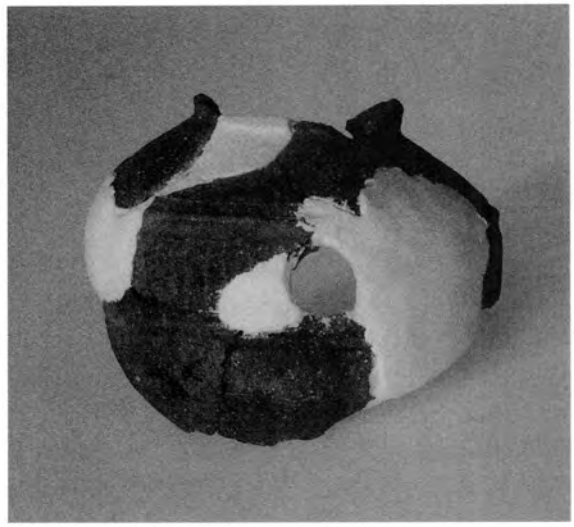
第233図465

第235図493

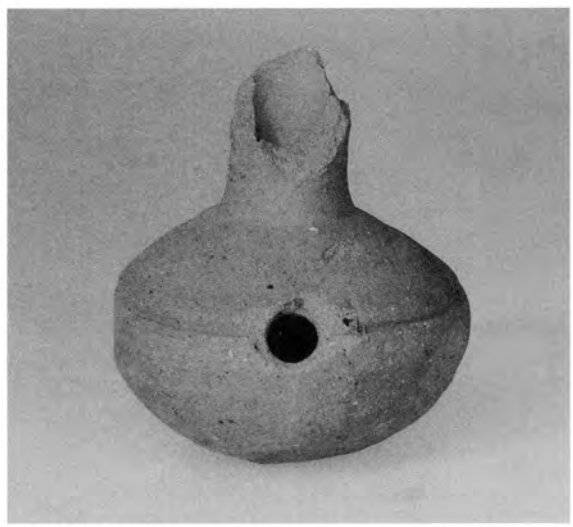
第235図494

図版80

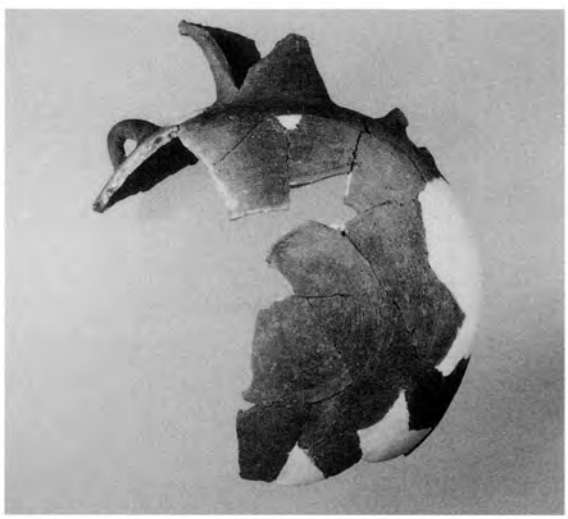
第235図495



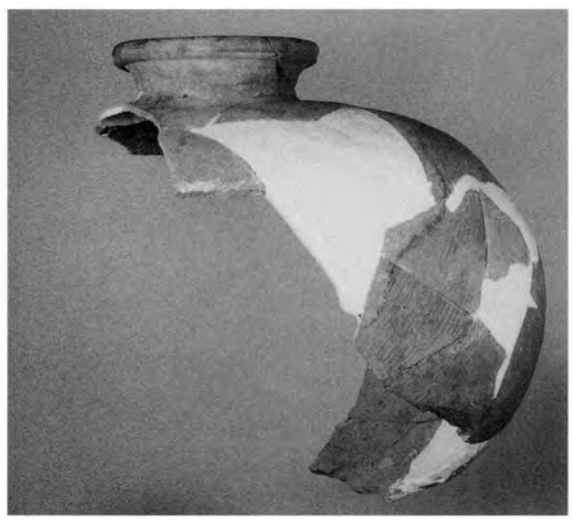
第237図548



第306図C－1



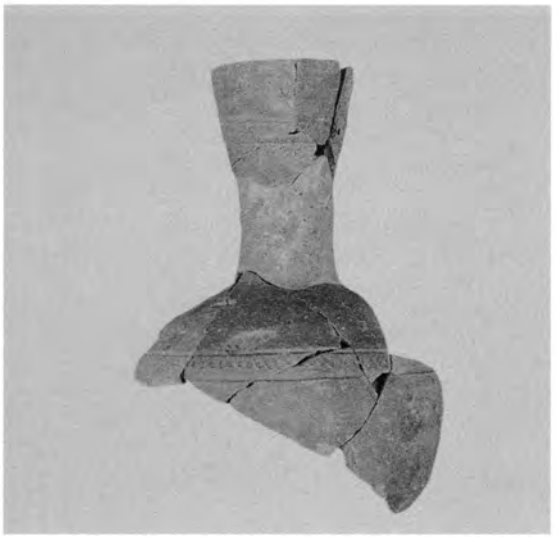
第228図312



第236図532

第236図531

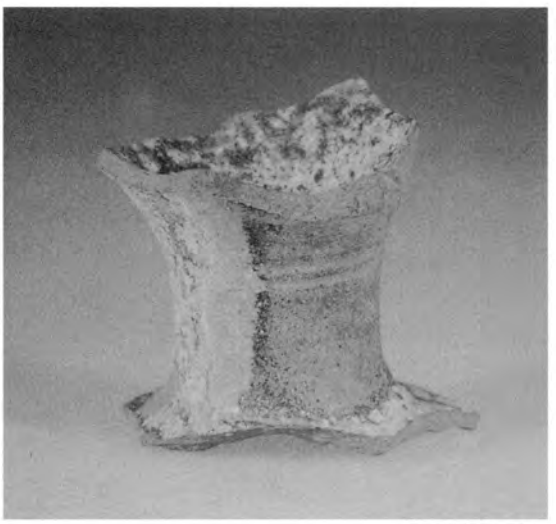
第238図576



第230図364

第223図199

第53図243



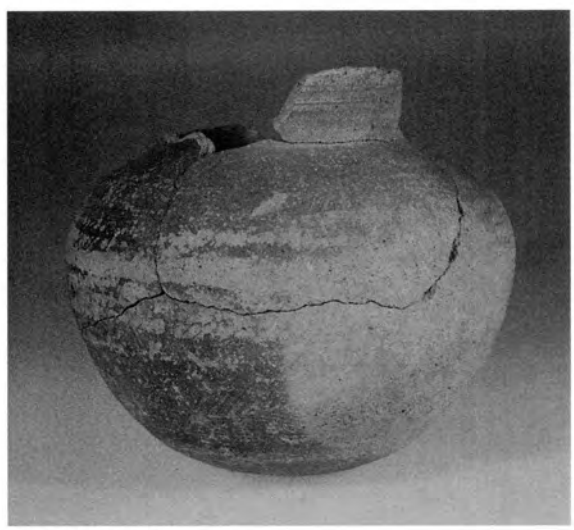
第224図218

図版82

第218図36

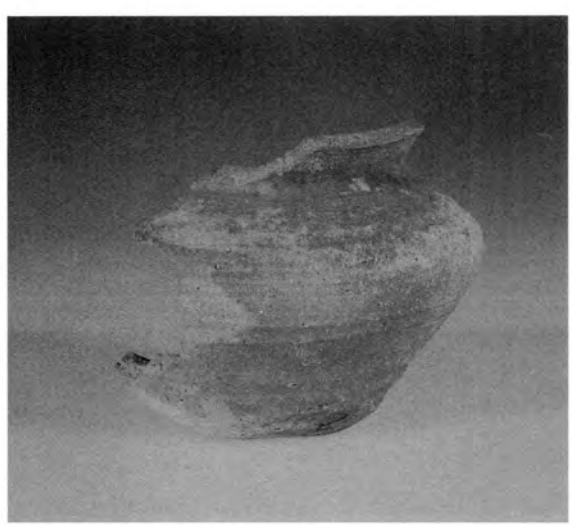
第193図3

第239図592



第224図231

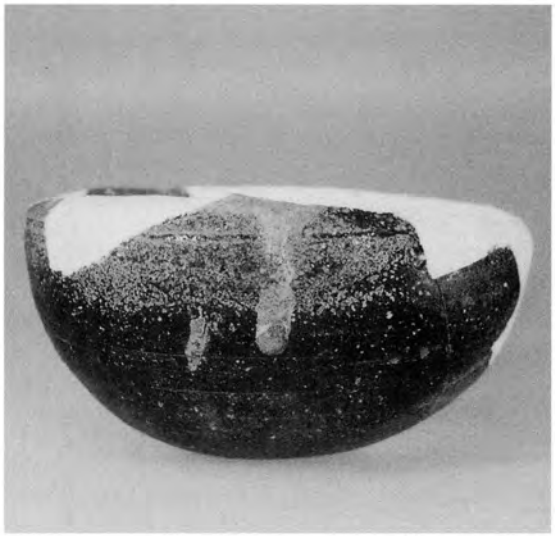
第229図348



第233図466

第225図238

第231図398



第233図443

第13図18-12

第71図22-10

第53図247

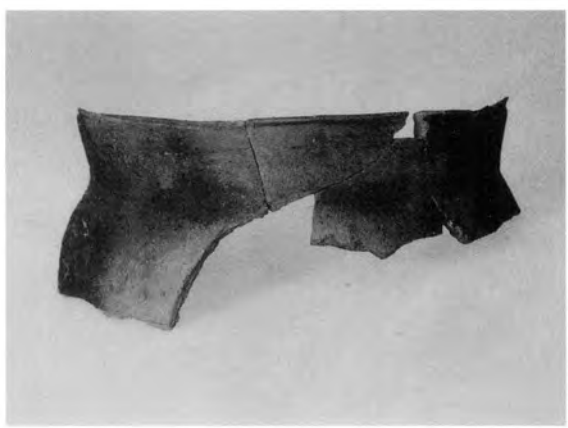
図版84

第230図350

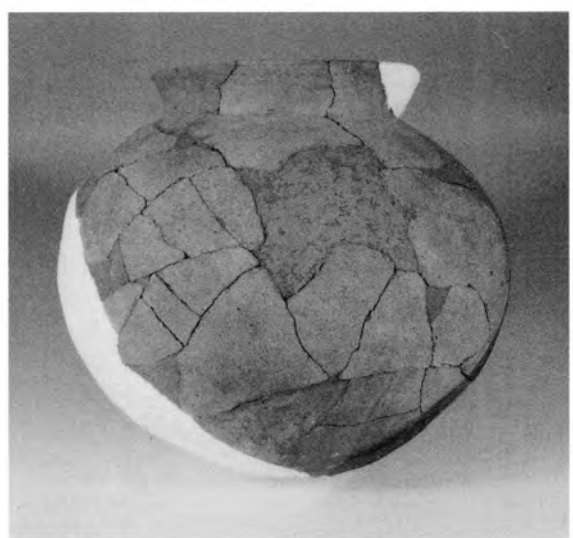
第188図48-3

第195図60

第193図4



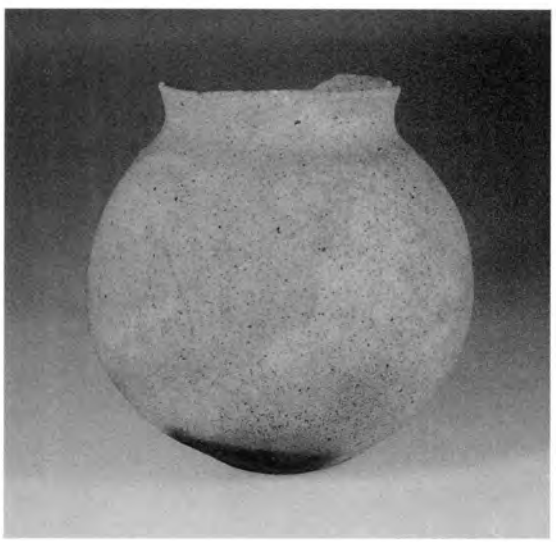
第223図184



第195図61

第226図274

第227図300



第233図437

第233図438

第237図554

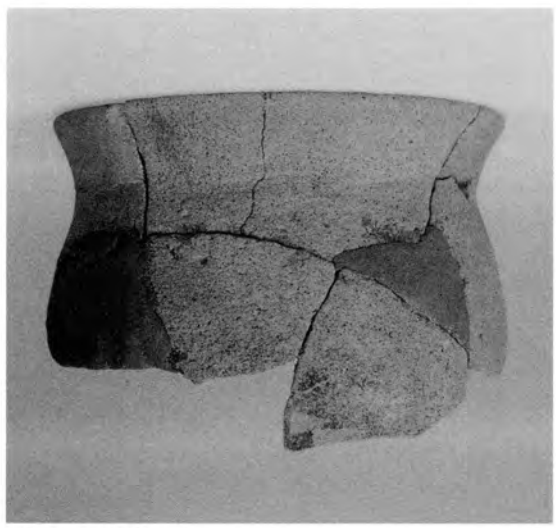
第237図556

図版86

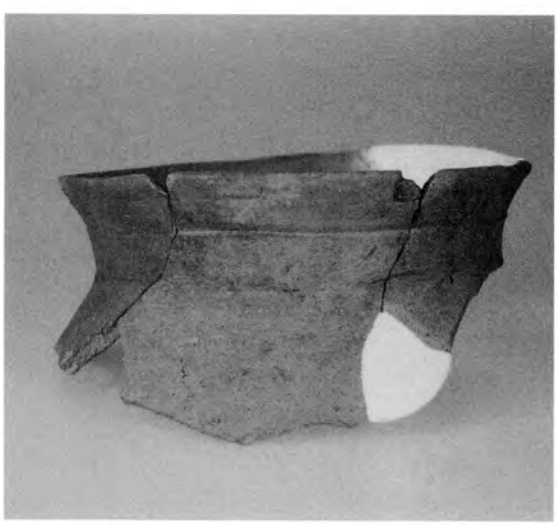
第239図600

第239図602

第228図321

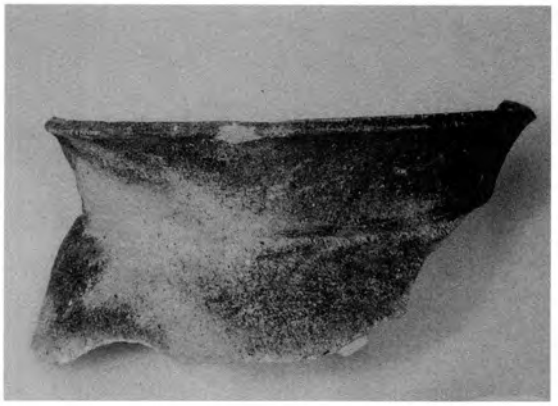


第231図402

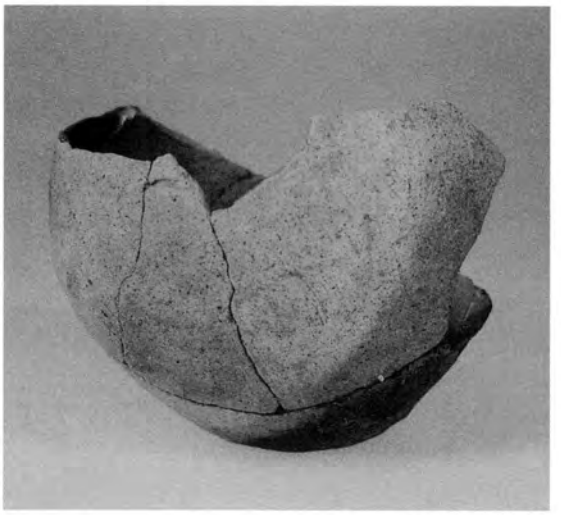


第232図433

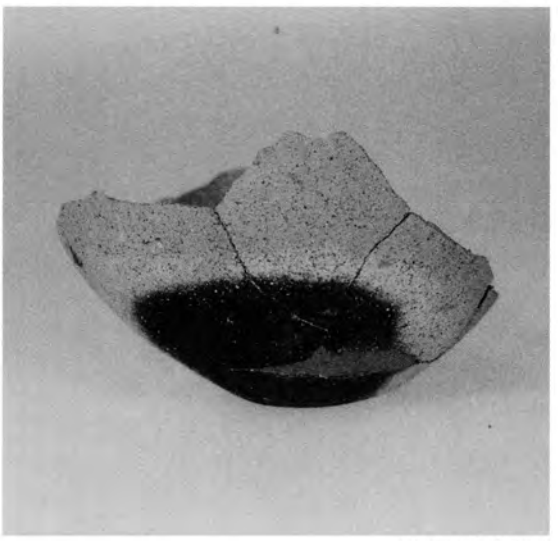
第232図435



第232図434



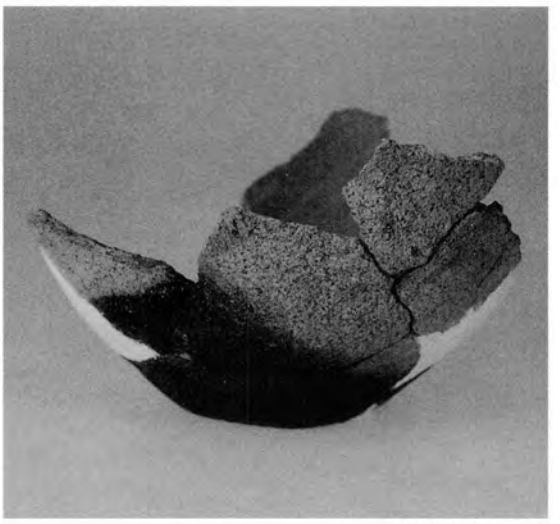
第229図341



第236図537

第237図538

第237図542

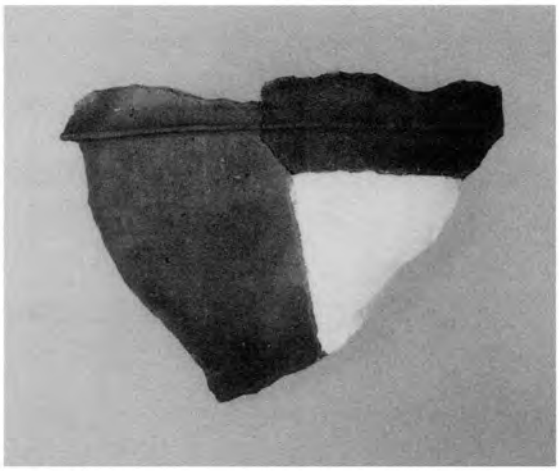


第238図570

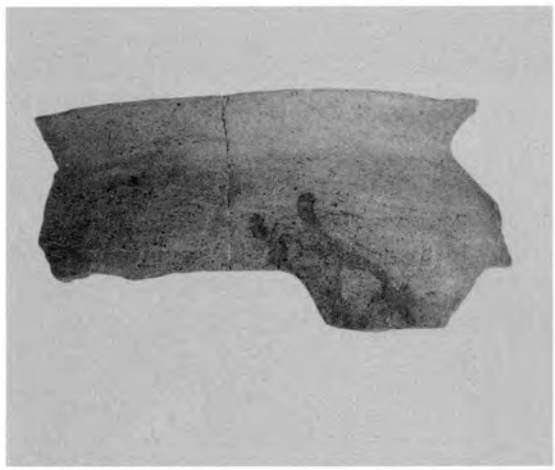
図版88

第232図413

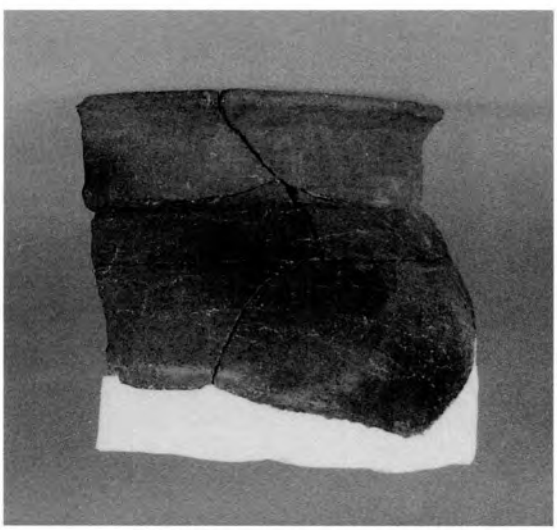
第239図603



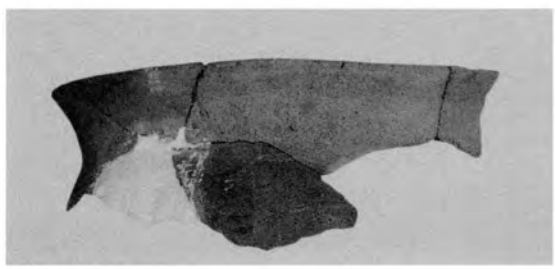
第94図1-2



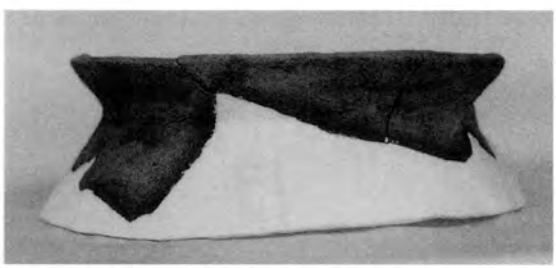
第95図3-7



第15図18-17

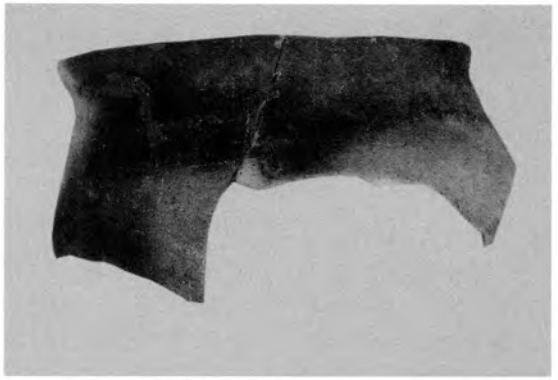


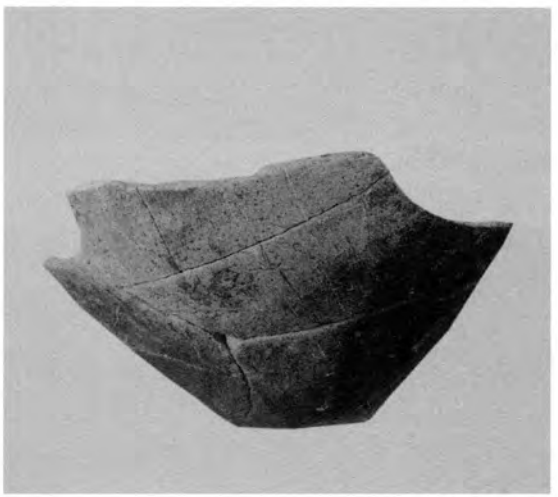
第107図8-8



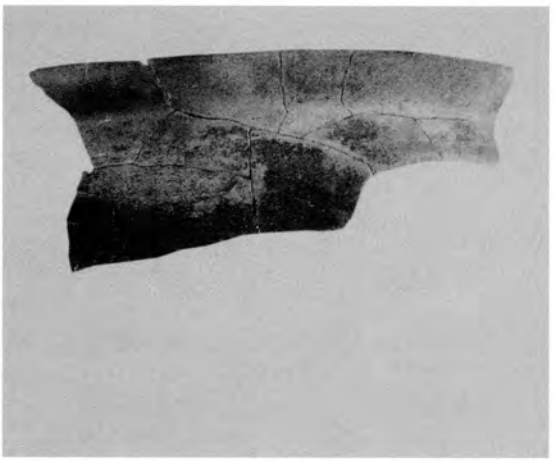
第15図19-16

第71図228

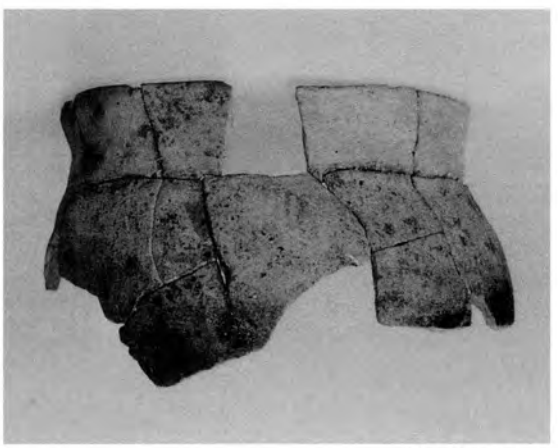




第71図22-6

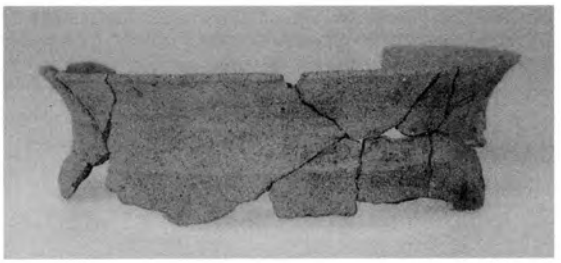


第71図22-7

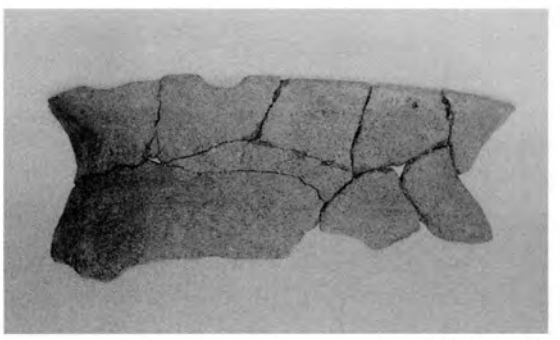


第30図16-2

第177図19-10



第282図10



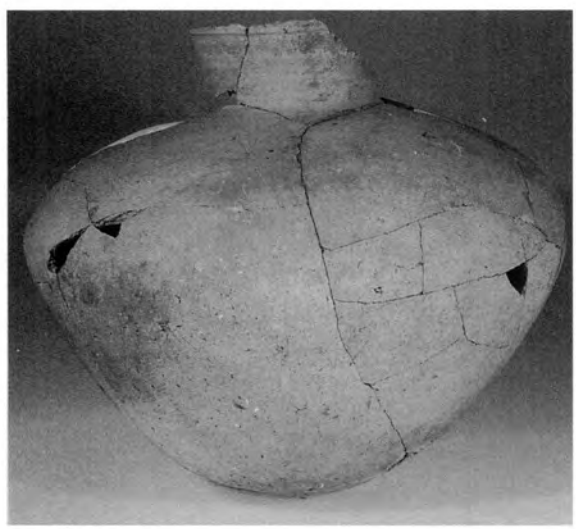
第282図9

図版90

第129図4-3

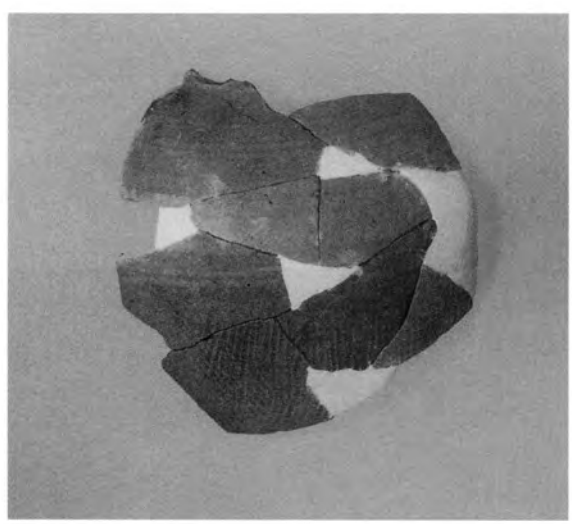
第223図185

第48図141

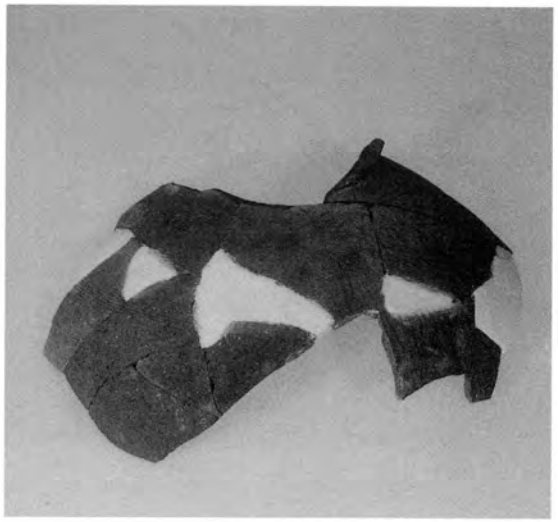


第234図483

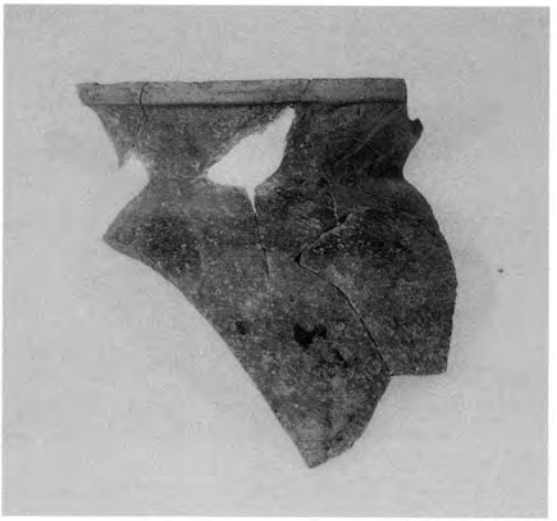
第237図549



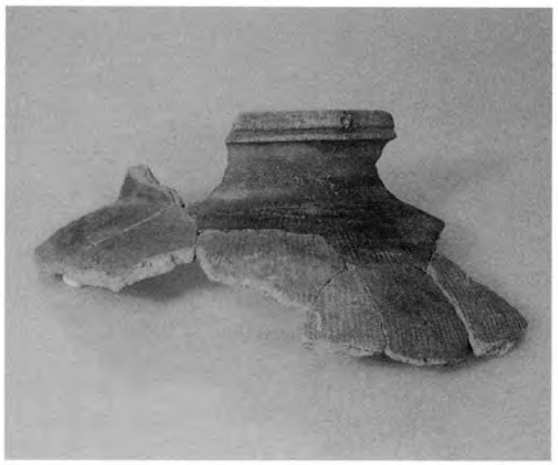
第227図303



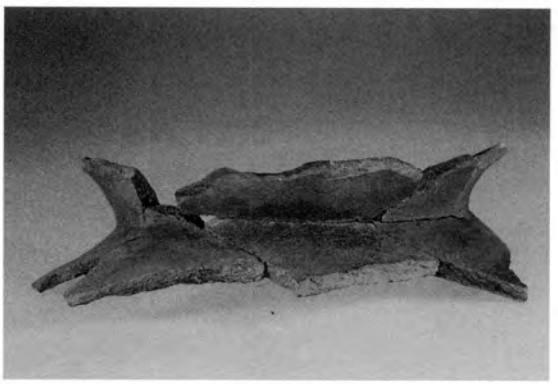
第227図280



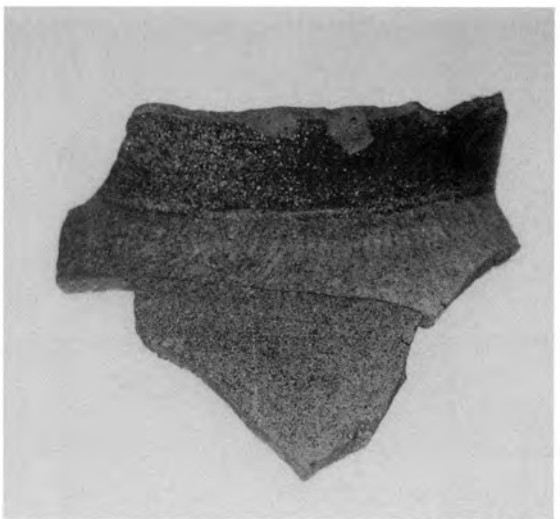
第227図284



第235図501



第225図234

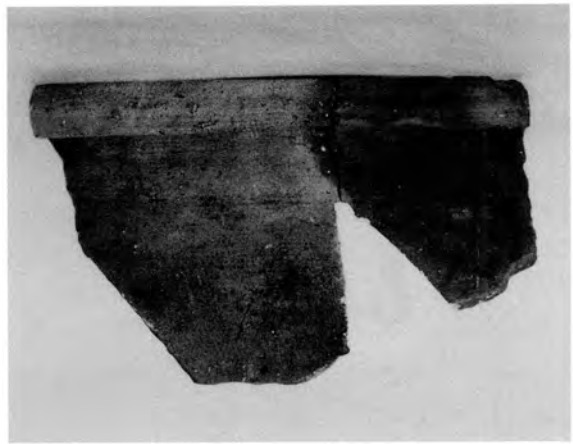


第220図93

第53図253

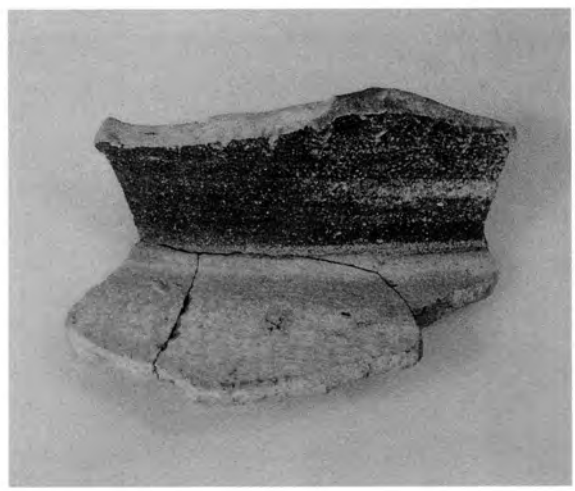
図版92

第54図258

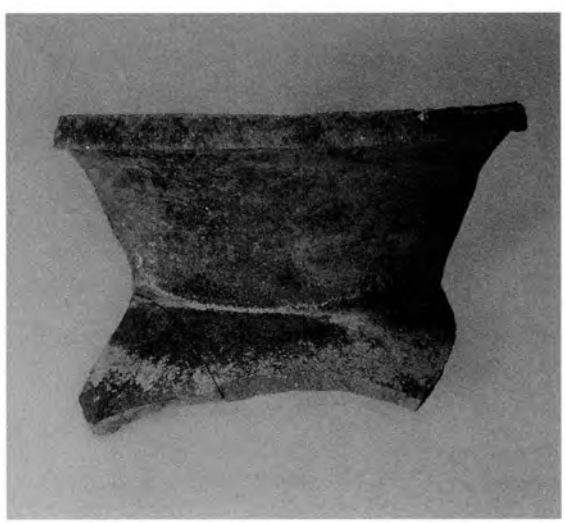


第54図257

第39図8－29

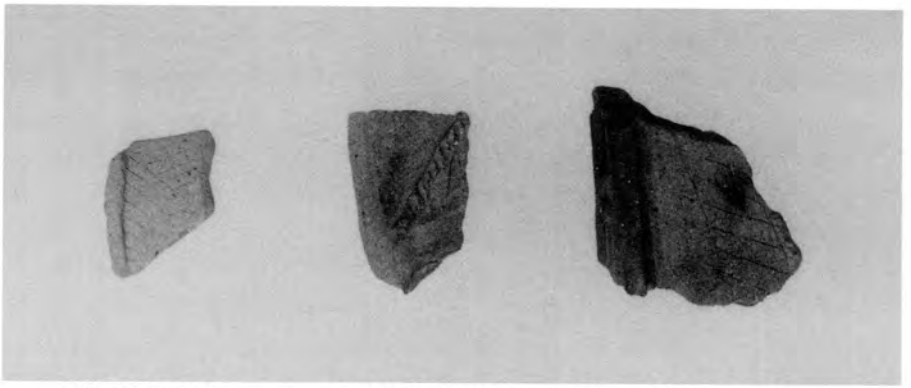


第69図118

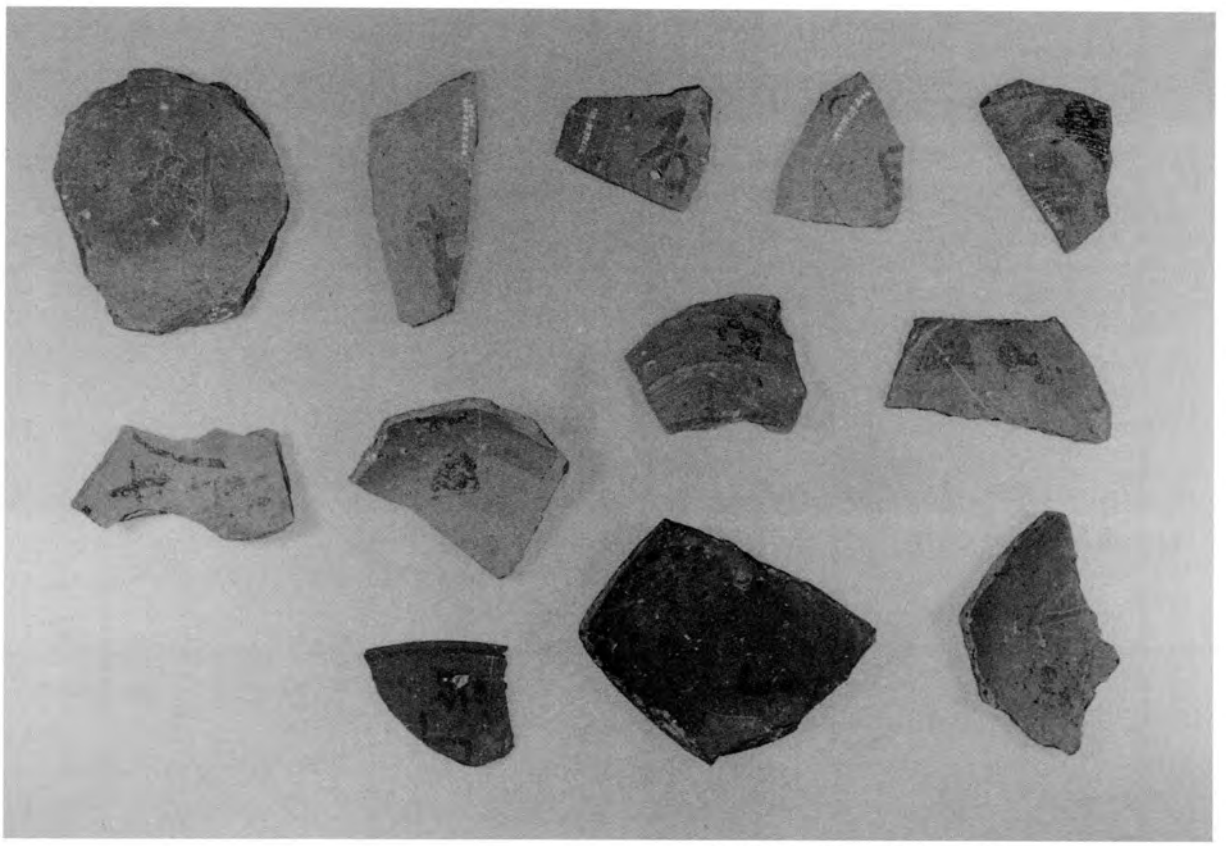


第157図4－4

第177図6－8

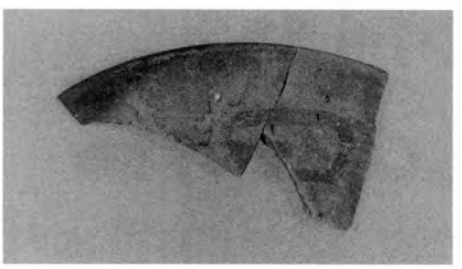


第234図474　第230図366　第225図245

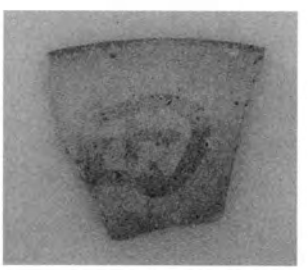


第217・219・220・221・222図墨書土器

第217図16



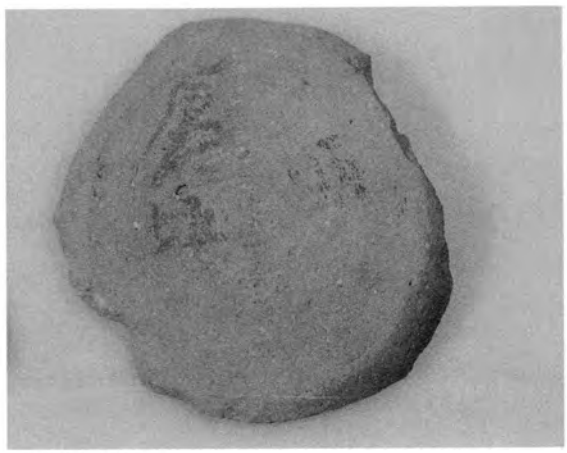
第221図130



第224図208

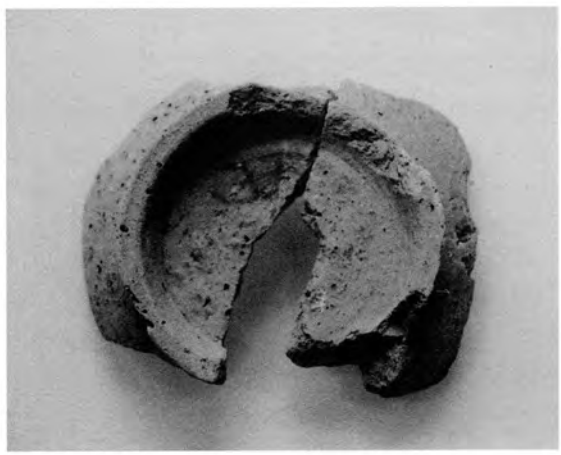
図版94

第218図33

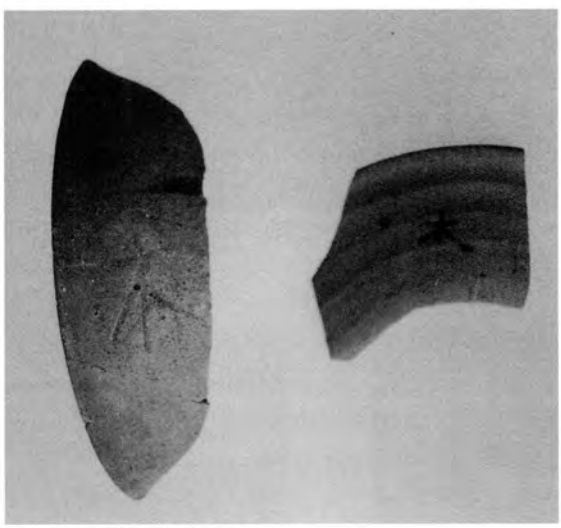


第220図105

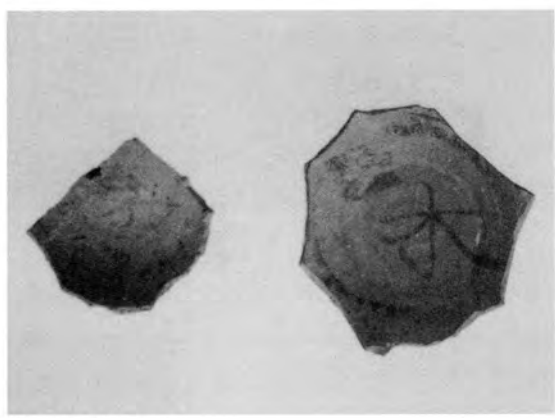
第222図142



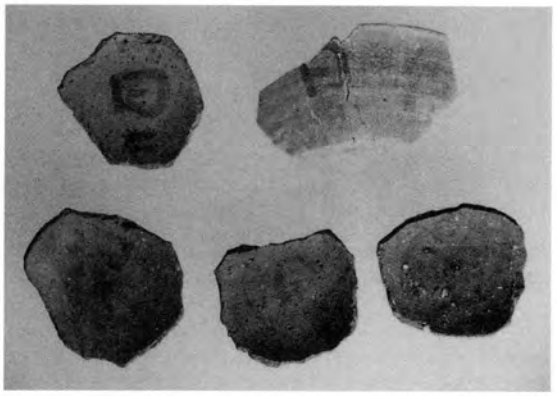
第239図606



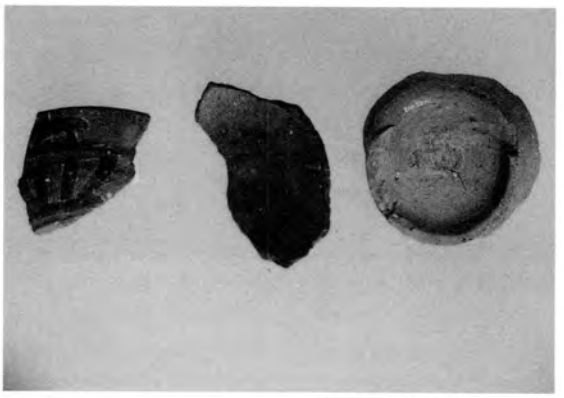
第43図39・第42図25



第44図49・54



第44図59・58
第47図96・第45図61・第44図60



第45図62・64・63

第46図79

第46図82

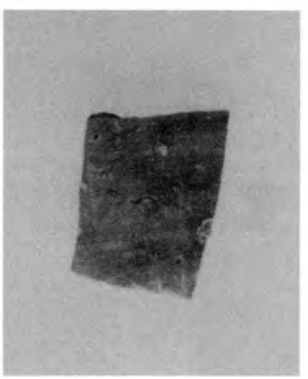
第46図91

第46図94

第47図95

第47図100

第47図101

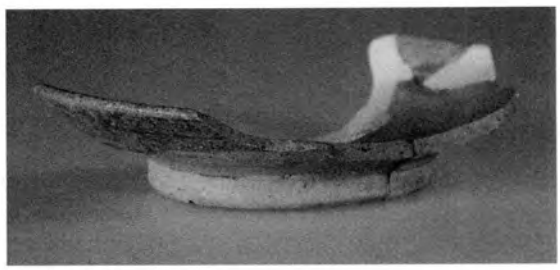


第47図102

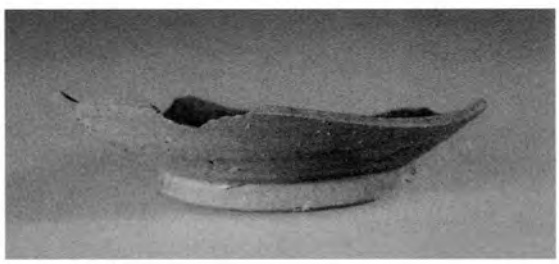
第47図104

図版96

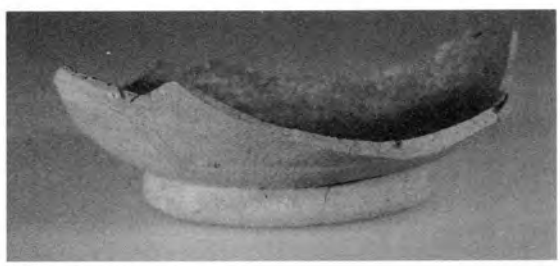
第95図4－7



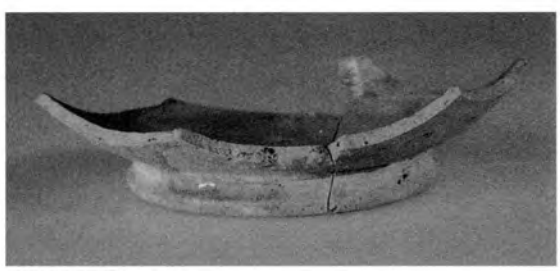
第107図8－6



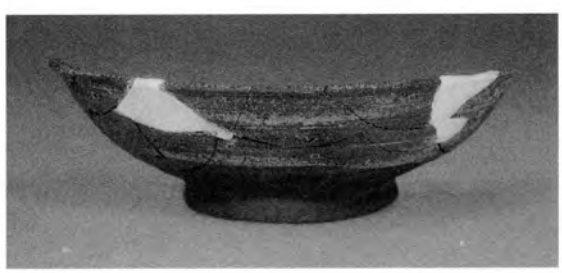
第129図8－4



第129図8－5



第129図9－4

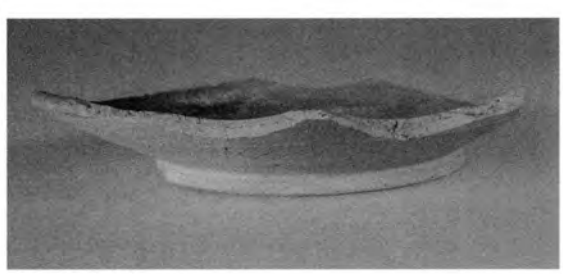


第217図22

第223図182

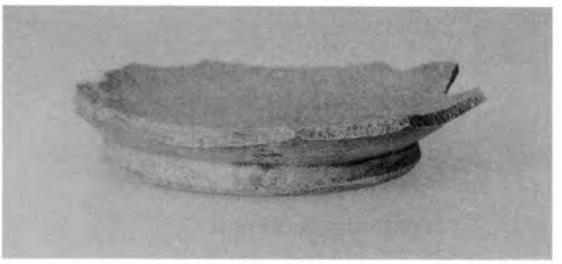
第159図7－5

第159図7－11

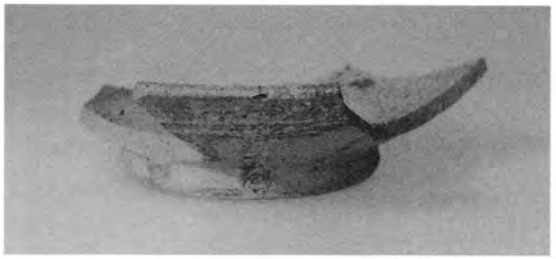


第182図36－4

第298図6－3

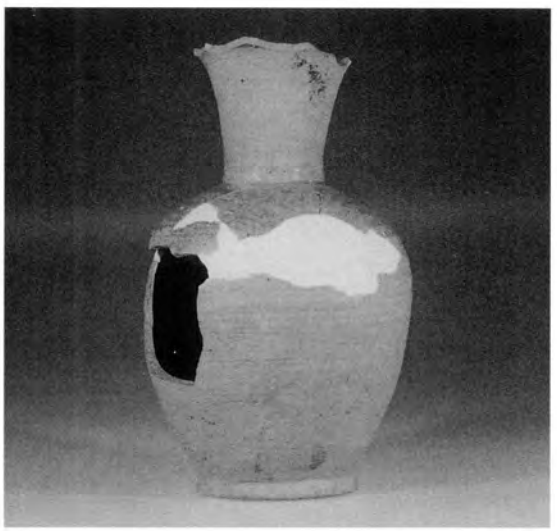


第282図20



第38図6－8

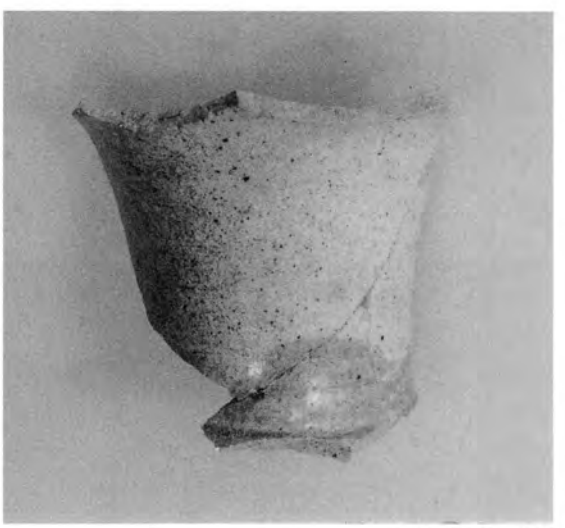
第39図8－21



第218図37

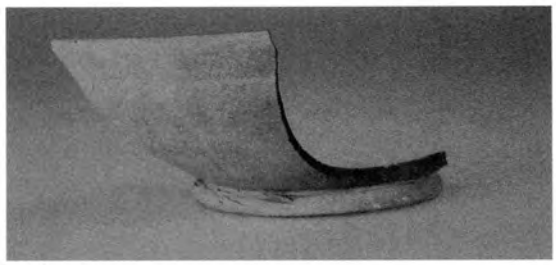
第145図Ⅳ区P53－1

第53図242



第39図8－23

図版98



第95図4－5

第163図15

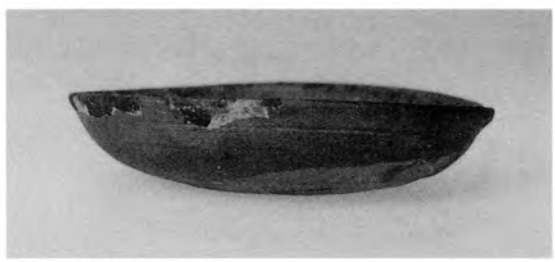
第52図233

第221図117

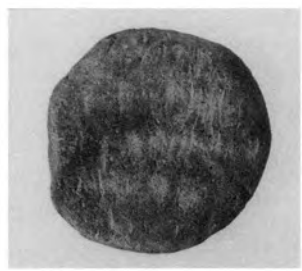
第69図122

第74図6

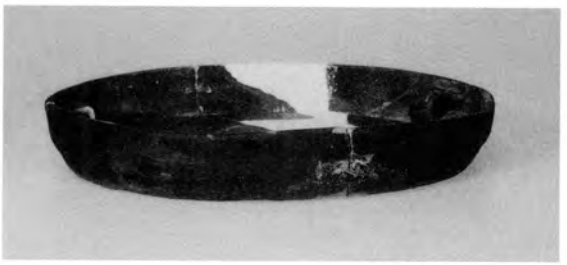
第38図1－3



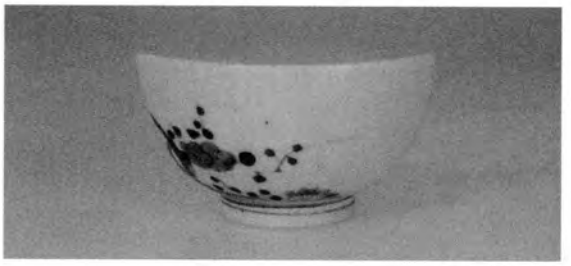
第143図54－5



第38図1－6



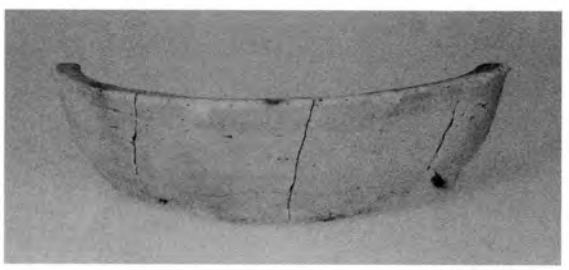
第143図54－11



第190図1

第190図2

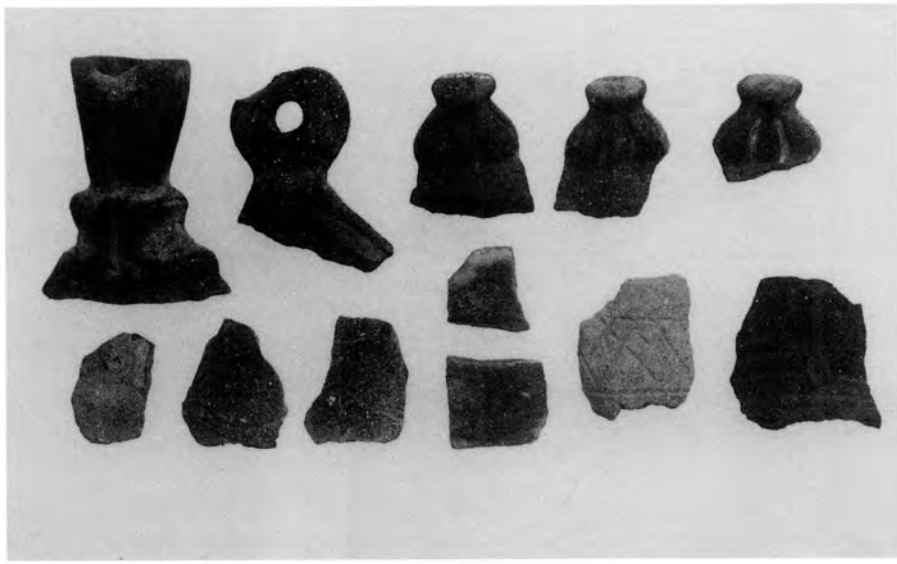
第190図4



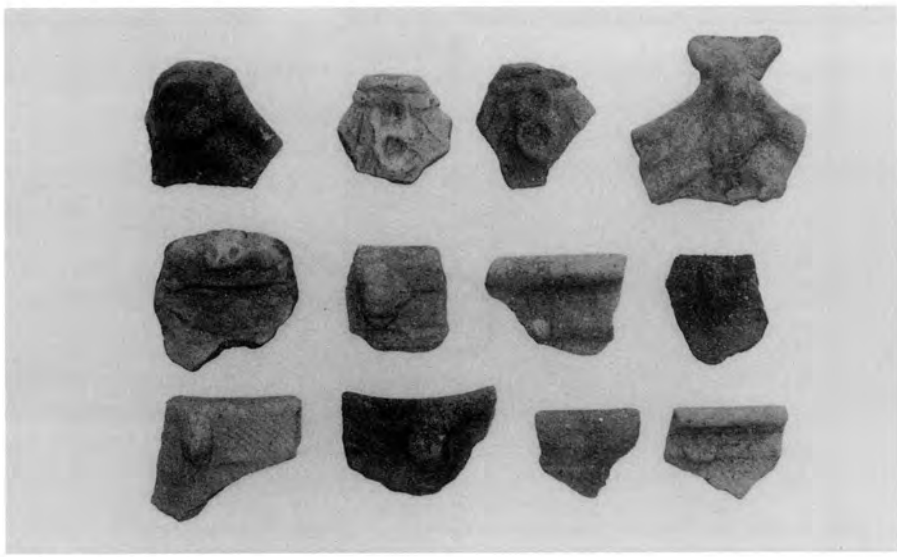
第190図5

第282図8

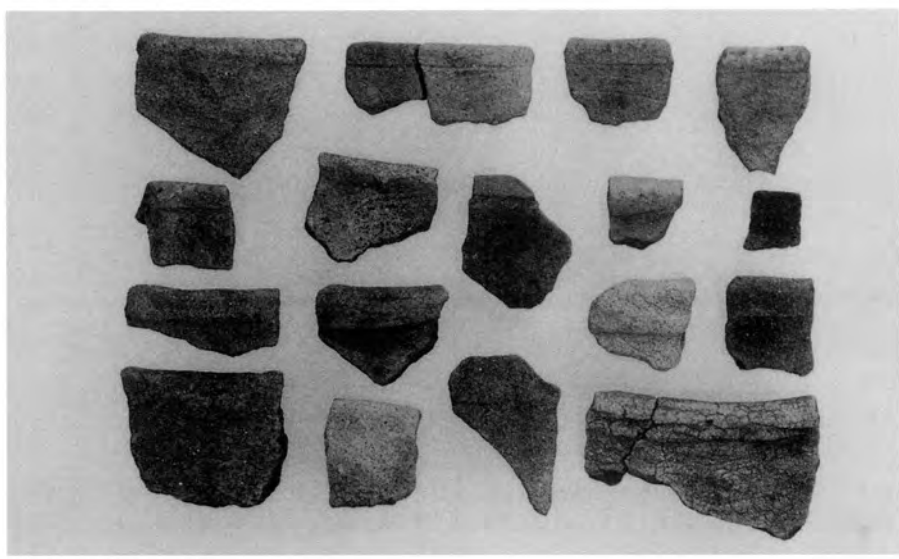
第240図608～614



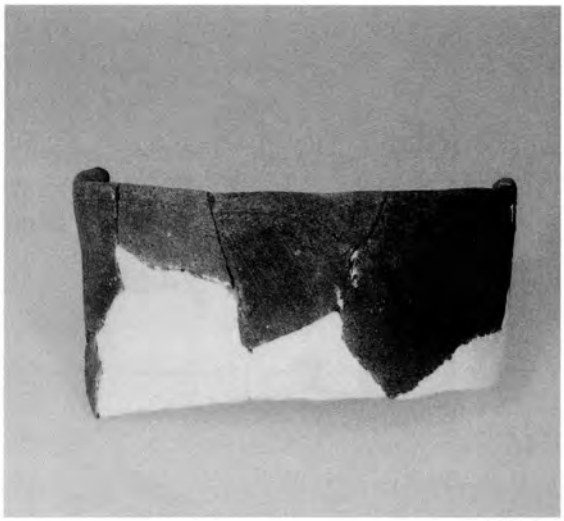
第216図縄文土器



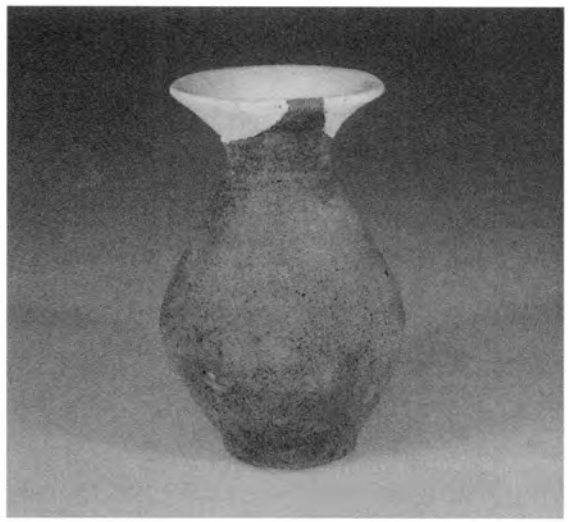
第216図縄文土器



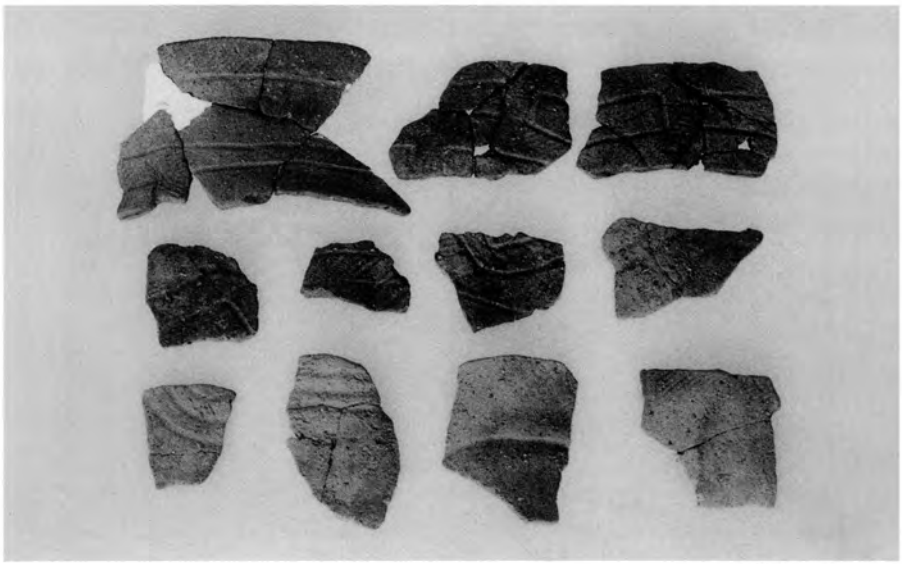
第216図縄文土器



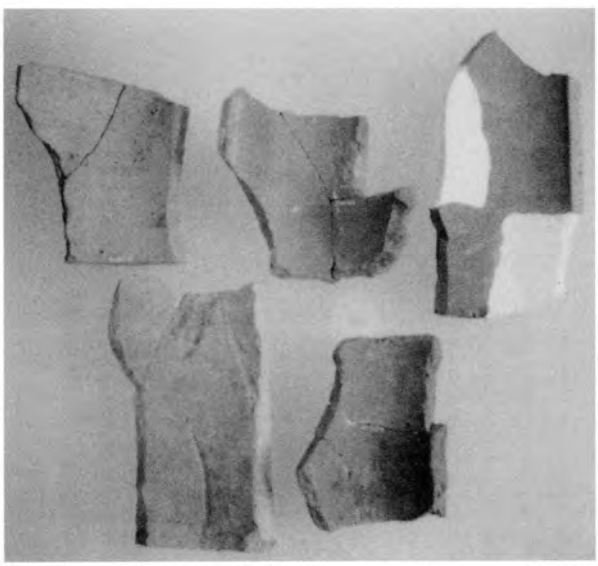
第135図9



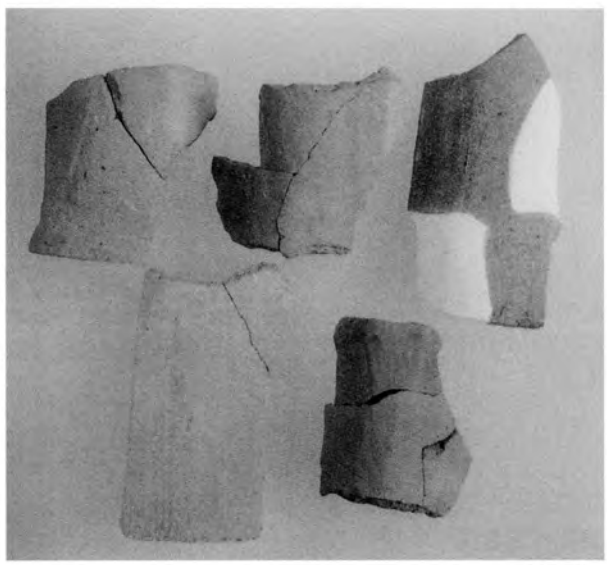
第193図1



第280図1～11

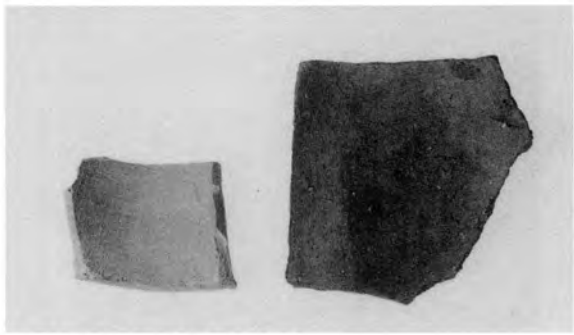


第160図7－27～29　第161図7－30・31（凹面）

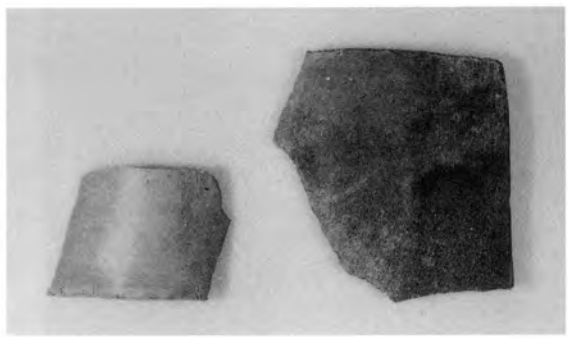


（凸面）

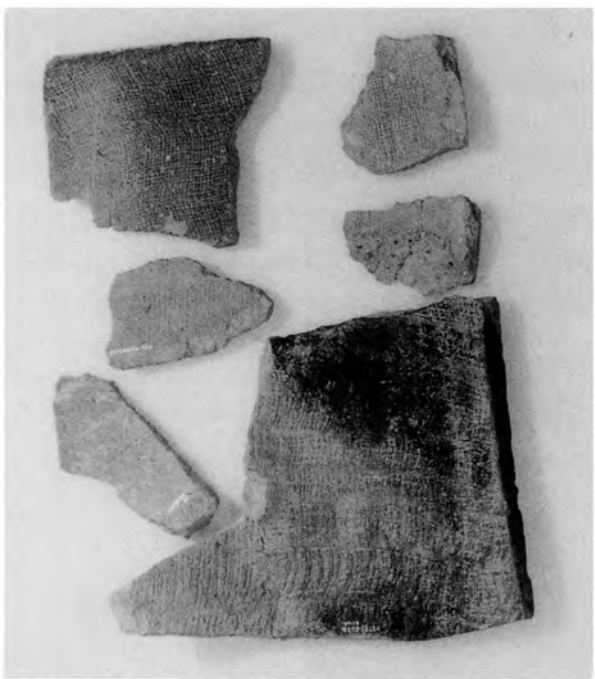
図版102



第69図123・124（凹面）

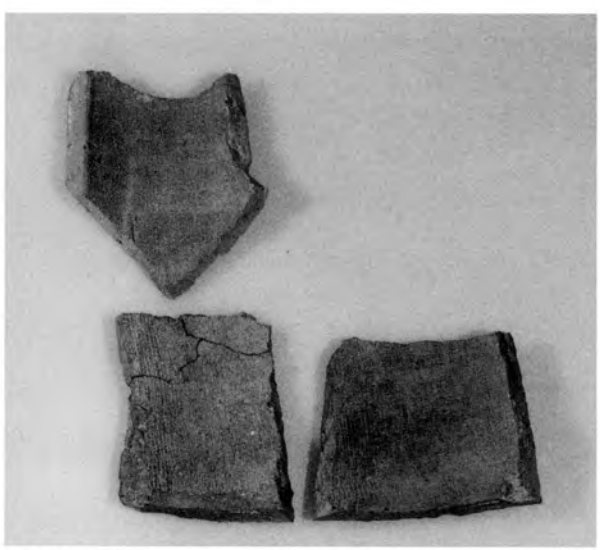


（凸面）

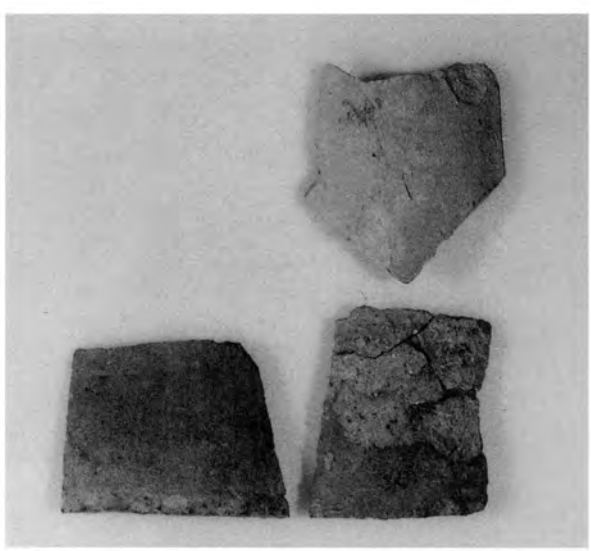


第240図618・619他平瓦（凹面）

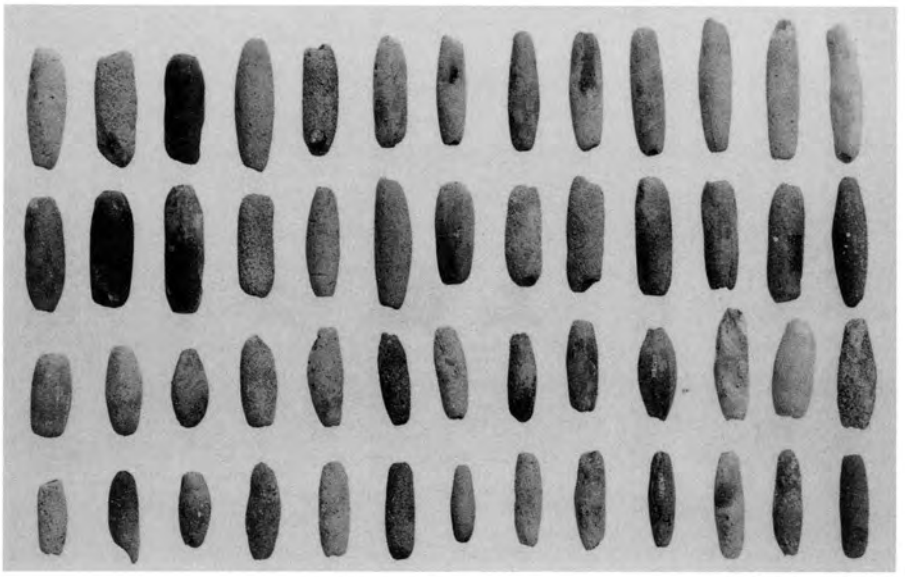
（凸面）



第240図615～617（凹面）

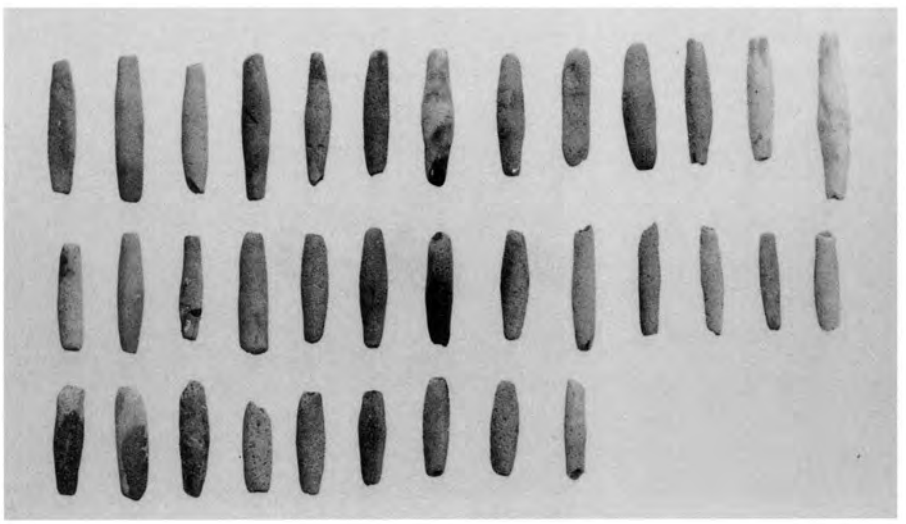


（凸面）



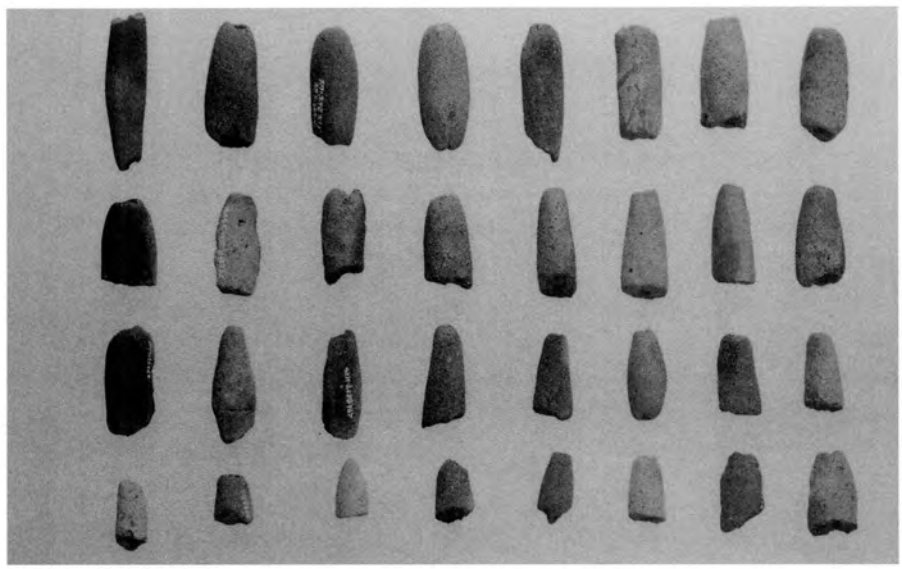
第257・258図

第257・258図

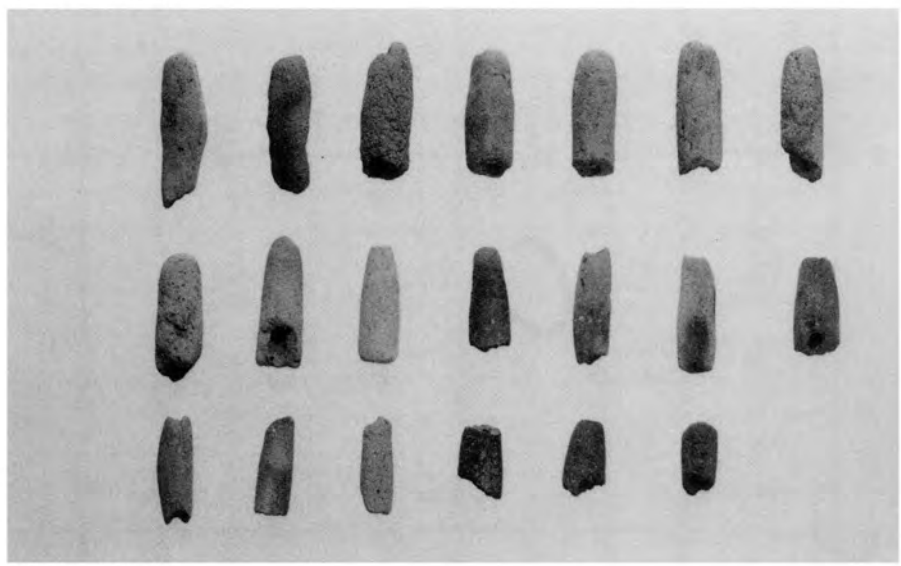


第257・258図

図版104

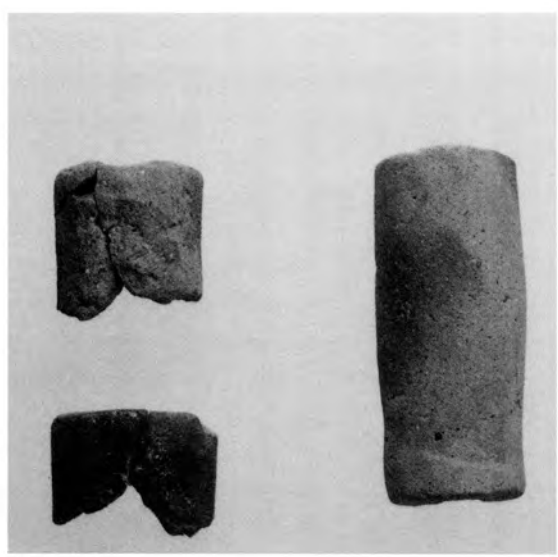


第257・258図

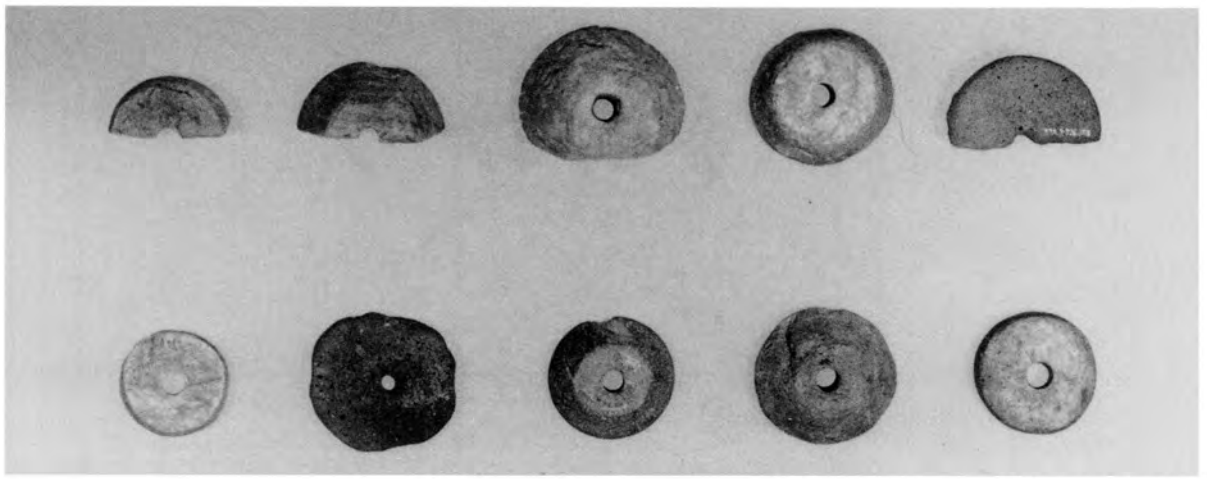


第257・258図

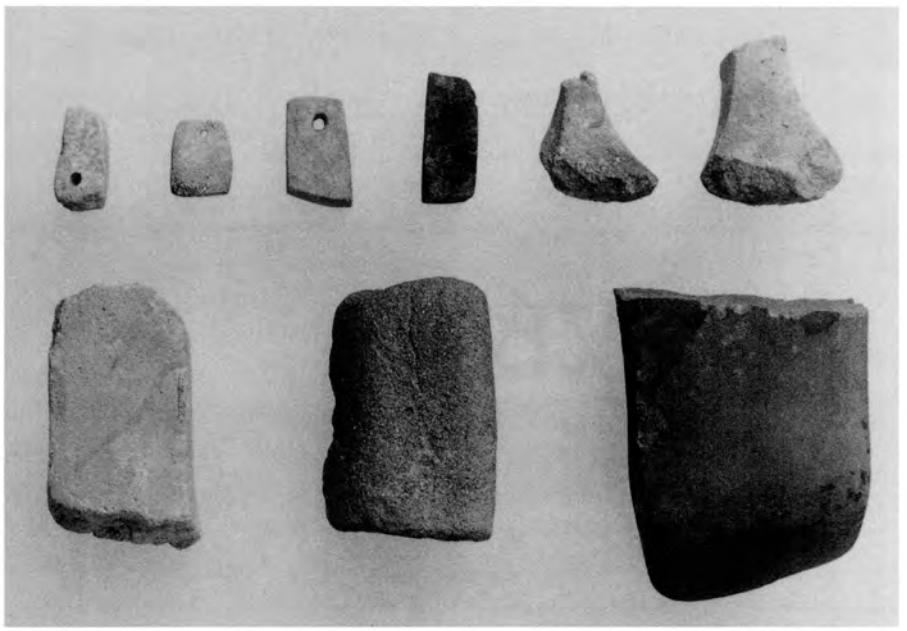
第257・258図



第257図



第255図1～10

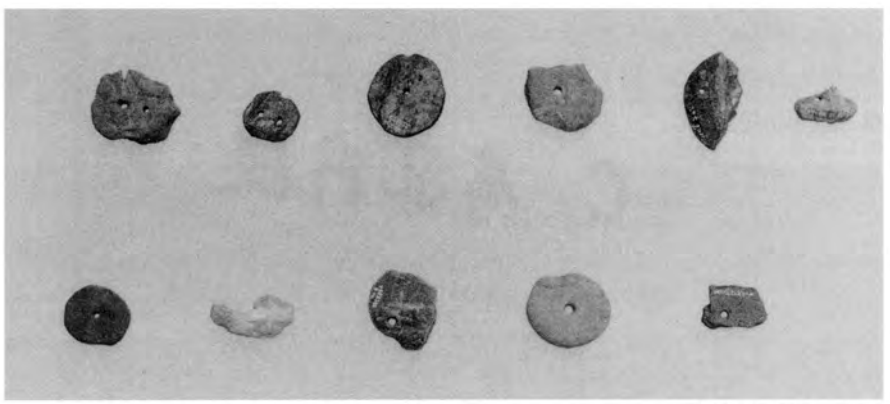


第256図1～9

第59図1

第82図1

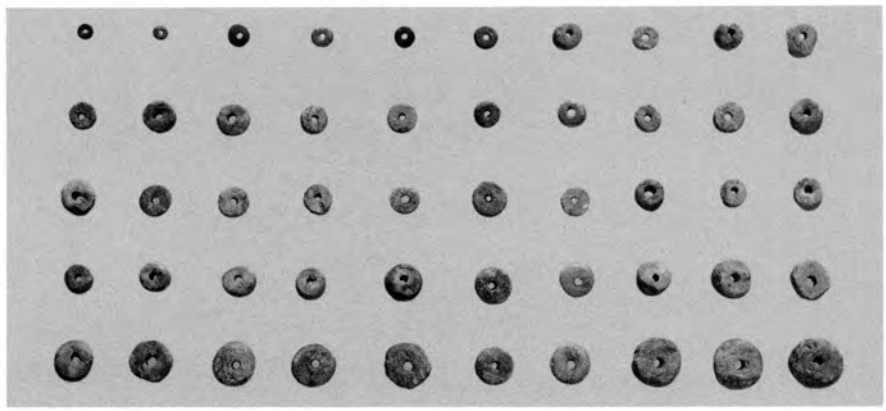
第71図22－11



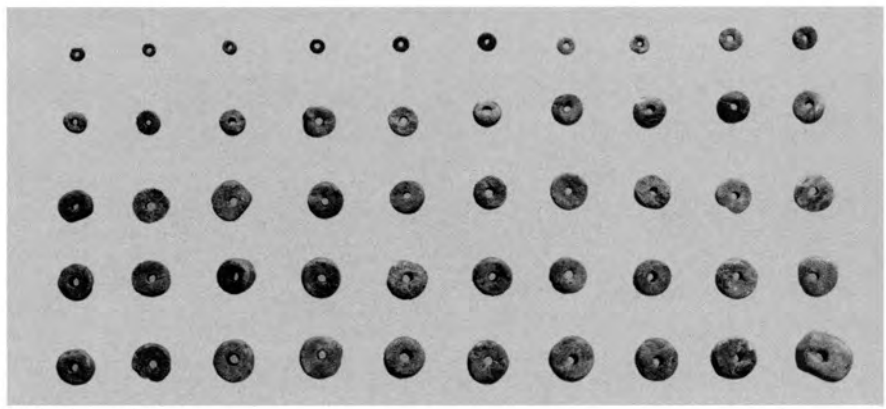
第243図1～11

第243図14

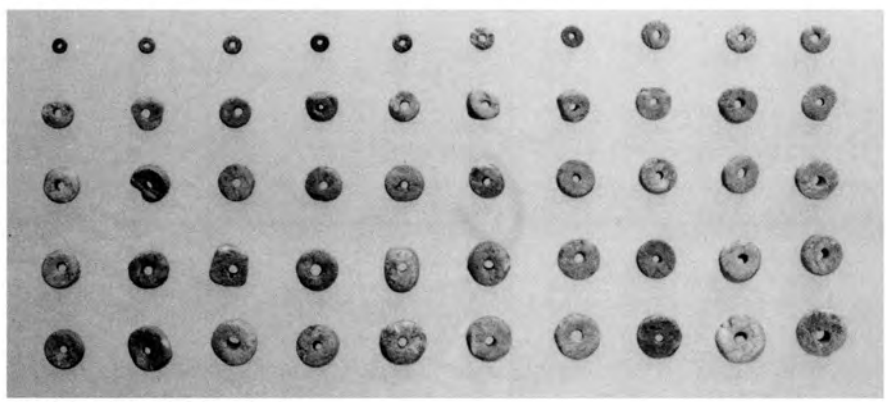
第203図4・5



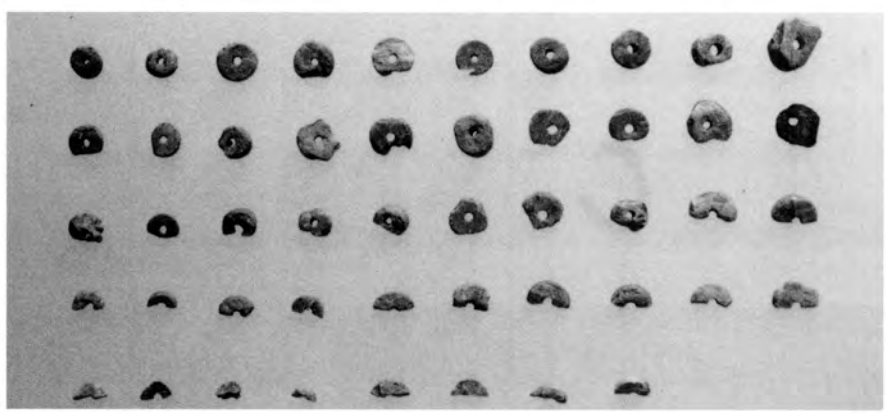
第241・242図



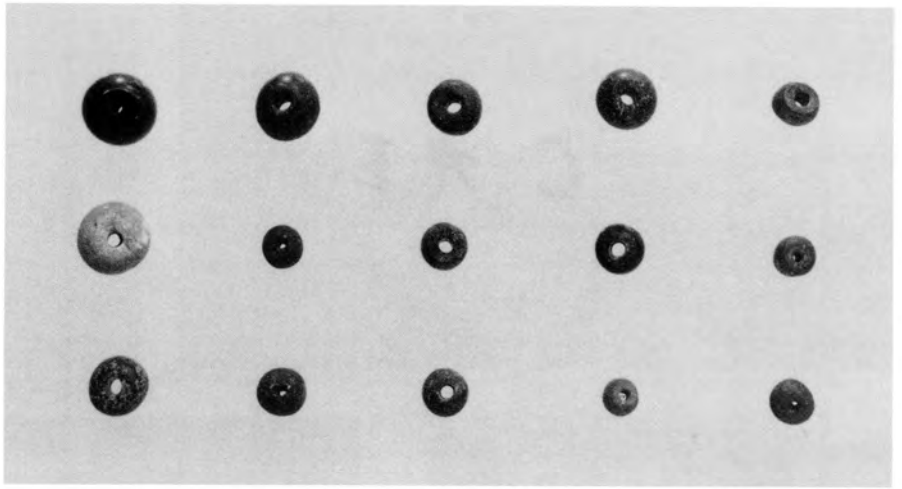
第241・242図



第241・242図

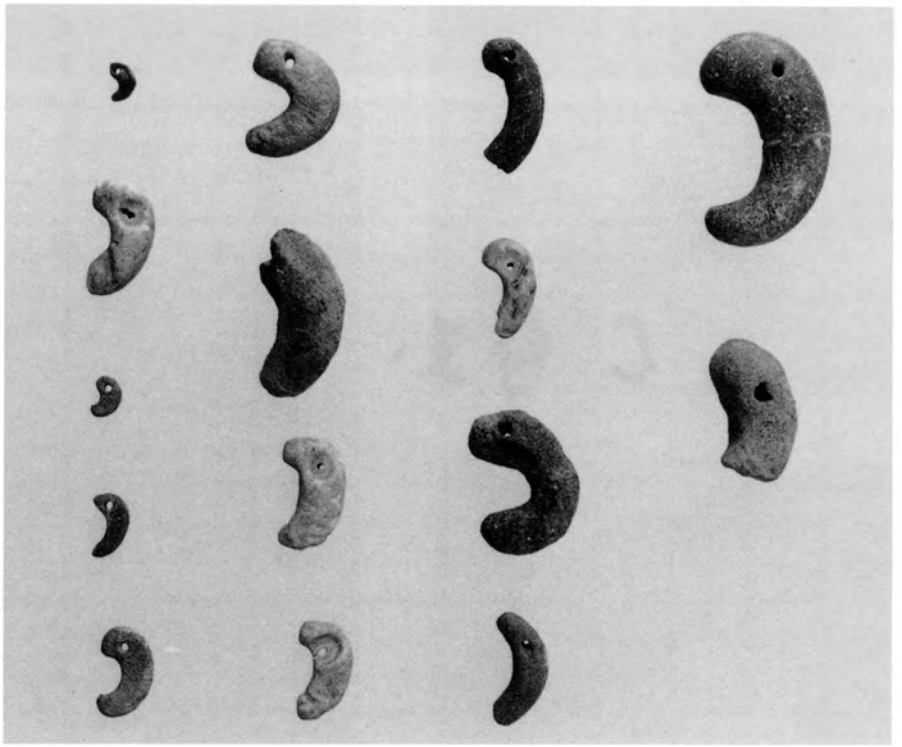


第241・242図



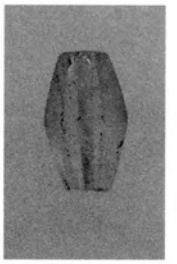
第245図1～15

第61図1

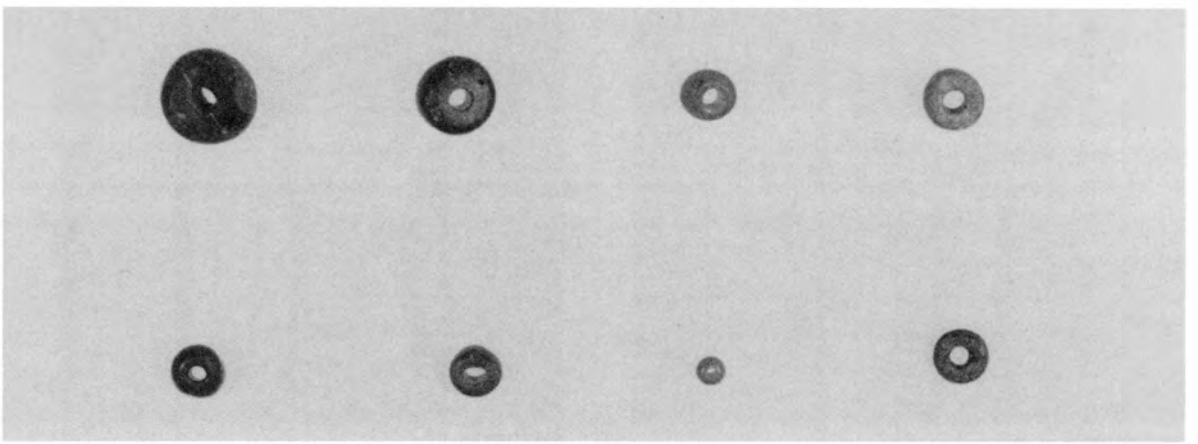


第244図1～15

第247図2

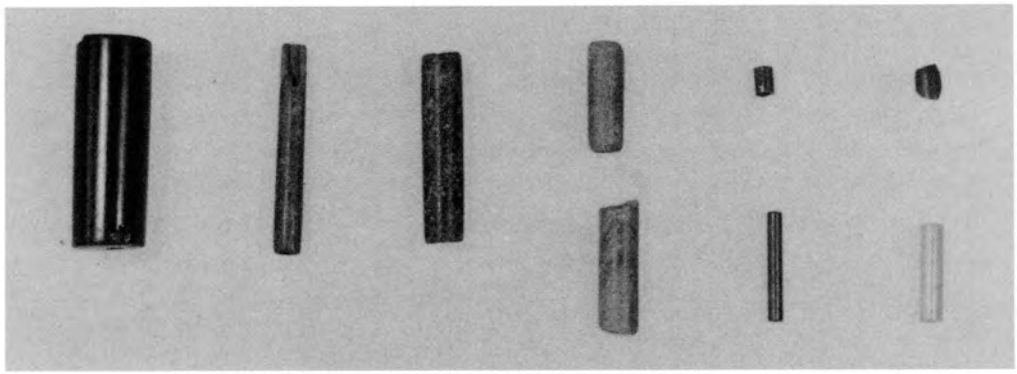


第247図1



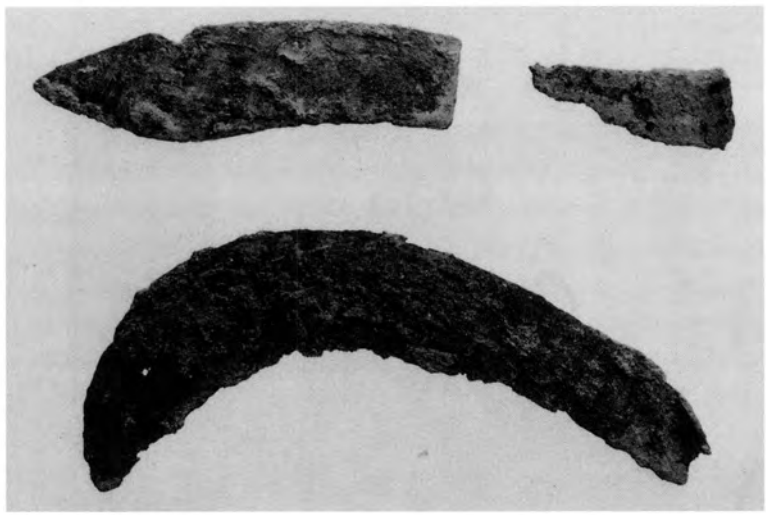
第246図1～8

図版108

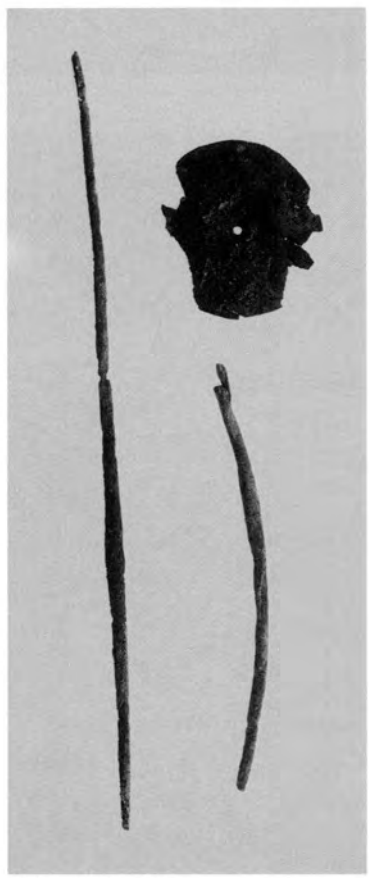


第248図1～9

第80図6－3

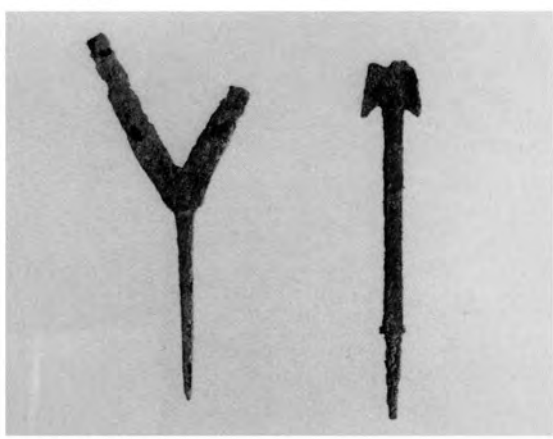


第250図14～16

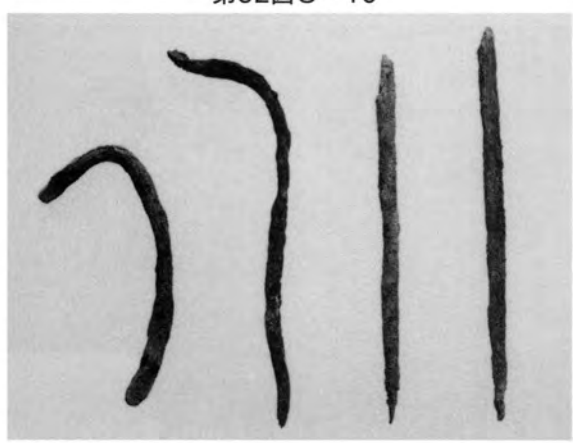


第62図8－10

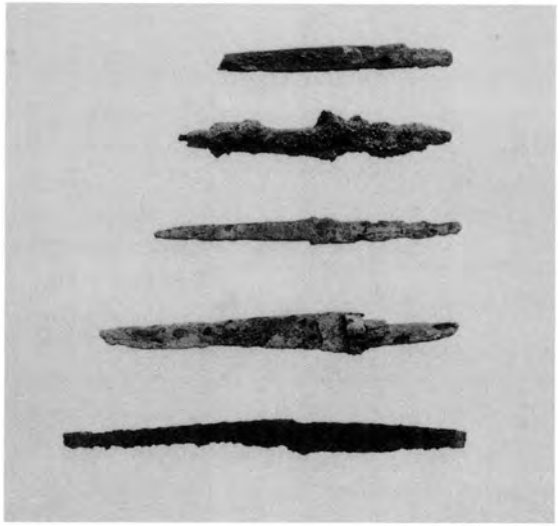
第62図11



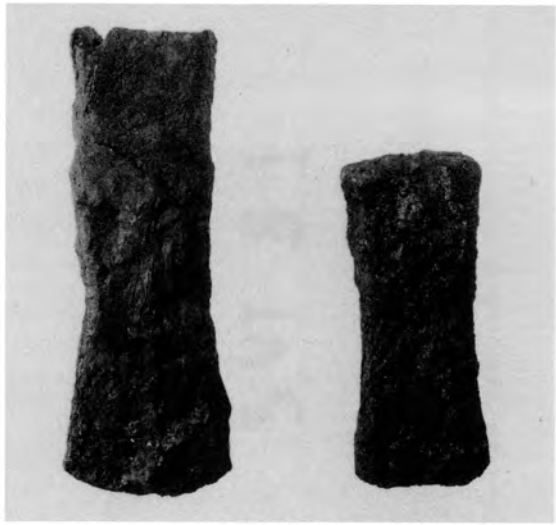
第250図1～2



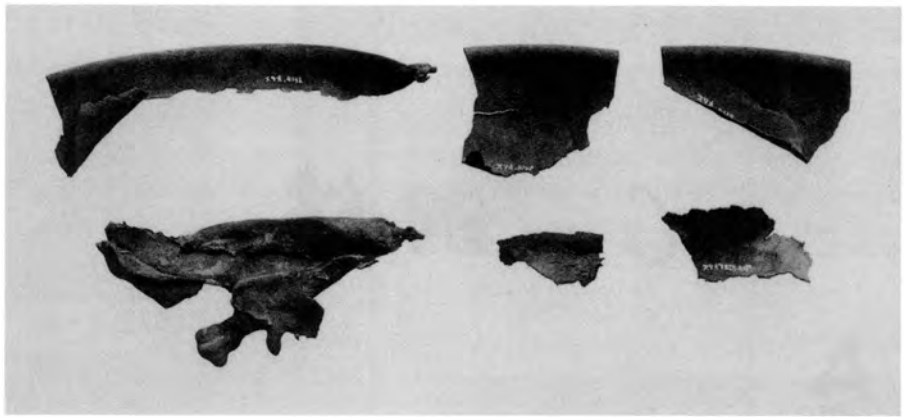
第62図4～7



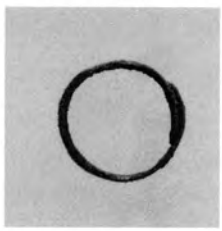
第250図3～7



第69図128　第148図3－5

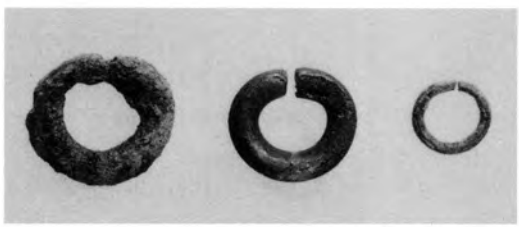


第251図1



第203図8

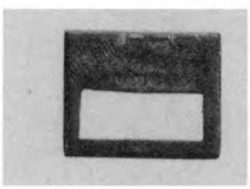
第251図3

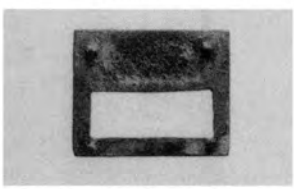


第253図1～3

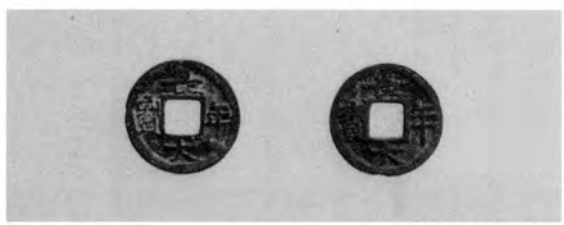
第251図2

第143図54－13

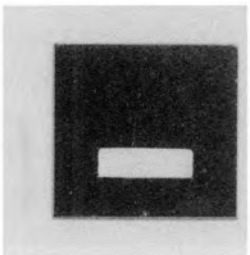


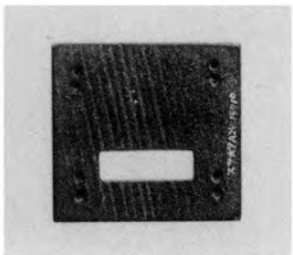


第62図1



第62図2・3

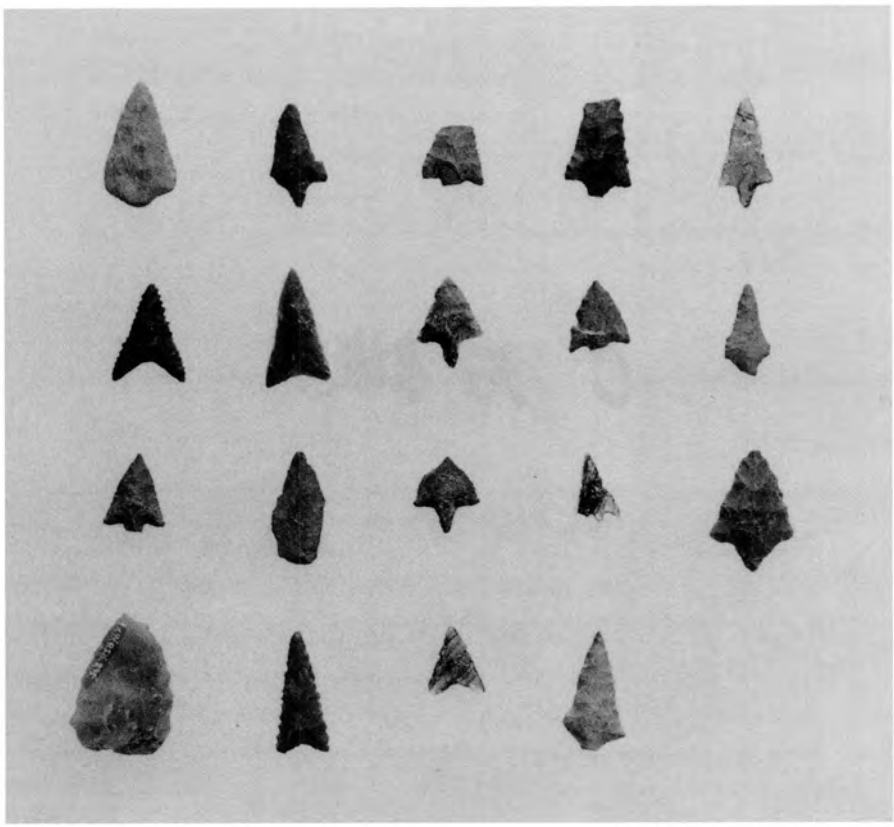




第252図1

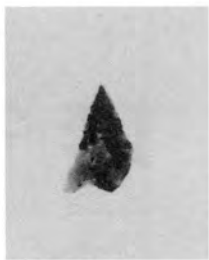
第254図1

図版110

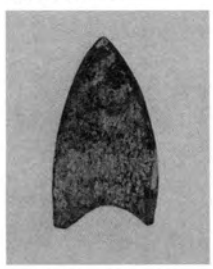


第271図1～19

第38図6－10



第69図131

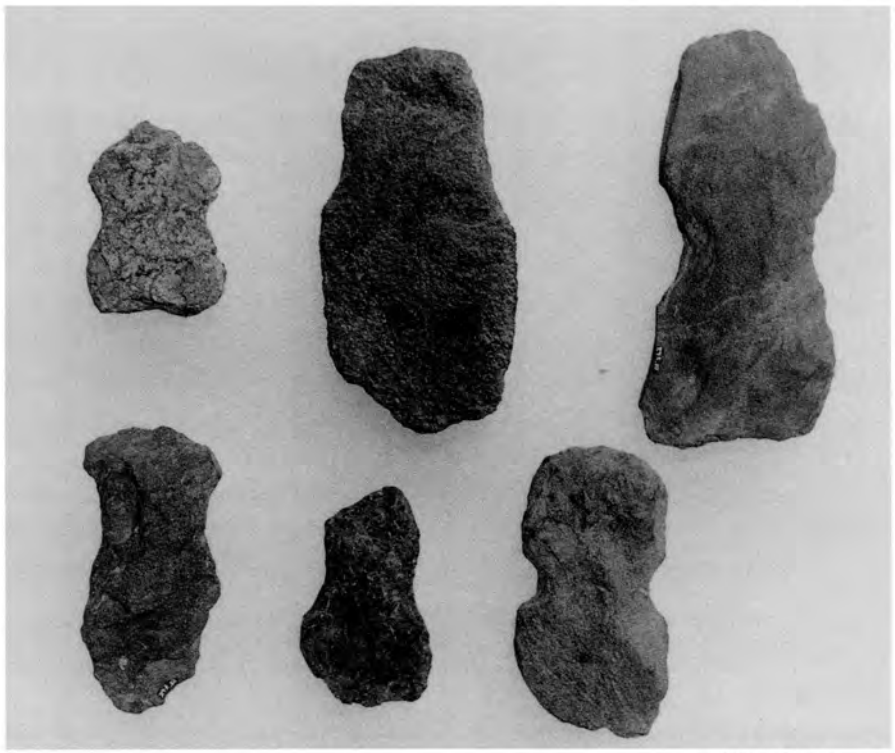


第157図3－8

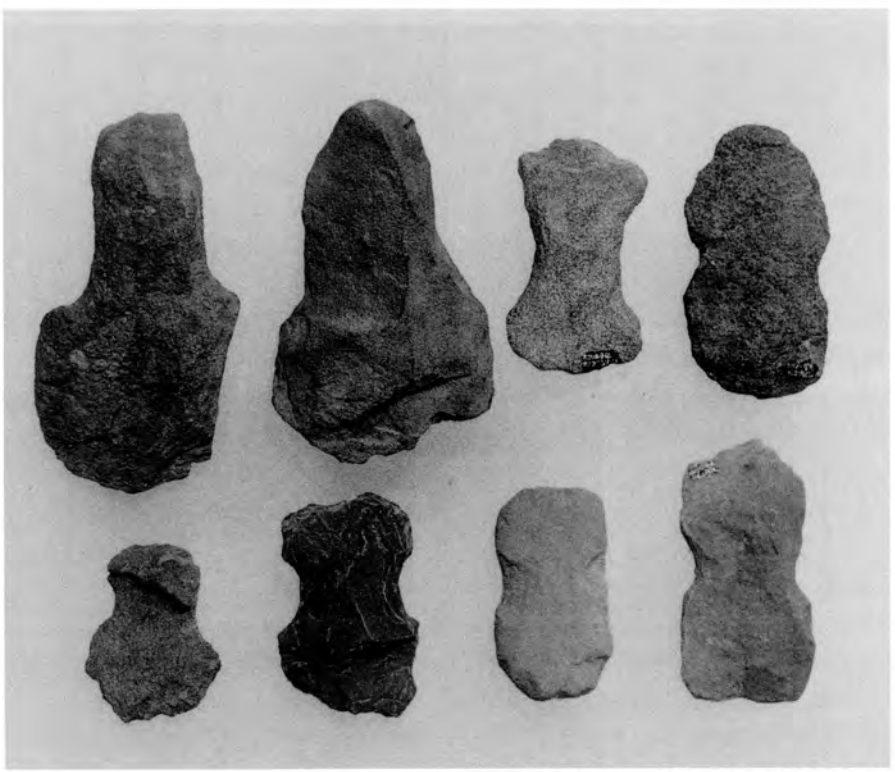
第203図7

第276図1～15

第58図1

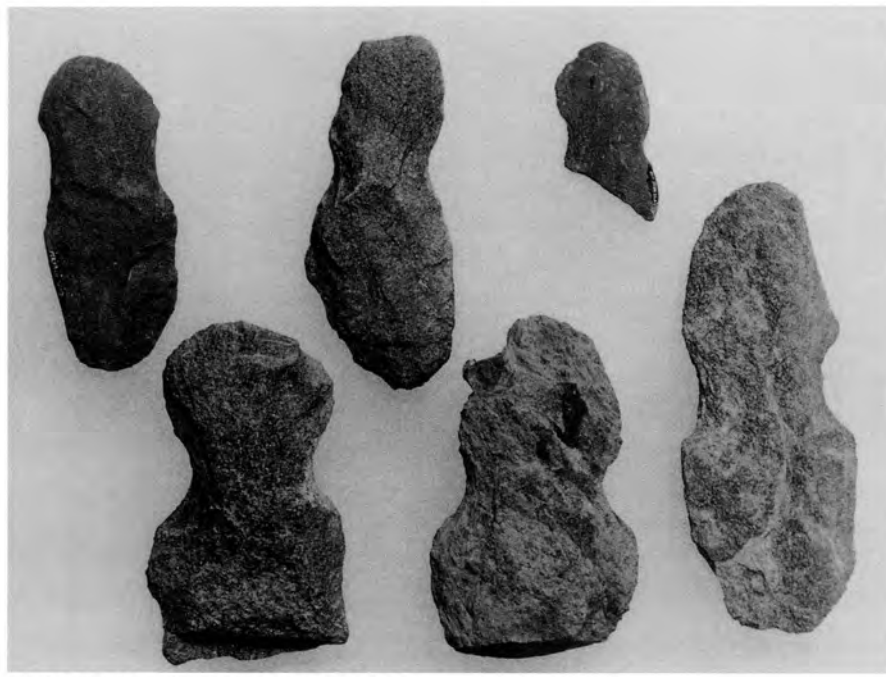


第272図1～6

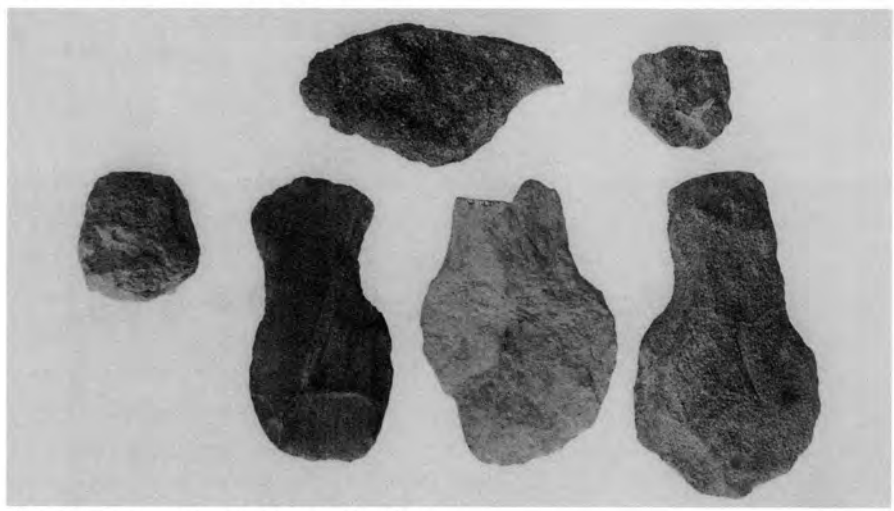


第272図7・8、第273図9～14

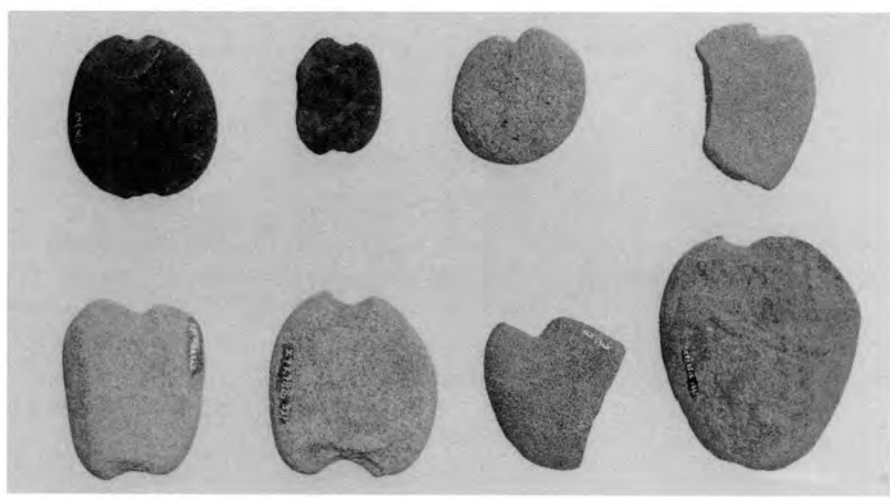
図版112



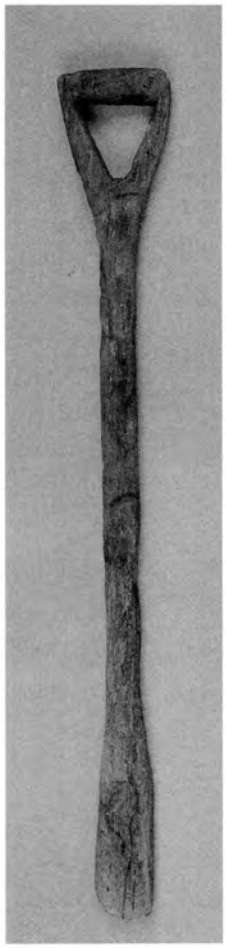
第273図15・16、第274図17～20



第280図16～19、第281図20・21



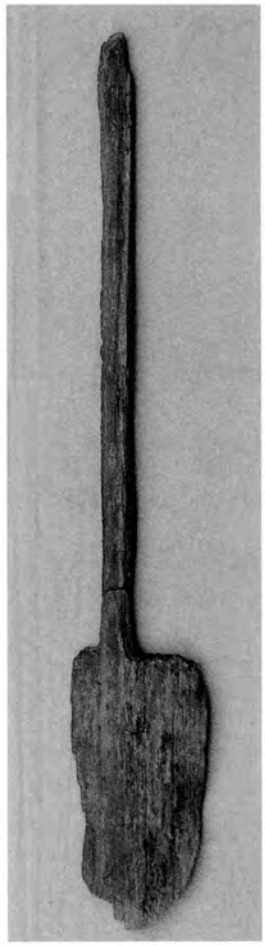
第275図１～８



第197図2

第259図1

第259図2



第260図3

第260図4

第260図5

第197図1

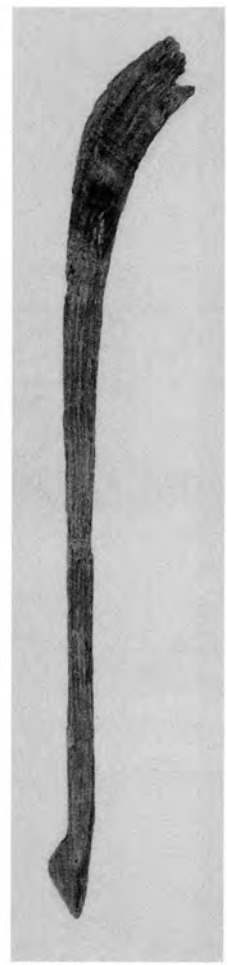
第261図8

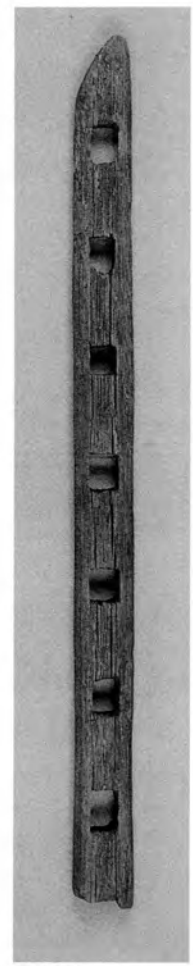
図版114

第197図3

第261図6

第261図7


第262図17


第262図20

第261図9

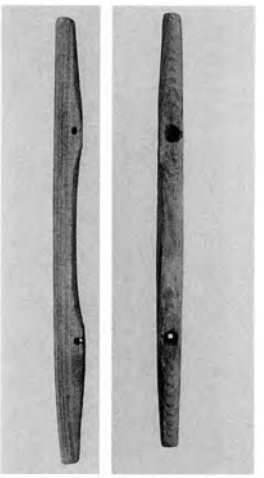
第261図10

第261図11

第261図12

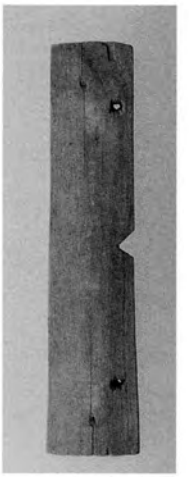
第261図13

第197図6

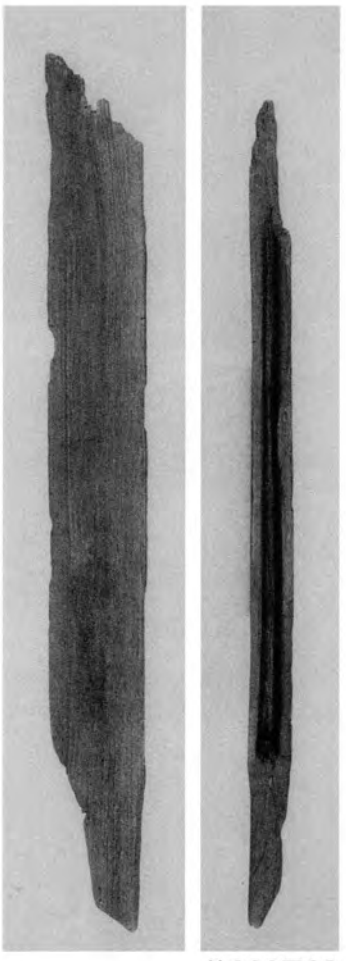


第262図22

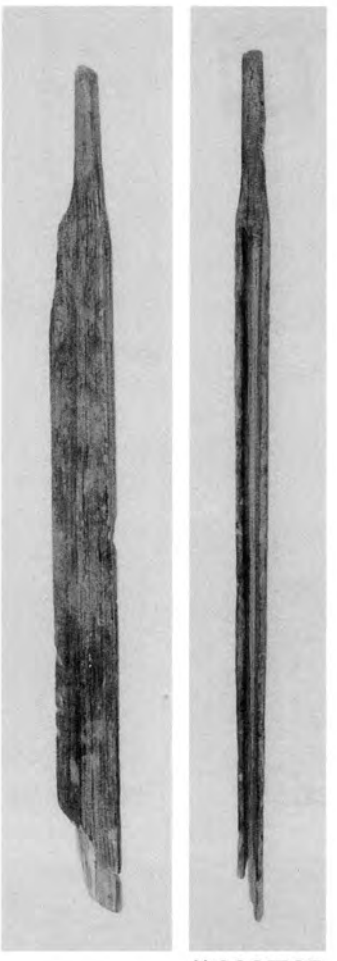
第262図23



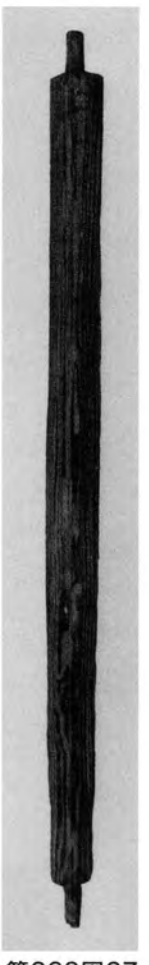
第262図24



第262図26



第262図25



第263図27

第263図28

図版116

第263図29

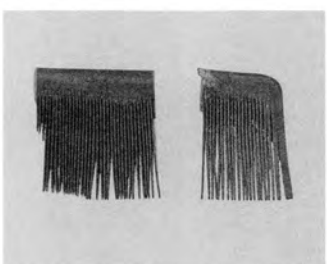
第263図30

第263図31

第263図32

第198図7

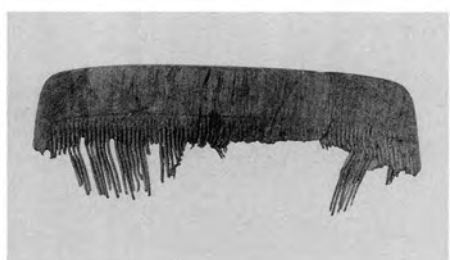
第143図46－1

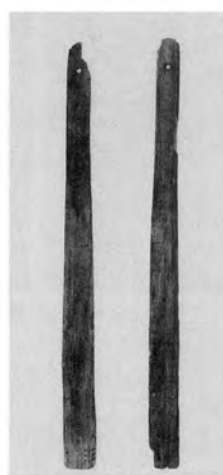

第263図34

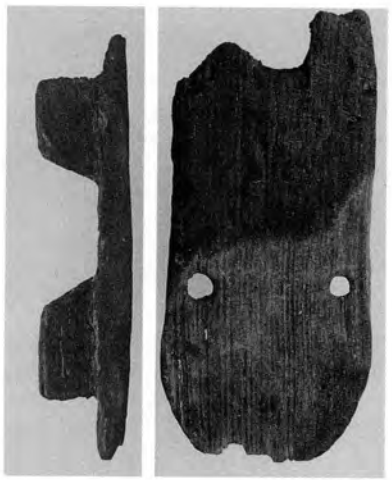
第263図37

第263図39

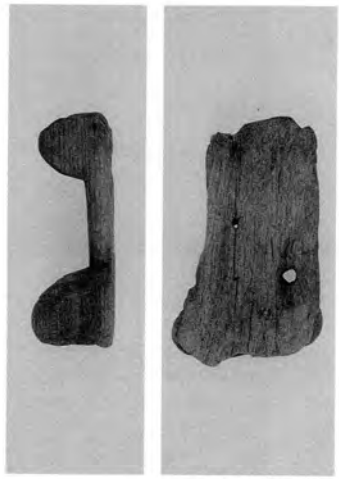
第263図35


第63図1

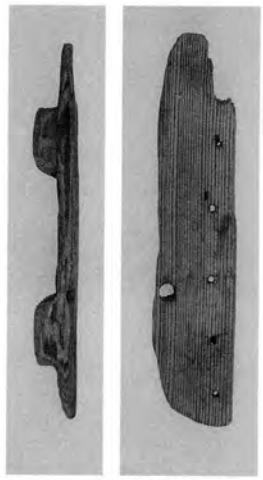

第264図43・44



第264図40

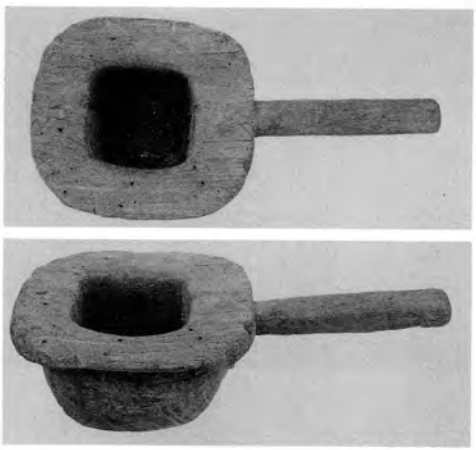


第264図42

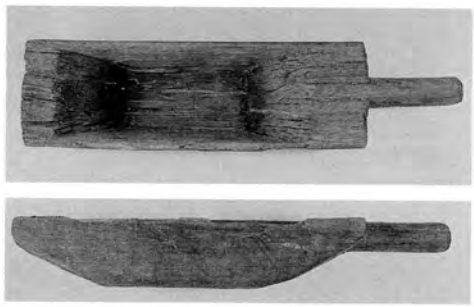


第306図A３

第198図８

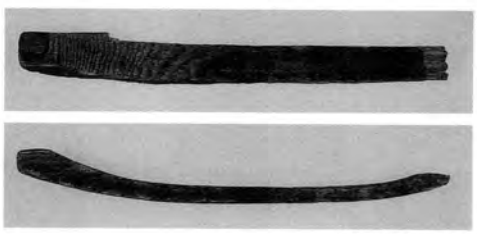


第199図11

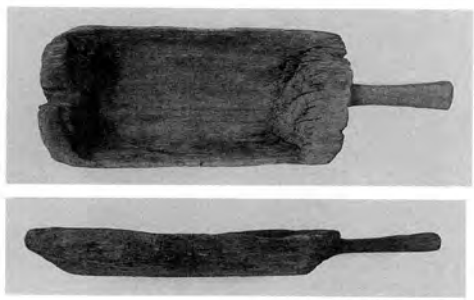


第265図52

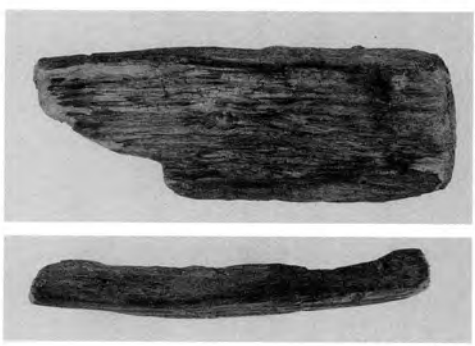
第198図９



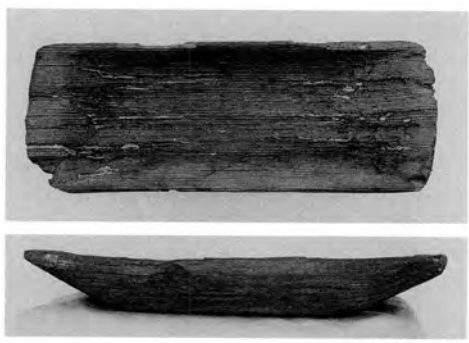
第198図10



第265図53

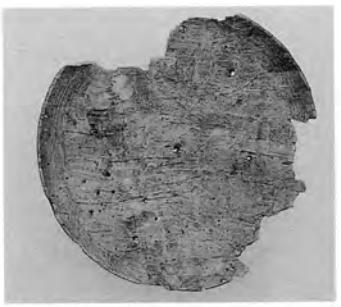


第265図55

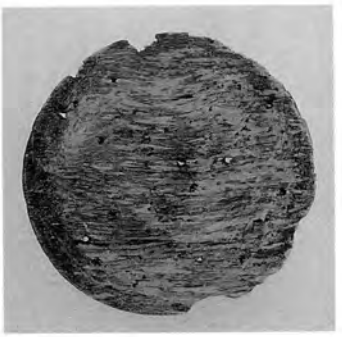


第306図C３

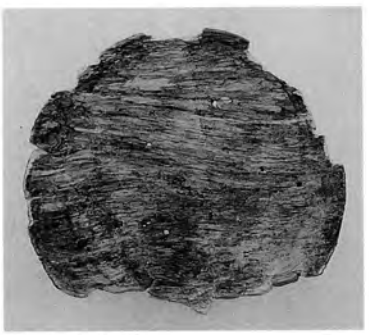
図版118



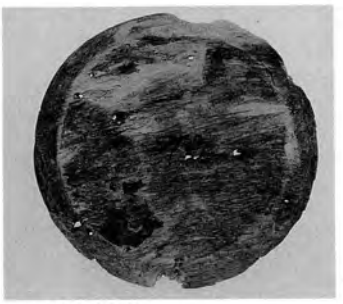
第264図48



第264図51



第264図50



第264図49

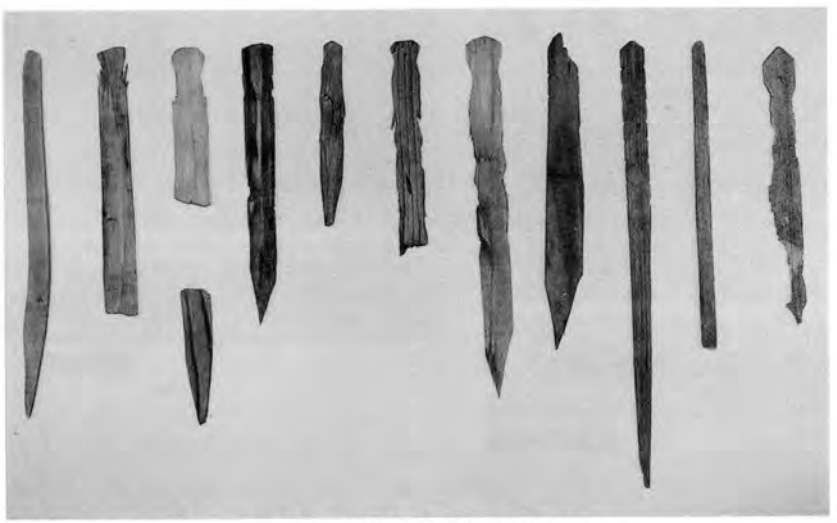
第266図65

第265図57

第265図61

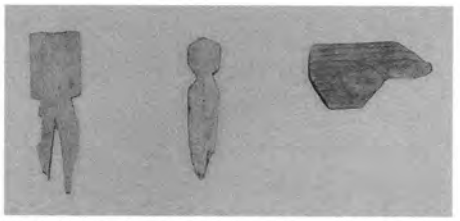
第266図67

第63図4



第266図68～75、77、78　第267図80　第63図7

第63図9



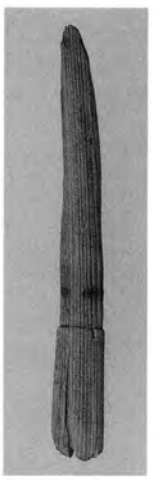
第267図83　第267図84　第63図10

第199図13

第267図89

第267図90

第267図92



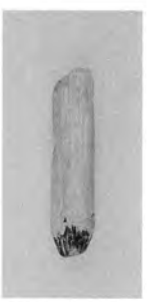
第267図91

第268図94

第268図95

第268図97

第268図96



第268図98

第63図12

第63図11

第268図100

第269図102

第269図106

第269図105

図版120

第200図22

第270図116

第270図117

第262図19

第270図118

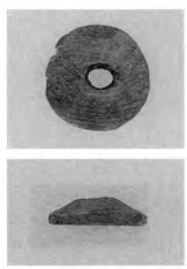
第270図119

第270図120

第270図123

第64図16

第64図17


第64図22

第64図23

第202図1

報告書抄録

ふりがな	すわのきいせき
書名	諏訪木遺跡
副書名	熊谷市遺跡調査会埋蔵文化財報告書
編著者名	吉野　健
編集機関	埼玉県熊谷市遺跡調査会
所在地	〒360-8601　埼玉県熊谷市宮町二丁目47番地１　TEL048-524-1111
発行年月日	西暦2001（平成13）年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
すわのきいせき 諏訪木遺跡	さいたまけんくまがやしかみの 埼玉県熊谷市上之 2901番地他	11202	019	36°8′49″	139°24′47″	19930111 ～ 19950630	28,000	工業団地 建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
諏訪木遺跡	集落跡 祭祀跡 墓地跡	縄文時代	遺物包含層　竪穴遺構５	土器　石器	
		弥生時代	遺物包含層　河川跡	土器　石器　管玉	
		古墳時代	溝跡40　河川跡	土師器　須恵器 ミニチュア土器 石製模造品　鉄製品 銅鋺　玉類　耳環 帯金具　砥石　木製品	古墳時代後期から平安時代までの河川祭祀跡が発見された。木製品の多量出土があった。
		奈良時代	河川跡	須恵器	
		平安時代	住居跡22　掘立柱建物跡31 柵列１　井戸跡18　溝跡72 土坑墓７　竪穴遺構４ 土坑154　河川跡	土師器　須恵器 灰釉陶器　緑釉陶器 三彩陶器　瓦　土製品 鉄製品　銅製品　石製品 砥石　木製品　古銭 獣骨	区画溝内に掘立柱建物跡を中心にした集落が展開していた。
		中世	土坑墓４　火葬跡３　井戸２	陶器	
		近世	溝跡７　土坑７	陶磁器　土師質土器 鉄製品　砥石	

熊谷市遺跡調査会埋蔵文化財報告書

諏訪木遺跡

平成13年3月31日発行

発行／埼玉県熊谷市遺跡調査会

印刷／朝日印刷工業株式会社

さくらのまち“熊谷”